

RL78/L12

ユーザーズマニュアル ハードウェア編

16 ビット・シングルチップ・マイクロコントローラ

本資料に記載の全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス エレクトロニクスは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサス エレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
 3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
 4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
 5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等
当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。
 7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア/ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限られません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因したまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア/ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
 8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
 11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものいたします。
 13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。
- 注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。
- 注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレスト）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れしないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後、リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6. 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違えば、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が異なる製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

このマニュアルの使い方

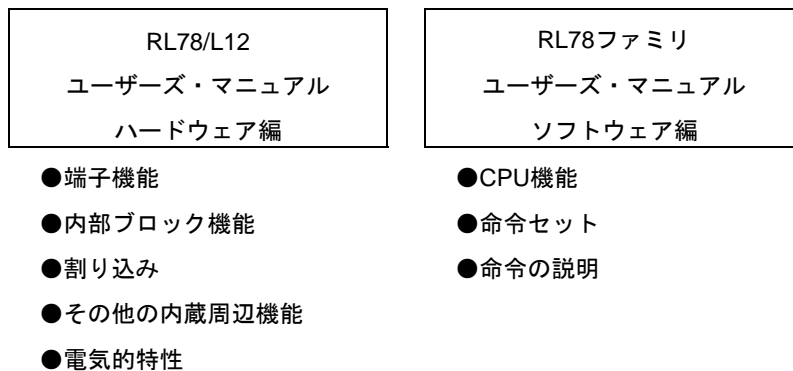
対象者 このマニュアルはRL78/L12の機能を理解し、その応用システムや応用プログラムを設計、開発するユーザのエンジニアを対象としています。

対象製品は、次に示す各製品です。

- ・ 32ピン： R5F10RBx (x = 8, A, C)
- ・ 44ピン： R5F10RFx (x = 8, A, C)
- ・ 48ピン： R5F10RGx (x = 8, A, C)
- ・ 52ピン： R5F10RJx (x = 8, A, C)
- ・ 64ピン： R5F10RLx (x = A, C)

目的 このマニュアルは、次の構成に示す機能をユーザに理解していただくことを目的としています。

構成 RL78/L12のマニュアルは、このマニュアルとソフトウェア編（RL78ファミリ共通）の2冊に分かれています。



読み方 このマニュアルを読むにあたっては、電気、論理回路、マイクロコントローラの一般知識を必要とします。

□一通りの機能を理解しようとするとき

→目次に従って読んでください。本文欄外の★印は、本版で改訂された主な箇所を示しています。

この"★"をPDF上でコピーして「検索する文字列」に指定することによって、改版箇所を容易に検索できます。

□レジスタ・フォーマットの見方

→ビット番号を□で囲んでいるものは、そのビット名称がアセンブラでは予約語に、コンパイラでは#pragma sfr指令で、sfr変数として定義されているものです。

□RL78/L12マイクロコントローラの命令機能の詳細を知りたいとき

→別冊のRL78ファミリ ユーザーズ・マニュアル ソフトウェア編（R01US0015J）を参照してください。

- 凡 例 データ表記の重み : 左が上位桁, 右が下位桁
 アクティブ・ロウの表記 : $\overline{\times \times \times}$ (端子, 信号名称に上線)
 注 : 本文中につけた注の説明
 注意 : 気をつけて読んでいただきたい内容
 備考 : 本文の補足説明
 数の表記 : 2進数 $\cdots \times \times \times \times$ または $\times \times \times \times B$
 : 10進数 $\cdots \times \times \times \times$
 : 16進数 $\cdots \times \times \times \times H$

関連資料

関連資料は暫定版の場合がありますが, この資料では「暫定」の表示をしておりません。あらかじめご了承ください。

デバイスの関連資料

資料名	資料番号	
	和 文	英 文
RL78/L12 ユーザーズ・マニュアル ハードウェア編	このマニュアル	R01UH0330E
RL78ファミリ ユーザーズ・マニュアル ソフトウェア編	R01US0015J	R01US0015E

フラッシュ・メモリ書き込み用の資料 (ユーザーズ・マニュアル)

資料名	資料番号	
	和 文	英 文
PG-FP5 フラッシュ・メモリ・プログラマ	R20UT0008J	R20UT0008E

注意 上記関連資料は予告なしに内容を変更することがあります。設計などには, 必ず最新の資料をご使用ください。

その他の資料

資料名	資料番号	
	和文	英文
ルネサス マイクロコンピュータ RL78ファミリ	R01CP0003J	R01CP0003E
半導体パッケージ実装マニュアル	R50ZZ0003J	R50ZZ0003E
NEC半導体デバイスの品質水準	C11531J	C11531E
静電気放電 (ESD) 破壊対策ガイド	C11892J	C11892E
信頼性ハンドブック	R51ZZ0001J	R51ZZ0001E

注意 上記関連資料は予告なしに内容を変更することがあります。設計などには、必ず最新の資料をご使用ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

EEPROMは、ルネサス エレクトロニクス株式会社の登録商標です。

Windows, Windows NTおよびWindows XPIは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

PC/ATは、米国IBM社の商標です。

SuperFlashは、米国Silicon Storage Technology, Inc.の米国、日本などの国における登録商標です。

注意：本製品はSilicon Storage Technology, Inc.からライセンスを受けたSuperFlash®を使用しています。

目次

第1章 概 説	1
1.1 特 徴	1
1.2 型名一覧	3
1.3 端子接続図 (Top View)	5
1.3.1 32ピン製品	5
1.3.2 44ピン製品	7
1.3.3 48ピン製品	10
1.3.4 52ピン製品	13
1.3.5 64ピン製品	16
1.4 端子名称	21
1.5 ブロック図	22
1.5.1 32ピン製品	22
1.5.2 44ピン製品	23
1.5.3 48ピン製品	24
1.5.4 52ピン製品	25
1.5.5 64ピン製品	26
1.6 機能概要	27
第2章 端子機能	29
2.1 ポート機能	29
2.1.1 32ピン製品	30
2.1.2 44ピン製品	32
2.1.3 48ピン製品	34
2.1.4 52ピン製品	36
2.1.5 64ピン製品	38
2.2 ポート以外の機能	40
2.2.1 製品別搭載端子 (ポート以外の端子)	40
2.2.2 機能説明	45
2.3 未使用端子の処理	47
2.4 端子ブロック図	50
第3章 CPUアーキテクチャ	62
3.1 メモリ空間	62
3.1.1 内部プログラム・メモリ空間	67
3.1.2 ミラー領域	70
3.1.3 内部データ・メモリ空間	72
3.1.4 特殊機能レジスタ (SFR : Special Function Register) 領域	73
3.1.5 拡張特殊機能レジスタ (2nd SFR : 2nd Special Function Register) 領域	73
3.1.6 データ・メモリ・アドレッシング	74
3.2 プロセッサ・レジスタ	75
3.2.1 制御レジスタ	75
3.2.2 汎用レジスタ	77
3.2.3 ES, CSレジスタ	78
3.2.4 特殊機能レジスタ (SFR : Special Function Register)	79

3.2.5	拡張特殊機能レジスタ (2nd SFR : 2nd Special Function Register)	84
3.3	命令アドレスのアドレッシング	91
3.3.1	レラティブ・アドレッシング	91
3.3.2	イミーディエト・アドレッシング	91
3.3.3	テーブル・インダイレクト・アドレッシング	92
3.3.4	レジスタ・インダイレクト・アドレッシング	92
3.4	処理データ・アドレスに対するアドレッシング	93
3.4.1	インプライド・アドレッシング	93
3.4.2	レジスタ・アドレッシング	93
3.4.3	ダイレクト・アドレッシング	94
3.4.4	ショート・ダイレクト・アドレッシング	95
3.4.5	SFRアドレッシング	96
3.4.6	レジスタ・インダイレクト・アドレッシング	97
3.4.7	ベースト・アドレッシング	98
3.4.8	ベースト・インデクスト・アドレッシング	102
3.4.9	スタック・アドレッシング	104
第4章 ポート機能		107
4.1	ポートの機能	107
4.2	ポートの構成	108
4.2.1	ポート1	109
4.2.2	ポート2	109
4.2.3	ポート3	110
4.2.4	ポート4	110
4.2.5	ポート5	110
4.2.6	ポート6	110
4.2.7	ポート7	111
4.2.8	ポート12	111
4.2.9	ポート13	111
4.2.10	ポート14	112
4.3	ポート機能を制御するレジスタ	113
4.3.1	ポート・モード・レジスタ (PMxx)	116
4.3.2	ポート・レジスタ (Pxx)	117
4.3.3	プルアップ抵抗オプション・レジスタ (PUxx)	118
4.3.4	ポート入力モード・レジスタ (PIM1)	119
4.3.5	ポート出力モード・レジスタ (POM1)	120
4.3.6	ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx)	121
4.3.7	A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC)	122
4.3.8	周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR)	123
4.3.9	LCDポート・ファンクション・レジスタ0-4 (PFSEG0-PFSEG4)	124
4.3.10	LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)	126
4.4	ポート機能の動作	127
4.4.1	入出力ポートへの書き込み	127
4.4.2	入出力ポートからの読み出し	127
4.4.3	入出力ポートでの演算	127
4.4.4	異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 外部デバイスとの接続方法	128
4.4.5	入出力バッファによる異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 対応	128
4.5	兼用機能使用時のレジスタ設定	130
4.5.1	兼用機能使用時の基本的な考え方	130
4.5.2	出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定	131
4.5.3	使用するポート機能および兼用機能のレジスタ設定例	132

4.6	ポート機能使用時の注意事項	139
4.6.1	ポート・レジスタ n (P n) に対する1ビット・メモリ操作命令に関する注意事項	139
4.6.2	端子設定に関する注意事項	140
第5章	クロック発生回路	141
5.1	クロック発生回路の機能	141
5.2	クロック発生回路の構成	143
5.3	クロック発生回路を制御するレジスタ	145
5.3.1	クロック動作モード制御レジスタ (CMC)	145
5.3.2	システム・クロック制御レジスタ (CKC)	148
5.3.3	クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC)	149
5.3.4	発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC)	150
5.3.5	発振安定時間選択レジスタ (OSTS)	152
5.3.6	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	154
5.3.7	サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)	156
5.3.8	高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV)	157
5.3.9	高速オンチップ・オシレータ・トリミング・レジスタ (HIOTRM)	158
5.4	システム・クロック発振回路	159
5.4.1	X1発振回路	159
5.4.2	XT1発振回路	159
5.4.3	高速オンチップ・オシレータ	163
5.4.4	低速オンチップ・オシレータ	163
5.5	クロック発生回路の動作	164
5.6	クロックの制御	166
5.6.1	高速オンチップ・オシレータの設定例	166
5.6.2	X1発振回路の設定例	167
5.6.3	XT1発振回路の設定例	168
5.6.4	CPUクロック状態移行図	169
5.6.5	CPUクロックの移行前の条件と移行後の処理	175
5.6.6	CPUクロックの切り替えとシステム・クロックの切り替えに要する時間	177
5.6.7	クロック発振停止前の条件	178
5.7	発振子と発振回路定数	179
第6章	タイマ・アレイ・ユニット	180
6.1	タイマ・アレイ・ユニットの機能	182
6.1.1	単独チャンネル動作機能	182
6.1.2	複数チャンネル連動動作機能	183
6.1.3	8ビット・タイマ動作機能 (チャンネル1, 3のみ)	185
6.1.4	LIN-bus対応機能 (チャンネル5のみ)	185
6.2	タイマ・アレイ・ユニットの構成	186
6.2.1	タイマ・カウンタ・レジスタ mn (TCR mn)	191
6.2.2	タイマ・データ・レジスタ mn (TDR mn)	193
6.3	タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタ	194
6.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	195
6.3.2	タイマ・クロック選択レジスタ m (TPS m)	196
6.3.3	タイマ・モード・レジスタ mn (TMR mn)	199
6.3.4	タイマ・ステータス・レジスタ mn (TSR mn)	204
6.3.5	タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタ m (TE m)	205
6.3.6	タイマ・チャンネル開始レジスタ m (TS m)	206
6.3.7	タイマ・チャンネル停止レジスタ m (TT m)	208

6.3.8	タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0)	209
6.3.9	タイマ出力選択レジスタ (TOS)	210
6.3.10	タイマ出力許可レジスタm (TOEm)	211
6.3.11	タイマ出力レジスタm (TOm)	212
6.3.12	タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)	213
6.3.13	タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)	214
6.3.14	入力切り替え制御レジスタ (ISC)	215
6.3.15	ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1)	216
6.3.16	ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14)	218
6.4	タイマ・アレイ・ユニットの基本ルール	220
6.4.1	複数チャンネル連動動作機能の基本ルール	220
6.4.2	8ビット・タイマ動作機能の基本ルール (チャンネル1, 3のみ)	222
6.5	カウンタの動作	223
6.5.1	カウント・クロック (f_{TCLK})	223
6.5.2	カウンタのスタート・タイミング	225
6.5.3	カウンタの動作	226
6.6	チャンネル出力 (TOmn端子) の制御	231
6.6.1	TOmn端子の出力回路の構成	231
6.6.2	TOmn端子の出力設定	232
6.6.3	チャンネル出力操作時の注意事項	233
6.6.4	TOmnビットの一括操作	238
6.6.5	カウント動作開始時のタイマ割り込みとTOmn端子出力について	239
6.7	タイマ入力 (TImn) の制御	240
6.7.1	TImnの入力回路構成	240
6.7.2	ノイズ・フィルタ	240
6.7.3	チャンネル入力操作時の注意事項	241
6.8	タイマ・アレイ・ユニットの単独チャンネル動作機能	242
6.8.1	インターバル・タイマ／方形波出力としての動作	242
6.8.2	外部イベント・カウンタとしての動作	247
6.8.3	分周器としての動作 (チャンネル0のみ)	251
6.8.4	入力パルス間隔測定としての動作	255
6.8.5	入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作	259
6.8.6	ディレイ・カウンタとしての動作	263
6.9	タイマ・アレイ・ユニットの複数チャンネル連動動作機能	267
6.9.1	ワンショット・パルス出力機能としての動作	267
6.9.2	PWM機能としての動作	274
6.9.3	多重PWM出力機能としての動作	281
6.9.4	リモコン出力機能	289
第7章 リアルタイム・クロック		292
7.1	リアルタイム・クロックの機能	292
7.2	リアルタイム・クロックの構成	292
7.3	リアルタイム・クロックを制御するレジスタ	294
7.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	295
7.3.2	サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)	297
7.3.3	リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0)	298
7.3.4	リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1)	299
7.3.5	秒カウント・レジスタ (SEC)	301
7.3.6	分カウント・レジスタ (MIN)	301
7.3.7	時カウント・レジスタ (HOUR)	302
7.3.8	日カウント・レジスタ (DAY)	304

7.3.9	曜日カウント・レジスタ (WEEK)	305
7.3.10	月カウント・レジスタ (MONTH)	306
7.3.11	年カウント・レジスタ (YEAR)	306
7.3.12	時計誤差補正レジスタ (SUBCUD)	307
7.3.13	アラーム分レジスタ (ALARMWM)	308
7.3.14	アラーム時レジスタ (ALARMWH)	308
7.3.15	アラーム曜日レジスタ (ALARMWW)	308
7.3.16	ポート・モード・レジスタ3 (PM3)	309
7.3.17	ポート・レジスタ3 (P3)	309
7.4	リアルタイム・クロックの動作	310
7.4.1	リアルタイム・クロックの動作開始	310
7.4.2	動作開始後のHALT/STOPモードへの移行	311
7.4.3	リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し／書き込み	312
7.4.4	リアルタイム・クロックのアラーム設定	316
7.4.5	リアルタイム・クロックの1 Hz出力	317
7.4.6	リアルタイム・クロックの時計誤差補正例	318
第8章	12ビット・インターバル・タイマ	323
8.1	12ビット・インターバル・タイマの機能	323
8.2	12ビット・インターバル・タイマの構成	323
8.3	12ビット・インターバル・タイマを制御するレジスタ	323
8.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	324
8.3.2	サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)	325
8.3.3	インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC)	326
8.4	12ビット・インターバル・タイマの動作	327
8.4.1	12ビット・インターバル・タイマの動作タイミング	327
8.4.2	HALT/STOP モードから復帰後にカウンタ動作開始し、再度HALT/STOPモードへの移行	328
第9章	クロック出力／ブザー出力制御回路	329
9.1	クロック出力／ブザー出力制御回路の機能	329
9.2	クロック出力／ブザー出力制御回路の構成	331
9.3	クロック出力／ブザー出力制御回路を制御するレジスタ	331
9.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	332
9.3.2	クロック出力選択レジスタn (CKSn)	333
9.3.3	ポート・モード・レジスタ5, 14 (PM5, PM14)	335
9.4	クロック出力／ブザー出力制御回路の動作	336
9.4.1	出力端子の動作	336
9.5	クロック出力／ブザー出力制御回路の注意事項	336
第10章	ウォッチドッグ・タイマ	337
10.1	ウォッチドッグ・タイマの機能	337
10.2	ウォッチドッグ・タイマの構成	338
10.3	ウォッチドッグ・タイマを制御するレジスタ	339
10.3.1	ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE)	339
10.4	ウォッチドッグ・タイマの動作	340
10.4.1	ウォッチドッグ・タイマの動作制御	340
10.4.2	ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定	342
10.4.3	ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定	343

10.4.4	ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定	345
第11章	A/Dコンバータ	346
11.1	A/Dコンバータの機能	346
11.2	A/Dコンバータの構成	348
11.3	A/Dコンバータで使用するレジスタ	350
11.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	351
11.3.2	A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)	352
11.3.3	A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 (ADM1)	361
11.3.4	A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2)	362
11.3.5	10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR)	364
11.3.6	8ビットA/D変換結果レジスタ (ADCRH)	365
11.3.7	アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS)	366
11.3.8	変換結果比較上限値設定レジスタ (ADUL)	367
11.3.9	変換結果比較下限値設定レジスタ (ADLL)	367
11.3.10	A/Dテスト・レジスタ (ADTES)	368
11.3.11	アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタ	368
11.4	A/Dコンバータの変換動作	369
11.5	入力電圧と変換結果	371
11.6	A/Dコンバータの動作モード	372
11.6.1	ソフトウェア・トリガ・モード (連続変換モード)	372
11.6.2	ソフトウェア・トリガ・モード (ワンショット変換モード)	373
11.6.3	ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード (連続変換モード)	374
11.6.4	ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード (ワンショット変換モード)	375
11.6.5	ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード (連続変換モード)	376
11.6.6	ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード (ワンショット変換モード)	377
11.7	A/Dコンバータの設定フロー・チャート	378
11.7.1	ソフトウェア・トリガ・モード設定	378
11.7.2	ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード設定	379
11.7.3	ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード設定	380
11.7.4	温度センサ出力/内部基準電圧出力を選択時の設定 (例 ソフトウェア・トリガ・モード, ワンショット変換モード時)	381
11.7.5	テスト・モード設定	382
11.8	SNOOZEモード機能	383
11.9	A/Dコンバータ特性表の読み方	388
11.10	A/Dコンバータの注意事項	391
第12章	シリアル・アレイ・ユニット	395
12.1	シリアル・アレイ・ユニットの機能	396
12.1.1	簡易SPI (CSI00, CSI01)	396
12.1.2	UART (UART0)	397
12.2	シリアル・アレイ・ユニットの構成	398
12.2.1	シフト・レジスタ	400
12.2.2	シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) の下位9ビット	400
12.3	シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ	402
12.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	403
12.3.2	シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm)	404
12.3.3	シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn)	405
12.3.4	シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn)	406
12.3.5	シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) の上位7ビット	409

12.3.6	シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn (SIRmn)	410
12.3.7	シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn)	411
12.3.8	シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm)	413
12.3.9	シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm)	414
12.3.10	シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタm (SEm)	415
12.3.11	シリアル出力許可レジスタm (SOEm)	416
12.3.12	シリアル出力レジスタm (SOM)	417
12.3.13	シリアル出力レベル・レジスタm (SOLm)	418
12.3.14	シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm)	419
12.3.15	入力切り替え制御レジスタ (ISC)	420
12.3.16	ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 (NFEN0)	421
12.3.17	シリアル入出力端子のポート機能を制御するレジスタ	422
12.4	動作停止モード	423
12.4.1	ユニット単位で動作停止とする場合	423
12.4.2	チャンネルごとに動作停止とする場合	424
12.5	簡易SPI (CSI00, CSI01) 通信の動作	425
12.5.1	マスタ送信	426
12.5.2	マスタ受信	434
12.5.3	マスタ送受信	442
12.5.4	スレーブ送信	450
12.5.5	スレーブ受信	458
12.5.6	スレーブ送受信	464
12.5.7	SNOOZEモード機能	472
12.5.8	転送クロック周波数の算出	476
12.5.9	簡易SPI (CSI00, CSI01) 通信時におけるエラー発生時の処理手順	478
12.6	UART (UART0) 通信の動作	479
12.6.1	UART送信	481
12.6.2	UART受信	490
12.6.3	SNOOZEモード機能	497
12.6.4	ボー・レートの算出	505
12.6.5	UART (UART0) 通信時におけるエラー発生時の処理手順	509
12.7	LIN通信の動作	510
12.7.1	LIN送信	510
12.7.2	LIN受信	513
第13章 シリアル・インタフェースIICA		519
13.1	シリアル・インタフェースIICAの機能	519
13.2	シリアル・インタフェースIICAの構成	522
13.3	シリアル・インタフェースIICAを制御するレジスタ	525
13.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	525
13.3.2	IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00)	526
13.3.3	IICAステータス・レジスタ0 (IICS0)	531
13.3.4	IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0)	533
13.3.5	IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01)	535
13.3.6	IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWL0)	537
13.3.7	IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWH0)	537
13.3.8	ポート・モード・レジスタ6 (PM6)	538
13.4	I ² Cバス・モードの機能	539
13.4.1	端子構成	539
13.4.2	IICWL0, IICWH0レジスタによる転送クロック設定方法	540
13.5	I ² Cバスの定義および制御方法	542

13.5.1	スタート・コンディション	542
13.5.2	アドレス	543
13.5.3	転送方向指定	543
13.5.4	アクリッジ (ACK)	544
13.5.5	ストップ・コンディション	545
13.5.6	クロック・ストレッチ	546
13.5.7	クロック・ストレッチ解除方法	548
13.5.8	割り込み要求 (INTIICA0) 発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御	549
13.5.9	アドレスの一致検出方法	550
13.5.10	エラーの検出	550
13.5.11	拡張コード	551
13.5.12	アービトレーション	552
13.5.13	ウエイク・アップ機能	554
13.5.14	通信予約	557
13.5.15	その他の注意事項	561
13.5.16	通信動作	562
13.5.17	I ² C割り込み要求 (INTIICA0) の発生タイミング	570
13.6	タイミング・チャート	591
第14章 LCDコントローラ／ドライバ		606
14.1	LCDコントローラ／ドライバの機能	608
14.2	LCDコントローラ／ドライバの構成	611
14.3	LCDコントローラ／ドライバを制御するレジスタ	613
14.3.1	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)	614
14.3.2	LCDモード・レジスタ0 (LCDM0)	615
14.3.3	LCDモード・レジスタ1 (LCDM1)	617
14.3.4	サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)	619
14.3.5	LCDクロック制御レジスタ0 (LCDC0)	620
14.3.6	LCD昇圧レベル制御レジスタ (VLCD)	622
14.3.7	LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)	623
14.3.8	LCDポート・ファンクション・レジスタ0-4 (PFSEG0-PFSEG4)	625
14.3.9	ポート・モード・レジスタ1, 3-7, 12, 14 (PM1, PM3-PM7, PM12, PM14)	629
14.4	LCD表示データ・レジスタ	631
14.5	LCD表示レジスタの選択	633
14.5.1	Aパターン領域, Bパターン領域のデータ表示	634
14.5.2	点滅表示 (Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示)	634
14.6	LCDコントローラ／ドライバの設定	635
14.7	動作停止手順	638
14.8	LCD駆動電圧 V_{L1} , V_{L2} , V_{L3} , V_{L4} の供給	639
14.8.1	外部抵抗分割方式	639
14.8.2	内部昇圧方式	640
14.8.3	容量分割方式	642
14.9	コモン信号とセグメント信号	643
14.9.1	通常液晶波形の場合	643
14.10	表示モード	651
14.10.1	スタティック表示例	651
14.10.2	2時分割表示例	654
14.10.3	3時分割表示例	657
14.10.4	4時分割表示例	661
14.10.5	8時分割表示例	665

第15章	乗除積和算器	669
15.1	乗除積和算器の機能	669
15.2	乗除積和算器の構成	669
15.2.1	乗除算データ・レジスタA (MDAH, MDAL)	671
15.2.2	乗除算データ・レジスタB (MDBL, MDBH)	672
15.2.3	乗除算データ・レジスタC (MDCL, MDCH)	673
15.3	乗除積和算器を制御するレジスタ	675
15.3.1	乗除算コントロール・レジスタ0 (MDUC)	675
15.4	乗除積和算器の動作	677
15.4.1	乗算 (符号なし) 動作	677
15.4.2	乗算 (符号付) 動作	678
15.4.3	積和演算 (符号なし) 動作	679
15.4.4	積和演算 (符号付) 動作	681
15.4.5	除算動作	683
第16章	DMAコントローラ	685
16.1	DMAコントローラの機能	685
16.2	DMAコントローラの構成	686
16.2.1	DMA SFRアドレス・レジスタn (DSAn)	686
16.2.2	DMA RAMアドレス・レジスタn (DRAn)	687
16.2.3	DMAバイト・カウント・レジスタn (DBCn)	688
16.3	DMAコントローラを制御するレジスタ	689
16.3.1	DMAモード・コントロール・レジスタn (DMCn)	690
16.3.2	DMA動作コントロール・レジスタn (DRCn)	692
16.4	DMAコントローラの動作	693
16.4.1	動作手順	693
16.4.2	転送モード	694
16.4.3	DMA転送の終了	694
16.5	DMAコントローラの設定例	695
16.5.1	簡易SPI(CSI)連続送信	695
16.5.2	A/D変換結果の連続取り込み	697
16.5.3	UART連続受信+ACK送信	699
16.5.4	DWAITnビットによるDMA転送保留	701
16.5.5	ソフトウェアでの強制終了	702
16.6	DMAコントローラの注意事項	704
第17章	割り込み機能	706
17.1	割り込み機能の種類	706
17.2	割り込み要因と構成	706
17.3	割り込み機能を制御するレジスタ	712
17.3.1	割り込み要求フラグ・レジスタ (IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L)	715
17.3.2	割り込みマスク・フラグ・レジスタ (MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L)	717
17.3.3	優先順位指定フラグ・レジスタ (PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L)	718
17.3.4	外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ (EGP0), 外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ (EGN0)	720
17.3.5	プログラム・ステータス・ワード (PSW)	721
17.4	割り込み処理動作	722
17.4.1	マスクابل割り込み要求の受け付け動作	722

17. 4. 2	ソフトウェア割り込み要求の受け付け動作	725
17. 4. 3	多重割り込み処理	725
17. 4. 4	割り込み要求の保留	729
第18章	キー割り込み機能	730
18. 1	キー割り込みの機能	730
18. 2	キー割り込みの構成	731
18. 3	キー割り込みを制御するレジスタ	732
18. 3. 1	キー・リターン・コントロール・レジスタ (KRCTL)	732
18. 3. 2	キー・リターン・モード・レジスタ0 (KRM0)	733
18. 3. 3	キー・リターン・フラグ・レジスタ (KRF)	733
18. 3. 4	ポート・モード・レジスタ1, 3, 7, 14 (PM1, PM3, PM7, PM14)	734
18. 4	キー割り込み機能の動作	735
18. 4. 1	キー割り込みフラグを使用しない場合 (KRMD = 0)	735
18. 4. 2	キー割り込みフラグを使用する場合 (KRMD = 1)	736
第19章	スタンバイ機能	738
19. 1	スタンバイ機能と構成	738
19. 1. 1	スタンバイ機能	738
19. 2	スタンバイ機能を制御するレジスタ	739
19. 3	スタンバイ機能の動作	739
19. 3. 1	HALTモード	739
19. 3. 2	STOPモード	744
19. 3. 3	SNOOZEモード	749
第20章	リセット機能	752
20. 1	リセット動作のタイミング	754
20. 2	リセット期間中の動作状態	756
20. 3	リセット要因を確認するレジスタ	758
20. 3. 1	リセット・コントロール・フラグ・レジスタ (RESF)	758
第21章	パワーオン・リセット回路	761
21. 1	パワーオン・リセット回路の機能	761
21. 2	パワーオン・リセット回路の構成	762
21. 3	パワーオン・リセット回路の動作	762
第22章	電圧検出回路	766
22. 1	電圧検出回路の機能	766
22. 2	電圧検出回路の構成	767
22. 3	電圧検出回路を制御するレジスタ	768
22. 3. 1	電圧検出レジスタ (LVIM)	768
22. 3. 2	電圧検出レベル・レジスタ (LVIS)	769
22. 4	電圧検出回路の動作	772
22. 4. 1	リセット・モードとして使用する場合の設定	772
22. 4. 2	割り込みモードとして使用時の設定	774
22. 4. 3	割り込み&リセット・モードとして使用する場合の設定	776

22.5	電圧検出回路の注意事項	782
第23章	安全機能	784
23.1	安全機能の概要	784
23.2	安全機能で使用するレジスタ	785
23.3	安全機能の動作	785
23.3.1	フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC）	785
23.3.2	CRC演算機能（汎用CRC）	788
23.3.3	RAMパリティ・エラー検出機能	790
23.3.4	RAMガード機能	792
23.3.5	SFRガード機能	793
23.3.6	不正メモリ・アクセス検出機能	794
23.3.7	周波数検出機能	796
23.3.8	A/Dテスト機能	798
第24章	レギュレータ	801
24.1	レギュレータの概要	801
第25章	オプション・バイト	802
25.1	オプション・バイトの機能	802
25.1.1	ユーザ・オプション・バイト（000C0H-000C2H）	802
25.1.2	オンチップ・デバッグ・オプション・バイト（000C3H）	803
25.2	ユーザ・オプション・バイトのフォーマット	804
25.3	オンチップ・デバッグ・オプション・バイトのフォーマット	809
25.4	オプション・バイトの設定	810
第26章	フラッシュ・メモリ	811
26.1	フラッシュ・メモリ・プログラマによる書き込み方法	813
26.1.1	プログラミング環境	815
26.1.2	通信方式	815
26.2	外部デバイス（UART内蔵）による書き込み方法	816
26.2.1	プログラミング環境	816
26.2.2	通信方式	817
26.3	オンボード上の端子処理	818
26.3.1	P40/TOOL0端子	818
26.3.2	RESET端子	818
26.3.3	ポート端子	819
26.3.4	REGC端子	819
26.3.5	X1, X2端子	819
26.3.6	電 源	819
26.4	シリアル・プログラミング方法	820
26.4.1	シリアル・プログラミング手順	820
26.4.2	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード	821
26.4.3	通信方式	823
26.4.4	通信コマンド	823
26.5	専用フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時の各コマンド処理時間（参考値）	825
26.6	セルフ・プログラミング	826

26.6.1	セルフ・プログラミング手順	827
26.6.2	フラッシュ・シールド・ウインドウ機能	828
26.7	セキュリティ設定	829
26.8	データ・フラッシュ	831
26.8.1	データ・フラッシュの概要	831
26.8.2	データ・フラッシュを制御するレジスタ	832
26.8.3	データ・フラッシュへのアクセス手順	832
第27章	オンチップ・デバッグ機能	844
27.1	E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータとの接続	844
27.2	オンチップ・デバッグ・セキュリティID	845
27.3	ユーザ資源の確保	845
第28章	10進補正 (BCD) 回路	837
28.1	10進補正回路の機能	837
28.2	10進補正回路で使用するレジスタ	837
28.2.1	BCD補正結果レジスタ (BCDADJ)	837
28.3	10進補正回路の動作	838
第29章	命令セットの概要	840
29.1	凡 例	841
29.1.1	オペランドの表現形式と記述方法	841
29.1.2	オペレーション欄の説明	842
29.1.3	フラグ動作欄の説明	843
29.1.4	PREFIX命令	843
29.2	オペレーション一覧	844
第30章	電気的特性 (A, G : T_A = -40~+85°C)	861
30.1	絶対最大定格	862
30.2	発振回路特性	865
30.2.1	X1, XT1発振回路特性	865
30.2.2	オンチップ・オシレータ特性	865
30.3	DC特性	866
30.3.1	端子特性	866
30.3.2	電源電流特性	871
30.4	AC特性	877
30.4.1	基本動作	877
30.5	周辺機能特性	881
30.5.1	シリアル・アレイ・ユニット	881
30.5.2	シリアル・インタフェースIICA	902
30.6	アナログ特性	907
30.6.1	A/Dコンバータ特性	907
30.6.2	温度センサ/内部基準電圧特性	911
30.6.3	POR回路特性	911
30.6.4	LVD回路特性	912
30.6.5	電源電圧立ち上げ時間	913
30.7	LCD特性	914

30.7.1	外部抵抗分割方式	914
30.7.2	内部昇圧方式	915
30.7.3	容量分割方式	917
30.8	RAMデータ保持特性	918
30.9	フラッシュ・メモリ・プログラミング特性	918
30.10	専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信 (UART)	918
30.11	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード 引き込み時タイミング	919
第31章	電気的特性 (G : T_A = -40~+105°C)	920
31.1	絶対最大定格	921
31.2	発振回路特性	924
31.2.1	X1, XT1発振回路特性	924
31.2.2	オンチップ・オシレータ特性	925
31.3	DC特性	926
31.3.1	端子特性	926
31.3.2	電源電流特性	931
31.4	AC特性	937
31.4.1	基本動作	937
31.5	周辺機能特性	940
31.5.1	シリアル・アレイ・ユニット	940
31.5.2	シリアル・インタフェースIICA	955
31.6	アナログ特性	957
31.6.1	A/Dコンバータ特性	957
31.6.2	温度センサ/内部基準電圧特性	961
31.6.3	POR回路特性	961
31.6.4	LVD回路特性	962
31.6.5	電源電圧立ち上げ時間	962
31.7	LCD特性	963
31.7.1	外部抵抗分割方式	963
31.7.2	内部昇圧方式	964
31.7.3	容量分割方式	966
31.8	RAMデータ保持特性	967
31.9	フラッシュ・メモリ・プログラミング特性	967
31.10	専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信 (UART)	967
31.11	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード 引き込み時タイミング	968
第32章	外形図	969
32.1	32ピン製品	969
32.2	44ピン製品	971
32.3	48ピン製品	974
32.4	52ピン製品	977
32.5	64ピン製品	979
付録A	改版履歴	986
A.1	本版で改訂された主な箇所	986
A.2	前版までの改版履歴	987

第1章 概 説

1.1 特 徴

超低消費電力テクノロジー

- $V_{DD} = 1.6 \sim 5.5$ Vの単一電源, 1.8 V系の低電圧動作可能
- HALTモード
- STOPモード
- SNOOZEモード

RL78 CPUコア

- 3段パイプラインのCISCアーキテクチャ
- 最小命令実行時間：高速（ $0.04167 \mu\text{s}$ ：高速オンチップ・オシレータ・クロック24MHz動作時）から超低速（ $30.5 \mu\text{s}$ ：サブシステム・クロック32.768 kHz動作時）までを変更可能
- アドレス空間：1Mバイト
- 汎用レジスタ：8ビット・レジスタ $\times 8 \times 4$ バンク
- 内蔵RAM：1KB ~ 1.5 KB

コード・フラッシュ・メモリ

- コード・フラッシュ・メモリ：8KB ~ 32 KB
- ブロック・サイズ：1KB
- ブロック消去禁止, 書き換え禁止（セキュリティ機能）
- オンチップ・デバッグ機能内蔵
- セルフ・プログラミング：フラッシュ・シールド・ウインドウ機能あり

データ・フラッシュ・メモリ

- データ・フラッシュ・メモリ：2KB
- バックグラウンド・オペレーション（BGO）；データ・フラッシュ書き換え中に、プログラム・メモリ内の命令実行が可能
- 書き換え回数：1,000,000回（TYP.）
- 書き換え電圧： $V_{DD} = 1.8 \sim 5.5$ V

高速オンチップ・オシレータ

- 24 MHz/16 MHz/12 MHz/8 MHz/6 MHz/4 MHz/3 MHz/2 MHz/1 MHzから選択
- 高精度 ± 1.0 %（ $V_{DD} = 1.8 \sim 5.5$ V, $T_A = -20 \sim +85$ °C）

動作周囲温度

- $T_A = -40 \sim +85$ °C（A：民生用途）
- $T_A = -40 \sim +105$ °C（G：産業用途）

電源管理とリセット機能

- パワーオン・リセット (POR) 回路内蔵
- 電圧検出 (LVD) 回路内蔵 (割り込み, リセットを14段階で選択)

DMA (Direct Memory Access) コントローラ

- 2チャンネル搭載
- 8ビット/16ビットのSFR⇄内蔵RAM間の転送が2クロック

乗除・積和演算器

- 16ビット×16ビット = 32ビット (符号付/符号なし)
- 32ビット÷32ビット = 32ビット (符号なし)
- 16ビット×16ビット+32ビット = 32ビット (符号付/符号なし)

LCDコントローラ/ドライバ (内部昇圧 (44, 48, 52, 64ピン製品のみ) /容量分割/外部抵抗分割を切り替え可能)

- セグメント信号出力 : 39 (35) 本^注~13本
- コモン信号出力 : 4 (8) 本^注

注 () 内は8 com使用時の信号出力本数です。

シリアル・インタフェース

- 簡易SPI(CSI^{注1}) : 2チャンネル
- UART (LIN-bus対応) : 1チャンネル
- I²C : 1チャンネル

タイマ

- 16ビット・タイマ : 8チャンネル (44, 48, 52, 64ピン製品のみリモコン出力機能あり)
- 12ビット・インターバル・タイマ : 1チャンネル
- リアルタイム・クロック : 1チャンネル (99年カレンダー, アラーム機能, 時計補正機能)
- ウォッチドッグ・タイマ : 1チャンネル (専用の低速オンチップ・オシレータ・クロックで動作可能)

A/Dコンバータ

- 8/10ビット分解能A/Dコンバータ ($V_{DD} = 1.6 \sim 5.5 \text{ V}$)
- アナログ入力: 4~10チャンネル
- 内部基準電圧 (1.45 V) と温度センサを搭載^{注2}

入出力ポート

- I/Oポート: 20~47本 (N-chオープン・ドレイン入出力[EV_{DD}耐圧]: 2本)
- N-chオープン・ドレイン, TTL入力バッファ, 内蔵プルアップの切り替え可能
- 異電位 (1.8/2.5/3 V系) 動作デバイスと接続可能
- キー割り込み機能内蔵
- クロック出力/ブザー出力制御回路内蔵

その他

- 10進補正 (BCD) 回路内蔵

注1. 一般的にはSPIと呼ばれる機能ですが、本製品ではCSIとも呼称しているため、本マニュアルでは併記します。

注2. HS (高速メイン) モードのみ選択可能

備考 製品によって、搭載している機能が異なります。1.6 機能概要を参照してください。

OROM, RAM容量

フラッシュ ROM	データ・フラッシュ	RAM	RL78/L12				
			32ピン	44ピン	48ピン	52ピン	64ピン
32 KB	2 KB	1.5 KB ^注	R5F10RBC	R5F10RFC	R5F10RGC	R5F10RJC	R5F10RLC
16 KB	2 KB	1 KB ^注	R5F10RBA	R5F10RFA	R5F10RGA	R5F10RJA	R5F10RLA
8KB	2 KB	1 KB ^注	R5F10RB8	R5F10RF8	R5F10RG8	R5F10RJ8	-

注 1 Kバイト, 1.5 Kバイトの場合, セルフ・プログラミング機能およびデータ・フラッシュ機能使用時は, 630バイト (詳細は, 第3章 CPUアーキテクチャ参照)

備考 製品により, 搭載している機能が異なります。1.6 機能概要を参照してください。

1.2 型名一覧

図1-1 RL78/L12の型名とメモリ・サイズ, パッケージ

★

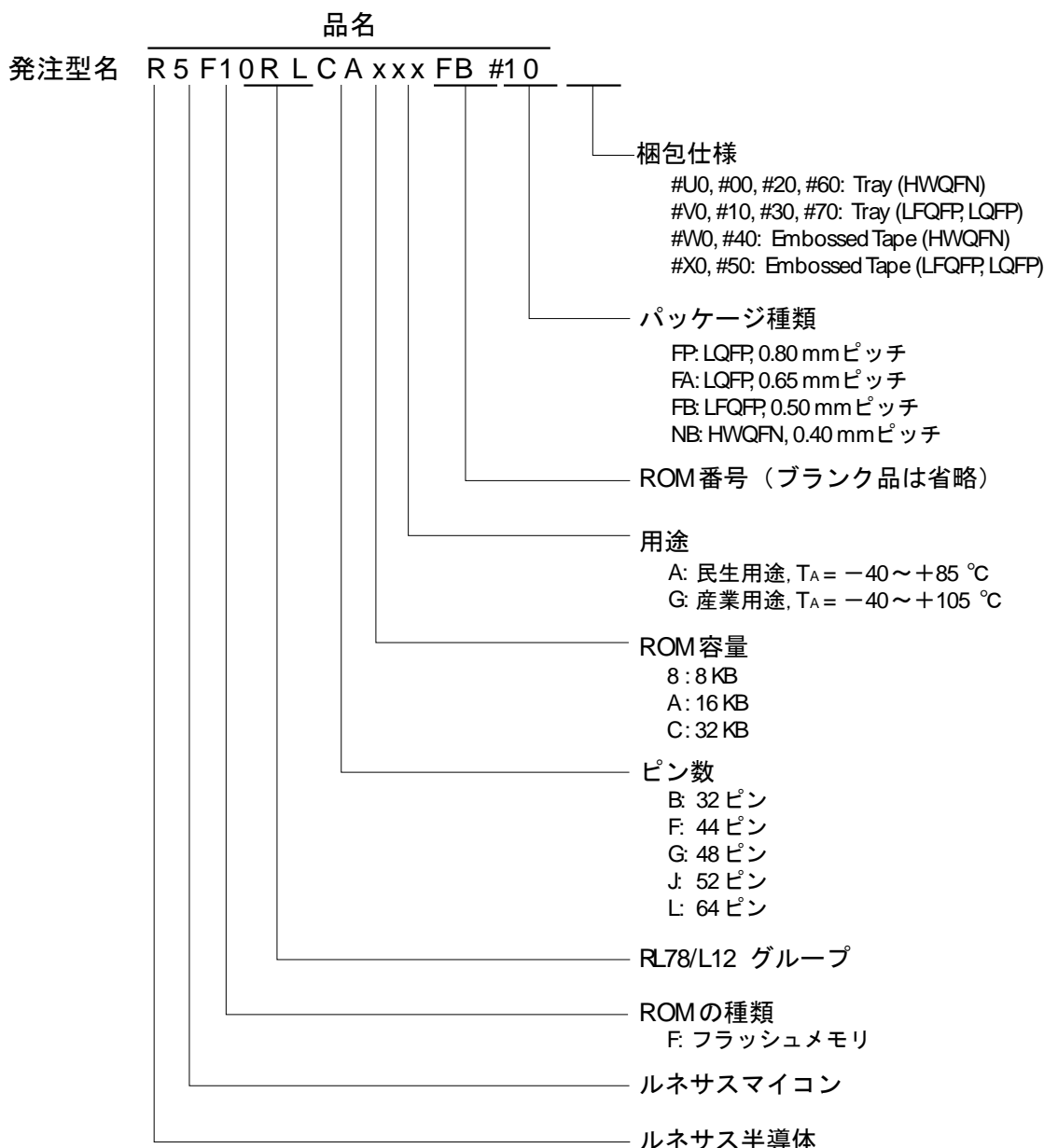


表1-1 発注型名一覧

ピン数	パッケージ	データ・フラッシュ	用途・区分 ^注	発注型名		ルネサス・コード
				品名	梱包仕様	
32ピン	32ピン・プラスチックLQFP (7 × 7 mm, 0.8 mmピッチ)	搭載	A	R5F10RB8AFP, R5F10RBAAFP, R5F10RBCAFP	#V0, #X0, #30	PLQP0032GB-A
					#10, #50, #70	PLQP0032GB-A PLQP0032GE-A
			G	R5F10RB8GFP, R5F10RBAGFP, R5F10RBCGFP	#V0, #X0, #30	PLQP0032GB-A
					#10, #50, #70	PLQP0032GB-A PLQP0032GE-A
44ピン	44ピン・プラスチックLQFP (10 × 10 mm, 0.8 mmピッチ)	搭載	A	R5F10RF8AFP, R5F10RFAAFP, R5F10RFCAFP	#V0, #X0	PLQP0044GC-A
					#10, #50, #70	PLQP0044GC-A PLQP0044GC-D PLQP0044GE-A
					#30	PLQP0044GC-A PLQP0044GC-D
			G	R5F10RF8GFP, R5F10RFAGFP, R5F10RFCGFP	#V0, #X0	PLQP0044GC-A
					#10, #50, #70	PLQP0044GC-A PLQP0044GC-D PLQP0044GE-A
					#30	PLQP0044GC-A PLQP0044GC-D
48ピン	48ピン・プラスチックLQFP (7 × 7 mm, 0.5 mmピッチ)	搭載	A	R5F10RG8AFB, R5F10RGAAFB, R5F10RGCAFB	#V0, #X0	PLQP0048KF-A
					#10, #50, #70	PLQP0048KB-B PLQP0048KL-A
					#30	PLQP0048KB-B
			G	R5F10RG8GFB, R5F10RGAGFB, R5F10RGCGB	#V0, #X0	PLQP0048KF-A
					#10, #50, #70	PLQP0048KB-B PLQP0048KL-A
					#30	PLQP0048KB-B
52ピン	52ピン・プラスチックLQFP (10 × 10 mm, 0.65 mmピッチ)	搭載	A	R5F10RJ8AFA, R5F10RJAAFA, R5F10RJCAFA	#V0, #X0	PLQP0052JA-A
					#10, #30, #50, #70	PLQP0052JA-A PLQP0052JD-B
			G	R5F10RJ8GFA, R5F10RJAGFA, R5F10RJCGFA	#V0, #X0	PLQP0052JA-A
					#10, #30, #50, #70	PLQP0052JA-A PLQP0052JD-B
64ピン	64ピン・プラスチックHWQFN (8 × 8 mm, 0.4 mmピッチ)	搭載	A	R5F10RLAANB, R5F10RLCANB	#U0, #W0	PWQN0064LA-A
					#00, #20, #40, #60	PWQN0064LB-A
			G	R5F10RLAGNB, R5F10RLCGNB	#U0, #W0	PWQN0064LA-A
					#00, #20, #40, #60	PWQN0064LB-A
	64ピン・プラスチックLQFP (10 × 10 mm, 0.5 mmピッチ)	搭載	A	R5F10RLAAFB, R5F10RLCAFB	#V0, #X0	PLQP0064KF-A
					#10, #50, #70	PLQP0064KB-C PLQP0064KL-A
					#30	PLQP0064KB-C
			G	R5F10RLAGFB, R5F10RLCGFB	#V0, #X0	PLQP0064KF-A
					#10, #50, #70	PLQP0064KB-C PLQP0064KL-A
					#30	PLQP0064KB-C
64ピン・プラスチックLQFP (12 × 12 mm, 0.65 mmピッチ)	搭載	A	R5F10RLAAFA, R5F10RLCAFA	#V0, #X0	PLQP0064JA-A	
				#10, #30, #50, #70	PLQP0064JA-A PLQP0064JB-A	
		G	R5F10RLAGFA, R5F10RLCGFA	#V0, #X0	PLQP0064JA-A	
				#10, #30, #50, #70	PLQP0064JA-A PLQP0064JB-A	

注 用途区分は、図1-1 RL78/L12の型名とメモリ・サイズ、パッケージを参照してください。

注意 発注型名は、本マニュアルの発行時のものです。最新の発注型名は、当社ホームページの対象製品ページを必ず参照してください。

1.3 端子接続図 (Top View)

1.3.1 32ピン製品

・32ピン・プラスチックLQFP (7 x 7)

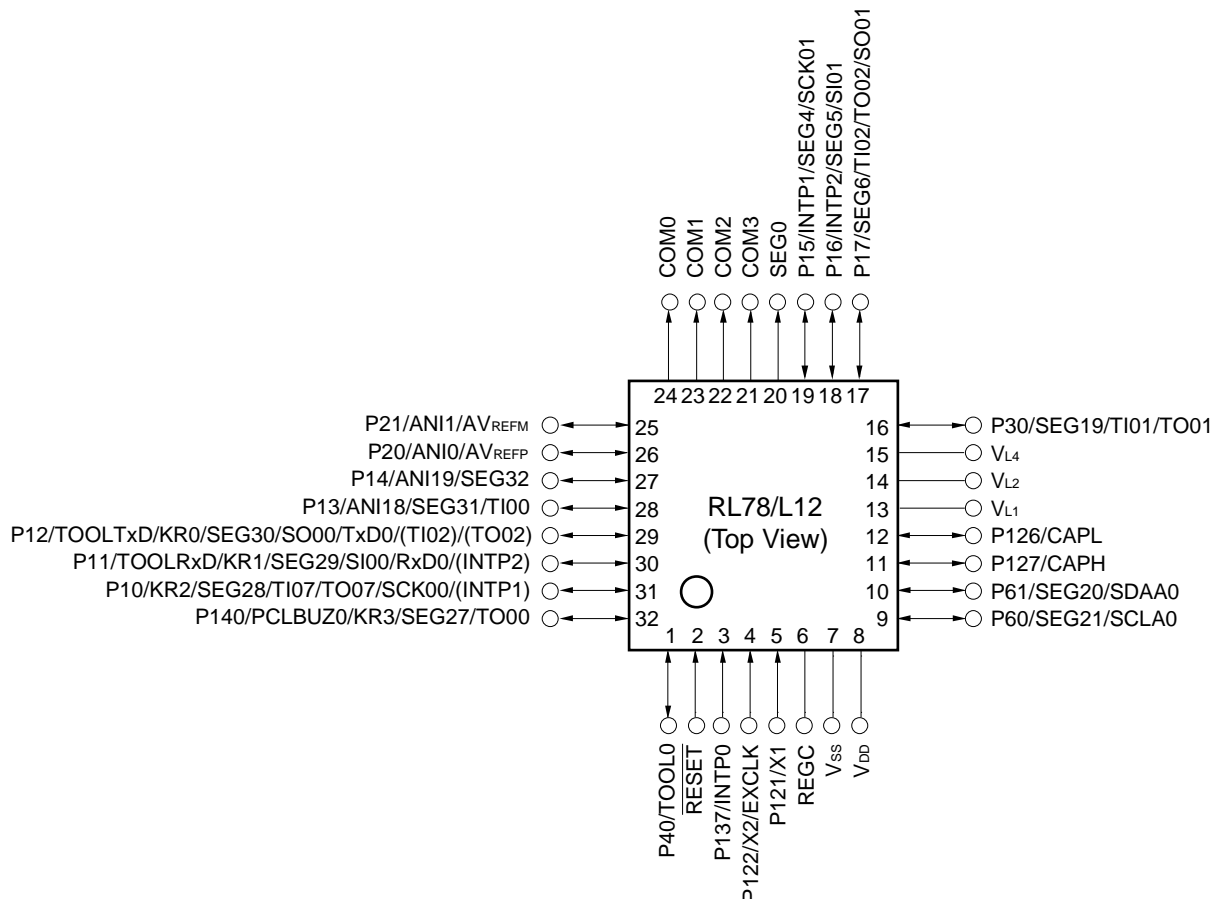


表1-2 32ピン製品の兼用機能 (1/2)

ピン番号	I/O		アナログ			HMI			タイマ		通信インタフェース	
32LQFP	デジタル・ポート	電源、システムクロック、デバッグ	A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIIC/A		
1	P40	TOOL0										
2		RESET										
3	P137				INTP0							
4	P122	X2/EXCLK										
5	P121	X1										

表1-2 32ピン製品の兼用機能 (2/2)

ピン 番号	I/O	32LQFP デジタル・ポート 電源、システム クロック、デバッグ	アナログ		HMI			タイマ		通信インターフェース	
			A/Dコンバータ		割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースII/CA
6		REGC									
7		V _{SS}									
8		V _{DD}									
9	P60					SEG21					SCLA0
10	P61					SEG20					SDAA0
11	P127					CAPH					
12	P126					CAPL					
13						V _{L1}					
14						V _{L2}					
15						V _{L4}					
16	P30					SEG19	TI01/TO01				
17	P17					SEG6	TI02/TO02			SO01	
18	P16				INTP2	SEG5				SI01	
19	P15				INTP1	SEG4				SCK01	
20						SEG0					
21						COM3					
22						COM2					
23						COM1					
24						COM0					
25	P21		ANI1/AV _{REFM}								
26	P20		ANI0/AV _{REFP}								
27	P14		ANI19			SEG32					
28	P13		ANI18			SEG31	TI00				
29	P12	TOOLTxD			KR0	SEG30	(TI02)/(TO02)			SO00/TxD0	
30	P11	TOOLRxD			(INTP2)	KR1	SEG29			SI00/RxD0	
31	P10				(INTP1)	KR2	SEG28	TI07/TO07		SCK00	
32	P140	PCLBUZ0			KR3	SEG27	TO00				

注意 REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μF) を介し、V_{SS}に接続してください。

備考1. 端子名称は、1.4 端子名称を参照してください。

2. 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

1.3.2 44ピン製品

・44ピン・プラスチックLQFP (10 x 10)

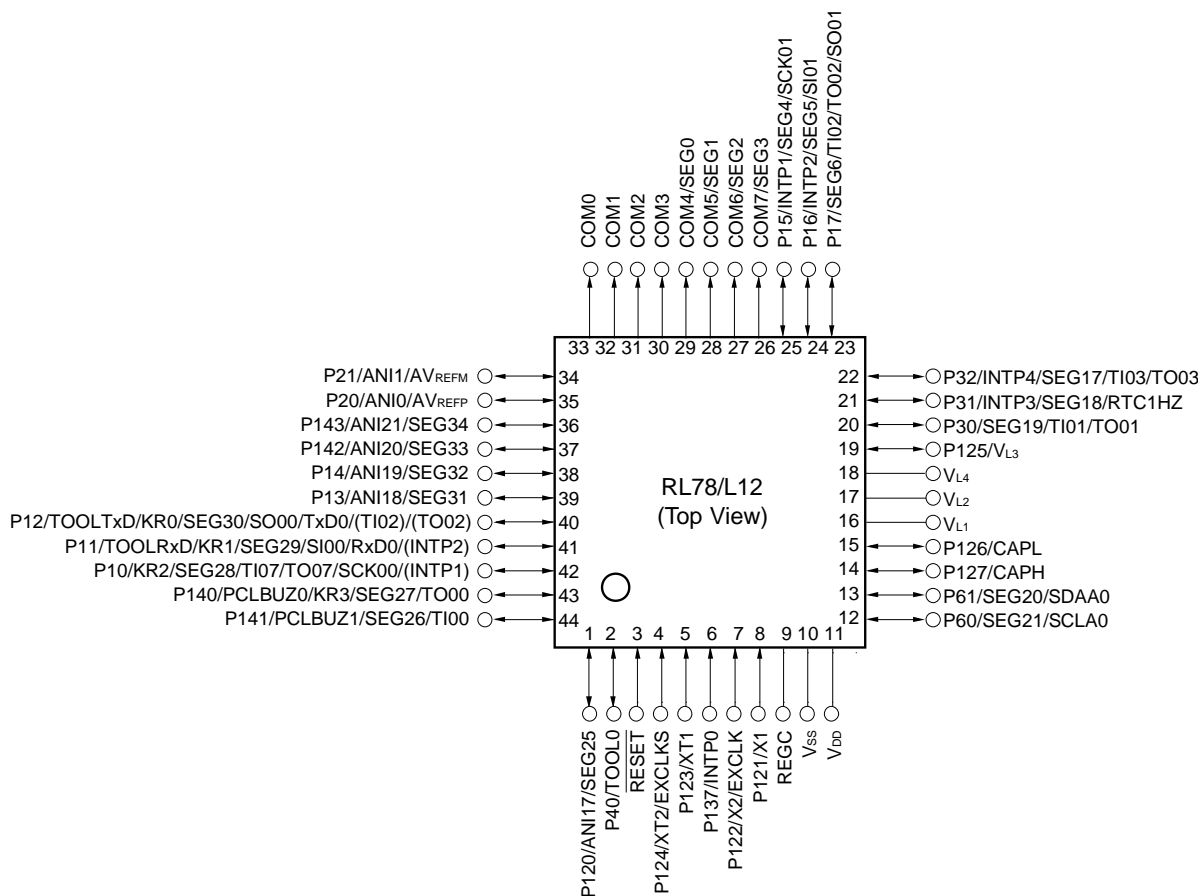


表1-3 44ピン製品の兼用機能 (1/3)

ピン番号	I/O		アナログ		HMI			タイマ		通信インタフェース	
44LQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ	A/Dコンバータ		割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIICA
1	P120		ANI17				SEG25				
2	P40	TOOL0									
3		RESET									
4	P124	XT2/ EXCLKS									
5	P123	XT1									
6	P137				INTP0						

表1-3 44ピン製品の兼用機能 (2/3)

ピン 番 号	I/O		アナログ	HMI			タイマ		通信インタフェース	
			A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIICA
44LQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ								
7	P122	X2/ EXCLK								
8	P121	X1								
9		REGC								
10		V _{SS}								
11		V _{DD}								
12	P60					SEG21				SCLA0
13	P61					SEG20				SDAA0
14	P127					CAPH				
15	P126					CAPL				
16						V _{L1}				
17						V _{L2}				
18						V _{L4}				
19	P125					V _{L3}				
20	P30					SEG19	TI01/TO01			
21	P31			INTP3		SEG18		RTC1HZ		
22	P32			INTP4		SEG17	TI03/TO03			
23	P17					SEG6	TI02/TO02		SO01	
24	P16			INTP2		SEG5			SI01	
25	P15			INTP1		SEG4			SCK01	
26						COM7/ SEG3				
27						COM6/ SEG2				
28						COM5/ SEG1				
29						COM4/ SEG0				
30						COM3				
31						COM2				
32						COM1				
33						COM0				
34	P21		ANI1/AV _{REFM}							
35	P20		ANI0/AV _{REFP}							

表1-3 44ピン製品の兼用機能 (3/3)

ピン 番号	I/O	電源、システム クロック、デバッグ	アナログ		HMI			タイマ		通信インタフェース	
			A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIIICA	
44LQFP											
	デジタル・ポート										
36	P143		ANI21			SEG34					
37	P142		ANI20			SEG33					
38	P14		ANI19			SEG32					
39	P13		ANI18			SEG31					
40	P12	TOOLTxD			KR0	SEG30	(TI02)/ (TO02)			SO00/TxD0	
41	P11	TOOLRxD		(INTP2)	KR1	SEG29				SI00/RxD0	
42	P10			(INTP1)	KR2	SEG28	TI07/TO07			SCK00	
43	P140	PCLBUZ0			KR3	SEG27	TO00				
44	P141	PCLBUZ1				SEG26	TI00				

注意 REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μ F) を介し、V_{SS}に接続してください。

備考1. 端子名称は、1.4 端子名称を参照してください。

2. 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

1.3.3 48ピン製品

・48ピン・プラスチックLFQFP（ファインピッチ）（7×7）

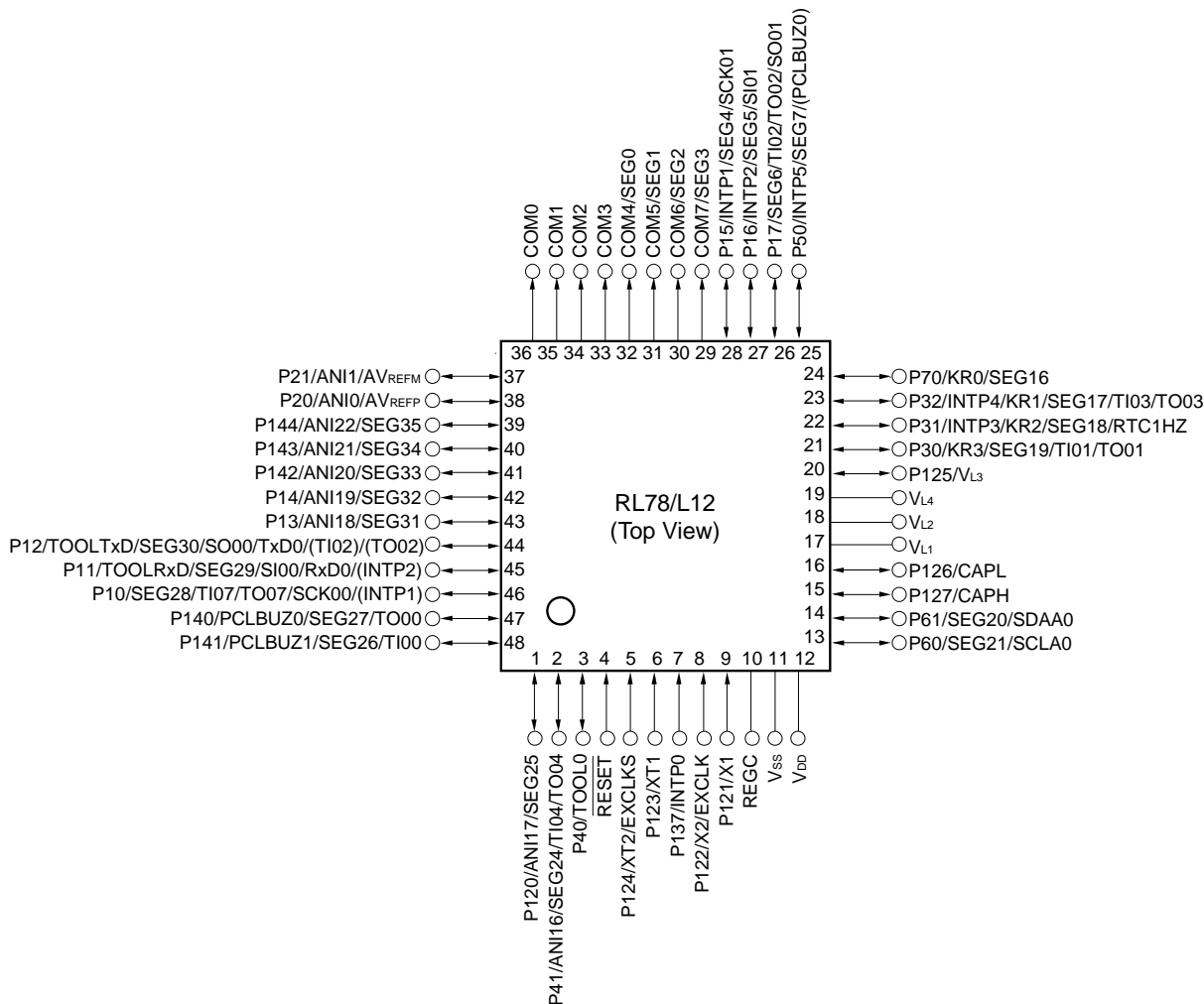


表1-4 48ピン製品の兼用機能 (1/3)

ピン番号	I/O		アナログ			HMI		タイマ		通信インタフェース	
48LFQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ	A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIIC/A	
1	P120		ANI17			SEG25					
2	P41		ANI16			SEG24	TI04/TO04				
3	P40	TOOL0									
4		RESET									

表1-4 48ピン製品の兼用機能 (2/3)

ピン 番 号	I/O		アナログ	HMI			タイマ		通信インタフェース	
				割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIICA
48LFQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ	A/Dコンバータ							
5	P124	XT2/ EXCLKS								
6	P123	XT1								
7	P137			INTP0						
8	P122	X2/ EXCLK								
9	P121	X1								
10		REGC								
11		V _{SS}								
12		V _{DD}								
13	P60					SEG21				SCLA0
14	P61					SEG20				SDAA0
15	P127					CAPH				
16	P126					CAPL				
17						V _{L1}				
18						V _{L2}				
19						V _{L4}				
20	P125					V _{L3}				
21	P30				KR3	SEG19	TI01/TO01			
22	P31			INTP3	KR2	SEG18		RTC1HZ		
23	P32			INTP4	KR1	SEG17	TI03/TO03			
24	P70				KR0	SEG16				
25	P50	(PCLBUZ0)		INTP5		SEG7				
26	P17					SEG6	TI02/TO02		SO01	
27	P16			INTP2		SEG5			SI01	
28	P15			INTP1		SEG4			SCK01	
29						COM7/ SEG3				
30						COM6/ SEG2				
31						COM5/ SEG1				
32						COM4/ SEG0				

表1-4 48ピン製品の兼用機能 (3/3)

ピン番号	I/O		アナログ	HMI			タイマ		通信インタフェース	
				割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースII/O
48LFQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ	A/Dコンバータ							
33						COM3				
34						COM2				
35						COM1				
36						COM0				
37	P21		ANI1/ AV _{REFM}							
38	P20		ANI0/ AV _{REFP}							
39	P144		ANI22			SEG35				
40	P143		ANI21			SEG34				
41	P142		ANI20			SEG33				
42	P14		ANI19			SEG32				
43	P13		ANI18			SEG31				
44	P12	TOOLTxD				SEG30	(TI02)/ (TO02)		SO00/TxD0	
45	P11	TOOLRxD		(INTP2)		SEG29			SI00/RxD0	
46	P10			(INTP1)		SEG28	TI07/ TO07		SCK00	
47	P140	PCLBUZ0				SEG27	TO00			
48	P141	PCLBUZ1				SEG26	TI00			

注意 REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μF) を介し、V_{SS}に接続してください。

備考1. 端子名称は、1.4 端子名称を参照してください。

2. 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

1.3.4 52ピン製品

・52ピン・プラスチックLQFP (10 x 10)

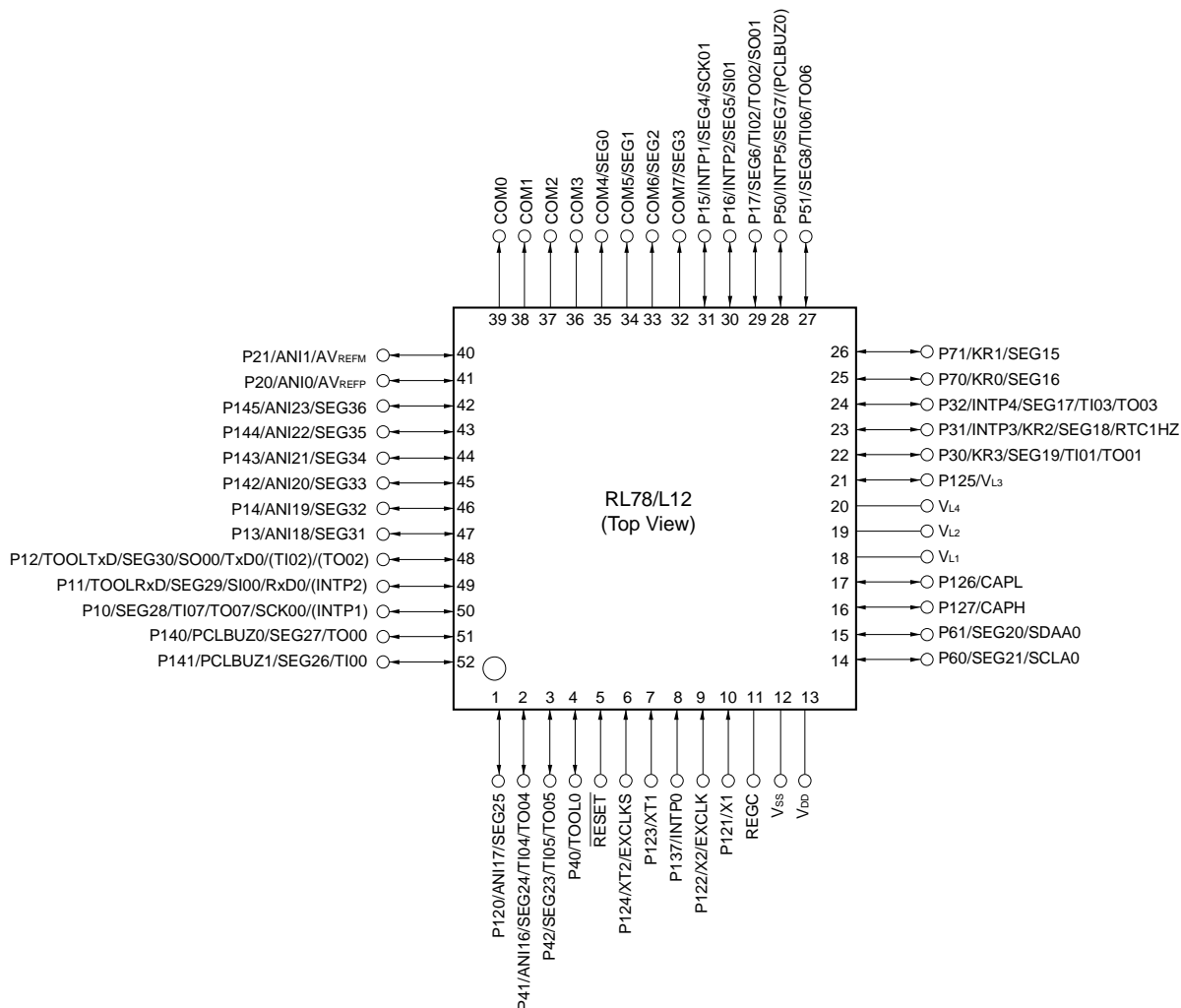


表1-5 52ピン製品の兼用機能 (1/3)

ピン番号	I/O		アナログ		HMI			タイマ		通信インターフェース	
52LQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ	A/Dコンバータ		割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIIC/A
1	P120		ANI17				SEG25				
2	P41		ANI16				SEG24	TI04/TO04			
3	P42						SEG23	TI05/TO05			
4	P40	TOOL0									

表1-5 52ピン製品の兼用機能 (2/3)

ピン 番号	I/O		アナログ	HMI			タイマ		通信インタフェース	
				A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット
52LQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ								
5		RESET								
6	P124	XT2/ EXCLKS								
7	P123	XT1								
8	P137			INTP0						
9	P122	X2/ EXCLK								
10	P121	X1								
11		REGC								
12		V _{SS}								
13		V _{DD}								
14	P60					SEG21				SCLA0
15	P61					SEG20				SDAA0
16	P127					CAPH				
17	P126					CAPL				
18						V _{L1}				
19						V _{L2}				
20						V _{L4}				
21	P125					V _{L3}				
22	P30				KR3	SEG19	TI01/TO01			
23	P31			INTP3	KR2	SEG18		RTC1HZ		
24	P32			INTP4		SEG17	TI03/TO03			
25	P70				KR0	SEG16				
26	P71				KR1	SEG15				
27	P51					SEG8	TI06/TO06			
28	P50	(PCLBUZ0)		INTP5		SEG7				
29	P17					SEG6	TI02/TO02		SO01	
30	P16			INTP2		SEG5			SI01	
31	P15			INTP1		SEG4			SCK01	
32						COM7/ SEG3				
33						COM6/ SEG2				

表1-5 52ピン製品の兼用機能 (3/3)

ピン 番号	I/O		アナログ	HMI			タイマ		通信インタフェース	
				A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット
52LQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ								
34						COM5/ SEG1				
35						COM4/ SEG0				
36						COM3				
37						COM2				
38						COM1				
39						COM0				
40	P21		ANI1/ AV _{REFM}							
41	P20		ANI0/ AV _{REFP}							
42	P145		ANI23			SEG36				
43	P144		ANI22			SEG35				
44	P143		ANI21			SEG34				
45	P142		ANI20			SEG33				
46	P14		ANI19			SEG32				
47	P13		ANI18			SEG31				
48	P12	TOOLTxD				SEG30	(TI02)/(TO02)		SO00/TxD0	
49	P11	TOOLRxD		(INTP2)		SEG29			SI00/RxD0	
50	P10			(INTP1)		SEG28	TI07/TO07		SCK00	
51	P140	PCLBUZ0				SEG27	TO00			
52	P141	PCLBUZ1				SEG26	TI00			

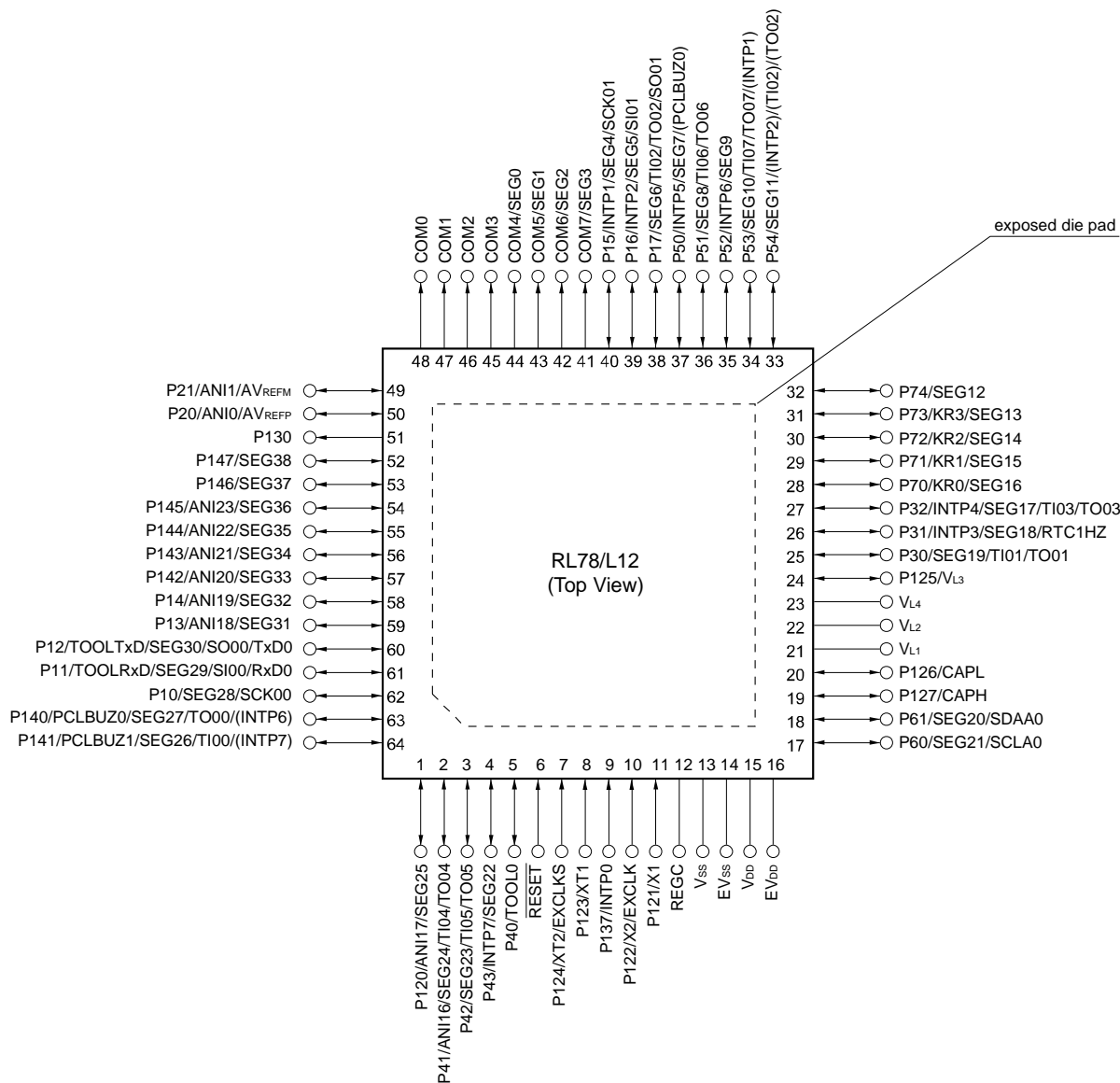
注意 REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μF) を介し、Vssに接続してください。

備考1. 端子名称は、1.4 端子名称を参照してください。

2. 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

1.3.5 64ピン製品

・ 64ピン・プラスチックHWQFN (8 x 8)



- ・ 64ピン・プラスチックLFQFP（ファインピッチ）（10 x 10）
- ・ 64ピン・プラスチックLQFP（12 x 12）

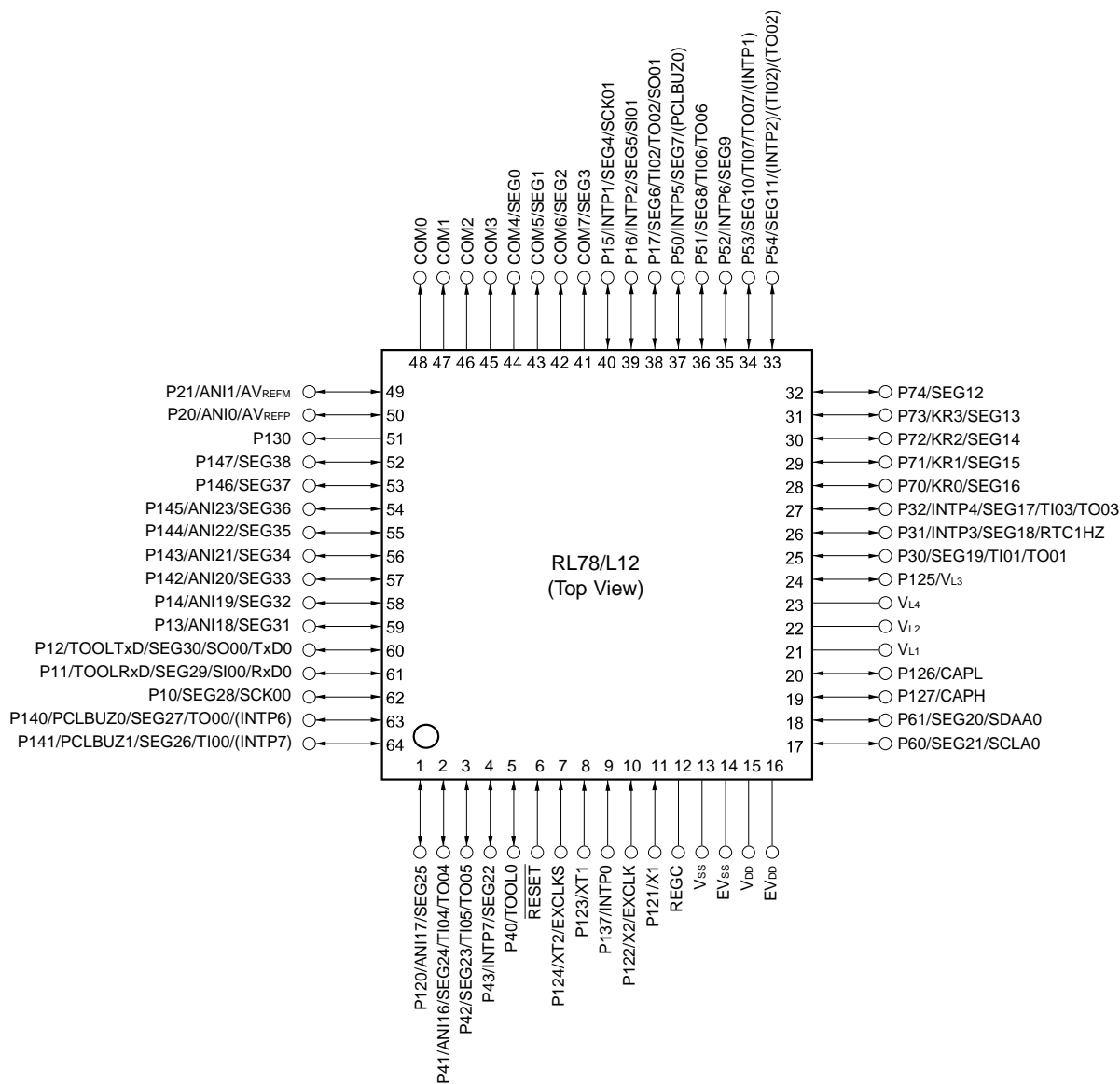


表1-6 64ピン製品の兼用機能 (1/3)

ピン 番 号	I/O		アナログ		HMI			タイマ		通信インタフェース	
			A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースIICA	
64HQFN, 64LFQFP, 64LQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ									
1	P120		ANI17			SEG25					
2	P41		ANI16			SEG24	TI04/TO04				
3	P42					SEG23	TI05/TO05				
4	P43			INTP7		SEG22					
5	P40	TOOL0									
6		RESET									
7	P124	XT2/ EXCLKS									
8	P123	XT1									
9	P137			INTP0							
10	P122	X2/ EXCLK									
11	P121	X1									
12		REGC									
13		V _{SS}									
14		EV _{SS}									
15		V _{DD}									
16		EV _{DD}									
17	P60					SEG21					SCLA0
18	P61					SEG20					SDAA0
19	P127					CAPH					
20	P126					CAPL					
21						V _{L1}					
22						V _{L2}					
23						V _{L4}					
24	P125					V _{L3}					
25	P30					SEG19	TI01/TO01				
26	P31			INTP3		SEG18		RTC1HZ			
27	P32			INTP4		SEG17	TI03/TO03				
28	P70				KR0	SEG16					
29	P71				KR1	SEG15					
30	P72				KR2	SEG14					
31	P73				KR3	SEG13					

表1-6 64ピン製品の兼用機能 (2/3)

ピン 番 号	I/O		アナログ	HMI			タイマ		通信インタフェース	
64HQFN, 64LQFP, 64LQFP	デジタル・ポート	電源、システム クロック、デバッグ	A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	L00コントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースII/OA
32	P74					SEG12				
33	P54			(INTP2)		SEG11	(TI02)/(TO02)			
34	P53			(INTP1)		SEG10	TI07/TO07			
35	P52			INTP6		SEG9				
36	P51					SEG8	TI06/TO06			
37	P50	(PCLBUZ0)		INTP5		SEG7				
38	P17					SEG6	TI02/TO02		SO01	
39	P16			INTP2		SEG5			SI01	
40	P15			INTP1		SEG4			SCK01	
41						COM7/ SEG3				
42						COM6/ SEG2				
43						COM5/ SEG1				
44						COM4/ SEG0				
45						COM3				
46						COM2				
47						COM1				
48						COM0				
49	P21		ANI1/ AV _{REFM}							
50	P20		ANI0/ AV _{REFP}							
51	P130									
52	P147					SEG38				
53	P146					SEG37				
54	P145		ANI23			SEG36				
55	P144		ANI22			SEG35				
56	P143		ANI21			SEG34				
57	P142		ANI20			SEG33				
58	P14		ANI19			SEG32				
59	P13		ANI18			SEG31				

表1-6 64ピン製品の兼用機能 (3/3)

ピン 番 号	I/O	電源、システム クロック、デバッグ	アナログ	HMI			タイマ		通信インタフェース	
			A/Dコンバータ	割り込み機能	キー割り込み機能	LCDコントローラ/ドライバ	タイマ・アレイ・ユニット	リアルタイム・クロック	シリアル・アレイ・ユニット	シリアル・インタフェースII/O
60	P12	TOOLTxD				SEG30			SO00/TxD0	
61	P11	TOOLRxD				SEG29			SI00/RxD0	
62	P10					SEG28			SCK00	
63	P140	PCLBUZ0		(INTP6)		SEG27	TO00			
64	P141	PCLBUZ1		(INTP7)		SEG26	TI00			

- 注意 1. EV_{SS}端子は、V_{SS}端子と同電位にしてください。
 2. V_{DD}端子は、EV_{DD}端子と同電位にしてください。
 3. REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μF) を介し、V_{SS}に接続してください。

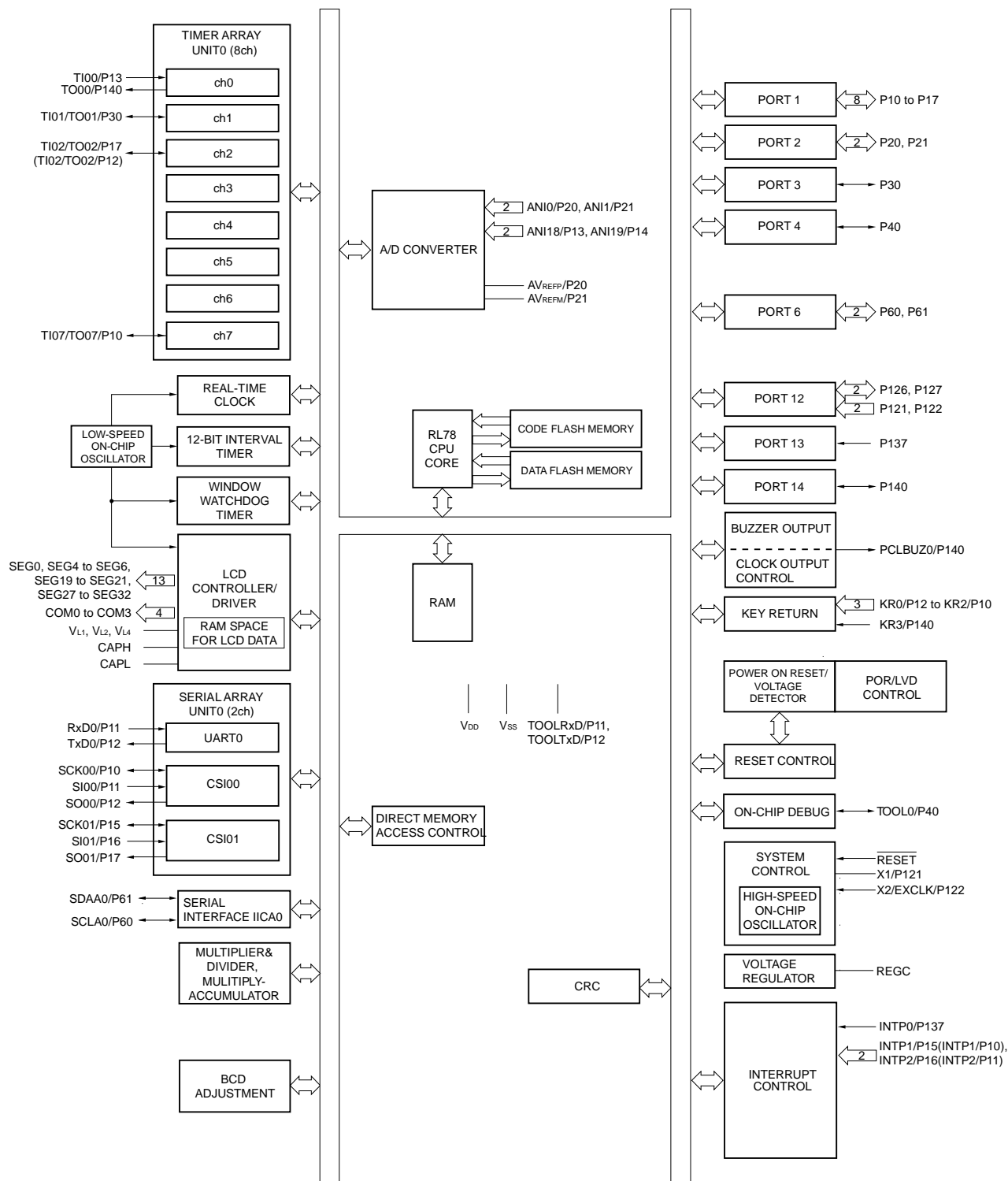
- 備考 1. 端子名称は、1.4 端子名称を参照してください。
 2. マイコン内部から発生するノイズを低減する必要がある応用分野で使用する場合、V_{DD}とEV_{DD}に個別の電源を供給し、V_{SS}とEV_{SS}を別々のグラウンド・ラインに接続するなどのノイズ対策を行うことを推奨します。
 3. 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

1.4 端子名称

ANI0, ANI1,		P130, P137:	Port 13
ANI16 to ANI23:	Analog Input	P140 to P147:	Port 14
AVREFM:	Analog Reference Voltage Minus	PCLBUZ0, PCLBUZ1:	Programmable Clock Output/Buzzer Output
AVREFP:	Analog Reference Voltage Plus	REGC:	Regulator Capacitance
CAPH, CAPL:	Capacitor for LCD	RESET:	Reset
COM0 to COM7,		RTC1HZ:	Real-time Clock Correction Clock (1 Hz) Output
EVDD:	Power Supply for Port	RxD0:	Receive Data
EVSS:	Ground for Port	SCK00, SCK01:	Serial Clock Input/Output
EXCLK:	External Clock Input (Main System Clock)	SCLA0:	Serial Clock Input/Output
EXCLKS:	External Clock Input (Subsystem Clock)	SDAA0:	Serial Data Input/Output
INTP0 to INTP7:	Interrupt Request From Peripheral	SEG0 to SEG38:	LCD Segment Output
KR0-KR3:	Key Return	SI00, SI01:	Serial Data Input
P10 to P17:	Port 1	SO00, SO01:	Serial Data Output
P20, P21:	Port 2	TI00 to TI07:	Timer Input
P30 to P32:	Port 3	TO00 to TO07:	Timer Output
P40 to P43:	Port 4	TOOL0:	Data Input/Output for Tool
P50 to P54:	Port 5	TOOLRxD, TOOLTxD:	Data Input/Output for External Device
P60, P61:	Port 6	TxD0:	Transmit Data
P70 to P74:	Port 7	VDD:	Power Supply
P120 to P127:	Port 12	VL1 to VL4:	LCD Power Supply
		VSS:	Ground
		X1, X2:	Crystal Oscillator (Main System Clock)
		XT1, XT2:	Crystal Oscillator (Subsystem Clock)

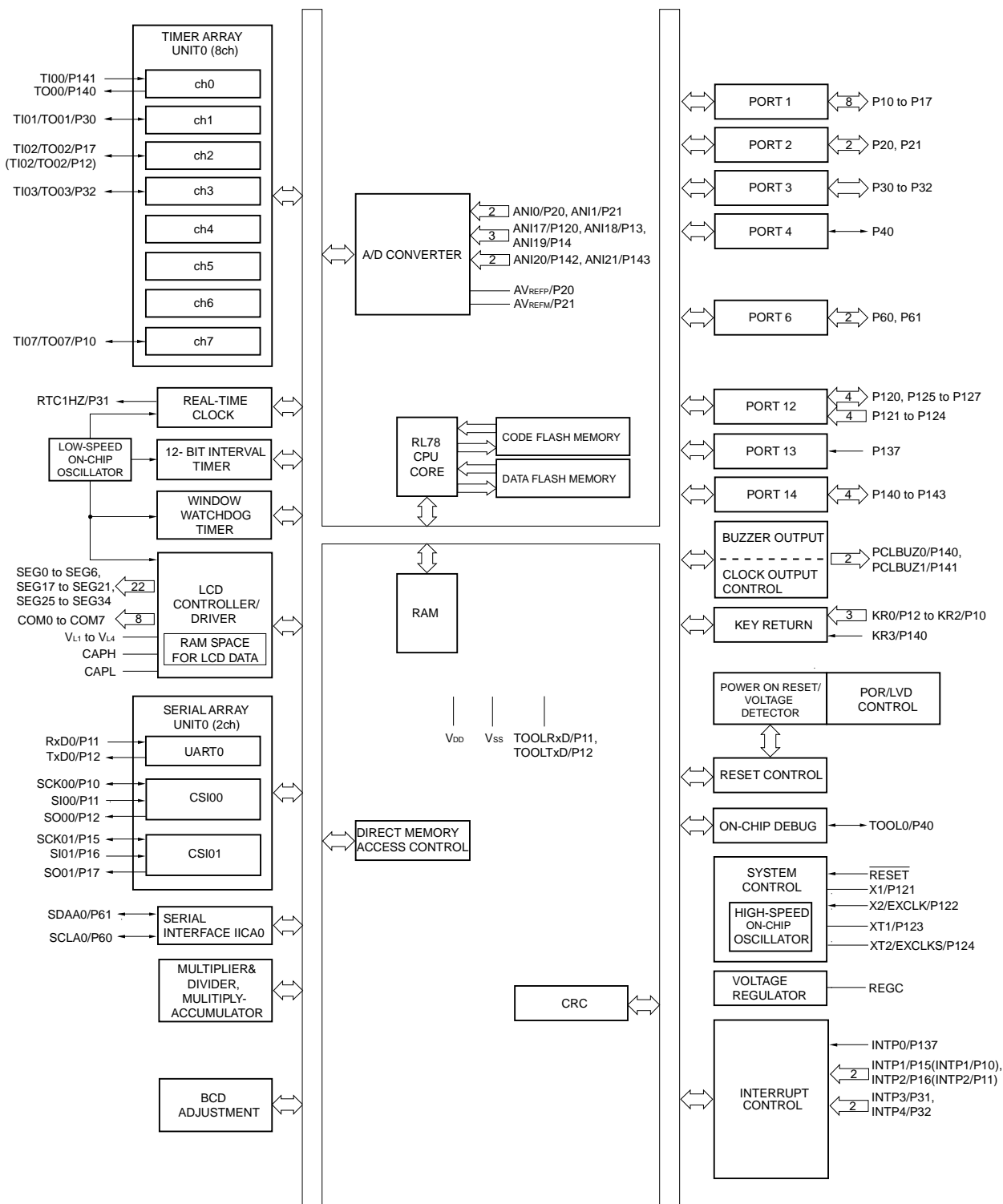
1.5 ブロック図

1.5.1 32ピン製品



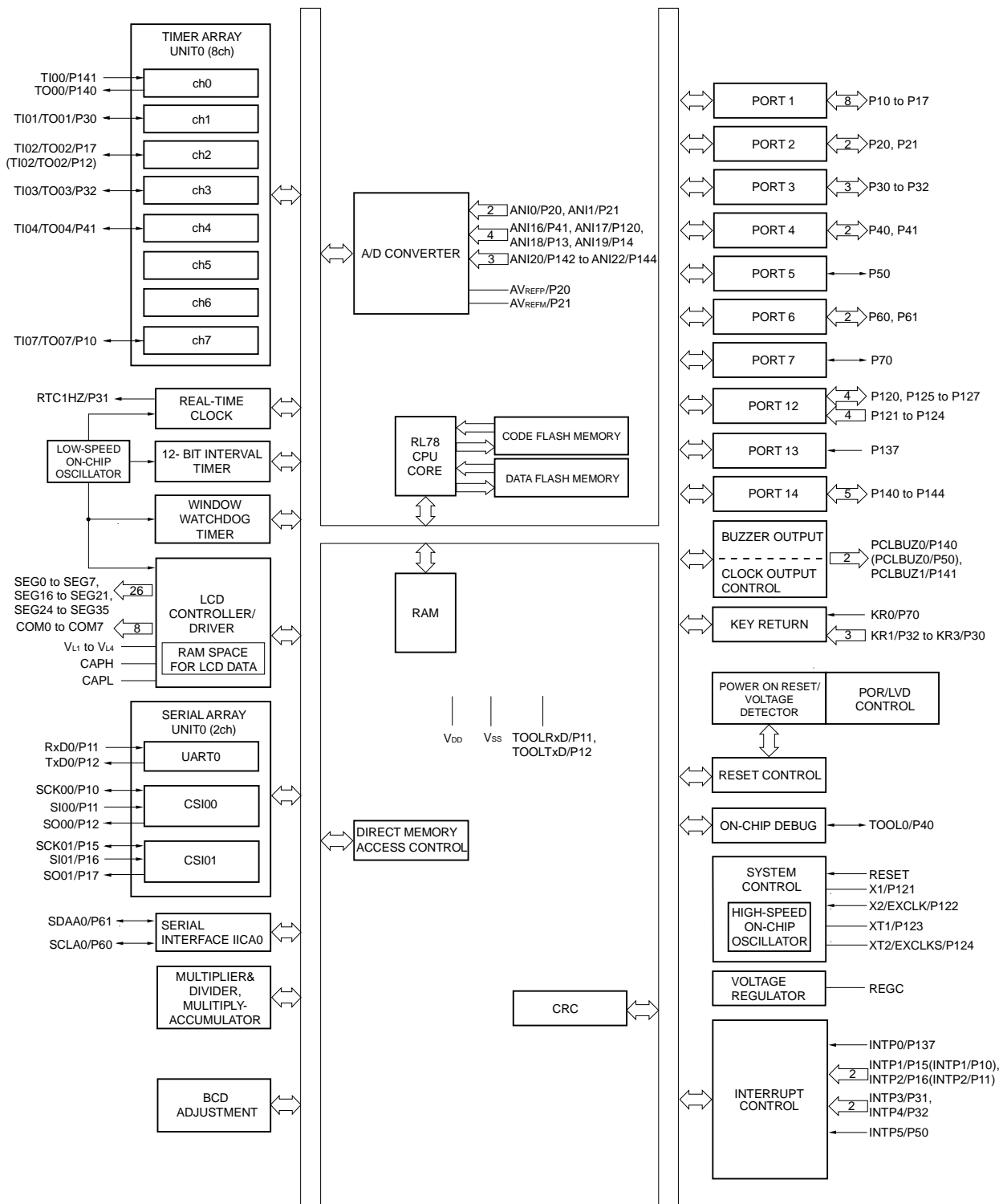
備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。

1.5.2 44ピン製品



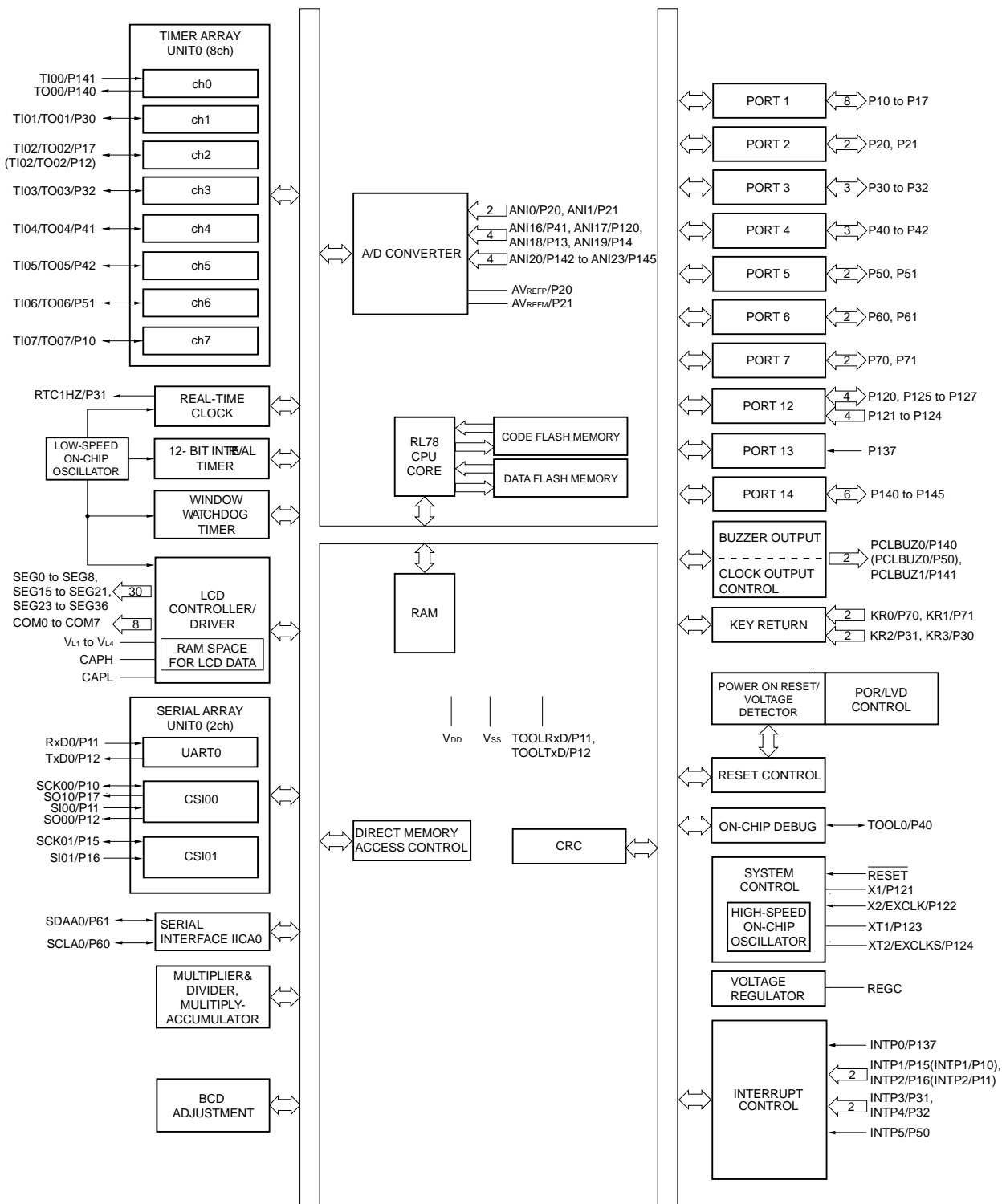
備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。

1.5.3 48ピン製品



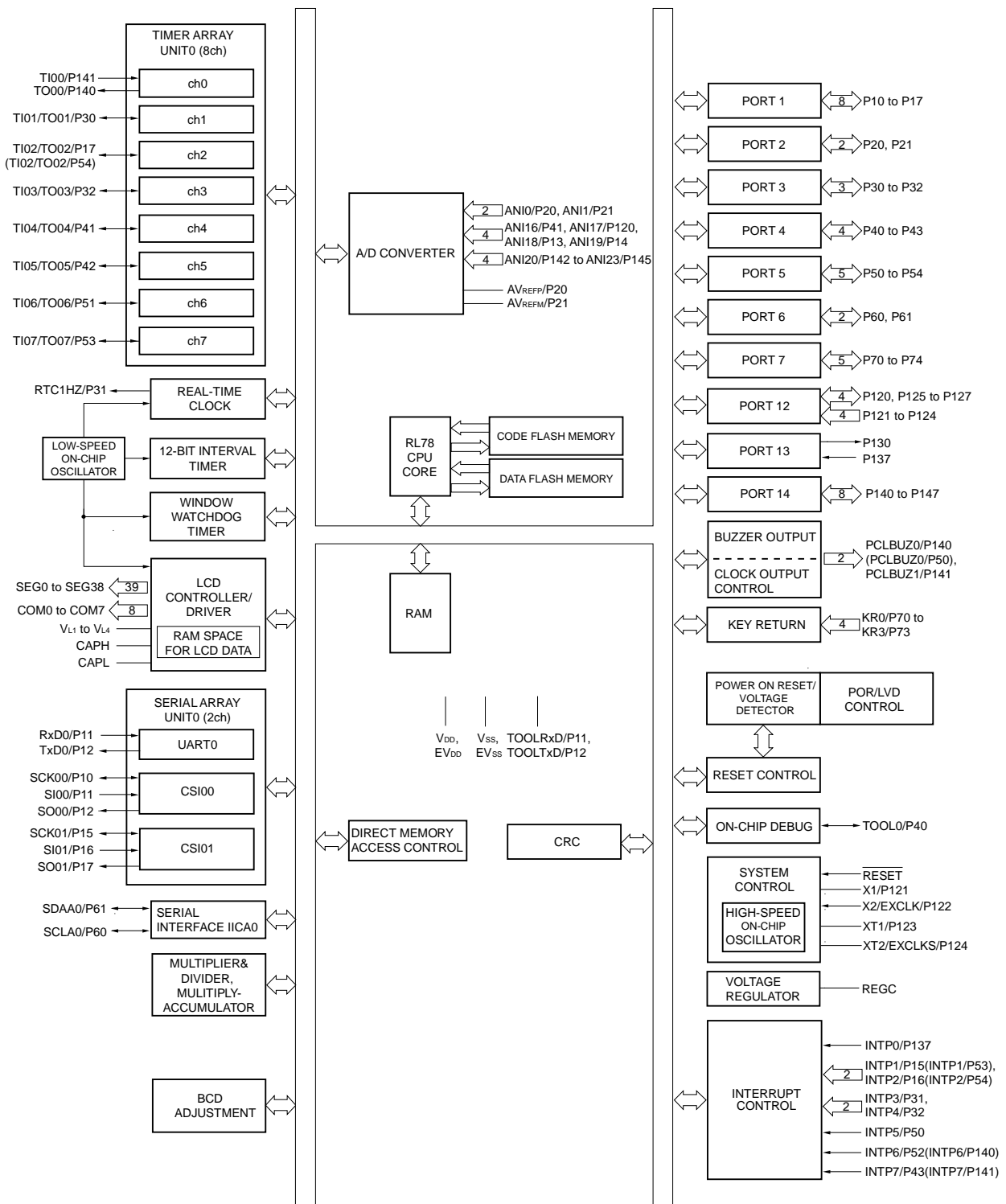
備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。

1.5.4 52ピン製品



備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。

1.5.5 64ピン製品



備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。

1.6 機能概要

注意 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）を00Hに設定時の機能概要です。

(1/2)

項 目	32ピン	44ピン	48ピン	52ピン	64ピン	
	R5F10RBx	R5F10RFx	R5F10RGx	R5F10RJx	R5F10RLx	
コード・フラッシュ・メモリ	8-32 KB	8-32 KB	8-32 KB	8-32 KB	16, 32 KB	
データ・フラッシュ・メモリ	2 KB	2 KB	2 KB	2 KB	2 KB	
RAM	1, 1.5 KB ^{注1}	1, 1.5 KB ^{注1}	1, 1.5 KB ^{注1}	1, 1.5 KB ^{注1}	1, 1.5 KB ^{注1}	
メモリ空間	1 Mバイト					
メイン・システム・クロック	HS（高速メイン）モード： 1~20 MHz（V _{DD} = 2.7~5.5 V）, HS（高速メイン）モード： 1~16 MHz（V _{DD} = 2.4~5.5 V）, LS（低速メイン）モード： 1~8 MHz（V _{DD} = 1.8~5.5 V）, LV（低電圧メイン）モード： 1~4 MHz（V _{DD} = 1.6~5.5 V）					
ロック	高速オンチップ・オシレータ・クロック HS（高速メイン）モード： 1~24 MHz（V _{DD} = 2.7~5.5 V）, HS（高速メイン）モード： 1~16 MHz（V _{DD} = 2.4~5.5 V）, LS（低速メイン）モード： 1~8 MHz（V _{DD} = 1.8~5.5 V）, LV（低電圧メイン）モード： 1~4 MHz（V _{DD} = 1.6~5.5 V）					
サブシステム・クロック	—	XT1（水晶）発振，外部サブシステム・クロック入力（EXCLKS） 32.768 kHz（TYP.）：V _{DD} = 1.6~5.5 V				
低速オンチップ・オシレータ・クロック	内蔵発振 15 kHz（TYP.）：V _{DD} = 1.6~5.5 V					
汎用レジスタ	8ビット×32レジスタ（8ビット×8レジスタ×4バンク）					
最小命令実行時間	0.04167 μs（高速オンチップ・オシレータ・クロック：f _{IH} = 24 MHz動作時） 0.05 μs（高速システム・クロック：f _{MX} = 20 MHz動作時） 30.5 μs（サブシステム・クロック：f _{SUB} = 32.768 kHz動作時）					
命令セット	<ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（8/16ビット） ・加減/論理演算（8/16ビット） ・乗算（8ビット×8ビット） ・ローテート，バレル・シフト，ビット操作（セット，リセット，テスト，ブール演算）など 					
I/OポートとLCD駆動専用端子合計	28	40	44	48	58	
I/Oポート	合計	20	29	33	37	47
	CMOS入出力	15	22	26	30	39
	CMOS入力	3	5	5	5	5
	CMOS出力	—	—	—	—	1
	N-ch O.D入出力（EV _{DD} 耐圧）	2	2	2	2	2
LCD駆動専用端子	8	11	11	11	11	
LCDコントローラ/ドライバ	内部昇圧/容量分割/外部抵抗分割の切り替えが可能					
セグメント信号出力	13本	22（18）本 ^{注2}	26（22）本 ^{注2}	30（26）本 ^{注2}	39（35）本 ^{注2}	
コモン信号出力	4本	4（8）本 ^{注2}				

注1. 1 Kバイト，1.5 Kバイトの場合，セルフ・プログラミング機能およびデータ・フラッシュ機能使用時は，630バイト（詳細は，第3章 CPUアーキテクチャ参照）

2. （ ）内は8 com使用時の信号出力本数です。

(2/2)

項 目		32ピン	44ピン	48ピン	52ピン	64ピン
		R5F10RBx	R5F10RFx	R5F10RGx	R5F10RJx	R5F10RLx
タイマ	16ビット・タイマ	8チャンネル	8チャンネル（リモコン出力機能1チャンネルあり）			
	ウォッチドッグ・タイマ	1チャンネル				
	リアルタイム・クロック（RTC）	1チャンネル				
	12ビット・インターバル・タイマ（IT）	1チャンネル				
	タイマ出力	4本（PWM出力：3本 ^{注1} ）	5本（PWM出力：4本 ^{注1} ）	6本（PWM出力：5本 ^{注1} ）	8本（PWM出力：7本 ^{注1} ）	
	RTC出力	—	1本 ・1 Hz（サブシステム・クロック：f _{SUB} = 32.768 kHz）			
クロック出力／ブザー出力		1本	2本 ・2.44 kHz, 4.88 kHz, 9.76 kHz, 1.25 MHz, 2.5 MHz, 5 MHz, 10 MHz（メイン・システム・クロック：f _{MAIN} = 20 MHz動作時） ・256 Hz, 512 Hz, 1.024 kHz, 2.048 kHz, 4.096 kHz, 8.192 kHz, 16.384 kHz, 32.768 kHz（サブシステム・クロック：f _{SUB} = 32.768 kHz動作時）			
8/10ビット分解能A/Dコンバータ		4チャンネル	7チャンネル	9チャンネル	10チャンネル	10チャンネル
シリアル・インタフェース		・簡易SPI(CSI)：2チャンネル／UART（LIN-bus対応）：1チャンネル				
I ² Cバス		1チャンネル	1チャンネル	1チャンネル	1チャンネル	1チャンネル
乗除・積和演算器		乗算：16ビット×16ビット = 32ビット（符号付／符号なし） 除算：32ビット÷32ビット = 32ビット（符号なし） 積和演算：16ビット×16ビット+32ビット = 32ビット（符号付／符号なし）				
DMAコントローラ		2チャンネル				
ベクタ割り込み要因	内部	23	23	23	23	23
	外部	4	6	7	7	9
キー割り込み		4				
リセット		<ul style="list-style-type: none"> ・RESET端子によるリセット ・ウォッチドッグ・タイマによる内部リセット ・パワーオン・リセットによる内部リセット ・電圧検出回路による内部リセット ・不正命令の実行による内部リセット^{注2} ・RAMパリティ・エラーによる内部リセット ・不正メモリ・アクセスによる内部リセット 				
パワーオン・リセット回路		<ul style="list-style-type: none"> ・パワーオン・リセット：1.51±0.04V ・パワーダウン・リセット：1.50±0.04V 				
電圧検出回路		<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がり：1.67 V～4.06 V（14段階） ・立ち下がり：1.63 V～3.98 V（14段階） 				
オンチップ・デバッグ機能		あり				
電源電圧		V _{DD} = 1.6～5.5 V				
動作周囲温度		T _A = -40～+85 °C				

注1. マスタの数と使用チャンネルの設定によって、出力数は変わります（6.9.3 多重PWM出力機能としての動作参照）。

2. FFHの命令コードを実行したときに発生します。

不正命令の実行によるリセットは、インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

第2章 端子機能

2.1 ポート機能

端子の入出力バッファ電源は、製品によって異なります。それぞれの電源と端子の関係を次に示します。

表2-1 各端子の入出力バッファ電源

(1) 32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品

電源	対応する端子
V _{DD}	すべての端子

(2) 64ピン製品

電源	対応する端子
E _V DD	・ P20, P21, P121-P124, P137以外のポート端子
V _{DD}	・ P20, P21, P121-P124, P137 ・ $\overline{\text{RESET}}$, REGC端子

各ポートで設定した入出力やバッファ、プルアップ抵抗は、兼用機能に対しても有効です。

2.1.1 32ピン製品

(1/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット解除時	兼用機能	機能	
P10	8-5-7	入出力	デジタル 入力無効	SCK00/TI07/TO07/ KR2/SEG28/ (INTP1)	ポート1。 8ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P10, P11, P15, P16の入力はTTL入力バッファに設定可能。 P10, P12, P15, P17の出力はN-chオープン・ドレイン出力 (V _{DD} 耐圧) に設定可能。 P13, P14はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P11	8-5-1			SI00/RxD0/ TOOLRxD/KR1/ SEG29/(INTP2)		
P12	7-5-7			SO00/TxD0/ TOOLTxD/KR0/ SEG30/(TI02)/(TO02)		
P13	7-10-1			アナログ 入力ポート		ANI18/TI00/SEG31
P14				ANI19/SEG32		
P15	8-5-7			デジタル 入力無効		SCK01/INTP1/SEG4
P16	8-5-1			SI01/INTP2/SEG5		
P17	7-5-7			SO01/TI02/TO02/ SEG6		
P20	4-3-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI0/AV _{REFP}	ポート2。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 アナログ入力に設定可能 ^{注2} 。	
P21				ANI1/AV _{REFM}		
P30	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TI01/TO01/SEG19	ポート3。 1ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。	
P40	7-1-1	入出力	入力ポート	TOOL0	ポート4。 1ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。	

注 1. 各端子を入力として使用する場合、ポート・モード・コントロール・レジスタ× (PMC×) でデジタルかアナログかを設定してください (1ビット単位で設定可能)

2. 各端子をデジタル／アナログのいずれにするかは、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) で設定します。

備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。詳細は、図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

(2/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット 解除時	兼用機能	機能
P60	12-1-4	入出力	デジタル 入力無効	SCLA0/SEG21	ポート6。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。
P61				SDAA0/SEG20	
P121	2-2-1	入力	入力ポート	X1	ポート12。 2ビット入出力ポートと2ビット入力ポート。
P122				X2/EXCLK	
P126	8-5-2	入出力	デジタル 入力無効	CAPL	P126, 127は, 1ビット単位で入力／出力の指定が可能。 P126, 127は, 入力ポートではソフトウェアの設定により, 内蔵プルアップ抵抗を使用可能。
P127				CAPH	
P137	2-1-2	入力	入力ポート	INTP0	ポート13。 1ビット入力専用ポート。
P140	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TO00/PCLBUZ0/ KR3/SEG27	ポート14。 1ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは, ソフトウェアの設定により, 内蔵プルアップ抵抗を使用可能。

2.1.2 44ピン製品

(1/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット解除時	兼用機能	機能	
P10	8-5-7	入出力	デジタル 入力無効	SCK00/TI07/TO07/ KR2/SEG28/ (INTP1)	ポート1。 8ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P10, P11, P15, P16の入力はTTL入力バッファに設定可能。 P10, P12, P15, P17の出力はN-chオープン・ドレイン出力 (V _{DD} 耐圧) に設定可能。 P13, P14はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P11	8-5-1			SI00/RxD0/TOOLRxD/ KR1/SEG29/ (INTP2)		
P12	7-5-7			SO00/TxD0/ TOOLTxD/KR0/ SEG30/ (TI02)/(TO02)		
P13	7-10-1			アナログ 入力ポート		ANI18/SEG31
P14				ANI19/SEG32		
P15	8-5-7			デジタル 入力無効		SCK01/INTP1/SEG4
P16	8-5-1			SI01/INTP2/SEG5		
P17	7-5-7			SO01/TI02/TO02/SEG6		
P20	4-3-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI0/AV _{REFP}	ポート2。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 アナログ入力に設定可能 ^{注2} 。	
P21				ANI1/AV _{REFM}		
P30	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TI01/TO01/SEG19	ポート3。 3ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。	
P31				INTP3/RTC1HZ/ SEG18		
P32				TI03/TO03/INTP4/ SEG17		
P40	7-1-1	入出力	入力ポート	TOOL0	ポート4。 1ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。	

注 1. 各端子を入力として使用する場合、ポート・モード・コントロール・レジスタ× (PMC×) でデジタルかアナログかを設定してください (1ビット単位で設定可能)

- 各端子をデジタル／アナログのいずれにするかは、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) で設定します。

備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。詳細は、図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

(2/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット 解除時	兼用機能	機能
P60	12-1-4	入出力	デジタル 入力無効	SCLA0/SEG21	ポート6。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。
P61				SDAA0/SEG20	
P120	7-10-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI17/SEG25	ポート12。 4ビット入出力ポートと4ビット入力ポート。
P121	2-2-1	入力	入力ポート	X1	P120, P125-P127は、1ビット単位で入力／出力 の指定が可能。 P120, P125-P127は、入力ポートではソフトウエ アの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可 能。 P120はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P122				X2/EXCLK	
P123				XT1	
P124				XT2/EXCLKS	
P125	8-5-3	入出力	デジタル 入力無効	V _{L3}	
P126	8-5-2			CAPL	
P127				CAPH	
P137	2-1-2	入力	入力ポート	INTP0	ポート13。 1ビット入力専用ポート。
P140	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TO00/PCLBUZ0/ KR3/SEG27	ポート14。 4ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内 蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P142, P143はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P141				TI00/PCLBUZ1/ SEG26	
P142	7-10-1		アナログ	ANI20/SEG33	
P143			入力ポート	ANI21/SEG34	

注 各端子を入力として使用する場合、ポート・モード・コントロール・レジスタ×（PMC×）でデジタルかアナログかを設定してください（1ビット単位で設定可能）

2.1.3 48ピン製品

(1/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット解除時	兼用機能	機能	
P10	8-5-7	入出力	デジタル 入力無効	SCK00/TI07/TO07/ SEG28/ (INTP1)	ポート1。 8ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P10, P11, P15, P16の入力はTTL入力バッファに設定可能。 P10, P12, P15, P17の出力はN-chオープン・ドレイン出力 (V _{DD} 耐圧) に設定可能。 P13, P14はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P11	8-5-1			SI00/RxD0/ TOOLRxD/SEG29/ (INTP2)		
P12	7-5-7			SO00/TxD0/ TOOLTxD/SEG30/ (TI02)/(TO02)		
P13	7-10-1			アナログ 入力ポート		ANI18/SEG31
P14						ANI19/SEG32
P15	8-5-7			デジタル 入力無効		SCK01/INTP1/SEG4
P16	8-5-1			デジタル 入力無効		SI01/INTP2/SEG5
P17	7-5-7			デジタル 入力無効		SO01/TI02/TO02/SEG6
P20	4-3-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI0/AV _{REFP}	ポート2。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 アナログ入力に設定可能 ^{注2} 。	
P21				ANI1/AV _{REFM}		
P30	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TI01/TO01/KR3/ SEG19	ポート3。 3ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。	
P31				INTP3/RTC1HZ/ KR2/SEG18		
P32				TI03/TO03/INTP4/ KR1/SEG17		
P40	7-1-1	入出力	入力ポート アナログ 入力ポート	TOOL0	ポート4。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P41はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P41	7-10-1			ANI16/TI04/TO04/ SEG24		

- 注 1. 各端子を入力として使用する場合は、ポート・モード・コントロール・レジスタ× (PMC×) でデジタルかアナログかを設定してください (1ビット単位で設定可能)
2. 各端子をデジタル／アナログのいずれにするかは、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) で設定します。

備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。
詳細は、図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

(2/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット 解除時	兼用機能	機能
P50	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	INTP5/SEG7/ (PCLBUZ0)	ポート5。 1ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。
P60	12-1-4	入出力	デジタル 入力無効	SCLA0/SEG21	ポート6。
P61				SDAA0/SEG20	2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。
P70	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	KR0/SEG16	ポート7。 1ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。
P120	7-10-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI17/SEG25	ポート12。 4ビット入出力ポートと4ビット入力ポート。
P121	2-2-1	入力	入力ポート	X1	P120, P125-P127は、1ビット単位で入力／出力の指定が可能。
P122				X2/EXCLK	
P123				XT1	P120, P125-P127は、入力ポートではソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。
P124				XT2/EXCLKS	
P125	8-5-3	入出力	デジタル 入力無効	V _{L3}	P120はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P126	8-5-2			CAPL	
P127				CAPH	
P137	2-1-2	入力	入力ポート	INTP0	ポート13。 1ビット入力専用ポート。
P140	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TO00/PCLBUZ0/ SEG27	ポート14。 5ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。
P141				TI00/PCLBUZ1/ SEG26	入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。
P142	7-10-1	アナログ 入力ポート		ANI20/SEG33	P142-P144はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P143				ANI21/SEG34	
P144				ANI22/SEG35	

注 各端子を入力として使用する場合、ポート・モード・コントロール・レジスタ×（PMC×）でデジタルかアナログかを設定してください（1ビット単位で設定可能）

備考 上図の（ ）内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により、割り当て可能です。詳細は、図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

2.1.4 52ピン製品

(1/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット解除時	兼用機能	機能	
P10	8-5-7	入出力	デジタル 入力無効	SCK00/ TI07/TO07/SEG28/ (INTP1)	ポート1。 8ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P10, P11, P15, P16の入力はTTL入力バッファに設定可能。 P10, P12, P15, P17の出力はN-chオープン・ドレイン出力 (V _{DD} 耐圧) に設定可能。 P13, P14はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P11	8-5-1			SI00/RxD0/ TOOLRxD/SEG29/ (INTP2)		
P12	7-5-7			SO00/TxD0/ TOOLTxD/SEG30/ (TI02)/(TO02)		
P13	7-10-1			アナログ 入力ポート		ANI18/SEG31
P14						ANI19/SEG32
P15	8-5-7			デジタル 入力無効		SCK01/INTP1/SEG4
P16	8-5-1					SI01/INTP2/SEG5
P17	7-5-7					SO01/TI02/TO02/ SEG6
P20	4-3-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI0/AV _{REFF}	ポート2。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 アナログ入力に設定可能 ^{注2} 。	
P21				ANI1/AV _{REFM}		
P30	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TI01/TO01/KR3/ SEG19	ポート3。 3ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。	
P31				INTP3/RTC1HZ/ KR2/SEG18		
P32				TI03/TO03/INTP4/ SEG17		
P40	7-1-1	入出力	入力ポート アナログ 入力ポート デジタル 入力無効	TOOL0	ポート4。 3ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P41はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P41	7-10-1			ANI16/TI04/TO04/ SEG24		
P42	7-5-1			TI05/TO05/SEG23		

注 1. 各端子を入力として使用する場合、ポート・モード・コントロール・レジスタ× (PMC×) でデジタルかアナログかを設定してください (1ビット単位で設定可能)

- 各端子をデジタル／アナログのいずれにするかは、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) で設定します。

備考 上図の () 内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の設定により、割り当て可能です。詳細は、図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマットを参照してください。

(2/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット解除時	兼用機能	機能
P50	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	INTP5/SEG7/ (PCLBUZ0)	ポート5。 2ビット入出力ポート。
P51				TI06/TO06/SEG8	
P60	12-1-4	入出力	デジタル 入力無効	SCLA0/SEG21	ポート6。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。
P61				SDAA0/SEG20	
P70	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	KR0/SEG16	ポート7。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵ブルアップ抵抗を使用可能。
P71				KR1/SEG15	
P120	7-10-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI17/SEG25	ポート12。 4ビット入出力ポートと4ビット入力ポート。
P121	2-2-1	入力	入力ポート	X1	P120, P125-P127は、1ビット単位で入力／出力の指定が可能。 P120, P125-P127は、入力ポートではソフトウェアの設定により、内蔵ブルアップ抵抗を使用可能。 P120はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P122				X2/EXCLK	
P123				XT1	
P124				XT2/EXCLKS	
P125	8-5-3	入出力	デジタル 入力無効	V _{L3}	
P126	8-5-2			CAPL	
P127				CAPH	
P137	2-1-2	入力	入力ポート	INTP0	ポート13。 1ビット入力専用ポート。
P140	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TO00/PCLBUZ0/ SEG27	ポート14。 6ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵ブルアップ抵抗を使用可能。
P141				TI00/PCLBUZ1/ SEG26	
P142	7-10-1	アナログ 入力ポート		ANI20/SEG33	P142-P145はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P143				ANI21/SEG34	
P144				ANI22/SEG35	
P145				ANI23/SEG36	

注 各端子を入力として使用する場合、ポート・モード・コントロール・レジスタ×（PMC×）でデジタルかアナログかを設定してください（1ビット単位で設定可能）

備考 上図の（ ）内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により、割り当て可能です。
詳細は、図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

2.1.5 64ピン製品

(1/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット解除時	兼用機能	機能	
P10	8-5-7	入出力	デジタル 入力無効	SCK00/SEG28	ポート1。 8ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P10, P11, P15, P16の入力はTTL入力バッファに設定可能。 P10, P12, P15, P17の出力はN-chオープン・ドレイン出力 (EV _{DD} 耐圧) に設定可能。 P13, P14はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P11	8-5-1			SI00/RxD0/ TOOLRxD/SEG29		
P12	7-5-7			SO00/TxD0/ TOOLTxD/SEG30		
P13	7-10-1			ANI18/SEG31		
P14				ANI19/SEG32		
P15	8-5-7			デジタル 入力無効		SCK01/INTP1/ SEG4
P16	8-5-1			SI01/INTP2/SEG5		
P17	7-5-7			SO01/TI02/TO02/ SEG6		
P20	4-3-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI0/AV _{REFP}	ポート2。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 アナログ入力に設定可能 ^{注2} 。	
P21				ANI1/AV _{REFM}		
P30	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TI01/TO01/SEG19	ポート3。 3ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。	
P31				INTP3/RTC1HZ/ SEG18		
P32				TI03/TO03/INTP4/ SEG17		
P40	7-1-1	入出力	アナログ 入力ポート	TOOL0	ポート4。 4ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P41はアナログ入力に設定可能 ^{注1} 。	
P41	7-10-1			ANI16/TI04/TO04/ SEG24		
P42	7-5-1			デジタル 入力無効		TI05/TO05/SEG23
P43				INTP7/SEG22		

- 注 1. 各端子を入力として使用する場合は、ポート・モード・コントロール・レジスタ× (PMC×) でデジタルかアナログかを設定してください (1ビット単位で設定可能)
2. 各端子をデジタル／アナログのいずれにするかは、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) で設定します。

(2/2)

機能名称	端子タイプ	入出力	リセット解除時	兼用機能	機能
P50	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	INTP5/SEG7/ (PCLBUZ0)	ポート5。 5ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。
P51				TI06/TO06/ SEG8	
P52				INTP6/SEG9	
P53				TI07/TO07/SEG10/ (INTP1)	
P54				SEG11/(TI02)/ (TO02)/(INTP2)	
P60	12-1-4	入出力	デジタル 入力無効	SCLA0/SEG21	ポート6。 2ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。
P61				SDAA0/SEG20	
P70	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	KR0/SEG16	ポート7。 5ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。
P71				KR1/SEG15	
P72				KR2/SEG14	
P73				KR3/SEG13	
P74				SEG12	
P120	7-10-1	入出力	アナログ 入力ポート	ANI17/SEG25	ポート12。 4ビット入出力ポートと4ビット入力ポート。
P121	2-2-1	入力	入力ポート	X1	P120, P125-P127は、1ビット単位で入力／出力の指定が可能。 P120, P125-P127は、入力ポートではソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P120はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P122				X2/EXCLK	
P123				XT1	
P124				XT2/EXCLKS	
P125	8-5-3	入出力	デジタル 入力無効	V _{L3}	
P126	8-5-2			CAPL	
P127				CAPH	
P130	1-1-1	出力	出力ポート	—	ポート13。
P137	2-1-2	入力	入力ポート	INTP0	1ビット出力専用ポートと1ビット入力専用ポート。
P140	7-5-1	入出力	デジタル 入力無効	TO00/PCLBUZ0/ SEG27/(INTP6)	ポート14。 8ビット入出力ポート。 1ビット単位で入力／出力の指定可能。 入力ポートでは、ソフトウェアの設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用可能。 P142-P145はアナログ入力に設定可能 ^注 。
P141				TI00/PCLBUZ1/ SEG26/(INTP7)	
P142	7-10-1	アナログ 入力ポート	アナログ 入力ポート	ANI20/SEG33	
P143				ANI21/SEG34	
P144				ANI22/SEG35	
P145				ANI23/SEG36	
P146	7-5-1	デジタル 入力無効	デジタル 入力無効	SEG37	
P147				SEG38	

注 各端子を入力として使用する場合は、ポート・モード・コントロール・レジスタ×（PMC×）でデジタルかアナログかを設定してください（1ビット単位で設定可能）

備考 上図の（ ）内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により、割り当て可能です。

詳細は、図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のフォーマットを参照してください。

2.2 ポート以外の機能

2.2.1 製品別搭載端子（ポート以外の端子）

(1/5)

機能名称	入出力	機能	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin		
ANI0	入力	A/Dコンバータのアナログ入力	○	○	○	○	○		
ANI1			○	○	○	○	○		
ANI16			○	○	○	—	—		
ANI17			○	○	○	○	—		
ANI18			○	○	○	○	○		
ANI19			○	○	○	○	○		
ANI20			○	○	○	○	—		
ANI21			○	○	○	○	—		
ANI22			○	○	○	—	—		
ANI23			○	○	—	—	—		
CAPH			—	LCDコントローラ／ドライバ用コンデンサ接続	○	○	○	○	○
CAPL					○	○	○	○	○
COM0	出力	LCDコントローラ／ドライバの共通 信号出力	○	○	○	○	○		
COM1			○	○	○	○	○		
COM2			○	○	○	○	○		
COM3			○	○	○	○	○		
COM4			○	○	○	○	—		
COM5			○	○	○	○	—		
COM6			○	○	○	○	—		
COM7			○	○	○	○	—		
V _{L1}	—	LCD駆動用電圧	○	○	○	○	○		
V _{L2}			○	○	○	○	○		
V _{L3}			○	○	○	○	—		
V _{L4}			○	○	○	○	○		
SEG0	出力	LCDコントローラ／ドライバのセグメント信号出力	○	○	○	○	○		
SEG1			○	○	○	○	—		
SEG2			○	○	○	○	—		
SEG3			○	○	○	○	—		
SEG4			○	○	○	○	○		
SEG5			○	○	○	○	○		
SEG6			○	○	○	○	○		
SEG7			○	○	○	—	—		
SEG8			○	○	—	—	—		
SEG9			○	—	—	—	—		

備考 ○：サポートする

—：サポートしない

(2/5)

機能名称	入出力	機能	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin
SEG10	出力	LCDコントローラ/ドライバのセグメント信号出力	○	—	—	—	—
SEG11			○	—	—	—	—
SEG12			○	—	—	—	—
SEG13			○	—	—	—	—
SEG14			○	—	—	—	—
SEG15			○	○	—	—	—
SEG16			○	○	○	—	—
SEG17			○	○	○	○	—
SEG18			○	○	○	○	—
SEG19			○	○	○	○	○
SEG20			○	○	○	○	○
SEG21			○	○	○	○	○
SEG22			○	—	—	—	—
SEG23			○	○	—	—	—
SEG24			○	○	○	—	—
SEG25			○	○	○	○	—
SEG26			○	○	○	○	—
SEG27			○	○	○	○	○
SEG28			○	○	○	○	○
SEG29			○	○	○	○	○
SEG30			○	○	○	○	○
SEG31			○	○	○	○	○
SEG32			○	○	○	○	○
SEG33			○	○	○	○	—
SEG34			○	○	○	○	—
SEG35			○	○	○	—	—
SEG36			○	○	—	—	—
SEG37			○	—	—	—	—
SEG38			○	—	—	—	—

備考 ○ : サポートする

— : サポートしない

(3/5)

機能名称	入出力	機能	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin
INTP0	入力	外部割り込み入力	○	○	○	○	○
INTP1			○	○	○	○	○
INTP2			○	○	○	○	○
INTP3			○	○	○	○	—
INTP4			○	○	○	○	—
INTP5			○	○	○	—	—
INTP6			○	—	—	—	—
INTP7			○	—	—	—	—
KR0	入力	キー割り込み入力	○	○	○	○	○
KR1			○	○	○	○	○
KR2			○	○	○	○	○
KR3			○	○	○	○	○
PCLBUZ0	出力	クロック出力／ブザー出力	○	○	○	○	○
PCLBUZ1			○	○	○	○	—
REGC	—	内部動作レギュレータ出力安定容量接続。 コンデンサ (0.47~1 μ F) を介し、V _{SS} に接続してください。	○	○	○	○	○
RTC1HZ	出力	リアルタイム・クロック補正クロック (1 Hz) 出力	○	○	○	○	—
RESET	入力	外部リセット入力	○	○	○	○	○
RxD0	入力	UART0のシリアル・データ入力	○	○	○	○	○
SCK00	入出力	CSI00, CSI01のクロック入力／出力	○	○	○	○	○
SCK01			○	○	○	○	○
SCLA0	入出力	I ² Cのクロック入力／出力	○	○	○	○	○
SDAA0	入出力	I ² Cのシリアル・データ入出力	○	○	○	○	○
SI00	入力	CSI00, CSI01のシリアル・データ入力	○	○	○	○	○
SI01			○	○	○	○	○
SO00	出力	CSI00, CSI01のシリアル・データ出力	○	○	○	○	○
SO01			○	○	○	○	○

備考 ○ : サポートする
 — : サポートしない

(4/5)

機能名称	入出力	機能	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin
TI00	入力	16ビット・タイマ00への 外部カウント・クロック入力	○	○	○	○	○
TI01		16ビット・タイマ01への 外部カウント・クロック入力	○	○	○	○	○
TI02		16ビット・タイマ02への 外部カウント・クロック入力	○	○	○	○	○
TI03		16ビット・タイマ03への 外部カウント・クロック入力	○	○	○	○	—
TI04		16ビット・タイマ04への 外部カウント・クロック入力	○	○	○	—	—
TI05		16ビット・タイマ05への 外部カウント・クロック入力	○	○	—	—	—
TI06		16ビット・タイマ06への 外部カウント・クロック入力	○	○	—	—	—
TI07		16ビット・タイマ07への 外部カウント・クロック入力	○	○	○	○	○
TO00	出力	16ビット・タイマ00出力	○	○	○	○	○
TO01		16ビット・タイマ01出力	○	○	○	○	○
TO02		16ビット・タイマ02出力	○	○	○	○	○
TO03		16ビット・タイマ03出力	○	○	○	○	—
TO04		16ビット・タイマ04出力	○	○	○	—	—
TO05		16ビット・タイマ05出力	○	○	—	—	—
TO06		16ビット・タイマ06出力	○	○	—	—	—
TO07		16ビット・タイマ07出力	○	○	○	○	○
TxD0	出力	UART0のシリアル・データ出力	○	○	○	○	○
X1	—	メイン・システム・クロック用発振子 接続	○	○	○	○	○
X2	—		○	○	○	○	○
EXCLK	入力	メイン・システム・クロック用外部 クロック入力	○	○	○	○	○
EXCLKS	入力	サブクロック用外部クロック入力	○	○	○	○	—
XT1	—	サブシステム・クロック用発振子接続	○	○	○	○	—
XT2	—		○	○	○	○	—

備考 ○ : サポートする

— : サポートしない

(5/5)

機能名称	入出力	機 能	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin
V _{DD}	－	<32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品の場合> すべての端子の正電源 <64ピン製品の場合> P20, P21, P121-P124, P137, およびRESET端子の 正電源	○	○	○	○	○
EV _{DD}	－	<64ピン製品の場合> ポート部 (P20, P21, P121-P124, P137以外), ポ ート部以外 (RESET端子を除く) の正電源	○	－	－	－	－
AV _{REFP}	入力	A/Dコンバータの基準電位 (+側) 入力	○	○	○	○	○
AV _{REFM}	入力	A/Dコンバータの基準電位 (-側) 入力	○	○	○	○	○
V _{SS}	－	<32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品の場合> すべての端子のグランド電位 <64ピン製品の場合> P20, P21, P121-P124, P137, およびRESET端子の グランド電位	○	○	○	○	○
EV _{SS}	－	<64ピン製品の場合> ポート部 (P20, P21, P121-P124, P137以外), ポ ート部以外 (RESET端子を除く) のグランド電位	○	－	－	－	－
TOOLRxD	入力	フラッシュ・メモリ・プログラミング時外部デバ イス接続用UART受信端子	○	○	○	○	○
TOOLTxD	出力	フラッシュ・メモリ・プログラミング時外部デバ イス接続用UART送信端子	○	○	○	○	○
TOOL0	入出力	フラッシュ・メモリ・プログラマ/デバッグ用デ ータ入出力	○	○	○	○	○

備考 ○ : サポートする

－ : サポートしない

2.2.2 機能説明

(1/2)

機能名称	入出力	機能
COM0-7	出力	LCDコントローラ／ドライバの共通信号出力
SEG0-38	出力	LCDコントローラ／ドライバのセグメント信号出力
VL1, VL2, VL3, VL4	－	LCD駆動用電圧
CAPH, CAPL	-	LCDコントローラ／ドライバ用コンデンサ接続
ANI0, ANI1, ANI16-ANI23	入力	A/Dコンバータのアナログ入力（図11-38 アナログ入力端子の処理参照）
INTP0-INTP17	入力	外部割り込み要求入力 有効エッジ指定：立ち上がり、立ち下がり、立ち上がりおよび立ち下がりの両エッジ
KR0-KR3	入力	キー割り込み入力
PCLBUZ0, PCLBUZ1	出力	クロック出力／ブザー出力
REGC	－	内部動作レギュレータ出力安定容量接続。 コンデンサ（0.47～1 μ F）を介し、V _{SS} に接続してください。 また、内部電圧の安定のために使用するため、特性のよいコンデンサを使用してください。
RTC1HZ	出力	リアルタイム・クロック補正クロック（1 Hz）出力
RESET	入力	ロウ・レベル・アクティブのシステム・リセット入力。 外部リセットを使用しない場合は、直接または抵抗を介してV _{DD} に接続してください。
RxD0	入力	シリアル・インタフェースUART0のシリアル・データ入力
TxD0	出力	シリアル・インタフェースUART0のシリアル・データ出力
SCK00, SCK01	入出力	シリアル・インタフェースCSI00, CSI01のシリアル・クロック入出力
SI00, SI01	入力	シリアル・インタフェースCSI00, CSI01のシリアル・データ入力
SO00, SO01	出力	シリアル・インタフェースCSI00, CSI01のシリアル・データ出力
SCLA0	入出力	シリアル・インタフェースIICA0のクロック入出力
SDAA0	入出力	シリアル・インタフェースIICA0のシリアル・データ入出力
TI00-TI07	入力	16ビット・タイマ00-07への外部カウント・クロック／キャプチャ・トリガ入力
TO00-TO07	出力	16ビット・タイマ00-07のタイマ出力
X1, X2	－	メイン・システム・クロック用発振子接続
EXCLK	入力	メイン・システム・クロック用外部クロック入力
XT1, XT2	－	サブシステム・クロック用発振子接続
EXCLKS	入力	サブシステム・クロック用外部クロック入力

(2/2)

機能名称	入出力	機能
V _{DD}	－	<32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品の場合> すべての端子の正電源 <64ピン製品の場合> P20, P21, P121-P124, P137, およびポート以外の端子の正電源
EV _{DD}	－	<64ピン製品の場合> ポート端子 (P20, P21, P121-P124, P137以外) の正電源
AV _{REFP}	入力	A/Dコンバータの基準電圧 (+側) 入力
AV _{REFM}	入力	A/Dコンバータの基準電圧 (-側) 入力
V _{SS}	－	<32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品の場合> すべての端子のグランド電位 <64ピン製品の場合> P20, P21, P121-P124, P137, およびポート以外の端子のグランド電位
EV _{SS}	－	<64ピン製品の場合> ポート端子 (P20, P21, P121-P124, P137以外) のグランド電位
TOOLRxD	入力	フラッシュ・メモリ・プログラミング時外部デバイス接続用UARTシリアル・データ受信
TOOLTxD	出力	フラッシュ・メモリ・プログラミング時外部デバイス接続用UARTシリアル・データ送信
TOOL0	入出力	フラッシュ・メモリ・プログラマ/デバッグ用データ入出力

注意 リセット解除時のP40/TOOL0と動作モードとの関係は、次のようになります。

表2-2 リセット解除時のP40/TOOL0と動作モードとの関係

P40/TOOL0	動作モード
EV _{DD}	通常動作モード
0 V	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード

詳細は、26.4 シリアル・プログラミング方法を参照してください。

備考 ノイズ対策およびラッチアップ対策として、V_{DD} - V_{SS}, EV_{DD} - EV_{SS}ライン間へのバイパスコンデンサ(0.1 μF程度)を最短距離でかつ、比較的太い配線を使って接続してください。

2.3 未使用端子の処理

各端子の入出力タイプと、未使用端子の処理を表2-3に示します。

備考 製品により、搭載している端子が異なります。1.3 端子接続図 (Top View) , 2.1 ポート機能を参照してください。

表2-3 各端子の未使用端子処理 (64ピン製品) (1/3)

端子名称	入出力	未使用時の推奨接続方法	
P10/SCK00/SEG28	入出力	<ポート設定時> 入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。 <セグメント設定時> オープンにしてください。	
P11/SI00/RxD0/TOOLRxD/ SEG29			
P12/SO00/TxD0/TOOLTxD/ SEG30			
P13/ANI18/SEG31			
P14/ANI19/SEG32			
P15/SCK01/INTP1/SEG4			
P16/SI01/INTP2/SEG5			
P17/SO01/TI02/TO02/SEG6			
P20/ANI0/AV _{REFP}			入力時：個別に抵抗を介して、V _{DD} またはV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P21/ANI1/AV _{REFM}			
P30/TI01/TO01/SEG19			<ポート設定時> 入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。 <セグメント設定時> オープンにしてください。
P31/INTP3/RTC1HZ/SEG18			
P32/TI03/TO03/INTP4/SEG17			
P40/TOOL0			入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} に接続またはオープンにしてください。 出力時：オープンにしてください。
P41/ANI16/TI04/TO04/SEG24			
P42/TI05/TO05/SEG23	<ポート設定時> 入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。 <セグメント設定時> オープンにしてください。		
P43/INTP7/SEG22			

備考 EV_{DD}、EV_{SS}端子がない製品は、EV_{DD}をV_{DD}に、EV_{SS}をV_{SS}に置き換えてください。

表2-3 各端子の未使用端子処理（64ピン製品）（2/3）

端子名称	入出力	未使用時の推奨接続方法
P50/INTP5/SEG7/(PCLBUZ0)	入出力	<ポート設定時> 入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P51/TI06/TO06/SEG8		
P52/INTP6/SEG9		
P53/TI07/TO07/SEG10/ (INTP1)		<セグメント設定時> オープンにしてください。
P54/SEG11/(TI02)/(TO02)/ (INTP2)		
P60/SCLA0/SEG21		入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：ポートの出カラッチに0を設定してオープン、またはポートの出カラッチに1を設定し、個別に抵抗を介してEV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。
P61/SDAA0/SEG20		
P70/KR0/SEG16		<ポート設定時> 入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P71/KR1/SEG15		
P72/KR2/SEG14		
P73/KR3/SEG13		
P74/SEG12		
P120/ANI17/SEG25		
P121/X1		
P122/X2/EXCLK		
P123/XT1		
P124/XT2/EXCLKS		
P125/V _{L3}	入出力	入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P126/CAPL		
P127/CAPH		
P130	出力	オープンにしてください。
P137/INTP0	入力	個別に抵抗を介して、V _{DD} またはV _{SS} に接続してください。
P140/TO00/PCLBUZ0/ SEG27/(INTP6)	入出力	<ポート設定時> 入力時：個別に抵抗を介して、EV _{DD} またはEV _{SS} に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P141/TI00/PCLBUZ1/ SEG26/(INTP7)		
P142/ANI20/SEG33		<セグメント設定時> オープンにしてください。
P143/ANI21/SEG34		
P144/ANI22/SEG35		
P145/ANI23/SEG36		
P146/SEG37		
P147/SEG38		
RESET	入力	V _{DD} に直接接続または抵抗を介して接続してください。
REGC	—	コンデンサ（0.47~1 μF）を介し、V _{SS} に接続してください。

備考1. EV_{DD}, EV_{SS}端子がない製品は、EV_{DD}をV_{DD}に、EV_{SS}をV_{SS}に置き換えてください。

2. 上図の（ ）内の機能は、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により、割り当て可能です。

表2-3 各端子の未使用端子処理（64ピン製品）（3/3）

端子名称	入出力	未使用時の推奨接続方法
COM0-COM3	出力	オープンにしてください。
COM4/SEG0		
COM5/SEG1		
COM6/SEG2		
COM7/SEG3		
V _{L1} , V _{L2} , V _{L4}	—	

2.4 端子ブロック図

2.1.1 32ピン製品～2.1.5 64ピン製品に記載した端子タイプについて、端子ブロック図を図2-1～図2-14に示します。

図2-1 端子タイプ 1-1-1 の端子ブロック図

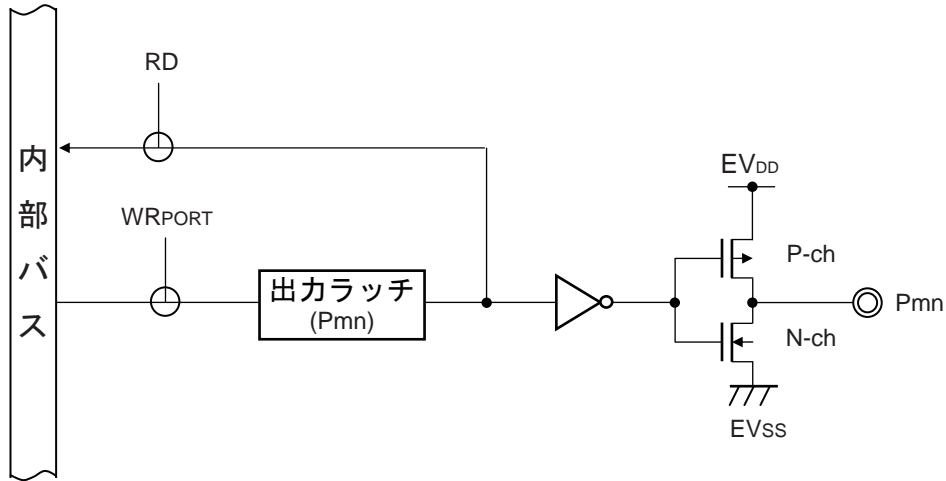


図2-2 端子タイプ 2-1-1 の端子ブロック図

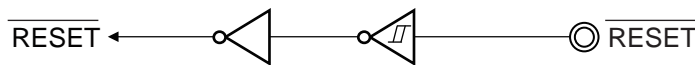
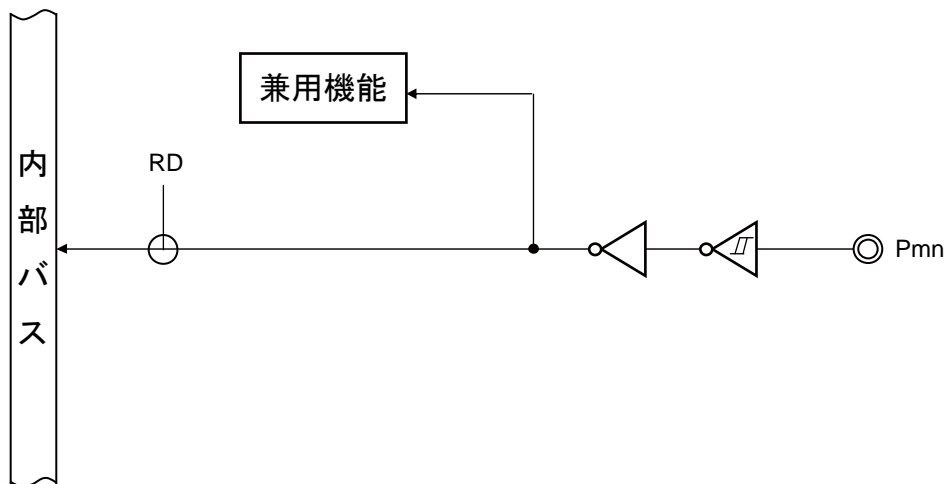
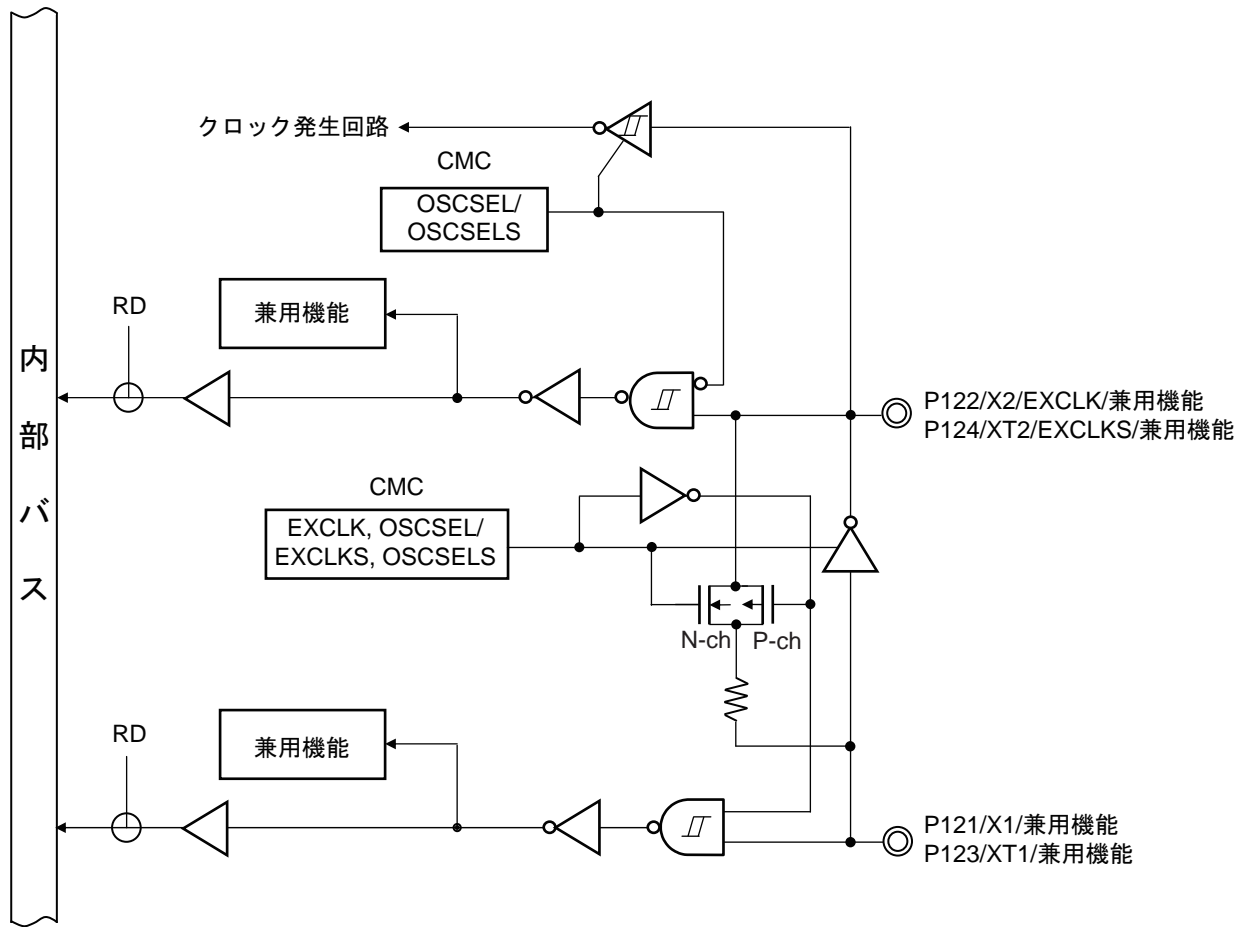


図2-3 端子タイプ 2-1-2 の端子ブロック図



備考 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

図2-4 端子タイプ 2-2-1 の端子ブロック図



備考 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

図2-5 端子タイプ 4-3-1 の端子ブロック図

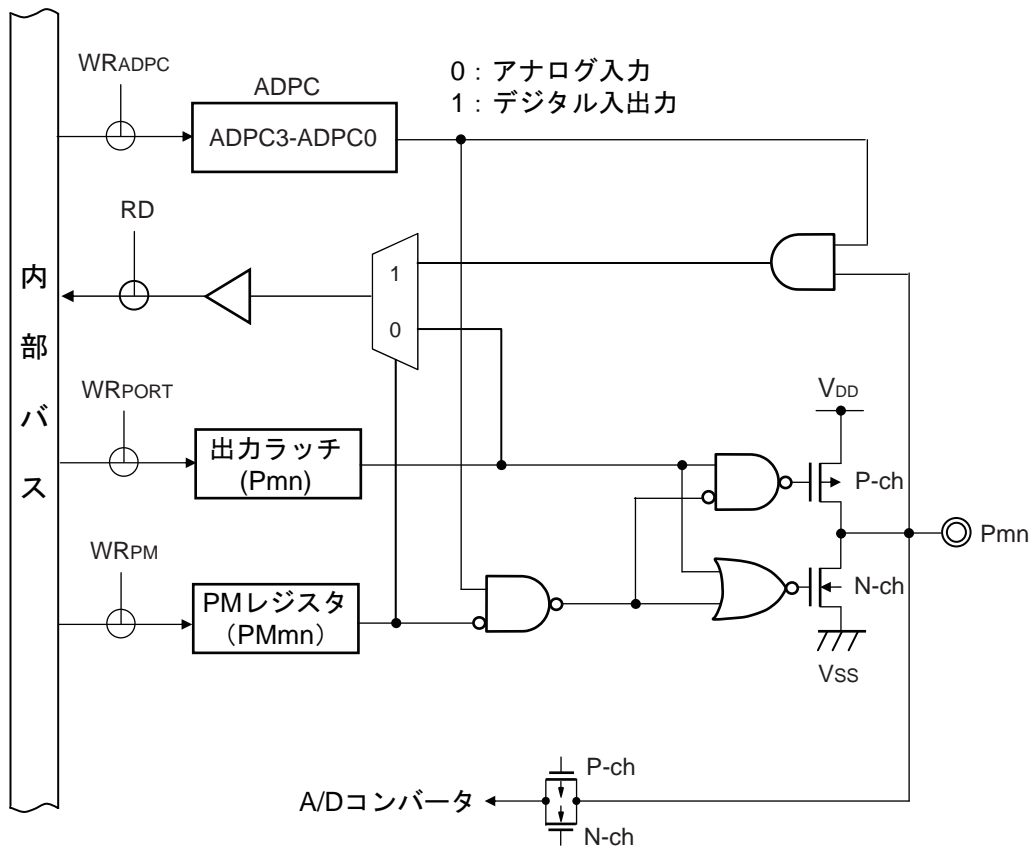
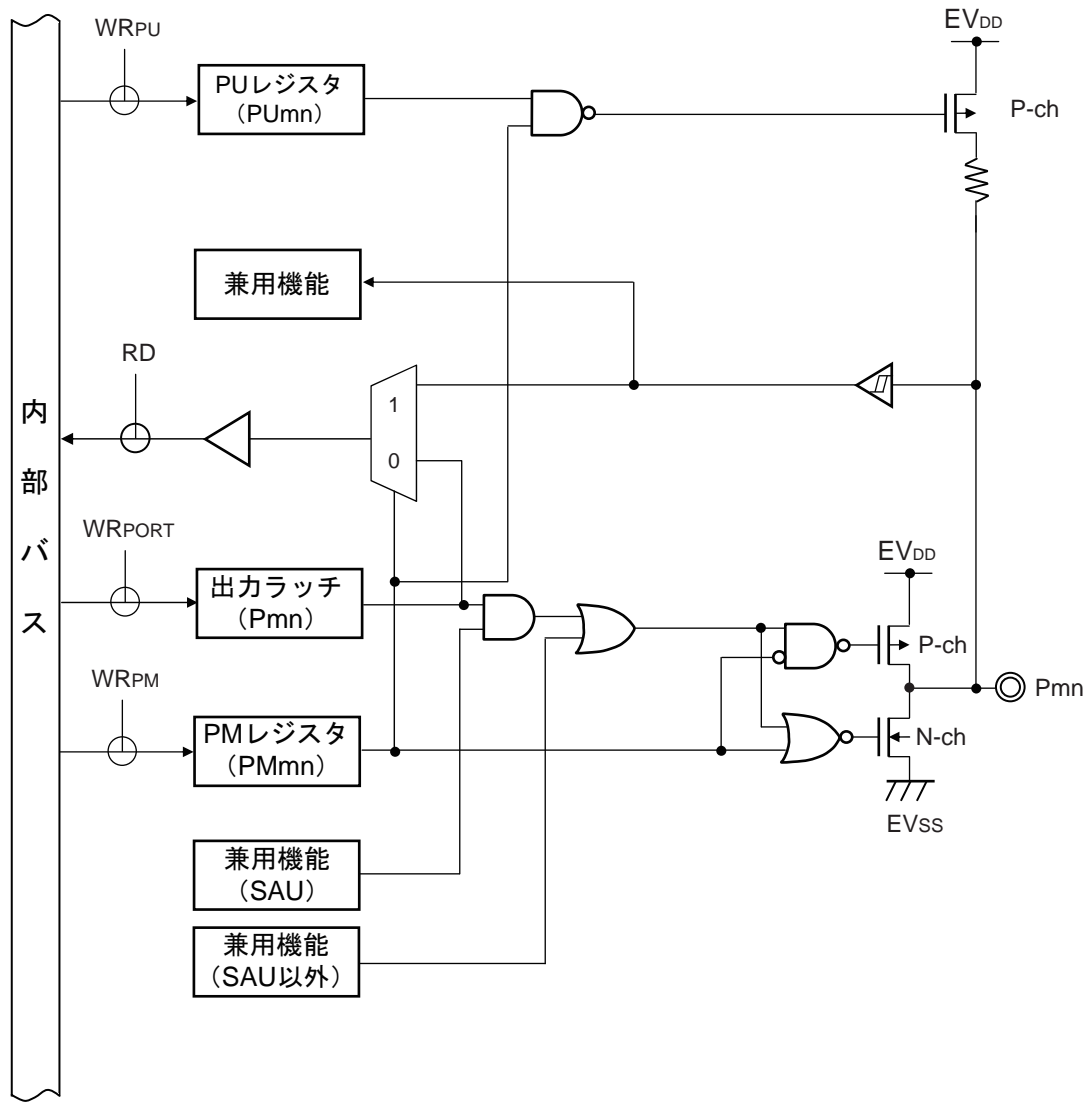


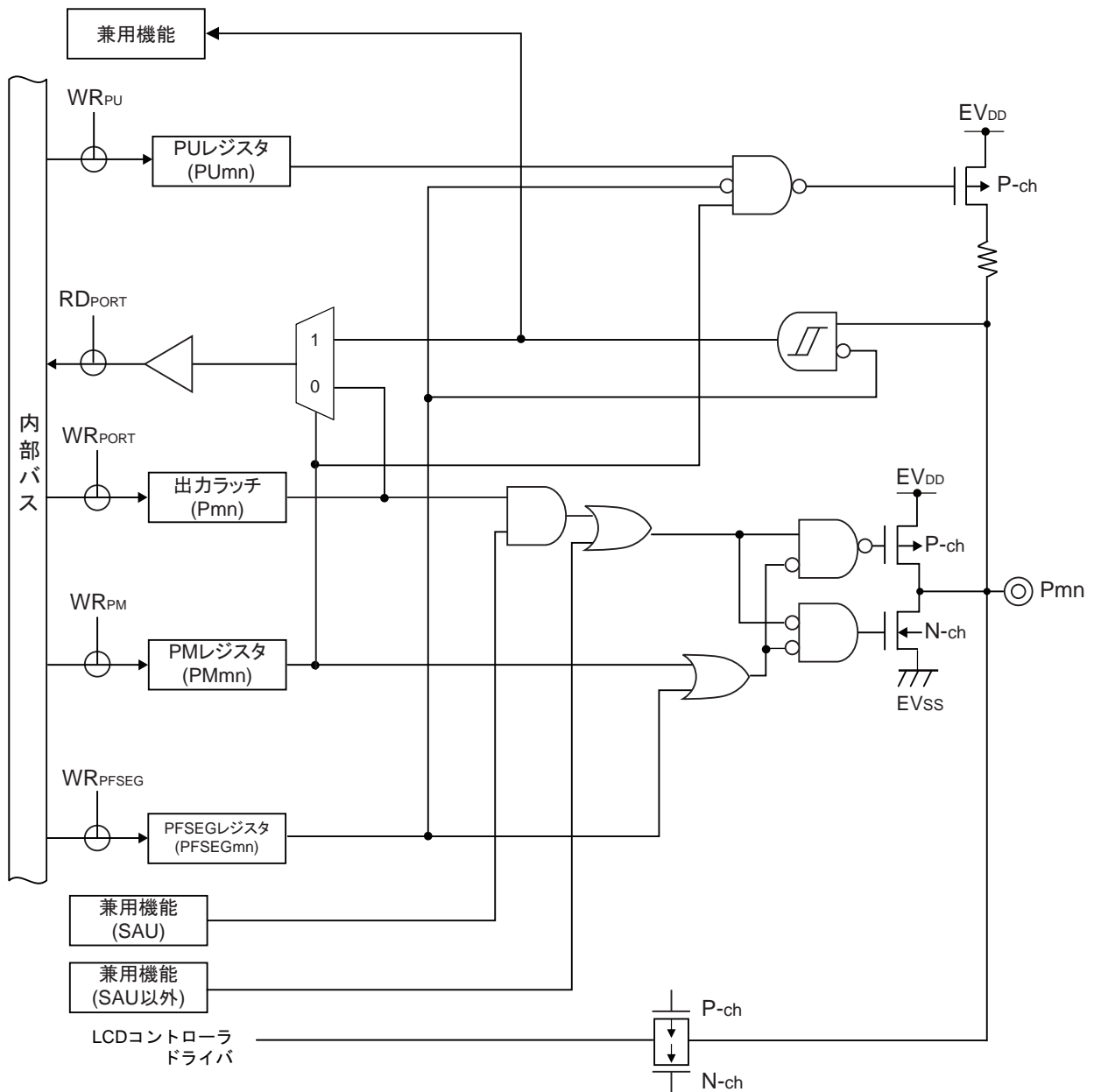
図2-6 端子タイプ 7-1-1 の端子ブロック図



備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

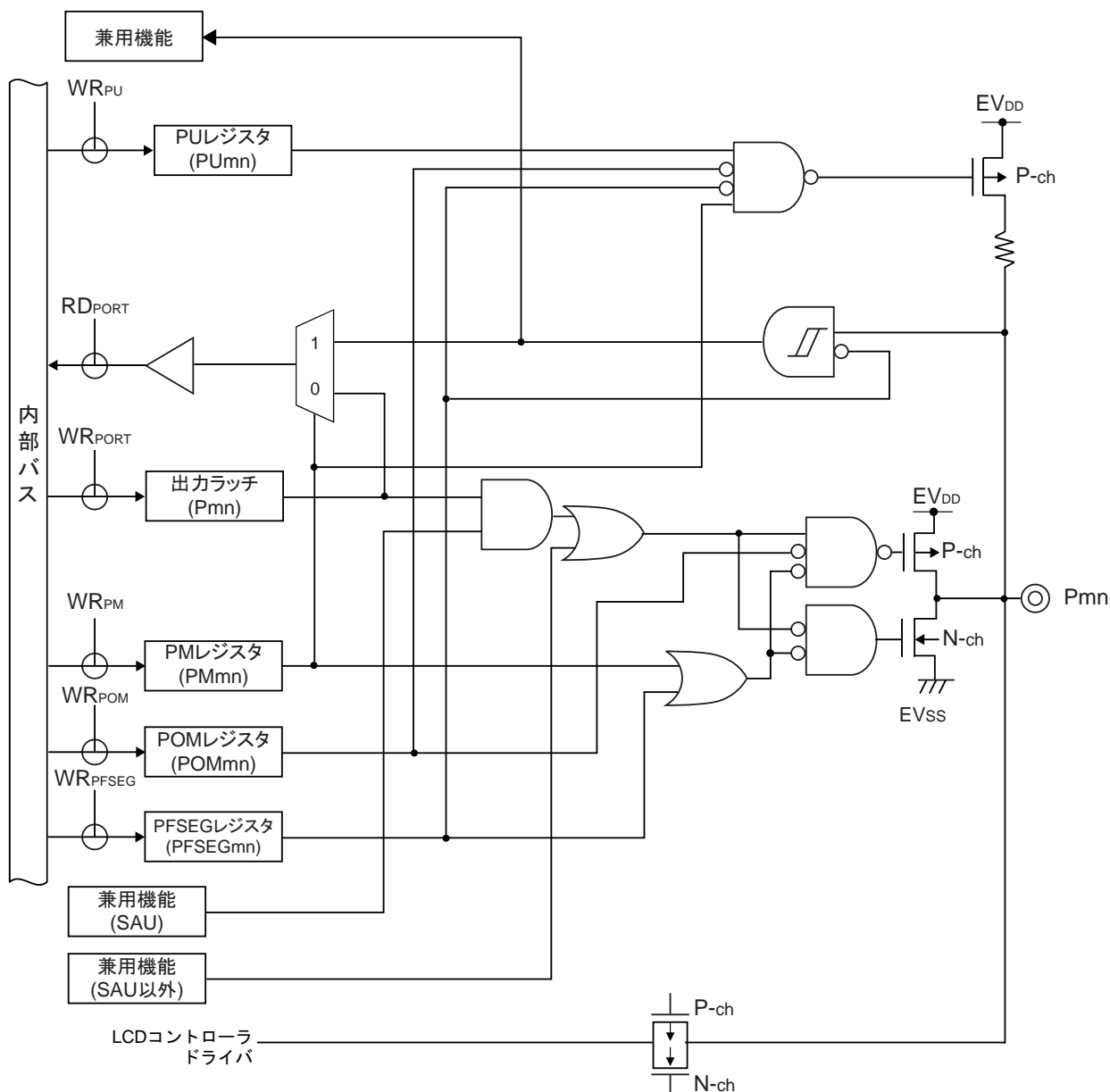
図2-7 端子タイプ 7-5-1 の端子ブロック図



備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

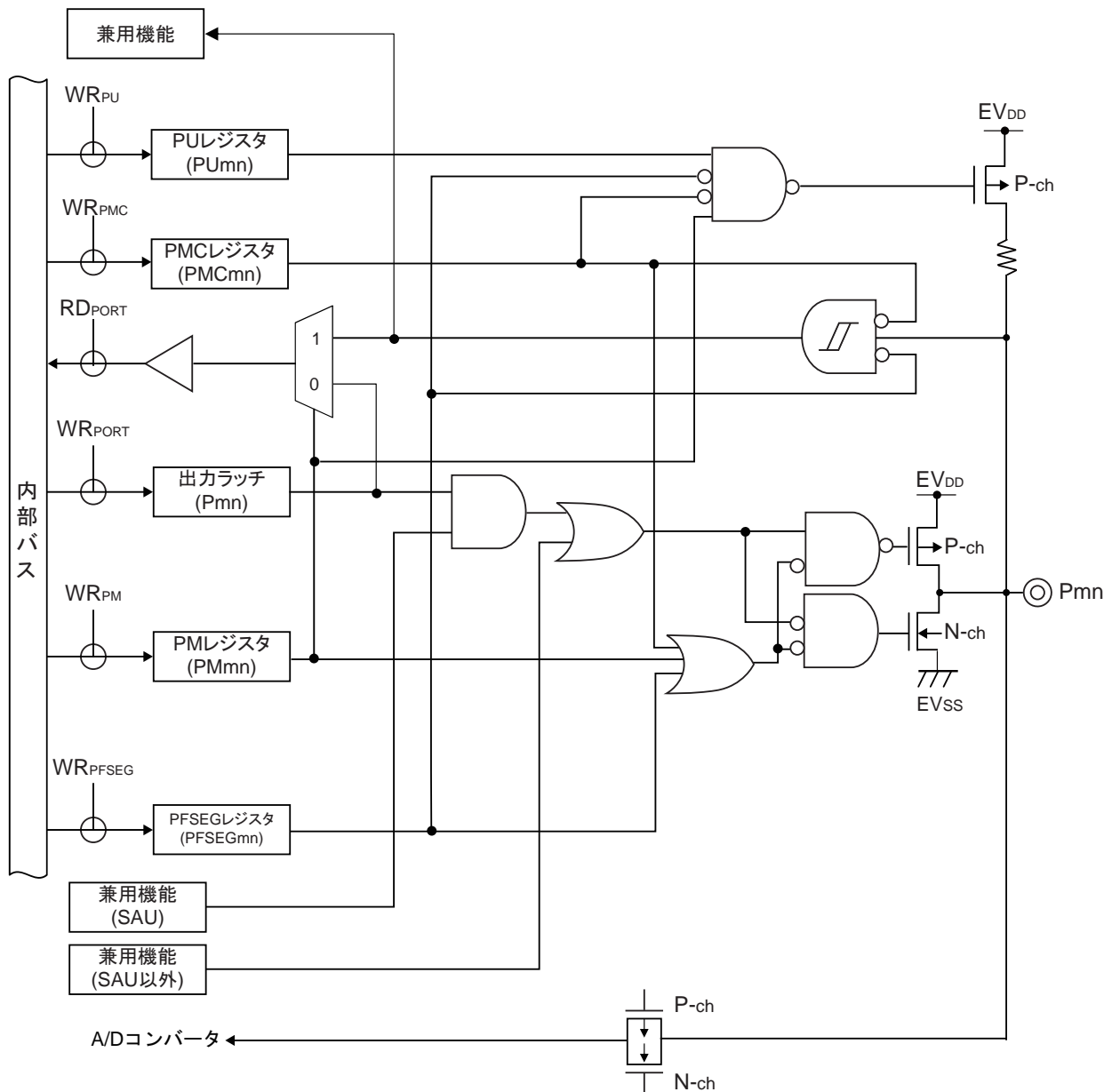
図2-8 端子タイプ 7-5-7 の端子ブロック図



注意 ポート出力モード・レジスタ(POMx)でN-chオープン・ドレイン出力モード設定時は、出力モード時においても、入力バッファがオンになっているため、中間電位となった場合、貫通電流が流れることがあります。また、N-chオープン・ドレイン出力モード設定時は、出力レベルを切り替えるとグリッチ(EV_{DD}レベル)が発生することがあります。

- 備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。
 2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

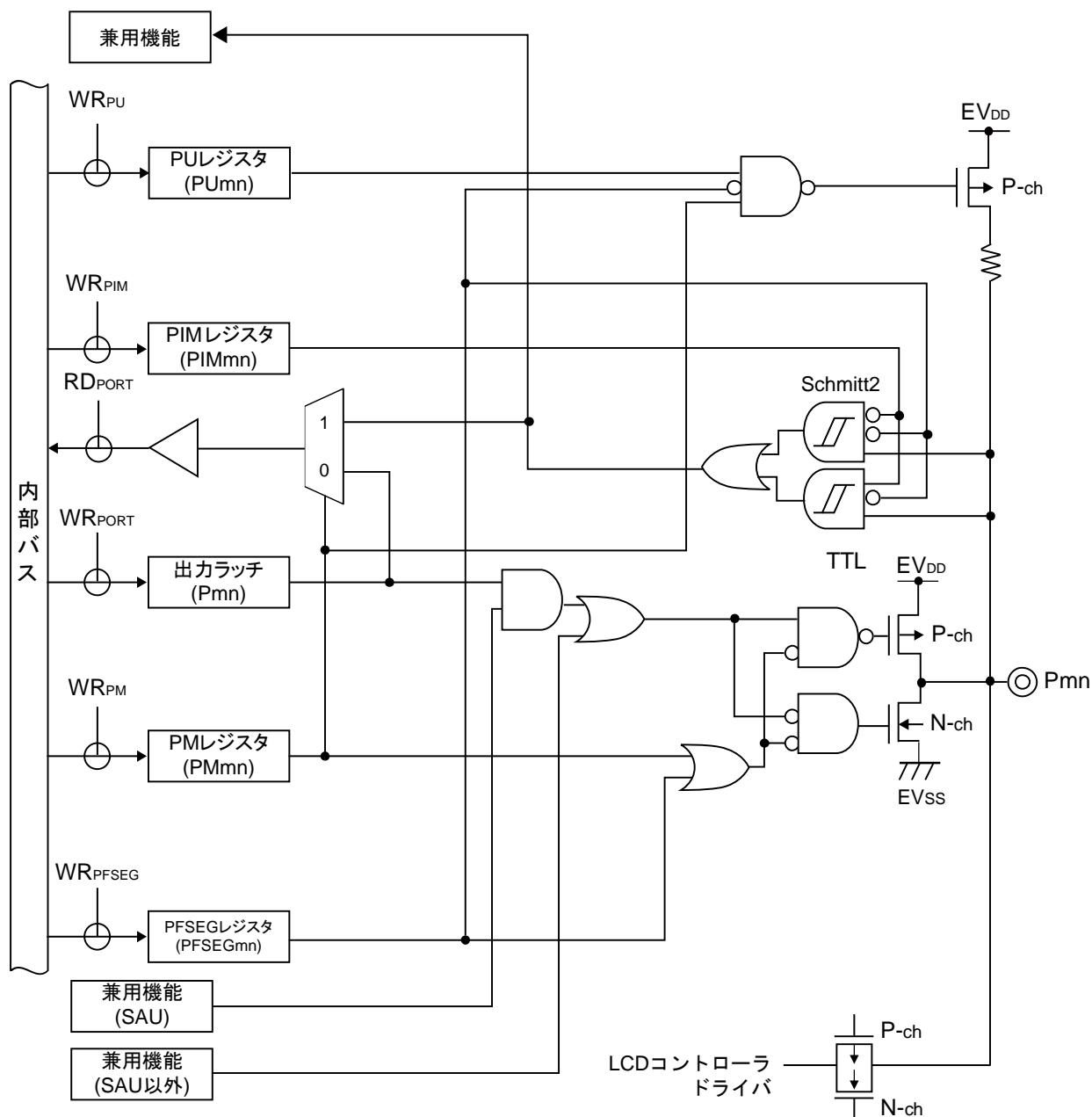
図2-9 端子タイプ 7-10-1 の端子ブロック図



備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

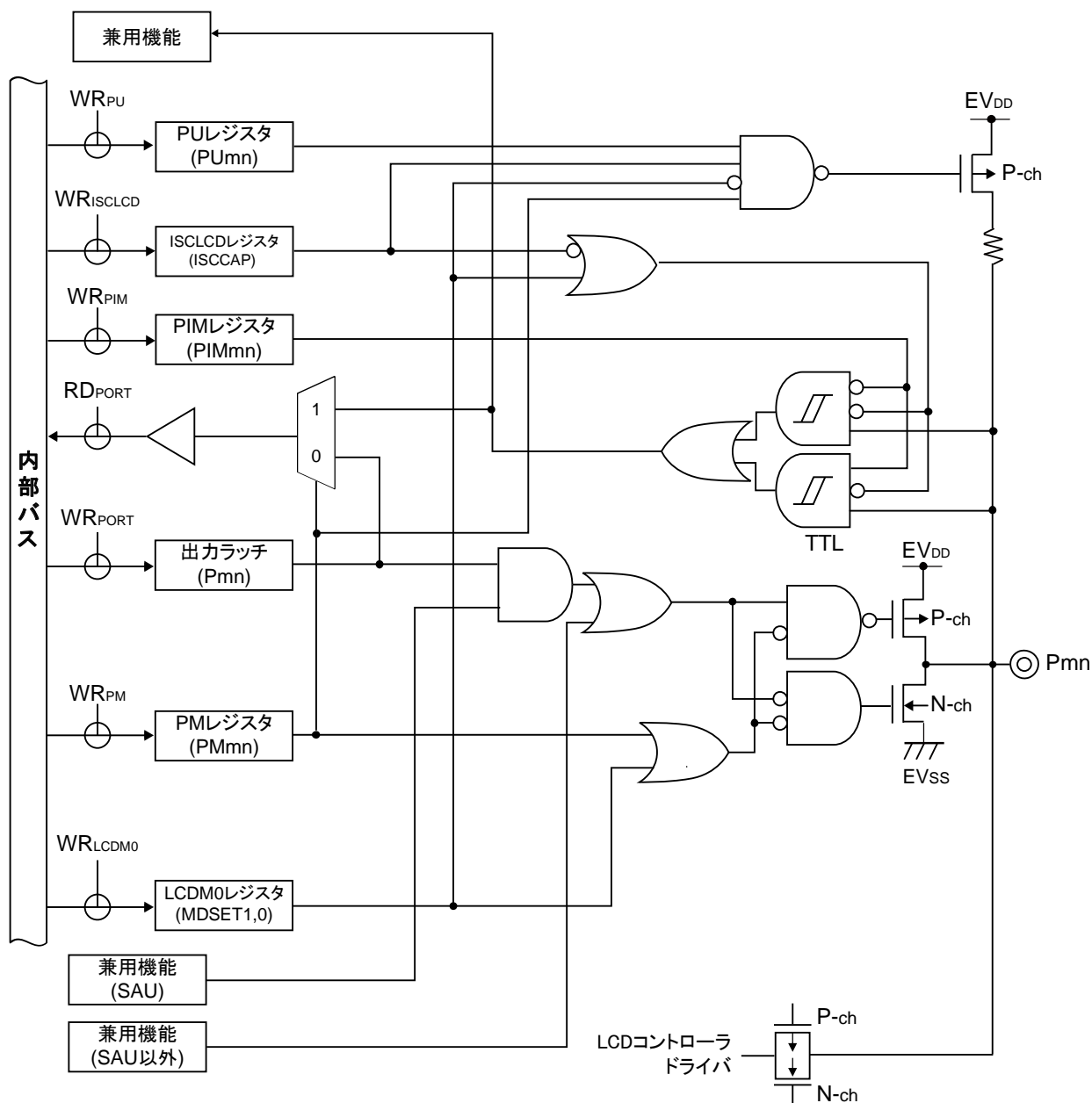
図2-10 端子タイプ 8-5-1 の端子ブロック図



注意 ポート入力モード・レジスタ(PIMx)でTTL入力バッファに設定し、ハイ・レベルを入力している場合、TTL入力バッファの構造により貫通電流が流れることがあります。貫通電流を防ぐためには、ロウ・レベルを入力してください。

- 備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。
 2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

図2-11 端子タイプ 8-5-2 の端子ブロック図

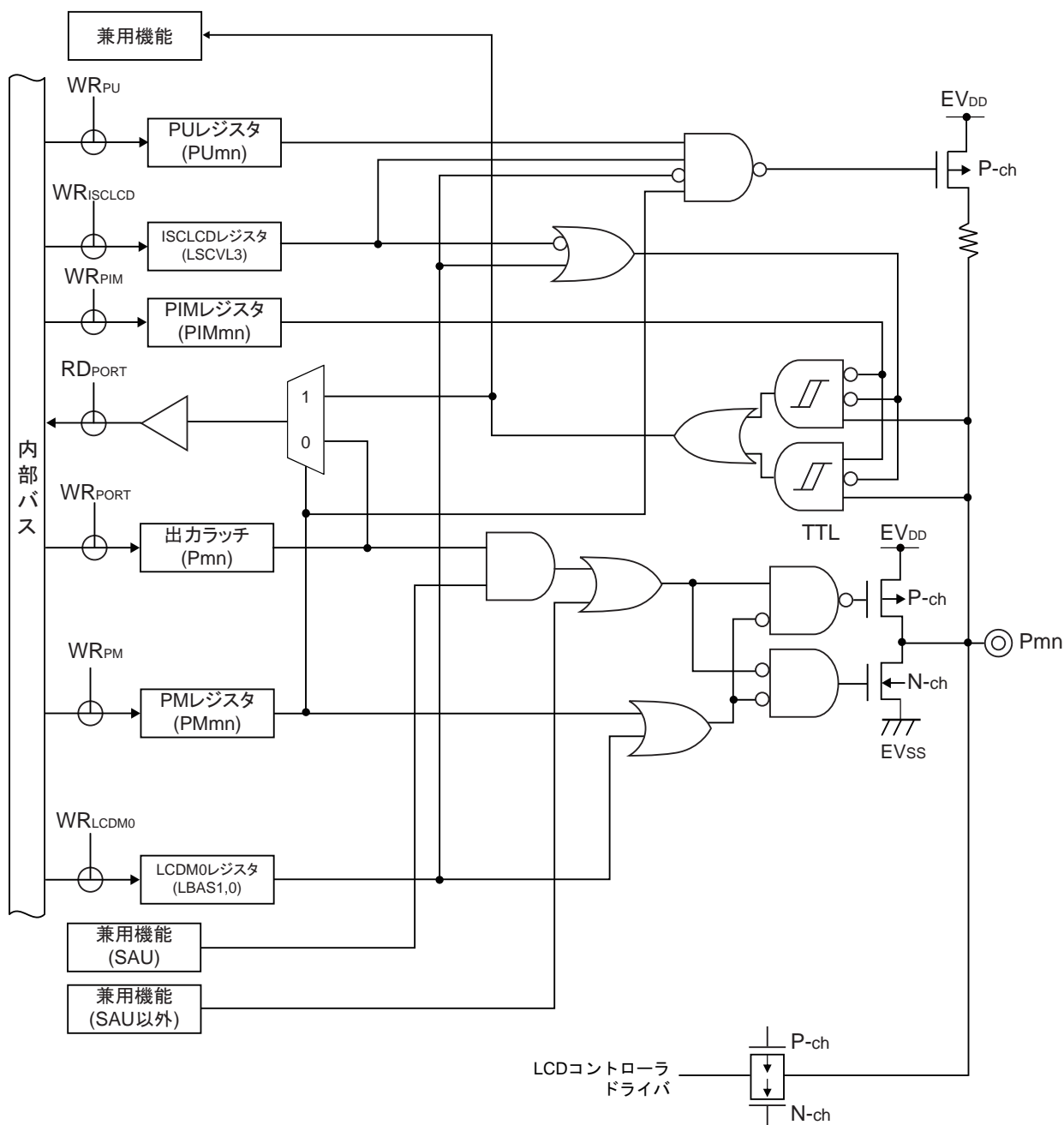


注意 ポート入力モード・レジスタ(PIMx)でTTL入力バッファに設定し、ハイ・レベルを入力している場合、TTL入力バッファの構造により貫通電流が流れることがあります。貫通電流を防ぐためには、ロウ・レベルを入力してください。

備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

図2-12 端子タイプ 8-5-3 の端子ブロック図

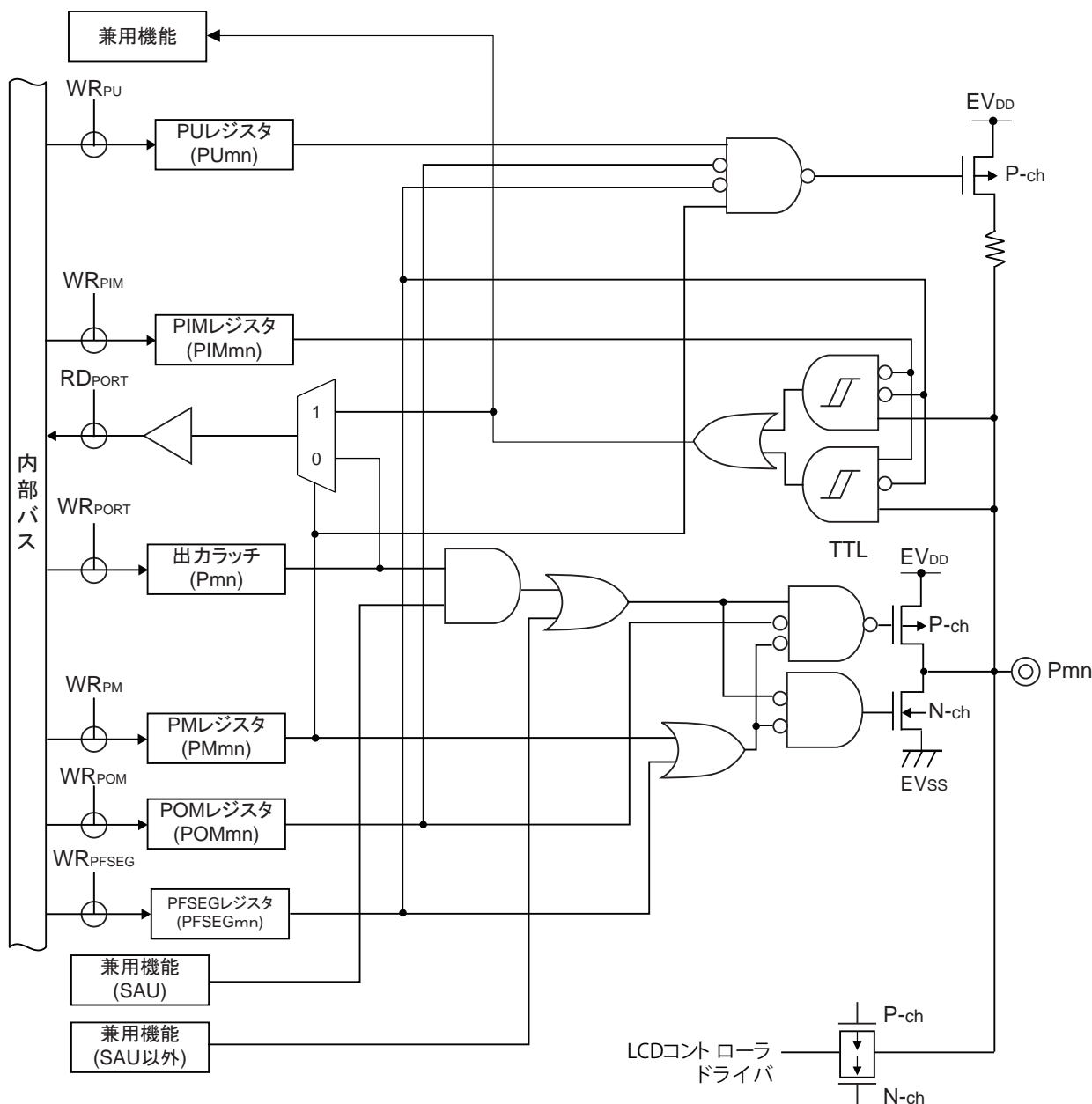


注意 ポート入力モード・レジスタ(PIMx)でTTL入力バッファに設定し、ハイ・レベルを入力している場合、TTL入力バッファの構造により貫通電流が流れることがあります。貫通電流を防ぐためには、ロウ・レベルを入力してください。

備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

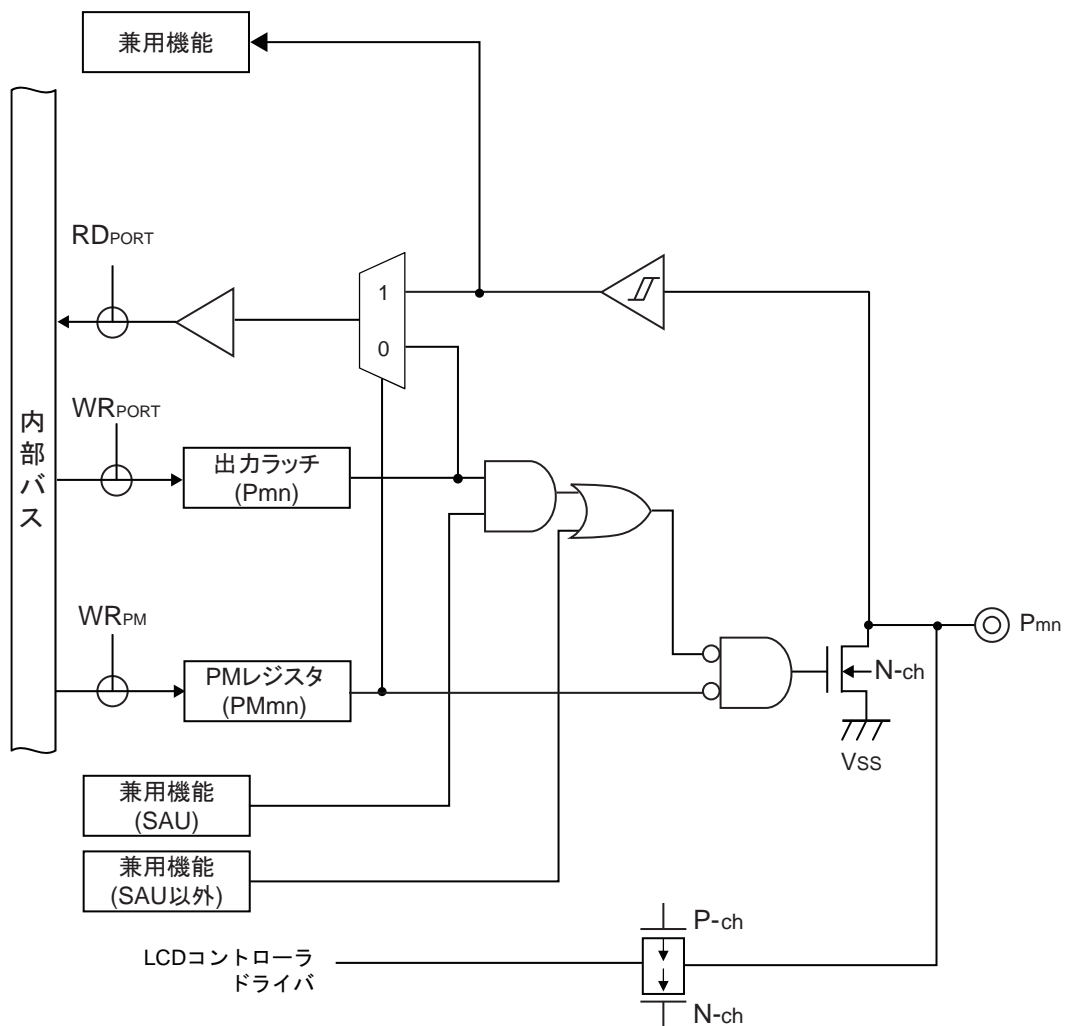
図2-13 端子タイプ 8-5-7 の端子ブロック図



- 注意1. ポート出力モード・レジスタ(POMx)でN-chオープン・ドレイン出力モード設定時は、出力モード時においても、入力バッファがオンになっているため、中間電位となった場合、貫通電流が流れることがあります。また、N-chオープン・ドレイン出力モード設定時は、出力レベルを切り替えるとグリッチ(EV_{DD}レベル)が発生することがあります。
2. ポート入力モード・レジスタ(PIMx)でTTL入力バッファに設定し、ハイ・レベルを入力している場合、TTL入力バッファの構造により貫通電流が流れることがあります。貫通電流を防ぐためには、ロウ・レベルを入力してください。

- 備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。
2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

図2-14 端子タイプ 12-1-4 の端子ブロック図



注意 出力モード時においても、入力バッファがオンになっているため、中間電位となった場合、貫通電流が流れることがあります。

備考 1. 兼用機能は、2.1 ポート機能を参照してください。

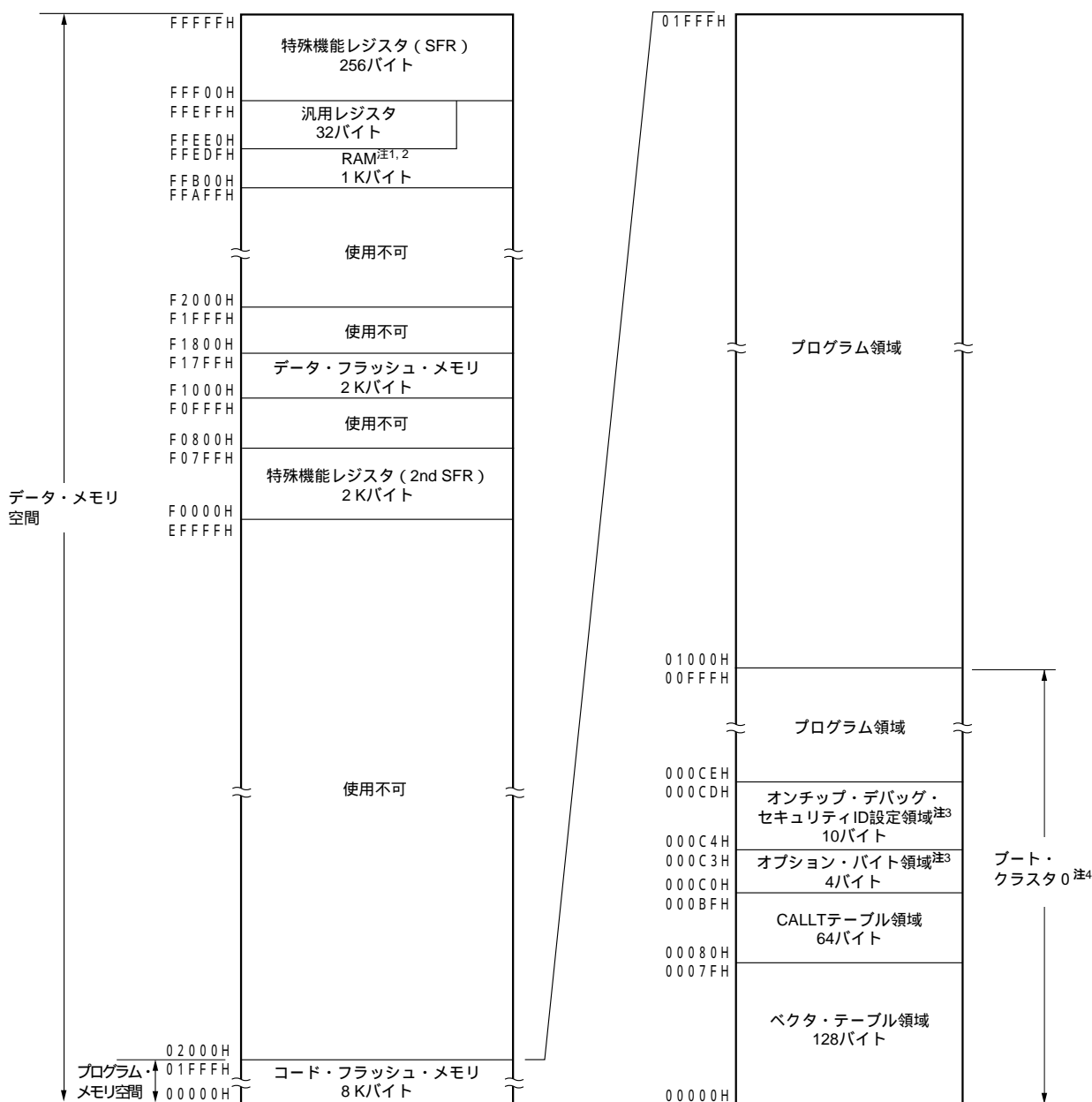
2. SAU: シリアル・アレイ・ユニット

第3章 CPUアーキテクチャ

3.1 メモリ空間

RL78/L12は、1 Mバイトのアドレス空間をアクセスできます。図3-1～図3-3に、メモリ・マップを示します。

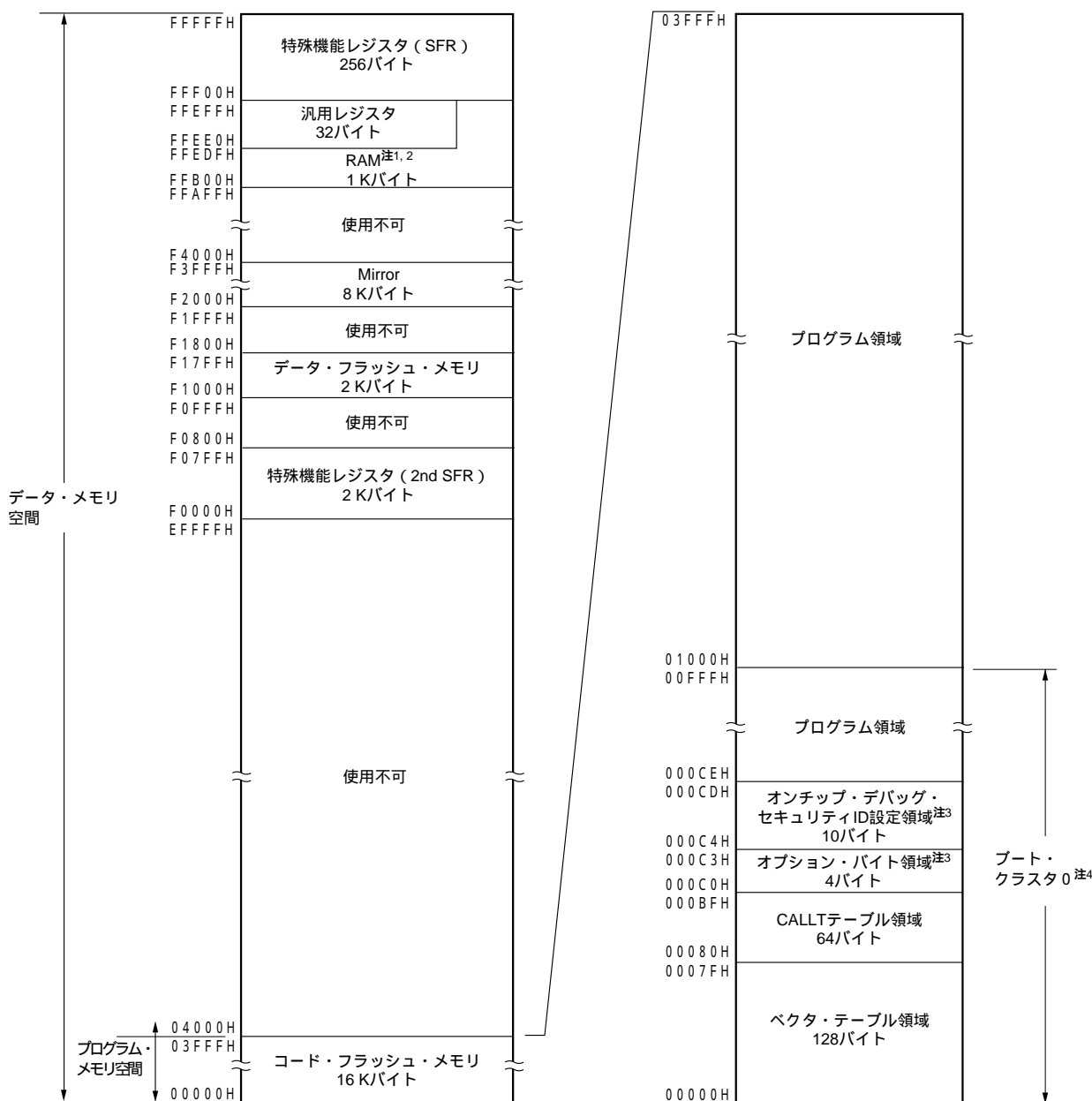
図3-1 メモリ・マップ (R5F10Rx8 (x = B, F, G, J))



- 注1. セルフ・プログラミング機能およびデータ・フラッシュ機能使用時は、セルフ・プログラミング・ライブラリで使用するためFFE20H-FFEDFHとFFB00H-FFC89Hの領域が使用禁止になります。
- 2. 汎用レジスタを除いたRAM領域から命令実行をすることができます。
- 3. 000C0H-000C3Hにオプション・バイト、000C4H-000CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティIDを設定
- 4. セキュリティの設定により、ブート・クラスタ0は書き換えを禁止することができます (26.7 セキュリティ設定を参照)。

注意 RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可 (RPERDIS = 0) で使用する場合、データ・アクセス時は「使用するRAM領域」を、RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域+10バイト」の領域を必ず初期化してください。リセット発生により、RAMパリティ・エラー・リセット発生許可 (RPERDIS = 0) となります。詳細は、23.3.3 RAMパリティ・エラー検出機能を参照してください。

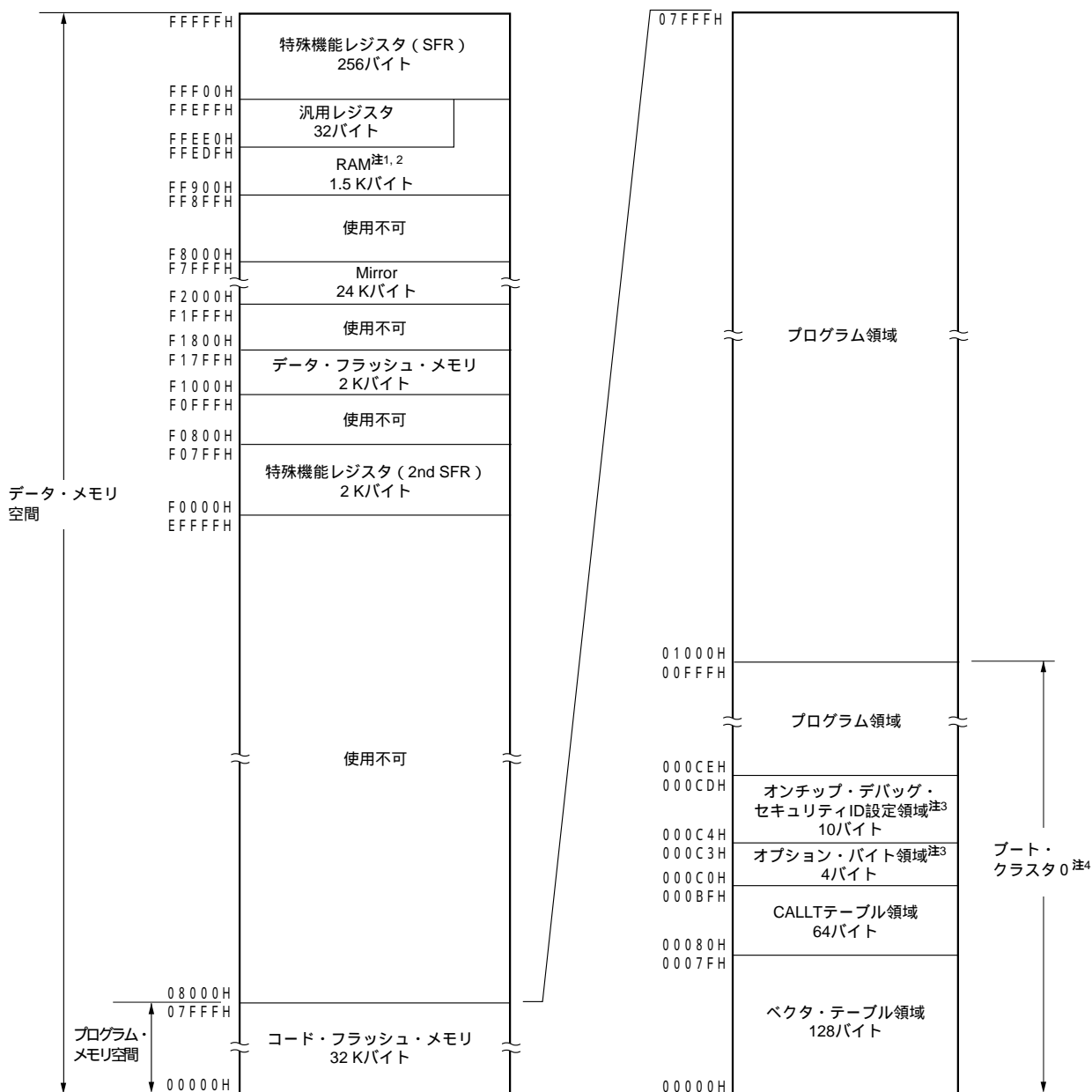
図3-2 メモリ・マップ (R5F10RxA (x = B, F, G, J, L))



- 注1. セルフ・プログラミング機能およびデータ・フラッシュ機能使用時は、セルフ・プログラミング・ライブラリで使用するためFFE20H-FFEDFHとFFB00H-FFC89Hの領域が使用禁止になります。
- 2. 汎用レジスタを除いたRAM領域から命令実行をすることができます。
- 3. 000C0H-000C3Hにオプション・バイト、000C4H-000CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティIDを設定
- 4. セキュリティの設定により、ブート・クラスタ0は書き換えを禁止することができます (26.7 セキュリティ設定を参照)。

注意 RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可 (RPERDIS = 0) で使用する場合、データ・アクセス時は「使用するRAM領域」を、RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域+10バイト」の領域を必ず初期化してください。リセット発生により、RAMパリティ・エラー・リセット発生許可 (RPERDIS = 0) となります。詳細は、23.3.3 RAMパリティ・エラー検出機能を参照してください。

図3-3 メモリ・マップ (R5F10RxC (x = B, F, G, J, L))



注1. セルフ・プログラミング機能およびデータ・フラッシュ機能使用時は、セルフ・プログラミング・ライブラリで使用するためFFE20H-FFEDFHとFF900H-FFC89Hの領域が使用禁止になります。

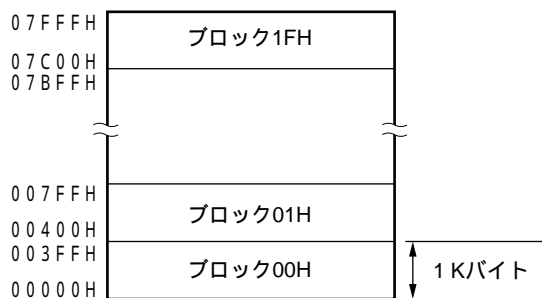
2. 汎用レジスタを除いたRAM領域から命令実行をすることができます。。

3. 000C0H-000C3Hにオプション・バイト，000C4H-000CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティIDを設定

4. セキュリティの設定により、ブート・クラスタ0は書き換えを禁止することができます (26.7 セキュリティ設定を参照)。

注意 RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可 (RPERDIS = 0) で使用する場合、データ・アクセス時は「使用するRAM領域」を、RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域+10バイト」の領域を必ず初期化してください。リセット発生により、RAMパリティ・エラー・リセット発生許可 (RPERDIS = 0) となります。詳細は、23.3.3 RAMパリティ・エラー検出機能を参照してください。

備考 フラッシュ・メモリはブロックごとに分かれています（1ブロック = 1 Kバイト）。アドレス値とブロック番号については、表3-1 フラッシュ・メモリのアドレス値とブロック番号の対応を参照してください。



(R5F10Rx (x = B, F, G, J, L) の場合)

フラッシュ・メモリのアドレス値とブロック番号の対応を次に示します。

表3-1 フラッシュ・メモリのアドレス値とブロック番号の対応

アドレス値	ブロック番号	アドレス値	ブロック番号	アドレス値	ブロック番号	アドレス値	ブロック番号
00000H-003FFH	00H	02000H-023FFH	08H	04000H-043FFH	10H	06000H-063FFH	18H
00400H-007FFH	01H	02400H-027FFH	09H	04400H-047FFH	11H	06400H-067FFH	19H
00800H-00BFFH	02H	02800H-02BFFH	0AH	04800H-04BFFH	12H	06800H-06BFFH	1AH
00C00H-00FFFH	03H	02C00H-02FFFH	0BH	04C00H-04FFFH	13H	06C00H-06FFFH	1BH
01000H-013FFH	04H	03000H-033FFH	0CH	05000H-053FFH	14H	07000H-073FFH	1CH
01400H-017FFH	05H	03400H-037FFH	0DH	05400H-057FFH	15H	07400H-077FFH	1DH
01800H-01BFFH	06H	03800H-03BFFH	0EH	05800H-05BFFH	16H	07800H-07BFFH	1EH
01C00H-01FFFH	07H	03C00H-03FFFH	0FH	05C00H-05FFFH	17H	07C00H-07FFFH	1FH

備考 R5F10Rx8 (x = B, F, G, J) : ブロック番号00H-07H
 R5F10RxA (x = B, F, G, J, L) : ブロック番号00H-0FH
 R5F10RxC (x = B, F, G, J, L) : ブロック番号00H-1FH

3.1.1 内部プログラム・メモリ空間

内部プログラム・メモリ空間にはプログラムおよびテーブル・データなどを格納します。RL78/L12は、次に示す内部ROM（フラッシュ・メモリ）を内蔵しています。

表3-2 内部ROM容量

製 品	内部ROM	
	構 造	容 量
R5F10Rx8 (x = B, F, G, J)	フラッシュ・メモリ	8192×8ビット (00000H-01FFFH)
R5F10RxA (x = B, F, G, J, L)		16384×8ビット (00000H-03FFFH)
R5F10RxC (x = B, F, G, J, L)		32768×8ビット (00000H-07FFFH)

内部プログラム・メモリ空間には、次に示す領域が割り付けられています。

(1) ベクタ・テーブル領域

00000H-0007FHの128バイト領域はベクタ・テーブル領域として予約されています。ベクタ・テーブル領域には、リセット、各割り込み要求発生により分岐するときのプログラム・スタート・アドレスを格納しておきます。また、ベクタ・コードは2バイトとしているため、割り込みの飛び先アドレスは00000H-0FFFFHの64 Kアドレスとなります。

16ビット・アドレスのうち下位8ビットが偶数アドレスに、上位8ビットが奇数アドレスに格納されます。

表3-3 ベクタ・テーブル (1/2)

ベクタ・テーブル・ アドレス	割り込み要因	64ピン	52ピン	48ピン	44ピン	32ピン
00000H	RESET, POR, LVD, WDT, TRAP, IAW, RPE	○	○	○	○	○
00004H	INTWDTI	○	○	○	○	○
00006H	INTLVI	○	○	○	○	○
00008H	INTP0	○	○	○	○	○
0000AH	INTP1	○	○	○	○	○
0000CH	INTP2	○	○	○	○	○
0000EH	INTP3	○	○	○	○	—
00010H	INTP4	○	○	○	○	—
00012H	INTP5	○	○	○	—	—
00014H	INTDMA0	○	○	○	○	○
00016H	INTDMA1	○	○	○	○	○
00018H	INTST0	○	○	○	○	○
	INTCSI00	○	○	○	○	○
0001AH	INTSR0	○	○	○	○	○
	INTCSI01	○	○	○	○	○
0001CH	INTSRE0	○	○	○	○	○
	INTTM01H	○	○	○	○	○
00020H	INTTM00	○	○	○	○	○
00024H	INTTM03H	○	○	○	○	○
00026H	INTIICA0	○	○	○	○	○
00028H	INTTM01	○	○	○	○	○
0002AH	INTTM02	○	○	○	○	○
0002CH	INTTM03	○	○	○	○	○
0002EH	INTAD	○	○	○	○	○

備考 ○ : サポートする
 — : サポートしない

表3-3 ベクタ・テーブル (2/2)

ベクタ・テーブル・ アドレス	割り込み要因	64ピン	52ピン	48ピン	44ピン	32ピン
00030H	INTRTC	○	○	○	○	○
00032H	INTIT	○	○	○	○	○
00034H	INTKR	○	○	○	○	○
0003CH	INTTM04	○	○	○	○	○
0003EH	INTTM05	○	○	○	○	○
00040H	INTTM06	○	○	○	○	○
00042H	INTTM07	○	○	○	○	○
00044H	INTLCD0	○	○	○	○	○
00046H	INTP6	○	-	-	-	-
00048H	INTP7	○	-	-	-	-
0004AH	INTMD	○	○	○	○	○
0004CH	INTFL	○	○	○	○	○
0007EH	BRK	○	○	○	○	○

備考 ○ : サポートする
 - : サポートしない

(2) CALLT命令テーブル領域

00080H-000BFHの64バイト領域には、2バイト・コール命令 (CALLT) のサブルーチン・エントリ・アドレスを格納することができます。サブルーチン・エントリ・アドレスは00000H-0FFFFFFH内の値を設定してください (アドレス・コードが2バイトのため)。

(3) オプション・バイト領域

000C0H-000C3Hの4バイト領域にオプション・バイト領域を用意しています。詳細は第25章 オプション・バイトを参照してください。

(4) オンチップ・デバッグ・セキュリティID設定領域

000C4H-000CDHの10バイト領域にオンチップ・デバッグ・セキュリティID設定領域を用意しています。詳細は第27章 オンチップ・デバッグ機能を参照してください。

3.1.2 ミラー領域

RL78/L12では、02000H-07FFFHのコード・フラッシュ・エリアをF2000H-F7FFFHへミラーさせています（プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ（PMC）で設定）。

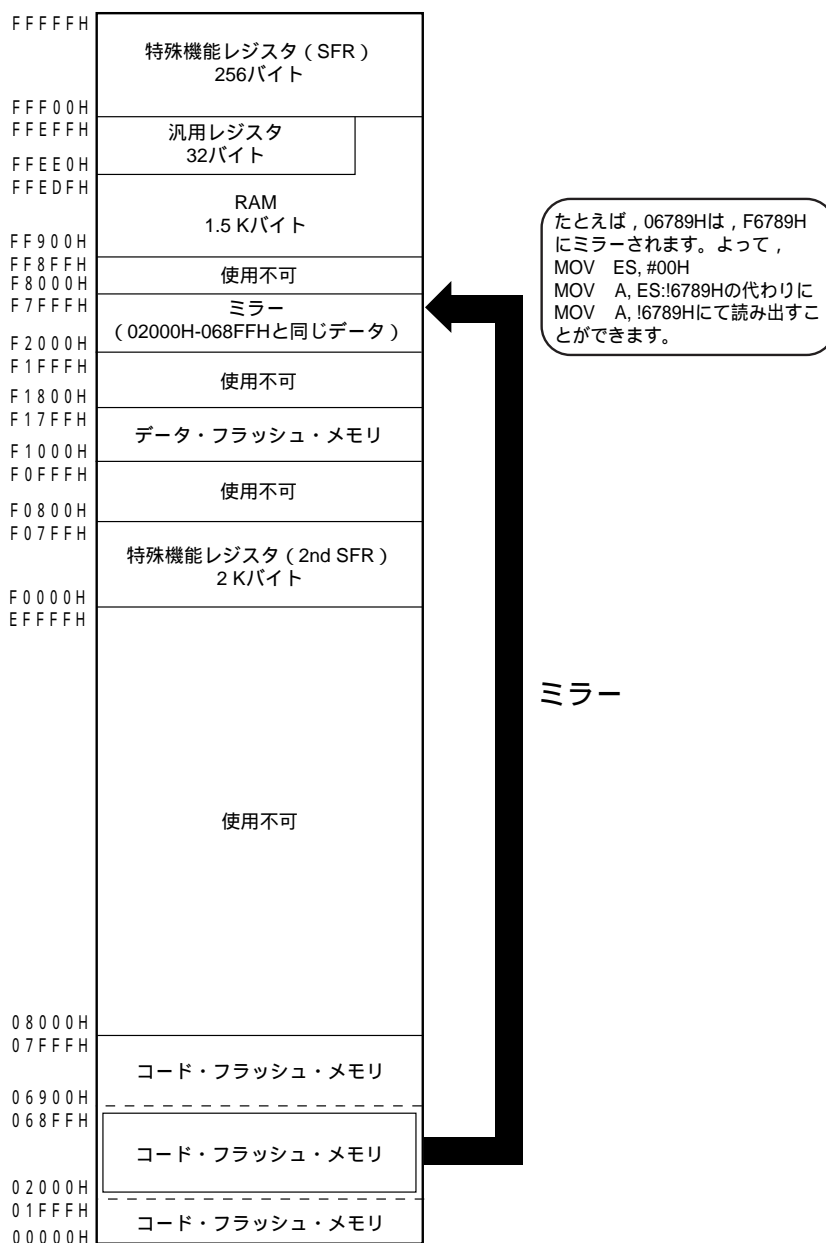
ミラー先のF2000H-F7FFFHからデータを読み出すことにより、オペランドにESレジスタを持たない命令を使用することができるため、短いコードでコード・フラッシュ内容の読み出しを行うことができます。ただし、SFR、拡張SFR、RAM領域、使用不可領域にはミラーされません。

各製品のミラー領域は、3.1 メモリ空間を参照してください。

ミラー領域は読み出しのみ可能で、命令フェッチはできません。

次に例を示します。

例 R5F10RxC (x=B, F, G, J, L) (フラッシュ・メモリ 32 Kバイト, RAM 1.5 Kバイト) の場合



次に、PMCレジスタについて説明します。

・プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ (PMC)

F0000H-FFFFFFHへミラーするフラッシュ・メモリ空間を設定するレジスタです。

PMCレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図3-4 プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ (PMC) のフォーマット

アドレス : FFFFEH リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC	0	0	0	0	0	0	0	MAA

MAA	F0000H-FFFFFFHへミラーするフラッシュ・メモリ空間を設定
0	00000H-0FFFFHをF0000H-FFFFFFHへミラー
1	設定禁止

注意1. 必ずビット0 (MAA) を0 (初期値) でご使用ください。

2. PMCレジスタの設定後、1命令以上空けてミラー領域にアクセスしてください。

3.1.3 内部データ・メモリ空間

RL78/L12は、次に示すRAMを内蔵しています。

表3-4 内部RAM容量

製品	内部RAM
R5F10Rx8 (x = B, F, G, J)	1024×8ビット (FFB00H-FFEFFH)
R5F10RxA (x = B, F, G, J, L)	
R5F10RxC (x = B, F, G, J, L)	1536×8ビット (FF900H-FFEFFH)

内部RAMは、データ領域として使用できるほか、プログラム領域として命令を実行することができます（汎用レジスタが割り当てられた領域では命令実行不可）。内部RAM領域のうちFFEE0H-FFEFFHの32バイトの領域には、8ビット・レジスタ8個を1バンクとする汎用レジスタが、4バンク割り付けられます。

また、スタック・メモリは内部RAMを使用します。

- 注意1. 汎用レジスタが割り当てられている空間 (FFEE0H-FFEFFH) は、命令フェッチやスタックの領域に使用できません。
- セルフ・プログラミング時およびデータ・フラッシュ書き換え時は、スタック、データ・バッファ、ベクタ割り込み処理の分岐先やDMA による転送先/転送元で利用するRAMアドレスを FFE20H-FFEDFH の領域に配置しないでください。
 - セルフ・プログラミング時およびデータ・フラッシュ書き換え時は、次に示す製品のRAM 領域は、各ライブラリで使用するため使用禁止になります。

R5F10Rx8 (x = B, F, G, J) : FFB00H-FFC89H

R5F10RxA (x = B, F, G, J, L) : FFB00H-FFC89H

R5F10RxC (x = B, F, G, J, L) : FF900H-FFC89H

3.1.4 特殊機能レジスタ（SFR : Special Function Register）領域

FFF00H-FFFFFFHの領域には、オン・チップ周辺ハードウェアの特殊機能レジスタ（SFR）が割り付けられています（3.2.4 特殊機能レジスタ（SFR : Special Function Register）の表3-5参照）。

注意 SFRが割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

3.1.5 拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR : 2nd Special Function Register）領域

F0000H-F07FFHの領域には、オン・チップ周辺ハードウェアの拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR）が割り付けられています（3.2.5 拡張特殊機能レジスタ（2nd SFR : 2nd Special Function Register）の表3-6参照）。

SFR領域（FFF00H-FFFFFFH）以外のSFRが割り付けられています。ただし、拡張SFR領域のアクセス命令はSFR領域より1バイト長くなります。

注意 拡張SFRが割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

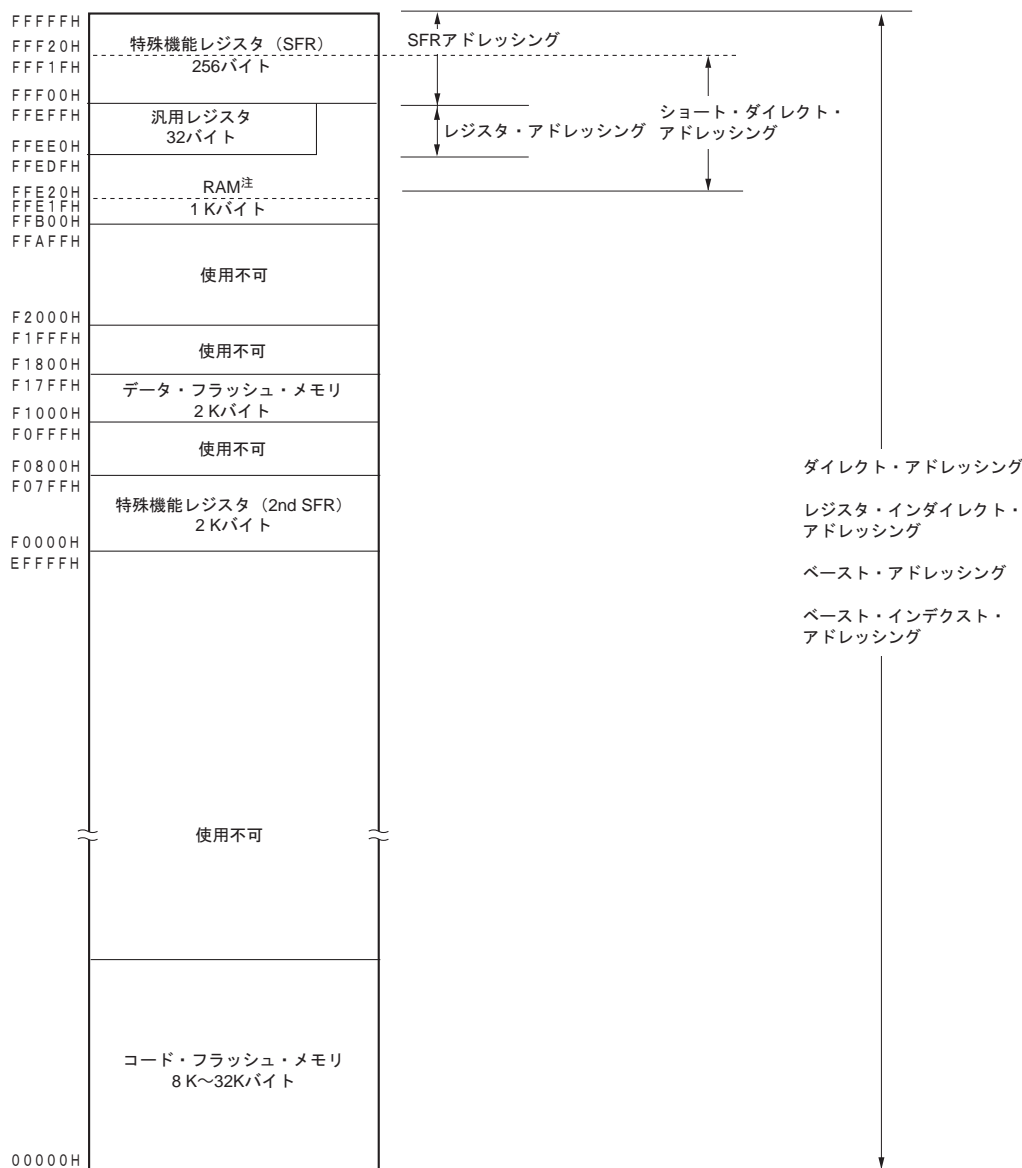
3.1.6 データ・メモリ・アドレッシング

次に実行する命令のアドレスを指定したり、命令を実行する際に操作対象となるレジスタやメモリなどのアドレスを指定したりする方法をアドレッシングといいます。

命令を実行する際に操作対象となるメモリのアドレッシングについて、RL78/L12では、その操作性などを考慮して豊富なアドレッシング・モードを備えました。特に、特殊機能レジスタ（SFR）や汎用レジスタなど、それぞれのもつ機能にあわせて特有のアドレッシングが可能です。図3-5にデータ・メモリとアドレッシングの対応を示します。

各アドレッシングの詳細については、「3.4 処理データ・アドレスに対するアドレッシング」を参照してください。

図3-5 データ・メモリとアドレッシングの対応



3.2 プロセッサ・レジスタ

RL78/L12は、次のプロセッサ・レジスタを内蔵しています。

3.2.1 制御レジスタ

プログラム・シーケンス、ステータス、スタック・メモリの制御など専用の機能を持ったレジスタです。制御レジスタには、プログラム・カウンタ（PC）、プログラム・ステータス・ワード（PSW）、スタック・ポインタ（SP）があります。

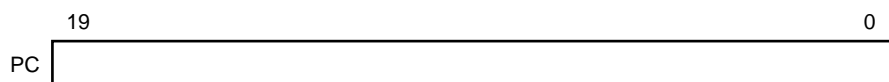
(1) プログラム・カウンタ（PC）

プログラム・カウンタは、次に実行するプログラムのアドレス情報を保持する20ビット・レジスタです。

通常動作時には、フェッチする命令のバイト数に応じて、自動的にインクリメントされます。分岐命令実行時には、イミディエト・データやレジスタの内容がセットされます。

リセット信号の発生により、00000H、00001H番地のリセット・ベクタ・テーブルの値が、下位16ビットにセットされます。上位4ビットは0000Iにクリアされます。

図3-6 プログラム・カウンタの構成



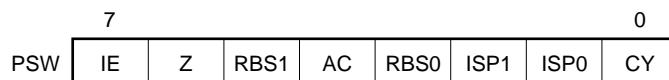
(2) プログラム・ステータス・ワード（PSW）

プログラム・ステータス・ワードは、命令の実行によってセット、リセットされる各種フラグで構成される8ビット・レジスタです。

プログラム・ステータス・ワードの内容は、ベクタ割り込み要求受け付け発生時およびPUSH PSW命令の実行時にスタック領域に格納され、RETB、RETI命令およびPOP PSW命令の実行時に復帰されます。

リセット信号の発生により、06HIになります。

図3-7 プログラム・ステータス・ワードの構成



(a) 割り込み許可フラグ（IE）

CPUの割り込み要求受け付け動作を制御するフラグです。

IE = 0のときは割り込み禁止（DI）状態となり、マスカブル割り込みはすべて禁止されます。

IE = 1のときは割り込み許可（EI）状態となります。このときマスカブル割り込み要求の受け付けは、インサービス・プライオリティ・フラグ（ISP1, ISP0）、各割り込み要因に対する割り込みマスク・フラグおよび優先順位指定フラグにより制御されます。

このフラグは、DI命令の実行または割り込みの受け付けでリセット（0）され、EI命令の実行によりセット（1）されます。

(b) ゼロ・フラグ（Z）

演算や比較で結果がゼロまたは等しいときセット（1）され、それ以外のときにリセット（0）されるフラグです。

(c) レジスタ・バンク選択フラグ (RBS0, RBS1)

4個のレジスタ・バンクのうちの1つを選択する2ビットのフラグです。

SEL RBn命令の実行によって選択されたレジスタ・バンクを示す2ビットの情報が格納されています。

(d) 補助キャリー・フラグ (AC)

演算結果で、ビット3からキャリーがあったとき、またはビット3へのポローがあったときセット (1) され、それ以外のときリセット (0) されるフラグです。

(e) インサービス・プライオリティ・フラグ (ISP1, ISP0)

受け付け可能なマスカブル・ベクタ割り込みの優先順位レベルを管理するフラグです。優先順位指定フラグ・レジスタ (PRn0L, PRn0H, PRn1L, PRn1H, PRn2L) (17. 3. 3参照) でISP0, ISP1フラグの値より低位に指定されたベクタ割り込み要求は受け付け禁止となります。なお、実際にベクタ割り込み要求が受け付けられるかどうかは、割り込み許可フラグ (IE) の状態により制御されます。

備考 n = 0, 1

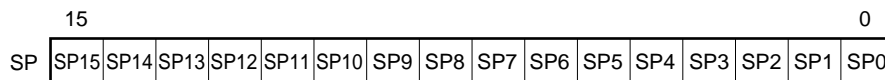
(f) キャリー・フラグ (CY)

加減算命令実行時のオーバフロー、アンダフローを記憶するフラグです。また、ローテート命令実行時はシフト・アウトされた値を記憶し、ビット演算命令実行時には、ビット・アキュムレータとして機能します。

(3) スタック・ポインタ (SP)

メモリのスタック領域の先頭アドレスを保持する16ビットのレジスタです。スタック領域としては内部RAM領域のみ設定可能です。

図3-8 スタック・ポインタの構成



スタック・ポインタを用いたスタック・アドレッシングでは、スタック・メモリへの書き込み (退避) 動作に先立ってデクリメントされ、スタック・メモリからの読み取り (復帰) 動作のあとインクリメントされます。

- 注意1. SPの内容はリセット信号の発生により、不定になりますので、必ずスタック使用前にイニシャライズしてください。
2. 汎用レジスタ (FFEE0H-FFEFFH) の空間は、スタック領域としての使用を禁止します。
3. 次に示す製品の内部RAM領域は、セルフ・プログラミング機能およびデータ・フラッシュ機能使用時にスタック領域として使用できません。

R5F10Rx8 (x = B, F, G, J) : FFB00H-FFC89H

R5F10RxA (x = B, F, G, J, L) : FFB00H-FFC89H

R5F10RxC (x = B, F, G, J, L) : FF900H-FFC89H

3.2.2 汎用レジスタ

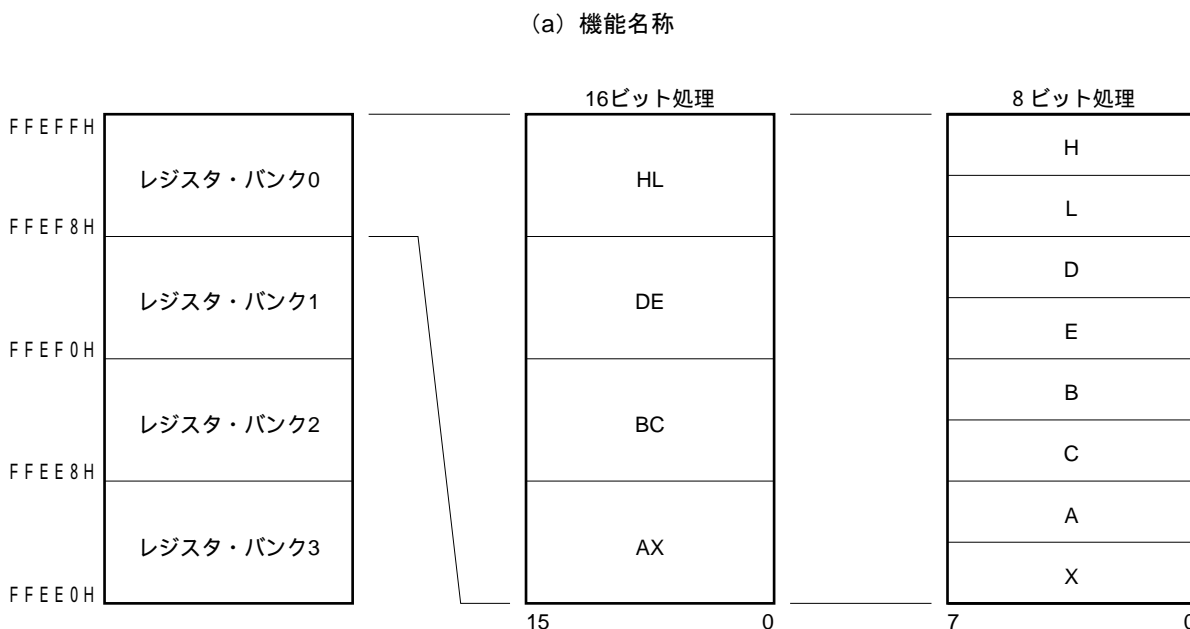
汎用レジスタは、データ・メモリの特定番地（FFEE0H-FFEFFH）にマッピングされており、8ビット・レジスタ8個（X, A, C, B, E, D, L, H）を1バンクとして4バンクのレジスタで構成されています。

各レジスタは、それぞれ8ビット・レジスタとして使用できるほか、2個の8ビット・レジスタをペアとして16ビット・レジスタとしても使用できます（AX, BC, DE, HL）。

命令実行時に使用するレジスタ・バンクは、CPU制御命令（SEL R_{Bn}）によって設定します。4レジスタ・バンク構成になっていますので、通常処理で使用するレジスタと割り込み処理で使用するレジスタをバンク切り替えすれば、効率のよいプログラムを作成できます。

注意 汎用レジスタ（FFEE0H-FFEFFH）の空間は、命令フェッチやスタック領域としての使用を禁止します。

図3-9 汎用レジスタの構成

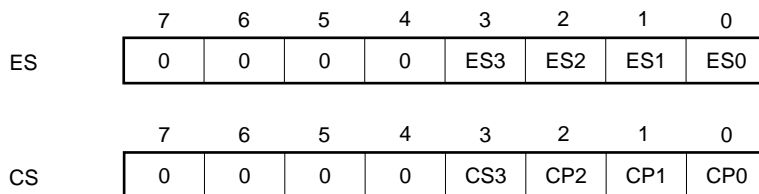


3.2.3 ES, CSレジスタ

ESレジスタでデータ・アクセス, CSレジスタで(レジスタ・インダイレクト・アドレッシング)分岐命令実行時の, それぞれ上位アドレスを指定できます。

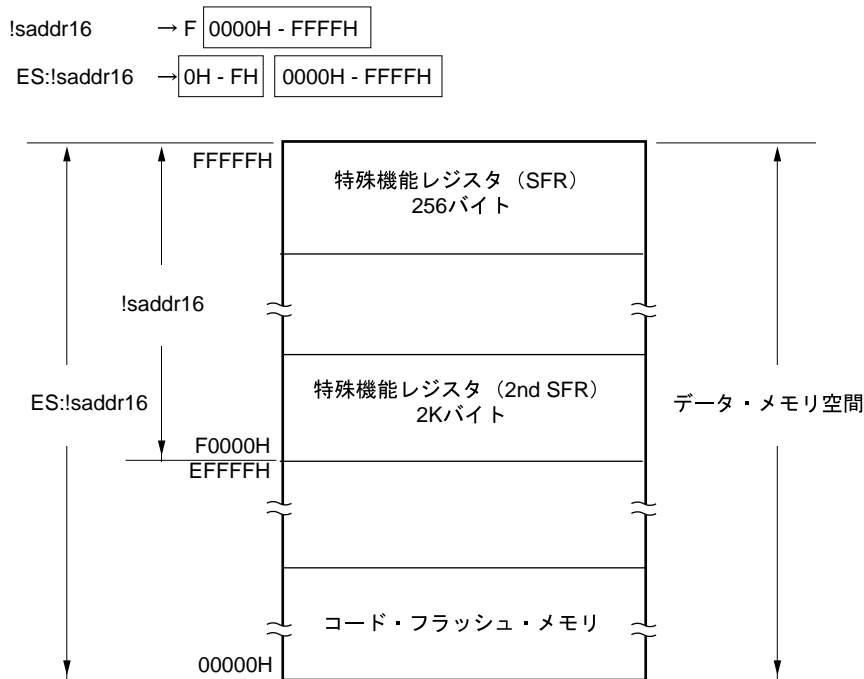
ESレジスタのリセット後の初期値は0FH, CSレジスタのリセット後の初期値は00Hです。

図3-10 ES/CSレジスタの構成



16ビット・アドレスでアクセスできるデータ領域は, F0000H-FFFFFHの64 Kバイト空間ですが, ES:を付加すると00000H-FFFFFHの1 Mバイト空間に拡張できます。

図3-11 データ・アクセス領域の拡張



3.2.4 特殊機能レジスタ (SFR : Special Function Register)

SFRは、汎用レジスタとは異なり、それぞれ特別な機能を持つレジスタです。

SFR空間は、FFF00H-FFFFFHの領域に割り付けられています。

SFRは、演算命令、転送命令、ビット操作命令などにより、汎用レジスタと同じように操作できます。操作可能なビット単位 (1, 8, 16) は、各SFRで異なります。

操作ビット単位ごとの指定方法を次に示します。

- ・1ビット操作

1ビット操作命令のオペランド (sfr.bit) には、次のような記述をしてください。

ビット名称が定義されている場合 : <ビット名称>

ビット名称が定義されていない場合 : <レジスタ名>.<ビット番号>または<アドレス>.<ビット番号>

- ・8ビット操作

8ビット操作命令のオペランド (sfr) にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスでも指定できます。

- ・16ビット操作

16ビット操作命令のオペランド (sfrp) にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスを指定するときは偶数アドレスを記述してください。

表3-5にSFRの一覧を示します。表中の項目の意味は次のとおりです。

- ・略号

特殊機能レジスタのアドレスを示す略号です。アセンブラで予約語に、コンパイラでは#pragma sfr指令で、sfr変数として定義されているものです。アセンブラ、デバッガおよびシミュレータ使用時に命令のオペランドとして記述できます。

- ・R/W

該当する特殊機能レジスタが読み出し (Read) /書き込み (Write) 可能かどうかを示します。

R/W : 読み出し/書き込みがともに可能

R : 読み出しのみ可能

W : 書き込みのみ可能

- ・操作可能ビット単位

操作可能なビット単位 (1, 8, 16) を○で示します。-は操作できないビット単位であることを示します。

- ・リセット時

リセット信号発生時の各レジスタの状態を示します。

注意 SFRが割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

備考 拡張SFR (2nd SFR) については、3.2.5 拡張特殊機能レジスタ (2nd SFR : 2nd Special Function Register) を参照してください。

表3-5 SFR一覧 (1/4)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号		R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
					1 ビット	8 ビット	16 ビット	
FFF01H	ポート・レジスタ1	P1		R/W	○	○	—	00H
FFF02H	ポート・レジスタ2	P2		R/W	○	○	—	00H
FFF03H	ポート・レジスタ3	P3		R/W	○	○	—	00H
FFF04H	ポート・レジスタ4	P4		R/W	○	○	—	00H
FFF05H	ポート・レジスタ5	P5		R/W	○	○	—	00H
FFF06H	ポート・レジスタ6	P6		R/W	○	○	—	00H
FFF07H	ポート・レジスタ7	P7		R/W	○	○	—	00H
FFF0CH	ポート・レジスタ12	P12		R/W	○	○	—	不定
FFF0DH	ポート・レジスタ13	P13		R/W	○	○	—	不定
FFF0EH	ポート・レジスタ14	P14		R/W	○	○	—	00H
FFF10H	シリアル・データ・レジスタ00	TXD0/ SIO00	SDR00	R/W	—	○	○	0000H
FFF11H		—			—	—		
FFF12H	シリアル・データ・レジスタ01	RXD0/ SIO01	SDR01	R/W	—	○	○	0000H
FFF13H		—			—	—		
FFF18H	タイマ・データ・レジスタ00	TDR00		R/W	—	—	○	0000H
FFF19H								
FFF1AH	タイマ・データ・レジスタ01	TDR01L	TDR01	R/W	—	○	○	00H
FFF1BH		TDR01H			—	○	00H	
FFF1EH	10ビットA/D変換結果レジスタ	ADCR		R	—	—	○	0000H
FFF1FH	8ビットA/D変換結果レジスタ	ADCRH		R	—	○	—	00H
FFF21H	ポート・モード・レジスタ1	PM1		R/W	○	○	—	FFH
FFF22H	ポート・モード・レジスタ2	PM2		R/W	○	○	—	FFH
FFF23H	ポート・モード・レジスタ3	PM3		R/W	○	○	—	FFH
FFF24H	ポート・モード・レジスタ4	PM4		R/W	○	○	—	FFH
FFF25H	ポート・モード・レジスタ5	PM5		R/W	○	○	—	FFH
FFF26H	ポート・モード・レジスタ6	PM6		R/W	○	○	—	FFH
FFF27H	ポート・モード・レジスタ7	PM7		R/W	○	○	—	FFH
FFF2CH	ポート・モード・レジスタ12	PM12		R/W	○	○	—	FFH
FFF2EH	ポート・モード・レジスタ14	PM14		R/W	○	○	—	FFH
FFF30H	A/Dコンバータ・モード・レジスタ0	ADM0		R/W	○	○	—	00H
FFF31H	アナログ入力チャネル指定レジスタ	ADS		R/W	○	○	—	00H
FFF32H	A/Dコンバータ・モード・レジスタ1	ADM1		R/W	○	○	—	00H
FFF34H	キー・リターン・コントロール・ レジスタ	KRCTL		R/W	○	○	—	00H
FFF35H	キー・リターン・フラグ・レジスタ	KRF		R/W	—	○	—	00H
FFF37H	キー・リターン・モード・レジスタ0	KRM0		R/W	○	○	—	00H

表3-5 SFR一覧 (2/4)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号		R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
					1 ビット	8 ビット	16 ビット	
FFF38H	外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ0	EGP0		R/W	○	○	—	00H
FFF39H	外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ0	EGN0		R/W	○	○	—	00H
FFF40H	LCDモード・レジスタ0	LCDM0		R/W	—	○	—	00H
FFF41H	LCDモード・レジスタ1	LCDM1		R/W	○	○	—	00H
FFF42H	LCDクロック制御レジスタ0	LCDC0		R/W	—	○	—	00H
FFF43H	LCD昇圧レベル制御レジスタ	VLCD		R/W	—	○	—	04H
FFF50H	IICAシフト・レジスタ0	IICA0		R/W	—	○	—	00H
FFF51H	IICAステータス・レジスタ0	IICS0		R	○	○	—	00H
FFF52H	IICAフラグ・レジスタ0	IICF0		R/W	○	○	—	00H
FFF64H	タイマ・データ・レジスタ02	TDR02		R/W	—	—	○	0000H
FFF65H								
FFF66H	タイマ・データ・レジスタ03	TDR03L	TDR03	R/W	—	○	○	00H
FFF67H		TDR03H						—
FFF68H	タイマ・データ・レジスタ04	TDR04		R/W	—	—	○	0000H
FFF69H								
FFF6AH	タイマ・データ・レジスタ05	TDR05		R/W	—	—	○	0000H
FFF6BH								
FFF6CH	タイマ・データ・レジスタ06	TDR06		R/W	—	—	○	0000H
FFF6DH								
FFF6EH	タイマ・データ・レジスタ07	TDR07		R/W	—	—	○	0000H
FFF6FH								
FFF90H	インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ	ITMC		R/W	—	—	○	0FFFH
FFF91H								
FFF92H	秒カウント・レジスタ	SEC ^{注2}		R/W	—	○	—	00H
FFF93H	分カウント・レジスタ	MIN ^{注2}		R/W	—	○	—	00H
FFF94H	時カウント・レジスタ	HOUR ^{注2}		R/W	—	○	—	12H ^{注1}
FFF95H	曜日カウント・レジスタ	WEEK ^{注2}		R/W	—	○	—	00H
FFF96H	日カウント・レジスタ	DAY ^{注2}		R/W	—	○	—	01H
FFF97H	月カウント・レジスタ	MONTH ^{注2}		R/W	—	○	—	01H
FFF98H	年カウント・レジスタ	YEAR ^{注2}		R/W	—	○	—	00H
FFF99H	時計誤差補正レジスタ	SUBCUD ^{注2}		R/W	—	○	—	00H
FFF9AH	アラーム分レジスタ	ALARMWWM ^{注2}		R/W	—	○	—	00H
FFF9BH	アラーム時レジスタ	ALARMWH ^{注2}		R/W	—	○	—	12H
FFF9CH	アラーム曜日レジスタ	ALARMWW ^{注2}		R/W	—	○	—	00H

注1. リセット後に、AMPMビット（リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）のビット3）に1をセットした場合は00Hとなります。

2. 44, 48, 52, 64ピン製品のみ

表3-5 SFR一覧 (3/4)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号	R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
				1 ビット	8 ビット	16 ビット	
FFF9DH	リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0	RTCC0	R/W	○	○	—	00H
FFF9EH	リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 ^{注3}	RTCC1	R/W	○	○	—	00H
FFFA0H	クロック動作モード制御レジスタ	CMC	R/W	—	○	—	00H
FFFA1H	クロック動作ステータス制御レジスタ	CSC	R/W	○	○	—	C0H
FFFA2H	発振安定時間カウンタ状態レジスタ	OSTC	R	○	○	—	00H
FFFA3H	発振安定時間選択レジスタ	OSTS	R/W	—	○	—	07H
FFFA4H	システム・クロック制御レジスタ	CKC	R/W	○	○	—	00H
FFFA5H	クロック出力選択レジスタ0	CKS0	R/W	○	○	—	00H
FFFA6H	クロック出力選択レジスタ1 ^{注3}	CKS1	R/W	○	○	—	00H
FFFA8H	リセット・コントロール・フラグ・レジスタ	RESF	R	—	○	—	不定 ^{注1}
FFFA9H	電圧検出レジスタ	LVIM	R/W	○	○	—	00H ^{注1}
FFFAAH	電圧検出レベル・レジスタ	LVIS	R/W	○	○	—	00H/01H/81H ^{注1}
FFFABH	ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ	WDTE	R/W	—	○	—	1AH/9AH ^{注2}
FFFACH	CRC入力レジスタ	CRCIN	R/W	—	○	—	00H
FFFB0H	DMA SFRアドレス・レジスタ0	DSA0	R/W	—	○	—	00H
FFFB1H	DMA SFRアドレス・レジスタ1	DSA1	R/W	—	○	—	00H
FFFB2H	DMA RAMアドレス・レジスタ0L	DRA0L	DRA0	R/W	—	○	00H
FFFB3H	DMA RAMアドレス・レジスタ0H	DRA0H		R/W	—	○	
FFFB4H	DMA RAMアドレス・レジスタ1L	DRA1L	DRA1	R/W	—	○	00H
FFFB5H	DMA RAMアドレス・レジスタ1H	DRA1H		R/W	—	○	
FFFB6H	DMA バイト・カウント・レジスタ0L	DBC0L	DBC0	R/W	—	○	00H
FFFB7H	DMA バイト・カウント・レジスタ0H	DBC0H		R/W	—	○	

注1. リセット要因により、次のように異なります。

リセット要因		RESET入力	PORによるリセット	不正命令の実行によるリセット	WDTによるリセット	RAMパリティ・エラーによるリセット	不正メモリ・アクセスによるリセット	LVDIによるリセット
RESF	TRAP	クリア (0)			セット (1)	保持		保持
	WDTRF				保持	セット (1)	保持	
	RPERF				保持	セット (1)	保持	
	IAWRF				保持	セット (1)		
	LVIRF				保持			セット (1)
LVIM	LVISEN	クリア (0)						保持
	LVIOMSK	保持						
	LVIF							
LVIS	クリア(00H/01H/81H)							

2. WDTEレジスタのリセット値は、オプション・バイトの設定で決定します。

3. 44, 48, 52, 64ピン製品のみ

表3-5 SFR一覧 (4/4)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号		R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
					1 ビット	8 ビット	16 ビット	
FFFB8H	DMA バイト・カウント・レジスタ1L	DBC1L	DBC1	R/W	—	○	○	00H
FFFB9H	DMA バイト・カウント・レジスタ1H	DBC1H		R/W	—	○		00H
FFFBAH	DMAモード・コントロール・レジスタ0	DMC0		R/W	○	○	—	00H
FFFBBH	DMAモード・コントロール・レジスタ1	DMC1		R/W	○	○	—	00H
FFFBCH	DMA動作コントロール・レジスタ0	DRC0		R/W	○	○	—	00H
FFFBDH	DMA動作コントロール・レジスタ1	DRC1		R/W	○	○	—	00H
FFFD0H	割り込み要求フラグ・レジスタ2L	IF2L	IF2	R/W	○	○	○	00H
FFFD4H	割り込みマスク・フラグ・レジスタ2L	MK2L	MK2	R/W	○	○	○	FFH
FFFD8H	優先順位指定フラグ・レジスタ02L	PR02L	PR02	R/W	○	○	○	FFH
FFFDCH	優先順位指定フラグ・レジスタ12L	PR12L	PR12	R/W	○	○	○	FFH
FFFE0H	割り込み要求フラグ・レジスタ0L	IF0L	IF0	R/W	○	○	○	00H
FFFE1H	割り込み要求フラグ・レジスタ0H	IF0H		R/W	○	○		00H
FFFE2H	割り込み要求フラグ・レジスタ1L	IF1L	IF1	R/W	○	○	○	00H
FFFE3H	割り込み要求フラグ・レジスタ1H	IF1H		R/W	○	○		00H
FFFE4H	割り込みマスク・フラグ・レジスタ0L	MK0L	MK0	R/W	○	○	○	FFH
FFFE5H	割り込みマスク・フラグ・レジスタ0H	MK0H		R/W	○	○		FFH
FFFE6H	割り込みマスク・フラグ・レジスタ1L	MK1L	MK1	R/W	○	○	○	FFH
FFFE7H	割り込みマスク・フラグ・レジスタ1H	MK1H		R/W	○	○		FFH
FFFE8H	優先順位指定フラグ・レジスタ00L	PR00L	PR00	R/W	○	○	○	FFH
FFFE9H	優先順位指定フラグ・レジスタ00H	PR00H		R/W	○	○		FFH
FFFEAH	優先順位指定フラグ・レジスタ01L	PR01L	PR01	R/W	○	○	○	FFH
FFFEBH	優先順位指定フラグ・レジスタ01H	PR01H		R/W	○	○		FFH
FFFECH	優先順位指定フラグ・レジスタ10L	PR10L	PR10	R/W	○	○	○	FFH
FF FEDH	優先順位指定フラグ・レジスタ10H	PR10H		R/W	○	○		FFH
FFFE EH	優先順位指定フラグ・レジスタ11L	PR11L	PR11	R/W	○	○	○	FFH
FFFE FH	優先順位指定フラグ・レジスタ11H	PR11H		R/W	○	○		FFH
FFFF0H	乗除算データ・レジスタA (L)	MDAL		R/W	—	—	○	0000H
FFFF1H								
FFFF2H	乗除算データ・レジスタA (H)	MDAH		R/W	—	—	○	0000H
FFFF3H								
FFFF4H	乗除算データ・レジスタB (H)	MDBH		R/W	—	—	○	0000H
FFFF5H								
FFFF6H	乗除算データ・レジスタB (L)	MDBL		R/W	—	—	○	0000H
FFFF7H								
FFFFEH	プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ	PMC		R/W	○	○	—	00H

備考 拡張SFR (2nd SFR) については、表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧を参照してください。

3.2.5 拡張特殊機能レジスタ (2nd SFR : 2nd Special Function Register)

拡張SFR (2nd SFR) は、汎用レジスタとは異なり、それぞれ特別な機能を持つレジスタです。

拡張SFR空間は、F0000H-F07FFHの領域です。SFR領域 (FFF00H-FFFFFH) 以外のSFRが割り付けられています。ただし、拡張SFR領域のアクセス命令はSFR領域より1バイト長くなります。

拡張SFRは、演算命令、転送命令、ビット操作命令などにより、汎用レジスタと同じように操作できます。操作可能なビット単位 (1, 8, 16) は、各拡張SFRで異なります。

操作ビット単位ごとの指定方法を次に示します。

- ・ 1ビット操作

1ビット操作命令のオペランド (!addr16.bit) には、次のような記述をしてください。

ビット名称が定義されている場合 : <ビット名称>

ビット名称が定義されていない場合 : <レジスタ名>.<ビット番号>または<アドレス>.<ビット番号>

- ・ 8ビット操作

8ビット操作命令のオペランド (!addr16) にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスでも指定できます。

- ・ 16ビット操作

16ビット操作命令のオペランド (!addr16) にアセンブラで定義されている略号を記述します。アドレスを指定するときは偶数アドレスを記述してください。

表3-6に拡張SFRの一覧を示します。表中の項目の意味は次のとおりです。

- ・ 略号

拡張SFRのアドレスを示す略号です。アセンブラで予約語に、コンパイラでは#pragma sfr指令で、sfr変数として定義されているものです。アセンブラ、デバッガおよびシミュレータ使用時に命令のオペランドとして記述できます。

- ・ R/W

該当する拡張SFRが読み出し (Read) /書き込み (Write) 可能かどうかを示します。

R/W : 読み出し/書き込みがともに可能

R : 読み出しのみ可能

W : 書き込みのみ可能

- ・ 操作可能ビット単位

操作可能なビット単位 (1, 8, 16) を○で示します。-は操作できないビット単位であることを示します。

- ・ リセット時

リセット信号発生時の各レジスタの状態を示します。

注意 拡張SFR (2nd SFR) が割り付けられていないアドレスにアクセスしないでください。

備考 SFR領域のSFRについては、3.2.4 特殊機能レジスタ (SFR : Special Function Register) を参照してください。

表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧 (1/6)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号	R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
				1 ビット	8 ビット	16 ビット	
F0010H	A/Dコンバータ・モード・レジスタ2	ADM2	R/W	○	○	—	00H
F0011H	変換結果比較上限値設定レジスタ	ADUL	R/W	—	○	—	FFH
F0012H	変換結果比較下限値設定レジスタ	ADLL	R/W	—	○	—	00H
F0013H	A/Dテスト・レジスタ	ADTES	R/W	—	○	—	00H
F0031H	ブルアップ抵抗オプション・レジスタ1	PU1	R/W	○	○	—	00H
F0033H	ブルアップ抵抗オプション・レジスタ3	PU3	R/W	○	○	—	00H
F0034H	ブルアップ抵抗オプション・レジスタ4	PU4	R/W	○	○	—	01H
F0035H	ブルアップ抵抗オプション・レジスタ5	PU5	R/W	○	○	—	00H
F0037H	ブルアップ抵抗オプション・レジスタ7	PU7	R/W	○	○	—	00H
F003CH	ブルアップ抵抗オプション・レジスタ12	PU12	R/W	○	○	—	00H
F003EH	ブルアップ抵抗オプション・レジスタ14	PU14	R/W	○	○	—	00H
F0041H	ポート入力モード・レジスタ1	PIM1	R/W	○	○	—	00H
F0051H	ポート出力モード・レジスタ1	POM1	R/W	○	○	—	00H
F0061H	ポート・モード・コントロール・レジスタ1	PMC1	R/W	○	○	—	FFH
F0064H	ポート・モード・コントロール・レジスタ4	PMC4	R/W	○	○	—	FFH
F006CH	ポート・モード・コントロール・レジスタ12	PMC12	R/W	○	○	—	FFH
F006EH	ポート・モード・コントロール・レジスタ14	PMC14	R/W	○	○	—	FFH
F0070H	ノイズ・フィルタ許可レジスタ0	NFEN0	R/W	○	○	—	00H
F0071H	ノイズ・フィルタ許可レジスタ1	NFEN1	R/W	○	○	—	00H
F0073H	入力切り替え制御レジスタ	ISC	R/W	○	○	—	00H
F0074H	タイマ入力選択レジスタ0	TIS0	R/W	—	○	—	00H
F0076H	A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ	ADPC	R/W	—	○	—	00H
F0077H	周辺I/Oリダイレクション・レジスタ	PIOR	R/W	—	○	—	00H
F0078H	不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ	IAWCTL	R/W	—	○	—	00H
F0079H	タイマ・アレイ・ユニット出力選択レジスタ ^{注2}	TOS	R/W	○	○	—	00H
F0090H	データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ	DFLCTL	R/W	○	○	—	00H
F00A0H	高速オンチップ・オシレータ・トリミング・レジスタ	HIOTRM	R/W	—	○	—	不定 ^{注1}
F00A8H	高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ	HOCODIV	R/W	—	○	—	不定 ^{注3}

注 1. リセット値は出荷時に調整した値です。

2. 44, 48, 52, 64ピン製品のみ

3. オプション・バイト 000C2HのFRQSEL2 - FRQSEL0で設定した値になります。

表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧 (2/6)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号	R/W	操作可能ビット範囲			リセット時	
				1 ビット	8 ビット	16 ビット		
F00E0H	乗除算データ・レジスタC (L)	MDCL	R/W	—	—	○	0000H	
F00E2H	乗除算データ・レジスタC (H)	MDCH	R/W	—	—	○	0000H	
F00E8H	乗除算コントロール・レジスタ	MDUC	R/W	○	○	—	00H	
F00F0H	周辺イネーブル・レジスタ0	PER0	R/W	○	○	—	00H	
F00F3H	サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ	OSMC	R/W	—	○	—	00H	
F00F5H	RAMパリティ・エラー制御レジスタ	RPECTL	R/W	○	○	—	00H	
F00FEH	BCD補正結果レジスタ	BCDADJ	R	—	○	—	不定	
F0100H	シリアル・ステータス・レジスタ00	SSR00L	SSR00	R	—	○	○	0000H
F0101H		—			—			
F0102H	シリアル・ステータス・レジスタ01	SSR01L	SSR01	R	—	○	○	0000H
F0103H		—			—			
F0108H	シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタ00	SIR00L	SIR00	R/W	—	○	○	0000H
F0109H		—			—			
F010AH	シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタ01	SIR01L	SIR01	R/W	—	○	○	0000H
F010BH		—			—			
F0110H	シリアル・モード・レジスタ00	SMR00	R/W	—	—	○	0020H	
F0111H								
F0112H	シリアル・モード・レジスタ01	SMR01	R/W	—	—	○	0020H	
F0113H								

表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧 (3/6)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号		R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
					1 ビット	8 ビット	16 ビット	
F0118H F0119H	シリアル通信動作設定レジスタ00	SCR00		R/W	—	—	○	0087H
F011AH F011BH	シリアル通信動作設定レジスタ01	SCR01		R/W	—	—	○	0087H
F0120H F0121H	シリアル・チャンネル許可ステータス・ レジスタ0	SE0L	SE0	R	○	○	○	0000H
F0122H F0123H	シリアル・チャンネル開始レジスタ0	SS0L	SS0	R/W	○	○	○	0000H
F0124H F0125H	シリアル・チャンネル停止レジスタ0	ST0L	ST0	R/W	○	○	○	0000H
F0126H F0127H	シリアル・クロック選択レジスタ0	SPS0L	SPS0	R/W	—	○	○	0000H
F0128H F0129H	シリアル出力レジスタ0	SO0		R/W	—	—	○	0303H
F012AH F012BH	シリアル出力許可レジスタ0	SOE0L	SOE0	R/W	○	○	○	0000H
F0134H F0135H	シリアル出力レベル・レジスタ0	SOL0L	SOL0	R/W	—	○	○	0000H
F0138H F0139H	シリアル・スタンバイ・コントロー ル・レジスタ0	SSC0L	SSC0	R/W	—	○	○	0000H
F0180H F0181H	タイマ・カウンタ・レジスタ00	TCR00		R	—	—	○	FFFFH
F0182H F0183H	タイマ・カウンタ・レジスタ01	TCR01		R	—	—	○	FFFFH
F0184H F0185H	タイマ・カウンタ・レジスタ02	TCR02		R	—	—	○	FFFFH
F0186H F0187H	タイマ・カウンタ・レジスタ03	TCR03		R	—	—	○	FFFFH
F0188H F0189H	タイマ・カウンタ・レジスタ04	TCR04		R	—	—	○	FFFFH
F018AH F018BH	タイマ・カウンタ・レジスタ05	TCR05		R	—	—	○	FFFFH
F018CH F018DH	タイマ・カウンタ・レジスタ06	TCR06		R	—	—	○	FFFFH
F018EH F018FH	タイマ・カウンタ・レジスタ07	TCR07		R	—	—	○	FFFFH

表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧 (4/6)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号	R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
				1 ビット	8 ビット	16 ビット	
F0190H F0191H	タイマ・モード・レジスタ00	TMR00	R/W	—	—	○	0000H
F0192H F0193H	タイマ・モード・レジスタ01	TMR01	R/W	—	—	○	0000H
F0194H F0195H	タイマ・モード・レジスタ02	TMR02	R/W	—	—	○	0000H
F0196H F0197H	タイマ・モード・レジスタ03	TMR03	R/W	—	—	○	0000H
F0198H F0199H	タイマ・モード・レジスタ04	TMR04	R/W	—	—	○	0000H
F019AH F019BH	タイマ・モード・レジスタ05	TMR05	R/W	—	—	○	0000H
F019CH F019DH	タイマ・モード・レジスタ06	TMR06	R/W	—	—	○	0000H
F019EH F019FH	タイマ・モード・レジスタ07	TMR07	R/W	—	—	○	0000H
F01A0H F01A1H	タイマ・ステータス・レジスタ00	TSR00L —	TSR00 R	— —	○ —	○	0000H
F01A2H F01A3H	タイマ・ステータス・レジスタ01	TSR01L —	TSR01 R	— —	○ —	○	0000H
F01A4H F01A5H	タイマ・ステータス・レジスタ02	TSR02L —	TSR02 R	— —	○ —	○	0000H
F01A6H F01A7H	タイマ・ステータス・レジスタ03	TSR03L —	TSR03 R	— —	○ —	○	0000H
F01A8H F01A9H	タイマ・ステータス・レジスタ04	TSR04L —	TSR04 R	— —	○ —	○	0000H
F01AAH F01ABH	タイマ・ステータス・レジスタ05	TSR05L —	TSR05 R	— —	○ —	○	0000H
F01ACH F01ADH	タイマ・ステータス・レジスタ06	TSR06L —	TSR06 R	— —	○ —	○	0000H
F01AEH F01AFH	タイマ・ステータス・レジスタ07	TSR07L —	TSR07 R	— —	○ —	○	0000H
F01B0H F01B1H	タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタ0	TE0L —	TE0 R	○ —	○ —	○	0000H
F01B2H F01B3H	タイマ・チャンネル開始レジスタ0	TS0L —	TS0 R/W	○ —	○ —	○	0000H
F01B4H F01B5H	タイマ・チャンネル停止レジスタ0	TT0L —	TT0 R/W	○ —	○ —	○	0000H

表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧 (5/6)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号		R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
					1ビット	8ビット	16ビット	
F01B6H	タイマ・クロック選択レジスタ0	TPS0		R/W	—	—	○	0000H
F01B7H								
F01B8H	タイマ出力レジスタ0	TO0L	TO0	R/W	—	○	○	0000H
F01B9H		—			—			
F01BAH	タイマ出力許可レジスタ0	TOE0L	TOE0	R/W	○	○	○	0000H
F01BBH		—			—			
F01BCH	タイマ出力レベル・レジスタ0	TOL0L	TOL0	R/W	—	○	○	0000H
F01BDH		—			—			
F01BEH	タイマ出力モード・レジスタ0	TOM0L	TOM0	R/W	—	○	○	0000H
F01BFH		—			—			
F0230H	IICAコントロール・レジスタ00	IICCTL00		R/W	○	○	—	00H
F0231H	IICAコントロール・レジスタ01	IICCTL01		R/W	○	○	—	00H
F0232H	IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0	IICWL0		R/W	—	○	—	FFH
F0233H	IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0	IICWH0		R/W	—	○	—	FFH
F0234H	スレーブ・アドレス・レジスタ0	SVA0		R/W	—	○	—	00H
F02F0H	フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ	CRC0CTL		R/W	○	○	—	00H
F02F2H	フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ	PGCRCL		R/W	—	—	○	0000H
F02FAH	CRCデータ・レジスタ	CRCD		R/W	—	—	○	0000H
F0300H	LCDポート・ファンクション・レジスタ0	PFSEG0		R/W	○	○	—	F0H
F0301H	LCDポート・ファンクション・レジスタ1	PFSEG1		R/W	○	○	—	FFH
F0302H	LCDポート・ファンクション・レジスタ2	PFSEG2		R/W	○	○	—	FFH
F0303H	LCDポート・ファンクション・レジスタ3	PFSEG3		R/W	○	○	—	FFH
F0304H	LCDポート・ファンクション・レジスタ4	PFSEG4		R/W	○	○	—	7FH
F0308H	LCD入力切り替え制御レジスタ	ISCLCD		R/W	○	○	—	00H
F0400H	LCD表示データ・メモリ0	SEG0		R/W	—	○	—	00H
F0401H	LCD表示データ・メモリ1	SEG1		R/W	—	○	—	00H
F0402H	LCD表示データ・メモリ2	SEG2		R/W	—	○	—	00H
F0403H	LCD表示データ・メモリ3	SEG3		R/W	—	○	—	00H
F0404H	LCD表示データ・メモリ4	SEG4		R/W	—	○	—	00H
F0405H	LCD表示データ・メモリ5	SEG5		R/W	—	○	—	00H
F0406H	LCD表示データ・メモリ6	SEG6		R/W	—	○	—	00H
F0407H	LCD表示データ・メモリ7	SEG7		R/W	—	○	—	00H
F0408H	LCD表示データ・メモリ8	SEG8		R/W	—	○	—	00H
F0409H	LCD表示データ・メモリ9	SEG9		R/W	—	○	—	00H
F040AH	LCD表示データ・メモリ10	SEG10		R/W	—	○	—	00H
F040BH	LCD表示データ・メモリ11	SEG11		R/W	—	○	—	00H

表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧 (6/6)

アドレス	特殊機能レジスタ (SFR) 名称	略号	R/W	操作可能ビット範囲			リセット時
				1ビット	8ビット	16ビット	
F040CH	LCD表示データ・メモリ12	SEG12	R/W	—	○	—	00H
F040DH	LCD表示データ・メモリ13	SEG13	R/W	—	○	—	00H
F040EH	LCD表示データ・メモリ14	SEG14	R/W	—	○	—	00H
F040FH	LCD表示データ・メモリ15	SEG15	R/W	—	○	—	00H
F0410H	LCD表示データ・メモリ16	SEG16	R/W	—	○	—	00H
F0411H	LCD表示データ・メモリ17	SEG17	R/W	—	○	—	00H
F0412H	LCD表示データ・メモリ18	SEG18	R/W	—	○	—	00H
F0413H	LCD表示データ・メモリ19	SEG19	R/W	—	○	—	00H
F0414H	LCD表示データ・メモリ20	SEG20	R/W	—	○	—	00H
F0415H	LCD表示データ・メモリ21	SEG21	R/W	—	○	—	00H
F0416H	LCD表示データ・メモリ22	SEG22	R/W	—	○	—	00H
F0417H	LCD表示データ・メモリ23	SEG23	R/W	—	○	—	00H
F0418H	LCD表示データ・メモリ24	SEG24	R/W	—	○	—	00H
F0419H	LCD表示データ・メモリ25	SEG25	R/W	—	○	—	00H
F041AH	LCD表示データ・メモリ26	SEG26	R/W	—	○	—	00H
F041BH	LCD表示データ・メモリ27	SEG27	R/W	—	○	—	00H
F041CH	LCD表示データ・メモリ28	SEG28	R/W	—	○	—	00H
F041DH	LCD表示データ・メモリ29	SEG29	R/W	—	○	—	00H
F041EH	LCD表示データ・メモリ30	SEG30	R/W	—	○	—	00H
F041FH	LCD表示データ・メモリ31	SEG31	R/W	—	○	—	00H
F0420H	LCD表示データ・メモリ32	SEG32	R/W	—	○	—	00H
F0421H	LCD表示データ・メモリ33	SEG33	R/W	—	○	—	00H
F0422H	LCD表示データ・メモリ34	SEG34	R/W	—	○	—	00H
F0423H	LCD表示データ・メモリ35	SEG35	R/W	—	○	—	00H
F0424H	LCD表示データ・メモリ36	SEG36	R/W	—	○	—	00H
F0425H	LCD表示データ・メモリ37	SEG37	R/W	—	○	—	00H
F0426H	LCD表示データ・メモリ38	SEG38	R/W	—	○	—	00H

備考 SFR領域のSFRについては、表3-5 SFR一覧を参照してください。

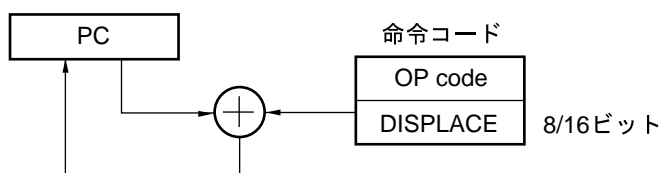
3.3 命令アドレスのアドレッシング

3.3.1 レラティブ・アドレッシング

【機能】

プログラム・カウンタ（PC）の値（次に続く命令の先頭アドレス）に対し、命令語に含まれるディスプレイメント値（符号付きの補数データ：-128～+127または-32768～+32767）を加算した結果を、プログラム・カウンタ（PC）に格納し分岐先プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。レラティブ・アドレッシングは分岐命令のみに適用されます。

図3-12 レラティブ・アドレッシングの概略



3.3.2 イミーディエト・アドレッシング

【機能】

命令語中のイミーディエト・データをプログラム・カウンタに格納し、分岐先プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。

イミーディエト・アドレッシングには20ビットのアドレスを指定するCALL !!addr20 / BR !!addr20と、16ビットのアドレスを指定するCALL !addr16 / BR !addr16があります。16ビット・アドレスを指定する場合は上位4ビットには0000が入ります。

図3-13 CALL !!addr20/BR !!addr20の例

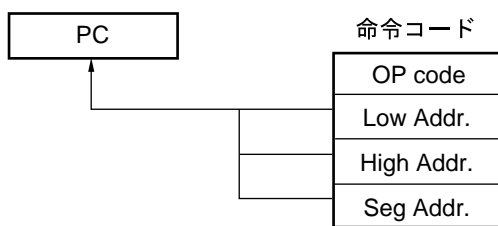
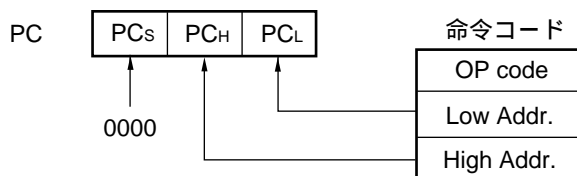


図3-14 CALL !addr16/BR !addr16の例



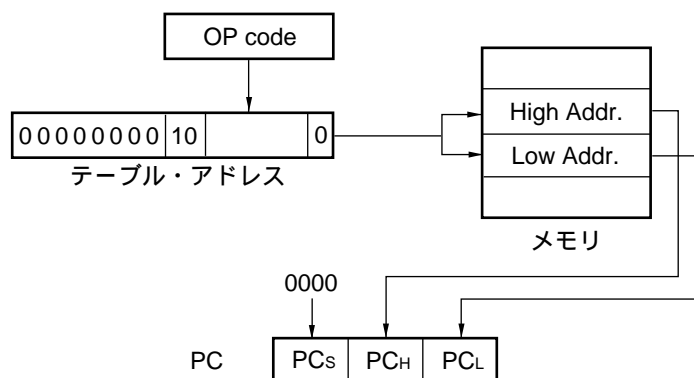
3.3.3 テーブル・インダイレクト・アドレッシング

【機能】

命令語中の5ビット・イミディエト・データによりCALLTテーブル領域（0080H-00BFH）内のテーブル・アドレスを指定し、その内容とそれに続くアドレスの内容を16ビット・データとしてプログラム・カウンタ（PC）に格納し、プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。テーブル・インダイレクト・アドレッシングはCALLT命令にのみ適用されます。

RL78マイクロコントローラでは、00000H-0FFFFHの64 Kバイト空間のみ分岐可能です。

図3-15 テーブル・インダイレクト・アドレッシングの概略

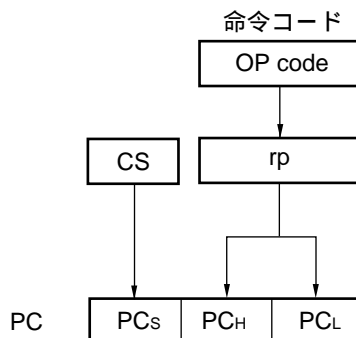


3.3.4 レジスタ・インダイレクト・アドレッシング

【機能】

命令語で指定されるカレント・レジスタ・バンク内の汎用レジスタ・ペア（AX/BC/DE/HL）とCSレジスタの内容を20ビット・データとしてプログラム・カウンタ（PC）に格納し、プログラム・アドレスを指定するアドレッシングです。レジスタ・インダイレクト・アドレッシングはCALL AX / BC / DE / HLとBR AX命令にのみ適用されます。

図3-16 レジスタ・インダイレクト・アドレッシングの概略



3.4 処理データ・アドレスに対するアドレッシング

3.4.1 インプライド・アドレッシング

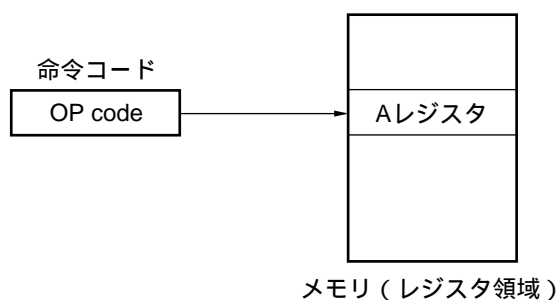
【機能】

アキュムレータなどの特別な機能を与えられたレジスタをアクセスする命令は、命令語中にはレジスタ指定フィールドを持たず命令語で直接指定します。

【オペランド形式】

インプライド・アドレッシングはMULU Xのみに適用されます。

図3-17 インプライド・アドレッシングの概略



3.4.2 レジスタ・アドレッシング

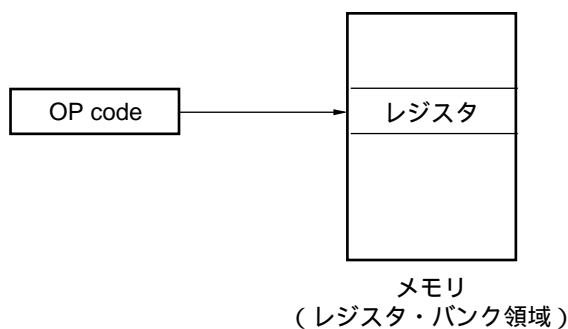
【機能】

汎用レジスタをオペランドとしてアクセスするアドレッシングです。8ビット・レジスタを指定する場合は命令語の3ビット、16ビット・レジスタを指定する場合は命令語の2ビットによりレジスタが選択されます。

【オペランド形式】

表現形式	記述方法
r	X, A, C, B, E, D, L, H
rp	AX, BC, DE, HL

図3-18 レジスタ・アドレッシングの概略



3.4.3 ダイレクト・アドレッシング

【機能】

命令語中のイミディエト・データがオペランド・アドレスとなり、対象となるアドレスを直接指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

表現形式	記述方法
!addr16	ラベルまたは16ビット・イミディエト・データ (F0000H-FFFFFFH空間のみ指定可能)
ES:!addr16	ラベルまたは16ビット・イミディエト・データ (ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定)

図3-19 ADDR16の例

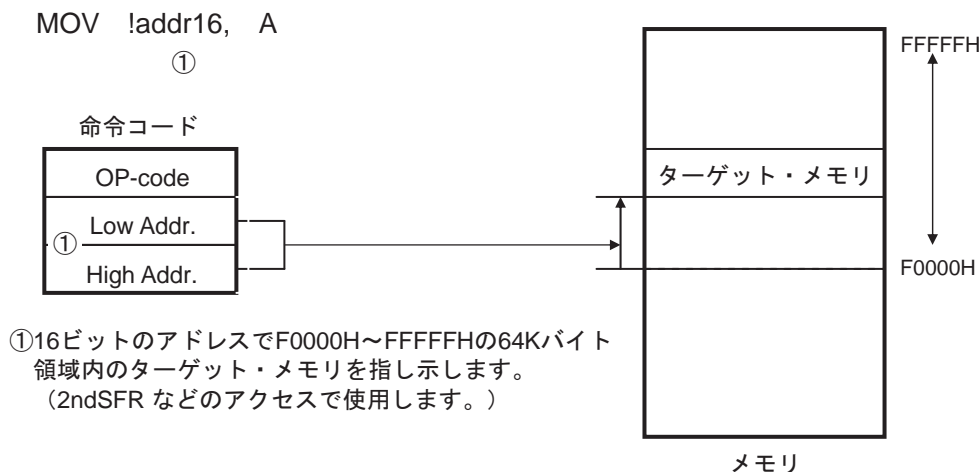
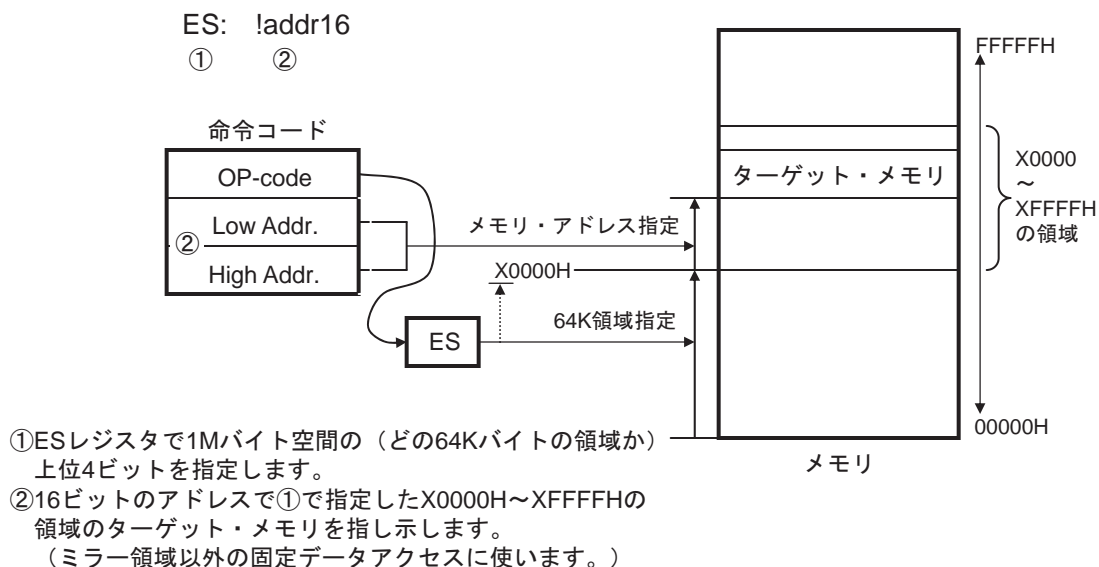


図3-20 ES:ADDR16の例



3.4.4 ショート・ダイレクト・アドレッシング

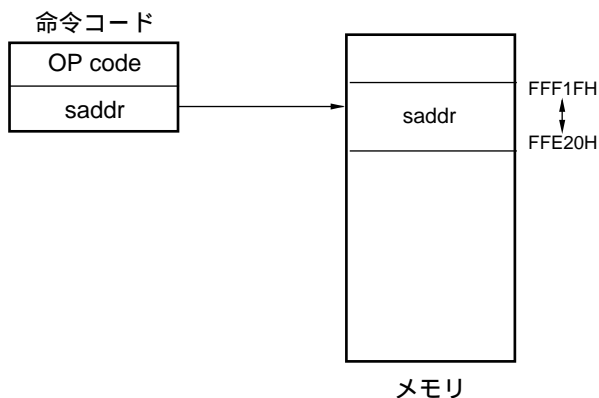
【機能】

命令語中の8ビット・データで対象となるアドレスを直接指定するアドレッシングです。このアドレッシングが適用されるのはFFE20H-FFF1FHの空間に限られます。

【オペランド形式】

表現形式	記述方法
SADDR	ラベルまたはFFE20H-FFF1FHのイミーディエト・データまたは0FE20H-0FF1FHのイミーディエト・データ (FFE20H-FFF1FH空間のみ指定可能)
SADDRP	ラベルまたはFFE20H-FFF1FHのイミーディエト・データまたは0FE20H-0FF1FHのイミーディエト・データ (偶数アドレスのみ) (FFE20H-FFF1FH空間のみ指定可能)

図3-21 ショート・ダイレクト・アドレッシングの概略



備考 SADDR, SADDRPは、(実アドレスの上位4ビット・アドレスを省略した) 16ビットのイミーディエト・データでFE20H-FF1FHの値を記述することができます。また、20ビットのイミーディエト・データでFFE20H-FFF1FHの値を記述することもできます。

ただし、どちらの形式で書いても、メモリはFFE20H-FFF1FH空間のアドレスが指定されます。

3.4.5 SFRアドレッシング

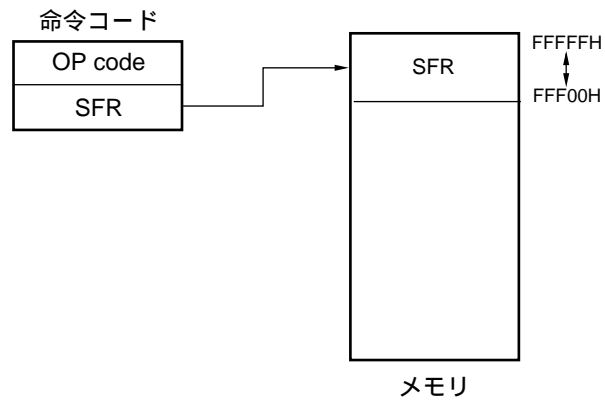
【機能】

命令語中の8ビット・データで対象となるSFRアドレスを直接指定するアドレッシングです。このアドレッシングが適用されるのはFFF00H-FFFFFHの空間に限られます。

【オペランド形式】

表現形式	記述方法
SFR	SFRレジスタ名
SFRP	16ビット操作可能なSFRレジスタ名（偶数アドレス）

図3-22 SFRアドレッシングの概略



3.4.6 レジスタ・インダイレクト・アドレッシング

【機能】

命令語で指定されたレジスタ・ペアの内容がオペランド・アドレスになり、対象となるアドレスを指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

表現形式	記述方法
—	[DE], [HL] (F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能)
—	ES:[DE], ES:[HL] (ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定)

図3-23 [DE], [HL]の例

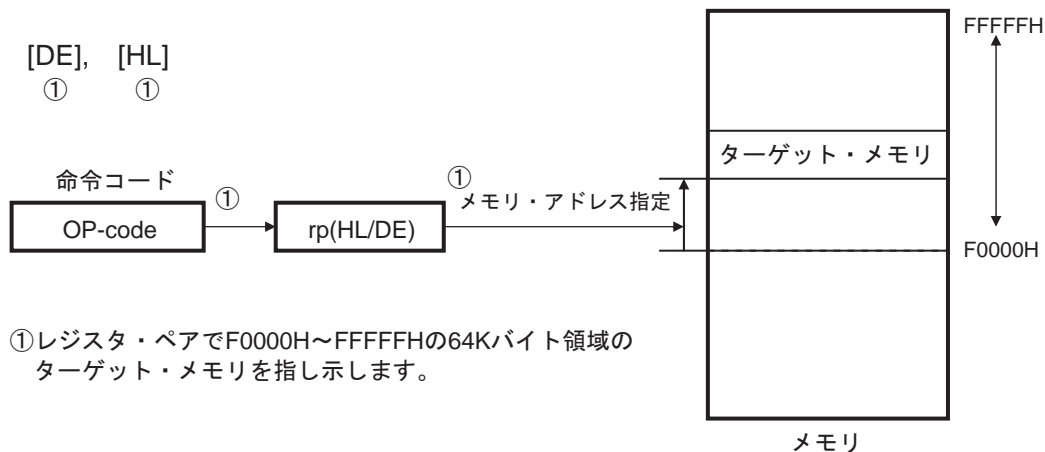
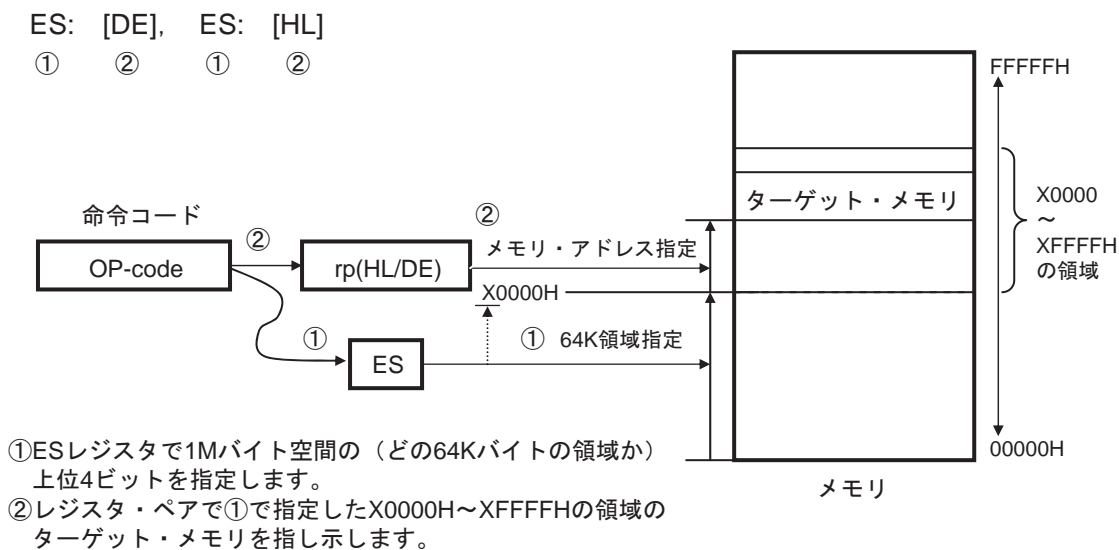


図3-24 ES:[DE], ES:[HL]の例



3.4.7 ベースト・アドレッシング

【機能】

命令語で指定されるレジスタ・ペアの内容または16ビットのイミディエト・データをベース・アドレスとし、8ビット・イミディエト・データまたは16ビット・イミディエト・データをオフセット・データとしてベース・アドレスに加算した結果で、対象となるアドレスを指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

表現形式	記述方法
—	[HL + byte], [DE + byte], [SP + byte] (F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能)
—	word[B], word[C] (F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能)
—	word[BC] (F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能)
—	ES:[HL + byte], ES:[DE + byte] (ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定)
—	ES:word[B], ES:word[C] (ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定)
—	ES:word[BC] (ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定)

図3-25 [SP+byte]の例

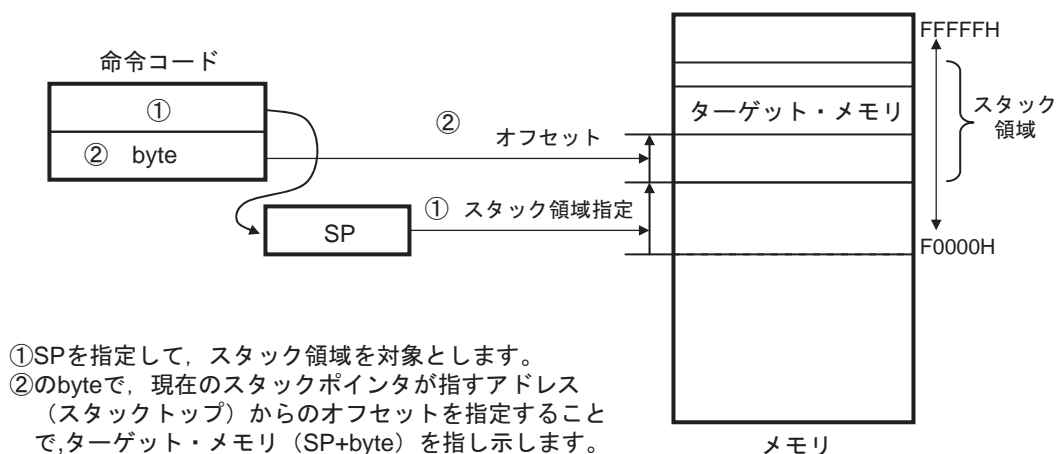


図3-26 [HL+byte], [DE+byte]の例

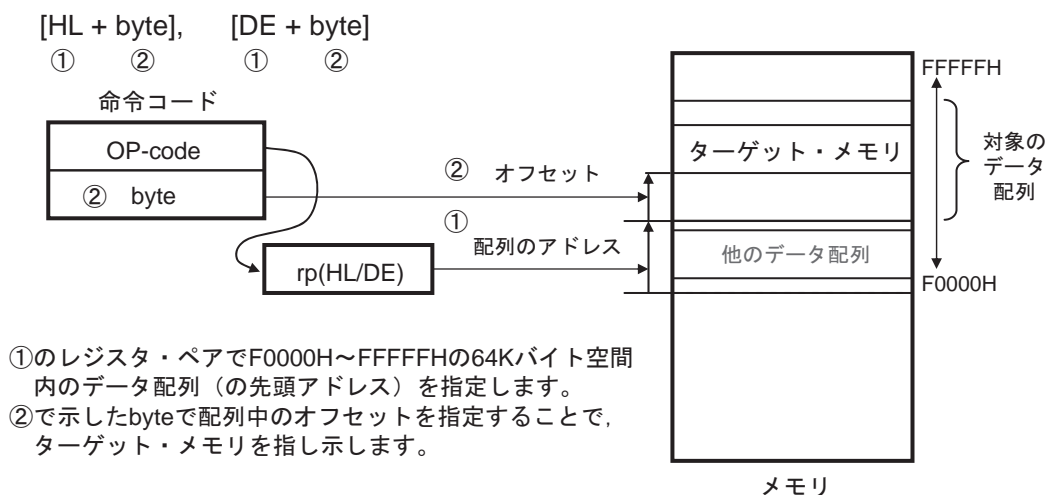


図3-27 word[B], word[C]の例

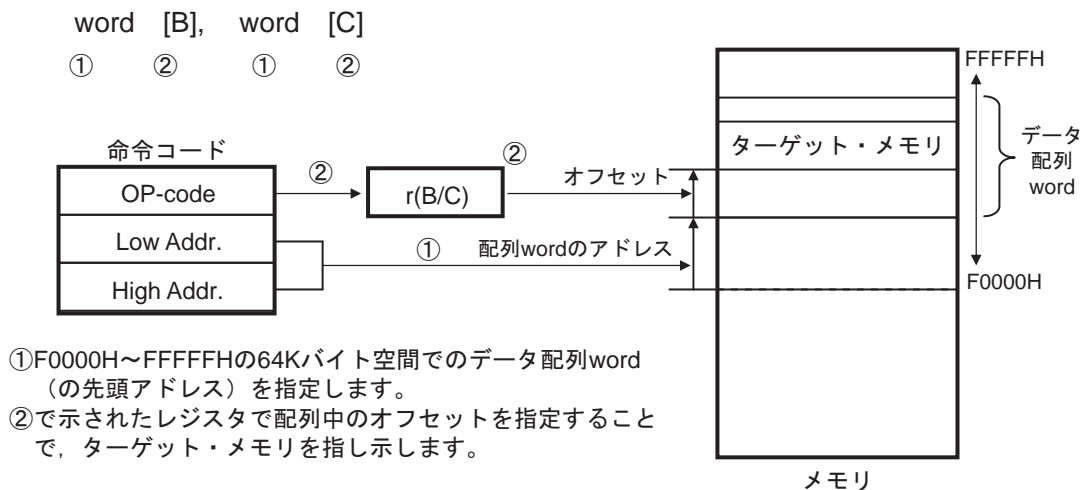


図3-28 word[BC]の例

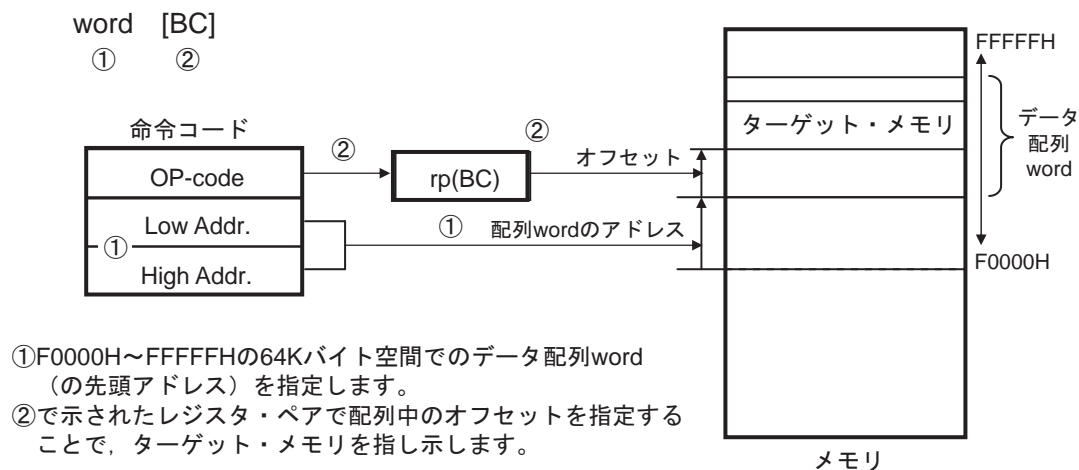


図3-29 ES:[HL+byte], ES:[DE+byte]の例

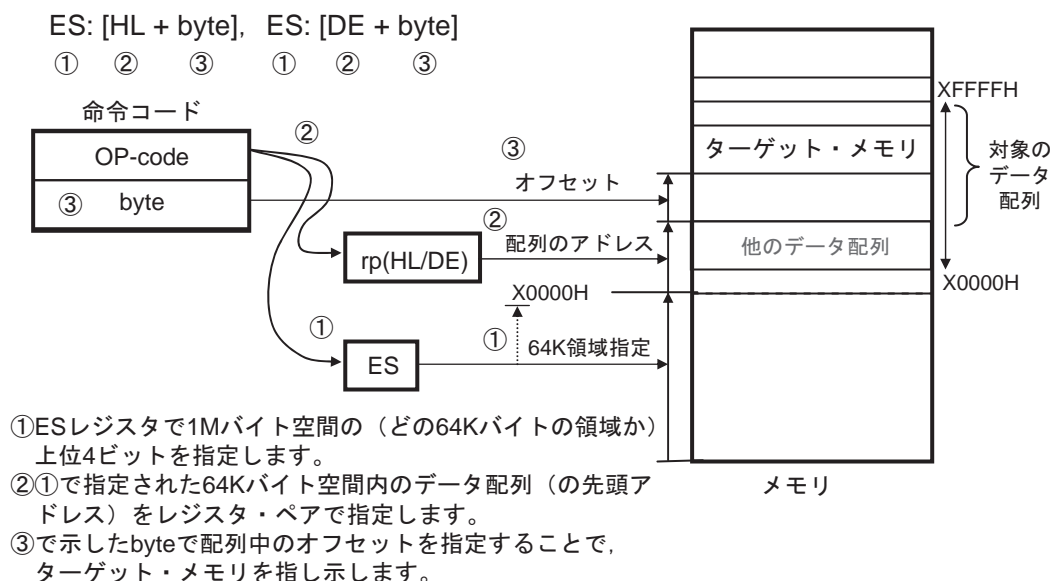


図3-30 ES:word[B], ES:word[C]の例

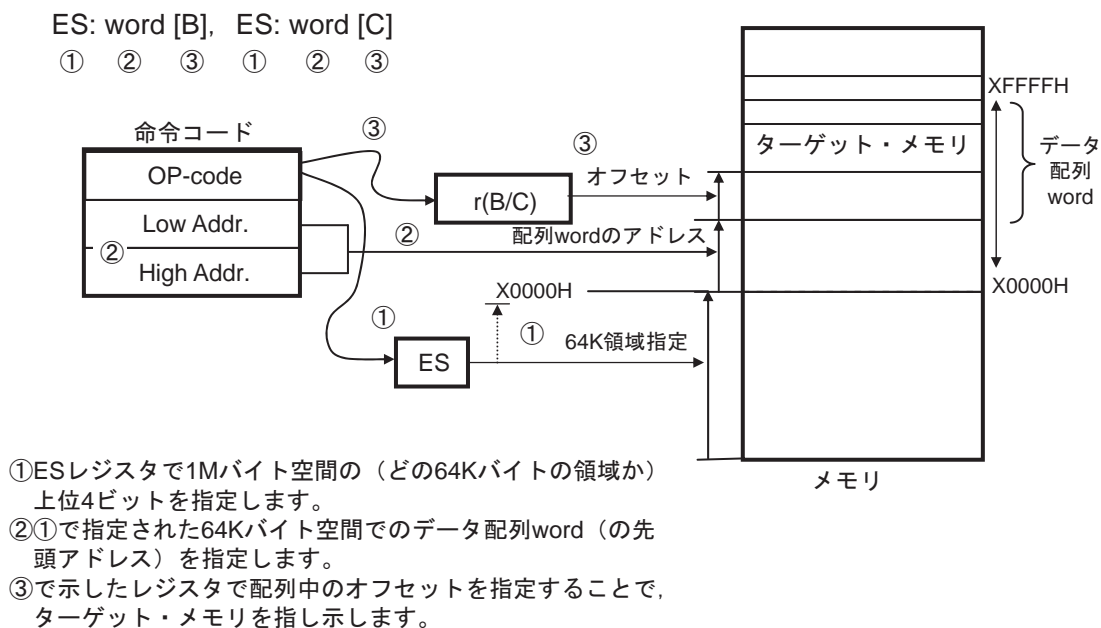
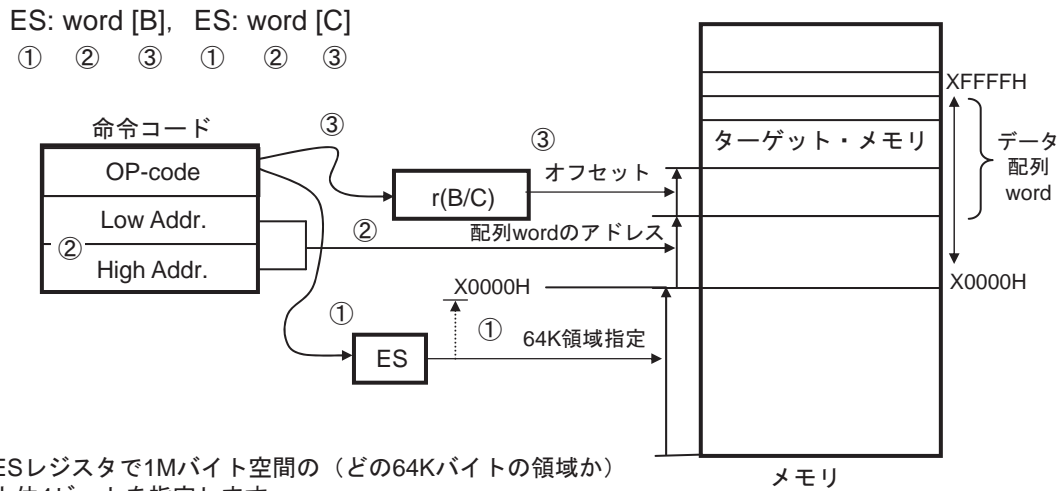


図3-31 ES:word[BC]の例



- ① ESレジスタで1Mバイト空間の（どの64Kバイトの領域か）上位4ビットを指定します。
- ② ①で指定された64Kバイト空間でのデータ配列word（の先頭アドレス）を指定します。
- ③ で示したレジスタで配列中のオフセットを指定することで、ターゲット・メモリを指し示します。

3.4.8 ベース・インデクスト・アドレッシング

【機能】

命令語で指定されるレジスタ・ペアの内容をベース・アドレスとし、同様に命令語で指定されるBレジスタまたはCレジスタの内容をオフセット・アドレスとしてベース・アドレスに加算した結果で、対象となるアドレスを指定するアドレッシングです。

【オペランド形式】

表現形式	記述方法
—	[HL+B], [HL+C] (F0000H-FFFFFH空間のみ指定可能)
—	ES:[HL+B], ES:[HL+C] (ESレジスタにて上位4ビット・アドレス指定)

図3-32 [HL+B], [HL+C]の例

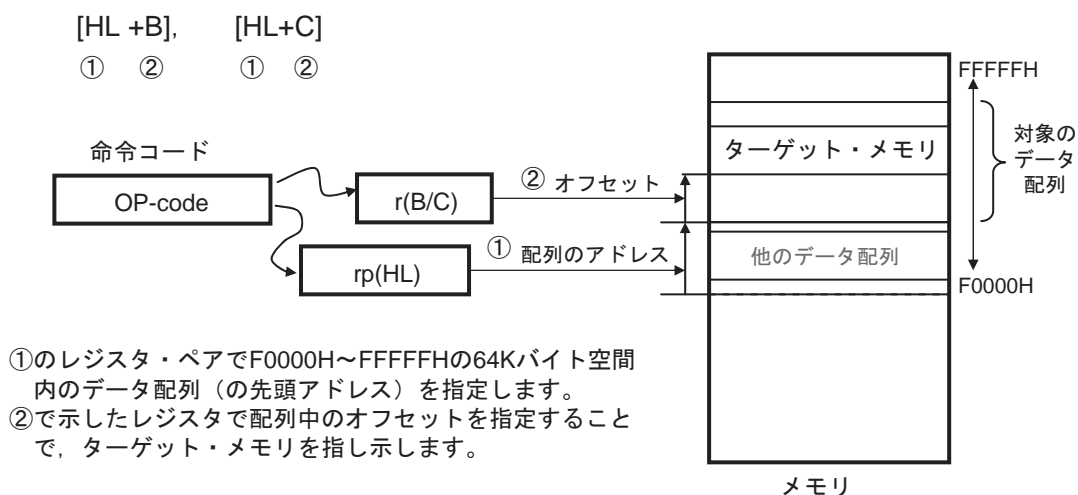
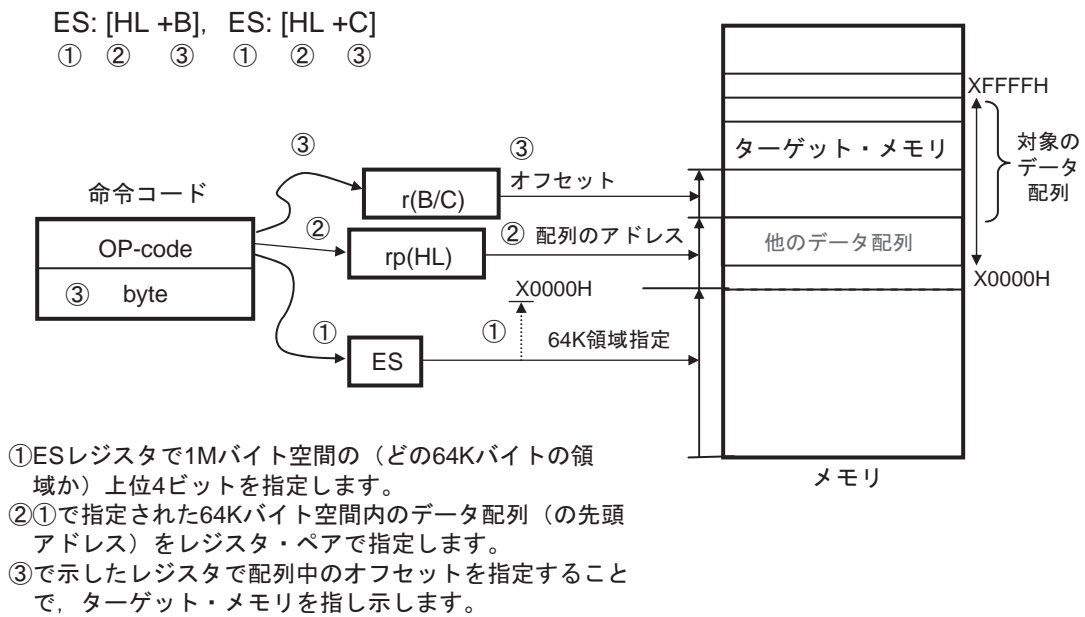


図3-33 ES:[HL+B], ES:[HL+C]の例



3.4.9 スタック・アドレッシング

【機能】

スタック・ポインタ(SP)の内容によりスタック領域を間接的に指定するアドレッシングです。PUSH, POP, サブルーチン・コール, リターン命令の実行時, および割り込み要求発生によるレジスタの退避/復帰時に自動的に用いられます。

スタック・アクセスは内部RAMのみに用いられます。

【記述形式】

表現形式	記述方法
—	PUSH PSW AX/BC/DE/HL POP PSW AX/BC/DE/HL CALL/CALLT RET BRK RETB (割り込み要求発生) RETI

各スタック動作によって退避/復帰されるデータは図3-34~図3-39のようになります。

図3-34 PUSH rpの例

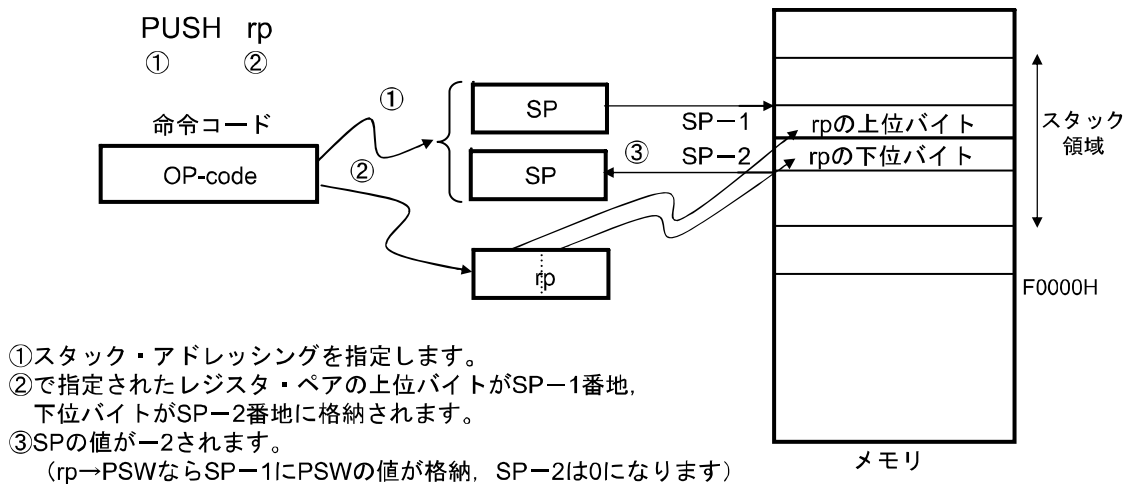


図3-35 POPの例

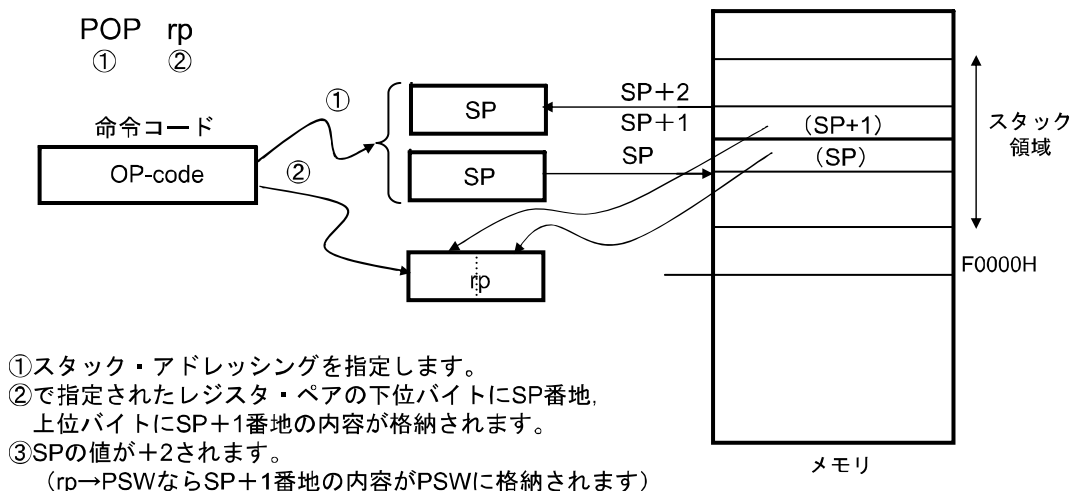


図3-36 CALL, CALLTの例

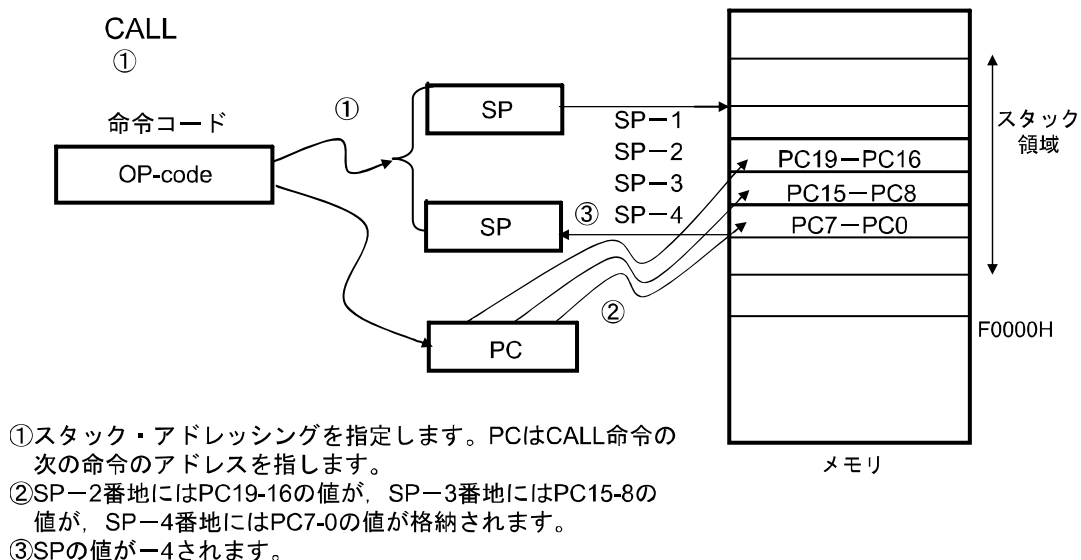


図3-37 RETの例

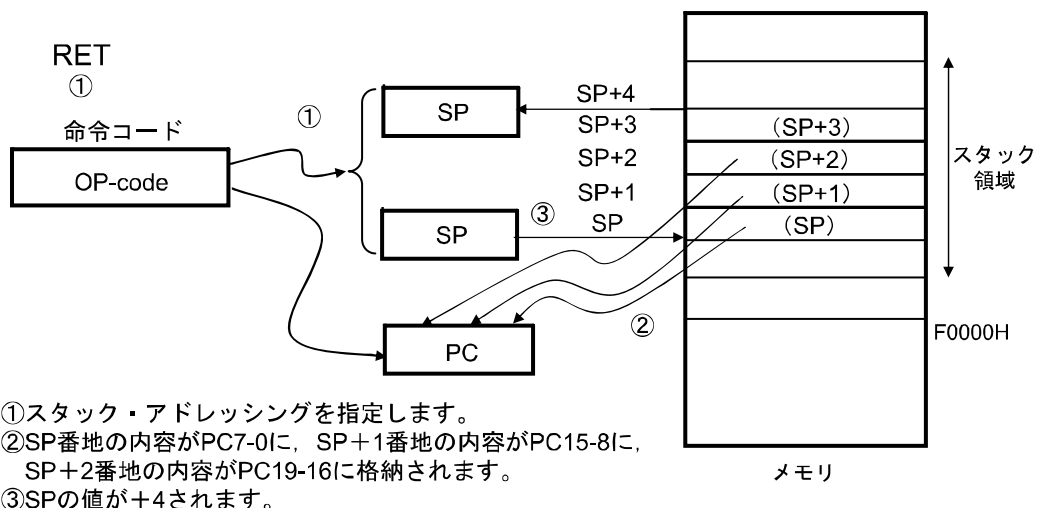
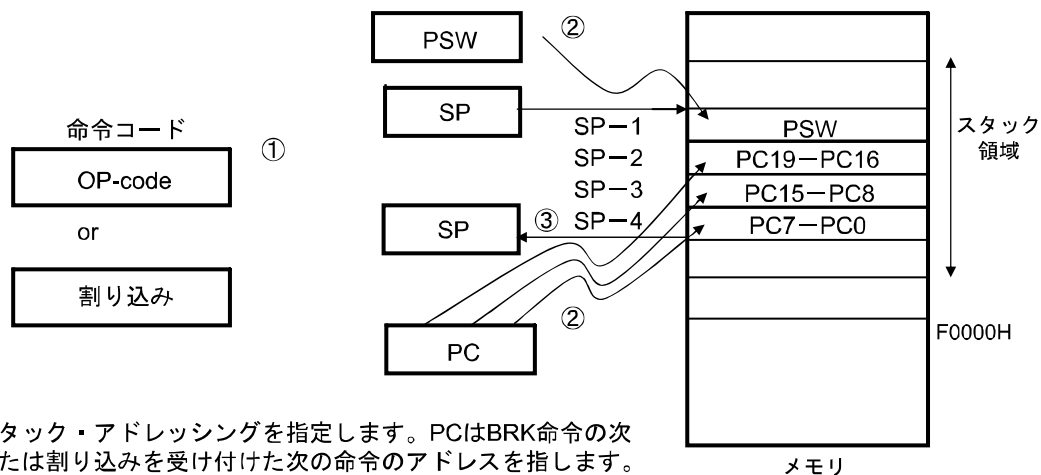
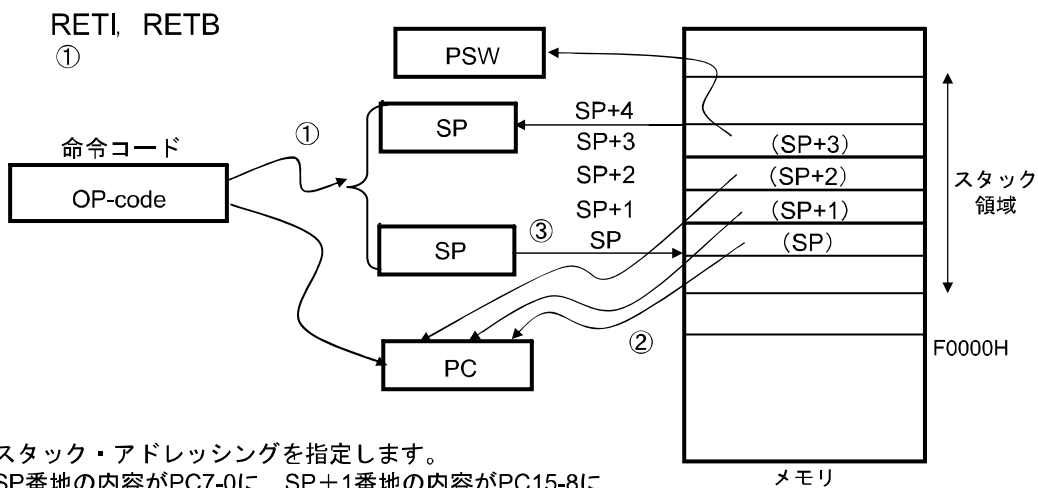


図3-38 割り込み, BRKの例



- ① スタック・アドレッシングを指定します。PCはBRK命令の次または割り込みを受け付けた次の命令のアドレスを指します。
- ② SP-1番地にはPSWの値が、SP-2番地にはPC19-16の値が、SP-3番地にはPC15-8の値が、SP-4番地にはPC7-0の値が格納されます。
- ③ SPの値が-4されます。

図3-39 RETI, RETBの例



- ① スタック・アドレッシングを指定します。
- ② SP番地の内容がPC7-0に、SP+1番地の内容がPC15-8に、SP+2番地の内容がPC19-16に、SP+3番地の内容がPSW格納されます。
- ③ SPの値が+4されます。

第4章 ポート機能

4.1 ポートの機能

RL78/L12は、デジタル入出力ポートを備えており、多様な制御を行うことができます。

また、デジタル入出力ポートとしての機能以外に、各種兼用機能を備えています。兼用機能については、第2章 端子機能を参照してください。

4.2 ポートの構成

ポートは、次のハードウェアで構成しています。

表4-1 ポートの構成

項目	構成
制御レジスタ	ポート・モード・レジスタ (PM1-PM7, PM12, PM14) ポート・レジスタ (P1-P7, P12-P14) ブルアップ抵抗オプション・レジスタ (PU1, PU3- PU5, PU7, PU12, PU14) ポート入力モード・レジスタ (PIM1) ポート出力モード・レジスタ (POM1) ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMC1, PMC4, PMC12, PMC14) A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) LCDポート・ファンクション・レジスタ (PFSEG0-PFSEG4) LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)
ポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 32ピン製品 : 合計 : 20本 (CMOS入出力 : 15本, CMOS入力 : 3本, N-chオープン・ドレイン入出力 : 2本) ・ 44ピン製品 : 合計 : 29本 (CMOS入出力 : 22本, CMOS入力 : 5本, N-chオープン・ドレイン入出力 : 2本) ・ 48ピン製品 : 合計 : 33本 (CMOS入出力 : 26本, CMOS入力 : 5本, N-chオープン・ドレイン入出力 : 2本) ・ 52ピン製品 : 合計 : 37本 (CMOS入出力 : 30本, CMOS入力 : 5本, N-chオープン・ドレイン入出力 : 2本) ・ 64ピン製品 : 合計 : 47本 (CMOS入出力 : 39本, CMOS入力 : 5本, CMOS出力 : 1本, N-chオープン・ドレイン入出力 : 2本)
ブルアップ抵抗	<ul style="list-style-type: none"> ・ 32ピン製品 : 合計 : 13本 ・ 44ピン製品 : 合計 : 20本 ・ 48ピン製品 : 合計 : 24本 ・ 52ピン製品 : 合計 : 28本 ・ 64ピン製品 : 合計 : 37本

4.2.1 ポート1

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ1 (PM1) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P10-P17端子を入力ポートとして使用する場合は、

プルアップ抵抗オプション・レジスタ1 (PU1) の設定により、内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P10, P11, P15, P16端子の入力は、ポート入力モード・レジスタ1 (PIM1) の設定により、1ビット単位で通常入力バッファまたはTTL入力バッファに指定できます。

P10, P12, P15, P17端子の出力は、ポート出力モード・レジスタ1 (POM1) の設定により、1ビット単位で通常CMOS出力またはN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD} 耐圧^{注1} / EV_{DD} 耐圧^{注2}) に指定できます。

P13, P14端子を入力として使用する場合は、ポート・モード・コントロール・レジスタ1 (PMC1) でデジタルかアナログかを設定してください (1ビット単位で設定可能)。

また、兼用機能としてシリアル・インタフェースのデータ入出力、シリアル・インタフェースのクロック入出力、プログラミングUARTの入出力、タイマの入出力、LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力、外部割り込み要求入力、A/Dコンバータのアナログ入力機能があります。リセット信号の発生により、以下のようになります。

- ・ P10-P12, P05-P07端子 … 入力モード
- ・ P13, P14端子 … アナログ入力

注1. 32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品 : V_{DD} 耐圧

2. 64ピン製品 : EV_{DD} 耐圧

4.2.2 ポート2

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ2 (PM2) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。

また、兼用機能としてA/Dコンバータのアナログ入力、A/Dコンバータの+側基準電圧入力、A/Dコンバータの-側基準電圧入力があります。

P20/ANI0-P21/ANI1をデジタル入出力として使用する場合は、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) で“デジタル入出力”に設定して、上位ビットから使用してください。

P20/ANI0-P21/ANI1をアナログ入力として使用する場合は、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) でアナログ入力に、かつPM2レジスタで入力モードに設定して、下位ビットから使用してください。

表4-2 P20/ANI0-P21/ANI1端子機能の設定

ADPCレジスタ	PM2レジスタ	ADSレジスタ	P20/ANI0-P21/ANI1端子
デジタル入出力選択	入力モード	—	デジタル入力
	出力モード	—	デジタル出力
アナログ入力選択	入力モード	ANI選択	アナログ入力 (変換対象)
		ANI非選択	アナログ入力 (非変換対象)
	出力モード	ANI選択	設定禁止
		ANI非選択	

リセット信号の発生により、P20/ANI0-P21/ANI1はすべてアナログ入力になります。

4.2.3 ポート3

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ3 (PM3) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P30-P32端子を入力ポートとして使用する場合は、プルアップ抵抗オプション・レジスタ3 (PU3) により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

また、兼用機能として外部割り込み要求入力、リアルタイム・クロックの補正クロック出力、LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力、タイマの入出力機能があります。

リセット信号の発生により、P30-P32は入力モードになります。

4.2.4 ポート4

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ4 (PM4) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P40-P43端子を入力ポートとして使用する場合は、プルアップ抵抗オプション・レジスタ4 (PU4) により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P40はオンチップ・デバッグ許可 (オプション・バイトで設定) の場合は、必ず外部プルアップ抵抗を接続してください。

また、兼用機能としてLCDコントローラ／ドライバのセグメント出力、外部割り込み要求入力、フラッシュ・メモリ・プログラマ／デバッグ用のデータ入出力、タイマの入出力、A/Dコンバータのアナログ入力機能があります。

リセット信号の発生により、P40, P42, P43は入力モードになり、P41はアナログ入力になります。

4.2.5 ポート5

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ5 (PM5) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P50-P54端子を入力ポートとして使用する場合は、プルアップ抵抗オプション・レジスタ5 (PU5) により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

また、兼用機能として外部割り込み要求入力、LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力、タイマ入出力機能があります。

リセット信号の発生により、入力モードになります。

4.2.6 ポート6

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ6 (PM6) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。

P60, P61端子の出力は、N-chオープン・ドレイン出力 (EV_{DD}耐圧^注) です。

また、兼用機能としてLCDコントローラ／ドライバのセグメント出力、シリアル・インタフェースのデータ入出力、シリアル・インタフェースのクロック入出力機能があります。

リセット信号の発生により、入力モードになります。

注. 32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品 : V_{DD}耐圧
64ピン製品 : EV_{DD}耐圧

4.2.7 ポート7

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ7 (PM7) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。入力ポートとして使用する場合は、プルアップ抵抗オプション・レジスタ7 (PU7) により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

また、兼用機能としてキー割り込み入力、LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力機能があります。リセット信号の発生により、入力モードになります。

4.2.8 ポート12

P120, P125-P127は出力ラッチ付き4ビットの入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ12 (PM12) により、1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。入力ポートとして使用する場合は、プルアップ抵抗オプション・レジスタ12 (PU12) により内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P121-P124は4ビットの入力専用ポートです。

P120端子は、ポート・モード・コントロール・レジスタ12 (PMC12) の設定によりデジタル入出力／アナログ入力の指定ができます。

また兼用機能としてA/Dコンバータのアナログ入力、メイン・システム・クロック用発振子接続、サブシステム・クロック用発振子接続、メイン・システム・クロック用外部クロック入力、サブシステム・クロック用外部クロック入力、LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力、LCDコントローラ／ドライバ用コンデンサ接続、LCD駆動用電圧端子機能があります。

リセット信号の発生により、P120はアナログ入力になります。P121-P127は入力モードになります。

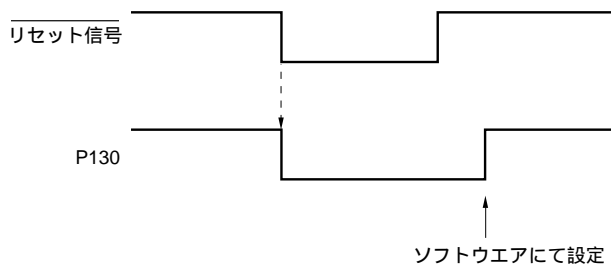
4.2.9 ポート13

P130は出力ラッチ付き1ビット出力専用ポートです。P137は1ビット入力専用ポートです。

P130は出力モード、P137は入力モードに固定されています。

また兼用機能として外部割り込み要求入力があります。

備考 リセットがかかるとP130はロウ・レベルを出力するため、リセットがかかると前にP130をハイ・レベル出力にした場合、P130からの出力をCPUのリセット信号として疑似的に出力するという使い方ができます。



4.2.10 ポート14

出力ラッチ付き入出力ポートです。ポート・モード・レジスタ14 (PM14) により1ビット単位で入力モード／出力モードの指定ができます。P140-P147端子を入力ポートとして使用する場合は、プルアップ抵抗オプション・レジスタ14 (PU14) により1ビット単位で内蔵プルアップ抵抗を使用できます。

P142-P145端子は、ポート・モード・コントロール・レジスタ14 (PMC14) の設定によりデジタル入出力／アナログ入力の指定ができます。

また、兼用機能としてクロック／ブザー出力、LCDコントローラ／ドライバのセグメント出力、A/Dコンバータのアナログ入力、タイマ入出力機能があります。

リセット信号の発生により、P140, P141, P146, P147は入力モードになり、P142-P145はアナログ入力になります。

4.3 ポート機能を制御するレジスタ

ポートは、次のレジスタで制御します。

- ・ポート・モード・レジスタ (PMxx)
- ・ポート・レジスタ (Pxx)
- ・プルアップ抵抗オプション・レジスタ (PUxx)
- ・ポート入力モード・レジスタ (PIMx)
- ・ポート出力モード・レジスタ (POMx)
- ・ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx)
- ・A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC)
- ・周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR)
- ・LCDポート・ファンクション・レジスタ (PFSEG0-PFSEG4)
- ・LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)

注意 各レジスタの未定義ビット（製品によって異なる）は、初期値から変更しないでください。

表4-3 各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxx, PMCxxレジスタとそのビット（1/3）

ポート	ビット名						64	52	48	44	32
	PMxx レジスタ	Pxx レジスタ	PUxx レジスタ	PIMxx レジスタ	POMxx レジスタ	PMCxx レジスタ	ピン	ピン	ピン	ピン	ピン
ポート0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポート1	0	PM10	P10	PU10	PIM10	POM10	—	○	○	○	○
	1	PM11	P11	PU11	PIM11	—	—	○	○	○	○
	2	PM12	P12	PU12	—	POM12	—	○	○	○	○
	3	PM13	P13	PU13	—	—	PMC13	○	○	○	○
	4	PM14	P14	PU14	—	—	PMC14	○	○	○	○
	5	PM15	P15	PU15	PIM15	POM15	—	○	○	○	○
	6	PM16	P16	PU16	PIM16	—	—	○	○	○	○
	7	PM17	P17	PU17	—	POM17	—	○	○	○	○
ポート2	0	PM20	P20	—	—	—	—	○	○	○	○
	1	PM21	P21	—	—	—	—	○	○	○	○
	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表4-3 各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxx, PMCxxレジスタとそのビット (2/3)

ポート		ビット名					64	52	48	44	32	
		PMxx レジスタ	Pxx レジスタ	PUxx レジスタ	PIMxx レジスタ	POMxx レジスタ	PMCxx レジスタ	ピン	ピン	ピン	ピン	
ポート3	0	PM30	P30	PU30	—	—	—	○	○	○	○	○
	1	PM31	P31	PU31	—	—	—	○	○	○	○	—
	2	PM32	P32	PU32	—	—	—	○	○	○	○	—
	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポート4	0	PM40	P40	PU40	—	—	—	○	○	○	○	○
	1	PM41	P41	PU41	—	—	PMC41	○	○	○	—	—
	2	PM42	P42	PU42	—	—	—	○	○	—	—	—
	3	PM43	P43	PU43	—	—	—	○	—	—	—	—
	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポート5	0	PM50	P50	PU50	—	—	—	○	○	○	—	—
	1	PM51	P51	PU51	—	—	—	○	○	—	—	—
	2	PM52	P52	PU52	—	—	—	○	—	—	—	—
	3	PM53	P53	PU53	—	—	—	○	—	—	—	—
	4	PM54	P54	PU54	—	—	—	○	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポート6	0	PM60	P60	—	—	—	—	○	○	○	○	○
	1	PM61	P61	—	—	—	—	○	○	○	○	○
	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポート7	0	PM70	P70	PU70	—	—	—	○	○	○	—	—
	1	PM71	P71	PU71	—	—	—	○	○	—	—	—
	2	PM72	P72	PU72	—	—	—	○	—	—	—	—
	3	PM73	P73	PU73	—	—	—	○	—	—	—	—
	4	PM74	P74	PU74	—	—	—	○	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表4-3 各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxx, PMCxxレジスタとそのビット (3/3)

ポート	ビット名						64	52	48	44	32	
	PMxx レジスタ	Pxx レジスタ	PUxx レジスタ	PIMxx レジスタ	POMxx レジスタ	PMCxx レジスタ	ピン	ピン	ピン	ピン	ピン	
ポート8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ポート9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ポート10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ポート11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ポート12	0	PM120	P120	PU120	—	—	PMC120	○	○	○	○	—
	1	—	P121	—	—	—	—	○	○	○	○	○
	2	—	P122	—	—	—	—	○	○	○	○	○
	3	—	P123	—	—	—	—	○	○	○	○	—
	4	—	P124	—	—	—	—	○	○	○	○	—
	5	PM125	P125	PU125	—	—	—	○	○	○	○	—
	6	PM126	P126	PU126	—	—	—	○	○	○	○	○
7	PM127	P127	PU127	—	—	—	○	○	○	○	○	
ポート13	0	—	P130	—	—	—	—	○	—	—	—	—
	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	—	P137	—	—	—	—	○	○	○	○	○	
ポート14	0	PM140	P140	PU140	—	—	—	○	○	○	○	○
	1	PM141	P141	PU141	—	—	—	○	○	○	○	—
	2	PM142	P142	PU142	—	—	PMC142	○	○	○	○	—
	3	PM143	P143	PU143	—	—	PMC143	○	○	○	○	—
	4	PM144	P144	PU144	—	—	PMC144	○	○	○	—	—
	5	PM145	P145	PU145	—	—	PMC145	○	○	—	—	—
	6	PM146	P146	PU146	—	—	—	○	—	—	—	—
7	PM147	P147	PU147	—	—	—	○	—	—	—	—	
ポート15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

各レジスタのフォーマットの説明を次に示します。ここでは64ピン製品を例として説明しています。

64ピン製品以外のレジスタ搭載については、表4-3を参照してください。

4.3.1 ポート・モード・レジスタ (PMxx)

ポートの入力/出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

ポート・モード・レジスタは、それぞれ1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHになります。

ポート端子を兼用機能の端子として使用する場合、4.5 兼用端子使用時のレジスタ設定を参照し、設定してください。

図4-1 ポート・モード・レジスタのフォーマット (64ピン製品)

略号	7	6	5	4	3	2	1	0	アドレス	リセット時	R/W
PM1	PM17	PM16	PM15	PM14	PM13	PM12	PM11	PM10	FFF21H	FFH	R/W
PM2	1	1	1	1	1	1	PM21	PM20	FFF22H	FFH	R/W
PM3	1	1	1	1	1	PM32	PM31	PM30	FFF23H	FFH	R/W
PM4	1	1	1	1	PM43	PM42	PM41	PM40	FFF24H	FFH	R/W
PM5	1	1	1	PM54	PM53	PM52	PM51	PM50	FFF25H	FFH	R/W
PM6	1	1	1	1	1	1	PM61	PM60	FFF26H	FFH	R/W
PM7	1	1	1	PM74	PM73	PM72	PM71	PM70	FFF27H	FFH	R/W
PM12	PM127	PM126	PM125	1	1	1	1	PM120	FFF2CH	FFH	R/W
PM14	PM147	PM146	PM145	PM144	PM143	PM142	PM141	PM140	FFF2EH	FFH	R/W

PMmn	Pmn端子の入出力モードの選択 (m = 1-7, 12, 14; n = 0-7)
0	出力モード (出力バッファ・オン)
1	入力モード (出力バッファ・オフ)

注意 搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

4.3.2 ポート・レジスタ (Pxx)

ポートの出カラッチの値を設定するレジスタです。

リードする場合、入力モード時は端子レベルが、出力モード時はポートの出カラッチの値が読み出されます^注。

ポート・レジスタは、それぞれ1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

注 P13, P14, P20, P21, P41, P120, P142-P145をA/Dコンバータのアナログ入力機能として設定した場合に、ポートが入力モード時にリードすると端子レベルではなく常に0が読み出されます。

図4-2 ポート・レジスタのフォーマット (64ピン製品)

略号	7	6	5	4	3	2	1	0	アドレス	リセット時	R/W
P1	P17	P16	P15	P14	P13	P12	P11	P10	FFF01H	00H (出カラッチ)	R/W
P2	0	0	0	0	0	0	P21	P20	FFF02H	00H (出カラッチ)	R/W
P3	0	0	0	0	0	P32	P31	P30	FFF03H	00H (出カラッチ)	R/W
P4	0	0	0	0	P43	P42	P41	P40	FFF04H	00H (出カラッチ)	R/W
P5	0	0	0	P54	P53	P52	P51	P50	FFF05H	00H (出カラッチ)	R/W
P6	0	0	0	0	0	0	P61	P60	FFF06H	00H (出カラッチ)	R/W
P7	0	0	0	P74	P73	P72	P71	P70	FFF07H	00H (出カラッチ)	R/W
P12	P127	P126	P125	P124	P123	P122	P121	P120	FFF0CH	不定	R/W ^{注1}
P13	P137	0	0	0	0	0	0	P130	FFF0DH	注2	R/W ^{注1}
P14	P147	P146	P145	P144	P143	P142	P141	P140	FFF0EH	00H (出カラッチ)	R/W

Pmn	出力データの制御 (出力モード時)	入力データの読み出し (入力モード時)
0	0を出力	ロウ・レベルを入力
1	1を出力	ハイ・レベルを入力

注 1. P121-P124, P137はRead Onlyです。

2. P137 : 不定

P130 : 0 (出カラッチ)

注意 搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

備考 m = 1-7, 12-14 ; n = 0-7

4.3.3 プルアップ抵抗オプション・レジスタ (PUxx)

内蔵プルアップ抵抗を使用するか、しないかを設定するレジスタです。プルアップ抵抗オプション・レジスタで内蔵プルアップ抵抗の使用を指定した端子で、POMmn = 0で入力モード (PMmn = 1) に設定したビットにのみ、ビット単位で内部プルアップ抵抗が使用できます。出力モードに設定したビットは、プルアップ抵抗オプション・レジスタの設定にかかわらず、内蔵プルアップ抵抗は接続されません。兼用機能の出力端子として使用するときやアナログ設定 (PMC = 1, ADPC = 1) にしている場合も同様です。

プルアップ抵抗オプション・レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00H (PU4のみ01H) になります。

注意 PIMnレジスタがあるポートで、異電位デバイスからTTLバッファに入力する場合は、PUmn = 0を設定して、外部抵抗で異電位デバイスの電源にプルアップしてください。

図4-3 プルアップ抵抗オプション・レジスタのフォーマット (64ピン製品)

略号	7	6	5	4	3	2	1	0	アドレス	リセット時	R/W
PU1	PU17	PU16	PU15	PU14	PU13	PU12	PU11	PU10	F0031H	00H	R/W
PU3	0	0	0	0	0	PU32	PU31	PU30	F0033H	00H	R/W
PU4	0	0	0	0	PU43	PU42	PU41	PU40	F0034H	01H	R/W
PU5	0	0	0	PU54	PU53	PU52	PU51	PU50	F0035H	00H	R/W
PU7	0	0	0	PU74	PU73	PU72	PU71	PU70	F0037H	00H	R/W
PU12	PU127	PU126	PU125	0	0	0	0	PU120	F003CH	00H	R/W
PU14	PU147	PU146	PU145	PU144	PU143	PU142	PU141	PU140	F003EH	00H	R/W

PUmn	Pmnの内蔵プルアップ抵抗の選択 (m = 1, 3-5, 7, 12, 14 ; n = 0-7)
0	内蔵プルアップ抵抗を接続しない
1	内蔵プルアップ抵抗を接続する

- 注意 1. LCD機能 (SEGxx, CAPL, CAPH, VL3) として使用する端子は、必ずPUmレジスタのPUmnビット = 0に設定してください。
2. 搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

4.3.4 ポート入力モード・レジスタ (PIM1)

入力バッファを1ビット単位で設定するレジスタです。

異電位の外部デバイスとのシリアル通信などにTTL入力バッファを選択できます。

ポート入力モード・レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図4-4 ポート入力モード・レジスタのフォーマット (64ピン製品)

略号	7	6	5	4	3	2	1	0	アドレス	リセット時	R/W
PIM1	0	PIM16	PIM15	0	0	0	PIM11	PIM10	F0041H	00H	R/W

PIM1n	P1n端子の入力バッファの選択 (n = 0, 1, 5, 6)
0	通常入力バッファ
1	TTL入力バッファ

- 注意 1. P10/SCK00/SEG28, P11/SI00/RxD0/TOOLRxD/SEG29, P15/SCK01/INTP1/SEG4, P16/SI01/INTP2/SEG5をLCDコントローラ/ドライバ機能 (セグメント出力端子) として使用する場合は、PIM1nビット = 1の設定は禁止です。
2. 搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

4.3.5 ポート出力モード・レジスタ (POM1)

P10, P12, P15, P17の出力モードを1ビット単位で設定するレジスタです。

異電位の外部デバイスとのシリアル通信時にN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD} 耐圧^{注1}/ EV_{DD} 耐圧^{注2}) モードを選択できます。

また、POMxxレジスタはPUxxレジスタとともに、内蔵プルアップ抵抗を使用するかどうかを設定します。ポート出力モード・レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。リセット信号の発生により、00Hになります。

注意 N-chオープンドレイン出力 (V_{DD} 耐圧^{注1}/ EV_{DD} 耐圧^{注2}) モード (POM1u=1) を設定したビットは、内蔵プルアップ抵抗が接続されません。

図4-5 ポート出力モード・レジスタのフォーマット (64ピン製品)

略号	7	6	5	4	3	2	1	0	アドレス	リセット時	R/W
POM1	POM17	0	POM15	0	0	POM12	0	POM10	F0051H	00H	R/W

POM1n	P1n端子の出力モードの選択 (n = 0, 2, 5, 7)
0	通常出力モード
1	N-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD} 耐圧 ^{注1} / EV_{DD} 耐圧 ^{注2}) モード

注1. 32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品 : V_{DD} 耐圧

2. 64ピン製品 : EV_{DD} 耐圧

注意 搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

4.3.6 ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx)

デジタル入出力／アナログ入力を1ビット単位で設定するレジスタです。

ポート・モード・コントロール・レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHになります。

図4-6 ポート・モード・コントロール・レジスタのフォーマット (64ピン製品)

略号	7	6	5	4	3	2	1	0	アドレス	リセット時	R/W
PMC1	1	1	1	PMC14	PMC13	1	1	1	F0061H	FFH	R/W
PMC4	1	1	1	1	1	1	PMC41	1	F0064H	FFH	R/W
PMC12	1	1	1	1	1	1	1	PMC120	F006CH	FFH	R/W
PMC14	1	1	PMC145	PMC144	PMC143	PMC142	1	1	F006EH	FFH	R/W

PMCmn	Pmn端子のデジタル入出力／アナログ入力の選択 (m = 1, 4, 12, 14 ; n = 0-5)
0	デジタル入出力 (アナログ入力以外の兼用機能)
1	アナログ入力

- 注意 1. PMCxxレジスタでアナログ入力を設定したポートは、ポート・モード・レジスタ1, 4, 12, 14 (PM1, PM4, PM12, PM14) で入力モードに選択してください。
2. PMCレジスタでデジタル入出力として設定する端子を、アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) で設定しないでください。
3. 搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

4.3.7 A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC)

ANI0/P20, ANI1/P21端子を, A/Dコンバータのアナログ入力/ポートのデジタル入出力に切り替えるレジスタです。

ADPCレジスタは, 8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により, 00Hになります。

図4-7 A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) のフォーマット

アドレス : F0076H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADPC	0	0	0	0	0	0	ADPC1	ADPC0

ADPC1	ADPC0	アナログ入力 (A) / デジタル入出力 (D) の切り替え	
		ANI1/P21	ANI0/P20
0	0	A	A
0	1	D	D
1	0	D	A
1	1	A	A

- 注意1. ADPCレジスタでアナログ入力に設定したポートは, ポート・モード・レジスタ2 (PM2) で入力モードに選択してください。
2. ADPCレジスタでデジタル入出力として設定する端子を, アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) で設定しないでください。
3. AV_{REFP}とAV_{REFM}を使用する場合は, ANI0とANI1をアナログ入力に設定し, ポート・モード・レジスタは入力モードに設定してください。

4.3.8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR)

周辺I/Oリダイレクト機能の許可／禁止を設定するレジスタです。

周辺I/Oリダイレクト機能は、兼用機能を割り当てるポートを切り替える機能です。

リダイレクトさせる機能は、PIORレジスタでポートを割り当ててから、動作許可にしてください。

なお、リダイレクトの設定を変更できるのは、その機能を動作許可にするまでです。

PIORレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図4-8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のフォーマット

アドレス : F0077H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PIOR	0	0	0	0	0	0	PIOR1	PIOR0

ビット	機能	64ピン		52ピン		48ピン		44ピン		32ピン	
		設定値		設定値		設定値		設定値		設定値	
		0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
PIOR1	PCLBUZ0	P140	P50	P140	P50	P140	P50	兼用機能として使用できません。 0 (初期値) を設定してください。			
PIOR0	INTP1	P15	P53	P15	P10	P15	P10	P15	P10	P15	P10
	INTP2	P16	P54	P16	P11	P16	P11	P16	P11	P16	P11
	INTP6	P52	P140	—	—	—	—	—	—	—	—
	INTP7	P43	P141	—	—	—	—	—	—	—	—
	TI02/TO02	P17	P54	P17	P12	P17	P12	P17	P12	P17	P12

4.3.9 LCDポート・ファンクション・レジスタ0-4 (PFSEG0-PFSEG4)

P10-P17, P30-P32, P41-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P140-P147端子をポート(セグメント出力以外) /セグメント出力のどちらかで使用するかを設定するレジスタです。PFSEG0-PFSEG4レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHになります(PFSEG0はF0H, PFSEG4は7FH)。

備考 セグメント出力端子(SEGxx)とPFSEGレジスタ(PFSEGxxビット)の対応と、製品によるSEGxx端子の有無を表4-4 各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ(PFSEGビット)に示します。

図4-9 LCDポート・ファンクション・レジスタ (PFSEG0-PFSEG4) のフォーマット (64ピン製品)

アドレス : F0300H	リセット時 : F0H	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG0	PFSEG07	PFSEG06	PFSEG05	PFSEG04	0	0	0	0

アドレス : F0301H	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG1	PFSEG15	PFSEG14	PFSEG13	PFSEG12	PFSEG11	PFSEG10	PFSEG09	PFSEG08

アドレス : F0302H	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG2	PFSEG23	PFSEG22	PFSEG21	PFSEG20	PFSEG19	PFSEG18	PFSEG17	PFSEG16

アドレス : F0303H	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG3	PFSEG31	PFSEG30	PFSEG29	PFSEG28	PFSEG27	PFSEG26	PFSEG25	PFSEG24

アドレス : F0304H	リセット時 : 7FH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG4	0	PFSEG38	PFSEG37	PFSEG36	PFSEG35	PFSEG34	PFSEG33	PFSEG32

PFSEGxx (xx=04-38)	Pmn端子のポート(セグメント出力以外) /セグメント出力の指定 (mn = 10-17, 30-32, 41-43, 50-54, 60, 61, 70-74, 120, 140-147)
0	ポート(セグメント出力以外)として使用
1	セグメント出力として使用

表4-4 各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ（PFSEGビット）

PFSEGレジスタの ビット名	対応するSEGxx端子	兼用するポート	64ピン	52ピン	48ピン	44ピン	32ピン
PFSEG04	SEG4	P15	○	○	○	○	○
PFSEG05	SEG5	P16	○	○	○	○	○
PFSEG06	SEG6	P17	○	○	○	○	○
PFSEG07	SEG7	P50	○	○	○	—	—
PFSEG08	SEG8	P51	○	○	—	—	—
PFSEG09	SEG9	P52	○	—	—	—	—
PFSEG10	SEG10	P53	○	—	—	—	—
PFSEG11	SEG11	P54	○	—	—	—	—
PFSEG12	SEG12	P74	○	—	—	—	—
PFSEG13	SEG13	P73	○	—	—	—	—
PFSEG14	SEG14	P72	○	—	—	—	—
PFSEG15	SEG15	P71	○	○	—	—	—
PFSEG16	SEG16	P70	○	○	○	—	—
PFSEG17	SEG17	P32	○	○	○	○	—
PFSEG18	SEG18	P31	○	○	○	○	—
PFSEG19	SEG19	P30	○	○	○	○	○
PFSEG20	SEG20	P61	○	○	○	○	○
PFSEG21	SEG21	P60	○	○	○	○	○
PFSEG22	SEG22	P43	○	—	—	—	—
PFSEG23	SEG23	P42	○	○	—	—	—
PFSEG24	SEG24	P41	○	○	○	—	—
PFSEG25	SEG25	P120	○	○	○	○	—
PFSEG26	SEG26	P141	○	○	○	○	—
PFSEG27	SEG27	P140	○	○	○	○	○
PFSEG28	SEG28	P10	○	○	○	○	○
PFSEG29	SEG29	P11	○	○	○	○	○
PFSEG30	SEG30	P12	○	○	○	○	○
PFSEG31	SEG31	P13	○	○	○	○	○
PFSEG32	SEG32	P14	○	○	○	○	○
PFSEG33	SEG33	P142	○	○	○	○	—
PFSEG34	SEG34	P143	○	○	○	○	—
PFSEG35	SEG35	P144	○	○	○	—	—
PFSEG36	SEG36	P145	○	○	—	—	—
PFSEG37	SEG37	P146	○	—	—	—	—
PFSEG38	SEG38	P147	○	—	—	—	—

備考 ○：サポートする —：サポートしない

4.3.10 LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)

CAPL/P126, CAPH/P127, VL3/P125端子は、シュミット・トリガ・バッファが内部で接続されています。

CAPL/P126, CAPH/P127, VL3/P125端子をLCD機能として使用する場合には、貫通電流の進入を防ぐために、シュミット・トリガ・バッファを入力禁止にする必要があります。

ISCLCDレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00HIになります。

図4-10 LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)

アドレス : F0308H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ISCLCD	0	0	0	0	0	0	ISCVL3	ISCCAP

ISCVL3	VL3/P125端子のシュミット・トリガ・バッファの制御
0	デジタル入力無効
1	デジタル入力有効

ISCCAP	CAPL/P126, CAPH/P127端子のシュミット・トリガ・バッファの制御
0	デジタル入力無効
1	デジタル入力有効

- 注意1. ISCVL3ビット = 0の場合、対応するポート制御レジスタは、次のように設定してください。
 PU12レジスタのPU125ビット = 0, P12レジスタのP125ビット = 0
2. ISCCAPビット = 0の場合、対応するポート制御レジスタは、次のように設定してください。
 PU12レジスタのPU127ビット = 0, P12レジスタのP127ビット = 0
 PU12レジスタのPU126ビット = 0, P12レジスタのP126ビット = 0

4.4 ポート機能の動作

ポートの動作は、次に示すように入出力モードの設定によって異なります。

4.4.1 入出力ポートへの書き込み

(1) 出力モードの場合

転送命令により、出力ラッチに値を書き込みます。また、出力ラッチの内容が端子より出力されます。一度出力ラッチに書き込まれたデータは、もう一度出力ラッチにデータを書き込むまで保持されます。また、リセット信号が発生したときに、出力ラッチのデータはクリアされます。

(2) 入力モードの場合

転送命令により、出力ラッチに値を書き込みます。しかし、出力バッファがオフしていますので、端子の状態は変化しません。このため、入力と出力が混在するポートでのバイト書き込みができます。

一度出力ラッチに書き込まれたデータは、もう一度出力ラッチにデータを書き込むまで保持されます。また、リセット信号が発生したときに、出力ラッチのデータはクリアされます。

4.4.2 入出力ポートからの読み出し

(1) 出力モードの場合

転送命令により、出力ラッチの内容が読み出せます。出力ラッチの内容は変化しません。

(2) 入力モードの場合

転送命令により、端子の状態が読み出せます。出力ラッチの内容は変化しません。

4.4.3 入出力ポートでの演算

(1) 出力モードの場合

出力ラッチの内容と演算を行い、結果を出力ラッチに書き込みます。また、出力ラッチの内容が端子より出力されます。

一度出力ラッチに書き込まれたデータは、もう一度出力ラッチにデータを書き込むまで保持されます。また、リセット信号が発生したときに、出力ラッチのデータはクリアされます。

(2) 入力モードの場合

端子レベルをリードし、その内容と演算を行います。演算結果を出力ラッチに書き込みます。しかし、出力バッファがオフしていますので、端子の状態は変化しません。このため、入力と出力が混在するポートでのバイト書き込みができます。

また、リセット信号が発生したときに、出力ラッチのデータはクリアされます。

4.4.4 異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）外部デバイスとの接続方法

異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）外部デバイスとの接続時にはEV_{DD}を接続先の電源に合わせることで対応できます。EV_{DD}が独立していない製品でも、ポート1は、1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系の電圧で動作している外部デバイスとのシリアル・インタフェースや汎用ポートでの入出力接続が可能です。

4.4.5 入出力バッファによる異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）対応

ポート入力モード・レジスタ（PIM1）、ポート出力モード・レジスタ（POM1）で入出力バッファを切り換えることにより、異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）で動作している外部デバイスとの接続が可能になります。

異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）の外部デバイスからの入力を受ける場合、ポート入力モード・レジスタ1（PIM1）をビットごとに設定して、通常入力（CMOS）/TTL入力バッファを切り換えます。

異電位（1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系）の外部デバイスへ出力する場合、ポート出力モード・レジスタ1（POM1）をビットごとに設定して、通常出力（CMOS）/N-chオープン・ドレイン（V_{DD}耐圧^{注1}/EV_{DD}耐圧^{注2}）を切り換えます。

以下、シリアル・インタフェースでの接続について説明します。

注 1. 32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品の場合

2. 64ピン製品の場合

(1) UART0, CSI00, CSI01機能の入力ポートをTTL入力バッファで使用する場合の設定手順

UART0の場合 : P11

CSI00の場合 : P10, P11

CSI01の場合 : P15, P16

- ① 使用する入力端子を外部抵抗を介して、対象デバイスの電源にプルアップします（内蔵プルアップ抵抗は使用不可）。
- ② PIM1レジスタの該当ビットを1に設定し、TTL入力バッファに切り換えます。なお、V_{IH}、V_{IL}は、TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。
- ③ シリアル・アレイ・ユニットを動作許可し、UART/簡易SPI(CSI^注)モードに設定します。

注 一般的にはSPIと呼ばれる機能ですが、本製品ではCSIとも呼称しているため、本マニュアルでは併記します。

(2) UART0, CSI00, CSI01機能の出力ポートをN-chオープン・ドレイン出力モードで使用する場合の設定手順

UART0の場合 : P12

CSI00の場合 : P10, P12

CSI01の場合 : P15, P17

- ① 使用する出力端子を外部抵抗を介して対象デバイスの電源にプルアップします（内蔵プルアップ抵抗は使用不可）。
- ② リセット解除後、ポート・モードは入力モード（Hi-Z）になっています。
- ③ 該当するポートの出カラッチに1を設定します。
- ④ POM1レジスタの該当ビットを1に設定し、N-chオープン・ドレイン出力（V_{DD}耐圧^{注1}／EV_{DD}耐圧^{注2}）モードに設定します。
- ⑤ シリアル・アレイ・ユニットを動作許可し、UART/簡易SPI(CSI)モードに設定します。
- ⑥ PM1レジスタを操作して出力モードに設定します。この時点では、出力データはハイ・レベルであるため、端子はHi-Z状態となっています。

注1. 32ピン, 44ピン, 48ピン, 52ピン製品の場合

2. 64ピン製品の場合

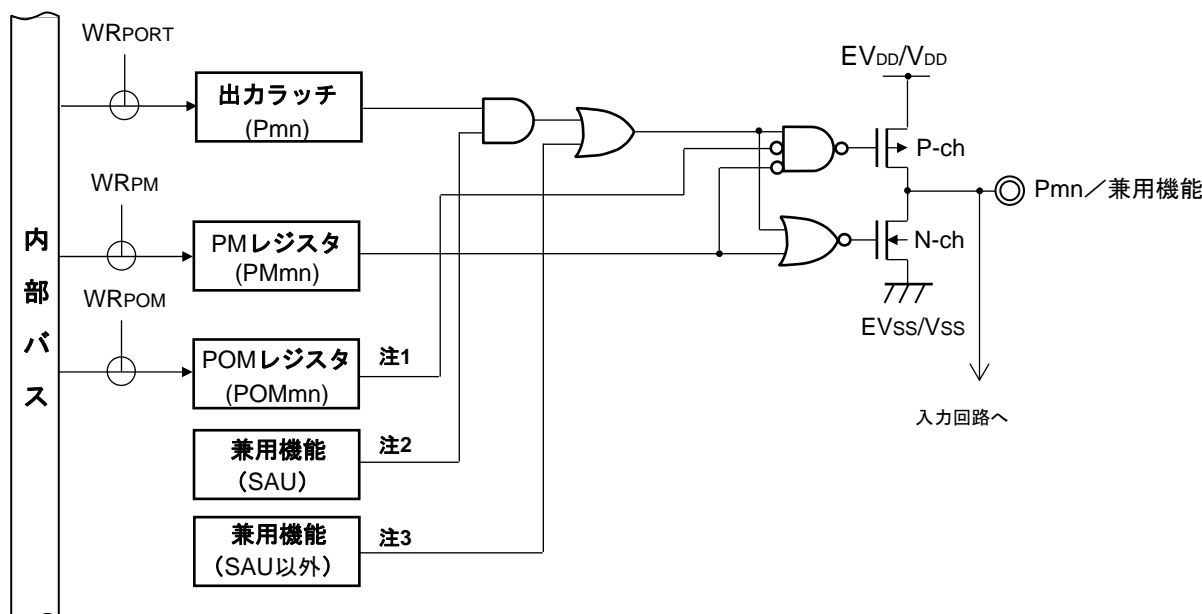
4.5 兼用機能使用時のレジスタ設定

4.5.1 兼用機能使用時の基本的な考え方

最初に、アナログ入力と兼用している端子については、アナログ入力で使用するかデジタル入出力で使用するかをADPCレジスタまたはポート・モード・コントロール・レジスタ（PMCxx）で設定してください。

デジタル入出力で使用する端子の出力回路の基本的な構成を図4-11に示します。ポートの出力ラッチの出力と兼用しているSAU機能の出力はANDゲートに入力されます。ANDゲートの出力はORゲートに入力されます。ORゲートのほかの入力には、兼用しているSAU以外の機能（TAU, RTC, クロック／ブザー出力, IICA等）の出力が接続されています。このような端子をポート機能または兼用機能として使用する場合には、使用しない兼用機能が使用したい機能の出力を邪魔しないようになっている必要があります。このときの基本的な設定の考え方を表4-5に示します。

図4-11 端子の出力回路の基本的な構成



注1. POMレジスタがない場合には、この信号はLow (0) と考えてください。

2. 兼用機能がない場合には、この信号はHigh (1) と考えてください。

3. 兼用機能がない場合には、この信号はLow (0) と考えてください。

備考 m : ポート番号 (m = 1-7, 12-14) , n : ビット番号 (n = 0-7)

表4-5 基本的な設定の考え方

使用する端子の出力機能	使用しない兼用機能の出力設定		
	ポート機能	SAUの出力機能	SAU以外の出力機能
ポート出力機能	—	出力はHigh (1)	出力はLow (0)
SAUの出力機能	High (1)	—	出力はLow (0)
SAU以外の出力機能	Low (0)	出力はHigh (1)	出力はLow (0) 注

注 1つの端子にSAU以外の出力機能が複数兼用になっていることがあるので、使用しない兼用機能の出力はLow (0) にしておく必要があります。具体的な設定方法については、4.5.2 出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定を参照してください。

4.5.2 出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定

端子の兼用機能の出力を使用しない場合には、次に示す設定を行ってください。なお、周辺I/Oリダイレクト機能の対象になっている場合には、周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) を設定することで、出力を他の端子に切り替えることもできます。これにより、対象の端子に割り当てられたポート機能や他の兼用機能を使用することが可能となります。

- (1) $SOp=1/TxDq=1$ (SAUのシリアル出力 (SOp/TxDq) を使用しない場合の設定)

SAUをシリアル入力のみで使用するなど、シリアル出力 (SOp/TxDq) を使用しない場合は、使用しない出力に対応したシリアル出力許可レジスタ m (SOEm) のビットを0 (出力禁止) に設定し、シリアル出力レジスタ m (SOm) のSOmnビットを1 (High) に設定してください。これは初期状態と同じ設定です。

- (2) $SCKp=1/SDAr=1/SCLr=1$ (SAUのチャンネル n を使用しない場合の設定)

SAUを使用しない場合は、シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタ m (SEm) のビット n (SEmn) を0 (動作停止状態) に設定し、使用しない出力に対応したシリアル出力許可レジスタ m (SOEm) のビットを0 (出力禁止) に設定し、シリアル出力レジスタ m (SOm) のSOmnビットとCKOmnビットを1 (High) に設定してください。これは初期状態と同じ設定です。

- (3) $TOmn=0$ (TAUのチャンネル n の出力を使用しない場合の設定)

TAUのTOmn出力を使用しない場合は、使用しない出力に対応したタイマ出力許可レジスタ0 (TOE0) のビットを0 (出力禁止)、タイマ出力レジスタ0 (TO0) のビットを0 (Low) に設定してください。これは初期状態と同じ設定です。

- (4) $SDAAn=0/SCLAn=0$ (IICAを使用しない場合の設定)

IICAを使用しない場合は、IICAコントロール・レジスタ $n0$ (IICCTLn0) のIICEnビットを0 (動作停止) にしてください。これは初期状態と同じ設定です。

- (5) $PCLBUZn=0$ (クロック出力/ブザー出力を使用しない場合の設定)

クロック出力/ブザー出力を使用しない場合は、クロック出力選択レジスタ n (CKSn) のPCLOEnビットを0 (出力禁止) にしてください。これは初期状態と同じ設定です。

備考 p: CSI番号 (p = 00, 01), q: UART番号 (q = 0)

4.5.3 使用するポート機能および兼用機能のレジスタ設定例

使用するポート機能および兼用機能のレジスタ設定例を表4-6に示します。ポート機能を制御するレジスタを表4-6のように設定してください。なお、表4-6の表記については次の備考を参照してください。

備考	—	: 対象外
	x	: don't care
	PIORx	: 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ
	POMxx	: ポート出力モード・レジスタ
	PMCxx	: ポート・モード・コントロール・レジスタ
	PMxx	: ポート・モード・レジスタ
	Pxx	: ポートの出力ラッチ
	PUx x	: プルアップ抵抗オプション・レジスタ
	PIMx x	: ポート入力モード・レジスタ
	PFSEG x x	: LCDポート・ファンクション・レジスタ
	ISCLCD	: LCD入力切り替え制御レジスタ

表4-6 端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（1/6）

端子名称	使用機能		PIORx	POMxx	PMCxx	PMxx	Pxx	PUxx	PIMxx	PFSEGxx	ISCLCD
	機能名称	入出力									
P10	P10	入力	x	x	—	1	x	0/1	0/1	0	—
		出力	x	0/1	—	0	0/1	x	x	0	—
	SCK00	入力	x	x	—	1	x	0/1	0/1	0	—
		出力	x	0/1	—	0	1	x	x	0	—
SEG28	出力	x	0	—	0	0	0	0	1	—	
P11	P11	入力	x	—	—	1	x	0/1	0/1	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	x	0	—
	SI00	入力	x	—	—	1	x	0/1	0/1	0	—
	RxD0	入力	x	—	—	1	x	0/1	0/1	0	—
	TOOLRxD	入力	x	—	—	1	x	0/1	0/1	0	—
	SEG29	出力	x	—	—	0	0	0	0	1	—
P12	P12	入力	x	x	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	0/1	—	0	0/1	x	—	0	—
	SO00	出力	x	0/1	—	0	1	x	—	0	—
	TxD0	出力	x	0/1	—	0	1	x	—	0	—
	TOOLTxD	出力	x	0/1	—	0	1	x	—	0	—
	SEG30	出力	x	0	—	0	0	0	—	1	—
P13	P13	入力	x	—	0	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	0	0	0/1	x	—	0	—
	ANI18	入力	x	—	1	1	x	x	—	—	—
	SEG31	出力	x	—	0	0	0	0	—	1	—
P14	P14	入力	x	—	0	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	0	0	0/1	x	—	0	—
	ANI19	入力	x	—	1	1	x	x	—	—	—
	SEG32	出力	x	—	0	0	0	0	—	1	—
P15	P15	入力	—	x	—	1	x	0/1	0/1	0	—
		出力	—	0/1	—	0	0/1	x	x	0	—
	SCK01	入力	x	x	—	1	x	0/1	0/1	0	—
		出力	x	0/1	—	0	1	x	x	0	—
	INTP1	入力	PIOR0=0	x	—	1	x	0/1	0/1	0	—
SEG4	出力	x	0	—	0	0	0	0	1	—	
P16	P16	入力	x	—	—	1	x	0/1	0/1	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	x	0	—
	SI01	入力	x	—	—	1	x	0/1	0/1	0	—
	INTP2	入力	PIOR0=0	—	—	1	x	0/1	0/1	0	—
	SEG5	出力	x	—	—	0	0	0	0	1	—
P17	P17	入力	x	x	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	0/1	—	0	0/1	x	—	0	—
	SO01	出力	x	0/1	—	0	1	x	—	0	—
	TI02	入力	PIOR0=0	x	—	1	x	0/1	—	0	—
	TO02	出力	PIOR0=0	0/1	—	0	0	x	—	0	—
	SEG6	出力	x	0	—	0	0	0	—	1	—

表4-6 端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（2/6）

端子名称	使用機能		PIORx	POMxx	PMCxx	PMxx	Pxx	PUxx	PIMxx	PFSEGxx	ISCLCD
	機能名称	入出力									
P20	P20	入力	x	—	—	1	x	—	—	—	—
		出力	x	—	—	0	0/1	—	—	—	—
	ANI0	入力	x	—	—	1	x	—	—	—	—
	AVREFP	入力	x	—	—	1	x	—	—	—	—
P21	P21	入力	x	—	—	1	x	—	—	—	—
		出力	x	—	—	0	0/1	—	—	—	—
	ANI1	入力	x	—	—	1	x	—	—	—	—
	AVREFM	入力	x	—	—	1	x	—	—	—	—
P30	P30	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	1	0/1	x	—	0	—
	TI01	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	TO01	出力	x	—	—	0	0	x	—	0	—
	SEG19	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P31	P31	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	INTP3	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	RTC1HZ	出力	x	—	—	0	0	x	—	0	—
	SEG18	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P32	P32	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	TI03	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	TO03	出力	x	—	—	0	0	x	—	0	—
	INTP4	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	SEG17	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P40	P40	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	—	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	—	—
	TOOL0	入出力	x	—	—	x	x	x	—	—	—
P41	P41	入力	x	—	0	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	0	0	0/1	x	—	0	—
	ANI16	入力	x	—	1	1	x	x	—	—	—
	TI04	入力	x	—	0	1	x	0/1	—	0	—
	TO04	出力	x	—	0	0	0	x	—	0	—
	SEG24	出力	x	—	0	0	0	0	—	1	—
P42	P42	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	TI05	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	TO05	出力	x	—	—	0	0	x	—	0	—
	SEG23	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P43	P43	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	INTP7	入力	PIOR0=0	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	SEG22	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—

表4-6 端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例 (3/6)

端子名称	使用機能		PIORx	POMxx	PMCxx	PMxx	Pxx	PUxx	PIMxx	PFSEGxx	ISCLCD
	機能名称	入出力									
P50	P50	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
		出力	×	—	—	0	0/1	×	—	0	—
	INTP5	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
	SEG7	出力	×	—	—	0	0	0	—	1	—
	(PCLBUZ0)	出力	PIOR1=1	—	—	0	0	×	—	0	—
P51	P51	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
		出力	×	—	—	0	0/1	×	—	0	—
	TI06	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
	TO06	出力	×	—	—	0	0	×	—	0	—
	SEG8	出力	×	—	—	0	0	0	—	1	—
P52	P52	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
		出力	×	—	—	0	0/1	×	—	0	—
	INTP6	入力	PIOR0=0	—	—	1	×	0/1	—	0	—
	SEG9	出力	×	—	—	0	0	0	—	1	—
P53	P53	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
		出力	×	—	—	0	0/1	×	—	0	—
	TI07	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
	TO07	出力	×	—	—	0	0	×	—	0	—
	SEG10	出力	×	—	—	0	0	0	—	1	—
	(INTP1)	入力	PIOR0=1	—	—	1	×	0/1	—	0	—
P54	P54	入力	×	—	—	1	×	0/1	—	0	—
		出力	×	—	—	0	0/1	×	—	0	—
	SEG11	出力	×	—	—	0	0	0	—	1	—
	(TI02)	入力	PIOR0=1	—	—	1	×	0/1	—	0	—
	(TO02)	出力	PIOR0=1	—	—	0	0	×	—	0	—
	(INTP2)	入力	PIOR0=1	—	—	1	×	0/1	—	0	—

表4-6 端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（4/6）

端子名称	使用機能		PIORx	POMxx	PMCxx	PMxx	Pxx	PU × ×	PIM × ×	PFSEG × ×	ISCLCD
	機能名称	入出力									
P60	P60	入力	x	—	—	1	x	—	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	—	—	0	—
	SCLA0	入出力	x	—	—	0	0	—	—	0	—
	SEG21	出力	x	—	—	0	0	—	—	1	—
P61	P61	入力	x	—	—	1	x	—	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	—	—	0	—
	SDAA0	入出力	x	—	—	0	0	—	—	0	—
	SEG20	出力	x	—	—	0	0	—	—	1	—
P70	P70	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	KR0	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	SEG16	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P71	P71	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	KR1	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	SEG15	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P72	P72	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	KR2	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	SEG14	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P73	P73	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	KR3	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
	SEG13	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—
P74	P74	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	0	—
	SEG12	出力	x	—	—	0	0	0	—	1	—

表4-6 端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（5/6）

端子名称	使用機能		PIORx	POMxx	PMCxx	PMxx	Pxx	PUxx	PIMxx	PFSEGxx	ISCLCD
	機能名称	入出力									
P120	P120	入力	x	—	0	1	x	0/1	—	0	—
		出力	x	—	0	0	0/1	x	—	0	—
	ANI17	入力	x	—	1	1	x	x	—	—	—
	SEG25	出力	x	—	0	0	0	0	—	1	—
P121	P121	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
		出力	x	—	—	—	0/1	—	—	—	—
	X1	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
P122	P122	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
		出力	x	—	—	—	0/1	—	—	—	—
	X2	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
	EXCLK	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
P123	P123	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
		出力	x	—	—	—	0/1	—	—	—	—
	XT1	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
P124	P124	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
		出力	x	—	—	—	0/1	—	—	—	—
	XT2	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
	EXCLKS	入力	x	—	—	—	x	—	—	—	—
P125	P125	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	—	1
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	—	1
	VL3	入出力	x	—	—	1	0	0	—	—	0
P126	P126	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	—	1
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	—	1
	CAPL	入出力	x	—	—	1	0	0	—	—	0
P127	P127	入力	x	—	—	1	x	0/1	—	—	1
		出力	x	—	—	0	0/1	x	—	—	1
	CAPH	入出力	x	—	—	1	0	0	—	—	0

表4-6 端子機能使用時のレジスタ，出力ラッチの設定例（6/6）

端子名称	使用機能		PIORx	POMxx	PMCxx	PMxx	Pxx	PUxx	PIMxx	PFSEGxx	ISCLCD
	機能名称	入出力									
P130	P130	出力	x	-	-	-	0/1	-	-	-	-
P137	P137	入力	x	-	-	-	x	-	-	-	-
	INTP0	入力	x	-	-	-	x	-	-	-	-
P140	P140	入力	x	-	-	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	-	0	0/1	x	-	0	-
	TO00	出力	x	-	-	0	0	x	-	0	-
	PCLBUZ0	出力	PIOR1=0	-	-	0	0	x	-	0	-
	SEG27	出力	x	-	-	0	0	0	-	1	-
	(INTP6)	入力	PIOR0=1	-	-	1	x	0/1	-	0	-
P141	P141	入力	x	-	-	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	-	0	0/1	x	-	0	-
	TI00	入力	x	-	-	1	x	0/1	-	0	-
	PCLBUZ1	出力	x	-	-	0	0	x	-	0	-
	SEG26	出力	x	-	-	0	0	0	-	1	-
	(INTP7)	入力	PIOR0=1	-	-	1	x	0/1	-	0	-
P142	P142	入力	x	-	0	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	0	0	0/1	x	-	0	-
	ANI20	入力	x	-	1	1	x	x	-	-	-
	SEG33	出力	x	-	0	0	0	0	-	1	-
P143	P143	入力	x	-	0	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	0	0	0/1	x	-	0	-
	ANI21	入力	x	-	1	1	x	x	-	-	-
	SEG34	出力	x	-	0	0	0	0	-	1	-
P144	P144	入力	x	-	0	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	0	0	0/1	x	-	0	-
	ANI22	入力	x	-	1	1	x	x	-	-	-
	SEG35	出力	x	-	0	0	0	0	-	1	-
P145	P145	入力	x	-	0	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	0	0	0/1	x	-	0	-
	ANI23	入力	x	-	1	1	x	x	-	-	-
	SEG36	出力	x	-	0	0	0	0	-	1	-
P146	P146	入力	x	-	-	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	-	0	0/1	x	-	0	-
	SEG37	出力	x	-	-	0	0	0	-	1	-
P147	P147	入力	x	-	-	1	x	0/1	-	0	-
		出力	x	-	-	0	0/1	x	-	0	-
	SEG38	出力	x	-	-	0	0	0	-	1	-

4.6 ポート機能使用時の注意事項

4.6.1 ポート・レジスタ n (P n) に対する1ビット・メモリ操作命令に関する注意事項

入力／出力が混在しているポートに対して1ビット・メモリ操作命令を行った場合、操作対象のビットだけでなく、操作対象ではない入力ポートの出力ラッチの値も書き換わる可能性があります。

そのため、任意のポートを入力モードから出力モードに切り替える前には、出力ラッチの値を書き直すことを推奨します。

<例> P10は出力ポート、P11-P17は入力ポート（端子状態はすべてハイ・レベル）で、かつポート1の出力ラッチの値が“00H”のとき、出力ポートP10の出力を1ビット・メモリ操作命令により“ロウ・レベル”→“ハイ・レベル”とすると、ポート1の出力ラッチの値は、“FFH”になります。

説明：PM m nビット=1であるポートのP n レジスタへの書き込みの対象は出力ラッチ、読み出しの対象は端子状態です。

1ビット・メモリ操作命令はRL78/L12内部で、次の順序で行われます。

<1> P n レジスタを8ビット単位で読み出し

<2> 対象の1ビットを操作

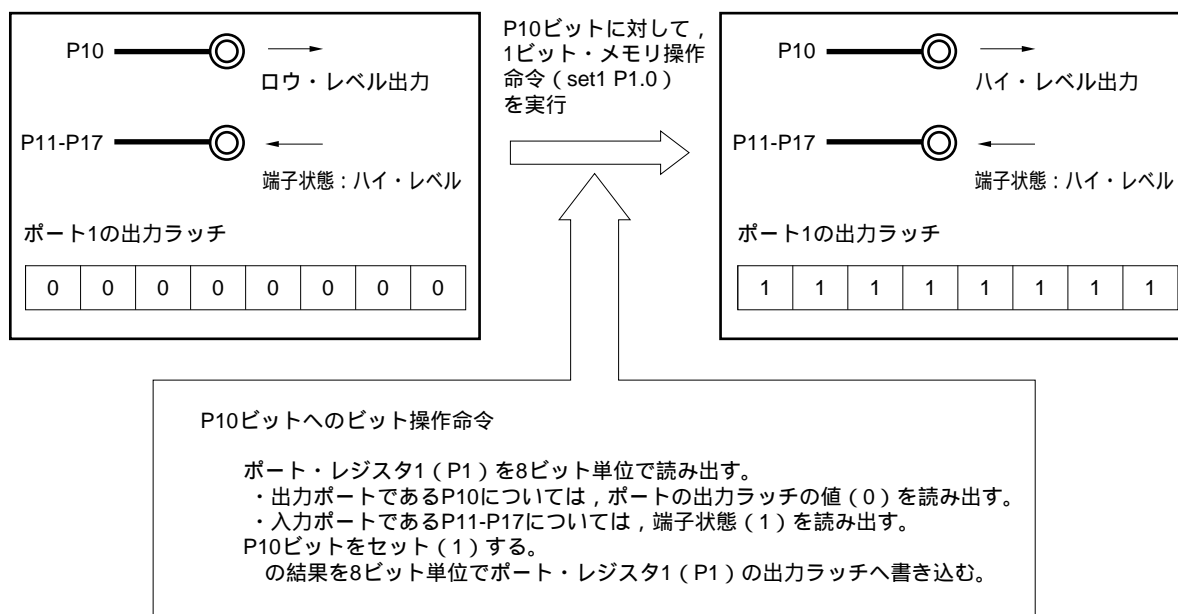
<3> P n レジスタへ8ビット単位で書き込み

<1> のとき、出力ポートであるP10は出力ラッチの値（0）を読み出し、入力ポートであるP11-P17は端子状態を読み出します。このときP11-P17の端子状態が“ハイ・レベル”とすると、読み出し値は“FEH”となります。

<2> の操作で、値は“FFH”となります。

<3> の操作で、出力ラッチに“FFH”が書き込まれます。

図4-12 1ビット・メモリ操作命令（P10の場合）



4.6.2 端子設定に関する注意事項

複数の新機能が割り当てられている出力端子については、使用しない兼用機能の出力を初期状態と同じにする必要があります（出力の衝突を回避）。周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）の設定により、割り当てられた機能も同様です。兼用出力については、4.5 兼用機能使用時のレジスタ設定を参照してください。

入力として使用する端子では、兼用の出力機能が無効（バッファ出力がHi-Z）となるので、処理不要です。

なお、入力だけや出力のないブロックを含めて、低消費電力化のために、使用しない機能は停止させることをおすすめします。

第5章 クロック発生回路

メイン・システム・クロック用発振子接続端子／外部クロック入力端子，サブシステム・クロック用発振子接続端子／外部クロック入力端子の有無は，製品によって異なります。

	32ピン製品	44, 48, 52, 64ピン製品
X1, X2端子	○	○
EXCLK端子	○	○
XT1, XT2端子	—	○
EXCLKS端子	—	○

注意 32ピン製品には，サブシステム・クロックがありません。

5.1 クロック発生回路の機能

クロック発生回路は，CPUおよび周辺ハードウェアに供給するクロックを発生する回路です。

システム・クロックおよびクロック発振回路には，次の種類があります。

(1) メイン・システム・クロック

① X1発振回路

X1端子，X2端子に発振子を接続することにより， $f_x = 1 \sim 20$ MHzのクロックを発振させることができます。STOP命令の実行またはMSTOPビット（クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のビット7）の設定により，発振を停止することができます。

② 高速オンチップ・オシレータ

オプションバイト（000C2H）により， $f_{IH} = 24$ MHz/16 MHz/12 MHz/8 MHz/4 MHz/1 MHz（TYP.）から周波数を選択し，発振させることができます。リセット解除後，CPUは必ずこの高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作を開始します。STOP命令の実行またはHIOSTOPビット（CSCレジスタのビット0）の設定により，発振を停止することができます。

オプション・バイトで設定した周波数は，高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）で変更できます。周波数は，図5-9 高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）のフォーマットを参照してください。

次に，高速オンチップ・オシレータで設定できる発振周波数を示します（オプション・バイトと高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ（HOCODIV）で選択できるバリエーション）。

電源電圧	発振周波数（MHz）								
	1	2	3	4	6	8	12	16	24
$2.7 \text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5 \text{ V}$	○	○	○	○	○	○	○	○	○
$2.4 \text{ V} \leq V_{DD} < 2.7 \text{ V}$	○	○	○	○	○	○	○	○	—
$1.8 \text{ V} \leq V_{DD} < 2.4 \text{ V}$	○	○	○	○	○	○	—	—	—
$1.6 \text{ V} \leq V_{DD} < 1.8 \text{ V}$	○	○	—	○	—	—	—	—	—

また、EXCLK/X2/P122端子から外部メイン・システム・クロック ($f_{EX} = 1 \sim 20$ MHz) を供給することができます。STOP命令の実行またはMSTOPビットの設定により、外部メイン・システム・クロック入力を無効にすることができます。

メイン・システム・クロックは、MCM0ビット（システム・クロック制御レジスタ（CKC）のビット4）の設定により、高速システム・クロック（X1クロックまたは外部メイン・システム・クロック）と高速オンチップ・オシレータ・クロックを切り替えられます。

なお、メイン・システム・クロックは、電源電圧 V_{DD} によって使用可能な周波数範囲が異なり、オプション・バイト（000C2H）のCMODE0, CMODE1によりフラッシュの動作電圧モードの設定（第25章 オプション・バイト参照）が必要です。

(2) サブシステム・クロック

・XT1発振回路

XT1端子、XT2端子に32.768 kHzの発振子を接続することにより、 $f_{XT} = 32.768$ kHzのクロックを発振させることができます。XTSTOPビット（クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のビット6）の設定により、発振を停止することができます。

また、EXCLKS/XT2/P124端子から外部サブシステム・クロック ($f_{EXS} = 32.768$ kHz) を供給することができます。XTSTOPビットの設定により、外部サブシステム・クロック入力を無効にすることができます。

(3) 低速オンチップ・オシレータ・クロック

$f_{IL} = 15$ kHz（TYP.）のクロックを発振させることができます。

低速オンチップ・オシレータ・クロックをCPUクロックとして使用することはできません。

低速オンチップ・オシレータ・クロックで動作するのは、次の周辺ハードウェアのみです。

- ・ウォッチドッグ・タイマ
- ・リアルタイム・クロック
- ・12ビット・インターバル・タイマ
- ・LCDドライバ/コントローラ

オプション・バイト（000C0H）のビット4（WDTON）または、サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）のビット4（WUTMMCK0）のどちらか、または両方が1のときに動作します。

ただし、WDTON = 1、WUTMMCK0 = 0かつオプション・バイト（000C0H）のビット0（WDSTBYON）が0のときに、HALT命令またはSTOP命令を実行した場合、低速オンチップ・オシレータは発振を停止します。

注意 リアルタイム・クロックの動作クロックに低速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IL}) を選択できるのは、定周期割り込み機能使用時のみです。

備考	f_X	: X1クロック発振周波数
	f_{IH}	: 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
	f_{EX}	: 外部メイン・システム・クロック周波数
	f_{XT}	: XT1クロック発振周波数
	f_{EXS}	: 外部サブシステム・クロック周波数
	f_{IL}	: 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

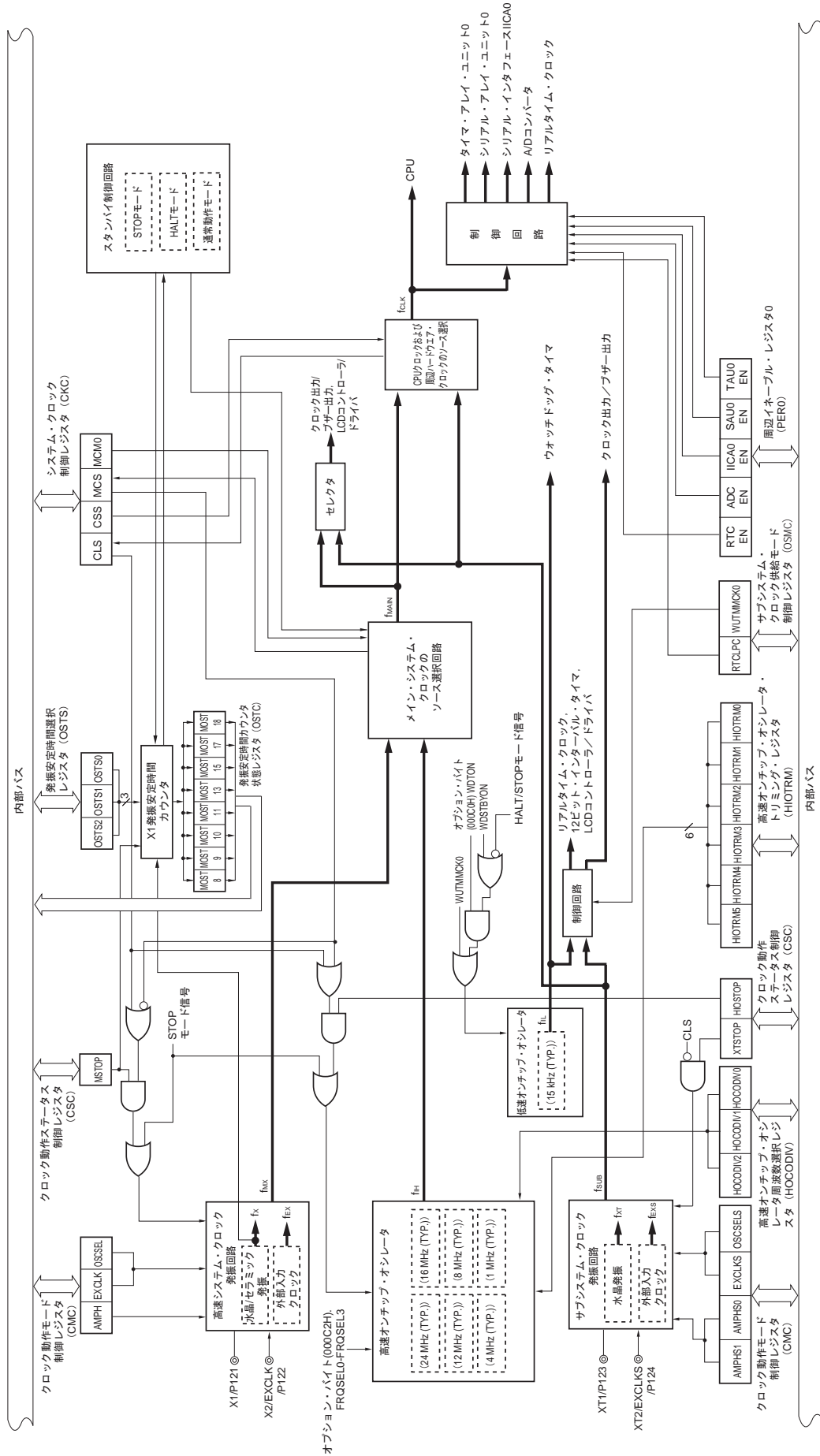
5.2 クロック発生回路の構成

クロック発生回路は、次のハードウェアで構成しています。

表5-1 クロック発生回路の構成

項目	構成
制御レジスタ	クロック動作モード制御レジスタ (CMC) システム・クロック制御レジスタ (CKC) クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) 発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) 高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV) 高速オンチップ・オシレータ・トリミング・レジスタ (HIOTRM)
発振回路	X1発振回路 XT1発振回路 高速オンチップ・オシレータ 低速オンチップ・オシレータ

図5-1 クロック発生回路のブロック図



備考	f_x	: X1クロック発振周波数
	f_{IH}	: 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
	f_{EX}	: 外部メイン・システム・クロック周波数
	f_{MX}	: 高速システム・クロック周波数
	f_{MAIN}	: メイン・システム・クロック周波数
	f_{XT}	: XT1クロック発振周波数
	f_{EXS}	: 外部サブシステム・クロック周波数
	f_{SUB}	: サブシステム・クロック周波数
	f_{CLK}	: CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数
	f_{IL}	: 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

5.3 クロック発生回路を制御するレジスタ

クロック発生回路は、次の9種類のレジスタで制御します。

- ・クロック動作モード制御レジスタ (CMC)
- ・システム・クロック制御レジスタ (CKC)
- ・クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC)
- ・発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC)
- ・発振安定時間選択レジスタ (OSTS)
- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)
- ・高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV)
- ・高速オンチップ・オシレータ・トリミング・レジスタ (HIOTRM)

5.3.1 クロック動作モード制御レジスタ (CMC)

X1/P121, X2/EXCLK/P122端子およびXT1/P123, XT2/EXCLKS/P124端子の動作モードの設定と、発振回路のゲインを選択するレジスタです。

CMCレジスタは、リセット解除後、8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。読み出す場合は、8ビット・メモリ操作命令で操作可能です。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図5-2 クロック動作モード制御レジスタ (CMC) のフォーマット

アドレス : FFFA0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
CMC	EXCLK	OSCSEL	EXCLKS	OSCSELS	0	AMPHS1	AMPHS0	AMPH

EXCLK	OSCSEL	高速システム・クロック 端子の動作モード	X1/P121端子	X2/EXCLK/P122端子
0	0	入力ポート・モード	入力ポート	
0	1	X1発振モード	水晶/セラミック発振子接続	
1	0	入力ポート・モード	入力ポート	
1	1	外部クロック入力モード	入力ポート	外部クロック入力

EXCLKS	OSCSELS	サブシステム・クロック 端子の動作モード	XT1/P123端子	XT2/EXCLKS/P124 端子
0	0	入力ポート・モード	入力ポート	
0	1	XT1発振モード	水晶振動子接続	
1	0	入力ポート・モード	入力ポート	
1	1	外部クロック入力モード	入力ポート	外部クロック入力

AMPHS1	AMPHS0	XT1発振回路の発振モード選択
0	0	低消費発振 (デフォルト)
0	1	通常発振
1	0	超低消費発振
1	1	設定禁止

AMPH	X1クロック発振周波数の制御
0	$1 \text{ MHz} \leq f_x \leq 10 \text{ MHz}$
1	$10 \text{ MHz} < f_x \leq 20 \text{ MHz}$

- 注意1. CMCレジスタは、リセット解除後、8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。CMCレジスタを初期値 (00H) のまま使用する場合、暴走時の誤動作 (00H以外の誤書き込みで復帰不可) を防止するために、リセット解除後は必ず00Hに設定してください。
- リセット解除後、クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) の設定でX1発振またはXT1発振を開始する前に、CMCレジスタを設定してください。
 - X1クロック発振周波数が10MHzを越える場合は、必ずAMPHビットに1を設定してください。
 - AMPH, AMPHS1, AMPHS0ビットは、リセット解除後 f_{CLK} に f_{IH} を選択した状態 (f_{CLK} を f_{MX} に切り替える前の状態) で設定してください。
 - f_{XT} の発振安定時間は、ソフトウェアでカウントしてください。

(注意, 備考は次ページに続きます。)

- 注意6. システム・クロックの周波数上限は24 MHzですが、X1発振回路の周波数上限は20 MHzになります。
7. XT1発振回路は低消費電力を実現するために、増幅度が低い回路になっています。設計の際は、次の点に注意してください。
- ・端子や回路基板には寄生容量が含まれています。したがって実際に使用する回路基板にて発振評価を行い、問題がないことを確認してください。
 - ・XT1発振回路のモードを超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）で使用する場合は、発振子を十分に評価してからご使用ください。
 - ・XT1端子、XT2端子と発振子との配線は極力短くし、寄生容量、配線抵抗を小さくしてください。特に超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）を選択している場合はご注意ください。
 - ・回路基板は寄生容量、配線抵抗の少ない材質で回路を構成してください。
 - ・XT1発振回路の周辺には、できるかぎりV_{SS}と同電位のグラウンド・パターンを配置してください。
 - ・XT1端子、XT2端子と発振子の信号線は他の信号と交差させないでください。また、変化する大電流が流れる線と接近させないでください。
 - ・高湿度環境における回路基板の吸湿や、基板上での結露によってXT1端子とXT2端子間のインピーダンスが低下し発振に障害が発生する場合があります。このような環境でご使用される場合は、回路基板をコーティングするなどの防湿対策を行ってください。
 - ・回路基板上をコーティングする場合は、XT1端子、XT2端子間に容量やリークが生じない材料をご使用ください。

備考 f_x : X1クロック発振周波数

5.3.2 システム・クロック制御レジスタ (CKC)

CPU/周辺ハードウェア・クロックやメイン・システム・クロックを選択するレジスタです。

CKCレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図5-3 システム・クロック制御レジスタ (CKC) のフォーマット

アドレス : FFFA4H リセット時 : 00H R/W^{注1}

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
CKC	CLS	CSS	MCS	MCM0	0	0	0	0

CLS	CPU/周辺ハードウェア・クロック (fCLK) のステータス
0	メイン・システム・クロック (fMAIN)
1	サブシステム・クロック (fSUB)

CSS	CPU/周辺ハードウェア・クロック (fCLK) の選択
0	メイン・システム・クロック (fMAIN)
1 ^{注2}	サブシステム・クロック (fSUB)

MCS	メイン・システム・クロック (fMAIN) のステータス
0	高速オンチップ・オシレータ・クロック (fIH)
1	高速システム・クロック (fMX)

MCM0 ^{注2}	メイン・システム・クロック (fMAIN) の動作制御
0	メイン・システム・クロック (fMAIN) に高速オンチップ・オシレータ・クロック (fIH) を選択
1	メイン・システム・クロック (fMAIN) に高速システム・クロック (fMX) を選択

注1. ビット7, 5は、Read Onlyです。

2. CSS = 1を設定した状態で、MCM0ビットの値を変更することは禁止です。

備考 fIH : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
 fMX : 高速システム・クロック周波数
 fMAIN : メイン・システム・クロック周波数
 fSUB : サブシステム・クロック周波数

注意1. ビット0-3には、必ず0を設定してください。

- CSSビットで設定したクロックは、CPUと周辺ハードウェアに供給されます。したがって、CPUクロックを変更すると、周辺ハードウェア・クロックも同時に変更されます（リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、クロック出力/ブザー出力、LCDコントローラ/ドライバおよびウォッチドッグ・タイマは除く）。よって、CPU/周辺ハードウェア・クロックを変更する場合は、各周辺機能を停止してください。
- 周辺ハードウェア・クロックとしてサブシステム・クロックが使われている場合、A/Dコンバータ、IICAの動作は保証できません。周辺ハードウェアの動作特性については、各周辺ハードウェアの章および第30章または第31章 電気的特性を参照してください。

5.3.3 クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）

高速システム・クロック，高速オンチップ・オシレータ・クロック，サブシステム・クロックの動作を制御するレジスタです（低速オンチップ・オシレータ・クロックは除く）。

CSCレジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，C0Hになります。

図5-4 クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のフォーマット

アドレス：FFFA1H リセット時：C0H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
CSC	MSTOP	XTSTOP	0	0	0	0	0	HIOSTOP

MSTOP	高速システム・クロックの動作制御		
	X1発振モード時	外部クロック入力モード時	入力ポート・モード時
0	X1発振回路動作	EXCLK端子からの外部クロック有効	入力ポート
1	X1発振回路停止	EXCLK端子からの外部クロック無効	

XTSTOP	サブシステム・クロックの動作制御		
	XT1発振モード時	外部クロック入力モード時	入力ポート・モード時
0	XT1発振回路動作	EXCLKS端子からの外部クロック有効	入力ポート
1	XT1発振回路停止	EXCLKS端子からの外部クロック無効	

HIOSTOP	高速オンチップ・オシレータ・クロックの動作制御
0	高速オンチップ・オシレータ動作
1	高速オンチップ・オシレータ停止

- 注意1. リセット解除後は，クロック動作モード制御レジスタ（CMC）を設定してからCSCレジスタを設定してください。
- リセット解除後MSTOPビットを0に設定する前に発振安定時間選択レジスタ（OSTS）を設定してください。ただしOSTSレジスタを初期値のまま使用する場合は，OSTSレジスタを設定する必要はありません。
 - MSTOPビットの設定でX1発振を開始する場合は，X1クロックの発振安定時間を発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で確認してください。
 - XSTOPビットの設定でXT1発振を開始する場合は，サブシステム・クロックに必要な発振安定時間をソフトウェアにてウエイトしてください。
 - CPU/周辺ハードウェア・クロック（fclk）に選択しているクロックは，CSCレジスタで停止させないでください。
 - クロック発振停止（外部クロック入力無効）するためのレジスタのフラグ設定と停止前の条件は，表5-2のようになります。
クロックを停止する場合は，クロック停止前条件を確認した後に停止してください。

表5-2 クロック停止方法

クロック	クロック停止（外部クロック入力無効）前条件	CSCレジスタのフラグ設定
X1クロック 外部メイン・システム・クロック	CPU/周辺ハードウェア・クロックが高速システム・クロック以外で動作 (CLS = 0かつMCS = 0, またはCLS = 1)	MSTOP = 1
XT1クロック 外部サブシステム・クロック	CPU/周辺ハードウェア・クロックがサブシステム・クロック以外で動作 (CLS = 0)	XTSTOP = 1
高速オンチップ・オシレータ・クロック	CPU/周辺ハードウェア・クロックが高速オンチップ・オシレータ・クロック以外で動作 (CLS = 0かつMCS = 1, またはCLS = 1)	HIOSTOP = 1

5.3.4 発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）

X1クロックの発振安定時間カウンタのカウント状態を示すレジスタです。

次のときに、X1クロックの発振安定時間を確認することができます。

- ・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックで、X1クロックの発振を開始した場合
- ・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで、X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し、その後、STOPモードを解除した場合

OSTCレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出すことができます。

リセット信号の発生、STOP命令、MSTOPビット（クロック動作ステータス制御レジスタ（CSC）のビット7）= 1により、00Hになります。

備考 発振安定時間カウンタは、次の場合にカウントを開始します。

- ・X1クロック発振開始時（EXCLK, OSCSEL = 0, 1 → MSTOP = 0）
- ・STOPモードを解除したとき

図5-5 発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) のフォーマット

アドレス : FFFA2H リセット時 : 00H R

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
OSTC	MOST	MOST	MOST	MOST	MOST	MOST	MOST	MOST
	8	9	10	11	13	15	17	18

MOST	MOST	MOST	MOST	MOST	MOST	MOST	MOST	発振安定時間のステータス		
								fx = 10 MHz時	fx = 20 MHz時	
8	9	10	11	13	15	17	18			
0	0	0	0	0	0	0	0	2 ⁹ /fx未満	25.6 μs未満	12.8 μs未満
1	0	0	0	0	0	0	0	2 ⁹ /fx以上	25.6 μs以上	12.8 μs以上
1	1	0	0	0	0	0	0	2 ⁹ /fx以上	51.2 μs以上	25.6 μs以上
1	1	1	0	0	0	0	0	2 ¹⁰ /fx以上	102.4 μs以上	51.2 μs以上
1	1	1	1	0	0	0	0	2 ¹¹ /fx以上	204.8 μs以上	102.4 μs以上
1	1	1	1	1	0	0	0	2 ¹³ /fx以上	819.2 μs以上	409.6 μs以上
1	1	1	1	1	1	0	0	2 ¹⁵ /fx以上	3.27 ms以上	1.64 ms以上
1	1	1	1	1	1	1	0	2 ¹⁷ /fx以上	13.11 ms以上	6.55 ms以上
1	1	1	1	1	1	1	1	2 ¹⁸ /fx以上	26.21 ms以上	13.11 ms以上

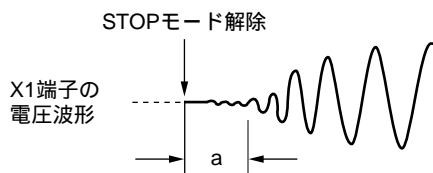
注意1. 上記時間経過後、MOST8ビットから順番に“1”となっていく、そのまま“1”を保持します。

2. 発振安定時間カウンタは発振安定時間選択レジスタ (OSTS) で設定した発振安定時間までしかカウントしません。

次のときには、OSTSレジスタの発振安定時間を、OSTCレジスタで確認したいカウント値より大きい値に設定してください。

- ・ CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックで、X1クロックの発振を開始したい場合
- ・ CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで、X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し、その後、STOPモードを解除したい場合
(したがって、STOPモード解除後のOSTCレジスタは、OSTSレジスタで設定している発振安定時間までのステータスしかセットされないの注意してください)

3. X1クロックの発振安定時間は、クロック発振を開始するまでの時間(下図a)は含みません。



備考 fx : X1クロック発振周波数

5.3.5 発振安定時間選択レジスタ (OSTS)

X1クロックの発振安定時間を選択するレジスタです。

X1クロックを発振させる場合は、X1発振回路動作 (MSTOP=0) 後、OSTSレジスタで設定した時間を自動でウェイトします。

CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックから、X1クロックに切り換える場合や、CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで、X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し、その後STOPモードを解除した場合は、発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) で発振安定時間が経過したかを確認してください。OSTCレジスタでは、あらかじめOSTSレジスタで設定した時間までの確認ができます。

OSTSレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、07Hになります。

図5-6 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) のフォーマット

アドレス : FFFA3H リセット時 : 07H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
OSTS	0	0	0	0	0	OSTS2	OSTS1	OSTS0

OSTS2	OSTS1	OSTS0		発振安定時間の選択	
				$f_x = 10 \text{ MHz}$ 時	$f_x = 20 \text{ MHz}$ 時
0	0	0	$2^8/f_x$	25.6 μs	12.8 μs
0	0	1	$2^9/f_x$	51.2 μs	25.6 μs
0	1	0	$2^{10}/f_x$	102.4 μs	51.2 μs
0	1	1	$2^{11}/f_x$	204.8 μs	102.4 μs
1	0	0	$2^{13}/f_x$	819.2 μs	409.6 μs
1	0	1	$2^{15}/f_x$	3.27 ms	1.64 ms
1	1	0	$2^{17}/f_x$	13.11 ms	6.55 ms
1	1	1	$2^{18}/f_x$	26.21 ms	13.11 ms

注意1. OSTSレジスタの設定を変更する場合は、クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) のMSTOPビットを0に設定する前に行ってください。

2. 発振安定時間カウンタはOSTSレジスタで設定した発振安定時間までしかカウントしません。

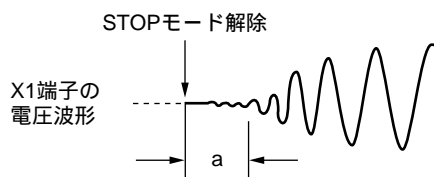
次のときには、OSTSレジスタの発振安定時間を、発振開始後にOSTCレジスタで確認したいカウント値より大きい値に設定してください。

- ・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックまたはサブシステム・クロックで、X1クロックの発振を開始したい場合

- ・CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックで、X1クロックも発振している状態でSTOPモードに移行し、その後、STOPモードを解除したい場合

(したがって、STOPモード解除後のOSTCレジスタは、OSTSレジスタで設定している発振安定時間までのステータスしかセットされないので注意してください)

3. X1クロックの発振安定時間は、クロック発振を開始するまでの時間 (下図a) は含みません。



備考 f_x : X1クロック発振周波数

5.3.6 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

このレジスタで制御される以下の周辺機能を使用する場合は、周辺機能の初期設定前に対応するビットをセット (1) してください。

- ・リアルタイム・クロック, 12ビット・インターバル・タイマ
- ・A/Dコンバータ
- ・シリアル・インタフェースIICA0
- ・シリアル・アレイ・ユニット0
- ・タイマ・アレイ・ユニット0
- ・LCDコントローラ／ドライバ

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図5-7 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット (1/2)

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

RTCCEN	リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマ	LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力 サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択時	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 非選択時
0	入カクロック供給停止 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用 するSFRへのライト不可 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマはリセット状態	入カクロック, サブシステム・クロック供給停止 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可	入カクロック, メイン・システム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可
1	入カクロック供給 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのリード／ライト可	入カクロック, サブシステム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可	

ADCEN	A/Dコンバータの入カクロック供給の制御
0	入カクロック供給停止 ・A/Dコンバータで使用するSFRへのライト不可 ・A/Dコンバータはリセット状態
1	入カクロック供給 ・A/Dコンバータで使用するSFRへのリード／ライト可

注意 ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

図5-7 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット (2/2)

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

IICA0EN	シリアル・インタフェースIICA0の入カクロック供給の制御
0	入カクロック供給停止 ・シリアル・インタフェースIICA0で使用するSFRへのライト不可 ・シリアル・インタフェースIICA0はリセット状態
1	入カクロック供給 ・シリアル・インタフェースIICA0で使用するSFRへのリード/ライト可

SAU0EN	シリアル・アレイ・ユニット0の入カクロック供給の制御
0	入カクロック供給停止 ・シリアル・アレイ・ユニット0で使用するSFRへのライト不可 ・シリアル・アレイ・ユニット0はリセット状態
1	入カクロック供給 ・シリアル・アレイ・ユニット0で使用するSFRへのリード/ライト可

TAU0EN	タイマ・アレイ・ユニット0の入カクロック供給の制御
0	入カクロック供給停止 ・タイマ・アレイ・ユニット0で使用するSFRへのライト不可 ・タイマ・アレイ・ユニット0はリセット状態
1	入カクロック供給 ・タイマ・アレイ・ユニット0で使用するSFRへのリード/ライト可

注意 ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

5.3.7 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)

OSMCレジスタは、不要なクロック機能を停止させることにより、低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPC = 1に設定すると、サブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に、リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDドライバ/コントローラ以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので、消費電力を低減することが可能です。この設定をする前に、周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)のビット7 (RTCEN) は1にしてください。

また、OSMCレジスタではリアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDドライバ/コントローラの動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図5-8 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のフォーマット

アドレス : F00F3H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
OSMC	RTCLPC	0	0	WUTMMCK0	0	0	0	0

RTCLPC	サブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の設定
0	周辺機能へのサブシステム・クロック供給許可 (動作許可となる周辺機能については、表19-1参照)
1	リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDドライバ/コントローラ以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給停止

WUTMMCK0 注	リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDドライバ/コントローラの動作クロックの選択	クロック出力/ブザー出力のPCLBUZn端子の出力クロックの選択
0	サブシステム・クロック (f _{SUB})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択許可
1	低速オンチップ・オシレータ・クロック (f _{IL})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択禁止

注 サブシステム・クロック発振中の場合は、必ずサブシステム・クロックを選択 (WUTMMCK0ビット = 0) にしてください。

注意 1. WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは、リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDドライバ/コントローラの全ての機能が動作停止中のみ可能です。
各機能の動作停止方法は次のとおりです。

リアルタイム・クロックの停止設定 : RTCE = 0
12ビット・インターバル・タイマの停止設定 : RINTE = 0
LCDドライバ/コントローラの停止設定 : SCOC = 0 かつ VLCON = 0

2. WUTMMCK0ビット = 1設定時にクロック出力/ブザー出力の出力クロックとしてf_{SUB}を選択することは禁止です。

備考 RTCE : リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0) のビット7
RINTE : インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC) のビット15
SCOC : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット6
VLCON : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット5

5.3.8 高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV)

オプション・バイト (000C2H) で設定した高速オンチップ・オシレータの周波数を変更するレジスタです。ただし、オプション・バイト (000C2H) のFRQSEL3ビットの値によって、選択できる周波数が異なります。HOCODIVは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。リセット信号の発生により、初期値 (不定) になります。

図5-9 高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV) のフォーマット

アドレス : F00A8H リセット時 : 不定 R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
HOCODIV	0	0	0	0	0	HOCODIV2	HOCODIV1	HOCODIV0

HOCODIV2	HOCODIV1	HOCODIV0	高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数の選択	
			FRQSEL3ビットが0のとき	FRQSEL3ビットが1のとき
0	0	0	24 MHz	設定禁止
0	0	1	12 MHz	16 MHz
0	1	0	6 MHz	8 MHz
0	1	1	3 MHz	4 MHz
1	0	0	設定禁止	2 MHz
1	0	1	設定禁止	1 MHz
上記以外			設定禁止	

注意1. HOCODIVレジスタの設定は、周波数の変更前、変更後ともにオプション・バイト (000C2H) で設定したフラッシュ動作モードの動作可能な電圧範囲で行ってください。

オプション・バイト (000C2H) の値		フラッシュ動作モード	動作周波数範囲	動作電圧範囲
CMODE1	CMODE2			
0	0	LV(低電圧メイン)モード	1 MHz~4 MHz	1.6 V~5.5 V
1	0	LS(低速メイン)モード	1 MHz~8 MHz	1.8 V~5.5 V
1	1	HS(高速メイン)モード	1 MHz~16 MHz	2.4 V~5.5 V
			1 MHz~24 MHz	2.7 V~5.5 V

- HOCODIVレジスタの設定は、高速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{ih}) をCPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{clk}) に選択している状態で行ってください。
- HOCODIVレジスタで周波数を変更後、次の遷移時間経過して周波数が切り替わります。なお、HOCODIVレジスタに同じ値を設定した場合でも、最大3クロックのCPU/周辺ハードウェア・クロックウェイトが発生します。
 - 変更前の周波数で3クロック動作
 - 変更後の周波数で最大3クロックのCPU/周辺ハードウェア・クロック・ウェイト

5.3.9 高速オンチップ・オシレータ・トリミング・レジスタ (HIOTRM)

高速オンチップ・オシレータの精度補正を行うレジスタです。

高精度の外部クロック入力を用いたタイマ (タイマ・アレイ・ユニット) を使用するなどして高速オンチップ・オシレータの周波数を自己測定し、精度補正することができます。

HIOTRMは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

注意 精度補正後に温度、 V_{DD} 端子電圧に変化があった場合、周波数は変動します。

温度、 V_{DD} 電圧が変動する場合は、周波数の精度が必要になる前または定期的に補正を実行する必要があります。

図5-10 高速オンチップ・オシレータ・トリミング・レジスタ (HIOTRM) のフォーマット

アドレス : F00A0H リセット時 : 注 R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
HIOTRM	0	0	HIOTRM5	HIOTRM4	HIOTRM3	HIOTRM2	HIOTRM1	HIOTRM0

HIOTRM5	HIOTRM4	HIOTRM3	HIOTRM2	HIOTRM1	HIOTRM0	高速オンチップ・オシレータ
0	0	0	0	0	0	最低速
0	0	0	0	0	1	↑ ↓
0	0	0	0	1	0	
0	0	0	0	1	1	
0	0	0	1	0	0	
⋮						
1	1	1	1	1	0	↓
1	1	1	1	1	1	

注 リセット値は一つ一つのチップで異なります。

- 備考1. HIOTRMレジスタの1ビットあたり高速オンチップ・オシレータ・クロック精度を約0.05%補正できます。
2. HIOTRMレジスタの使用例は、RL78 MCUシリーズ 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数補正 アプリケーションノート (R01AN0464) を参照してください。

5.4 システム・クロック発振回路

5.4.1 X1発振回路

X1発振回路はX1, X2端子に接続された水晶振動子またはセラミック発振子（1~20 MHz）によって発振します。

また、外部クロックを入力することができます。その場合はEXCLK端子にクロック信号を入力してください。

X1発振回路を使用する場合、クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のビット7, 6（EXCLK, OSCSEL）を次のように設定してください。

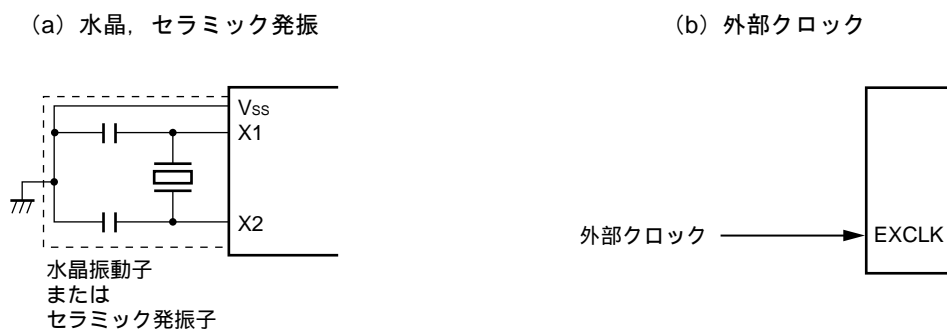
- ・水晶, セラミック発振 : EXCLK, OSCSEL = 0, 1
- ・外部クロック入力 : EXCLK, OSCSEL = 1, 1

X1発振回路を使用しない場合は、入力ポート・モード（EXCLK, OSCSEL = 0, 0）に設定してください。

さらに、入力ポートとしても使用しない場合は、表2-3 各端子の未使用端子処理（64ピン製品）を参照してください。

図5-11にX1発振回路の外付け回路例を示します。

図5-11 X1発振回路の外付け回路例



注意を次ページに示します。

5.4.2 XT1発振回路

XT1発振回路はXT1, XT2端子に接続された水晶振動子（32.768 kHz (TYP.)）によって発振します。

XT1発振回路を使用する場合、クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のビット4（OSCSELS）に1を設定してください。

また、外部クロックを入力することができます。その場合はEXCLKS端子にクロック信号を入力してください。XT1発振回路を使用する場合、クロック動作モード制御レジスタ（CMC）のビット5, 4（EXCLKS, OSCSELS）を次のように設定してください。

- ・水晶発振 : EXCLKS, OSCSELS = 0, 1
- ・外部クロック入力 : EXCLKS, OSCSELS = 1, 1

XT1発振回路を使用しない場合は、入力ポート・モード（EXCLKS, OSCSELS = 0, 0）に設定してください。

さらに、入力ポートとしても使用しない場合は、表2-3 各端子の未使用端子処理（64ピン製品）を参照してください。

図5-12にXT1発振回路の外付け回路例を示します。

図5-12 XT1発振回路の外付け回路例



注意 XT1発振回路およびXT1発振回路を使用する場合は、配線容量などの影響を避けるために、図5-11、5-12の破線の部分を次のように配線してください。

- ・配線は極力短くしてください。
- ・他の信号線と交差させない、変化する大電流が流れる線と接近させないでください。
- ・発振回路のコンデンサの接地点は、常にVssと同電位となるようにしてください。大電流が流れるグラウンド・パターンに接地しないでください。
- ・発振回路から信号を取り出さないでください。

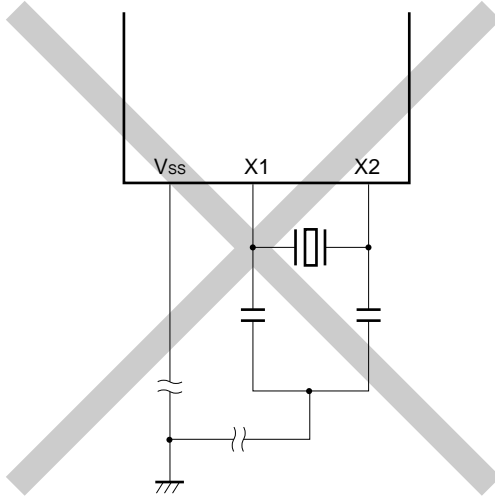
特に、XT1発振回路は、低消費電力にするために増幅度の低い回路になっています。設計の際は、次の点に注意してください。

- ・端子や回路基板には寄生容量が含まれています。したがって実際に使用する回路基板にて発振評価を行い、問題がないことを確認してください。
- ・XT1発振回路のモードを超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）で使用する場合は、発振子を十分に評価してからご使用ください。
- ・XT1端子、XT2端子と発振子との配線は極力短くし、寄生容量、配線抵抗を小さくしてください。特に超低消費発振（AMPHS1, AMPHS0 = 1, 0）を選択している場合はご注意ください。
- ・回路基板は寄生容量、配線抵抗の少ない材質で回路を構成してください。
- ・XT1発振回路の周辺には、できるかぎりVssと同電位のグラウンド・パターンを配置してください。
- ・XT1端子、XT2端子と発振子の信号線は他の信号と交差させないでください。また、変化する大電流が流れる線と接近させないでください。
- ・高湿度環境における回路基板の吸湿や、基板上での結露によってXT1端子とXT2端子間のインピーダンスが低下し発振に障害が発生する場合があります。このような環境でご使用される場合は、回路基板をコーティングするなどの防湿対策を行ってください。
- ・回路基板上をコーティングする場合は、XT1端子、XT2端子間に容量やリークが生じない材料をご使用ください。

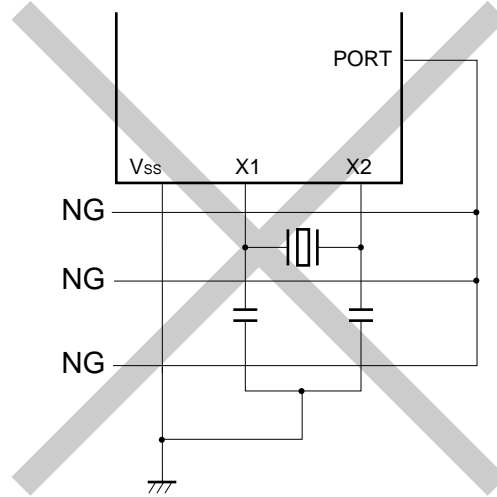
図5-13に発振子の接続の悪い例を示します。

図5-13 発振子の接続の悪い例 (1/2)

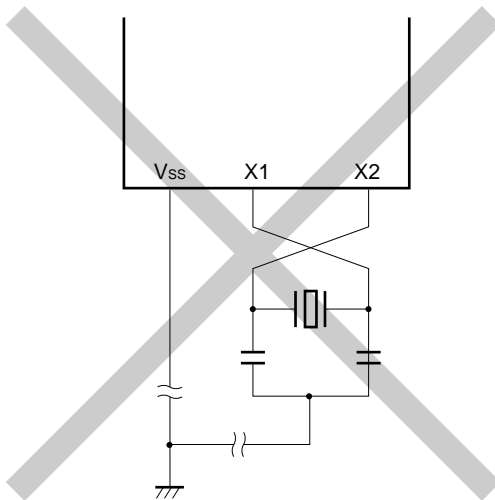
(a) 接続回路の配線が長い



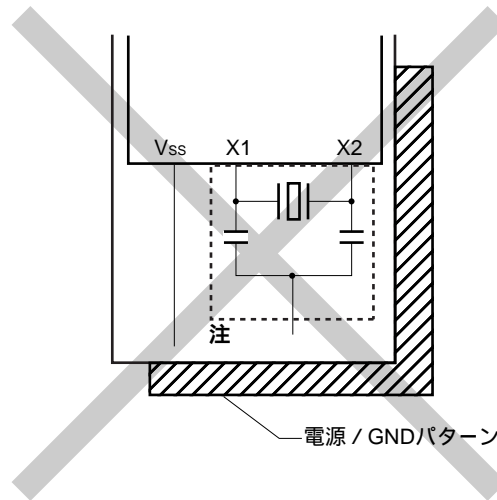
(b) 信号線が交差している



(c) X1, X2の信号線の配線が交差している



(d) X1, X2配線の下に電源/GNDパターンがある



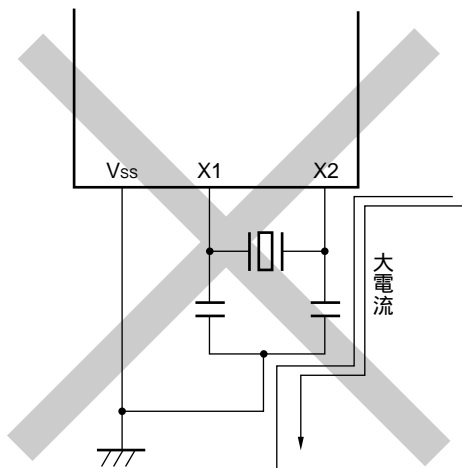
注 多層基板や両面基板において、X1, X2端子と発振子の配線部（図中の点線部分）の下には、電源/GNDパターンを配置しないでください。

容量成分の原因となり、発振特性に影響を与える配置はしないでください。

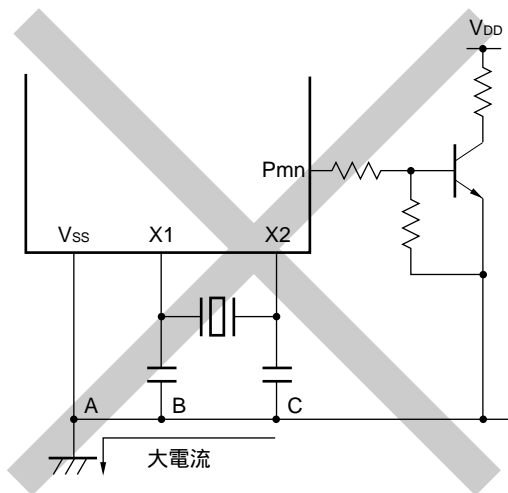
備考 サブシステム・クロックをご使用の場合は、X1, X2をXT1, XT2と読み替えてください。

図5-13 発振子の接続の悪い例 (2/2)

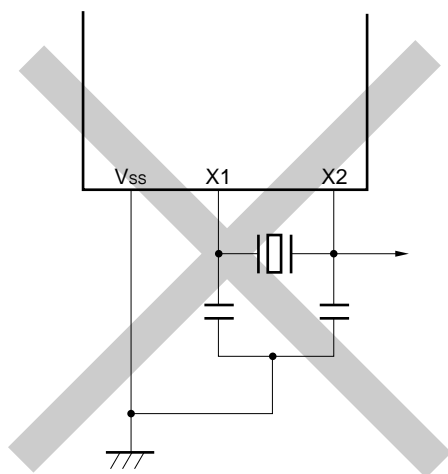
(e) 変化する大電流が信号線に
近接している



(f) 発振回路部のグラウンド・ライン上に電流が流れる
(A点, B点, C点の電位が変動する)



(g) 信号を取り出している



注意 X2とXT1が平行に配線されている場合、X2のクロストーク・ノイズがXT1に相乗し誤動作を引き起こすことがあります。

備考 サブシステム・クロックをご使用の場合は、X1, X2をXT1, XT2と読み替えてください。

5.4.3 高速オンチップ・オシレータ

RL78/L12は、高速オンチップ・オシレータを内蔵しています。オプションバイト (000C2H) により24 MHz, 16 MHz, 12 MHz, 8 MHz, 6 MHz, 4 MHz, 3 MHz, 2 MHz, 1 MHzから周波数を選択することが可能です。クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) のビット0 (HIOSTOP) にて発振を制御できます。

リセット解除後、高速オンチップ・オシレータは自動的に発振を開始します。

5.4.4 低速オンチップ・オシレータ

RL78/L12は、低速オンチップ・オシレータを内蔵しています。

低速オンチップ・オシレータ・クロックは、ウォッチドッグ・タイマ、リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマのクロックとして使用します。CPUクロックとして使用できません。

ウォッチドッグ・タイマの動作時、またはサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ(OSMC)のビット4 (WUTMMCK0)が1の時に低速オンチップ・オシレータは動作します。

ウォッチドッグ・タイマ停止時かつWUTMMCK0 = 0の時、低速オンチップ・オシレータは停止します。

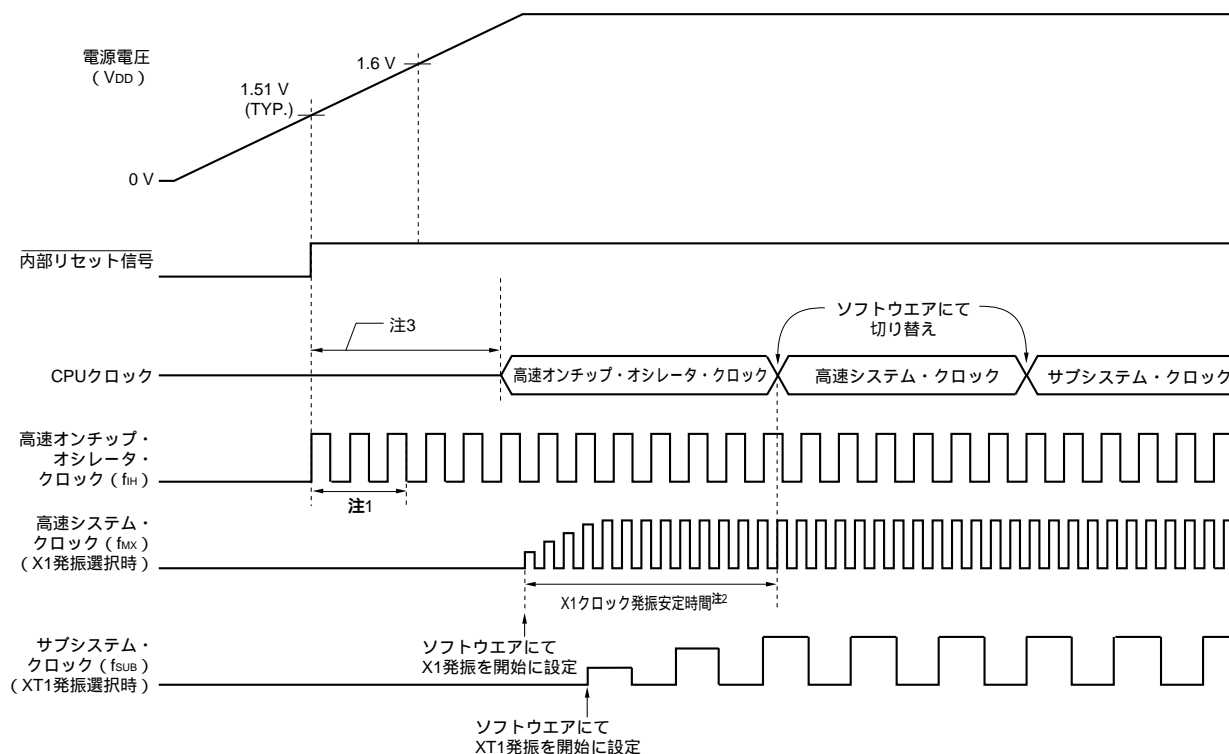
5.5 クロック発生回路の動作

クロック発生回路は次に示す各種クロックを発生し、かつ、スタンバイ・モードなどのCPUの動作モードを制御します（図5-1を参照）。

- メイン・システム・クロック f_{MAIN}
 - ・高速システム・クロック f_{MX}
 - X1クロック f_{x}
 - 外部メイン・システム・クロック f_{EX}
 - ・高速オンチップ・オシレータ・クロック f_{IH}
- サブシステム・クロック f_{SUB}
 - ・XT1クロック f_{XT}
 - ・外部サブシステム・クロック f_{EXS}
- 低速オンチップ・オシレータ・クロック f_{IL}
- CPU／周辺ハードウェア・クロック f_{CLK}

RL78/L12では、リセット解除後、CPUは高速オンチップ・オシレータの出力により動作を開始します。電源電圧投入時のクロック発生回路の動作を、図5-14に示します。

図5-14 電源電圧投入時のクロック発生回路の動作



- ① 電源投入後、パワーオン・リセット (POR) 回路による内部リセット信号が発生します。
- ② 電源電圧が1.51 V (TYP.) を越えると、リセットが解除され、高速オンチップ・オシレータが自動的に発振開始されます。
- ③ リセット解除後に電源／レギュレータの電圧安定待ちなどのリセット処理が行われたのちに、CPUが高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作開始します。
- ④ X1クロックまたはXT1クロックは、ソフトウェアにて発振開始を設定してください (5.6.2 X1発振回路の設定例, 5.6.3 XT1発振回路の設定例を参照)。
- ⑤ CPUをX1クロックまたはXT1クロックに切り替える場合は、クロックの発振安定待ち後に、ソフトウェアにて切り替えを設定してください (5.6.2 X1発振回路の設定例, 5.6.3 XT1発振回路の設定例を参照)。

注1. 高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ち時間は、内部のリセット処理時間に含まれます。

2. リセット解除時は、X1クロックの発振安定時間を発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) で確認してください。

3. リセット処理時間は、第21章 パワーオン・リセット回路を参照してください。

注意 EXCLK端子からの外部クロック入力を使用する場合、発振安定待ち時間は不要です。

5.6 クロックの制御

5.6.1 高速オンチップ・オシレータの設定例

CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{CLK}) はリセット解除後必ず高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作します。高速オンチップ・オシレータの周波数は、オプション・バイト (000C2H) のFRQSEL0-FRQSEL3により、24 MHz, 16 MHz, 12 MHz, 8 MHz, 6MHz, 4MHz, 3 MHz, 2 MHz, 1 MHzから選択可能です。また、高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV) により、周波数を変更することもできます。

【オプション・バイト設定】

アドレス : 000C2H

オプション・バイト (000C2H)	7	6	5	4	3	2	1	0
CMODE1	CMODE0			FRQSEL3	FRQSEL2	FRQSEL1	FRQSEL0	
0/1	0/1	1	0	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1

CMODE1	CMODE0	フラッシュの動作モード設定
0	0	LV (低電圧メイン) モード V _{DD} = 1.6 V ~ 5.5 V @ 1 MHz ~ 4 MHz
1	0	LS (低速メイン) モード V _{DD} = 1.8 V ~ 5.5 V @ 1 MHz ~ 8 MHz
1	1	HS (高速メイン) モード V _{DD} = 2.4 V ~ 5.5 V @ 1 MHz ~ 16 MHz V _{DD} = 2.7 V ~ 5.5 V @ 1 MHz ~ 24 MHz
上記以外		設定禁止

FRQSEL3	FRQSEL2	FRQSEL1	FRQSEL0	高速オンチップ・オシレータの周波数
0	0	0	0	24 MHz
1	0	0	1	16 MHz
0	0	0	1	12 MHz
1	0	1	0	8 MHz
0	0	1	0	6 MHz
1	0	1	1	4 MHz
0	0	1	1	3 MHz
1	1	0	0	2 MHz
1	1	0	1	1 MHz
上記以外				設定禁止

【高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV) 設定】

アドレス : F00A8H

HOCODIV	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	HOCODIV2	HOCODIV1	HOCODIV0

HOCODIV2	HOCODIV1	HOCODIV0	高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数の選択	
			FRQSEL3ビットが0のとき	FRQSEL3ビットが1のとき
0	0	0	24 MHz	設定禁止
0	0	1	12 MHz	16 MHz
0	1	0	6 MHz	8 MHz
0	1	1	3 MHz	4 MHz
1	0	0	設定禁止	2 MHz
1	0	1	設定禁止	1 MHz
上記以外			設定禁止	

5.6.2 X1発振回路の設定例

CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{CLK}) はリセット解除後必ず高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作します。その後、X1発振クロックに変更する場合、発振安定時間選択レジスタ (OSTS)、クロック動作モード制御レジスタ (CMC)、クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) で発振回路の設定と発振開始を行い、発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) で発振の安定待ちを行います。発振安定待ちが終了したあと、システム・クロック制御レジスタ (CKC) でX1発振クロックをf_{CLK}に設定します。

【レジスタ設定】①～⑤の順に設定してください。

- ① CMCレジスタのOSCSELビットをセット (1)、f_x>10 MHzの場合はAMPHビットをセット (1) してX1発振回路を動作させます。

	7	6	5	4	3	2	1	0
CMC	EXCLK	OSCSEL	EXCLKS	OSCSELS		AMPHS1	AMPHS0	AMPH
	0	1	0	0	0	0	0	0/1

- ② OSTSレジスタでSTOPモード解除時のX1発振回路の発振安定時間を選択しておきます。
例) 10 MHzの発振子で102.4 μs以上までウェイトする場合は、以下の値に設定してください。

	7	6	5	4	3	2	1	0
OSTS						OSTS2	OSTS1	OSTS0
	0	0	0	0	0	0	1	0

- ③ CSCレジスタのMSTOPビットをクリア (0) してX1発振回路の発振を開始します。

	7	6	5	4	3	2	1	0
CSC	MSTOP	XTSTOP						HIOSTOP
	0	1	0	0	0	0	0	0

- ④ OSTCレジスタでX1発振回路の発振安定待ちを行います。
例) 10 MHzの発振子で102.4 μs以上までウェイトする場合は、以下の値になるまでウェイトしてください。

	7	6	5	4	3	2	1	0
OSTC	MOST8	MOST9	MOST10	MOST11	MOST13	MOST15	MOST17	MOST18
	1	1	1	0	0	0	0	0

- ⑤ CKCレジスタのMCM0ビットでX1発振クロックをCPU/周辺ハードウェア・クロックに設定します。

	7	6	5	4	3	2	1	0
CKC	CLS	CSS	MCS	MCM0				
	0	0	0	1	0	0	0	0

注意 HOCODIVレジスタの設定は、周波数の変更前、変更後ともにオプション・バイト (000C2H) で設定したフラッシュ動作モードの動作可能な電圧範囲で行ってください。

オプション・バイト (000C2H) の値		フラッシュ動作モード	動作周波数範囲	動作電圧範囲
CMODE1	CMODE2			
0	0	LV(低電圧メイン)モード	1 MHz~4 MHz	1.6 V~5.5 V
1	0	LS(低速メイン)モード	1 MHz~8 MHz	1.8 V~5.5 V
1	1	HS(高速メイン)モード	1 MHz~16 MHz	2.4 V~5.5 V
			1 MHz~24 MHz	2.7 V~5.5 V

5.6.3 XT1発振回路の設定例

CPU/周辺ハードウェア・クロック (fCLK) はリセット解除後必ず高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作します。その後、XT1発振クロックに変更する場合、サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)、クロック動作モード制御レジスタ (CMC)、クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) で発振回路の設定と発振開始を行い、システム・クロック制御レジスタ (CKC) でXT1発振クロックをfCLKに設定します。

【レジスタ設定】①～⑤の順に設定してください。

- ① STOPモード時およびサブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時にリアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDドライバ/コントローラのみサブシステム・クロックで動作 (超低消費電流) させる場合はRTCLPCビットを1に設定してください。

	7	6	5	4	3	2	1	0
OSMC	RTCLPC 0/1	0	0	WUTMMCK0 0	0	0	0	0

- ② CMCレジスタのOSCELSビットをセット (1) してXT1発振回路を動作させます。

	7	6	5	4	3	2	1	0
CMC	EXCLK 0	OSCELS 0	EXCLKS 0	OSCELS 1	0	AMPHS1 0/1	AMPHS0 0/1	AMPH 0

AMPHS0, AMPHS1ビット : XT1発振回路の発振モードを設定します。

- ③ CSCレジスタのXTSTOPビットをクリア (0) してXT1発振回路の発振を開始します。

	7	6	5	4	3	2	1	0
CSC	MSTOP 1	XTSTOP 0	0	0	0	0	0	HIOSTOP 0

- ④ タイマ機能などを用いて、サブシステム・クロックに必要な発振安定時間をソフトウェアでウェイトしてください。

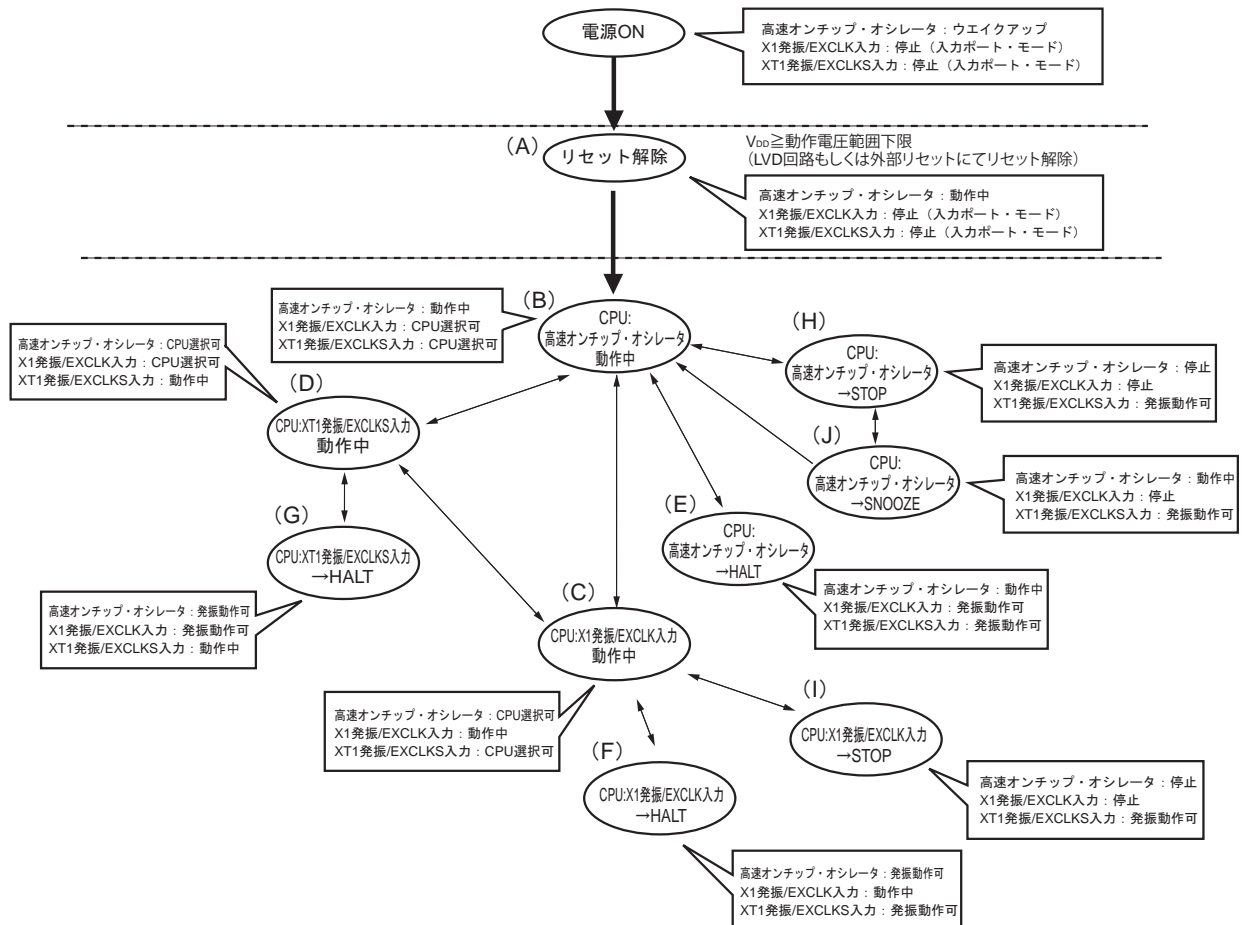
- ⑤ CKCレジスタのCSSビットでXT1発振クロックをCPU/周辺ハードウェア・クロックに設定します。

	7	6	5	4	3	2	1	0
CKC	CLS 0	CSS 1	MCS 0	MCM0 0	0	0	0	0

5.6.4 CPUクロック状態移行図

この製品のCPUクロック状態移行図を図5-15に示します。

図5-15 CPUクロック状態移行図



CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例などを表5-3に示します。

表5-3 CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例 (1/5)

(1) リセット解除後 (A) に、CPUを高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) へ移行

状態遷移	SFRレジスタの設定
(A) → (B)	SFRレジスタ設定不要 (リセット解除後の初期状態)

(2) リセット解除後 (A) に、CPUを高速システム・クロック動作 (C) へ移行

(リセット解除直後、CPUは高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作 (B))

(SFRレジスタの設定順序) →

状態遷移	CMCレジスタ ^{注1}			OSTS レジスタ	CSC レジスタ MSTOP	OSTC レジスタ	CKC レジスタ MCM0
	EXCLK	OSCSEL	AMPH				
(A) → (B) → (C) (X1クロック : 1 MHz ≤ f _x ≤ 10 MHz)	0	1	0	注2	0	確認必要	1
(A) → (B) → (C) (X1クロック : 10 MHz < f _x ≤ 20 MHz)	0	1	1	注2	0	確認必要	1
(A) → (B) → (C) (外部メイン・クロック)	1	1	×	注2	0	確認不要	1

注1. クロック動作モード制御レジスタ (CMC) は、リセット解除後、8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。

2. 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の発振安定時間を次のように設定してください。

- ・ 期待する発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) の発振安定時間 ≤ OSTSレジスタで設定する発振安定時間

注意 設定するクロックの動作可能電圧 (第30章または第31章 電気的特性を参照) に電源電圧が達してから、クロックを設定してください。

(3) リセット解除後 (A) に、CPUをサブシステム・クロック動作 (D) へ移行

(リセット解除直後、CPUは高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作 (B))

(SFRレジスタの設定順序) →

状態遷移	CMCレジスタ ^注				CSC レジスタ XTSTOP	発振安 定待ち	CKC レジスタ CSS
	EXCLKS	OSCSELS	AMPHS1	AMPHS0			
(A) → (B) → (D) (XT1クロック)	0	1	0/1	0/1	0	必要	1
(A) → (B) → (D) (外部サブ・クロック)	1	1	×	×	0	必要	1

注 クロック動作モード制御レジスタ (CMC) は、リセット解除後、8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。

備考1. × : don't care

2. 表5-3の (A) - (J) は、図5-15の(A) - (J) と対応しています。

表5-3 CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例 (2/5)

(4) CPUを高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) から高速システム・クロック動作 (C) へ移行

(SFRレジスタの設定順序) →

状態遷移 SFRレジスタの設定フラグ	CMCレジスタ ^{注1}			OSTS レジスタ	CSC レジスタ	OSTC レジスタ	CKC レジスタ
	EXCLK	OSCSEL	AMPH		MSTOP		MCM0
(B) → (C) (X1クロック : 1 MHz ≤ f _x ≤ 10 MHz)	0	1	0	注2	0	確認必要	1
(B) → (C) (X1クロック : 10 MHz < f _x ≤ 20 MHz)	0	1	1	注2	0	確認必要	1
(B) → (C) (外部メイン・クロック)	1	1	×	注2	0	確認不要	1

設定済みの場合は不要

高速システム・クロック
動作中の場合は不要

注1. クロック動作モード制御レジスタ (CMC) は、リセット解除後、1回のみ設定可能です。設定済みの場合は不要です。

2. 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の発振安定時間を次のように設定してください。

- ・期待する発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) の発振安定時間 ≤ OSTSレジスタで設定する発振安定時間

注意 設定するクロックの動作可能電圧 (第30章または第31章 電気的特性を参照) に電源電圧が達してから、クロックを設定してください。

(5) CPUを高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) から、サブシステム・クロック動作 (D) へ移行

(SFRレジスタの設定順序) →

状態遷移 SFRレジスタの設定フラグ	CMCレジスタ ^注		CSCレジスタ	発振安定待ち	CKCレジスタ
	EXCLKS	OSCSELS	XTSTOP		CSS
(B) → (D) (XT1クロック)	0	1	0	必要	1
(B) → (D) (外部サブ・クロック)	1	1	0	必要	1

サブシステム・クロック動作中の場合は不要

注 クロック動作モード制御レジスタ (CMC) は、リセット解除後、8ビット・メモリ操作命令で1回のみ書き込み可能です。

備考1. × : don't care

2. 表5-3の (A) - (J) は、図5-15の(A) - (J) と対応しています。

表5-3 CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例 (3/5)

(6) CPUを高速システム・クロック動作 (C) から、高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) へ移行

(SFRレジスタの設定順序) ▶

SFRレジスタの設定フラグ	CSCレジスタ	発振精度安定待ち	CKCレジスタ
状態遷移	HIOSTOP		
(C) → (B)	0	18 μs~65 μs	0

高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中の場合は不要

(7) CPUを高速システム・クロック動作 (C) から、サブシステム・クロック動作 (D) へ移行

(SFRレジスタの設定順序) ▶

SFRレジスタの設定フラグ	CSCレジスタ	発振安定待ち	CKCレジスタ
状態遷移	XTSTOP		
(C) → (D)	0	必要	1

サブシステム・クロック動作中の場合は不要

(8) CPUをサブシステム・クロック動作 (D) から、高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (B) へ移行

(SFRレジスタの設定順序) ▶

SFRレジスタの設定フラグ	CSCレジスタ	発振制度安定待ち	CKCレジスタ
状態遷移	HIOSTOP		
(D) → (B)	0	18 μs~65 μs	0

高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中の場合は不要

備考1. 表5-3の (A) - (J) は、図5-15の(A) - (J) と対応しています。

2. 高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ちは、温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

表5-3 CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例 (4/5)

(9) CPUをサブシステム・クロック動作 (D) から高速システム・クロック動作 (C) へ移行

(SFRレジスタの設定順序)

状態遷移	SFRレジスタの設定フラグ	OSTS レジスタ	CSC レジスタ	OSTC レジスタ	CKC
			MSTOP		CSS
(D) → (C) (X1クロック : 1 MHz ≤ fx ≤ 10 MHz)		注	0	確認必要	0
(D) → (C) (X1クロック : 10 MHz < fx ≤ 20 MHz)		注	0	確認必要	0
(D) → (C) (外部メイン・クロック)		注	0	確認不要	0

高速システム・クロック
動作中の場合は不要

注 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の発振安定時間を次のように設定してください。

- ・期待する発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) の発振安定時間 ≤ OSTSレジスタで設定する発振安定時間

注意 設定するクロックの動作可能電圧 (第30章または第31章 電気的特性を参照) に電源電圧が達してから、クロックを設定してください。

(10) ・CPUが高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中 (B) にHALTモード (E) へ移行

- ・CPUが高速システム・クロック動作中 (C) にHALTモード (F) へ移行
- ・CPUがサブシステム・クロック動作中 (D) にHALTモード (G) へ移行

状態遷移	設定内容
(B) → (E) (C) → (F) (D) → (G)	HALT命令を実行する

備考 表5-3の (A) - (J) は、図5-15の(A) - (J) と対応しています。

表5-3 CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例 (5/5)

- (11) ・ CPUが高速オンチップ・オシレータ・クロック動作中 (B) にSTOPモード (H) へ移行
- ・ CPUが高速システム・クロック動作中 (C) にSTOPモード (I) へ移行

(設定順序) →

状態遷移		設定内容		
(B) → (H)		STOPモード中に動作できない周辺機能を停止する	-	STOP命令を実行する
(C) → (I)	X1発振		OSTSレジスタを設定する	
	外部クロック		-	

- (12) ・ STOPモード (H) からSNOOZEモード (J) へ移行

STOPモードからSNOOZEモードへ移行するための設定の詳細については、11.8 SNOOZEモード機能、12.5.7 SNOOZEモード機能、12.6.3 SNOOZEモード機能を参照してください。

備考 表5-3の (A) - (J) は、図5-15の(A) - (J) と対応しています。

5.6.5 CPUクロックの移行前の条件と移行後の処理

CPUクロックの移行前の条件と移行後の処理について、次に示します。

表5-4 CPUクロックの移行について (1/2)

CPUクロック		移行前の条件	移行後の処理
移行前	移行後		
高速オンチップ・オシレータ・クロック	X1クロック	X1発振が安定していること ・OSCSEL = 1, EXCLK = 0, MSTOP = 0 ・発振安定時間経過後	CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、高速オンチップ・オシレータを停止 (HIOSTOP = 1) すると、動作電流を低減可能
	外部メイン・システム・クロック	EXCLK端子からの外部クロック入力を有効にすること ・OSCSEL = 1, EXCLK = 1, MSTOP = 0	
	XT1クロック	XT1発振が安定していること ・OSCSELS = 1, EXCLKS = 0, XTSTOP = 0 ・発振安定時間経過後	
	外部サブシステム・クロック	EXCLKS端子からの外部クロック入力を有効にすること ・OSCSELS = 1, EXCLKS = 1, XTSTOP = 0	
X1クロック	高速オンチップ・オシレータ・クロック	高速オンチップ・オシレータが発振されていること ・HIOSTOP = 0 ・発振精度安定時間経過後	CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、X1発振停止可能 (MSTOP = 1)
	外部メイン・システム・クロック	移行不可	—
	XT1クロック	XT1発振が安定していること ・OSCSELS = 1, EXCLKS = 0, XTSTOP = 0 ・発振安定時間経過後	CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、X1発振停止可能 (MSTOP = 1)
	外部サブシステム・クロック	EXCLKS端子からの外部クロック入力を有効にすること ・OSCSELS = 1, EXCLKS = 1, XTSTOP = 0	CPUクロックが移行後のクロックに切り替わったことを確認した後、X1発振停止可能 (MSTOP = 1)
外部メイン・システム・クロック	高速オンチップ・オシレータ・クロック	高速オンチップ・オシレータが発振されていること ・HIOSTOP = 0 ・発振精度安定時間経過後	外部メイン・システム・クロック入力を無効に設定可能 (MSTOP = 1)
	X1クロック	移行不可	—
	XT1クロック	XT1発振が安定していること ・OSCSELS = 1, EXCLKS = 0, XTSTOP = 0 ・発振安定時間経過後	外部メイン・システム・クロック入力を無効に設定可能 (MSTOP = 1)
	外部サブシステム・クロック	EXCLKS端子からの外部クロック入力を有効にすること ・OSCSELS = 1, EXCLKS = 1, XTSTOP = 0	外部メイン・システム・クロック入力を無効に設定可能 (MSTOP = 1)

表5-4 CPUクロックの移行について (2/2)

CPUクロック		移行前の条件	移行後の処理
移行前	移行後		
XT1クロック	高速オンチップ・オシレータ・クロック	高速オンチップ・オシレータが発振され、メイン・システム・クロックに高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されていること ・ HIOSTOP = 0, MCS = 0	XT1発振停止に設定可能 (XTSTOP = 1)
	X1クロック	X1発振が安定、かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること ・ OSCSEL = 1, EXCLK = 0, MSTOP = 0 ・ 発振安定時間経過後 ・ MCS = 1	
	外部メイン・システム・クロック	EXCLK端子からの外部クロックが入力有効、かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること ・ OSCSEL = 1, EXCLK = 1, MSTOP = 0 ・ MCS = 1	
	外部サブシステム・クロック	移行不可	—
外部サブシステム・クロック	高速オンチップ・オシレータ・クロック	高速オンチップ・オシレータが発振され、メイン・システム・クロックに高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されていること ・ HIOSTOP = 0, MCS = 0	外部サブシステム・クロック入力を無効に設定可能 (XTSTOP = 1)
	X1クロック	X1発振が安定、かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること ・ OSCSEL = 1, EXCLK = 0, MSTOP = 0 ・ 発振安定時間経過後 ・ MCS = 1	
	外部メイン・システム・クロック	EXCLK端子からの外部クロックが入力有効、かつメイン・システム・クロックに高速システム・クロックが選択されていること ・ OSCSEL = 1, EXCLK = 1, MSTOP = 0 ・ MCS = 1	
	XT1クロック	移行不可	—

5.6.6 CPUクロックの切り替えとシステム・クロックの切り替えに要する時間

システム・クロック制御レジスタ（CKC）のビット4,6（MCM0, CSS）の設定により、CPUクロックの切り替え（メイン・システム・クロック⇄サブシステム・クロック）、メイン・システム・クロックの切り替え（高速オンチップ・オシレータ・クロック⇄高速システム・クロック）をすることができます。

実際の切り替え動作は、CKCレジスタを書き換えた直後ではなく、CKCレジスタを変更したのち、数クロックは切り替え前のクロックで動作します（表5-5～表5-7参照）。

CPUクロックがメイン・システム・クロックで動作しているか、サブシステム・クロックで動作しているかは、CKCレジスタのビット7（CLS）で判定できます。またメイン・システム・クロックが高速システム・クロックで動作しているか、高速オンチップ・オシレータ・クロックで動作しているかは、CKCレジスタのビット5（MCS）で判定できます。

CPUクロックを切り替えると、周辺ハードウェア・クロックも同時に切り替わります。

表5-5 システム・クロックの切り替えに要する最大時間

クロックA	切り替え方向	クロックB	備考
f _{IH}	←→	f _{MX}	表5-6参照
f _{MAIN}	←→	f _{SUB}	表5-7参照

表5-6 f_{IH} ↔ f_{MX}で要する最大クロック数

切り替え前の設定値		切り替え後の設定値	
MCM0		MCM0	
		0 (f _{MAIN} = f _{IH})	1 (f _{MAIN} = f _{MX})
0 (f _{MAIN} = f _{IH})	f _{MX} ≥ f _{IH}		2クロック
	f _{MX} < f _{IH}		2f _{IH} /f _{MX} クロック
1 (f _{MAIN} = f _{MX})	f _{MX} ≥ f _{IH}	2f _{MX} /f _{IH} クロック	
	f _{MX} < f _{IH}	2クロック	

表5-7 f_{MAIN} ↔ f_{SUB}で要する最大クロック数

切り替え前の設定値		切り替え後の設定値	
CSS		CSS	
		0 (f _{CLK} = f _{MAIN})	1 (f _{CLK} = f _{SUB})
0 (f _{CLK} = f _{MAIN})			1 + 2f _{MAIN} /f _{SUB} クロック
1 (f _{CLK} = f _{SUB})		3クロック	

備考1. 表5-6、表5-7のクロック数は、切り替え前のCPUクロックのクロック数です。

2. 表5-6、表5-7のクロック数は、小数点以下を切り上げてください。

例 メイン・システム・クロックを高速システム・クロックから高速オンチップ・オシレータ・クロック（8 MHz選択時）に切り替える場合（f_{IH} = 8 MHz選択時, f_{MX} = 10 MHz発振時）
 $2f_{MX}/f_{IH} = 2 (10/8) = 2.5 \rightarrow 3$ クロック

5.6.7 クロック発振停止前の条件

クロック発振停止（外部クロック入力無効）するためのレジスタのフラグ設定と停止前の条件を次に示します。

クロックを停止する場合は、クロック停止前条件を確認した後に停止してください。

表5-8 クロック発振停止前の条件とフラグ設定

クロック	クロック停止（外部クロック入力無効）前条件	SFRレジスタのフラグ設定
高速オンチップ・オシレータ・クロック	MCS = 1またはCLS = 1 (CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロック以外で動作)	HIOSTOP = 1
X1クロック	MCS = 0またはCLS = 1 (CPUクロックが高速システム・クロック以外で動作)	MSTOP = 1
外部メイン・システム・クロック		
XT1クロック	CLS = 0 (CPUクロックがサブシステム・クロック以外で動作)	XTSTOP = 1
外部サブシステム・クロック		

5.7 発振子と発振回路定数

動作確認済みの発振子と、その発振回路定数(参考)は、当社ホームページの対象製品ページを参照してください。

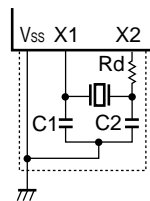
注意1. この発振回路定数は、発振子メーカーによる特定の環境下での評価に基づく参考値です。実アプリケーションでは、実装回路上での評価を発振子メーカーに依頼してください。

また、別製品からのマイコンの変更、基板の変更の際には、再度、実装回路上での評価を発振子メーカーに依頼してください。

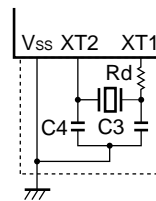
2. 発振電圧、発振周波数は、あくまでも発振回路特性を示すものです。RL78マイクロコントローラの内部動作条件については、DC, AC特性の規格内で使用してください。

図5-16 外付け発振回路例

(a) X1発振



(b) XT1発振



第6章 タイマ・アレイ・ユニット

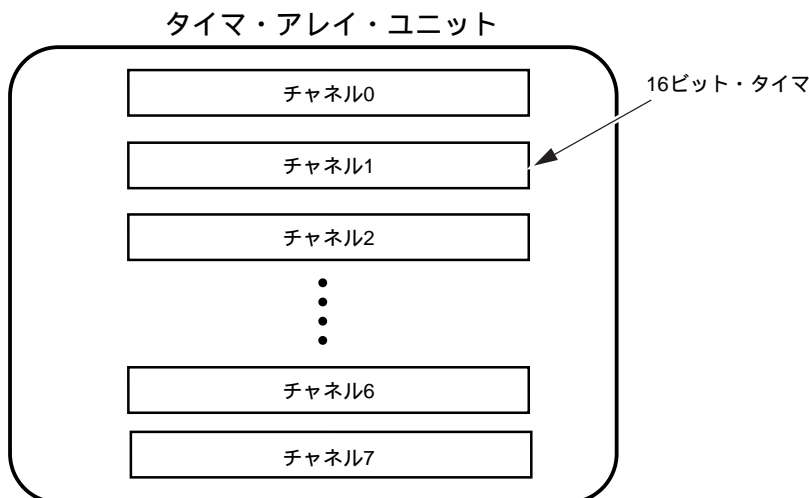
タイマ・アレイ・ユニットのチャンネル数は、製品によって異なります。

チャンネル	32ピン	44ピン	48ピン	52ピン	64ピン
チャンネル0	○	○	○	○	○
チャンネル1	○	○	○	○	○
チャンネル2	○	○	○	○	○
チャンネル3	—	○	○	○	○
チャンネル4	—	—	○	○	○
チャンネル5	—	—	—	○	○
チャンネル6	—	—	—	○	○
チャンネル7	○	○	○	○	○

- 注意1. タイマ入出力端子の有無は製品によって異なります。詳細は、表6-2 各製品に搭載しているタイマ入出力端子を参照してください。
2. この章では、以降の主な説明を128ピン製品の場合で説明しています。

タイマ・アレイ・ユニットは8個の16ビット・タイマを搭載しています。

各16ビット・タイマは「チャンネル」と呼び、それぞれを単独のタイマとして使用することはもちろん、複数のチャンネルを組み合わせるとして高度なタイマ機能として使用することもできます。



各機能の詳細に関しては下記を参照してください。

単独チャンネル動作機能	複数チャンネル連動動作機能
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターバル・タイマ (→6. 8. 1参照) ・ 方形波出力 (→6. 8. 1参照) ・ 外部イベント・カウンタ (→6. 8. 2参照) ・ 分周器^{注1} (→6. 8. 3参照) ・ 入力パルス間隔測定 (→6. 8. 4参照) ・ 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定 (→6. 8. 5参照) ・ デイレイ・カウンタ (→6. 8. 6参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワンショット・パルス出力 (→6. 9. 1参照) ・ PWM出力 (→6. 9. 2参照) ・ 多重PWM出力 (→6. 9. 3参照) ・ リモコン出力機能^{注2} (→6. 9. 4参照)

注1. チャンネル0のみ

2. 44, 48, 52, 64ピン製品のみ。

チャンネル1, 3の16ビット・タイマを2つの8ビット・タイマ（上位/下位）として使用することもできます。チャンネル1, 3が8ビット・タイマとして使用できる機能は、次の機能です。

- ・ インターバル・タイマ（上位/下位8ビット・タイマ）/方形波出力
- ・ 外部イベント・カウンタ（下位8ビット・タイマのみ）
- ・ デイレイ・カウント（下位8ビット・タイマのみ）

また、チャンネル5は、シリアル・アレイ・ユニットのUART0と連携し、LIN-bus通信動作を実現することができます。

6.1 タイマ・アレイ・ユニットの機能

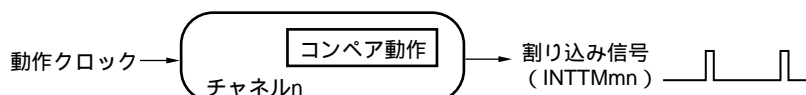
タイマ・アレイ・ユニットには、次のような機能があります。

6.1.1 単独チャネル動作機能

単独チャネル動作機能は、他のチャネルの動作モードに影響を受けることなく任意のチャネルを独立して使用可能な機能です。

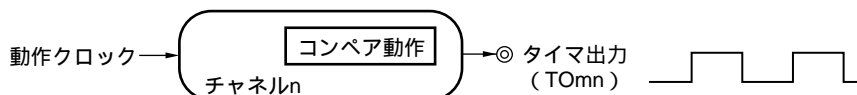
(1) インターバル・タイマ

一定間隔で割り込み (INTTMmn) を発生する基準タイマとして利用できます。



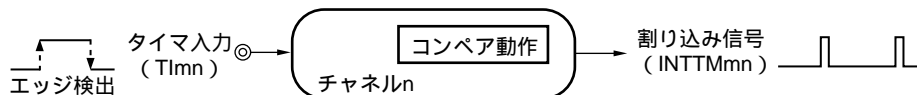
(2) 方形波出力

INTTMmn割り込みの発生ごとにトグル動作を行い、デューティ50%の方形波をタイマ出力端子 (T0mn) より出力します。



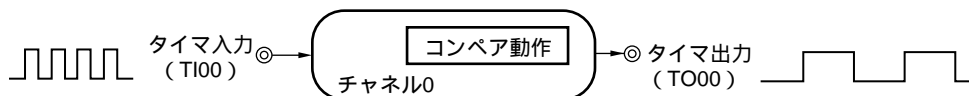
(3) 外部イベント・カウンタ

タイマ入力端子 (TImn) に入力される信号の有効エッジをカウントし、規定回数に達したら割り込みを発生するイベント・カウンタとして利用できます。



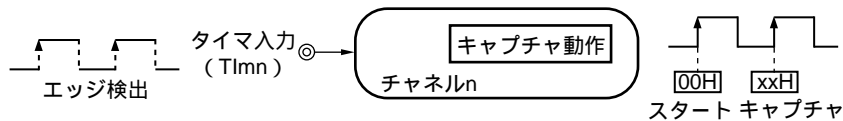
(4) 分周器機能 (チャンネル0のみ)

タイマ入力端子 (TI00) から入力されたクロックを分周して出力端子 (TO00) より出力します。



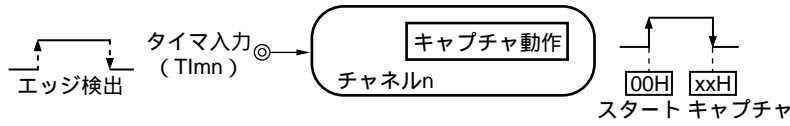
(5) 入力パルス間隔測定

タイマ入力端子 (TImn) に入力されるパルス信号の有効エッジでカウントをスタートし、次のパルスの有効エッジでカウント値をキャプチャすることで、入力パルスの間隔を測定します。



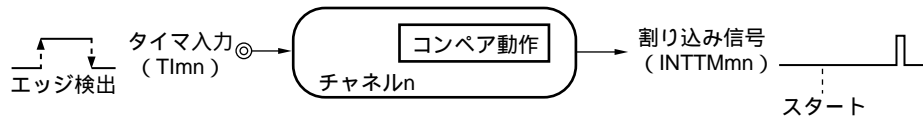
(6) 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定

タイマ入力端子 (TImn) に入力される信号の片エッジでカウントをスタートし、もう一方の片エッジでカウント値をキャプチャすることで、入力信号のハイ・レベル幅、ロウ・レベル幅を測定します。



(7) ディレイ・カウンタ

タイマ入力端子 (TImn) に入力される信号の有効エッジでカウントをスタートし、任意のディレイ期間後、割り込みを発生します。



備考1. m: ユニット番号 (m=0), n: チャンネル番号 (n=0-7)

2. チャンネル0-7のタイマ入出力端子の有無は製品によって異なります。詳細は、表6-2 各製品に搭載しているタイマ入出力端子を参照してください。

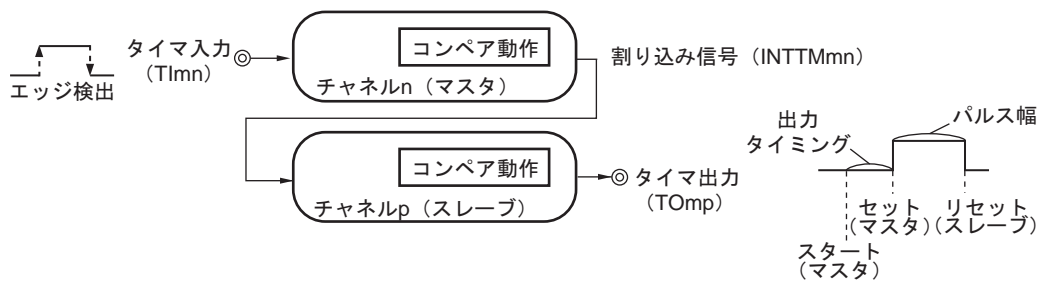
6.1.2 複数チャンネル連動動作機能

複数チャンネル連動動作機能は、マスタ・チャンネル (主に周期を制御する基準タイマ) とスレーブ・チャンネル (マスタ・チャンネルに従い動作するタイマ) を組み合わせて実現する機能です。

複数チャンネル連動動作機能は、次に示すモードとして利用できます。

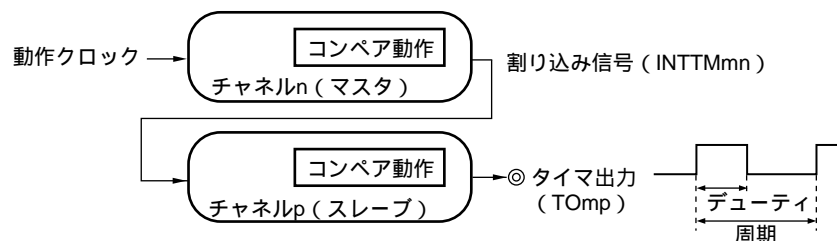
(1) ワンショット・パルス出力

2チャンネルをセットで使用し、出力タイミングとパルス幅を任意に設定できるワンショット・パルスを生成します。



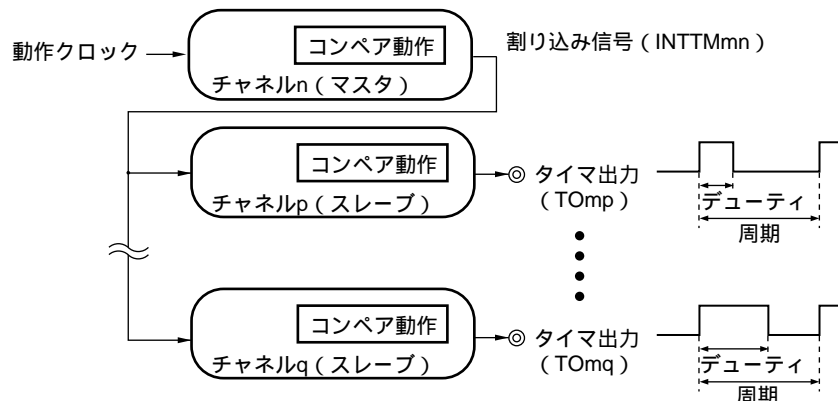
(2) PWM (Pulse Width Modulation) 出力

2チャンネルをセットで使用し、周期とデューティを任意に設定できるパルスを生成します。



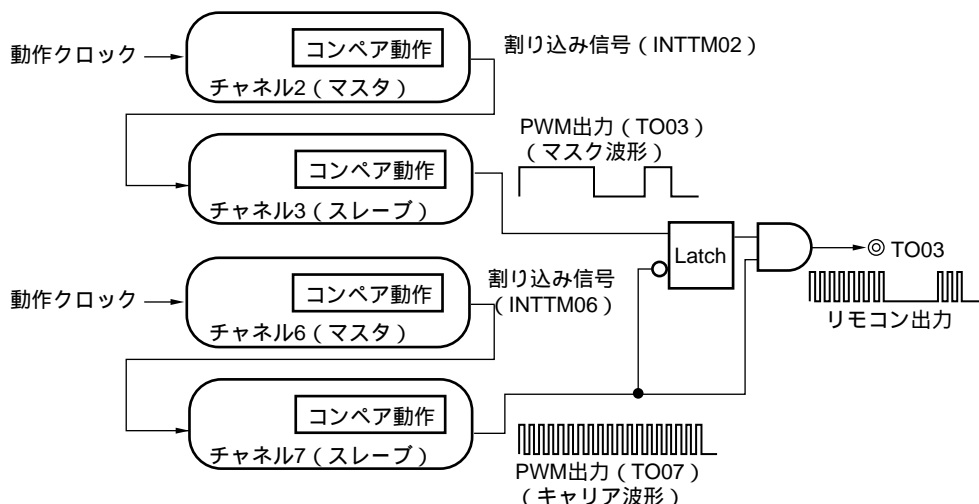
(3) 多重PWM (Pulse Width Modulation) 出力

PWM機能を拡張し、1つのマスタ・チャンネルと複数のスレーブ・チャンネルを使用することで、周期一定で、任意のデューティのPWM信号を最大7種類生成することができます。



(4) リモコン出力機能

チャンネル2, 3, チャンネル6, 7のセットでPWM出力機能を使用します。チャンネル3からのPWM出力信号をマスク波形、チャンネル7からのPWM出力信号をキャリア波形とし、これらの信号の論理積をリモコン出力として出力します。



注意 複数チャンネル連動動作機能のルールの詳細については、6. 4. 1 複数チャンネル連動動作機能の基本ルールを参照してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7) ,
p, q : スレーブ・チャンネル番号 (n < p < q ≤ 7)

6.1.3 8ビット・タイマ動作機能（チャンネル1, 3のみ）

8ビット・タイマ動作機能は、16ビット・タイマのチャンネルを8ビット・タイマの2チャンネル構成として使用する機能です。チャンネル1, 3のみが使用できます。

注意 8ビット・タイマ動作機能の使用にあたっては、いくつかのルールがあります。

詳細は、6.4.2 8ビット・タイマ動作機能の基本ルール（チャンネル1, 3のみ）を参照してください。

6.1.4 LIN-bus対応機能（チャンネル5のみ）

LIN-bus通信機能において、受信信号がLIN-busの通信フォーマットに適合しているかタイマ・アレイ・ユニットを使ってチェックします。

(1) ウェイクアップ信号の検出

UART0のシリアル・データ入力端子（RxD0）に入力される信号の立ち下がリエッジでカウントをスタートし、立ち上がりエッジでカウント値をキャプチャすることでロウ・レベル幅を測定します。そのロウ・レベル幅がある一定値以上であれば、ウェイクアップ信号と認識します。

(2) ブレーク・フィールドの検出

ウェイクアップ信号検出後、UART0のシリアル・データ入力端子（RxD0）に入力される信号の立ち下がリエッジでカウントをスタートし、立ち上がりエッジでカウント値をキャプチャすることでロウ・レベル幅を測定します。そのロウ・レベル幅がある一定値以上であれば、ブレーク・フィールドと認識します。

(3) シンク・フィールドのパルス幅測定

ブレーク・フィールド検出後、UART0のシリアル・データ入力端子（RxD0）に入力される信号のロウ・レベル幅とハイ・レベル幅を測定します。こうして測定されたシンク・フィールドのビット間隔からボー・レートを算出します。

備考 LIN-bus対応機能の動作設定については、6.3.14 入力切り替え制御レジスタ（ISC）、6.8.5 入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作を参照してください。

6.2 タイマ・アレイ・ユニットの構成

タイマ・アレイ・ユニットは、次のハードウェアで構成されています。

表6-1 タイマ・アレイ・ユニットの構成

項目	構成
タイマ/カウンタ	タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn)
レジスタ	タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn)
タイマ入力	TI00-TI07 ^{注1} , RxD0端子 (LIN-bus用)
タイマ出力	TO00-TO07 ^{注1} , 出力制御回路
制御レジスタ	<ユニット設定部のレジスタ> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) ・タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) ・タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) ・タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSM) ・タイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm) ・タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0) ・タイマ出力選択レジスタ (TOS) ・タイマ出力許可レジスタm (TOEm) ・タイマ出力レジスタm (TOM) ・タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm) ・タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)
	<各チャンネル部のレジスタ> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) ・タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) ・入力切り替え制御レジスタ (ISC) ・ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1) ・ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx) ^{注2} ・ポート・モード・レジスタ (PMxx) ^{注2} ・ポート・レジスタ (Pxx) ^{注2}

注1. チャンネル0-7のタイマ入出力端子の有無は製品によって異なります。詳細は、表6-2 各製品に搭載しているタイマ入出力端子を参照してください。

2. 製品によって設定するポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx) , ポート・モード・レジスタ (PMxx) とポート・レジスタ (Pxx) が異なります。詳細は、6.3.16 ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14) を参照してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

タイマ・アレイ・ユニットの各チャンネルのタイマ入出力端子の有無は、製品によって異なります。

表6-2 各製品に搭載しているタイマ入出力端子

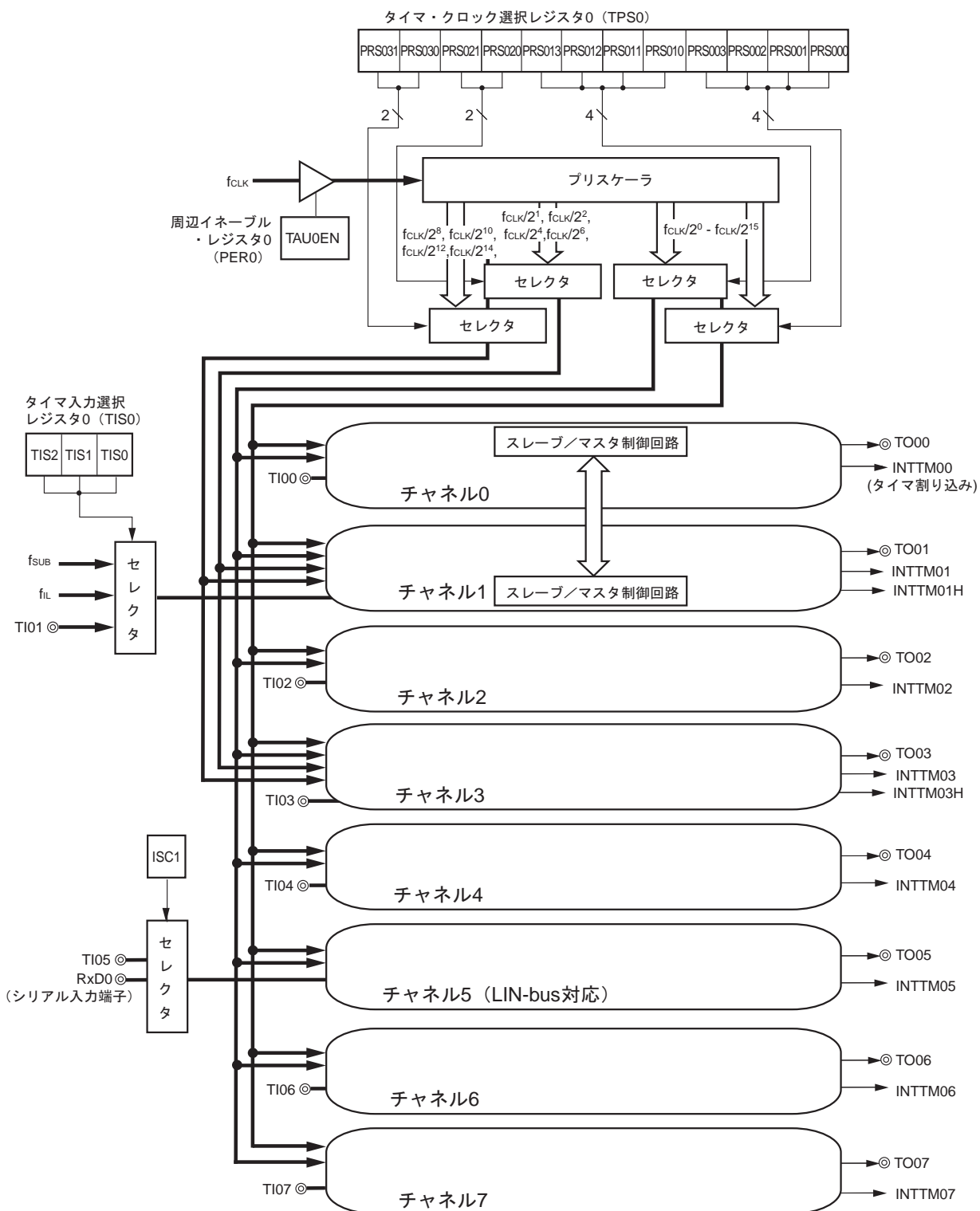
タイマ・アレイ・ ユニット・ チャンネル	各製品の入出力端子の有無				
	32ピン	44ピン	48ピン	52ピン	64ピン
チャンネル0	P13/TI00, P140/TO00	P141/TI00, P140/TO00			
チャンネル1	P30/TI01/TO01				
チャンネル2	P17/TI02/TO02 (P12)			P17/TI02/TO02 (P54)	
チャンネル3	—	P32/TI03/TO03			
チャンネル4	—	—	P41/TI04/TO04		
チャンネル5	—	—	—	P42/TI05/TO05	
チャンネル6	—	—	—	P51/TI06/TO06	
チャンネル7	P10/TI07/TO07				P53/TI07/TO07

備考1. タイマ入力とタイマ出力が同一端子で兼用されている場合は、タイマ入力かタイマ出力のどちらかのみ使用可能です。

2. — : タイマ入出力端子はないが、チャンネルは搭載（インターバルタイマとしてのみ使用可能）
3. (P12), (P54) は周辺I/Oリダイレクション・レジスタ（PIOR）のビット0を“1”に設定したときの兼用ポート

図6-1にタイマ・アレイ・ユニットのブロック図を示します。

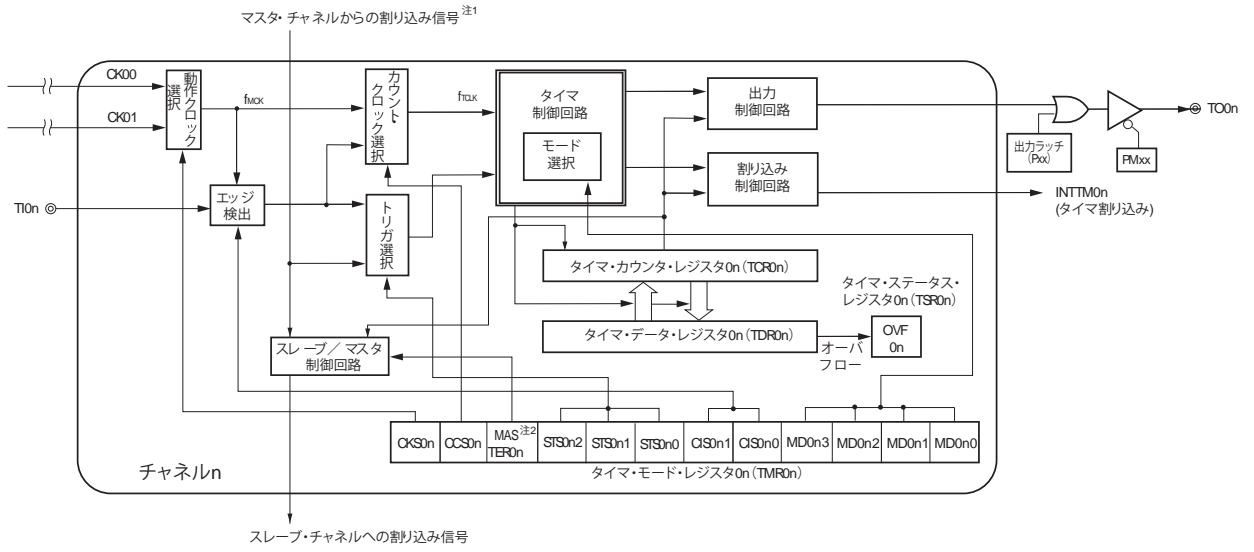
図6-1 タイマ・アレイ・ユニットの全体ブロック図 (例：64ピン製品)



備考 f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数

f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

図6-2 タイマ・アレイ・ユニット0のチャンネル0, 2, 4, 6内部ブロック図



注1. チャンネル2, 4, 6のみ

2. n=2, 4, 6のみ

備考 n = 0, 2, 4, 6

図6-3 タイマ・アレイ・ユニット0のチャンネル1内部ブロック図

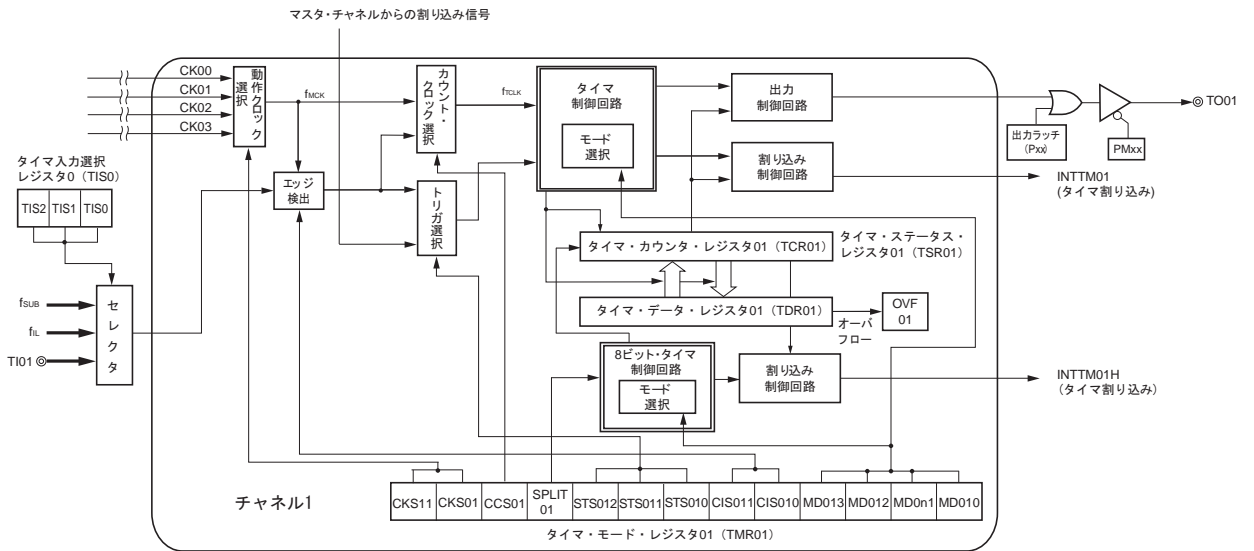


図6-4 タイマ・アレイ・ユニット0のチャンネル3内部ブロック図

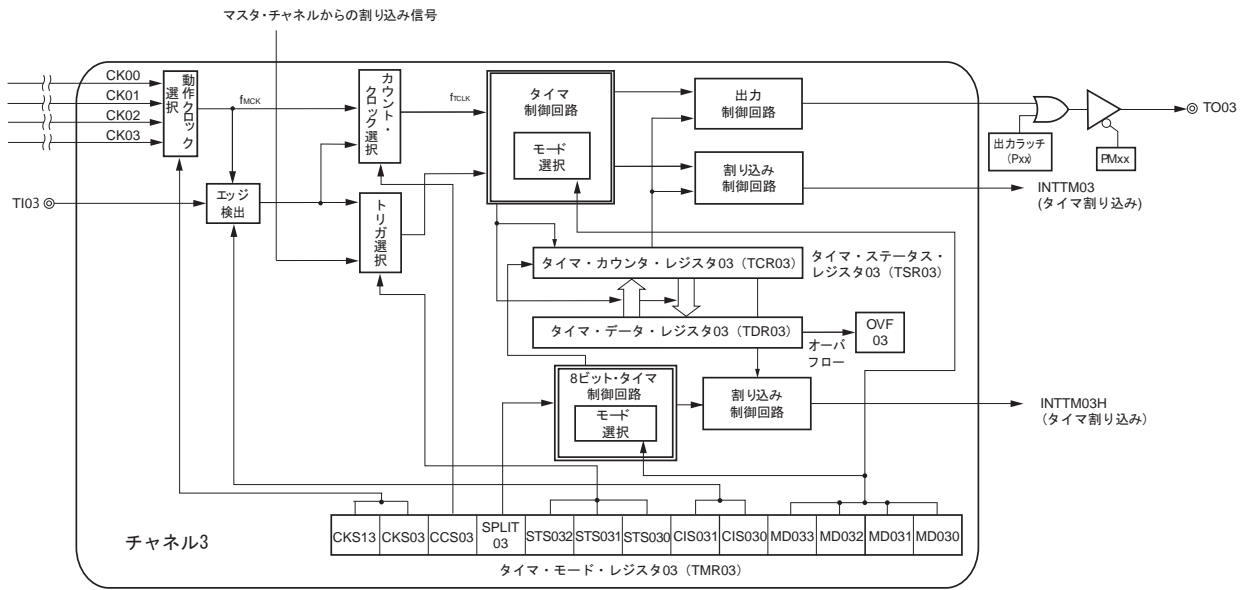


図6-5 タイマ・アレイ・ユニット0のチャンネル5内部ブロック図

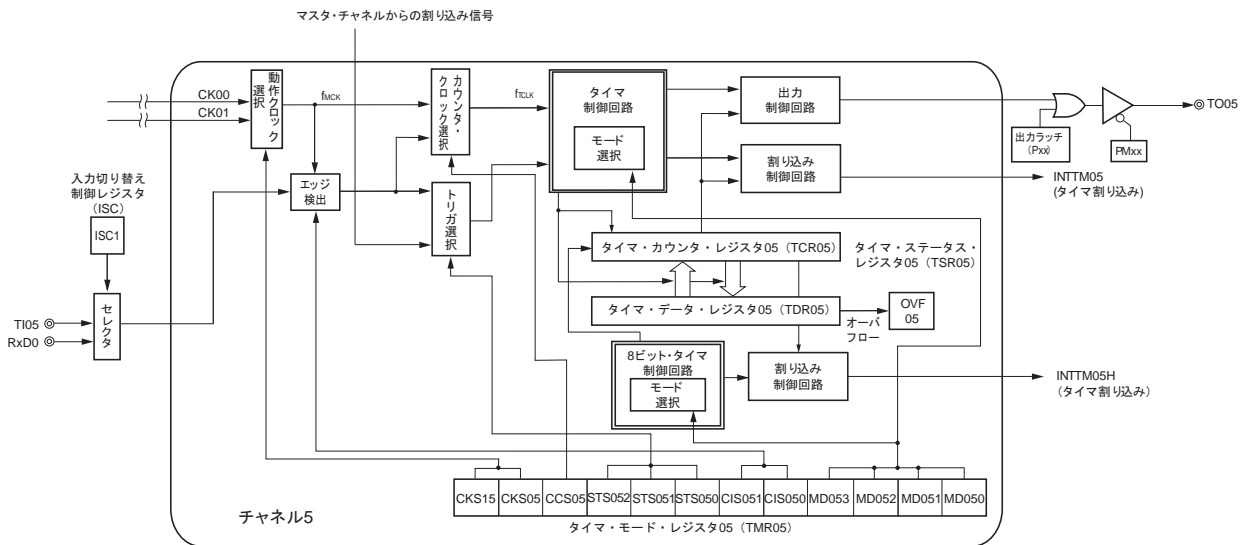
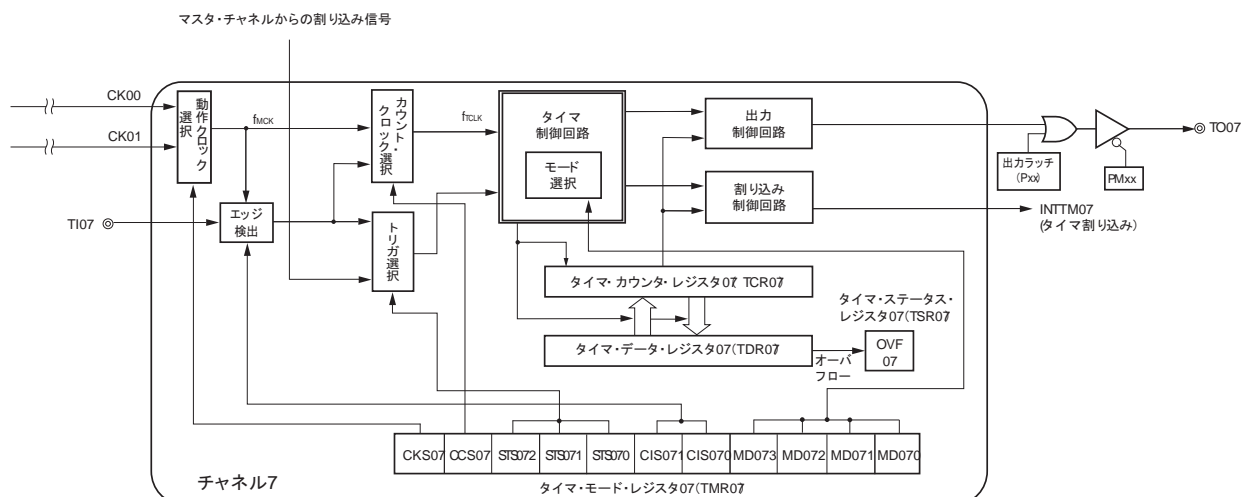


図6-6 タイマ・アレイ・ユニット0のチャンネル7内部ブロック図



6.2.1 タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn)

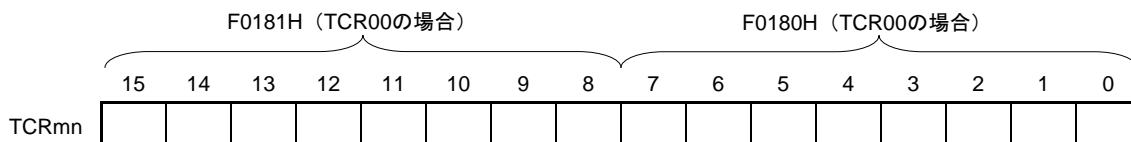
TCRmnレジスタは、カウント・クロックをカウントする16ビットのリード専用レジスタです。

カウント・クロックの立ち上がり同期して、カウンタをインクリメント/デクリメントします。

インクリメントかデクリメントかは、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のMDmn3-MDmn0ビットで動作モードを選択することで切り替わります (6.3.3 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) 参照)。

図6-7 タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) のフォーマット

アドレス : F0180H, F0181H (TCR00) - F018EH, F018FH (TCR07) , リセット時 : FFFFH R



備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) をリードすることにより、カウント値をリードできます。次の場合、カウント値はFFFFHになります。

- ・リセット信号の発生時
- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットをクリアしたとき
- ・PWM出力モードで、スレーブ・チャンネルのカウント完了時
- ・ディレイ・カウント・モードで、スレーブ・チャンネルのカウント完了時
- ・ワンショット・パルス出力モードで、マスタ/スレーブ・チャンネルのカウント完了時
- ・多重PWM出力モードで、スレーブ・チャンネルのカウント完了時

また、次の場合には、カウント値は0000Hになります。

- ・キャプチャ・モード時に、スタート・トリガが入力されたとき
- ・キャプチャ・モード時で、キャプチャ完了時

注意 TCRmnレジスタをリードしても、タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) にはキャプチャしません。

TCRmnレジスタ読み出し値は、動作モード変更や動作状態により次のように異なります。

表6-3 各動作モード時のタイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) 読み出し値

動作モード	カウント方式	タイマ・カウンタ・レジスタ (TCRmn) の読み出し値 ^注			
		リセット解除後に動作モード変更した場合の値	カウント動作を一時停止 (TTmn = 1) した場合の値	カウント動作を一時停止 (TTmn = 1) 後、動作モード変更した場合の値	ワンカウント後のスタート・トリガ待ち状態時の値
インターバル・タイマ・モード	ダウン・カウント	FFFFH	停止時の値	不定	—
キャプチャ・モード	アップ・カウント	0000H	停止時の値	不定	—
イベント・カウンタ・モード	ダウン・カウント	FFFFH	停止時の値	不定	—
ワンカウント・モード	ダウン・カウント	FFFFH	停止時の値	不定	FFFFH
キャプチャ&ワンカウント・モード	アップ・カウント	0000H	停止時の値	不定	TDRmn レジスタのキャプチャ値+1

注 チャンネルnがタイマ動作停止状態 (TEmn = 0) かつカウント動作許可状態 (TSmn = 1) にした時点の、TCRmn レジスタの読み出し値を示します。カウント動作開始までこの値がTCRmnレジスタに保持されます。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.2.2 タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn)

キャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できる16ビットのレジスタです。キャプチャ機能がコンペア機能かは、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のMDmn3-MDmn0ビットで動作モードを選択することで切り替わります。

TDRmnレジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。

16ビット単位でリード/ライト可能です。

また、TDRm1, TDRm3レジスタは、8ビット・タイマ・モード時 (タイマ・モード・レジスタm1, m3 (TMRm1, TMRm3) のSPLITビットが1) に、上位8ビットをTDRm1H, TDRm3H, 下位8ビットをTDRm1L, TDRm3Lとして、8ビット単位でリード/ライト可能になります。

リセット信号の発生により、TDRmnレジスタは0000Hになります。

図6-8 タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) (n = 0, 2, 4-7) のフォーマット

アドレス : FFF18H, FFF19H (TDR00) , FFF64H, FFF65H (TDR02) , リセット時 : 0000H R/W
FFF68H, FFF69H (TDR04) - FFF6EH, FFF6FH (TDR07)

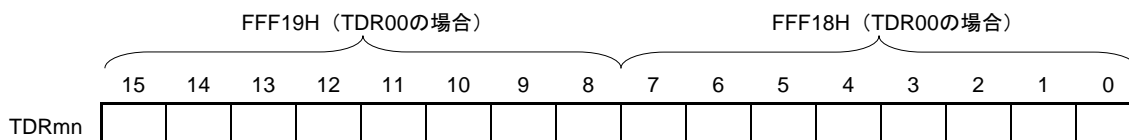
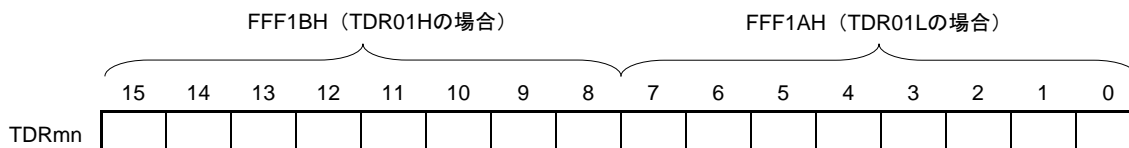


図6-9 タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) (n = 1, 3) のフォーマット

アドレス : FFF1AH, FFF1BH (TDR01) , FFF66H, FFF67H (TDR03) リセット時 : 0000H R/W



- (i) タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) をコンペア・レジスタとして使用するとき

TDRmnレジスタに設定した値からダウン・カウントをスタートして、0000Hになったときに割り込み信号 (INTTMmn) を発生します。TDRmnレジスタは書き換えられるまで値を保持します。

注意 コンペア機能に設定したTDRmnレジスタはキャプチャ・トリガが入力されても、キャプチャ動作を行いません。

- (ii) タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) をキャプチャ・レジスタとして使用するとき

キャプチャ・トリガの入力により、タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) のカウント値をTDRmnレジスタにキャプチャします。

キャプチャ・トリガとして、TImn端子の有効エッジの選択ができます。キャプチャ・トリガの選択は、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) で設定します。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)

6.3 タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタ

タイマ・アレイ・ユニットを制御するレジスタを次に示します。

- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm)
- ・タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn)
- ・タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn)
- ・タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm)
- ・タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm)
- ・タイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm)
- ・タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0)
- ・タイマ出力選択レジスタ (TOS)
- ・タイマ出力許可レジスタm (TOEm)
- ・タイマ出力レジスタm (TOM)
- ・タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)
- ・タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)
- ・入力切り替え制御レジスタ (ISC)
- ・ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1)
- ・ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx)
- ・ポート・モード・レジスタ (PMxx) 注
- ・ポート・レジスタ (Pxx) 注

注 製品によって設定するポート・モード・レジスタ (PMxx) とポート・レジスタ (Pxx) が異なります。
詳細は、6.3.16 ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14) を参照してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

タイマ・アレイ・ユニットを使用する場合は、必ずビット0 (TAU0EN) を1に設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、PER0レジスタは00Hになります。

図6-10 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス：F00F0H リセット時：00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

TAU0EN	タイマ・アレイ・ユニットの入カクロックの制御
0	入カクロック供給停止 ・タイマ・アレイ・ユニットで使用するSFRへのライト不可 ・タイマ・アレイ・ユニットはリセット状態
1	入カクロック供給 ・タイマ・アレイ・ユニットで使用するSFRへのリード／ライト可

注意 1. タイマ・アレイ・ユニットの設定をする際には、必ず最初にTAU0EN = 1の状態です。下記のレジスタの設定を行ってください。TAU0EN = 0の場合は、タイマ・アレイ・ユニットの制御レジスタは初期値となり、書き込みは無視されます (タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0)、タイマ出力選択レジスタ (TOS)、入力切り替え制御レジスタ (ISC)、ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1)、ポート・モード・コントロール・レジスタ1, 4, 14 (PMC1, PMC4, PMC14)、ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14)、ポート・レジスタ1, 3-5, 14 (P1, P3-P5, P14) は除く)。

- ・タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm)
- ・タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn)
- ・タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn)
- ・タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm)
- ・タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm)
- ・タイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm)
- ・タイマ出力許可レジスタm (TOEm)
- ・タイマ出力レジスタm (TOM)
- ・タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)
- ・タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)

2. ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

6.3.2 タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm)

TPSmレジスタは、外部プリスケアラから各チャンネルに共通して供給される2種類または4種類の動作クロック (CKm0, CKm1) を選択する16ビット・レジスタです。TPSmレジスタのビット7-4でCKm1を、ビット3-0でCKm0を選択します。さらにチャンネル1, 3では、TPSmレジスタのビット9, 8でCKm2を、ビット13, 12でCKm3を選択します。

タイマ動作中のTPSmレジスタの書き換えは、次の場合のみ可能です。

PRSm00-PRSm03ビットが書き換え可能な場合 (n = 0-7) :

動作クロックにCKm0を選択 (CKSmn1, CKSmn0 = 0, 0) しているチャンネルがすべて停止状態 (TEmn = 0)

PRSm10-PRSm13ビットが書き換え可能な場合 (n = 0-7) :

動作クロックにCKm1を選択 (CKSmn1, CKSmn0 = 0, 1) しているチャンネルがすべて停止状態 (TEmn = 0)

PRSm20, PRSm21ビットが書き換え可能な場合 (n = 1, 3) :

動作クロックにCKm2を選択 (CKSmn1, CKSmn0 = 1, 0) しているチャンネルがすべて停止状態 (TEmn = 0)

PRSm30-PRSm31ビットが書き換え可能な場合 (n = 1, 3) :

動作クロックにCKm3を選択 (CKSmn1, CKSmn0 = 1, 1) しているチャンネルがすべて停止状態 (TEmn = 0)

TPSmレジスタは16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、TPSmレジスタは0000Hになります。

図6-11 タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) のフォーマット (1/2)

アドレス : F01B6H, F01B7H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TPSm	0	0	PRS m31	PRS m30	0	0	PRS m21	PRS m20	PRS m13	PRS m12	PRS m11	PRS m10	PRS m03	PRS m02	PRS m01	PRS m00

PRS mk3	PRS mk2	PRS mk1	PRS mk0	動作クロック (CKmk) の選択 ^注 (k = 0, 1)					
				f _{CLK} = 2 MHz	f _{CLK} = 5 MHz	f _{CLK} = 10 MHz	f _{CLK} = 20 MHz	f _{CLK} = 24 MHz	
0	0	0	0	f _{CLK}	2 MHz	5 MHz	10 MHz	20 MHz	24 MHz
0	0	0	1	f _{CLK} /2	1 MHz	2.5 MHz	5 MHz	10 MHz	12 MHz
0	0	1	0	f _{CLK} /2 ²	500 kHz	1.25 MHz	2.5 MHz	5 MHz	6 MHz
0	0	1	1	f _{CLK} /2 ³	250 kHz	625 kHz	1.25 MHz	2.5 MHz	3 MHz
0	1	0	0	f _{CLK} /2 ⁴	125 kHz	312.5 kHz	625 kHz	1.25 MHz	1.5 MHz
0	1	0	1	f _{CLK} /2 ⁵	62.5 kHz	156.2 kHz	312.5 kHz	625 kHz	750 kHz
0	1	1	0	f _{CLK} /2 ⁶	31.25 kHz	78.1 kHz	156.2 kHz	312.5 kHz	375 kHz
0	1	1	1	f _{CLK} /2 ⁷	15.62 kHz	39.1 kHz	78.1 kHz	156.2 kHz	187.5 kHz
1	0	0	0	f _{CLK} /2 ⁸	7.81 kHz	19.5 kHz	39.1 kHz	78.1 kHz	93.8 kHz
1	0	0	1	f _{CLK} /2 ⁹	3.91 kHz	9.76 kHz	19.5 kHz	39.1 kHz	46.9 kHz
1	0	1	0	f _{CLK} /2 ¹⁰	1.95 kHz	4.88 kHz	9.76 kHz	19.5 kHz	23.4 kHz
1	0	1	1	f _{CLK} /2 ¹¹	976 Hz	2.44 kHz	4.88 kHz	9.76 kHz	11.7 kHz
1	1	0	0	f _{CLK} /2 ¹²	488 Hz	1.22 kHz	2.44 kHz	4.88 kHz	5.86 kHz
1	1	0	1	f _{CLK} /2 ¹³	244 Hz	610 Hz	1.22 kHz	2.44 kHz	2.93 kHz
1	1	1	0	f _{CLK} /2 ¹⁴	122 Hz	305 Hz	610 Hz	1.22 kHz	1.46 kHz
1	1	1	1	f _{CLK} /2 ¹⁵	61 Hz	153 Hz	305 Hz	610 Hz	732 Hz

注 f_{CLK}に選択しているクロックを変更 (システム・クロック制御レジスタ (CKC) の値を変更) する場合は、タイマ・アレイ・ユニットを停止 (TTm = 00FFH) させてください。

- 注意 1. ビット15, 14, 11, 10には、必ず0を設定してください。
2. 動作クロック (CKmk) にf_{CLK} (分周なし) を選択し、TDRmn = 0000H (n = 0, 1, m = 0-7) を設定すると、タイマ・アレイ・ユニットからの割り込み要求を検出しません。

- 備考 1. f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数
2. TPSmレジスタで選択するクロックの波形は、立ち上がりからf_{CLK}の1周期分だけハイ・レベルになります(m = 0,1)。詳しくは、6. 5. 1 カウント・クロック (f_{CLK}) を参照してください。

図6-11 タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) のフォーマット (2/2)

アドレス : F01B6H, F01B7H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TPSm	0	0	PRS m31	PRS m30	0	0	PRS m21	PRS m20	PRS m13	PRS m12	PRS m11	PRS m10	PRS m03	PRS m02	PRS m01	PRS m00

PRS m21	PRS m20	動作クロック (CKm2) の選択 ^注					
			f _{CLK} = 2 MHz	f _{CLK} = 5 MHz	f _{CLK} = 10 MHz	f _{CLK} = 20 MHz	f _{CLK} = 24 MHz
0	0	f _{CLK} /2	1 MHz	2.5 MHz	5 MHz	10 MHz	12 MHz
0	1	f _{CLK} /2 ²	500 kHz	1.25 MHz	2.5 MHz	5 MHz	6 MHz
1	0	f _{CLK} /2 ⁴	125 kHz	312.5 kHz	625 kHz	1.25 MHz	1.5 MHz
1	1	f _{CLK} /2 ⁶	31.25 kHz	78.1 kHz	156.2 kHz	312.5 kHz	375 MHz

PRS m31	PRS m30	動作クロック (CKm3) の選択 ^注					
			f _{CLK} = 2 MHz	f _{CLK} = 5 MHz	f _{CLK} = 10 MHz	f _{CLK} = 20 MHz	f _{CLK} = 24 MHz
0	0	f _{CLK} /2 ⁸	7.81 kHz	19.5 kHz	39.1 kHz	78.1 kHz	93.8 kHz
0	1	f _{CLK} /2 ¹⁰	1.95 kHz	4.88 kHz	9.76 kHz	19.5 kHz	23.4 kHz
1	0	f _{CLK} /2 ¹²	488 Hz	1.22 kHz	2.44 kHz	4.88 kHz	5.86 kHz
1	1	f _{CLK} /2 ¹⁴	122 Hz	305 Hz	610 Hz	1.22 kHz	1.46 kHz

注 f_{CLK}に選択しているクロックを変更 (システム・クロック制御レジスタ (CKC) の値を変更) する場合は、タイマ・アレイ・ユニットを停止 (TTm = 00FFH) させてください。
 カウント・クロック (f_{TCLK}) にCKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック (f_{MCK})、TImn端子からの入力信号の有効エッジのどれを選択している場合でも停止する必要があります。

注意 ビット15, 14, 11, 10には、必ず0を設定してください。

チャンネル1, 3を8ビット・タイマ・モードで使用し、CKm2, CKm3を動作クロックとすることにより、インターバル・タイマ機能で、表6-4に示すインターバル時間を実現することが可能です。

表6-4 動作クロックCKSm2, CKSm3で設定可能なインターバル時間

クロック		インターバル時間 (f _{CLK} = 24 MHz)			
		10 μs ^注	100 μs ^注	1 ms ^注	10 ms ^注
CKm2	f _{CLK} /2	○	—	—	—
	f _{CLK} /2 ²	○	—	—	—
	f _{CLK} /2 ⁴	○	○	—	—
	f _{CLK} /2 ⁶	○	○	—	—
CKm3	f _{CLK} /2 ⁸	—	○	○	—
	f _{CLK} /2 ¹⁰	—	○	○	—
	f _{CLK} /2 ¹²	—	—	○	○
	f _{CLK} /2 ¹⁴	—	—	○	○

注 ○には5%以下の誤差が含まれます。

- 備考1. f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数
 2. TPSmレジスタで選択するf_{CLK}/2ⁱの波形の詳細は、6.5.1 カウント・クロック (f_{TCLK}) を参照してください。

6.3.3 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn)

TMRmnレジスタは、チャンネルnの動作モード設定レジスタです。動作クロック (f_{MCK}) の選択, カウント・クロックの選択, マスタ/スレーブの選択, 16ビット/8ビット・タイマの選択 (チャンネル1, 3のみ), スタート・トリガとキャプチャ・トリガの設定, タイマ入力の有効エッジ選択, 動作モード (インターバル, キャプチャ, イベント・カウンタ, ワンカウント, キャプチャ&ワンカウント) 設定を行います。

TMRmnレジスタは、動作中 (TE_{mn} = 1のとき) の書き換えは禁止です。ただし、ビット7, 6 (CIS_{mn1}, CIS_{mn0}) は、一部の機能で動作中 (TE_{mn} = 1のとき) の書き換えが可能です (詳細は6.8 タイマ・アレイ・ユニットの単独チャンネル動作機能, 6.9 タイマ・アレイ・ユニットの複数チャンネル連動動作機能を参照)。

TMRmnレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、TMRmnレジスタは0000HIになります。

注意 TMRmnレジスタのビット11は、チャンネルによって搭載するビットが異なります。

TMRm2, TMRm4, TMRm6 : MASTERmnビット (n = 2, 4, 6)

TMRm1, TMRm3 : SPLITmnビット (n = 1, 3)

TMRm0, TMRm5, TMRm7 : 0固定

図6-12 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のフォーマット (1/4)

アドレス : F0190H, F0191H (TMR00) -F019EH, F019FH (TMR07) リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 2, 4, 6)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	MAS TERmn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 1, 3)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	SPLIT mn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 0, 5, 7)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	0 ^注	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

CKS mn1	CKS mn0	チャンネルnの動作クロック (fmck) の選択
0	0	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) で設定した動作クロックCKm0
0	1	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) で設定した動作クロックCKm2
1	0	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) で設定した動作クロックCKm1
1	1	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) で設定した動作クロックCKm3
動作クロック (fmck) は、エッジ検出回路に使用されます。また、CCSmnビットの設定によりサンプリング・クロックおよびカウント・クロック (fclk) を生成します。		
動作クロックCKm2, CKm3は、チャンネル1, 3のみ選択可能です。		

CCS mn	チャンネルnのカウント・クロック (fclk) の選択
0	CKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック (fmck)
1	TImn端子からの入力信号の有効エッジ ・ユニット0の場合 : チャンネル1では、TIS0で選択した入力信号の有効エッジ チャンネル5では、ISCで選択した入力信号の有効エッジ
カウント・クロック (fclk) は、カウンタ、出力制御回路、割り込み制御回路に使用されます。	

注 ビット11はRead onlyの0固定で、書き込みは無視されます。

注意1. ビット13, 5, 4には、必ず0を設定してください。

2. カウント・クロック (fclk) にCKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック (fmck) , TImn端子からの入力信号の有効エッジのどれを選択していても、fclkに選択しているクロックを変更 (システム・クロック制御レジスタ (CKC) の値を変更) する場合は、タイマ・アレイ・ユニットを停止 (TTm = 00FFH) させてください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-12 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のフォーマット (2/4)

アドレス : F0190H, F0191H (TMR00) -F019EH, F019FH (TMR07) リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 2, 4, 6)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	MAS TERmn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 1, 3)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	SPLIT mn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 0, 5, 7)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	0 ^注	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

(TMRmn (n = 2, 4, 6) のビット11)

MAS TER mn	チャンネルnの単独チャンネル動作／複数チャンネル連動動作（スレーブ／マスタ）の選択
0	単独チャンネル動作機能、または複数チャンネル連動動作機能でスレーブ・チャンネルとして動作
1	複数チャンネル連動動作機能でマスタ・チャンネルとして動作
チャンネル2, 4, 6のみマスタ・チャンネル（MASTERmn = 1）に設定できます。 チャンネル0, 5, 7は0固定となります（チャンネル0は最上位チャンネルのため、このビットの設定によらずマスタとして動作します）。 また、単独チャンネル動作機能として使用するチャンネルは、MASTERmn = 0 にします。	

(TMRmn (n = 1, 3) のビット11)

SPLI Tmn	チャンネル1, 3の8ビット・タイマ／16ビット・タイマ動作の選択
0	16ビット・タイマとして動作 (単独チャンネル動作機能、または複数チャンネル連動動作機能でスレーブ・チャンネルとして動作)
1	8ビット・タイマとして動作

STS mn2	STS mn1	STS mn0	チャンネルnのスタート・トリガ、キャプチャ・トリガの設定
0	0	0	ソフトウェア・トリガ・スタートのみ有効（他のトリガ要因を非選択にする）
0	0	1	Tlmn端子入力の有効エッジを、スタート・トリガ、キャプチャ・トリガの両方に使用
0	1	0	Tlmn端子入力の両エッジを、スタート・トリガとキャプチャ・トリガに分けて使用
1	0	0	マスタ・チャンネルの割り込み信号を使用（複数チャンネル連動動作機能のスレーブ・チャンネル時）
上記以外			設定禁止

注 ビット11はRead onlyの0固定で、書き込みは無視されます。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-12 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のフォーマット (3/4)

アドレス : F0190H, F0191H (TMR00) -F019EH, F019FH (TMR07) , リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 2, 4, 6)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	MAS TERmn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 1, 3)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	SPLIT mn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 0, 5, 7)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	0 ^注	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

CIS mn1	CIS mn0	Tlmn端子の有効エッジ選択
0	0	立ち下がリエッジ
0	1	立ち上がりエッジ
1	0	両エッジ (ロウ・レベル幅測定時) スタート・トリガ : 立ち下がリエッジ, キャプチャ・トリガ : 立ち上がりエッジ
1	1	両エッジ (ハイ・レベル幅測定時) スタート・トリガ : 立ち上がりエッジ, キャプチャ・トリガ : 立ち下がリエッジ
STSmn2-STSmn0ビット = 010B時以外で両エッジ指定を使用する場合は, CISmn1-CISmn0ビット = 10Bに設定してください。		

注 ビット11はRead onlyの0固定で, 書き込みは無視されます。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)

図6-12 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のフォーマット (4/4)

アドレス : F0190H, F0191H (TMR00) -F019EH, F019FH (TMR07) リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 2, 4, 6)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	MAS TERmn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0
略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 1, 3)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	SPLIT mn	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0
略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TMRmn (n = 0, 5, 7)	CKS mn1	CKS mn0	0	CCS mn	0 ^{注1}	STS mn2	STS mn1	STS mn0	CIS mn1	CIS mn0	0	0	MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0

MD mn3	MD mn2	MD mn1	MD mn0	チャンネルnの動作モードの設定	対応する機能	TCRのカウンタ 動作
0	0	0	1/0	インターバル・タイマ・モード	インターバル・タイマ/ 方形波出力/分周器機能/ PWM出力 (マスタ)	ダウン・カウンタ
0	1	0	1/0	キャプチャ・モード	入力パルス間隔測定	アップ・カウンタ
0	1	1	0	イベント・カウンタ・モード	外部イベント・カウンタ	ダウン・カウンタ
1	0	0	1/0	ワンカウント・モード	ディレイ・カウンタ/ ワンショット・パルス出力/ PWM出力 (スレーブ)	ダウン・カウンタ
1	1	0	0	キャプチャ&ワンカウント・ モード	入力信号のハイ/ロウ・レベ ル幅測定	アップ・カウンタ
上記以外				設定禁止		

MDmn0ビットの動作は、各動作モードによって変わります (下表を参照)。

動作モード (MDmn3-MDmn1で設定 (上表参照))	MD mn0	カウント・スタートと割り込みの設定
・インターバル・タイマ・モード (0, 0, 0)	0	カウント開始時にタイマ割り込みを発生しない (タイマ出力も変化しない)。
・キャプチャ・モード (0, 1, 0)	1	カウント開始時にタイマ割り込みを発生する (タイマ出力も変化させる)。
・イベント・カウンタ・モード (0, 1, 1)	0	カウント開始時にタイマ割り込みを発生しない (タイマ出力も変化しない)。
・ワンカウント・モード ^{注2} (1, 0, 0)	0	カウント動作中のスタート・トリガは無効とする。 その際に割り込みは発生しない。
	1	カウント動作中のスタート・トリガを有効とする ^{注3} 。 その際に割り込みは発生しない。
・キャプチャ&ワンカウント・モード (1, 1, 0)	0	カウント開始時にタイマ割り込みを発生しない (タイマ出力も変化しない)。 カウント動作中のスタート・トリガは無効とする。 その際に割り込みは発生しない。
上記以外		設定禁止

- 注1. ビット11はRead onlyの0固定で、書き込みは無視されます。
2. ワンカウント・モードでは、カウント動作開始時の割り込み出力 (INTTmn) , TOMn出力は制御しません。
3. 動作中にスタート・トリガ (TSMn = 1) が掛かると、カウンタを初期化し、再カウント・スタートします (割り込み要求は発生せず)。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.3.4 タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn)

TSRmnレジスタは、チャンネルnのカウンタのオーバーフロー状況を表示するレジスタです。

TSRmnレジスタは、キャプチャ・モード (MDmn3-MDmn1 = 010B) とキャプチャ&ワンカウント・モード (MDmn3-MDmn1 = 110B) のみ有効です。各動作モードでのOVFビットの動作とセット/クリア条件は表6-5を参照してください。

TSRmnレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またTSRmnレジスタの下位8ビットは、TSRmnLで8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により、TSRmnレジスタは0000Hになります。

図6-13 タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) のフォーマット

アドレス : F01A0H, F01A1H (TSR00) - F01AEH, F01AFH (TSR07) リセット時 : 0000H R

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TSRmn	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	OVF

OVF	チャンネルnのカウンタのオーバーフロー状況
0	オーバーフローなし
1	オーバーフロー発生
OVF = 1のとき、次にオーバーフローなしでキャプチャしたときにクリア (OVF = 0) されます。	

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

表6-5 各動作モードにおけるOVFビットの動作とセット/クリア条件

タイマの動作モード	OVFビット	セット/クリア条件
・キャプチャ・モード	クリア	キャプチャ時にオーバーフローが発生していない場合
・キャプチャ&ワンカウント・モード	セット	キャプチャ時にオーバーフローが発生していた場合
・インターバル・タイマ・モード	クリア	— (使用不可)
・イベント・カウンタ・モード	セット	
・ワンカウント・モード		

備考 OVFビットは、カウンタがオーバーフローしてもすぐには変化せず、その後のキャプチャ時に変化します。

6.3.5 タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm)

TEmレジスタは、各チャンネルのタイマ動作許可／停止状態を表示するレジスタです。

TEmレジスタの各ビットは、タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) とタイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm) の各ビットに対応しています。TSmレジスタの各ビットが1にセットされると、TEmレジスタの対応ビットが1にセットされます。TTmレジスタの各ビットが1にセットされると、その対応ビットが0にクリアされます。

TEmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またTEmレジスタの低位8ビットは、TEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により、TEmレジスタは0000Hになります。

図6-14 タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) のフォーマット

アドレス : F01B0H, F01B1H リセット時 : 0000H R

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TEm	0	0	0	0	TEHm 3	0	TEHm 1	0	TEm 7	TEm 6	TEm 5	TEm 4	TEm 3	TEm 2	TEm 1	TEm 0

TEH m3	チャンネル3が8ビット・タイマ・モード時、上位側8ビット・タイマの動作許可／停止状態の表示
0	動作停止状態
1	動作許可状態

TEH m1	チャンネル1が8ビット・タイマ・モード時、上位側8ビット・タイマの動作許可／停止状態の表示
0	動作停止状態
1	動作許可状態

TEmn	チャンネルnの動作許可／停止状態の表示
0	動作停止状態
1	動作許可状態
チャンネル1, 3が8ビット・タイマ・モード時は、TEm1, TEm3で低位側8ビット・タイマの動作許可／停止状態を表示します。	

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.3.6 タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm)

TSmレジスタは、タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) を初期化し、カウント動作の開始をチャンネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビットが1にセットされると、タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) の対応ビットが1にセットされます。TSmn, TSHm1, TSHm3ビットはトリガ・ビットなので、動作許可状態(TEmn, TEHm1, TEHm3 = 1) になるとすぐTSmn, TSHm1, TSHm3ビットはクリアされます。

TSmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTSmレジスタの下位8ビットは、TSmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、TSmレジスタは0000Hになります。

図6-15 タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のフォーマット

アドレス : F01B2H, F01B3H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TSm	0	0	0	0	TSH m3	0	TSH m1	0	TSm 7	TSm 6	TSm 5	TSm 4	TSm 3	TSm 2	TSm 1	TSm 0

TSH m3	チャンネル3が8ビット・タイマ・モード時、上位側8ビット・タイマの動作許可（スタート）トリガ
0	トリガ動作しない
1	TEHm3ビットを1にセットし、カウント動作許可状態になる。 カウント動作許可状態におけるTCRm3レジスタのカウント動作開始は、インターバル・タイマ・モードになります（6.5.2 カウンタのスタート・タイミングの表6-6参照）。

TSH m1	チャンネル1が8ビット・タイマ・モード時、上位側8ビット・タイマの動作許可（スタート）トリガ
0	トリガ動作しない
1	TEHm1ビットを1にセットし、カウント動作許可状態になる。 カウント動作許可状態におけるTCRm1レジスタのカウント動作開始は、インターバル・タイマ・モードになります（6.5.2 カウンタのスタート・タイミングの表6-6参照）。

TSmn	チャンネルnの動作許可（スタート）トリガ
0	トリガ動作しない
1	TEmnビットを1にセットし、カウント動作許可状態になる。 カウント動作許可状態におけるTCRmnレジスタのカウント動作開始は、各動作モードにより異なります（6.5.2 カウンタのスタート・タイミングの表6-6参照）。 チャンネル1, 3が8ビット・タイマ・モード時は、TSm1, TSm3が下位側8ビット・タイマの動作許可（スタート）トリガになります。

(注意、備考は次ページにあります。)

- 注意1. ビット15-12, 10, 8には必ず0を設定してください。
2. TImn端子入力を使用しない機能から、TImn端子入力を使用する機能に切り替える場合、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) 設定後、TSmn (TSHm1, TSHm3) ビットを1に設定するまでに、次の期間ウエイトが必要になります。

TImn端子のノイズ・フィルタ有効時 (TNFENmn = 1) : 動作クロック (f_{MCK}) の4クロック

TImn端子のノイズ・フィルタ無効時 (TNFENmn = 0) : 動作クロック (f_{MCK}) の2クロック

- 備考1. TSmレジスタの読み出し値は常に0となります。
2. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)

6.3.7 タイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm)

TTmレジスタは、カウント動作の停止をチャンネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビットが1にセットされると、タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) の対応ビットが0にクリアされます。TTmn, TTHm1, TTHm3ビットはトリガ・ビットなので、動作停止状態 (TEmn, TTHm1, TTHm3 = 0) になるとすぐTTmn, TTHm1, TTHm3ビットはクリアされます。

TTmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTTmレジスタの下位8ビットは、TTmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、TTmレジスタは0000Hになります。

図6-16 タイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm) のフォーマット

アドレス : F01B4H, F01B5H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TTm	0	0	0	0	TTH m3	0	TTH m1	0	TTm 7	TTm 6	TTm 5	TTm 4	TTm 3	TTm 2	TTm 1	TTm 0

TTH m3	チャンネル3が8ビット・タイマ・モード時、上位側8ビット・タイマの動作停止トリガ														
0	トリガ動作しない														
1	動作停止 (停止トリガ発生)														

TTH m1	チャンネル1が8ビット・タイマ・モード時、上位側8ビット・タイマの動作停止トリガ														
0	トリガ動作しない														
1	動作停止 (停止トリガ発生)														

TTmn	チャンネルnの動作停止トリガ														
0	トリガ動作しない														
1	TEmnビットを0にクリアし、カウント動作停止可状態になる。 チャンネル1, 3が8ビット・タイマ・モード時は、TTm1, TTm3が下位側8ビット・タイマの動作停止トリガになります。														

注意 ビット15-12, 10, 8には必ず0を設定してください。

備考1. TTmレジスタの読み出し値は常に0となります。

2. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.3.8 タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0)

TIS0レジスタは、チャンネル1のタイマ入力を選択するレジスタです。

TIS0レジスタは8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、TIS0レジスタは00Hになります。

図6-17 タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0) のフォーマット

アドレス : F0074H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
TIS0	0	0	0	0	0	TIS02	TIS01	TIS00

TIS02	TIS01	TIS00	チャンネル1で使用するタイマ入力の選択
0	0	0	タイマ入力端子 (TI01) の入力信号
1	0	0	低速オンチップ・オシレータ・クロック (f _{IL})
1	0	1	サブシステム・クロック (f _{SUB})
上記以外			設定禁止

注意 選択するタイマ入力のハイ・レベル幅、ロウ・レベル幅は、 $1/f_{MCK}+10$ ns以上必要となります。そのため、f_{CLK}にf_{SUB}を選択時 (CKCレジスタのCSS = 1) は、TIS02ビットに1を設定できません。

6.3.9 タイマ出力選択レジスタ (TOS)

TOSレジスタは、リモコン出力機能を有効にするときに設定するレジスタです。

チャンネル6, 7で生成したPWM出力信号（キャリア波形）を、チャンネル2, 3で生成したPWM出力信号（マスク波形）でマスクすることにより、リモコン出力を生成します。

TOSレジスタの書き換えは、カウント動作開始前（TE02, TE03, TE06, TE07 = 0）のみ可能です。

TOSレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、TOSレジスタは00Hになります。

図6-18 タイマ出力選択レジスタ (TOS) のフォーマット

アドレス : F0079H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
TOS	0	0	0	0	0	0	0	TOS0

TOS0	リモコン出力設定
0	無効（チャンネル2, 3, 6, 7はタイマ出力）
1	有効（リモコン出力をTO03端子へ出力）

- 注意 1. リモコン出力が有効（TOS0 = 1）の場合、チャンネル2, 3, 6, 7は別の機能で使用できません。
2. 32ピン製品では、TOS0ビット = 1の設定は禁止です。

6.3.10 タイマ出力許可レジスタm (TOEm)

TOEmレジスタは、各チャンネルのタイマ出力許可／禁止を設定するレジスタです。

タイマ出力を許可したチャンネルnは、後述のタイマ出力レジスタm (TOm) のTOmnビットの値をソフトウェアによって書き換えできなくなり、カウント動作によるタイマ出力機能によって反映された値がタイマ出力端子 (TOmn) から出力されます。

TOEmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOEmレジスタの下位8ビットは、TOEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、TOEmレジスタは0000Hになります。

図6-19 タイマ出力許可レジスタm (TOEm) のフォーマット

アドレス : F01BAH, F01BBH リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TOEm	0	0	0	0	0	0	0	0	TOE m7	TOE m6	TOE m5	TOE m4	TOE m3	TOE m2	TOE m1	TOE m0

TOE mn	チャンネルnのタイマ出力許可／禁止
0	タイマの出力を禁止 タイマ動作をTOmnビットに反映せず、出力を固定します。 TOmnビットへの書き込みが可能となり、TOmnビットに設定したレベルがTOmn端子から出力されま す。
1	タイマの出力を許可 タイマ動作をTOmnビットに反映し、出力波形を生成します。 TOmnビットへの書き込みは無視されます。

注意 ビット15-8には必ず0を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.3.11 タイマ出力レジスタm (TOm)

TOmレジスタは、各チャンネルのタイマ出力のバッファ・レジスタです。

このレジスタの各ビットの値が、各チャンネルのタイマ出力端子 (TOmn) から出力されます。

このレジスタのTOmnビットのソフトウェアによる書き換えは、タイマ出力禁止時 (TOEmn = 0) のみ可能です。タイマ出力許可時 (TOEmn = 1) は、ソフトウェアによる書き換えは無視され、タイマ動作によってのみ値が変更されます。

また、P140/TO00, P30/TI01/TO01, P17/TI02/TO02, P32/TI03/TO03, P41/TI04/TO04, P42/TI05/TO05, P51/TI06/TO06, P53/TI07/TO07をポート機能として使用する場合は、該当するTOmnビットに“0”を設定してください。

TOmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOmレジスタの下位8ビットは、TOmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、TOmレジスタは0000Hになります。

図6-20 タイマ出力レジスタm (TOm) のフォーマット

アドレス : F01B8H, F01B9H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TOm	0	0	0	0	0	0	0	0	TOm	TOm	TOm	TOm	TOm	TOm	TOm	TOm
									7	6	5	4	3	2	1	0

TOmn	チャンネルnのタイマ出力														
0	タイマ出力値が“0”														
1	タイマ出力値が“1”														

注意 ビット15-8には必ず0を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.3.12 タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)

TOLmレジスタは、各チャンネルのタイマ出力レベルを制御するレジスタです。

このレジスタによる各チャンネルnの反転設定は、タイマ出力許可 (TOEmn = 1)、複数チャンネル連動動作機能 (TOMmn = 1) 時にタイマ出力信号がセット、リセットされるタイミングで反映されます。マスタ・チャンネル出力モード (TOMmn = 0) 時には、このレジスタの設定は無効となります。

TOLmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOLmレジスタの下位8ビットは、TOLmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、TOLmレジスタは0000Hになります。

図6-21 タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm) のフォーマット

アドレス : F01BCH, F01BDH リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TOLm	0	0	0	0	0	0	0	0	TOL m7	TOL m6	TOL m5	TOL m4	TOL m3	TOL m2	TOL m1	0

TOL mn	チャンネルnのタイマ出力レベルの制御														
0	正論理出力 (アクティブ・ハイ)														
1	負論理出力 (アクティブ・ロウ)														

注意 ビット15-8, 0には必ず0を設定してください。

備考 1. タイマ動作中にこのレジスタの値を書き換えた場合、書き換えた直後のタイミングではなく、次にタイマ出力信号が変化するタイミングで、タイマ出力の論理が反転します。

2. m : ユニット番号 (m = 0), n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.3.13 タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)

TOMmレジスタは、各チャンネルのタイマ出力モードを制御するレジスタです。

単独チャンネル動作機能として使用する場合、使用するチャンネルの対応ビットを0に設定します。

複数チャンネル連動動作機能（PWM出力、ワンショット・パルス出力、多重PWM出力）として使用する場合、マスタ・チャンネルの対応ビットを0に設定し、スレーブ・チャンネルの対応ビットを1に設定します。

このレジスタによる各チャンネルnの設定は、タイマ出力許可（TOEmn = 1）時にタイマ出力信号がセット、リセットされるタイミングで反映されます。

TOMmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またTOMmレジスタの下位8ビットは、TOMmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、TOMmレジスタは0000Hになります。

図6-22 タイマ出力モード・レジスタm (TOMm) のフォーマット

アドレス：F01BEH, F01BFH リセット時：0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TOMm	0	0	0	0	0	0	0	0	TOM m7	TOM m6	TOM m5	TOM m4	TOM m3	TOM m2	TOM m1	0

TOM mn	チャンネルnのタイマ出力モードの制御
0	マスタ・チャンネル出力モード（タイマ割り込み要求信号（INTTMmn）によりトグル出力を行う）
1	スレーブ・チャンネル出力モード （マスタ・チャンネルのタイマ割り込み要求信号（INTTMmn）で出力がセット、スレーブ・チャンネルのタイマ割り込み要求信号（INTTMmp）で出力がリセットされる）

注意 ビット15-8, 0には必ず0を設定してください。

備考 m：ユニット番号（m = 0）

n：チャンネル番号

n = 0-7（マスタ・チャンネル時：n = 0, 2, 4, 6）

p：スレーブ・チャンネル番号

n < p ≤ 7

（マスタ・チャンネル、スレーブ・チャンネルの関係についての詳細は、6.4.1 複数チャンネル連動動作機能の基本ルールを参照してください）

6.3.14 入力切り替え制御レジスタ (ISC)

ISCレジスタのISC1, ISC0ビットは、チャンネル5をシリアル・アレイ・ユニットと連携してLIN-bus通信動作を実現するときに使用します。ISC1ビットに1を設定すると、シリアル・データ入力端子 (RxD0) の入力信号がタイマ入力として選択されます。

ISCレジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、ISCレジスタは00Hになります。

図6-23 入力切り替え制御レジスタ (ISC) のフォーマット

アドレス : F0073H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ISC	0	0	0	0	0	0	ISC1	ISC0

ISC1	タイマ・アレイ・ユニットのチャンネル5の入力切り替え
0	52, 64ピン製品 : TI05端子の入力信号をタイマ入力とする (通常動作) 32, 44, 48, ピン製品の場合 : チャンネル5でタイマ入力信号を使用しない
1	RxD0端子の入力信号をタイマ入力とする (ウエイクアップ信号検出とブレーク・フィールドのロウ幅とシンク・フィールドのパルス幅測定)

ISC0	外部割り込み (INTP0) の入力切り替え
0	INTP0端子の入力信号を外部割り込み入力とする (通常動作)
1	RxD0端子の入力信号を外部割り込み入力とする (ウエイクアップ信号検出)

注意 ビット7-2に必ず0を設定してください。

備考 LIN-bus通信を使用する場合は、ISC1 = 1に設定してRxD0端子の入力信号を選択しておいてください。

6.3.15 ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1)

NFEN1レジスタは、タイマ入力端子からの入力信号に対するノイズ・フィルタの使用可否をチャンネルごとに設定するレジスタです。

ノイズ除去が必要な端子は、対応するビットに1を設定して、ノイズ・フィルタを有効にしてください。

ノイズ・フィルタ有効時は、対象チャンネルの動作クロック (fMCK) で同期化のあと、2クロックの一致検出を行います。ノイズ・フィルタ無効時は、対象チャンネルの動作クロック (fMCK) で同期化だけを行います^注。

NFEN1レジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、NFEN1レジスタは00Hになります。

注 詳細は、6.5.1 (2) TImn端子からの入力信号の有効エッジを選択した場合 (CCS_{mn} = 1)、6.5.2 カウンタのスタート・タイミングを参照。

図6-24 ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1) のフォーマット

アドレス : F0071H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
NFEN1	TNFEN07	TNFEN06	TNFEN05	TNFEN04	TNFEN03	TNFEN02	TNFEN01	TNFEN00
TNFEN07	TI07端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							
TNFEN06	TI06端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							
TNFEN05	TI05端子またはRxD0端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否 ^注							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							
TNFEN04	TI04端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							
TNFEN03	TI03端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							
TNFEN02	TI02端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							
TNFEN01	TI01端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							
TNFEN00	TI00端子入力信号のノイズ・フィルタ使用可否							
0	ノイズ・フィルタOFF							
1	ノイズ・フィルタON							

注 入力切り替え制御レジスタ (ISC) のISC1ビットを設定することにより、適用する端子を切り替えることができます。

ISC1 = 0に設定 : TI05端子のノイズ・フィルタ使用可否選択が可能

ISC1 = 1に設定 : RxD0端子のノイズ・フィルタ使用可否選択が可能

備考 チャネル0-7のタイマ入出力端子の有無は製品によって異なります。詳細は、表6-2 各製品に搭載しているタイマ入出力端子を参照してください。

6.3.16 ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14)

ポート1, 3-5, 14の入力/出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

タイマ入出力端子の有無は製品によって異なります。そのため、タイマ・アレイ・ユニット使用時に各製品で設定するポート・モード・レジスタは次のようになります。

32ピン, 44ピン製品 : PM1, PM3, PM14

48ピン製品 : PM1, PM3, PM4, PM14

52, 64ピン製品 : PM1, PM3-PM5, PM14

タイマ出力端子を兼用するポート (P140/TO00, P41/TO04/TI04など) をタイマ出力として使用するとき、各ポートに対応するポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx) のビット、ポート・モード・レジスタ (PMxx) のビットおよびポート・レジスタ (Pxx) のビットに0を設定してください。

例) P41/TO04/TI04をタイマ出力として使用する場合

ポート・モード・コントロール・レジスタ4のPMC41ビットを0に設定

ポート・モード・レジスタ4のPM41ビットを0に設定

ポート・レジスタ4のP41ビットを0に設定

タイマ入力端子を兼用するポート (P141/TI00, P41/TO04/TI04など) をタイマ入力として使用するとき、各ポートに対応するポート・モード・レジスタ (PMxx) のビットに1を設定してください。また、ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx) のビットに0を設定してください。このときポート・レジスタ (Pxx) のビットは、0または1のどちらでもかまいません。

例) P41/TO04/TI04をタイマ入力として使用する場合

ポート・モード・コントロール・レジスタ4のPMC41ビットを0に設定

ポート・モード・レジスタ4のPM41ビットを1に設定

ポート・レジスタ4のP41ビットを0または1に設定

PM1, PM3-PM5, PM14レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。リセット信号の発生により、FFHになります。

図6-25 ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14) のフォーマット (64ピン製品の場合)

アドレス : FFF21H	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM1	PM17	PM16	PM15	PM14	PM13	PM12	PM11	PM10

アドレス : FFF23H	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM3	1	1	1	1	1	PM32	PM31	PM30

アドレス : FFF24H	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM4	1	1	1	1	PM43	PM42	PM41	PM40

アドレス : FFF25H	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM5	1	1	1	PM54	PM53	PM52	PM51	PM50

アドレス : FFF2EH	リセット時 : FFH	R/W						
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM14	PM147	PM146	PM145	PM144	PM143	PM142	PM141	PM140

PMmn	Pmn端子の入出力モードの選択 (m = 1, 3-5, 14 ; n = 0-7)
0	出力モード (出力バッファ・オン)
1	入力モード (出力バッファ・オフ)

備考 上記は、64ピン製品のポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14のフォーマットです。他の製品のポート・モード・レジスタのフォーマットについては、表4-3 各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxx, PMCxxレジスタとそのビットを参照してください。

6.4 タイマ・アレイ・ユニットの基本ルール

6.4.1 複数チャネル連動動作機能の基本ルール

複数チャネル連動動作機能は、マスタ・チャネル（主に周期をカウントする基準タイマ）とスレーブ・チャネル（マスタ・チャネルに従い動作するタイマ）を組合せて実現する機能で、使用にあたってはいくつかのルールがあります。

次に複数チャネル連動動作機能の基本的なルールを示します。

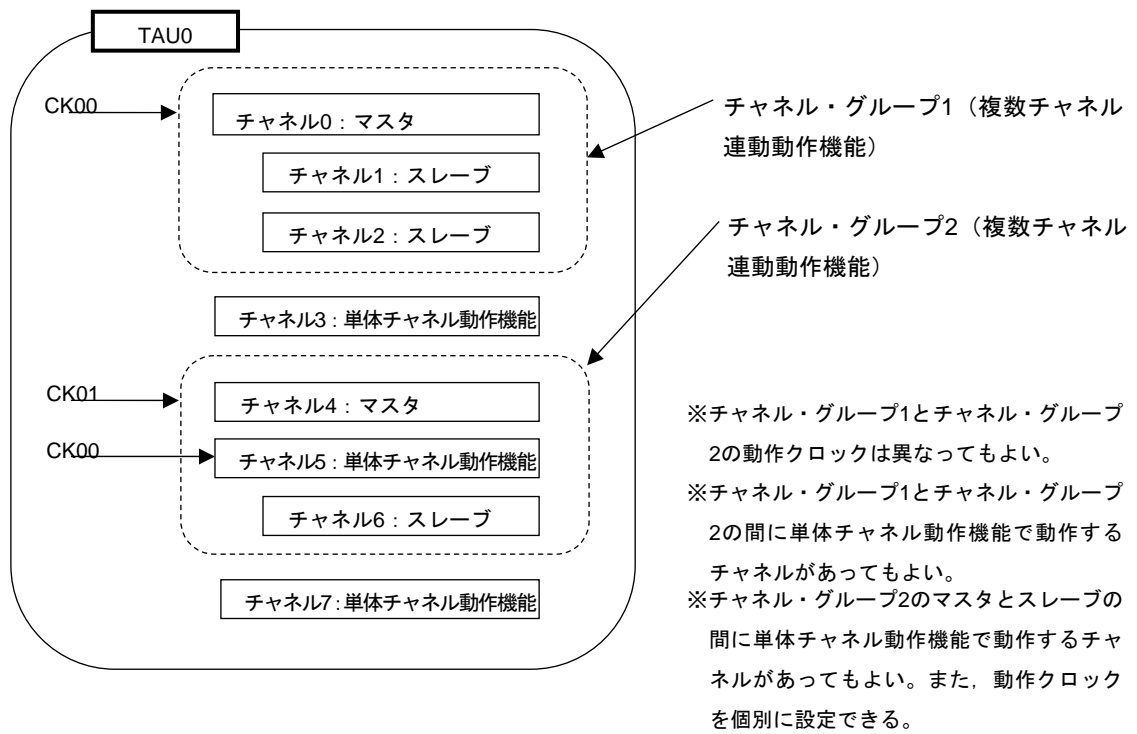
- (1) マスタ・チャネルには、偶数チャネル（チャンネル0, チャンネル2, チャンネル4, …）のみ設定できます。
- (2) スレーブ・チャネルには、チャンネル0を除くすべてのチャネルを設定できます。
- (3) スレーブ・チャネルには、マスタ・チャネルの下位チャネルのみ設定できます。
例 チャンネル2をマスタ・チャネルにした場合、チャンネル3以降（チャンネル3, チャンネル4, チャンネル5, …）をスレーブ・チャネルに設定できます。
- (4) 1つのマスタ・チャネルに対し、スレーブ・チャネルは複数設定できます。
- (5) マスタ・チャネルを複数使用する場合、マスタ・チャネルをまたいだスレーブ・チャネルの設定はできません。
例 チャンネル0, チャンネル4をマスタ・チャネルにした場合、マスタ・チャンネル0は、チャンネル1-3までをスレーブ・チャネルとして設定できます。マスタ・チャンネル0は、チャンネル5-7をスレーブ・チャネルとして設定できません。
- (6) マスタ・チャネルと連動するスレーブ・チャネルは、同じ動作クロックを設定します。マスタ・チャネルと連動するスレーブ・チャネルのCKSmn0, CKSmn1ビット（タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のビット15, 14) が同じ設定値になっている必要があります。
- (7) マスタ・チャネルはINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウェア・トリガ／カウント・クロックを下位チャネルに伝えることができます。
- (8) スレーブ・チャネルはマスタ・チャネルのINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウェア・トリガ／カウント・クロックをソース・クロックとして使用できますが、下位チャネルに自身のINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウェア・トリガ／カウント・クロックを伝えることはできません。
- (9) マスタ・チャネルは、他の上位のマスタ・チャネルからのINTTMmn（割り込み）／スタート・ソフトウェア・トリガ／カウント・クロックをソース・クロックとして使用することはできません。
- (10) 連動させるチャネルを同時スタートさせるため、連動させるチャネルのチャンネル・スタート・トリガ・ビット (TSmn) を同時に設定する必要があります。
- (11) カウント動作中のTSmnビットの設定は、連動させるすべてのチャネルまたはマスタ・チャネルのみ使用できます。スレーブ・チャネルのTSmnビットのみの設定では使用できません。
- (12) 連動させるチャネルを同時に停止させるため、連動させるチャネルのチャンネル・ストップ・トリガ・ビット (TTmn) を同時に設定する必要があります。
- (13) 連動動作時は、マスタ・チャネルとスレーブ・チャネルの動作クロックをあわせる必要があるため、CKm2/CKm3は選択できません。
- (14) タイマ・モード・レジスタm0 (TMRm0) は、マスタ・ビットがなく、"0"に固定されています。しかし、チャンネル0は最上位チャネルなので、連動動作時は、チャンネル0をマスタ・チャネルとして使用できます。

複数チャネル連動動作機能の基本ルールは、チャンネル・グループ（1つの複数チャネル連動動作機能を形成するマスタ・チャネルとスレーブ・チャネルの集合）内に適用されるルールです。

それぞれが連動しない2つ以上のチャンネル・グループを設定した場合、チャンネル・グループ間には上記の基本ルールは適用されません。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

例



6.4.2 8ビット・タイマ動作機能の基本ルール（チャンネル1, 3のみ）

8ビット・タイマ動作機能は、16ビット・タイマのチャンネルを8ビット・タイマの2チャンネル構成として使用する機能です。

8ビットタイマ動作機能は、チャンネル1, 3のみ使用できる機能で、使用にあたってはいくつかのルールがあります。

次に8ビット・タイマ動作機能の基本的なルールを示します。

- (1) 8ビット・タイマ動作機能が適用されるチャンネルは、チャンネル1, 3のみです。
- (2) 8ビット・タイマとして使用する場合には、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のSPLITmnビットを“1”に設定します。
- (3) 上位8ビットは、インターバル・タイマ機能として動作することができます。
- (4) 上位8ビットは、動作開始時にINTTm1H/INTTm3H（割り込み）を出力します（MDmn0 =1 設定と同じ動作）。
- (5) 上位8ビットの動作クロック選択は、下位ビットのTMRmnレジスタのCKSmn1, CKSmn0ビットにしたがって動作します。
- (6) 上位8ビットは、TSHm1/TSHm3ビットを操作することでチャンネル動作を開始し、TTHm1/TTHm3ビットを操作することでチャンネル動作を停止します。チャンネルのステータスは、TEHm1/TEHm3ビットで確認できます。
- (7) 下位8ビットは、TMRmnレジスタの設定にしたがって動作します。下位8ビットの動作をサポートする機能は、以下の3機能です。
 - ・インターバル・タイマ機能/方形波機能
 - ・外部イベント・カウンタ機能
 - ・ディレイ・カウント機能
- (8) 下位8ビットは、TSm1/TSm3ビットを操作することでチャンネル動作を開始し、TTm1/TTm3ビットを操作することでチャンネル動作を停止します。チャンネルのステータスは、TEm1/TEm3ビットで確認できます。
- (9) 16ビットで動作させる場合には、TSHm1/TSHm3/TTHm1/TTHm3ビットの操作は無効となります。TSm1/TSm3, TTm1/TTm3ビットを操作することでチャンネル1, 3が動作します。TEHm3ビットとTEHm1ビットは変化しません。
- (10) 8ビット・タイマ機能で、連動動作機能（ワンショット・パルス, PWM, 多重PWM）を使用することはできません。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 1, 3)

6.5 カウンタの動作

6.5.1 カウント・クロック (f_{TCLK})

タイマ・アレイ・ユニットのカウント・クロック (f_{TCLK}) は、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) の CCSmnビットにより、以下のどちらかを選択することができます。

- ・ CKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック (f_{MCK})
- ・ TImn端子からの入力信号の有効エッジ

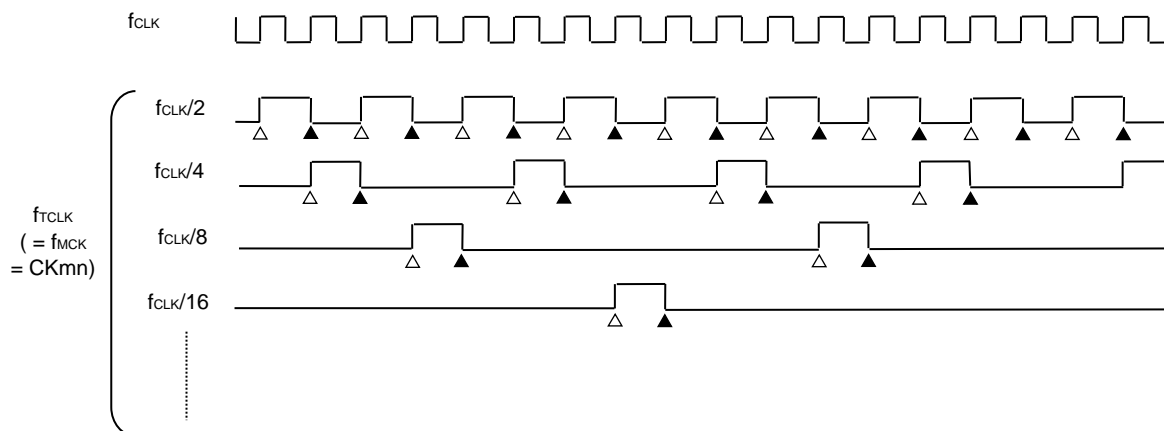
タイマ・アレイ・ユニットは、f_{CLK}との同期をとって動作するよう設計されているため、カウント・クロック (f_{TCLK}) のタイミングは次のようになります。

(1) CKSmn0, CKSmn1ビットで指定した動作クロック (f_{MCK}) を選択した場合 (CCSmn = 0)

カウント・クロック (f_{TCLK}) は、タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) の設定により、f_{CLK}~f_{CLK}/2¹⁵ となります。ただし、f_{CLK}の分周を選んだ場合、TPSmレジスタで選択するクロックは、立ち上がりからf_{CLK}の1周期分だけハイ・レベルになる信号となります。f_{CLK}を選んだ場合は、ハイ・レベル固定となります。

タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) は、f_{CLK}との同期をとるため、カウント・クロックの立ち上がりからf_{CLK}の1クロック分遅れてカウントしますが、このことを便宜上“カウント・クロックの立ち上がりでカウントする”と表現します。

図6-26 f_{CLK}とカウント・クロック (f_{TCLK}) のタイミング (CCSmn = 0時)



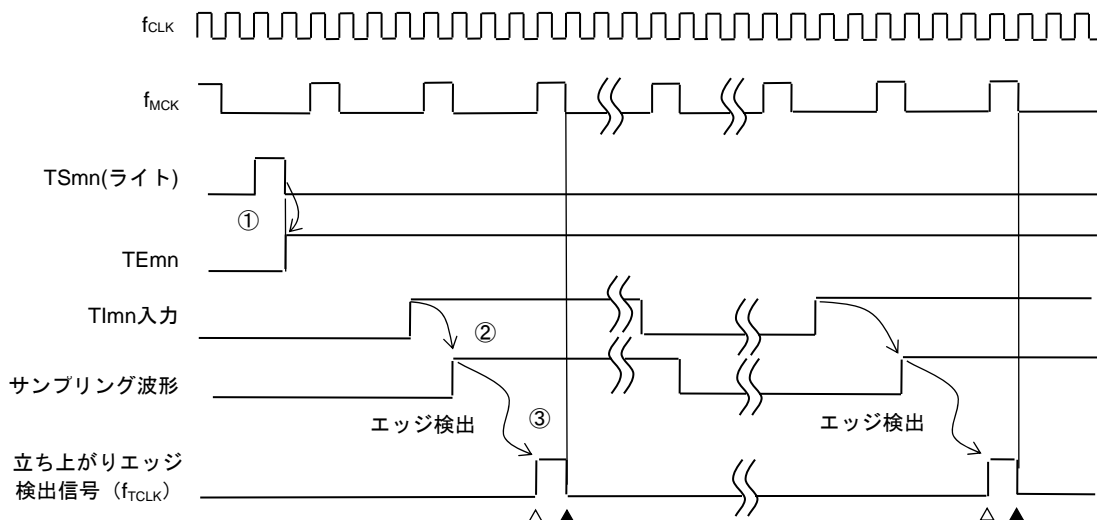
- 備考 1. Δ : カウント・クロックの立ち上がり
▲ : 同期化, カウンタのインクリメント/デクリメント
2. f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック

(2) TImn端子からの入力信号の有効エッジを選択した場合 (CCSmn = 1)

カウント・クロック (f_{TCLK}) は、TImn端子からの入力信号の有効エッジを検出し、次の f_{MCK} の立ち上がりに同期した信号になります。これは、実際のTImn端子からの入力信号より f_{MCK} の1~2クロック分遅れた信号になります (ノイズ・フィルタ使用時は、 f_{MCK} の3~4クロック分遅れます)。

また、タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) は、 f_{CLK} との同期をとるためにカウント・クロックの立ち上がりから f_{CLK} の1クロック分遅れてカウントしますが、このことを便宜上“TImn端子からの入力信号の有効エッジでカウントする”と表現します。

図6-27 カウント・クロック (f_{TCLK}) のタイミング (CCSmn = 1, ノイズ・フィルタ未使用時)



- ①TSmnビットをセットすることでタイマが動作を開始し、TImn入力の有効エッジ待ちになります。
- ②TImn入力の立ち上がりが f_{MCK} でサンプリングされます。
- ③サンプリングした信号の立ち上がりでエッジ検出がおこなわれ、検出信号 (カウント・クロック) が出力されます。

備考1. △ : カウント・クロックの立ち上がり

▲ : 同期化, カウンタのインクリメント/デクリメント

2. f_{MCK} : チャネルnの動作クロック
3. 入力パルス間隔測定, 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定, デイレイ・カウンタ, ワンショット・パルス出力機能のTImn入力も同様の波形になります。

6.5.2 カウンタのスタート・タイミング

タイマ・カウント・レジスタmn (TCRmn) は、タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSMn) のTSmnビットをセットすることにより、動作許可状態になります。

カウント動作許可状態からタイマ・カウント・レジスタmn (TCRmn) のカウント・スタートまでの動作を、表6-6に示します。

表6-6 カウント動作許可状態からタイマ・カウント・レジスタmn (TCRmn) のカウント・スタートまでの動作

タイマの動作モード	TSMn = 1にセットしたときの動作
・インターバル・タイマ・モード	スタート・トリガ検出 (TSMn = 1) 後、カウント・クロック発生まで何も動作しません。 最初のカウント・クロックでTDRmnレジスタの値をTCRmnレジスタにロードし、以降のカウント・クロックでダウン・カウント動作を行います (6.5.3 (1) インターバル・タイマ・モードの動作参照)。
・イベント・カウンタ・モード	TSmnビットに1を書き込むことにより、TDRmnレジスタの値をTCRmnレジスタにロードします。 Timn入力のエッジを検出すると、以降のカウント・クロックでダウン・カウント動作を行います (6.5.3 (2) イベント・カウンタ・モードの動作参照)。
・キャプチャ・モード	スタート・トリガ検出 (TSMn = 1) 後、カウント・クロック発生まで何も動作しません。 最初のカウント・クロックで0000HをTCRmnレジスタにロードし、以降のカウント・クロックでアップ・カウント動作を行います (6.5.3 (3) キャプチャ・モードの動作 (入力パルス間隔測定) 参照)。
・ワンカウント・モード	タイマ動作停止 (TEmn = 0) の状態で、TSmnビットに1を書き込むことによりスタート・トリガ待ち状態となります。 スタート・トリガ検出後、カウント・クロック発生まで何も動作しません。 最初のカウント・クロックでTDRmnレジスタの値をTCRmnレジスタにロードし、以降のカウント・クロックでダウン・カウント動作を行います (6.5.3 (4) ワンカウント・モードの動作参照)。
・キャプチャ&ワンカウント・モード	タイマ動作停止 (TEmn = 0) の状態で、TSmnビットに1を書き込むことによりスタート・トリガ待ち状態となります。 スタート・トリガ検出後、カウント・クロック発生まで何も動作しません。 最初のカウント・クロックで0000HをTCRmnレジスタにロードし、以降のカウント・クロックでアップ・カウント動作を行います (6.5.3 (5) キャプチャ&ワンカウント・モード時のスタート・タイミング (ハイ・レベル幅測定時の動作) 参照)。

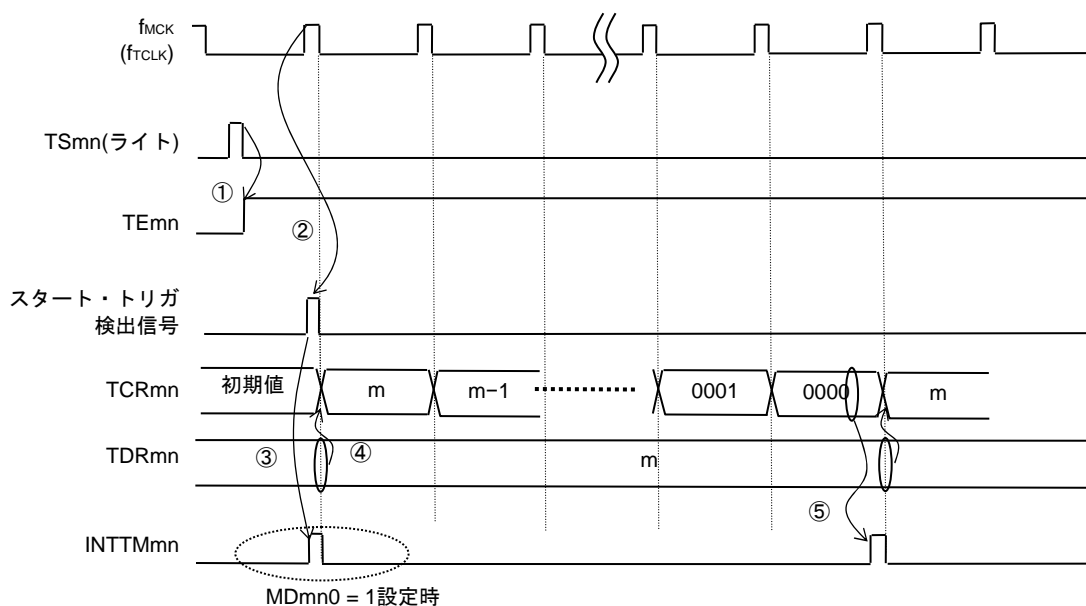
6.5.3 カウンタの動作

各モードでのカウンタ動作を説明します。

(1) インターバル・タイマ・モードの動作

- ① TSmnビットへ1を書き込むことにより、動作許可状態 (TEmn = 1) となります。タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) は、カウント・クロック発生まで初期値を保持しています。
- ② 動作許可後の最初のカウント・クロック (f_{MCK}) で、スタート・トリガが発生します。
- ③ MDmn0ビットが1に設定されている場合には、スタート・トリガにより、INTTMmnが発生します。
- ④ 動作許可後の最初のカウント・クロックにより、タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) の値をTCRmnレジスタにロードし、インターバル・タイマ・モードでのカウントを開始します。
- ⑤ TCRmnレジスタがカウント・ダウンしてカウント値が0000Hになると、次のカウント・クロック (f_{MCK}) でINTTMmnを発生し、タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) の値をTCRmnレジスタにロードしてカウントを継続します。

図6-28 動作タイミング (インターバル・タイマ・モード)



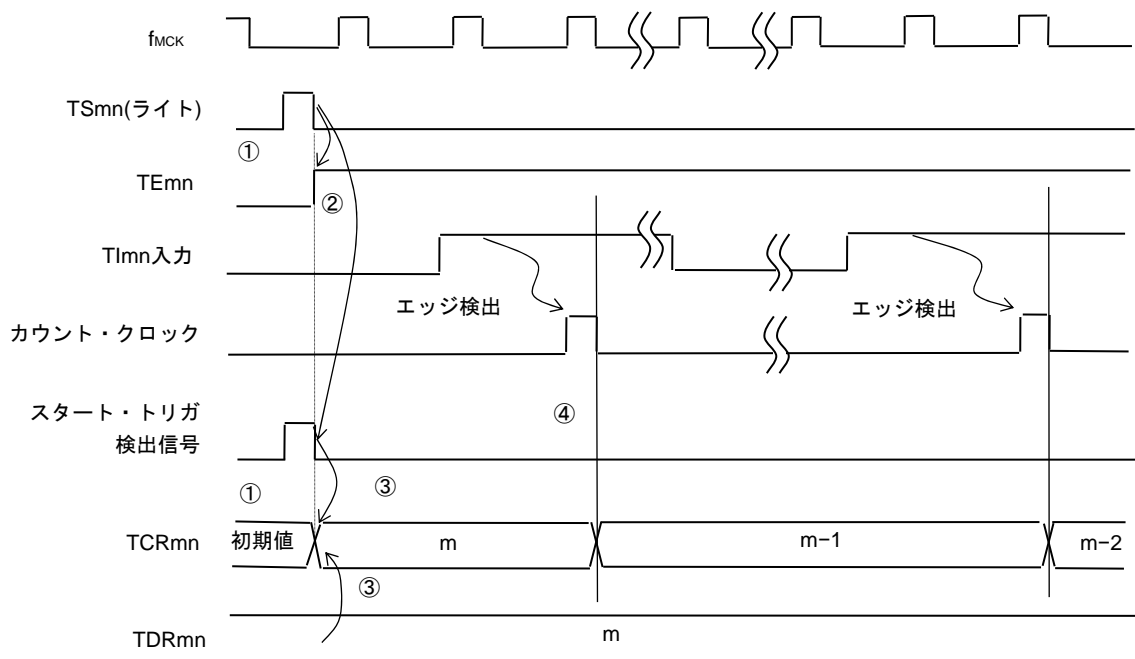
注意 カウント・クロックの1周期目の動作はTSmnビット書き込み後、カウント・クロックが発生するまでカウント開始が遅れるため、1周期目は最大でカウント・クロック1クロック分の誤差が生じます。また、カウント開始タイミングの情報が必要な場合は、MDmn0 = 1に設定することで、カウント開始時に割り込みを発生させることができます。

備考 f_{MCK} , スタート・トリガ検出信号, INTTMmnは, f_{CLK} に同期して1クロック間アクティブとなります。

(2) イベント・カウンタ・モードの動作

- ① 動作停止状態 ($TE_{mn} = 0$) の期間, タイマ・カウンタ・レジスタ mn (TCR_{mn}) は, 初期値を保持します。
- ② TS_{mn} ビットへ1を書き込むことにより, 動作許可状態 ($TE_{mn} = 1$) となります。
- ③ $TS_{mn} = 1 \rightarrow TE_{mn} = 1$ と同時に, TCR_{mn} レジスタにタイマ・データ・レジスタ mn (TDR_{mn}) の値をロードし, カウントを開始します。
- ④ 以降は TI_{mn} 入力の有効エッジでのカウント・クロックに従い, TCR_{mn} レジスタの値をダウン・カウントします。

図6-29 動作タイミング (イベント・カウンタ・モード)

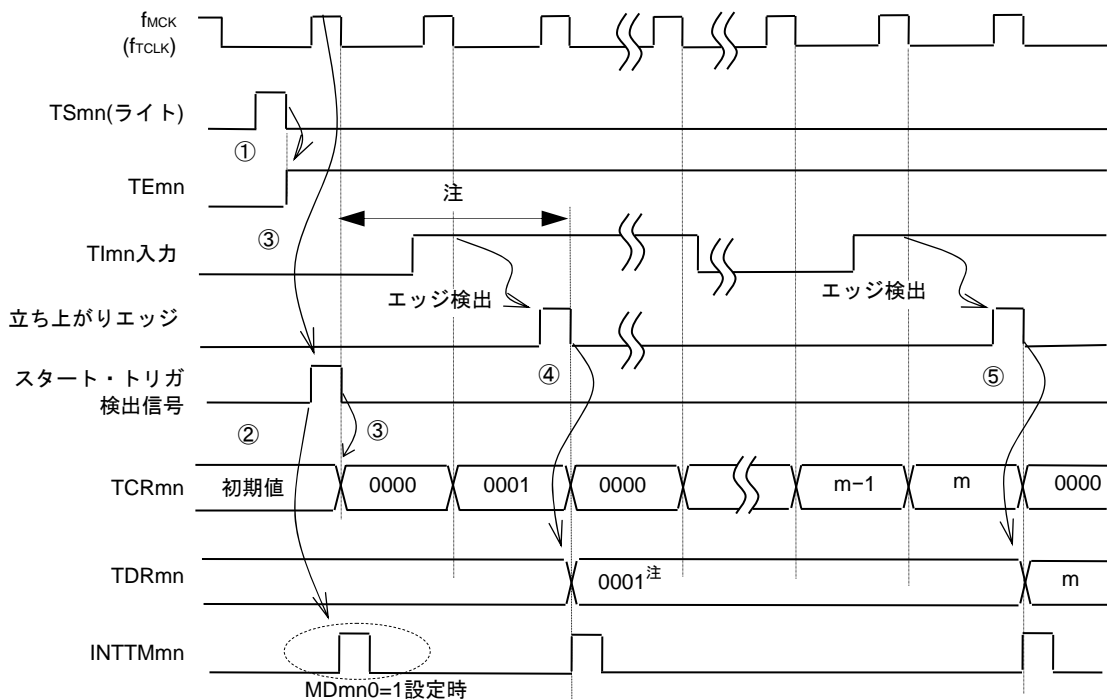


備考 このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンにすると, エッジ検出は TI_{mn} 入力からさらに f_{MCK} の2周期分 (合計で3~4周期分) 遅くなります。1周期分の誤差は TI_{mn} 入力をカッタ・クロック (f_{MCK}) が非同期なためです。

(3) キャプチャ・モードの動作（入力パルス間隔測定）

- ① TSmnビットへ1を書き込むことにより、動作許可状態（TEmn = 1）となります。
- ② タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）は、カウント・クロック発生まで初期値を保持しています。
- ③ 動作許可後の最初のカウント・クロック（f_{MCK}）で、スタート・トリガが発生します。そして0000Hの値をTCRmnレジスタにロードし、キャプチャ・モードでのカウントを開始します。（MDmn0ビットが1に設定されている場合には、スタート・トリガにより、INTTMmnが発生します。）
- ④ TImn入力の有効エッジを検出すると、TCRmnレジスタの値をTDRmnレジスタにキャプチャし、INTTMmn割り込みが発生しますが、このときのキャプチャ値は意味をもちません。TCRmnレジスタは0000Hからカウントを継続します。
- ⑤ 次のTImn入力の有効エッジを検出すると、TCRmnレジスタの値をTDRmnレジスタにキャプチャし、INTTMmn割り込みが発生します。

図6-30 動作タイミング（キャプチャ・モード：入力パルス間隔測定）



注 スタート前からTImnにクロックが入力されている（トリガがある）場合、エッジ検出をしなくても、トリガ検出でカウントを開始するため、最初のキャプチャ（④）でのキャプチャ値はパルス間隔とならない（この例では0001：2クロック分の間隔）ので、無視してください。

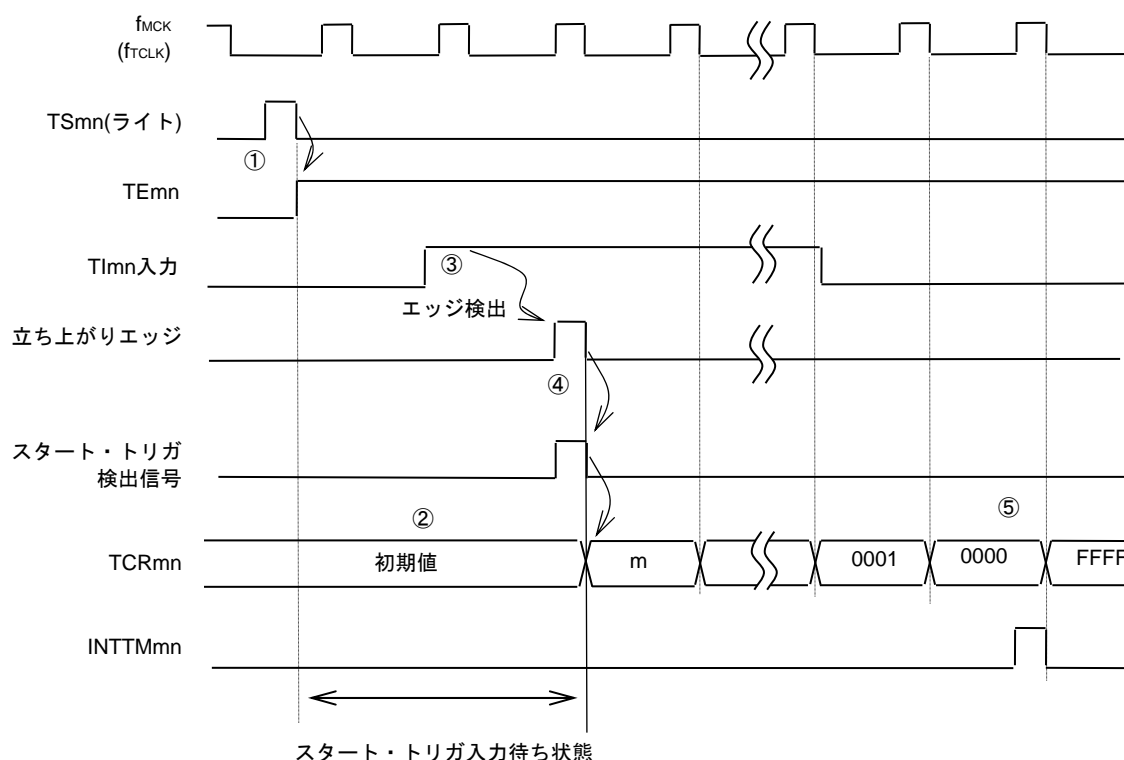
注意 カウント・クロックの1周期目の動作はTSmnビット書き込み後、カウント・クロックが発生するまでカウント開始が遅れるため、1周期目は最大でカウント・クロック1クロック分の誤差が生じます。また、カウント開始タイミングの情報が必要な場合は、MDmn0 = 1に設定することで、カウント開始時に割り込みを発生させることができます。

備考 このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンにすると、エッジ検出はTImn入力からさらにf_{MCK}の2周期分（合計で3~4周期分）遅くなります。1周期分の誤差はTImn入力をカット・クロック（f_{MCK}）が非同期なためです。

(4) ワンカウント・モードの動作

- ① TSmnビットへ1を書き込むことにより、動作許可状態 ($TEmn = 1$) となります。
- ② タイマ・カウンタ・レジスタmn ($TCRmn$) は、スタート・トリガ発生まで初期値を保持しています。
- ③ TImn入力の立ち上がりエッジを検出します。
- ④ スタート・トリガが発生して、 $TDRmn$ レジスタの値 (m) を $TCRmn$ レジスタにロードし、カウントを開始します。
- ⑤ $TCRmn$ レジスタがカウント・ダウンしてカウント値が0000Hになると、 $INTTMmn$ 割り込みを発生し、 $TCRmn$ レジスタはFFFFHで停止します。

図6-31 動作タイミング (ワンカウント・モード)

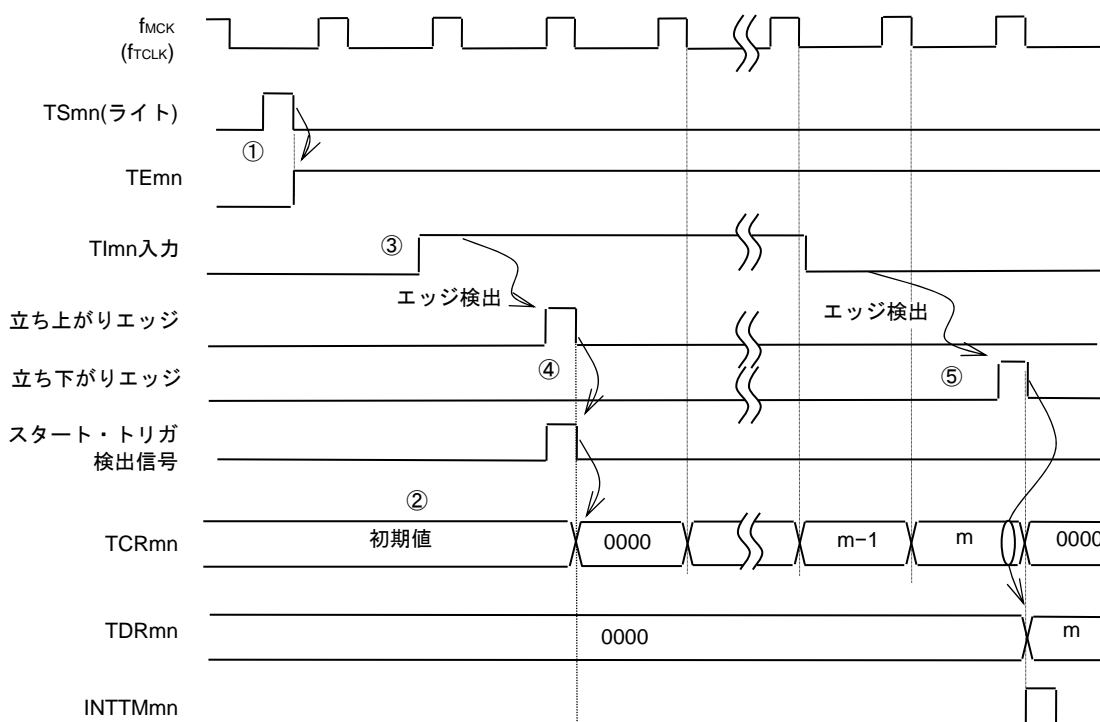


備考 このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンにすると、エッジ検出はTImn入力からさらに f_{MCK} の2周期分（合計で3~4周期分）遅くなります。1周期分の誤差はTImn入力とカウント・クロック (f_{MCK}) が非同期なためです。

(5) キャプチャ&ワンカウント・モード時のスタート・タイミング (ハイ・レベル幅測定時の動作)

- ① タイマ・チャンネル開始レジスタ m (T S m) のT S m ビットに1を書き込むことにより、動作許可状態 (T E m = 1) となります。
- ② タイマ・カウンタ・レジスタ m (T C R m) は、スタート・トリガ発生まで初期値を保持します。
- ③ T I m 入力の立ち上がりエッジを検出します。
- ④ スタート・トリガが発生して、0000HをT C R m レジスタにロードし、カウントを開始します。
- ⑤ T I m 入力の立ち下がりエッジを検出すると、T C R m レジスタの値をT D R m レジスタにキャプチャし、INTT M m 割り込みが発生します。

図6-32 スタート・タイミング (キャプチャ&ワンカウント・モード時)

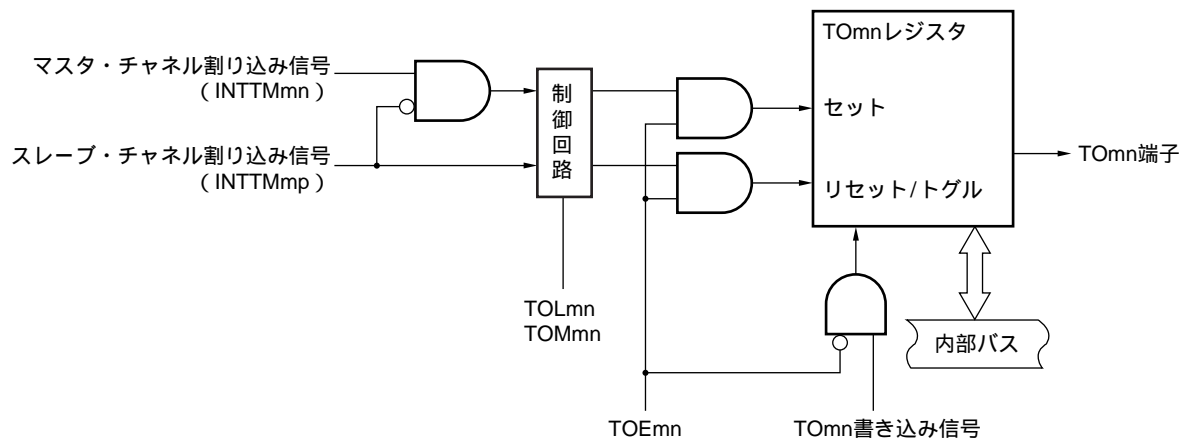


備考 このタイミングはノイズ・フィルタを使用しないときのタイミングです。ノイズ・フィルタをオンにすると、エッジ検出はT_I m 入力からさらにf_{MCK}の2周期分 (合計で3~4周期分) 遅くなります。1周期分の誤差はT_I m 入力とカウント・クロック (f_{MCK}) が非同期なためです。

6.6 チャンネル出力（TOmn端子）の制御

6.6.1 TOmn端子の出力回路の構成

図6-33 出力回路構成図



TOmn端子の出力回路の説明を次に示します。

- ① $TOMmn = 0$ （マスタ・チャンネル出力モード）のときは、タイマ出力レベル・レジスタ m （ $TOLm$ ）の設定値は無視され、 $INTTMmp$ （スレーブ・チャンネル・タイマ割り込み）のみがタイマ出力レジスタ m （ TOm ）に伝えられます。
- ② $TOMmn = 1$ （スレーブ・チャンネル出力モード）のときは、 $INTTMmn$ （マスタ・チャンネル・タイマ割り込み）と $INTTMmp$ （スレーブ・チャンネル・タイマ割り込み）が TOm レジスタに伝えられます。このとき、 $TOLm$ レジスタが有効となり、次のように信号を制御します。

$TOLmn = 0$ の場合：正論理出力（ $INTTMmn \rightarrow$ セット， $INTTMmp \rightarrow$ リセット）

$TOLmn = 1$ の場合：負論理出力（ $INTTMmn \rightarrow$ リセット， $INTTMmp \rightarrow$ セット）

また、 $INTTMmn$ と $INTTMmp$ が同時に発生した場合（PWM出力の0%出力時）は、 $INTTMmp$ （リセット信号）が優先され、 $INTTMmn$ （セット信号）はマスクされます。

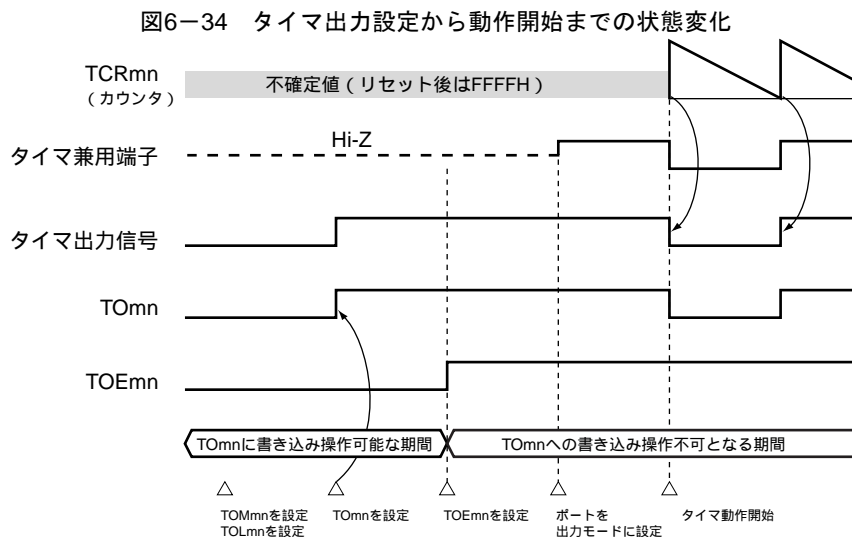
- ③ タイマ出力許可状態（ $TOEmn = 1$ ）で、 $INTTMmn$ （マスタ・チャンネル・タイマ割り込み）と $INTTMmp$ （スレーブ・チャンネル・タイマ割り込み）が TOm レジスタに伝えられます。 TOm レジスタへの書き込み（ $TOmn$ 書き込み信号）は無効となります。また、 $TOEmn = 1$ のとき、割り込み信号以外で $TOmn$ 端子の出力が変化することはありません。 $TOmn$ 端子の出力レベルを初期化する場合は、タイマ動作停止（ $TOEmn = 0$ ）に設定し TOm レジスタに値を書き込む必要があります。
- ④ タイマ出力禁止状態（ $TOEmn = 0$ ）で、対象チャンネルの $TOmn$ ビットへの書き込み（ $TOmn$ 書き込み信号）が有効となります。タイマ出力禁止状態（ $TOEmn = 0$ ）のとき、 $INTTMmn$ （マスタ・チャンネル・タイマ割り込み）と $INTTMmp$ （スレーブ・チャンネル・タイマ割り込み）は TOm レジスタに伝えられません。
- ⑤ TOm レジスタは常に読み出し可能であり、 $TOmn$ 端子の出力レベルを確認することができます。

（備考は次ページにあります。）

- 備考 m : ユニット番号 (m = 0)
 n : チャンネル番号
 n = 0-7 (マスタ・チャンネル時 : n = 0, 2, 4, 6)
 p : スレーブ・チャンネル番号
 n < p ≤ 7

6.6.2 TOmn端子の出力設定

TOmn出力端子の初期設定からタイマ動作開始までの手順と状態変化を次に示します。



① タイマ出力の動作モードを設定します。

- ・ TOMmnビット (0 : マスタ・チャンネル出力モード, 1 : スレーブ・チャンネル出力モード)
- ・ TOLmnビット (0 : 正論理出力, 1 : 負論理出力)

② タイマ出力レジスタm (TOm) を設定することにより, タイマ出力信号が初期状態に設定されます。

③ TOEmnビットに1を書き込み, タイマ出力動作を許可します (TOmレジスタへの書き込みは不可となります)。

④ ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx) でポートをデジタル入出力に設定します (6.3.16 ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14) 参照)。

⑤ ポートの入出力設定を出力に設定します (6.3.16 ポート・モード・レジスタ1, 3-5, 14 (PM1, PM3-PM5, PM14) 参照)。

⑥ タイマを動作許可にします (TSmn = 1)。

- 備考 m : ユニット番号 (m = 0), n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.6.3 チャンネル出力操作時の注意事項

(1) タイマ動作中のTOM, TOEm, TOLmレジスタの設定値変更について

タイマ動作（タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) , タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) の動作) は, TOMn出力回路とは独立しています。よって, タイマ出力レジスタm (TOM) , タイマ出力許可レジスタm (TOEm) , タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm) の設定値変更はタイマ動作に影響しないため, タイマ動作中に設定値の変更が可能です。ただし, 各タイマ動作において期待する波形をTOMn端子から出力するためには, 6.7, 6.8節で示す各動作のレジスタ設定内容例の値に設定してください。

各チャンネルのタイマ割り込み (INTTMmn) 近辺で, TOMレジスタを除くTOEmレジスタ, TOLmレジスタの設定値変更を行うと, タイマ割り込み (INTTMmn) 信号発生タイミング直前に設定値変更が実施された場合と, タイマ割り込み (INTTMmn) 信号発生タイミング直後に設定値変更が実施された場合とでは, TOMn端子に出力される波形が異なる場合があります。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

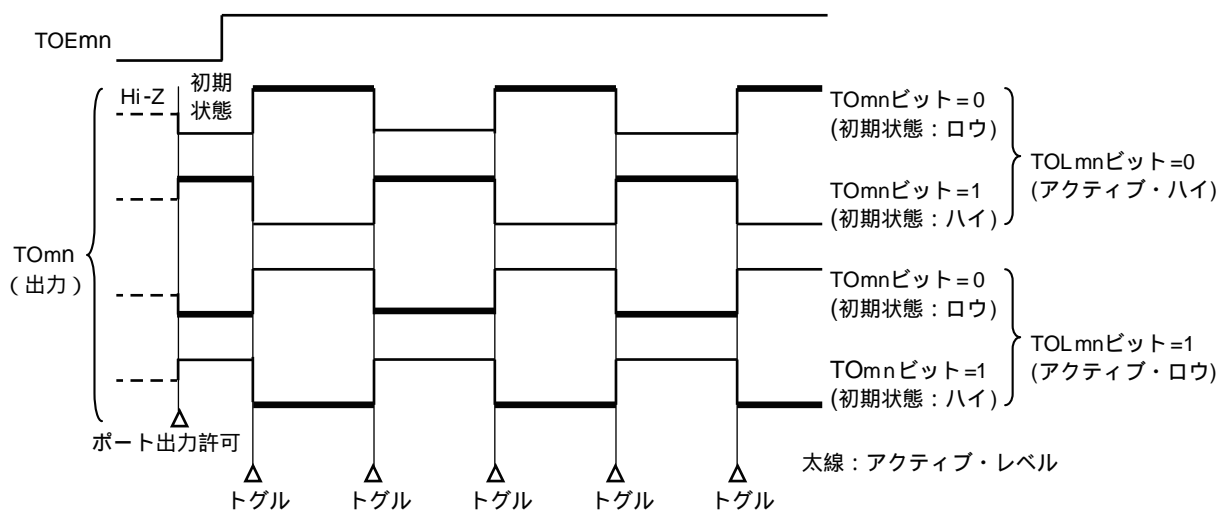
(2) TOmn端子の初期レベルとタイマ動作開始後の出力レベルについて

ポート出力許可前に、タイマ出力禁止 (TOEmn = 0) の状態でタイマ出力レジスタm (TOm) に書き込みを行い、初期レベル変更後、タイマ出力許可状態 (TOEmn = 1) に設定した場合のTOmn端子出力レベルの変化を次に示します。

(a) マスタ・チャンネル出力モード (TOMmn=0) 設定で動作を開始した場合

マスタ・チャンネル出力モード (TOMmn=0) の時、タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm) の設定は無効となります。初期レベル設定後、タイマ動作を開始するとトグル信号発生によりTOmn端子の出力レベルを反転します。

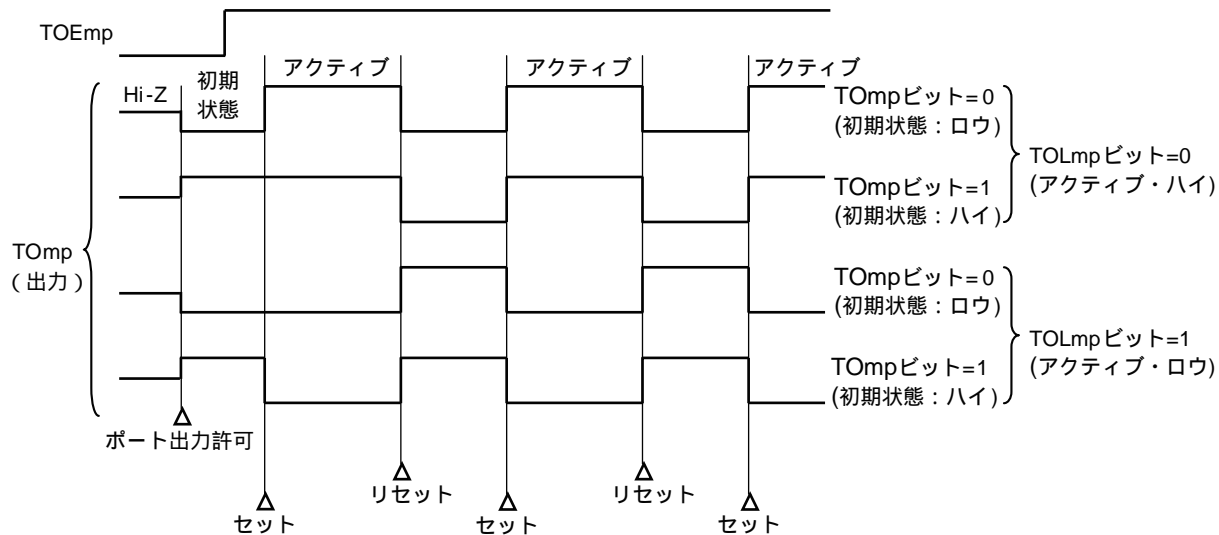
図6-35 トグル出力時 (TOMmn = 0) のTOmn端子出力状態



- 備考 1. トグル : TOmn端子の出力状態を反転
- 2. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

- (b) スレーブ・チャンネル出力モード (TOMmp = 1) 設定で動作を開始した場合 (PWM出力)
 スレーブ・チャンネル出力モード (TOMmp = 1) の時, タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm) の設定によりアクティブ・レベルを決定します。

図6-36 PWM出力時 (TOMmp = 1) のTOmp端子出力状態



- 備考1. セット : TOmp端子の出力信号が, インアクティブ・レベルからアクティブ・レベルに変化
 リセット : TOmp端子の出力信号が, アクティブ・レベルからインアクティブ・レベルに変化
 2. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (p = 1-7)

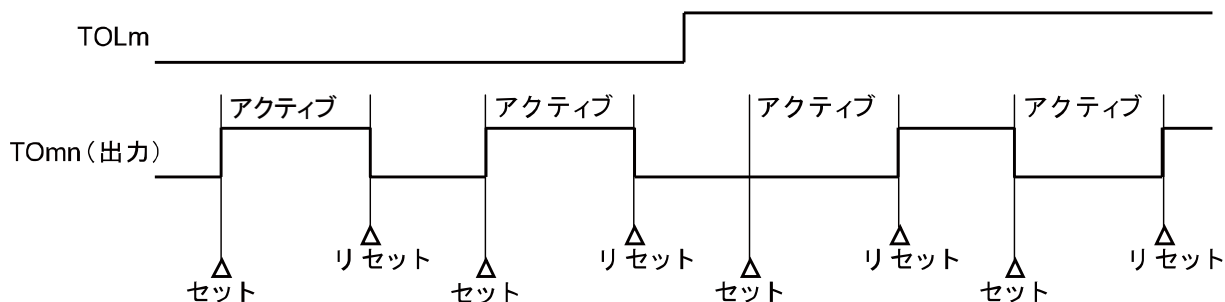
(3) TOmn端子のスレーブ・チャンネル出力モード (TOMmn = 1) での動作について

(a) タイマ動作中にタイマ出力レベル・レジスタm (TOLm) の設定を変更した場合

タイマ動作中にTOLmレジスタの設定を変更した場合、設定が有効となるのはTOmn端子変化条件の発生タイミングです。TOLmレジスタの書き換えでは、TOmn端子の出力レベルは変化しません。

TOMmn = 1で、タイマ動作中 (TEmn = 1) にTOLmレジスタの値を変更した場合の動作を次に示します。

図6-37 タイマ動作中にTOLmレジスタを変更した場合の動作



- 備考1. セット : TOmn端子の出力信号が、インアクティブ・レベルからアクティブ・レベルに変化
リセット : TOmn端子の出力信号が、アクティブ・レベルからインアクティブ・レベルに変化
2. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

(b) セット/リセット・タイミング

PWM出力時に、0%/100%出力を実現するため、マスタ・チャンネル・タイマ割り込み (INTTMmn) 発生時のTOmn端子/TOmnビットのセット・タイミングをスレーブ・チャンネルにて1カウント・クロック分遅らせています。

セット条件とリセット条件が同時に発生した場合、リセット条件が優先されます。

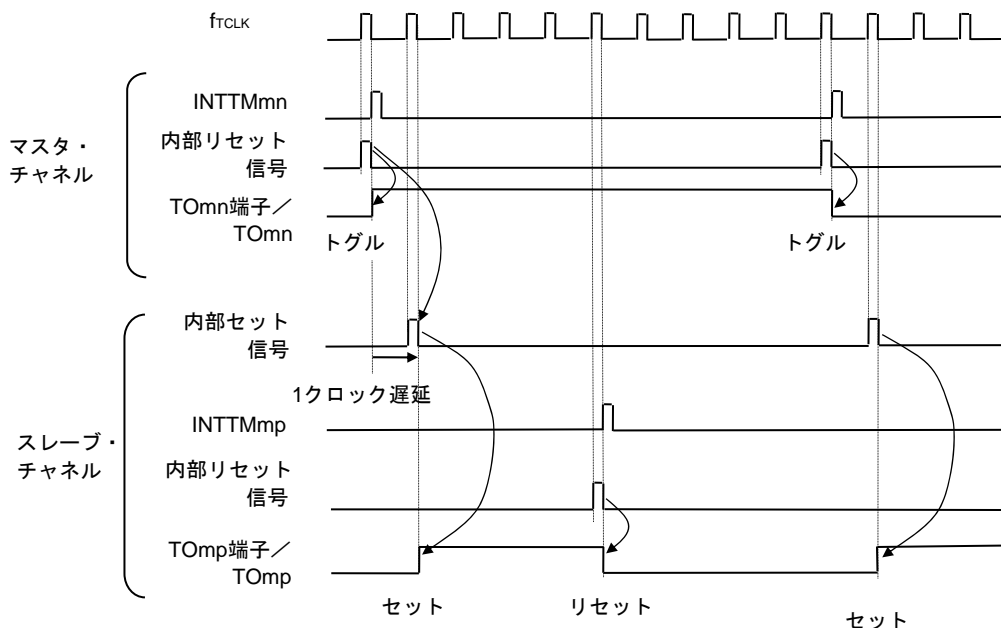
マスタ/スレーブ・チャンネルを次のように設定した場合のセット/リセット動作状態を図6-38に示します。

マスタ・チャンネル : TOEmn = 1, TOMmn = 0, TOLmn = 0

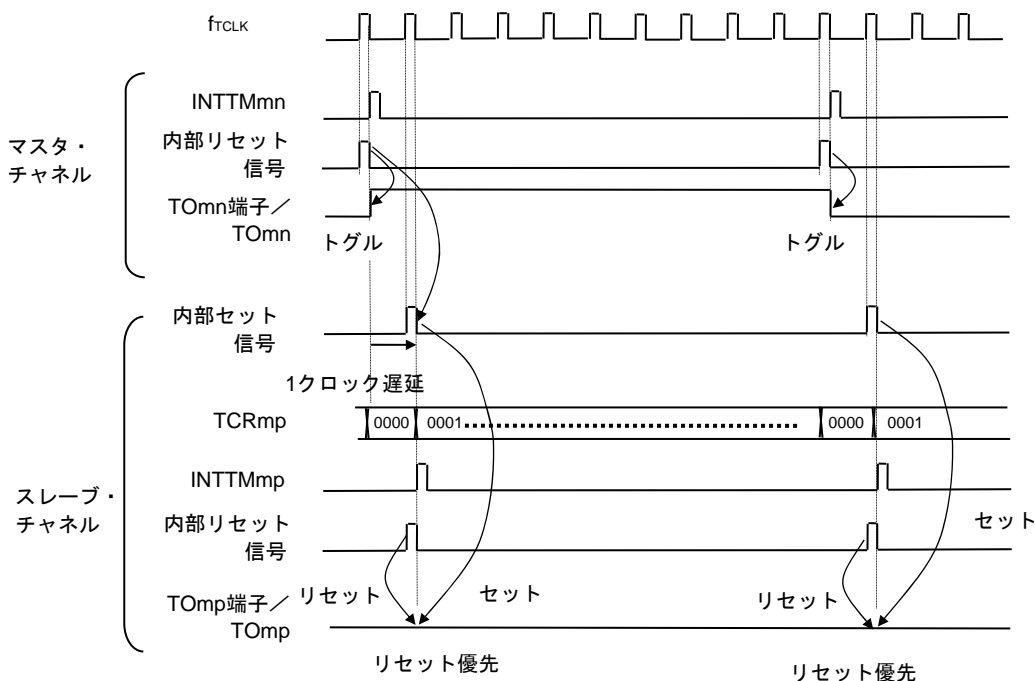
スレーブ・チャンネル : TOEmp = 1, TOMmp = 1, TOLmp = 0

図6-38 セット/リセット・タイミング動作状態

(1) 基本動作タイミング



(2) 0%デューティ時の動作タイミング

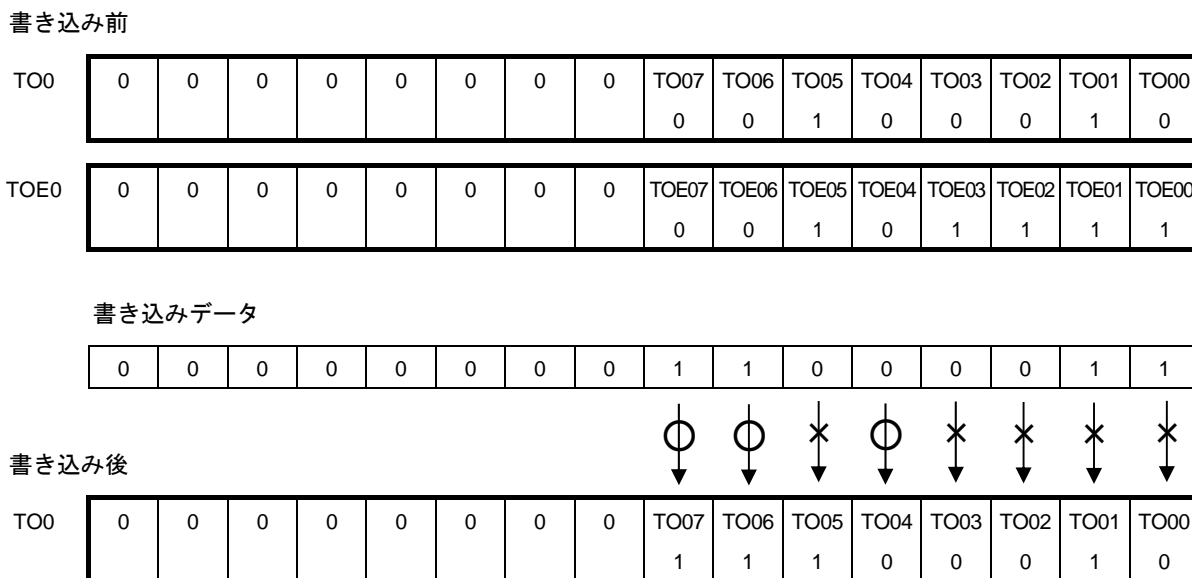


- 備考1. 内部リセット信号 : $TOmn$ 端子のリセット/トグル信号
 内部セット信号 : $TOmn$ 端子のセット信号
2. m : ユニット番号 ($m = 0$)
 n : チャンネル番号
 $n = 0-7$ (マスタ・チャンネル時 : $n = 0, 2, 4, 6$)
 p : スレーブ・チャンネル番号
 $n < p \leq 7$

6.6.4 TOmnビットの一括操作

タイマ出力レジスタm (TOm) には、タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) と同様に、1レジスタに全チャンネル分の設定ビット (TOmn) が配置されています。よって、全チャンネルのTOmnビットを一括で操作することが可能です。また、操作対象としたいチャンネル出力 (TOmn) のみTOmnビットへの書き込み可能 (TOEmn = 0) とすることによって任意のビットのみ操作することが可能です。

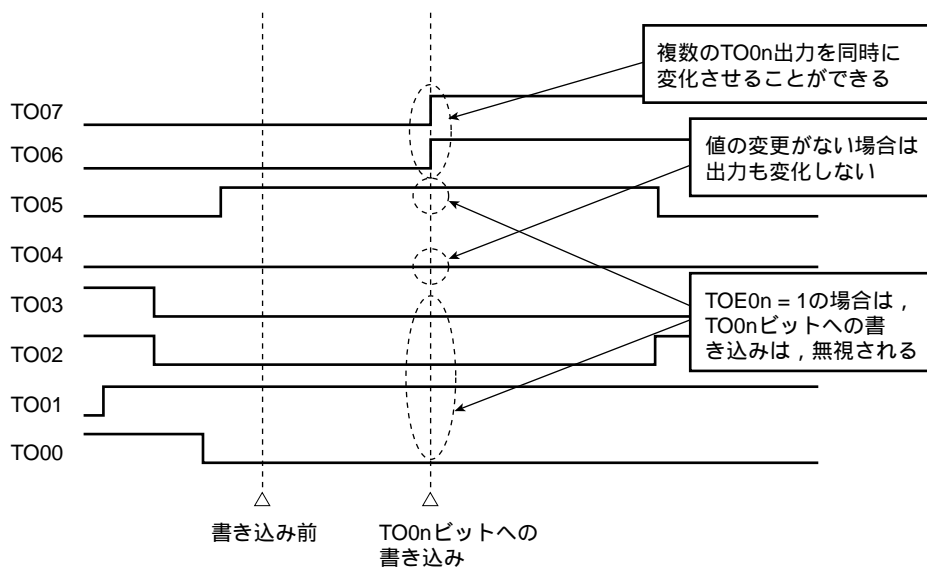
図6-39 TO0nビットの一括操作例



TOEmn = 0のTOmnビットのみ書き込みが行われます。TOEmn = 1のTOmnビットへの書き込みは無視されます。

TOEmn = 1に設定されているTOmn (チャンネル出力) は、書き込み操作による影響は受けません。TOmnビットに書き込み操作が行われても無視し、タイマ動作による出力変化は正常に行われます。

図6-40 TO0nビットの一括操作によるTO0nの端子状態



備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.6.5 カウント動作開始時のタイマ割り込みとTOMn端子出力について

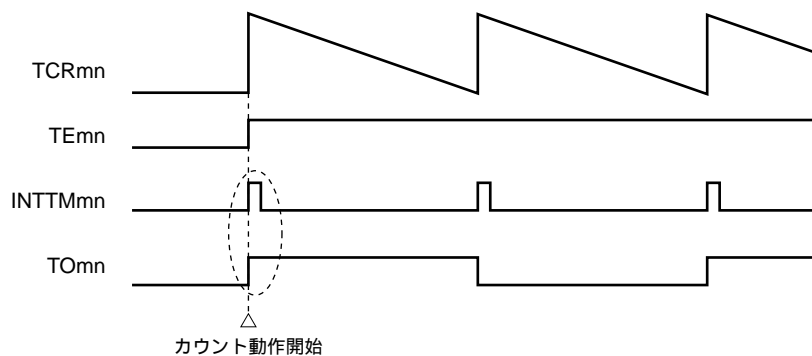
インターバル・タイマ・モード/キャプチャ・モードの場合、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) の MDmn0ビットは、「カウント開始時にタイマ割り込みを発生する/しない」を設定するビットとなります。

MDmn0 = 1に設定することで、タイマ割り込み (INTTMmn) の発生によりカウント動作開始タイミングを知ることが可能です。

その他の動作モードでは、カウント動作開始時のタイマ割り込み、TOMn出力は制御しません。

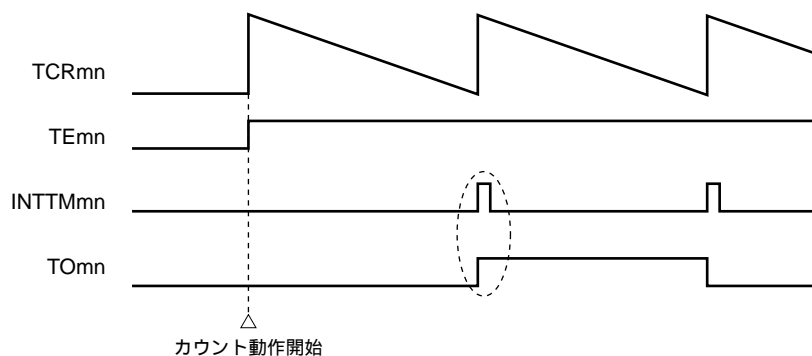
インターバル・タイマ・モード (TOEmn = 1, TOMmn = 0) に設定した場合の動作例を次に示します。

図6-41 MDmn0 = 1に設定した場合



MDmn0 = 1に設定した場合、カウント動作開始時にタイマ割り込み (INTTMmn) が出力され、TOMnがトグル動作します。

図6-42 MDmn0 = 0に設定した場合



MDmn0 = 1に設定した場合、カウント動作開始時にタイマ割り込み (INTTMmn) が出力され、TOMnがトグル動作します。

MDmn0 = 0に設定した場合、カウント動作開始時にタイマ割り込み (INTTMmn) を出力しません。TOMnも変化しません。1周期をカウント後、INTTMmnを出力し、TOMnがトグル動作します。

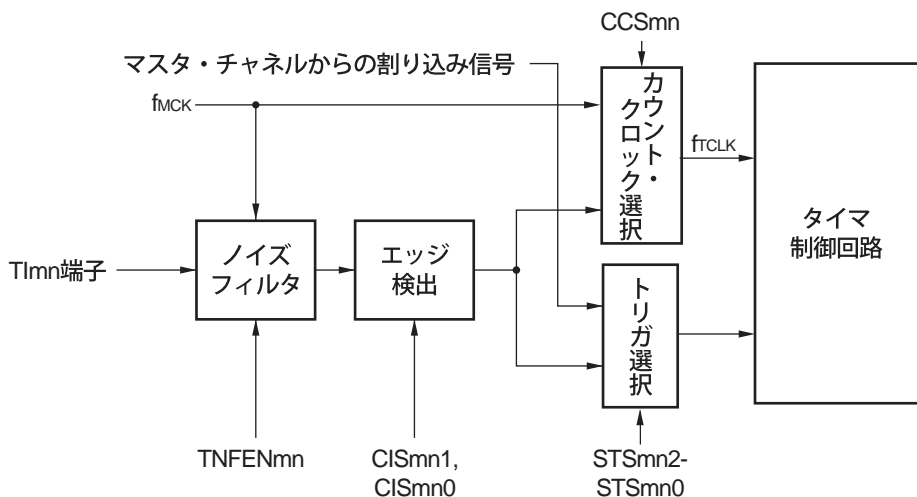
備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)

6.7 タイマ入力 (TImn) の制御

6.7.1 TImnの入力回路構成

タイマ入力端子から信号は、ノイズ・フィルタとエッジ検出回路を通過してタイマ制御回路へ入力されます。ノイズ除去が必要な端子は、対応する端子のノイズ・フィルタを有効にしてください。以下に入力回路の構成図を示します。

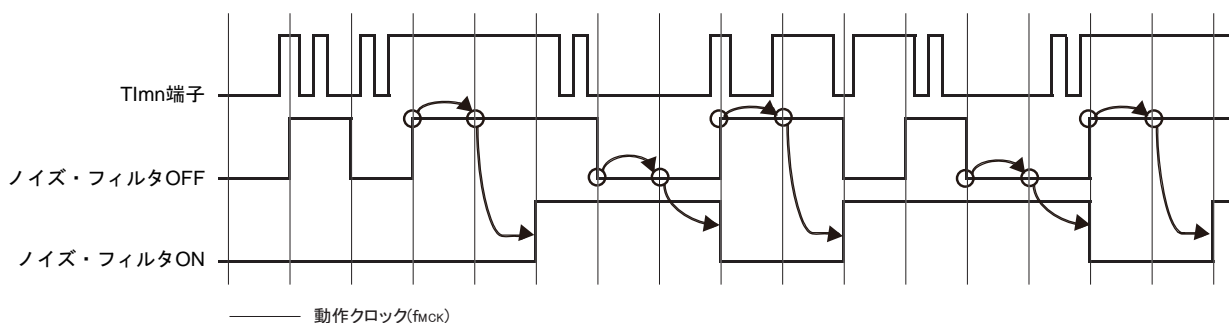
図6-43 入力回路構成図



6.7.2 ノイズ・フィルタ

ノイズ・フィルタ無効時は、チャンネルnの動作クロック (fmck) で同期化だけ行います。ノイズ・フィルタ有効時は、チャンネルnの動作クロック (fmck) で同期化のあと、2クロックの一致検出を行います。以下に、TImn入力端子に対するノイズ・フィルタON/OFFによるノイズ・フィルタ回路を通過後の波形を示します。

図6-44 TImn入力端子に対するノイズ・フィルタON/OFFによるサンプリング波形



6.7.3 チャンネル入力操作時の注意事項

タイマ入力端子を使用しない設定において、ノイズ・フィルタ回路へ動作クロックは供給されません。そのため、タイマ入力端子を使用する設定をしてから、タイマ入力端子に対応するチャンネルの動作許可トリガを設定するまで、以下の待ち時間が必要になります。

(1) ノイズ・フィルタOFFの場合

タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のビット12 (CCSmn), ビット9 (STSmn1), ビット8 (STSmn0) がすべて0の状態から、いずれかのビットをセットした場合は、動作クロック (fMCK) の2サイクル以上経過してから、タイマ・チャンネル開始レジスタ (TSM) の動作許可トリガをセットしてください。

(2) ノイズ・フィルタONの場合

タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のビット12 (CCSmn), ビット9 (STSmn1), ビット8 (STSmn0) がすべて0の状態から、いずれかのビットをセットした場合は、動作クロック (fMCK) の4サイクル以上経過してから、タイマ・チャンネル開始レジスタ (TSM) の動作許可トリガをセットしてください。

6.8 タイマ・アレイ・ユニットの単独チャネル動作機能

6.8.1 インターバル・タイマ／方形波出力としての動作

(1) インターバル・タイマ

一定間隔でINTTMmn（タイマ割り込み）を発生する基準タイマとして利用することができます。
割り込み発生周期は、次の式で求めることができます。

$$\text{INTTMmn (タイマ割り込み) の発生周期} = \text{カウント・クロックの周期} \times (\text{TDRmnの設定値} + 1)$$

(2) 方形波出力としての動作

TOmnは、INTTMmn発生と同時にトグル動作を行い、デューティ50%の方形波を出力します。
TOmn出力波形の周期と周波数は、次の式で求めることができます。

$$\cdot \text{TOmnからの出力方形波の周期} = \text{カウント・クロックの周期} \times (\text{TDRmnの設定値} + 1) \times 2$$

$$\cdot \text{TOmnからの出力方形波の周波数} = \text{カウント・クロックの周波数} / \{ (\text{TDRmnの設定値} + 1) \times 2 \}$$

タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はインターバル・タイマ・モードでダウン・カウンタとして動作します。

タイマ・チャネル開始レジスタm（TSm）のチャネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn, TSHm1, TSHm3）に1を設定後、最初のカウント・クロックでTCRmnレジスタはタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の値をロードします。このときタイマ・モード・レジスタmn（TMRmn）のMDmn0 = 0ならば、INTTMmnを出力せず、TOmnはトグルしません。TMRmnレジスタのMDmn0 = 1ならば、INTTMmnを出力して、TOmnをトグルします。

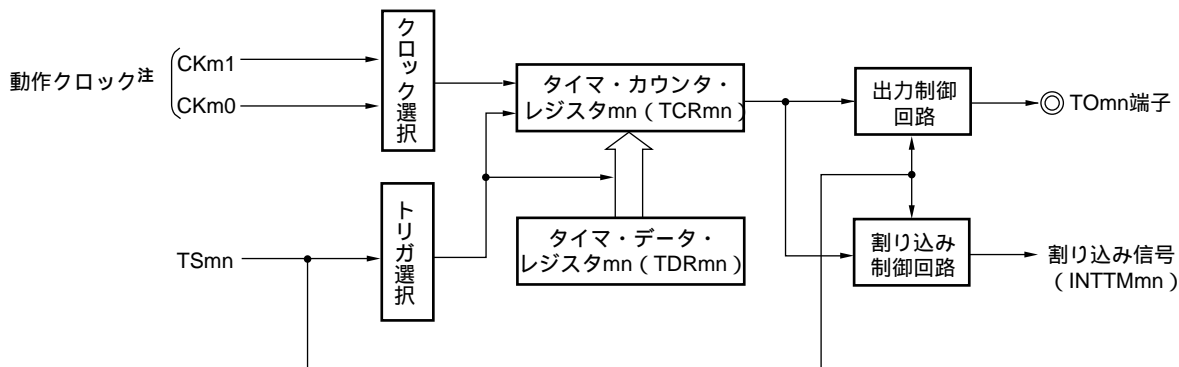
その後、TCRmnレジスタはカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行います。

TCRmn = 0000Hとなったら、次のカウント・クロックでINTTMmnを出力しTOmnをトグルします。また、同タイミングで再びTCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードします。以降、同様の動作を継続します。

TDRmnレジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。書き換えたTDRmnレジスタの値は、次の周期から有効となります。

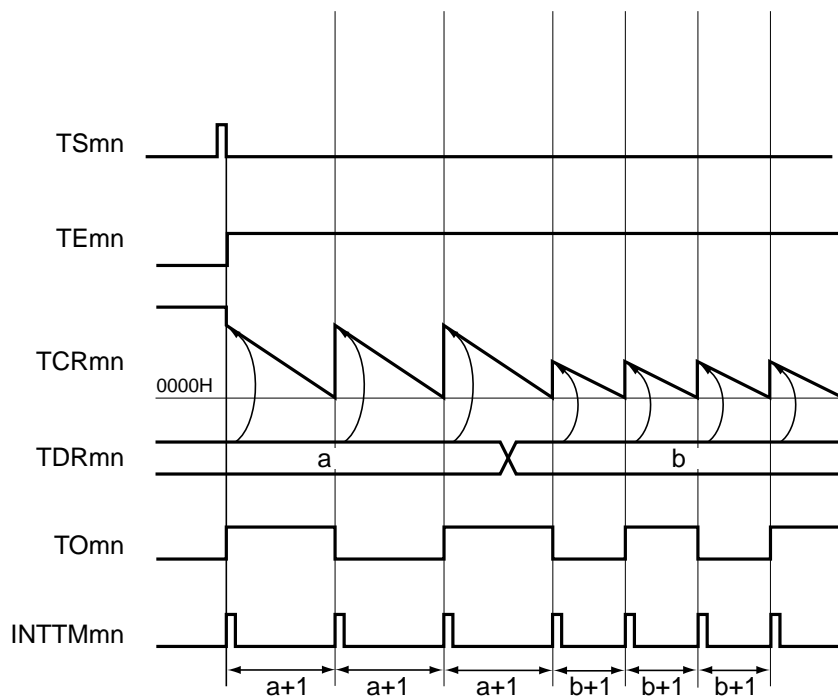
備考 m：ユニット番号（m = 0），n：チャネル番号（n = 0-7）

図6-45 インターバル・タイマ／方形波出力としての動作のブロック図



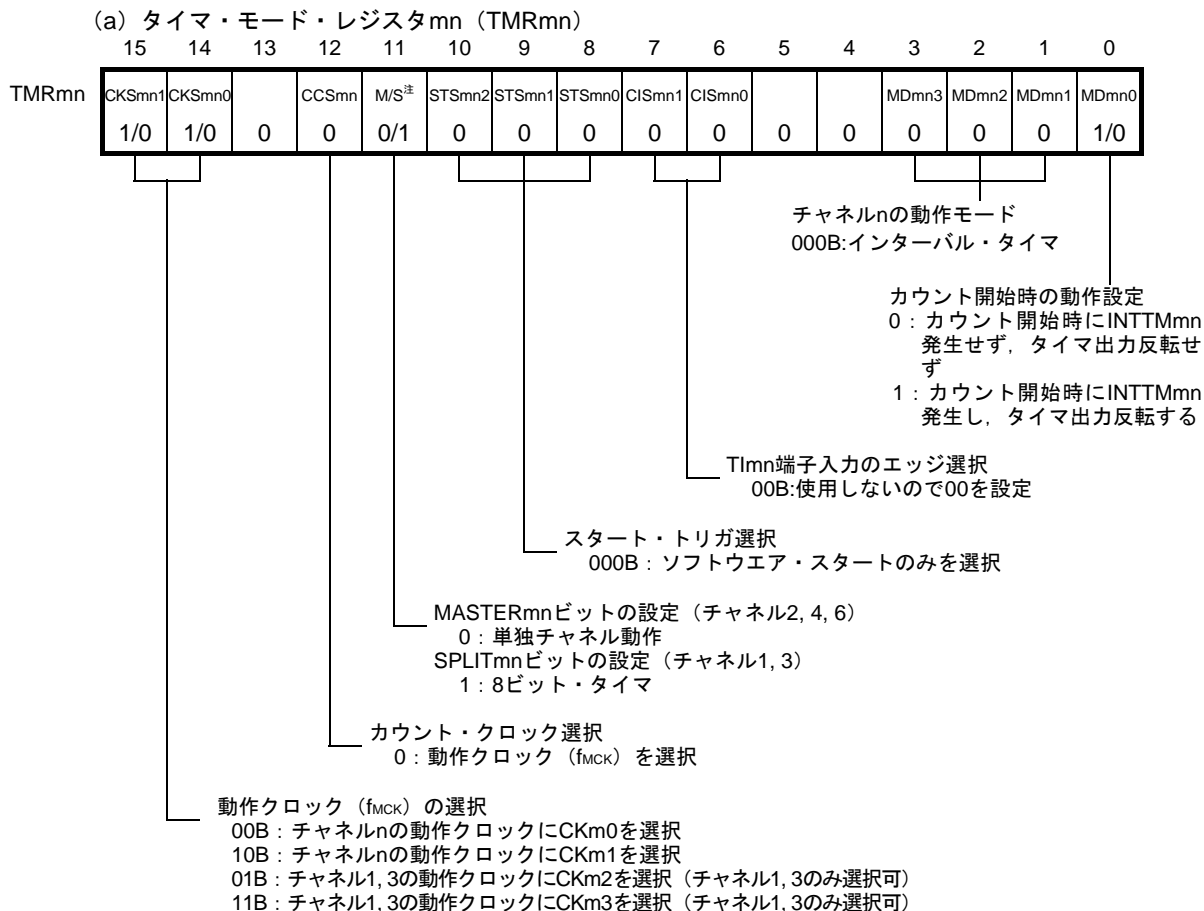
注 チャンネル1, 3の場合は, CKm0, CKm1, CKm2, CKm3からクロックを選択できます。

図6-46 インターバル・タイマ／方形波出力としての動作の基本タイミング例 (MDmn0 = 1)



- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)
- 2. TSmn : タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSM) のビットn
- TEmn : タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEM) のビットn
- TCRmn : タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn)
- TDRmn : タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn)
- TOmn : TOmn端子出力信号

図6-47 インターバル・タイマ／方形波出力時のレジスタ設定内容例



(b) タイマ出力レジスタm (TOM)

ビットn		
TOMn	0	0 : TOMnより0を出力する
	1/0	1 : TOMnより1を出力する

(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)

ビットn		
TOEmn	0	0 : カウント動作によるTOMn出力動作停止
	1/0	1 : カウント動作によるTOMn出力動作許可

(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)

ビットn		
TOLmn	0	0 : TOMmn = 0 (マスタ・チャネル出力モード) では0を設定

(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)

ビットn		
TOMmn	0	0 : マスタ・チャネル出力モードを設定

注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合 : MASTERmnビット
 TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmnビット
 TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合 : 0固定

備考 m : ユニット番号 (m = 0), n : チャネル番号 (n = 0-7)

図6-48 インターバル・タイマ/方形波出力機能時の操作手順 (1/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可) パワーオン状態, 各チャネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
チャ ネル 初期 設定	タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) を設定する (チャネルの動作モード確定) タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) にインターバル (周期) 値を設定する TOmn出力を使用する場合, タイマ出力モード・レジスタm (TOMm) のTOMmnビットに0 (マスタ・チャネル出力モード) を設定する TOLmnビットに0を設定する TOmnビットを設定し, TOmn出力の初期レベルを確定する TOEmnビットに1を設定し, TOmnの動作を許可 ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する	チャネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する) TOmn端子はHi-Z出力状態 ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は, TOmn初期設定レベルが出力される。 チャネルは動作停止状態なので, TOmnは変化しない TOmn端子はTOmn設定レベルを出力
動作 開始	(TOmn出力を使用する場合で, かつ動作再開時のみ TOEmnビットに1を設定する) TSmn (TSHm1, TSHm3) ビットに1を設定する TSmn (TSHm1, TSHm3) ビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TEmn (TEHm1, TEHm3) = 1になり, カウント動作開始 カウント・クロック入力でタイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はTDRmnレジスタの値をロードする。TMRmnレジスタのMDmn0ビットが1の場合は, INTTMmnを発生し, TOmnもトグル動作する。
動作 中	TMRmnレジスタ, TOMmn, TOLmnビットは, 設定値変更禁止 TDRmnレジスタは, 任意に設定値変更が可能 TCRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TSRmnレジスタは, 使用しない TOm, TOEmレジスタは, 設定値変更可能	カウンタ (TCRmn) はダウン・カウント動作を行い, 0000Hまでカウントしたら, 再びTCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし, カウント動作を継続する。TCRmn = 0000H検出でINTTMmnを発生し, TOmnはトグル動作する。以降, この動作を繰り返す。
動作 停止	TTmn (TTHm1, TTHm3) ビットに1を設定する TTmn (TTHm1, TTHm3) ビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る TOEmnビットに0を設定し, TOmnビットに値を設定する	TEmn (TEHm1, TEHmn) = 0になり, カウント動作停止 TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止 TOmn出力は初期化されず, 状態保持 TOmn端子はTOmnビットに設定したレベルを出力

動作再開

(備考は次ページにあります。)

図6-48 インターバル・タイマ/方形波出力機能時の操作手順 (2/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 停止	TOmn端子の出力レベルを保持する場合 ポート・レジスタに保持したい値を設定後、TOmnビットに0を設定する	TOmn端子出力レベルはポート機能により保持される。
	TOmn端子の出力レベルを保持不要の場合 設定不要 ----- PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	パワーオフ状態 全回路が初期化され、各チャンネルのSFRも初期化される (TOmnビットが0になり、TOmn端子はポート機能となる)

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)

6.8.2 外部イベント・カウンタとしての動作

Tl_{mn}端子入力の有効エッジ検出（外部イベント）をカウントし、規定カウント数に達したら割り込みを発生するイベント・カウンタとして利用することができます。規定カウント数は次の式で求めることができます。

$$\text{規定カウント数} = \text{TDRmnの設定値} + 1$$

タイマ・カウンタ・レジスタmn（TCRmn）はイベント・カウンタ・モードでダウン・カウンタとして動作します。

タイマ・チャンネル開始レジスタm（TSm）の任意のチャンネル・スタート・トリガ・ビット（TSmn）に1を設定することによりTCRmnレジスタはタイマ・データ・レジスタmn（TDRmn）の値をロードします。

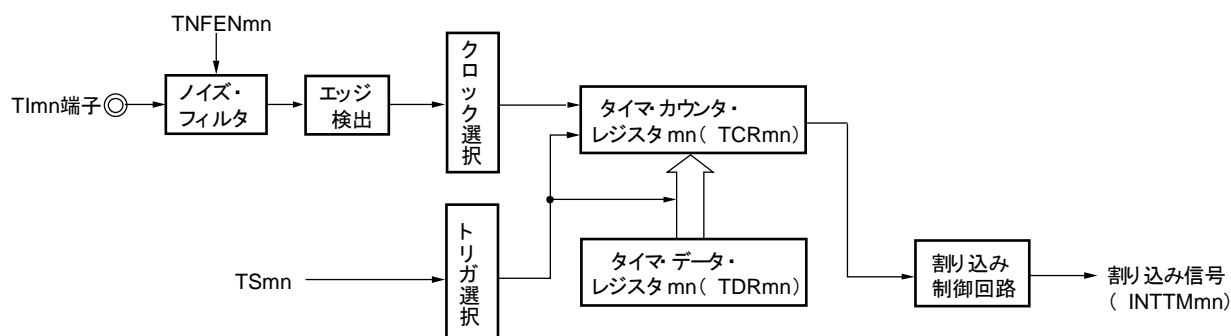
TCRmnレジスタはTl_{mn}端子入力の有効エッジ検出に合わせてダウン・カウントを行い、TCRmn = 0000Hとなったら、再びTDRmnレジスタの値をロードして、INTTMmnを出力します。

以降、同様の動作を継続します。

TOmn端子出力は外部イベントに依存した不規則な波形となるため、タイマ出力許可レジスタm（TOEm）のTOEmnビットに0を設定して出力動作を停止するようにしてください。

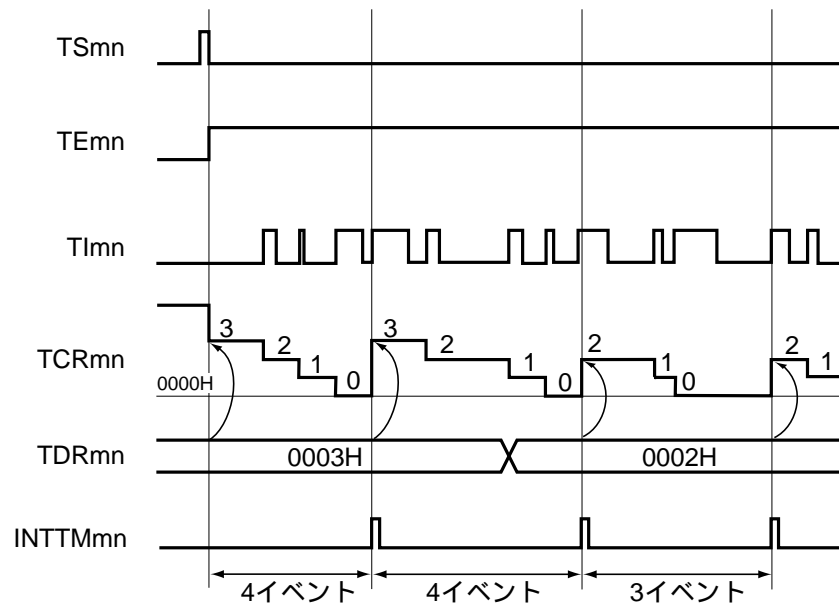
TDRmnレジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。書き換えたTDRmnレジスタの値は次のカウント期間で有効になります。

図6-49 外部イベント・カウンタとしての動作のブロック図



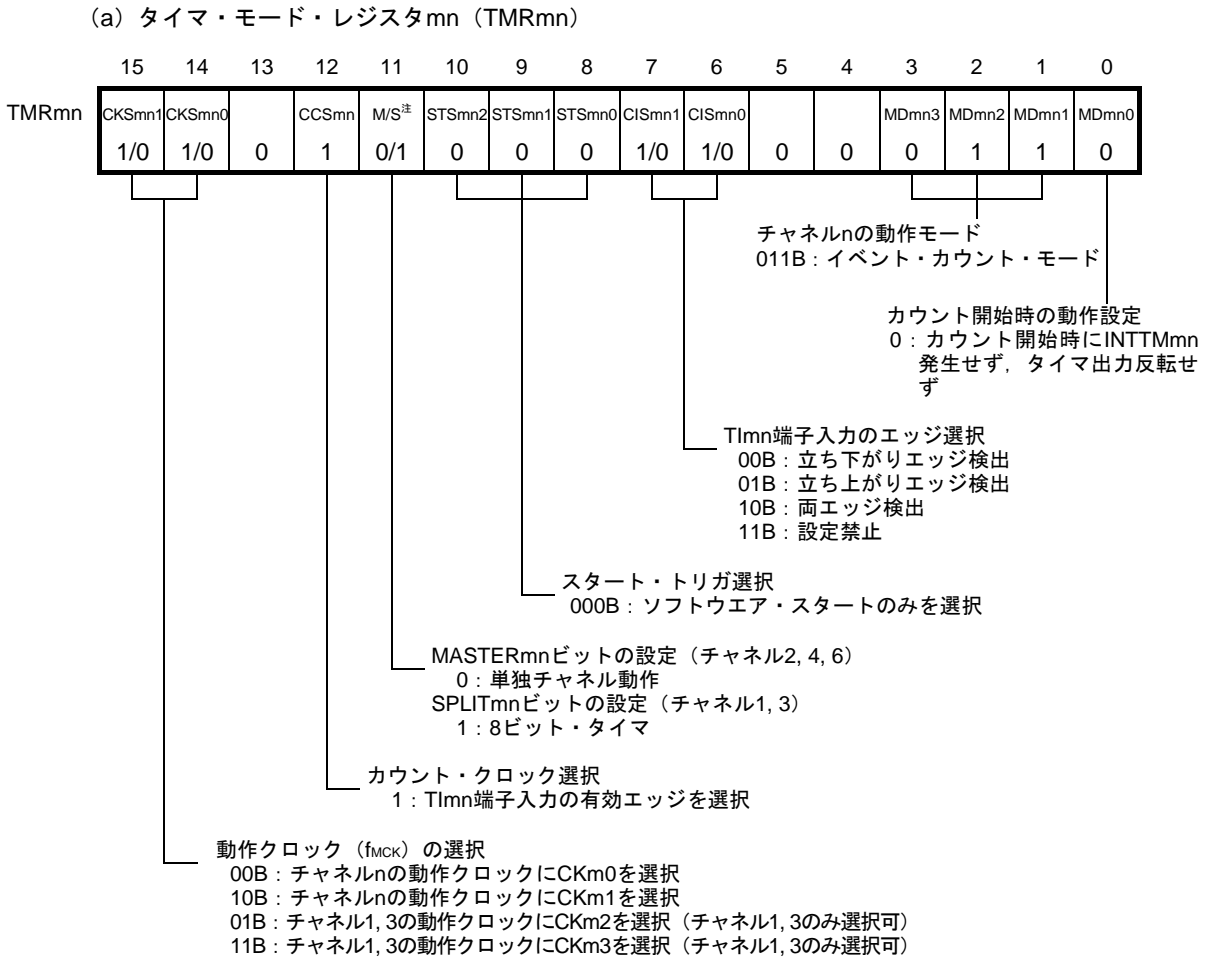
備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-50 外部イベント・カウンタとしての動作の基本タイミング例

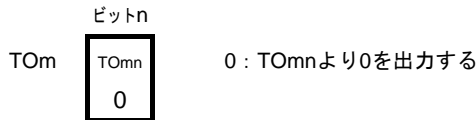


- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)
2. TSmn : タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のビットn
 TEmn : タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) のビットn
 TImn : TImn端子入力信号
 TCRmn : タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn)
 TDRmn : タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn)

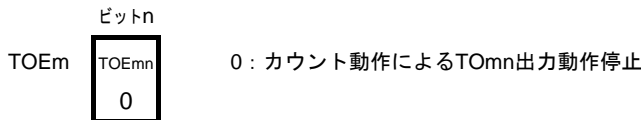
図6-51 外部イベント・カウンタ・モード時のレジスタ設定内容例



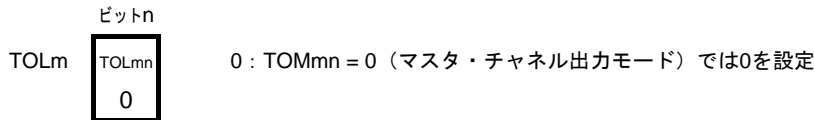
(b) タイマ出力レジスタm (TOm)



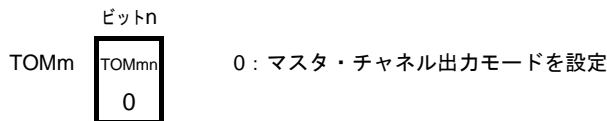
(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)



(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)



(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)



注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合 : MASTERmnビット
 TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmnビット
 TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合 : 0固定

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-52 外部イベント・カウンタ機能時の操作手順

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定		パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可)
	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する	▶ パワーオン状態, 各チャンネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する	
チャ ネル 初期 設定	タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) を設定する (チャンネルの動作モード確定) タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) にカウント数を設定する タイマ出力許可レジスタm (TOEm) のTOEmnビットに0を設定する	チャンネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する)
動作 開始	TSmnビットに1を設定する TSmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	▶ TEEmn = 1になり, カウント動作開始 タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はTDRmnレジスタの値をロードし, TImn端子入力のエッジ検出待ち状態になる
動作 中	TDRmnレジスタは, 任意に設定値変更が可能 ノイズ・フィルタ許可レジスタ1, 2 (NFEN1, NFEN2) の対応するビットに1を設定する TCRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TSRmnレジスタは, 使用しない TMRmnレジスタ, TOMmn, TOLmn, TOMn, TOEmnビットは, 設定値変更禁止	TImn端子入力のエッジが検出されるごとに, カウンタ (TCRmn) はダウン・カウント動作を行う。0000Hまでカウントしたら, 再びTCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし, カウント動作を継続する。TCRmn = 0000H検出でINTTMmn出力を発生する。 以降, この動作を繰り返す。
動作 停止	TTmnビットに1を設定する TTmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	▶ TEEmn = 0になり, カウント動作停止 TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止
TAU 停止	PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	▶ パワーオフ状態 全回路が初期化され, 各チャンネルのSFRも初期化される

動作再開

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

6.8.3 分周器としての動作（チャンネル0のみ）

TI00端子に入力されたクロックを分周し、TO00端子から出力する分周器として利用することができます。

TO00出力の分周クロック周波数は次の式で求めることができます。

- ・ 立ち上がりエッジ／立ち下がりエッジ選択時：

$$\text{分周クロック周波数} = \text{入力クロック周波数} / \{ (\text{TDR00 の設定値} + 1) \times 2 \}$$
- ・ 両エッジ選択時：

$$\text{分周クロック周波数} \cong \text{入力クロック周波数} / (\text{TDR00の設定値} + 1)$$

タイマ・カウンタ・レジスタ00（TCR00）はインターバル・タイマ・モードでダウン・カウンタとして動作します。

タイマ・チャンネル開始レジスタ0（TS0）のチャンネル・スタート・トリガ・ビット（TS00）に1を設定後、TI00の有効エッジ検出でTCR00レジスタはタイマ・データ・レジスタ00（TDR00）の値をロードします。このときタイマ・モード・レジスタ00（TMR00）のMD000 = 0ならば、INTTM00を出力せず、TO00はトグルしません。TMR00レジスタのMD000 = 1ならば、INTTM00を出力して、TO00をトグルします。

その後、TI00端子入力の有効エッジに合わせてダウン・カウントを行い、TCR00 = 0000Hとなったら、TO00をトグルします。同時にTCR00レジスタはTDR00レジスタの値をロードして、カウントを継続します。

TI00端子入力の両エッジ検出を選択すると、入力クロックのデューティ誤差がTO00出力の分周クロック周期に影響します。

TO00の出力クロックの周期には、動作クロック1周期分のサンプリング誤差が含まれます。

$$\text{TO00出力のクロック周期} = \text{理想のTO00出力クロック周期} \pm \text{動作クロック周期（誤差）}$$

TDR00レジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。書き換えたTDR00レジスタの値は次のカウント期間で有効となります。

図6-53 分周器としての動作のブロック図

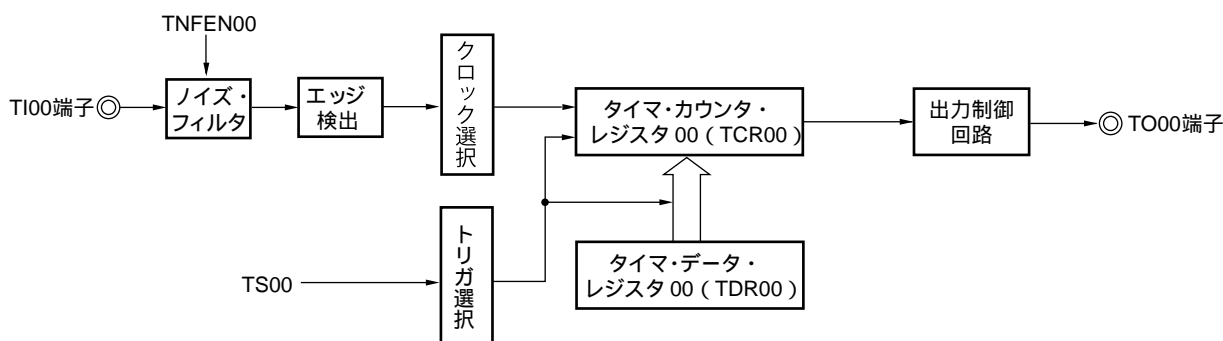
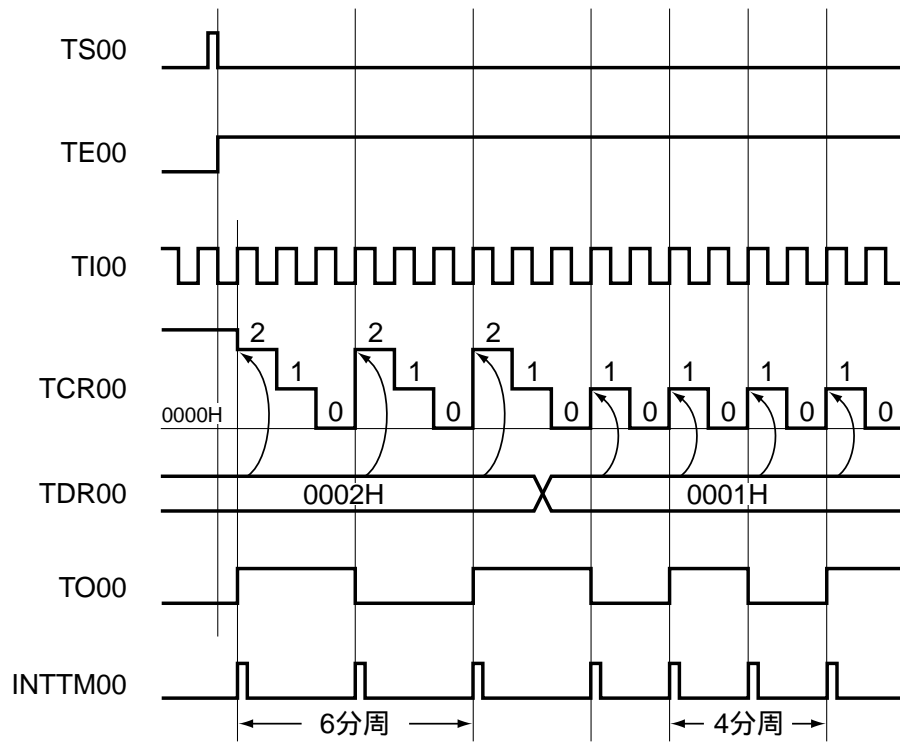


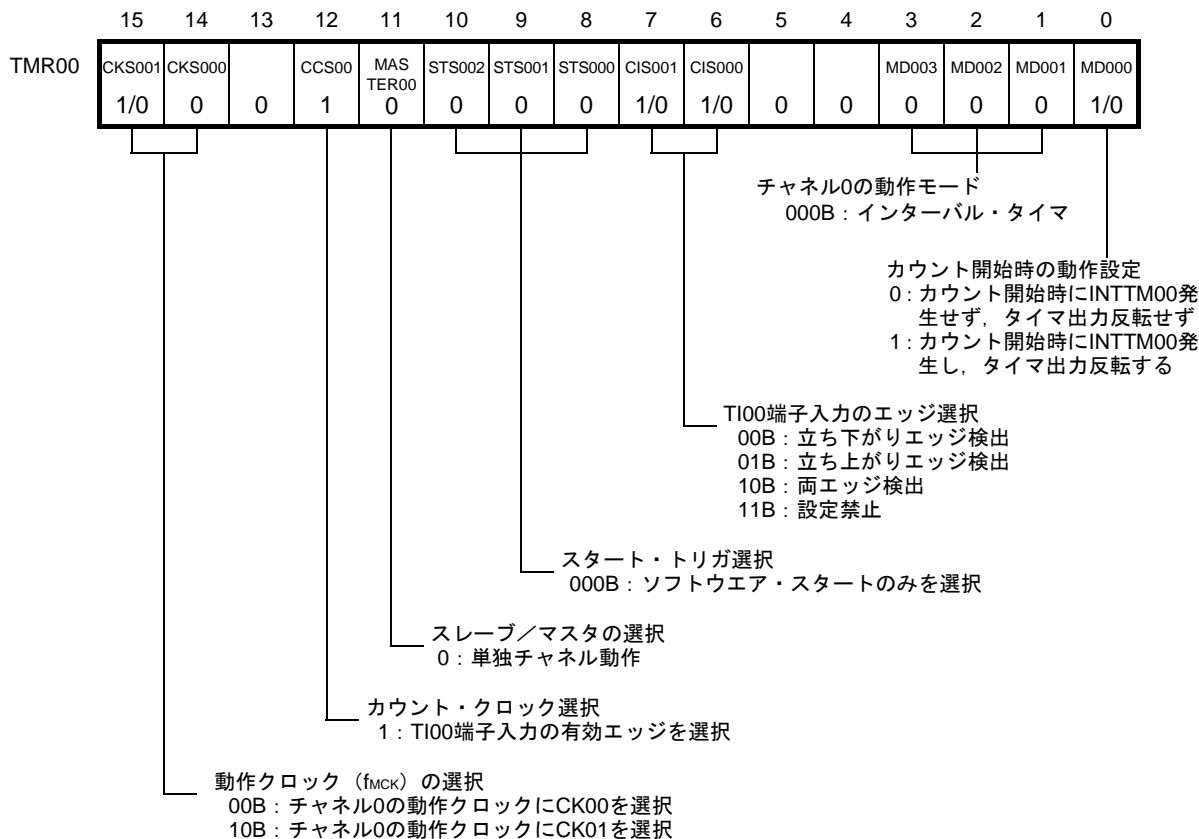
図6-54 分周器としての動作の基本タイミング例 (MD000 = 1)



- 備考 TS00 : タイマ・チャンネル開始レジスタ0 (TS0) のビット0
 TE00 : タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタ0 (TE0) のビット0
 TI00 : TI00端子入力信号
 TCR00 : タイマ・カウンタ・レジスタ00 (TCR00)
 TDR00 : タイマ・データ・レジスタ00 (TDR00)
 TO00 : TO00端子出力信号

図6-55 分周器として動作時のレジスタ設定内容例

(a) タイマ・モード・レジスタ00 (TMR00)



(b) タイマ出力レジスタ0 (TO0)

	ビット0		
TO0	TO00		0: TO00より0を出力する
	1/0		1: TO00より1を出力する

(c) タイマ出力許可レジスタ0 (TOE0)

	ビット0		
TOE0	TOE00		0: カウント動作によるTO00出力動作停止
	1/0		1: カウント動作によるTO00出力動作許可

(d) タイマ出力レベル・レジスタ0 (TOL0)

	ビット0		
TOL0	TOL00		0: マスタ・チャンネル出力モード (TOM00 = 0) では0を設定
	0		

(e) タイマ出力モード・レジスタ0 (TOM0)

	ビット0		
TOM0	TOM00		0: マスタ・チャンネル出力モードを設定
	0		

図6-56 分周器機能時の操作手順

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可)
	タイマ・クロック選択レジスタ0 (TPS0) を設定する CK00-CK03のクロック周波数を確定する	パワーオン状態, 各チャンネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
チャ ネル 初期 設定	タイマ・モード・レジスタ00 (TMR00) を設定する (チャンネルの動作モード確定, 検出エッジの選択)	チャンネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する)
	タイマ・データ・レジスタ00 (TDR00) にインターバル (周期) 値を設定する	
	タイマ出力モード・レジスタ0 (TOM0) のTOM00ビットに0 (マスタ・チャンネル出力モード) を設定する TOL00ビットに0を設定する TO00ビットを設定し, TO00出力の初期レベルを確定する	TO00端子はHi-Z出力状態
	TOE00ビットに1を設定し, TO00の動作を許可	ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は, TO00初期設定レベルが出力される。
	ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する	チャンネルは動作停止状態なので, TO00は変化しない TO00端子はTO00設定レベルを出力
動作 開始	TOE00ビットに1を設定する (動作再開時のみ) TS00ビットに1を設定する TS00ビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TE00 = 1になり, カウント動作開始 カウント・クロック入力でタイマ・カウンタ・レジスタ00 (TCR00) はTDR00レジスタの値をロードする。TMR00レジスタのMD000ビットが1の場合は, INTTM00を発生し, TO00もトグル動作する。
動作 中	TDR00レジスタは, 任意に設定値変更が可能 ノイズ・フィルタ許可レジスタ1, 2 (NFEN1, NFEN2) の対応するビットに1を設定する TCR00レジスタは, 常に読み出し可能 TSR00レジスタは, 使用しない TO0, TOE0レジスタは, 設定値変更可能 TMR00レジスタ, TOM00, TOL00ビットは, 設定値変更禁止	カウンタ (TCR00) はダウン・カウント動作を行い, 0000Hまでカウントしたら, 再びTCR00レジスタはTDR00レジスタの値をロードし, カウント動作を継続する。TCR00 = 0000H検出でINTTM00を発生し, TO00はトグル動作する。以降, この動作を繰り返す。
動作 停止	TT00ビットに1を設定する TT00ビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TE00 = 0になり, カウント動作停止 TCR00レジスタはカウント値を保持して停止 TO00出力は初期化されず, 状態保持
	TOE00ビットに0を設定し, TO00ビットに値を設定する	TO00端子はTO00設定レベルを出力
TAU 停止	TO00端子の出力レベルを保持する場合 ポート・レジスタに保持したい値を設定後, TO00ビットに0を設定する	TO00端子出力レベルはポート機能により保持される。
	TO00端子の出力レベルを保持不要の場合 設定不要 PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	パワーオフ状態 全回路が初期化され, 各チャンネルのSFRも初期化される (TO00ビットが0になり, TO00端子はポート機能となる)

動作再開

6.8.4 入力パルス間隔測定としての動作

Tlmn有効エッジでカウント値をキャプチャし、Tlmn入力パルスの間隔を測定することができます。また、TEmn = 1の期間中にソフトウェア操作 (TSmn = 1) をキャプチャ・トリガにして、カウント値をキャプチャすることもできます。

パルス間隔は次の式で求めることができます。

$$\text{Tlmn入力パルス間隔} = \text{カウント} \cdot \text{クロックの周期} \times ((10000\text{H} \times \text{TSRmn:OVF}) + (\text{TDRmnのキャプチャ値} + 1))$$

注意 Tlmn端子入力は、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のCKSmnビットで選択した動作クロックでサンプリングされるため、動作クロックの1クロック分の誤差が発生します。

タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はキャプチャ・モードでアップ・カウンタとして動作します。

タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSM) のチャンネル・スタート・トリガ・ビット (TSmn) に1を設定するとTCRmnレジスタはカウント・クロックに合わせて0000Hからアップ・カウントを開始します。

Tlmn端子入力の有効エッジを検出すると、TCRmnレジスタのカウント値をタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) に転送 (キャプチャ) すると同時に、TCRmnレジスタを0000Hにクリアして、INTTMmnを出力します。このとき、カウンタのオーバーフローが発生していたら、タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) のOVFビットが1にセットされ、オーバーフローが発生していなかったらOVFビットはクリアされます。以降、同様の動作を継続します。

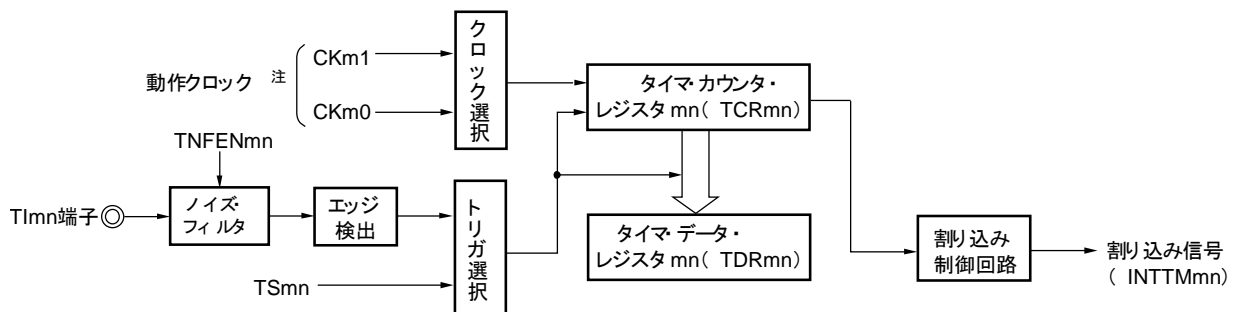
カウント値がTDRmnレジスタにキャプチャされると同時に、測定期間のオーバーフロー有無に応じて、TSRmnレジスタのOVFビットが更新され、キャプチャ値のオーバーフロー状態を確認できます。

カウンタが2周期以上フルカウントした場合もオーバーフロー発生とみなされ、TSRmnレジスタのOVFビットがセット (1) されます。しかし、OVFビットは、2回以上のオーバーフローが発生した場合は正常な間隔値を測定できません。

TMRmnレジスタのSTSmn2-STSmn0 = 001Bに設定して、Tlmn有効エッジをスタート・トリガとキャプチャ・トリガに利用します。

TEmn = 1のときは、Tlmn端子入力を使用せずに、ソフトウェア操作 (TSmn = 1) をキャプチャ・トリガにすることもできます。

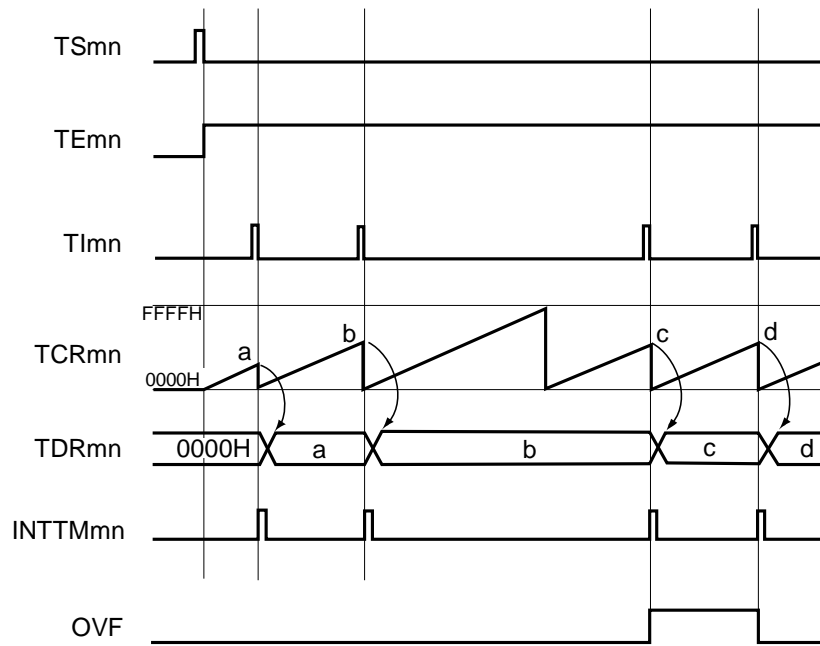
図6-57 入力パルス間隔測定としての動作のブロック図



注 チャンネル1, 3の場合は、CKm0, CKm1, CKm2, CKm3からクロックを選択できます。

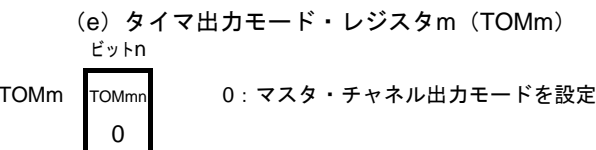
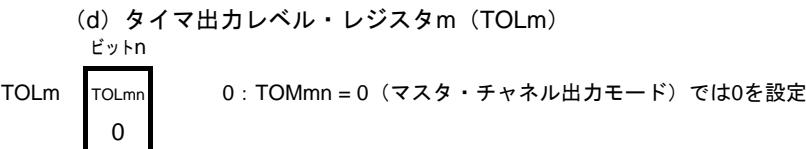
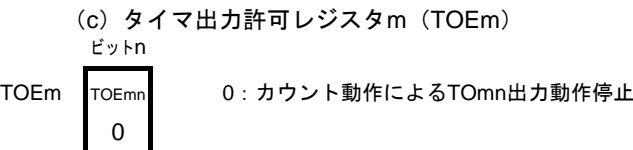
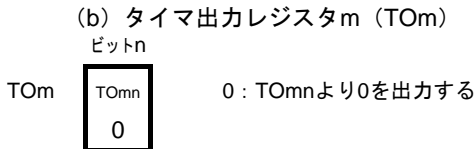
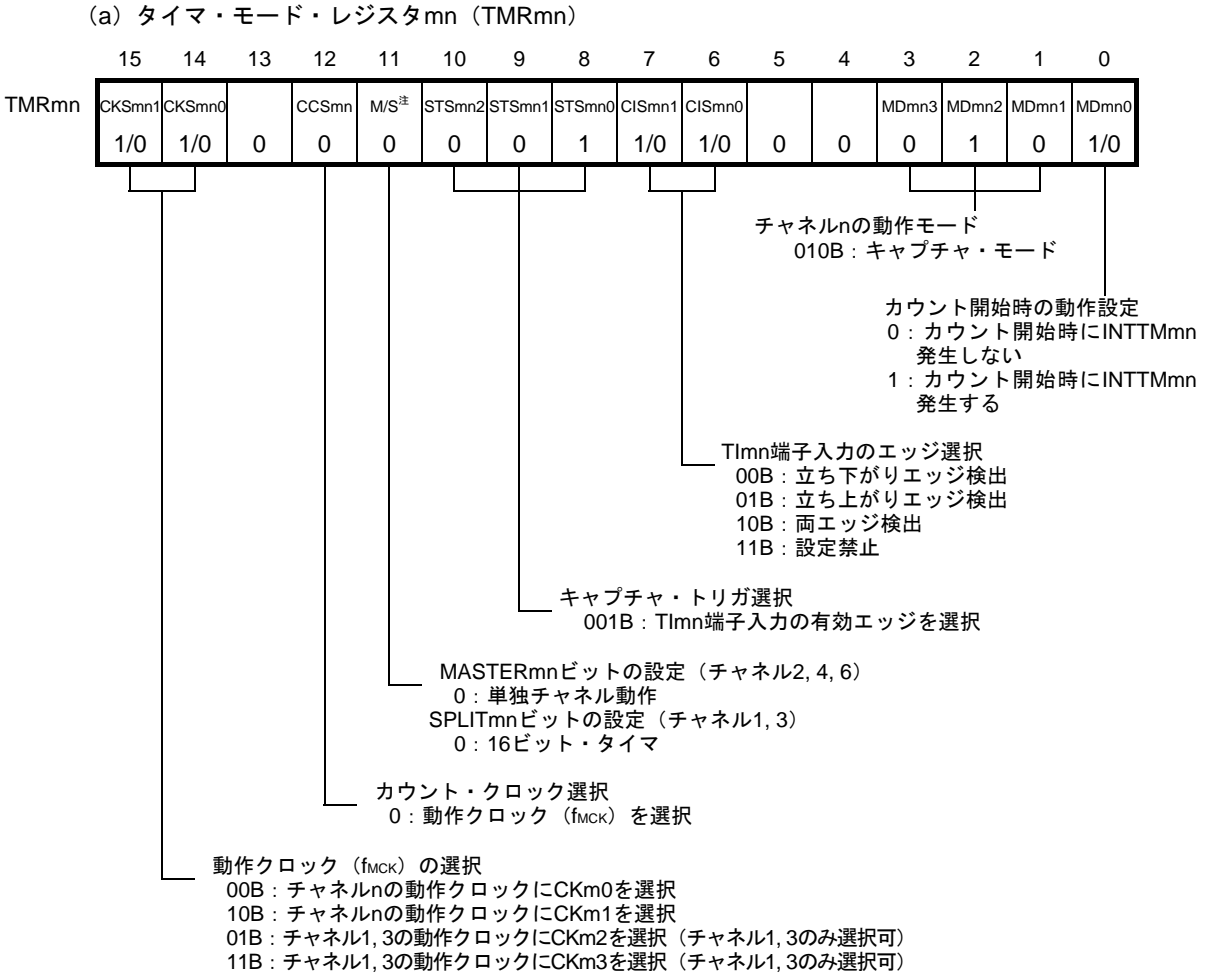
備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-58 入力パルス間隔測定としての動作の基本タイミング例 (MDmn0 = 0)



- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)
2. TSmn : タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のビットn
 TE mn : タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) のビットn
 TImn : TImn端子入力信号
 TCRmn : タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn)
 TDRmn : タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn)
 OVF : タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) のビット0

図6-59 入力パルス間隔測定時のレジスタ設定内容例



注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合 : MASTERmnビット
 TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmnビット
 TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合 : 0固定

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-60 入力パルス間隔測定機能時の操作手順

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可)
	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する	パワーオン状態, 各チャネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
チャ ネル 初期 設定	ノイズ・フィルタ許可レジスタ1, 2 (NFEN1, NFEN2) の対応するビットに0 (オフ), 1 (オン) を設定する タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) を設定する (チャネルの動作モード確定)	チャネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する)
動作 開始	TSmnビットに1を設定する TSmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TEmn = 1になり, カウント動作開始 カウント・クロック入力でタイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) を0000Hにクリアする。TMRmnレジスタのMDmn0ビットが1の場合は, INTTMmnを発生する。
動作 中	TMRmnレジスタは, CISmn1, CISmn0ビットのみ設定値変更可能 TDRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TCRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TSRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TOMmn, TOLmn, TOMn, TOEmnビットは, 設定値変更禁止	カウンタ (TCRmn) は0000Hからアップ・カウント動作を行い, TImn端子入力の有効エッジが検出されたら, カウント値をタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) に転送 (キャプチャ) する。同時に, TCRmnレジスタを0000Hにクリアし, INTTMmnを発生する。 このときオーバフローが発生していたら, タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) のOVFビットがセットされ, オーバフローが発生していなかったらOVFビットがクリアされる。 以降, この動作を繰り返す。
動作 停止	TTmnビットに1を設定する TTmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TEmn = 0になり, カウント動作停止 TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止 TSRmnレジスタのOVFビットも保持
TAU 停止	PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	パワーオフ状態 全回路が初期化され, 各チャネルのSFRも初期化される

動作再開

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)

6.8.5 入力信号のハイ／ロウ・レベル幅測定としての動作

注意 LIN-bus対応機能として使用する場合は、入力切り替え制御レジスタ (ISC) のビット1 (ISC1) を1に設定してください。また、以降の説明では「TImn」を「RxD0」と読み替えてください。

TImn端子入力の片方のエッジでカウントをスタートし、もう片方のエッジでカウント数をキャプチャすることで、TImnの信号幅 (ハイ・レベル幅／ロウ・レベル幅) を測定することができます。TImnの信号幅は次の式で求めることができます。

$$\text{TImn入力の信号幅} = \text{カウント} \cdot \text{クロックの周期} \times ((10000\text{H} \times \text{TSRmn:OVF}) + (\text{TDRmnのキャプチャ値} + 1))$$

注意 TImn端子入力は、タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のCKSmnビットで選択した動作クロックでサンプリングされるため、動作クロックの1クロック分の誤差が発生します。

タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はキャプチャ&ワンカウント・モードでアップ・カウンタとして動作します。

タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSM) のチャンネル・スタート・トリガ・ビット (TSmn) に1を設定すると、TEmn = 1となりTImn端子のスタート・エッジ検出待ち状態となります。

TImn端子入力のスタート・エッジ (ハイ・レベル幅測定ならTImn端子入力の立ち上がりエッジ) を検出すると、カウント・クロックに合わせて0000Hからアップ・カウントを行います。その後、キャプチャ有効エッジ (ハイ・レベル幅測定ならTImn端子入力の立ち下がりエッジ) を検出すると、カウンタ値をタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) に転送すると同時にINTTmnを出力します。このとき、カウンタのオーバフローが発生していたら、タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) のOVFビットがセットされ、オーバフローが発生していなかったらOVFビットはクリアされます。TCRmnレジスタは、「TDRmnレジスタに転送した値+1」の値で停止し、TImn端子のスタート・エッジ検出待ち状態となります。以降同様の動作を続けます。

カウンタ値がTDRmnレジスタにキャプチャされると同時に、測定期間のオーバフロー有無に応じて、TSRmnレジスタのOVFビットが更新され、キャプチャ値のオーバフロー状態を確認できます。

カウンタが2周期以上フルカウントした場合もオーバフロー発生とみなされ、TSRmnレジスタのOVFビットがセット (1) されます。しかし、OVFビットは、2回以上のオーバフローが発生した場合は正常な間隔値を測定できません。

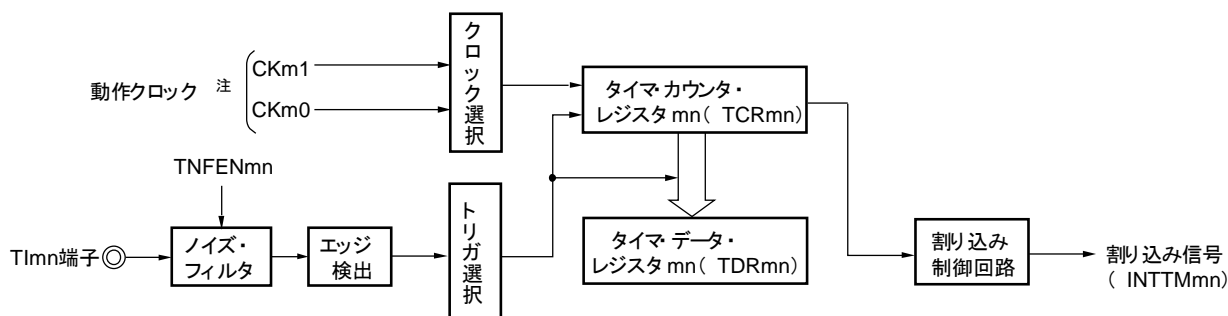
TImn端子入力のハイ・レベル幅を測定するか、ロウ・レベル幅を測定するかは、TMRmnレジスタのCISmn1, CISmn0ビットにて設定することができます。

この機能は、TImn端子入力の信号幅測定を目的とするため、TEmn = 1期間中のTSmnビットのセット (1) は使用できません。

TMRmnレジスタのCISmn1, CISmn0 = 10B : ロウ・レベル幅を測定する

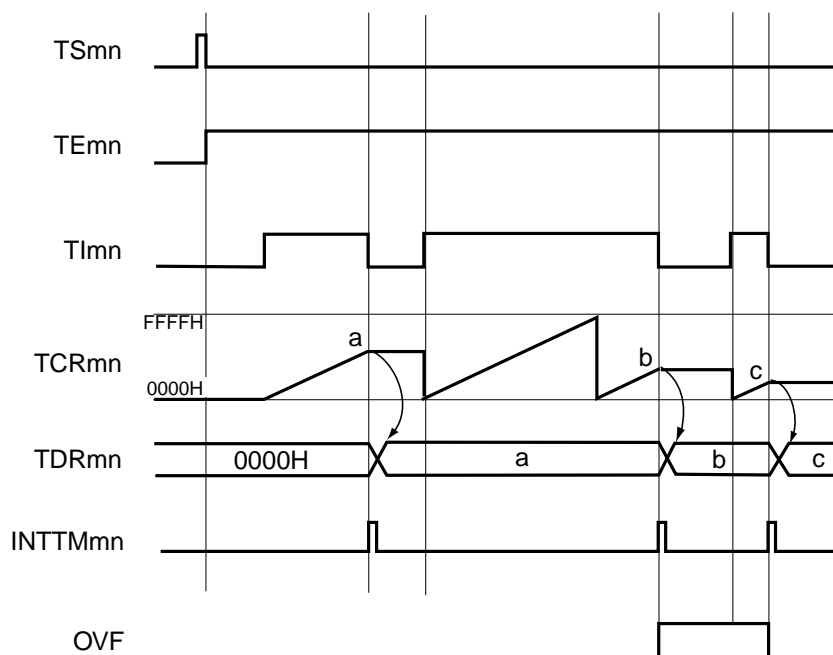
TMRmnレジスタのCISmn1, CISmn0 = 11B : ハイ・レベル幅を測定する

図6-61 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定としての動作のブロック図



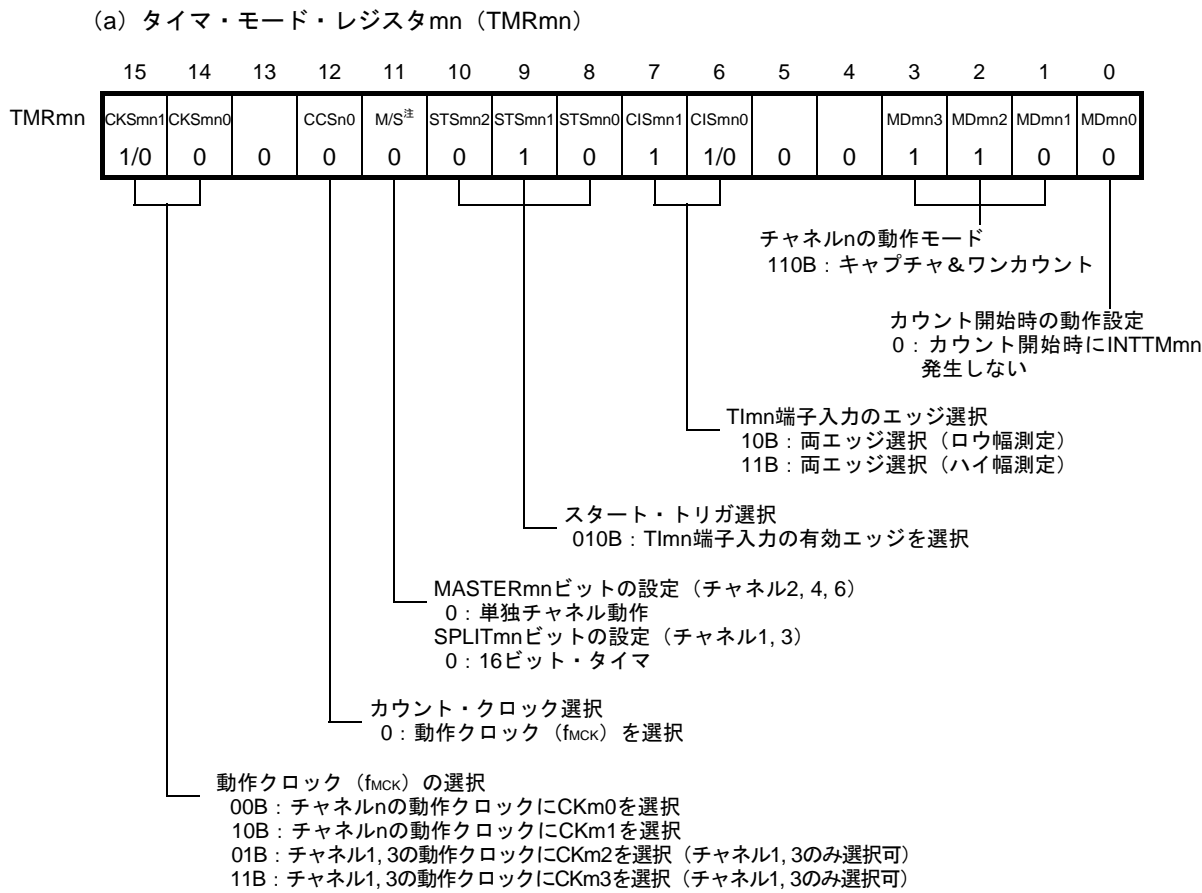
注 チャンネル1, 3の場合は, CKm0, CKm1, CKm2, CKm3からクロックを選択できます。

図6-62 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定としての動作の基本タイミング例

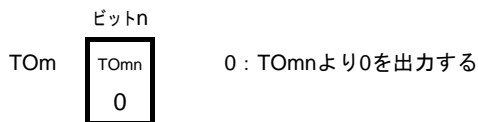


- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)
2. TSmn : タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のビットn
 TEMn : タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) のビットn
 TImn : TImn端子入力信号
 TCRmn : タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn)
 TDRmn : タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn)
 OVF : タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) のビット0

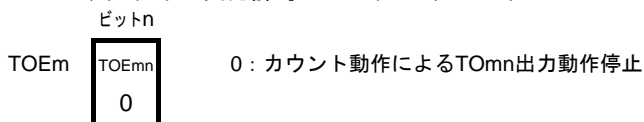
図6-63 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定時のレジスタ設定内容例



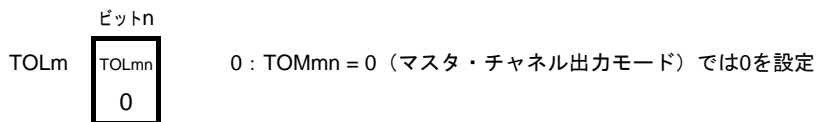
(b) タイマ出力レジスタm (TOm)



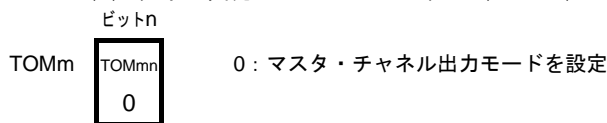
(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)



(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)



(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)



- 注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合 : MASTERmnビット
 TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmnビット
 TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合 : 0固定

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-64 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定機能時の操作手順

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可)
	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する	パワーオン状態, 各チャネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
チャ ネル 初期 設定	ノイズ・フィルタ許可レジスタ1, 2 (NFEN1, NFEN2) の対応するビットに0 (オフ), 1 (オン) を設定する タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) を設定する (チャネルの動作モード確定) TOEmnビットに0を設定し, TOmnの動作を停止	チャネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する)
動 作 開 始	TSmnビットに1を設定する TSmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TEmn = 1になり, TImn端子のスタート・エッジ検出待ち状態になる
	TImn端子入力のカウント・スタート・エッジ検出	▶タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) を0000Hにクリアし, カウント・アップ動作を開始する
動 作 中	TDRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TCRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TSRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TMRmnレジスタ, TOMmn, TOLmn, TOmn, TOEmnビットは, 設定値変更禁止	TImn端子のスタート・エッジ検出後, カウンタ (TCRmn) は0000Hからアップ・カウント動作を行う。TImn端子のキャプチャ・エッジが検出されたら, カウント値をタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) に転送し, INTTMmnを発生する。 このときオーバフローが発生していたら, タイマ・ステータス・レジスタmn (TSRmn) のOVFビットがセットされ, オーバフローが発生していなかったらOVFビットがクリアされる。TCRmnレジスタは, 次のTImn端子のスタート・エッジ検出までカウント動作を停止する。 以降, この動作を繰り返す。
動 作 停 止	TTmnビットに1を設定する TTmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TEmn = 0になり, カウント動作停止 TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止 TSRmnレジスタのOVFビットも保持
TAU 停 止	PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	パワーオフ状態 全回路が初期化され, 各チャネルのSFRも初期化される

動作再開

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)

6.8.6 ディレイ・カウンタとしての動作

Tl_{mn}端子入力の有効エッジ検出（外部イベント）でダウン・カウントをスタートし、任意の設定間隔でINTTM_{mn}（タイマ割り込み）を発生することができます。

また、TE_{mn} = 1の期間中に、ソフトウェアでTS_{mn} = 1に設定してダウン・カウントをスタートし、任意の設定間隔でINTTM_{mn}（タイマ割り込み）を発生することもできます。

割り込み発生周期は、次の式で求める事ができます。

$$\text{INTTM}_{mn} \text{ (タイマ割り込み) の発生周期} = \text{カウント・クロックの周期} \times (\text{TDR}_{mn} \text{ の設定値} + 1)$$

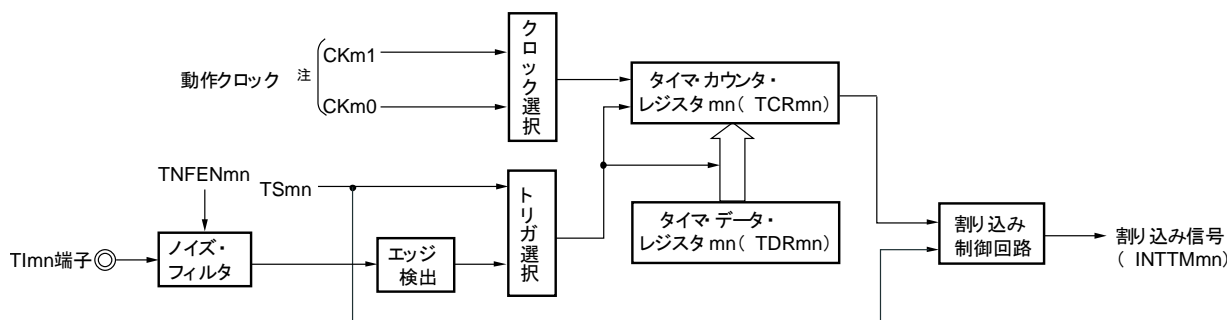
タイマ・カウンタ・レジスタ_{mn} (TCR_{mn}) はワンカウント・モードでダウン・カウンタとして動作します。

タイマ・チャンネル開始レジスタ_m (TSM) のチャンネル・スタート・トリガ・ビット (TS_{mn}, TSH_{m1}, TSH_{m3}) に1を設定すると、TE_{mn}, TEH_{m1}, TEH_{m3} = 1となりTl_{mn}端子の有効エッジ検出待ち状態となります。

TCR_{mn}レジスタは、Tl_{mn}端子入力の有効エッジ検出により動作を開始し、タイマ・データ・レジスタ_{mn} (TDR_{mn}) から値をロードします。TCR_{mn}レジスタはロードしたTDR_{mn}レジスタの値からカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行い、TCR_{mn} = 0000HとなったらINTTM_{mn}を出力し、次のTl_{mn}端子入力の有効エッジがあるまで、カウントを停止します。

TDR_{mn}レジスタは任意のタイミングで書き換えることができます。書き換えたTDR_{mn}レジスタの値は、次の周期から有効となります。

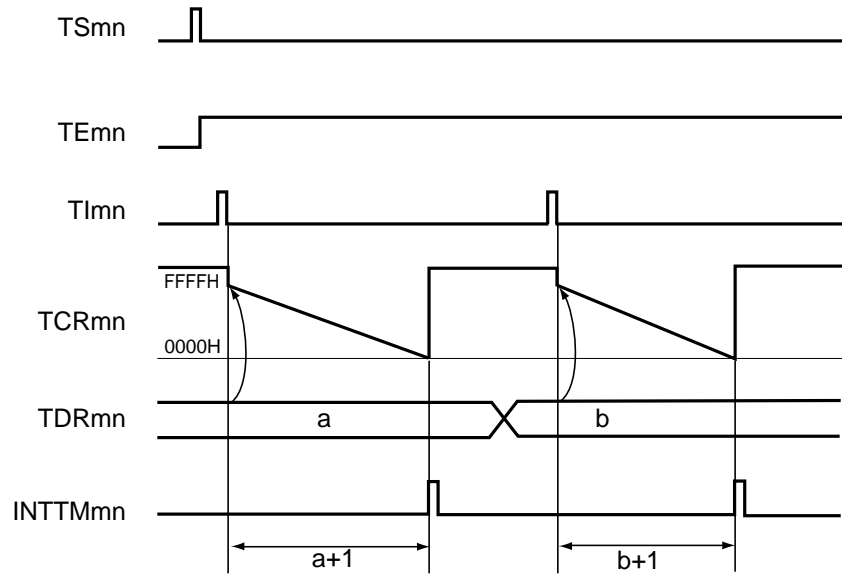
図6-65 ディレイ・カウンタとしての動作のブロック図



注 チャンネル1, 3の場合は、CK_{m0}, CK_{m1}, CK_{m2}, CK_{m3}からクロックを選択できます。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

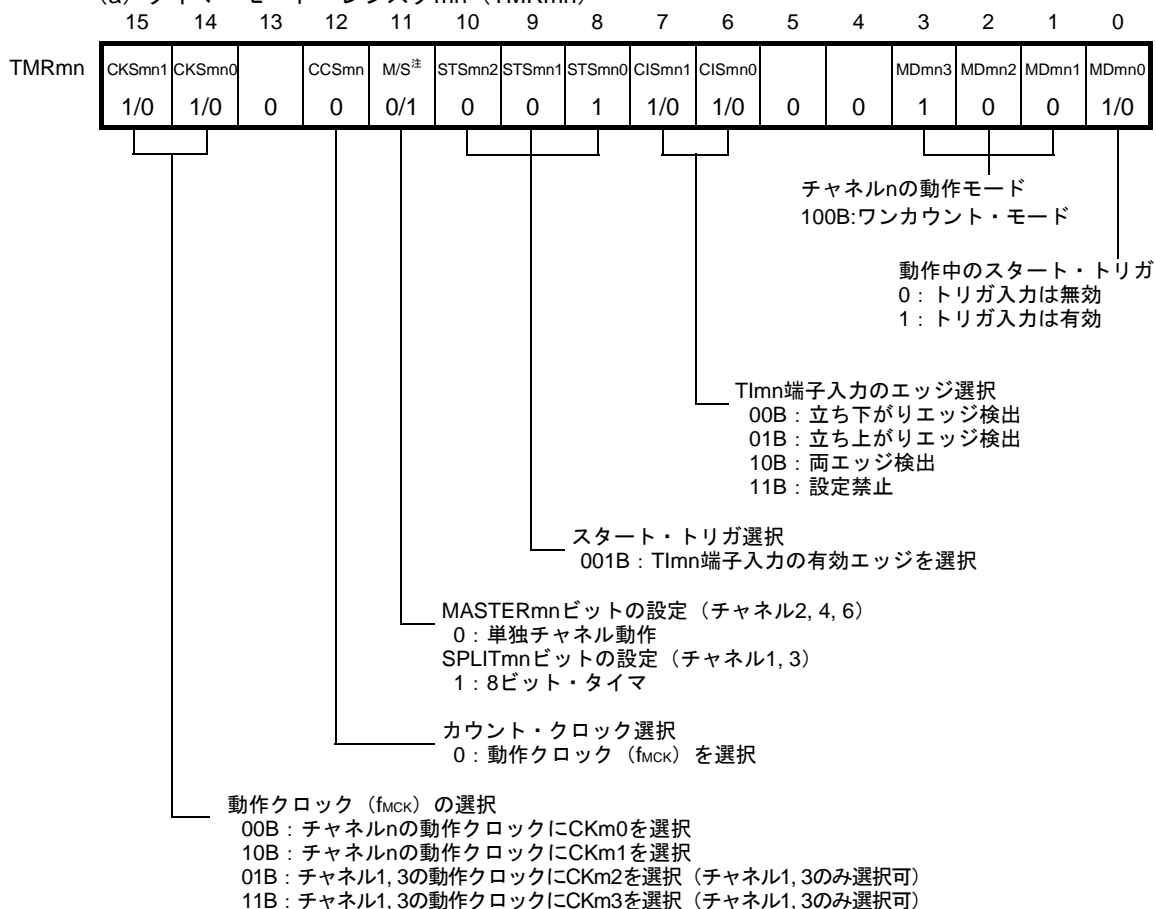
図6-66 デイレイ・カウンタとしての動作の基本タイミング例



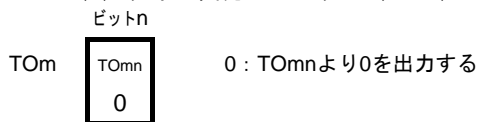
- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0-7)
2. TSmn : タイマ・チャネル開始レジスタm (TSm) のビットn
 TEmn : タイマ・チャネル許可ステータス・レジスタm (TEm) のビットn
 TImn : TImn端子入力信号
 TCRmn : タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn)
 TDRmn : タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn)

図6-67 ディレイ・カウンタ機能時のレジスタ設定内容例

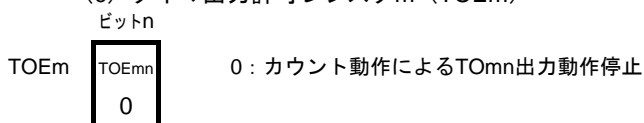
(a) タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn)



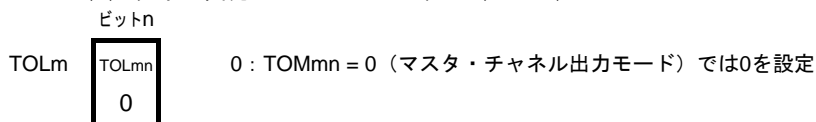
(b) タイマ出力レジスタm (TOm)



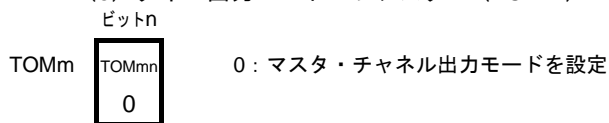
(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)



(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)



(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)



- 注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合 : MASTERmnビット
 TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmnビット
 TMRm0, TMRm5, TMRm7の場合 : 0固定

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャンネル番号 (n = 0-7)

図6-68 ディレイ・カウンタ機能時の操作手順

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可)
	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0-CKm3のクロック周波数を確定する	パワーオン状態, 各チャネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
チャ ネル 初期 設定	ノイズ・フィルタ許可レジスタ1, 2 (NFEN1, NFEN2) の対応するビットに0 (オフ), 1 (オン) を設定する タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) を設定する (チャネルnの動作モード確定) タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) に遅延時間を設定する TOEmnビットに0を設定し, TOmnの動作を停止	チャネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する)
動 作 開 始	TSmnビットに1を設定する TSmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	TEmn = 1になり, TImn端子入力の有効エッジ検出待ち状態になる
	TImn端子入力の有効エッジ検出	▶タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はTDRmnレジスタの値をロードする。
動 作 中	TDRmnレジスタは, 任意に設定値変更が可能 TCRmnレジスタは, 常に読み出し可能 TSRmnレジスタは, 使用しない	カウンタ (TCRmn) はダウン・カウント動作を行う。TCRmn = 0000HまでカウントしたらINTTMmn出力を発生し, 次のTImn端子入力までTCRmn = 0000Hでカウント動作を停止する。
動 作 停 止	TTmnビットに1を設定する TTmnビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	▶TEmn = 0になり, カウント動作停止 TCRmnレジスタはカウント値を保持して停止
TAU 停 止	PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	▶パワーオフ状態 全回路が初期化され, 各チャネルのSFRも初期化される

動作再開

備考 m : ユニット番号 (m = 0), n : チャネル番号 (n = 0-7)

6.9 タイマ・アレイ・ユニットの複数チャネル連動動作機能

6.9.1 ワンショット・パルス出力機能としての動作

2チャネルをセットで使用して、TImn端子入力により任意のディレイ・パルス幅を持ったワンショット・パルスを生成することができます。

ディレイとパルス幅は次の式で求めることができます。

$\begin{aligned} \text{ディレイ} &= \{\text{TDRmn (マスタ) の設定値} + 2\} \times \text{カウント} \cdot \text{クロック周期} \\ \text{パルス幅} &= \{\text{TDRmp (スレーブ) の設定値}\} \times \text{カウント} \cdot \text{クロック周期} \end{aligned}$

マスタ・チャネルは、ワンカウント・モードで動作し、ディレイをカウントします。マスタ・チャネルのタイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) は、スタート・トリガ検出により動作を開始し、タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) から値をロードします。TCRmnレジスタはロードしたTDRmnレジスタの値からカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行い、TCRmn = 0000HとなったらINTTMmnを出力し、次のスタート・トリガ検出があるまで、カウントを停止します。

スレーブ・チャネルは、ワンカウント・モードで動作し、パルス幅をカウントします。スレーブ・チャネルのTCRmpレジスタは、マスタ・チャネルのINTTMmnをスタート・トリガとして動作を開始し、TDRmpレジスタから値をロードします。TCRmpレジスタはロードした値からカウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行います。そしてカウンタ値 = 0000HとなったらINTTMmpを出力して、次のスタート・トリガ (マスタ・チャネルのINTTMmn) 検出があるまで、カウントを停止します。TOmpの出力レベルは、マスタ・チャネルのINTTMmn発生から1カウント・クロック経過後にアクティブ・レベルとなり、TCRmp = 0000Hとなったらインアクティブ・レベルとなります。

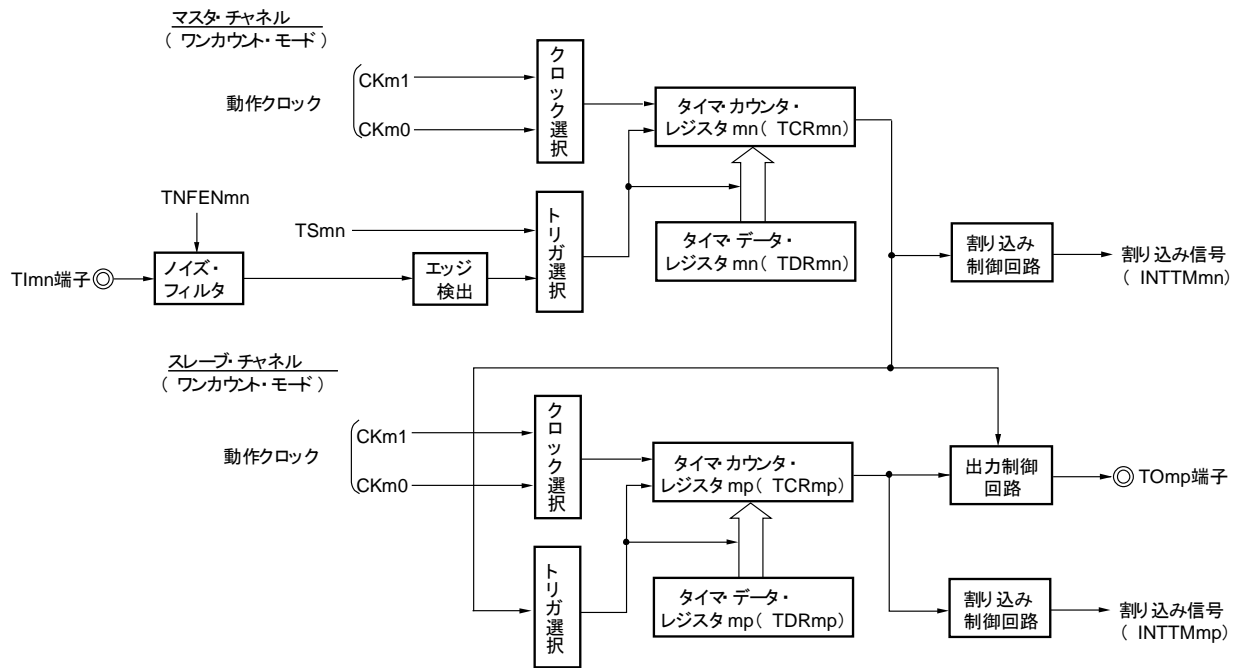
ワンショット・パルス出力は、TImn端子入力を使用せず、ソフトウェア操作 (TSmn = 1) をスタート・トリガにすることもできます。

注意 マスタ・チャネルのタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) とスレーブ・チャネルのTDRmpレジスタでは、ロード・タイミングが異なるため、動作中にTDRmnレジスタ、TDRmpレジスタを書き換えると、ロード・タイミングと競合して不正波形が出力される場合があります。TDRmnレジスタはINTTMmn発生後に、TDRmpレジスタはINTTMmp発生後に書き換えてください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

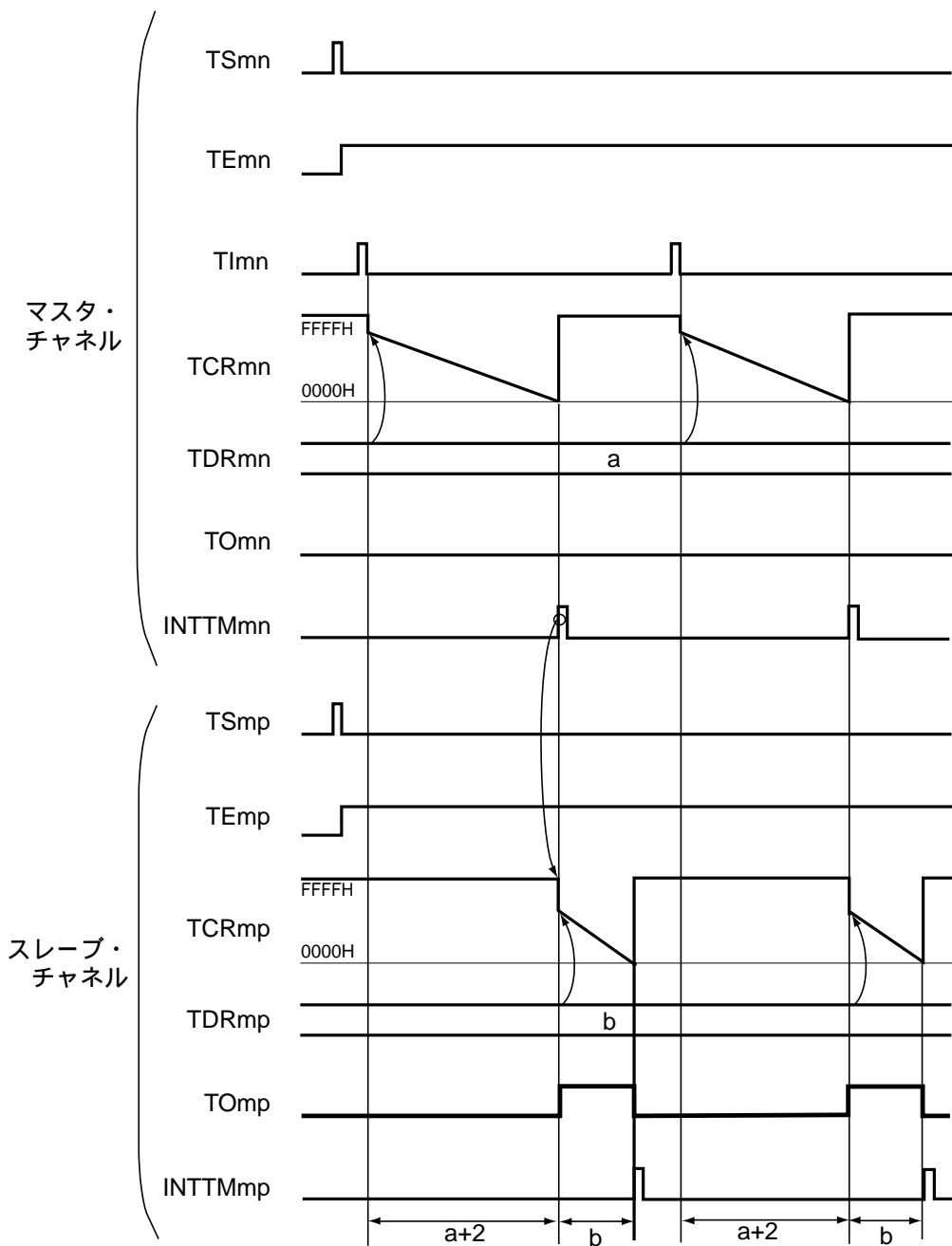
p : スレーブ・チャネル番号 (n < p ≤ 7)

図6-69 ワンショット・パルス出力機能としての動作のブロック図



備考 m : ユニット番号 ($m = 0$) , n : マスタ・チャンネル番号 ($n = 0, 2, 4, 6$)
 p : スレーブ・チャンネル番号 ($n < p \leq 7$)

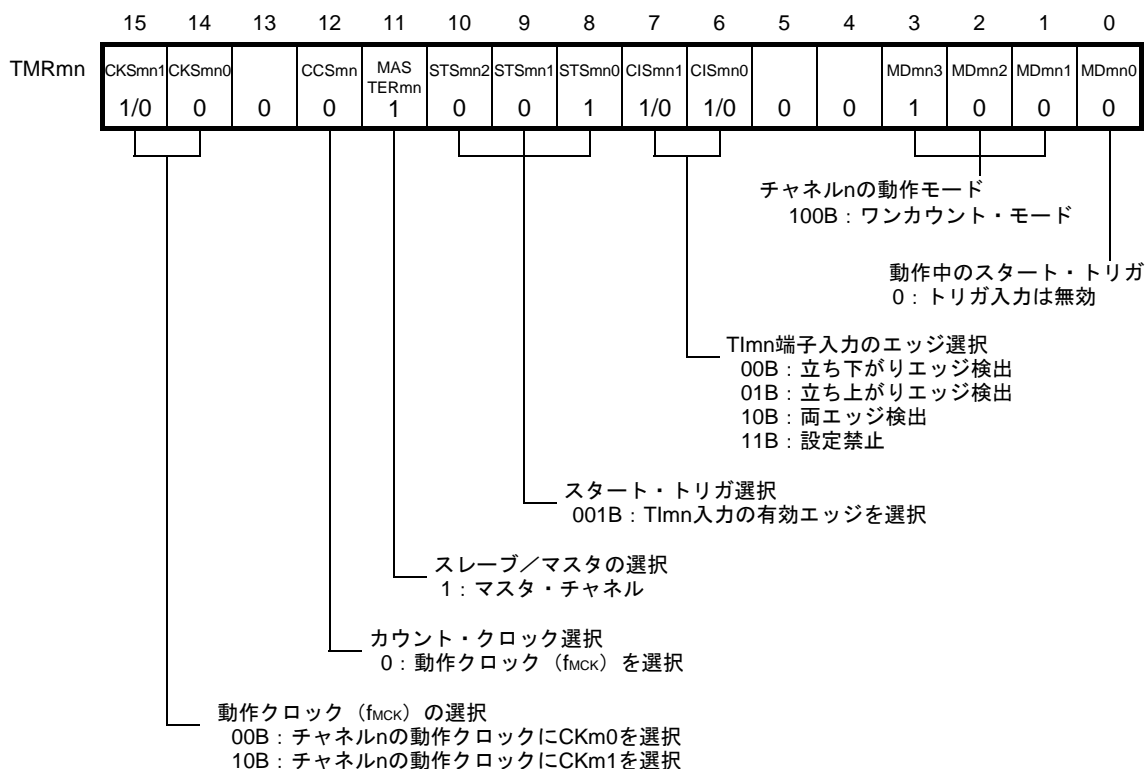
図6-70 ワンショット・パルス出力機能としての動作の基本タイミング例



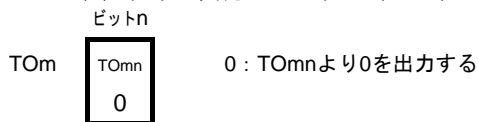
- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)
 p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)
2. TSmn, TSmp : タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のビットn, p
 TEmn, TEmp : タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) のビットn, p
 TImn, TImp : TImn, TImp端子入力信号
 TCRmn, TCRmp : タイマ・カウンタ・レジスタmn, mp (TCRmn, TCRmp)
 TDRmn, TDRmp : タイマ・データ・レジスタmn, mp (TDRmn, TDRmp)
 TOmn, TOmp : TOmn, TOmp端子出力信号

図6-71 ワンショット・パルス出力機能時（マスタ・チャンネル）のレジスタ設定内容例

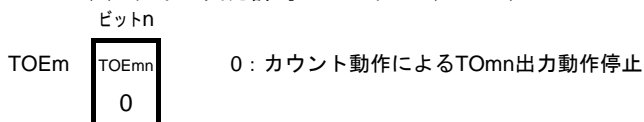
(a) タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn)



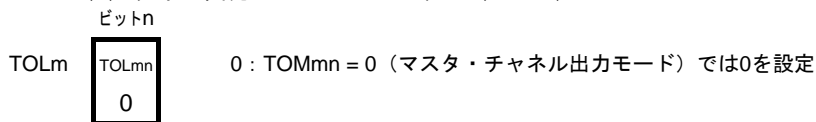
(b) タイマ出力レジスタm (TOM)



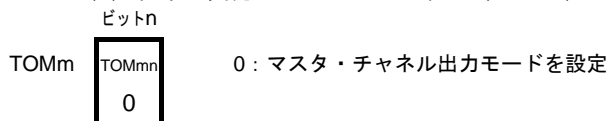
(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)



(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)



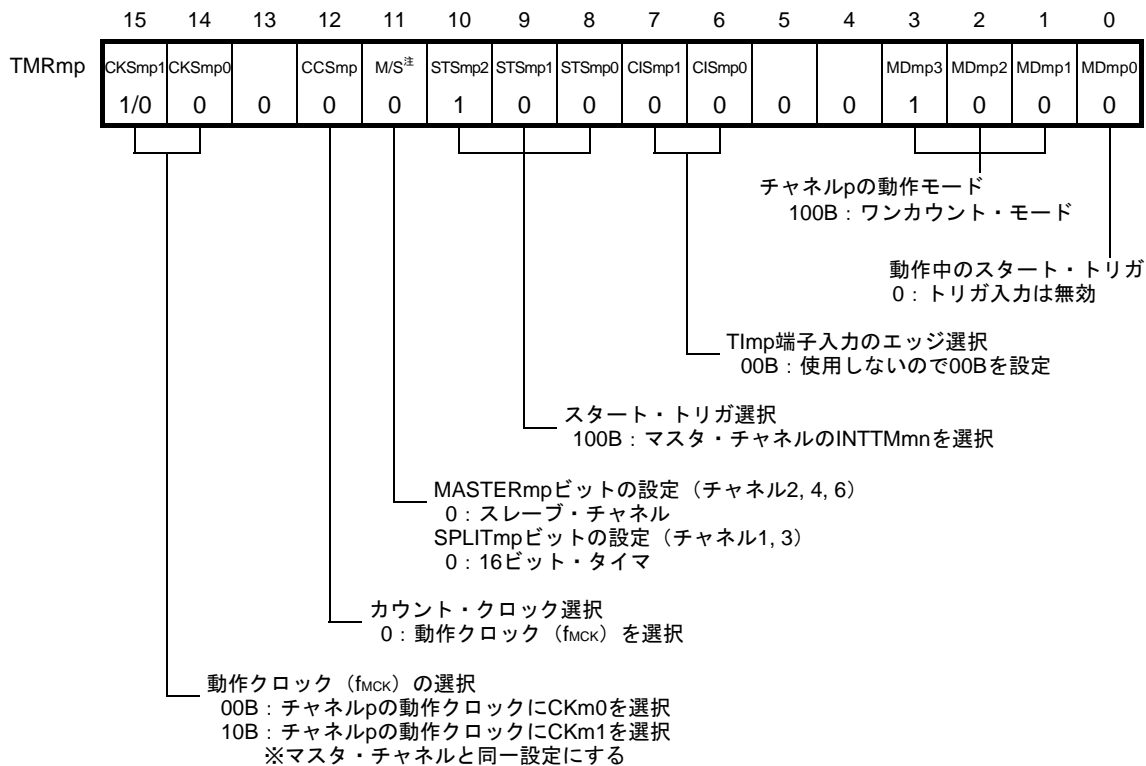
(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)



備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

図6-72 ワンショット・パルス出力機能時（スレーブ・チャンネル）のレジスタ設定内容例

(a) タイマ・モード・レジスタmp (TMRmp)



(b) タイマ出力レジスタm (TOM)

ビットp

TOM	TOMP	0 : TOMより0を出力する
	1/0	1 : TOMより1を出力する

(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)

ビットp

TOEm	TOEMP	0 : カウント動作によるTOMP出力動作停止
	1/0	1 : カウント動作によるTOMP出力動作許可

(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)

ビットp

TOLm	TOLMP	0 : 正論理出力 (アクティブ・ハイ)
	1/0	1 : 負論理出力 (アクティブ・ロウ)

(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)

ビットp

TOMm	TOMMP	1 : スレーブ・チャンネル出力モードを設定
	1	

注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合 : MASTERmnビット

TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmpビット

TMRm5, TMRm7 : 0固定

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)

図6-73 ワンショット・パルス出力機能時の操作手順 (1/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビット に1を設定する タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0とCKm1のクロック周波数を確定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可) パワーオン状態, 各チャンネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
チャ ネル 初期 設定	ノイズ・フィルタ許可レジスタ1, 2 (NFEN1, NFEN2) の対応するビットに1を設定する 使用する2チャンネルのタイマ・モード・レジスタmn, mp (TMRmn, TMRmp) を設定する (チャンネルの動作モード 確定) マスタ・チャンネルのタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) に出力遅延時間, スレーブ・チャンネルのTDRmp レジスタにパルス幅を設定する スレーブ・チャンネルの設定 タイマ出力モード・レジスタm (TOMm) のTOMmpビ ットに1 (スレーブ・チャンネル出力モード) を設定する TOLmpビットを設定する TOmpビットを設定し, TOmp出力の初期レベルを確定する TOEmpビットに1を設定し, TOmpの動作を許可 ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する	チャンネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する) TOmp端子はHi-Z出力状態 ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタ が0の場合は, TOmp初期設定レベルが出力される。 チャンネルは動作停止状態なので, TOmpは変化しない TOmp端子はTOmp設定レベルを出力

(備考は次ページにあります。)

図6-73 ワンショット・パルス出力機能時の操作手順 (2/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
動作開始	TOEmp (スレーブ) ビットに1を設定する (動作再開時のみ) タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のTSmn (マスタ), TSmp (スレーブ) ビットに同時に1を設定する TSmn, TSmpビットはトリガ・ビットなので、自動的に0に戻る	TEmn = 1, TEmp = 1となり、マスタ・チャンネルはTlmn入力のエッジ検出待ち状態となる カウンタはまだ停止状態のまま
	マスタ・チャンネルのスタート・トリガ検出によって、マスタ・チャンネルのカウント動作を開始します。 ・Tlmn端子入力の有効エッジ検出 ・ソフトウェアでマスタ・チャンネルのTSmnビットに1を設定 ^注 注 スレーブ・チャンネルのTSmnビットには1を設定しないでください	マスタ・チャンネルがカウント動作開始
動作中	TMRmnレジスタは、CISmn1, CISmn0ビットのみ設定値変更可能 TMRmp, TDRmn, TDRmpレジスタ, TOMmn, TOMmp, TOLmn, TOLmpビットは、設定値変更禁止 TCRmn, TCRmpレジスタは、常に読み出し可能 TSRmn, TSRmpレジスタは、使用しない スレーブ・チャンネルTOm, TOEmレジスタは、設定値変更可能	マスタ・チャンネルでは、Tlmn端子入力の有効エッジが検出されたら、タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はTDRmnレジスタの値をロードし、ダウン・カウント動作を行う。TCRmn = 0000HまでカウントしたらINTTMmn出力を発生し、次のTlmn端子入力までカウント動作を停止する。 スレーブ・チャンネルでは、マスタ・チャンネルのINTTMmnをトリガとして、TCRmpレジスタはTDRmpレジスタの値をロードし、カウンタはダウン・カウントを開始する。マスタ・チャンネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOmp出力レベルをアクティブ・レベルとする。そしてTCRmp = 0000HまでカウントしたらTOmp出力レベルをインアクティブ・レベルにして、カウント動作を停止する。以降、この動作を繰り返す。
動作停止	TTmn (マスタ), TTmp (スレーブ) ビットに同時に1を設定する TTmn, TTmpビットはトリガ・ビットなので、自動的に0に戻る	TEmn, TEmp = 0になり、カウント動作停止 TCRmn, TCRmpレジスタはカウント値を保持して停止 TOmp出力は初期化されず、状態保持
	スレーブ・チャンネルのTOEmpビットに0を設定し、TOmpビットに値を設定する	TOmp端子はTOmp設定レベルを出力
TAU停止	TOmp端子の出力レベルを保持する場合 ポート・レジスタに保持したい値を設定後、TOmpビットに0を設定する	TOmp端子出力レベルはポート機能により保持される。
	TOmp端子の出力レベルを保持不要の場合 設定不要 PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	パワーオフ状態 全回路が初期化され、各チャンネルのSFRも初期化される (TOmpビットが0になり、TOmp端子はポート機能となる)

動作再開

備考 m : ユニット番号 (m = 0), n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)

6.9.2 PWM機能としての動作

2チャンネルをセットで使用し、任意の周期およびデューティのパルスを生成することができます。

出力パルスの周期、デューティは次の式で求めることができます。

$$\begin{aligned} \text{パルス周期} &= \{\text{TDRmn (マスタ) の設定値} + 1\} \times \text{カウント} \cdot \text{クロック周期} \\ \text{デューティ [\%]} &= \{\text{TDRmp (スレーブ) の設定値}\} / \{\text{TDRmn (マスタ) の設定値} + 1\} \times 100 \\ 0\% \text{出力} &: \text{TDRmp (スレーブ) の設定値} = 0000\text{H} \\ 100\% \text{出力} &: \text{TDRmp (スレーブ) の設定値} \geq \{\text{TDRmn (マスタ) の設定値} + 1\} \end{aligned}$$

備考 TDRmp (スレーブの設定値) > {TDRmn (マスタ) の設定値 + 1} の場合は、デューティ値が100 % を越えますが、集約して100 %出力となります。

マスタ・チャンネルはインターバル・タイマ・モードとして動作させます。タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のチャンネル・スタート・トリガ・ビット (TSmn) に1を設定すると、割り込み (INTTMmn) を出力して、タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) に設定した値をタイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) にロードし、カウント・クロックに合わせてダウン・カウントを行います。カウントが0000Hになったところで、INTTMmnを出力して、再びTDRmnレジスタからTCRmnレジスタに値をロードしてダウン・カウントを行います。以降、タイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm) のチャンネル・ストップ・トリガ・ビット (TTmn) に1を設定するまでこの動作を繰り返します。

PWM機能としての動作では、マスタ・チャンネルがダウン・カウントして0000Hになるまでの期間がPWM出力 (TOmp) の周期となります。

スレーブ・チャンネルはワンカウント・モードとして動作させます。マスタ・チャンネルからのINTTMmnをスタート・トリガとして、TDRmpレジスタからTCRmpレジスタに値をロードし、0000Hになるまでダウン・カウントを行います。カウントが0000HになったところでINTTMmpを出力して、次のスタート・トリガ (マスタ・チャンネルからのINTTMmn) が来るまで待機します。

PWM機能としての動作では、スレーブ・チャンネルがダウン・カウントして0000Hになるまでの期間がPWM出力 (TOmp) のデューティとなります。

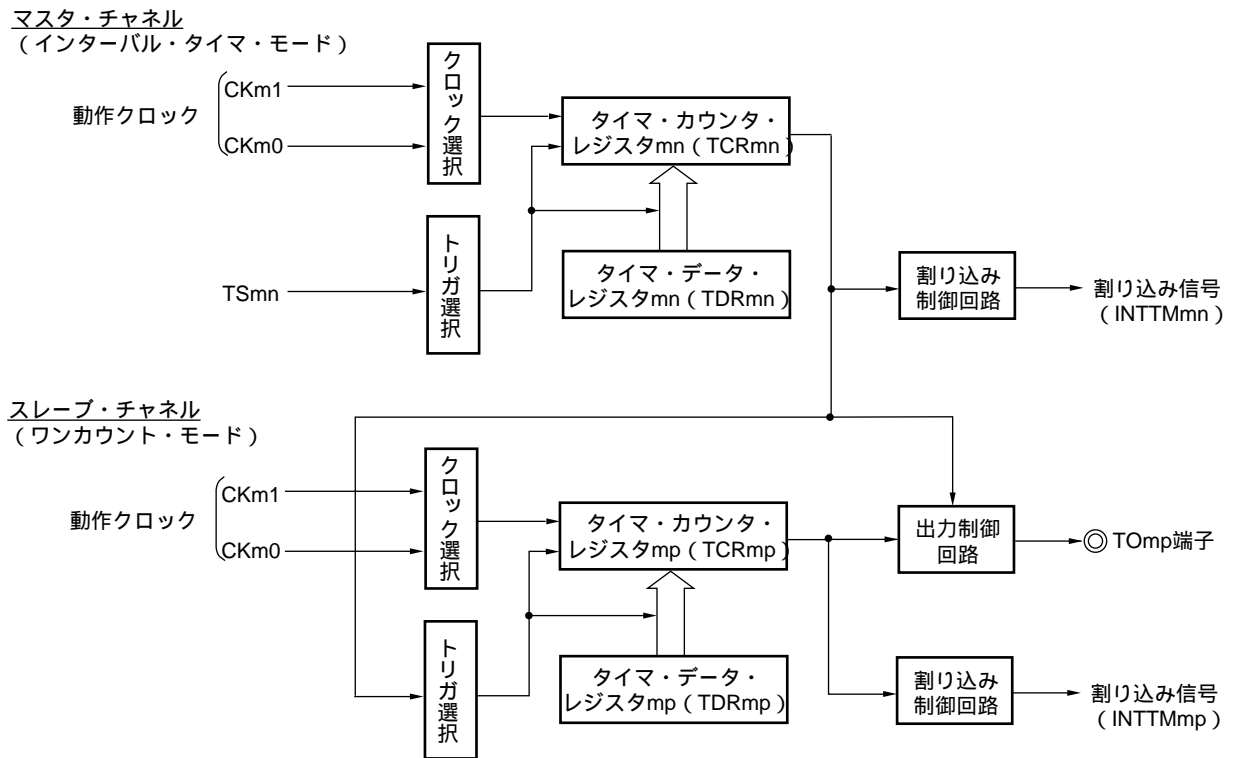
PWM出力 (TOmp) は、マスタ・チャンネルのINTTMmn発生から1クロック後にアクティブ・レベルとなり、スレーブ・チャンネルのTCRmpレジスタが0000Hになったタイミングでインアクティブ・レベルになります。

注意 マスタ・チャンネルのタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) とスレーブ・チャンネルのTDRmpレジスタを両方とも書き換える場合、2回のライト・アクセスが必要となります。TCRmn, TCRmpレジスタにTDRmn, TDRmpレジスタの値がロードされるのは、マスタ・チャンネルのINTTMmn発生時となります。そのため、書き換えがマスタ・チャンネルのINTTMmn発生前と発生後に分かれて行われると、TOmp端子は期待通りの波形を出力できません。したがって、マスタのTDRmnレジスタとスレーブのTDRmpレジスタを双方とも書き換える場合は、必ずマスタ・チャンネルのINTTMmn発生直後に両方のレジスタを書き換えてください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

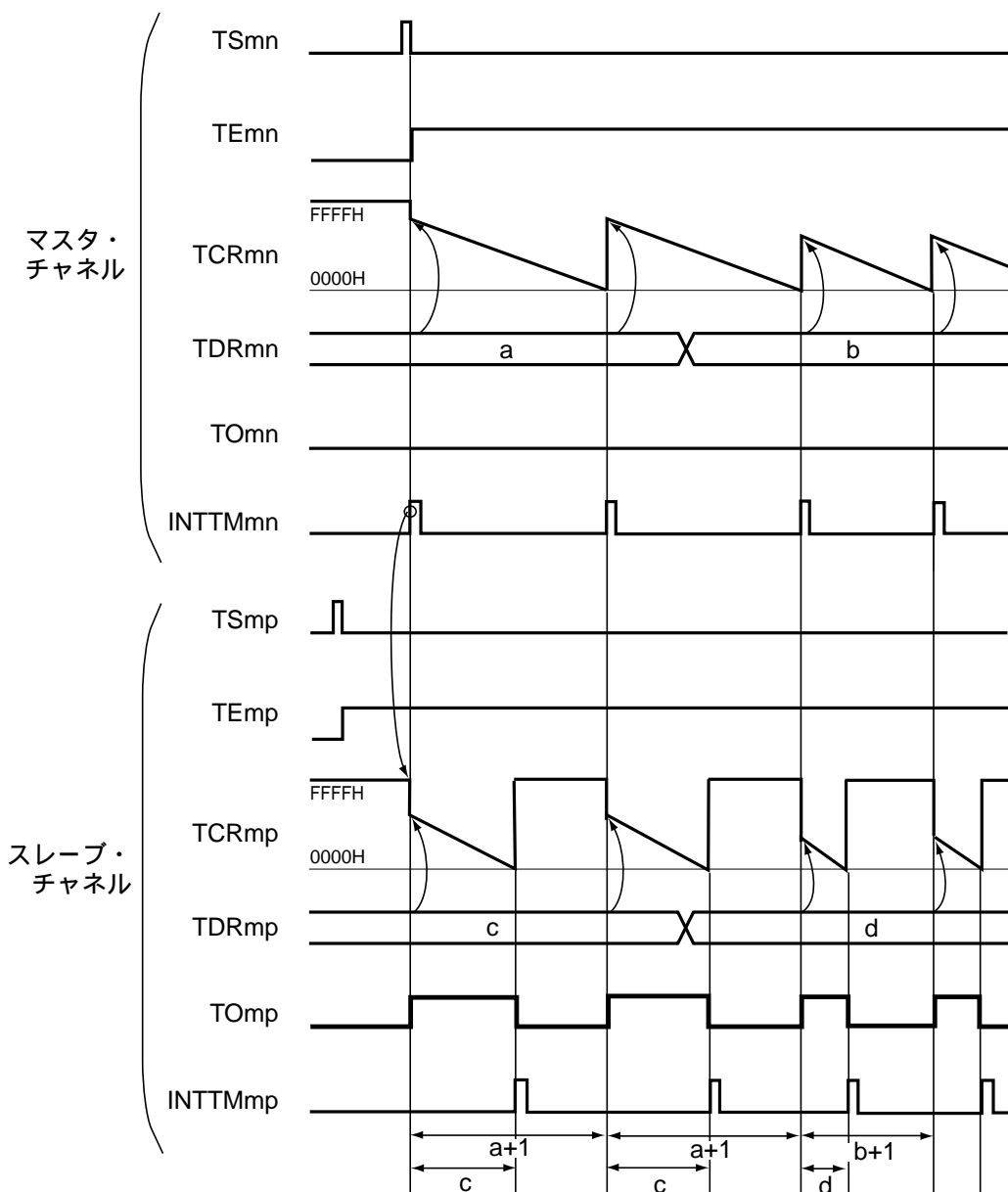
p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)

図6-74 PWM機能としての動作のブロック図



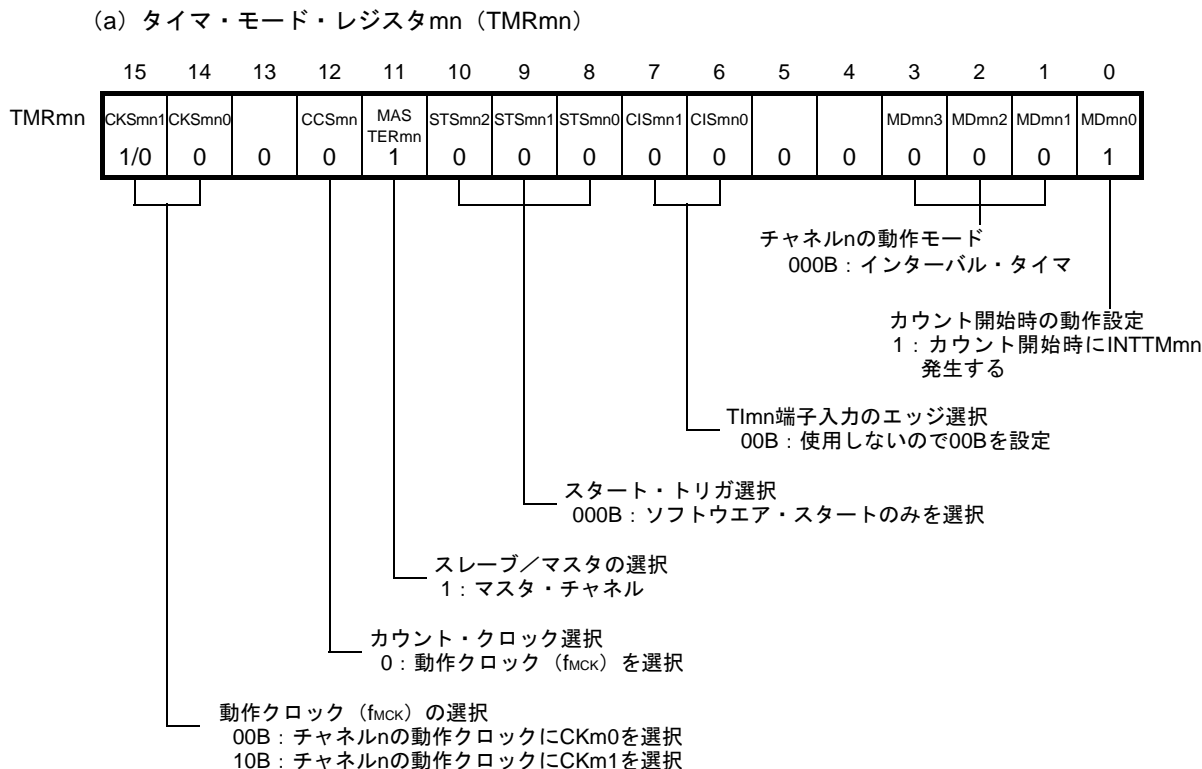
備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)
 p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)

図6-75 PWM機能としての動作の基本タイミング例



- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)
 p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)
2. TSmn, TSmp : タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のビットn, p
 TEmn, TEmp : タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタm (TEm) のビットn, p
 TCRmn, TCRmp : タイマ・カウンタ・レジスタmn, mp (TCRmn, TCRmp)
 TDRmn, TDRmp : タイマ・データ・レジスタmn, mp (TDRmn, TDRmp)
 TOMn, TOmp : TOMn, TOmp端子出力信号

図6-76 PWM機能時（マスタ・チャンネル）のレジスタ設定内容例



(b) タイマ出力レジスタm (TOM)

ビットn
TOMn
0 : TOMnより0を出力する

(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)

ビットn
TOEmn
0 : カウント動作によるTOMn出力動作停止

(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)

ビットn
TOLmn
0 : TOMmn = 0 (マスタ・チャンネル出力モード) では0を設定

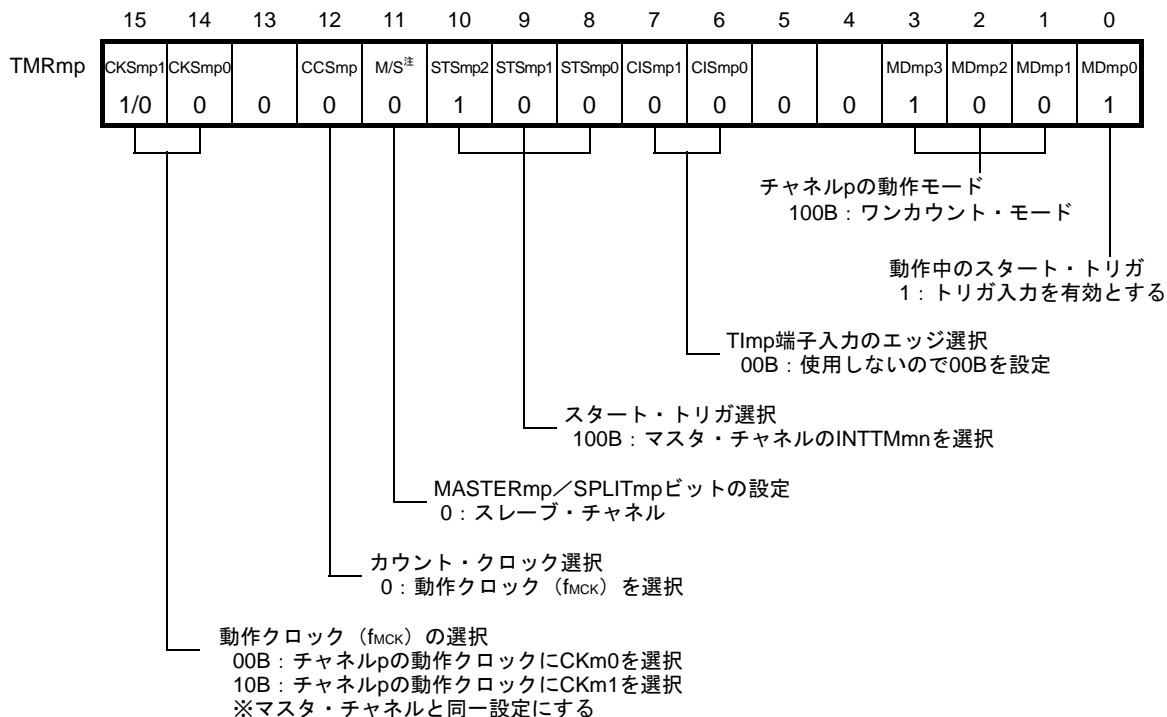
(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)

ビットn
TOMmn
0 : マスタ・チャンネル出力モードを設定

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

図6-77 PWM機能時（スレーブ・チャンネル）のレジスタ設定内容例

(a) タイマ・モード・レジスタmp (TMRmp)



(b) タイマ出力レジスタm (TOm)

	ビットp		
TOm	TOmp		0 : TOmpより0を出力
	1/0		1 : TOmpより1を出力

(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)

	ビットp		
TOEm	TOEmp		0 : カウント動作によるTOmp出力動作停止
	1/0		1 : カウント動作によるTOmp出力動作許可

(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)

	ビットp		
TOLm	TOLmp		0 : 正論理出力 (アクティブ・ハイ)
	1/0		1 : 負論理出力 (アクティブ・ロウ)

(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)

	ビットp		
TOMm	TOMmp		1 : スレーブ・チャンネル出力モードを設定
	1		

注 TMRm5, TMRm7の場合 : 0固定

TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmpビット

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)

図6-78 PWM機能時の操作手順 (1/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可)
	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0とCKm1のクロック周波数を確定する	パワーオン状態, 各チャンネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
チャ ネル 初期 設定	使用する2チャンネルのタイマ・モード・レジスタmn, mp (TMRmn, TMRmp) を設定する (チャンネルの動作モード確定) マスタ・チャンネルのタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) にインターバル (周期) 値, スレーブ・チャンネルのTDRmpレジスタにデューティ値を設定する	チャンネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する)
	スレーブ・チャンネルの設定 タイマ出力モード・レジスタm (TOMm) のTOMmpビットに1 (スレーブ・チャンネル出力モード) を設定する TOLmpビットを設定する TOmpビットを設定し, TOmp出力の初期レベルを確定する TOEmpビットに1を設定し, TOmpの動作を許可 ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する	TOmp端子はHi-Z出力状態 ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は, TOmp初期設定レベルが出力される。 チャンネルは動作停止状態なので, TOmpは変化しない TOmp端子はTOmp設定レベルを出力

(備考は次ページにあります。)

図6-78 PWM機能時の操作手順 (2/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態	
動作再開	動作開始	TOEmp (スレーブ) ビットに1を設定する (動作再開時のみ) タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSmn) のTSmn (マスタ), TSmp (スレーブ) ビットに同時に1を設定する TSmn, TSmpビットはトリガ・ビットなので、自動的に0に戻る	TEmn = 1, TEmn = 1となる マスタ・チャンネルがカウント動作開始し、INTTMmnを発生する。それをトリガとしてスレーブ・チャンネルもカウント動作開始する。
	動作中	TMRmn, TMRmpレジスタ, TOMmn, TOMmp, TOLmn, TOLmpビットは、設定値変更禁止 TDRmn, TDRmpレジスタは、マスタ・チャンネルのINTTMmn発生後に設定値変更可能 TCRmn, TCRmpレジスタは、常に読み出し可能 TSRmn, TSRmpレジスタは、使用しない	マスタ・チャンネルでは、タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はTDRmnレジスタの値をロードし、ダウン・カウント動作を行う。TCRmn = 0000HまでカウントしたらINTTMmnを発生する。同時に、TCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし、再びダウン・カウントを開始する。 スレーブ・チャンネルでは、マスタ・チャンネルのINTTMmnをトリガとして、TCRmpレジスタはTDRmpレジスタの値をロードし、カウンタはダウン・カウント動作を行う。マスタ・チャンネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOmp出力レベルをアクティブ・レベルとする。そしてTCRmp = 0000HまでカウントしたらTOmp出力レベルをインアクティブ・レベルにして、カウント動作を停止する。 以降、この動作を繰り返す。
	動作停止	TTmn (マスタ), TTmp (スレーブ) ビットに同時に1を設定する TTmn, TTmpビットはトリガ・ビットなので、自動的に0に戻る スレーブ・チャンネルのTOEmpビットに0を設定し、TOmpビットに値を設定する	TEmn, TEmn = 0になり、カウント動作停止 TCRmn, TCRmpレジスタはカウント値を保持して停止 TOmp出力は初期化されず、状態保持 TOmp端子はTOmp設定レベルを出力
	TAU停止	TOmp端子の出力レベルを保持する場合 ポート・レジスタに保持したい値を設定後、TOmpビットに0を設定する TOmp端子の出力レベルを保持不要の場合 設定不要 PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する	TOmp端子出力レベルはポート機能により保持される。 パワーオフ状態 全回路が初期化され、各チャンネルのSFRも初期化される (TOmpビットが0になり、TOmp端子はポート機能となる)

備考 m : ユニット番号 (m = 0), n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4, 6)

p : スレーブ・チャンネル番号 (n < p ≤ 7)

6.9.3 多重PWM出力機能としての動作

PWM機能を拡張しスレーブ・チャンネルを複数使用することで、デューティの異なる多数のPWM出力を行う機能です。

たとえばスレーブ・チャンネルを2個使う場合は、出力パルスの周期、デューティは次の式で求めることができます。

$$\begin{aligned} \text{パルス周期} &= \{\text{TDRmn (マスタ) の設定値} + 1\} \times \text{カウント・クロック周期} \\ \text{デューティ1 [\%]} &= \{\text{TDRmp (スレーブ1) の設定値}\} / \{\text{TDRmn (マスタ) の設定値} + 1\} \times 100 \\ \text{デューティ2 [\%]} &= \{\text{TDRmq (スレーブ2) の設定値}\} / \{\text{TDRmn (マスタ) の設定値} + 1\} \times 100 \end{aligned}$$

備考 TDRmp (スレーブ1) の設定値 > {TDRmn (マスタ) の設定値 + 1} の場合
または TDRmq (スレーブ2) の設定値 > {TDRmn (マスタ) の設定値 + 1} の場合は、
デューティ値が100 %を越えますが、集約して100 %出力となります。

マスタ・チャンネルのタイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) は、インターバル・タイマ・モードで動作して、周期をカウントします。

スレーブ・チャンネル1のTCRmpレジスタは、ワンカウント・モードで動作して、デューティをカウントし、TOMP端子よりPWM波形を出力します。TCRmpレジスタは、マスタ・チャンネルのINTTMmnをスタート・トリガとして、タイマ・データ・レジスタmp (TDRmp) の値をロードし、ダウン・カウントを行います。TCRmp = 0000Hとなったら、INTTMmpを出力し、次のスタート・トリガ (マスタ・チャンネルのINTTMmn) が入力されるまでカウントを停止します。TOMPの出力レベルは、マスタ・チャンネルのINTTMmn発生から1カウント・クロック経過後にアクティブ・レベルとなり、TCRmp = 0000Hとなったらインアクティブ・レベルとなります。

スレーブ・チャンネル2のTCRmqレジスタも、スレーブ・チャンネル1のTCRmpレジスタと同様に、ワンカウント・モードで動作して、デューティをカウントし、TOMq端子よりPWM波形を出力します。TCRmqレジスタは、マスタ・チャンネルのINTTMmnをスタート・トリガとして、TDRmqレジスタの値をロードし、ダウン・カウントを行います。TCRmq = 0000Hとなったら、INTTMmqを出力し、次のスタート・トリガ (マスタ・チャンネルのINTTMmn) が入力されるまでカウントを停止します。TOMqの出力レベルは、マスタ・チャンネルのINTTMmn発生から1カウント・クロック経過後にアクティブ・レベルとなり、TCRmq = 0000Hとなったらインアクティブ・レベルとなります。

このようにして、チャンネル0をマスタ・チャンネルとした場合は、最大7種のPWMを同時に出力できます。

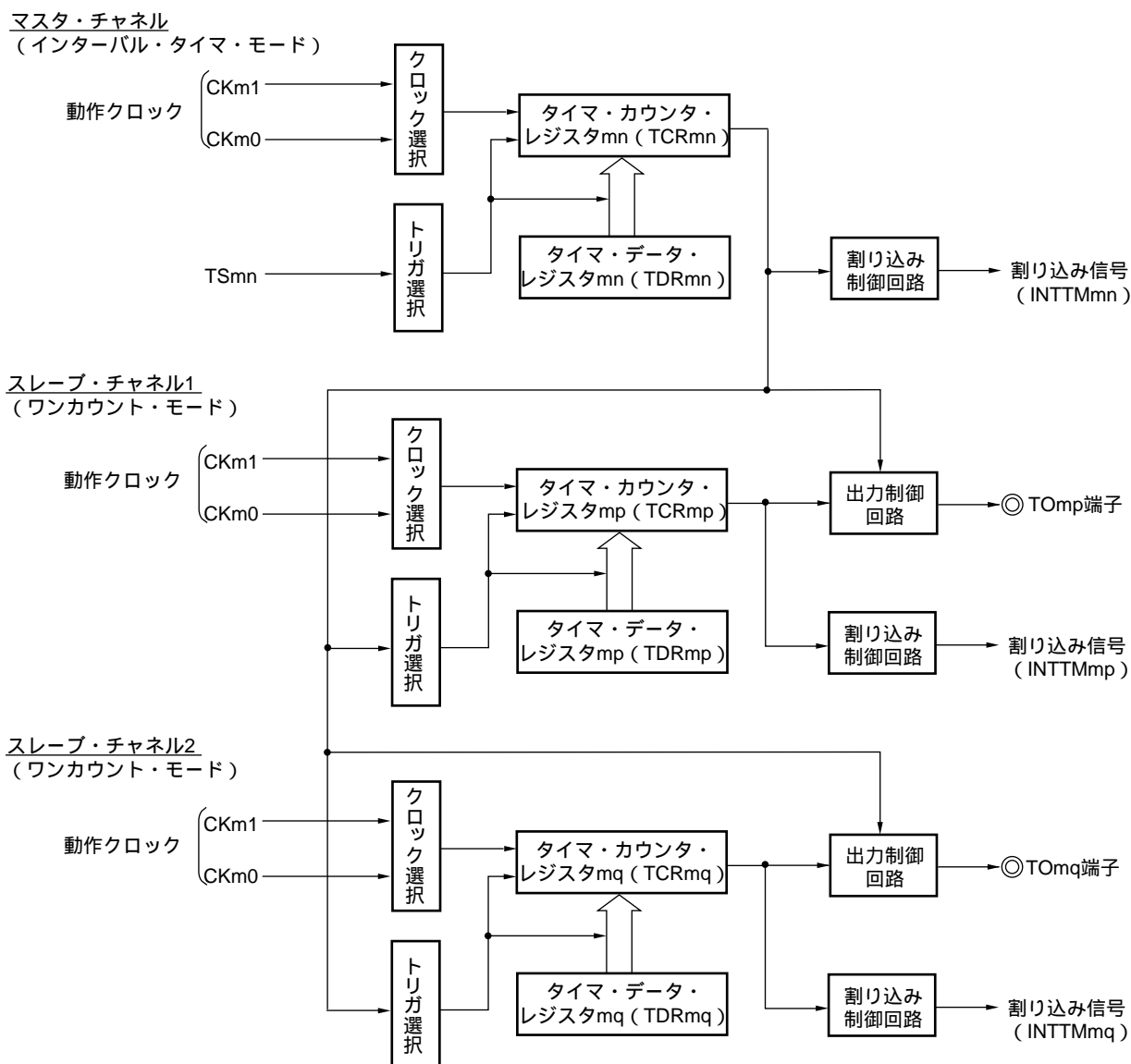
注意 マスタ・チャンネルのタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) とスレーブ・チャンネル1のTDRmpレジスタを両方とも書き換える場合、最低2回のライト・アクセスが必要となります。TCRmn, TCRmpレジスタにTDRmn, TDRmpレジスタの値をロードするのは、マスタ・チャンネルのINTTMmn発生後となるため、書き換えがマスタ・チャンネルのINTTMmn発生前と発生後に分かれて行われると、TOMP端子は、期待通りの波形を出力できません。したがって、TDRmnレジスタとスレーブのTDRmpレジスタを双方とも書き換える場合は、必ずマスタ・チャンネルのINTTMmn発生直後に両方のレジスタを書き換えてください。(スレーブ・チャンネル2のTDRmqレジスタの場合も同様です。)

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4)

p : スレーブ・チャンネル番号, q : スレーブ・チャンネル番号

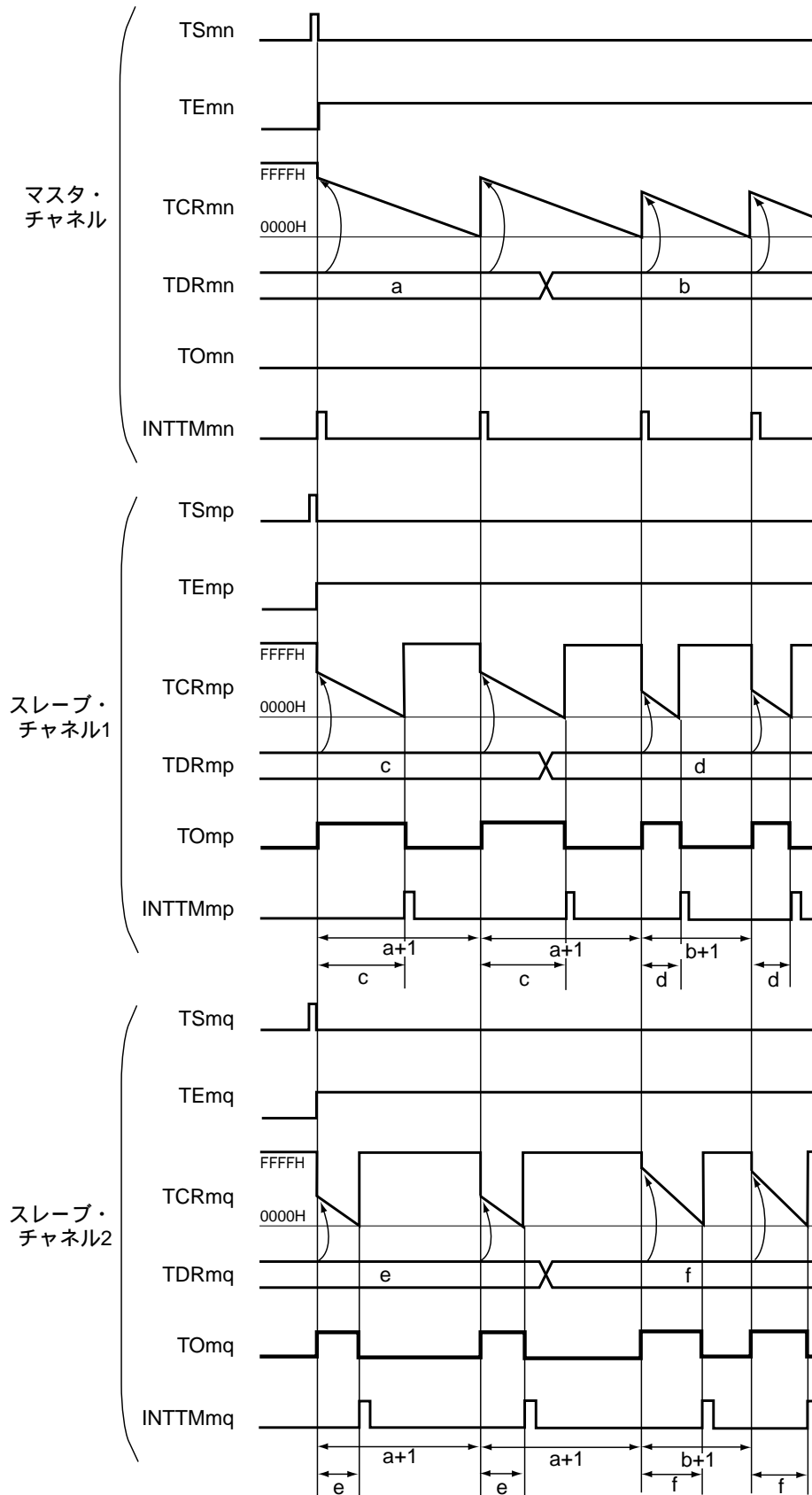
$n < p < q \leq 7$ (ただしp, qは, n以降の整数)

図6-79 多重PWM出力機能としての動作のブロック図 (2種類のPWMを出力する場合)



備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4)
 p : スレーブ・チャンネル番号, q : スレーブ・チャンネル番号
 n < p < q ≤ 7 (ただしp, qは, n以降の連続した整数)

図6-80 多重PWM出力機能としての動作の基本タイミング例（2種類のPWMを出力する場合）（1/2）



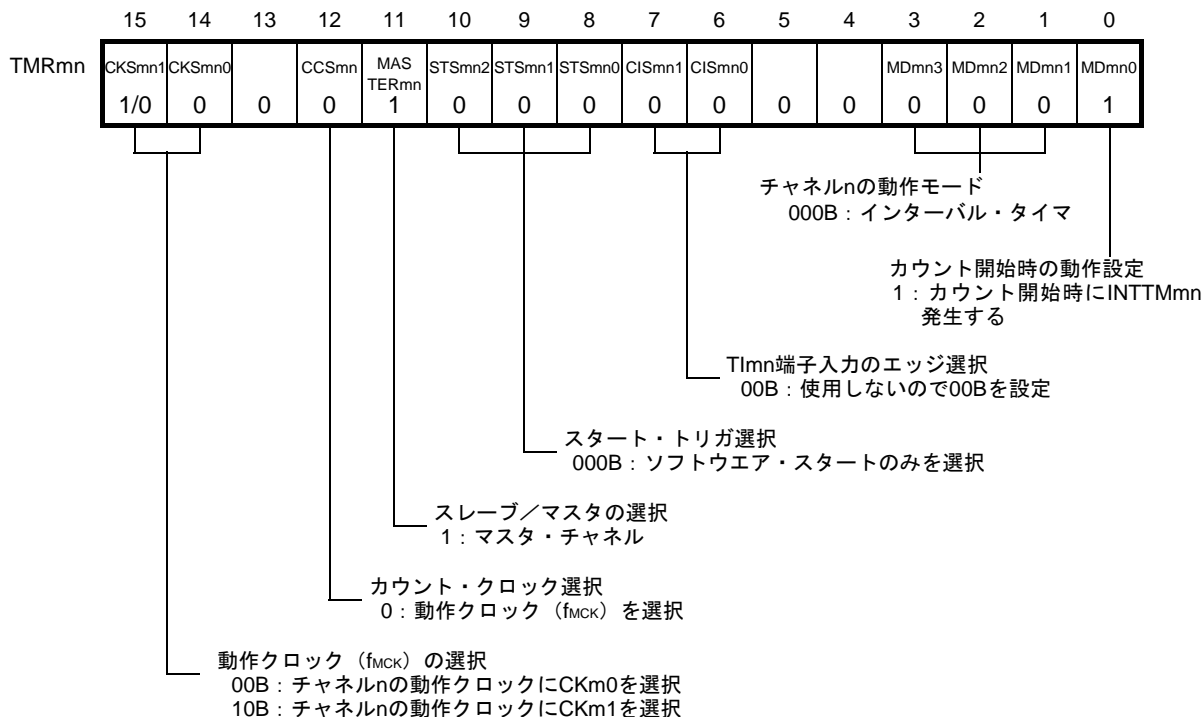
(備考は次ページにあります。)

図6-80 多重PWM出力機能としての動作の基本タイミング例（2種類のPWMを出力する場合）（2/2）

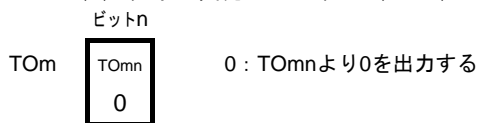
- 備考1. m : ユニット番号 ($m = 0$) , n : マスタ・チャンネル番号 ($n = 0, 2, 4$)
 p : スレーブ・チャンネル番号, q : スレーブ・チャンネル番号
 $n < p < q \leq 7$ (ただし p, q は, n 以降の整数)
2. $TS_{mn}, TS_{mp}, TS_{mq}$: タイマ・チャンネル開始レジスタ m (TS_m) のビット n, p, q
 $TE_{mn}, TE_{mp}, TE_{mq}$: タイマ・チャンネル許可ステータス・レジスタ m (TE_m) のビット n, p, q
 $TCR_{mn}, TCR_{mp}, TCR_{mq}$: タイマ・カウンタ・レジスタ mn, mp, mq ($TCR_{mn}, TCR_{mp}, TCR_{mq}$)
 $TDR_{mn}, TDR_{mp}, TDR_{mq}$: タイマ・データ・レジスタ mn, mp, mq ($TDR_{mn}, TDR_{mp}, TDR_{mq}$)
 $TO_{mn}, TO_{mp}, TO_{mq}$: $TO_{mn}, TO_{mp}, TO_{mq}$ 端子出力信号

図6-81 多重PWM出力機能時（マスタ・チャンネル）のレジスタ設定内容例

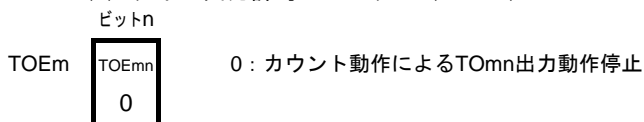
(a) タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn)



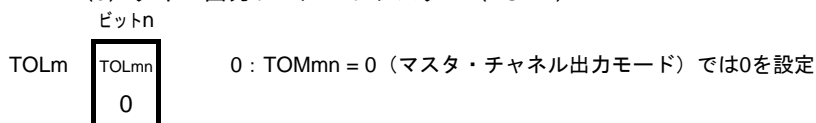
(b) タイマ出力レジスタm (TOm)



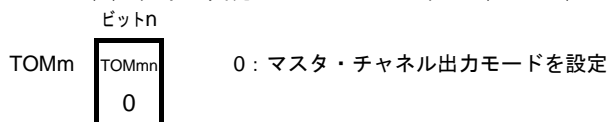
(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)



(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)

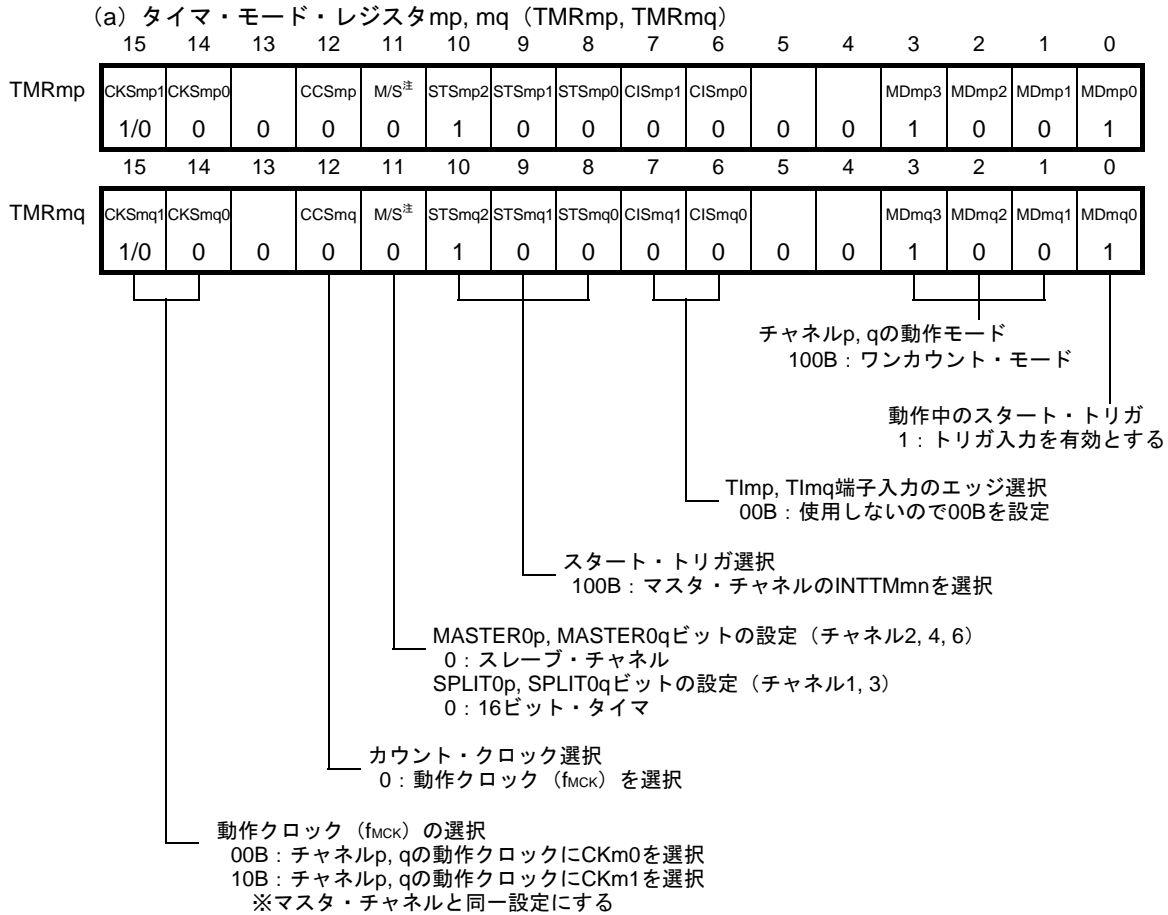


(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)



備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4)

図6-82 多重PWM出力機能時（スレーブ・チャンネル）のレジスタ設定内容例（2種類のPWMを出力する場合）



(b) タイマ出力レジスタm (TOm)

	ビットq	ビットp	
TOm	TOmq	TOmp	0 : TOmp, TOmqより0を出力する 1 : TOmp, TOmqより1を出力する
	1/0	1/0	

(c) タイマ出力許可レジスタm (TOEm)

	ビットq	ビットp	
TOEm	TOEmq	TOEmp	0 : カウント動作によるTOmp, TOmq出力動作停止 1 : カウント動作によるTOmp, TOmq出力動作許可
	1/0	1/0	

(d) タイマ出力レベル・レジスタm (TOLm)

	ビットq	ビットp	
TOLm	TOLmq	TOLmp	0 : 正論理出力 (アクティブ・ハイ) 1 : 負論理出力 (アクティブ・ロウ)
	1/0	1/0	

(e) タイマ出力モード・レジスタm (TOMm)

	ビットq	ビットp	
TOMm	TOMmq	TOMmp	1 : スレーブ・チャンネル出力モードを設定
	1	1	

注 TMRm2, TMRm4, TMRm6の場合 : MASTERmp, MASTERmqビット

TMRm1, TMRm3の場合 : SPLITmp, SPLITmqビット

TMRm5, TMRm7の場合 : 0固定

備考 m : ユニット番号 (m = 0), n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4)

p : スレーブ・チャンネル番号, q : スレーブ・チャンネル番号

n < p < q ≤ 7 (ただしp, qは, n以降の整数)

図6-83 多重PWM出力機能時の操作手順（2種類のPWMを出力する場合）（1/2）

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
TAU 初期 設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する	<p>パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可)</p> <p>→ パワーオン状態, 各チャンネルは動作停止状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)</p>
	タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) を設定する CKm0とCKm1のクロック周波数を確定する	
チャ ネル 初期 設定	使用する各チャンネルのタイマ・モード・レジスタmn, mp, mq (TMRmn, TMRmp, TMRmq) を設定する (チャンネルの動作モード確定) マスタ・チャンネルのタイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) にインターバル (周期) 値, スレーブ・チャンネルのTDRmp, TDRmqレジスタにデューティ値を設定する	チャンネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する)
	スレーブ・チャンネルの設定 タイマ出力モード・レジスタm (TOMm) のTOMmp, TOMmqビットに1 (スレーブ・チャンネル出力モード) を設定する TOLmp, TOLmqビットを設定する TOmp, TOmqビットを設定し, TOmp, TOmq出力の初期レベルを確定する TOEmp, TOEmqビットに1を設定し, TOmp, TOmqの動作を許可 ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する	<p>TOmp, TOmq端子はHi-Z出力状態</p> <p>→ ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は, TOmp, TOmq初期設定レベルが出力される。 → チャンネルは動作停止状態なので, TOmp, TOmqは変化しない → TOmp, TOmq端子はTOmp, TOmq設定レベルを出力</p>
動作 開始	(動作再開時のみTOEmp, TOEmq (スレーブ) ビットに1を設定する) タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSM) のTSMn (マスタ), TSMp, TSMq (スレーブ) ビットに同時に1を設定する TSMn, TSMp, TSMqビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る	<p>→ TEMn = 1, TEmP, TEmq = 1となる マスタ・チャンネルがカウント動作開始し, INTTMmnを発生する。それをトリガとしてスレーブ・チャンネルもカウント動作開始する。</p>

(注, 備考は次ページにあります。)

動作再開 (次ページへ)

図6-83 多重PWM出力機能時の操作手順（2種類のPWMを出力する場合）（2/2）

動作再開（前ページへ）

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
動作中	<p>TMRmn, TMRmp, TMRmqレジスタ, TOMmn, TOMmp, TOMmq, TOLmn, TOLmp, TOLmqビットは、設定値変更禁止</p> <p>TDRmn, TDRmp, TDRmqレジスタは、マスタ・チャンネルのINTTMmn発生後に設定値変更可能</p> <p>TCRmn, TCRmp, TCRmqレジスタは、常に読み出し可能</p> <p>TSRmn, TSRmp, TSRmqレジスタは、使用しない</p>	<p>マスタ・チャンネルでは、タイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) はTDRmnレジスタの値をロードし、ダウン・カウンタ動作を行う。TCRmn = 0000HまでカウントしたらINTTMmnを発生する。同時に、TCRmnレジスタはTDRmnレジスタの値をロードし、再びダウン・カウンタを開始する。</p> <p>スレーブ・チャンネル1では、マスタ・チャンネルのINTTMmn信号をトリガとして、TDRmpレジスタ値をTCRmpレジスタに転送し、カウンタはダウン・カウンタを開始する。マスタ・チャンネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOMP出力レベルをアクティブ・レベルとする。そして0000HまでカウントしたらTOMP出力レベルをインアクティブ・レベルにして、カウンタ動作を停止する。</p> <p>スレーブ・チャンネル2では、マスタ・チャンネルのINTTMmn信号をトリガとして、TDRmqレジスタ値をTCRmqレジスタに転送し、カウンタはダウン・カウンタを開始する。マスタ・チャンネルのINTTMmn出力から1カウント・クロック経過後にTOMq出力レベルをアクティブ・レベルとする。そして0000HまでカウントしたらTOMq出力レベルをインアクティブ・レベルにして、カウンタ動作を停止する。以降、この動作を繰り返す。</p>
動作停止	<p>TTmn (マスタ), TTmp, TTmq (スレーブ) ビットに同時に1を設定する</p> <p>TTmn, TTmp, TTmqビットはトリガ・ビットなので、自動的に0に戻る</p>	<p>TEmn, TEmq = 0になり、カウンタ動作停止</p> <p>TCRmn, TCRmp, TCRmqレジスタはカウンタ値を保持して停止</p> <p>TOMP, TOMq出力は初期化されず、状態保持</p>
	<p>スレーブ・チャンネルのTOEmp, TOEmqビットに0を設定し、TOMP, TOMqビットに値を設定する</p>	<p>TOMP, TOMq端子はTOMP, TOMq設定レベルを出力</p>
TAU停止	<p>TOMP, TOMq端子の出力レベルを保持する場合</p> <p>ポート・レジスタに保持したい値を設定後、TOMP, TOMqビットに0を設定する</p> <p>TOMP, TOMq端子の出力レベルを保持不要の場合</p> <p>設定不要</p>	<p>TOMP, TOMq端子出力レベルはポート機能により保持される。</p>
	<p>PER0レジスタのTAU0ENビットに0を設定する</p>	<p>パワーオフ状態</p> <p>全回路が初期化され、各チャンネルのSFRも初期化される (TOMP, TOMqビットが0になり、TOMP, TOMq端子はポート機能となる)</p>

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャンネル番号 (n = 0, 2, 4)

p : スレーブ・チャンネル番号, q : スレーブ・チャンネル番号

n < p < q ≤ 7 (ただしp, qは, n以降の整数)

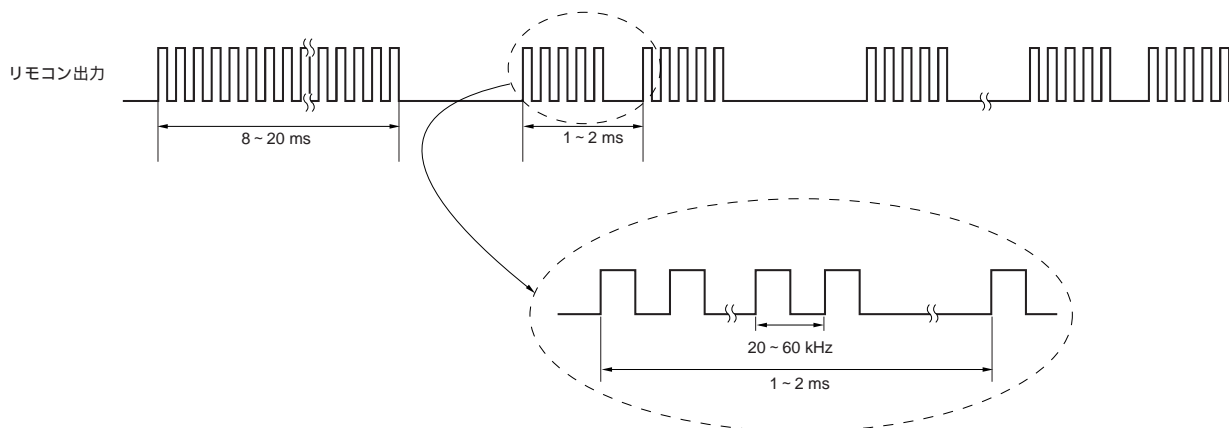
6.9.4 リモコン出力機能

リモコン出力機能は、PWM出力機能を応用した機能です。

チャンネル2, 3, チャンネル6, 7のセットでPWM出力機能を使用します（各チャンネルの設定方法は、6.9.2 PWM機能としての動作を参照）。チャンネル3からのPWM出力信号をマスク波形、チャンネル7からのPWM出力信号をキャリア波形とし、これらの信号の論理積をリモコン出力として出力します。

リモコン出力のハイ・レベル幅出力部分は、20~60 kHz程度のキャリア信号で構成されています。

図6-84 リモコン出力



リモコン出力設定手順を図6-85に示します。

図6-85 リモコン出力機能設定手順 (1/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
端子モード設定	PFSEG2レジスタのPFSEG17ビット, PM3レジスタのPM32ビット, PU3レジスタのPU32ビット, P3レジスタのP32ビットに0設定	リモコン出力無効 P32/TO03端子はロウ・レベル出力
TAU初期設定	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに1を設定する タイマ・クロック選択レジスタ0 (TPS0) を設定する CK00, CK01のクロック周波数を確定する	パワーオフ状態 (クロック供給停止, 各レジスタへの書き込み不可) パワーオン状態 (クロック供給開始, 各レジスタへの書き込み可能)
リモコン出力設定	タイマ・アレイ・ユニット出力選択レジスタ (TOS) のTOS0ビットに1を設定	リモコン出力有効 P32/TO03端子はTO03 (Low) とTO07 (Low) の論理積結果 (Low) を出力 P32/TO03端子はリモコン出力としてのみ使用可能 P53/TO07端子はタイマ出力以外の兼用機能を使用可能
チャネル初期設定	タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) を0801H, タイマ・モード・レジスタmp (TMRmp) を0409HIに設定する (チャネルの動作モード確定) マスタ・チャネルの設定 タイマ出力モード・レジスタm (TOMm) のTOMmnビットに0 (マスタ・チャネル出力モード) を設定する TOLmnビットを設定する TOMnビットを設定し, TOMn出力の初期レベルを確定する TOEmnビットに0を設定し, TOMnの動作を禁止 ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する	チャネルは動作停止状態 (クロック供給されており, 多少の電力を消費する) TOMn端子はHi-Z出力状態 ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は, TOMn初期設定レベルが出力される チャネルは動作停止状態なので, TOMnは変化しない TOMn端子はTOMn設定レベルを出力
	スレーブ・チャネルの設定 タイマ出力モード・レジスタm (TOMm) のTOMmpビットに1 (スレーブ・チャネル出力モード) を設定する TOLmpビットを設定する TOMPビットを設定し, TOMP出力の初期レベルを確定する TOEmpビットに1を設定し, TOMPの動作を許可 ポート・レジスタとポート・モード・レジスタに0を設定する	TOMP端子はHi-Z出力状態 ポート・モード・レジスタが出力モードでポート・レジスタが0の場合は, TOMP初期設定レベルが出力される チャネルは動作停止状態なので, TOMPは変化しない TOMP端子はTOMP設定レベルを出力

備考 m : ユニット番号 (m = 0) , n : マスタ・チャネル番号 (n = 2, 6)

p : スレーブ・チャネル番号 (p = 3, 7) (マスク波形の設定の場合 : n = 2, p = 3, キャリア波形の設定の場合 : n = 6, p = 7)

図6-85 リモコン出力機能設定手順 (2/2)

	ソフトウェア操作	ハードウェアの状態
動作開始	マスク波形（開始コード）の周期とハイ・レベル幅の設定 TDR02 = マスク波形の周期-1 TDR03 = マスク波形のハイ・レベル幅 キャリア波形の周期とハイ・レベル幅の設定 TDR06 = キャリア波形の周期-1 TDR07 = キャリア波形のハイ・レベル幅 タイマ・チャンネル開始レジスタm (TSm) のTSmn (マスタ), TSmp (スレーブ) ビットに同時に1を設定する TSmレジスタはトリガ・ビットなので自動的に0に戻る	TEmn = 1, TEmp = 1となる マスタ・チャンネルがカウント動作開始し, INTTM02を発生する。それをトリガとしてスレーブ・チャンネルもカウント動作開始する
動作中	TMRmn, TMRmpレジスタ, TOMmn, TOMmp, TOLmn, TOLmpビットは, 設定値変更禁止 TCRmn, TCRmpレジスタは, 常に読み出し可能 INTTM02の割り込み待ち ↓ 最終コード・ビットか? ・最終コード・ビットでない場合, 次のマスク波形の周期とハイ・レベル幅を設定する TDR02 = マスク波形の周期-1 TDR03 = マスク波形のハイ・レベル幅 注意 TCR02>0000Hの間に設定を完了してください。 ・最終マスク波形の場合は停止へ	周期とハイ・レベル幅の設定に従い, TO03はマスク波形を, TO07はキャリア波形を出力 P32/TO03端子は, TO03とTO07の論理積結果 (TCR03>0000Hの期間はリモコン出力 (キャリア波形), TCR03 = FFFFHかつTCR02>0000Hの期間はリモコン出力 (ロウ・レベル)) を出力 TCR02 = 0000HのタイミングでINTTM02割り込みを発生
動作停止	マスク波形をデューティ0%に設定 TDR03 = 0000H TDR02は設定不要 注意 TCR02>0000Hの間に設定を完了してください。 INTTM02の割り込み待ち ↓ TTmn (マスタ), TTmp (スレーブ) ビットに同時に1を設定する TTmn, TTmpビットはトリガ・ビットなので, 自動的に0に戻る ----- TOEmn, TOEmpビットに0を設定し, TOmn, TOmpビットに0を設定する ^注	P32/TO03端子は, TO03とTO07の論理積結果 (TCR03>0000Hの期間はリモコン出力 (キャリア波形), そのあとはリモコン出力 (ロウ・レベル)) を出力 TCR02 = 0000HのタイミングでINTTM02割り込みを発生 TEmn, TEmp = 0になり, カウント動作停止 ----- TOmp端子がロウ・レベルにクリアされる
送信再開	送信再開する場合は, タイマ出カインーブル・レジスタm (TOEm) のTOEmpビットに1を設定する (TOEmnビットは0を保持する)	

注 他のTAUチャンネルも含めて未使用の場合, 周辺インーブル・レジスタ0 (PER0) のTAU0ENビットに0を設定し, クロック供給を停止する事が可能です。その場合, 送信再開はパワーオンから再設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0), n : マスタ・チャンネル番号 (n = 2, 6)

p : スレーブ・チャンネル番号 (p = 3, 7) (マスク波形の設定の場合 : n = 2, p = 3, キャリア波形の設定の場合 : n = 6, p = 7)

第7章 リアルタイム・クロック

7.1 リアルタイム・クロックの機能

リアルタイム・クロックには、次のような機能があります。

- ・年、月、曜日、日、時、分、秒のカウンタを持ち、最長99年までカウント可能
- ・定周期割り込み機能（周期：0.5秒、1秒、1分、1時間、1日、1月）
- ・アラーム割り込み機能（アラーム：曜日・時・分）
- ・1 Hzの端子出力機能（44ピン、48ピン、52ピン、64ピン製品のみ）

リアルタイム・クロック割り込み信号（INTRTC）を、STOPモードからのウェイク・アップやA/DコンバータのSNOOZEモードのトリガに使用します

注意 リアルタイム・クロックの動作クロックにサブシステム・クロック（ $f_{SUB} = 32.768 \text{ kHz}$ ）を選択時のみ、年、月、曜日、日、時、分、秒のカウントができます。低速オンチップ・オシレータ・クロック（ $f_{IL} = 15 \text{ kHz}$ ）を選択時は、定周期割り込み機能のみ使用できます。32ピン製品は、サブシステム・クロックを搭載していないため、定周期割り込み機能のみ使用できます。ただし、 f_{IL} 選択時の定周期割り込み間隔は、定周期（RTCC0レジスタで選択した値） $\times f_{SUB}/f_{IL}$ で算出される値になります。

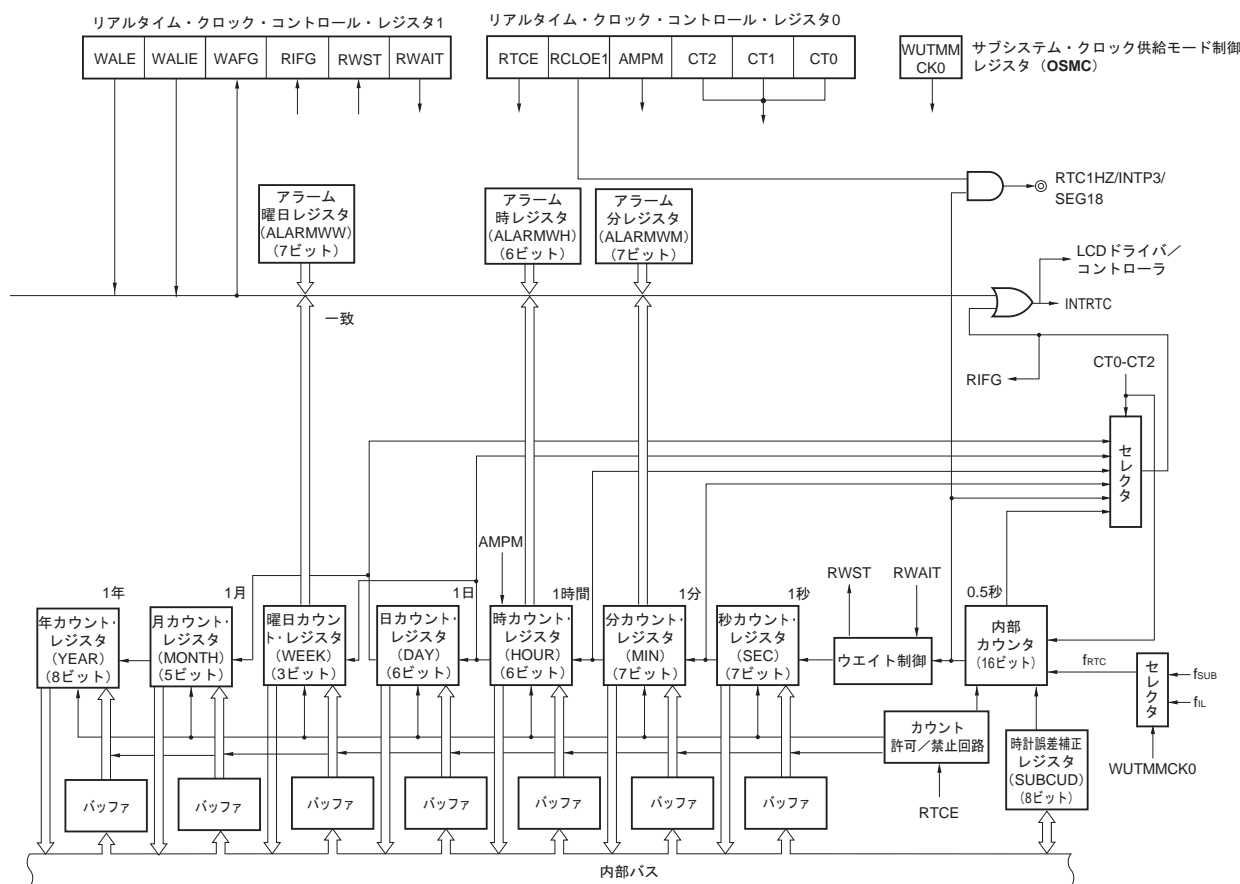
7.2 リアルタイム・クロックの構成

リアルタイム・クロックは、次のハードウェアで構成されています。

表7-1 リアルタイム・クロックの構成

項目	構成
カウンタ	カウンタ（16ビット）
制御レジスタ	周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）
	サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ（OSMC）
	リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0（RTCC0）
	リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1（RTCC1）
	秒カウント・レジスタ（SEC）
	分カウント・レジスタ（MIN）
	時カウント・レジスタ（HOUR）
	日カウント・レジスタ（DAY）
	曜日カウント・レジスタ（WEEK）
	月カウント・レジスタ（MONTH）
	年カウント・レジスタ（YEAR）
	時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）
	アラーム分レジスタ（ALARMWM）
	アラーム時レジスタ（ALARMWH）
アラーム曜日レジスタ（ALARMWW）	

図7-1 リアルタイム・クロックのブロック図



注意 リアルタイム・クロックの動作クロックにサブシステム・クロック ($f_{SUB} = 32.768 \text{ kHz}$) を選択時のみ、年、月、曜日、日、時、分、秒のカウントができます。低速オンチップ・オシレータ・クロック ($f_{IL} = 15 \text{ kHz}$) を選択時は、定周期割り込み機能のみ使用できます。32ピン製品は、サブシステム・クロックを搭載していないため、定周期割り込み機能のみ使用できます。

ただし、 f_{IL} 選択時の定周期割り込み間隔は、定周期 (RTCC0レジスタで選択した値) $\times f_{SUB}/f_{IL}$ で算出される値になります。

7.3 リアルタイム・クロックを制御するレジスタ

リアルタイム・クロックは、次のレジスタで制御します。

- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)
- ・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0)
- ・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1)
- ・秒カウント・レジスタ (SEC)
- ・分カウント・レジスタ (MIN)
- ・時カウント・レジスタ (HOUR)
- ・日カウント・レジスタ (DAY)
- ・曜日カウント・レジスタ (WEEK)
- ・月カウント・レジスタ (MONTH)
- ・年カウント・レジスタ (YEAR)
- ・時計誤差補正レジスタ (SUBCUD)
- ・アラーム分レジスタ (ALARMWM)
- ・アラーム時レジスタ (ALARMWH)
- ・アラーム曜日レジスタ (ALARMWW)
- ・ポート・モード・レジスタ3 (PM3)
- ・ポート・レジスタ3 (P3)

7.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

リアルタイム・クロックを使用するときは、必ずビット7 (RTCEN) を1に設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00HIになります。

図7-2 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

RTCEN	リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマ	LCDコントローラ/ドライバ, クロック出力/ブザー出力	
		サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択時	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 非選択時
0	入力クロック供給停止 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用 するSFRへのライト不可 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマはリセット状態	入力クロック, サブシステム・クロック供給停止 ・LCDコントローラ/ドライバ クロック出力/ブザー出力で使用するSFRへのリード/ライト可	入力クロック, メイン・システム・クロック供給 ・LCDコントローラ/ドライバ クロック出力/ブザー出力で使用するSFRへのリード/ライト可
1	入力クロック供給 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのリード/ライト可	入力クロック, サブシステム・クロック供給 ・LCDコントローラ/ドライバ クロック出力/ブザー出力で使用するSFRへのリード/ライト可	

注意1. リアルタイム・クロックを使用する際には、カウント・クロック (f_{RTC}) が発振安定した状態で、必ず最初にRTCEN = 1に設定してから下記のレジスタの設定を行ってください。RTCEN = 0の場合は、リアルタイム・クロックの制御レジスタへの書き込みは無視され、読み出し値は初期値となります (サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC), ポート・モード・レジスタ3 (PM3), ポート・レジスタ3 (P3) は除く)。

- ・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0)
- ・リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1)
- ・秒カウント・レジスタ (SEC)
- ・分カウント・レジスタ (MIN)
- ・時カウント・レジスタ (HOUR)
- ・日カウント・レジスタ (DAY)
- ・曜日カウント・レジスタ (WEEK)
- ・月カウント・レジスタ (MONTH)
- ・年カウント・レジスタ (YEAR)
- ・時計誤差補正レジスタ (SUBCUD)

- ・ アラーム分レジスタ (ALARMWWM)
 - ・ アラーム時レジスタ (ALARMWH)
 - ・ アラーム曜日レジスタ (ALARMWW)
2. サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のRTCLPC = 1に設定することにより、サブシステム・クロック時HALTモードで、リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDコントローラ/ドライバ以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給を停止することが可能です。その場合、RTCENビットは1に設定し、PER0レジスタのその他のビット0-6は0に設定してください。
 3. 次のビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

7.3.2 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)

WUTMMCK0ビットでリアルタイム・クロックの動作クロック (f_{RTC}) を選択できます。

また、RTCLPCビットは少しでも不要なクロック機能を停止させることにより、低消費電力化することを目的としたビットです。RTCLPCビットの設定については、第5章 クロック発生回路を参照してください。

OSMCレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図7-3 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のフォーマット

アドレス : F00F3H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
OSMC	RTCLPC	0	0	WUTMMCK0	0	0	0	0

WUTMMCK0 注	リアルタイム・クロック, 12ビット・インターバル・タイマ, LCDドライバ/コントローラの動作クロックの選択	クロック出力/ブザー出力のPCLBUZn端子の出力クロックの選択
0	サブシステム・クロック (f _{SUB})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択許可
1	低速オンチップ・オシレータ・クロック (f _{IL})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択禁止

注 サブシステム・クロック発振中の場合は、必ずサブシステム・クロックを選択 (WUTMMCK0ビット = 0) にしてください。

- 注意1. リアルタイム・クロックの動作クロックにサブシステム・クロック (f_{SUB} = 32.768 kHz) を選択時のみ、年、月、曜日、日、時、分、秒のカウントができます。低速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IL} = 15 kHz) を選択時は、定周期割り込み機能のみ使用できます。32ピン製品は、サブシステム・クロックを搭載していないため、定周期割り込み機能のみ使用できます。ただし、f_{IL}選択時の定周期割り込み間隔は、定周期 (RTCC0レジスタで選択した値) × f_{SUB}/f_{IL} で算出される値になります。
2. WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは、リアルタイム・クロック, 12ビット・インターバル・タイマ, LCDドライバ/コントローラの全ての機能が動作停止中のみ可能です。各機能の動作停止方法は次のとおりです。

リアルタイム・クロックの停止設定 : RTCE = 0
 12ビット・インターバル・タイマの停止設定 : RINTE = 0
 LCDドライバ/コントローラの停止設定 : SCOC = 0 かつ VLCON = 0

備考 RTCE : リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0) のビット7
 RINTE : インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC) のビット15
 SCOC : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット6
 VLCON : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット5

7.3.3 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0)

リアルタイム・クロック動作の開始/停止, RTC1HZ端子の制御, 12/24時間制, 定周期割り込み機能を設定する8ビットのレジスタです。

RTCC0レジスタは, 1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により, 00Hになります。

図7-4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0) のフォーマット

アドレス : FFF9DH リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
RTCC0	RTCE	0	RCLOE1 ^注	0	AMPM	CT2	CT1	CT0

RTCE	リアルタイム・クロックの動作制御
0	カウンタ動作停止
1	カウンタ動作開始

RCLOE1	RTC1HZ端子の出力制御
0	RTC1HZ端子の出力 (1 Hz) 禁止
1	RTC1HZ端子の出力 (1 Hz) 許可

AMPM	12時間制/24時間制の選択
0	12時間制 (午前/午後を表示)
1	24時間制

- ・ AMPMビットの値を変更する場合は, RWAITビット (リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のビット0) = 1にしてから書き換えてください。AMPMビットの値を変更すると, 時カウント・レジスタ (HOUR) の値は設定した時間制に対応した値に変更されます。
- ・ 時間桁表示表を表7-2に示します。

CT2	CT1	CT0	定周期割り込み (INTRTC) の選択
0	0	0	定周期割り込み機能を使用しない
0	0	1	0.5秒に1度 (秒カウントアップに同期)
0	1	0	1秒に1度 (秒カウントアップと同時)
0	1	1	1分に1度 (毎分00秒)
1	0	0	1時間に1度 (毎時00分00秒)
1	0	1	1日に1度 (毎日00時00分00秒)
1	1	×	1月に1度 (毎月1日午前00時00分00秒)

カウンタ動作中 (RTCE = 1) に CT2-CT0 ビットの値を変更する場合は, INTRTC を割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また, 書き換え後は, RIFG フラグ, RTCIF フラグをクリアしてから割り込み処理許可にしてください。

注 20-36ピン製品は, RCLOE1ビットに"0"を設定してください。

注意1. RTCE = 1のときにRCLOE1ビットを変更しないでください。

2. RTCE = 0のときに, RCLOE1 = 1に設定しても1Hz出力されません。

備考 × : don't care

7.3.4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1)

アラーム割り込み機能，カウンタのウェイトを制御する8ビットのレジスタです。

RTCC1レジスタは，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図7-5 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマット (1/2)

アドレス：FFF9EH リセット時：00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
RTCC1	WALE	WALIE	0	WAFG	RIFG	0	RWST	RWAIT

WALE	アラームの動作制御
0	一致動作無効
1	一致動作有効
カウンタ動作中 (RTCE = 1) かつWALIE = 1の時にWALEビットへ設定する場合は，INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また，書き換え後にWAFGフラグ，RTCIFフラグをクリアしてください。アラームの各レジスタ (RTCC1レジスタのWALIEフラグ，アラーム分レジスタ (ALARMWMM)，アラーム時レジスタ (ALARMWH)，アラーム曜日レジスタ (ALARMWW)) を設定する場合，WALEビットを一致動作無効“0”にしてください。	

WALIE	アラーム割り込み (INTRTC) 機能の動作制御
0	アラームの一致による割り込みを発生しない
1	アラームの一致による割り込みを発生する

WAFG	アラーム検出ステータス・フラグ
0	アラーム不一致
1	アラームの一致検出
アラームとの一致検出を示すステータス・フラグです。WALE = 1のときのみ有効となり，アラーム一致検出し，1クロック (32.768 kHz) 後に“1”となります。 “0”を書き込むことでクリアされ，“1”の書き込みは無効となります。	

RIFG	定周期割り込みステータス・フラグ
0	定周期割り込み発生なし
1	定周期割り込み発生あり
定周期割り込み発生ステータス・フラグです。定周期割り込み発生により“1”となります。 “0”を書き込むことでクリアされ，“1”の書き込みは無効となります。	

図7-5 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマット (2/2)

RWST	リアルタイム・クロックのウェイト状態フラグ
0	カウンタ動作中
1	カウンタ値の読み出し、書き込みモード中

RWAITビットの設定が有効であることを示すステータスです。
カウンタ値の読み出し、書き込みは、このフラグの値が1になっていることを確認したあとに行ってください。

RWAIT	リアルタイム・クロックのウェイト制御
0	カウンタ動作設定
1	SEC~YEARカウンタ停止設定。カウンタ値読み出し、書き込みモード。

カウンタの動作を制御します。
カウンタ値を読み出し、書き込みを行う際は必ず“1”を書き込んでください。
カウンタ（16ビット）は動作を継続するので、1秒以内に読み出しや書き込みを終了し、0に戻してください。
アラーム割り込みを使用するときに、カウンタの読み出し／書き込みを行う場合は、RTCC0レジスタのCT2～CT0ビットを010B（1秒毎に定周期割り込み発生）にして、RWAIT = 1からRWAIT = 0までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。
RWAIT = 1に設定後、カウンタ値の読み出し、書き込みが可能（RWST = 1）となるまで最大1クロック（f_{RTC}）の時間がかかります。^(注1, 注2)
カウンタ（16ビット）のオーバーフローがRWAIT = 1のときに起きた場合は、オーバーフローが起きたことを保持してRWAIT = 0になったあと、カウント・アップします。
ただし、秒カウント・レジスタへの書き込みを行った場合は、オーバーフローが起きたことを保持しません。

注1. RTCE = 1に設定した後、f_{RTC}の1クロック時間内でRWAIT = 1とした場合、RWSTビットが“1”になるまで動作クロック（f_{RTC}）の2クロック時間がかかる場合があります。

注2. スタンバイ（HALTモード、STOPモード、SNOOZEモード）から復帰した後、f_{RTC}の1クロック時間内で、RWAIT = 1とした場合、RWSTビットが“1”になるまでに、動作クロック（f_{RTC}）の2クロック時間がかかる場合があります。

注意 RTCC1レジスタに1ビット操作命令で書き込みを行うと、RIFGフラグ、WAFGフラグがクリアされることがあります。そのため、RTCC1レジスタへの書き込みは8ビット操作命令で設定してください。書き込み時に、RIFGフラグ、WAFGフラグをクリアしないようにするためには、該当ビットに書き込みが無効となる“1”を設定してください。なお、RIFGフラグ、WAFGフラグを使用せず値が書き換わっても問題ない場合は、RTCC1レジスタに1ビット操作命令で書き込みを行ってもかまいません。

備考 定周期割り込みとアラーム一致割り込みは、同一割り込み要因（INTRTC）を使用しています。この2つの割り込みを同時に使用する場合は、INTRTCが発生した時点で、定周期割り込みステータス・フラグ（RIFG）とアラーム検出ステータス・フラグ（WAFG）を確認することで、どちらの割り込みが発生したかを判断することができます。

7.3.5 秒カウント・レジスタ (SEC)

0-59 (10進) までの値を取り、秒のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

カウンタ (16ビット) からのオーバフローによりカウント・アップします。

書き込みを行った場合は、バッファに書き込まれ、最大 f_{RTC} の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。

また設定する値は10進の00-59をBCDコードで設定してください。

SECレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図7-6 秒カウント・レジスタ (SEC) のフォーマット

アドレス : FFF92H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
SEC	0	SEC40	SEC20	SEC10	SEC8	SEC4	SEC2	SEC1

注意1. カウンタ動作中 (RTCE = 1) にこのレジスタの読み出し/書き込みをする場合は、7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し/書き込みに記載されている手順に従って実施してください。

2. 秒カウント・レジスタ (SEC) へ書き込みを行うと内部カウンタ (16ビット) はクリアされます。

7.3.6 分カウント・レジスタ (MIN)

0-59 (10進) までの値を取り、分のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

秒カウンタからのオーバフローによりカウント・アップします。

書き込みを行った場合は、バッファに書き込まれ最大2クロック (f_{RTC}) 後に、カウンタへ書き込まれます。

書き込み中に秒カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し、書き込みをした値に設定されます。また設定する値は、10進の00-59をBCDコードで設定してください。

MINレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図7-7 分カウント・レジスタ (MIN) のフォーマット

アドレス : FFF93H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MIN	0	MIN40	MIN20	MIN10	MIN8	MIN4	MIN2	MIN1

注意 カウンタ動作中 (RTCE = 1) にこのレジスタの読み出し/書き込みをする場合は、7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し/書き込みに記載されている手順に従って実施してください。

7.3.7 時カウント・レジスタ (HOUR)

00-23または01-12, 21-32 (10進) までの値を取り、時のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

分カウンタからのオーバフローによりカウント・アップします。

書き込みを行った場合は、バッファに書き込まれ最大 f_{RTC} の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中に分カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し、書き込みをした値に設定されます。また、リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0) のビット3 (AMPM) で設定した時間制に応じて、10進の00-23または01-12, 21-32をBCDコードで設定してください。

AMPMビットの値を変更すると、HOURレジスタの値は設定した時間制に対応する値に変更されます。

HOURレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、12Hになります。

ただし、リセット後に、AMPMビットに1をセットした場合は00Hとなります。

図7-8 時カウント・レジスタ (HOUR) のフォーマット

アドレス : FFF94H リセット時 : 12H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
HOUR	0	0	HOUR20	HOUR10	HOUR8	HOUR4	HOUR2	HOUR1

- 注意1. HOURレジスタのビット5 (HOUR20) は、AMPM = 0 (12時間制) を選択した場合、AM (0) / PM (1) を示します。
2. カウンタ動作中 (RTCE = 1) にこのレジスタの読み出し／書き込みをする場合は、7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し／書き込みに記載されている手順に従って実施してください。

AMPMビットの設定値、および時カウント・レジスタ（HOUR）値と時間の関係を表7-2に示します。

表7-2 時間桁表示表

24時間表示（AMPMビット = 1）		12時間表示（AMPMビット = 0）	
時間	HOURレジスタ	時間	HOURレジスタ
0時	00H	AM12時	12 H
1時	01 H	AM1時	01 H
2時	02 H	AM2時	02 H
3時	03 H	AM3時	03 H
4時	04 H	AM4時	04 H
5時	05 H	AM5時	05 H
6時	06 H	AM6時	06 H
7時	07 H	AM7時	07 H
8時	08 H	AM8時	08 H
9時	09 H	AM9時	09 H
10時	10 H	AM10時	10 H
11時	11 H	AM11時	11 H
12時	12 H	PM12時	32 H
13時	13 H	PM1時	21 H
14時	14 H	PM2時	22 H
15時	15 H	PM3時	23 H
16時	16 H	PM4時	24 H
17時	17 H	PM5時	25 H
18時	18 H	PM6時	26 H
19時	19 H	PM7時	27 H
20時	20 H	PM8時	28 H
21時	21 H	PM9時	29 H
22時	22 H	PM10時	30 H
23時	23 H	PM11時	31 H

HOURレジスタ値は、AMPMビットが“0”のときに12時間表示，“1”のときに24時間表示となります。

12時間表示の場合は、HOURレジスタの5ビット目で午前／午後を表示し、午前（AM）のときに0に、午後（PM）のときに1となります。

7.3.8 日カウント・レジスタ (DAY)

1-31 (10進) までの値を取り、日のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

時カウンタからのオーバーフローによりカウント・アップします。

カウンタは、次に示すようにカウントします。

- ・ 01-31 (1, 3, 5, 7, 8, 10, 12月)
- ・ 01-30 (4, 6, 9, 11月)
- ・ 01-29 (2月 うるう年)
- ・ 01-28 (2月 通常年)

書き込みを行った場合は、バッファに書き込まれ最大 f_{RTC} の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中に時カウント・レジスタからのオーバーフローが発生しても無視し、書き込みをした値に設定されます。

また設定する値は、10進の01-31をBCDコードで設定してください。

DAYレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、01Hになります。

図7-9 日カウント・レジスタ (DAY) のフォーマット

アドレス : FFF96H リセット時 : 01H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
DAY	0	0	DAY20	DAY10	DAY8	DAY4	DAY2	DAY1

注意 カウンタ動作中 (RTCE = 1) にこのレジスタの読み出し／書き込みをする場合は、7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し／書き込みに記載されている手順に従って実施してください。

7.3.9 曜日カウント・レジスタ (WEEK)

0-6 (10進) までの値を取り、曜日のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

日カウンタと同期してカウント・アップします。

書き込みを行った場合は、バッファに書き込まれ最大 f_{RTC} の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。また設定する値は、10進の00-06をBCDコードで設定してください。

WEEKレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図7-10 曜日カウント・レジスタ (WEEK) のフォーマット

アドレス : FFF95H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
WEEK	0	0	0	0	0	WEEK4	WEEK2	WEEK1

注意1. 曜日カウント・レジスタ (WEEK) には、月カウント・レジスタ (MONTH) および日カウント・レジスタ (DAY) に対応した値が自動的に格納されるわけではありません。

リセット解除後、次のように設定してください。

曜日	WEEK
日	00H
月	01H
火	02H
水	03H
木	04H
金	05H
土	06H

2. カウンタ動作中 (RTCE = 1) にこのレジスタの読み出し/書き込みをする場合は、7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し/書き込みに記載されている手順に従って実施してください。

7.3.10 月カウント・レジスタ (MONTH)

MONTHレジスタは1-12 (10進) までの値を取り、月のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

日カウンタからのオーバフローによりカウント・アップします。

書き込みを行った場合は、バッファに書き込まれ最大 f_{RTC} の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中に日カウント・レジスタからのオーバフローが発生しても無視し、書き込みをした値に設定されます。また設定する値は、10進の01-12をBCDコードで設定してください。

MONTHレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、01Hになります。

図7-11 月カウント・レジスタ (MONTH) のフォーマット

アドレス : FFF97H リセット時 : 01H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MONTH	0	0	0	MONTH10	MONTH8	MONTH4	MONTH2	MONTH1

注意 カウンタ動作中 (RTCE = 1) にこのレジスタの読み出し/書き込みをする場合は、7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し/書き込みに記載されている手順に従って実施してください。

7.3.11 年カウント・レジスタ (YEAR)

0-99 (10進) までの値を取り、年のカウント値を示す8ビットのレジスタです。

月カウント・レジスタ (MONTH) からのオーバフローによりカウント・アップします。

00, 04, 08, ..., 92, 96がうるう年となります。

書き込みを行った場合は、バッファに書き込まれ最大 f_{RTC} の2クロック後にカウンタへ書き込まれます。書き込み中にMONTHレジスタからのオーバフローが発生しても無視し、書き込みをした値に設定されます。また設定する値は、10進の00-99をBCDコードで設定してください。

YEARレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図7-12 年カウント・レジスタ (YEAR) のフォーマット

アドレス : FFF98H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
YEAR	YEAR80	YEAR40	YEAR20	YEAR10	YEAR8	YEAR4	YEAR2	YEAR1

注意 カウンタ動作中 (RTCE = 1) にこのレジスタの読み出し/書き込みをする場合は、7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し/書き込みに記載されている手順に従って実施してください。

7.3.12 時計誤差補正レジスタ (SUBCUD)

内部カウンタ (16ビット) から秒カウンタ・レジスタ (SEC) へオーバーフローする値 (基準値 : 7FFFH) を変化させることにより、時計の進みや遅れをより高精度に補正することができるレジスタです。

SUBCUDレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図7-13 時計誤差補正レジスタ (SUBCUD) のフォーマット

アドレス : FFF99H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
SUBCUD	DEV	F6	F5	F4	F3	F2	F1	F0

DEV	時計誤差補正のタイミングの設定
0	秒桁が00, 20, 40秒時 (20秒ごと) に時計誤差補正
1	秒桁が00秒時のみ (60秒ごと) に時計誤差補正
次に示すタイミングでのSUBCUDレジスタへの書き込みは禁止です。	
<ul style="list-style-type: none"> DEV = 0設定時 : SEC = 00H, 20H, 40Hの期間 DEV = 1設定時 : SEC = 00Hの期間 	

F6	時計誤差補正值の設定
0	$\{ (F5, F4, F3, F2, F1, F0) - 1 \} \times 2$ だけ増加
1	$\{ (F5, /F4, /F3, /F2, /F1, /F0) + 1 \} \times 2$ だけ減少
(F6, F5, F4, F3, F2, F1, F0) = (*, 0, 0, 0, 0, 0, *) のときは、時計誤差補正を行いません。*は0または1です。 /F5~/F0は、ビット反転した値 (111100のときは000011) となります。	
補正值の範囲 : (F6 = 0のとき) 2, 4, 6, 8, ... 120, 122, 124 (F6 = 1のとき) -2, -4, -6, -8, ... -120, -122, -124	

次に、時計誤差補正レジスタ (SUBCUD) による補正可能範囲を示します。

	DEV = 0 (20秒ごとの補正)	DEV = 1 (60秒ごとの補正)
補正可能範囲	-189.2 ppm ~ 189.2 ppm	-63.1 ppm ~ 63.1 ppm
最大量子化誤差	±1.53 ppm	±0.51 ppm
最小分解能	±3.05 ppm	±1.02 ppm

備考 補正範囲が、-63.1 ppm以下または63.1 ppm以上のときは、DEV = 0を設定してください。

7.3.13 アラーム分レジスタ (ALARMWWM)

アラームの分を設定するレジスタです。

ALARMWWMレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

注意 設定する値は、10進の00～59をBCDコードで設定してください。範囲外の値を設定した場合、アラームは検出されません。

図7-14 アラーム分レジスタ (ALARMWWM) のフォーマット

アドレス : FFF9AH リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ALARMWWM	0	WM40	WM20	WM10	WM8	WM4	WM2	WM1

7.3.14 アラーム時レジスタ (ALARMWH)

アラームの時を設定するレジスタです。

ALARMWHレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、12Hになります。

ただし、リセット後に、AMPMビットに1をセットした場合は00Hとなります。

注意 設定する値は、10進の00～23または、01～12, 21～32をBCDコードで設定してください。範囲外の値を設定した場合、アラームは検出されません。

図7-15 アラーム時レジスタ (ALARMWH) のフォーマット

アドレス : FFF9BH リセット時 : 12H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ALARMWH	0	0	WH20	WH10	WH8	WH4	WH2	WH1

注意 ALARMWHレジスタのビット5 (WH20) は、AMPM = 0 (12時間制) を選択した場合、AM (0) /PM (1) を示します。

7.3.15 アラーム曜日レジスタ (ALARMWW)

アラームの曜日を設定するレジスタです。

ALARMWWレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図7-16 アラーム曜日レジスタ (ALARMWW) のフォーマット

アドレス : FFF9CH リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ALARMWW	0	WW6	WW5	WW4	WW3	WW2	WW1	WW0

次にアラーム時刻の設定例を示します。

アラーム設定時刻	曜日							12時間表示				24時間表示			
	日	月	火	水	木	金	土	10時	1時	10分	1分	10時	1時	10分	1分
	W	W	W	W	W	W	W								
毎日 午前0時00分	1	1	1	1	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0
毎日 午前1時30分	1	1	1	1	1	1	1	0	1	3	0	0	1	3	0
毎日 午前11時59分	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	9	1	1	5	9
月～金 午後0時00分	0	1	1	1	1	1	0	3	2	0	0	1	2	0	0
日曜 午後1時30分	1	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	1	3	3	0
月水金 午後11時59分	0	1	0	1	0	1	0	3	1	5	9	2	3	5	9

7.3.16 ポート・モード・レジスタ3 (PM3)

PM3レジスタは、1ビット・メモリ・操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。
 リセット信号の発生により、FFHになります。
 RTC1Hz端子の1Hz出力として使用する時は、PM30ビットに"0"を設定してください。

図7-17 ポート・モード・レジスタ3 (PM3) のフォーマット

アドレス：FFF23H リセット時：FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM3	1	1	1	1	1	1	PM31	PM30

7.3.17 ポート・レジスタ3 (P3)

P3レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。
 リセット信号の発生により、00Hになります。
 RTC1Hz端子へ1Hz出力として使用する時は、P30ビットに"0"を設定してください。

図7-18 ポート3 (P3) のフォーマット

アドレス：FFF03H リセット時：00H R/W

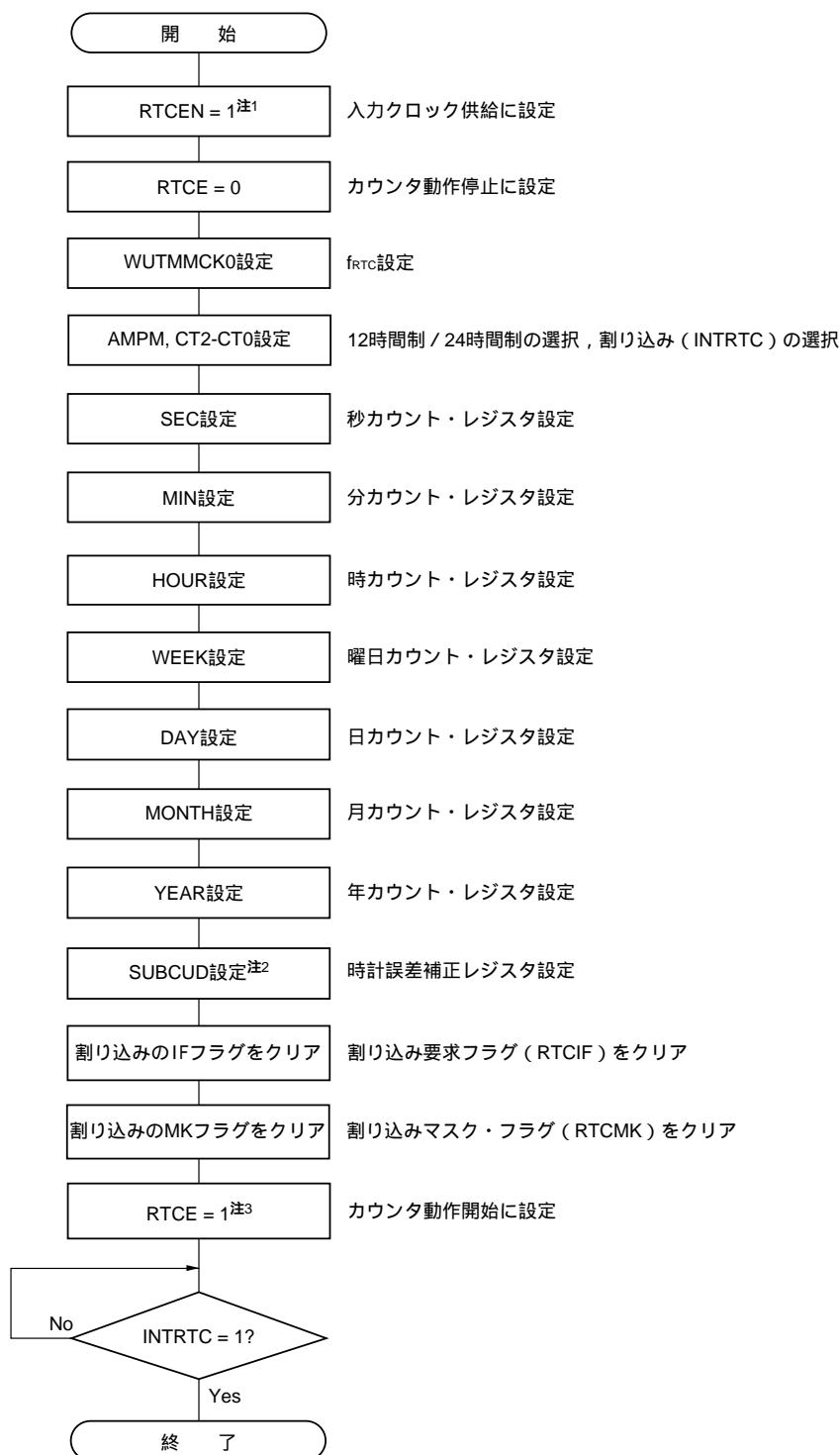
略号	7	6	5	4	3	2	1	0
P3	P37	P36	P35	P34	P33	P32	P31	P30

注意 搭載されていないセットには、必ず初期値を設定してください。

7.4 リアルタイム・クロックの動作

7.4.1 リアルタイム・クロックの動作開始

図7-19 リアルタイム・クロックの動作開始手順



- 注 1. カウント・クロック (f_{RTC}) が発振安定状態において、最初にRTCEN = 1の設定を行ってください。
2. 時計誤差補正する必要がある場合のみ。補正値の算出方法は、7.4.6 リアルタイム・クロックの時計誤差補正例を参照してください。
3. RTCE = 1のあとにINTRTC = 1を待たずにHALT/STOPモードへ移行する場合は、7.4.2 動作開始後のHALT/STOPモードへの移行の手順を確認してください。

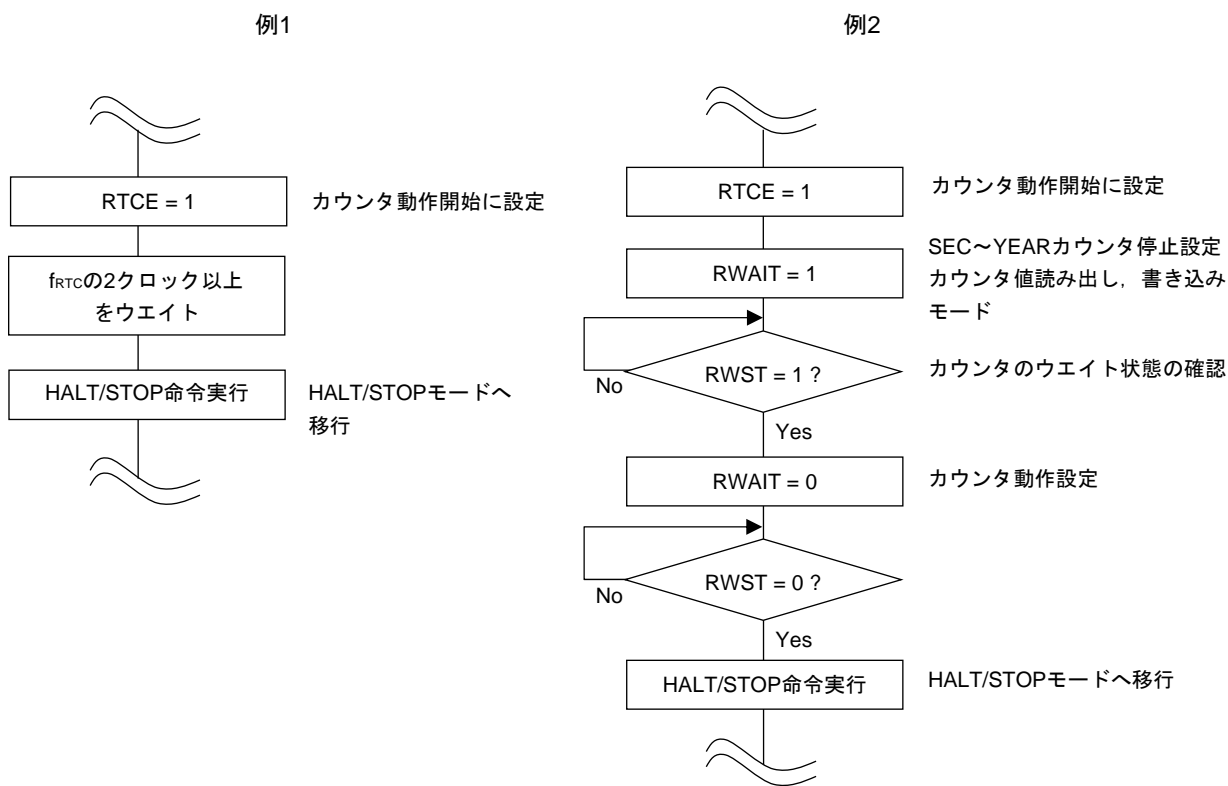
7.4.2 動作開始後のHALT/STOPモードへの移行

RTCE = 1に設定直後にHALT/STOPモードへ移行する場合は、次のどちらかの処理をしてください。

ただし、RTCE = 1に設定後、1回目のINTRTC割り込みの発生以降にHALT/STOPモードへ移行する場合は、これらの処理は必要ありません。

- ・ RTCE = 1に設定してから、入カロック (f_{RTC}) の2クロック分以上経過後にHALT/STOPモードへ移行する (図7-20 例1参照)。
- ・ RTCE = 1に設定後、RWAIT = 1に設定し、RWSTビットが1になるのをポーリングで確認する。それから、RWAIT = 0に設定し、RWSTビットが0になったのを再度ポーリングで確認後にHALT/STOPモードへ移行する (図7-20 例2参照)。

図7-20 RTCE = 1に設定後のHALT/STOPモードへの移行手順



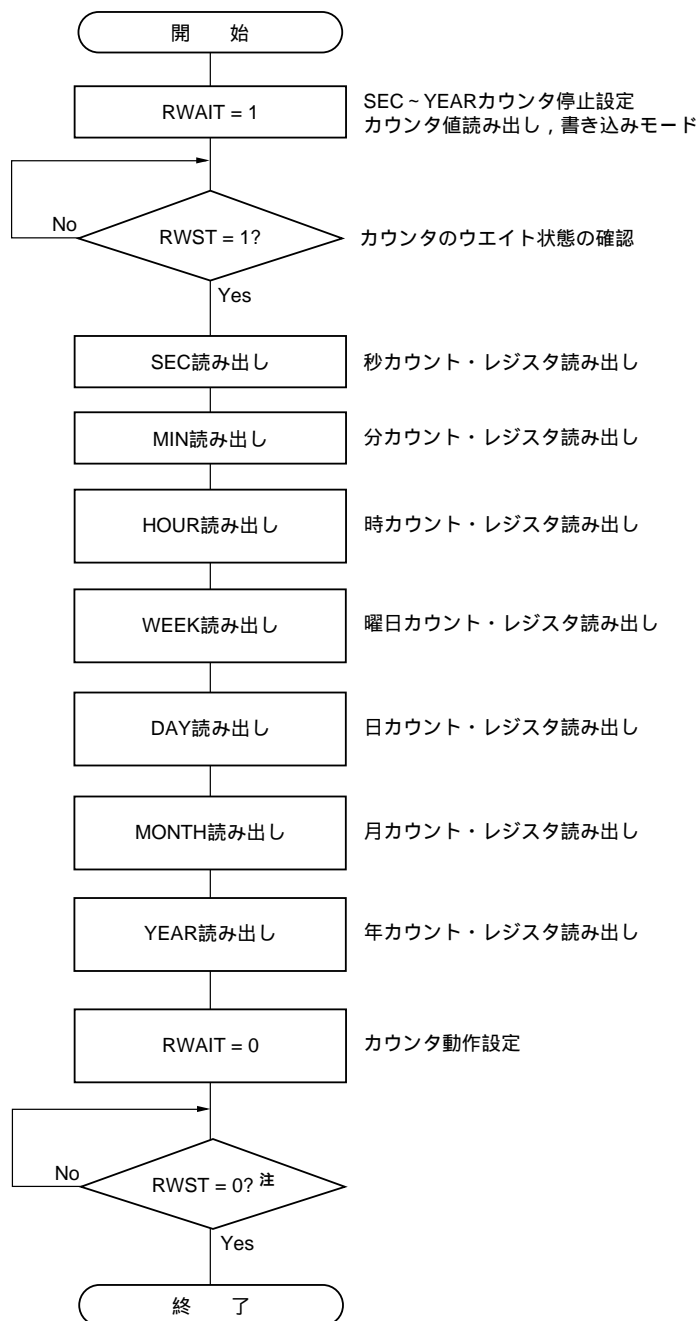
7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し／書き込み

カウンタの読み出し／書き込みは、最初にRWAIT = 1にしてから行ってください。

カウンタの読み出し／書き込み終了後は、RWAIT = 0にしてください。

なお、アラーム割り込み機能使用時は、図7-22および図7-24の手順でカウンタの読み出し／書き込みを行ってください。

図7-21 リアルタイム・クロックの読み出し手順

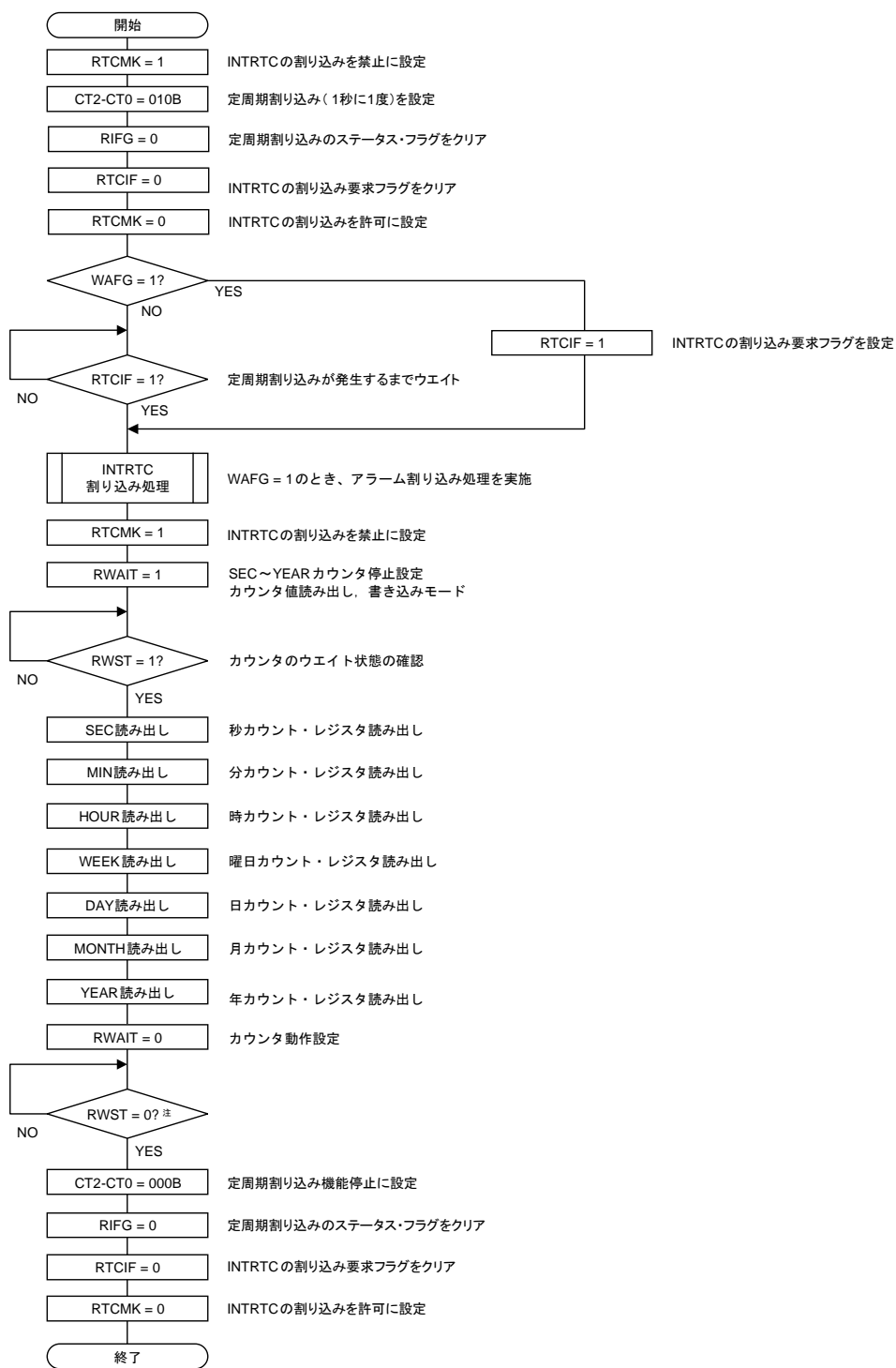


注 STOPモードに移行する前には、必ずRWST = 0であることを確認してください。

注意 RWAIT = 1 からRWAIT = 0とするまでの処理を1秒以内で行ってください。

備考 秒カウント・レジスタ (SEC), 分カウント・レジスタ (MIN), 時カウント・レジスタ (HOUR), 曜日カウント・レジスタ (WEEK), 日カウント・レジスタ (DAY), 月カウント・レジスタ (MONTH), 年カウント・レジスタ (YEAR) の読み出しの順番に制限はありません。
また、すべてのレジスタを読み出す必要はなく、一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

図7-22 リアルタイム・クロックの読み出し手順（アラーム割り込み機能使用時）

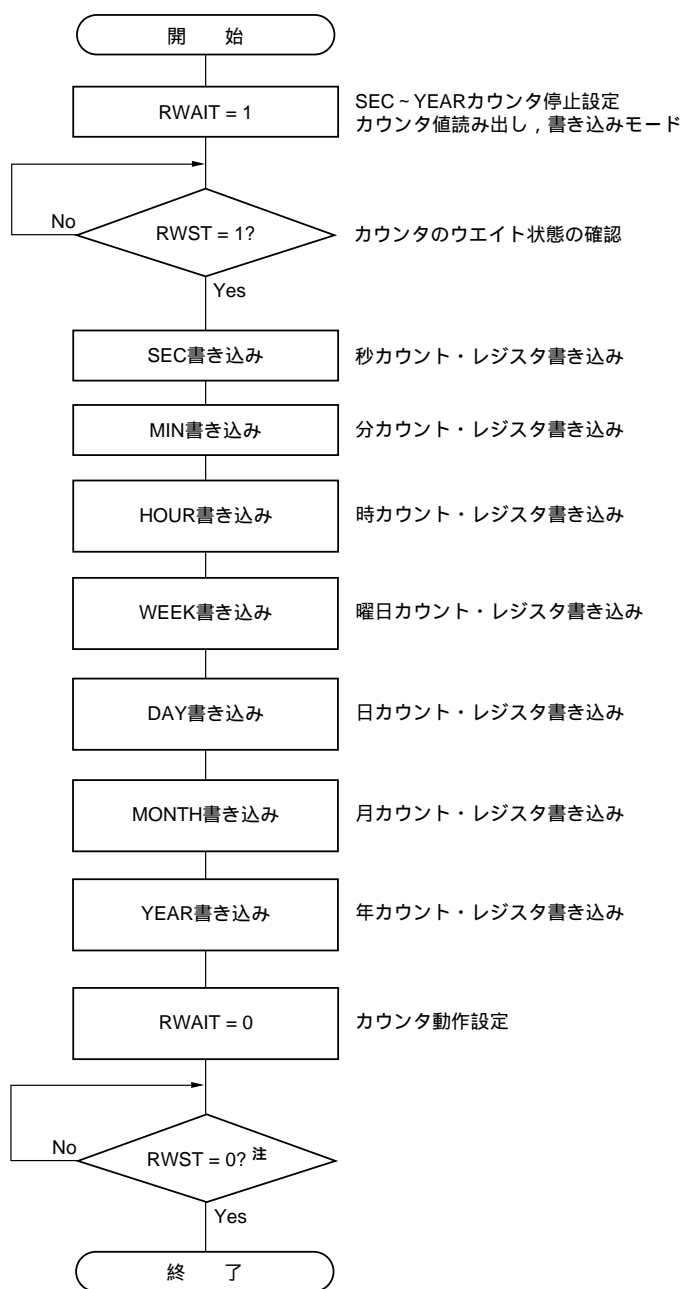


注 STOPモードに移行する前には、必ずRWST = 0であることを確認してください。

注意 INTRTC割り込み処理の開始から、RWAIT = 0までの処理を1秒以内で行ってください。

備考 秒カウンタ・レジスタ (SEC)，分カウンタ・レジスタ (MIN)，時カウンタ・レジスタ (HOUR)，曜日カウンタ・レジスタ (WEEK)，日カウンタ・レジスタ (DAY)，月カウンタ・レジスタ (MONTH)，年カウンタ・レジスタ (YEAR) の読み出しの順番に制限はありません。
また、すべてのレジスタを読み出す必要はなく、一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

図7-23 リアルタイム・クロックの書き込み手順



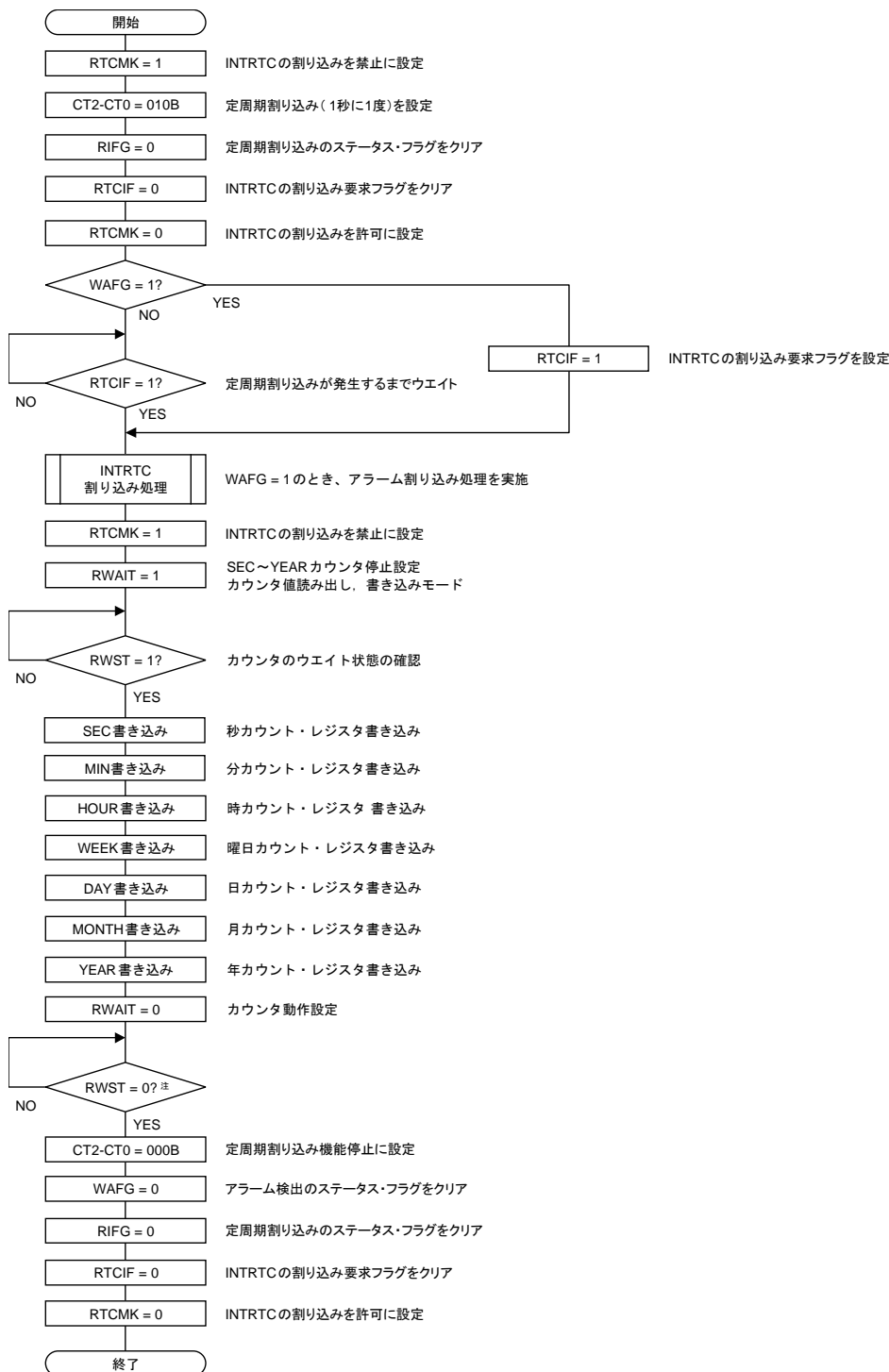
注 STOPモードに移行する前には、必ずRWST = 0であることを確認してください。

- 注意 1. RWAIT = 1からRWAIT = 0とするまでを1秒以内で行ってください。
2. カウンタ動作中 (RTCE = 1) にSEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEARレジスタを書き換える場合は、INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また、書き換え後にWAFGフラグ, RIFGフラグ, RTCIFフラグをクリアしてください。

備考 秒カウント・レジスタ (SEC), 分カウント・レジスタ (MIN), 時カウント・レジスタ (HOUR), 曜日カウント・レジスタ (WEEK), 日カウント・レジスタ (DAY), 月カウント・レジスタ (MONTH), 年カウント・レジスタ (YEAR) の書き込みの順番に制限はありません。

また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを書き換えても構いません。

図7-24 リアルタイム・クロックの書き込み手順（アラーム割り込み機能使用時）



注 STOPモードに移行する前には、必ずRWST = 0であることを確認してください。

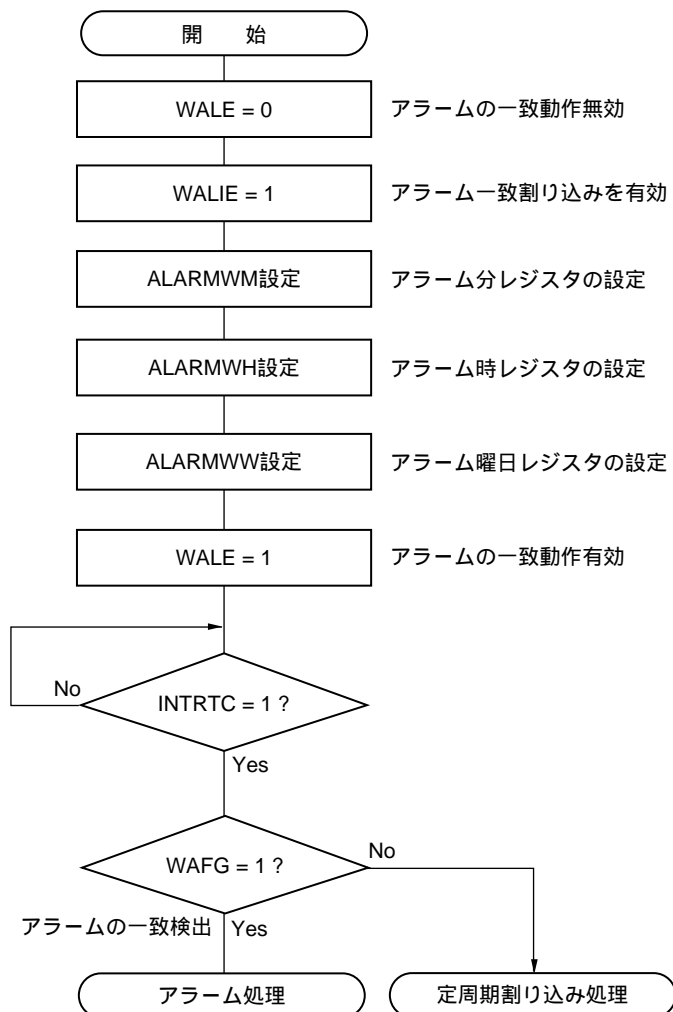
- 注意 1. INTRTC割り込み処理の開始から、RWAIT = 0までの処理を1秒以内で行ってください。
 2. カウンタ動作中 (RTCE = 1) にSEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEARレジスタを書き換える場合は、INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また、書き換え後にWAFGフラグ, RIFGフラグ, RTCIFフラグをクリアしてください。

備考 秒カウンタ・レジスタ (SEC), 分カウンタ・レジスタ (MIN), 時カウンタ・レジスタ (HOUR), 曜日カウンタ・レジスタ (WEEK), 日カウンタ・レジスタ (DAY), 月カウンタ・レジスタ (MONTH), 年カウンタ・レジスタ (YEAR) の書き込みの順番に制限はありません。また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを書き換えても構いません。

7.4.4 リアルタイム・クロックのアラーム設定

アラーム時刻設定は、最初にWALE = 0（アラーム動作無効）にしてから行ってください。

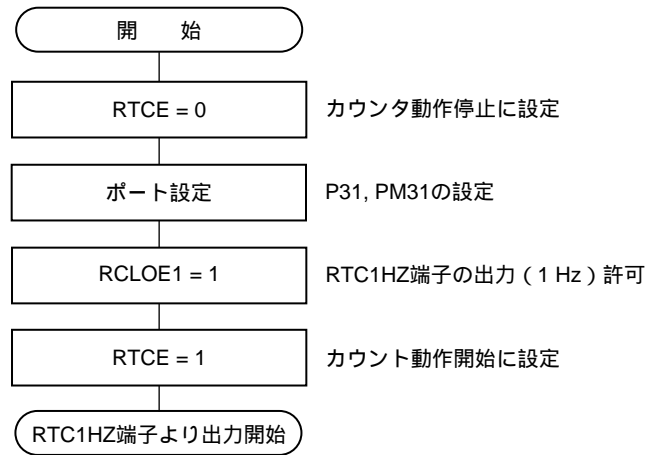
図7-25 アラーム処理手順



- 備考1. アラーム分レジスタ（ALARMWWM）、アラーム時レジスタ（ALARMWH）、アラーム曜日レジスタ（ALARMWW）の書き込みの順番に制限はありません。
2. 定周期割り込みとアラーム一致割り込みは、同一割り込み要因（INTRTC）を使用しています。この2つの割り込みを同時に使用する場合は、INTRTCが発生した時点で、定周期割り込みステータス・フラグ（RIFG）とアラーム検出ステータス・フラグ（WAFG）を確認することで、どちらの割り込みが発生したかを判断することができます。

7.4.5 リアルタイム・クロックの1 Hz出力

図7-26 1 Hz出力の設定手順



- 注意1. 入力クロック (f_{SUB}) が発振安定状態において、最初にRTCEN = 1の設定を行ってください。
2. 32ピン製品は、リアルタイムクロックの1Hz出力機能はありません。

7.4.6 リアルタイム・クロックの時計誤差補正例

時計誤差補正レジスタに値を設定することにより、時計の進みや遅れをより高精度に補正できます。

補正値の算出方法例

内部カウンタ（16ビット）のカウンタ値を補正する際の補正値は、次の式で算出できます。

補正範囲が、 -63.1 ppm以下または 63.1 ppm以上のときは、 $DEV = 0$ を設定してください。

（ $DEV = 0$ の場合）

$$\text{補正値}^{\text{注}} = \text{1分間の補正カウント数} \div 3 = (\text{発振周波数} \div \text{ターゲット周波数} - 1) \times 32768 \times 60 \div 3$$

（ $DEV = 1$ の場合）

$$\text{補正値}^{\text{注}} = \text{1分間の補正カウント数} = (\text{発振周波数} \div \text{ターゲット周波数} - 1) \times 32768 \times 60$$

注 補正値とは、時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）のビット6-0の値により求められる時計誤差補正値です。

$$(\text{F6}=0\text{の場合}) \text{補正値} = \{ (\text{F5}, \text{F4}, \text{F3}, \text{F2}, \text{F1}, \text{F0}) - 1 \} \times 2$$

$$(\text{F6}=1\text{の場合}) \text{補正値} = - \{ (\text{F5}, \text{F4}, \text{F3}, \text{F2}, \text{F1}, \text{F0}) + 1 \} \times 2$$

（ $\text{F6}, \text{F5}, \text{F4}, \text{F3}, \text{F2}, \text{F1}, \text{F0} = (*, 0, 0, 0, 0, 0, *)$ ）のときは、時計誤差補正を行いません。 $*$ は0または1です。

$\text{F5} \sim \text{F0}$ は、ビット反転した値（111100のときは000011）となります。

備考1. 補正値は、2, 4, 6, 8, ……120, 122, 124, または-2, -4, -6, -8, ……-120, -122, -124です。

2. 発振周波数とは、入力クロック（ f_{RTC} ）の値です。

時計誤差補正レジスタが初期値（00H）時のRTC1HZ端子の出力周波数 $\times 32768$ で求めることができます。

3. ターゲット周波数とは、時計誤差補正レジスタを使用した補正後の周波数です。

補正例①

32772.3 Hzから32768 Hz（32772.3 Hz－131.2 ppm）への補正例

【発振周波数の測定】

各製品の発振周波数はPCLBUZ0端子から約32.768 kHzを出力するか、時計誤差補正レジスタ（SUBCUD）が初期値（00H）時にRTC1HZ端子から約1 Hzを出力して測定します。

注 RTC1Hz出力の設定手順は、7.4.5 リアルタイム・クロックの1Hz出力を、PCLBUZ0端子から約32 kHzの出力の設定手順は、9.4 クロック出力／ブザー出力制御回路の動作を参照してください。

【補正値の算出】

（PCLBUZ0端子からの出力周波数が32772.3 Hzの場合）

ターゲット周波数を32768 Hz（32772.3 Hz－131.2 ppm）とすると、－131.2 ppmは補正範囲が－63.1 ppm以下なので、DEV = 0とします。

DEV = 0の場合の補正値の算出式を適用します。

$$\begin{aligned} \text{補正値} &= 1\text{分間の補正カウント数} \div 3 = (\text{発振周波数} \div \text{ターゲット周波数} - 1) \times 32768 \times 60 \div 3 \\ &= (32772.3 \div 32768 - 1) \times 32768 \times 60 \div 3 \\ &= 86 \end{aligned}$$

【（F6～F0）への設定値の算出】

（補正値 = 86の場合）

補正値が0以上（遅くする場合）では、F6 = 0とします。

（F5, F4, F3, F2, F1, F0）は、補正値から算出します。

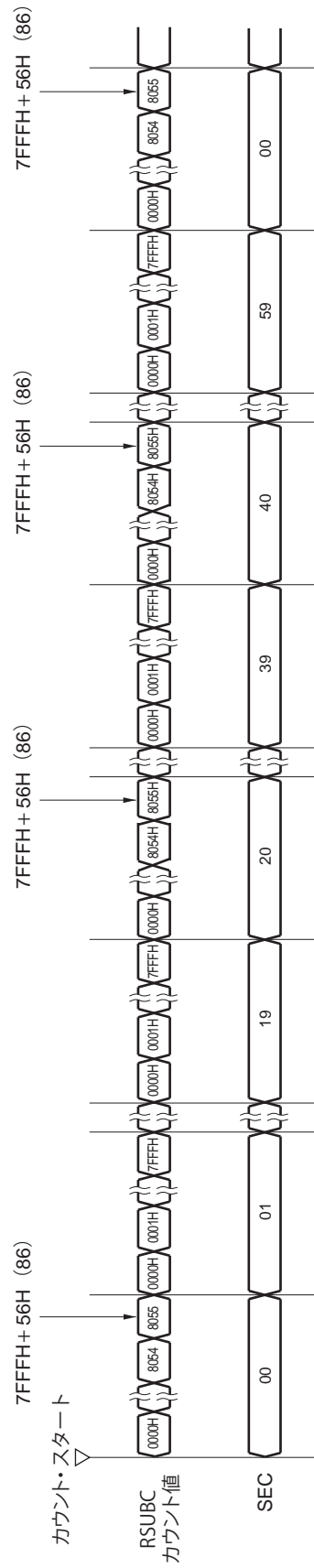
$$\begin{aligned} \{ (F5, F4, F3, F2, F1, F0) - 1 \} \times 2 &= 86 \\ (F5, F4, F3, F2, F1, F0) &= 44 \\ (F5, F4, F3, F2, F1, F0) &= (1, 0, 1, 1, 0, 0) \end{aligned}$$

したがって、32772.3 Hzから32768 Hz（32772.3 Hz－131.2 ppm）への補正の場合、

DEV = 0、補正値 = 86（SUBCUDレジスタのビット6-0：0101100）と補正レジスタを設定すると、32768 Hz（0 ppm）となります。

（DEV, F6, F5, F4, F3, F2, F1, F0） = （0, 0, 1, 0, 1, 1, 0, 0）の場合の補正動作を図7-27に示します。

図7-27 (DEV, F6, F5, F4, F3, F2, F1, F0) = (0, 0, 1, 0, 1, 1, 0, 0) の場合の補正動作



補正例②

32767.4 Hzから32768 Hz (32767.4 Hz+18.3 ppm) への補正例

【発振周波数の測定】

各製品の発振周波数^注を、時計誤差補正レジスタ (SUBCUD) が初期値 (00H) 時にRTC1HZ端子から約1 Hz を出力して測定します。

注 RTC1Hz出力の設定手順は、7.4.5 リアルタイム・クロックの1Hz出力を参照してください。

【補正値の算出】

(RTC1HZ端子からの出力周波数が0.9999817 Hzの場合)

発振周波数 = $32768 \times 0.9999817 \approx 32767.4$ Hz

ターゲット周波数を32768 Hz (32767.4 Hz+18.3 ppm) とし、DEV = 1とします。

DEV = 1の場合の補正値の算出式を適用します。

$$\begin{aligned} \text{補正値} = \text{1分間の補正カウント数} &= (\text{発振周波数} \div \text{ターゲット周波数} - 1) \times 32768 \times 60 \\ &= (32767.4 \div 32768 - 1) \times 32768 \times 60 \\ &= -36 \end{aligned}$$

【(F6~F0) への設定値の算出】

(補正値 = -36の場合)

補正値が0以下 (速くする場合) では、F6 = 1とします。

(F5, F4, F3, F2, F1, F0) は、補正値から算出します。

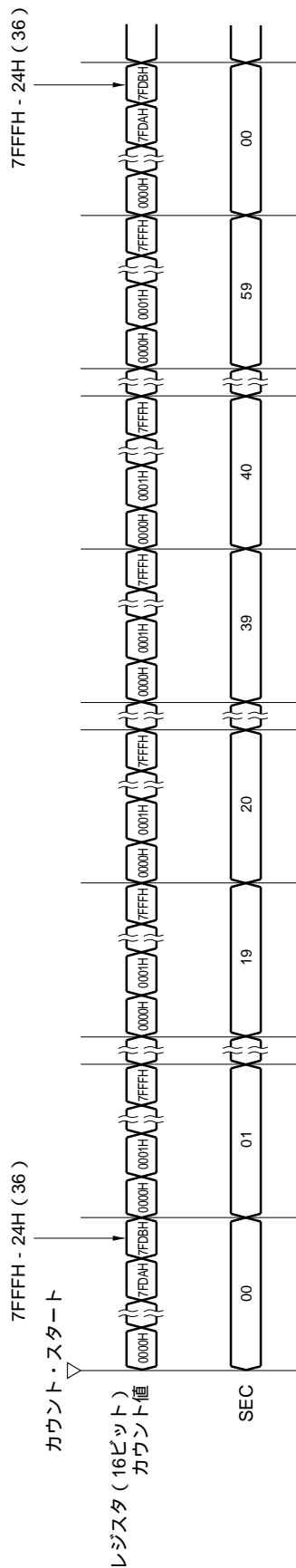
$$\begin{aligned} - \{ (/F5, /F4, /F3, /F2, /F1, /F0) + 1 \} \times 2 &= -36 \\ (/F5, /F4, /F3, /F2, /F1, /F0) &= 17 \\ (/F5, /F4, /F3, /F2, /F1, /F0) &= (0, 1, 0, 0, 0, 1) \\ (F5, F4, F3, F2, F1, F0) &= (1, 0, 1, 1, 1, 0) \end{aligned}$$

したがって、32767.4 Hzから32768 Hz (32767.4Hz+18.3 ppm) への補正の場合、

DEV = 1, 補正値 = -36 (SUBCUDレジスタのビット6-0: 1101110) と補正レジスタを設定すると、32768 Hz (0 ppm) となります。

(DEV, F6, F5, F4, F3, F2, F1, F0) = (1, 1, 1, 0, 1, 1, 1, 0) の場合の動作を図7-28に示します。

図7-28 (DEV, F6, F5, F4, F3, F2, F1, F0) = (1, 1, 1, 0, 1, 1, 1, 0) の場合の補正動作



第8章 12ビット・インターバル・タイマ

8.1 12ビット・インターバル・タイマの機能

あらかじめ設定した任意の時間間隔で割り込み (INTIT) を発生します。STOPモードからのウエイク・アップや、A/DコンバータのSNOOZEモードのトリガに役立ちます。

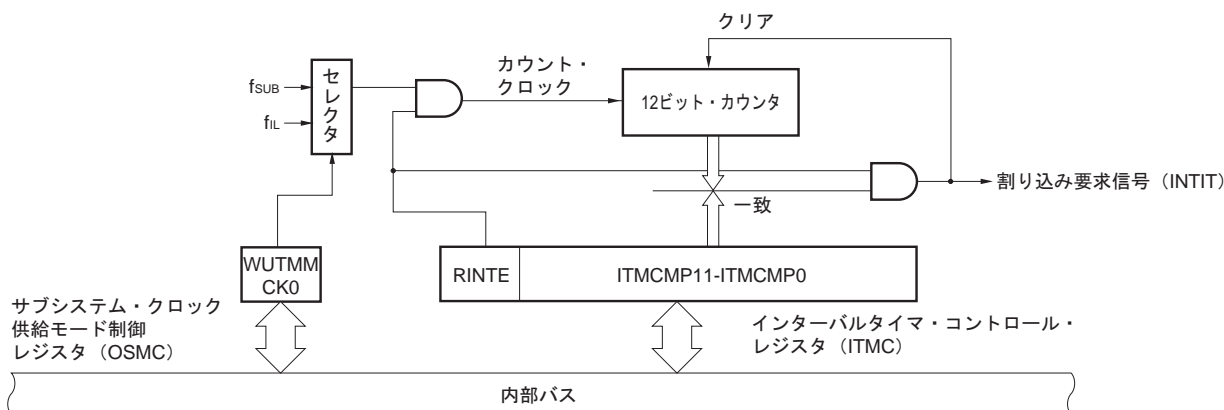
8.2 12ビット・インターバル・タイマの構成

12ビット・インターバル・タイマは、次のハードウェアで構成されています。

表8-1 12ビット・インターバル・タイマの構成

項目	構成
カウンタ	12ビット・カウンタ
制御レジスタ	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
	サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)
	インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC)

図8-1 12ビット・インターバル・タイマのブロック図



8.3 12ビット・インターバル・タイマを制御するレジスタ

12ビット・インターバル・タイマは、次のレジスタで制御します。

- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)
- ・インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC)

8.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

12ビット・インターバル・タイマを使用するときは、必ずビット7 (RTCEN) を1に設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図8-2 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

RTCEN	リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマへのクロック供給の制御	LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力	
		サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択時	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 非選択時
0	クロック供給停止 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用 するSFRへのライト不可 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマはリセット状態	入力クロック, サブシステム・クロック供給停止 ・LCDコントローラ／ドライバ クロック出力／ブザー出力で使用する SFRへのリード／ライト可	入力クロック, メイン・システム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ クロック出力／ブザー出力で使用する SFRへのリード／ライト可
1	クロック供給 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのリード／ライト可	入力クロック, サブシステム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ クロック出力／ブザー出力で使用する SFRへのリード／ライト可	

- 注意1. 12ビット・インターバル・タイマを使用する場合は、入力クロック (f_{RTC}) が発振安定状態において、最初にRTCEN = 1の設定を行ってください。RTCEN = 0の場合は、リアルタイム・クロック, 12ビット・インターバル・タイマの制御レジスタへの書き込みは無視され、読み出し値もすべて初期値となります。(サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) は除く)
2. サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のRTCLPC = 1に設定することにより、STOPモード時およびサブシステム・クロック時HALTモードで、リアルタイム・クロック, 12ビット・インターバル・タイマ, LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へのクロック供給を停止することが可能です。その場合、RTCENビットは1に設定し、PER0レジスタのその他のビット0-6は0に設定してください。
3. ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

8.3.2 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)

WUTMMCK0ビットで12ビット・インターバル・タイマの動作クロックを選択できます。

また、RTCLPCビットは不要なクロック機能を停止させることにより、低消費電力化することを目的としたビットです。RTCLPCビットの設定については、第5章 クロック発生回路を参照してください。

OSMCレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00HIになります。

図8-3 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のフォーマット

アドレス : F00F3H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
OSMC	RTCLPC	0	0	WUTMMCK0	0	0	0	0

WUTMMCK0 注	リアルタイム・クロック, 12ビット・インターバル・タイマ, LCDドライバ/コントローラの動作クロックの選択	クロック出力/ブザー出力のPCLBUZn端子の出力クロック選択
0	サブシステム・クロック (f _{SUB})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択許可
1	低速オンチップ・オシレータ・クロック (f _{IL})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択禁止

注 サブシステム・クロック発振中の場合は、必ずサブシステム・クロックを選択 (WUTMMCK0ビット = 0) にしてください。

注意 WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは、リアルタイム・クロック, 12ビット・インターバル・タイマ, LCDドライバ/コントローラの全ての機能が動作停止中のみ可能です。

各機能の動作停止方法は次のとおりです。

リアルタイム・クロックの停止設定 : RTCE = 0

12ビット・インターバル・タイマの停止設定 : RINTE = 0

LCDドライバ/コントローラの停止設定 : SCOC = 0 かつVLCON = 0

備考 RTCE : リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0) のビット7
 RINTE : インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC) のビット15
 SCOC : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット6
 VLCON : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット5

8.3.3 インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC)

12ビット・インターバル・タイマの動作停止／開始の設定とコンペア値を設定するレジスタです。

ITMCレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、0FFFHになります。

図8-4 インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC) のフォーマット

アドレス : FFF90H リセット時 : 0FFFH R/W

略号	15	14	13	12	11-0
ITMC	RINTE	0	0	0	ITCMP11-ITCMP0

RINTE	12ビット・インターバル・タイマの動作制御
0	カウンタ動作停止 (カウント・クリア)
1	カウンタ動作開始

ITCMP11-ITCMP0	12ビット・インターバル・タイマのコンペア値設定
001H	「カウント・クロック周期 × (ITCMP設定値 + 1)」の定周期割り込みを発生します。
.	
.	
FFFH	設定禁止
000H	
ITCMP11-ITCMP0 = 001H, FFFH設定時の割り込み周期例	
・ ITCMP11-ITCMP0 = 001H, カウント・クロック : $f_{SUB} = 32.768$ kHz時	
$1/32.768$ [kHz] × (1 + 1) = 0.06103515625 [ms] \doteq 61.03 [μ s]	
・ ITCMP11-ITCMP0 = FFFH, カウント・クロック : $f_{SUB} = 32.768$ kHz時	
$1/32.768$ [kHz] × (4095 + 1) = 125 [ms]	

- 注意 1. RINTEビットを1→0に変更する場合は、INTITを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。再度動作開始 (0→1) する場合は、ITIFフラグをクリアしてから割り込み処理許可にしてください。
2. RINTEビットのリード値は、RINTEビット設定後、カウント・クロックの1クロック後に反映されます。
3. スタンバイ・モードから復帰後にRINTEビットを設定して再度スタンバイ・モードに移行する場合は、RINTEビットの書き込み値が反映されたことを確認するか、またはスタンバイ・モードの復帰からのカウント・クロックの1クロック分以上経過後に移行してください。
4. ITCMP11-ITCMP0ビットの設定を変更する場合は、必ずRINTE = 0のときに行ってください。ただし、RINTE = 0→1または1→0に変更すると同時にITCMP11-ITCMP0ビットの設定を変更することは可能です。

8.4 12ビット・インターバル・タイマの動作

8.4.1 12ビット・インターバル・タイマの動作タイミング

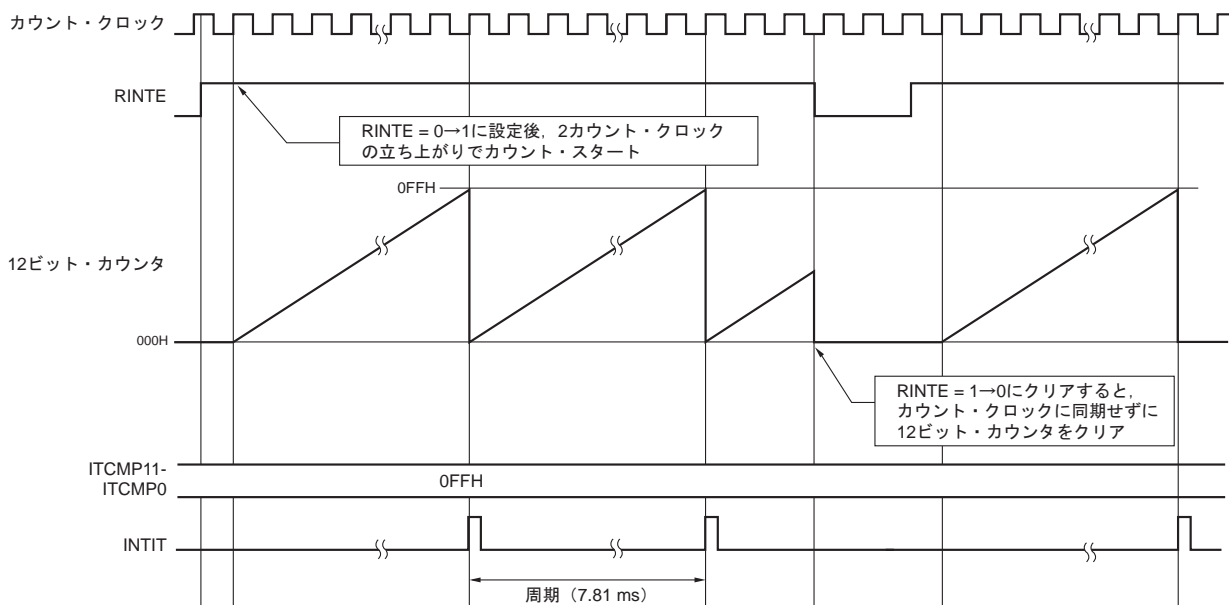
ITCMP11-ITCMP0ビットに設定したカウント値をインターバルとし、繰り返し割り込み要求 (INTIT) を発生する12ビット・インターバル・タイマとして動作します。

RINTEビットを1に設定すると、12ビット・カウンタがカウントを開始します。

12ビット・カウンタ値がITCMP11-ITCMP0ビットに設定した値と一致したとき、12ビット・カウンタの値を0にクリアしてカウントを継続すると同時に、割り込み要求信号 (INTIT) を発生します。

12ビット・インターバル・タイマの基本動作を図8-5に示します。

図8-5 12ビット・インターバル・タイマ動作のタイミング
(ITCMP11-ITCMP0 = 0FFH, カウント・クロック : $f_{SUB} = 32.768$ kHz)

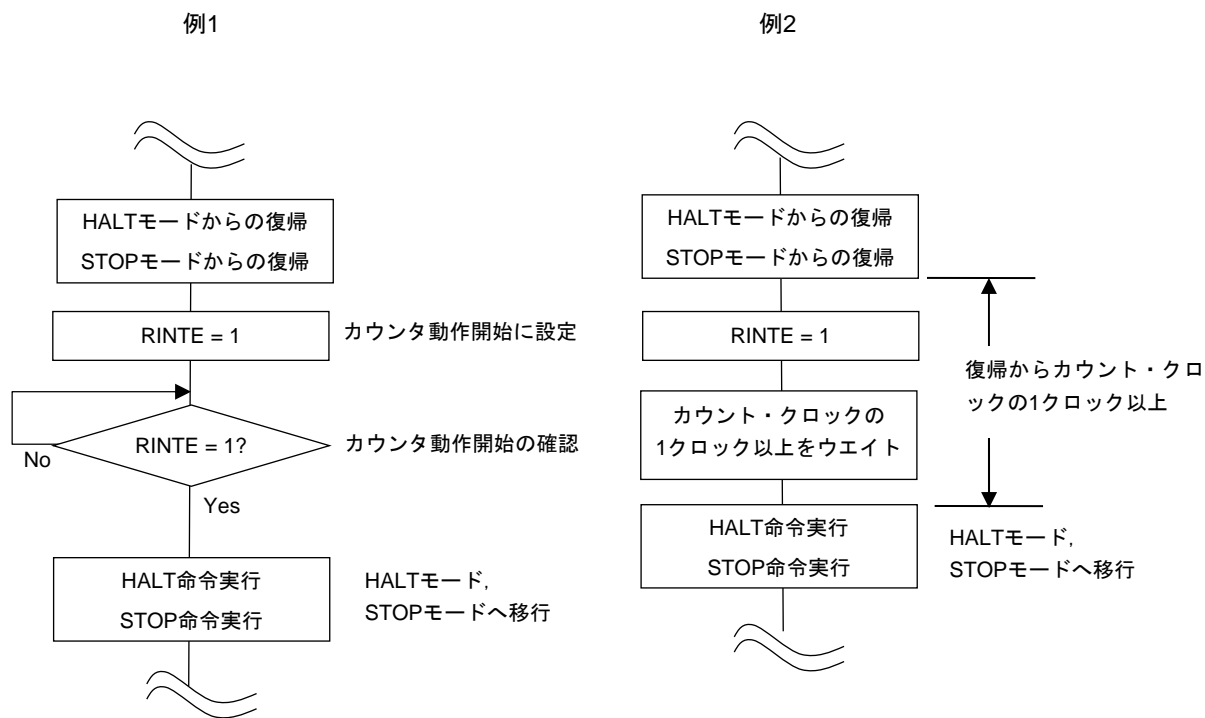


8.4.2 HALT/STOP モードから復帰後にカウンタ動作開始し、再度HALT/STOPモードへの移行

HALTモードもしくはSTOPモードから復帰後にRINTE = 1に設定し、再度HALTモード、STOPモードへ移行する場合は、RINTE = 1に設定してから、RINTEビットの書き込み値が反映されたことを確認するか、復帰からカウント・クロックの1クロック分以上経過後に移行してください。

- ・ RINTE = 1に設定後、RINTEビットが1になるのをポーリングで確認後にHALTモード、STOPモードへ移行する（図8-6 例1参照）。
- ・ RINTE = 1に設定してから、カウント・クロックの1クロック分以上経過後にHALTモード、STOPモードへ移行する（図8-6 例2参照）。

図8-6 RINTE = 1に設定後のHALTモード、STOPモードへの移行手順



第9章 クロック出力／ブザー出力制御回路

クロック出力／ブザー出力制御回路の出力端子数は、製品によって異なります。

出力端子	32ピン製品	44, 48, 52, 64ピン製品
PCLBUZ0	○	○
PCLBUZ1	—	○

注意 この章では、以降の主な説明を64ピン製品の場合で説明しています。

9.1 クロック出力／ブザー出力制御回路の機能

クロック出力はリモコン送信時のキャリア出力や周辺ICに供給するクロックを出力する機能です。また、ブザー出力はブザー周波数の方形波を出力する機能です。

1つの端子で、クロック出力用とブザー出力用のいずれかを選択して出力できます。

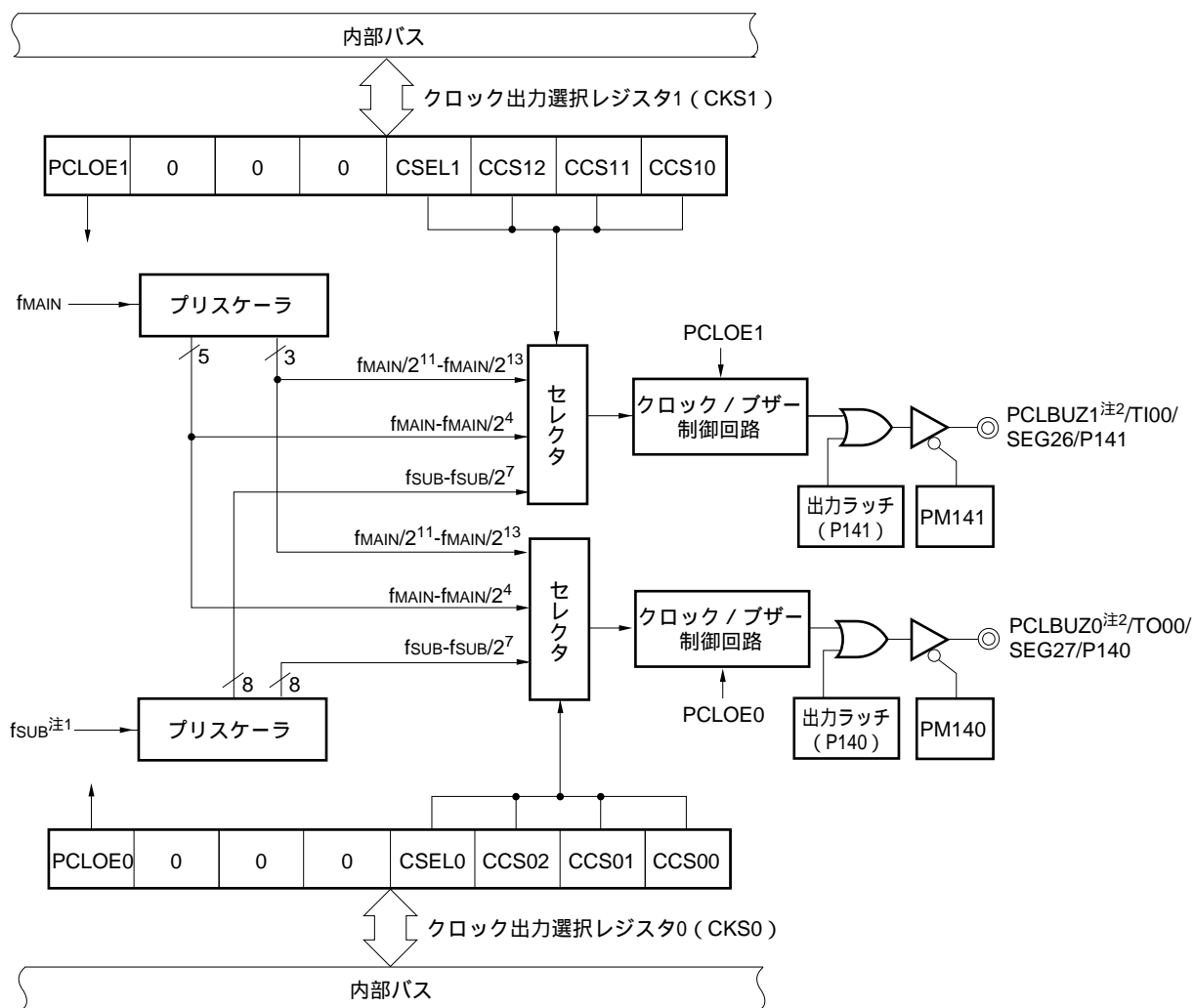
PCLBUZn端子は、クロック出力選択レジスタn (CKSn) で選択したクロックを出力します。

図9-1にクロック出力／ブザー出力制御回路のブロック図を示します。

注意 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のRTCLPC=1かつサブシステム・クロック (f_{SUB}) でCPU動作中のHALTモード時は、PCLBUZn端子から、サブシステム・クロック (f_{SUB}) を出力することはできません。

備考 n = 0, 1

図9-1 クロック出力／ブザー出力制御回路のブロック図



- 注1. OSMCレジスタのWUTMMCK0ビット = 1設定時にクロック出力／ブザー出力の出カクロックとして f_{SUB} を選択することは禁止です。
- 2. PCLBUZ0, PCLBUZ1端子から出力可能な周波数は、30.4 AC特性を参照してください。

備考 この図のPCLBUZ0端子は、48-64ピン製品でPIOR1 = 0の場合です。
 その他の場合は、端子名、出力ラッチ (Pxx), PMxxが異なりますので読み替えてください (xx = 50)。

9.2 クロック出力／ブザー出力制御回路の構成

クロック出力／ブザー出力制御回路は、次のハードウェアで構成されています。

表9-1 クロック出力／ブザー出力制御回路の構成

項目	構成
制御レジスタ	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) クロック出力選択レジスタn (CKSn) ポート・モード・レジスタ5, 14 (PM5, PM14) ポート・レジスタ5, 14 (P5, P14)

9.3 クロック出力／ブザー出力制御回路を制御するレジスタ

クロック出力／ブザー出力制御回路は、次の3種類のレジスタで制御します。

- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・クロック出力選択レジスタn (CKSn)
- ・ポート・モード・レジスタ5, 14 (PM5, PM14)

9.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

クロック出力／ブザー出力制御回路にて、サブシステム・クロック (f_{SUB}) を使用するときは、必ずビット7 (RTCEN) を1に設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図9-2 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

RTCEN	リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマ	LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力	
		サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択時	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 非選択時
0	入力クロック供給停止 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのライト不可 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマはリセット状態	入力クロック, サブシステム・クロック供給停止 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可	入力クロック, メイン・システム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可
1	入力クロック供給 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのリード／ライト可	入力クロック, サブシステム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可	

注意 ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

9.3.2 クロック出力選択レジスタn (CKSn)

クロック出力またはブザー周波数出力の端子 (PCLBUZn) の出力許可／禁止、および出カクロックを設定するレジスタです。

CKSnレジスタで、PCLBUZn端子の出力するクロックを選択します。

CKSnレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00HIになります。

図9-3 クロック出力選択レジスタn (CKSn) のフォーマット

アドレス : FFFA5H (CKS0) , FFFA6 (CKS1) リセット時 : 00H R/W

略号	<input checked="" type="checkbox"/>	6	5	4	3	2	1	0
CKSn	PCLOEn	0	0	0	CSELn	CCSn2	CCSn1	CCSn0

PCLOEn	PCLBUZn端子の出力許可／禁止の指定
0	出力禁止 (デフォルト)
1	出力許可

CSELn	CCSn2	CCSn1	CCSn0	PCLBUZn端子の出力クロックの選択				
				f _{MAIN} = 5 MHz	f _{MAIN} = 10 MHz	f _{MAIN} = 20 MHz	f _{MAIN} = 24 MHz	
0	0	0	0	f _{MAIN}	5 MHz	10 MHz ^{注1}	設定禁止 ^{注1}	設定禁止 ^{注1}
0	0	0	1	f _{MAIN} /2	2.5 MHz	5 MHz	10 MHz ^{注1}	12 MHz ^{注1}
0	0	1	0	f _{MAIN} /2 ²	1.25 MHz	2.5 MHz	5 MHz	6 MHz
0	0	1	1	f _{MAIN} /2 ³	625 kHz	1.25 MHz	2.5 MHz	3 MHz
0	1	0	0	f _{MAIN} /2 ⁴	312.5 kHz	625 kHz	1.25 MHz	1.5 MHz
0	1	0	1	f _{MAIN} /2 ¹¹	2.44 kHz	4.88 kHz	9.77 kHz	11.7 kHz
0	1	1	0	f _{MAIN} /2 ¹²	1.22 kHz	2.44 kHz	4.88 kHz	5.86 kHz
0	1	1	1	f _{MAIN} /2 ¹³	610 Hz	1.22 kHz	2.44 kHz	2.93 kHz
1	0	0	0	f _{SUB} ^{注2}	32.768 kHz			
1	0	0	1	f _{SUB} /2 ^{注2}	16.384 kHz			
1	0	1	0	f _{SUB} /2 ^{2注2}	8.192 kHz			
1	0	1	1	f _{SUB} /2 ^{3注2}	4.096 kHz			
1	1	0	0	f _{SUB} /2 ^{4注2}	2.048 kHz			
1	1	0	1	f _{SUB} /2 ^{5注2}	1.024 kHz			
1	1	1	0	f _{SUB} /2 ^{6注2}	512 Hz			
1	1	1	1	f _{SUB} /2 ^{7注2}	256 Hz			

注1. 出力クロックは、16 MHz以内の範囲で使用してください。また、2.7 V ≤ V_{DD} < 4.0 Vで使用
する場合は、8 MHz以内のみ使用可能です。詳しくは、30.4または31.4 AC特性を参
照してください。

2. OSMCレジスタのWUTMMCK0ビット = 1設定時にクロック出力／ブザー出力の出力ク
ロックとしてf_{SUB}を選択することは禁止です。

注意1. 出力クロックの切り替えは、出力禁止 (PCLOEn = 0) にしてから行ってください。

- メイン・システム・クロック選択時 (CSELn = 0) にSTOPモードに移行する場合は、
STOP命令前にPCLOEn = 0にしてください。サブシステム・クロック選択時 (CSELn
= 1) は、サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のRTCLPC=0
かつSTOPモード時にクロック出力が可能のためPCLOEn = 1に設定可能です。
- サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のRTCLPC=1かつサブシ
ステム・クロック (f_{SUB}) でCPU動作中のHALTモード時は、PCLBUZn端子から、サブ
システム・クロック (f_{SUB}) を出力することはできません。

備考1. n = 0, 1

- f_{MAIN} : メイン・システム・クロック周波数
f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数

9.3.3 ポート・モード・レジスタ5, 14 (PM5, PM14)

ポート5, 14の入力／出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

P50/INTP5/SEG7/(PCLBUZ0), P140/PCLBUZ0/TO00/SEG27, P141/PCLBUZ1/TI00/SEG26端子をクロック出力／ブザー出力機能として使用するとき、PM50, PM140, PM141ビットおよびP50, P140, P141の出力ラッチを0に設定してください。

PM5, PM14レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHになります。

図9-4 ポート・モード・レジスタ5, 14 (PM5, PM14) のフォーマット

アドレス :	FFF25H	リセット時 :	FFH	R/W					
略号	7	6	5	4	3	2	1	0	
PM5	1	1	1	PM54	PM53	PM52	PM51	PM50	

アドレス :	FFF2EH	リセット時 :	FFH	R/W					
略号	7	6	5	4	3	2	1	0	
PM14	PM147	PM146	PM145	PM144	PM143	PM142	PM141	PM140	

PMmn	Pmn端子の入出力モードの選択 (mn = 50-54, 140-147)
0	出力モード (出力バッファ・オン)
1	入力モード (出力バッファ・オフ)

9.4 クロック出力／ブザー出力制御回路の動作

1つの端子で、クロック出力用とブザー出力用のいずれかを選択して出力できます。

PCLBUZ0端子は、クロック出力選択レジスタ0 (CKS0) で選択したクロック／ブザーを出力します。

PCLBUZ1端子は、クロック出力選択レジスタ1 (CKS1) で選択したクロック／ブザーを出力します。

9.4.1 出力端子の動作

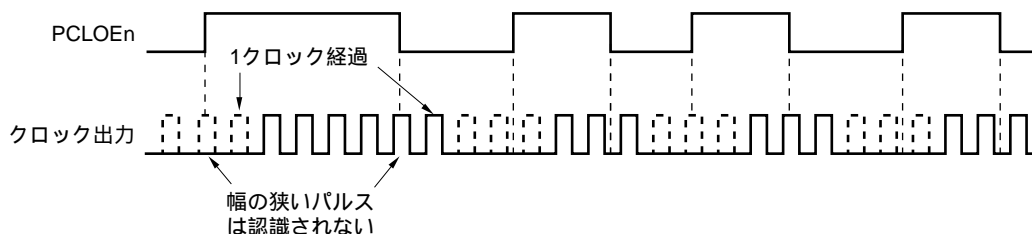
PCLBUZn端子は、次の手順で出力します。

- ① PCLBUZn端子として使用するポートに対応するポート・モード・レジスタ (PMxx) およびポート・レジスタ (Pxx) のビットに0を設定する。
- ② PCLBUZn端子のクロック出力選択レジスタ (CKSn) のビット0-3 (CCSn0-CCSn2, CSELn) で出力周波数を選択する (出力は禁止の状態)。
- ③ CKSnレジスタのビット7 (PCLOEn) に1を設定し、クロック出力／ブザー出力を許可する。

備考1. クロック出力用として使用するときの制御回路は、クロック出力の出力許可／禁止 (PCLOEn ビット) を切り替えてから1クロック後にクロック出力を開始／停止します。このとき幅の狭いパルスは出力されません。PCLOEnビットによる出力の許可／停止とクロック出力のタイミングを図9-5に示します。

2. $n = 0, 1$

図9-5 PCLBUZn端子からのクロック出力のタイミング



9.5 クロック出力／ブザー出力制御回路の注意事項

PCLBUZn出力にメイン・システム・クロックを選択 (CSELn = 0) している場合は、出力停止設定 (PCLOEn = 0) にしてからメイン・システム・クロックの1.5クロック以内にSTOPモードへ移行すると、PCLBUZnの出力幅が短くなります。

第10章 ウォッチドッグ・タイマ

10.1 ウォッチドッグ・タイマの機能

ウォッチドッグ・タイマは、オプション・バイト (000C0H) でカウント動作を設定します。

ウォッチドッグ・タイマは低速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IL}) で動作します。

ウォッチドッグ・タイマはプログラムの暴走を検出するために使用します。暴走検出時、内部リセット信号を発生します。

次の場合、プログラムの暴走と判断します。

- ・ウォッチドッグ・タイマ・カウンタがオーバフローした場合
- ・ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE) に1ビット操作命令を使用した場合
- ・WDTEレジスタに“ACH”以外のデータを書き込んだ場合
- ・ウインドウ・クローズ期間中にWDTEレジスタにデータを書き込んだ場合

ウォッチドッグ・タイマによるリセットが発生した場合、リセット・コントロール・フラグ・レジスタ (RESF) のビット4 (WDTRF) がセット (1) されます。RESFレジスタの詳細については第20章 リセット機能を参照してください。

また、オーバフロー時間の75%+1/2f_{IL}到達時にインターバル割り込みを発生することもできます。

10.2 ウォッチドッグ・タイマの構成

ウォッチドッグ・タイマは、次のハードウェアで構成されています。

表10-1 ウォッチドッグ・タイマの構成

項目	構成
カウンタ	内部カウンタ (17ビット)
制御レジスタ	ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE)

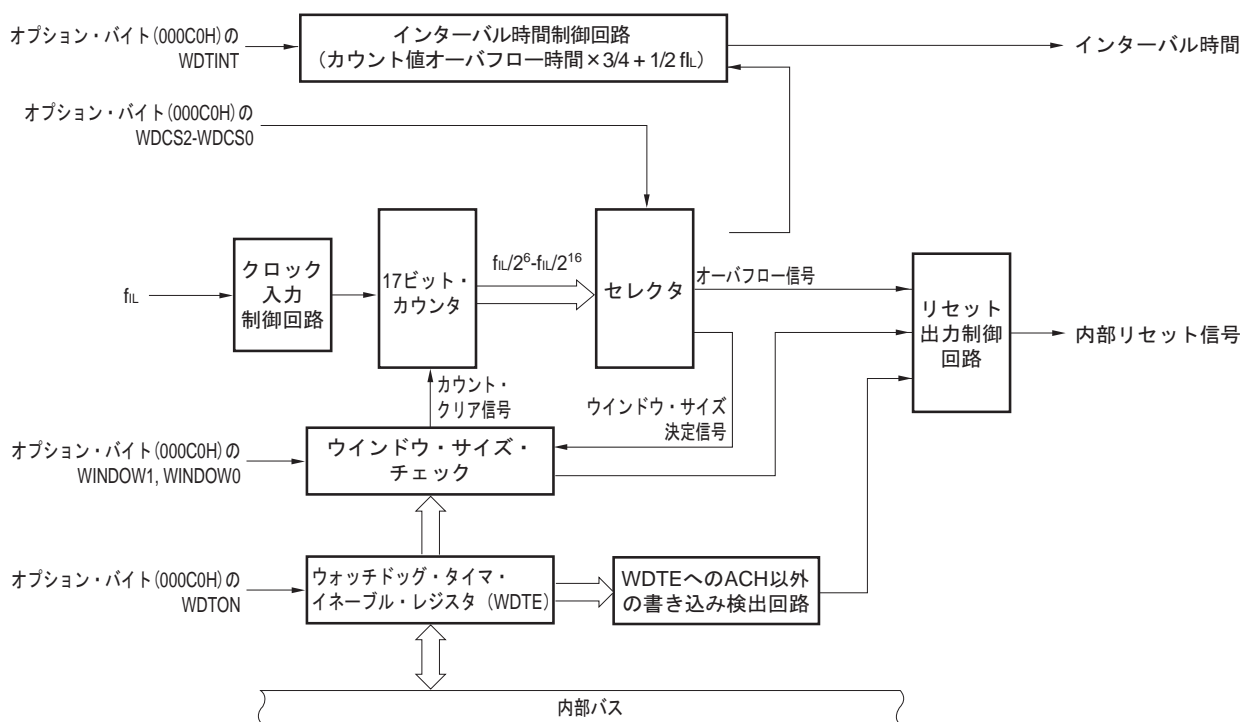
また、オプション・バイトで、カウンタの動作制御、オーバフロー時間の設定、ウインドウ・オープン期間の設定、インターバル割り込みの設定を行います。

表10-2 オプション・バイトとウォッチドッグ・タイマの設定内容

ウォッチドッグ・タイマの設定内容	オプション・バイト (000C0H)
ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定	ビット7 (WDTINT)
ウインドウ・オープン期間設定	ビット6, 5 (WINDOW1, WINDOW0)
ウォッチドッグ・タイマのカウンタ動作制御	ビット4 (WDTON)
ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間設定	ビット3-1 (WDCS2- WDCS0)
ウォッチドッグ・タイマのカウンタ動作制御 (HALT/STOP時)	ビット0 (WDSTBYON)

備考 オプション・バイトについては、第25章 オプション・バイトを参照してください。

図10-1 ウォッチドッグ・タイマのブロック図



備考 f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック

10.3 ウォッチドッグ・タイマを制御するレジスタ

ウォッチドッグ・タイマは、ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE) で制御します。

10.3.1 ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE)

WDTEレジスタに“ACH”を書き込むことにより、ウォッチドッグ・タイマのカウンタをクリアし、再びカウント開始します。

WDTEレジスタは8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、9AHまたは1AH^注になります。

図10-2 ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE) のフォーマット

アドレス : FFFABH リセット時 : 9AH/1AH^注 R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
WDTE								

注 WDTEレジスタのリセット値は、オプション・バイト (000C0H) のWDTONビットの設定値によって、異なります。ウォッチドッグ・タイマを動作する場合は、WDTONビットに1を設定してください。

WDTONビットの設定値	WDTEレジスタのリセット値
0 (ウォッチドッグ・タイマのカウント動作禁止)	1AH
1 (ウォッチドッグ・タイマのカウント動作許可)	9AH

注意1. WDTEレジスタに“ACH”以外の値を書き込んだ場合、内部リセット信号を発生します。

2. WDTEレジスタに1ビット・メモリ操作命令を実行した場合、内部リセット信号を発生します。

3. WDTEレジスタのリード値は、“9AH/1AH” (書き込んだ値 (“ACH”) とは異なる値) になります。

10.4 ウォッチドッグ・タイマの動作

10.4.1 ウォッチドッグ・タイマの動作制御

1. ウォッチドッグ・タイマを使用する場合、オプション・バイト（000C0H）で次の内容を設定します。

・オプション・バイト（000C0H）のビット4（WDTON）を1に設定し、ウォッチドッグ・タイマのカウント動作を許可（リセット解除後、カウンタは動作開始）にしてください（詳細は、第25章を参照）。

WDTON	ウォッチドッグ・タイマのカウンタ
0	カウント動作禁止（リセット解除後、カウント停止）
1	カウント動作許可（リセット解除後、カウント開始）

・オプション・バイト（000C0H）のビット3-1（WDCS2-WDCS0）で、オーバフロー時間を設定してください（詳細は、10.4.2および第25章を参照）。

・オプション・バイト（000C0H）のビット6,5（WINDOW1, WINDOW0）で、ウインドウ・オープン期間を設定してください（詳細は、10.4.3および第25章を参照）。

2. リセット解除後、ウォッチドッグ・タイマはカウント動作を開始します。
 3. カウント動作開始したあと、オプション・バイトで設定したオーバフロー時間前に、ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）に“ACH”を書き込むことにより、ウォッチドッグ・タイマはクリアされ、再度カウント動作を開始します。
 4. 以後、リセット解除後2回目以降のWDTEレジスタへの書き込みについては、ウインドウ・オープン期間中に行ってください。ウインドウ・クローズ期間中に書き込んだ場合、内部リセット信号を発生します。
 5. WDTEレジスタに“ACH”を書き込まずに、オーバフロー時間を越えてしまった場合は、内部リセット信号を発生します。
- また、次の場合も、内部リセット信号を発生します。

- ・WDTEレジスタに1ビット操作命令を使用した場合
- ・WDTEレジスタに“ACH”以外のデータを書き込んだ場合

- 注意1. リセット解除後1回目のウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）への書き込みだけは、ウインドウ・オープン時間に関係なく、オーバフロー時間前であればどのタイミングで行ってもウォッチドッグ・タイマはクリアされ、再度カウント動作を開始します。
2. WDTEレジスタに“ACH”を書き込んでから、ウォッチドッグ・タイマのカウンタがクリアされるまで、最大 f_{IL} の2クロックの誤差が生じる場合があります。
 3. ウォッチドッグ・タイマのクリアは、カウント値がオーバフローする直前まで有効です。

注意4. オプション・バイト (000C0H) のビット0 (WDSTBYON) の設定値により、ウォッチドッグ・タイマのHALT, STOPおよびSNOOZEモード時の動作は、次のように異なります。

	WDSTBYON = 0	WDSTBYON = 1
HALTモード時	ウォッチドッグ・タイマ動作停止	ウォッチドッグ・タイマ動作継続
STOPモード時		
SNOOZEモード時		

WDSTBYON = 0の場合、HALTおよびSTOPモード解除後は、ウォッチドッグ・タイマのカウントを再開します。このとき、カウンタはクリア (0) して、カウント開始します。

STOPモード解除後にX1発振クロックで動作する場合は、CPUは発振安定時間経過後に動作を開始します。

そのため、STOPモード解除後からウォッチドッグ・タイマがオーバーフローするまでの時間が短いと、発振安定時間中にオーバーフローしてリセットが発生します。

よって、インターバル割り込みによるSTOPモード解除後にX1発振クロックで動作し、ウォッチドッグ・タイマをクリアする場合は、発振安定時間経過後にクリアすることになるため、その時間を考慮してオーバーフロー時間を設定してください。

10.4.2 ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定

ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間は、オプション・バイト（000C0H）のビット3-1（WDCS2-WDCS0）で設定します。

オーバフロー時は、内部リセット信号を発生します。オーバフロー時間前の、ウインドウ・オープン期間中にウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）に“ACH”を書き込むことにより、カウントはクリアされ、再度カウント動作を開始します。

設定可能なオーバフロー時間を次に示します。

表10-3 ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定

WDCS2	WDCS1	WDCS0	ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間 ($f_{IL} = 17.25 \text{ kHz (MAX.)}$ の場合)
0	0	0	$2^6/f_{IL}$ (3.71 ms)
0	0	1	$2^7/f_{IL}$ (7.42 ms)
0	1	0	$2^8/f_{IL}$ (14.84 ms)
0	1	1	$2^9/f_{IL}$ (29.68 ms)
1	0	0	$2^{11}/f_{IL}$ (118.72 ms)
1	0	1	$2^{13}/f_{IL}$ (474.89 ms) 注
1	1	0	$2^{14}/f_{IL}$ (949.79 ms) 注
1	1	1	$2^{16}/f_{IL}$ (3799.18 ms) 注

注 下記の使用条件にすべて該当すると、ウォッチドッグ・タイマのカウント・クリアした後、ウォッチドッグ・タイマの1クロック後にウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込み(INTWDTI)が発生する場合があります。この割り込みは、ウォッチドッグ・タイマのカウントクリアを①～⑤の手順で実行することで、マスクする事ができます。

〈使用条件〉

- ・ウォッチドッグ・タイマのオーバフローの時間を $2^{13}/f_{IL}$ 、 $2^{14}/f_{IL}$ または $2^{16}/f_{IL}$ に設定
- ・ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みを使用
- ・ウォッチドッグ・タイマのカウント値がオーバフロー時間で75% 以上の時にWDTE レジスタ(FFFABH)にACH を書き込み

- ① ウォッチドッグ・タイマのカウントクリア前に、割り込みマスク・フラグ・レジスタ0(MK0L)のWDTIMKビットを1にセット
- ② ウォッチドッグ・タイマのカウントをクリア
- ③ 80 μs 以上ウエイト
- ④ 割り込み要求フラグ・レジスタ0(IF0L)のWDTIIFビットを0にクリア
- ⑤ 割り込みマスク・フラグ・レジスタ0(MK0L)のWDTIMKビットを0にクリア

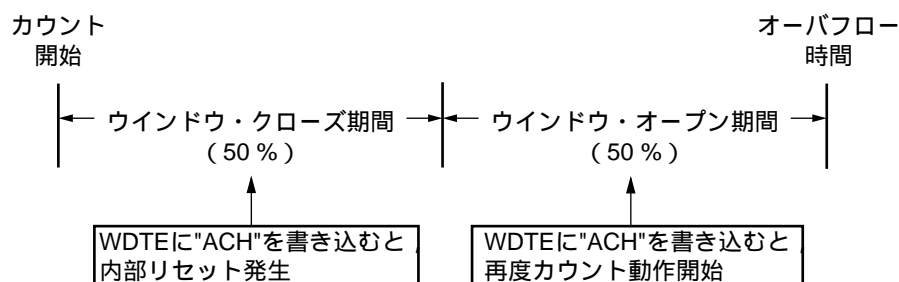
備考 f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

10.4.3 ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定

ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間は、オプション・バイト (000C0H) のビット6, 5 (WINDOW1, WINDOW0) で設定します。ウインドウの概要は次のとおりです。

- ・ウインドウ・オープン期間中は、ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE) に“ACH”を書き込むと、ウォッチドッグ・タイマをクリアし、再度カウント動作を開始します。
- ・ウインドウ・クローズ期間中は、WDTEレジスタに“ACH”を書き込んでも、異常検出され、内部リセットを発生します。

例 ウインドウ・オープン期間が50%の場合



注意 リセット解除後1回目のWDTEレジスタへの書き込みだけは、ウインドウ・オープン時間に関係なく、オーバーフロー時間前であればどのタイミングで行ってもウォッチドッグ・タイマはクリアされ、再度カウント動作を開始します。

設定可能なウィンドウ・オープン期間を次に示します。

表10-4 ウォッチドッグ・タイマのウィンドウ・オープン期間の設定

WINDOW1	WINDOW0	ウォッチドッグ・タイマのウィンドウ・オープン期間
0	0	設定禁止
0	1	50 %
1	0	75 % [※]
1	1	100 %

注 ウィンドウ・オープン期間を75%に設定した時に、ウォッチドッグ・タイマのカウンタ・クリア (WDTEへのACHの書き込み) を行う場合、ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込み要求フラグ (WDTIIF) を確認する等、下表に示すカウンタのクリア禁止期間以外のタイミングで実施してください。

WDCS2	WDCS1	WDCS0	ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間($f_{IL} = 17.25 \text{ kHz (MAX.)}$ の場合)	ウィンドウ・オープン期間を75%に設定した時のカウンタのクリア禁止期間
0	0	0	$2^6/f_{IL}$ (3.71 ms)	1.85 ms~2.51 ms
0	0	1	$2^7/f_{IL}$ (7.42 ms)	3.71 ms~5.02 ms
0	1	0	$2^8/f_{IL}$ (14.84 ms)	7.42 ms~10.04 ms
0	1	1	$2^9/f_{IL}$ (29.68 ms)	14.84 ms~20.08 ms
1	0	0	$2^{11}/f_{IL}$ (118.72 ms)	56.36 ms~80.32 ms
1	0	1	$2^{13}/f_{IL}$ (474.89 ms)	237.44 ms~321.26 ms
1	1	0	$2^{14}/f_{IL}$ (949.79 ms)	474.89 ms~642.51 ms
1	1	1	$2^{16}/f_{IL}$ (3799.18 ms)	1899.59 ms~2570.04 ms

注意 オプション・バイト (000C0H) のビット0 (WDSTBYON) = 0のときは、WINDOW1, WINDOW0ビットの値に関係なく、ウィンドウ・オープン期間100%となります。

備考 オーバフロー時間を $2^9/f_{IL}$ に設定した場合、ウィンドウ・クローズ時間とオープン時間は、次のようになります。

	ウィンドウ・オープン期間の設定		
	50 %	75 %	100 %
ウィンドウ・クローズ時間	0~20.08 ms	0~10.04 ms	なし
ウィンドウ・オープン時間	20.08~29.68 ms	10.04~29.68 ms	0~29.68 ms

<ウィンドウ・オープン期間50 %のとき>

・オーバフロー時間 :

$$2^9/f_{IL} (\text{MAX.}) = 2^9/17.25 \text{ kHz} = 29.68 \text{ ms}$$

・ウィンドウ・クローズ時間 :

$$0 \sim 2^9/f_{IL} (\text{MIN.}) \times (1-0.5) = 0 \sim 2^9/12.75 \text{ kHz} \times 0.5 = 0 \sim 20.08 \text{ ms}$$

・ウィンドウ・オープン時間 :

$$2^9/f_{IL} (\text{MIN.}) \times (1-0.5) \sim 2^9/f_{IL} (\text{MAX.}) = 2^9/12.75 \text{ kHz} \times 0.5 \sim 2^9/17.25 \text{ kHz} \\ = 20.08 \sim 29.68 \text{ ms}$$

10.4.4 ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定

オプション・バイト（000C0H）のビット7（WDTINT）の設定により、オーバフロー時間の75%+1/2f_{IL}到達時にインターバル割り込み（INTWDTI）を発生することができます。

表10-5 ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定

WDTINT	ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの使用／不使用
0	インターバル割り込みを使用しない
1	オーバフロー時間の75%+1/2f _{IL} 到達時にインターバル割り込みを発生する

注意 STOPモード解除後にX1発振クロックで動作する場合は、CPUは発振安定時間経過後に動作を開始します。

そのため、STOPモード解除後からウォッチドッグ・タイマがオーバフローするまでの時間が短いと、発振安定時間中にオーバフローしてリセットが発生します。

よって、インターバル割り込みによるSTOPモード解除後にX1発振クロックで動作し、ウォッチドッグ・タイマをクリアする場合は、発振安定時間経過後にクリアすることになるため、その時間を考慮してオーバフロー時間を設定してください。

備考 INTWDTI発生後も（ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）にACHを書き込むまで）カウントを継続します。オーバフロー時間までにACHが書き込まれない場合は、内部リセット信号を発生します。

第11章 A/Dコンバータ

A/Dコンバータのアナログ入力チャンネル数は、製品によって異なります。

	32ピン	44ピン	48ピン	52, 64ピン
アナログ 入力 チャンネル	4ch (ANI0, ANI1, ANI18, ANI19)	7ch (ANI0, ANI1, ANI17-ANI21)	9ch (ANI0, ANI1, ANI16-ANI22)	10ch (ANI0, ANI1, ANI16-ANI23)

注意 この章では、以降の主な説明を64ピン製品の場合で説明しています。

11.1 A/Dコンバータの機能

A/Dコンバータは、アナログ入力をデジタル値に変換するコンバータで、最大10チャンネルのA/Dコンバータ・アナログ入力 (ANI0, ANI1, ANI16-ANI23) を制御できる構成になっています。A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のADTYPビットにより、10ビット/8ビット分解能を選択できます。

A/Dコンバータには、次のような機能があります。

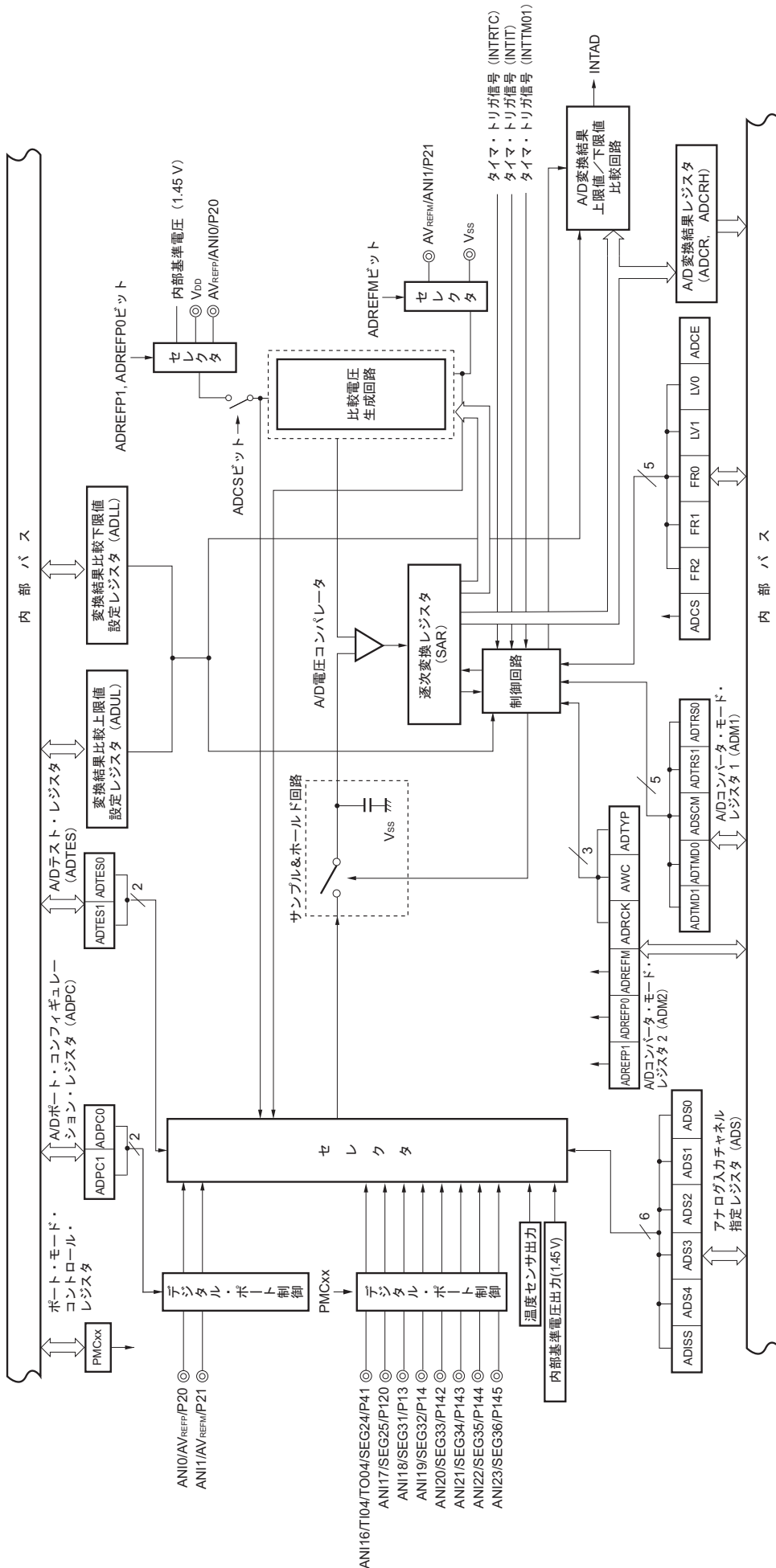
- ・10ビット/8ビット分解能 A/D変換

ANI0, ANI1, ANI16-ANI23からアナログ入力を1チャンネル選択し、10ビット/8ビット分解能のA/D変換動作を繰り返します。A/D変換を1回終了するたびに、割り込み要求 (INTAD) を発生します。

下記のモードの組み合わせにより、様々なA/D変換モードを設定することが可能です。

トリガ・モード	ソフトウェア・トリガ	ソフトウェア操作で、変換動作を開始します。
	ハードウェア・トリガ・ ノーウェイト・モード	ハードウェア・トリガを検出することにより、変換動作を開始します。
	ハードウェア・トリガ・ ウェイト・モード	パワー・オフでの変換待機状態でハードウェア・トリガを検出することにより、パワー・オンとなり、A/D電源安定待ち時間経過後に自動的に変換動作を開始します。SNOOZEモード機能を使用する時は、ハードウェア・トリガ・ウェイト・モードを選択してください。
変換動作モード	ワンショット変換モード	選択したチャンネルを1回A/D変換します。
	連続変換モード	選択したチャンネルをソフトウェアで停止するまで、連続してA/D変換します。
動作電圧モード	標準1/標準2 モード	$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$ の動作電圧範囲で変換動作する時に選択します。
	低電圧1/低電圧2モード	$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$ の動作電圧範囲で変換動作が可能です。低電圧時に変換動作する時に選択します。低電圧動作のため、変換動作時に内部ゲート昇圧しています。
サンプリング時間の 選択	サンプリング・クロック数： 7 f_{AD}	標準1/低電圧1モードのサンプリング時間は、変換クロック (f_{AD}) の7クロックです。アナログ入力源の出カインピーダンスが高くサンプリング時間を長くしたい時に選択します。
	サンプリング・クロック数： 5 f_{AD}	標準2/低電圧2モードのサンプリング時間は、変換クロック (f_{AD}) の5クロックです。アナログ入力源の出カインピーダンスが低いなどサンプリング時間が十分確保できている時に選択します。

図11-1 A/Dコンバータのブロック図



備考 この図のアナログ入力端子は、64ピン製品の場合です。

11.2 A/Dコンバータの構成

A/Dコンバータは、次のハードウェアで構成しています。

(1) ANI0, ANI1, ANI16-ANI23端子

A/Dコンバータの10チャンネルのアナログ入力端子です。A/D変換するアナログ信号を入力します。アナログ入力として選択した端子以外は、入出力ポートとして使用できます。

(2) サンプル&ホールド回路

入力回路から順次送られてくるアナログ入力電圧を1つ1つサンプリングし、A/D電圧コンパレータに送ります。A/D変換動作中は、サンプリングしたアナログ入力電圧を保持します。

(3) A/D電圧コンパレータ

比較電圧生成回路の電圧タップから発生した電圧と、アナログ入力電圧をA/D電圧コンパレータで比較します。比較した結果、アナログ入力電圧がリファレンス電圧 ($1/2 AV_{REF}$) より大きい場合には、逐次変換レジスタ (SAR) の最上位ビット (MSB) をセットします。アナログ入力電圧がリファレンス電圧 ($1/2 AV_{REF}$) より小さい場合には、SARレジスタのMSBビットをリセットします。

次にSARレジスタのビット8が自動的にセットされ、次の比較に移ります。ここではすでに結果がセットされているビット9の値によって、比較電圧生成回路の電圧タップが選択されます。

ビット9 = 0 : ($1/4 AV_{REF}$)

ビット9 = 1 : ($3/4 AV_{REF}$)

比較電圧生成回路の電圧タップとアナログ入力電圧を比較し、その結果でSARレジスタのビット8を操作します。

アナログ入力電圧 \geq 比較電圧生成回路の電圧タップ : ビット8 = 1

アナログ入力電圧 \leq 比較電圧生成回路の電圧タップ : ビット8 = 0

このような比較をSARレジスタのビット0まで続けます。

8ビット分解能でA/D変換する場合は、SARレジスタのビット2まで続けます。

備考 AV_{REF} : A/Dコンバータの+側基準電圧。 AV_{REFP} , 内部基準電圧 (1.45 V), V_{DD} から選択可能です。

(4) 比較電圧生成回路

アナログ入力より入力された電圧の比較電圧を生成します。

(5) 逐次変換レジスタ (SAR : Successive Approximation Register)

SARレジスタは、比較電圧生成回路からの電圧タップの値がアナログ入力端子の電圧値と一致するデータを、最上位ビット (MSB) から1ビットずつ設定するレジスタです。

SARレジスタの最下位ビット (LSB) まで設定すると (A/D変換終了)、そのSARレジスタの内容 (変換結果) は、A/D変換結果レジスタ (ADCR) に保持されます。また、指定されたすべてのA/D変換が終了すると、A/D変換終了割り込み要求信号 (INTAD) が発生します。

(6) 10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR)

A/D変換が終了するたびに、逐次変換レジスタから変換結果がロードされ、A/D変換結果を上位10ビットに保持します (下位6ビットは0に固定)。

(7) 8ビットA/D変換結果レジスタ (ADCRH)

A/D変換が終了するたびに、逐次変換レジスタから変換結果がロードされ、A/D変換結果の上位8ビットを格納します。

(8) 制御回路

A/D変換するアナログ入力の変換時間、変換動作の開始/停止などを制御します。A/D変換が終了した場合、A/D変換結果上限値/下限値比較回路を通りINTADが発生します。

(9) AV_{REFP}端子

外部から基準電圧 (AV_{REFP}) を入力する端子です。

AV_{REFP}をA/Dコンバータの+側基準電圧として使用する場合は、A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のADREFP1ビットに0を、ADREFP0ビットに1を設定してください。

AV_{REFP}と-側基準電圧 (AV_{REFM}/V_{SS}) 間にかかる電圧に基づいて、ANI16-ANI23に入力されるアナログ信号をデジタル信号に変換します。

A/Dコンバータの+側基準電圧には、AV_{REFP}のほかにV_{DD}と内部基準電圧 (1.45 V) を選択することが可能です。

(10) AV_{REFM}端子

外部から基準電圧 (AV_{REFM}) を入力する端子です。AV_{REFM}をA/Dコンバータの-側の基準電圧として使用する場合は、ADM2レジスタのADREFMビットをセット (1) してください。

A/Dコンバータの-側基準電圧には、AV_{REFM}のほかにV_{SS}を選択することが可能です。

11.3 A/Dコンバータで使用するレジスタ

A/Dコンバータは、次のレジスタを使用します。

- ・ 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・ A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)
- ・ A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 (ADM1)
- ・ A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2)
- ・ 10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR)
- ・ 8ビットA/D変換結果レジスタ (ADCRH)
- ・ アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS)
- ・ 変換結果比較上限値設定レジスタ (ADUL)
- ・ 変換結果比較下限値設定レジスタ (ADLL)
- ・ A/Dテスト・レジスタ (ADTES)
- ・ A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC)
- ・ ポート・モード・コントロール・レジスタ1, 4, 12, 14 (PMC1, PMC4, PMC12, PMC14)
- ・ ポート・モード・レジスタ1, 2, 4, 12, 14 (PM1, PM2, PM4, PM12, PM14)

11.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

A/Dコンバータを使用するときは、必ずビット5 (ADCEN) を1に設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00HIになります。

図11-2 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

ADCEN	A/Dコンバータの入カクロックの制御
0	入カクロック供給停止 ・ A/Dコンバータで使用するSFRへのライト不可 ・ A/Dコンバータはリセット状態
1	入カクロック供給 ・ A/Dコンバータで使用するSFRへのリード／ライト可

注意 1. A/Dコンバータの設定をする際には、必ず最初にADCEN = 1の状態、下記のレジスタの設定を行ってください。ADCEN = 0の場合は、A/Dコンバータの制御レジスタへの書き込みは無視され、読み出し値は初期値となります(ポート・モード・レジスタ1, 2, 4, 12, 14 (PM1, PM2, PM4, PM12, PM14) , ポート・モード・コントロール・レジスタ1, 4, 12, 14 (PMC1, PMC4, PMC12, PMC14) , A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) は除く)。

- ・ A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)
- ・ A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 (ADM1)
- ・ A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2)
- ・ 10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR)
- ・ 8ビットA/D変換結果レジスタ (ADCRH)
- ・ アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS)
- ・ 変換結果比較上限値設定レジスタ (ADUL)
- ・ 変換結果比較下限値設定レジスタ (ADLL)
- ・ A/Dテスト・レジスタ (ADTES)

2. ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

11.3.2 A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)

A/D変換するアナログ入力の変換時間、変換動作の開始/停止を設定するレジスタです。

ADM0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図11-3 A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) のフォーマット

アドレス：FFF30H リセット時：00H R/W

略号	[7]	6	5	4	3	2	1	[0]
ADM0	ADCS	0	FR2 ^{注1}	FR1 ^{注1}	FR0 ^{注1}	LV1 ^{注1}	LV0 ^{注1}	ADCE

ADCS	A/D変換動作の制御
0	変換動作停止 [リード時] 変換動作停止/待機状態
1	変換動作許可 [リード時] ソフトウェア・トリガ・モード時：変換動作状態 ハードウェア・トリガ・ウェイト・モード時：安定待ち状態+変換動作状態

ADCE	A/D電圧コンパレータの動作制御 ^{注2}
0	A/D電圧コンパレータの動作停止
1	A/D電圧コンパレータの動作許可

注1. FR2-FR0, LV1, LV0ビットおよびA/D変換に関する詳細は、表11-3 A/D変換時間の選択を参照してください。

- ソフトウェア・トリガ・モード時およびハードウェア・トリガ・ノーウェイト・モード時、A/D電圧コンパレータはADCSビットとADCEビットで動作制御され、動作開始から安定するまでに、安定待ち時間（1.0 μs）がかかります。このため、ADCEビットに1を設定してから安定待ち時間（1.0 μs）以上経過したあとに、ADCSビットに1を設定することで、最初の変換データより有効となります。安定待ち時間（1.0 μs）以上ウェイトしないでADCSビットに1を設定した場合は、最初の変換データを無視してください。

注意 1. FR2-FR0, LV1, LV0ビットの変更は、変換停止状態（ADCS = 0, ADCE = 0）で行ってください。

- ADCS = 1, ADCE = 0の設定は禁止です。
- ADCS = 0, ADCE = 0設定状態から8ビット操作命令でADCS = 1, ADCE = 1に設定することは禁止します。必ず11.7 A/Dコンバータの設定フロー・チャートの手順に従ってください。
- ビット6には必ず“0”を設定してください。

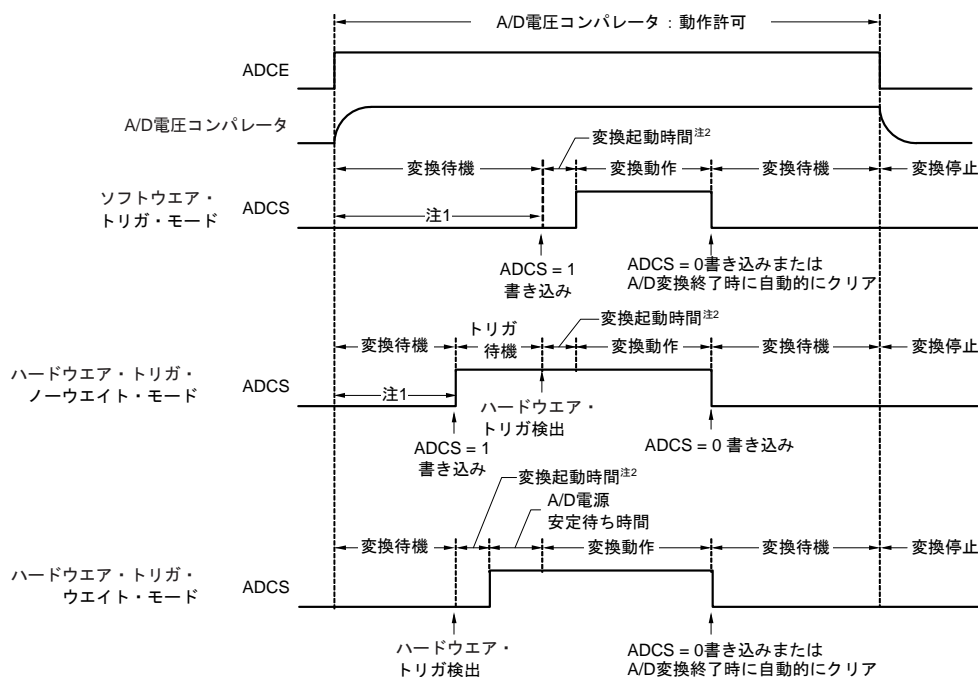
表11-1 ADCSビットとADCEビットの設定

ADCS	ADCE	A/D変換動作
0	0	停止状態
0	1	変換待機モード
1	0	設定禁止
1	1	変換モード

表11-2 ADCSビットのセット/クリア条件

A/D変換モード		セット条件	クリア条件
ソフトウェア・トリガ・モード	連続変換モード	ADCS = 1 ライトした場合	ADCS = 0ライトした場合
	ワンショット変換モード		・ ADCS = 0ライトした場合 ・ AD変換終了時に自動的に“0”にクリア
ハードウェア・トリガ・ノーウェイト・モード	連続変換モード	ハードウェア・トリガが入力された場合	ADCS = 0ライトした場合
	ワンショット変換モード		ADCS = 0ライトした場合
ハードウェア・トリガ・ウェイト・モード	連続変換モード	ハードウェア・トリガが入力された場合	ADCS = 0ライトした場合
	ワンショット変換モード		・ ADCS = 0ライトした場合 ・ AD変換終了時に自動的に“0”にクリア

図11-4 A/D電圧コンパレータ使用時のタイミング・チャート



注1. ソフトウェア・トリガ・モード時およびハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード時、ADCEビットの立ち上がりから、ADCSビットの立ち上がりまでの時間は、内部回路安定のため、1 μ s以上必要です。

2. 変換起動時間には、最大で次の時間がかかります。

ADM0			変換クロック (f_{AD})	変換起動時間 (f_{CLK} クロック数)	
FR2	FR1	FR0		ソフトウェア・トリガ・モード / ハードウェア・トリガ・ ノーウエイト・モード	ハードウェア・トリガ・ ウエイト・モード
0	0	0	$f_{CLK}/64$	63	1
0	0	1	$f_{CLK}/32$	31	
0	1	0	$f_{CLK}/16$	15	
0	1	1	$f_{CLK}/8$	7	
1	0	0	$f_{CLK}/6$	5	
1	0	1	$f_{CLK}/5$	4	
1	1	0	$f_{CLK}/4$	3	
1	1	1	$f_{CLK}/2$	1	

ただし、連続変換モードの2回目以降は、ハードウェア・トリガ検出後に、変換起動時間やA/D電源安定待ち時間は発生しません。

備考 f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数
(注意は次ページにあります。)

- 注意1. ハードウェア・トリガ・ウエイト・モードで使用する場合、ADCSビットに1を設定するのは禁止です（ハードウェア・トリガ信号検出時に、自動的に1に切り替わります）。ただし、AD変換待機状態にするために、ADCSビットに0を設定することは可能です。
2. ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モードでのワンショット変換モード時、AD変換終了時にADCSフラグは、自動的に“0”にクリアされません。“1”のまま保持されます。
3. ADCEビットの書き換えは、ADCS = 0（変換停止／変換待機状態）のときに行ってください。
4. A/D変換を完了させるためには、ハード・トリガ間隔を次の時間以上としてください。
ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード時：fCLKの2クロック＋変換起動時間＋A/D変換時間
ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード時：fCLKの2クロック＋変換起動時間＋A/D電源安定待ち時間＋A/D変換時間

表11-3 A/D変換時間の選択 (1/4)

(1) 安定待ち時間なし 標準モード1, 2

(ソフトウェア・トリガ・モード/ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード)

A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)					モード	変換クロック (f _{AD})	変換クロック数 ^{注3}	変換時間	変換時間の選択							
FR2	FR1	FR0	LV1	LV0					2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V							
									f _{CLK} = 1 MHz	f _{CLK} = 4 MHz	f _{CLK} = 8 MHz	f _{CLK} = 16 MHz	f _{CLK} = 24 MHz			
0	0	0	0	0	標準1	f _{CLK} /64	19 f _{AD} (サンプリング・クロック数 : 7 f _{AD})	1216/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	76 μs	50.6667 μs			
0	0	1				f _{CLK} /32		608/f _{CLK}				76 μs	38 μs	25.3333 μs		
0	1	0				f _{CLK} /16		304/f _{CLK}				76 μs	38 μs	19 μs	12.6667 μs	
0	1	1				f _{CLK} /8		152/f _{CLK}				38 μs	19 μs	9.5 μs	6.3333 μs	
1	0	0				f _{CLK} /6		114/f _{CLK}				28.5 μs	14.25 μs	7.125 μs	4.75 μs	
1	0	1				f _{CLK} /5		95/f _{CLK}				95 μs	23.75 μs	11.875 μs	5.938 μs	3.9583 μs
1	1	0				f _{CLK} /4		76/f _{CLK}				76 μs	19 μs	9.5 μs	4.75 μs	3.1667 μs ^{注1}
1	1	1				f _{CLK} /2		38/f _{CLK}				38 μs	9.5 μs	4.75 μs	2.375 μs ^{注1,2}	設定禁止
0	0	0	0	1	標準2	f _{CLK} /64	17 f _{AD} (サンプリング・クロック数 : 5 f _{AD})	1088/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	68 μs	45.3333 μs			
0	0	1				f _{CLK} /32		544/f _{CLK}				68 μs	34 μs	22.6667 μs		
0	1	0				f _{CLK} /16		272/f _{CLK}				68 μs	34 μs	17 μs	11.3333 μs	
0	1	1				f _{CLK} /8		136/f _{CLK}				34 μs	17 μs	8.5 μs	5.6667 μs	
1	0	0				f _{CLK} /6		102/f _{CLK}				25.5 μs	12.75 μs	6.375 μs	4.25 μs	
1	0	1				f _{CLK} /5		85/f _{CLK}				85 μs	21.25 μs	10.625 μs	5.3125 μs	3.5417 μs
1	1	0				f _{CLK} /4		68/f _{CLK}				68 μs	17 μs	8.5 μs	4.25 μs	2.8333 μs ^{注1,2}
1	1	1				f _{CLK} /2		34/f _{CLK}				34 μs	8.5 μs	4.25 μs	2.125 μs ^{注1,2}	設定禁止

- 注 1. V_{DD} < 3.6 Vでは設定禁止。
 2. 温度センサ使用時は使用禁止。
 3. 10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は、変換クロック (f_{AD}) の2クロック分短くなります。

- 注意 1. A/D変換時間は、30. 6. 1または31. 6. 1 A/Dコンバータ特性に示す変換時間 (t_{CONV}) の範囲内で使用してください。
 2. FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は、変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0)で行ってください。
 3. 変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では、変換起動時間を加算してください。また変換時間は、クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して、変換時間を選択してください。

備考 f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

表11-3 A/D変換時間の選択 (2/4)

(2) 安定待ち時間なし 低電圧モード1, 2^{注1}

(ソフトウェア・トリガ・モード/ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード)

A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)					モード	変換 クロック (f _{AD})	変換 クロック 数 ^{注8}	変換時間	変換時間の選択					
FR2	FR1	FR0	LV1	LV0					1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V		注2	注3	注4	
									f _{CLK} = 1 MHz	f _{CLK} = 4 MHz	f _{CLK} = 8 MHz	f _{CLK} = 16 MHz	f _{CLK} = 24 MHz	
0	0	0	1	0	低電圧1	f _{CLK} /64	19 f _{AD}	1216/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	76 μs	50.6667 μs	
0	0	1				f _{CLK} /32	(サンプリング)	608/f _{CLK}			76 μs	38 μs	25.3333 μs	
0	1	0				f _{CLK} /16	リン	304/f _{CLK}			76 μs	38 μs	19 μs	12.6667 μs
0	1	1				f _{CLK} /8	グ・クロック	152/f _{CLK}			38 μs ^{注7}	19 μs	9.5 μs ^{注6}	6.3333 μs
1	0	0				f _{CLK} /6	ツク数: 7 f _{AD})	114/f _{CLK}			28.5 μs ^{注7}	14.25 μs ^{注6}	7.125 μs ^{注6}	4.75 μs
1	0	1				f _{CLK} /5		95/f _{CLK}	95 μs	23.75 μs ^{注7}	11.875 μs ^{注6}	5.938 μs ^{注6}	3.9587 μs	
1	1	0				f _{CLK} /4		76/f _{CLK}	76 μs	19 μs ^{注7}	9.5 μs ^{注6}	4.75 μs ^{注6}	3.1667 μs ^{注5}	
1	1	1				f _{CLK} /2		38/f _{CLK}	38 μs ^{注7}	9.5 μs ^{注6}	4.75 μs ^{注6}	2.375 μs ^{注5}	設定禁止	
0	0	0	1	1	低電圧2	f _{CLK} /64	17 f _{AD}	1088/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	68 μs	45.3333 μs	
0	0	1				f _{CLK} /32	(サンプリング)	544/f _{CLK}			68 μs	34 μs	22.6667 μs	
0	1	0				f _{CLK} /16	リン	272/f _{CLK}			68 μs	34 μs	17 μs	11.3333 μs
0	1	1				f _{CLK} /8	グ・クロック	136/f _{CLK}			34 μs ^{注7}	17 μs	8.5 μs ^{注6}	5.6667 μs
1	0	0				f _{CLK} /6	ツク数: 5 f _{AD})	102/f _{CLK}			25.5 μs ^{注7}	12.75 μs ^{注6}	6.375 μs ^{注6}	4.25 μs
1	0	1				f _{CLK} /5		85/f _{CLK}	85 μs	21.25 μs ^{注7}	10.625 μs ^{注6}	5.3125 μs ^{注6}	3.5417 μs	
1	1	0				f _{CLK} /4		68/f _{CLK}	68 μs	17 μs ^{注7}	8.5 μs ^{注6}	4.25 μs ^{注6}	2.8333 μs ^{注5}	
1	1	1				f _{CLK} /2		34/f _{CLK}	34 μs ^{注7}	8.5 μs ^{注6}	4.25 μs ^{注6}	2.125 μs ^{注5}	設定禁止	

注1. 温度センサ使用時は使用禁止。

2. 1.8 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V
3. 2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V
4. 2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V
5. V_{DD} < 3.6 Vでは設定禁止。
6. V_{DD} < 2.7 Vでは設定禁止。
7. V_{DD} < 1.8 Vでは設定禁止。
8. 10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は、変換クロック (f_{AD}) の2クロック分短くなります。

注意1. A/D変換時間は、30. 6. 1または31. 6. 1 A/Dコンバータ特性に示す変換時間 (t_{CONV}) の範囲内で使用してください。

2. FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は、変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0)で行ってください。
3. 変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では、変換起動時間を加算してください。また変換時間は、クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して、変換時間を選択してください。

備考 f_{CLK}: CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

表11-3 A/D変換時間の選択 (3/4)

(3) 安定待ち時間あり 標準モード1, 2

(ハードウェア・トリガ・ウェイト・モード^{注1)})

A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)					モード	変換 クロック (f _{AD})	安定待ち クロック 数	変換 クロック 数 ^{注4}	安定待ち 時間+ 変換時間	安定待ち時間+変換時間の選択					
FR2	FR1	FR0	LV1	LV0						2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V					
										f _{CLK} = 1 MHz	f _{CLK} = 4 MHz	f _{CLK} = 8 MHz	f _{CLK} = 16 MHz	f _{CLK} = 24 MHz	
0	0	0	0	0	標準1	f _{CLK} /64	8 f _{AD}	19 f _{AD} (サンプリング・クロック数: 7 f _{AD})	1728/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	108 μs	72 μs	
0	0	1				f _{CLK} /32			864/f _{CLK}			108 μs	54 μs	36 μs	
0	1	0				f _{CLK} /16			432/f _{CLK}			108 μs	54 μs	27 μs	18 μs
0	1	1				f _{CLK} /8			216/f _{CLK}			54 μs	27 μs	13.5 μs	9 μs
1	0	0				f _{CLK} /6			162/f _{CLK}			40.5 μs	20.25 μs	10.125 μs	6.75 μs
1	0	1				f _{CLK} /5			135/f _{CLK}		135 μs	33.75 μs	16.875 μs	8.4375 μs	5.625 μs
1	1	0				f _{CLK} /4			108/f _{CLK}		108 μs	27 μs	13.5 μs	6.75 μs	4.5 μs
1	1	1				f _{CLK} /2			54/f _{CLK}		54 μs	13.5 μs	6.75 μs	3.375 μs ^{注3}	設定禁止
0	0	0	0	1	標準2	f _{CLK} /64	8 f _{AD}	17 f _{AD} (サンプリング・クロック数: 5 f _{AD})	1600/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	100 μs	66.6667 μs	
0	0	1				f _{CLK} /32			800/f _{CLK}			100 μs	50 μs	33.3333 μs	
0	1	0				f _{CLK} /16			400/f _{CLK}			100 μs	50 μs	25 μs	16.6667 μs
0	1	1				f _{CLK} /8			200/f _{CLK}			50 μs	25 μs	12.5 μs	8.3333 μs
1	0	0				f _{CLK} /6			150/f _{CLK}			37.5 μs	18.75 μs	9.375 μs	6.25 μs
1	0	1				f _{CLK} /5			125/f _{CLK}		125 μs	31.25 μs	15.625 μs	7.8125 μs	5.2083 μs
1	1	0				f _{CLK} /4			100/f _{CLK}		100 μs	25 μs	12.5 μs	6.25 μs	4.1667 μs ^{注3}
1	1	1				f _{CLK} /2			50/f _{CLK}		50 μs	12.5 μs	6.25 μs	3.125 μs ^{注3}	設定禁止

- 注 1. 連続変換モードの2回目以降では、ハードウェア・トリガ検出後に、変換起動時間やA/D電源安定待ち時間は発生しません（表11-3 (1/4) 参照）。
2. V_{DD} < 3.6 Vでは設定禁止。
3. 温度センサ使用時は使用禁止。
4. 10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は、変換クロック (f_{AD}) の2クロック分短くなります。

- 注意 1. A/D変換時間は、30. 6. 1または31. 6. 1 A/Dコンバータ特性に示す変換時間 (t_{CONV}) の範囲内で使用してください。なお、変換時間 (t_{CONV}) はA/D電源安定待ち時間を含みません。
2. FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は、変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0)で行ってください。
3. 変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では、変換起動時間を加算してください。また変換時間は、クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して、変換時間を選択してください。
4. ハードウェア・トリガ・ウェイト・モード時の変換時間は、ハードウェア・トリガ検出からの安定待ち時間を含みます。

備考 f_{CLK}: CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

表11-3 A/D変換時間の選択 (4/4)

(4) 安定待ち時間あり 低電圧モード1, 2^{注1}

(ハードウェア・トリガ・ウェイト・モード^{注2})

A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)					モード	変換 クロック (f _{AD})	安定待ち クロック 数	変換 クロック 数 ^{注9}	安定待ち 時間+ 変換時間	安定待ち時間+変換時間の選択					
FR2	FR1	FR0	LV1	LV0						1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V		注3	注4	注5	
										f _{CLK} = 1 MHz	f _{CLK} = 4 MHz	f _{CLK} = 8 MHz	f _{CLK} = 16 MHz	f _{CLK} = 24 MHz	
0	0	0	1	0	低電圧1	f _{CLK} /64	2 f _{AD}	19 f _{AD} (サンプ リン グ・クロ ック数: 7 f _{AD})	1344/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	84 μs	56 μs	
0	0	1							672/f _{CLK}			84 μs	42 μs	28 μs	
0	1	0							336/f _{CLK}	84 μs	42 μs	21 μs	14 μs		
0	1	1							f _{CLK} /8	168/f _{CLK}	42 μs ^{注8}	21 μs	10.5 μs ^{注7}	7 μs	
1	0	0							f _{CLK} /6	126/f _{CLK}	31.25 μs ^{注3}	15.75 μs ^{注7}	7.875 μs ^{注7}	5.25 μs	
1	0	1							f _{CLK} /5	105/f _{CLK}	105 μs	26.25 μs ^{注3}	13.125 μs ^{注7}	6.5625 μs ^{注7}	4.375 μs
1	1	0							f _{CLK} /4	84/f _{CLK}	84 μs	21 μs ^{注8}	10.5 μs ^{注7}	5.25 μs ^{注7}	3.5 μs ^{注6}
1	1	1							f _{CLK} /2	42/f _{CLK}	42 μs ^{注8}	10.5 μs ^{注7}	5.25 μs ^{注7}	2.625 μs ^{注6}	設定禁止
0	0	0	1	1	低電圧2	f _{CLK} /64	2 f _{AD}	17 f _{AD} (サンプ リン グ・クロ ック数: 5 f _{AD})	1216/f _{CLK}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	76 μs	50.6667 μs	
0	0	1							608/f _{CLK}			76 μs	38 μs	25.3333 μs	
0	1	0							304/f _{CLK}	76 μs	38 μs	19 μs	12.6667 μs		
0	1	1							f _{CLK} /8	152/f _{CLK}	38 μs ^{注8}	19 μs	9.5 μs ^{注7}	6.3333 μs	
1	0	0							f _{CLK} /6	114/f _{CLK}	28.5 μs ^{注8}	14.25 μs ^{注7}	7.125 μs ^{注7}	4.75 μs	
1	0	1							f _{CLK} /5	96/f _{CLK}	96 μs	23.75 μs ^{注3}	12 μs ^{注7}	5.938 μs ^{注7}	4.0 μs
1	1	0							f _{CLK} /4	76/f _{CLK}	76 μs	19 μs ^{注8}	9.5 μs ^{注7}	4.75 μs ^{注7}	3.1667 μs ^{注6}
1	1	1							f _{CLK} /2	38/f _{CLK}	38 μs ^{注8}	9.5 μs ^{注7}	4.75 μs ^{注7}	2.375 μs ^{注6}	設定禁止

注1. 温度センサ使用時は使用禁止。

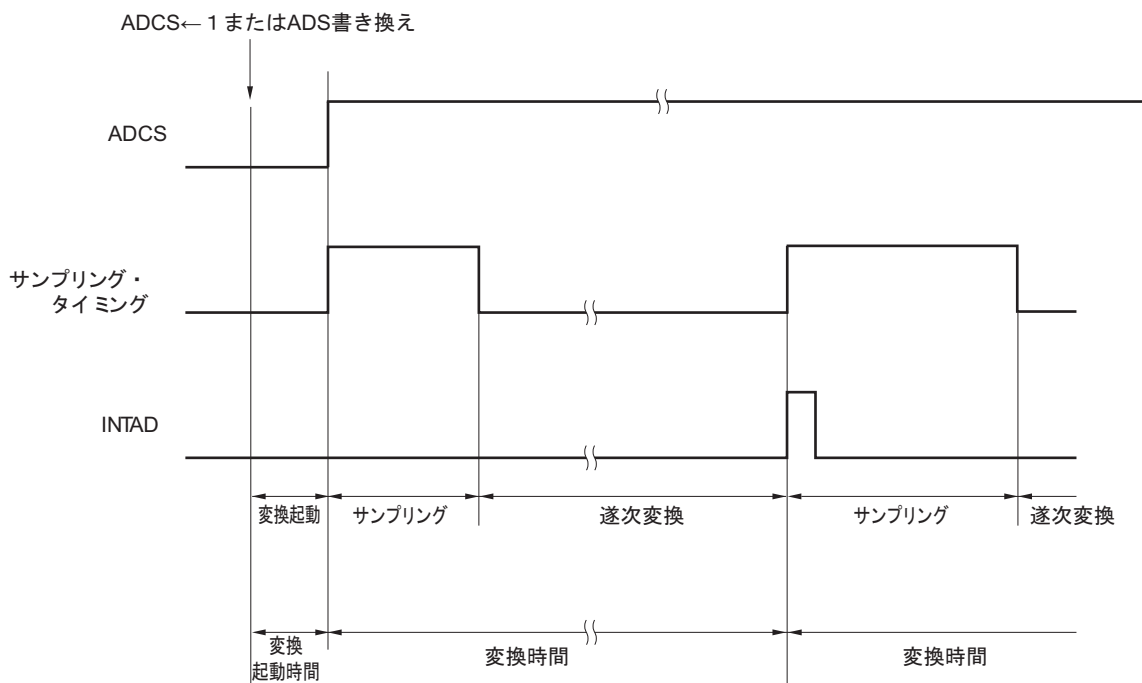
- 連続変換モードの2回目以降では、ハードウェア・トリガ検出後に、変換起動時間やA/D電源安定待ち時間は発生しません(表11-3 (2/4) 参照)。
- 1.8 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V
- 2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V
- 2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V
- V_{DD} < 3.6 Vでは設定禁止。
- V_{DD} < 2.7 Vでは設定禁止。
- V_{DD} < 1.8 Vでは設定禁止。
- 10ビット分解能時の変換クロック数です。8ビット分解能を選択した場合は、変換クロック (f_{AD}) の2クロック分短くなります。

(注意は次ページにあります。)

- 注意 1. A/D変換時間は、30. 6. 1または31. 6. 1 A/Dコンバータ特性に示す変換時間（ t_{CONV} ）の範囲内で使用してください。なお、変換時間（ t_{CONV} ）はA/D電源安定待ち時間を含みません。
- 2. FR2-FR0, LV1, LV0ビットを同一データ以外に書き換える場合は、変換停止状態（ADCS = 0, ADCE = 0）で行ってください。
- 3. 変換時間は変換起動時間を含みません。1回目の変換では、変換起動時間を加算してください。また変換時間は、クロック周波数の誤差を含みません。誤差を考慮して、変換時間を選択してください。
- 4. ハードウェア・トリガ・ウェイト・モード時の変換時間は、ハードウェア・トリガ検出からの安定待ち時間を含みます。

備考 f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

図11-5 A/DコンバータのサンプリングとA/D変換のタイミング（例 ソフトウェア・トリガ・モードの場合）



11.3.3 A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 (ADM1)

A/D変換トリガ、変換モード、ハードウェア・トリガ信号を設定するレジスタです。

ADM1レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図11-6 A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 (ADM1) のフォーマット

アドレス：FFF32H リセット時：00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADM1	ADTMD1	ADTMD0	ADSCM	0	0	0	ADTRS1	ADTRS0

ADTMD1	ADTMD0	A/D変換トリガ・モードの選択
0	×	ソフトウェア・トリガ・モード
1	0	ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード
1	1	ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード

ADSCM	A/D変換動作モードの設定
0	連続変換モード
1	ワンショット変換モード

ADTRS1	ADTRS0	ハードウェア・トリガ信号の選択
0	0	タイマ・チャンネル01のカウンタ完了またはキャプチャ完了割り込み信号 (INTTM01)
0	1	設定禁止
1	0	リアルタイム・クロック割り込み信号 (INTRTC)
1	1	12ビット・インターバル・タイマ割り込み信号 (INTIT)

- 注意1. ADM1レジスタを書き換える場合は、必ず変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0) のときに行ってください。
2. A/D変換を完了させるためには、ハード・トリガ間隔を次の時間以上としてください。
 ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード時： f_{CLK} の2クロック＋変換起動時間＋A/D変換時間
 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード時： f_{CLK} の2クロック＋変換起動時間＋A/D電源安定待ち時間＋A/D変換時間
3. SNOOZE機能以外のモードにおいて、INTRTC, INTIT入力後最大 f_{CLK} の4クロック間は、次のINTRTC, INTIT入力トリガとして有効になりません。

- 備考1. ×：Don't care
2. f_{CLK} ：CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

11.3.4 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2)

A/Dコンバータの+側基準電圧および-側基準電圧の選択、A/D変換結果の上限値/下限値のチェック、分解能の選択、およびSNOOZEモードを設定するレジスタです。

ADM2レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図11-7 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のフォーマット (1/2)

アドレス：F0010H リセット時：00H R/W

略号	7	6	5	4	③	②	1	①
ADM2	ADREFP1	ADREFP0	ADREFM	0	ADRCK	AWC	0	ADTYP

ADREFP1	ADREFP0	A/Dコンバータの+側の基準電圧源の選択
0	0	V _{DD} から供給
0	1	P20/AV _{REFP} /ANI0から供給
1	0	内部基準電圧 (1.45 V) から供給 ^注
1	1	設定禁止

・ ADREFP1, ADREFP0ビットを書き換える場合、次の手順で設定してください。

- ① ADCE = 0に設定
- ② ADREFP1, ADREFP0の値を変更
- ③ 基準電圧安定待ち時間ウェイト (A)
- ④ ADCE = 1に設定
- ⑤ 基準電圧安定待ち時間ウェイト (B)

ADREFP1, ADREFP0 = 1, 0に変更する場合： A = 5 μ s, B = 1 μ s
ADREFP1, ADREFP0 = 0, 0または0, 1に変更する場合： Aはウェイト不要, B = 1 μ s

⑤のウェイトのあとに、A/D変換開始してください。

・ ADREFP1, ADREFP0 = 1, 0に設定した場合、温度センサ出力と内部基準電圧出をA/D変換することはできません。必ずADISS = 0としてA/D変換を行なってください。

ADREFM	A/Dコンバータの-側の基準電圧源の選択
0	V _{SS} から供給
1	P21/AV _{REFM} /ANI1から供給

注 HS (高速メイン) モードでのみ選択可能です。

- 注意 1. ADM2レジスタを書き換える場合は、必ず変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0) のときに行ってください。
2. STOPモードもしくはサブシステム・クロックでCPU動作中にHALTモードへ移行する場合は、ADREFP1 = 1に設定しないでください。内部基準電圧 (ADREFP1, ADREFP0 = 1, 0) 選択時は、30.3.2または31.3.2 電源電流特性に示すA/Dコンバータ基準電圧電流(I_{ADREF})の電流値が加算されます。
3. AV_{REFP}とAV_{REFM}を使用する場合は、ANI0とANI1をアナログ入力に設定し、ポート・モード・レジスタは入力モードに設定してください。

図11-7 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のフォーマット (2/2)

アドレス : F0010H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	③	②	1	①
ADM2	ADREFP1	ADREFP0	ADREFM	0	ADRCK	AWC	0	ADTYP

ADRCK	変換結果上限/下限値チェック
0	ADLLレジスタ ≤ ADCRレジスタ ≤ ADULレジスタ (AREA1) のとき割り込み信号 (INTAD) が発生。
1	ADCRレジスタ < ADLLレジスタ (AREA2), ADULレジスタ < ADCRレジスタ (AREA3) のとき割り込み信号 (INTAD) が発生。
AREA1~AREA3の割り込み信号 (INTAD) 発生範囲を図11-8に示します。	

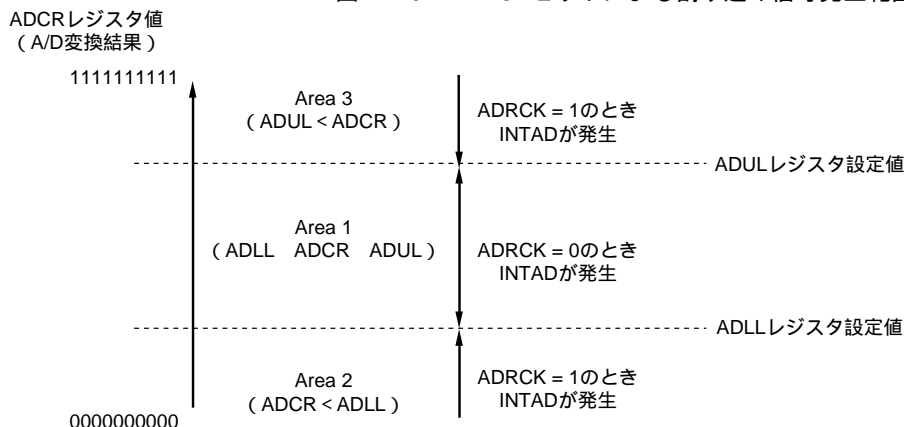
AWC	SNOOZEモードの設定
0	SNOOZEモード機能を使用しない
1	SNOOZEモード機能を使用する
STOPモード中のハードウェア・トリガ信号で、STOPモードを解除し、CPUを動作させることなくA/D変換を行います (SNOOZEモード)。	
<ul style="list-style-type: none"> ・SNOOZEモード機能は、CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{CLK}) に高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されているときのみ設定可能です。高速オンチップ・オシレータ・クロック以外が選択されている場合は設定禁止です。 ・ソフトウェア・トリガ・モード、およびハードウェア・トリガ・ノー・ウェイト・モードでのSNOOZEモード機能は使用禁止です。 ・連続変換モードでのSNOOZEモード機能は使用禁止です。 ・SNOOZEモード機能を使用するとき、ハードウェア・トリガ間隔は、「SNOOZEモードの遷移時間^注+変換起動時間+A/D電源安定待ち時間+A/D変換時間+f_{CLK}の2クロック」以上の間隔を空けて設定してください。 ・SNOOZE機能を使用する場合でも、通常動作モード時はAWCを0に設定し、STOPモードへ移行する直前にAWCを1に変更してください。 	
またSTOPモードから通常動作モードへ復帰後、必ずAWCを0に変更してください。	
AWC = 1のままでは、その後のSNOOZEモード、通常動作モードに関係なく正常にA/D変換が開始されません。	

ADTYP	A/D変換分解能の選択
0	10ビット分解能
1	8ビット分解能

注 19.3.3 SNOOZEモードの「STOPモード→SNOOZEモードの遷移時間」を参照してください。

注意 ADM2レジスタを書き換える場合は、必ず変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0) のときに行ってください。

図11-8 ADRCKビットによる割り込み信号発生範囲



備考 INTADが発生しない場合は、A/D変換結果がADCR, ADCRHレジスタに格納されません。

11.3.5 10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR)

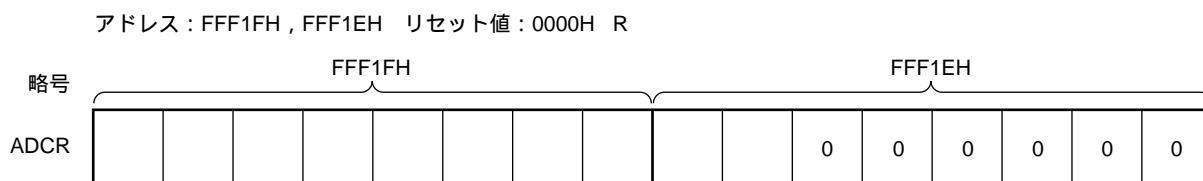
A/D変換結果を保持する16ビットのレジスタです。下位6ビットは“0”固定です。A/D変換が終了するたびに、逐次変換レジスタ (SAR) から変換結果がロードされます。変換結果の上位8ビットがFFF1FHに、下位2ビットがFFF1EHの上位2ビットに格納されます^注。

ADCRレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により、0000Hになります。

注 A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能 (ADRCKビット, ADUL/ADLLレジスタで設定 (図11-8 参照)) で設定した値の範囲外の場合は格納されません。

図11-9 10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR) のフォーマット



- 注意1. A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) , アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS) , A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) に対して書き込み動作を行ったとき, ADCRレジスタの内容は不定となることがあります。変換結果は, 変換動作終了後, ADM0, ADS, ADPCレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。上記以外のタイミングでは, 正しい変換結果が読み出されないことがあります。
- 8ビット分解能A/D変換を選択時 (A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のADTYP = 1) にADCRレジスタをリードした場合, 下位2ビット (ADCR1, ADCR0) は, 0が読み出されます。
 - ADCRレジスタへ16ビット・アクセスした場合, 変換結果上位10ビットがビット15から順に読み出せます。

11.3.6 8ビットA/D変換結果レジスタ (ADCRH)

A/D変換結果を保持する8ビットのレジスタです。10ビット分解能の上位8ビットを格納します^注。

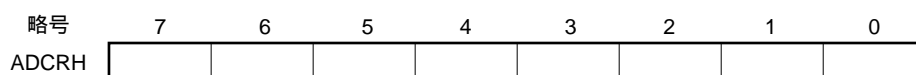
ADCRHレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により、00Hになります。

注 A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能 (ADRCKビット、ADUL/ADLLレジスタで設定 (図11-8 参照)) で設定した値の範囲外の場合は格納されません。

図11-10 8ビットA/D変換結果レジスタ (ADCRH) のフォーマット

アドレス : FFF1FH リセット時 : 00H R



注意 A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)、アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS)、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) に対して書き込み動作を行ったとき、ADCRHレジスタの内容は不定となることがあります。変換結果は、変換動作終了後、ADM0、ADS、ADPCレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。上記以外のタイミングでは、正しい変換結果が読み出されないことがあります。

11.3.7 アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS)

A/D変換するアナログ電圧の入力チャネルを指定するレジスタです。

ADSレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図11-11 アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS) のフォーマット

アドレス : FFF31H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADS	ADISS	0	0	ADS4	ADS3	ADS2	ADS1	ADS0

ADISS	ADS4	ADS3	ADS2	ADS1	ADS0	アナログ入力 チャネル	入力ソース
0	0	0	0	0	0	ANI0	P20/ANI0/AV _{REFF} 端子
0	0	0	0	0	1	ANI1	P21/ANI1/AV _{REFM} 端子
0	1	0	0	0	0	ANI16	P41/ANI16端子
0	1	0	0	0	1	ANI17	P120/ANI17端子
0	1	0	0	1	0	ANI18	P13/ANI18端子
0	1	0	0	1	1	ANI19	P14/ANI19端子
0	1	0	1	0	0	ANI20	P142/ANI20端子
0	1	0	1	0	1	ANI21	P143/ANI21端子
0	1	0	1	1	0	ANI22	P144/ANI22端子
0	1	0	1	1	1	ANI23	P145/ANI23端子
1	0	0	0	0	0	—	温度センサ出力 ^注
1	0	0	0	0	1	—	内部基準電圧出力 (1.45 V) ^注
上記以外						設定禁止	

注 HS (高速メイン) モードのみ使用可能。

注意1. ビット5, 6には必ず0を設定してください。

- ADPC, PMCレジスタでアナログ入力に設定したポートは、ポート・モード・レジスタ1, 2, 4, 12, 14 (PM1, PM2, PM4, PM12, PM14) で入力モードに選択してください。
- A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) でデジタル入出力として設定する端子を、ADSレジスタで設定しないでください。
- ポート・モード・コントロール・レジスタ1, 4, 12, 14 (PMC1, PMC4, PMC12, PMC14) でデジタル入出力として設定する端子を、ADSレジスタで設定しないでください。
- ADISSビットを書き換える場合は、必ず変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0) のときに行ってください。
- AV_{REFF}をA/Dコンバータの+側の基準電圧源として使用している場合、ANI0をA/D変換チャネルとして選択しないでください。
- AV_{REFM}をA/Dコンバータの-側の基準電圧源として使用している場合、ANI1をA/D変換チャネルとして選択しないでください。
- ADISS = 1を設定した場合、+側の基準電圧源に内部基準電圧 (1.45 V) は使用できません。また、ADISS=1に設定後、1回目の変換結果は使用できません。詳細設定フローは、11.7.4 温度センサ出力/内部基準電圧出力を選択時の設定を参照してください。
- STOPモードもしくはサブシステム・クロックでCPU動作中にHALTモードへ移行する場合は、ADISS = 1に設定しないでください。ADISS = 1設定時は、30.3.2または31.3.2 電源電流特性に示すA/Dコンバータ基準電圧電流 (I_{ADREF}) の電流値が加算されます。

11.3.8 変換結果比較上限値設定レジスタ (ADUL)

A/D変換結果対し、上限値をチェックするために設定するレジスタです。

A/D変換結果とADULレジスタ値の比較を行い、A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のADRCCKビットの設定範囲 (図11-8参照) で割り込み信号 (INTAD) の発生を制御します。

ADULレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHになります。

注意 10ビット分解能A/D変換選択時は、10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR) の上位8ビットをADULレジスタと比較します。

図11-12 変換結果比較上限値設定レジスタ (ADUL) のフォーマット

アドレス : F0011H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADUL	ADUL7	ADUL6	ADUL5	ADUL4	ADUL3	ADUL2	ADUL1	ADUL0

11.3.9 変換結果比較下限値設定レジスタ (ADLL)

A/D変換結果対し、下限値をチェックするために設定するレジスタです。

A/D変換結果とADLLレジスタ値の比較を行い、A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のADRCCKビットの設定範囲 (図11-8参照) で割り込み信号 (INTAD) の発生を制御します。

ADLLレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図11-13 変換結果比較下限値設定レジスタ (ADLL) のフォーマット

アドレス : F0012H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADLL	ADLL7	ADLL6	ADLL5	ADLL4	ADLL3	ADLL2	ADLL1	ADLL0

注意1. 10ビット分解能A/D変換選択時は、10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR) の上位8ビットをADLLレジスタと比較します。

2. ADULレジスタおよびADLLレジスタの書き換えは、必ず変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0) のときに行ってください。
3. ADULレジスタおよびADLLレジスタは、ADUL > ADLLになるように設定を行ってください。

11.3.10 A/Dテスト・レジスタ (ADTES)

A/D変換対象にA/Dコンバータの+側の基準電圧、-側の基準電圧、アナログ入力チャネル (ANLxx)、温度センサ出力電圧、内部基準電圧 (1.45V) を選択するレジスタです。

A/Dテスト機能として使用する場合は、以下の設定にします。

- ・ゼロスケールを測定するときは、A/D変換対象に-側の基準電圧を選択。
- ・フルスケールを測定するときは、A/D変換対象に+側の基準電圧を選択。

ADTESレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図11-14 A/Dテスト・レジスタ (ADTES) のフォーマット

アドレス : F0013H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADTES	0	0	0	0	0	0	ADTES1	ADTES0

ADTES1	ADTES0	A/D変換対象
0	0	ANLxx / 温度センサ出力電圧 ^注 / 内部基準電圧 (1.45 V) ^注 (アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS) で設定)
1	0	-側の基準電圧 (ADM2レジスタのADREFMビットで選択)
1	1	+側の基準電圧 (ADM2レジスタのADREFP1, ADREFP0ビットで選択)
上記以外		設定禁止

注 温度センサ出力電圧、内部基準電圧 (1.45V) は、HS (高速メイン) モードでのみ選択可能です。

11.3.11 アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタ

A/Dコンバータのアナログ入力と兼用するポート機能を制御するレジスタ (ポート・モード・レジスタ (PMxx)、ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx)、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC)) を設定してください。詳細は、4.3.1 ポート・モード・レジスタ (PMxx)、4.3.6 ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx)、4.3.7 A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) を参照してください。

ANI0、ANI1端子をA/Dコンバータのアナログ入力として使用するときは、各ポートに対応するポート・モード・レジスタ (PMxx) のビットに1を設定し、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) でアナログ入力に設定してください。

ANI16-ANI23端子をA/Dコンバータのアナログ入力として使用するときは、各ポートに対応するポート・モード・レジスタ (PMxx) とポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx) のビットに1を設定してください。

11.4 A/Dコンバータの変換動作

A/Dコンバータの変換動作を次に示します。

- ① 選択したアナログ入力チャネルに入力している電圧を、サンプル&ホールド回路でサンプリングします。
- ② 一定時間サンプリングを行うとサンプル&ホールド回路はホールド状態となり、サンプリングされた電圧をA/D変換が終了するまで保持します。
- ③ 逐次変換レジスタ（SAR）のビット9をセットし、タップ・セレクタは直列抵抗ストリングの電圧タップを（1/2） AV_{REF} にします。
- ④ 直列抵抗ストリングの電圧タップとサンプリングされた電圧との電圧差をA/D電圧コンパレータで比較します。もし、アナログ入力（1/2） AV_{REF} よりも大きければ、SARレジスタのMSBビットをセットしたままです。また、（1/2） AV_{REF} よりも小さければ、MSBビットはリセットします。
- ⑤ 次にSARレジスタのビット8が自動的にセットし、次の比較に移ります。ここではすでに結果がセットしているビット9の値によって、次に示すように直列抵抗ストリングの電圧タップを選択します。

- ・ ビット9 = 1 : (3/4) AV_{REF}
- ・ ビット9 = 0 : (1/4) AV_{REF}

この電圧タップとサンプリングされた電圧を比較し、その結果でSARレジスタのビット8を次のように操作します。

- ・ サンプリングされた電圧 \geq 電圧タップ : ビット8 = 1
- ・ サンプリングされた電圧 < 電圧タップ : ビット8 = 0

- ⑥ このような比較をSARレジスタのビット0まで続けます。
- ⑦ 10ビットの比較が終了したとき、SARレジスタには有効なデジタルの結果が残り、その値がA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に転送され、ラッチします^{注1}。
同時に、A/D変換終了割り込み要求（INTAD）を発生させることができます^{注1}。
- ⑧ 以降①から⑦までの動作をADCS = 0になるまで繰り返します^{注2}。
A/Dコンバータを停止する場合は、ADCS = 0にしてください。

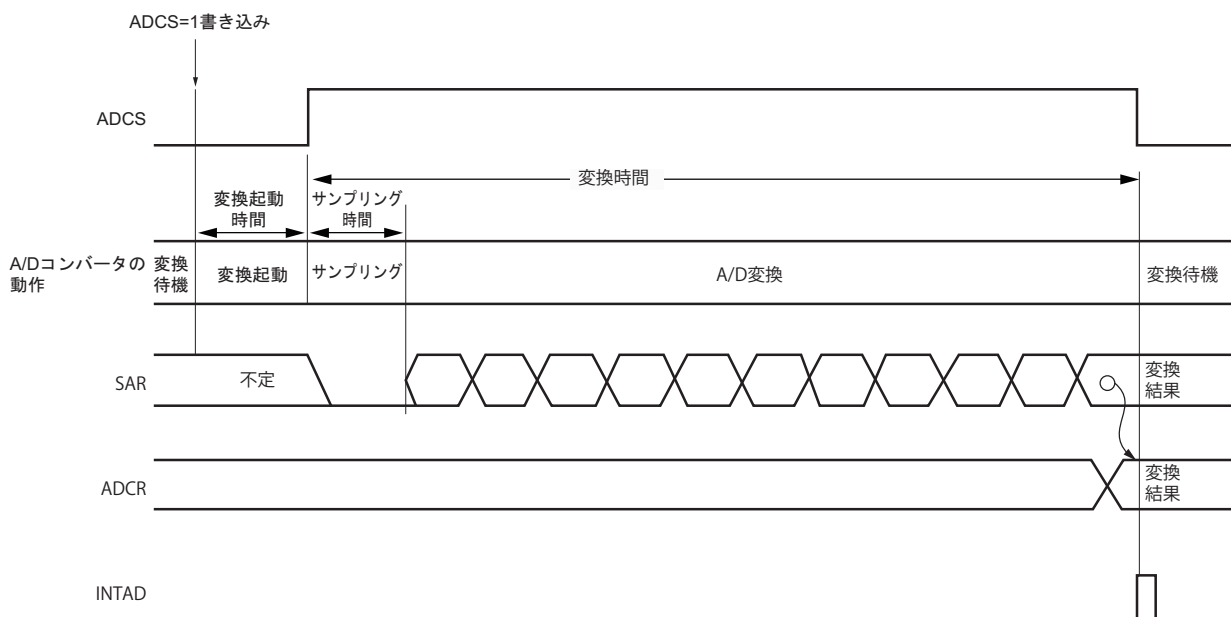
- 注 1. A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット、ADUL/ADLLレジスタで設定（図11-8参照））で設定した値の範囲外の場合、A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）は発生しません。この場合、ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。
2. 連続変換モード時は、ADCSフラグは自動的に“0”にクリアされません。また、ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モードでのワンショット変換モード時でも、ADCSフラグは、自動的に“0”にクリアされません。“1”のまま保持されます。

備考1. A/D変換結果レジスタは2種類あります。

- ・ ADCRレジスタ（16ビット） : 10ビットのA/D変換値を格納します。
- ・ ADCRHレジスタ（8ビット） : 8ビットのA/D変換値を格納します。

2. AV_{REF} : A/Dコンバータの+側基準電圧。 AV_{REFP} , 内部基準電圧（1.45 V）, V_{DD} から選択可能です。

図11-15 A/Dコンバータの変換動作（ソフトウェア・トリガ・モードの場合）



ワンショット変換モード時のA/D変換動作は、A/D変換終了後にADCSビットが自動的にクリア(0)されます。連続変換モード時のA/D変換動作は、ソフトウェアによりA/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) のビット7 (ADCS) をクリア (0) するまで連続的に行われます。

A/D変換動作中に、アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) に対して書き換えおよび上書きすると、現在のA/D変換は中断され、ADSレジスタで再指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。

A/D変換結果レジスタ (ADCR, ADCRH) は、リセット信号の発生により0000Hまた00Hとなります。

11.5 入力電圧と変換結果

アナログ入力端子（ANI0, ANI1, ANI16-ANI23）に入力されたアナログ入力電圧と理論上のA/D変換結果（10ビットA/D変換結果レジスタ（ADCR））には次式に示す関係があります。

$$SAR = INT \left(\frac{V_{AIN}}{AV_{REF}} \times 1024 + 0.5 \right)$$

$$ADCR = SAR \times 64$$

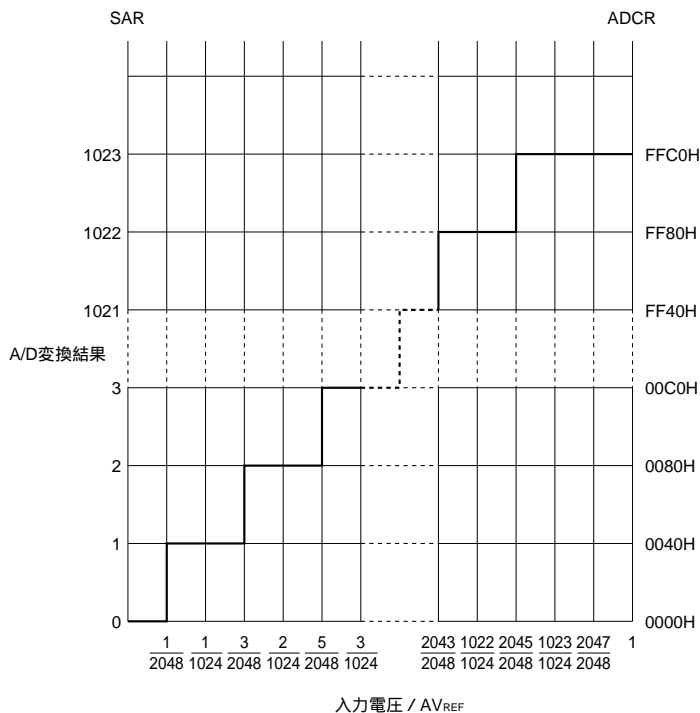
または、

$$\left(\frac{ADCR}{64} - 0.5 \right) \times \frac{AV_{REF}}{1024} \leq V_{AIN} < \left(\frac{ADCR}{64} + 0.5 \right) \times \frac{AV_{REF}}{1024}$$

- INT () : () 内の値の整数部を返す関数
- V_{AIN} : アナログ入力電圧
- AV_{REF} : AV_{REF}端子電圧
- ADCR : A/D変換結果レジスタ（ADCR）の値
- SAR : 逐次変換レジスタ

図11-16にアナログ入力電圧とA/D変換結果の関係を示します。

図11-16 アナログ入力電圧とA/D変換結果の関係



備考 AV_{REF} : A/Dコンバータの+側基準電圧。AV_{REFP}, 内部基準電圧（1.45 V）, V_{DD}から選択可能です。

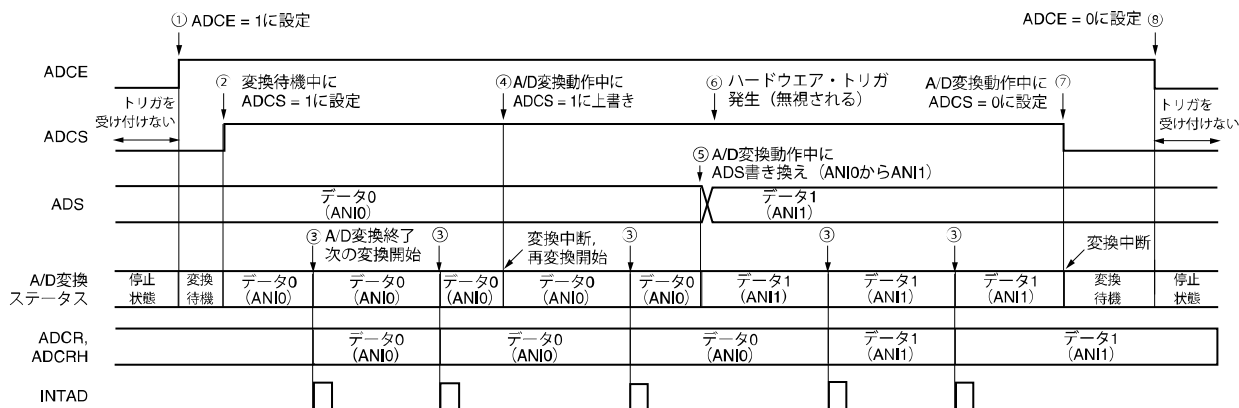
11.6 A/Dコンバータの動作モード

A/Dコンバータの各モードの動作を次に示します。また、各モードの設定手順を11.7 A/Dコンバータの設定フロー・チャートに示します。

11.6.1 ソフトウェア・トリガ・モード（連続変換モード）

- ① 停止状態で、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し、A/D変換待機状態となります。
- ② ソフトウェアで安定待ち時間（1.0 μ s）をカウント後、ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで、アナログ入力チャンネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。
- ③ A/D変換が終了すると、変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し、A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。A/D変換終了後は、すぐに次のA/D変換を開始します。
- ④ 変換動作中にADCS = 1を上書きすると、現在のA/D変換は中断され、再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑤ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると、現在のA/D変換は中断され、ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑥ 変換動作中にハードウェア・トリガが入力されても、A/D変換は開始しません。
- ⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると、現在のA/D変換は中断され、A/D変換待機状態となります。
- ⑧ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると、A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき、ADCS = 1に設定しても無視され、A/D変換は開始しません。

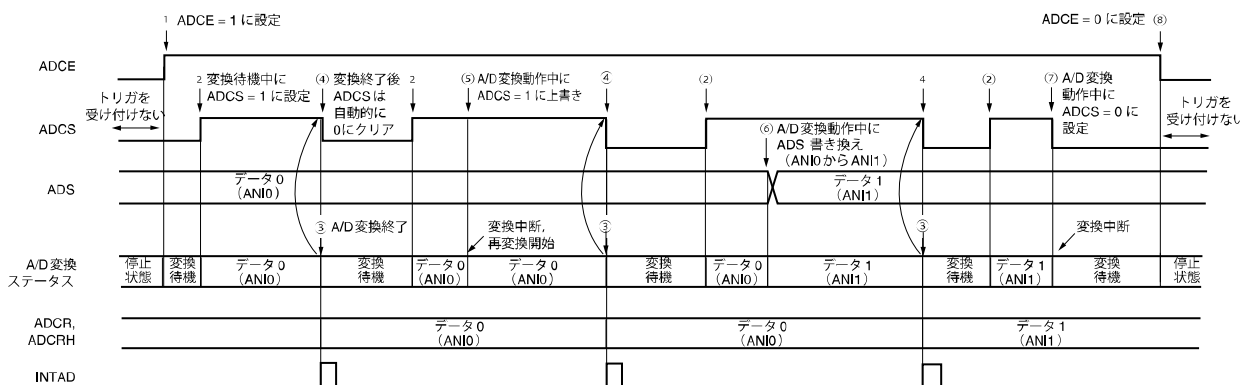
図11-17 ソフトウェア・トリガ・モード（連続変換モード）動作タイミング例



11.6.2 ソフトウェア・トリガ・モード（ワンショット変換モード）

- ① 停止状態で、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し、A/D変換待機状態となります。
- ② ソフトウェアで安定待ち時間（1.0 μs）をカウント後、ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで、アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。
- ③ A/D変換が終了すると、変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し、A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。
- ④ A/D変換が終了後、ADCSビットは自動的に0にクリアされ、A/D変換待機状態となります。
- ⑤ 変換動作中にADCS = 1を上書きすると、現在のA/D変換は中断され、再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると、現在のA/D変換は中断され、ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると、現在のA/D変換は中断され、A/D変換待機状態となります。
- ⑧ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると、A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき、ADCS = 1に設定しても無視され、A/D変換は開始しません。A/D変換待機中にハードウェア・トリガが入力されても、A/D変換は開始しません。

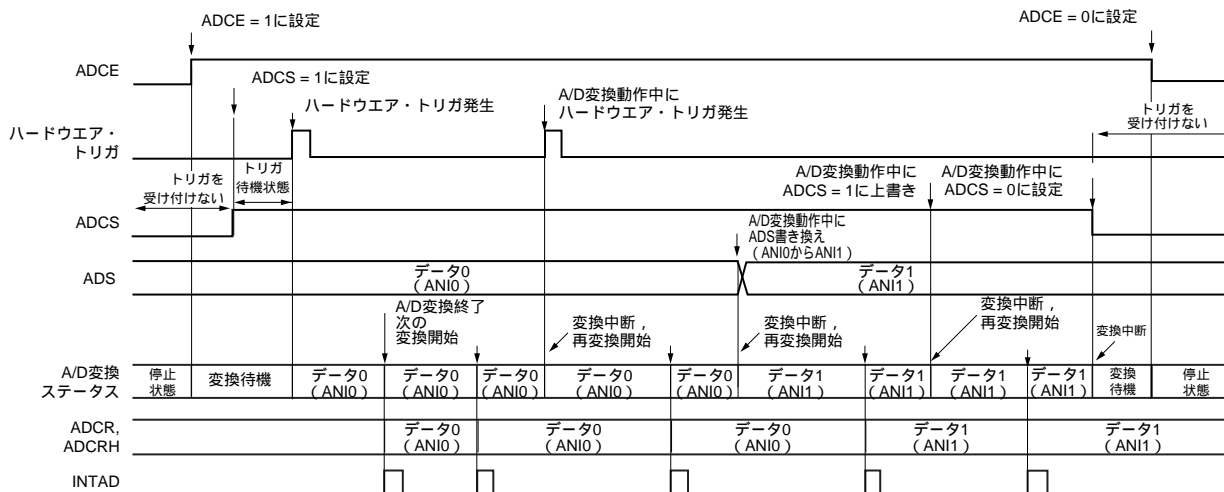
図11-18 ソフトウェア・トリガ・モード（ワンショット変換モード）動作タイミング例



11.6.3 ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード（連続変換モード）

- ① 停止状態で、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) のADCE = 1に設定し、A/D変換待機状態となります。
- ② ソフトウェアで安定待ち時間 (1.0 μ s) をカウント後、ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで、ハードウェア・トリガ待機状態となります (この段階では変換を開始しません)。なお、ハードウェア・トリガ待機状態のとき、ADCS = 1に設定しても、A/D変換は開始しません。
- ③ ADCS = 1の状態では、ハードウェア・トリガが入力されると、アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS) で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。
- ④ A/D変換が終了すると、変換結果をA/D変換結果レジスタ (ADCR, ADCRH) に格納し、A/D変換終了割り込み要求信号 (INTAD) を発生します。A/D変換終了後は、すぐに次のA/D変換を開始します。
- ⑤ 変換動作中にハードウェア・トリガが入力された場合、現在のA/D変換は中断され、再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると、現在のA/D変換は中断され、ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑦ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると、現在のA/D変換は中断され、再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑧ 変換動作中にADCS = 0に設定すると、現在のA/D変換は中断され、A/D変換待機状態となります。ただし、この状態でA/Dコンバータは停止状態になりません。
- ⑨ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると、A/Dコンバータは停止状態になります。ADCS = 0のとき、ハードウェア・トリガが入力されても無視され、A/D変換は開始しません。

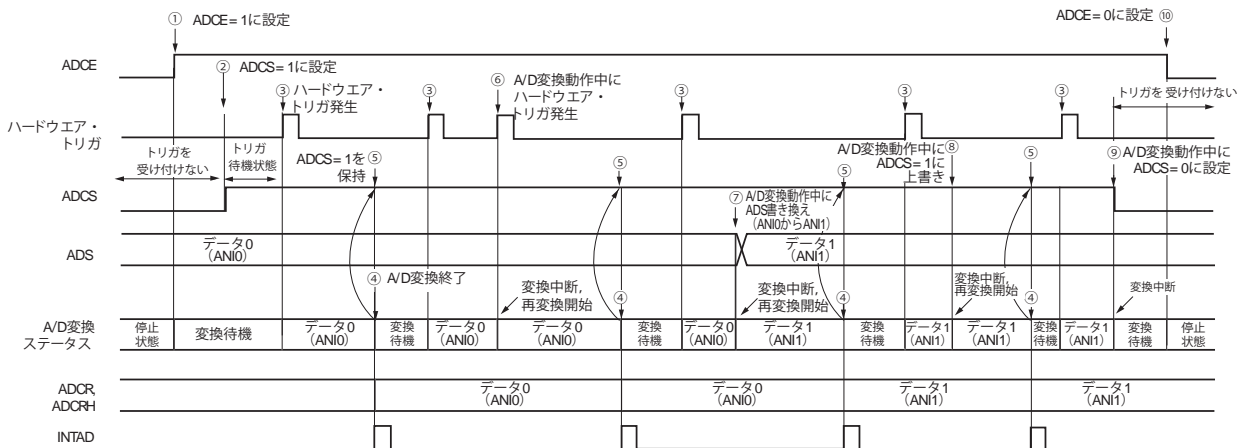
図11-19 ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード（連続変換モード）動作タイミング例



11.6.4 ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード（ワンショット変換モード）

- ① 停止状態で、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のADCE = 1に設定し、A/D変換待機状態となります。
- ② ソフトウェアで安定待ち時間（1.0 μ s）をカウント後、ADM0レジスタのADCS = 1に設定することで、ハードウェア・トリガ待機状態となります（この段階では変換を開始しません）。なお、ハードウェア・トリガ待機状態のとき、ADCS = 1に設定しても、A/D変換は開始しません。
- ③ ADCS = 1の状態では、ハードウェア・トリガが入力されると、アナログ入力チャネル指定レジスタ（ADS）で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。
- ④ A/D変換が終了すると、変換結果をA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）に格納し、A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。
- ⑤ A/D変換が終了後、ADCSビットは1の設定のまま、A/D変換待機状態となります。
- ⑥ 変換動作中にハードウェア・トリガが入力された場合、現在のA/D変換は中断され、再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑦ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると、現在のA/D変換は中断され、ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑧ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると、現在のA/D変換は中断され、再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑨ 変換動作中にADCS = 0に設定すると、現在のA/D変換は中断され、A/D変換待機状態となります。ただし、この状態でA/Dコンバータは停止状態になりません。
- ⑩ A/D変換待機中にADCE = 0に設定すると、A/Dコンバータは停止状態となります。ADCS = 0のとき、ハードウェア・トリガが入力されても無視され、A/D変換は開始しません。

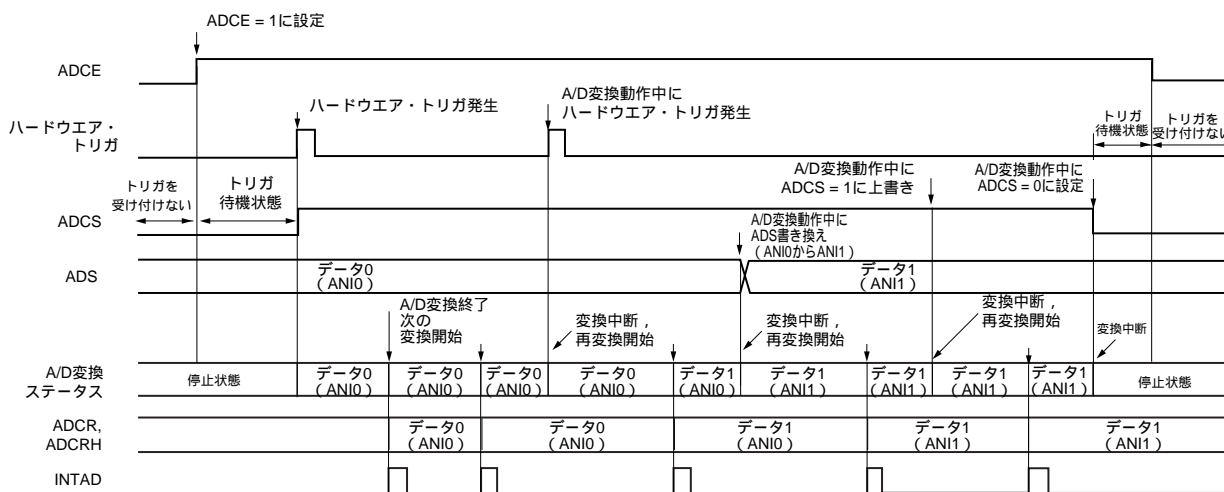
図11-20 ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード（ワンショット変換モード）動作タイミング例



11.6.5 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード（連続変換モード）

- ① 停止状態で、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) のADCE = 1に設定し、ハードウェア・トリガ待機状態となります。
- ② ハードウェア・トリガ待機状態で、ハードウェア・トリガが入力されると、アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。ハードウェア・トリガの入力に合わせて、自動的にADM0レジスタのADCS = 1に設定されます。
- ③ A/D変換が終了すると、変換結果をA/D変換結果レジスタ (ADCR, ADCRH) に格納し、A/D変換終了割り込み要求信号 (INTAD) を発生します。A/D変換終了後は、すぐに次のA/D変換を開始します（このとき、ハードウェア・トリガは不要です）。
- ④ 変換動作中にハードウェア・トリガが入力された場合、現在のA/D変換は中断され、再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑤ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると、現在のA/D変換は中断され、ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑥ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると、現在のA/D変換は中断され、再変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑦ 変換動作中にADCS = 0に設定すると、現在のA/D変換は中断され、ハードウェア・トリガ待機状態となり、A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき、ハードウェア・トリガが入力されても無視され、A/D変換は開始しません。

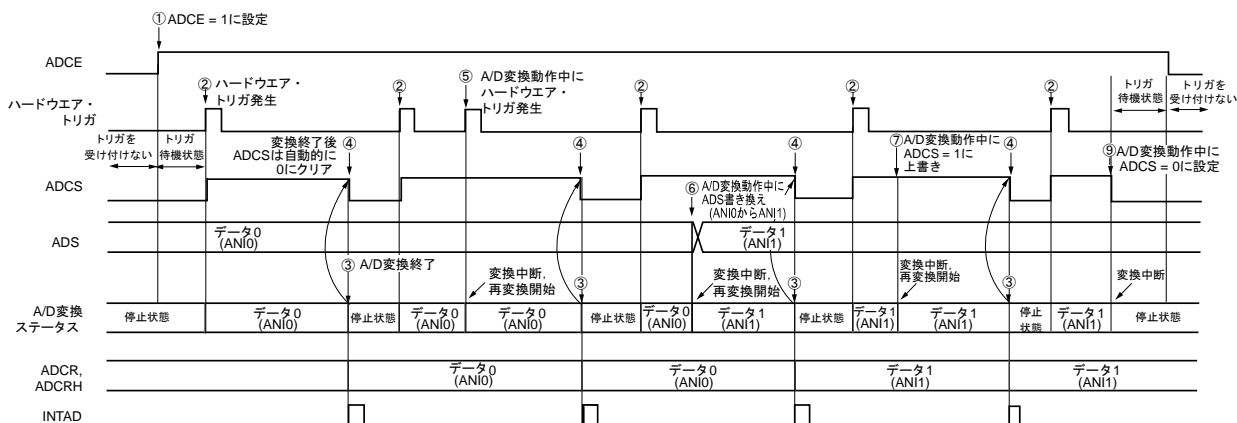
図11-21 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード（連続変換モード）動作タイミング例



11.6.6 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード（ワンショット変換モード）

- ① 停止状態で、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) のADCE = 1に設定し、ハードウェア・トリガ待機状態となります。
- ② ハードウェア・トリガ待機状態で、ハードウェア・トリガが入力されると、アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) で指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。ハードウェア・トリガの入力に合わせて、自動的にADM0レジスタのADCS = 1に設定されます。
- ③ A/D変換が終了すると、変換結果をA/D変換結果レジスタ (ADCR, ADCRH) に格納し、A/D変換終了割り込み要求信号 (INTAD) を発生します。
- ④ A/D変換が終了後、ADCSビットは自動的に0にクリアされ、A/Dコンバータは停止状態になります。
- ⑤ 変換動作中にハードウェア・トリガが入力された場合、現在のA/D変換は中断され、再変換を開始します。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑥ 変換動作中にADSレジスタを書き換えおよび上書きすると、現在のA/D変換は中断され、ADSレジスタで再度指定されたアナログ入力のA/D変換を行います。変換動作途中のデータは破棄されます。
- ⑦ 変換動作中にADCS = 1に上書きすると、現在のA/D変換は中断され、再変換を行います。変換動作途中のデータは初期化されます。
- ⑧ 変換動作中にADCS = 0に設定すると、現在のA/D変換は中断され、ハードウェア・トリガ待機状態となり、A/Dコンバータは停止状態になります。ADCE = 0のとき、ハードウェア・トリガが入力されても無視され、A/D変換は開始しません。

図11-22 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード（ワンショット変換モード）動作タイミング例

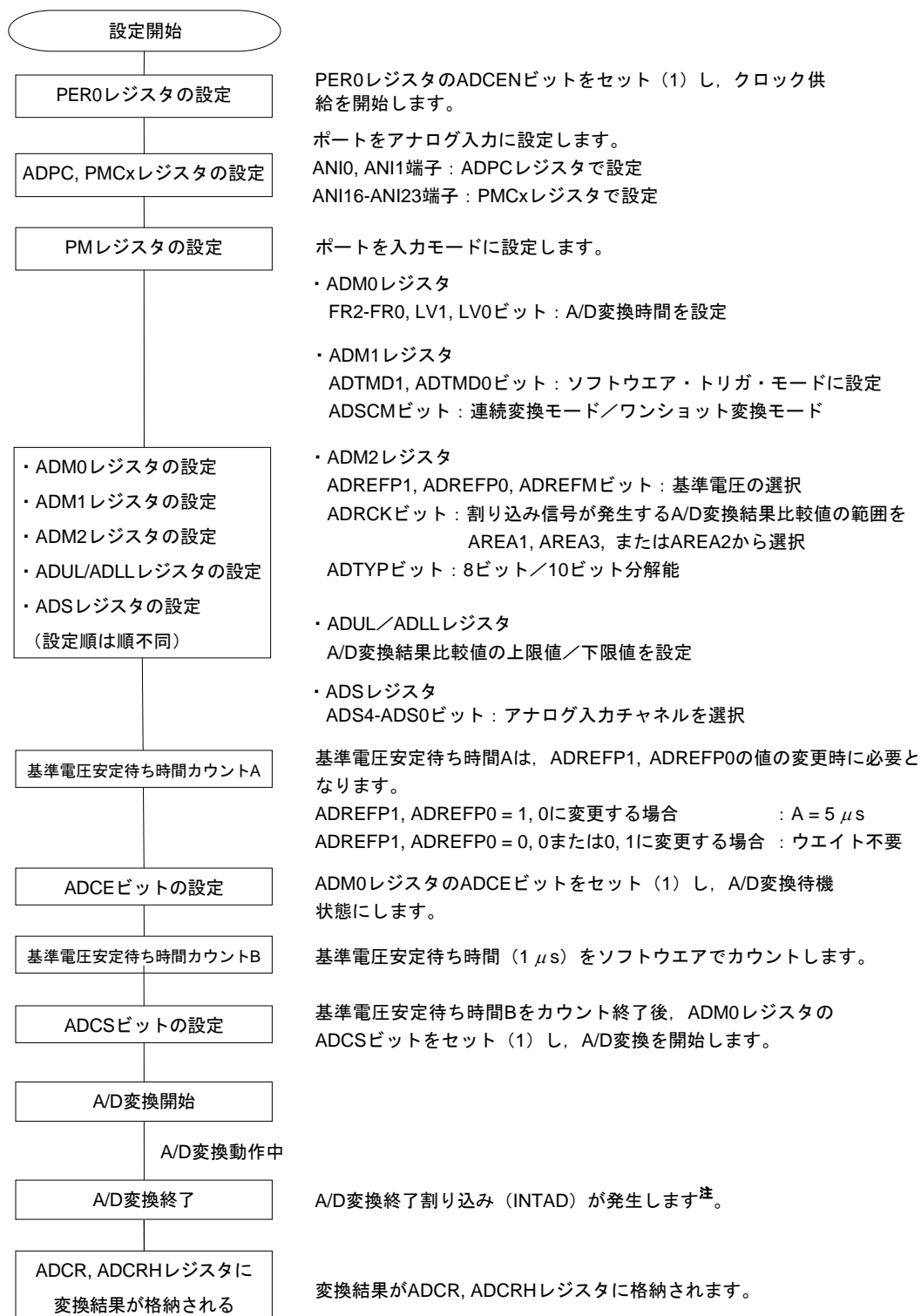


11.7 A/Dコンバータの設定フロー・チャート

各動作モード時のA/Dコンバータの設定フロー・チャートを次に示します。

11.7.1 ソフトウェア・トリガ・モード設定

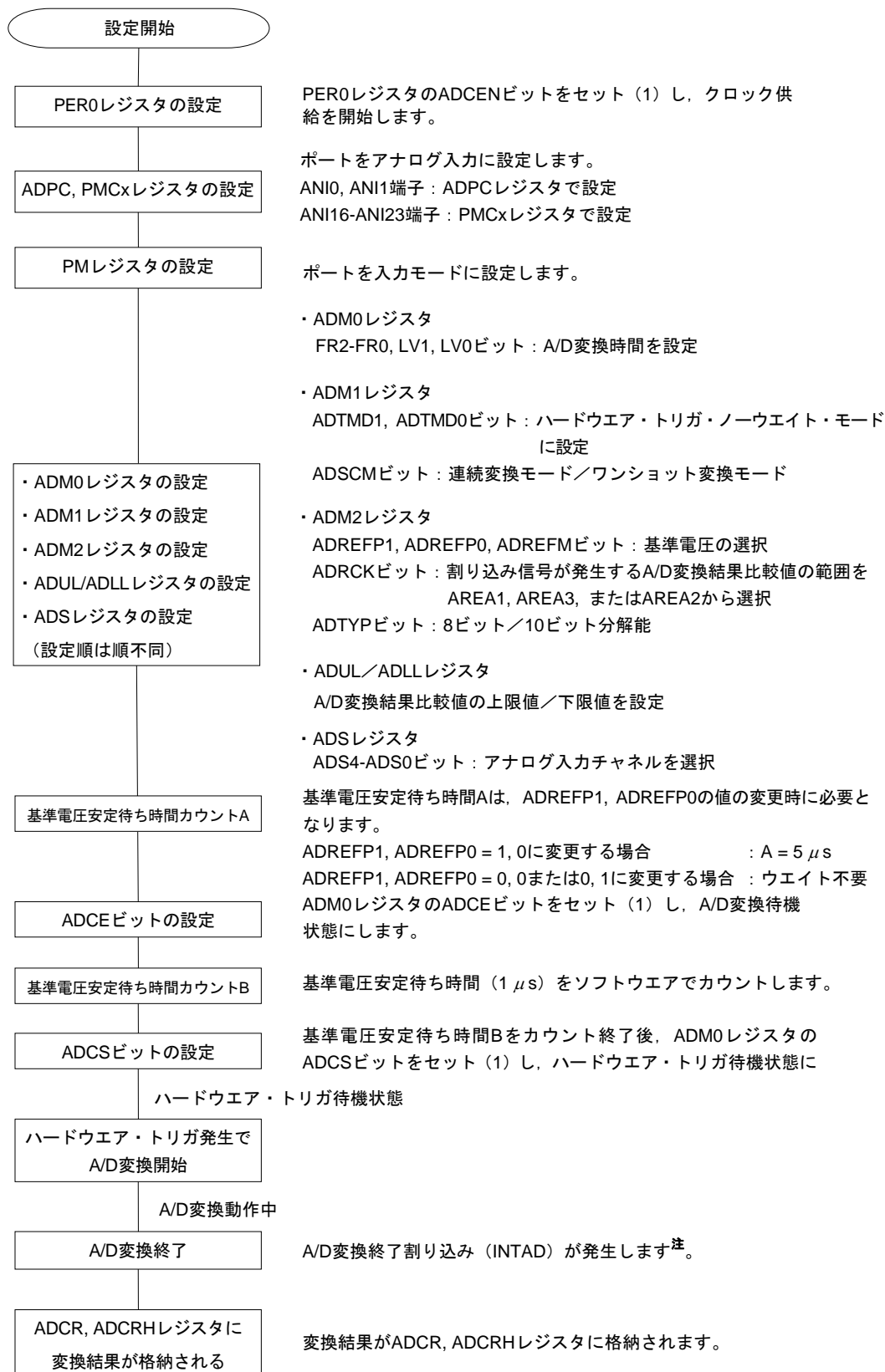
図11-23 ソフトウェア・トリガ・モード設定



注 ADRCKビット, ADUL/ADLLレジスタの設定により、割り込み信号が発生しない場合があります。この場合、ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

11.7.2 ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード設定

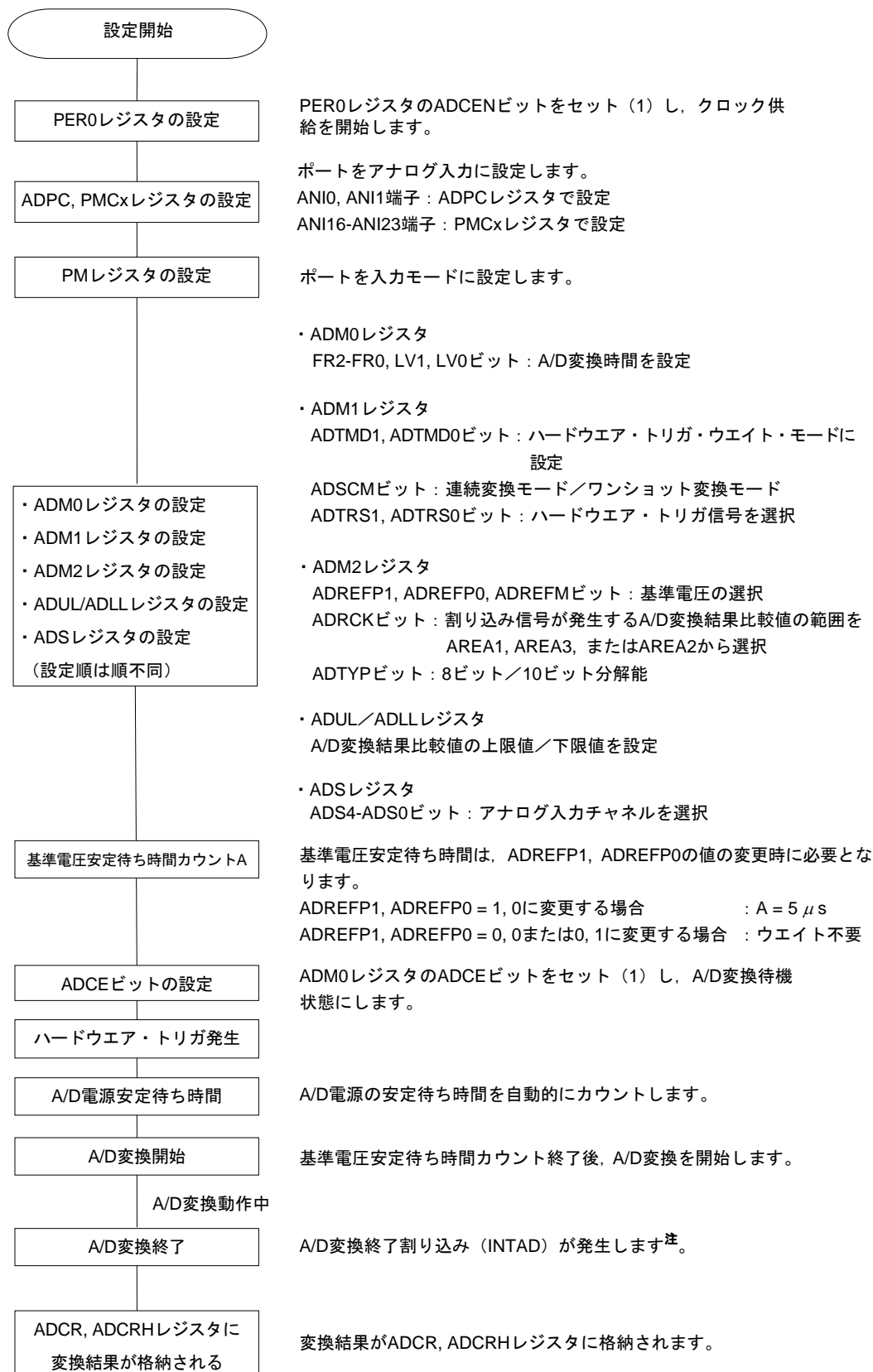
図11-24 ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モード設定



注 ADRCKビット, ADUL/ADLLレジスタの設定により、割り込み信号が発生しない場合があります。この場合、ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

11.7.3 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード設定

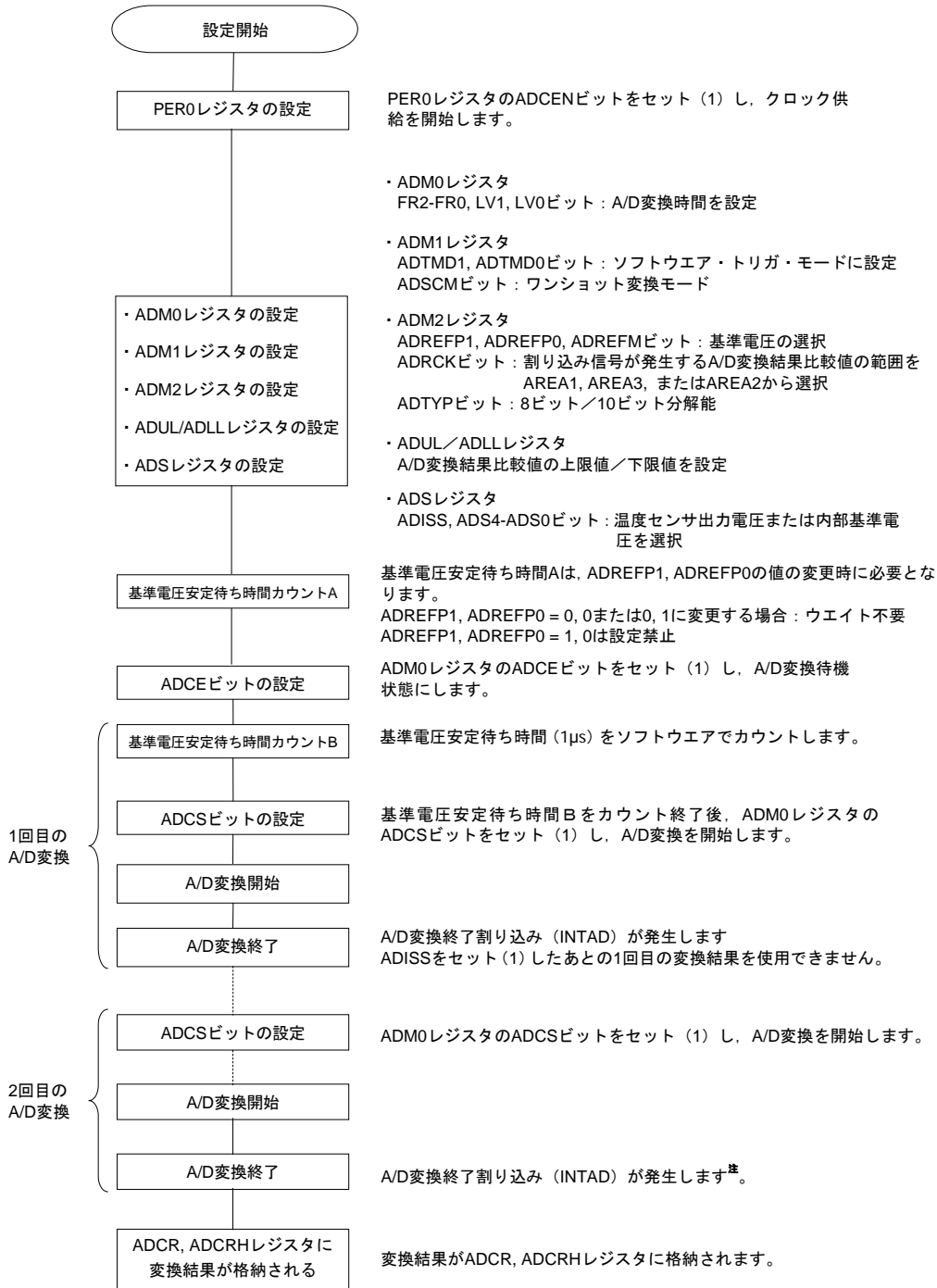
図11-25 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード設定



注 ADRCKビット, ADUL/ADLLレジスタの設定により、割り込み信号が発生しない場合があります。この場合、ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

11.7.4 温度センサ出力／内部基準電圧出力を選択時の設定 (例 ソフトウェア・トリガ・モード, ワンショット変換モード時)

図11-26 温度センサ出力／内部基準電圧出力を選択時の設定

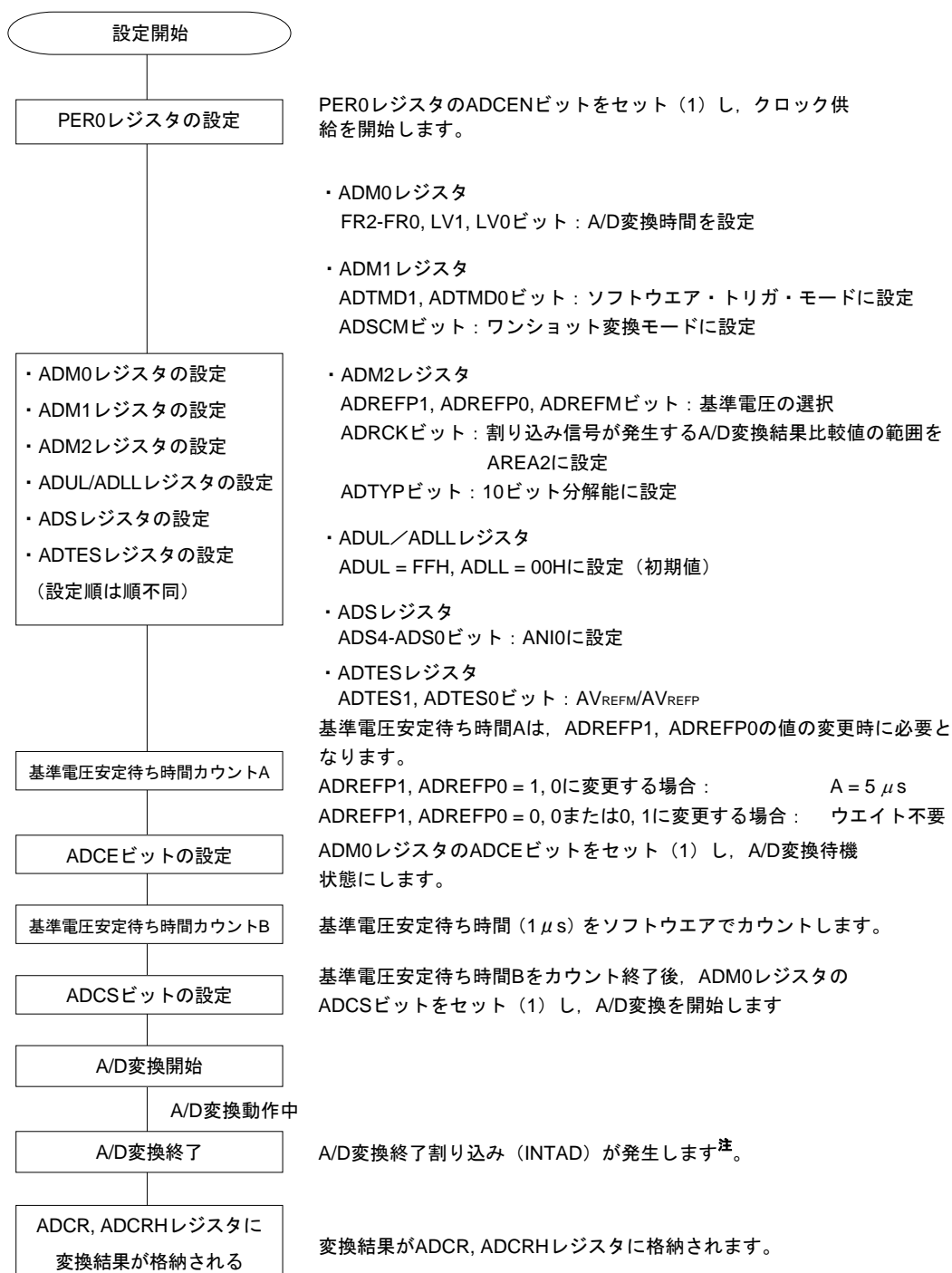


注 ADRCKビット, ADUL/ADLLレジスタの設定により、割り込み信号が発生しない場合があります。この場合、ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

注意 HS (高速メイン) モードでのみ選択可能です。

11.7.5 テスト・モード設定

図11-27 テスト・トリガ・モード設定



注 ADRCKビット, ADUL/ADLLレジスタの設定により、割り込み信号が発生しない場合があります。この場合、ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。

注意 A/Dコンバータのテスト方法については、23.3.8 A/Dテスト機能を参照してください。

11.8 SNOOZEモード機能

STOPモード時にハードウェア・トリガの入力によりA/D変換を動作させるモードです。通常STOPモード時にA/D変換は動作を停止しますが、このモードを使うことで、ハードウェア・トリガからの入力によってCPUを動作させずにA/D変換することができます。動作電流を低減させたい場合に有効です。

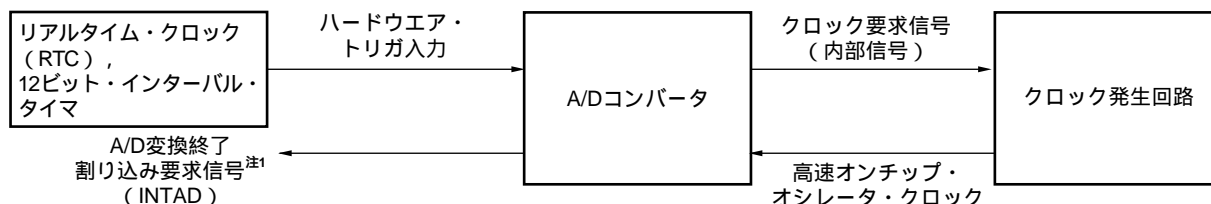
SNOOZEモードでは、ADUL, ADLLで変換結果の範囲を指定すれば、一定時間ごとにA/D変換結果の判断ができます。これにより、電源電圧監視やA/D入力による入力キーの判定などができます。

SNOOZEモードでは、次の2つの変換モードのみ使用可能です。

- ・ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード（ワンショット変換モード）

注意 SNOOZEモードは、f_{CLK}に高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択している場合のみ設定可能です。

図11-28 SNOOZEモード機能時のブロック図



SNOOZEモード機能を使用する場合は、STOPモードに移行する前に各レジスタの初期設定を行います（11.7.3 ハードウェア・トリガ・ウエイト・モード設定を参照^{注2}）。STOPモードへ移行する直前に、A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のビット2（AWC）に1を設定します。初期設定完了後、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のビット0（ADCE）に1を設定します。

STOPモードに移行後、ハードウェア・トリガが入力されると、高速オンチップ・オシレータ・クロックがA/Dコンバータに供給されます。高速オンチップ・オシレータ・クロック供給後、A/D電源安定待ち時間が自動的にカウントされ、A/D変換が開始します。

A/D変換終了後のSNOOZEモードの動作は、割り込み信号発生の有無によって異なります^{注1}。

- 注1. A/D変換結果比較機能の設定（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタ）により、割り込み信号が発生しない場合があります。
2. ADM1レジスタは必ずE2HまたはE3HIに設定してください。

備考 ハードウェア・トリガは、INTRTCまたはINTITです。

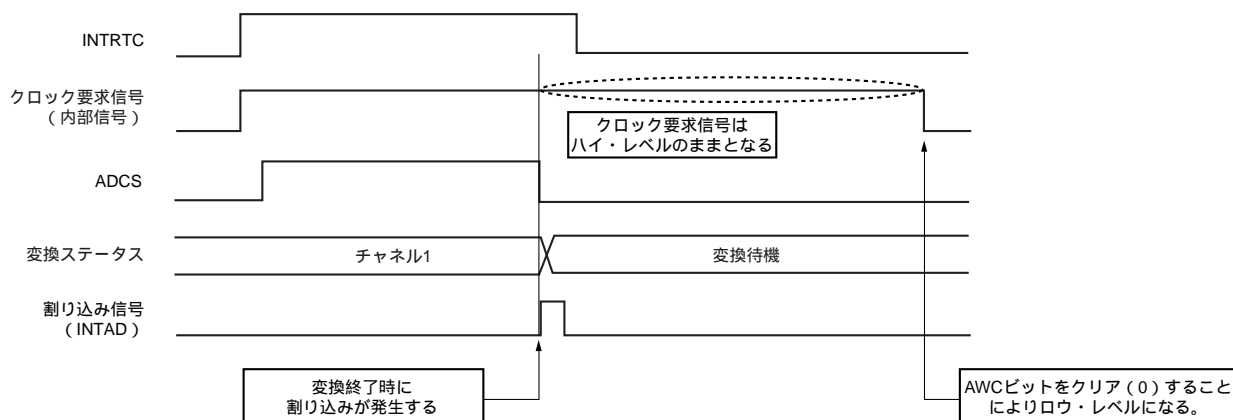
ハードウェア・トリガは、A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADM1）で設定してください。

(1) A/D変換終了後に割り込みが発生する場合

A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタで設定）で設定した値の範囲内の場合，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）は発生します。

A/D変換が終了してA/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生すると，A/DコンバータはSNOOZEモードから通常動作モードに移行します。ここで，A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）のビット2を必ずクリア（AWC = 0：SNOOZE解除）してください。AWC = 1のままでは，その後のSNOOZEモード，通常動作モードに関係なく正常にAD変換が開始されません。

図11-29 A/D変換終了後に割り込みが発生する場合の動作例

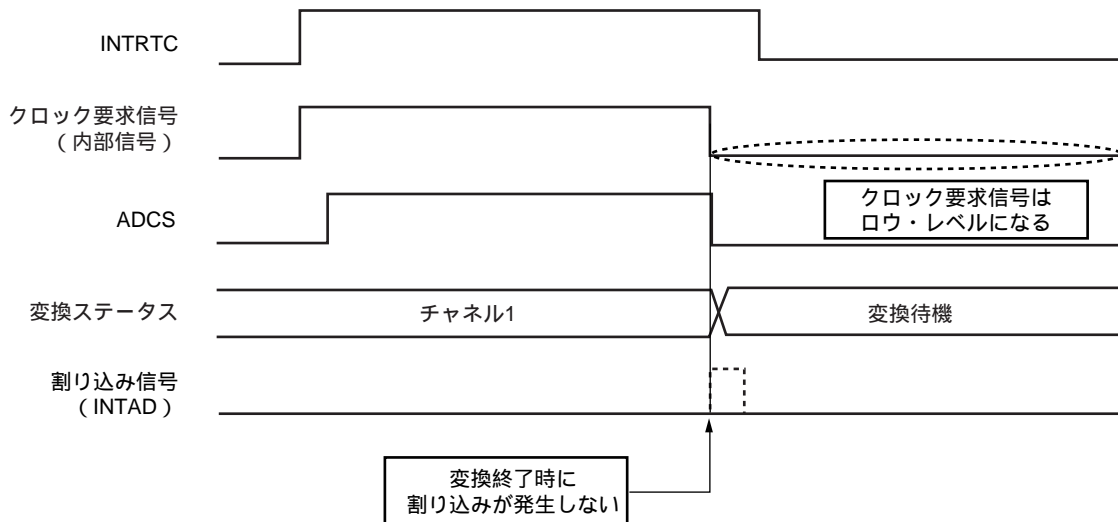


(2) A/D変換終了後に割り込みが発生しない場合

A/D変換結果の値がA/D変換結果比較機能（ADRCKビット，ADUL/ADLLレジスタで設定）で設定した値の範囲外の場合，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）は発生しません。

A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生しなかった場合，A/D変換終了後にクロック要求信号（内部信号）は自動的にロウ・レベルとなり，高速オンチップ・オシレータ・クロックの供給は停止されます。その後，ハードウェア・トリガが入力された場合は，再度SNOOZEモードでA/D変換作業を行います。

図11-30 A/D変換終了後に割り込みが発生しない場合の動作例



(3) A/D変換中断時／再開時の動作

A/D変換動作途中で変換が中断（A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のビット7（ADCS）をクリア（0））された場合、クロック要求信号（内部信号）はロウ・レベルになり、高速オンチップ・オシレータ・クロックの供給は停止します。ハードウェア・トリガが再度入力されることにより、クロック要求信号はハイ・レベルになり、高速オンチップ・オシレータ・クロックの供給が再開され、SNOOZEモードでのA/D変換が開始します。

図11-31 A/D変換中断／再開時の動作例

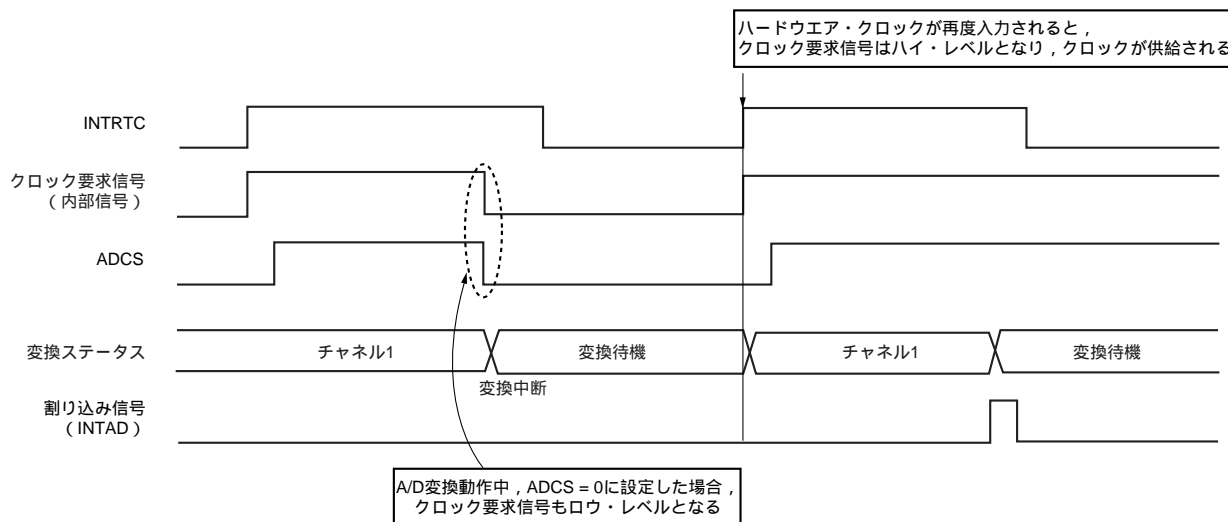
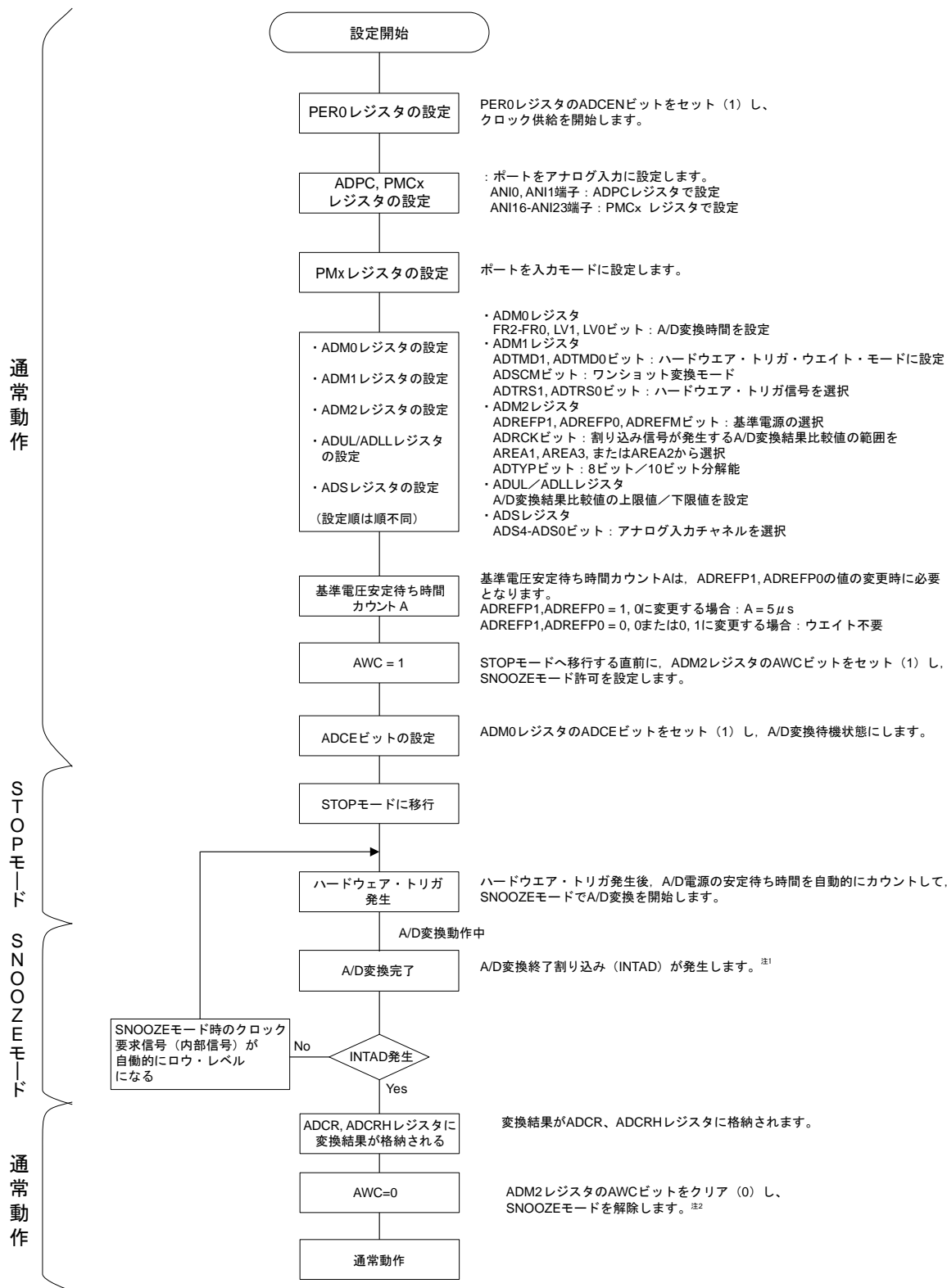


図11-32 SNOOZEモード設定のフローチャート



- 注 1. ADRCKビット, ADUL/ADLLレジスタの設定により, A/D変換終了割り込み要求信号 (INTAD) が発生しなかった場合, ADCR, ADCRHレジスタに結果は格納されません。再びSTOPモードに移行します。その後, ハードウェア・トリガが入力された場合は, 再度SNOOZEモードでA/D変換動作を行います。
- 注 2. AWC = 1のままでは, その後のSNOOZEモード, 通常動作モードに関係なく正常にA/D変換が開始されません。必ずAWC = 0にしてください。

11.9 A/Dコンバータ特性表の読み方

A/Dコンバータに特有な用語について説明します。

(1) 分解能

識別可能な最小アナログ入力電圧、つまり、デジタル出力1ビットあたりのアナログ入力電圧の比率を1 LSB (Least Significant Bit) といいます。1 LSBのフルスケールに対する比率を%FSR (Full Scale Range) で表します。

分解能10ビットのとき

$$\begin{aligned} 1 \text{ LSB} &= 1/2^{10} = 1/1024 \\ &= 0.098 \% \text{FSR} \end{aligned}$$

精度は分解能とは関係なく、総合誤差によって決まります。

(2) 総合誤差

実測値と理論値との差の最大値を指しています。

ゼロスケール誤差、フルスケール誤差、積分直線性誤差、微分直線性誤差およびそれらの組み合わせから生じる誤差を総合した誤差を表しています。

なお、特性表の総合誤差には量子化誤差は含まれていません。

(3) 量子化誤差

アナログ値をデジタル値に変換するとき、必然的に生じる $\pm 1/2$ LSBの誤差です。A/Dコンバータでは、 $\pm 1/2$ LSBの範囲にあるアナログ入力電圧は、同じデジタル・コードに変換されるため、量子化誤差を避けることはできません。

なお、特性表の総合誤差、ゼロスケール誤差、フルスケール誤差、積分直線性誤差、微分直線性誤差には含まれていません。

図11-33 総合誤差

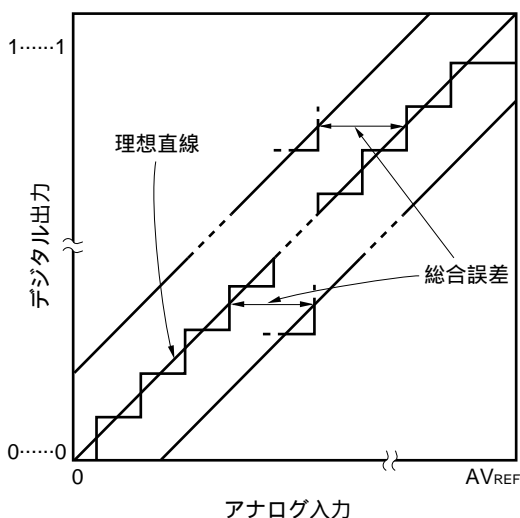
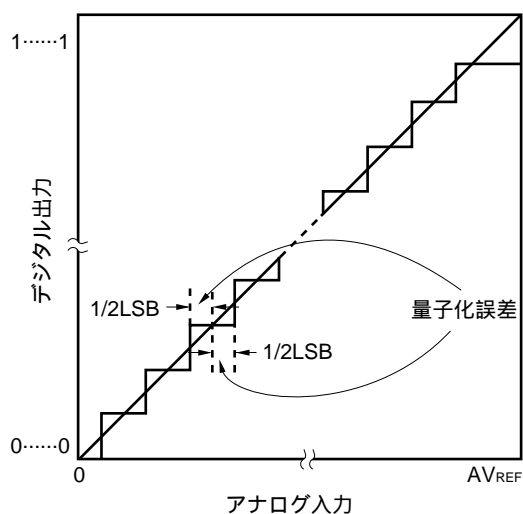


図11-34 量子化誤差



(4) ゼロスケール誤差

デジタル出力が0………000から0………001に変化するときの、アナログ入力電圧の実測値と理論値（1/2 LSB）との差を表します。実測値が理論値よりも大きい場合は、デジタル出力が0………001から0………010に変化するときの、アナログ入力電圧の実測値と理論値（3/2 LSB）との差を表します。

(5) フルスケール誤差

デジタル出力が1………110から1………111に変化するときの、アナログ入力電圧の実測値と理論値（フルスケール-3/2 LSB）との差を表します。

(6) 積分直線性誤差

変換特性が、理想的な直線関係から外れている程度を表します。ゼロスケール誤差、フルスケール誤差を0としたときの、実測値と理想直線との差の最大値を表します。

(7) 微分直線性誤差

理想的にはあるコードを出力する幅は1 LSBですが、あるコードを出力する幅の実測値と理想値との差を表します。

図11-35 ゼロスケール誤差

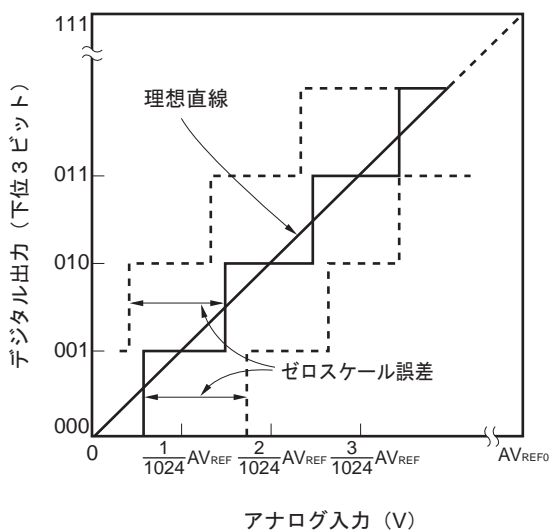


図11-36 フルスケール誤差

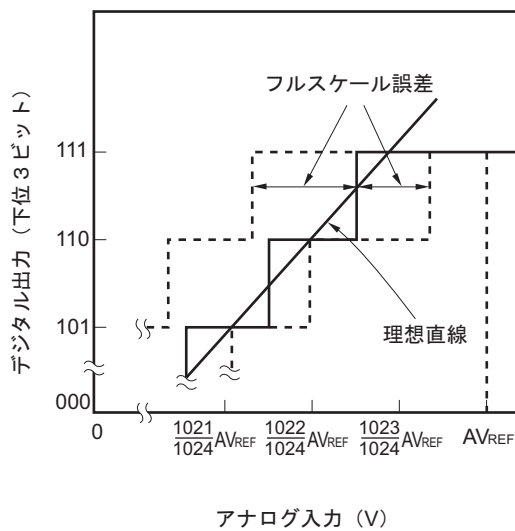


図11-37 積分直線性誤差

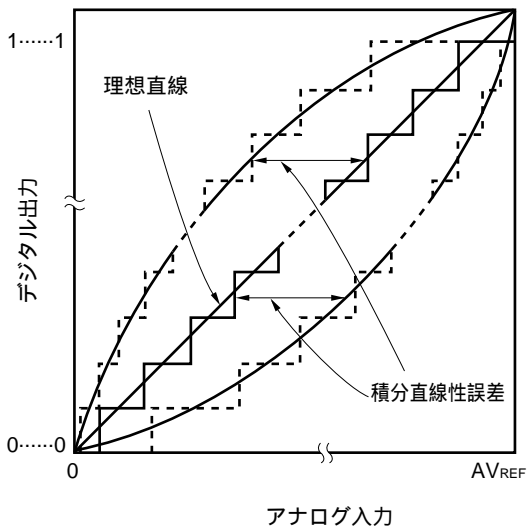
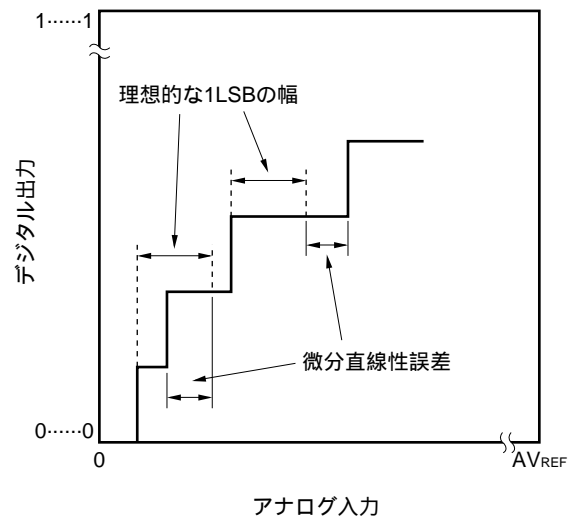


図11-38 微分直線性誤差

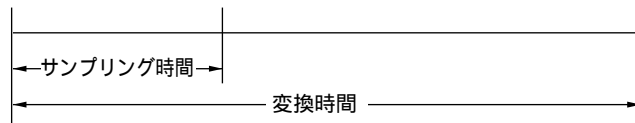


(8) 変換時間

サンプリングを開始してから、デジタル出力が得られるまでの時間を表します。
 特性表の変換時間にはサンプリング時間が含まれています。

(9) サンプリング時間

アナログ電圧をサンプル&ホールド回路に取り込むため、アナログ・スイッチがオンしている時間です。



11.10 A/Dコンバータの注意事項

(1) STOPモード時の動作電流について

STOPモードに移行する場合は、A/Dコンバータを停止（A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）のビット7（ADCS）を0）させてから移行してください。このときADM0レジスタのビット0（ADCE）も0にすることにより、動作電流を低減させることができます。

スタンバイ状態から再度動作する場合、割り込み要求フラグ・レジスタ1H（IF1H）のビット0（ADIF）をクリア（0）してから、動作開始してください。

(2) ANI0, ANI1, ANI16-ANI23端子入力範囲について

ANI0, ANI1, ANI16-ANI23端子入力電圧は規格の範囲内でご使用ください。特に V_{DD} , AV_{REFP} を超える電圧, V_{SS} , AV_{REFM} 未満（絶対最大定格の範囲内でも）の電圧が入力されると、そのチャンネルの変換値が不定となります。また、ほかのチャンネルの変換値にも影響を与えることがあります。

内部基準電圧（1.45 V）をA/Dコンバータの+側の基準電圧源に選択した場合は、ADSレジスタで選択されている端子には内部基準電圧（1.45 V）を超える電圧を入れないでください。ただし、ADSレジスタで選択されていない端子が内部基準電圧（1.45 V）を超える電圧になっていても問題ありません。

注意 内部基準電圧（1.45 V）は、HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

(3) 競合動作について

① 変換終了時のA/D変換結果レジスタ（ADCR, ADCRH）へのライトと、命令によるADCR, ADCRHレジスタのリードとの競合

ADCR, ADCRHレジスタのリードが優先されます。リードしたあと、新しい変換結果がADCR, ADCRHレジスタにライトされます。

② 変換終了時のADCR, ADCRHレジスタへのライトとA/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADM0）へのライト、アナログ入力チャンネル指定レジスタ（ADS）またはA/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ（ADPC）へのライトの競合

ADM0, ADS, ADPCレジスタへのライトが優先されます。ADCR, ADCRHレジスタへのライトはされません。また、変換終了割り込み信号（INTAD）も発生しません。

(4) ノイズ対策について

10ビット分解能を保つためには、 AV_{REFP} , V_{DD} , ANI0, ANI1, ANI16-ANI23端子へのノイズに注意する必要があります。

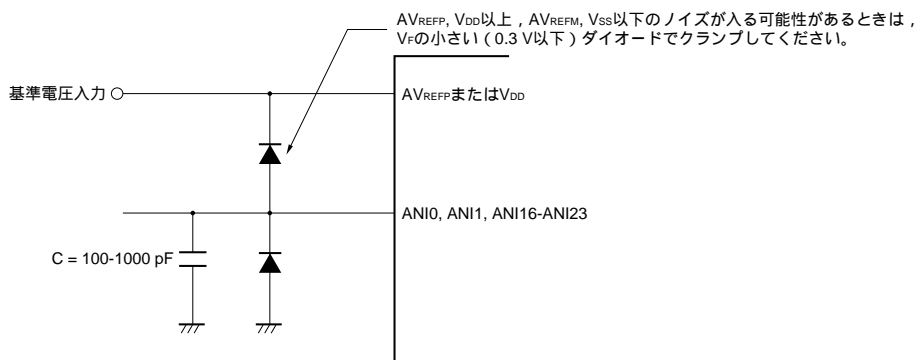
① 電源には等価抵抗が小さく、周波数応答のよいコンデンサを接続してください。

② アナログ入力源の出カインピーダンスが高いほど影響が大きくなりますので、ノイズを低減するために図11-38のようにコンデンサを外付けすることを推奨します。

③ 変換中においては、他の端子をスイッチングしないようにしてください。

④ 変換開始直後にHALTモードに設定すると、精度が向上します。

図11-39 アナログ入力端子の処理



(5) アナログ入力 (ANIn) 端子

- ① アナログ入力 (ANIO, ANI1) 端子は入力ポート (P20, P21) 端子と兼用になっています。ANIO, ANI1端子のいずれかを選択してA/D変換をする場合、変換中にP20, P21に対して出力値を変更しないでください。変換精度が低下することがあります。
- ② A/D変換中の端子に隣接する端子をデジタル入出力ポートとして使用すると、カップリング・ノイズによってA/D変換値が期待値と異なることがあります。A/D変換中は、デジタル信号の様に急激に変化するパルスが入出力されないようにしてください。

(6) アナログ入力 (ANIn) 端子の入力インピーダンスについて

このA/Dコンバータでは、サンプリング時間で内部のサンプリング・コンデンサに充電して、サンプリングを行っています。

したがって、サンプリング中以外はリーク電流だけであり、サンプリング中にはコンデンサに充電するための電流も流れるので、入力インピーダンスはサンプリング中とそれ以外の状態で変動します。

ただし、十分にサンプリングするためには、アナログ入力源の出力インピーダンスを1 k Ω 以下にしてください。出力インピーダンスが1 k Ω 以下にできないときはサンプリング時間を長く設定するかANIO, ANI1, ANI16-ANI23端子に 0.1 μ F程度のコンデンサを付けることを推奨します (図11-38参照)。また、変換動作中にADCS=0に設定した場合および再変換を開始した場合は、サンプリング・コンデンサに充電された電圧は不定となります。そのため、ADCS=0を設定時は次の変換が、再変換時はその変換が不定状態から充電を開始します。そのため十分に充電するためには、アナログ信号の変化の大きさによらず、アナログ入力源の出力インピーダンスを低くするか十分なサンプリング時間を確保してください。

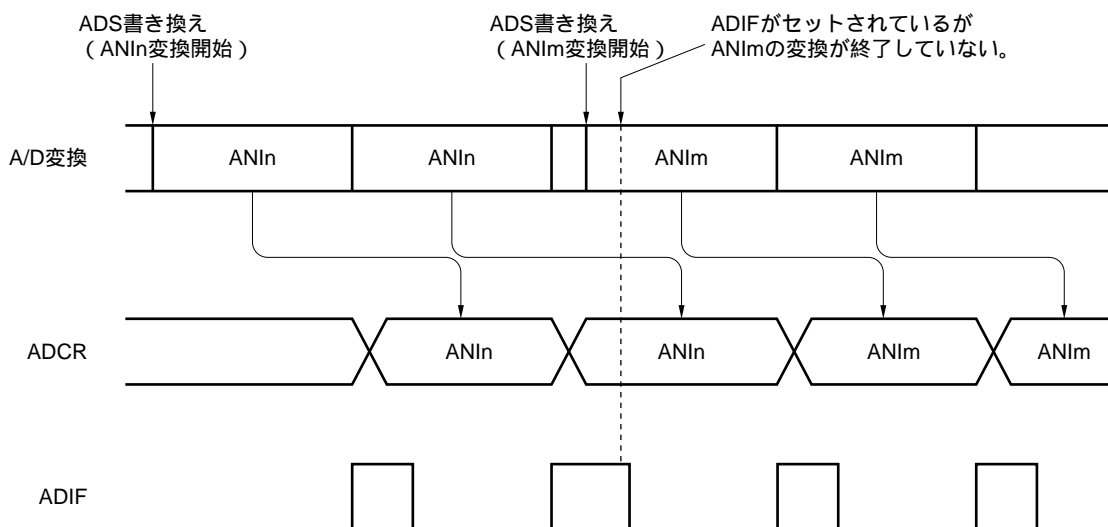
(7) 割り込み要求フラグ (ADIF) について

アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS) を変更しても割り込み要求フラグ (ADIF) はクリア (0) されません。

したがって、A/D変換中にアナログ入力端子の変更を行った場合、ADSレジスタ書き換え直前に、変更前のアナログ入力に対するA/D変換結果およびADIFフラグがセットされている場合があります。ADSレジスタ書き換え直後にADIFフラグを読み出すと、変換後のアナログ入力に対するA/D変換が終了していないにもかかわらずADIFフラグがセットされていることとなりますので注意してください。

また、A/D変換を一度停止させて再開する場合は、再開する前にADIFフラグをクリア (0) してください。

図11-40 A/D変換終了割り込み要求発生タイミング



(8) A/D変換スタート直後の変換結果について

ソフトウェア・トリガ・モード、ハードウェア・トリガ・ノーウエイト・モードでADCEビット = 1にしてから、 $1\mu\text{s}$ 以内にADCSビット = 1にした場合、A/D変換動作をスタートした直後のA/D変換値は定格を満たさないことがあります。A/D変換終了割り込み要求 (INTAD) をポーリングし、最初の変換結果を廃棄するなどの対策を行ってください。

(9) A/D変換結果レジスタ (ADCR, ADCRH) の読み出しについて

A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0)、アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS)、A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC)、ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMC) に対して書き込み動作を行ったとき、ADCR, ADCRHレジスタの内容は不定となることがあります。変換結果は、変換動作終了後、ADM0, ADS, ADPC, PMCレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出ししてください。上記以外のタイミングでは、正しい変換結果が読み出されることがあります。

(10) 内部等価回路について

アナログ入力部の等価回路を次に示します。

図11-41 ANIn端子内部等価回路

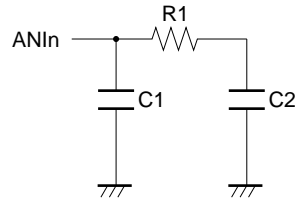


表11-4 等価回路の各抵抗と容量値 (参考値)

AV_{REFP}, V_{DD}	ANIn端子	R1 [kΩ]	C1 [pF]	C2 [pF]
$3.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	ANI0, ANI1	14	8	2.5
	ANI16-ANI23	18	8	7.0
$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}$	ANI0, ANI1	39	8	2.5
	ANI16-ANI23	53	8	7.0
$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 2.7\text{ V}$	ANI0, ANI1	231	8	2.5
	ANI16-ANI23	321	8	7.0
$1.6\text{ V} \leq V_{DD} < 2.7\text{ V}$	ANI0, ANI1	632	8	2.5
	ANI16-ANI23	902	8	7.0

注意 SNOOZEモード時に、A/Dコンバータの内部電圧は使用できません。

備考 表11-4の各抵抗と容量値は保証値ではありません。

(11) A/Dコンバータの動作開始について

A/Dコンバータの動作は、 AV_{REFP}, V_{DD} の電圧が安定してから開始してください。

第12章 シリアル・アレイ・ユニット

シリアル・アレイ・ユニットは1つのユニットに2つのシリアル・チャンネルを持ちます。各チャンネルは簡易SPI (CSI^注)、UARTの通信機能を実現できます。

RL78/L12で対応している各チャンネルの機能割り当ては、次のようになっています。

注 一般的にはSPIと呼ばれる機能ですが、本製品ではCSIとも呼称しているため、本マニュアルでは併記します。

チャンネル	簡易SPI (CSI) として使用	UARTとして使用
0	CSI00	UART0 (LIN-bus対応)
1	CSI01	

12.1.2 UART (UART0)

シリアル・データ送信 (TxD) とシリアル・データ受信 (RxD) の2本のラインによる、調歩同期式通信機能です。この2本の通信ラインを使用し、スタート・ビット、データ、パリティ・ビット、ストップ・ビットからなる1データ・フレームごとに通信相手と非同期で (内部ボー・レートを使用して) データを送受信します。送信専用 (偶数チャネル) と受信専用 (奇数チャネル) の2チャネルを使用することで、全2重UART通信が実現できます。また、タイマ・アレイ・ユニットと外部割り込み (INTP0) を組み合わせてLIN-busにも対応可能です。

具体的な設定例は、「12.6 UART (UART0) 通信の動作」を参照してください。

[データ送受信]

- ・ 7, 8, 9ビットのデータ長
- ・ MSB/LSBファーストの選択
- ・ 送受信データのレベル設定, 反転の選択
- ・ パリティ・ビット付加, パリティ・チェック機能
- ・ ストップ・ビット付加

[割り込み機能]

- ・ 転送完了割り込み/バッファ空き割り込み
- ・ フレーミング・エラー, パリティ・エラー, オーバラン・エラーによるエラー割り込み

[エラー検出フラグ]

- ・ フレーミング・エラー, パリティ・エラー, オーバラン・エラー

また、UART0受信は、SNOOZEモードに対応しています。SNOOZEモードとは、STOPモード状態でRxD入力を検出すると、CPU動作を必要とせずにデータ受信を行う機能です。

UART0 (チャネル0, 1) は、LIN-busに対応しています。

[LIN-bus機能]

- ・ ウェイクアップ信号検出
- ・ ブレーク・フィールド (BF) 検出
- ・ シンク・フィールド測定, ボー・レート算出

} 外部割り込み (INTP0) ,
タイマ・アレイ・ユニットを使用

12.2 シリアル・アレイ・ユニットの構成

シリアル・アレイ・ユニットは、次のハードウェアで構成されています。

表12-1 シリアル・アレイ・ユニットの構成

項 目	構 成
シフト・レジスタ	9ビット
バッファ・レジスタ	シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) の下位9ビット ^注
シリアル・クロック 入出力	SCK00, SCK01端子 (簡易SPI用)
シリアル・データ 入力	SI00, SI01端子 (簡易SPI用), RxD0端子 (LIN-bus対応UART用)
シリアル・データ 出力	SO00, SO01端子 (簡易SPI用), TxD0端子 (LIN-bus対応UART用), 出力制御回路
制御レジスタ	<ユニット設定部のレジスタ> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) ・シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) ・シリアル・チャンネル許可レジスタm (SEm) ・シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm) ・シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm) ・シリアル出力許可レジスタm (SOEm) ・シリアル出力レジスタm (SOM) ・シリアル出力レベル・レジスタm (SOLm) ・シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm) ・入力切り替え制御レジスタ (ISC) ・ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 (NFEN0)
	<各チャンネル部のレジスタ> <ul style="list-style-type: none"> ・シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) ・シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) ・シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn) ・シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) ・シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn (SIRmn)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポート入力モード・レジスタ1 (PIM1) ・ポート出力モード・レジスタ1 (POM1) ・ポート・モード・レジスタ1 (PM1) ・ポート・レジスタ1 (P1)

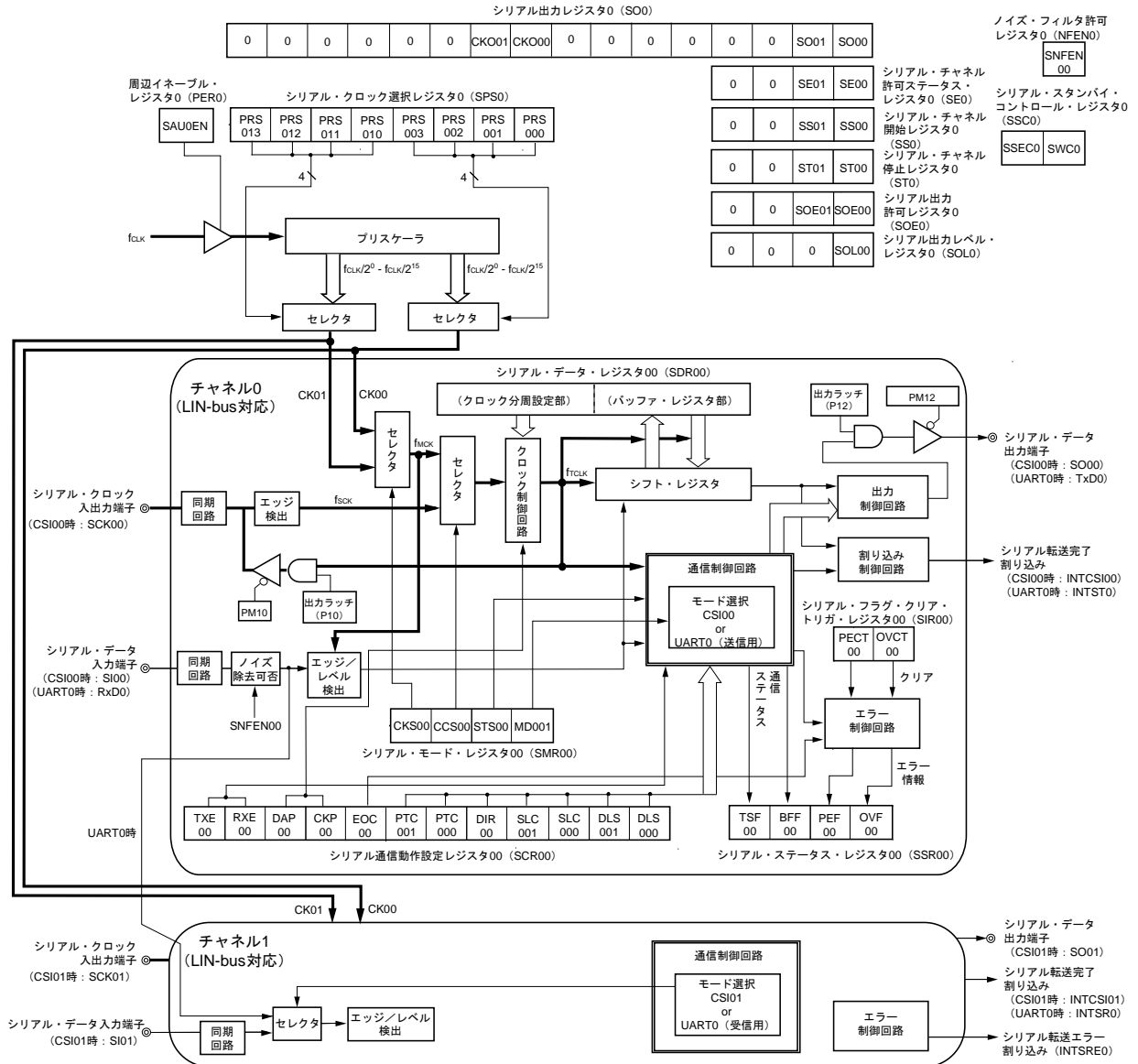
注 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) の下位8ビットは、通信方式により、次のSFR名称でリード/ライト可能です。

- ・CSIp通信時・・・SIOp (CSIpデータ・レジスタ)
- ・UARTq受信時・・・RXDq (UARTq受信データ・レジスタ)
- ・UARTq送信時・・・TXDq (UARTq送信データ・レジスタ)

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
q : UART番号 (q = 0)

図12-1にシリアル・アレイ・ユニットのブロック図を示します。

図12-1 シリアル・アレイ・ユニットのブロック図



12.2.1 シフト・レジスタ

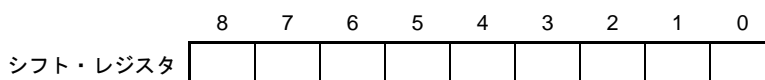
パラレル⇄シリアルの変換を行う9ビットのレジスタです。

9ビット・データ長でのUART通信時は、9ビット（ビット0～8）を使用します。

受信時はシリアル入力端子に入力されたデータをパラレル・データに変換します。送信時はこのレジスタに転送された値をシリアル・データとしてシリアル出力端子から出力します。

シフト・レジスタをプログラムで直接操作することはできません。

シフト・レジスタのデータをリード/ライトするには、シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）の下位9ビットを使用します。



12.2.2 シリアル・データ・レジスタmn（SDRmn）の下位9ビット

SDRmnレジスタは、チャンネルnの送受信データ・レジスタ（16ビット）です。

ビット8-0（下位9ビット）は、送受信バッファ・レジスタとして機能し、ビット15-9の部分は動作クロック（f_{mck}）の分周設定レジスタとして使われます。

受信時には、シフト・レジスタで変換したパラレル・データを下位9ビットに格納します。送信時は、シフト・レジスタに転送する送信データを下位9ビットに設定します。

下位9ビットに格納するデータは、データ出力順序に関わらず、シリアル通信動作設定レジスタmn（SCRmn）のビット0, 1（DLSmn0, DLSmn1）の設定によって、次のようになります。

- ・7ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-6に格納）
- ・8ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-7に格納）
- ・9ビット・データ長（SDRmnレジスタのビット0-8に格納）（UART0モード時のみ設定可）

SDRmnレジスタは16ビット単位でリード/ライト可能です。

また、SDRmnレジスタの下位8ビットは、通信方式により、次のSFR名称で8ビット単位のリード/ライトが可能^注です。

- ・ CSIp通信時・・・SIOp（CSIpデータ・レジスタ）
- ・ UARTq受信時・・・RXDq（UARTq受信データ・レジスタ）
- ・ UARTq送信時・・・TXDq（UARTq送信データ・レジスタ）

リセット信号の発生により、SDRmnレジスタは0000Hになります。

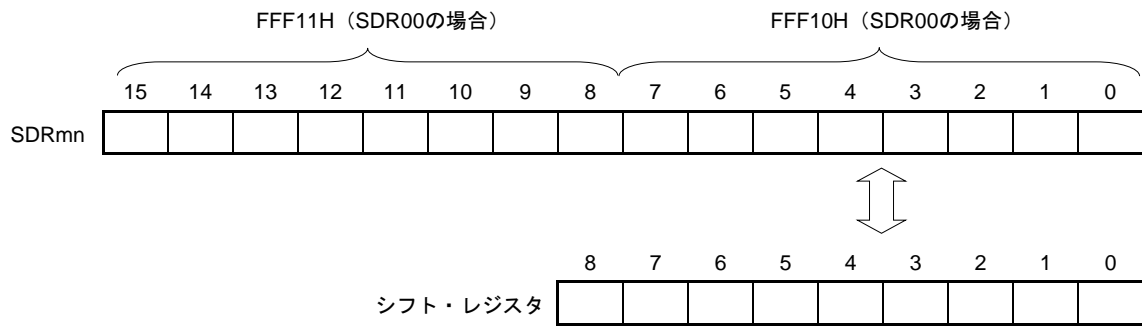
注 動作停止（SEmn = 0）時は、8ビット・メモリ操作命令によるSDRmn[7:0]の書き換えは禁止です（SDRmn[15:9]がすべてクリア（0）されます）。

備考 1. 受信完了後、ビット0-8内でデータ長を越える部分のビットには、“0”が格納されます。

2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
 q : UART番号 (q = 0)

図12-2 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) (mn = 00, 01) のフォーマット

アドレス : FFF10H, FFF11H (SDR00) , FFF12H, FFF13H (SDR01) リセット時 : 0000H R/W



備考 SDRmnレジスタの上位7ビットの機能については、12.3 シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを参照してください。

12.3 シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ

シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを次に示します。

- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm)
- ・シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn)
- ・シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn)
- ・シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn)
- ・シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn (SIRmn)
- ・シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn)
- ・シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm)
- ・シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm)
- ・シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタm (SEm)
- ・シリアル出力許可レジスタm (SOEm)
- ・シリアル出力レベル・レジスタm (SOLm)
- ・シリアル出力レジスタm (SOM)
- ・シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm)
- ・入力切り替え制御レジスタ (ISC)
- ・ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 (NFEN0)
- ・ポート入力モード・レジスタ1 (PIM1)
- ・ポート出力モード・レジスタ1 (POM1)
- ・LCDポート・ファンクション・レジスタ0, 3 (PFSEG0, PFSEG3)
- ・ポート・モード・レジスタ1 (PM1)
- ・ポート・レジスタ1 (P1)

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

12.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

シリアル・アレイ・ユニットを使用するときは、必ずビット2 (SAU0EN) に1を設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、PER0レジスタは00Hになります。

図12-3 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

SAU0EN	シリアル・アレイ・ユニットの入カクロック供給の制御
0	入カクロック供給停止 ・シリアル・アレイ・ユニットで使用するSFRへのライト不可 ・シリアル・アレイ・ユニットはリセット状態
1	入カクロック供給許可 ・シリアル・アレイ・ユニットで使用するSFRへのリード／ライト可

注意1. シリアル・アレイ・ユニットの設定をする際には、必ず最初にSAU0EN = 1の状態、下記のレジスタ設定を行ってください。SAU0EN = 0の場合は、シリアル・アレイ・ユニットmの制御レジスタは初期値となり、書き込みは無視されます (入力切り替え制御レジスタ (ISC), ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 (NFEN0), ポート入力モード・レジスタ1 (PIM1), ポート出力モード・レジスタ1 (POM1), LCDポート・ファンクション・レジスタ0, 3 (PFSEG0, PFSEG3), ポート・モード・レジスタ1 (PM1), ポート・レジスタ1 (P1) は除く)。

- ・シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm)
- ・シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn)
- ・シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn)
- ・シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn)
- ・シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn (SIRmn)
- ・シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn)
- ・シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm)
- ・シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm)
- ・シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタm (SEm)
- ・シリアル出力許可レジスタm (SOEm)
- ・シリアル出力レベル・レジスタm (SOLm)
- ・シリアル出力レジスタm (SOM)
- ・シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm)

2. ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

12.3.2 シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm)

SPSmレジスタは、各チャンネルに共通して供給される2種類の動作クロック (CKm0, CKm1) を選択する16ビット・レジスタです。SPSmレジスタのビット7-4でCKm1を、ビット3-0でCKm0を選択します。

SPSmレジスタは、動作中 (SEmn = 1のとき) の書き換えは禁止です。

SPSmレジスタは16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSPSmレジスタの下位8ビットは、SPSmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、SPSmレジスタは0000Hになります。

図12-4 シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) のフォーマット

アドレス : F0126H, F0127H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SPSm	0	0	0	0	0	0	0	0	PRS m13	PRS m12	PRS m11	PRS m10	PRS m03	PRS m02	PRS m01	PRS m00

PRS mk3	PRS mk2	PRS mk1	PRS mk0	動作クロック (CKmk) の選択 ^{注1}	fCLK =	fCLK =	fCLK =	fCLK =	fCLK =
					2 MHz	5 MHz	10 MHz	20 MHz	24 MHz
0	0	0	0	fCLK	2 MHz	5 MHz	10 MHz	20 MHz	24 MHz
0	0	0	1	fCLK/2	1 MHz	2.5 MHz	5 MHz	10 MHz	12 MHz
0	0	1	0	fCLK/2 ²	500 kHz	1.25 MHz	2.5 MHz	5 MHz	6 MHz
0	0	1	1	fCLK/2 ³	250 kHz	625 kHz	1.25 MHz	2.5 MHz	3 MHz
0	1	0	0	fCLK/2 ⁴	125 kHz	313 kHz	625 kHz	1.25 MHz	1.5 MHz
0	1	0	1	fCLK/2 ⁵	62.5 kHz	156 kHz	313 kHz	625 kHz	750 kHz
0	1	1	0	fCLK/2 ⁶	31.3 kHz	78.1 kHz	156 kHz	313 kHz	375 kHz
0	1	1	1	fCLK/2 ⁷	15.6 kHz	39.1 kHz	78.1 kHz	156 kHz	187.5 kHz
1	0	0	0	fCLK/2 ⁸	7.81 kHz	19.5 kHz	39.1 kHz	78.1 kHz	93.8 kHz
1	0	0	1	fCLK/2 ⁹	3.91 kHz	9.77 kHz	19.5 kHz	39.1 kHz	46.9 kHz
1	0	1	0	fCLK/2 ¹⁰	1.95 kHz	4.88 kHz	9.77 kHz	19.5 kHz	23.4 kHz
1	0	1	1	fCLK/2 ¹¹	977 Hz	2.44 kHz	4.88 kHz	9.77 kHz	11.7 kHz
1	1	0	0	fCLK/2 ¹²	488 Hz	1.22 kHz	2.44 kHz	4.88 kHz	5.86 kHz
1	1	0	1	fCLK/2 ¹³	244 Hz	610 Hz	1.22 kHz	2.44 kHz	2.93 kHz
1	1	1	0	fCLK/2 ¹⁴	122 Hz	305 Hz	610 Hz	1.22 kHz	1.46 kHz
1	1	1	1	fCLK/2 ¹⁵	61 Hz	153 Hz	305 Hz	610 Hz	732 Hz

注 シリアル・アレイ・ユニット (SAU) 動作中にfCLKで選択しているクロックを変更 (システム・クロック制御レジスタ (CKC) の値を変更) する場合は、SAUの動作を停止 (シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm) = 000FH) させてから変更してください。

注意 ビット15-8には、必ず0を設定してください。

備考1. fCLK : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

fSUB : サブシステム・クロック周波数

2. m : ユニット番号 (m = 0)

3. k = 0, 1

12.3.3 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn)

SMRmnレジスタは、チャンネルnの動作モード設定レジスタです。動作クロック (f_{MCK}) の選択, シリアル・クロック (f_{SCK}) 入力の使用可否, スタート・トリガ設定, 動作モード (簡易SPI(CSI), UART) 設定, 割り込み要因の選択を行います。またUARTモード時のみ, 受信データのレベル反転の設定を行います。

SMRmnレジスタは、動作中 (SEmn = 1のとき) の書き換えは禁止です。ただしMDmn0ビットは、動作中でも書き換えをすることができます。

SMRmnレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、SMRmnレジスタは0020Hになります。

図12-5 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のフォーマット (1/2)

アドレス : F0110H, F0111H (SMR00) , F0112H, F0113H (SMR01) リセット時 : 0020H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SMRmn	CKS mn	CCS mn	0	0	0	0	0	STS mn ^注	0	SIS mn0 ^注	1	0	0	0	MD mn1	MD mn0

CKS mn	チャンネルnの動作クロック (f _{MCK}) の選択
0	SPSmレジスタで設定した動作クロックCKm0
1	SPSmレジスタで設定した動作クロックCKm1
動作クロック (f _{MCK}) は、エッジ検出回路に使用されます。また、CCSmnビットとSDRmnレジスタの上位7ビットの設定により、転送クロック (f _{TCLK}) を生成します。	

CCS mn	チャンネルnの転送クロック (f _{TCLK}) の選択
0	CKSmnビットで指定した動作クロックf _{MCK} の分周クロック
1	SCKp端子からの入力クロックf _{SCK} (簡易SPI(CSI)モードのスレーブ転送)
転送クロックf _{TCLK} は、シフト・レジスタ, 通信制御回路, 出力制御回路, 割り込み制御回路, エラー制御回路に使用されます。CCSmn = 0の場合は、SDRmnレジスタの上位7ビットで動作クロック (f _{MCK}) の分周設定を行います。	

STS mn ^注	スタート・トリガ要因の選択
0	ソフトウェア・トリガのみ有効 (簡易SPI(CSI), UART送信時に選択)
1	RxDq端子の有効エッジ (UART受信時に選択)
SSmレジスタに1を設定後, 上記の要因が満たされてから転送開始となります。	

注 SMR01レジスタのみ。

注意 ビット13-9, 7, 4-2 (SMR00レジスタの場合は, ビット13-6, 4-2) には, 必ず0を設定してください。ビット5には, 必ず1を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
q : UART番号 (q = 0)

図12-5 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のフォーマット (2/2)

アドレス : F0110H, F0111H (SMR00) , F0112H, F0113H (SMR01) リセット時 : 0020H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SMRmn	CKS mn	CCS mn	0	0	0	0	0	STS mn ^注	0	SIS mn0 ^注	1	0	0	0	MD mn1	MD mn0

SIS mn0 注	UARTモードでのチャンネルnの受信データのレベル反転の制御
0	立ち下がりエッジをスタート・ビットとして検出します。 入力される通信データは、そのまま取り込まれます。
1	立ち上がりエッジをスタート・ビットとして検出します。 入力される通信データは、反転して取り込まれます。

MD mn1	チャンネルnの動作モードの設定
0	簡易SPI(CSI)モード
1	UARTモード

MD mn0	チャンネルnの割り込み要因の選択
0	転送完了割り込み
1	バッファ空き割り込み (転送データがSDRmnレジスタからシフト・レジスタに転送されたタイミングで発生)
連続送信時はMDmn0 = 1として、SDRmnデータが空になったら次送信データの書き込みを行う。	

注 SMR01レジスタのみ。

注意 ビット13-9, 7, 4-2 (SMR00レジスタの場合は、ビット13-6, 4-2) には、必ず0を設定してください。ビット5には、必ず1を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
q : UART番号 (q = 0)

12.3.4 シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn)

チャンネルnの通信動作設定レジスタです。データ送受信モード、データとクロックの位相、エラー信号のマスク可否、パリティ・ビット、先頭ビット、ストップ・ビット、データ長などの設定を行います。

SCRmnレジスタは、動作中 (SEmn = 1のとき) の書き換えは禁止です。

SCRmnレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、SCRmnレジスタは0087Hになります。

図12-6 シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn) のフォーマット (1/2)

アドレス : F0118H, F0119H (SCR00) , F011AH, F011BH (SCR01) リセット時 : 0087H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SCRmn	TXE mn	RXE mn	DAP mn	CKP mn	0	EOC mn	PTC mn1	PTC mn0	DIR mn	0	SLCm n1 ^{注1}	SLC mn0	0	1	DLSm n1	DLS mn0

TXE mn	RXE mn	チャンネルnの動作モードの設定
0	0	通信禁止
0	1	受信のみを行う
1	0	送信のみを行う
1	1	送受信を行う

DAP mn	CKP mn	簡易SPI(CSI)モードでのデータとクロックの位相選択	タイプ
0	0		1
0	1		2
1	0		3
1	1		4

UARTモード時には、必ずDAPmn, CKPmn = 0, 0に設定してください。

EOC mn	エラー割り込み信号 (INTSREx (x = 0-3)) のマスク可否の選択
0	エラー割り込みINTSRExをマスクする (INTSRxはマスクされない)
1	エラー割り込みINTSRExの発生を許可する (エラー発生時にINTSRxはマスクされる)

簡易SPI(CSI)モード、UART送信時には、EOCmn = 0に設定してください^{注2}。

注1. SCR00レジスタのみ。

2. CSIpをEOCmn = 0で使用しない場合、エラー割り込みINTSRE0が発生する場合があります。

注意 次のビットには必ず0を設定してください。

SCR00 : ビット11, 6, 3

SCR01 : ビット11, 6, 5, 3

ビット2には必ず1を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)

図12-6 シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn) のフォーマット (2/2)

アドレス : F0118H, F0119H (SCR00) , F011AH, F011BH (SCR01) リセット時 : 0087H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SCRmn	TXE mn	RXE mn	DAP mn	CKP mn	0	EOC mn	PTC mn1	PTC mn0	DIR mn	0	SLCm n1 ^{注1}	SLC mn0	0	1	DLSm n1	DLS mn0

PTC mn1	PTC mn0	UARTモードでのパリティ・ビットの設定	
		送信動作	受信動作
0	0	パリティ・ビットを出力しない	パリティなしで受信
0	1	0パリティを出力 ^{注2}	パリティ判定を行わない
1	0	偶数パリティを出力	偶数パリティとして判定を行う
1	1	奇数パリティを出力	奇数パリティとして判定を行う

簡易SPI(CSI)モード時には、必ずPTCmn1, PTCmn0 = 0, 0に設定してください。

DIR mn	簡易SPI (CSI), UARTモードでのデータ転送順序の選択
0	MSBファーストで入出力を行う
1	LSBファーストで入出力を行う

SLCm n1 ^{注1}	SLC mn0	UARTモードでのストップ・ビットの設定
0	0	ストップ・ビットなし
0	1	ストップ・ビット長 = 1ビット
1	0	ストップ・ビット長 = 2ビット (mn = 00, 02, 10, 12のみ)
1	1	設定禁止

転送完了割り込みを選択している場合は、全部のストップ・ビットが完了してから割り込みを発生します。
UART受信時には、1ビット (SLCmn1, SLCmn0 = 0, 1) に設定してください。
簡易SPI(CSI)モード時には、ストップ・ビットなし (SLCmn1, SLCmn0 = 0, 0) に設定してください。

DLS mn1	DLS mn0	簡易SPI(CSI), UARTモードでのデータ長の設定
0	1	9ビット・データ長 (SDRmnレジスタのビット0-8に格納) (UART0モード時のみ選択可)
1	0	7ビット・データ長 (SDRmnレジスタのビット0-6に格納)
1	1	8ビット・データ長 (SDRmnレジスタのビット0-7に格納)
その他		設定禁止

注1. SCR00レジスタのみ。

2. データの内容にかかわらず必ず0が付加されます。

注意 次のビットには必ず0を設定してください。

SCR00 : ビット11, 6, 3

SCR01 : ビット11, 6, 5, 3

ビット2には必ず1を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)

12.3.5 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) の上位7ビット

SDRmnレジスタは、チャンネルnの送受信データ・レジスタ (16ビット) です。

ビット8-0 (下位9ビット) は、送受信バッファ・レジスタとして機能し、ビット15-9 (上位7ビット) の部分は動作クロック (f_{MCK}) の分周設定レジスタとして使われます。

シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) でCCSmnビットを0に設定した場合は、動作クロックをこのSDRmnレジスタのビット15-9 (上位7ビット) で分周設定したクロックが、転送クロックとして使用されます。

SDRmnレジスタの下位9ビットは、送受信バッファ・レジスタとして機能します。受信時には、シフト・レジスタで変換したパラレル・データを下位9ビットに格納し、送信時には、シフト・レジスタに転送する送信データを下位9ビット設定します。

また、CCSmnビットを1に設定した場合は、SDR00, SDR01, SDR10, SDR11のビット15-9 (上位7ビット) に"0000000B"を設定してください。SCKp端子からの入カクロックf_{SCK} (簡易SPI(CSI)モードのスレーブ転送) が転送クロックとなります。

SDRmnレジスタの下位8/9ビットは、送受信バッファ・レジスタとして機能します。受信時には、シフト・レジスタで変換したパラレル・データを下位8/9ビットに格納し、送信時には、シフト・レジスタに転送する送信データを下位8/9ビット設定します。

SDRmnレジスタは16ビット単位でリード/ライト可能です。

ただし上位7ビットへの書き込みおよび読み出しは動作停止状態 (SEmn = 0) のときのみ有効です。動作中 (SEmn = 1) にSDRmnレジスタに書き込みを行ったときは、下位9ビットのみ値が書き込まれます。動作中にSDRmnレジスタの読み出しを行ったときは、常に0が読み出されます。

リセット信号の発生により、SDRmnレジスタは0000HIになります。

図12-7 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) のフォーマット

アドレス : FFF10H, FFF11H (SDR00) , FFF12H, FFF13H (SDR01) リセット時 : 0000H R/W



注意1. UART01使用時は、SDRmn[15:9] = (0000000B, 0000001B) は設定禁止です。

2. 動作停止 (SEmn = 0) 時は、8ビット・メモリ操作命令によるSDRmn[7:0]の書き換えは禁止です (SDRmn[15:9]がすべてクリア (0) されます)。

備考1. SDRmnレジスタの下位9ビットの機能については、12.2 シリアル・アレイ・ユニットの構成を参照してください。

2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

12.3.6 シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn (SIRmn)

チャンネルnの各エラー・フラグをクリアするためのトリガ・レジスタです。

各ビット (FECTmn, PECTmn, OVCTmn) を1にセットすると、シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) の対応ビット (FEFmn, PEFmn, OVFmn) が0にクリアされます。SIRmnレジスタはトリガ・レジスタなので、SSRmnレジスタの対応ビットをクリアするとすぐSIRmnレジスタもクリアされます。

SIRmnレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSIRmnレジスタの下位8ビットは、SIRmnLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、SIRmnレジスタは0000Hになります。

図12-8 シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタmn (SIRmn) のフォーマット

アドレス : F0108H, F0109H (SIR00) , F010AH, F010BH (SIR01) リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SIRmn	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	FEC Tmn ^注	PEC Tmn	OVC Tmn

FEC Tmn	チャンネルnのフレーミング・エラー・フラグのクリア・トリガ														
0	クリアしない														
1	SSRmnレジスタのFEFmnビットを0にクリアする														

PEC Tmn	チャンネルnのパリティ・エラー・フラグのクリア・トリガ														
0	クリアしない														
1	SSRmnレジスタのPEFmnビットを0にクリアする														

OVC Tmn	チャンネルnのオーバーラン・エラー・フラグのクリア・トリガ														
0	クリアしない														
1	SSRmnレジスタのOVFmnビットを0にクリアする														

注 SIR01レジスタのみ。

注意 ビット15-3 (SIR00レジスタの場合は、ビット15-2) には、必ず0を設定してください。

- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)
 2. SIRmnレジスタの読み出し値は常に0000Hとなります。

12.3.7 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn)

SSRmnレジスタは、チャンネルnの通信ステータス、エラー発生状況を表示するレジスタです。表示するエラーは、フレーミング・エラー、パリティ・エラー、オーバラン・エラーです。

SSRmnレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またSSRmnレジスタの下位8ビットは、SSRmnLで8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により、SSRmnレジスタは0000Hになります。

図12-9 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のフォーマット (1/2)

アドレス : F0100H, F0101H (SSR00) , F0102H, F0103H (SSR01) リセット時 : 0000H R

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSRmn	0	0	0	0	0	0	0	0	0	TSF mn	BFF mn	0	0	FEF mn ^注	PEF mn	OVF mn

TSF mn	チャンネルnの通信状態表示フラグ
0	通信動作停止状態または通信動作待機状態
1	通信動作状態
<クリア条件> ・ STmレジスタのSTmnビットに1を設定時（通信停止状態）、もしくはSSmレジスタのSSmnビットに1を設定時（通信待機状態） ・ 通信動作が終了時	
<セット条件> ・ 通信動作を開始時	

BFF mn	チャンネルnのバッファ・レジスタ状態表示フラグ
0	有効なデータがSDRmnレジスタに格納されていない
1	有効なデータがSDRmnレジスタに格納されている
<クリア条件> ・ 送信時においてSDRmnレジスタからシフト・レジスタへ送信データの転送が終了したとき ・ 受信時においてSDRmnレジスタから受信データの読み出しが終了したとき ・ STmレジスタのSTmnビットに1を設定時（通信停止状態）、SSmレジスタのSSmnビットに1を設定時（通信許可状態）。	
<セット条件> ・ SCRmnレジスタのTXEmnビット = 1（各通信モードでの送信、送受信モード時）の状態ですDRmnレジスタに送信データを書き込んだとき ・ SCRmnレジスタのRXEmnビット = 1（各通信モードでの受信、送受信モード時）の状態ですDRmnレジスタに受信データが格納されたとき ・ 受信エラー時	

注 SSR01レジスタのみ。

- 注意
1. BFFmn = 1のときにSDRmnレジスタに書き込みをすると、格納されている送信／受信データが破壊され、オーバラン・エラー（OVFmn = 1）と検出されます。
 2. SNOOZEモード(SWCm = 1)で簡易SPI (CSI)の受信動作を行う場合、BFFmnフラグは動作しません。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

図12-9 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のフォーマット (2/2)

アドレス : F0100H, F0101H (SSR00) , F0102H, F0103H (SSR01) リセット時 : 0000H R

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSRmn	0	0	0	0	0	0	0	0	0	TSF mn	BFF mn	0	0	FEF mn ^注	PEF mn	OVF mn

FEF mn ^注	チャンネルnのフレーミング・エラー検出フラグ
0	エラーなし
1	エラー発生 (UART受信時)
<クリア条件> ・ SIRmnレジスタのFECTmnビットに1を書き込んだとき <セット条件> ・ UART受信完了時に、ストップ・ビットが検出されないとき	

PEF mn	チャンネルnのパリティ・エラー検出フラグ
0	エラーなし
1	パリティ・エラー発生 (UART受信時)
<クリア条件> ・ SIRmnレジスタのPECTmnビットに1を書き込んだとき <セット条件> ・ UART受信完了時に、送信データのパリティとパリティ・ビットが一致しないとき (パリティ・エラー)	

OVF mn	チャンネルnのオーバラン・エラー検出フラグ
0	エラーなし
1	エラー発生
<クリア条件> ・ SIRmnレジスタのOVCTmnビットに1を書き込んだとき <セット条件> ・ SCRmnレジスタのRXEmnビット = 1 (各通信モードでの受信, 送受信モード時) の状態で、受信データがSDRmnレジスタに格納されているのに、読み出しをせずに送信データの書き込みもしくは次の受信データの書き込みをしたとき ・ 簡易SPI(CSI)モードのスレーブ送信/送受信で、送信データが準備できていないとき	

注 SSR01レジスタのみ。

注意 SNOOZEモード(SWCm = 1)で簡易SPI (CSI)の受信動作を行う場合、OVFmnフラグは動作しません。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

12.3.8 シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm)

SSmレジスタは、通信／カウント開始の許可をチャンネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビット (SSmn) に1を書き込むと、シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタm (SEm) の対応ビット (SEmn) が1にセット (動作許可状態) されます。SSmnビットはトリガ・ビットなので、SEmn = 1になるとすぐSSmnビットはクリアされます。

SSmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSSmレジスタの低位8ビットは、SSmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、SSmレジスタは0000Hになります。

図12-10 シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm) のフォーマット

アドレス : F0122H, F0123H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SS0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	SS0	SS0
															1	0

SSm n	チャンネルnの動作開始トリガ
0	トリガ動作せず
1	SEmnビットに1をセットし、通信待機状態に遷移する ^注

注 通信動作中にSSmn = 1を設定すると、通信を停止して待機状態になります。このとき、制御レジスタ、シフト・レジスタの値、SCKmn, SOmn端子とFEFmn, PEFmn, OVFmnフラグは状態を保持します。

注意1. ビット15-2には、必ず0を設定してください。

2. UART受信の場合は、SCRmnレジスタのRXEmnビットを“1”に設定後に、fMCKの4クロック以上間隔をあけてからSSmn = 1を設定してください。

備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

2. SSmレジスタの読み出し値は常に0000Hとなります。

12.3.9 シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm)

STmレジスタは、通信／カウント停止の許可をチャンネルごとに設定するトリガ・レジスタです。

各ビット (STmn) に1を書き込むと、シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタm (SEm) の対応ビット (SEmn) が0にクリア (動作停止状態) されます。STmnビットはトリガ・ビットなので、SEmn = 0になるとすぐSTmnビットはクリアされます。

STmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSTmレジスタの下位8ビットは、STmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、STmレジスタは0000Hになります。

図12-11 シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm) のフォーマット

アドレス : F0124H, F0125H リセット時 : 0000H W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ST0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ST0	ST0
															1	0

STm n	チャンネルnの動作停止トリガ
0	トリガ動作せず
1	SEmnビットを0にクリアし、通信動作を停止する ^注

注 制御レジスタ、シフト・レジスタの値、およびSCKmn, SOMn端子とFEFmn, PEFmn, OVFmnフラグは、状態を保持したまま停止します。

注意 ビット15-2には、必ず0を設定してください。

備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

2. STmレジスタの読み出し値は常に0000Hとなります。

12.3.10 シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタ m (SEm)

SEmレジスタは、各チャンネルのシリアル送受信動作許可／停止状態を確認するレジスタです。

シリアル・チャンネル開始レジスタ m (SSm) の各ビットに1を書き込むと、その対応ビットが1にセットされます。シリアル・チャンネル停止レジスタ m (STm) の各ビットに1を書き込むと、その対応ビットが0にクリアされます。

動作を許可したチャンネルnは、後述のシリアル出力レジスタ m (SOm) のCKOmnビット (チャンネルnのシリアル・クロック出力) の値をソフトウェアによって書き換えできなくなり、通信動作によって反映された値がシリアル・クロック端子から出力されます。

動作を停止したチャンネルnは、SOmレジスタのCKOmnビットの値をソフトウェアで設定することができ、その値をシリアル・クロック端子から出力できます。これにより、スタート・コンディション／ストップ・コンディションなどの任意の波形をソフトウェアで作成することができます。

SEmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で読み出します。

またSEmレジスタの下位8ビットは、SEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出せます。

リセット信号の発生により、SEmレジスタは0000HIになります。

図12-12 シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタ m (SEm) のフォーマット

アドレス : F0120H, F0121H (SE0) リセット時 : 0000H R

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SE0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	SE0	SE0
															1	0

SEm n	チャンネルnの動作許可／停止状態の表示
0	動作停止状態
1	動作許可状態

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

12.3.11 シリアル出力許可レジスタm (SOEm)

SOEmレジスタは、各チャンネルのシリアル通信動作の出力許可/停止を設定するレジスタです。

シリアル出力を許可したチャンネルnは、後述のシリアル出力レジスタm (SOm) のSOmnビットの値をソフトウェアによって書き換えできなくなり、通信動作によって反映された値がシリアル・データ出力端子から出力されます。

シリアル出力を停止したチャンネルnは、SOmレジスタのSOmnビットの値をソフトウェアで設定することができます。その値をシリアル・データ出力端子から出力できます。これにより、スタート・コンディション/ストップ・コンディションなどの任意の波形をソフトウェアで作成することができます。

SOEmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSOEmレジスタの下位8ビットは、SOEmLで1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、SOEmレジスタは0000Hになります。

図12-13 シリアル出力許可レジスタm (SOEm) のフォーマット

アドレス : F012AH, F012BH (SOE0) リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SOE0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	SOE 01	SOE 00

SOE mn	チャンネルnのシリアル出力許可/停止
0	シリアル通信動作による出力停止
1	シリアル通信動作による出力許可

注意 ビット15-2には、必ず0を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

12.3.12 シリアル出力レジスタm (SOm)

SOmレジスタは、各チャンネルのシリアル出力のバッファ・レジスタです。

このレジスタのSOmnビットの値が、チャンネルnのシリアル・データ出力端子から出力されます。

このレジスタのCKOmnビットの値が、チャンネルnのシリアル・クロック出力端子から出力されます。

このレジスタのSOmnビットのソフトウェアによる書き換えは、シリアル出力禁止 (SOEmn = 0) 時のみ可能です。シリアル出力許可 (SOEmn = 1) 時は、ソフトウェアによる書き換えは無視され、シリアル通信動作によってのみ値が変更されます。

このレジスタのCKOmnビットのソフトウェアによる書き換えは、チャンネル動作停止 (SEmn = 0) 時のみ可能です。チャンネル動作許可 (SEmn = 1) 時は、ソフトウェアによる書き換えは無視され、シリアル通信動作によってのみ値が変更されます。

また、シリアル・インタフェース用端子をポート機能として使用する場合は、該当するCKOmn, SOmnビットに“1”を設定してください。

SOmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、SOmレジスタは0F0FHになります。

図12-14 シリアル出力レジスタm (SOm) のフォーマット

アドレス : F0128H, F0129H (SO0) リセット時 : 0303H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SO0	0	0	0	0	0	0	CKO 01	CKO 00	0	0	0	0	0	0	SO 01	SO 00

CKO mn	チャンネルnのシリアル・クロック出力
0	シリアル・クロック出力値が“0”
1	シリアル・クロック出力値が“1”

SO mn	チャンネルnのシリアル・データ出力
0	シリアル・データ出力値が“0”
1	シリアル・データ出力値が“1”

注意 ビット15-10, 7-2には必ず0を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)

12.3.13 シリアル出力レベル・レジスタm (SOLm)

SOLmレジスタは、各チャンネルのデータ出力レベルの反転を設定するレジスタです。

このレジスタはUARTモード時のみ設定できます。簡易SPI(CSI)モード時は、必ず対応するビットに0を設定してください。

このレジスタによる各チャンネルnの反転設定は、シリアル出力許可 (SOEmn = 1) 時のみ端子出力に反映されます。シリアル出力禁止 (SOEmn = 0) 時はSOmnビットの値がそのまま出力されます。

SOLmレジスタは、動作中 (SEmn = 1のとき) の書き換えは禁止です。

SOLmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSOLmレジスタの下位8ビットは、SOLmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、SOLmレジスタは0000HIになります。

図12-15 シリアル出力レベル・レジスタm (SOLm) のフォーマット

アドレス : F0134H, F0135H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
SOL0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	SOL00

SOLmn	UARTモードでのチャンネルnの送信データのレベル反転の選択
0	通信データは、そのまま出力されます。
1	通信データは、反転して出力されます。

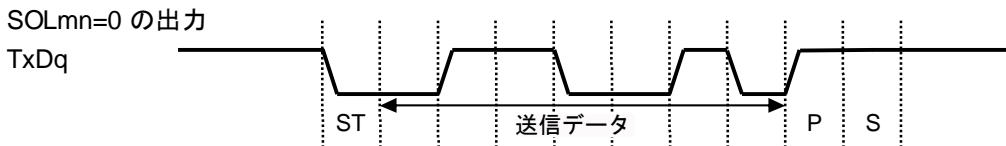
注意 ビット15-1には必ず0を設定してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0)

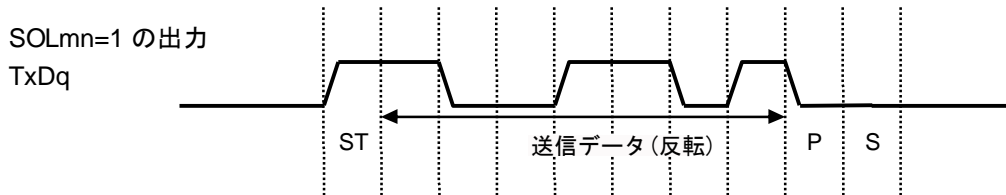
UART送信時、送信データのレベル反転例を図12-16に示します。

図12-16 送信データのレベル反転例

(a) 非反転出力 (SOLmn = 0)



(b) 反転出力 (SOLmn = 1)



備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0)

12.3.14 シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ m (SSCm)

SSCmレジスタは、CSI00、UART0のシリアル・データ受信による、STOPモード状態からの受信動作起動 (SNOOZEモード) を制御するレジスタです。

SSCmレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

またSSCmレジスタの下位8ビットは、SSCmLで8ビット・メモリ操作命令で設定できます。

リセット信号の発生により、SSCmレジスタは0000Hになります。

注意 SNOOZEモード時の最大転送レートは、次のようになります。

- ・ CSI00の場合 : ~1 Mbps
- ・ UART0の場合 : 4800 bpsのみ

図12-17 シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ m (SSCm) のフォーマット

アドレス : F0138H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSCm	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	SS ECm	SWC m

SS ECm	転送完了割り込み発生許可/停止の選択	
0	エラー割り込み (INTSRE0/INTSRE2) 発生許可	
1	エラー割り込み (INTSRE0/INTSRE2) 発生停止	
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNOOZEモード時のUART受信で、SWCm=1かつEOCmn=1の時のみ、SSECmビットを1/0に設定することができます。その他の場合は、SSECmビットを0に設定してください。 ・ SSECm, SWCm = 1, 0は設定禁止です。 		

SWC m	SNOOZEモードの設定	
0	SNOOZEモード機能を使用しない	
1	SNOOZEモード機能を使用する	
<ul style="list-style-type: none"> ・ STOPモード中のハードウェア・トリガ信号で、STOPモードを解除し、CPUを動作させることなく、簡易SPI(CSI) /UARTの受信動作を行います (SNOOZEモード)。 ・ SNOOZEモード機能は、CPU/周辺ハードウェア・クロック (fCLK) に高速オンチップ・オシレータ・クロックが選択されているときのみ設定可能です。高速オンチップ・オシレータ・クロック以外が選択されている場合は設定禁止です。 ・ SNOOZEモードを使用する場合でも、通常動作モード時はSWCmを0に設定し、STOPモードへ移行する直前にSWCmを1に変更してください。 またSTOPモードから通常動作モードへ復帰後、必ずSWCmを0に変更してください。 		

注意 SSECm, SWCm = 1, 0は設定禁止です。

備考 m : ユニット番号 (m = 0)

図12-18 SNOOZEモードでUART受信したときの割り込み

EOCmnビット	SSECmビット	正常受信時	受信エラー時
0	0	INTSRxが発生する	INTSRxが発生する
0	1	INTSRxが発生する	INTSRxが発生する
1	0	INTSRxが発生する	INTSRExが発生する
1	1	INTSRxが発生する	割り込みは発生しない

12.3.15 入力切り替え制御レジスタ (ISC)

ISCレジスタのISC1, ISC0ビットは、UART0でLIN-bus通信動作を実現するとき、外部割り込みやタイマ・アレイ・ユニットと連携するために使用します。

ビット0に1を設定すると、シリアル・データ入力 (RxD0) 端子の入力信号が外部割り込み入力 (INTP0) として選択されます。これによって、ウエイクアップ信号をINTP0割り込みで検出できます。

ビット1に1を設定すると、シリアル・データ入力 (RxD0) 端子の入力信号がタイマ入力として選択されます。これによって、ウエイクアップ信号検出とブレーク・フィールドのロウ幅とシンク・フィールドのパルス幅をタイマで測定できます。

ISCレジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、ISCレジスタは00Hになります。

図12-19 入力切り替え制御レジスタ (ISC) のフォーマット

アドレス : F0073H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ISC	0	0	0	0	0	0	ISC1	ISC0

ISC1	タイマ・アレイ・ユニットのチャンネル5の入力切り替え
0	52, 64ピン製品の場合 : TI05端子の入力信号をタイマ入力とする (通常動作) 32, 44, 48ピン製品の場合 : チャンネル5でタイマ入力信号を使用しない
1	RxD0端子の入力信号をタイマ入力とする (ウエイクアップ信号検出とブレーク・フィールドのロウ幅とシンク・フィールドのパルス幅測定)

ISC0	外部割り込み (INTP0) の入力切り替え
0	INTP0端子の入力信号を外部割り込み入力とする (通常動作)
1	RxD0端子の入力信号を外部割り込み入力とする (ウエイクアップ信号検出)

注意 ビット7-2に必ず0を設定してください。

12.3.16 ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 (NFEN0)

NFEN0レジスタは、シリアル・データ入力端子からの入力信号に対するノイズ・フィルタの使用可否をチャンネルごとに設定するレジスタです。

簡易SPI(CSI)通信に使用する端子は、対応するビットに0を設定して、ノイズ・フィルタを無効にしてください。

UART通信に使用する端子は、対応するビットに1を設定して、ノイズ・フィルタを有効にしてください。

ノイズ・フィルタ有効時は、CPU/周辺ハードウェア・クロック (fCLK) で2クロックの一致検出と同期化を行います。ノイズ・フィルタ無効時は、CPU/周辺ハードウェア・クロック (fMCK) で同期化だけを行います

NFEN0レジスタは1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、NFEN0レジスタは00Hになります。

図12-20 ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 (NFEN0) のフォーマット

アドレス : F0070H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
NFEN0	0	0	0	0	0	0	0	SNFEN00

SNFEN00	RxD0端子のノイズ・フィルタ使用可否
0	ノイズ・フィルタOFF
1	ノイズ・フィルタON

RxD0端子として使用するときは、SNFEN00 = 1に設定してください。
RxD0以外の機能として使用するときは、SNFEN00 = 0に設定してください。

注意 ビット7-1には必ず0を設定してください。

12.3.17 シリアル入出力端子のポート機能を制御するレジスタ

シリアル・アレイ・ユニット使用時は、対象チャネルと兼用するポートに関するレジスタ（ポート・モード・レジスタ（PMxx）、ポート・レジスタ（Pxx）、ポート入力モード・レジスタ（PIMxx）、ポート出力モード・レジスタ（POMxx）、ポート・モード・コントロール・レジスタ（PMCxx）を設定してください。

詳細は、4.3.1 ポート・モード・レジスタ（PMxx）、4.3.2 ポート・レジスタ（Pxx）、4.3.4 ポート入力モード・レジスタ（PIM1）、4.3.5 ポート出力モード・レジスタ（POM1）、4.3.6 ポート・モード・コントロール・レジスタ（PMCxx）を参照してください。

シリアル・データ出力またはシリアル・クロック出力端子を兼用するポート（SO00/TxD0/TOOLTxD/KR0/SEG30など）をシリアル・データ出力またはシリアル・クロック出力として使用するとき、各ポートに対応するポート・モード・コントロール・レジスタ（PMCxx）のビットおよびポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットに0を、ポート・レジスタ（Pxx）のビットに1を設定してください。

なお、N-chオープン・ドレイン出力（V_{DD}耐圧/EV_{DD}耐圧）モードで使用する場合は、各ポートに対応するポート出力モード・レジスタ（POMxx）のビットに1を設定してください。異電位（1.8V系、2.5V系、3V系）で動作している外部デバイスと接続する場合は、4.4.5 入出力バッファによる異電位（1.8V系、2.5V系、3V系）対応を参照してください。

例) SO00/TxD0/TOOLTxD/KR0/SEG30をシリアル・データ出力として使用する場合

- ポート・モード・コントロール・レジスタ1のPMC12ビットを0に設定
- ポート・モード・レジスタ1のPM12ビットを0に設定
- ポート・レジスタ1のP12ビットを1に設定

シリアル・データ入力またはシリアル・クロック入力端子を兼用するポート（SI00/RxD0/TOOLRxD/KR1/SEG29など）をシリアル・データ入力またはシリアル・クロック入力として使用するとき、各ポートに対応するポート・モード・レジスタ（PMxx）のビットに1を設定してください。また、ポート・モード・コントロール・レジスタ（PMCxx）のビットに0を設定してください。このときポート・レジスタ（Pxx）のビットは、0または1のどちらでもかまいません。

なお、TTL入力バッファで使用する場合は、各ポートに対応するポート入力モード・レジスタ（PIMxx）のビットに1を設定してください。異電位（1.8V系、2.5V系、3V系）で動作している外部デバイスと接続する場合は、4.4.5 入出力バッファによる異電位（1.8V系、2.5V系、3V系）対応を参照してください。

例) SI00/RxD0/TOOLRxD/KR1/SEG29をシリアル・データ入力として使用する場合

- ポート・モード・コントロール・レジスタ1のPMC11ビットを0に設定
- ポート・モード・レジスタ1のPM11ビットを1に設定
- ポート・レジスタ1のP11ビットを0または1に設定

12.4 動作停止モード

シリアル・アレイ・ユニットの各シリアル・インタフェースには、動作停止モードがあります。動作停止モードでは、シリアル通信を行いません。したがって、消費電力を低減できます。また動作停止モードでは、シリアル・インタフェース用端子をポート機能として使用できます。

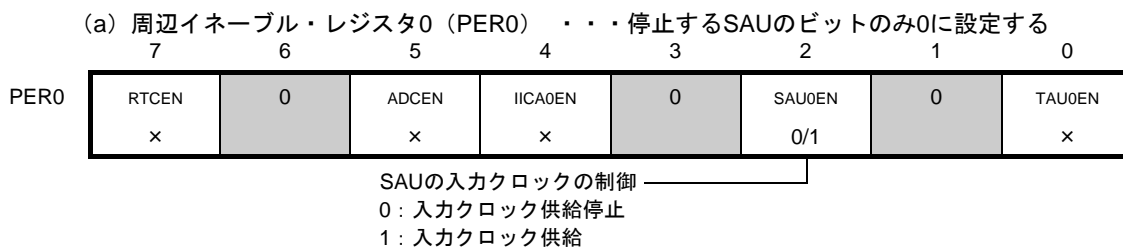
12.4.1 ユニット単位で動作停止とする場合

ユニット単位で動作停止とする場合の設定は、周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) で行います。

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可/禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへのクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

シリアル・アレイ・ユニットを停止するときは、ビット2 (SAU0EN) に0を設定してください。

図12-21 ユニット単位で動作停止とする場合の周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) の設定



注意1. SAU0EN = 0の場合は、シリアル・アレイ・ユニットの制御レジスタへの書き込みは無視され、読み出しても値はすべて初期値となります。

ただし、次のレジスタは除きます。

- ・入力切り替え制御レジスタ (ISC)
- ・ノイズ・フィルタ許可レジスタ0 (NFEN0)
- ・シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm)
- ・ポート入力モード・レジスタ1 (PIM1)
- ・ポート出力モード・レジスタ1 (POM1)
- ・LCDポート・ファンクション・レジスタ0, 3 (PFSEG0, PFSEG3)
- ・ポート・モード・レジスタ1 (PM1)
- ・ポート・レジスタ1 (P1)

2. ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

備考 : 設定不可 (初期値を設定)

×: シリアル・アレイ・ユニットでは使用しないビット (他の周辺機能の設定による)

0/1: ユーザの用途に応じて0または1に設定

12.4.2 チャンネルごとに動作停止とする場合

チャンネルごとに動作停止とする場合の設定は、次の各レジスタで行います。

図12-22 チャンネルごとに動作停止とする場合の各レジスタの設定

(a) シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm)

・・・各チャンネルの通信／カウント停止の許可を設定するレジスタ

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	STm1	STm0
STm	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1

1 : SEmnビットを0にクリアし、通信動作を停止

※ STmnビットはトリガ・ビットなので、SEmn=0になるとすぐSTmnビットはクリアされます。

(b) シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタm (SEm)

・・・各チャンネルのシリアル送受信動作許可／停止状態が表示されるレジスタ

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	SEm1	SEm0
SEm	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1

0 : 動作停止状態

※SEmレジスタはRead Onlyのステータス・レジスタであり、STmレジスタにて動作停止にします。動作を停止したチャンネルは、S0mレジスタのCKOmnビットの値をソフトウェアで設定できます。

(c) シリアル出力許可レジスタm (SOEm)

・・・各チャンネルのシリアル通信動作の出力許可／停止を設定するレジスタ

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	SOEm1	SOEm0
SOEm	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1

0 : シリアル通信動作による出力停止

※ シリアル出力を停止したチャンネルは、S0mレジスタのSOmnビットの値をソフトウェアで設定できます。

(d) シリアル出力レジスタm (S0m)

・・・各チャンネルのシリアル出力のバッファ・レジスタ

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	CKOm1	CKOm0	S0m1	S0m0
S0m	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1	0/1	0/1

1 : シリアル・クロック出力値が“1”

1 : シリアル・データ出力値が“1”

※ 各チャンネルに対応した端子をポート機能として使用する場合は、該当するCKOmn, S0mnビットに“1”を設定してください。

- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1)
2. : 設定不可 (初期値を設定) 0/1 : ユーザの用途に応じて0または1に設定

12.5 簡易SPI (CSI00, CSI01) 通信の動作

シリアル・クロック (SCK) とシリアル・データ (SI, SO) の3本のラインによる、クロック同期式通信機能です。

[データ送受信]

- ・ 7, 8ビットのデータ長
- ・ 送受信データの位相制御
- ・ MSB/LSBファーストの選択

[クロック制御]

- ・ マスタ/スレーブの選択
- ・ 入出力クロックの位相制御
- ・ プリスケアラとチャンネル内カウンタによる転送周期の設定
- ・ 最大転送レート
 - マスタ通信時 (CSI00) : Max. $f_{MCK}/2$ ^{注1, 2}
 - マスタ通信時 (CSI01) : Max. $f_{MCK}/4$ ^{注2}
 - スレーブ通信時 : Max. $f_{MCK}/6$ ^{注2}

[割り込み機能]

- ・ 転送完了割り込み/バッファ空き割り込み

[エラー検出フラグ]

- ・ オーバラン・エラー

また、CSI00は、SNOOZEモードに対応しています。SNOOZEモードとは、STOPモード状態でSCK入力を検出すると、CPU動作を必要とせずにデータ受信を行う機能です。

注 1. マスタ通信時 (CSI00) で、以下の条件のときにMax. $f_{MCK}/2$ となります。

- ・ $2.7\text{ V} \leq E_{VDD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$
- ・ $f_{MCK} \leq 12\text{ MHz}$

その他の場合は、Max. $f_{MCK}/4$ となります。

- ただし、SCKサイクル・タイム (t_{KCY}) の特性を満たす範囲内で使用してください (第30章または第31章 電気的特性参照)

簡易SPI (CSI00, CSI01) に対応しているチャンネルは、チャンネル0, 1です。

チャンネル	簡易SPI(CSI)として使用	UARTとして使用
0	CSI00	UART0
1	CSI01	

簡易SPI (CSI00, CSI01) の通信動作は、以下の7種類があります。

- ・ マスタ送信 (12. 5. 1項を参照)
- ・ マスタ受信 (12. 5. 2項を参照)
- ・ マスタ送受信 (12. 5. 3項を参照)
- ・ スレーブ送信 (12. 5. 4項を参照)
- ・ スレーブ受信 (12. 5. 5項を参照)
- ・ スレーブ送受信 (12. 5. 6項を参照)
- ・ SNOOZEモード機能 (12. 5. 7項を参照)

12. 5. 1 マスタ送信

マスタ送信とは、このRL78/L12が転送クロックを出力し、RL78/L12から他デバイスへデータを送信する動作です。

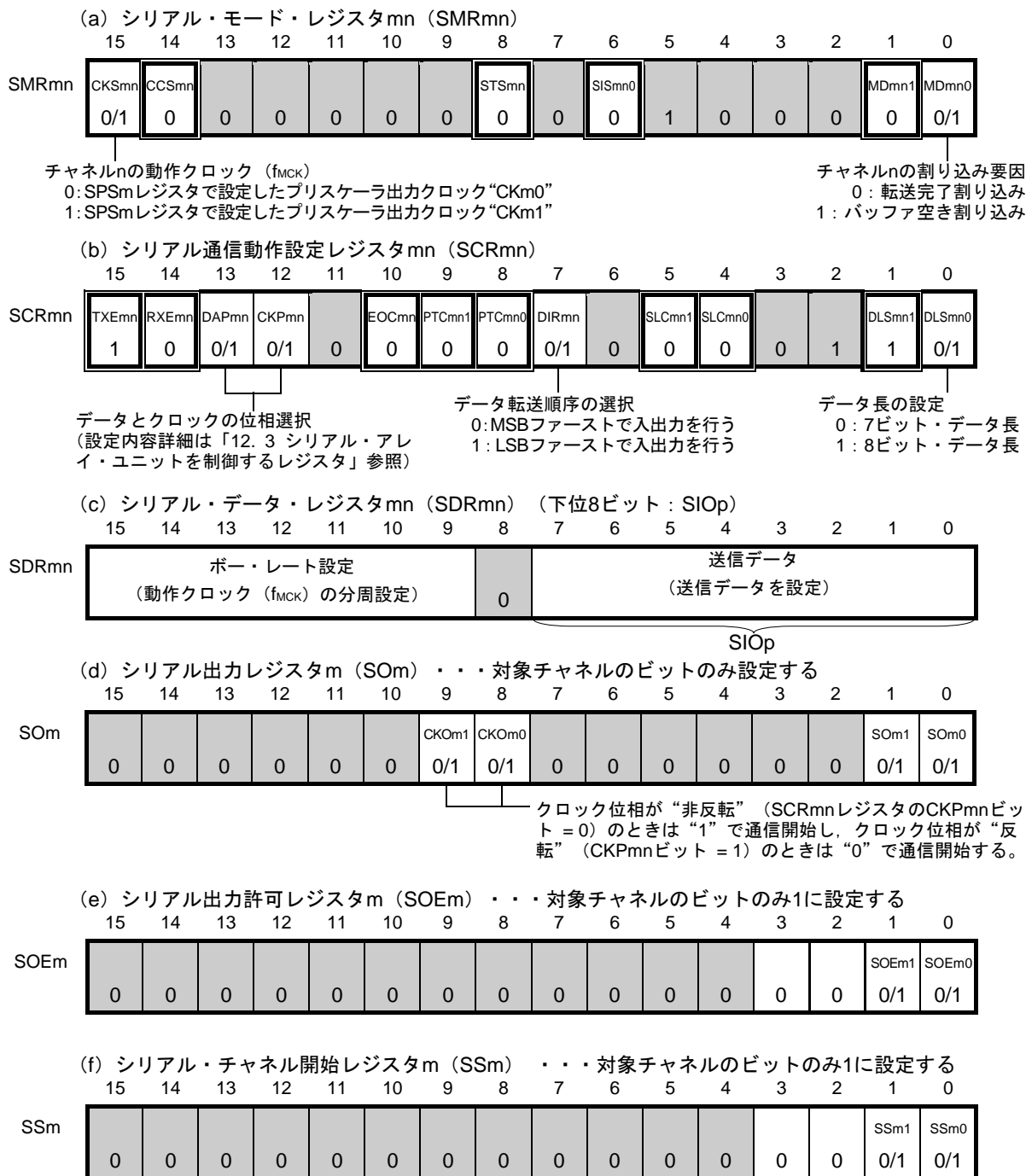
簡易SPI	CSI00	CSI01
対象チャンネル	チャンネル0	チャンネル1
使用端子	SCK00, SO00	SCK01, SO01
割り込み	INTCSI00	INTCSI01
	転送完了割り込み (シングル転送モード時) か、バッファ空き割り込み (連続転送モード時) かを選択可能	
エラー検出フラグ	なし	
転送データ長	7ビットまたは8ビット	
転送レート	Max. $f_{MCK}/2$ [Hz] (CSI00), $f_{MCK}/4$ [Hz] (CSI01) Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [Hz] 注 f_{CLK} : システム・クロック周波数	
データ位相	SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能 ・ DAPmn = 0の場合: シリアル・クロックの動作開始からデータ出力を開始 ・ DAPmn = 1の場合: シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ出力を開始	
クロック位相	SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能 ・ CKPmn = 0の場合: 非反転 (SCKの立ち下がりでデータ出力, 立ち上がりでデータ入力) ・ CKPmn = 1の場合: 反転 (SCKの立ち上がりでデータ出力, 立ち下がりでデータ入力)	
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト	

注 この条件を満たし、かつ電氣的特性の周辺機能特性 (第30章または第31章 電氣的特性参照) を満たす範囲内で使用してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1), mn = 00, 01

(1) レジスタ設定

図12-23 簡易SPI (CSI00, CSI01) のマスタ送信時のレジスタ設定内容例



備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)

mn = 00, 01

2. □ : 簡易SPI(CSI)マスタ送信モードでは設定固定 ■ : 設定不可 (初期値を設定)

× : このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)

0/1 : ユーザの用途に応じて0または1に設定

(2) 操作手順

図12-24 マスタ送信の初期設定手順

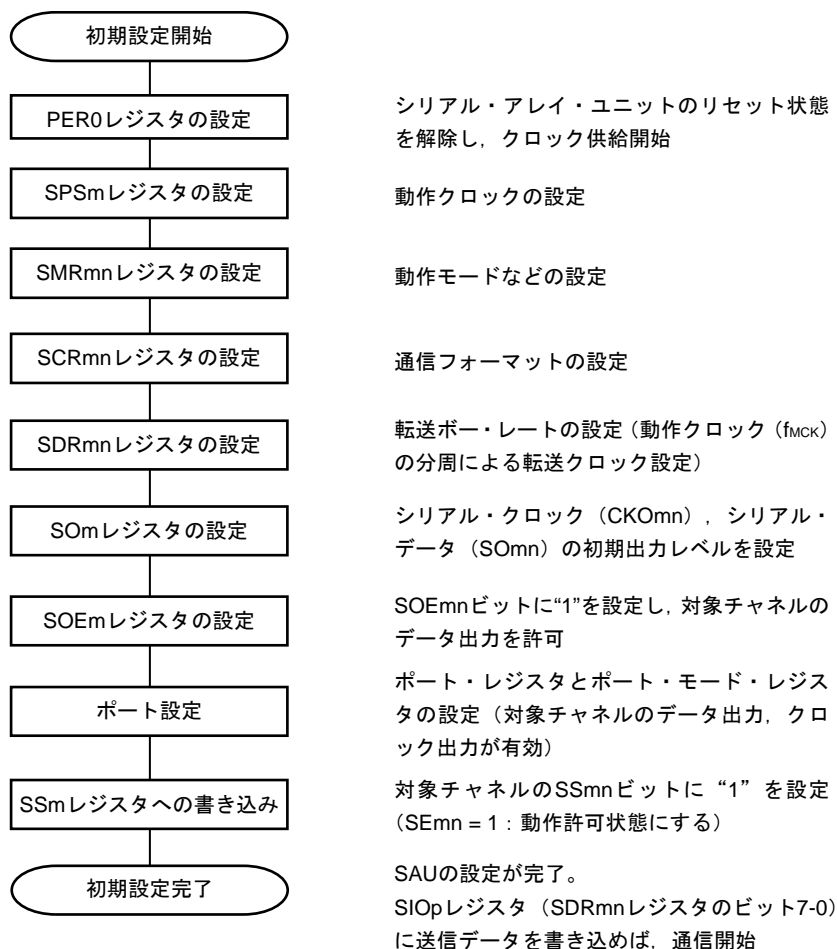


図12-25 マスタ送信の中断手順

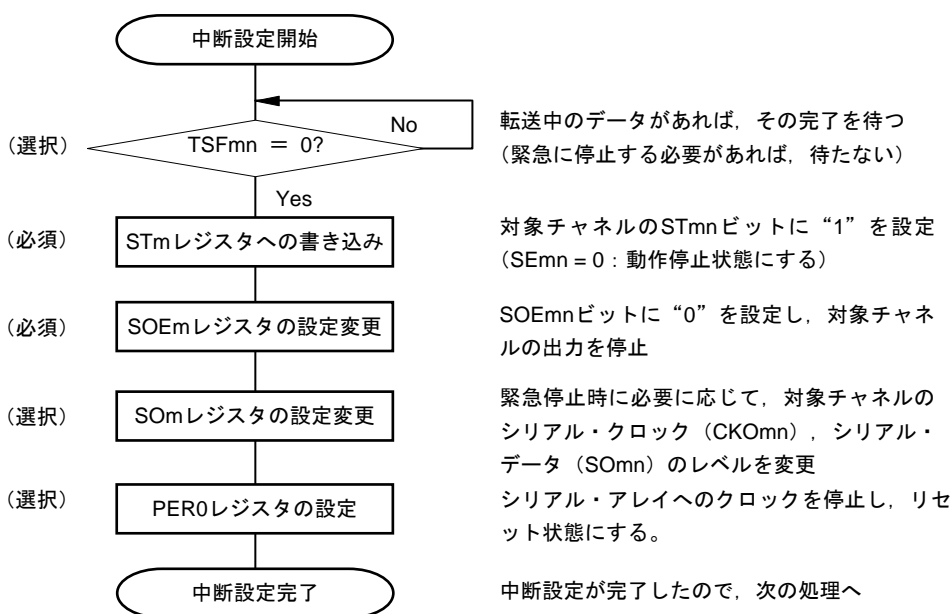
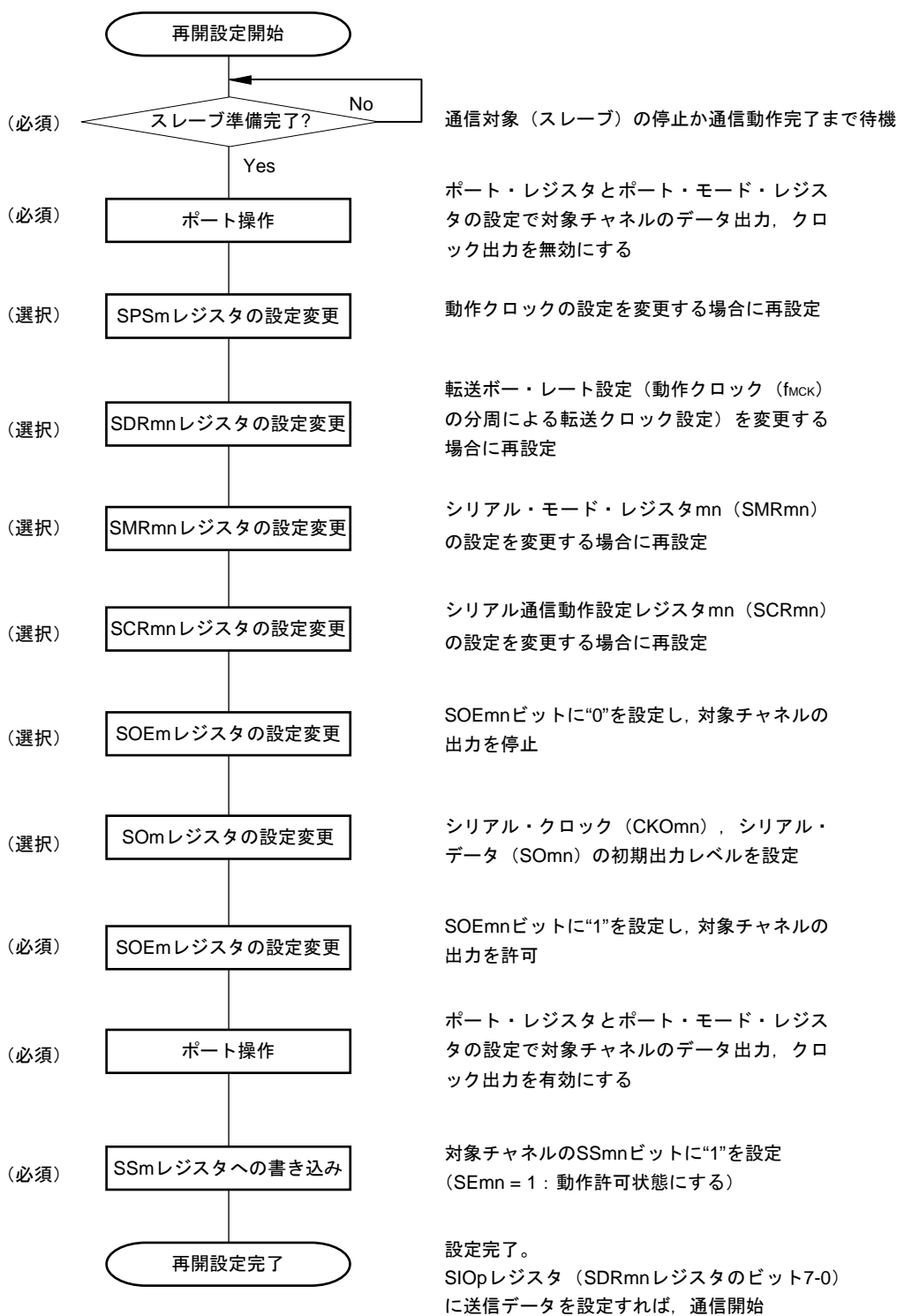


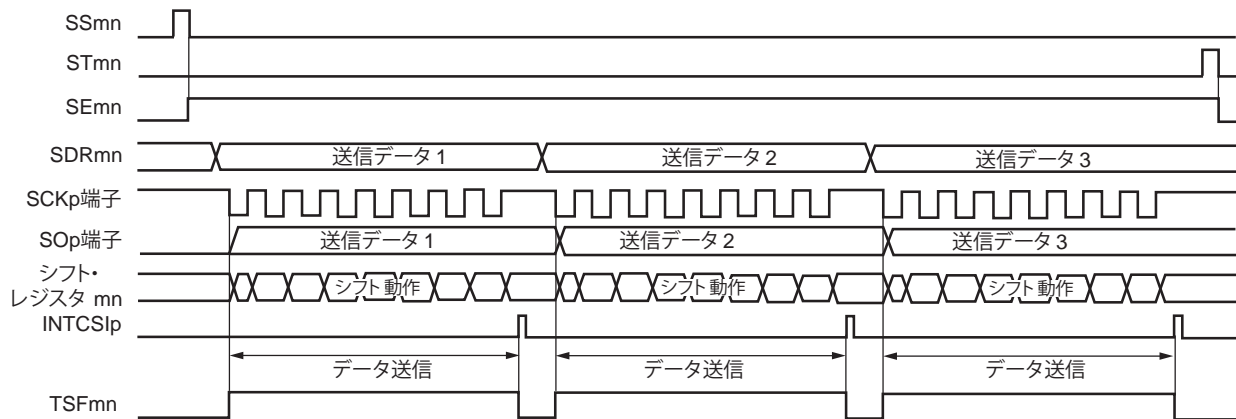
図12-26 マスタ送信の再開設定手順



備考 中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合は、通信対象（スレーブ）の停止か通信動作完了を待って、再開設定ではなく初期設定をしてください。

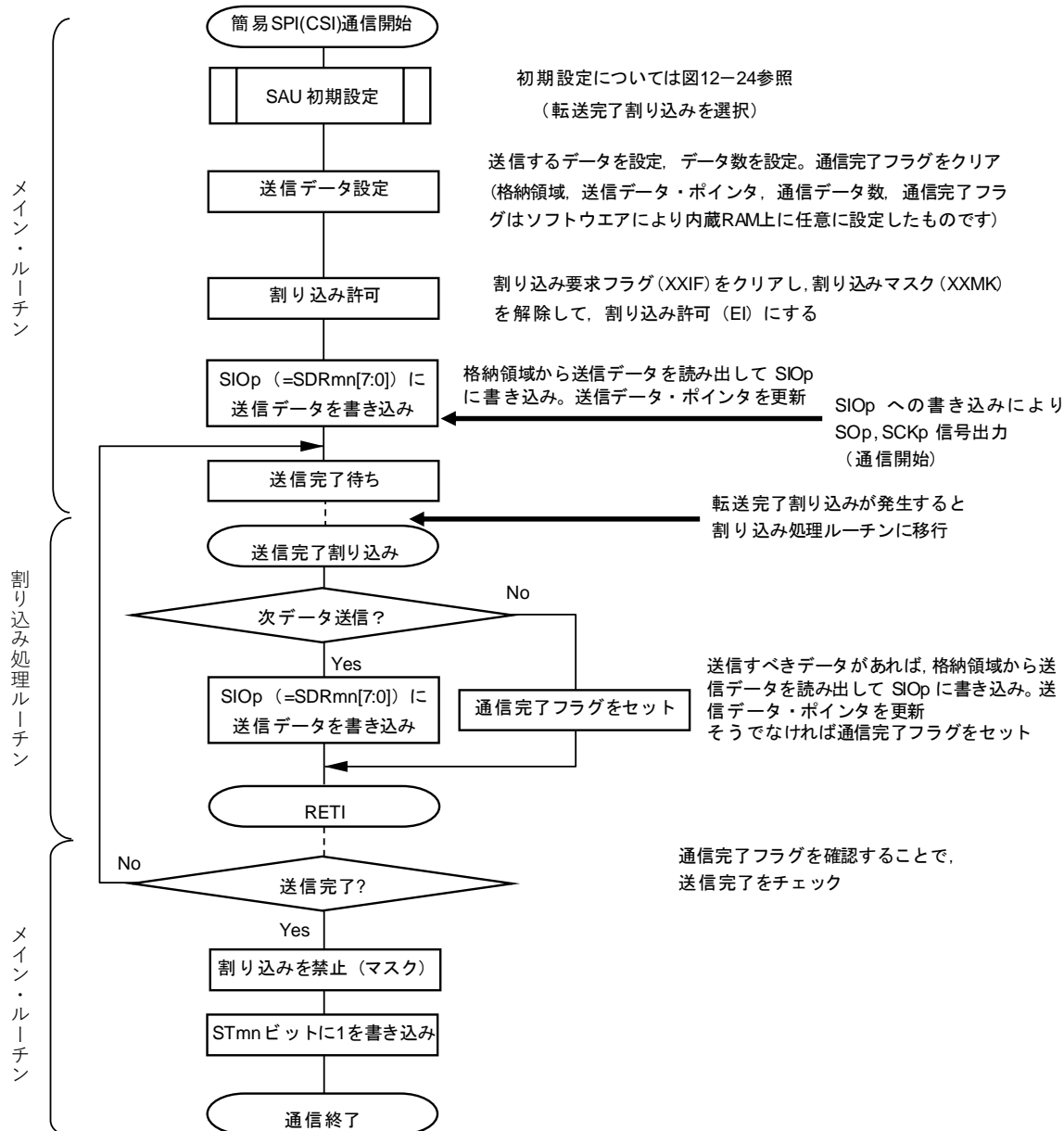
(3) 処理フロー（シングル送信モード時）

図12-27 マスタ送信（シングル送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



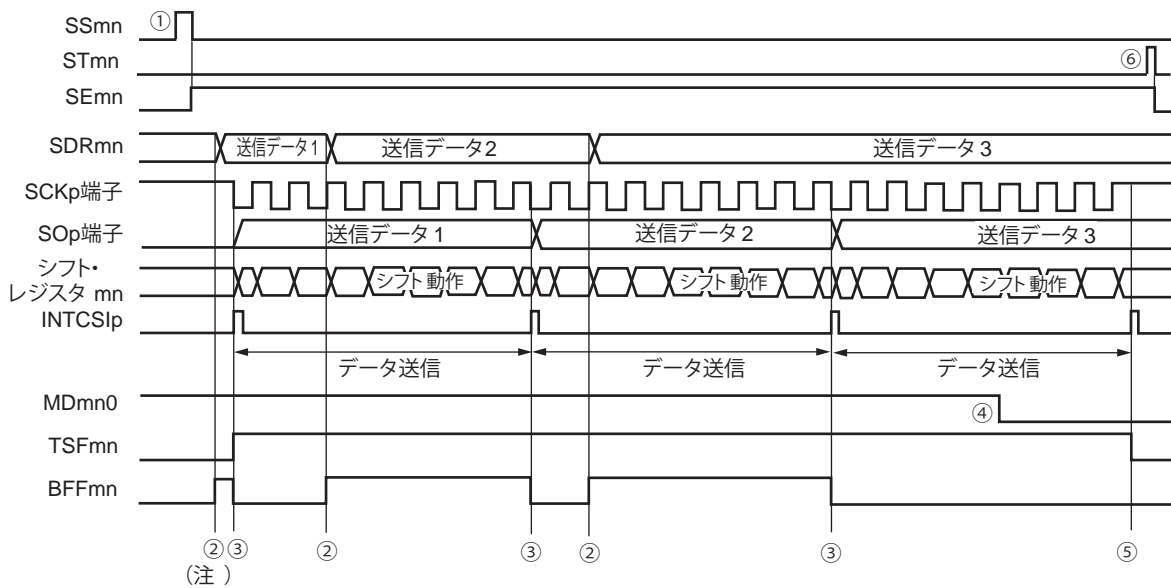
備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-28 マスタ送信（シングル送信モード時）のフロー・チャート



(4) 処理フロー（連続送信モード時）

図12-29 マスタ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）

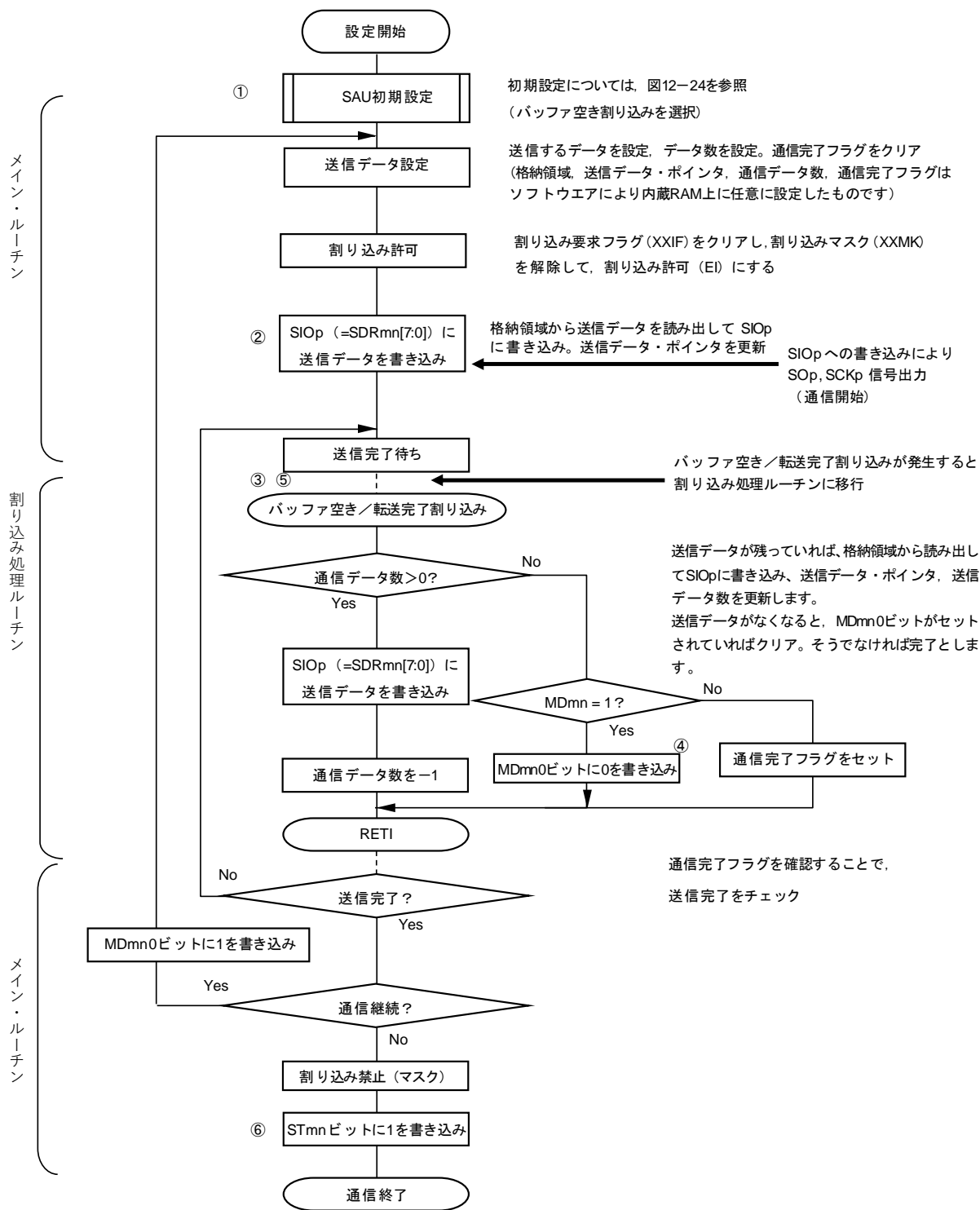


注 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) に格納されているとき)にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと、送信データが上書きされます。

注意 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のMDmn0ビットは、動作中でも書き換えることができます。ただし、最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために、最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-30 マスタ送信（連続送信モード時）のフロー・チャート



備考 図中の①~⑥は、図12-29 マスタ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャートの①~⑥に対応しています。

12.5.2 マスタ受信

マスタ受信とは、このRL78マイクロコントローラが転送クロックを出力し、RL78マイクロコントローラが他デバイスからデータを受信する動作です。

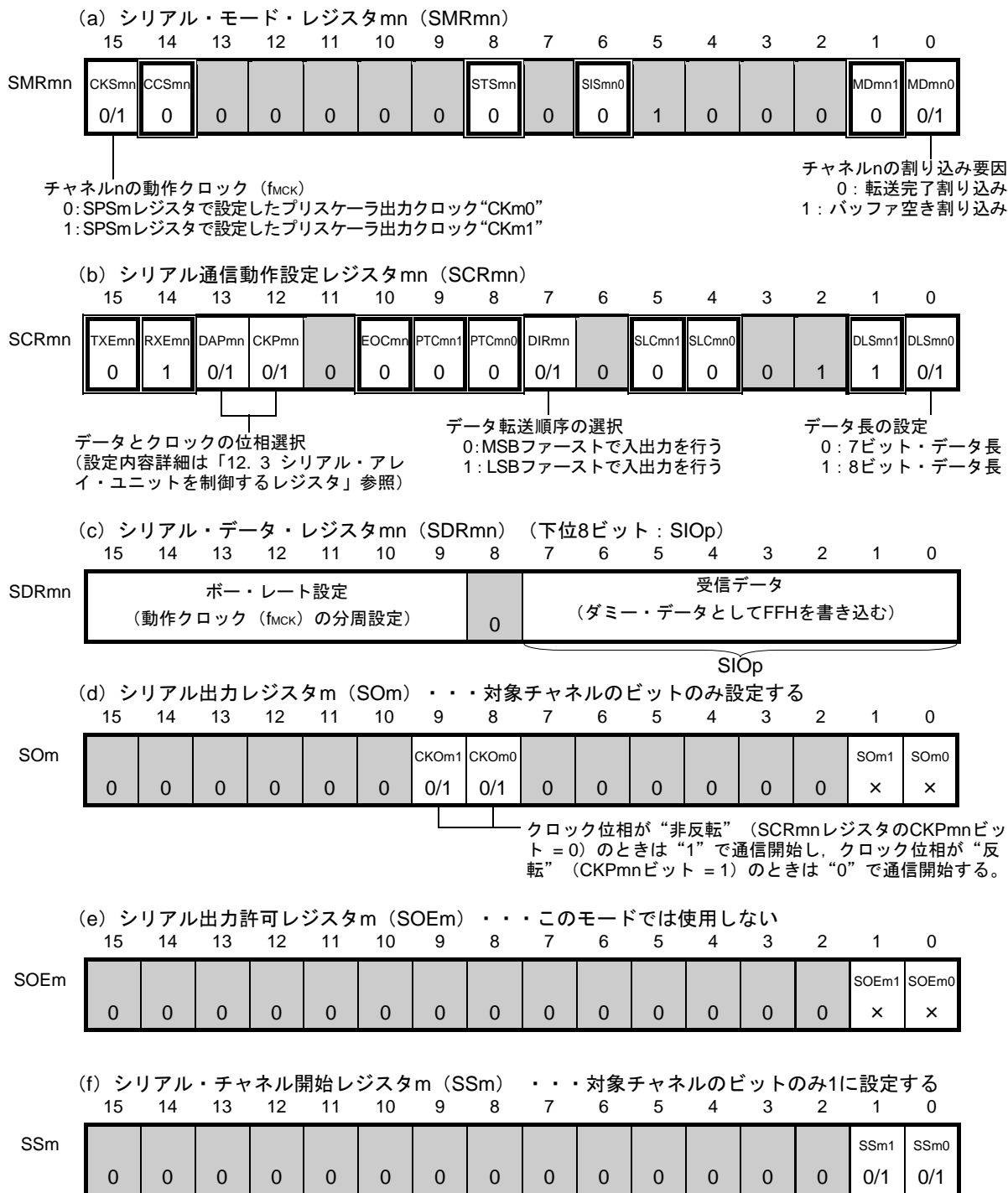
簡易SPI	CSI00	CSI01
対象チャンネル	チャンネル0	チャンネル1
使用端子	SCK00, SI00	SCK01, SI01
割り込み	INTCSI00	INTCSI01
	転送完了割り込み（シングル転送モード時）か、バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能	
エラー検出フラグ	オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ	
転送データ長	7ビットまたは8ビット	
転送レート	Max. $f_{MCK}/2$ [Hz]（CSI00）, $f_{MCK}/4$ [Hz]（CSI01） Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [Hz] ^注 f_{CLK} : システム・クロック周波数	
データ位相	SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能 ・ DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入力を開始 ・ DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入力を開始	
クロック位相	SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能 ・ CKPmn = 0の場合：非反転 ・ CKPmn = 1の場合：反転	
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト	

注 この条件を満たし、かつ電気的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) , mn = 00, 01

(1) レジスタ設定

図12-31 簡易SPI (CSI00, CSI01) のマスタ受信時のレジスタ設定内容例



- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
 mn = 00, 01
2. : 簡易SPI(CSI)マスタ受信モードでは設定固定 : 設定不可 (初期値を設定)
 × : このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)
 0/1 : ユーザの用途に応じて0または1に設定

(2) 操作手順

図12-32 マスタ受信の初期設定手順

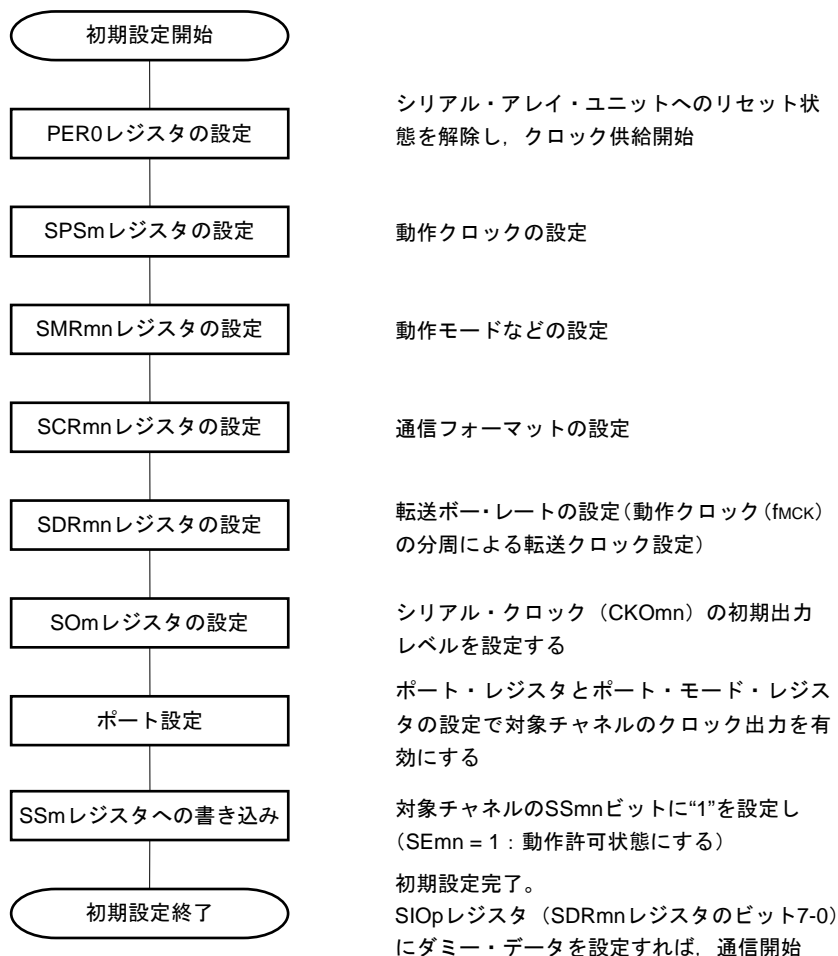


図12-33 マスタ受信の中断手順

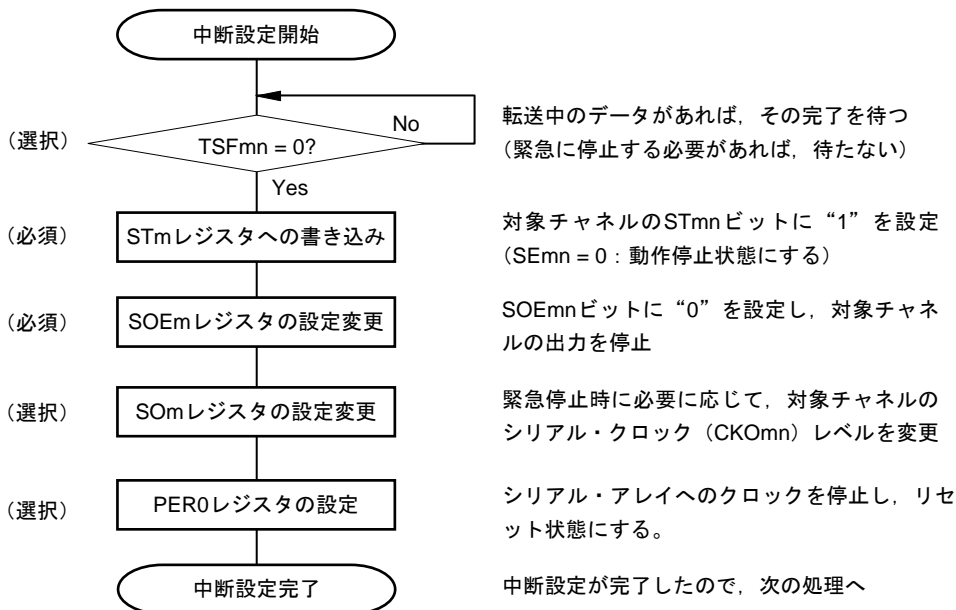
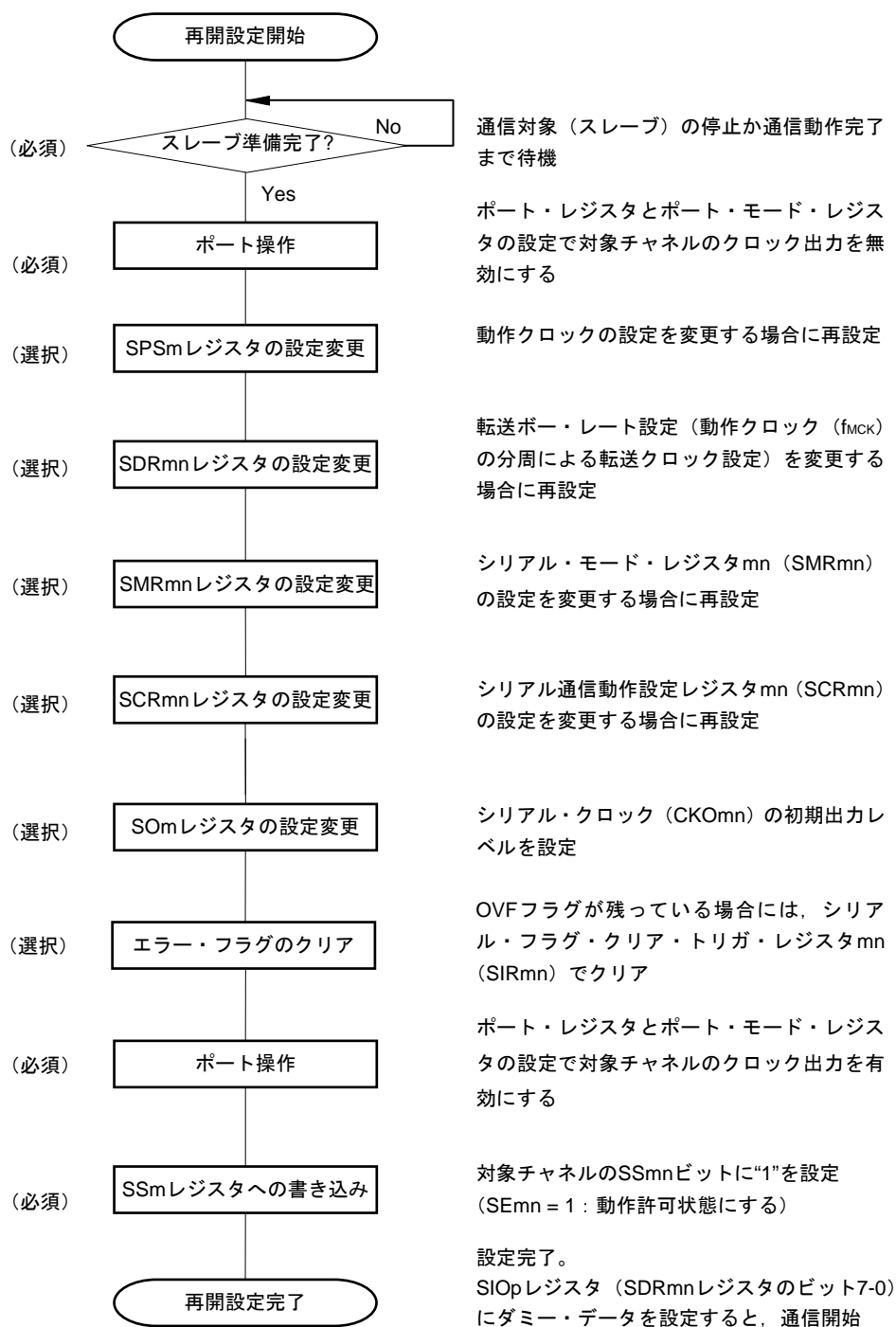


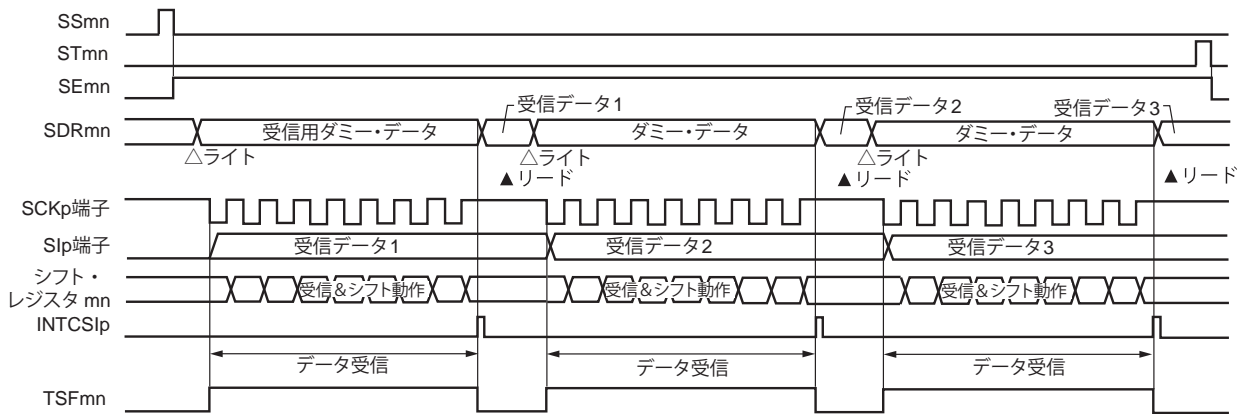
図12-34 マスタ受信の再開設定手順



備考 中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合は、通信対象（スレーブ）の停止か通信動作完了を待って、再開設定ではなく初期設定をしてください。

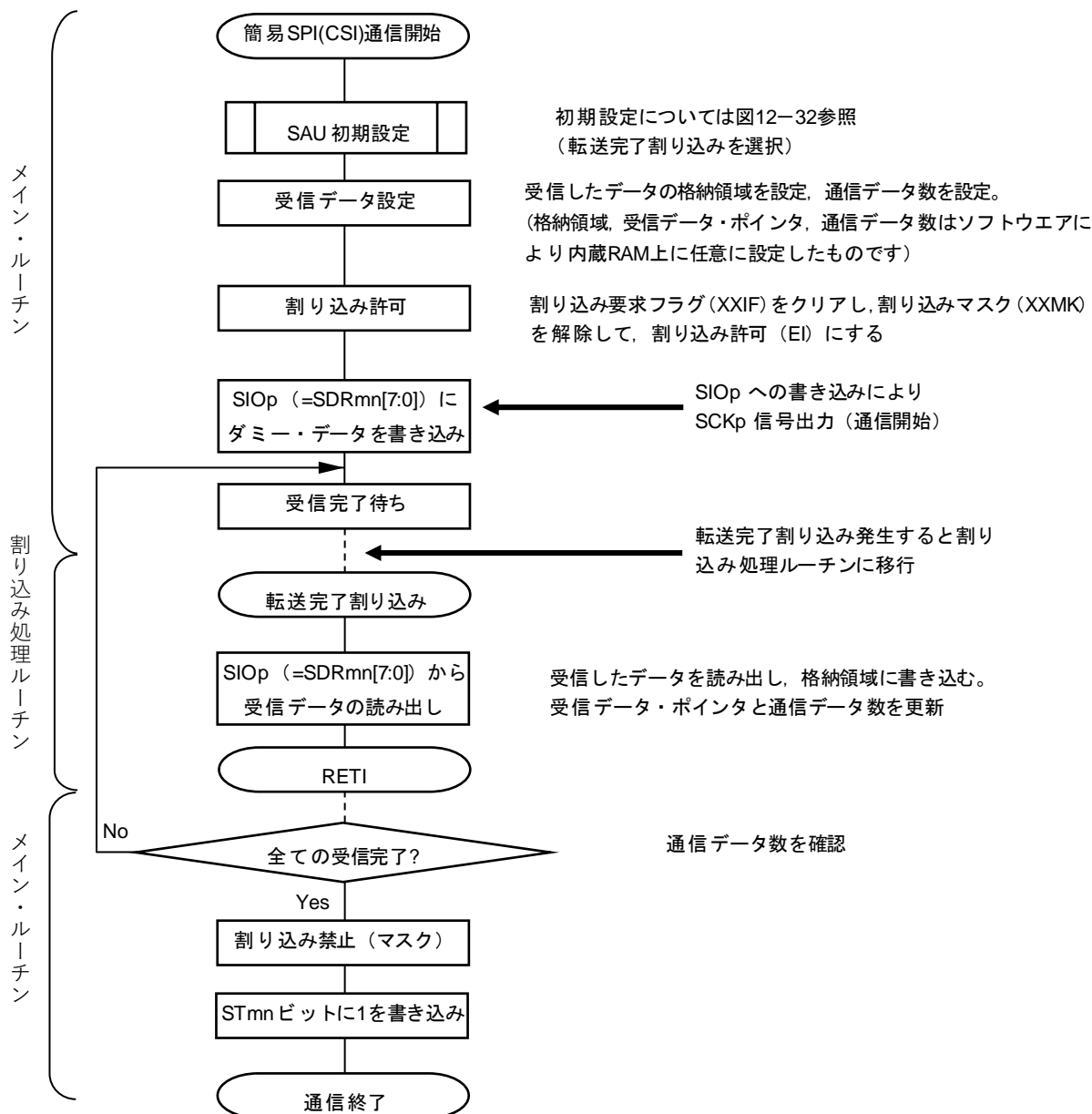
(3) 処理フロー（シングル受信モード時）

図12-35 マスタ受信（シングル受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



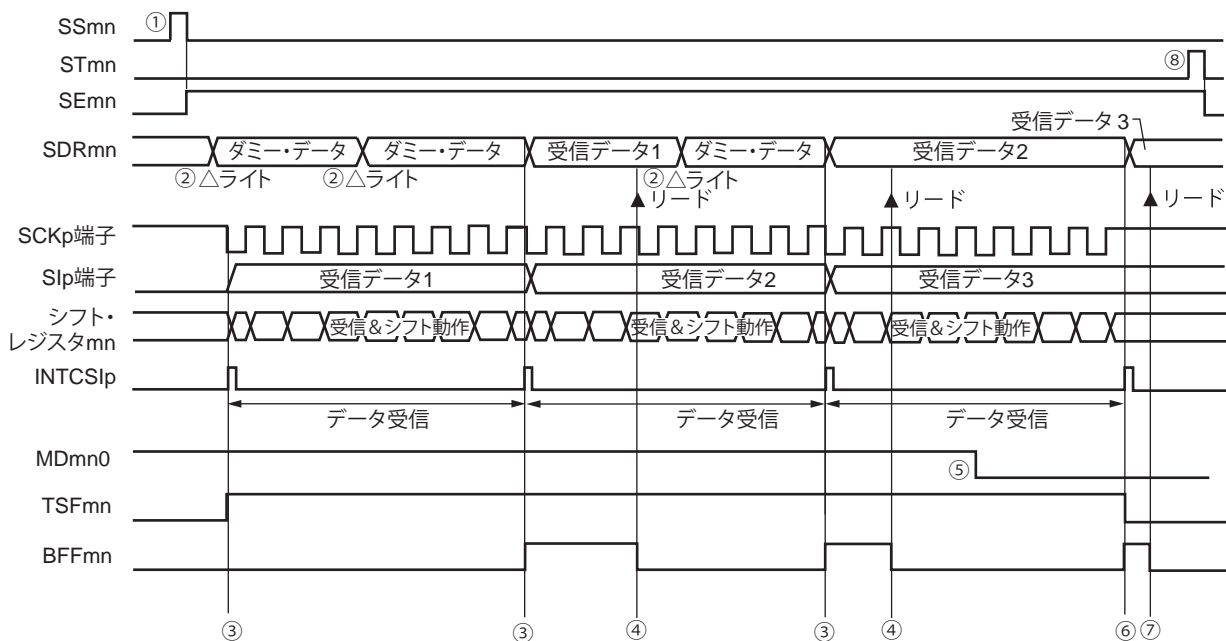
備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-36 マスタ受信（シングル受信モード時）のフロー・チャート



(4) 処理フロー（連続受信モード時）

図12-37 マスタ受信（連続受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



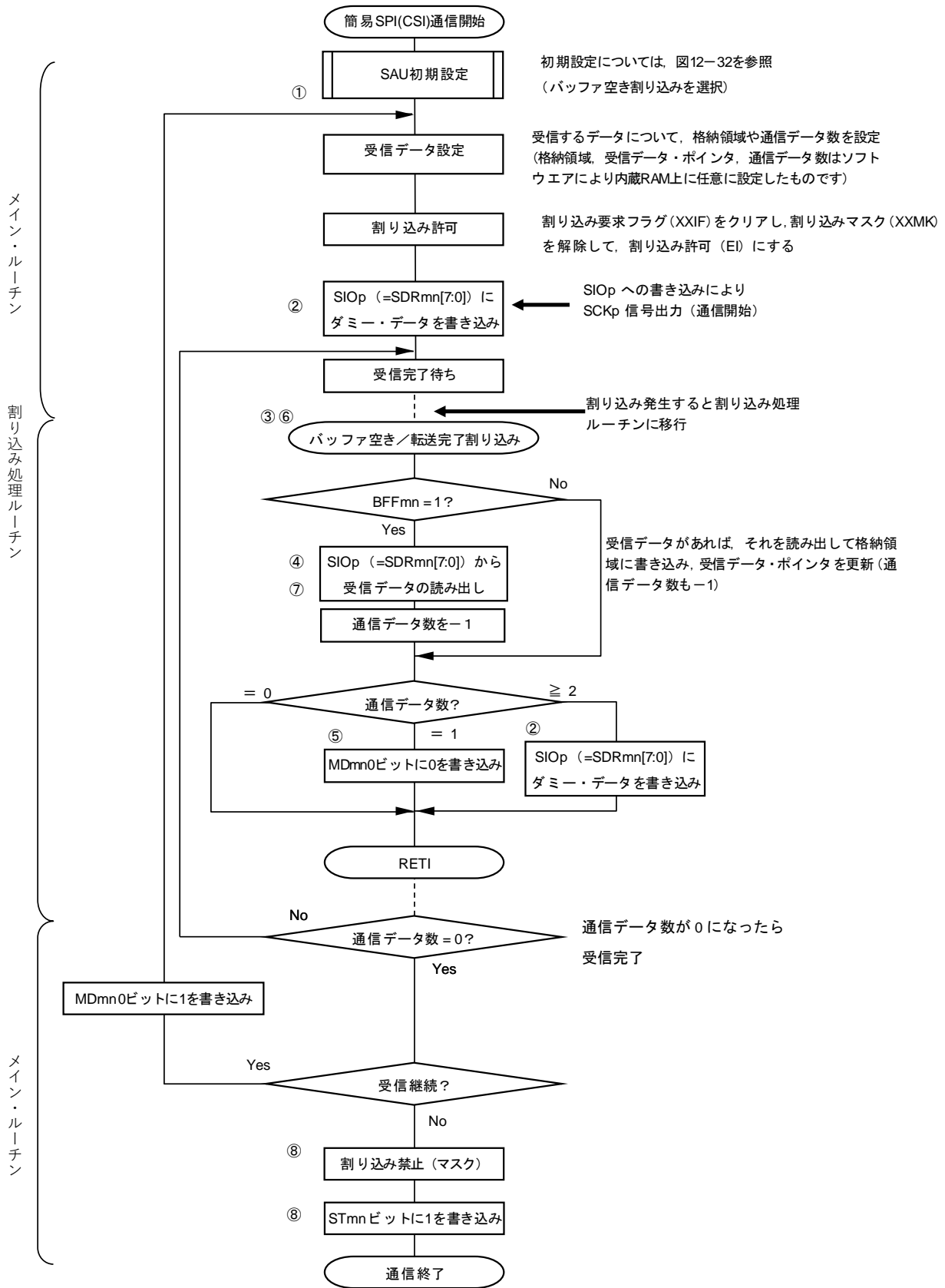
注意 MDmn0ビットは、動作中でも書き換えることができます。

ただし、最後の受信データの転送完了割り込みに間に合わせるために、最終ビットの受信開始前までに書き換えてください。

備考1. 図中の①~⑧は、図12-38 マスタ受信（連続受信モード時）のフロー・チャートの①~⑧に対応しています。

- 2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-38 マスタ受信（連続受信モード時）のフロー・チャート



備考 図中の①~⑧は、図12-37 マスタ受信（連続受信モード時）のタイミング・チャートの①~⑧に対応しています。

12.5.3 マスタ送受信

マスタ送受信とは、このRL78/L12が転送クロックを出力し、RL78/L12と他デバイスでデータを送受信する動作です。

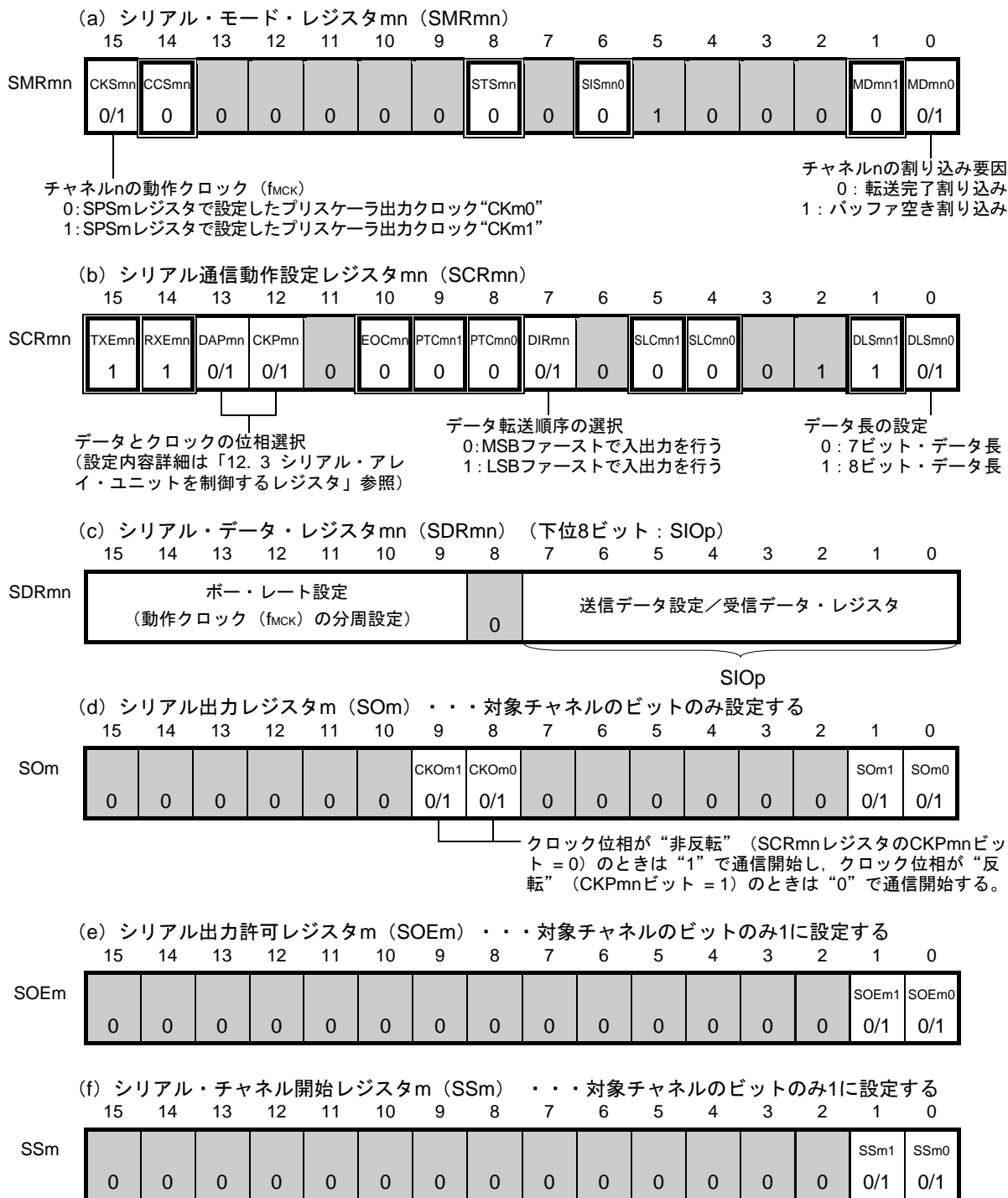
簡易SPI	CSI00	CSI01
対象チャンネル	チャンネル0	チャンネル1
使用端子	SCK00, SI00, SO00	SCK01, SI01, SO01
割り込み	INTCSI00	INTCSI01
	転送完了割り込み（シングル転送モード時）か、バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能	
エラー検出フラグ	オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ	
転送データ長	7ビットまたは8ビット	
転送レート	Max. $f_{MCK}/2$ [Hz]（CSI00）, $f_{MCK}/4$ [Hz]（CSI01） Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [Hz] ^注 f_{CLK} : システム・クロック周波数	
データ位相	SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能 ・ DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入出力を開始 ・ DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入出力を開始	
クロック位相	SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能 ・ CKPmn = 0の場合：非反転 ・ CKPmn = 1の場合：反転	
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト	

注 この条件を満たし、かつ電氣的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電氣的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) mn = 00, 01

(1) レジスタ設定

図12-39 簡易SPI (CSI00, CSI01) のマスタ送受信時のレジスタ設定内容例



備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)

mn = 00, 01

2. □: 簡易SPI(CSI)マスタ送受信モードでは設定固定 ■: 設定不可 (初期値を設定)

× : このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)

0/1 : ユーザの用途に応じて0または1に設定

(2) 操作手順

図12-40 マスタ送受信の初期設定手順

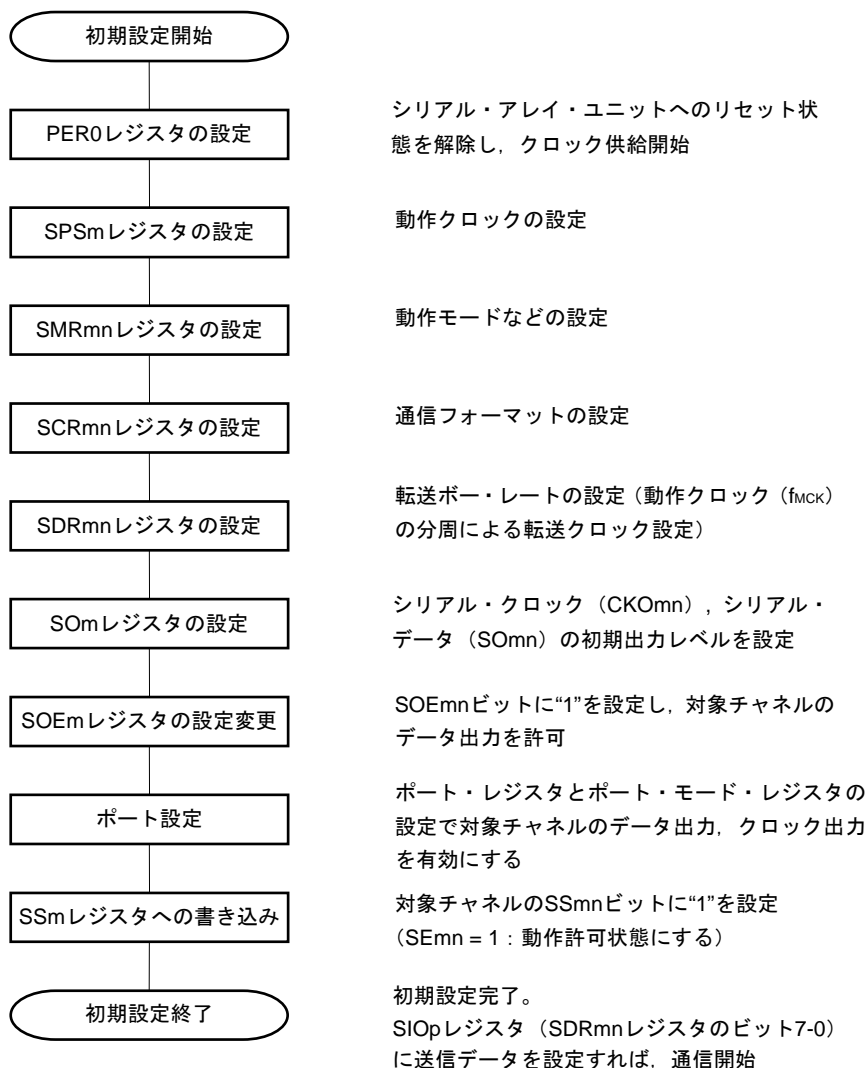


図12-41 マスタ送受信の中断手順

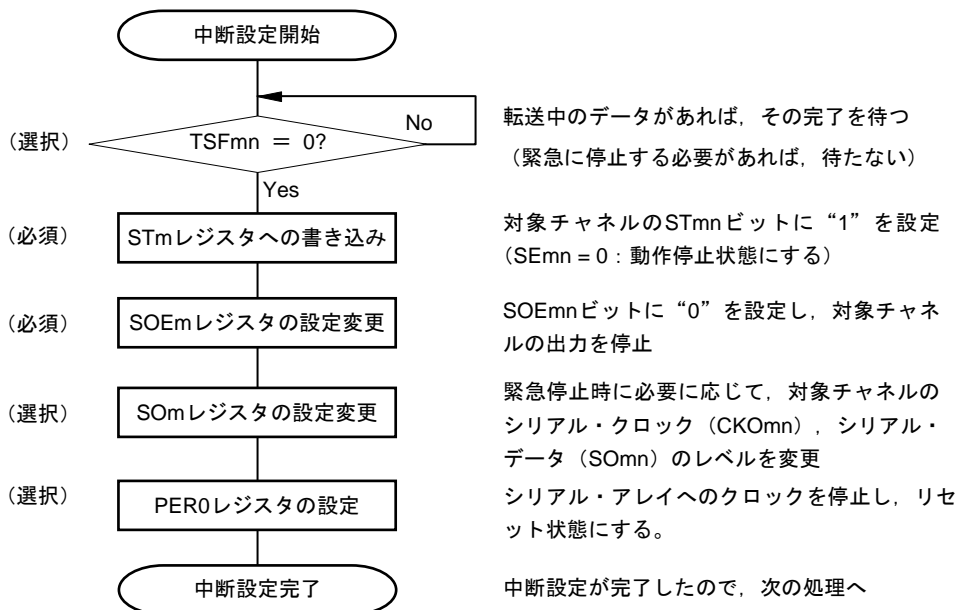
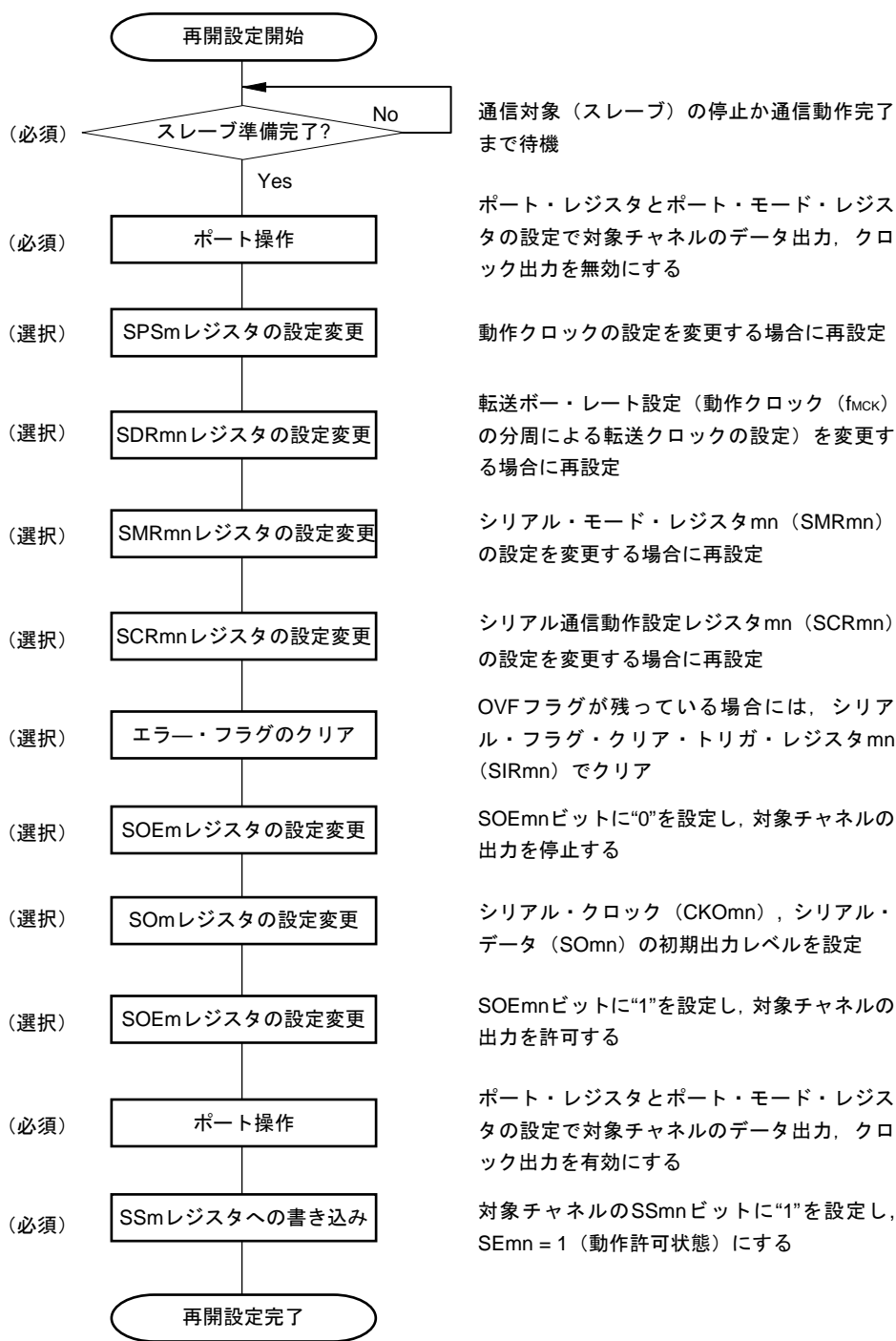
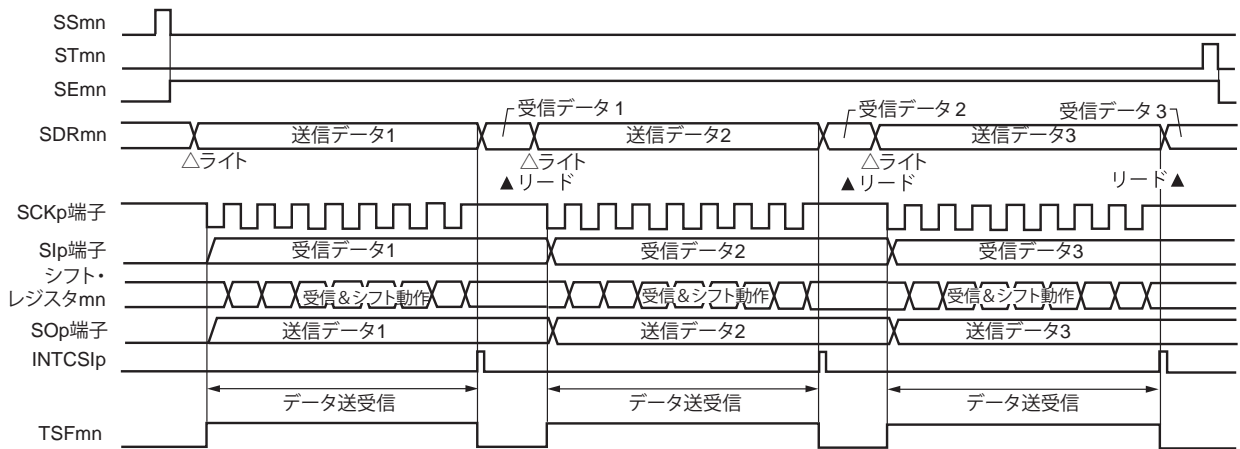


図12-42 マスタ送受信の再開設定手順



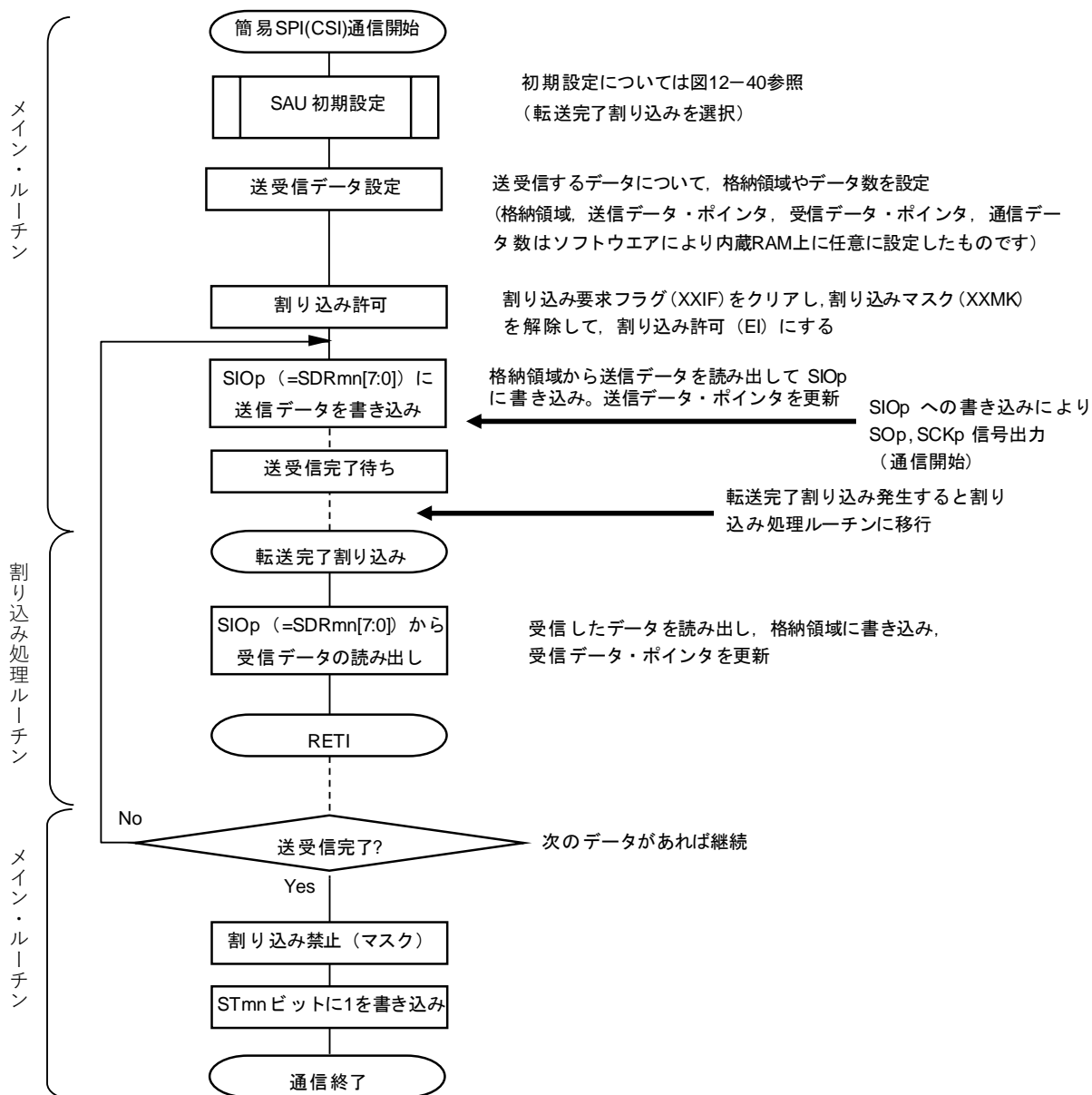
(3) 処理フロー（シングル送受信モード時）

図12-43 マスタ送受信（シングル送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



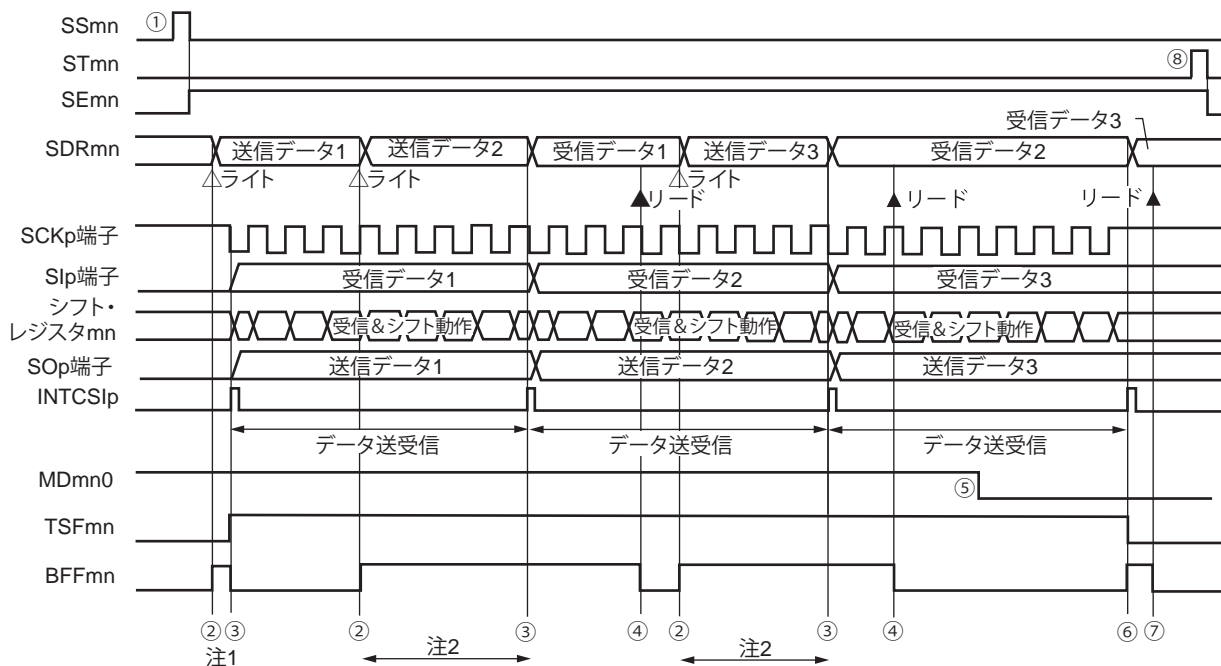
備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
 mn = 00, 01

図12-44 マスタ送受信（シングル送受信モード時）のフロー・チャート



(4) 処理フロー（連続送受信モード時）

図12-45 マスタ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



注1. シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) に格納されている時）にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと、送信データが上書きされます。

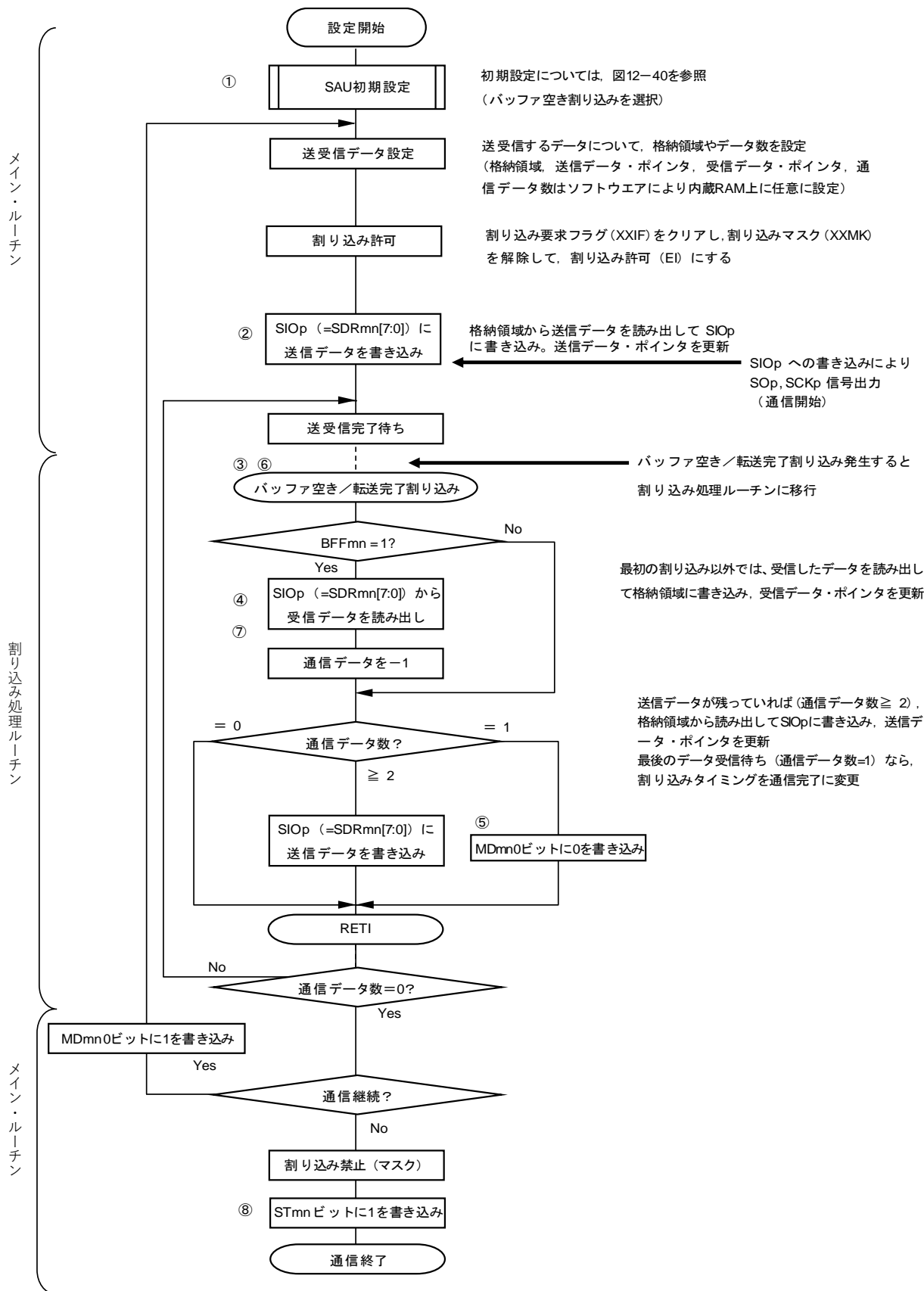
- この期間にSDRmnレジスタをリードすると、送信データを読み出すことができます。その際、転送動作には影響はありません。

注意 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のMDmn0ビットは、動作中でも書き換えることができます。ただし、最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために、最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考1. 図中の①~⑧は、図12-46 マスタ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャートの①~⑧に対応しています。

- m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-46 マスタ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャート



備考 図中の①~⑧は、図12-45 マスタ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャートの①~⑧に対応しています。

12.5.4 スレーブ送信

スレーブ送信とは、他デバイスから転送クロックを入力される状態で、RL78マイクロコントローラから他デバイスへデータを送信する動作です。

簡易SPI	CSI00	CSI01
対象チャンネル	チャンネル0	チャンネル1
使用端子	SCK00, SO00	SCK01, SO01
割り込み	INTCSI00	INTCSI01
	転送完了割り込み（シングル転送モード時）か、バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能	
エラー検出フラグ	オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ	
転送データ長	7ビットまたは8ビット	
転送レート	Max. $f_{MCK}/6$ [Hz] ^{注1, 2}	
データ位相	SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能 <ul style="list-style-type: none"> ・ DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ出力を開始 ・ DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ出力を開始 	
クロック位相	SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能 <ul style="list-style-type: none"> ・ CKPmn = 0の場合：非反転 ・ CKPmn = 1の場合：反転 	
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト	

- 注1. SCK00, SCK01端子に入力された外部シリアル・クロックは、内部でサンプリングして使用されるため、最大転送レートは $f_{MCK}/6$ [Hz]となります。
2. この条件を満たし、かつ電気的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

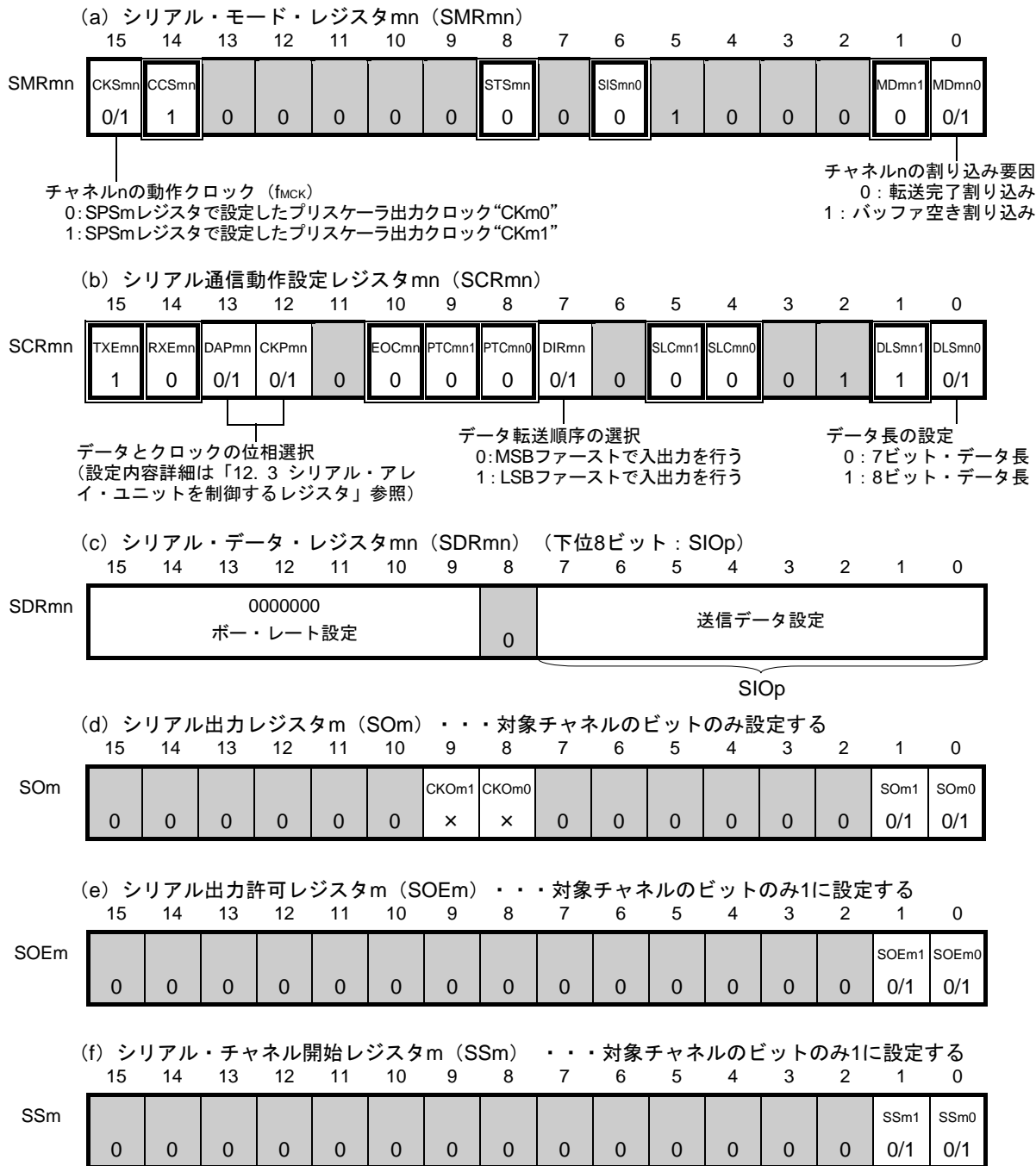
備考1. f_{MCK} ：対象チャンネルの動作クロック周波数

f_{SCK} ：シリアル・クロック周波数

2. m：ユニット番号（m = 0） n：チャンネル番号（n = 0, 1） mn = 00, 01

(1) レジスタ設定

図12-47 簡易SPI (CSI00, CSI01) のスレーブ送信時のレジスタ設定内容例



備考1. m : ユニット番号 (m=0) n : チャンネル番号 (n=0, 1) p : CSI番号 (p=00, 01)

mn = 00, 01

- : 簡易SPI(CSI)スレーブ送信モードでは設定固定 : 設定不可 (初期値を設定)
 x : このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)
 0/1 : ユーザの用途に応じて0または1に設定

(2) 操作手順

図12-48 スレーブ送信の初期設定手順

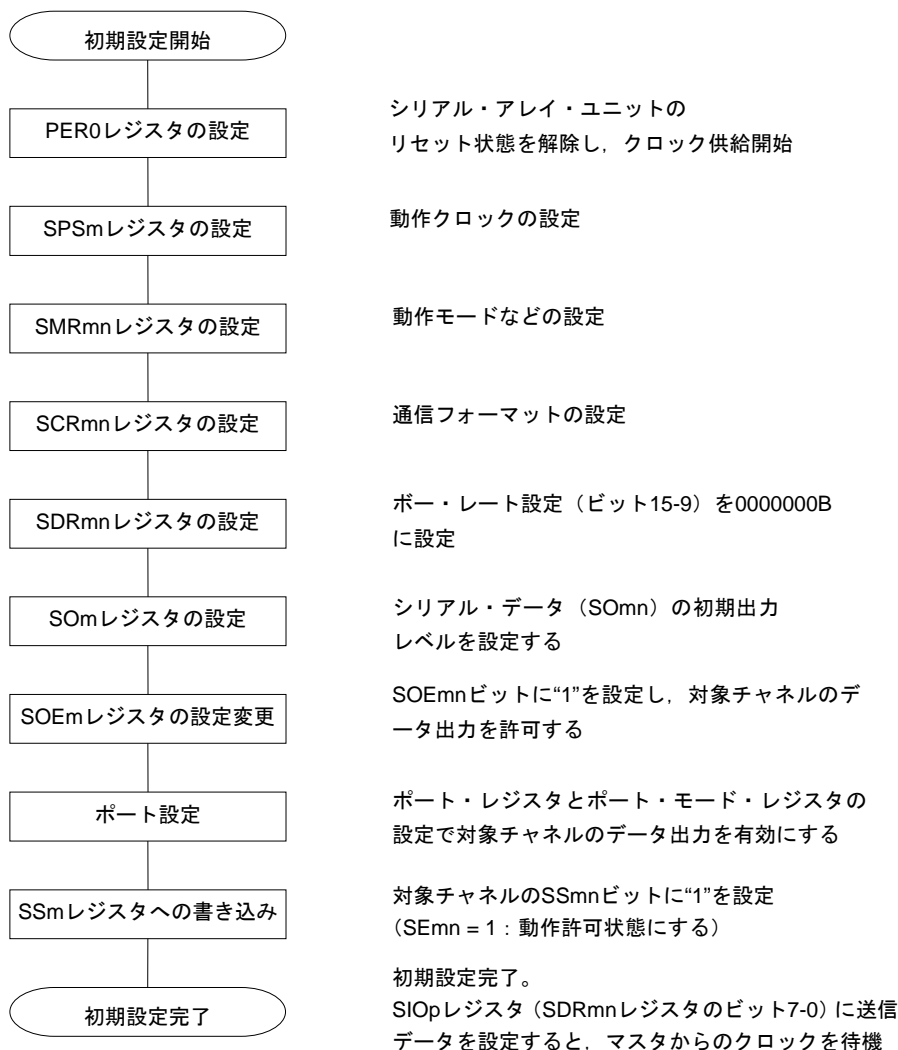


図12-49 スレーブ送信の中断手順

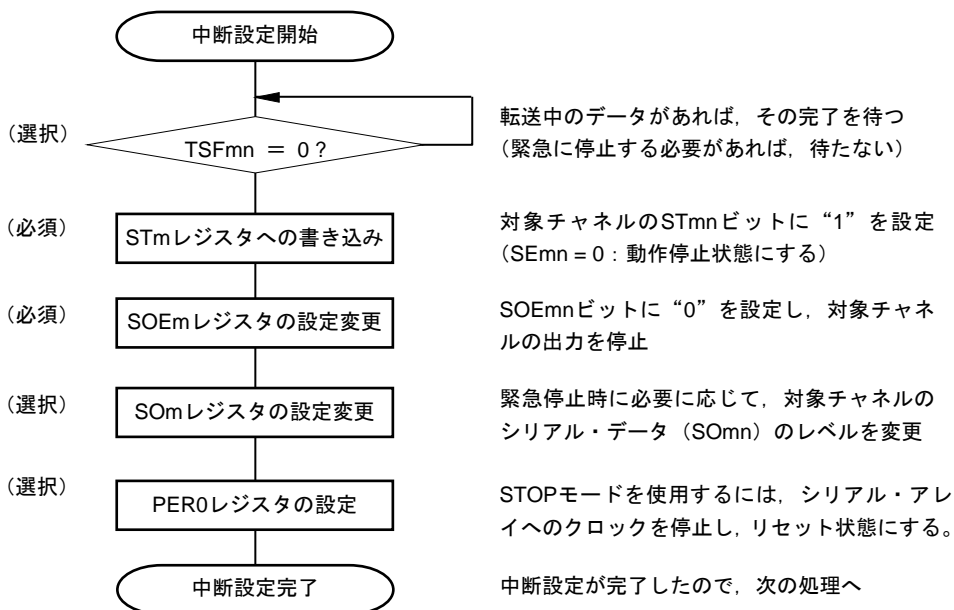
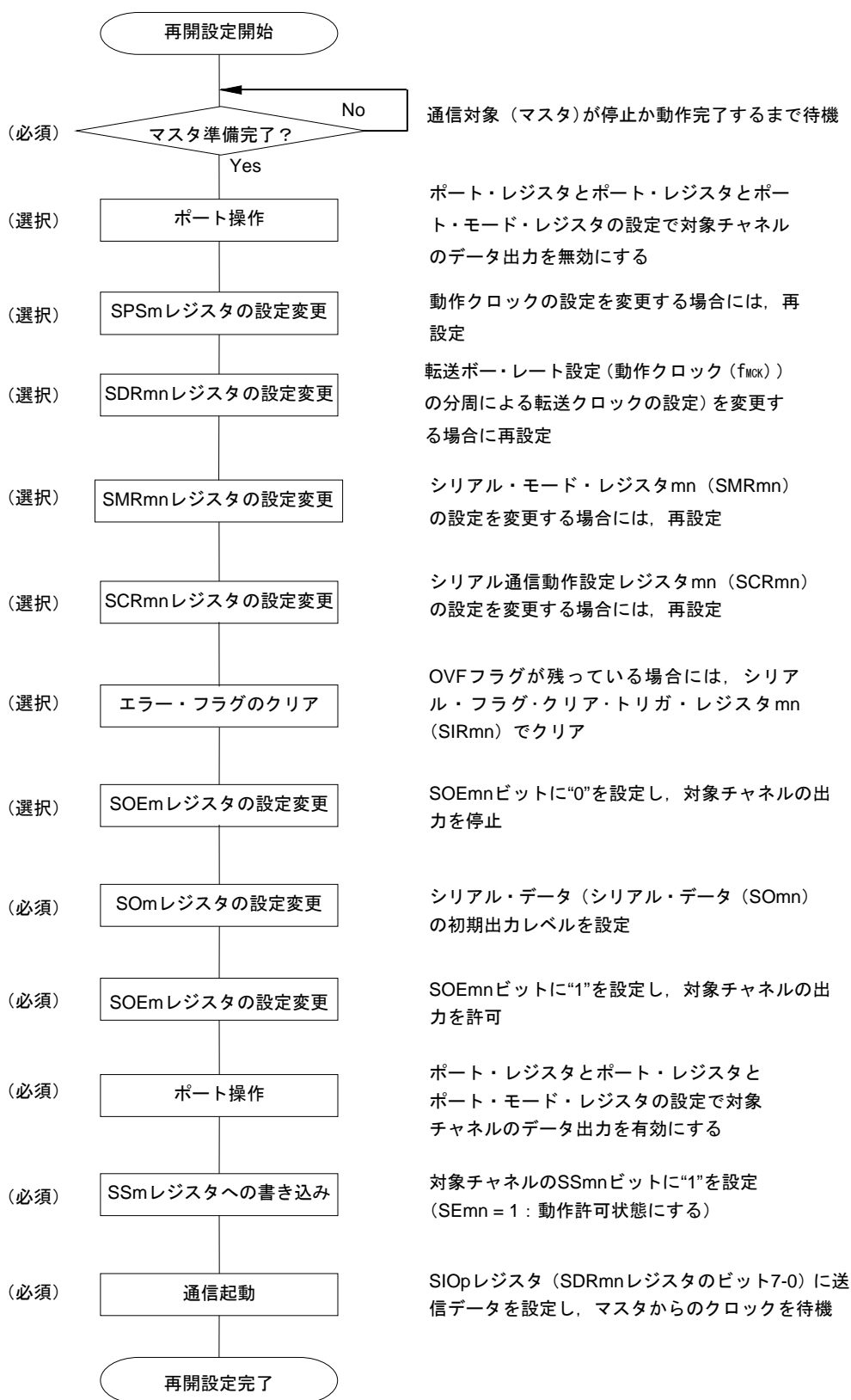


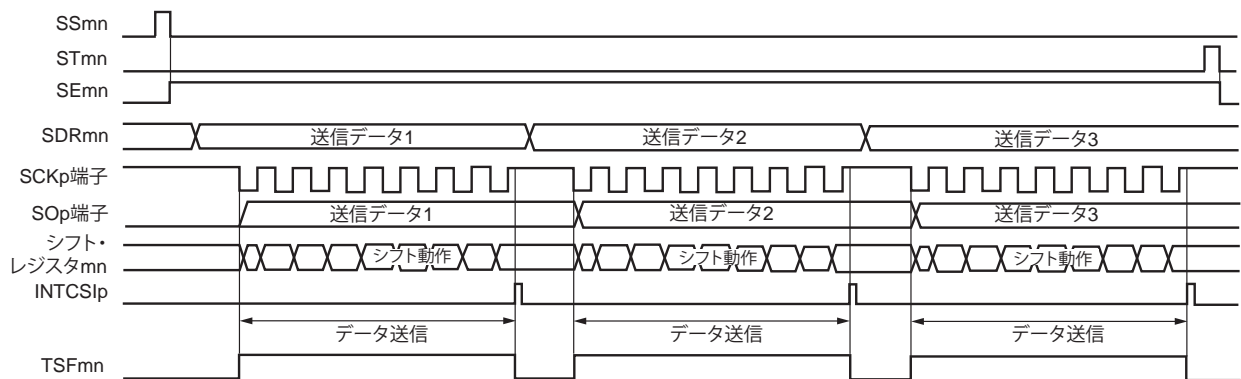
図12-50 スレーブ送信の再開設定手順



備考 中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には、通信対象（マスタ）の停止か通信動作完了を待って、再開設定ではなく初期設定をしてください。

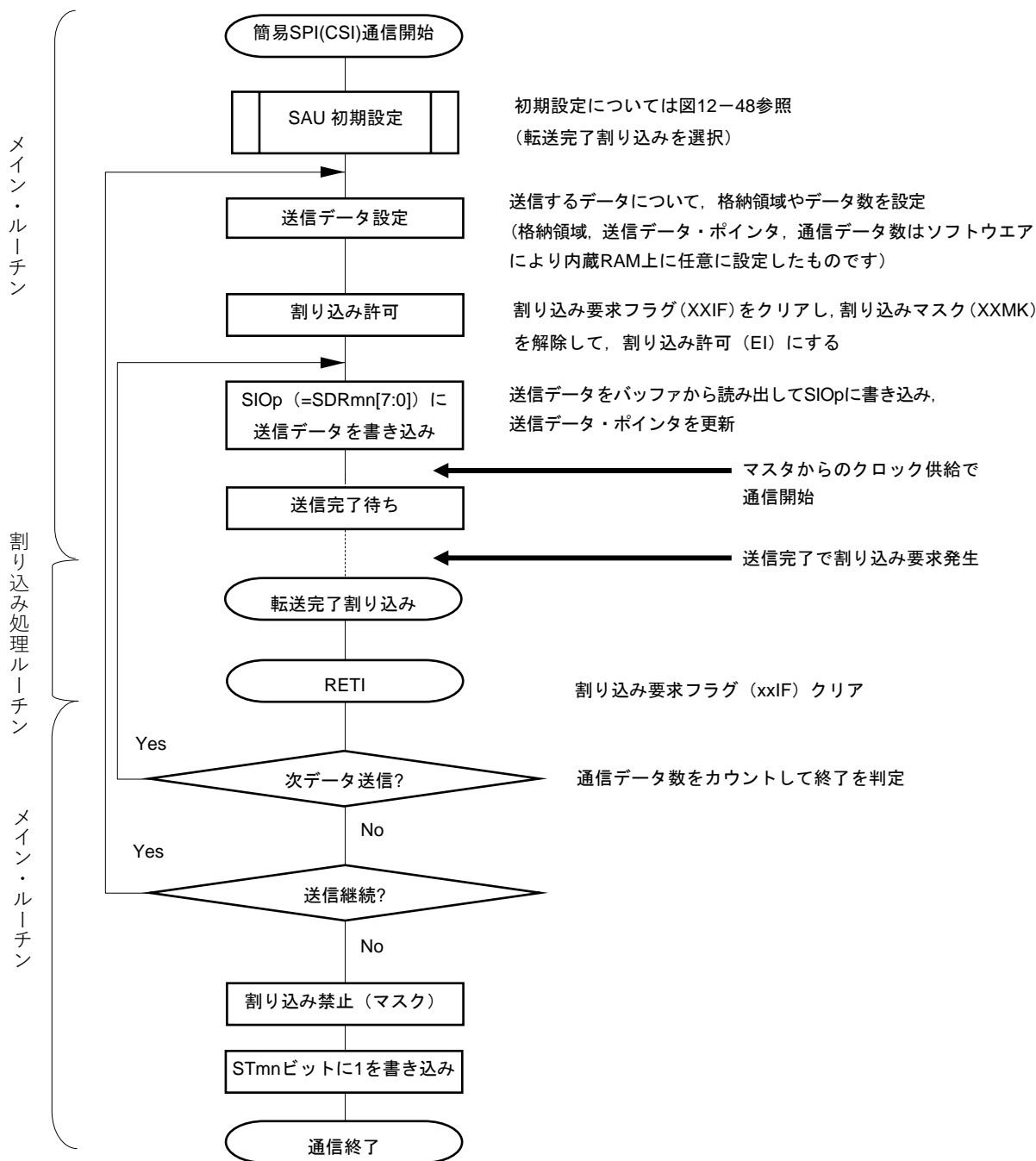
(3) 処理フロー（シングル送信モード時）

図12-51 スレーブ送信（シングル送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-52 スレーブ送信（シングル送信モード時）のフロー・チャート



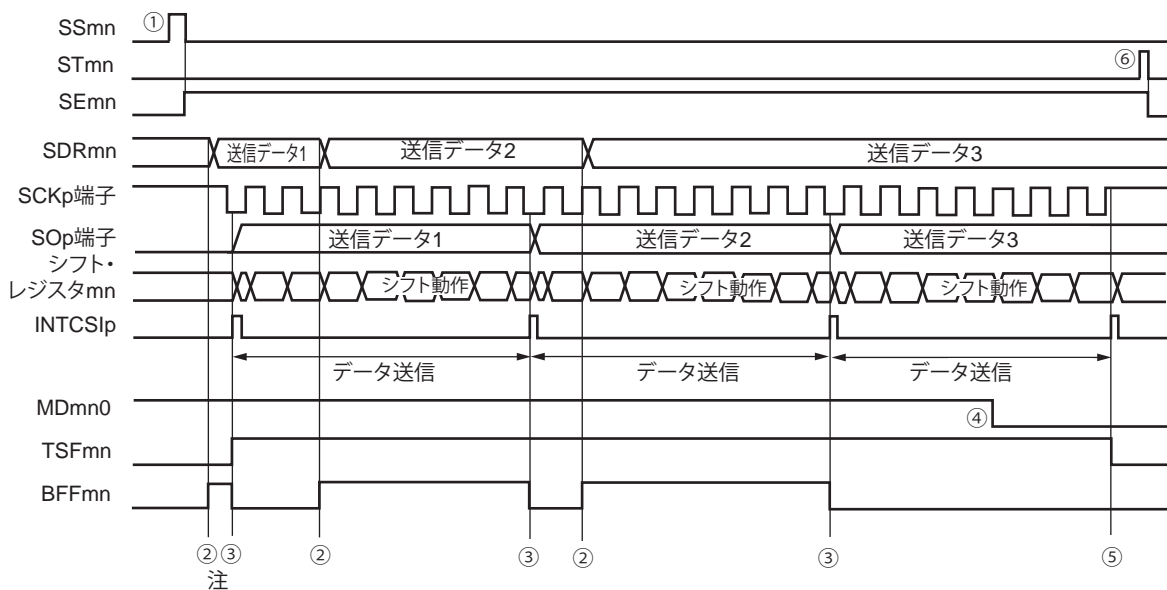
メイン・ルーチン

割り込み処理ルーチン

メイン・ルーチン

(4) 処理フロー（連続送信モード時）

図12-53 スレーブ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）

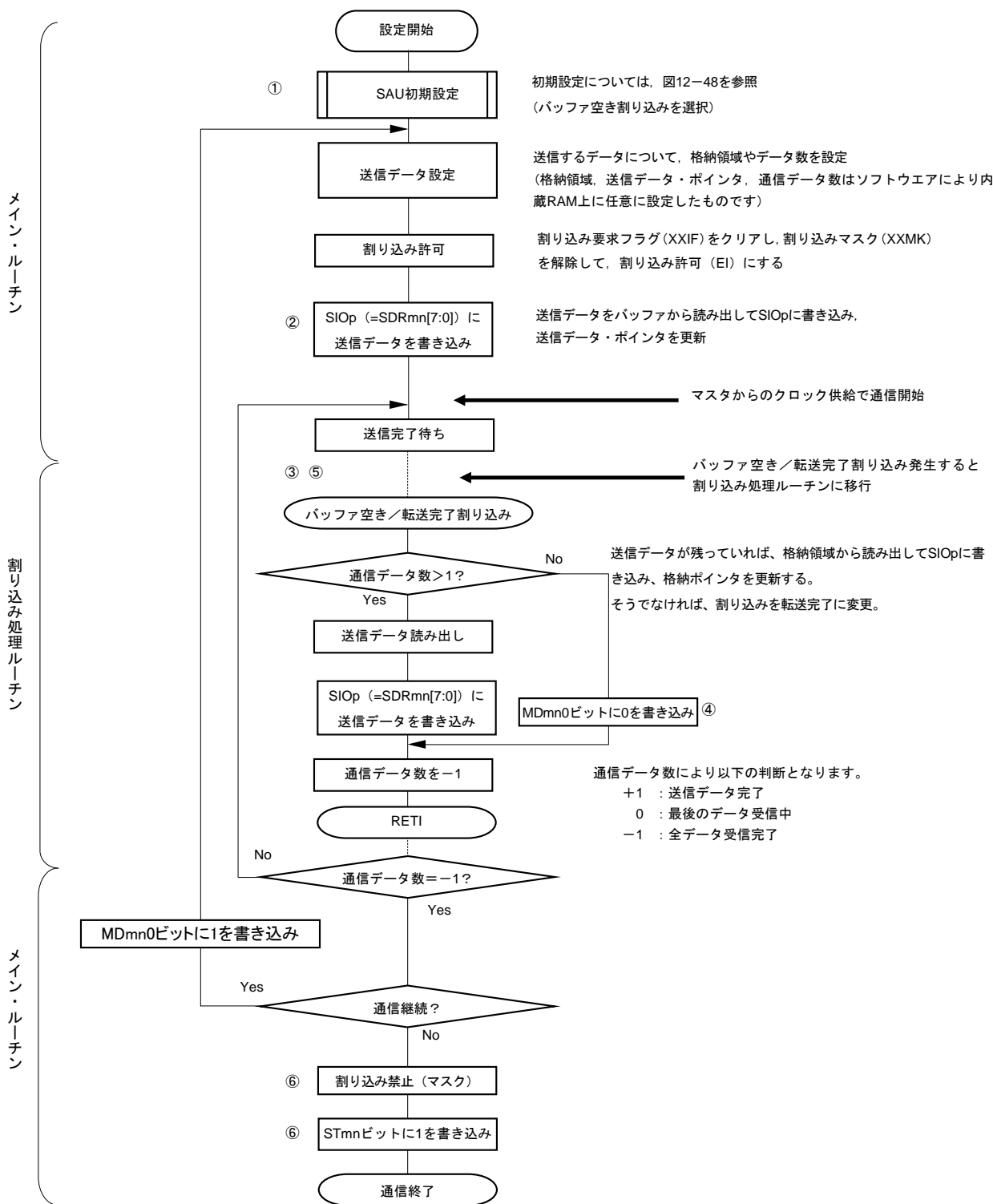


注 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) に格納されているとき）にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと、送信データが上書きされます。

注意 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のMDmn0ビットは、動作中でも書き換えることができます。ただし、最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-54 スレーブ送信（連続送信モード時）のフロー・チャート



備考 図中の①~⑥は、図12-53 スレーブ送信（連続送信モード時）のタイミング・チャートの①~⑥に対応しています。

12.5.5 スレーブ受信

スレーブ受信とは、他デバイスから転送クロックを入力される状態で、RL78マイクロコントローラが他デバイスからデータを受信する動作です。

簡易SPI	CSI00	CSI01
対象チャンネル	チャンネル0	チャンネル1
使用端子	SCK00, SI00	SCK01, SI01
割り込み	INTCSI00	INTCSI01
	転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは設定禁止）	
エラー検出フラグ	オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ	
転送データ長	7ビットまたは8ビット	
転送レート	Max. $f_{MCK}/6$ [Hz] ^{注1, 2}	
データ位相	SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能 <ul style="list-style-type: none"> ・ DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入力を開始 ・ DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入力を開始 	
クロック位相	SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能 <ul style="list-style-type: none"> ・ CKPmn = 0の場合：非反転 ・ CKPmn = 1の場合：反転 	
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト	

注1. SCK00, SCK01端子に入力された外部シリアル・クロックは、内部でサンプリングして使用されるため、最大転送レートは $f_{MCK}/6$ [Hz]となります。

2. この条件を満たし、かつ電気的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

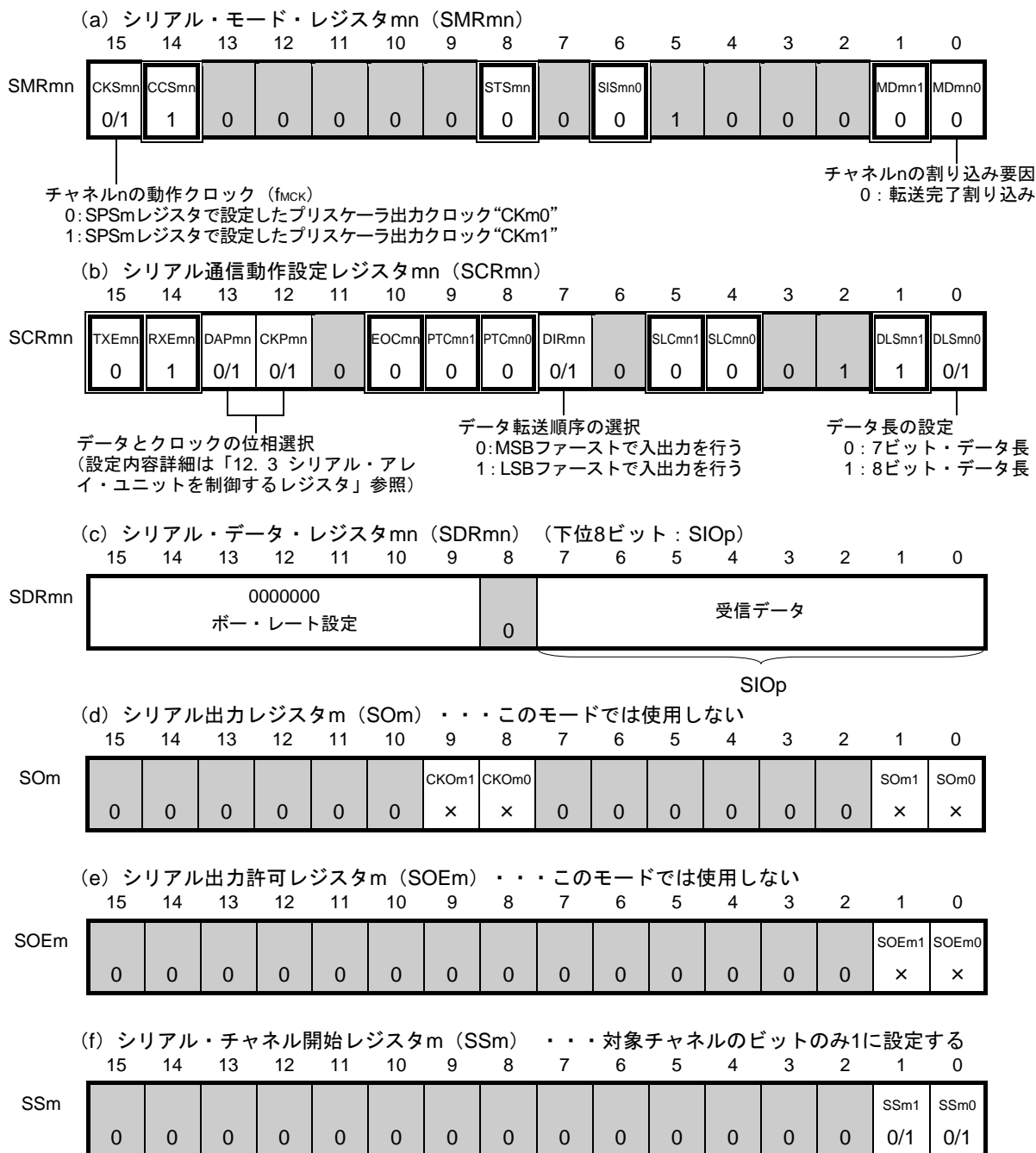
備考1. f_{MCK} ：対象チャンネルの動作クロック周波数

f_{SCK} ：シリアル・クロック周波数

2. m：ユニット番号（m = 0） n：チャンネル番号（n = 0, 1） mn = 00, 01

(1) レジスタ設定

図12-55 簡易SPI (CSI00, CSI01) のスレーブ受信時のレジスタ設定内容例



備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)

mn = 00, 01

- : 簡易SPI (CSI) スレーブ受信モードでは設定固定 ■: 設定不可 (初期値を設定)

x: このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)

0/1: ユーザの用途に応じて0または1に設定

(2) 操作手順

図12-56 スレーブ受信の初期設定手順

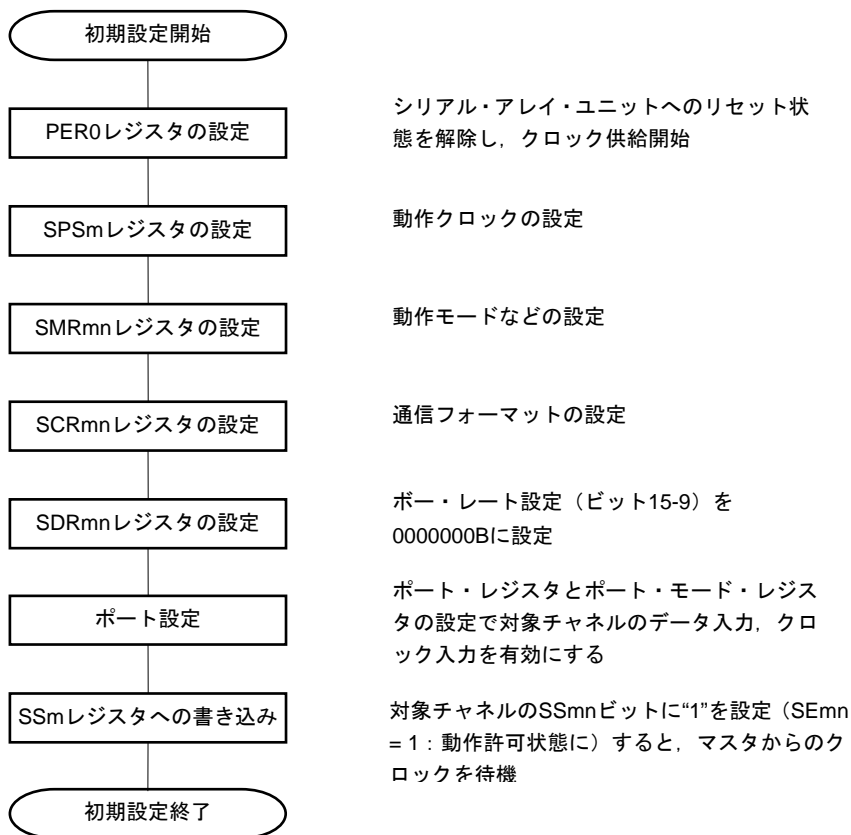


図12-57 スレーブ受信の中断手順

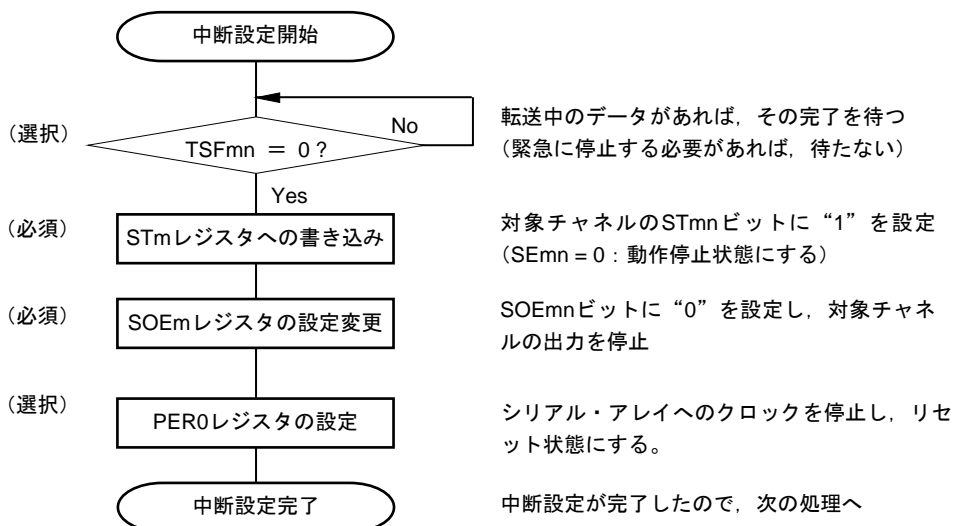
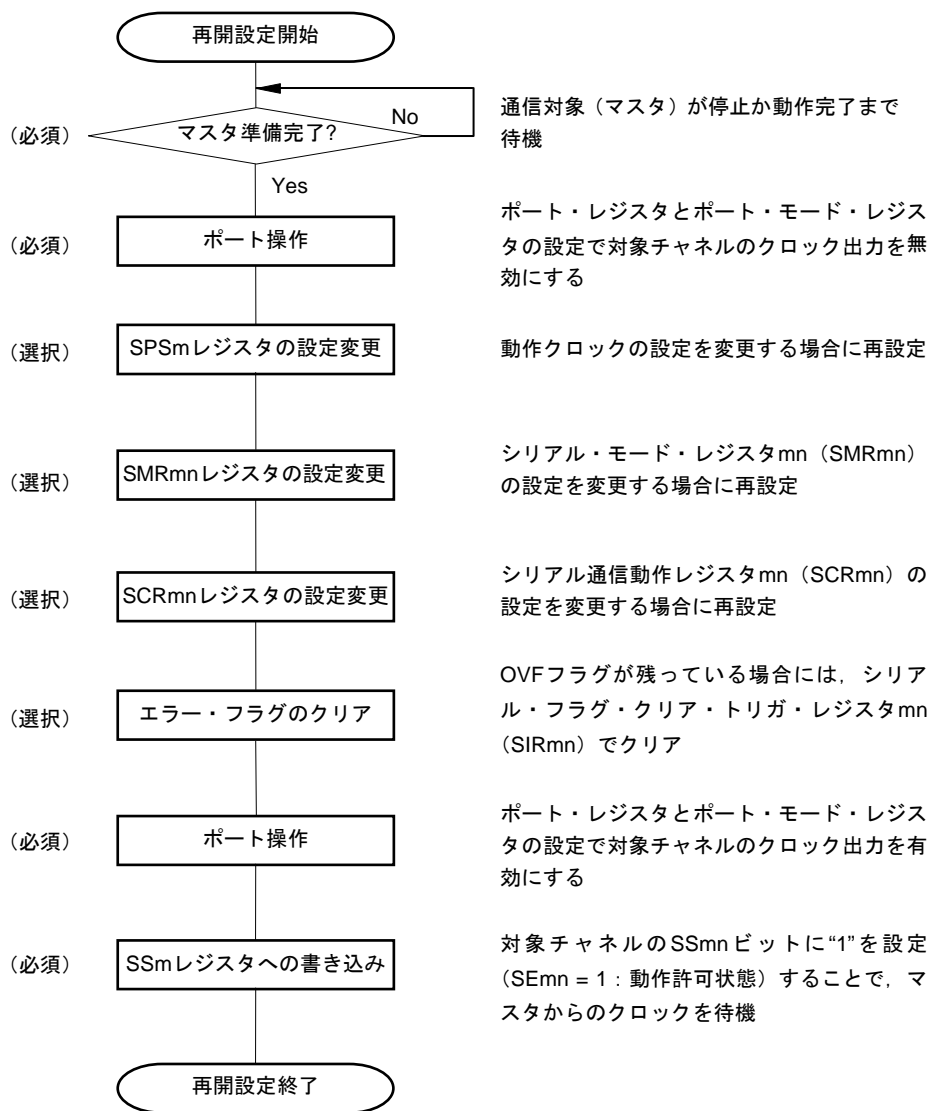


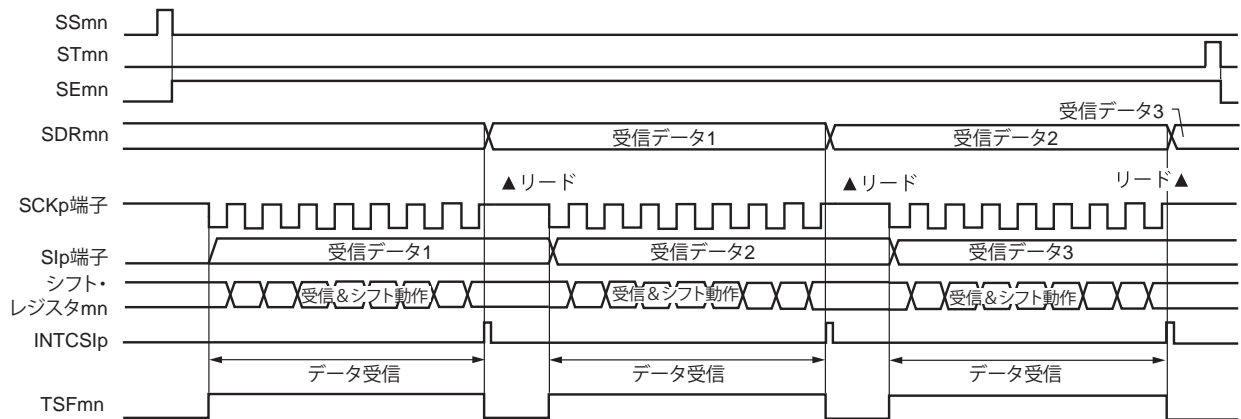
図12-58 スレーブ受信の再開設定手順



備考 中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には、通信対象（マスタ）の停止か通信動作完了を待って、再開設定ではなく初期設定をしてください。

(3) 処理フロー（シングル受信モード時）

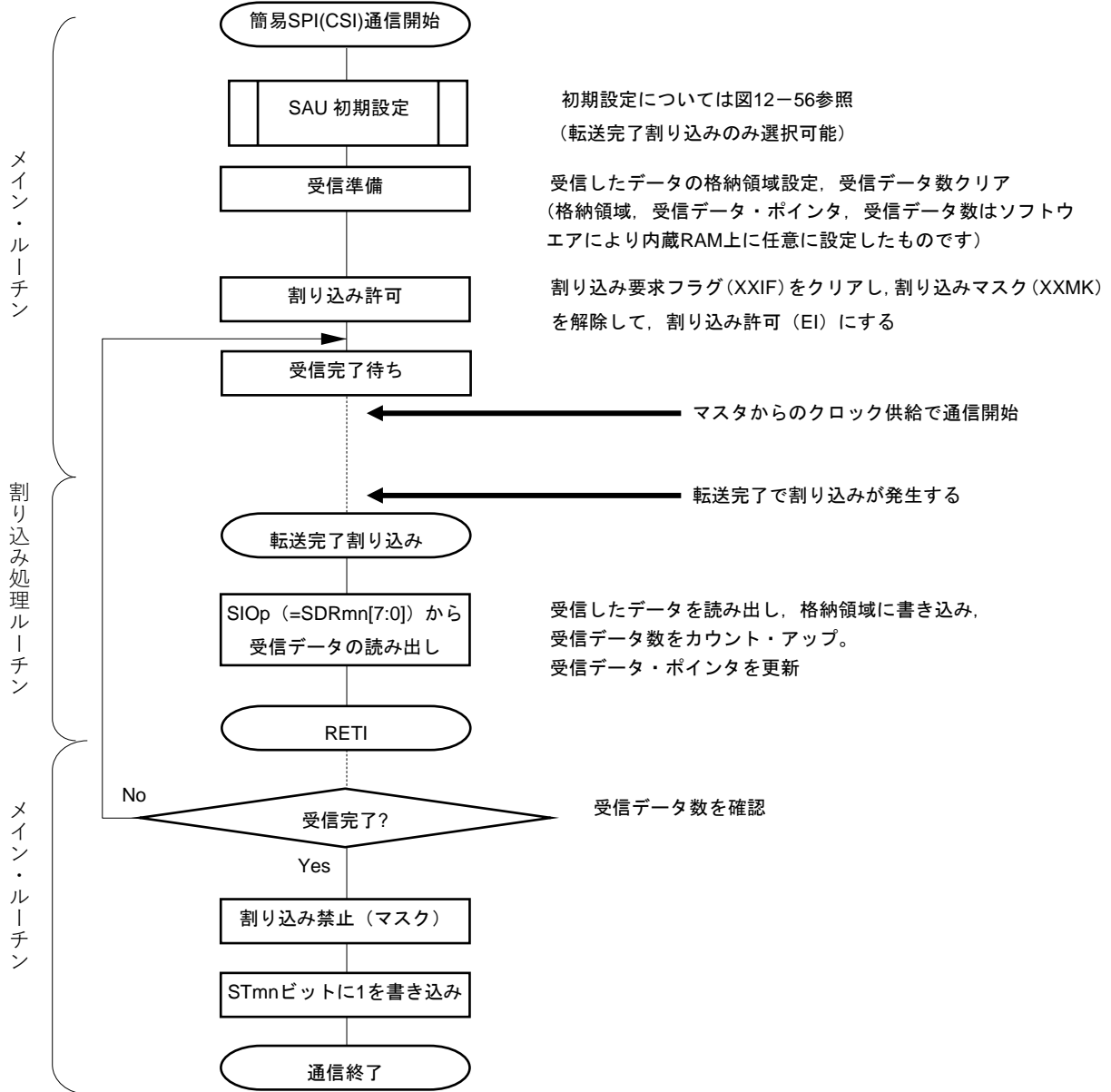
図12-59 スレーブ受信（シングル受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)

mn = 00, 01

図12-60 スレーブ受信（シングル受信モード時）のフロー・チャート



12.5.6 スレーブ送受信

スレーブ送受信とは、他デバイスから転送クロックを入力される状態で、RL78マイクロコントローラと他デバイスでデータを送受信する動作です。

簡易SPI	CSI00	CSI01
対象チャンネル	チャンネル0	チャンネル1
使用端子	SCK00, SI00, SOM0	SCK01, SI01, SOM1
割り込み	INTCSI00	INTCSI01
	転送完了割り込み（シングル転送モード時）か、バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能	
エラー検出フラグ	オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）のみ	
転送データ長	7ビットまたは8ビット	
転送レート	Max. $f_{MCK}/6$ [Hz] ^{注1, 2}	
データ位相	SCRmnレジスタのDAPmnビットにより選択可能 <ul style="list-style-type: none"> ・ DAPmn = 0の場合：シリアル・クロックの動作開始からデータ入出力を開始 ・ DAPmn = 1の場合：シリアル・クロック動作開始の半クロック前からデータ入出力を開始 	
クロック位相	SCRmnレジスタのCKPmnビットにより選択可能 <ul style="list-style-type: none"> ・ CKPmn = 0の場合：非反転 ・ CKPmn = 1の場合：反転 	
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト	

- 注1. SCK00, SCK01端子に入力された外部シリアル・クロックは、内部でサンプリングして使用されるため、最大転送レートは $f_{MCK}/6$ [Hz]となります。
2. この条件を満たし、かつ電気的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

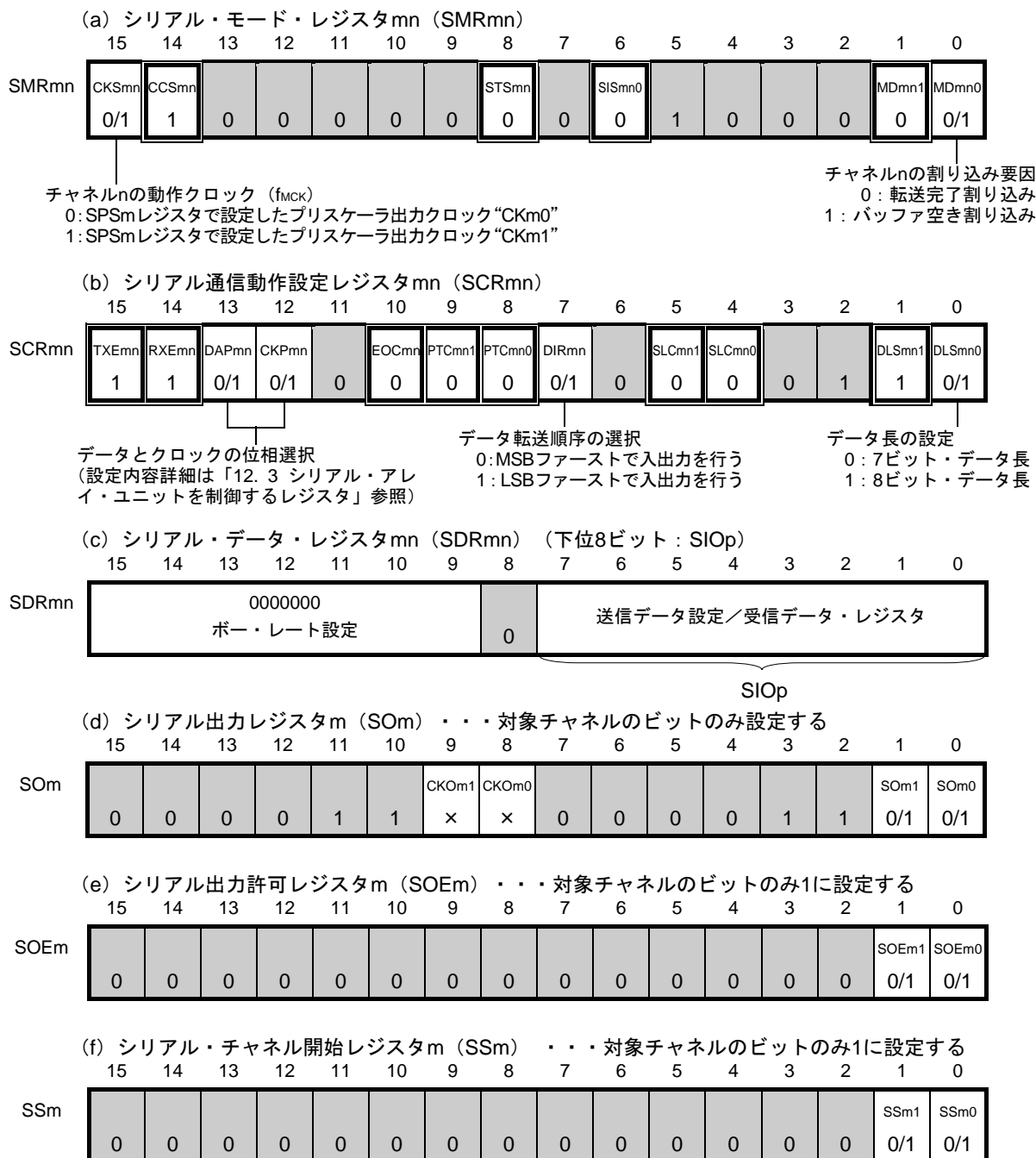
備考1. f_{MCK} ：対象チャンネルの動作クロック周波数

f_{SCK} ：シリアル・クロック周波数

2. m：ユニット番号（m = 0） n：チャンネル番号（n = 0, 1） mn = 00, 01

(1) レジスタ設定

図12-61 簡易SPI (CSI00, CSI01) のスレーブ送受信時のレジスタ設定内容例



注意 マスタからのクロックが開始される前に、必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

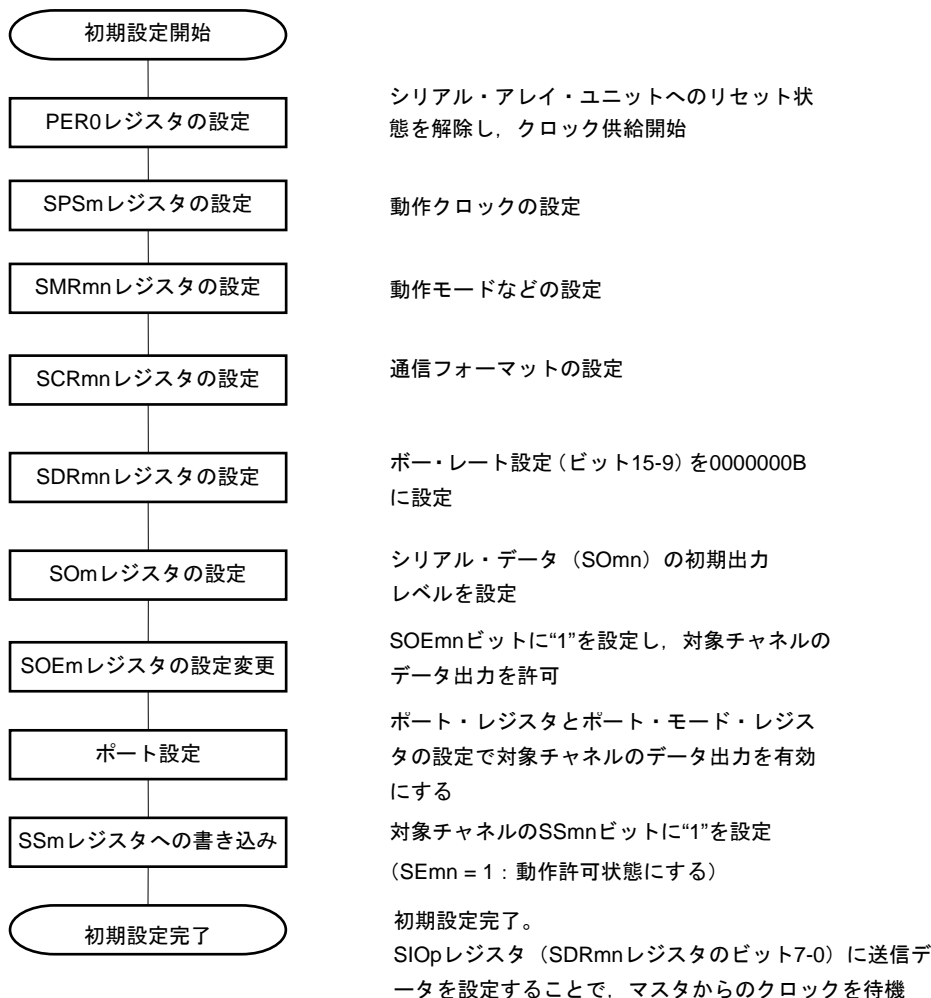
備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)

mn = 00, 01

- | | | | |
|--------------------------|--|--------------------------|-----------------|
| <input type="checkbox"/> | : 簡易SPI(CSI)スレーブ送受信モードでは設定固定 | <input type="checkbox"/> | : 設定不可 (初期値を設定) |
| x | : このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定) | | |
| 0/1 | : ユーザの用途に応じて0または1に設定 | | |

(2) 操作手順

図12-62 スレーブ送受信の初期設定手順



注意 マスタからのクロックが開始される前に、必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

図12-63 スレーブ送受信の中断手順

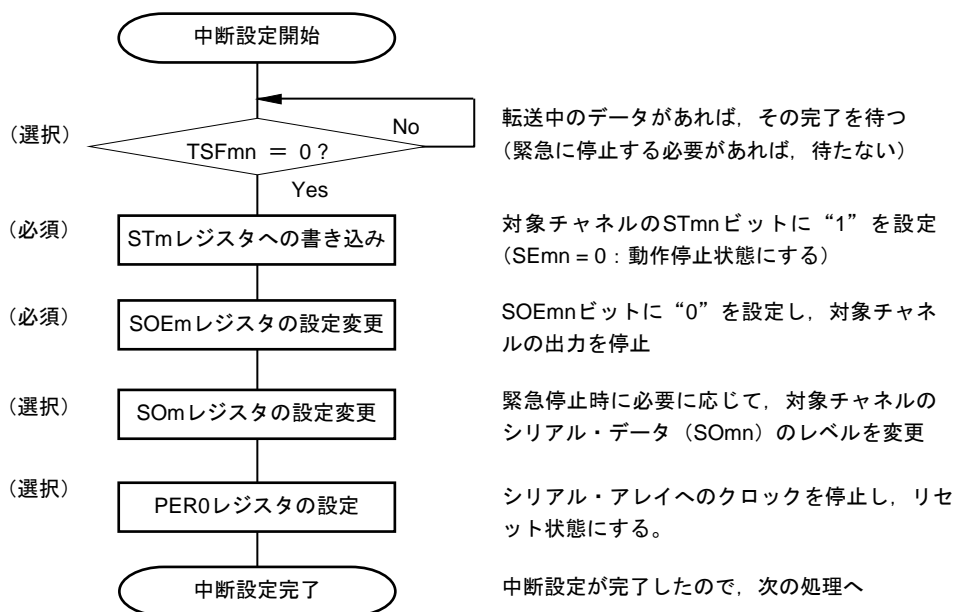
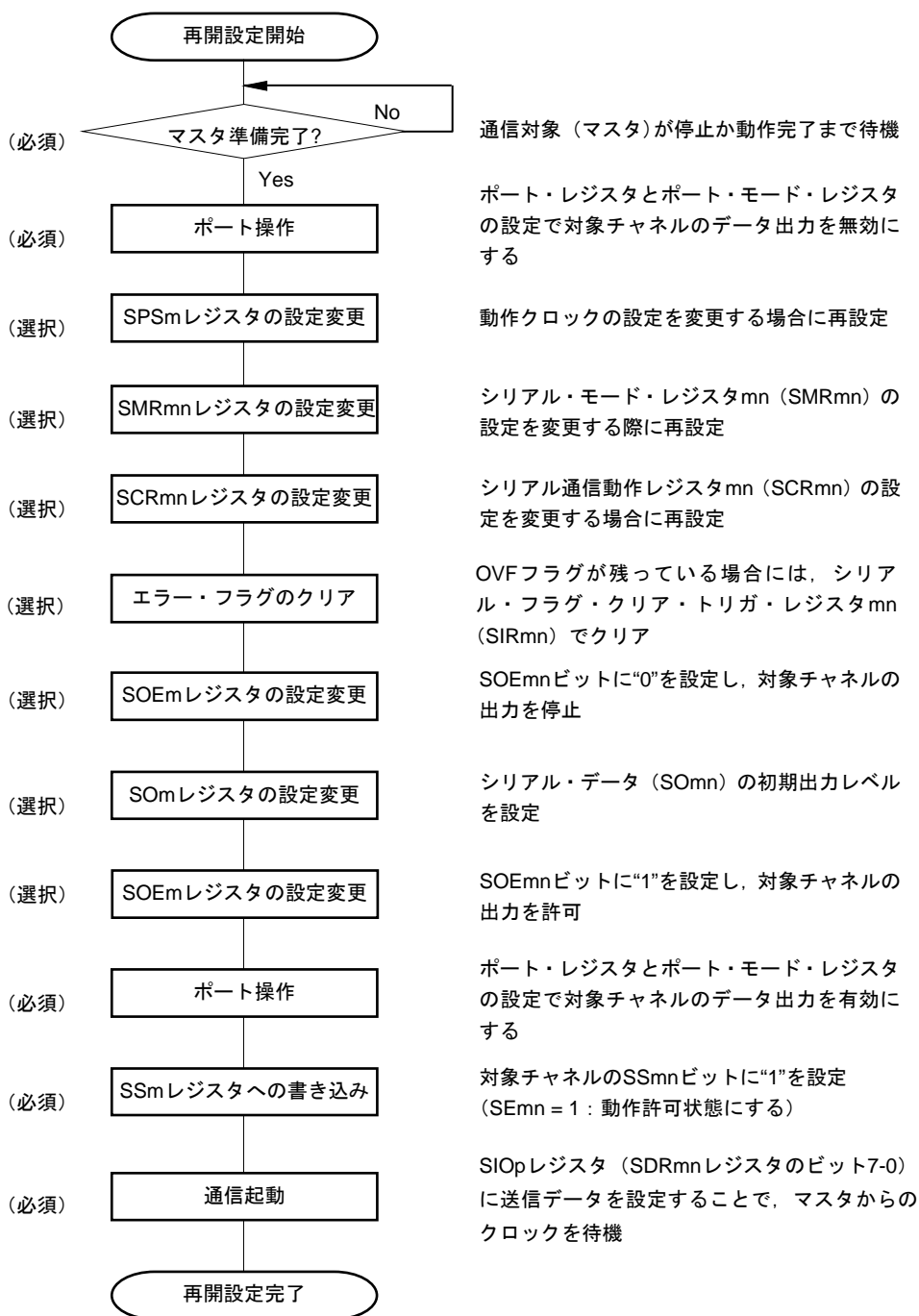


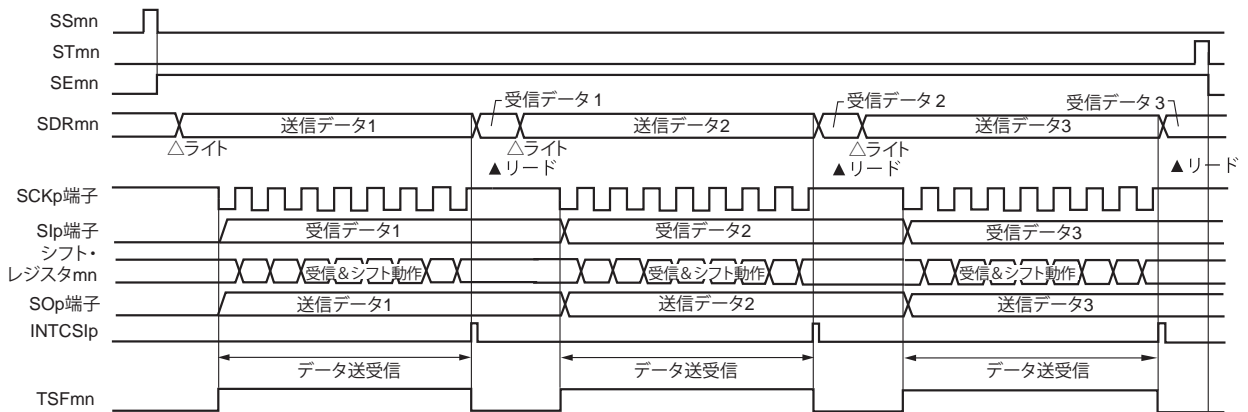
図12-64 スレーブ送受信の再開設定手順



- 注意1. マスタからのクロックが開始される前に、必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。
2. 中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には、通信対象（マスタ）の停止か通信動作完了を待って、再開設定ではなく初期設定をしてください。

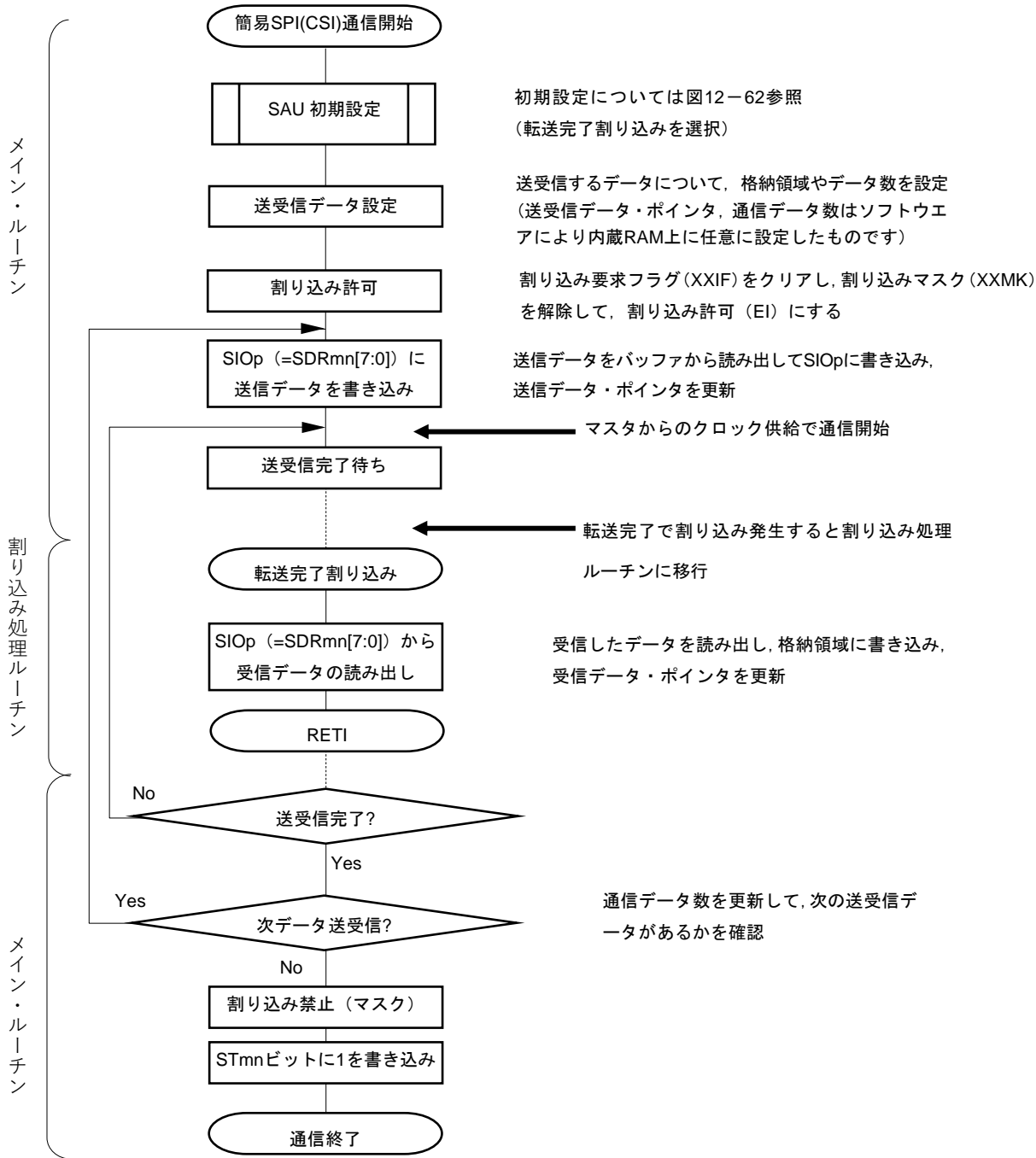
(3) 処理フロー（シングル送受信モード時）

図12-65 スレーブ送受信（シングル送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）



備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

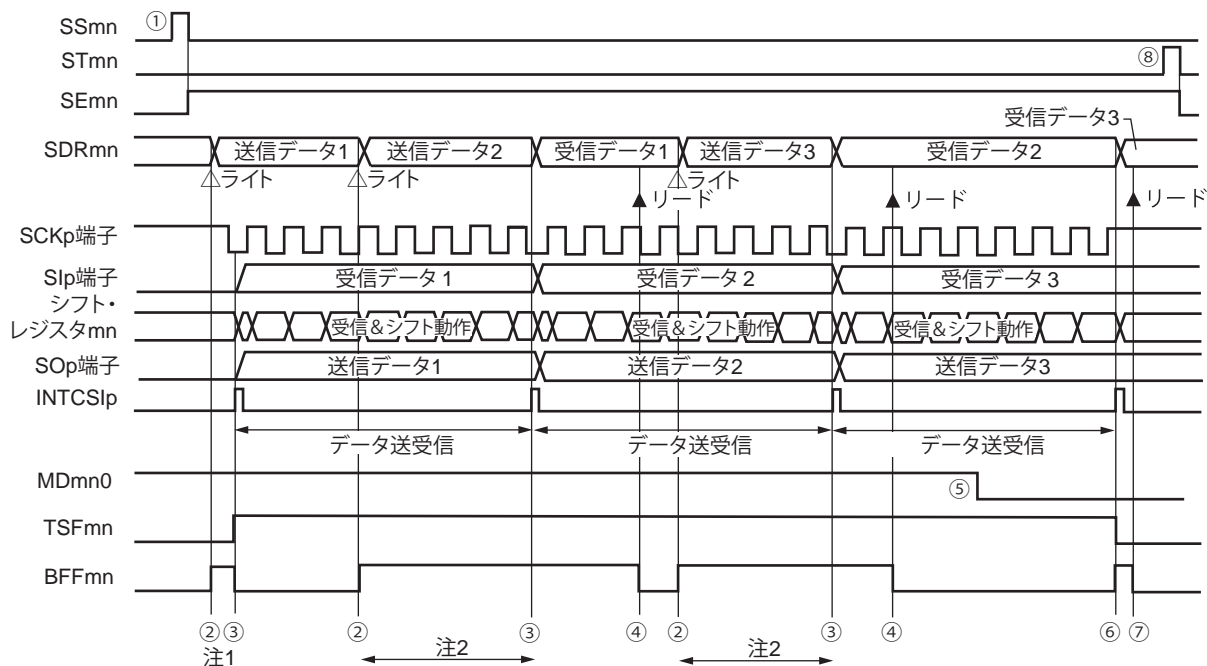
図12-66 スレーブ送受信（シングル送受信モード時）のフロー・チャート



注意 マスタからのクロックが開始される前に、必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

(4) 処理フロー（連続送受信モード時）

図12-67 スレーブ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）

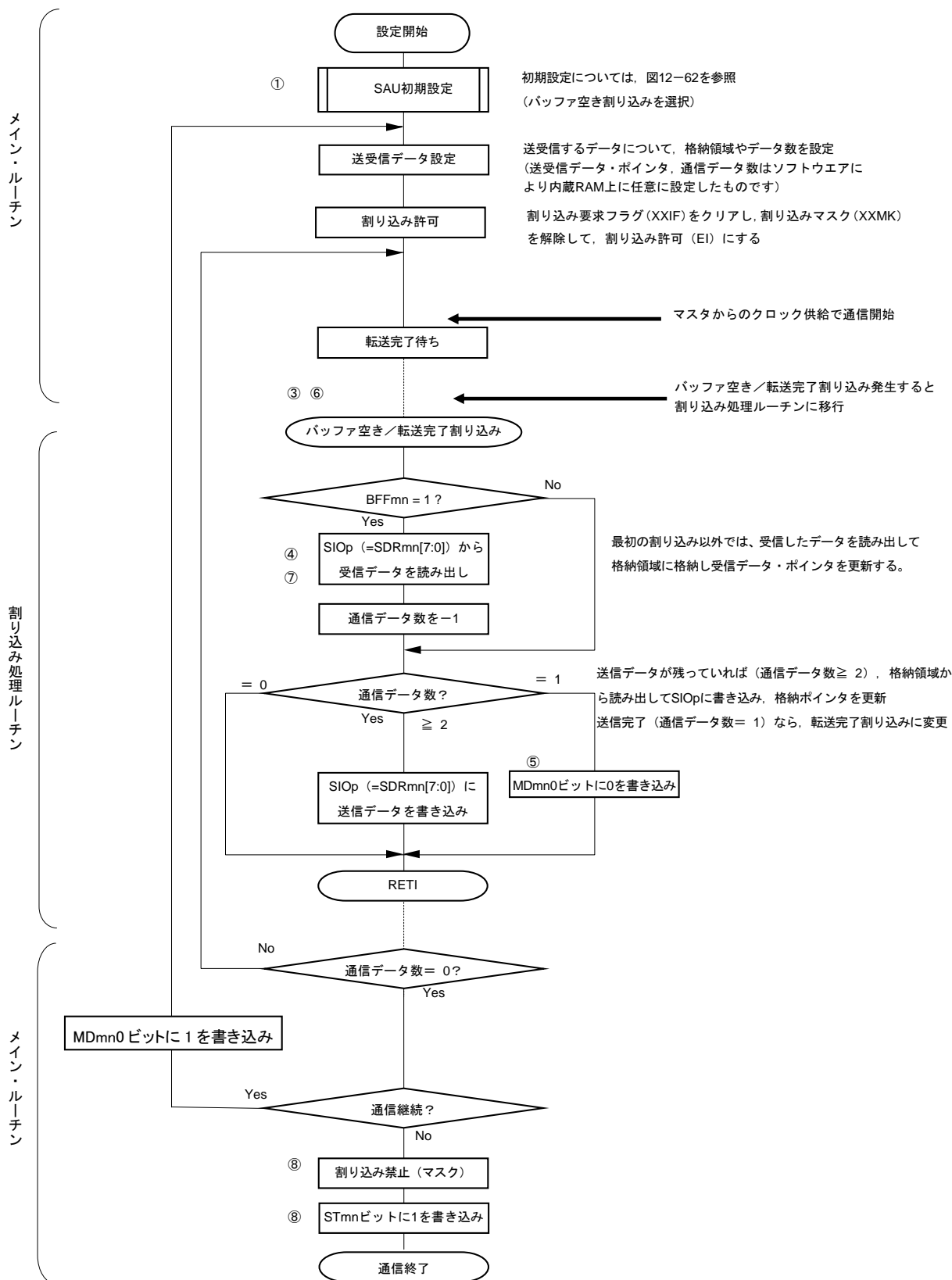


- 注1. シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) に格納されている時) にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと、送信データが上書きされます。
- 2. この期間にSDRmnレジスタをリードすると、送信データを読み出すことができます。その際、転送動作には影響はありません。

注意 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のMDmn0ビットは、動作中でも書き換えることができます。ただし、最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために、最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

- 備考1. 図中の①~⑧は、図12-68 スレーブ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャートの①~⑧に対応しています。
- 2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) p : CSI番号 (p = 00, 01)
mn = 00, 01

図12-68 スレーブ送受信（連続送受信モード時）のフロー・チャート



注意 マスタからのクロックが開始される前に、必ず送信データをSIOpレジスタへ設定してください。

備考 図中の①~⑧は、図12-67 スレーブ送受信（連続送受信モード時）のタイミング・チャートの①~⑧に対応しています。

12.5.7 SNOOZEモード機能

STOPモード時にSCKp端子入力の検出により簡易SPI(CSI)の受信動作をさせるモードです。通常STOP時に簡易SPI(CSI)は通信動作を停止しますが、このモードを使うことで、SCKp端子入力の検出によってCPUを動作させずに簡易SPI(CSI)の受信動作を行うことができます。SNOOZEモードは、以下チャンネルのみ設定可能です。

CSI00

簡易SPI(CSI)をSNOOZEモードで使用する場合は、STOPモードに移行する前に次の設定を行います。(図12-70、図12-72 SNOOZEモード動作時のフローチャートを参照)

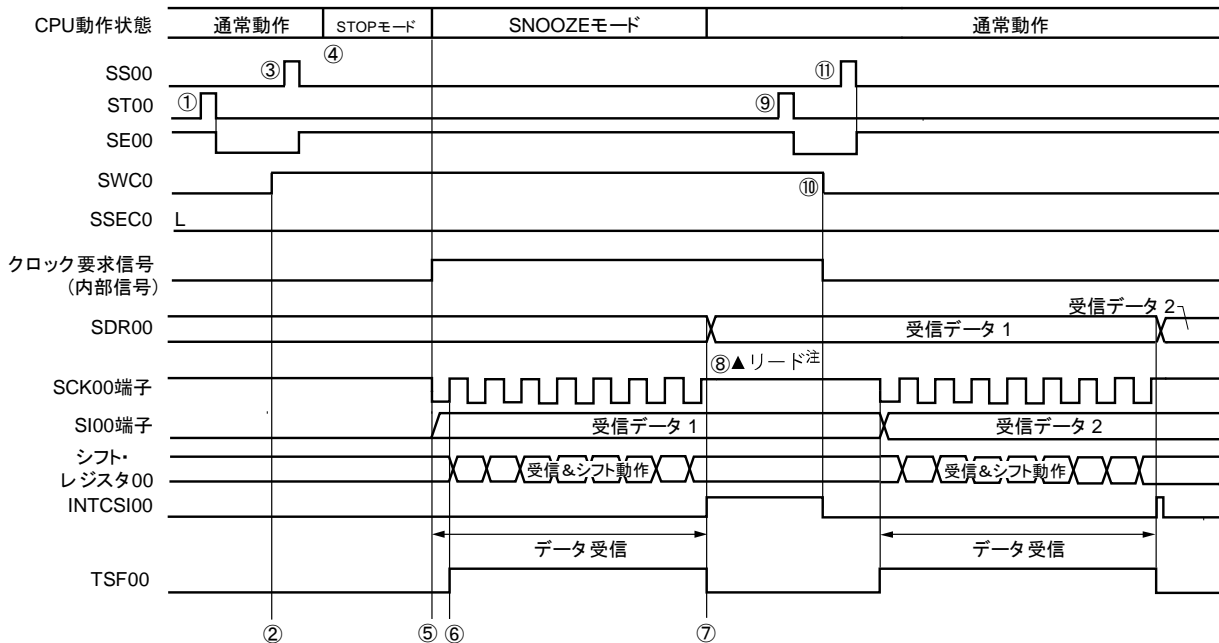
- ・STOPモードに移行する直前にシリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm) のSWCmビットをセット (1) してください。初期設定完了後、シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm) のSSm1ビットをセット (1) します。
- ・STOPモードに移行後、SCKp端子の有効エッジを検出すると SNOOZEモードへ移行します。SCKp端子のシリアル・クロック入力により、CSIpは受信動作を開始します。

注意1. SNOOZEモードは、fCLKに高速オンチップ・オシレータ・クロックを選択している場合のみ設定可能です。

2. SNOOZEモードで使用するときの最大転送レートは1 Mbpsです。

(1) SNOOZEモード動作 (1回起動)

図12-69 SNOOZEモード動作 (1回起動) 時のタイミング・チャート (タイプ1: DAPmn = 0, CKPmn = 0)



注 受信データの読み出しは、SWCm = 1の状態、次のSCKp端子の有効エッジ検出前に行ってください。

注意1. SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは、STm0ビットを1に設定してください (SEm0ビットがクリアされ動作停止)。

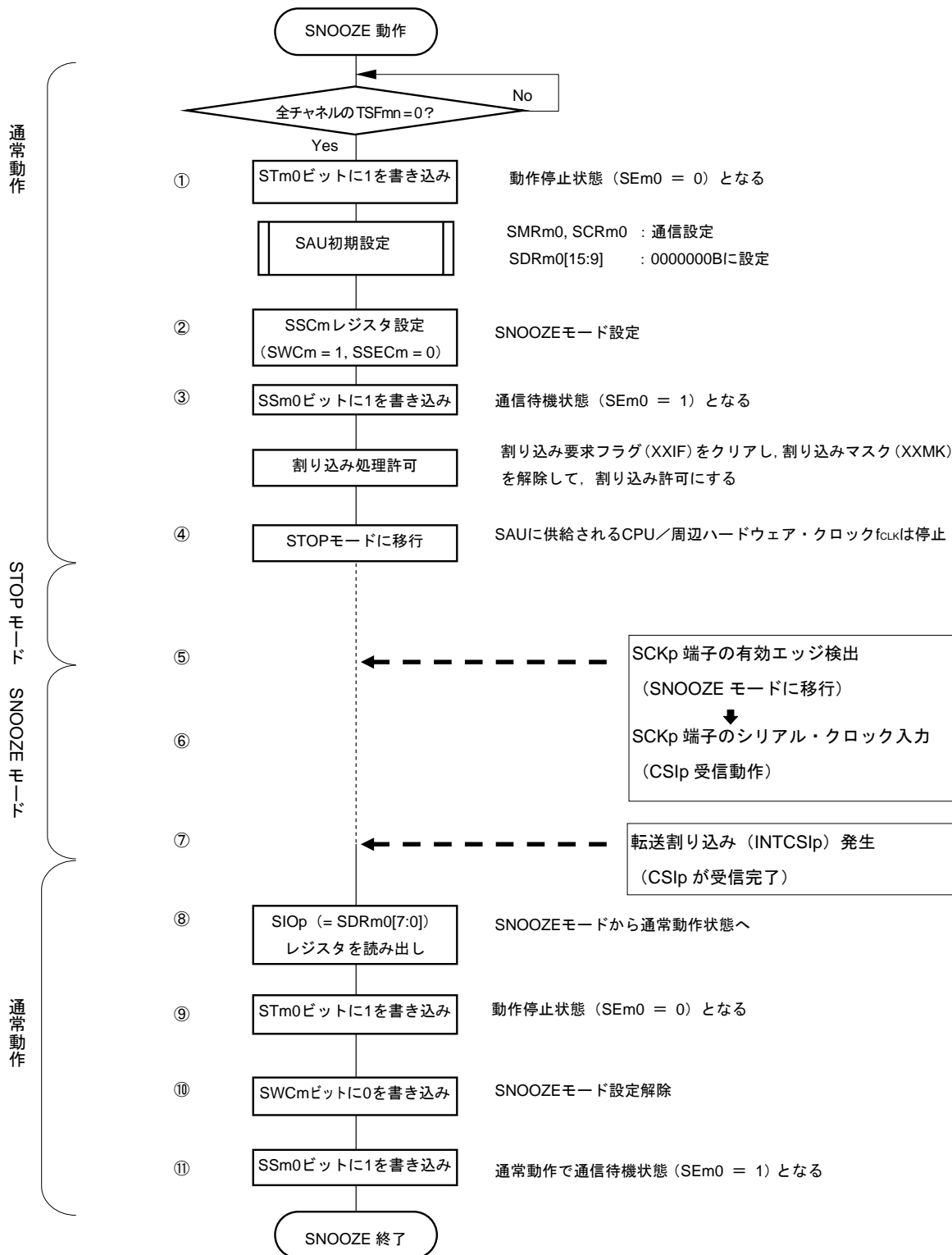
また、受信動作を完了したあとは、SWCmビットもクリアしてください (SNOOZE解除)。

2. SWCm = 1のときは、BFFm1, OVFm1フラグは動作しません。

備考1. 図中の①~⑪は、図12-70 SNOOZEモード動作 (1回起動) 時のフロー・チャートの①~⑪に対応しています。

2. m = 0; p = 00

図12-70 SNOOZEモード動作（1回起動）時のフロー・チャート

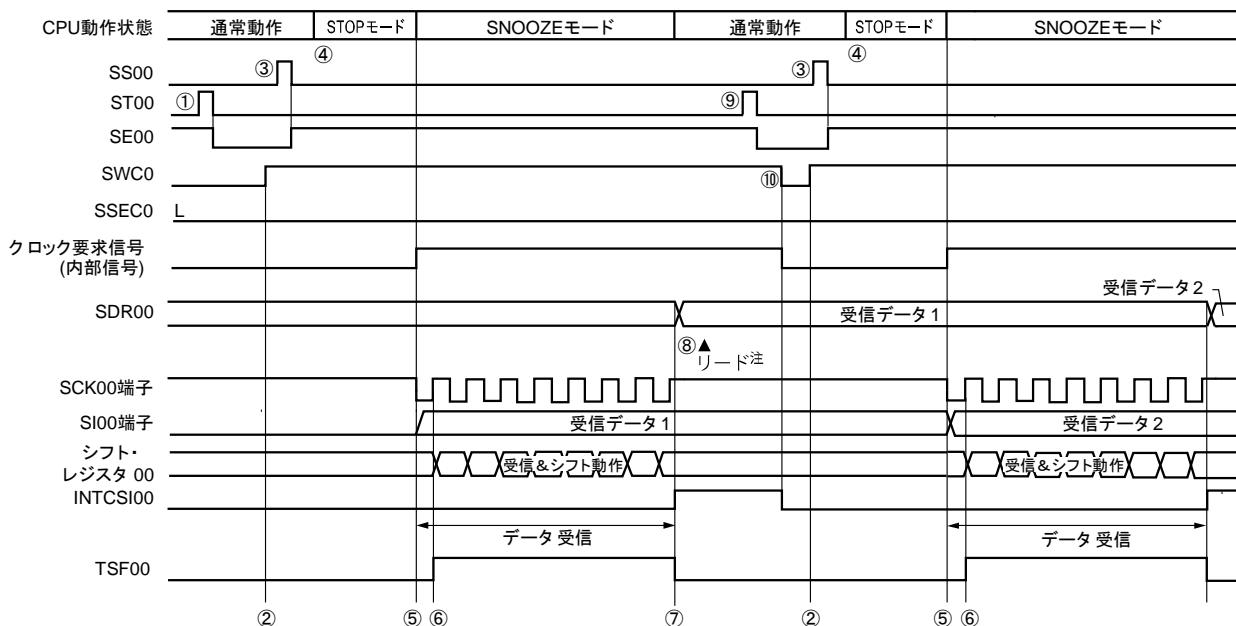


備考1. 図中の①~⑪は、図12-69 SNOOZEモード動作（1回起動）時のタイミング・チャートの①~⑪に対応しています。

2. m = 0; p = 00

(2) SNOOZEモード動作（連続起動）

図12-71 SNOOZEモード動作（連続起動）時のタイミング・チャート（タイプ1：DAPmn = 0, CKPmn = 0）

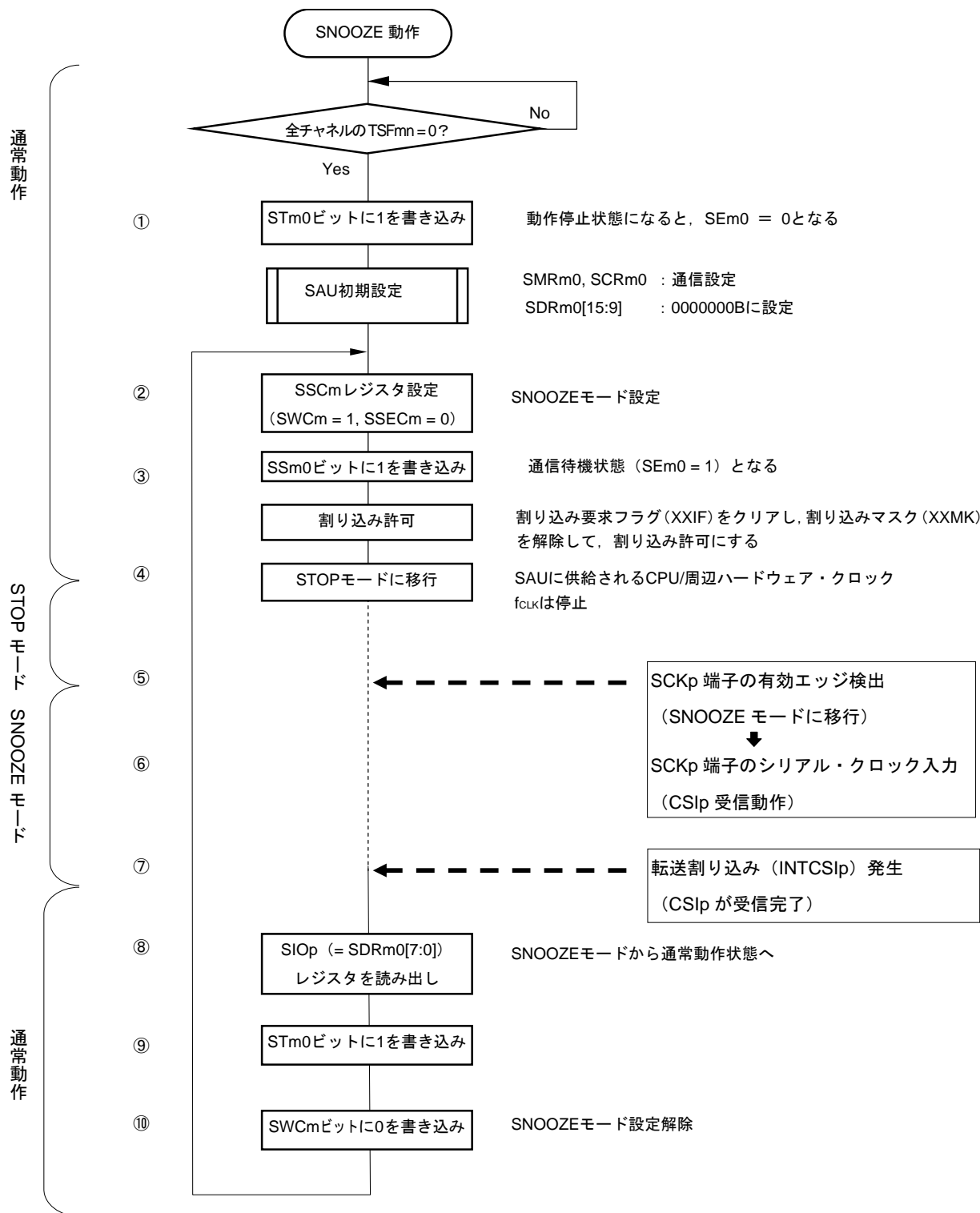


注 受信データの読み出しは、SWCm = 1の状態、次のSCKp端子の有効エッジ検出前に行ってください。

- 注意1. SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは、STm0ビットを1に設定してください（SEm0ビットがクリアされ動作停止）。
また、受信動作を完了したあとは、SWCmビットもクリアしてください（SNOOZE解除）。
2. SWCm = 1のときは、BFFm1, OVFm1フラグは動作しません。

- 備考1. 図中の①~⑩は、図12-72 SNOOZEモード動作（連続起動）時のフロー・チャートの①~⑩に対応しています。
2. m = 0; p = 00

図12-72 SNOOZEモード動作（連続起動）時のフロー・チャート



備考1. 図中の①~⑩は、図12-71 SNOOZEモード動作（連続起動）時のタイミング・チャートの①~⑩に対応しています。

2. m = 0; p = 00

12.5.8 転送クロック周波数の算出

簡易SPI (CSI00, CSI01) 通信での転送クロック周波数は下記の計算式にて算出できます。

(1) マスタの場合

$$\text{〔転送クロック周波数〕} = \text{〔対象チャンネルの動作クロック (f}_{\text{MCK}}\text{) 周波数〕} \div (\text{SDRmn}[15:9]+1) \div 2 \text{ [Hz]}$$

(2) スレーブの場合

$$\text{〔転送クロック周波数〕} = \text{〔マスタが供給するシリアル・クロック (SCK) 周波数〕}^{\text{注}} \text{ [Hz]}$$

注 ただし、許容最大転送クロック周波数は $f_{\text{MCK}}/6$ となります。

備考 SDRmn[15:9]は、シリアル・データ・レジスタ mn (SDRmn) のビット15-9の値 (0000000B-1111111B) なので、0-127になります。

動作クロック (f_{MCK}) は、シリアル・クロック選択レジスタ m (SPSm) とシリアル・モード・レジスタ mn (SMRmn) のビット15 (CKSmn) で決まります。

表12-2 簡易SPI動作クロックの選択

SMRmn レジスタ	SPSmレジスタ								動作クロック (fMCK) 注	
	CKSmn	PRS m13	PRS m12	PRS m11	PRS m10	PRS m03	PRS m02	PRS m01	PRS m00	fCLK = 24 MHz 動作時
0	X	X	X	X	0	0	0	0	fCLK	24 MHz
	X	X	X	X	0	0	0	1	fCLK/2	12 MHz
	X	X	X	X	0	0	1	0	fCLK/2 ²	6 MHz
	X	X	X	X	0	0	1	1	fCLK/2 ³	3 MHz
	X	X	X	X	0	1	0	0	fCLK/2 ⁴	1.5 MHz
	X	X	X	X	0	1	0	1	fCLK/2 ⁵	750 kHz
	X	X	X	X	0	1	1	0	fCLK/2 ⁶	375 kHz
	X	X	X	X	0	1	1	1	fCLK/2 ⁷	187.5 kHz
	X	X	X	X	1	0	0	0	fCLK/2 ⁸	93.8 kHz
	X	X	X	X	1	0	0	1	fCLK/2 ⁹	46.9 kHz
	X	X	X	X	1	0	1	0	fCLK/2 ¹⁰	23.4 kHz
	X	X	X	X	1	0	1	1	fCLK/2 ¹¹	11.7 kHz
	X	X	X	X	1	1	0	0	fCLK/2 ¹²	5.86 kHz
	X	X	X	X	1	1	0	1	fCLK/2 ¹³	2.93 kHz
	X	X	X	X	1	1	1	0	fCLK/2 ¹⁴	1.46 kHz
X	X	X	X	1	1	1	1	fCLK/2 ¹⁵	732 Hz	
1	0	0	0	0	X	X	X	X	fCLK	24 MHz
	0	0	0	1	X	X	X	X	fCLK/2	12 MHz
	0	0	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ²	6 MHz
	0	0	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ³	3 MHz
	0	1	0	0	X	X	X	X	fCLK/2 ⁴	1.5 MHz
	0	1	0	1	X	X	X	X	fCLK/2 ⁵	750 kHz
	0	1	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ⁶	375 kHz
	0	1	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ⁷	187.5 kHz
	1	0	0	0	X	X	X	X	fCLK/2 ⁸	93.8 kHz
	1	0	0	1	X	X	X	X	fCLK/2 ⁹	46.9 kHz
	1	0	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ¹⁰	23.4 kHz
	1	0	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ¹¹	11.7 kHz
	1	1	0	0	X	X	X	X	fCLK/2 ¹²	5.86 kHz
	1	1	0	1	X	X	X	X	fCLK/2 ¹³	2.93 kHz
	1	1	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ¹⁴	1.46 kHz
1	1	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ¹⁵	732 Hz	
上記以外									設定禁止	

注 fCLKに選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は、シリアル・アレイ・ユニット（SAU）の動作を停止（シリアル・チャンネル停止レジスタm（STm） = 000FH）させてから変更してください。

備考1. X : Don't care

2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) , mn = 00, 01

12.5.9 簡易SPI (CSI00, CSI01) 通信時におけるエラー発生時の処理手順

簡易SPI (CSI00, CSI01) 通信時にエラーが発生した場合の処理手順を図に示します。

図12-73 オーバラン・エラー発生時の処理手順

ソフトウェア操作	ハードウェアの状態	備考
シリアル・データ・レジスタ mn (SDRmn) をリードする	SSRmn レジスタの BFFmn ビットが “0” となり、チャンネル n は受信可能状態になる	エラー処理中に次の受信を完了した場合にオーバラン・エラーになるのを防ぐために行う
シリアル・ステータス・レジスタ mn (SSRmn) をリードする		エラーの種類を判別を行い、リード値はエラー・フラグのクリアに使用する
シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタ mn (SIRmn) に “1” をライトする	エラー・フラグがクリアされる	SSRmn レジスタのリード値をそのまま SIRmn レジスタに書き込むことで、読み出し時のエラーのみをクリアできる

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) , mn = 00, 01

12.6 UART (UART0) 通信の動作

シリアル・データ送信 (TxD) とシリアル・データ受信 (RxD) の2本のラインによる、調歩同期式通信機能です。この2本の通信ラインを使用し、スタート・ビット、データ、パリティ・ビット、ストップ・ビットからなる1データ・フレームごとに通信相手と非同期で (内部ボー・レートを使用して)、データを送受信します。送信専用 (偶数チャネル) と受信専用 (奇数チャネル) の2チャネルを使用することで、全2重UART通信が実現できます。また、タイマ・アレイ・ユニットと外部割り込み (INTP0) を組み合わせてLIN-busにも対応可能です。

[データ送受信]

- ・ 7, 8, 9ビットのデータ長
- ・ MSB/LSBファーストの選択
- ・ 送受信データのレベル設定 (レベルを、反転するかどうかの選択)
- ・ パリティ・ビット付加, パリティ・チェック機能
- ・ ストップ・ビット付加, ストップ・ビット・チェック機能

[割り込み機能]

- ・ 転送完了割り込み/バッファ空き割り込み
- ・ フレーミング・エラー, パリティ・エラー, オーバラン・エラーによるエラー割り込み

[エラー検出フラグ]

- ・ フレーミング・エラー, パリティ・エラー, オーバラン・エラー

また、以下のチャネルのUART受信は、SNOOZEモードに対応しています。SNOOZEモードとは、STOPモード状態でRxD入力を検出すると、CPU動作を必要とせずにデータ受信を行う機能です。

UART0 (チャネル0, 1) は、LIN-busに対応しています。

[LIN-bus機能]

- ・ ウェイクアップ信号検出
- ・ ブレーク・フィールド (BF) 検出
- ・ シンク・フィールド測定, ボー・レート算出

} 外部割り込み (INTP0),
タイマ・アレイ・ユニットを使用

UART0では、チャンネル0, 1を使用します。

チャンネル	簡易SPI(CSI)として使用	UARTとして使用
0	CSI00	UART0 (LIN-bus対応)
1	CSI01	

注意 UARTとして使用する場合は、送信側（偶数チャンネル）と受信側（奇数チャンネル）のどちらのチャンネルもUARTとしてしか使用することはできません。

UARTの通信動作は、以下の4種類があります。

- ・ UART送信 (12. 6. 1項を参照)
- ・ UART受信 (12. 6. 2項を参照)
- ・ LIN送信 (12. 7. 1項を参照)
- ・ LIN受信 (12. 7. 2項を参照)

12.6.1 UART送信

UART送信は、RL78/L12から他デバイスへ、非同期（調歩同期）でデータを送信する動作です。

UART送信では、そのUARTに使用する2チャンネルのうち、偶数チャンネルのほうを使用します。

UART	UART0
対象チャンネル	チャンネル0
使用端子	TxD0
割り込み	INTST0 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か、バッファ空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能
エラー検出フラグ	なし
転送データ長	7ビットまたは8ビットまたは9ビット
転送レート	Max. $f_{MCK}/6$ [bps] (SDRmn[15:9] = 2以上), Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [bps] 注
データ位相	非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル） 反転出力（デフォルト：ロウ・レベル）
パリティ・ビット	以下の選択が可能 <ul style="list-style-type: none"> ・パリティ・ビットなし ・0パリティ・ビット付加 ・偶数パリティ付加 ・奇数パリティ付加
ストップ・ビット	以下の選択が可能 <ul style="list-style-type: none"> ・1ビット付加 ・2ビット付加
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト

注 この条件を満たし、かつ電気的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

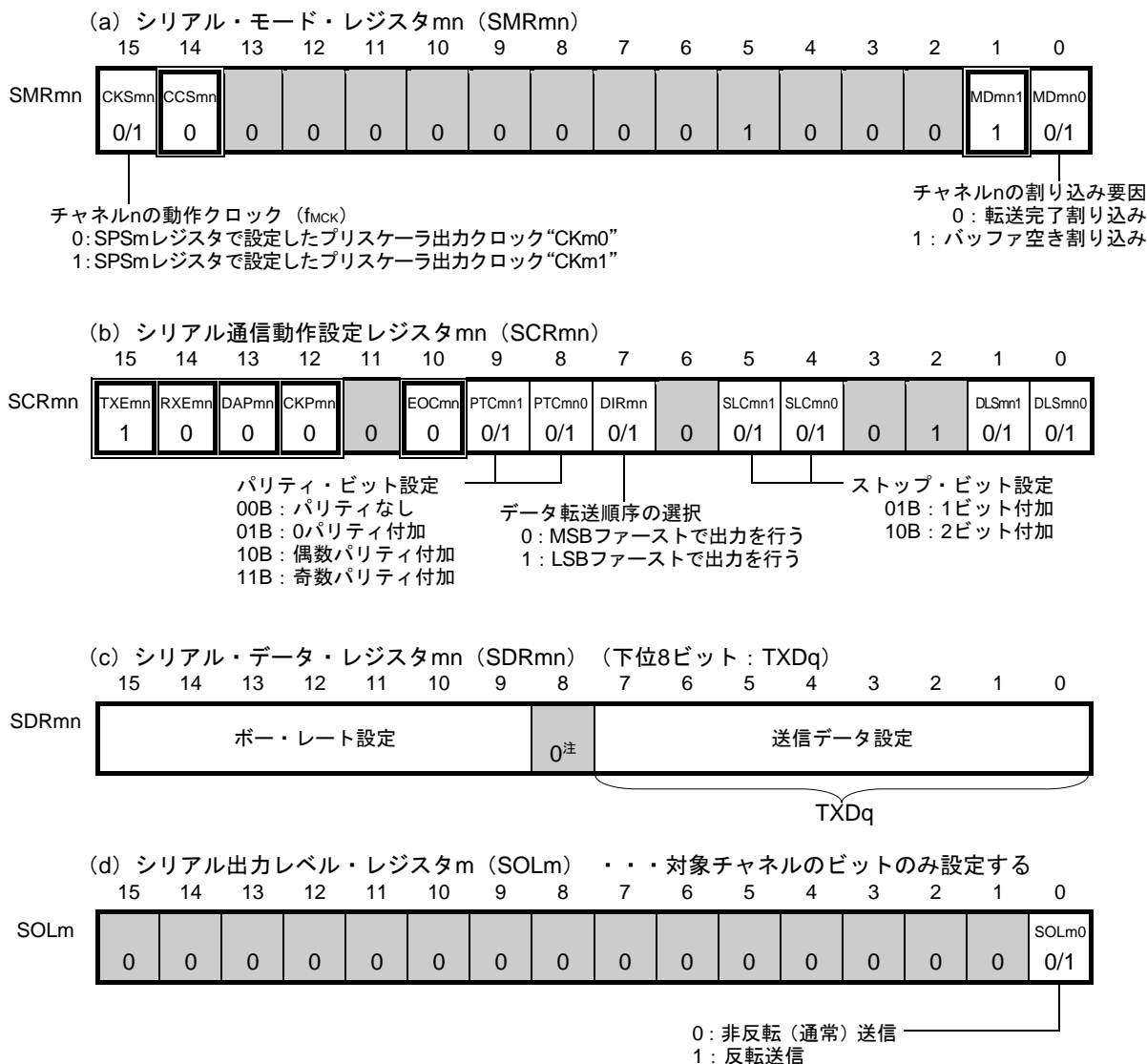
備考1. f_{MCK} : 対象チャンネルの動作クロック周波数

f_{CLK} : システム・クロック周波数

2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0) , mn = 00

(1) レジスタ設定

図12-74 UART (UART0) のUART送信時のレジスタ設定内容例 (1/2)



注 9ビット・データ長での通信を行う場合は、SDRm0レジスタのビット0-8が送信データ設定領域になります。

- 備考1. m: ユニット番号 (m = 0) n: チャンネル番号 (n = 0) q: UART番号 (q = 0),
 mn = 00
2. □: UART送信モードでは設定固定 ■: 設定不可 (初期値を設定)
 ×: このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)
 0/1: ユーザの用途に応じて0または1に設定

図12-74 UART (UART0) のUART送信時のレジスタ設定内容例 (2/2)

(e) シリアル出力レジスタm (SOm) . . . 対象チャネルのビットのみ設定する

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SOm							CKOm1	CKOm0							SOm1	SOm0
	0	0	0	0	0	0	×	×	0	0	0	0	0	0	×	0/1 ^注

0: シリアル・データ出力値が“0”
 1: シリアル・データ出力値が“1”

(f) シリアル出力許可レジスタm (SOEm) . . . 対象チャネルのビットのみ1に設定する

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SOEm															SOEm1	SOEm0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	×	0/1

(g) シリアル・チャネル開始レジスタm (SSm) . . . 対象チャネルのビットのみ1に設定する

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
SSm															SSm1	SSm0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	×	0/1

注 該当するチャネルのSOLmnビットに0を設定している場合は“1”に、SOLmnビットに1を設定している場合は“0”を送信開始前に必ず設定してください。通信動作中は通信データにより値が変わります。

備考1. m: ユニット番号 (m = 0) n: チャネル番号 (n = 0) mn = 00

2. : UART送信モードでは設定固定 : 設定不可 (初期値を設定)

×: このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)

0/1: ユーザの用途に応じて0または1に設定

(2) 操作手順

図12-75 UART送信の初期設定手順

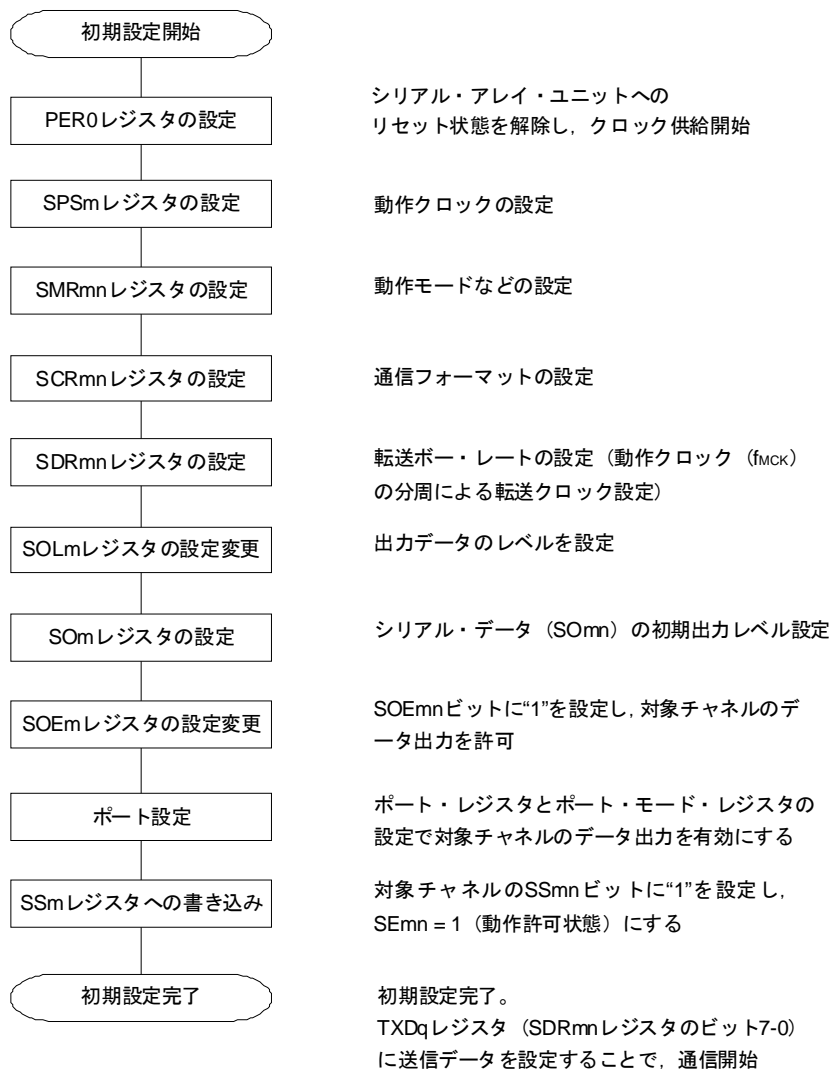


図12-76 UART送信の中断手順

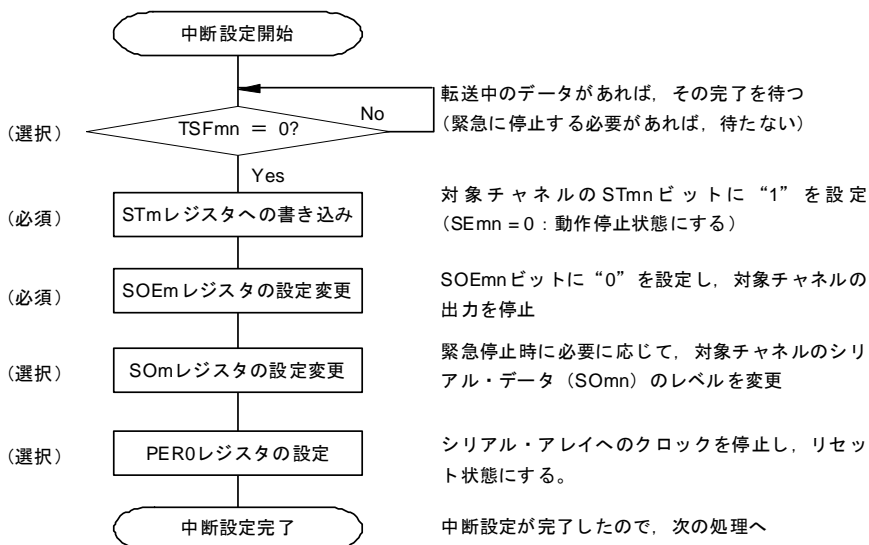
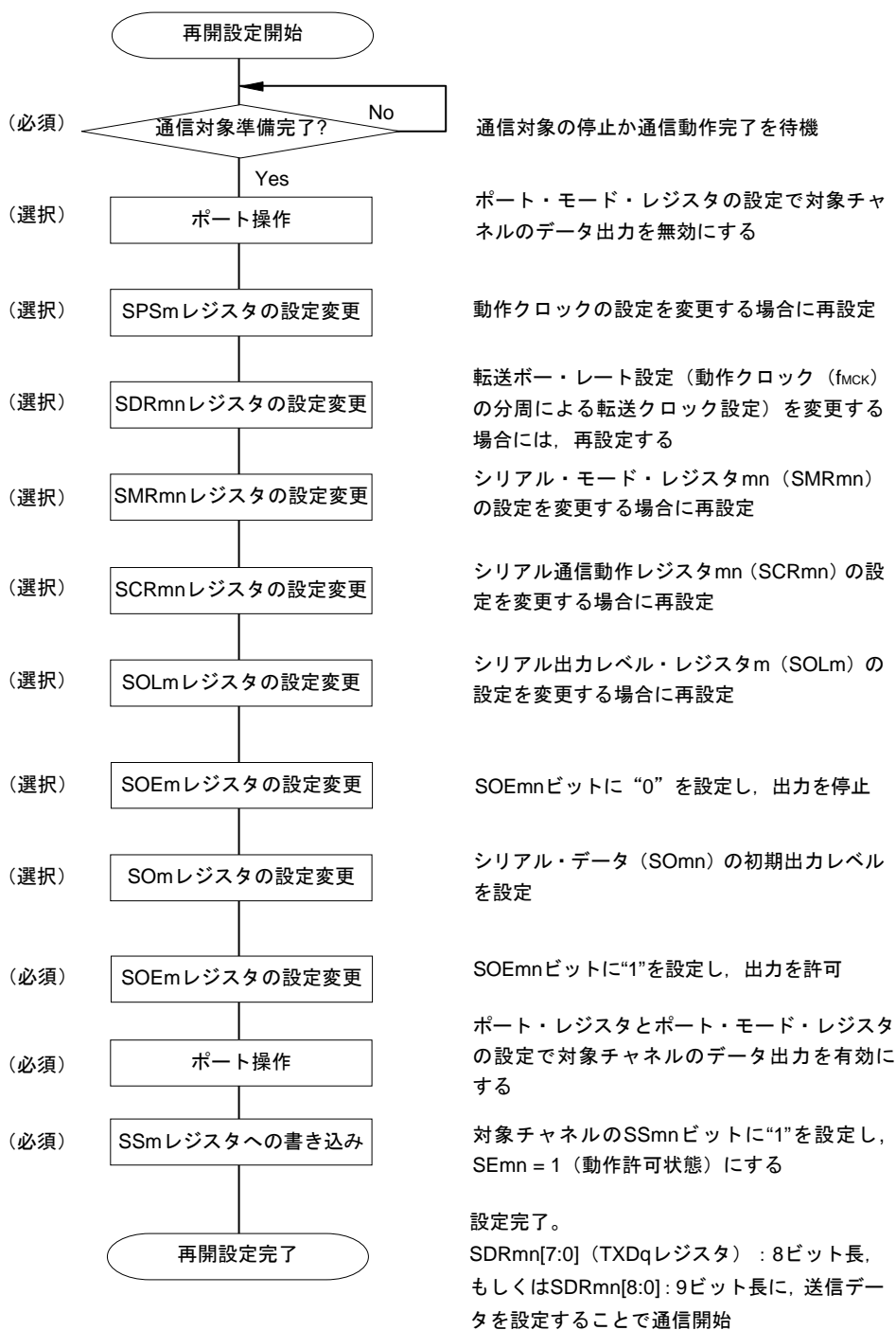


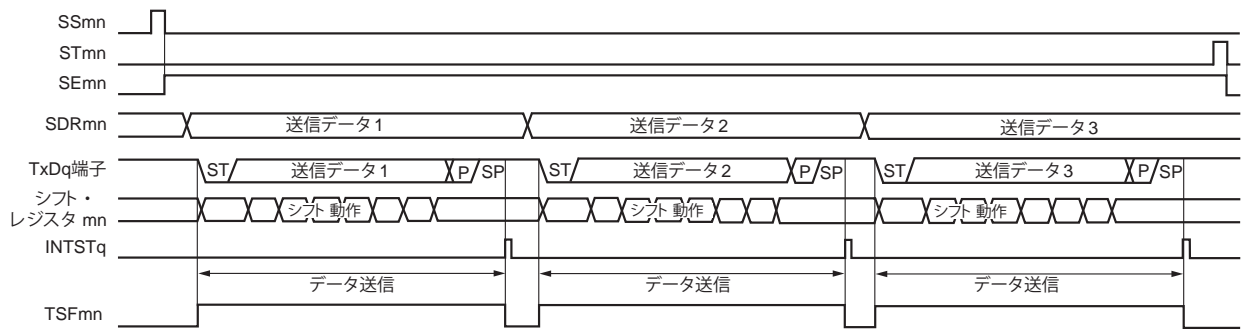
図12-77 UART送信の再開設定手順



備考 中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には、通信対象の停止か通信動作完了を待って、再開設定ではなく初期設定をしてください。

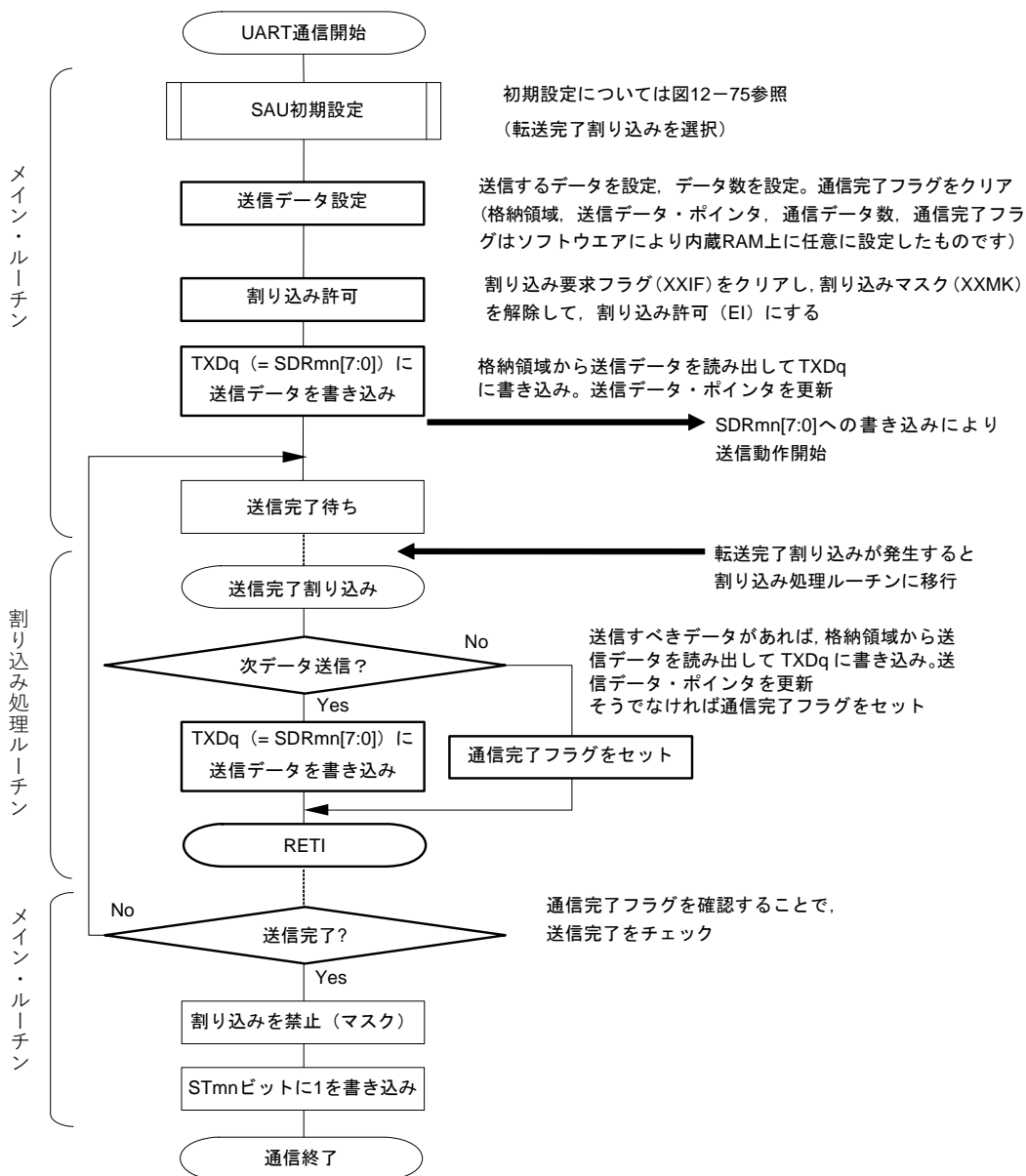
(3) 処理フロー（シングル送信モード時）

図12-78 UART送信（シングル送信モード時）のタイミング・チャート



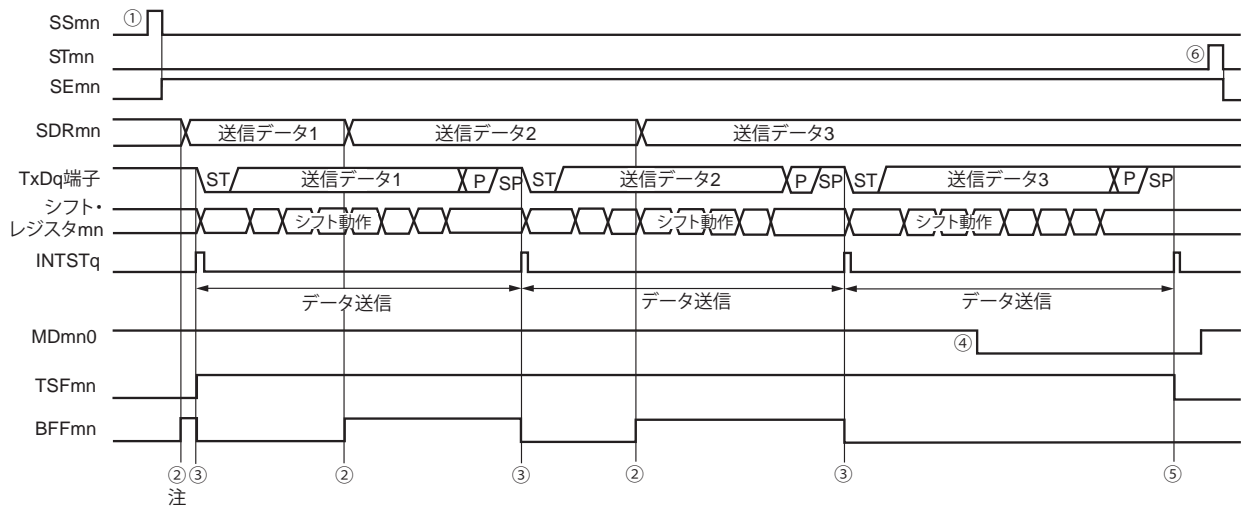
備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0) q : UART番号 (q = 0)
 mn = 00

図12-79 UART送信（シングル送信モード時）のフロー・チャート



(4) 処理フロー（連続送信モード時）

図12-80 UART送信（連続送信モード時）のタイミング・チャート

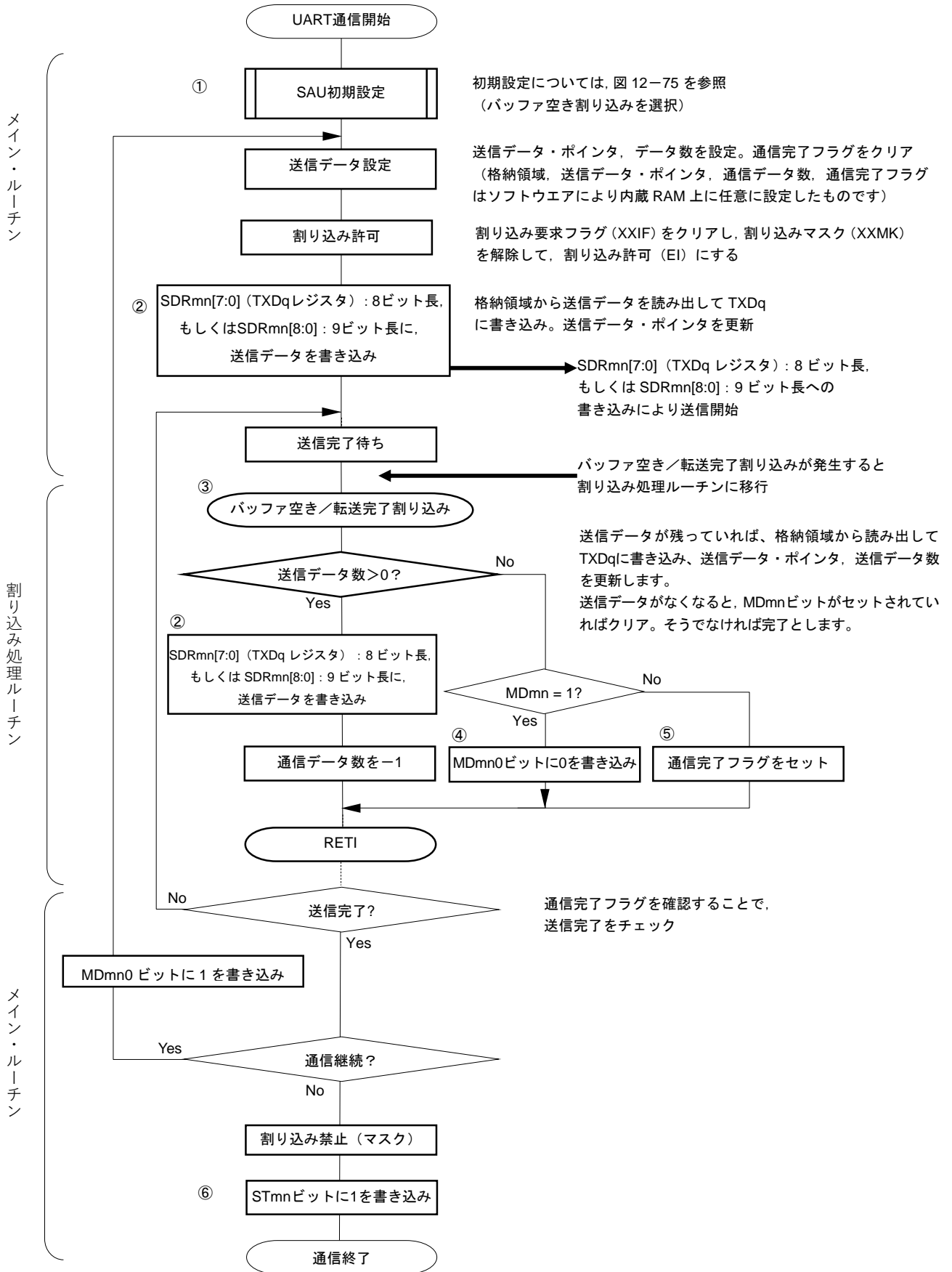


注 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のBFFmnビットが“1”の期間（有効なデータがシリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) に格納されているとき)にSDRmnレジスタに送信データを書き込むと、送信データが上書きされます。

注意 シリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のMDmn0ビットは、動作中でも書き換えることができます。ただし、最後の送信データの転送完了割り込みに間に合わせるために、最終ビットの転送開始前までに書き換えてください。

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0) q : UART番号 (q = 0)
mn = 00

図12-81 UART送信（連続送信モード時）のフロー・チャート



備考 図中の①~⑥は、図12-80 UART送信（連続送信モード時）のタイミング・チャートの①~⑥に対応しています。

12.6.2 UART受信

UART受信は、他デバイスからRL78/L12が非同期（調歩同期）でデータを受信する動作です。

UART受信では、そのUARTに使用する2チャンネルのうち、奇数チャンネルのほうを使用します。ただし、SMRレジスタは、偶数チャンネルと奇数チャンネルの両方のレジスタを設定する必要があります。

UART	UART0
対象チャンネル	チャンネル1
使用端子	RxD0
割り込み	INTSR0 転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは設定禁止）
エラー割り込み	INTSRE0
エラー検出フラグ	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレーミング・エラー検出フラグ（FEFmn） ・ パリティ・エラー検出フラグ（PEFmn） ・ オーバラン・エラー検出フラグ（OVFmn）
転送データ長	7ビットまたは8ビットまたは9ビット
転送レート	Max. $f_{MCK}/6$ [bps] (SDRmn[15:9] = 2以上), Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [bps] ^注
データ位相	非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル） 反転出力（デフォルト：ロウ・レベル）
パリティ・ビット	以下の選択が可能 <ul style="list-style-type: none"> ・ パリティ・ビットなし（パリティ・チェックなし） ・ パリティ判定なし（0パリティ） ・ 偶数パリティ・チェック ・ 奇数パリティ・チェック
ストップ・ビット	1ビット付加
データ方向	MSBファーストまたはLSBファースト

注 この条件を満たし、かつ電気的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

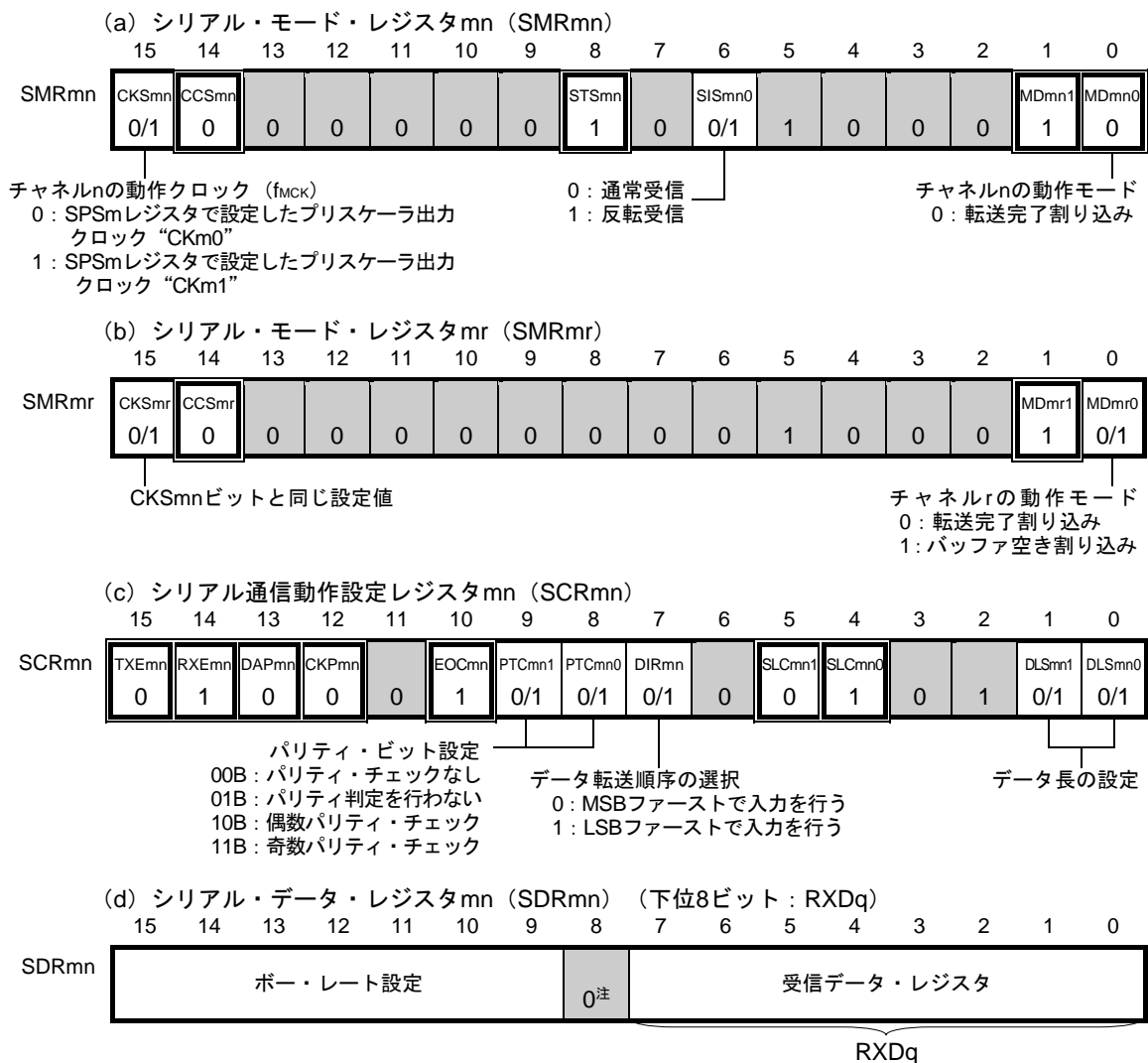
備考1. f_{MCK} : 対象チャンネルの動作クロック周波数

f_{CLK} : システム・クロック周波数

2. m : ユニット番号 ($m = 0$) n : チャンネル番号 ($n = 1$) , $mn = 01$

(1) レジスタ設定

図12-82 UART (UART0) のUART受信時のレジスタ設定内容例 (1/2)



注 9ビット・データ長での通信を行う場合は、SDRm1レジスタのビット0-8が受信データ設定領域になります。

注意 UART受信時は、チャンネルnとペアになるチャンネルrのSMRmrレジスタも必ずUART送信モードに設定してください。

備考1. m: ユニット番号 (m=0) n: チャンネル番号 (n=1), mn=01

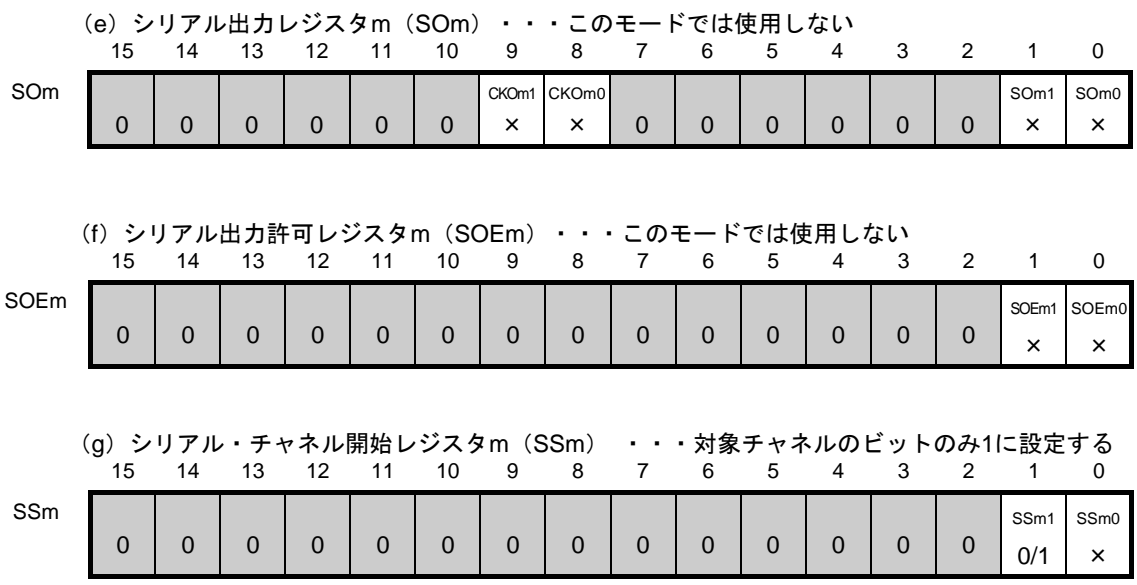
r: チャンネル番号 (r=n-1) q: UART番号 (q=0)

2. □: UART受信モードでは設定固定 ■: 設定不可 (初期値を設定)

x: このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)

0/1: ユーザの用途に応じて0または1に設定

図12-82 UART (UART0) のUART受信時のレジスタ設定内容例 (2/2)

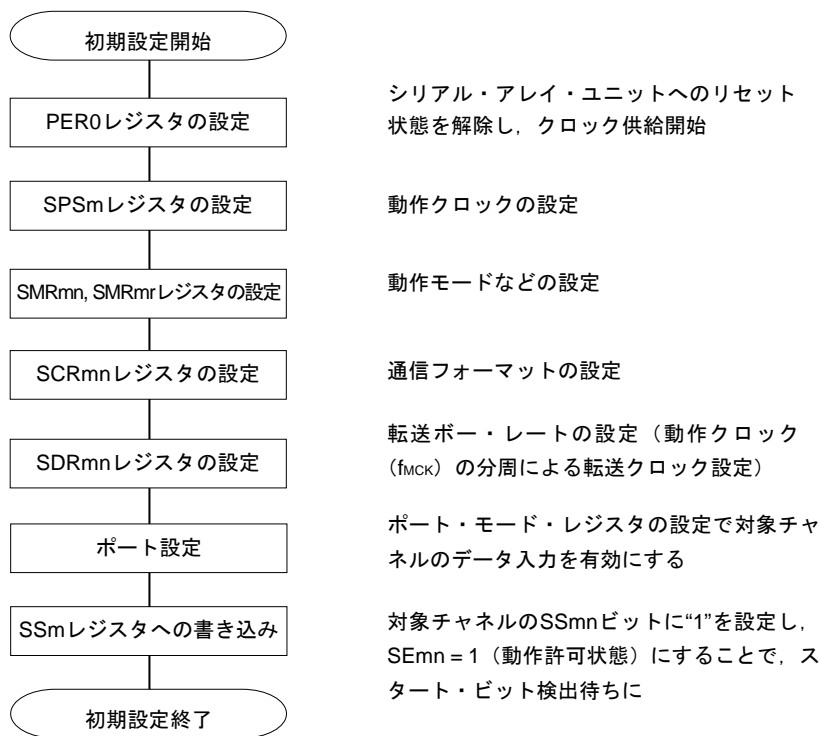


注意 UART受信時は、チャンネルnとペアになるチャンネルrのSMRmrレジスタも必ずUART送信モードに設定してください。

- 備考1. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 1) , mn = 01
 r : チャンネル番号 (r = n-1) q : UART番号 (q = 0)
2. : UART受信モードでは設定固定 : 設定不可 (初期値を設定)
 x : このモードでは使用できないビット (他のモードでも使用しない場合は初期値を設定)
 0/1 : ユーザの用途に応じて0または1に設定

(2) 操作手順

図12-83 UART受信の初期設定手順



注意 SCRmnレジスタのRXEmnビットを“1”に設定後に、f_{CLK}の4クロック以上間隔をあけてからSSmn = 1を設定してください。

図12-84 UART受信の中断手順

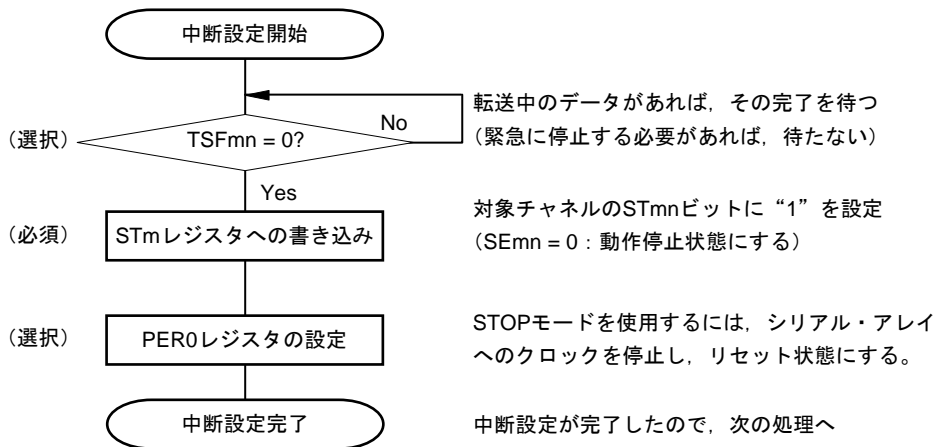
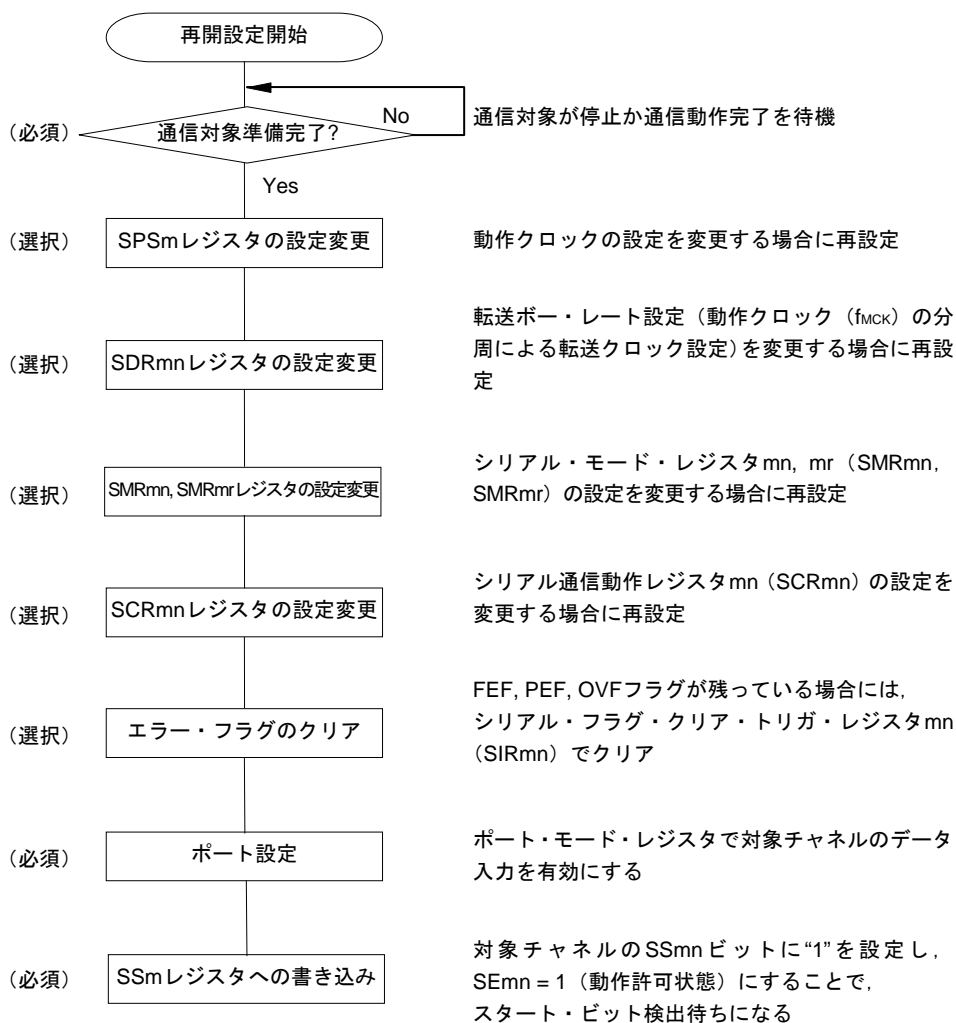


図12-85 UART受信の再開設定手順

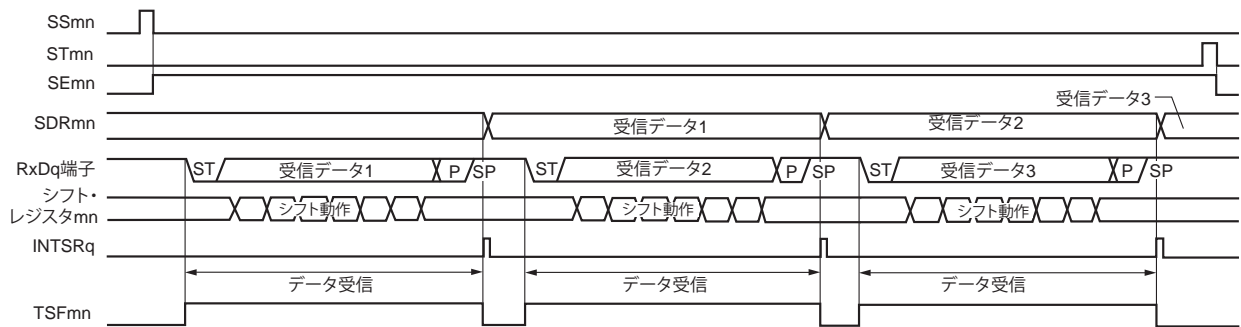


注意 SCRmnレジスタのRXEmnビットを“1”に設定後に、f_{MCK}の4クロック以上間隔をあけてからSSmn = 1を設定してください。

備考 中断設定でPER0を書き換えてクロック供給を停止した場合には、通信対象の停止か通信動作完了を待って、再開設定ではなく初期設定をしてください。

(3) 処理フロー

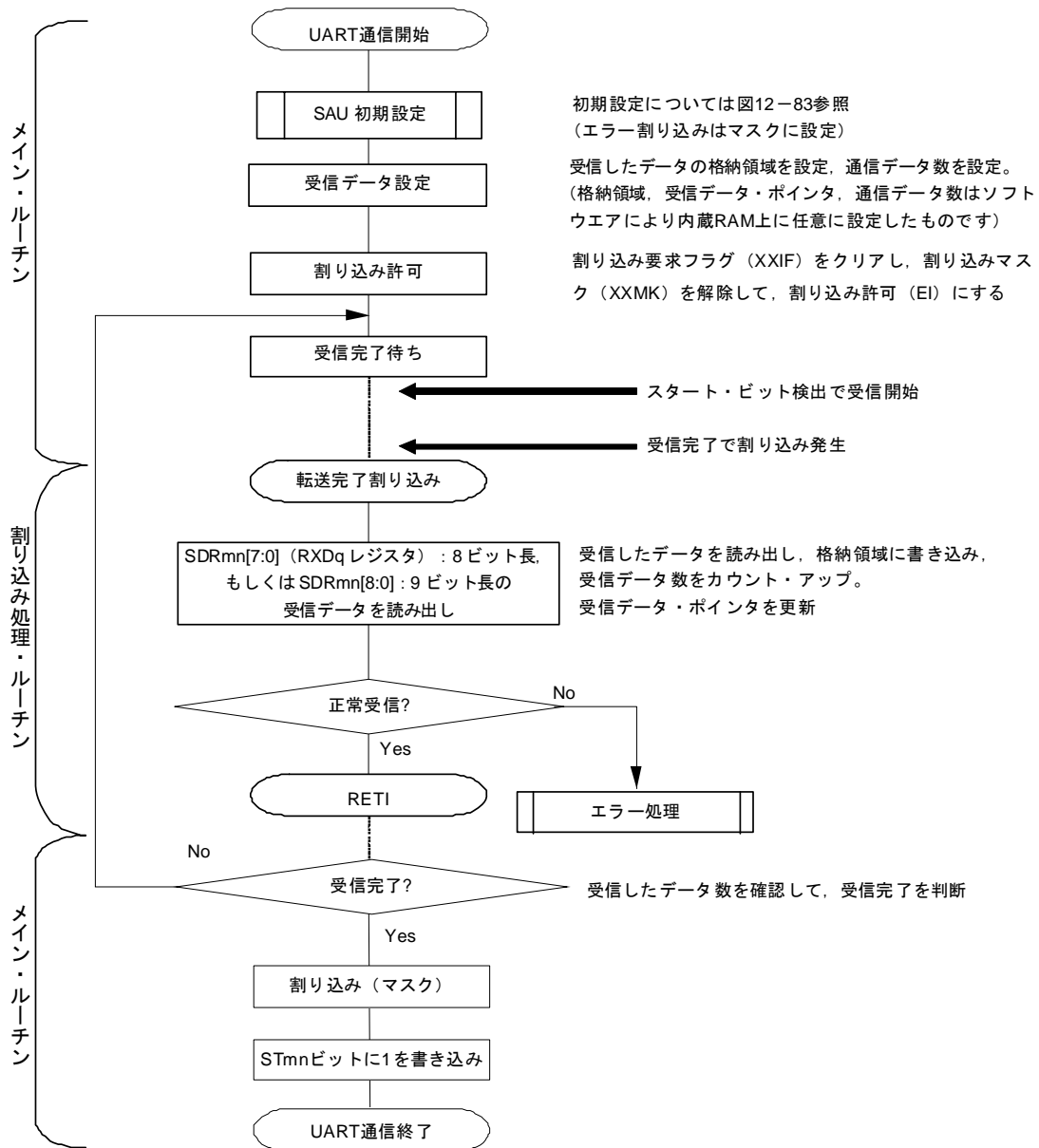
図12-86 UART受信のタイミング・チャート



備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 1) , mn = 01

r : チャネル番号 (r = n-1) q : UART番号 (q = 0)

図12-87 UART受信のフロー・チャート



12.6.3 SNOOZEモード機能

STOPモード時にRxDq端子入力の検出によりUARTの受信動作をさせるモードです。通常STOP時にUARTは通信動作を停止しますが、このモードを使うことで、RxDq端子入力の検出によってCPUを動作させずにUARTの受信動作を行うことができます。

SNOOZEモードは、以下のチャンネルのみ設定可能です。

UART0

UARTqをSNOOZEモードで使用する場合は、STOPモードに移行する前に次の設定を行います。(図12-90、図12-92 SNOOZEモード動作時のフローチャートを参照)

- ・ SNOOZEモード時は、UART受信ボー・レートの設定を通常動作時とは異なる値に変更する必要があります。表12-3を参照してSPSmレジスタ、SDRmnレジスタ[15:9]を設定してください。
- ・ EOCmnビット、SSECmnビットを設定します。通信エラーが発生した場合にエラー割り込み (INTSRE0) の発生許可/停止を設定することができます。
- ・ STOPモードに移行する直前にシリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm) のSWCmビットをセット (1) してください。初期設定完了後、シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm) のSSm1ビットをセット (1) します。
- ・ STOPモードに移行後、RxDq のスタート・ビット入力を検出すると、UARTqは受信動作を開始します。

注意1. SNOOZEモードは、fCLKに高速オンチップ・オシレータ・クロック (fIH) を選択している場合のみ設定可能です。

2. SNOOZEモードでの転送レートは4800bpsのみです。
3. SWCm=1の設定では、STOPモード中に受信開始した時のみUARTqを使用できます。他のSNOOZE機能や割り込みと同時に使用して、次のようなSTOPモード以外の状態で受信開始した場合は、正しくデータ受信できず、フレーミング・エラーもしくはパリティ・エラーが発生することがあります。
 - ・ SWCm=1に設定後、STOPモードに移行する前に受信開始した場合
 - ・ 他のSNOOZEモード中に受信開始した場合
 - ・ STOPモードから割り込みなどで通常動作に復帰後、SWCm=0に戻す前に受信開始した場合
4. SSECm=1の設定では、パリティ・エラー、フレーミング・エラー、オーバラン・エラー時にPEFmn, FEFmn, OVFmnフラグはセットされず、エラー割り込み (INTSREq) も発生しません。そのため、SSECm=1で使用するときは、SWC0=1に設定する前にPEFmn, FEFmn, OVFmnフラグをクリアし、また、SDRm1レジスタのビット7-0 (RxDq) を読み出してください。
5. RxDq端子の有効エッジ検出によりSNOOZEモードへ移行します。

また、スタート・ビット入力を検出できないような短いパルスを受けるとUART受信が開始されず、SNOOZEモードを継続することがあります。この場合、次のUART受信で正しくデータ受信できず、フレーミング・エラーもしくはパリティ・エラーが発生することがあります。

表12-3 SNOOZEモード時のUART受信ボー・レート設定

高速オンチップ・ オシレータ (f_{IH})	SNOOZEモード時のUART受信ボー・レート			
	ボー・レート4800 bps			
	動作クロック (f_{MCK})	SDRmn [15:9]	最大許容値	最小許容値
32MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^5$	105	2.27%	- 1.53%
24MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^5$	79	1.60%	- 2.18%
16MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^4$	105	2.27%	- 1.53%
12MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^4$	79	1.60%	- 2.19%
8MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^3$	105	2.27%	- 1.53%
6MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^3$	79	1.60%	- 2.19%
4MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^2$	105	2.27%	- 1.53%
3MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2^2$	79	1.60%	- 2.19%
2MHz±1.0% ^注	$f_{CLK} / 2$	105	2.27%	- 1.54%
1MHz±1.0% ^注	f_{CLK}	105	2.27%	- 1.57%

注 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数精度が±1.5%、±2.0%の場合は、次のように許容範囲が狭くなります。

- ・ $f_{IH} \pm 1.5\%$ の場合は、上表の最大許容値に-0.5%、最小許容値に+0.5%してください。
- ・ $f_{IH} \pm 2.0\%$ の場合は、上表の最大許容値に-1.0%、最小許容値に+1.0%してください。

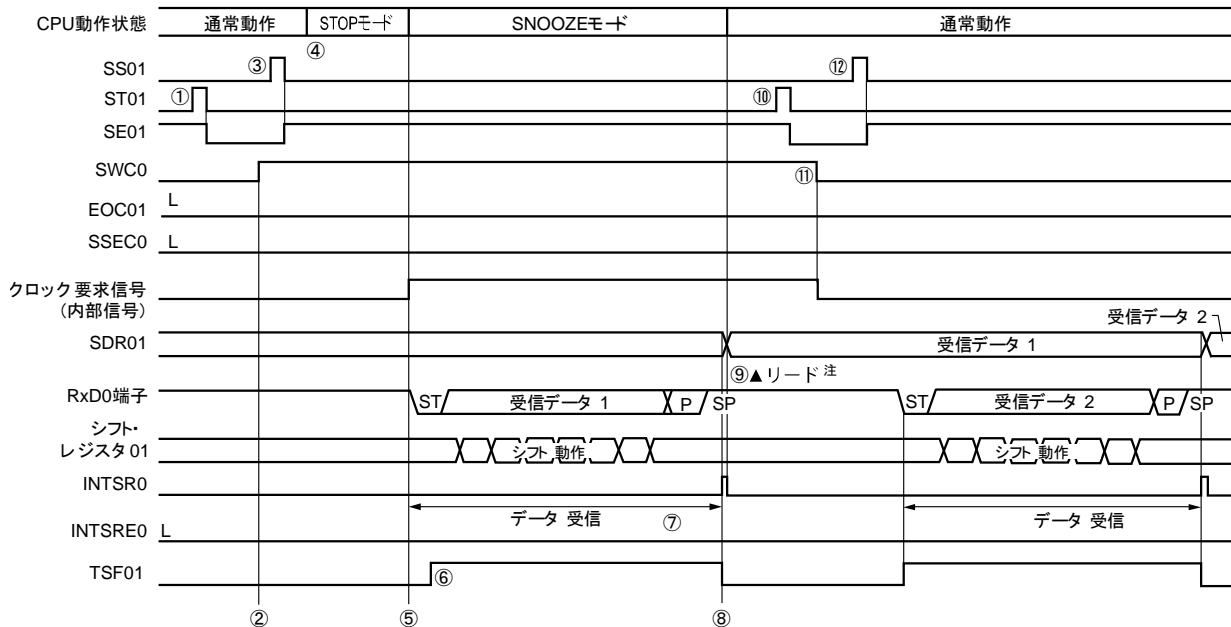
備考 最大許容値、最小許容値は、UART受信時のボー・レート許容値です。

この範囲に送信側のボー・レートが収まるように設定してください。

(1) SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECm = 0/1)

EOCm1 = 0のためSSECmビットの設定にかかわらず、通信エラーが発生してもエラー割り込み (INTSREq) は発生しません。転送完了割り込み (INTSRq) は発生します。

図12-88 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECm = 0/1) 時のタイミング・チャート



注 SWCm = 1の状態では、受信データの読み出しを行ってください。

注意 SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは、必ずSTm1ビットを1に設定してください (SEm1ビットがクリアされ動作停止)。

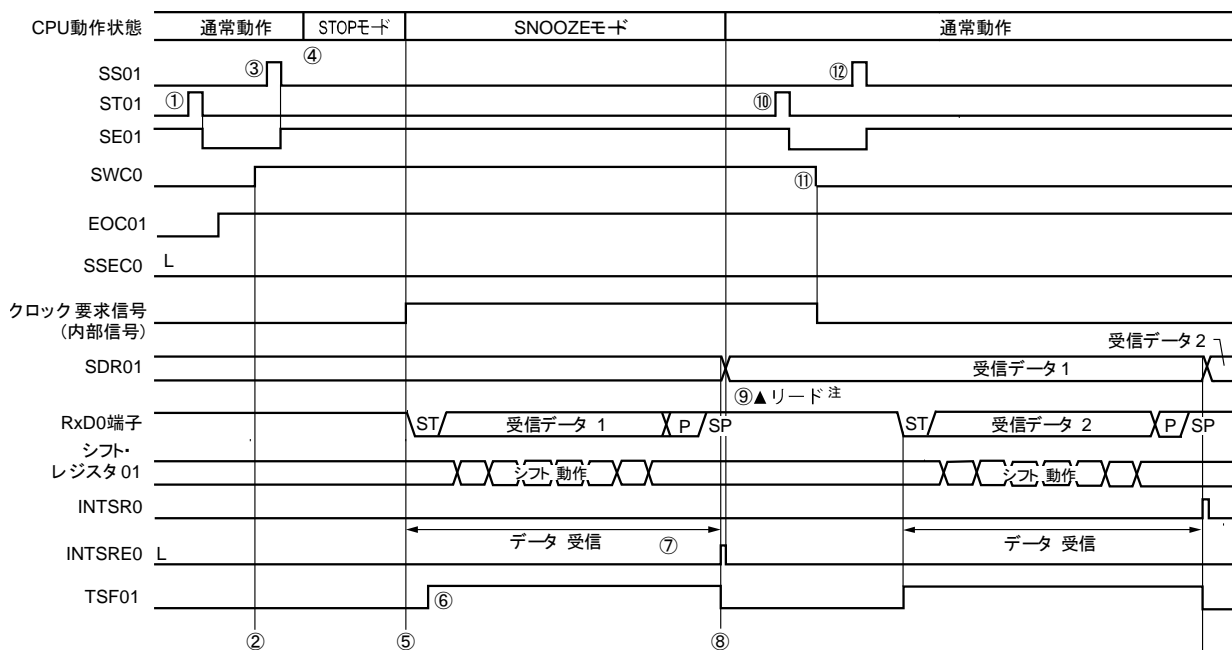
また、受信動作を完了した後は、SWCmビットもクリアしてください (SNOOZE解除)。

備考1. 図中の①~⑫は、図12-90 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 0/1もしくはEOCm1 = 1, SSECm = 0) 時のフロー・チャートの①~⑫に対応しています。

2. m = 0; q = 0

(2) SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 0 : エラー割り込み (INTSREq) 発生許可)
 EOCm1 = 1, SSECm = 0のため, 通信エラーが発生した場合にエラー割り込み (INTSREq) を発生します。

図12-89 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 0) 時のタイミング・チャート



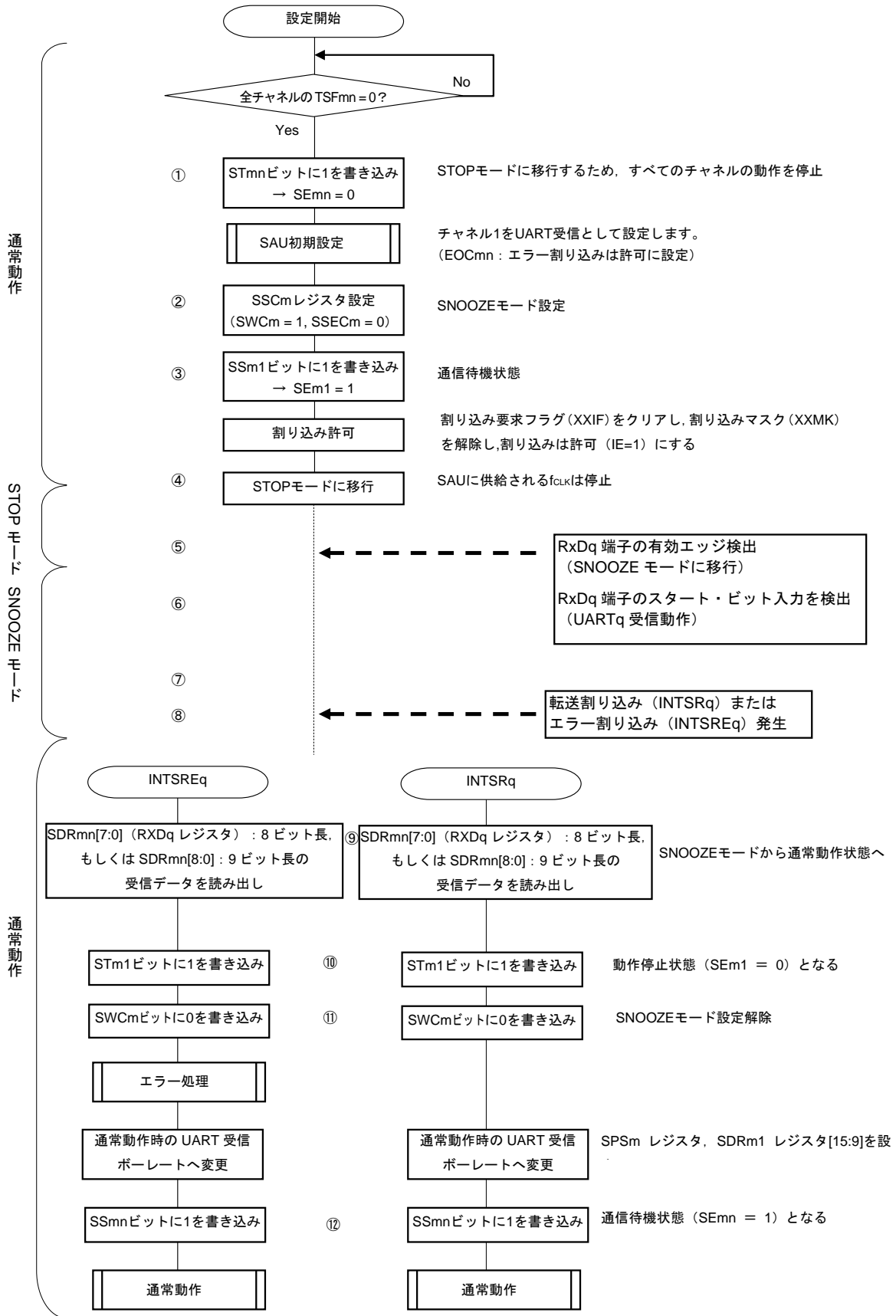
注 SWCm = 1の状態では, 受信データの読み出しを行ってください。

注意 SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは, 必ずSTm1ビットを1に設定してください (SEm1ビットがクリアされ動作停止)。
 また, 受信動作を完了した後は, SWCmビットもクリアしてください (SNOOZE解除)。

備考1. 図中の①~⑫は, 図12-90 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECm = 0/1もしくはEOCm1 = 1, SSECm = 0) 時のフロー・チャートの①~⑫に対応しています。
 2. m = 0; q = 0

注 SWCm = 1の状態では, 受信データの読み出しを行ってください。

図12-90 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECM = 0/1 もしくは EOCm1 = 1, SSECM = 0) 時の
フロー・チャート



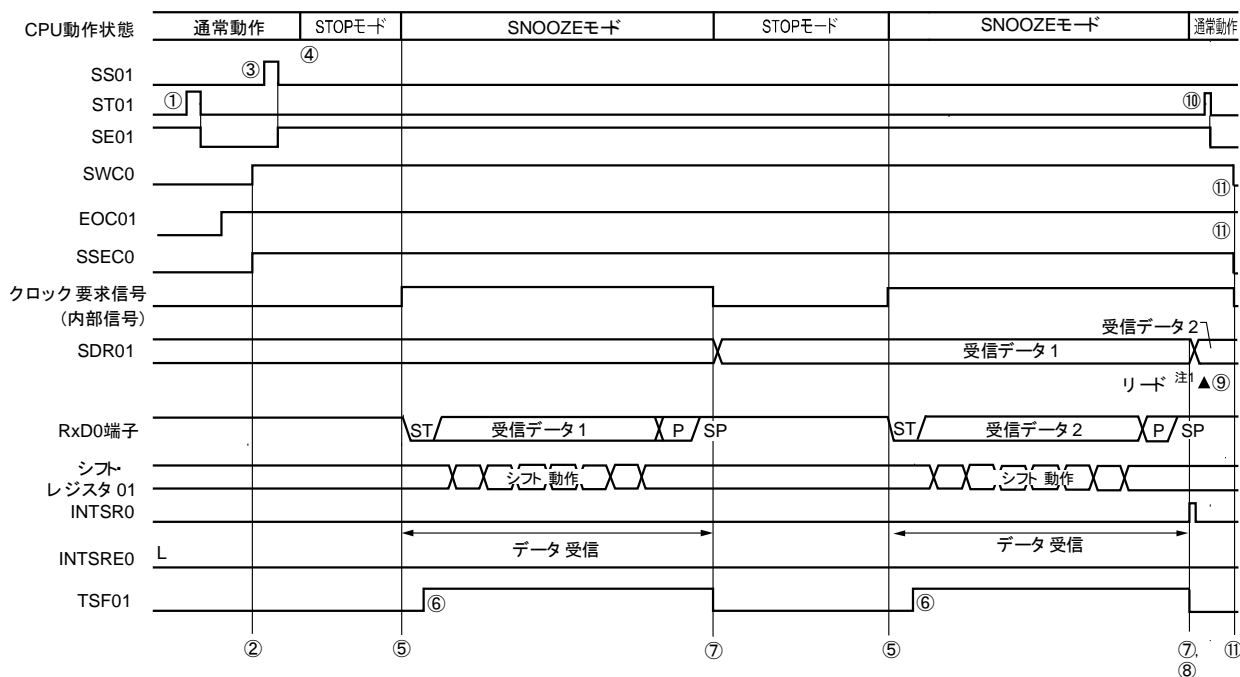
備考1. 図中の①~⑫は、図12-88 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECm = 0/1) 時のタイミング・チャート、図12-89 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 0) 時のタイミング・チャートの①~⑫に対応しています。

2. m = 0; q = 0

(3) SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 1 : エラー割り込み (INTSREq) 発生停止)

EOCm1 = 1, SSECm = 1のため、通信エラーが発生した場合にエラー割り込み (INTSREq) を発生しません。

図12-91 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 1) 時のタイミング・チャート



注 SWCm = 1の状態では、受信データの読み出しを行ってください。

注意1. SNOOZEモード移行前とSNOOZEモードで受信動作を完了したあとは、必ずSTm1ビットを1に設定してください (SEm1ビットがクリアされ動作停止)。

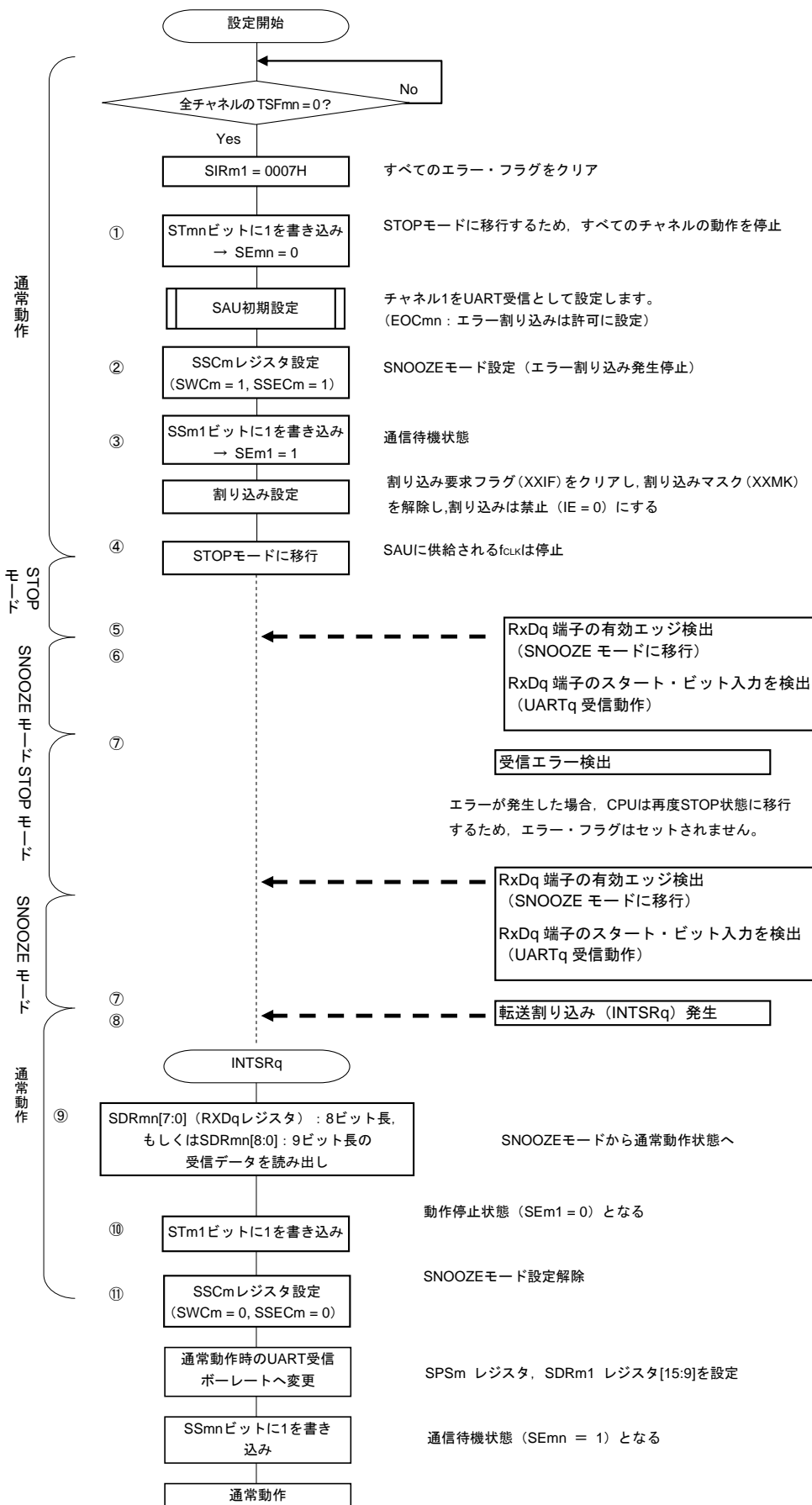
また、受信動作を完了した後は、SWCmビットもクリアしてください (SNOOZE解除)。

2. SSECm = 1のときは、パリティ・エラー、フレーミング・エラー、オーバラン・エラー時にPEFm1, FEFm1, OVFM1フラグはセットされず、エラー割り込み (INTSREq) も発生しません。そのため、SSECm = 1で使用するときは、SWCm = 1に設定する前にPEFm1, FEFm1, OVFM1フラグをクリアし、また、SDRm1[7:0] (RXDqレジスタ) : 8ビット長、もしくはSDRm1[8:0] : 9ビット長を読み出ししてください。

備考1. 図中の①~⑪は、図12-92 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 1) 時のフロー・チャートの①~⑪に対応しています。

2. m = 0; q = 0

図12-92 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 1) 時のフロー・チャート



(注意、備考は次ページにあります。)

注意 SSECm = 1 のときは、パリティ・エラー、フレーミング・エラー、オーバラン・エラー時に PEFm1, FEFm1, OVFm1 フラグはセットされず、エラー割り込み (INTSREq) も発生しません。そのため、SSECm = 1 で使用するときには、SWC0 = 1 に設定する前に PEFm1, FEFm1, OVFm1 フラグをクリアし、また、SDRm1[7:0] (RXDq レジスタ) : 8 ビット長、もしくは SDRm1[8:0] : 9 ビット長を読み出してください。

備考1. 図中の①~⑪は、図12-91 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECm = 1) 時のタイミング・チャートの①~⑪に対応しています。

2. m = 0; q = 0

12.6.4 ボー・レートの算出

(1) ボー・レート算出式

UART (UART0) 通信でのボー・レートは下記の計算式にて算出できます。

$$\text{(ボー・レート)} = \{\text{対象チャンネルの動作クロック (f}_{\text{MCK}}\text{) 周波数}\} \div (\text{SDRmn}[15:9]+1) \div 2 [\text{bps}]$$

注意 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) SDRmn[15:9] = (0000000B, 0000001B) は設定禁止です。

備考1. UART使用時は, SDRmn[15:9]はSDRmnレジスタのビット15-9の値 (0000010B-1111111B) なので, 2-127になります。

2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) , mn = 00, 01

動作クロック (f_{MCK}) は, シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のビット15 (CKSmnビット) で決まります。

表12-4 UART動作クロックの選択

SMRmn レジスタ	SPSmレジスタ								動作クロック (fMCK) 注	
	CKSmn	PRS m13	PRS m12	PRS m11	PRS m10	PRS m03	PRS m02	PRS m01	PRS m00	fCLK = 24 MHz 動作時
0	X	X	X	X	0	0	0	0	fCLK	24 MHz
	X	X	X	X	0	0	0	1	fCLK/2	12 MHz
	X	X	X	X	0	0	1	0	fCLK/2 ²	6 MHz
	X	X	X	X	0	0	1	1	fCLK/2 ³	3 MHz
	X	X	X	X	0	1	0	0	fCLK/2 ⁴	1.5 MHz
	X	X	X	X	0	1	0	1	fCLK/2 ⁵	750 kHz
	X	X	X	X	0	1	1	0	fCLK/2 ⁶	375 kHz
	X	X	X	X	0	1	1	1	fCLK/2 ⁷	187.5 kHz
	X	X	X	X	1	0	0	0	fCLK/2 ⁸	93.8 kHz
	X	X	X	X	1	0	0	1	fCLK/2 ⁹	46.9 kHz
	X	X	X	X	1	0	1	0	fCLK/2 ¹⁰	23.4 kHz
	X	X	X	X	1	0	1	1	fCLK/2 ¹¹	11.7 kHz
	X	X	X	X	1	1	0	0	fCLK/2 ¹²	5.86 kHz
	X	X	X	X	1	1	0	1	fCLK/2 ¹³	2.93 kHz
	X	X	X	X	1	1	1	0	fCLK/2 ¹⁴	1.46 kHz
X	X	X	X	1	1	1	1	fCLK/2 ¹⁵	732 Hz	
1	0	0	0	0	X	X	X	X	fCLK	24 MHz
	0	0	0	1	X	X	X	X	fCLK/2	12 MHz
	0	0	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ²	6 MHz
	0	0	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ³	3 MHz
	0	1	0	0	X	X	X	X	fCLK/2 ⁴	1.5 MHz
	0	1	0	1	X	X	X	X	fCLK/2 ⁵	750 kHz
	0	1	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ⁶	375 kHz
	0	1	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ⁷	187.5 kHz
	1	0	0	0	X	X	X	X	fCLK/2 ⁸	93.8 kHz
	1	0	0	1	X	X	X	X	fCLK/2 ⁹	46.9 kHz
	1	0	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ¹⁰	23.4 kHz
	1	0	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ¹¹	11.7 kHz
	1	1	0	0	X	X	X	X	fCLK/2 ¹²	5.86 kHz
	1	1	0	1	X	X	X	X	fCLK/2 ¹³	2.93 kHz
	1	1	1	0	X	X	X	X	fCLK/2 ¹⁴	1.46 kHz
1	1	1	1	X	X	X	X	fCLK/2 ¹⁵	732 Hz	
上記以外									設定禁止	

注 fCLKに選択しているクロックを変更（システム・クロック制御レジスタ（CKC）の値を変更）する場合は、シリアル・アレイ・ユニット（SAU）の動作を停止（シリアル・チャンネル停止レジスタm（STm） = 000FH）させてから変更してください。

備考1. X : Don't care

2. m : ユニット番号 (m = 0) n : チャンネル番号 (n = 0, 1) , mn = 00, 01

(2) 送信時のボー・レート誤差

UART (UART0) 通信での、送信時のボー・レート誤差は、下記の計算式にて算出できます。送信側のボー・レートが、受信側の許容ボー・レート範囲内に収まるように設定してください。

$$(\text{ボー・レート誤差}) = (\text{算出ボー・レート値}) \div (\text{目標ボー・レート値}) \times 100 - 100 [\%]$$

$f_{\text{CLK}} = 24 \text{ MHz}$ の場合のUARTボー・レート設定例を示します。

UARTボー・レート (目標ボー・レート)	$f_{\text{CLK}} = 24 \text{ MHz}$ 時			
	動作クロック (fmck)	SDRmn[15:9]	算出ボー・レート	目標ボー・レートとの誤差
300 bps	$f_{\text{CLK}}/2^9$	77	300.48 bps	+0.16 %
600 bps	$f_{\text{CLK}}/2^8$	77	600.96 bps	+0.16 %
1200 bps	$f_{\text{CLK}}/2^7$	77	1201.92 bps	+0.16 %
2400 bps	$f_{\text{CLK}}/2^6$	77	2403.85 bps	+0.16 %
4800 bps	$f_{\text{CLK}}/2^5$	77	4807.69 bps	+0.16 %
9600 bps	$f_{\text{CLK}}/2^4$	77	9615.38 bps	+0.16 %
19200 bps	$f_{\text{CLK}}/2^3$	77	19230.8 bps	+0.16 %
31250 bps	$f_{\text{CLK}}/2^3$	47	31250.0 bps	±0.0 %
38400 bps	$f_{\text{CLK}}/2^2$	77	38461.5 bps	+0.16 %
76800 bps	$f_{\text{CLK}}/2$	77	76923.1 bps	+0.16 %
153600 bps	f_{CLK}	77	153846 bps	+0.16 %
312500 bps	f_{CLK}	37	315789 bps	±1.05 %

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0) , mn = 00

(3) 受信時のボー・レート許容範囲

UART (UART0) 通信での、受信時のボー・レート許容範囲は、下記の計算式にて算出できます。受信側の許容ボー・レート範囲に送信側のボー・レートが収まるように設定してください。

$$\text{(受信可能な最大ボー・レート)} = \frac{2 \times k \times \text{Nfr}}{2 \times k \times \text{Nfr} - k + 2} \times \text{Brate}$$

$$\text{(受信可能な最小ボー・レート)} = \frac{2 \times k \times (\text{Nfr} - 1)}{2 \times k \times \text{Nfr} - k - 2} \times \text{Brate}$$

Brate : 受信側の算出ボー・レート値 (12.6.4 (1) ボー・レート算出式参照)

k : SDRmn[15:9] + 1

Nfr : 1データ・フレーム長 [ビット]

= (スタート・ビット) + (データ長) + (パリティ・ビット) + (ストップ・ビット)

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 1), mn = 01

図12-93 受信時の許容ボー・レート範囲 (1データ・フレーム長 = 11ビットの場合)

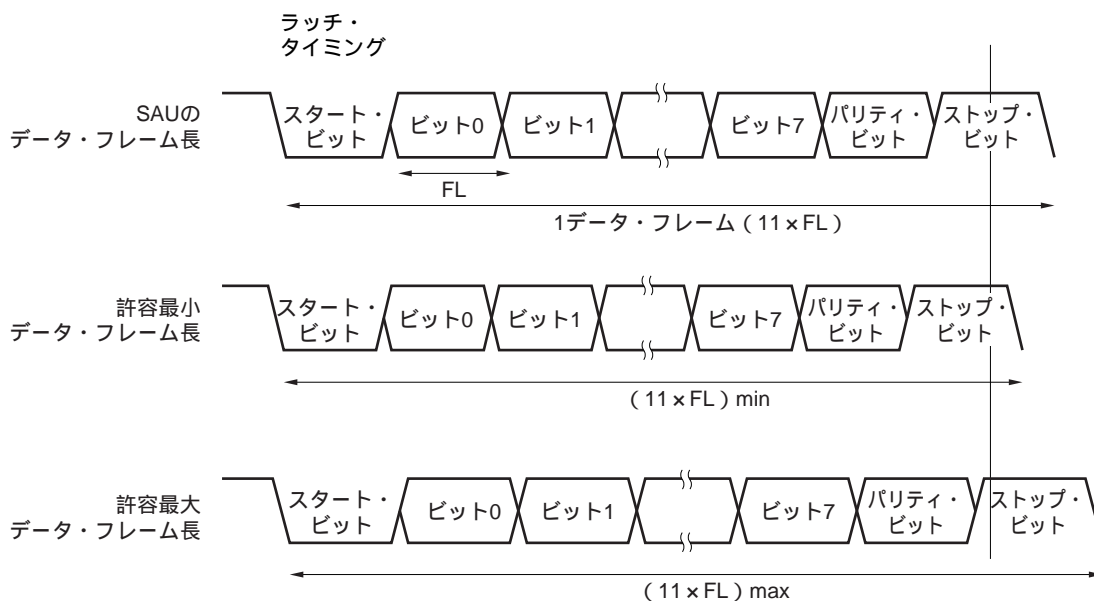


図12-93に示すように、スタート・ビット検出後はシリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) のビット15-9で設定した分周比により、受信データのラッチ・タイミングが決定されます。このラッチ・タイミングに最終データ (ストップ・ビット) までが間に合えば正常に受信できます。

12.6.5 UART (UART0) 通信時におけるエラー発生時の処理手順

UART (UART0) 通信時にエラーが発生した場合の処理手順を図12-94, 図12-95に示します。

図12-94 パリティ・エラーおよびオーバラン・エラー発生時の処理手順

ソフトウェア操作	ハードウェアの状態	備考
シリアル・データ・レジスタ mn (SDRmn) をリードする	SSRmn レジスタの BFFmn ビットが "0" となり, チャネルnは受信可能状態になる	エラー処理中に次の受信を完了した場合にオーバラン・エラーになるのを防ぐために行う
シリアル・ステータス・レジスタ mn (SSRmn) をリードする		エラーの種類を判別を行い, リード値はエラー・フラグのクリアに使用する
シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタ mn (SIRmn) に "1" をライトする	エラー・フラグがクリアされる	SSRmnレジスタのリード値をそのままSIRmnレジスタに書き込むことで, 読み出し時のエラーのみをクリアできる

図12-95 フレーミング・エラー発生時の処理手順

ソフトウェア操作	ハードウェアの状態	備考
シリアル・データ・レジスタ mn (SDRmn) をリードする	SSRmn レジスタの BFFmn ビットが "0" となり, チャネルnは受信可能状態になる	エラー処理中に次の受信を完了した場合にオーバラン・エラーになるのを防ぐために行う
シリアル・ステータス・レジスタ mn (SSRmn) をリードする		エラーの種類を判別を行い, リード値はエラー・フラグのクリアに使用する
シリアル・フラグ・クリア・トリガ・レジスタ mn (SIRmn) をライトする	エラー・フラグがクリアされる	SSRmnレジスタのリード値をそのままSIRmnレジスタに書き込むことで, 読み出し時のエラーのみをクリアできる
シリアル・チャンネル停止レジスタ m (STm) の STmn ビットに "1" を設定する	シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタ m (SEm) の SEmn ビットが "0" となり, チャネルnは動作停止状態になる	
通信相手との同期処理を行う		スタートがずれているためにフレーミング・エラーが起きたと考えられるため, 通信相手との同期を取り直して通信を再開する
シリアル・チャンネル開始レジスタ m (SSm) の SSmn ビットに "1" を設定する	シリアル・チャンネル許可ステータス・レジスタ m (SEm) の SEmn ビットが "1" となり, チャネルnは動作許可状態になる	

備考 m : ユニット番号 (m = 0) n : チャネル番号 (n = 0, 1) , mn = 00, 01

12.7 LIN通信の動作

12.7.1 LIN送信

UART0送信はLIN通信に対応しています。

LIN送信では、チャンネル0を使用します。

UART	UART0
LIN通信対応	可
対象チャンネル	チャンネル0
使用端子	TxD0
割り込み	INTST0 転送完了割り込み（シングル転送モード時）か、パuffa空き割り込み（連続転送モード時）かを選択可能
エラー検出フラグ	なし
転送データ長	8ビット
転送レート	Max. $f_{MCK}/6$ [bps] (SDR00[15:9] = 2以上) , Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [bps] 注
データ位相	非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル） 反転出力（デフォルト：ロウ・レベル）
パリティ・ビット	パリティ・ビットなし
ストップ・ビット	1ビット付加
データ方向	LSBファースト

注 この条件を満たし、かつ電気的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電気的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。なお、LIN通信では通常2.4/9.6/19.2 kbpsがよく用いられます。

備考 f_{MCK} : 対象チャンネルの動作クロック周波数

f_{CLK} : システム・クロック周波数

LINとは、Local Interconnect Networkの略称で、車載ネットワークのコストダウンを目的とする低速（1～20 kbps）のシリアル通信プロトコルです。

LINの通信はシングル・マスタ通信で、1つのマスタに対し最大15のスレーブが接続可能です。

LINのスレーブは、スイッチ、アクチュエータ、センサなどの制御に使用され、これらがLINのネットワークを介してLINのマスタに接続されます。

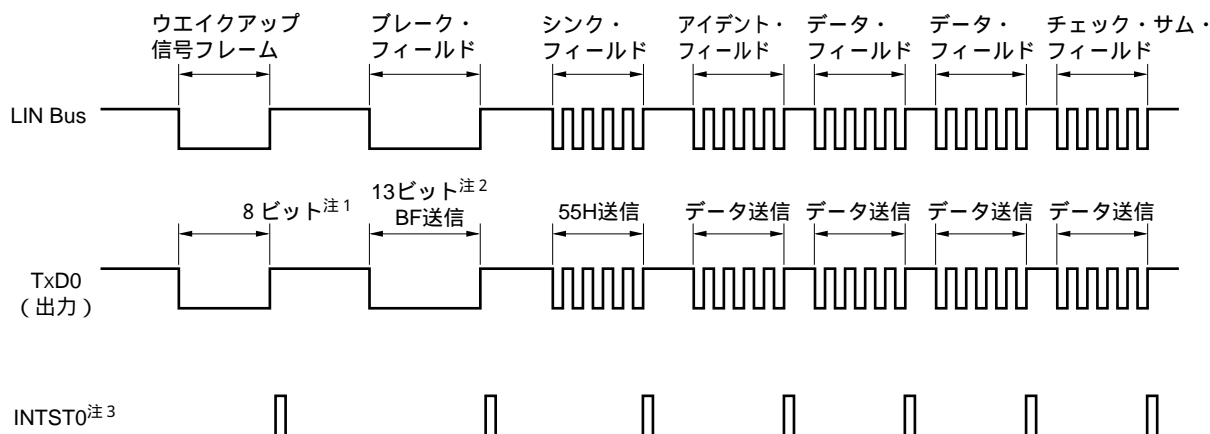
LINのマスタは通常、CAN（Controller Area Network）などのネットワークに接続されます。

また、LINバスはシングル・ワイヤ方式で、ISO9141に準拠したトランシーバを介して各ノードが接続されます。

LINの Protokol では、マスタはフレームにボー・レート情報をつけて送信し、スレーブはこれを受信してマスタとのボー・レート誤差を補正します。このため、スレーブのボー・レート誤差が±15 %以下であれば、通信可能です。

LINの送信操作の概略を、図12-96に示します。

図12-96 LINのマスタ送信操作



注1. 80Hのデータ送信をすることで対応します。

2. ブレーク・フィールドは13ビット幅のロウ・レベル出力と規定されているので、メイン転送で使用するボー・レートをN [bps]とすると、ブレーク・フィールドで使用するボー・レートは次のようになります。

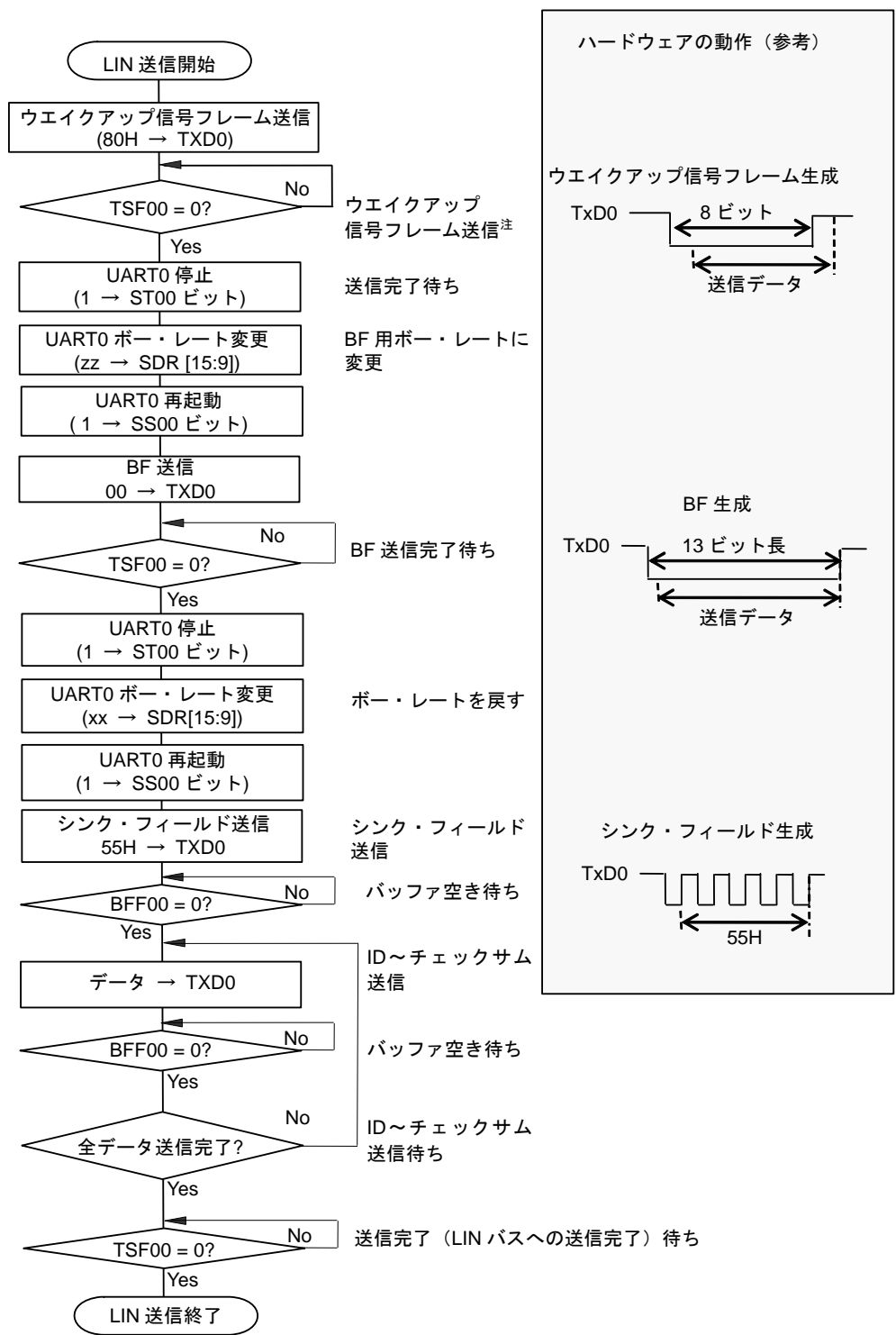
$$\boxed{(\text{ブレーク・フィールド時のボー・レート}) = 9/13 \times N}$$

このボー・レートで00Hのデータ送信をすることでブレーク・フィールドを生成します。

3. 各送信終了時にはINTST0を出力します。

備考 各フィールド間の間隔はソフトウェアで制御します。

図12-97 LIN送信のフロー・チャート



注 LIN-busがスリープ状態からの起動時のみ

備考 UARTの初期設定は完了し、送信許可状態からのフローです。

12.7.2 LIN受信

UART0受信はLIN通信に対応しています。

LIN受信では、チャンネル1を使用します。

UART	UART0
LIN通信対応	可
対象チャンネル	チャンネル1
使用端子	RxD0
割り込み	INTSR0
	転送完了割り込みのみ（バッファ空き割り込みは設定禁止）
エラー割り込み	INTSRE0
エラー検出フラグ	・ フレーミング・エラー検出フラグ（FEF01） ・ オーバラン・エラー検出フラグ（OVF01）
転送データ長	8ビット
転送レート	Max. $f_{MCK}/6$ [bps] (SDR11[15:9] = 2以上), Min. $f_{CLK}/(2 \times 2^{15} \times 128)$ [bps] ^注
データ位相	非反転出力（デフォルト：ハイ・レベル） 反転出力（デフォルト：ロウ・レベル）
パリティ・ビット	パリティ・ビットなし（パリティ・チェックしない）
ストップ・ビット	1ビット目チェック
データ方向	LSBファースト

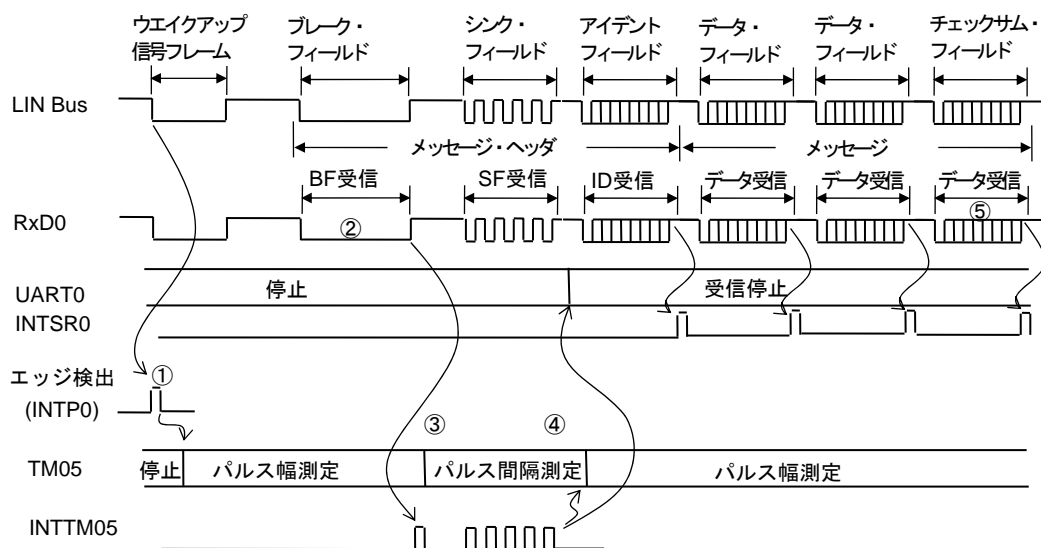
注 この条件を満たし、かつ電气的特性の周辺機能特性（第30章または第31章 電气的特性参照）を満たす範囲内で使用してください。

備考 f_{MCK} ：対象チャンネルの動作クロック周波数

f_{CLK} ：システム・クロック周波数

LINの受信操作の概略を、図12-98に示します。

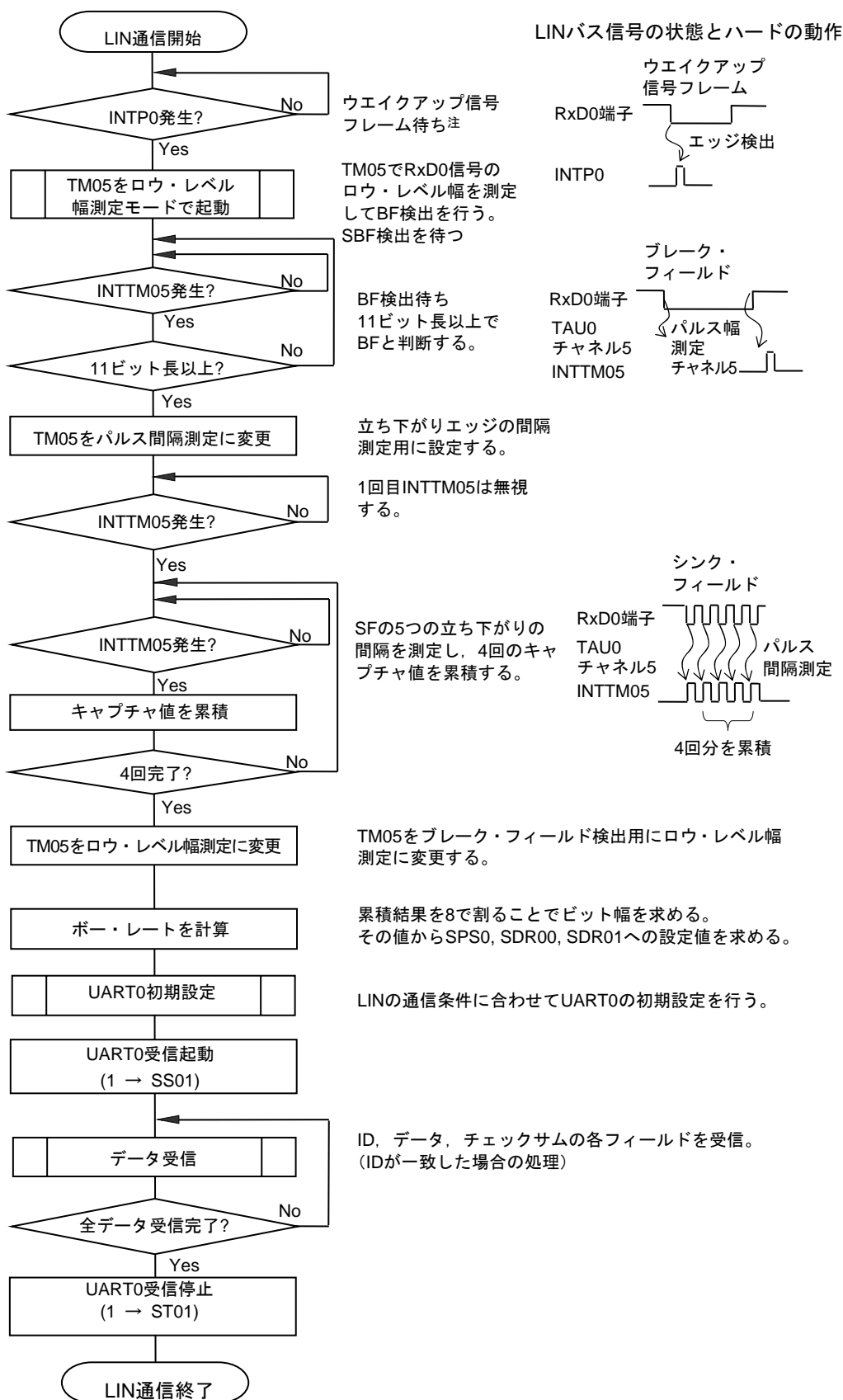
図12-98 LINの受信操作



受信処理の流れを次に示します。

- ① ウェイクアップ信号の検出は、端子の割り込みエッジ検出 (INTP0) で行います。ウェイクアップ信号を検出したら、TM05をBFのロウ・レベル幅測定のためにパルス幅測定に設定して、BF受信待ち状態にします。
- ② BFの立ち下がりを検出したら、TM05はロウ・レベル幅の測定を開始し、立ち上がりでキャプチャを行います。キャプチャされた値からBF信号かどうかの判定を行います。
- ③ BF受信を正常終了した場合、TM05をパルス間隔測定に設定し、シンク・フィールドのRxD0信号の立ち下がりの間隔を4回測定してください (6.8.4 入力パルス間隔測定としての動作を参照)。
- ④ シンク・フィールド (SF) のビット間隔からポー・レート誤差を算出します。そして、いったんUART0を動作停止にしてからポー・レートを調整 (再設定) してください。
- ⑤ チェック・サム・フィールドの区別はソフトウェアで行ってください。チェック・サム・フィールド受信後にUART0を初期化し、再びBF受信待ちに設定する処理もソフトウェアにて行ってください。

図12-99 LIN受信のフロー・チャート



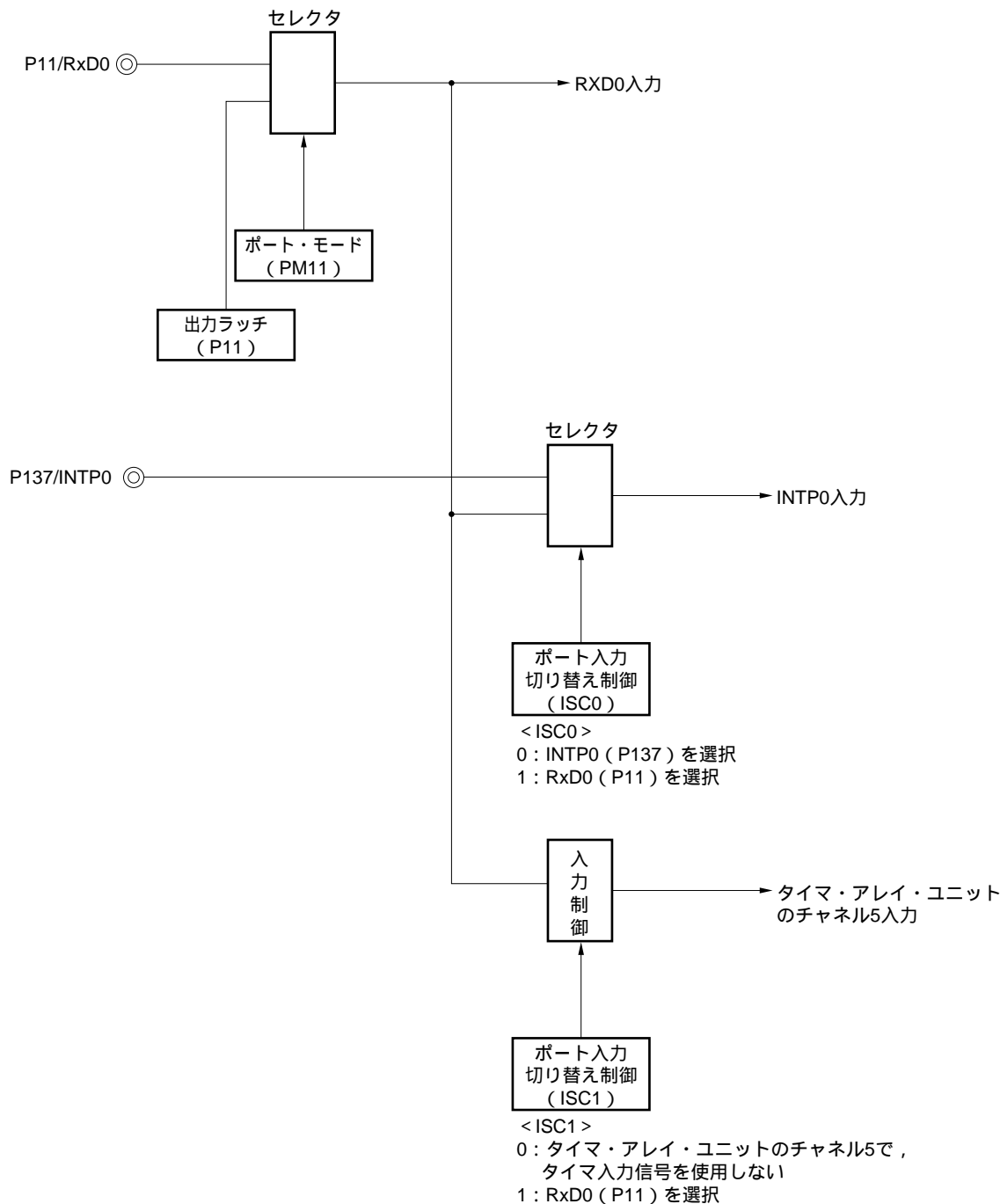
注 スリープ状態でのみ必要となります。

図12-100, 図12-101はLINの受信操作のポート構成図です。

LINのマスタから送信されるウェイクアップ信号の受信を, 外部割り込み (INTP0) のエッジ検出にて行います。また, LINのマスタから送信されるシンク・フィールドの長さをタイマ・アレイ・ユニットの外部イベント・キャプチャ動作で計測し, ポー・レート誤差を算出することができます。

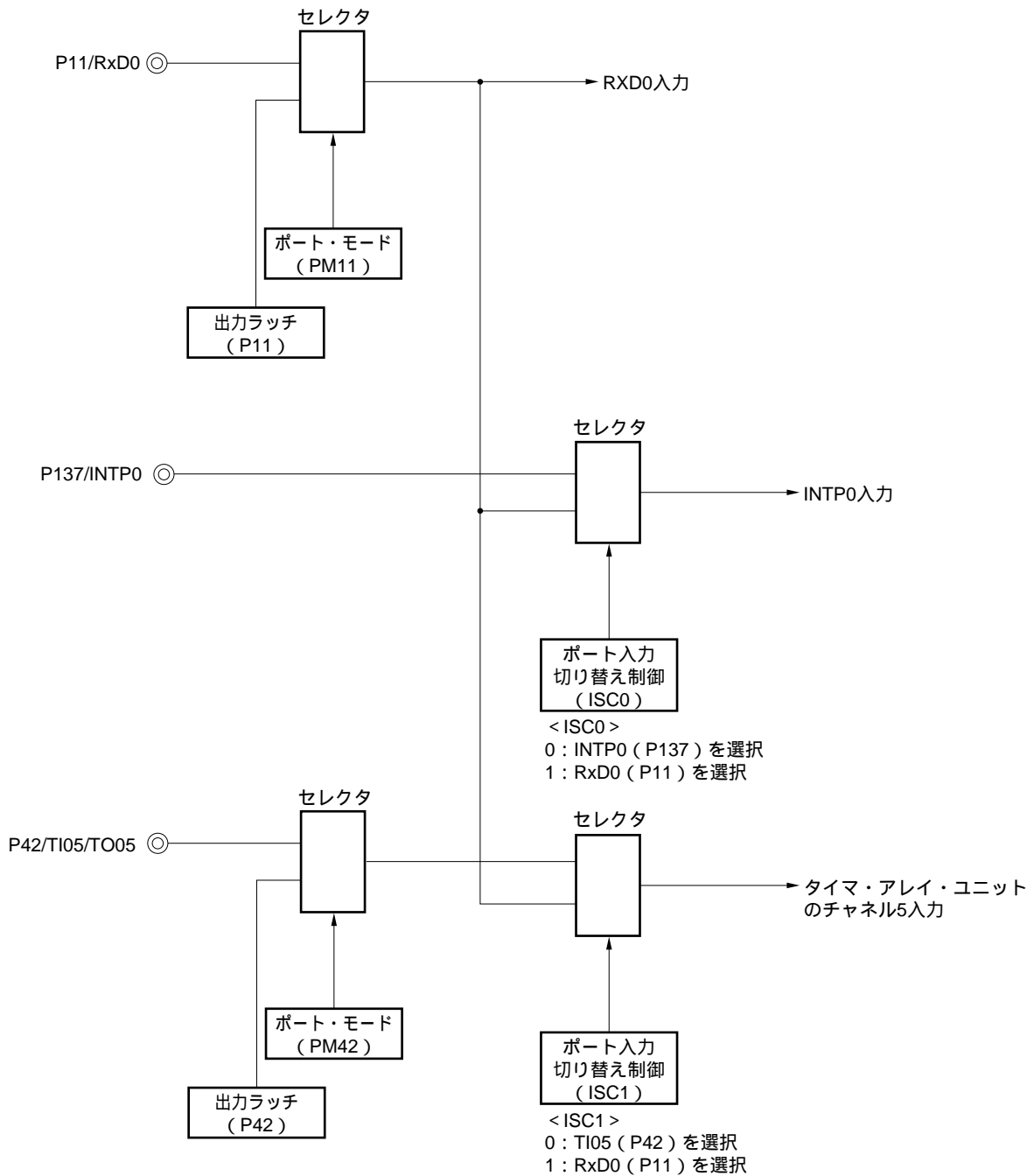
ポート入力切り替え制御 (ISC0/ISC1) により, 外部で結線をせずに, 受信用ポート入力 (RxD0) の入力ソースを外部割り込み (INTP0) およびタイマ・アレイ・ユニットへ入力することができます。

図12-100 LINの受信操作のポート構成図 (32, 44, 48ピン製品の場合)



備考 ISC0, ISC1 : 入力切り替え制御レジスタ (ISC) のビット0, 1 (図12-19参照)

図12-101 LINの受信操作のポート構成図 (52, 64ピン製品の場合)



備考 ISC0, ISC1 : 入力切り替え制御レジスタ (ISC) のビット0, 1 (図12-19参照)

LIN通信動作で使用する周辺機能をまとめると、次のようになります。

<使用する周辺機能>

- ・外部割り込み (INTP0) ; ウェイクアップ信号検出
用途 : ウェイクアップ信号のエッジを検出し、通信開始を検出
- ・タイマ・アレイ・ユニットのチャンネル5 ; ポー・レート誤差検出、ブレーク・フィールド (BF) 検出
用途 : シンク・フィールド (SF) の長さを検出し、ビット数で割ることでポー・レート誤差を検出 (RxD0
入力エッジの間隔をキャプチャ・モードで測定)
ロウ・レベル幅を測定し、ブレーク・フィールド (BF) かを判定
- ・シリアル・アレイ・ユニット (SAU) のチャンネル0, 1 (UART0)

第13章 シリアル・インタフェースIICA

13.1 シリアル・インタフェースIICAの機能

シリアル・インタフェースIICAには、次の3種類のモードがあります。

(1) 動作停止モード

シリアル転送を行わないときに使用するモードです。消費電力を低減できます。

(2) I²Cバス・モード (マルチマスタ対応)

シリアル・クロック (SCLA0) とシリアル・データ・バス (SDAA0) の2本のラインより、複数のデバイスと8ビット・データ転送を行うモードです。

I²Cバス・フォーマットに準拠しており、マスタはスレーブに対して、シリアル・データ・バス上に“スタート・コンディション”，“アドレス”，“転送方向指定”，“データ” および“ストップ・コンディション”を生成できます。スレーブは、受信したこれらの状態およびデータをハードウェアにより自動的に検出します。この機能により応用プログラムのI²Cバス制御部分を簡単にすることができます。

シリアル・インタフェースIICAでは、SCLA0端子とSDAA0端子はオープン・ドレイン出力で使用するため、シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインにはプルアップ抵抗が必要です。

(3) ウェイクアップ・モード

STOPモード状態で、マスタからの拡張コードもしくは自局アドレスを受信した場合に、割り込み要求信号 (INTIICA0) を発生しSTOPモードを解除することができます。IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) のWUP0ビットにより設定します。

図13-1に、シリアル・インタフェースIICAのブロック図を示します。

図13-1 シリアル・インタフェースIICAのブロック図

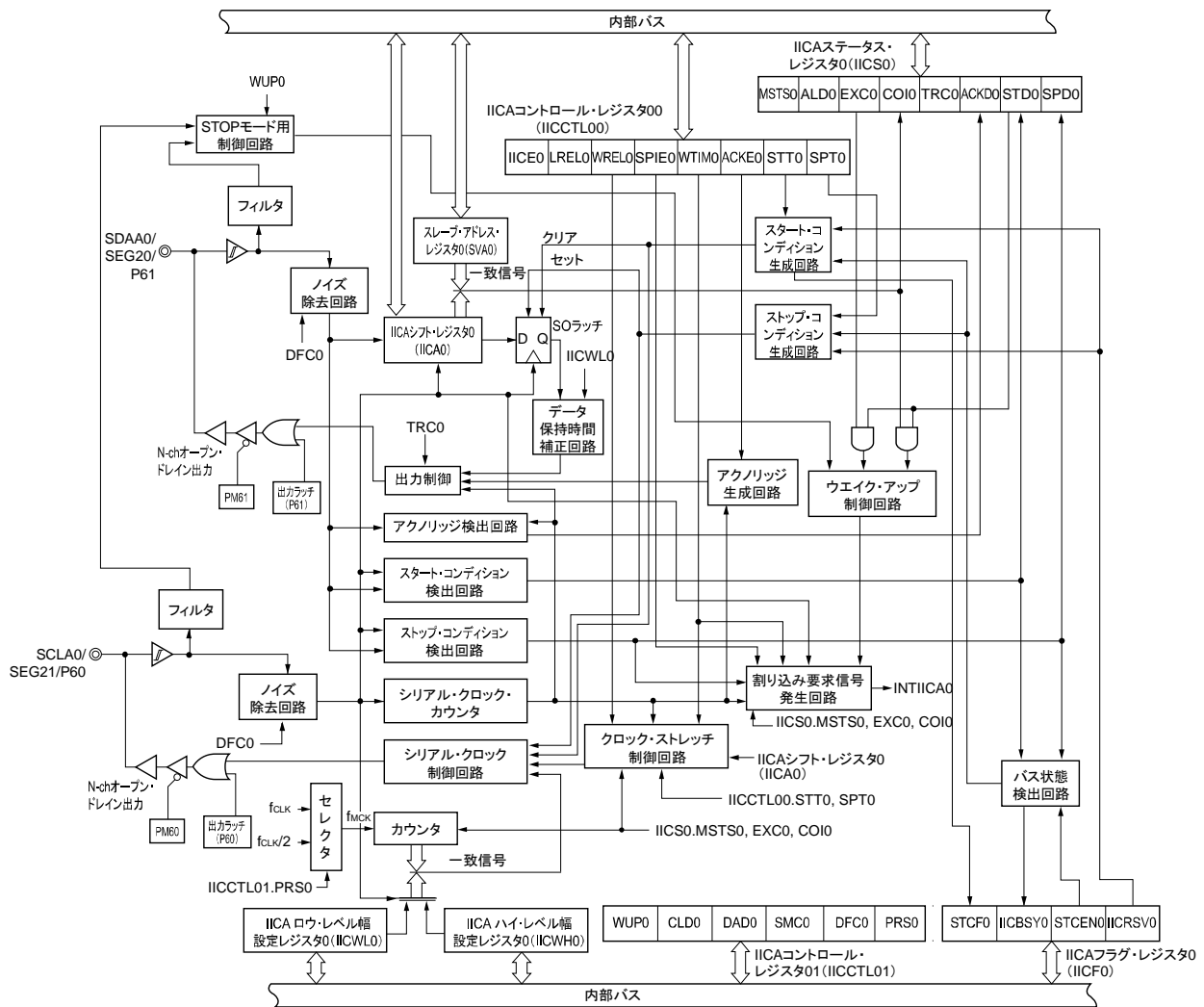
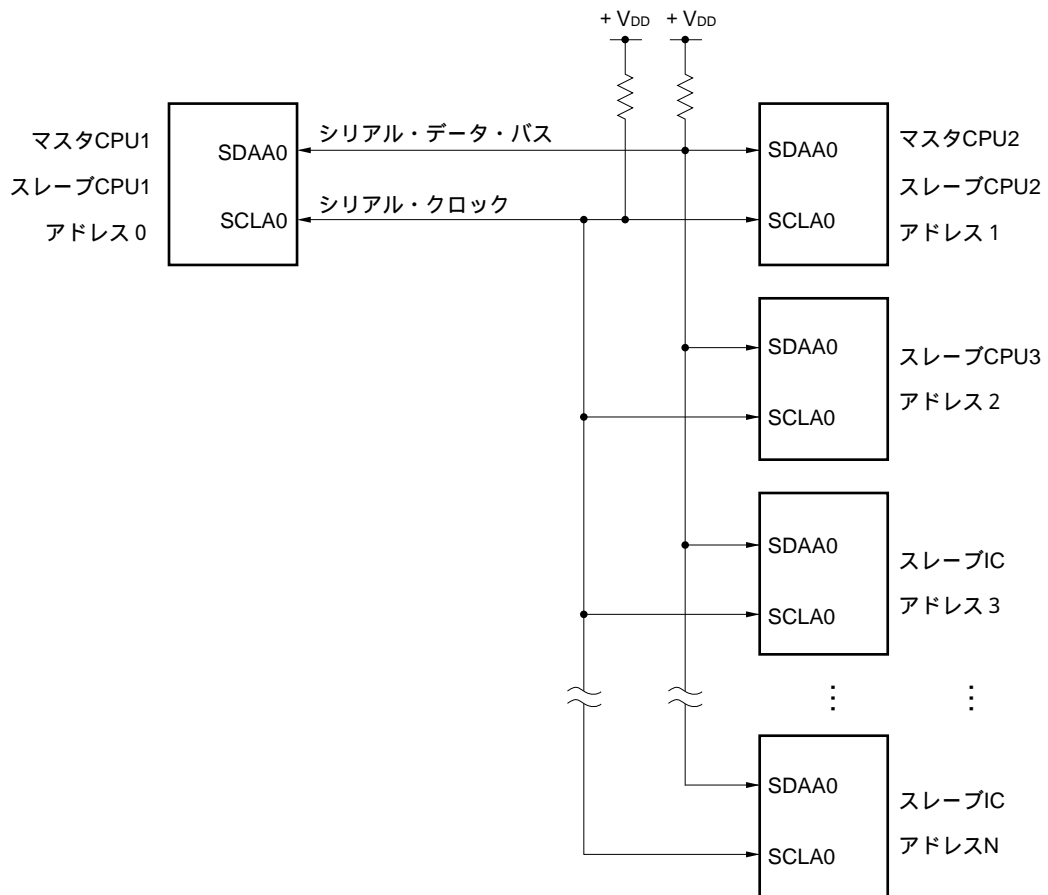


図13-2にシリアル・バス構成例を示します。

図13-2 I²Cバスによるシリアル・バス構成例



13.2 シリアル・インタフェースIICAの構成

シリアル・インタフェースIICAは、次のハードウェアで構成されています。

表13-1 シリアル・インタフェースIICAの構成

項目	構成
レジスタ	IICAシフト・レジスタ0 (IICA0) スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0)
制御レジスタ	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWL0) IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWH0) ポート・モード・レジスタ6 (PM6) ポート・レジスタ6 (P6)

(1) IICAシフト・レジスタ0 (IICA0)

IICA0レジスタは、シリアル・クロックに同期して、8ビットのシリアル・データを8ビットの平行・データに、8ビットの平行・データを8ビットのシリアル・データに変換するレジスタです。IICA0レジスタは送信および受信の両方に使用されます。

IICA0レジスタに対する書き込み/読み出しにより、実際の送受信動作が制御できます。

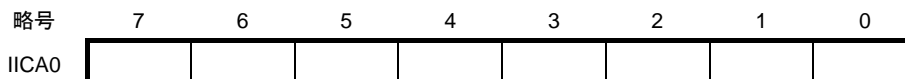
クロック・ストレッチ期間中のIICA0レジスタへの書き込みにより、クロック・ストレッチを解除し、データ転送を開始します。

IICA0レジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図13-3 IICA0シフト・レジスタ0 (IICA0) のフォーマット

アドレス : FFF50H (IICA0) リセット時 : 00H R/W



- 注意1. データ転送中はIICA0レジスタにデータを書き込まないでください。
- IICA0レジスタには、クロック・ストレッチ期間中にだけ、書き込み/読み出しをしてください。クロック・ストレッチ期間中を除く通信状態でのIICA0レジスタへのアクセスは禁止です。ただし、マスタになる場合は、通信トリガ・ビット (STT0) をセット (1) したあと、1回書き込みできます。
 - 通信予約時は、ストップ・コンディションによる割り込み検出のあとにIICA0レジスタにデータを書き込んでください。

(2) スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0)

スレーブとして使用する場合に、自局アドレスの7ビット {A6, A5, A4, A3, A2, A1, A0} を格納するレジスタです。

SVA0レジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

ただし、STD0=1 (スタート・コンディション検出) のときの書き換えは禁止です。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図13-4 スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0) のフォーマット

アドレス : F0234H (SVA0) リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
SVA0	A6	A5	A4	A3	A2	A1	A0	0 ^注

注 ビット0は0固定です。

(3) SOラッチ

SOラッチは、SDAA0端子出力レベルを保持するラッチです。

(4) ウェイク・アップ制御回路

スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0) に設定したアドレス値と受信アドレスが一致した場合、または拡張コードを受信した場合に割り込み要求 (INTIICA0) を発生させる回路です。

(5) シリアル・クロック・カウンタ

送信／受信動作時に出力する、または入力されるシリアル・クロックをカウントし、8ビット・データの送受信が行われたことを調べます。

(6) 割り込み要求信号発生回路

割り込み要求信号 (INTIICA0) の発生を制御します。

I²C割り込み要求は、次の2つのトリガで発生します。

- ・シリアル・クロックの8クロック目または9クロック目の立ち下がり (WTIM0ビットで設定)
- ・ストップ・コンディション検出による割り込み要求発生 (SPIE0ビットで設定)

備考 WTIM0ビット : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット3
 SPIE0ビット : " のビット4

(7) シリアル・クロック制御回路

マスタ・モード時に、SCLA0端子に出力するクロックをサンプリング・クロックから生成します。

(8) クロック・ストレッチ制御回路

クロック・ストレッチ・タイミングを制御します。

- (9) アクノリッジ生成回路, ストップ・コンディション検出回路, スタート・コンディション検出回路,
 アクノリッジ検出回路

各状態の生成および検出を行います。

- (10) データ保持時間補正回路

シリアル・クロックの立ち下がりに対するデータの保持時間を生成するための回路です。

- (11) スタート・コンディション生成回路

STT0ビットがセット (1) されるとスタート・コンディションを生成します。

ただし通信予約禁止状態 (IICRSV0ビット = 1) で、かつバスが解放されていない (IICBSY0ビット = 1) 場合には、スタート・コンディション要求は無視し、STCF0ビットをセット (1) します。

- (12) ストップ・コンディション生成回路

SPT0ビットがセット (1) されるとストップ・コンディションを生成します。

- (13) バス状態検出回路

スタート・コンディションおよびストップ・コンディションの検出により、バスが解放されているか、解放されていないかを検出します。

ただし動作直後はバス状態を検出できないため、STCEN0ビットにより、バス状態検出回路の初期状態を設定してください。

備考	STT0ビット	:	IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1
	SPT0ビット	:	" のビット0
	IICRSV0ビット	:	IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) のビット0
	IICBSY0ビット	:	" のビット6
	STCF0ビット	:	" のビット7
	STCEN0ビット	:	" のビット1

13.3 シリアル・インタフェースIICAを制御するレジスタ

シリアル・インタフェースIICAは、次の8種類のレジスタで制御します。

- ・周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00)
- ・IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0)
- ・IICAステータス・レジスタ0 (IICCS0)
- ・IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01)
- ・IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWLO)
- ・IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWH0)
- ・ポート・モード・レジスタ6 (PM6)
- ・ポート・レジスタ6 (P6)

13.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

シリアル・インタフェースIICA0を使用するときは、必ずビット4 (IICA0EN) を1に設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図13-5 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス : F00F0H (PER0) リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

IICA0EN	シリアル・インタフェースIICA0の入カクロック供給の制御
0	入カクロック供給停止 <ul style="list-style-type: none"> ・シリアル・インタフェースIICA0で使用するSFRへのライト不可 ・シリアル・インタフェースIICA0はリセット状態
1	入カクロック供給許可 <ul style="list-style-type: none"> ・シリアル・インタフェースIICA0で使用するSFRへのリード／ライト可

注意1. シリアル・インタフェースIICAの設定をする際には、必ず最初にIICAnEN = 1の状態です。下記のレジスタの設定を行ってください。IICAnEN = 0の場合は、シリアル・インタフェースIICAの制御レジスタは初期値となり、書き込みは無視されます(ポート・モード・レジスタ6 (PM6)、ポート・レジスタ6 (P6) は除く)。

- ・IICAコントロール・レジスタn0 (IICCTLn0)
- ・IICAフラグ・レジスタn (IICFn)
- ・IICAステータス・レジスタn (IICSn)
- ・IICAコントロール・レジスタn1 (IICCTLn1)
- ・IICAロウ・レベル幅設定レジスタn (IICWLn)
- ・IICAハイ・レベル幅設定レジスタn (IICWHn)
- ・IICAシフト・レジスタn (IICAn)
- ・スレーブ・アドレス・レジスタn (SVAn)

2. ビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

13.3.2 IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00)

I²Cの動作許可／停止, クロック・ストレッチ・タイミングの設定, その他I²Cの動作を設定するレジスタです。

IICCTL00レジスタは, 1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。ただし, SPIE0, WTIM0, ACKE0ビットは, IICE0 = 0のとき, またはクロック・ストレッチ期間中に設定してください。またIICE0ビットを"0"から"1"に設定するときに, これらのビットを同時に設定できます。

リセット信号の発生により, 00HIになります。

図13-6 IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のフォーマット (1/4)

アドレス : F0230H (IICCTL00) リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IICCTL00	IICE0	LRELO	WRELO	SPIE0	WTIMO	ACKE0	STT0	SPT0

IICE0	I ² Cの動作許可
0	動作停止。IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) をリセット ^{注1} 。内部動作も停止。
1	動作許可。
このビットのセット (1) は、必ずSCLA0, SDAA0ラインがハイ・レベルの状態で行ってください。	
クリアされる条件 (IICE0 = 0)	セットされる条件 (IICE0 = 1)
・ 命令によるクリア ・ リセット時	・ 命令によるセット

LRELO ^{注2,3}	通信退避
0	通常動作。
1	現在行っている通信から退避し、待機状態。実行後自動的にクリア (0) される。 自局に関係ない拡張コードを受信したときなどに使用する。 SCLA0, SDAA0ラインはハイ・インピーダンス状態になる。 IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) , IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のうち、次のフラグがクリア (0) される。 ・ STT0 ・ SPT0 ・ MST0 ・ EXC0 ・ COI0 ・ TRC0 ・ ACKD0 ・ STD0
次の通信参加条件が満たされるまでは、通信から退避した待機状態となる。 ・ ストップ・コンディション検出後、マスタとしての起動 ・ スタート・コンディション後のアドレス一致または拡張コード受信	
クリアされる条件 (LRELO = 0)	セットされる条件 (LRELO = 1)
・ 実行後、自動的にクリア ・ リセット時	・ 命令によるセット

WRELO ^{注2,3}	クロック・ストレッチ解除
0	クロック・ストレッチを解除しない。
1	クロック・ストレッチを解除する。クロック・ストレッチ解除後、自動的にクリアされる。
送信状態 (TRC0 = 1) で、9クロック目のクロック・ストレッチ期間中にWRELOビットをセット (クロック・ストレッチを解除) した場合、SDAA0ラインをハイ・インピーダンス (TRC0 = 0) にします。	
クリアされる条件 (WRELO = 0)	セットされる条件 (WRELO = 1)
・ 実行後、自動的にクリア ・ リセット時	・ 命令によるセット

- 注1. リセットされるのは、IICAステータス・レジスタ0 (IICA0) , IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) の STCF0, IICBSY0ビット, IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) レジスタのCLD0, DAD0ビットです。
2. IICE0 = 0の状態では、このビットの信号は無効になります。
3. LRELO, WRELOビットの読み出し値は常に0になります。

注意 SCLA0ラインがハイ・レベル, SDAA0ラインがロウ・レベルの状態かつ、デジタル・フィルタ・オン (IICCTL01レジスタのDFC0 = 1) のときにI²Cを動作許可 (IICE0 = 1) した場合、直後にスタート・コンディションを検出してしまいます。この場合は、I²Cを動作許可 (IICE0 = 1) したあと、連続して1ビット・メモリ操作命令により、LRELOビットをセット (1) してください。

図13-6 IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のフォーマット (2/4)

SPIE0 ^{注1}	ストップ・コンディション検出による割り込み要求発生の許可/禁止	
0	禁止	
1	許可	
IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) のWUP0 = 1の場合には、SPIE0 = 1にしてもストップ・コンディション割り込みは発生しません。		
クリアされる条件 (SPIE0 = 0)		セットされる条件 (SPIE0 = 1)
・ 命令によるクリア ・ リセット時		・ 命令によるセット

WTIMO ^{注1}	クロック・ストレッチおよび割り込み要求発生の制御	
0	8クロック目の立ち下がりでの割り込み要求発生。 マスタの場合 : 8クロック出力後、クロック出力をロウ・レベルにしたままクロック・ストレッチスレーブの場合 : 8クロック入力後、クロックをロウ・レベルにしてマスタをクロック・ストレッチ	
1	9クロック目の立ち下がりでの割り込み要求発生。 マスタの場合 : 9クロック出力後、クロック出力をロウ・レベルにしたままクロック・ストレッチスレーブの場合 : 9クロック入力後、クロックをロウ・レベルにしてマスタをクロック・ストレッチ	
アドレス転送中はこのビットの設定にかかわらず、9クロック目の立ち下がりでの割り込みが発生します。アドレス転送終了後このビットの設定が有効になります。またマスタ時、アドレス転送中は9クロックの立ち下がりにクロック・ストレッチが入ります。自局アドレスを受信したスレーブは、アクノリッジ (ACK) 発生後の9クロック目の立ち下がりでのクロック・ストレッチに入ります。ただし拡張コードを受信したスレーブは、8クロック目の立ち下がりでのクロック・ストレッチに入ります。		
クリアされる条件 (WTIMO = 0)		セットされる条件 (WTIMO = 1)
・ 命令によるクリア ・ リセット時		・ 命令によるセット

ACKE0 ^{注1,2}	アクノリッジ制御	
0	アクノリッジを禁止。	
1	アクノリッジを許可。9クロック期間中にSDAA0ラインをロウ・レベルにする。	
クリアされる条件 (ACKE0 = 0)		セットされる条件 (ACKE0 = 1)
・ 命令によるクリア ・ リセット時		・ 命令によるセット

注1. IICE0 = 0の状態では、このビットの信号は無効になります。その期間にビットの設定を行ってください。

2. アドレス転送中で、かつ拡張コードでない場合、設定値は無効です。

スレーブかつアドレスが一致した場合は、設定値に関係なくアクノリッジを生成します。

図13-6 IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のフォーマット (3/4)

STT0 ^{注1,2}	スタート・コンディション・トリガ
0	スタート・コンディションを生成しない。
1	<p>バスが解放されているとき（待機状態，IICBSY0が0のとき）： セット（1）すると，スタート・コンディションを生成する（マスタとしての起動）。</p> <p>第三者が通信中のとき： ・通信予約機能許可の場合（IICRSV0 = 0） スタート・コンディション予約フラグとして機能する。セット（1）すると，バスが解放されたあと自動的にスタート・コンディションを生成する。 ・通信予約機能禁止の場合（IICRSV0 = 1） セット（1）してもSTT0ビットはクリアされ，STT0クリア・フラグ（STCF0）がセット（1）される。 スタート・コンディションは生成しない。</p> <p>クロック・ストレッチ状態（マスタ時）： クロック・ストレッチを解除してリスタート・コンディションを生成する。</p>
<p>セット・タイミングに関する注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。ACKE0 = 0に設定し，受信の最後であることをスレーブに伝えたとあとのクロック・ストレッチ期間中にだけセット（1）可能です。 ・マスタ送信の場合：アクノリッジ期間中は，正常にスタート・コンディションが生成されないことがあります。9クロック目出力後のクロック・ストレッチ期間中にセット（1）してください。 ・ストップ・コンディション・トリガ（SPT0）と同時セット（1）することは禁止です。 ・STT0ビットをセット（1）後，クリア条件になる前に再度セット（1）することは禁止です。 	
クリアされる条件（STT0 = 0）	セットされる条件（STT0 = 1）
<ul style="list-style-type: none"> ・通信予約禁止状態でのSTT0ビットのセット（1） ・アービトレーションに負けたとき ・マスタでのスタート・コンディション生成 ・LREL0 = 1（通信退避）によるクリア ・IICE0 = 0（動作停止）のとき ・リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるセット

注1. IICE0 = 0の状態では，このビットの信号は無効になります。

2. STTnビットの読み出し値は常に0になります。

備考1. ビット1（STT0）は，データ設定後に読み出すと0になっています。

2. IICRSV0 : IICフラグ・レジスタ0（IICF0）のビット0
 STCF0 : " のビット7

図13-6 IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のフォーマット (4/4)

SPT0 ^注	ストップ・コンディション・トリガ	
0	ストップ・コンディションを生成しない。	
1	ストップ・コンディションを生成する（マスタとしての転送終了）。	
セット・タイミングに関する注意 ・マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。 ACKE0 = 0に設定し、受信の最後であることをスレーブに伝えたあとのクロック・ストレッチ期間中にだけセット（1）可能です。 ・マスタ送信の場合：アクノリッジ期間中は、正常にストップ・コンディションが生成されないことがあります。9クロック出力後のクロック・ストレッチ期間中にセットしてください。 ・スタート・コンディション・トリガ（STT0）と同時にセット（1）することは禁止です。 ・SPT0ビットのセット（1）は、マスタのときのみ行ってください。 ・WTIM0 = 0設定時に、8クロック出力後のクロック・ストレッチ期間中にSPT0ビットをセット（1）すると、クロック・ストレッチ解除後、9クロック目のハイ・レベル期間中にストップ・コンディションを生成するので注意してください。8クロック出力後のクロック・ストレッチ期間中にWTIM0 = 0→1に設定し、9クロック目出力後のクロック・ストレッチ期間中にSPT0ビットをセット（1）してください。 ・SPT0ビットをセット（1）後、クリア条件になる前に、再度セット（1）することは禁止です。		
クリアされる条件（SPT0 = 0）		セットされる条件（SPT0 = 1）
<ul style="list-style-type: none"> ・アービトレーションに負けたとき ・ストップ・コンディション検出後、自動的にクリア ・LREL0 = 1（通信退避）によるクリア ・IICE0 = 0（動作停止）のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるセット

注 SPTnビットの読み出し値は、常に0になります。

注意 IICAステータス・レジスタ0(IICS0)のビット3(TRC0) = 1(送信状態)のとき、9クロック目にIICCTL00レジスタのビット5(WREL0)をセット（1）してクロック・ストレッチ解除すると、TRC0ビットをクリア（受信状態）してSDAA0ラインをハイ・インピーダンスにします。TRC0 = 1（送信状態）におけるクロック・ストレッチ解除は、IICAシフト・レジスタ0への書き込みで行ってください。

備考 ビット0（SPT0）は、データ設定後に読み出すと0になっています。

13.3.3 IICAステータス・レジスタ0 (IICS0)

I²Cのステータスを表すレジスタです。

IICS0レジスタは、STT0 = 1およびクロック・ストレッチ期間中のみ、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で読み出します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

注意 STOPモード状態時のアドレス一致ウエイク・アップ機能動作許可 (WUP0=1) 状態でのIICS0レジスタの読み出しは禁止です。WUP0 = 1の状態から、INTIICA0割り込み要求と関係なくWUP0ビットを1→0 (ウエイク・アップ動作停止) に変更した場合には、次のスタート・コンディション/ストップ・コンディション検出までは状態が反映されません。そのため、ウエイク・アップ機能を使用する場合には必ずストップ・コンディション検出による割り込みを許可 (SPIE0 = 1) して割り込み検出後にIICS0レジスタを読み出してください。

備考 STT0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1

WUP0 : IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) のビット7

図13-7 IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のフォーマット (1/3)

アドレス : FFF51H (IICS0) リセット時 : 00H R

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IICS0	MSTS0	ALD0	EXC0	COI0	TRC0	ACKD0	STD0	SPD0

MSTS0	マスタ状態確認フラグ	
0	スレーブ状態または通信待機状態。	
1	マスタ通信状態。	
クリアされる条件 (MSTS0 = 0)		セットされる条件 (MSTS0 = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時 ・ALD0 = 1 (アービトレーション負け) のとき ・LREL0 = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション生成時

ALD0	アービトレーション負け検出	
0	アービトレーションが起こっていない状態。またはアービトレーションに勝った状態。	
1	アービトレーションに負けた状態。MSTS0ビットがクリアされる。	
クリアされる条件 (ALD0 = 0)		セットされる条件 (ALD0 = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・IICS0レジスタ読み出し後、自動的にクリア^注 ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・アービトレーションに負けたとき

注 IICS0レジスタのほかのビットに対し1ビット・メモリ操作命令を実行した場合もクリアされます。したがって、ALD0ビット使用時は、ほかのビットよりも先にデータをリードしてください。

備考 LREL0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット6

IICE0 : " のビット7

図13-7 IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のフォーマット (2/3)

EXC0	拡張コード受信検出	
0	拡張コードを受信していない。	
1	拡張コードを受信している。	
クリアされる条件 (EXC0 = 0)		セットされる条件 (EXC0 = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時 ・ストップ・コンディション検出時 ・LREL0 = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・受信したアドレス・データの上位4ビットが“0000”または“1111”のとき (8クロック目の立ち上がりでセット)

COI0	アドレス一致検出	
0	アドレスが一致していない。	
1	アドレスが一致している。	
クリアされる条件 (COI0 = 0)		セットされる条件 (COI0 = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時 ・ストップ・コンディション検出時 ・LREL0 = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・受信アドレスが自局アドレス (スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0)) と一致したとき (8クロック目の立ち上がりでセット)

TRC0	送信/受信状態検出	
0	受信状態 (送信状態以外)。SDAA0ラインをハイ・インピーダンスにする。	
1	送信状態。SDAA0ラインにSO0ラッチの値が出力できるようにする (1バイト目の9クロック目の立ち下がり以降有効)。	
クリアされる条件 (TRC0 = 0)		セットされる条件 (TRC0 = 1)
<p><マスタ、スレーブ共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時 ・LREL0 = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・WREL0 = 1 (クロック・ストレッチ解除) によるクリア^注 ・ALD0 = 0→1 (アービトラクション負け) のとき ・リセット時 ・通信不参加の場合 (MSTS0, EXC0, COI0 = 0) <p><マスタの場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1バイト目のLSB (転送方向指定ビット) に“1”を出力したとき <p><スレーブの場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時 ・1バイト目のLSB (転送方向指定ビット) に“0”を入力したとき 		<p><マスタの場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション生成時 ・1バイト目 (アドレス転送時) のLSB (転送方向指定ビット) に“0” (マスタ送信) を出力したとき <p><スレーブの場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスタからの1バイト目 (アドレス転送時) のLSB (転送方向指定ビット) に“1” (スレーブ送信) が入力されたとき

注 IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット3 (TRC0) = 1 (送信状態) のとき、9クロック目にIICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット5 (WREL0) をセット (1) してクロック・ストレッチを解除すると、TRC0ビットをクリア (受信状態) してSDAA0ラインをハイ・インピーダンスにします。TRC0 = 1 (送信状態) におけるクロック・ストレッチ解除は、IICAシフト・レジスタ0への書き込みで行ってください。

備考 LREL0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット6
IICE0 : " のビット7

図13-7 IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のフォーマット (3/3)

ACKD0	アクノリッジ (ACK) 検出	
0	アクノリッジを検出していない。	
1	アクノリッジを検出している。	
	クリアされる条件 (ACKD0 = 0)	セットされる条件 (ACKD0 = 1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時 ・次のバイトの1クロック目の立ち上がり時 ・LREL0 = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCLA0ラインの9クロック目の立ち上がり時にSDAA0ラインがロウ・レベルであったとき

STD0	スタート・コンディション検出	
0	スタート・コンディションを検出していない。	
1	スタート・コンディションを検出している。アドレス転送期間であることを示す。	
	クリアされる条件 (STD0 = 0)	セットされる条件 (STD0 = 1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時 ・アドレス転送後の次のバイトの1クロック目の立ち上がり時 ・LREL0 = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時

SPD0	ストップ・コンディション検出	
0	ストップ・コンディションを検出していない。	
1	ストップ・コンディションを検出している。マスタでの通信が終了し、バスが解放されている。	
	クリアされる条件 (SPD0 = 0)	セットされる条件 (SPD0 = 1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・このビットのセット後で、スタート・コンディション検出後の、アドレス転送バイトの1クロック目の立ち上がり時 ・WUP0 = 1→0のとき ・IICE0 = 1→0 (動作停止) のとき ・リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時

備考 LREL0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット6

IICE0 : " のビット7

13.3.4 IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0)

I²Cの動作モードの設定と、I²Cバスの状態を表すレジスタです。

IICF0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。ただし、STT0クリア・フラグ (STCF0)、I²Cバス状態フラグ (IICBSY0) は読み出しのみ可能です。

IICRSV0ビットにより、通信予約機能の禁止/許可を設定します。

またSTCEN0ビットにより、IICBSY0ビットの初期値を設定します。

IICRSV0、STCEN0ビットはI²Cが動作禁止 (IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット7 (IICE0) = 0) のときのみ書き込み可能です。動作許可後、IICF0レジスタは読み出しのみ可能となります。

リセット信号の発生により、00HIになります。

図13-8 IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) のフォーマット

アドレス : FFF52H (IICF0) リセット時 : 00H R/W^注

略号 7 6 5 4 3 2 1 0

IICF0	STCF0	IICBSY0	0	0	0	0	STCEN0	IICRSV0
-------	-------	---------	---	---	---	---	--------	---------

STCF0	STT0クリア・フラグ
0	スタート・コンディション発行。
1	スタート・コンディション発行できず、STT0フラグ・クリア。
クリアされる条件 (STCF0 = 0)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ STT0 = 1によるクリア ・ IICE0 = 0 (動作停止) のとき ・ リセット時 	
セットされる条件 (STCF0 = 1)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信予約禁止 (IICRSV0 = 1) 設定時にスタート・コンディション発行できず、STT0ビットがクリア (0) されたとき 	

IICBSY0	I ² Cバス状態フラグ
0	バス解放状態 (STCEN0 = 1時の通信初期状態)。
1	バス通信状態 (STCEN0 = 0時の通信初期状態)。
クリアされる条件 (IICBSY0 = 0)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ストップ・コンディション検出時 ・ IICE0 = 0 (動作停止) のとき ・ リセット時 	
セットされる条件 (IICBSY0 = 1)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ スタート・コンディション検出時 ・ STCEN0 = 0時のIICE0ビットのセット 	

STCEN0	初期スタート許可トリガ
0	動作許可 (IICE0 = 1) 後、ストップ・コンディションの検出により、スタート・コンディションを生成許可。
1	動作許可 (IICE0 = 1) 後、ストップ・コンディションを検出せずに、スタート・コンディションを生成許可。
クリアされる条件 (STCEN0 = 0)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 命令によるクリア ・ スタート・コンディション検出時 ・ リセット時 	
セットされる条件 (STCEN0 = 1)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 命令によるセット 	

IICRSV0	通信予約機能禁止ビット
0	通信予約許可。
1	通信予約禁止。
クリアされる条件 (IICRSV0 = 0)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 命令によるクリア ・ リセット時 	
セットされる条件 (IICRSV0 = 1)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 命令によるセット 	

注 ビット6, 7はRead onlyです。

- 注意 1. STCEN0ビットへの書き込みは動作停止 (IICE0 = 0) 時のみ行ってください。
2. STCEN0 = 1とした場合、実際のバス状態にかかわらずバス解放状態 (IICBSY0 = 0) と認識しますので、1回目のスタート・コンディションを発行 (STT0 = 1) する場合は他の通信を破壊しないように第三者の通信が行われていないことを確認する必要があります。
3. IICRSV0への書き込みは動作停止 (IICE0 = 0) 時のみ行ってください。

備考 STT0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1

IICE0 : " のビット7

13.3.5 IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01)

I²Cの動作モードの設定やSCLA0, SDAA0端子状態を検出するためのレジスタです。

IICCTL01レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。ただし、CLD0, DAD0ビットは読み出しのみ可能です。

IICCTL01レジスタは、WUP0ビットを除きI²Cが動作禁止 (IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット7 (IICE0) = 0) のときに設定してください。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図13-9 IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) のフォーマット (1/2)

アドレス : F0231H (IICCTL01) リセット時 : 00H R/W^{注1}

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IICCTL01	WUP0	0	CLD0	DAD0	SMC0	DFC0	0	PRS0

WUP0	アドレス一致ウエイク・アップの制御	
0	STOPモード状態時のアドレス一致ウエイク・アップ機能動作停止	
1	STOPモード状態時のアドレス一致ウエイク・アップ機能動作許可	
<p>WUP0 = 1でSTOPモードに移行する場合は、WUP0ビットをセット (1) してf_{MCK}の3クロック以上経過後にSTOP命令を実行してください (図13-22 WUP0 = 1を設定する場合のフロー参照)。</p> <p>アドレス一致、または拡張コード受信後はWUP0ビットをクリア (0) してください。WUP0ビットをクリア (0) することで、その後の通信に参加する事ができます (クロック・ストレッチ解除および送信データ書き込みは、WUP0ビットをクリア (0) したあとに行う必要があります)。</p> <p>WUP0 = 1の状態における、アドレス一致および拡張コード受信時の割り込みタイミングは、WUP0 = 0の場合の割り込みタイミングと同じです (クロックによるサンプリング誤差分の遅延差は生じます)。また、WUP0 = 1の場合には、SPIE0 = 1にしてもストップ・コンディション割り込みは発生しません。</p>		
クリアされる条件 (WUP0 = 0)		セットされる条件 (WUP0 = 1)
・命令によるクリア (アドレス一致もしくは拡張コード受信後)		・命令によるセット (MSTS0, EXC0, COI0 = 0であり、STD0 = 0 (通信に不参加である事) のとき) ^{注2}

注1. ビット4, 5はRead Onlyです。

2. 次に示す期間に、IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) の状態を確認しセットする必要があります。

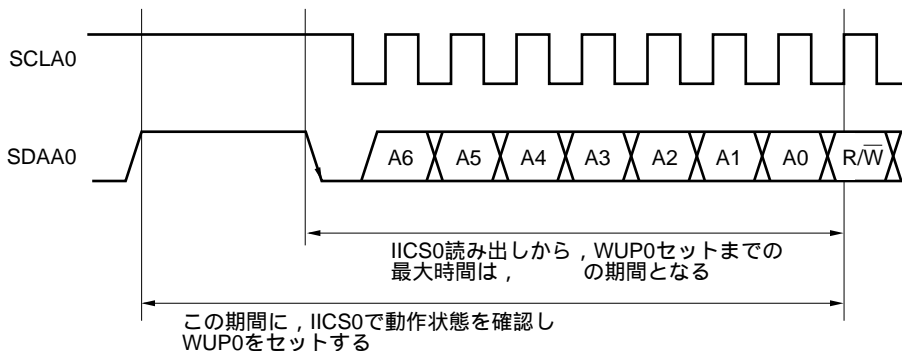


図13-9 IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) のフォーマット (2/2)

CLD0	SCLA0端子のレベル検出 (IICE0 = 1のときのみ有効)	
0	SCLA0端子がロウ・レベルであることを検出	
1	SCLA0端子がハイ・レベルであることを検出	
クリアされる条件 (CLD0 = 0)		セットされる条件 (CLD0 = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ SCLA0端子がロウ・レベルのとき ・ IICE0 = 0 (動作停止) のとき ・ リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・ SCLA0端子がハイ・レベルのとき

DAD0	SDAA0端子のレベル検出 (IICE0 = 1のときのみ有効)	
0	SDAA0端子がロウ・レベルであることを検出	
1	SDAA0端子がハイ・レベルであることを検出	
クリアされる条件 (DAD0 = 0)		セットされる条件 (DAD0 = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ SDAA0端子がロウ・レベルのとき ・ IICE0 = 0 (動作停止) のとき ・ リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・ SDAA0端子がハイ・レベルのとき

SMC0	動作モードの切り替え	
0	標準モードで動作 (最大転送レート : 100 kbps)	
1	ファースト・モード (最大転送レート : 400 kbps) またはファースト・モード・プラス (最大転送レート : 1 Mbps) で動作	

DFC0	デジタル・フィルタの動作の制御	
0	デジタル・フィルタ・オフ	
1	デジタル・フィルタ・オン	
デジタル・フィルタは、ファースト・モードおよびファースト・モード・プラス時に使用してください。 デジタル・フィルタは、ノイズ除去のために使用します。 DFCnビットのセット (1) / クリア (0) により、転送クロックが変化することはありません。		

PRS0	IICA動作クロックの (f_{mck}) の制御	
0	f_{CLK} を選択 ($1\text{ MHz} \leq f_{CLK} \leq 20\text{ MHz}$)	
1	$f_{CLK}/2$ を選択 ($20\text{ MHz} < f_{CLK}$)	

注意 シリアル・インタフェースIICAの動作クロックの最高動作周波数は20 MHz (Max.) です。 f_{CLK} が20 MHzを越える場合は、PRS0ビットを1にすることで、動作クロックに $f_{CLK}/2$ を選択してください。

備考 IICE0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット7

13.3.6 IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWLO)

シリアル・インタフェースIICAが、出力するSCLA0端子信号のロウ・レベル幅 (t_{LOW}) とデータ・ホールド時間 (t_{HD:DAT}) を設定するレジスタです。データ・ホールド時間は、IICWLの上位6ビットで決定されます。

IICWLOレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

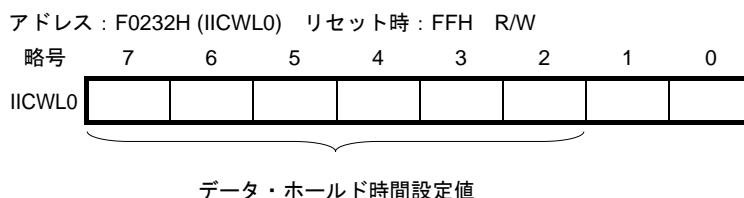
IICWLOレジスタは、I²Cが動作禁止 (IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット7 (IICE0) = 0) のときに設定してください。

リセット信号の発生により、FFHになります。

IICWLOの設定方法については、13.4.2 IICWLO, IICWH0レジスタによる転送クロック設定方法を参照してください。

また、データ・ホールド時間はIICWLOで設定した時間の1/4になります。

図13-10 IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWLO) のフォーマット



13.3.7 IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWH0)

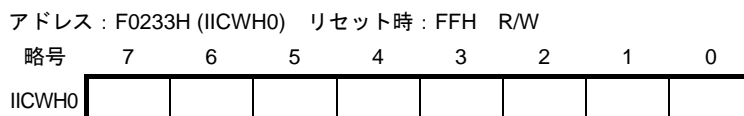
シリアル・インタフェースIICAが、出力するSCLA0端子信号のハイ・レベル幅を設定するレジスタです。

IICWH0レジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

IICWH0レジスタは、I²Cが動作禁止 (IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット7 (IICE0) = 0) のときに設定してください。

リセット信号の発生により、FFHになります。

図13-11 IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWH0) のフォーマット



備考 マスタ側の転送クロックの設定方法は13.4.2.(1)を、スレーブ側のIICWLO, IICWH0レジスタの設定方法は、13.4.2.(2)を参照してください。

13.3.8 ポート・モード・レジスタ6 (PM6)

ポート6の入力/出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

P60/SCLA0/SEG21端子をクロック入出力, P61/SDAA0/SEG20端子をシリアル・データ入出力として使用する
とき, PM60, PM61およびP60, P61の出力ラッチに0を設定してください。

IICE0 (IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット7) が0の場合, P60/SCLA0/SEG21端子および
P61/SDAA0/SEG20端子はロウ・レベル出力 (固定) となるため, 出力モードへの切り替えは, IICE0ビットに
1を設定してから, 行ってください。

PM6レジスタは, 1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により, FFHになります。

図13-12 ポート・モード・レジスタ6 (PM6) のフォーマット

アドレス : FFF26H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM6	1	1	1	1	1	1	PM61	PM60

PM6n	P6n端子の入出力モードの選択 (n = 0, 1)
0	出力モード (出力バッファ・オン)
1	入力モード (出力バッファ・オフ)

13.4 I²Cバス・モードの機能

13.4.1 端子構成

シリアル・クロック端子（SCLA0）と、シリアル・データ・バス端子（SDAA0）の構成は、次のようになっています。

(1) SCLA0……シリアル・クロックを入出力するための端子。

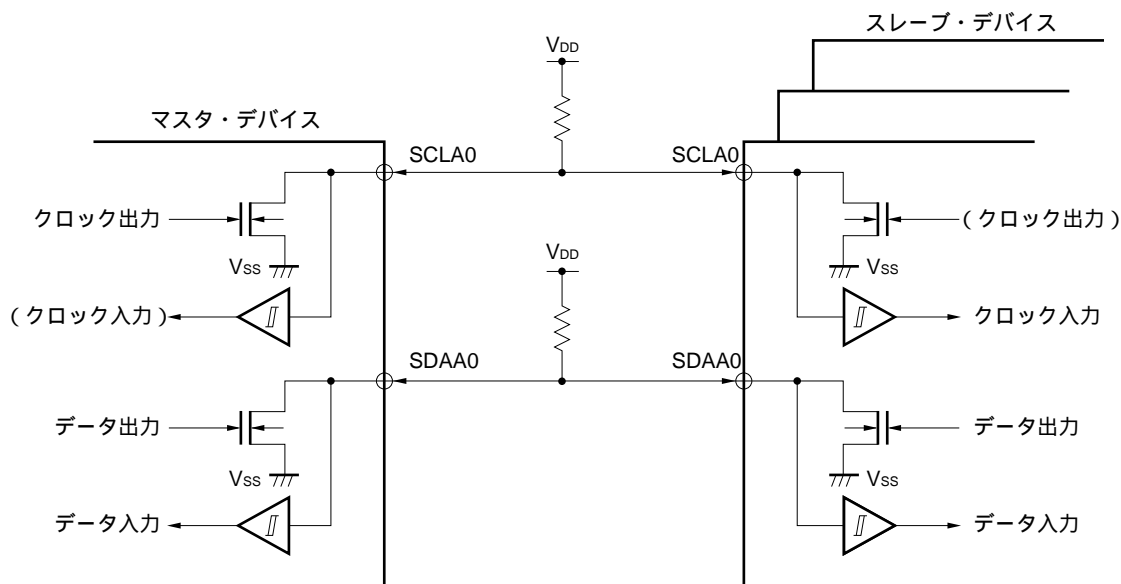
マスタ、スレーブともに、出力はN-chオープン・ドレイン。入力はシュミット入力。

(2) SDAA0……シリアル・データの入出力兼用端子。

マスタ、スレーブともに、出力はN-chオープン・ドレイン。入力はシュミット入力。

シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインは、出力がN-chオープン・ドレインのため、外部にプルアップ抵抗が必要となります。

図13-13 端子構成図



13.4.2 IICWL0, IICWH0レジスタによる転送クロック設定方法

(1) マスタ側の転送クロック設定方法

$$\text{転送クロック} = \frac{f_{\text{MCK}}}{\text{IICWL} + \text{IICWH} + f_{\text{MCK}} (t_{\text{R}} + t_{\text{F}})}$$

このとき、最適なIICWL0レジスタとIICWH0レジスタの設定値は次のようになります。

(設定値はすべて小数点以下切り上げ)

・ファースト・モード時

$$\text{IICWL0} = \frac{0.52}{\text{転送クロック}} \times f_{\text{MCK}}$$

$$\text{IICWH0} = \left(\frac{0.48}{\text{転送クロック}} - t_{\text{R}} - t_{\text{F}} \right) \times f_{\text{MCK}}$$

・標準モード時

$$\text{IICWL0} = \frac{0.47}{\text{転送クロック}} \times f_{\text{MCK}}$$

$$\text{IICWH0} = \left(\frac{0.53}{\text{転送クロック}} - t_{\text{R}} - t_{\text{F}} \right) \times f_{\text{MCK}}$$

・ファースト・モード・プラス時

$$\text{IICWL0} = \frac{0.50}{\text{転送クロック}} \times f_{\text{MCK}}$$

$$\text{IICWH0} = \left(\frac{0.50}{\text{転送クロック}} - t_{\text{R}} - t_{\text{F}} \right) \times f_{\text{MCK}}$$

(2) スレーブ側のIICWL0, IICWH0レジスタ設定方法

(設定値はすべて小数点以下切り上げ)

・ファースト・モード時

$$\text{IICWL0} = 1.3 \mu\text{s} \times f_{\text{MCK}}$$

$$\text{IICWH0} = (1.2 \mu\text{s} - t_{\text{R}} - t_{\text{F}}) \times f_{\text{MCK}}$$

・標準モード時

$$\text{IICWL0} = 4.7 \mu\text{s} \times f_{\text{MCK}}$$

$$\text{IICWH0} = (5.3 \mu\text{s} - t_{\text{R}} - t_{\text{F}}) \times f_{\text{MCK}}$$

・ファースト・モード・プラス時

$$\text{IICWL0} = 0.50 \mu\text{s} \times f_{\text{MCK}}$$

$$\text{IICWH0} = (0.50 \mu\text{s} - t_{\text{R}} - t_{\text{F}}) \times f_{\text{MCK}}$$

注意1. IICA動作クロック (f_{MCK}) の最高動作周波数は20 MHz (Max.) です。

f_{CLK} が20 MHzを越える場合のみ、IICAコントロール・レジスタn1 (IICCTLn1) のビット0 (PRSn) に"1"を設定してください。

2. 転送クロックを設定する場合は、 f_{CLK} の最低動作周波数に注意してください。シリアル・インタフェースIICAはモードによって f_{CLK} の最低動作周波数が決められています。

ファースト・モード時 : $f_{\text{CLK}} = 3.5 \text{ MHz (Min.)}$

ファースト・モード・プラス時 : $f_{\text{CLK}} = 10 \text{ MHz (Min.)}$

標準モード時 : $f_{\text{CLK}} = 1 \text{ MHz (Min.)}$

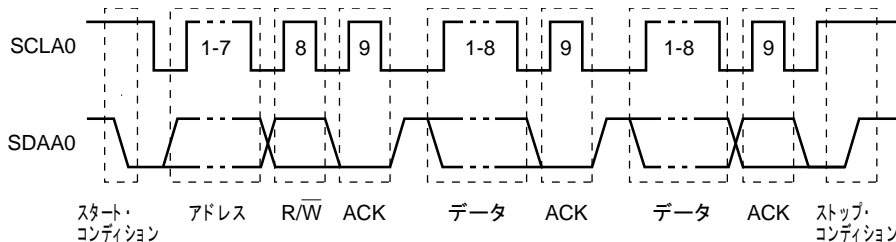
- 備考1. SDAA0, SCLA0信号の立ち上がり時間 (t_R) と立ち下がり時間 (t_F) は、プルアップ抵抗と配線容量によって異なるため、各自で算出してください。
2. IICWL0 : IICAロウ・レベル幅設定レジスタ
IICWH0 : IICAハイ・レベル幅設定レジスタ
 t_F : SDAA0, SCLA0信号の立ち下がり時間
 t_R : SDAA0, SCLA0信号の立ち上がり時間
 f_{MCK} : IICA動作クロック周波数

13.5 I²Cバスの定義および制御方法

I²Cバスのシリアル・データ通信フォーマットおよび、使用する信号の意味について次に説明します。

I²Cバスのシリアル・データ・バス上に生成されている“スタート・コンディション”，“アドレス”，“データ”および“ストップ・コンディション”の各転送タイミングを図13-14に示します。

図13-14 I²Cバスのシリアル・データ転送タイミング



スタート・コンディション，スレーブ・アドレス，ストップ・コンディションはマスタが生成します。

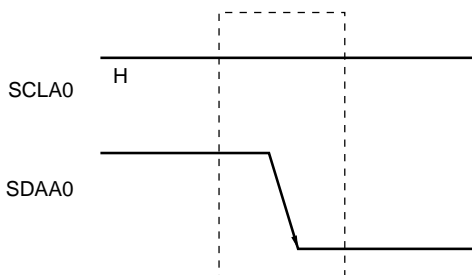
アクノリッジ (ACK) は，マスタ，スレーブのどちらでも生成できます（通常，8ビット・データの受信側が出力します）。

シリアル・クロック (SCLA0) は，マスタが出力し続けます。ただし，スレーブはSCLA0端子のロウ・レベル期間を延長し，クロック・ストレッチを挿入できます。

13.5.1 スタート・コンディション

SCLA0端子がハイ・レベルのときに，SDAA0端子がハイ・レベルからロウ・レベルに変化するとスタート・コンディションとなります。SCLA0端子，SDAA0端子のスタート・コンディションはマスタがスレーブに対してシリアル転送を開始するときに生成する信号です。スレーブとして使用する場合は，スタート・コンディションを検出できます。

図13-15 スタート・コンディション



スタート・コンディションは，ストップ・コンディション検出状態 (SPD0:IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット0 = 1) のときにIICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1 (STT0) をセット (1) すると出力されます。また，スタート・コンディションを検出すると，IICS0レジスタのビット1 (STD0) がセット (1) されます。

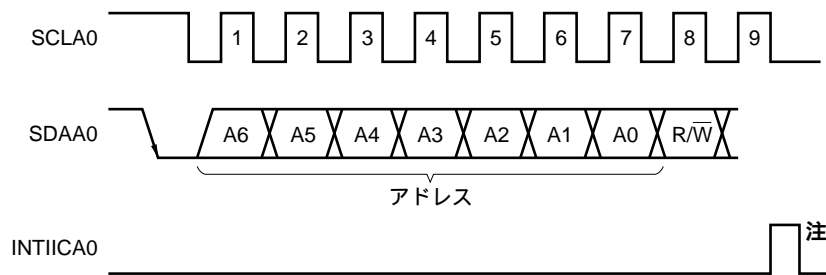
13.5.2 アドレス

スタート・コンディションに続く7ビット・データはアドレスと定義されています。

アドレスは、マスタがバス・ラインに接続されている複数のスレーブの中から、特定のスレーブを選択するために出力する7ビット・データです。したがって、バス・ライン上のスレーブは、すべて異なるアドレスにしておく必要があります。

スレーブは、ハードウェアでこの条件を検出し、さらに、7ビット・データがスレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0) と一致しているかを調べます。このとき、7ビット・データとSVA0レジスタの値が一致すると、そのスレーブが選択されたことになり、以後、マスタがスタート・コンディションまたはストップ・コンディションを生成するまでマスタとの通信を行います。

図13-16 アドレス



注 スレーブ動作時に自局アドレスまたは拡張コード以外を受信した場合は、INTIICA0は発生しません。

アドレスは、スレーブのアドレスと13.5.3 転送方向指定に説明する転送方向を合わせて8ビットとしてIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) に書き込むと出力します。また、受信したアドレスはIICA0レジスタに書き込まれます。

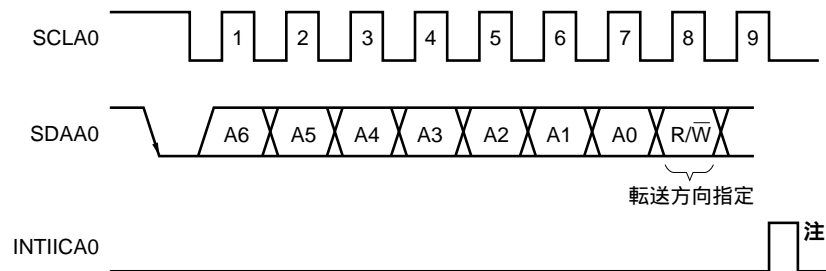
なお、スレーブのアドレスは、IICA0レジスタの上位7ビットに割り当てられます。

13.5.3 転送方向指定

マスタは、7ビットのアドレスに続いて、転送方向を指定するための1ビット・データを送信します。

この転送方向指定ビットが0のとき、マスタがスレーブにデータを送信することを示します。また、転送方向指定ビットが1のとき、マスタがスレーブからデータを受信することを示します。

図13-17 転送方向指定



注 スレーブ動作時に自局アドレスまたは拡張コード以外を受信した場合は、INTIICA0は発生しません。

13.5.4 アクノリッジ (ACK)

アクノリッジ (ACK) によって、送信側と受信側におけるシリアル・データの状態を確認することができます。

受信側は、8ビット・データを受信するごとにアクノリッジを返します。

送信側は通常、8ビット・データ送信後、アクノリッジを受信します。受信側からアクノリッジが返されたとき、受信が正しく行われたものとして処理を続けます。アクノリッジの検出は、IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット2 (ACKD0) で確認できます。

マスタが受信で最終データを受信したときはアクノリッジを返さず、ストップ・コンディションを生成します。スレーブが受信でアクノリッジを返さないとき、マスタはストップ・コンディションまたはリスタート・コンディションを出力し、送信を中止します。アクノリッジが返らない場合、次の要因が考えられます。

- ① 受信が正しく行われていない。
- ② 最終データの受信が終わっている。
- ③ アドレス指定した受信側が存在しない。

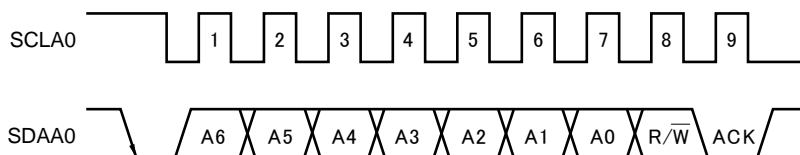
アクノリッジ生成は、受信側が9クロック目にSDAA0ラインをロウ・レベルにすることによって行われます(正常受信)。

IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット2 (ACKE0) をセット (1) することによって、アクノリッジが自動生成可能な状態になります。7ビットのアドレス情報に続く8ビット目のデータによりIICS0レジスタのビット3 (TRC0) が設定されます。受信 (TRC0 = 0) の場合は、通常、ACKE0ビットをセット (1) してください。

スレーブ受信動作時 (TRC0 = 0) にデータを受信できなくなったとき、または次のデータを必要としないときには、ACKE0ビットをクリア (0) し、マスタ側に受信ができないことを示してください。

マスタ受信動作時 (TRC0 = 0) に、次のデータを必要としない場合、アクノリッジを生成しないようにACKE0ビットをクリア (0) してください。これによって、スレーブ送信側にデータの終わりを知らせます(送信停止)。

図13-18 アクノリッジ



自局アドレス受信時は、ACKE0ビットの値にかかわらずアクノリッジを自動生成します。自局アドレス以外の受信時は、アクノリッジを生成しません (NACK)。

拡張コード受信時は、あらかじめACKE0ビットをセット (1) しておくことによってアクノリッジを生成します。

データ受信時のアクノリッジ生成方法は、クロック・ストレッチ・タイミングの設定により次のように異なります。

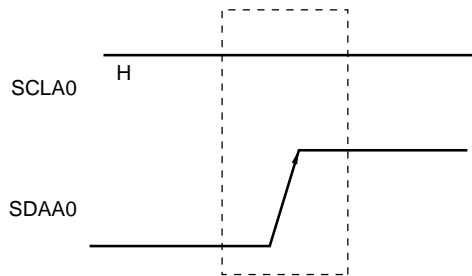
- ・8クロック・クロック・ストレッチ選択時 (IICCTL00レジスタのビット3 (WTIM0) = 0) :
クロック・ストレッチ解除を行う前にACKE0ビットをセット (1) することによって、SCLA0端子の8クロック目の立ち下がりに同期してアクノリッジを生成します。
- ・9クロック・クロック・ストレッチ選択時 (IICCTL00レジスタのビット3 (WTIM0) = 1) :
あらかじめACKE0ビットをセット (1) することによって、アクノリッジを生成します。

13.5.5 ストップ・コンディション

SCLA0端子がハイ・レベルのときに、SDAA0端子がロウ・レベルからハイ・レベルに変化すると、ストップ・コンディションとなります。

ストップ・コンディションは、マスタがスレーブに対してシリアル転送が終了したときに生成します。スレーブとして使用する場合は、ストップ・コンディションを検出できます。

図13-19 ストップ・コンディション



ストップ・コンディションは、IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット0 (SPT0) をセット (1) すると発生します。また、ストップ・コンディションを検出するとIICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット0 (SPD0) がセット (1) され、IICCTL00レジスタのビット4 (SPIE0) がセット (1) されている場合にはINTIICA0が発生します。

13.5.6 クロック・ストレッチ

クロック・ストレッチによっては、マスタまたはスレーブがデータの送受信のための準備中（クロック・ストレッチ状態）であることを相手に知らせます。

SCLA0端子をロウ・レベルにすることにより、相手にクロック・ストレッチ状態を知らせます。マスタ、スレーブ両方のクロック・ストレッチ状態が解除されると、次の転送を開始できます。

図13-20 クロック・ストレッチ (1/2)

- (1) マスタは9クロック・クロック・ストレッチ, スレーブは8クロック・クロック・ストレッチ時
(マスタ:送信, スレーブ:受信, ACKE0 = 1)

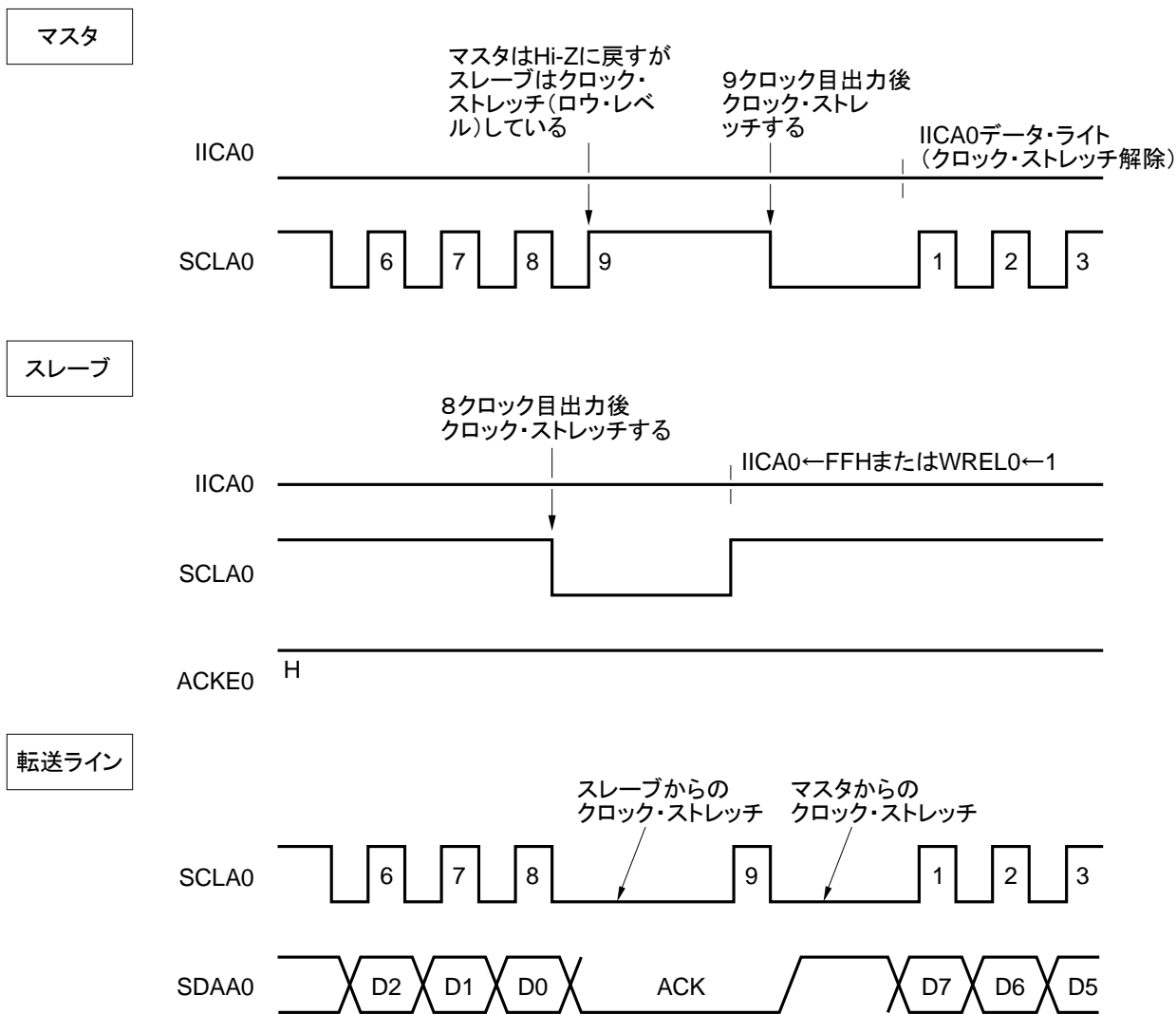
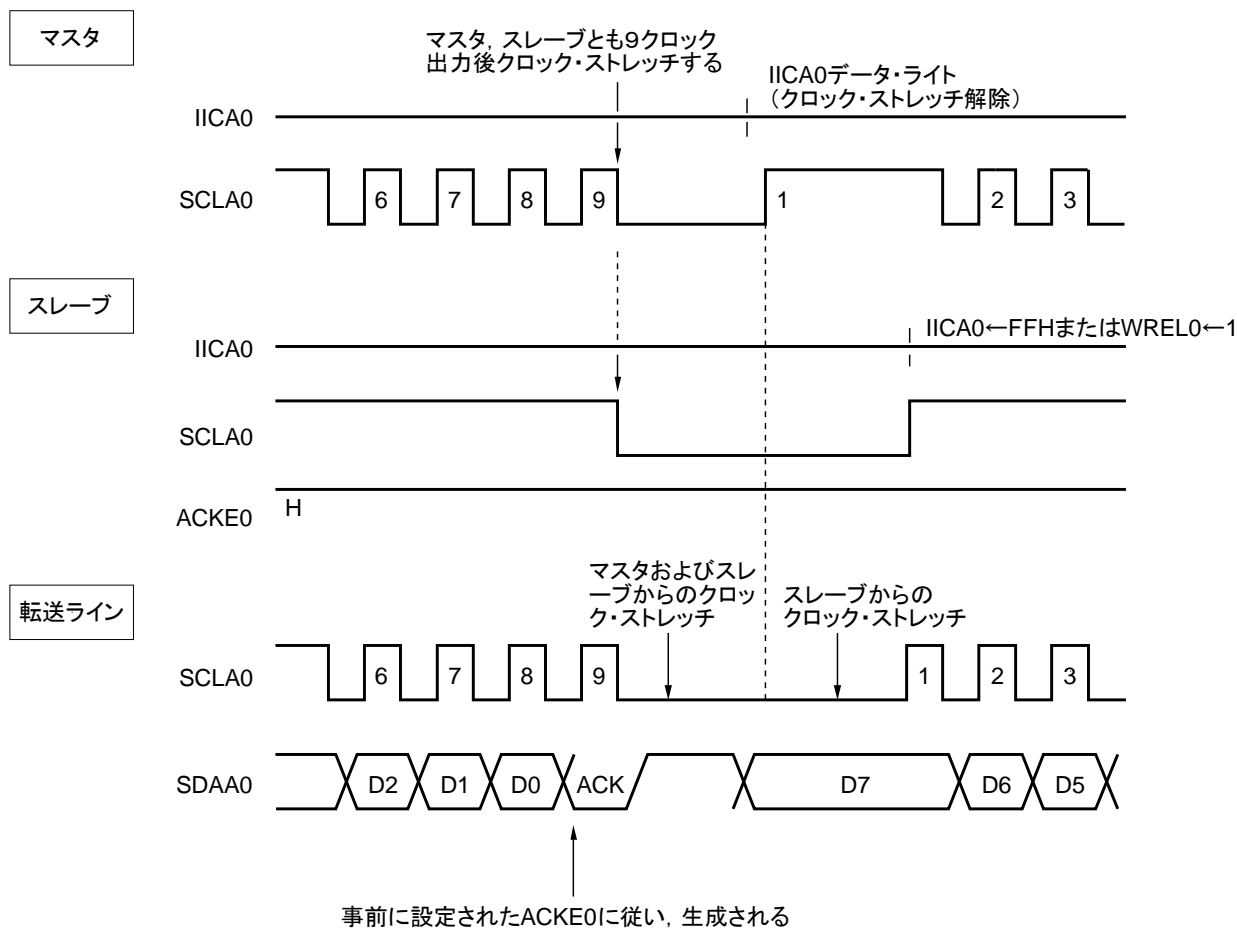


図13-20 クロック・ストレッチ (2/2)

(2) マスタ, スレーブとも9クロック・クロック・ストレッチ時

(マスタ : 送信, スレーブ : 受信, ACKE0 = 1)



備考 ACKE0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット2

WRELO : " のビット5

クロック・ストレッチは, IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット3 (WTIM0) の設定により自動的に発生します。

通常, 受信側はIICCTL00レジスタのビット5 (WRELOビット) = 1またはIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) にFFHを書き込むとクロック・ストレッチを解除し, 送信側はIICA0レジスタにデータを書き込むとクロック・ストレッチを解除します。

マスタの場合は, 次の方法でもクロック・ストレッチを解除できます。

- ・ IICCTL00レジスタのビット1 (STT0) = 1
- ・ IICCTL00レジスタのビット0 (SPT0) = 1

13.5.7 クロック・ストレッチ解除方法

I²Cでは、通常、次のような処理でクロック・ストレッチを解除できます。

- ・ IICAシフト・レジスタ0 (IICA0) へのデータ書き込み
- ・ IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット5 (WRELO) のセット (クロック・ストレッチ解除)
- ・ IICCTL00レジスタのビット1 (STT0) のセット (スタート・コンディションの生成)^注
- ・ IICCTL00レジスタのビット0 (SPT0) のセット (ストップ・コンディションの生成)^注

注 マスタのみ。

これらのクロック・ストレッチ解除処理を実行した場合、I²Cはクロック・ストレッチを解除し、通信が再開されます。

クロック・ストレッチを解除してデータ (アドレスを含む) を送信する場合には、IICA0レジスタにデータを書き込んでください。

クロック・ストレッチ解除後にデータを受信する場合、またはデータ送信を完了する場合には、IICCTL00レジスタのビット5 (WRELO) をセット (1) してください。

クロック・ストレッチ解除後にリスタート・コンディションを生成する場合には、IICCTL00レジスタのビット1 (STT0) をセット (1) してください。

クロック・ストレッチ解除後にストップ・コンディションを生成する場合には、IICCTL00レジスタのビット0 (SPT0) をセット (1) してください。

1回のクロック・ストレッチ状態に対して1回だけ解除処理を実行してください。

たとえば、WRELOビットにセット (1) によるクロック・ストレッチ解除後、IICA0レジスタへのデータ書き込みを実施した場合には、SDAA0ラインの変化タイミングとIICA0レジスタへの書き込みタイミングの競合により、SDAA0ラインへの出力データが間違った値になる可能性があります。

このような処理以外でも、通信を途中で中止した場合には、IICE0ビットをクリア (0) すると通信を停止するので、クロック・ストレッチを解除できます。

I²Cバスの状態がノイズなどによりデッド・ロックしてしまった場合には、IICCTL00レジスタのビット6 (LRELO) をセット (1) すると通信から退避するので、クロック・ストレッチを解除できます。

注意 WUP0 = 1のときにクロック・ストレッチ解除処理を実行した場合、クロック・ストレッチは解除されません。

13.5.8 割り込み要求 (INTIICA0) 発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御

IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット3 (WTIM0) の設定で、表13-2に示すタイミングでINTIICA0が発生し、また、クロック・ストレッチ制御を行います。

表13-2 INTIICA0発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御

WTIM0	スレーブ動作時			マスタ動作時		
	アドレス	データ受信	データ送信	アドレス	データ受信	データ送信
0	9 ^{注1,2}	8 ^{注2}	8 ^{注2}	9	8	8
1	9 ^{注1,2}	9 ^{注2}	9 ^{注2}	9	9	9

- 注1. スレーブのINTIICA0信号およびクロック・ストレッチは、スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0) に設定しているアドレスと一致したときのみ、9クロック目の立ち下がりで発生します。また、このとき、IICCTL00レジスタのビット2 (ACKE0) の設定にかかわらず、アクノリッジが生成されます。拡張コードを受信したスレーブは8クロック目の立ち下がりでINTIICA0が発生します。ただし、リスタート後にアドレス不一致になった場合には、9クロック目の立ち下がりでINTIICA0が発生しますが、クロック・ストレッチは発生しません。
2. スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0) と受信したアドレスが一致せず、かつ拡張コードを受信していない場合は、INTIICA0もクロック・ストレッチも発生しません。

備考 表中の数字は、シリアル・クロックのクロック数を示しています。また、割り込み要求、クロック・ストレッチ制御ともにシリアル・クロックの立ち下がりに同期します。

(1) アドレス送受信時

- ・スレーブ動作時：WTIM0ビットにかかわらず、上記の注1, 2の条件により、割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングが決まります。
- ・マスタ動作時：WTIM0ビットにかかわらず、割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングは、9クロック目の立ち下がりで発生します。

(2) データ受信時

- ・マスタ/スレーブ動作時：WTIM0ビットにより、割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングが決まります。

(3) データ送信時

- ・マスタ/スレーブ動作時：WTIM0ビットにより、割り込みおよびクロック・ストレッチ・タイミングが決まります。

(4) クロック・ストレッチ解除方法

クロック・ストレッチの解除方法には次の4つがあります。

- ・ IICAシフト・レジスタ0 (IICA0) へのデータ書き込み
- ・ IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット5 (WRELO) のセット (クロック・ストレッチ解除)
- ・ IICCTL00レジスタのビット1 (STT0) のセット (スタート・コンディションの生成)^注
- ・ IICCTL00レジスタのビット0 (SPT0) のセット (ストップ・コンディションの生成)^注

注 マスタのみ。

8クロック・クロック・ストレッチ選択 (WTIM0 = 0) 時は、クロック・ストレッチ解除前にアクノリッジの生成の有無を決定する必要があります。

(5) ストップ・コンディション検出

INTIICA0は、ストップ・コンディションを検出すると発生します (SPIE0 = 1のときのみ)。

13.5.9 アドレスの一致検出方法

I²Cバス・モードでは、マスタがスレーブ・アドレスを送信することにより、特定のスレーブ・デバイスを選択できます。

アドレス一致は、ハードウェアで自動的に検出できます。マスタから送信されたスレーブ・アドレスとスレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0) に設定したアドレスが一致したとき、または拡張コードを受信した場合だけ、INTIICA0割り込み要求が発生します。

13.5.10 エラーの検出

I²Cバス・モードでは、送信中のシリアル・バス (SDAA0) の状態が、送信しているデバイスのIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) にも取り込まれるため、送信開始前と送信終了後のIICAデータを比較することにより、送信エラーを検出できます。この場合、2つのデータが異なっていれば送信エラーが発生したものと判断します。

13.5.11 拡張コード

(1) 受信アドレスの上位4ビットが“0000”と“1111”のときを拡張コード受信として、拡張コード受信フラグ (EXC0) をセット (1) し、8クロック目の立ち下がりで割り込み要求 (INTIICA0) を発生します。スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0) に格納された自局アドレスは影響しません。

(2) SVA0レジスタに“11110xx0”を設定されているときに、10ビット・アドレス転送でマスタから“11110xx0”が転送されてきた場合は、次のようになります。ただし割り込み要求 (INTIICA0) は、8クロック目の立ち下がりで発生します。

- ・上位4ビット・データ的一致 : EXC0 = 1
- ・7ビット・データ的一致 : COI0 = 1

備考 EXC0 : IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット5
COI0 : " のビット4

(3) 割り込み要求発生後の処理は、拡張コードに続くデータによって異なるため、ソフトウェアで行います。スレーブ動作時に、拡張コードを受信した場合は、アドレス不一致でも通信に参加しています。たとえば拡張コード受信後、スレーブとして動作したくない場合は、IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット6 (LRELO) = 1に設定してください。次の通信待機状態にします。

表13-3 主な拡張コードのビットの定義

スレーブ・アドレス	R/Wビット	説明
0000 000	0	ジェネラル・コール・アドレス
1111 0xx	0	10ビット・スレーブ・アドレス指定 (アドレス認証時)
1111 0xx	1	10ビット・スレーブ・アドレス指定 (アドレス一致後、リード・コマンド発行時)

備考 上記以外の拡張コードについては、NXP社発行のI²Cバスの仕様書を参照してください。

13.5.12 アービトレーション

複数のマスタがスタート・コンディションを同時に生成した場合（STD0 = 1になる前にSTT0 = 1にしたとき）、データが異なるまでクロックの調整をしながら、マスタ通信を行います。この動作をアービトレーションと呼びます。

アービトレーションに負けたマスタは、アービトレーションに負けたタイミングで、IICAステータス・レジスタ0（IICS0）のアービトレーション負けフラグ（ALD0）をセット（1）し、SCLA0, SDAA0ラインともハイ・インピーダンス状態にしてバスを解放します。

アービトレーションに負けたことは、次の割り込み要求発生タイミング（8または9クロック目、ストップ・コンディション検出など）で、ソフトウェアでALD0 = 1になっていることで検出します。

割り込み要求発生タイミングについては、13.5.8 割り込み要求（INTIICA0）発生タイミングおよびクロック・ストレッチ制御を参照してください。

備考 STD0 : IICAステータス・レジスタ0（IICS0）のビット1

STT0 : IICAコントロール・レジスタ00（IICCTL00）のビット1

図13-21 アービトレーション・タイミング例

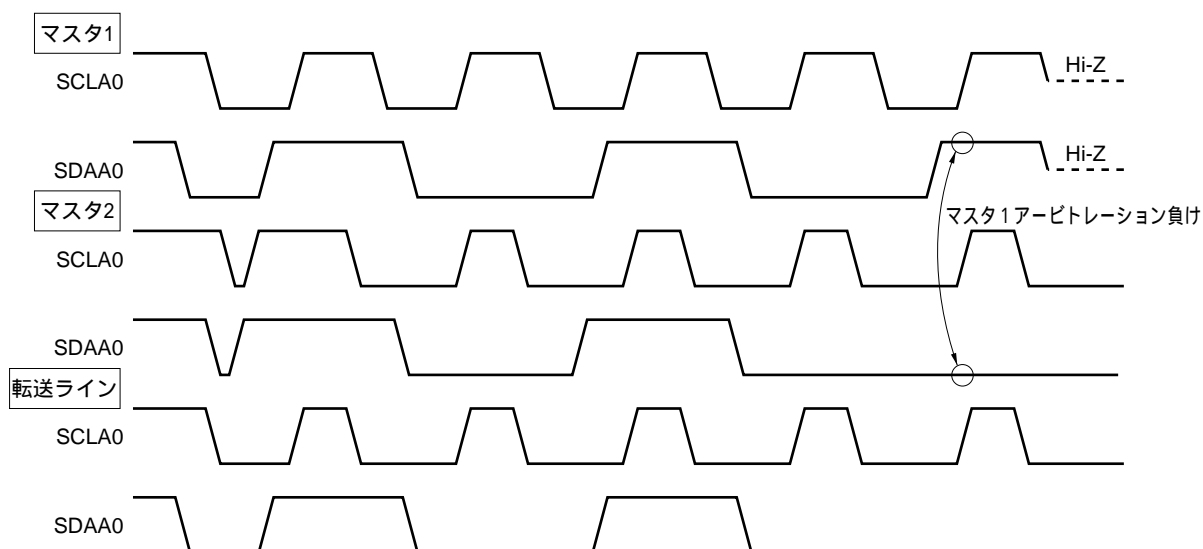


表13-4 アービトレーション発生時の状態と割り込み要求発生タイミング

アービトレーション発生時の状態	割り込み要求発生タイミング
アドレス送信中	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり ^{注1}
アドレス送信後のリード/ライト情報	
拡張コード送信中	
拡張コード送信後のリード/ライト情報	
データ送信中	
データ送信後のアクノリッジ転送期間中	
データ転送中, リスタート・コンディション検出	
データ転送中, ストップ・コンディション検出	ストップ・コンディション生成時 (SPIE0 = 1時) ^{注2}
リスタート・コンディションを生成しようとしたがデータがロウ・レベル	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり ^{注1}
リスタート・コンディションを生成しようとしたがストップ・コンディション検出	ストップ・コンディション生成時 (SPIE0 = 1時) ^{注2}
ストップ・コンディションを生成しようとしたがデータがロウ・レベル	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり ^{注1}
リスタート・コンディションを生成しようとしたがSCLA0がロウ・レベル	

注1. WTIMOビット (IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット3) = 1の場合には, 9クロック目の立ち下がりタイミングで割り込み要求が発生します。WTIMO = 0および拡張コードのスレーブ・アドレス受信時には, 8クロック目の立ち下がりタイミングで割り込み要求が発生します。

2. アービトレーションが起こる可能性がある場合, マスタ動作ではSPIE0 = 1に設定してください。

備考 SPIE0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット 4

13.5.13 ウェイク・アップ機能

I²Cのスレーブ機能で、自局アドレスと拡張コードを受信したときに割り込み要求信号 (INTIICA0) を発生する機能です。

アドレスが一致しないときは不要なINTIICA0信号を発生せず、効率よく処理できます。

スタート・コンディションを検出すると、ウェイク・アップ待機状態となります。マスタ (スタート・コンディションを生成した場合) でも、アービトレーション負けでスレーブになる可能性があるため、アドレスを送信しながらウェイク・アップ待機状態になります。

STOPモード状態時にウェイク・アップ機能を使用する場合には、WUP0 = 1に設定してください。動作クロックに関係なくアドレス受信を行う事ができます。この場合も、自局アドレスおよび拡張コードを受信したときに割り込み要求信号 (INTIICA0) を発生します。この割り込み発生後に命令でWUP0ビットをクリア (0) することで通常動作に戻ります。

WUP0 = 1に設定する場合のフローを図13-22に、アドレス一致によりWUP0 = 0に設定する場合のフローを図13-23に示します。

図13-22 WUP0 = 1を設定する場合のフロー

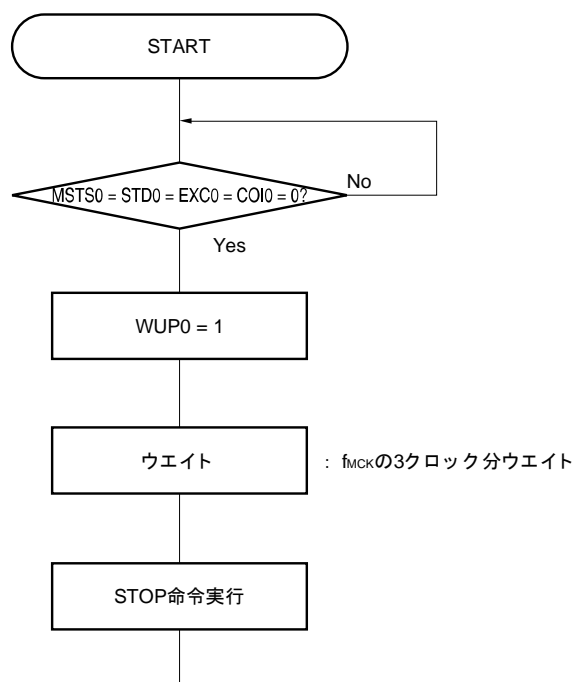
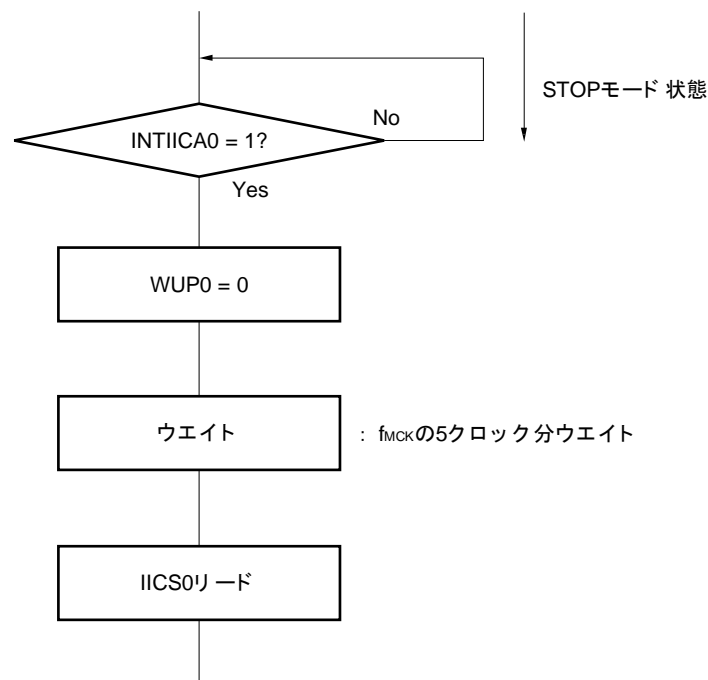


図13-23 アドレス一致によりWUP0 = 0に設定する場合のフロー（拡張コード受信含む）

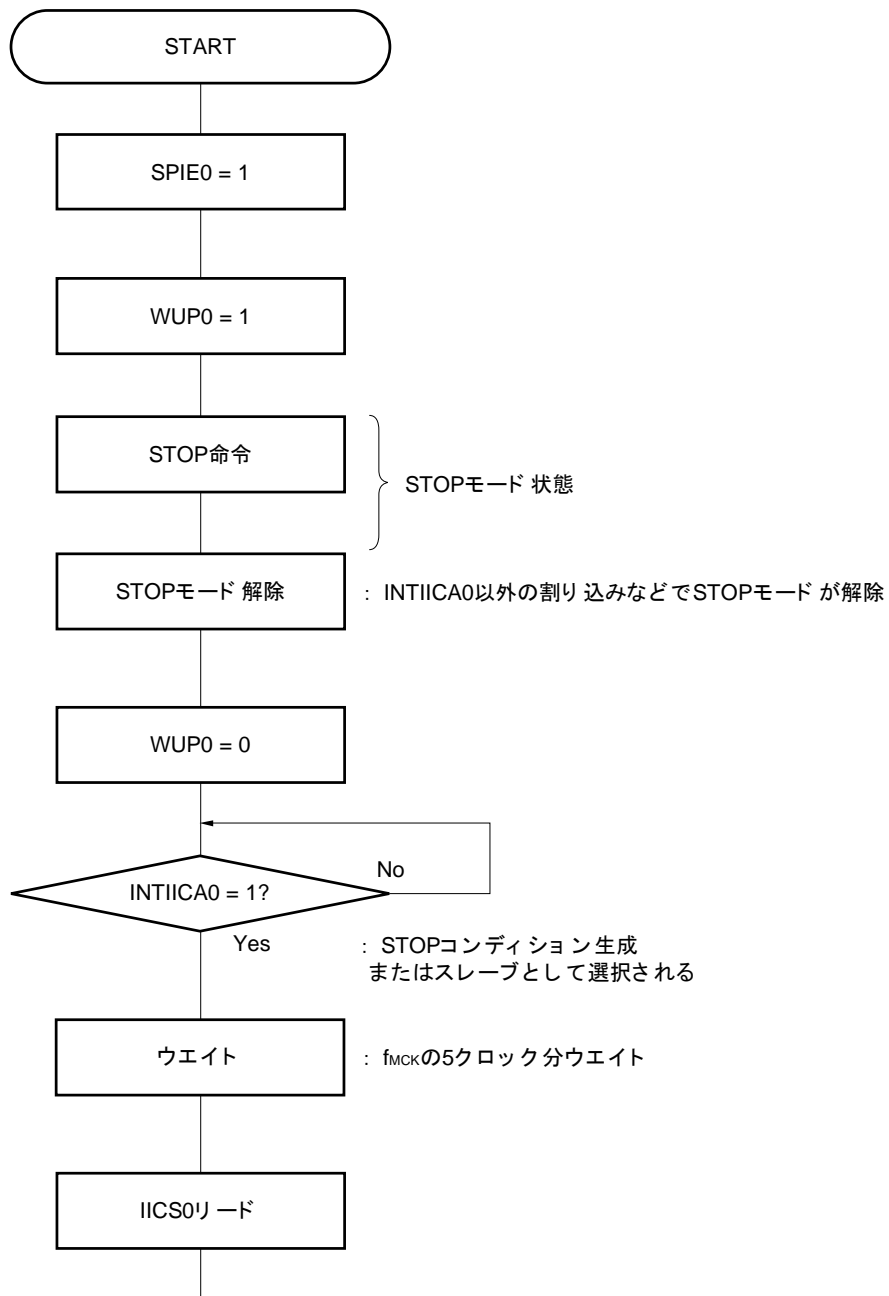


シリアル・インタフェースIICAの動作状態を
確認後、実行したい動作に合わせた処理を実行

また、シリアル・インタフェースIICAからの割り込み要求（INTIICA0）以外でSTOPモードを解除する場合の処理は次のフローを行ってください。

- ・ 次のIIC通信をマスタとして動作させる場合 : 図13-24のフロー
- ・ 次のIIC通信をスレーブとして動作させる場合 :
 - INTIICA0割り込みで復帰した場合 : 図13-23のフローと同じになります。
 - INTIICA0割り込み以外の割り込みで復帰した場合 : INTIICA0割り込みが発生するまでWUP0=1のまま動作を継続してください。

図13-24 INTIICA0以外でSTOPモードが解除後にマスタとして動作させる場合



シリアル・インタフェースIICAの動作状態を確認後、実行したい動作に合わせた処理を実行

13.5.14 通信予約

(1) 通信予約機能許可の場合 (IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) のビット0 (IICRSV0) = 0)

バスに不参加の状態、次にマスタ通信を行いたい場合は、通信予約を行うことにより、バス解放時にスタート・コンディションを送信できます。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

- ・アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
- ・拡張コードを受信してスレーブとして動作しない (アクノリッジを返さず、IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット6 (LRELO) = 1で通信退避してバスを解放した) とき

バスに不参加の状態、IICCTL00レジスタのビット1 (STT0) をセット (1) すると、バスが解放されたあと (ストップ・コンディション検出時) に、自動的にスタート・コンディションを生成し、ウェイト状態になります。

IICCTL00レジスタのビット4 (SPIE0) をセット (1) し、割り込み要求信号 (INTIICA0) 発生でバスの解放を検出 (ストップ・コンディション検出) したあと、IICAシフト・レジスタ0 (IICA0) にアドレスを書き込むと、自動的にマスタとしての通信を開始します。ストップ・コンディションを検出する前に、IICA0レジスタに書き込まれたデータは、無効です。

STT0ビットをセット (1) したとき、スタート・コンディションとして動作するか通信予約として動作するかはバスの状態により決定されます。

- ・バスが解放されているとき……………スタート・コンディション生成
- ・バスが解放されていないとき (待機状態) ……通信予約

通信予約として動作するかどうかは、STT0ビットをセット (1) し、ウェイト時間をとったあと、MSTS0ビット (IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット7) で確認します。

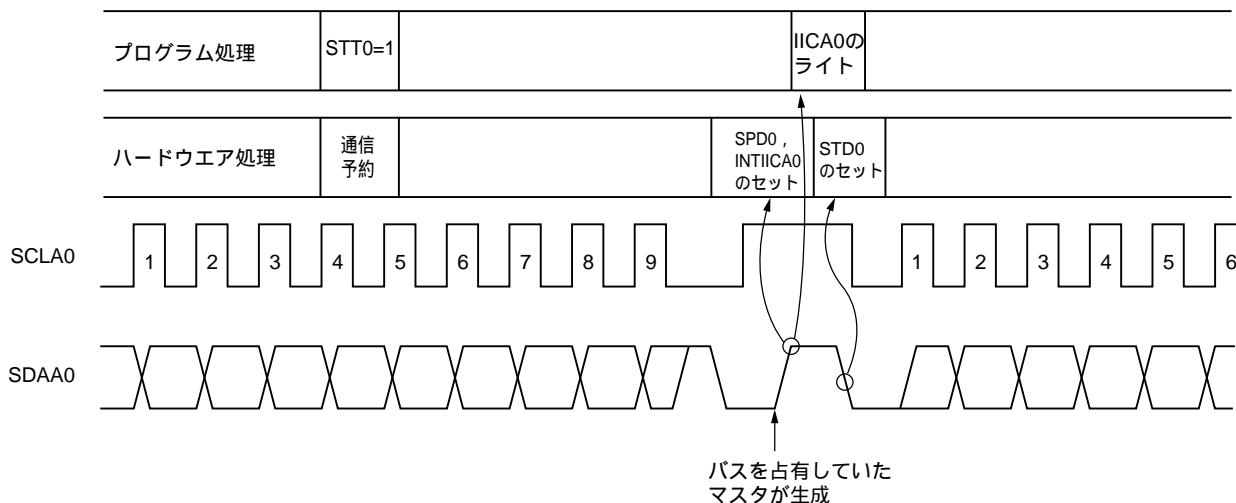
ウェイト時間は、次の式から算出した時間をソフトウェアにより確保してください。

$$\text{STT0} = 1 \text{ から MSTS0 フラグ 確認 までの ウェイト 時間 :} \\ (\text{IICWL0 の 設定 値} + \text{IICWH0 の 設定 値} + 4) / f_{\text{MCK}} + t_{\text{F}} \times 2$$

備考 IICWL0 : IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0
 IICWH0 : IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0
 t_{F} : SDAA0, SCLA0信号の立ち下がり時間
 f_{MCK} : IICA動作クロック周波数

通信予約のタイミングを図13-25に示します。

図13-25 通信予約のタイミング



- 備考 IICA0 : IICAシフト・レジスタ0
 STT0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1
 STD0 : IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット1
 SPD0 : " のビット0

通信予約は図13-26に示すタイミングで受け付けられます。IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット1 (STD0) = 1になったあと、ストップ・コンディション検出までにIICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1 (STT0) = 1で通信予約をします。

図13-26 通信予約受け付けタイミング

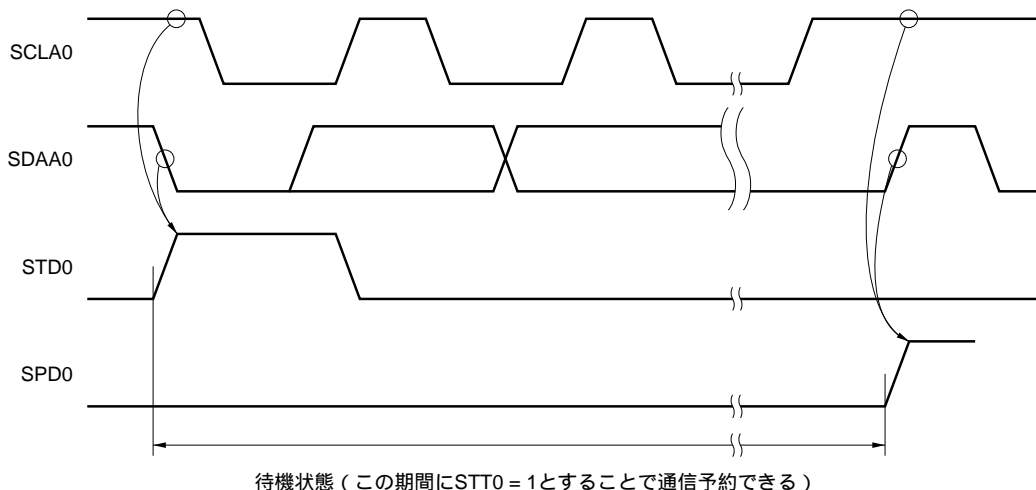
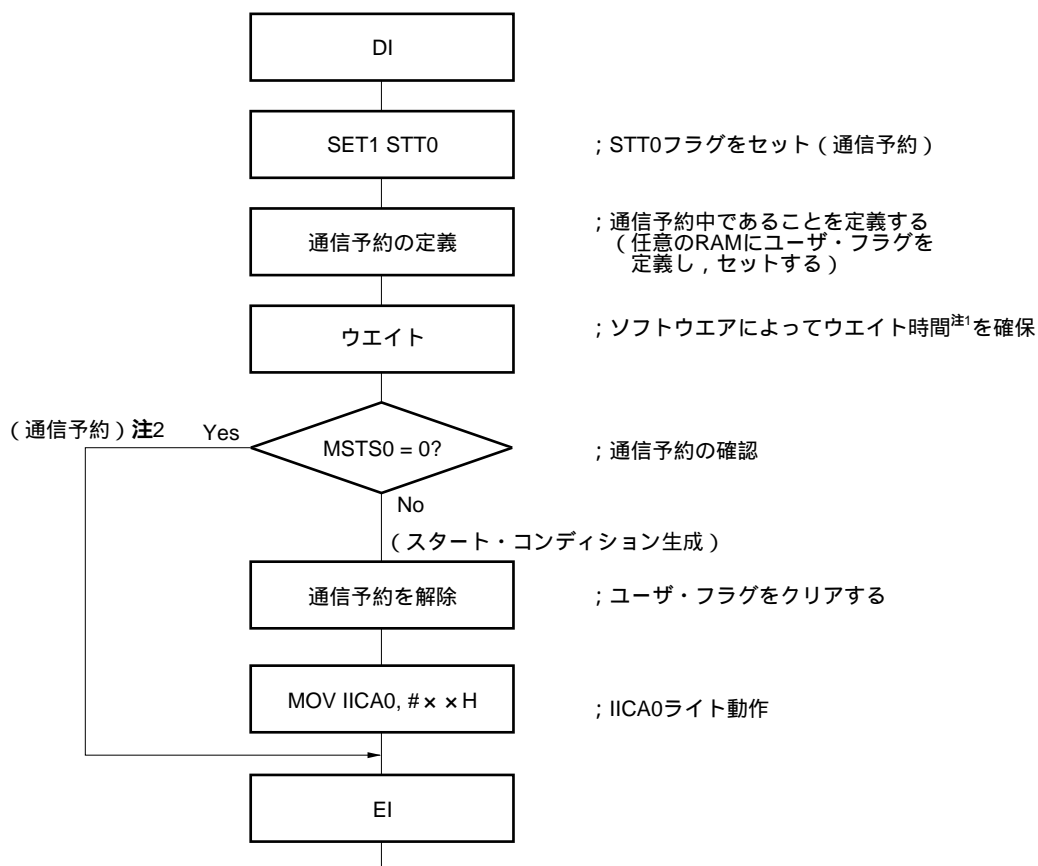


図13-27に通信予約の手順を示します。

図13-27 通信予約の手順



注1. ウェイト時間は次のようになります。

$$\text{(IICWL0の設定値 + IICWH0の設定値 + 4)} / f_{\text{MCK}} + t_{\text{F}} \times 2$$

2. 通信予約動作時は、ストップ・コンディション割り込み要求でIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) への書き込みを実行します。

備考 STT0 : IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1

MSTS0 : IICAステータス・レジスタ0 (IICCS0) のビット7

IICA0 : IICAシフト・レジスタ0

IICWL0 : IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0

IICWH0 : IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0

t_{F} : SDAA0, SCLA0信号の立ち下がり時間

f_{MCK} : IICA動作クロック周波数

(2) 通信予約機能禁止の場合 (IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) のビット0 (IICRSV0) = 1)

バスが通信中で、この通信に不参加の状態ではIICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット1 (STT0) をセット (1) すると、この要求を拒絶しスタート・コンディションを生成しません。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

- ・アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
- ・拡張コードを受信してスレーブとして動作しない (アクノリッジを返さず、IICCTL00レジスタのビット6 (LREL0) = 1で通信退避してバスを解放した) とき。

スタート・コンディションが生成されたかまたは拒絶されたかは、STCF0 (IICF0レジスタのビット7) で確認できます。STT0 = 1としてからSTCF0がセット (1) されるまで f_{MCK} の5クロックの時間がかかりますので、ソフトウェアによりこの時間を確保してください。

13.5.15 その他の注意事項

(1) STCEN0 = 0の場合

I²C動作許可 (IICE0 = 1) 直後、実際のバス状態にかかわらず通信状態 (IICBSY0 = 1) と認識します。ストップ・コンディションを検出していない状態からマスタ通信を行おうとする場合は、まずストップ・コンディションを生成し、バスを解放してからマスタ通信を行ってください。

マルチマスタでは、バスが解放されていない (ストップ・コンディションを検出していない) 状態では、マスタ通信を行うことができません。

ストップ・コンディションの生成は次の順番で行ってください。

- ① IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) を設定する
- ② IICAコントロール・レジスタ00 (IICCTL00) のビット7 (IICE0) をセット (1) する
- ③ IICCTL00レジスタのビット0 (SPT0) をセット (1) する

(2) STCEN0 = 1の場合

I²C動作許可 (IICE0 = 1) 直後、実際のバス状態にかかわらず解放状態 (IICBSY0 = 0) と認識しますので、1回目のスタート・コンディションを生成 (STT0 = 1) する場合は、ほかの通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。

(3) すでに他者との間でI²C通信が行われている場合

SDAA0端子がロウ・レベルで、かつSCLA0端子がハイ・レベルのときに、I²C動作を許可して通信に途中参加すると、I²CのマクロはSDAA0端子がハイ・レベルからロウ・レベルに変化したと認識 (スタート・コンディション検出) します。このときにバス上の値が拡張コードと認識できる値の場合は、アクノリッジを返し、他者との間のI²C通信を妨害してしまいます。これを回避するために、次の順番でI²Cを起動してください。

- ① IICCTL00レジスタのビット4 (SPIE0) をクリア (0) し、ストップ・コンディション検出による割り込み要求信号 (INTIICA0) 発生を禁止する
- ② IICCTL00レジスタのビット7 (IICE0) をセット (1) し、I²Cの動作を許可する
- ③ スタート・コンディションを検出するまで待つ
- ④ アクノリッジを返すまで (IICE0ビットをセット (1) してから、f_{MCK} の4~72クロック中) に、IICCTL00レジスタのビット6 (LREL0) をセット (1) にし、強制的に検出を無効とする

(4) STT0, SPT0ビット (IICCTL00レジスタのビット1, 0) をセットしたあと、クリア (0) される前の再セットは禁止します。

(5) 送信予約をした場合には、SPIE0ビット (IICCTL00レジスタのビット4) をセット (1) してストップ・コンディション検出で割り込み要求が発生するようにしてください。割り込み要求発生後に、IICAシフト・レジスタ0 (IICA0) に通信データを書き込むことによって、転送が開始されます。ストップ・コンディション検出で割り込みを発生させないと、スタート時には割り込み要求が発生しないため、ウェイト状態で停止します。ただし、ソフトウェアでMSTS0ビット (IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット7) を検出する場合には、SPIE0ビットをセット (1) する必要はありません。

13.5.16 通信動作

ここでは、次の3つの動作手順をフローとして示します。

(1) シングルマスタ・システムでのマスタ動作

シングルマスタ・システムで、マスタとして使用する場合のフローを示します。

このフローは大きく「初期設定」と「通信処理」に分かれています。起動時に「初期設定」部分を実行し、スレーブとの通信が必要になったら通信に必要な準備を行って「通信処理」部分を実行します。

(2) マルチマスタ・システムでのマスタ動作

I²Cバスのマルチマスタ・システムでは、通信に参加した段階ではバスが解放状態にあるか使用状態にあるかがI²Cバスの仕様だけでは判断できません。ここでは、一定（1フレーム）期間、データとクロックがハイ・レベルであれば、バスが解放状態としてバスに参加するようにしています。

このフローは大きく「初期設定」、「通信待ち」、「通信処理」に分かれています。ここでは、アービトレーションで負けてスレーブに指定された場合の処理は省略し、マスタとしての処理だけを示しています。起動時に「初期設定」部分を実行してバスに参加します。そのあとは「通信待ち」で、マスタとしての通信要求、またはスレーブとしての指定を待ちます。実際に通信を行うのは「通信処理」部分で、スレーブとのデータ送受信以外に、ほかのマスタとのアービトレーションにも対応しています。

(3) スレーブ動作

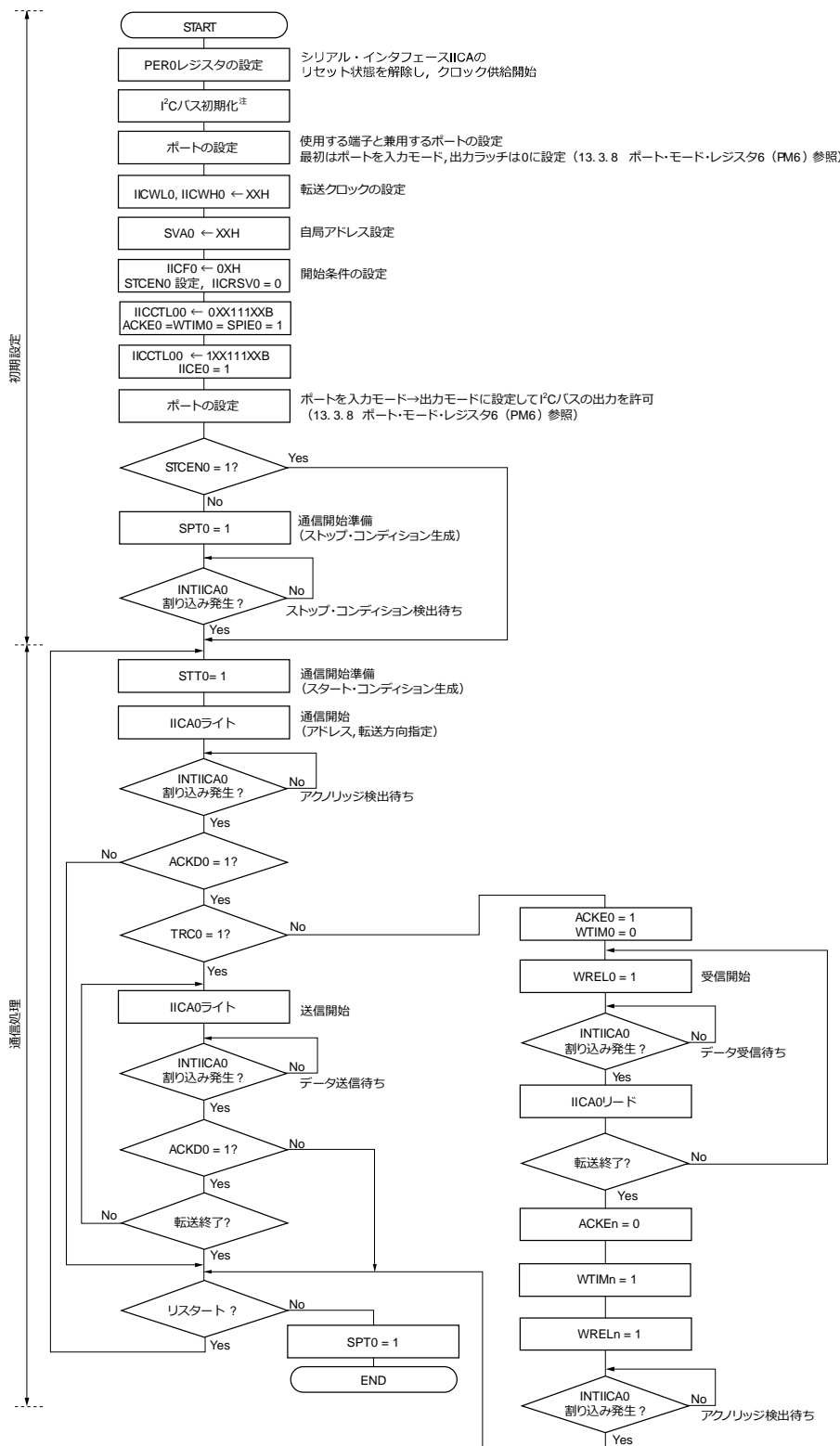
I²Cバスのスレーブとして使用する場合の例を示します。

スレーブの場合には、割り込みによって動作を開始します。起動時に「初期設定」部分を実行し、そのあとは通信待ちでINTIICA0割り込みの発生を待ちます。INTIICA0割り込みが発生すると、通信状態を判定し、フラグとしてメイン処理に引き渡します。

各フラグをチェックすることにより、必要な「通信処理」を行います。

(1) シングルマスタ・システムでのマスタ動作

図13-28 シングルマスタ・システムでのマスタ動作

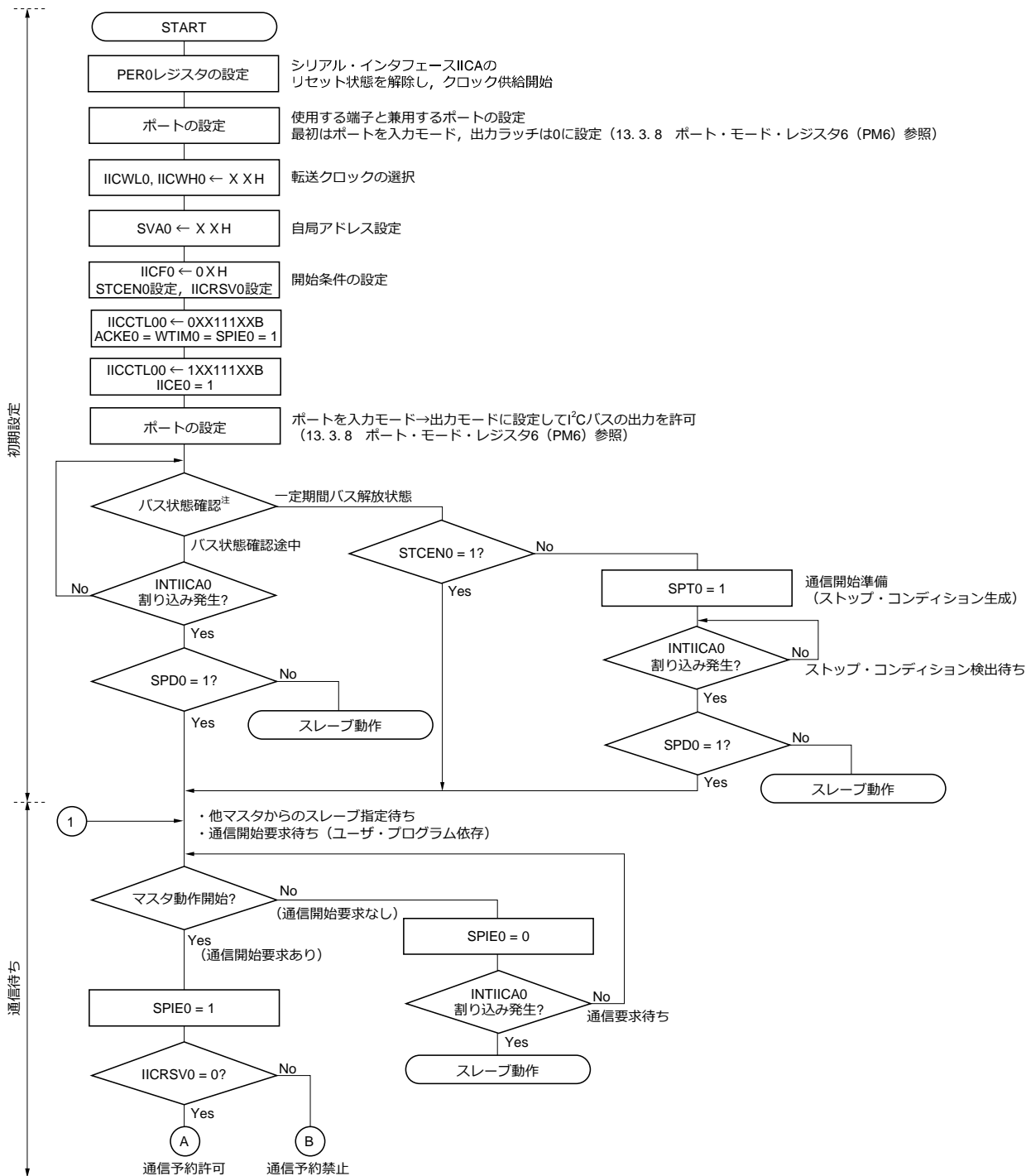


注 通信している製品の仕様に準拠し、I²Cバスを解放 (SCLA0, SDAA0端子 = ハイ・レベル) してください。たとえば、EEPROMがSDAA0端子にロウ・レベルを出力した状態であれば、SCLA0端子を出力ポートに設定し、SDAA0端子が定常的にハイ・レベルになるまで、出力ポートからクロック・パルスを出力してください。

備考 送信および受信フォーマットは、通信している製品の仕様に準拠してください。

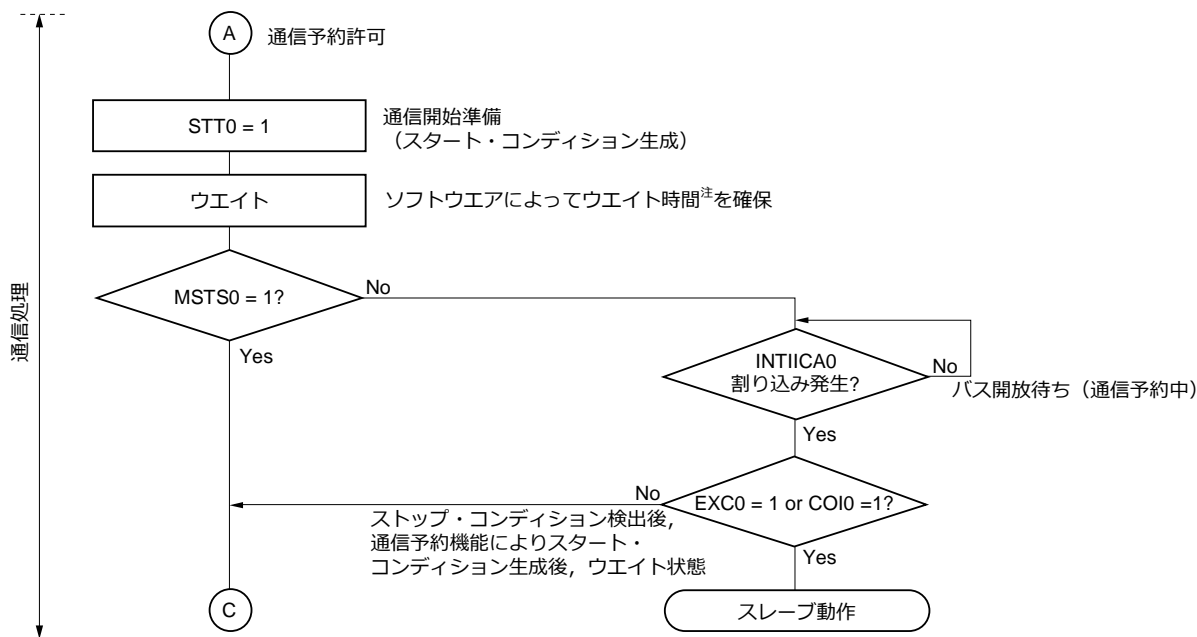
(2) マルチマスタ・システムでのマスタ動作

図13-29 マルチマスタ・システムでのマスタ動作 (1/3)

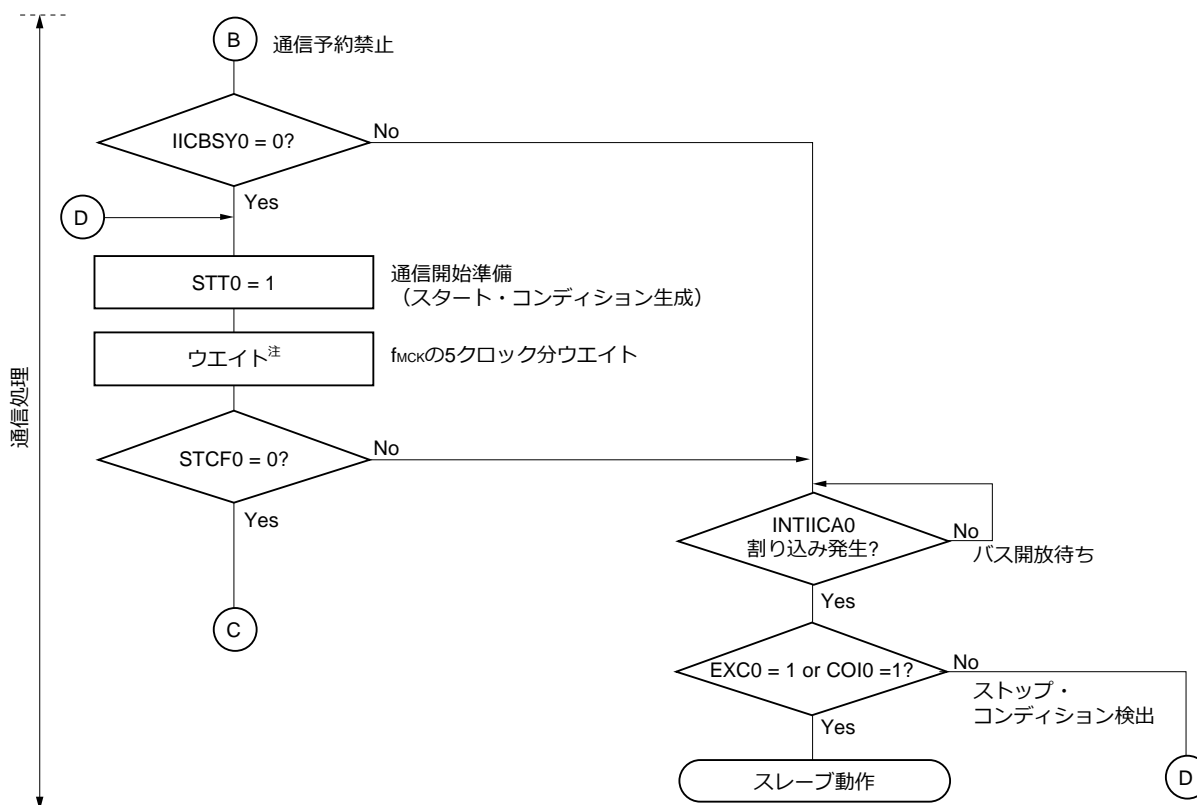


注 一定期間 (たとえば1フレーム分)、バス解放状態 (CLD0ビット = 1, DAD0ビット = 1) であることを確認してください。定期的にSDAA0端子がロウ・レベルの場合は、通信している製品の仕様に準拠し、I²Cバスを解放 (SCLA0, SDAA0端子 = ハイ・レベル) するか判断してください。

図13-29 マルチマスタ・システムでのマスタ動作 (2/3)

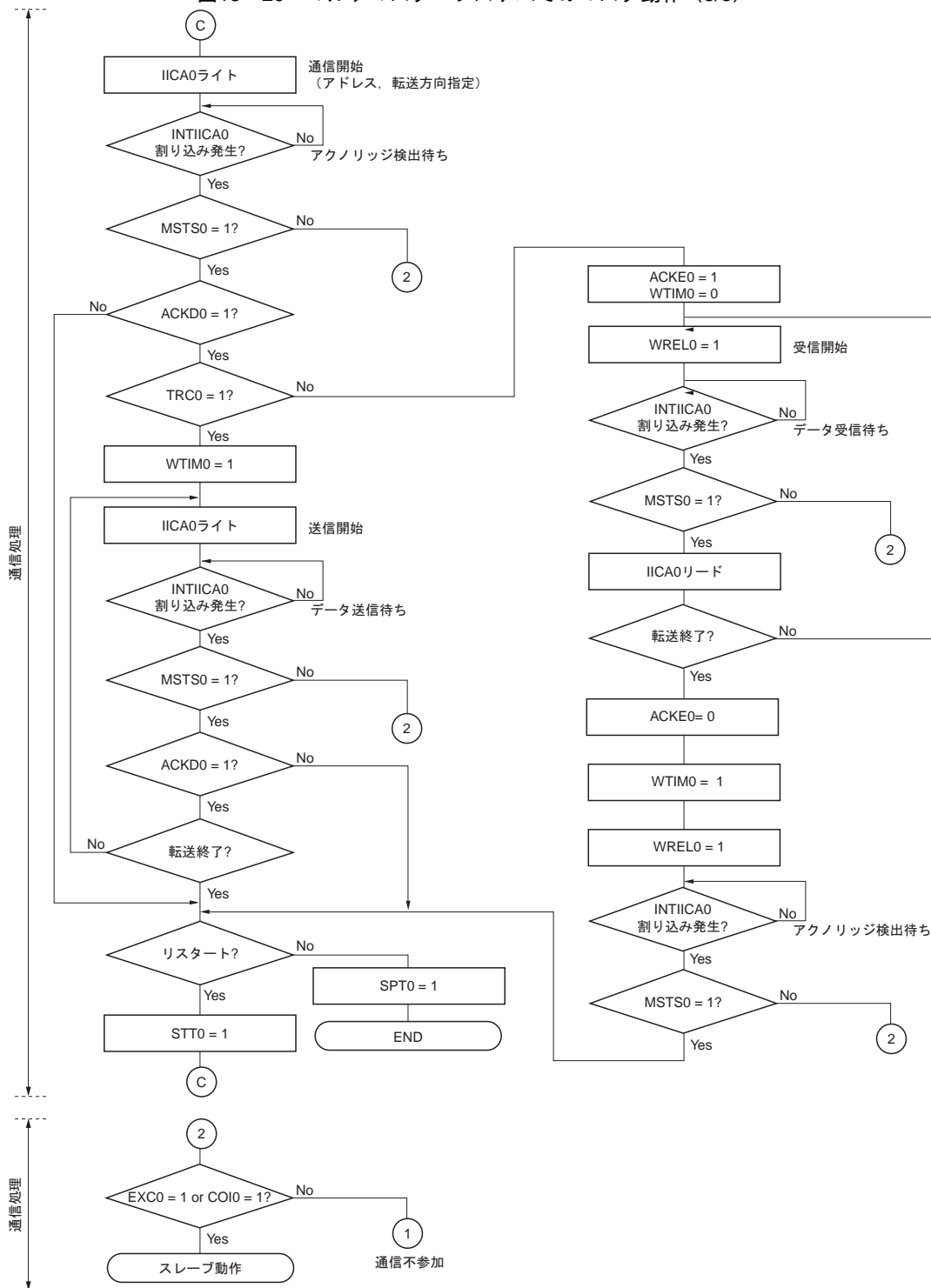


注 ウェイト時間は次のようになります。
 $(IICWLO \text{ の設定値} + IICWH0 \text{ の設定値} + 4) / f_{MCK} + t_F \times 2$



- 備考 IICWLO : IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0
 IICWH0 : IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0
 tF : SDAA0, SCLA0信号の立ち下がり時間
 fMCK : IICA動作クロック周波数

図13-29 マルチマスタ・システムでのマスタ動作 (3/3)



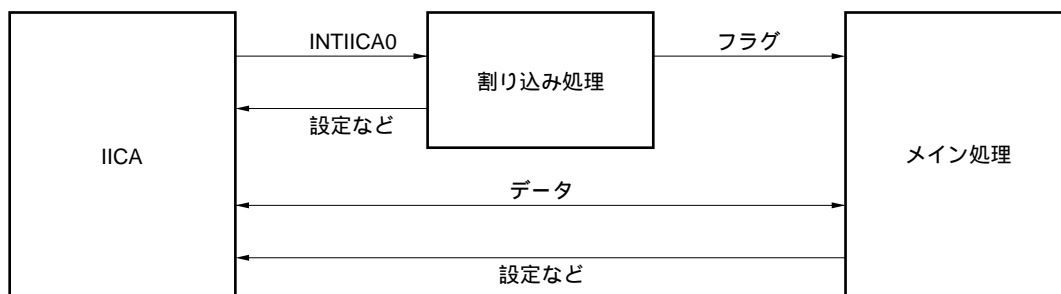
- 備考 1. 送信および受信フォーマットは通信している製品の仕様に準拠してください。
2. マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は、INTIICA0割り込み発生ごとにMSTS0ビットをリードし、アービトレーション結果を確認してください。
3. マルチマスタ・システムでスレーブとして使用する場合は、INTIICA0割り込み発生ごとにIICAステータス・レジスタ0 (IICS0) , IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) でステータスを確認して次に行う処理を決定してください。

(3) スレーブ動作

スレーブ動作の処理手順を次に示します。

基本的にスレーブの場合には、イベント・ドリブンでの動作となります。このためINTIICA0割り込みによる処理（通信中のストップ・コンディション検出など、動作状態を大きく変更する必要がある処理）が必要となります。

この説明では、データ通信は拡張コードには対応しないものとします。またINTIICA0割り込み処理では状態遷移の処理だけを行い、実際のデータ通信はメイン処理で行うものとします。



このため、次の3つのフラグを準備し、これをINTIICA0の代わりにメイン処理に渡すという方法で、データ通信処理を行います。

① 通信モード・フラグ

次の2つの通信状態を示します。

- ・クリア・モード：データ通信を行っていない状態
- ・通信モード：データ通信を行っている状態（有効アドレス検出～ストップ・コンディション検出、マスタからのアクノリッジ未検出、アドレス不一致）

② レディ・フラグ

データ通信が可能になったことを示します。通常のデータ通信ではINTIICA0割り込みと同じです。割り込み処理部でセットし、メイン処理部でクリアします。通信の開始時には、割り込み処理部でクリアしておきます。ただし、送信の最初のデータでは、レディ・フラグは割り込み処理部でセットされませんので、クリア処理をしないで最初のデータを送信することになります（アドレス一致自体が次のデータの要求と解釈します）。

③ 通信方向フラグ

通信の方向を示します。TRC0ビットの値と同じです。

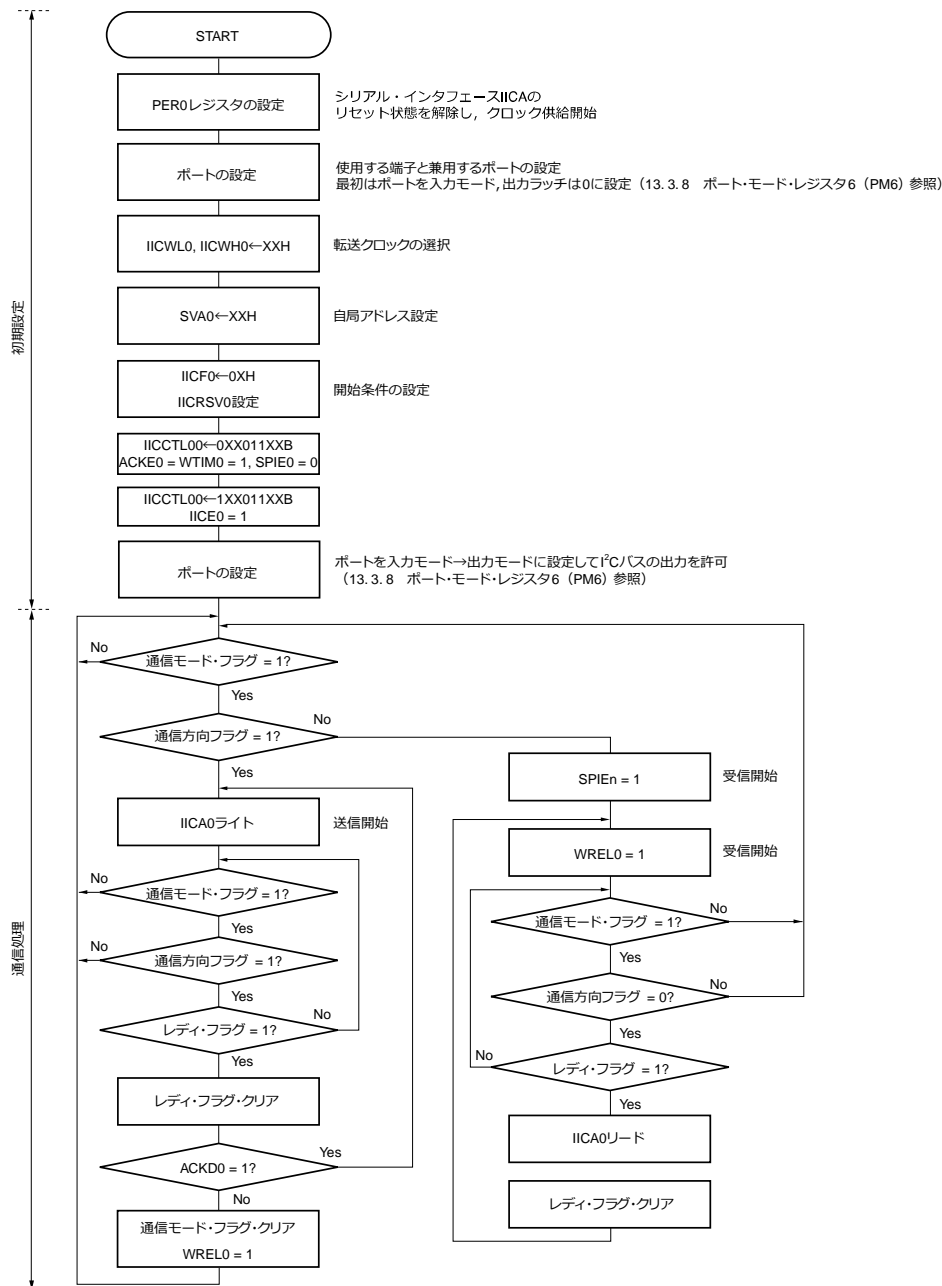
次にスレーブ動作でのメイン処理部の動作を示します。

シリアル・インタフェースIICAを起動し、通信可能状態になるのを待ちます。通信可能状態になったら、通信モード・フラグとレディ・フラグを使って通信を行います（ストップ・コンディションやスタート・コンディションの処理は割り込みで行いますので、ここではフラグで状態を確認します）。

送信ではマスタからアクノリッジがなくなるまで送信動作を繰り返します。マスタからアクノリッジが戻らなかったら通信を完了します。

受信では必要な数のデータ受信し、通信完了したら次のデータでアクノリッジを戻さないようにします。その後、マスタはストップ・コンディションまたはリスタート・コンディションを生成します。これにより、通信状態から抜け出します。

図13-30 スレーブ動作手順 (1)



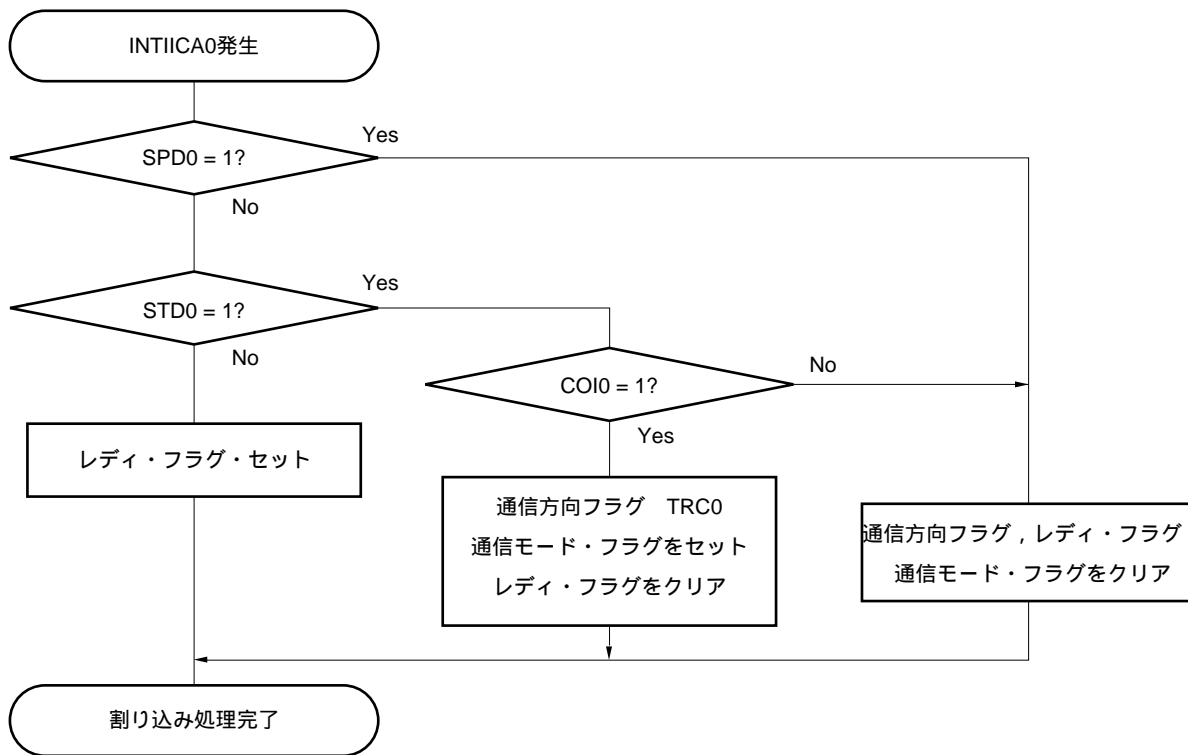
備考 送信および受信フォーマットは通信している製品の仕様に準拠してください。

スレーブのINTIICA0割り込みでの処理手順例を示します（ここでは拡張コードはないものとして処理します）。INTIICA0割り込みではステータスを確認して、次のように行います。

- ① ストップ・コンディションの場合、通信を終了します。
- ② スタート・コンディションの場合、アドレスを確認し、一致していなければ通信を終了します。
アドレスが一致していれば、モードを通信モードに設定し、ウェイトを解除して、割り込みから戻ります（レディ・フラグはクリアする）。
- ③ データ送受信の場合、レディ・フラグをセットするだけで、I²Cバスはウェイト状態のまま、割り込みから戻ります。

備考 上述の①～③は、図13-31 スレーブ動作手順（2）の①～③と対応しています。

図13-31 スレーブ動作手順（2）



13. 5. 17 I²C割り込み要求 (INTIICA0) の発生タイミング

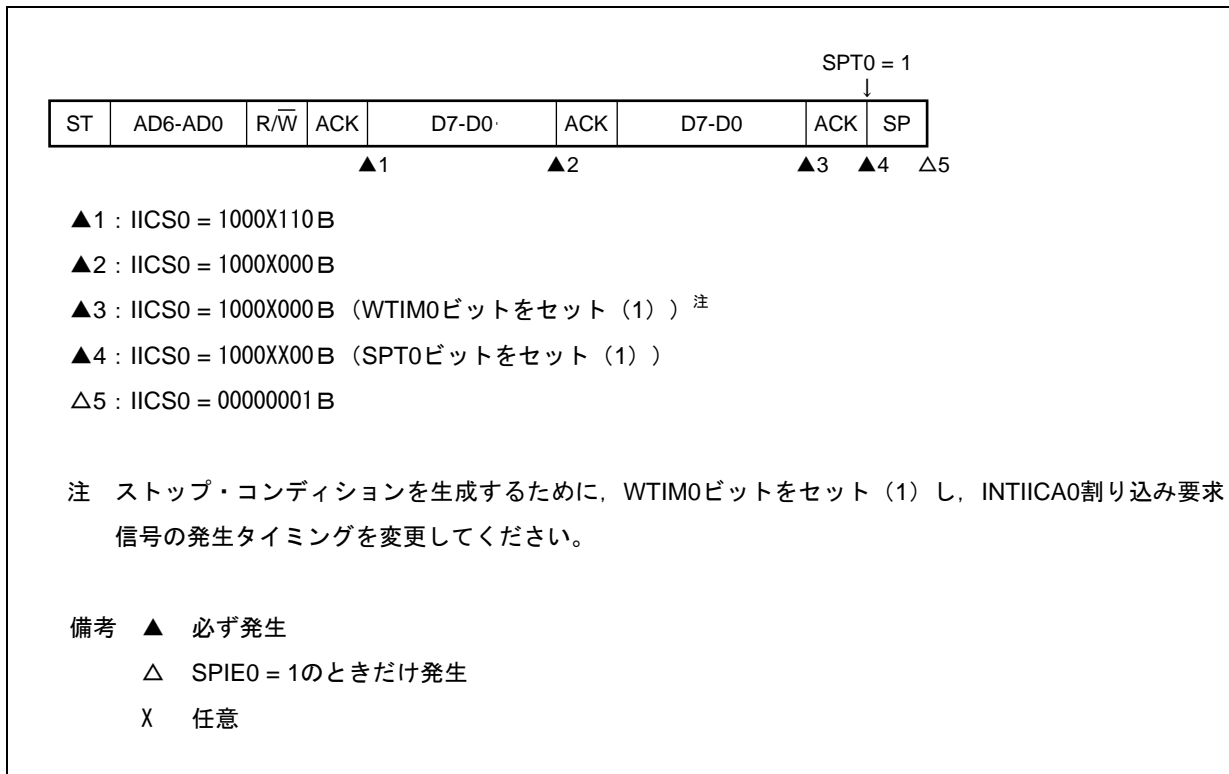
次に、データの送受信、INTIICA0割り込み要求信号発生タイミングと、INTIICA0信号タイミングでのIICAステータス・レジスタ0 (IICS0) の値を示します。

備考 ST : スタート・コンディション
AD6-AD0 : アドレス
 $\overline{R/W}$: 転送方向指定
ACK : アクノリッジ
D7-D0 : データ
SP : ストップ・コンディション

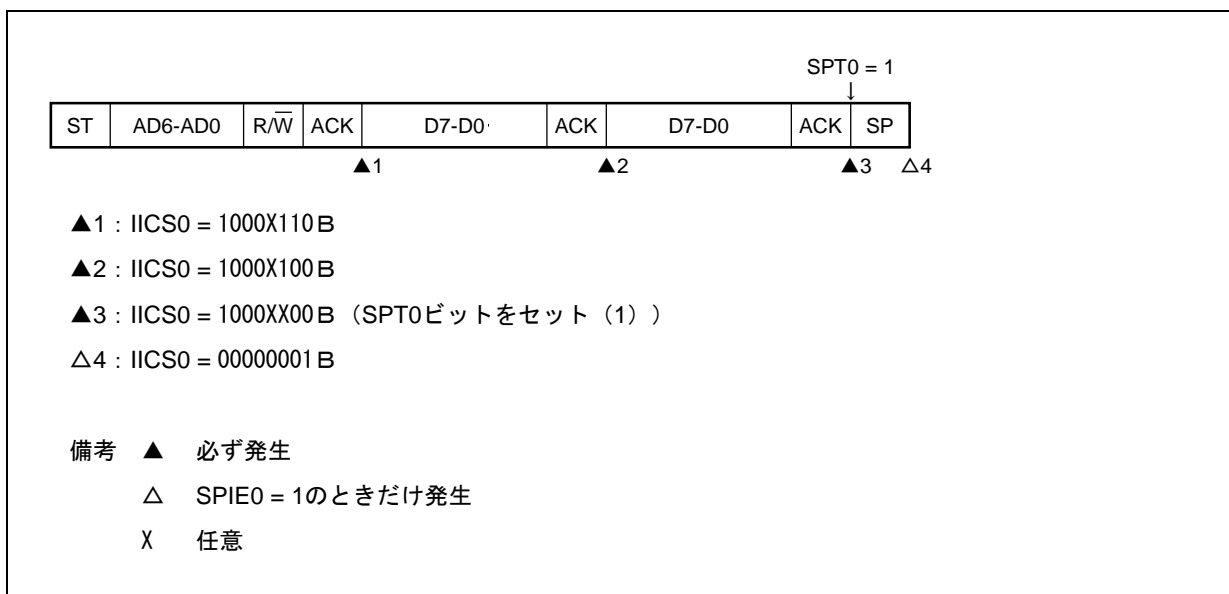
(1) マスタ動作

(a) Start~Address~Data~Data~Stop (送受信)

(i) WTIM0 = 0のとき



(ii) WTIM0 = 1のとき



(b) Start~Address~Data~Start~Address~Data~Stop (リスタート)

(i) WTIMO = 0 のとき

						STT0 = 1 ↓							SPT0 = 1 ↓	
ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP		
			▲1		▲2	▲3				▲4		▲5	▲6	△7

▲1 : IICS0 = 1000X110 B
 ▲2 : IICS0 = 1000X000 B (WTIMOビットをセット (1) 注1)
 ▲3 : IICS0 = 1000XX00 B (WTIMOビットをクリア (0) 注2, STT0ビットをセット (1))
 ▲4 : IICS0 = 1000X110 B
 ▲5 : IICS0 = 1000X000 B (WTIMOビットをセット (1) 注3)
 ▲6 : IICS0 = 1000XX00 B (SPT0ビットをセット (1))
 △7 : IICS0 = 00000001 B

注1. スタート・コンディションを生成するために、WTIMOビットをセット (1) し、INTIICA0割り込み要求信号の発生タイミングを変更してください。
 2. 設定を元に戻すために、WTIMOビットをクリア (0) してください。
 3. ストップ・コンディションを生成するために、WTIMOビットをセット (1) し、INTIICA0割り込み要求信号の発生タイミングを変更してください。

備考 ▲ 必ず発生
 △ SPIE0 = 1 のときだけ発生
 X 任意

(ii) WTIMO = 1 のとき

						STT0 = 1 ↓							SPT0 = 1 ↓	
ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP		
			▲1		▲2					▲3		▲4	△5	

▲1 : IICS0 = 1000X110 B
 ▲2 : IICS0 = 1000XX00 B (STT0ビットをセット (1))
 ▲3 : IICS0 = 1000X110 B
 ▲4 : IICS0 = 1000XX00 B (SPT0ビットをセット (1))
 △5 : IICS0 = 00000001 B

備考 ▲ 必ず発生
 △ SPIE0 = 1 のときだけ発生
 X 任意

(c) Start~Code~Data~Data~Stop (拡張コード送信)

(i) WTIM0 = 0 のとき

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
			▲1		▲2		▲3 ▲4	△5

SPT0 = 1
↓

▲1 : IICS0 = 1010X110 B
 ▲2 : IICS0 = 1010X000 B
 ▲3 : IICS0 = 1010X000 B (WTIM0ビットをセット (1) 注)
 ▲4 : IICS0 = 1010XX00 B (SPT0ビットをセット (1))
 △5 : IICS0 = 00000001 B

注 ストップ・コンディションを生成するために、WTIM0ビットをセット (1) し、INTIICA0割り込み要求信号の発生タイミングを変更してください。

備考 ▲ 必ず発生
 △ SPIE0 = 1 のときだけ発生
 X 任意

(ii) WTIM0 = 1 のとき

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
			▲1		▲2		▲3	△4

SPT0 = 1
↓

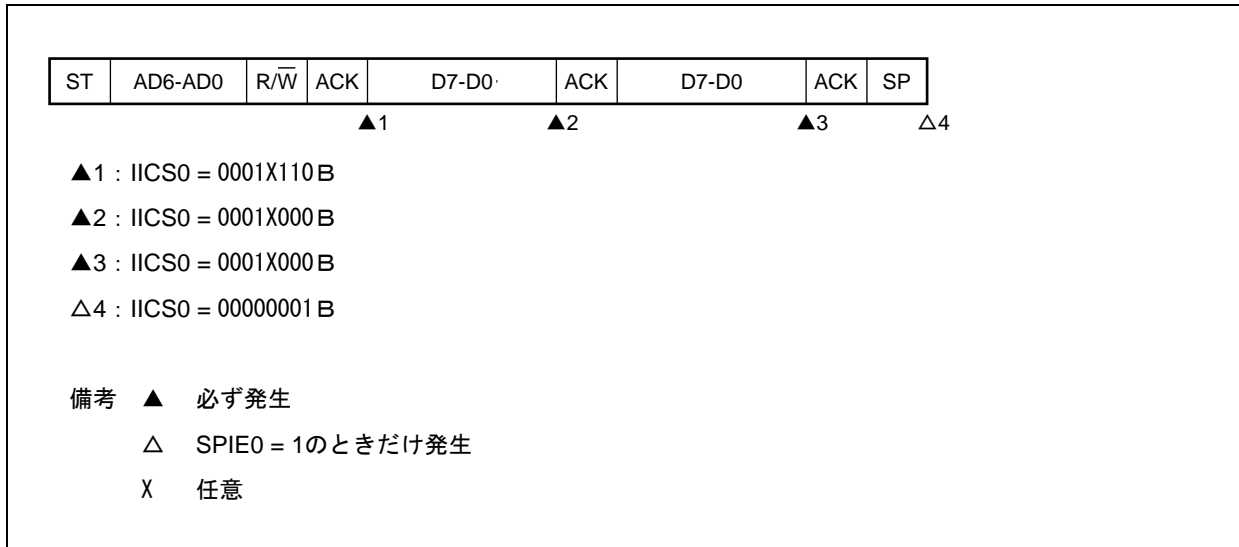
▲1 : IICS0 = 1010X110 B
 ▲2 : IICS0 = 1010X100 B
 ▲3 : IICS0 = 1010XX00 B (SPT0ビットをセット (1))
 △4 : IICS0 = 00001001 B

備考 ▲ 必ず発生
 △ SPIE0 = 1 のときだけ発生
 X 任意

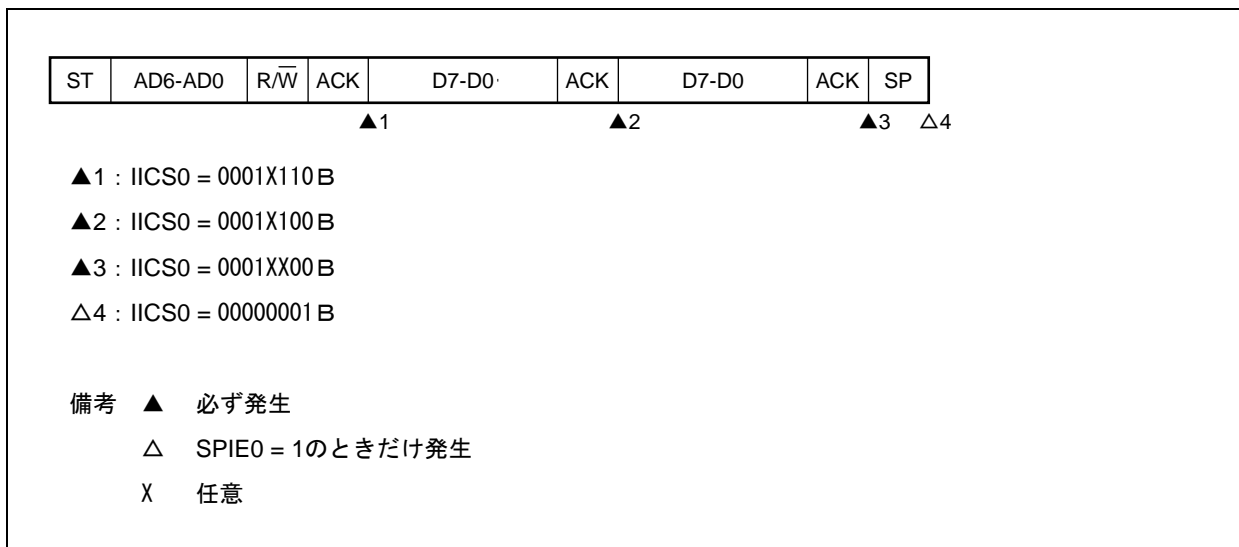
(2) スレーブ動作 (スレーブ・アドレス受信時)

(a) Start~Address~Data~Data~Stop

(i) WTIM0 = 0のとき

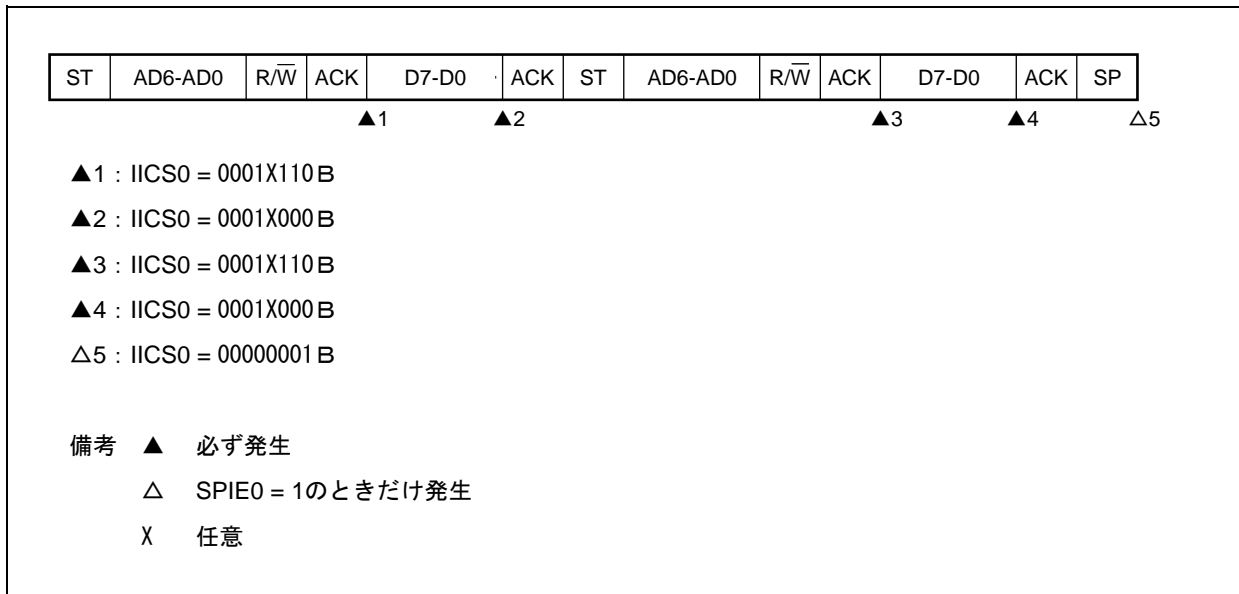


(ii) WTIM0 = 1のとき

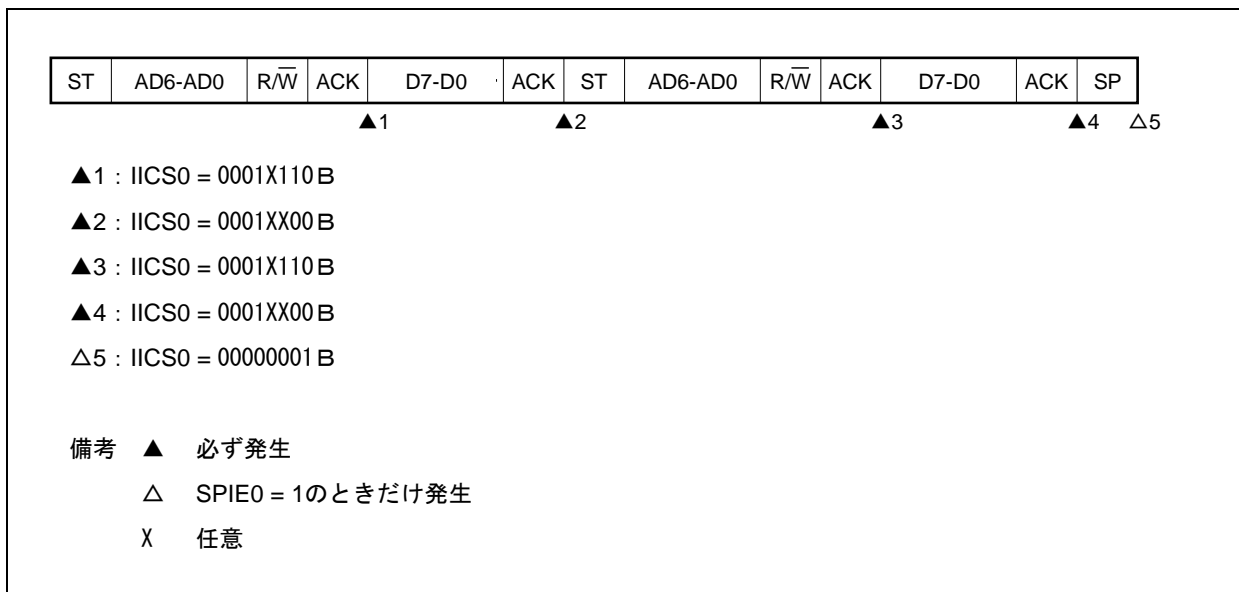


(b) Start~Address~Data~Start~Address~Data~Stop

(i) WTIM0 = 0 のとき (リスタート後, SVA0一致)

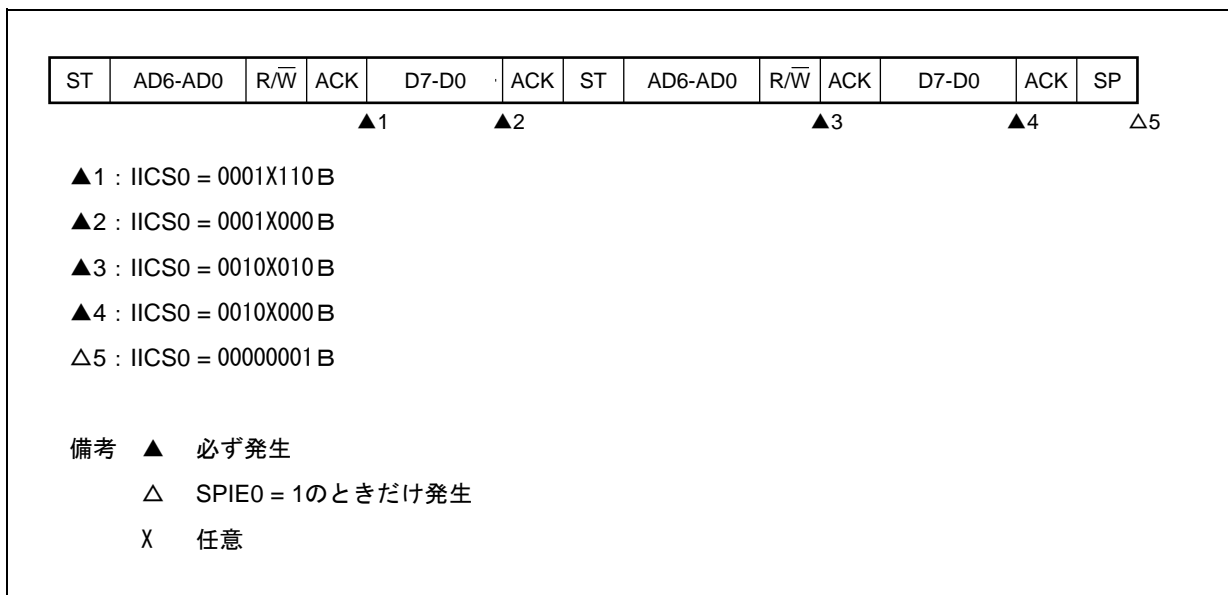


(ii) WTIM0 = 1 のとき (リスタート後, SVA0一致)

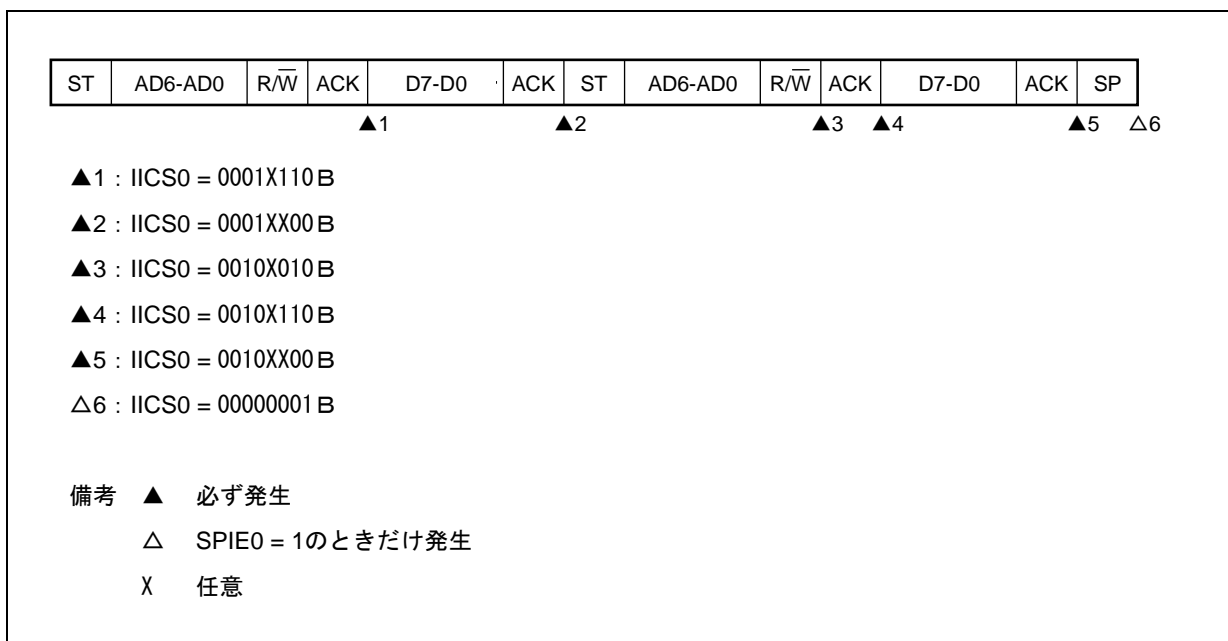


(c) Start~Address~Data~Start~Code~Data~Stop

(i) WTIM0 = 0のとき (リスタート後, アドレス不一致 (拡張コード))

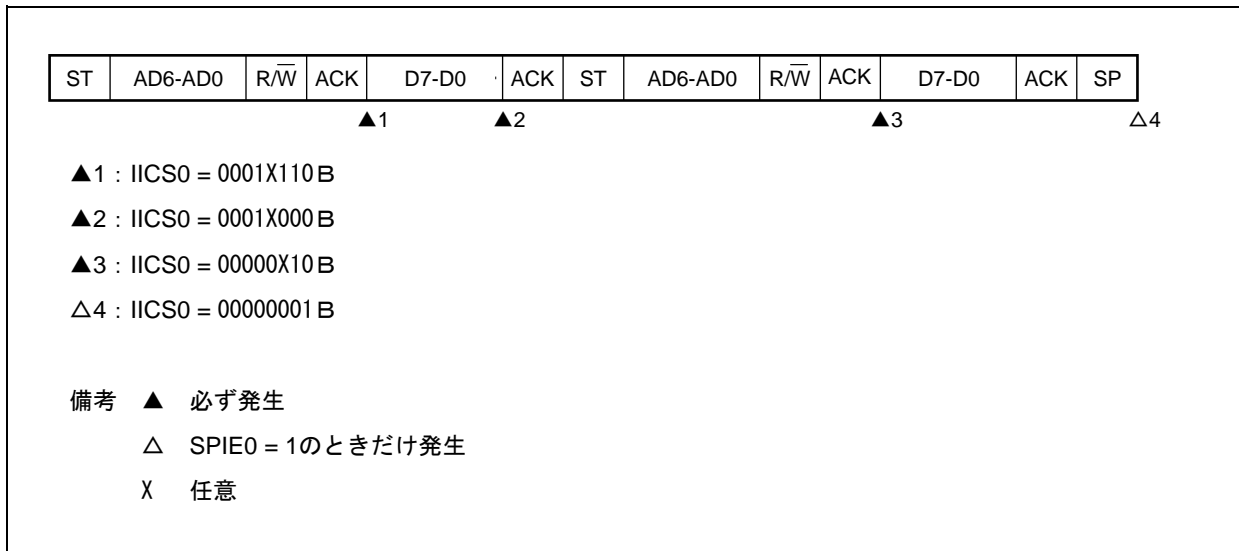


(ii) WTIM0 = 1のとき (リスタート後, アドレス不一致 (拡張コード))

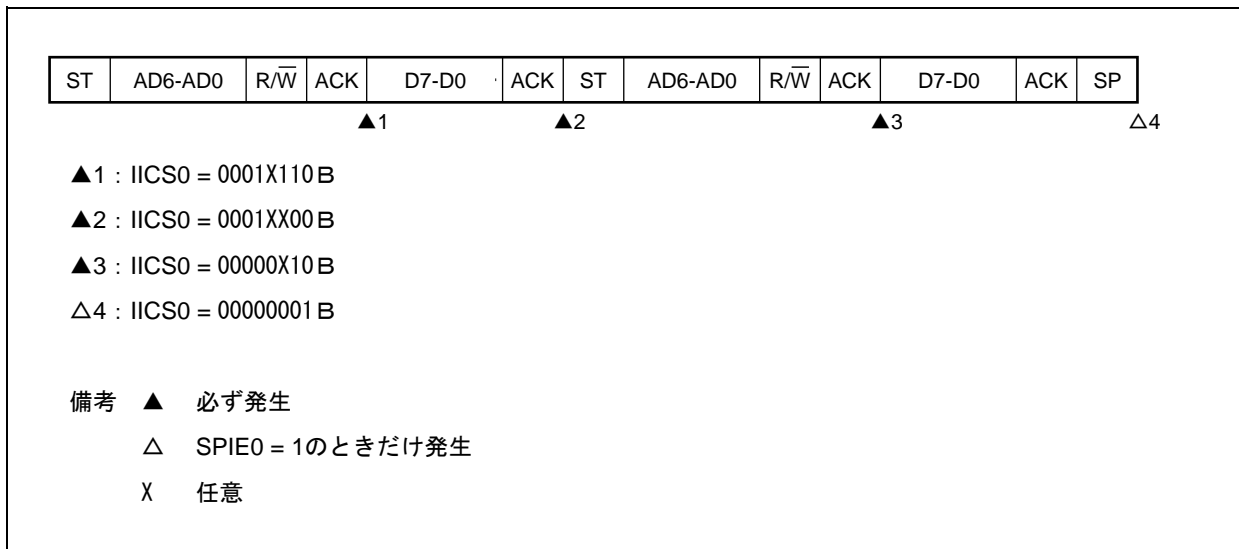


(d) Start~Address~Data~Start~Address~Data~Stop

(i) WTIM0 = 0 のとき (リスタート後, アドレス不一致 (拡張コード以外))



(ii) WTIM0 = 1 のとき (リスタート後, アドレス不一致 (拡張コード以外))

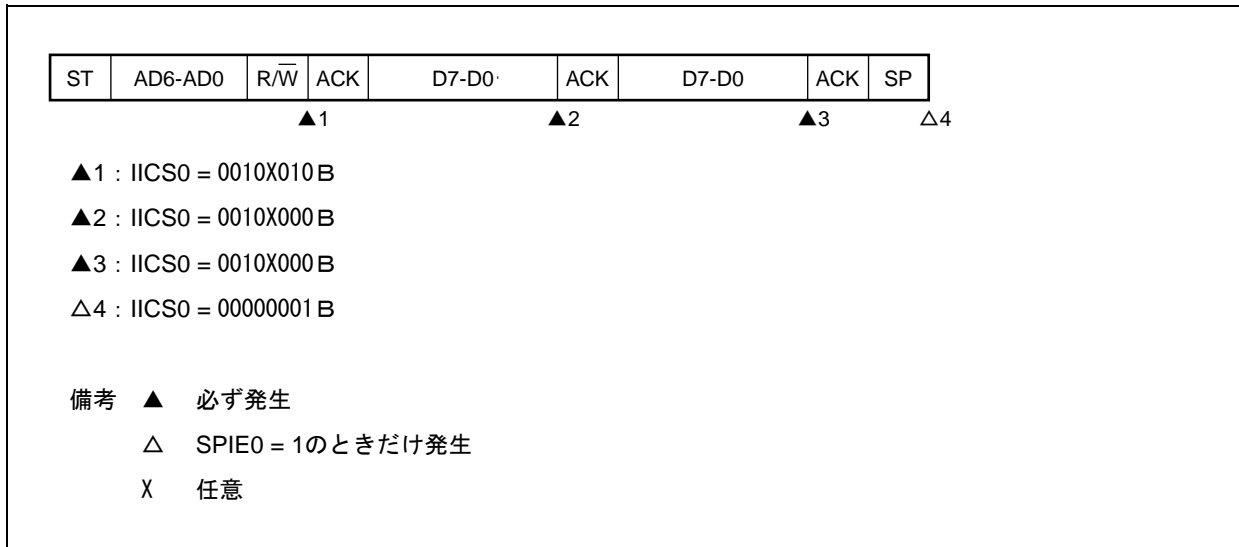


(3) スレーブ動作（拡張コード受信時）

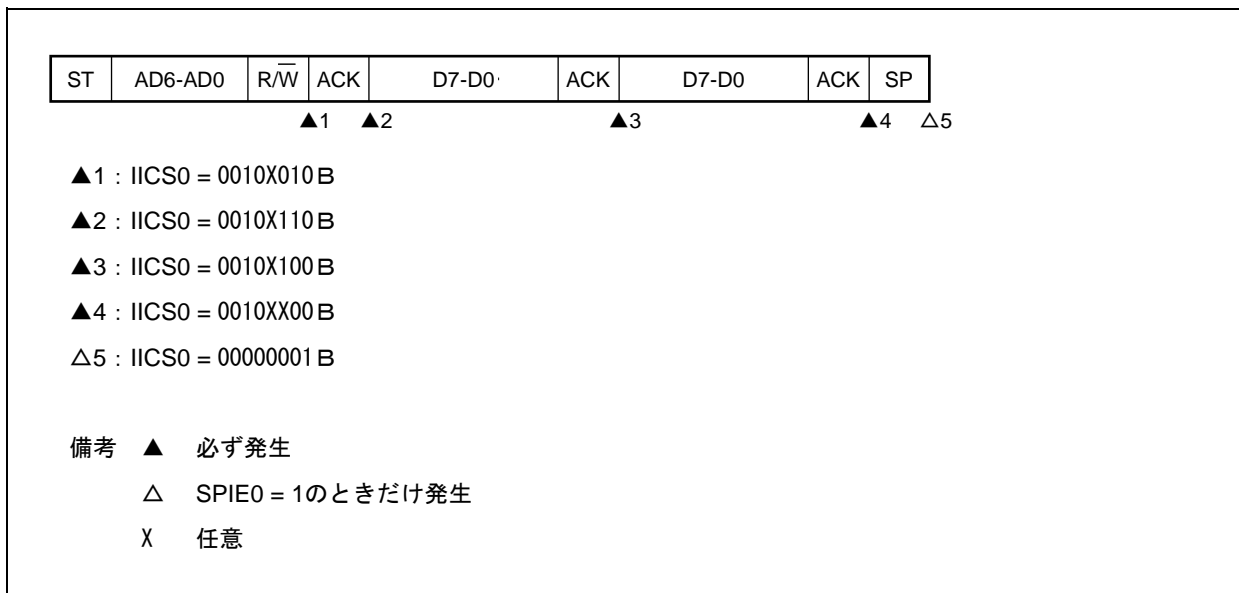
拡張コード受信時は、常に通信に参加しています

(a) Start～Code～Data～Data～Stop

(i) WTIM0 = 0 のとき

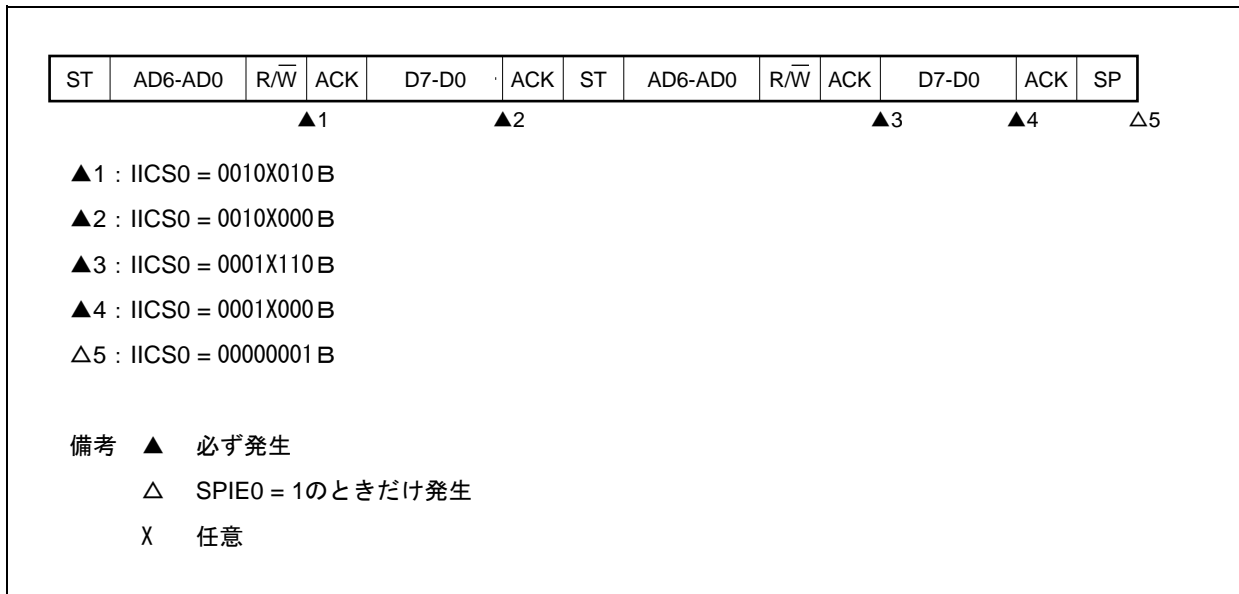


(ii) WTIM0 = 1 のとき

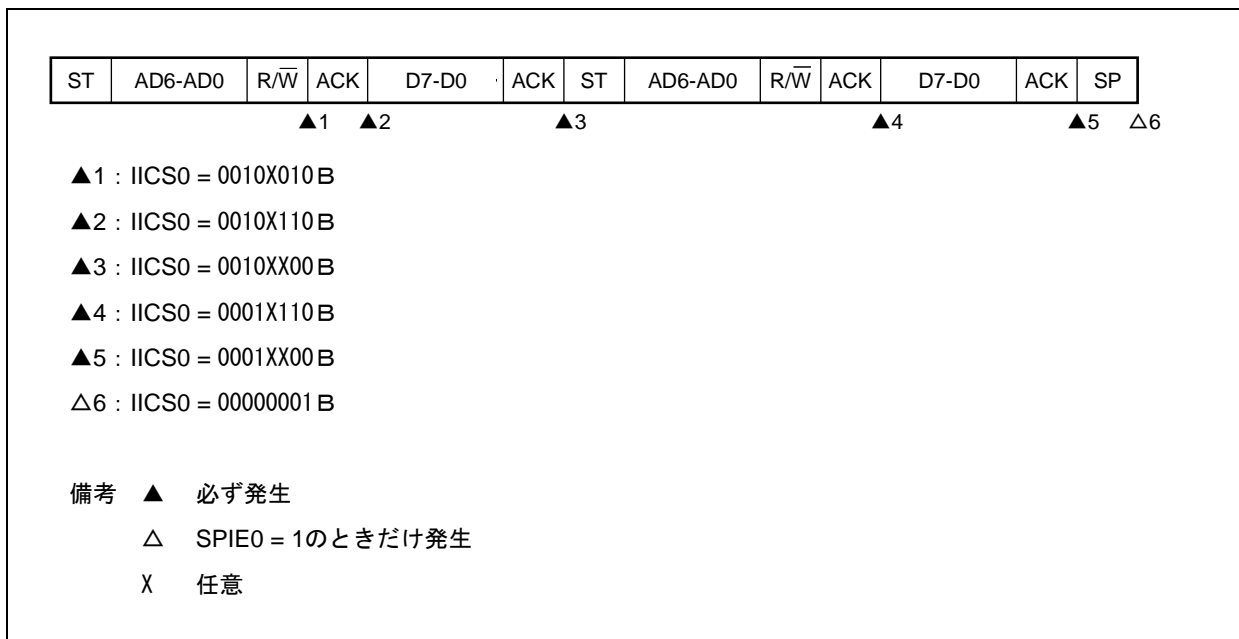


(b) Start~Code~Data~Start~Address~Data~Stop

(i) WTIM0 = 0 のとき (リスタート後, SVA0一致)

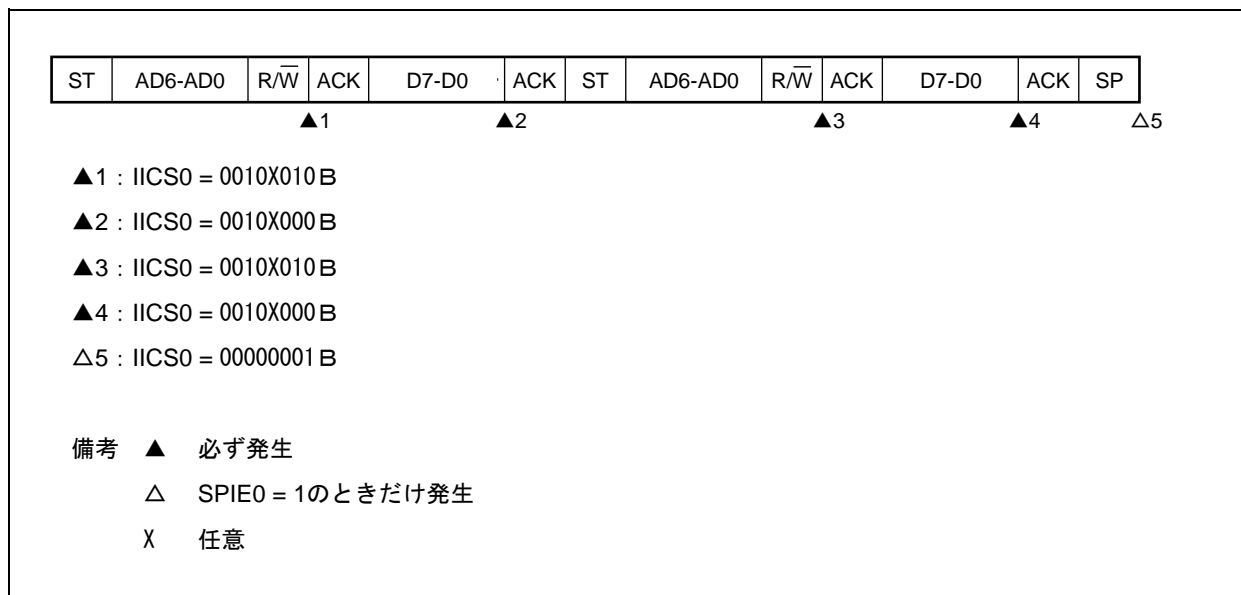


(ii) WTIM0 = 1 のとき (リスタート後, SVA0一致)

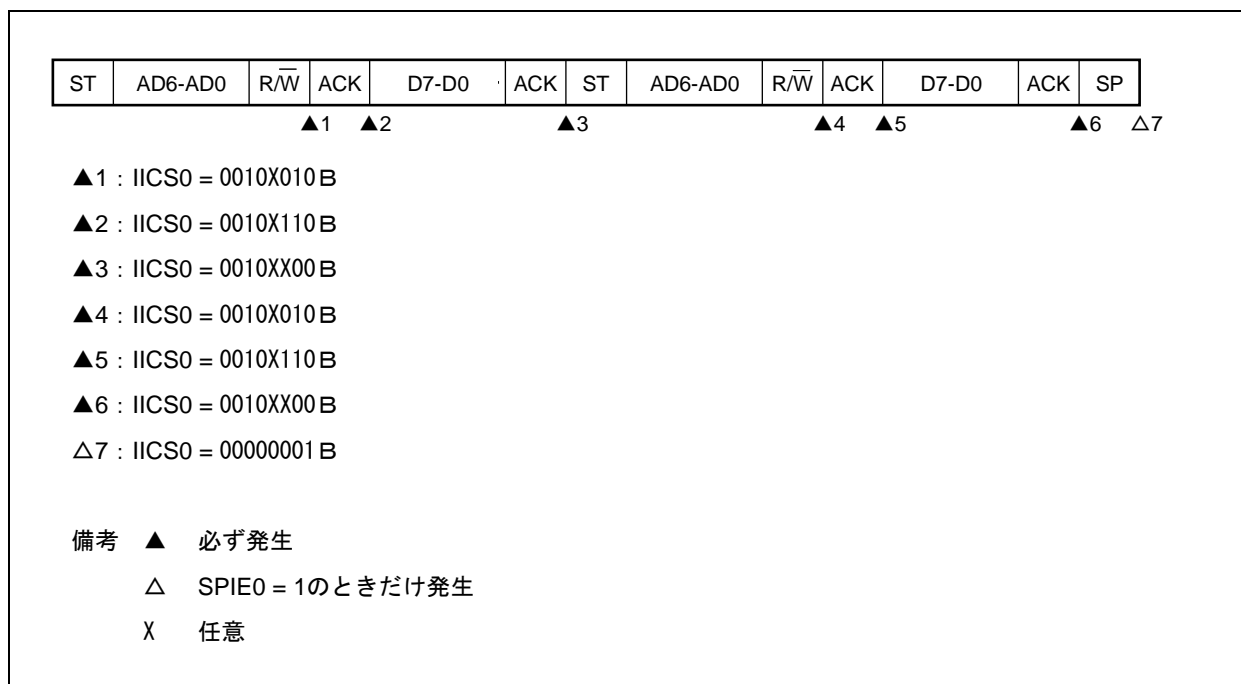


(c) Start~Code~Data~Start~Code~Data~Stop

(i) WTIM0 = 0 のとき (リスタート後, 拡張コード受信)

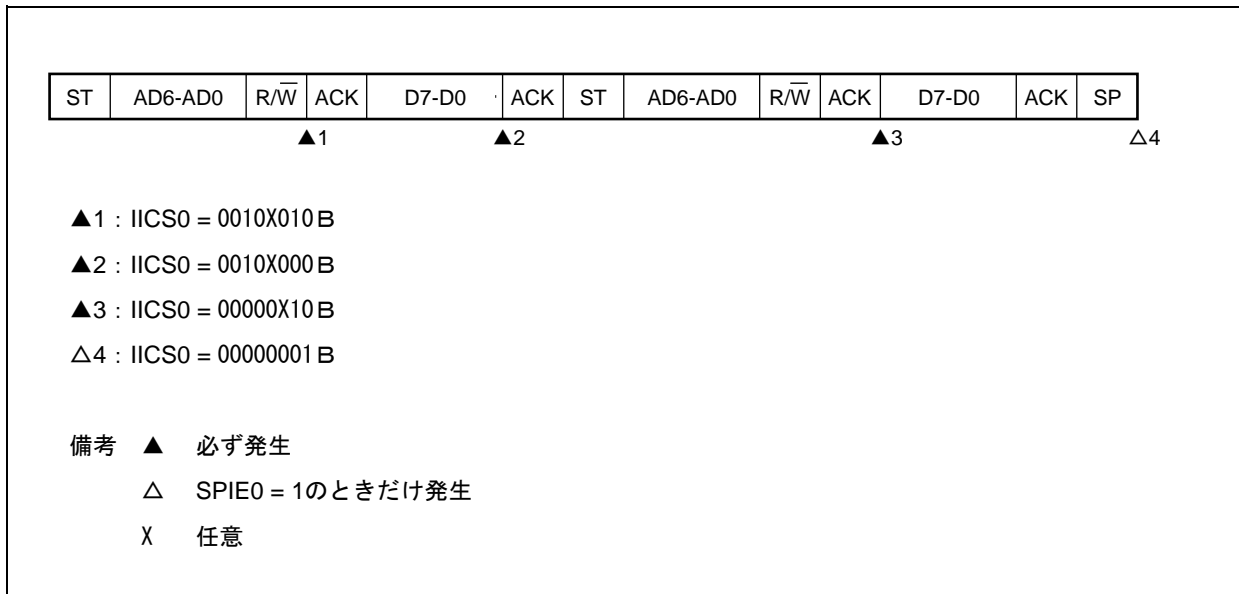


(ii) WTIM0 = 1 のとき (リスタート後, 拡張コード受信)

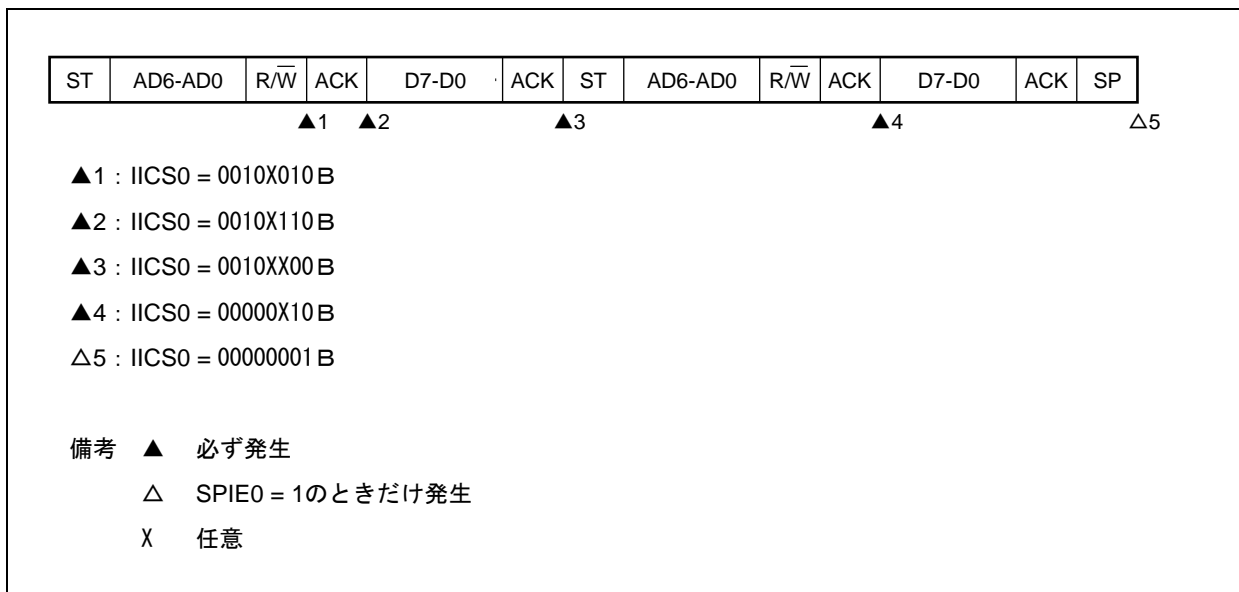


(d) Start~Code~Data~Start~Address~Data~Stop

(i) WTIMO = 0 のとき (リスタート後, アドレス不一致 (拡張コード以外))

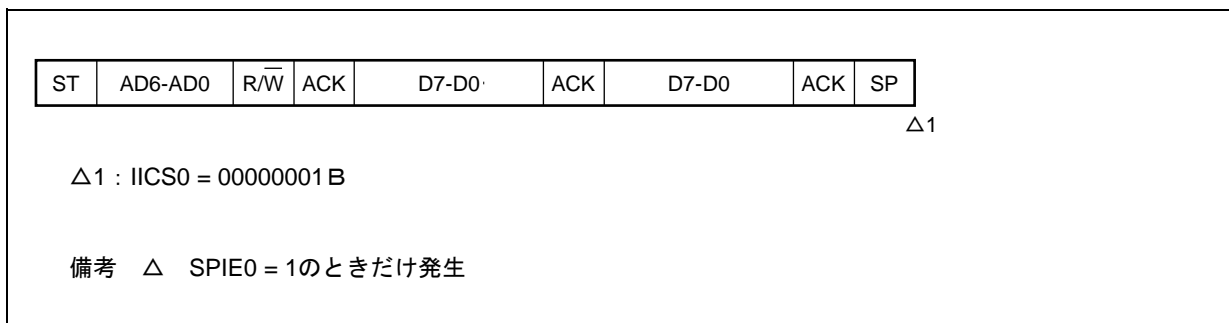


(ii) WTIMO = 1 のとき (リスタート後, アドレス不一致 (拡張コード以外))



(4) 通信不参加の動作

(a) Start~Code~Data~Data~Stop

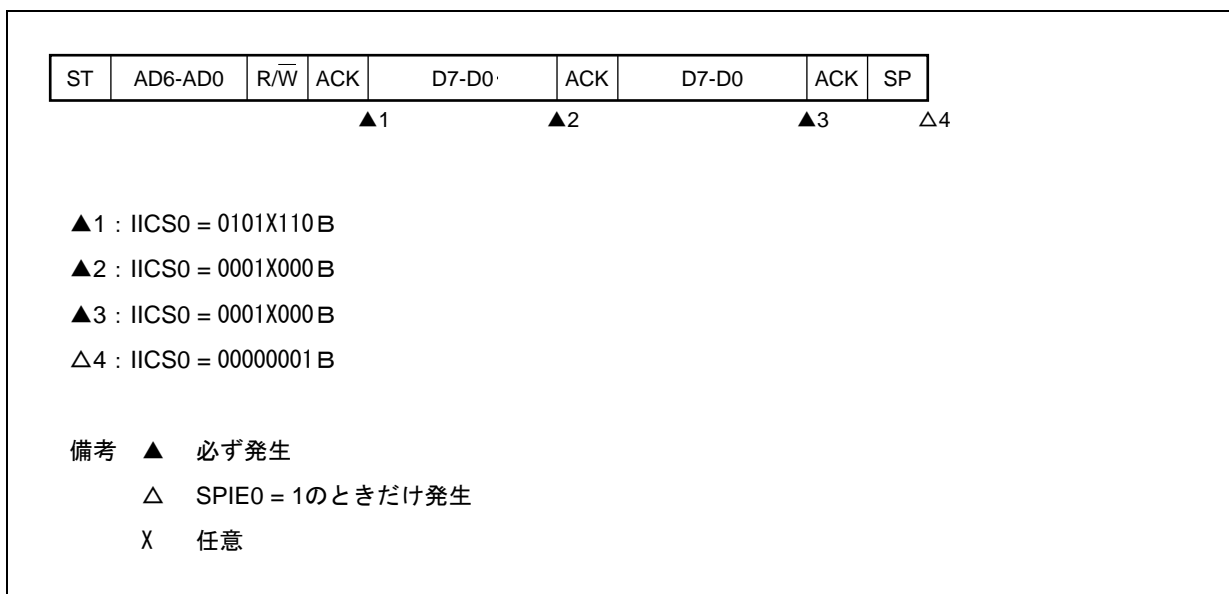


(5) アービトレーション負けの動作 (アービトレーション負けのあと、スレーブとして動作)

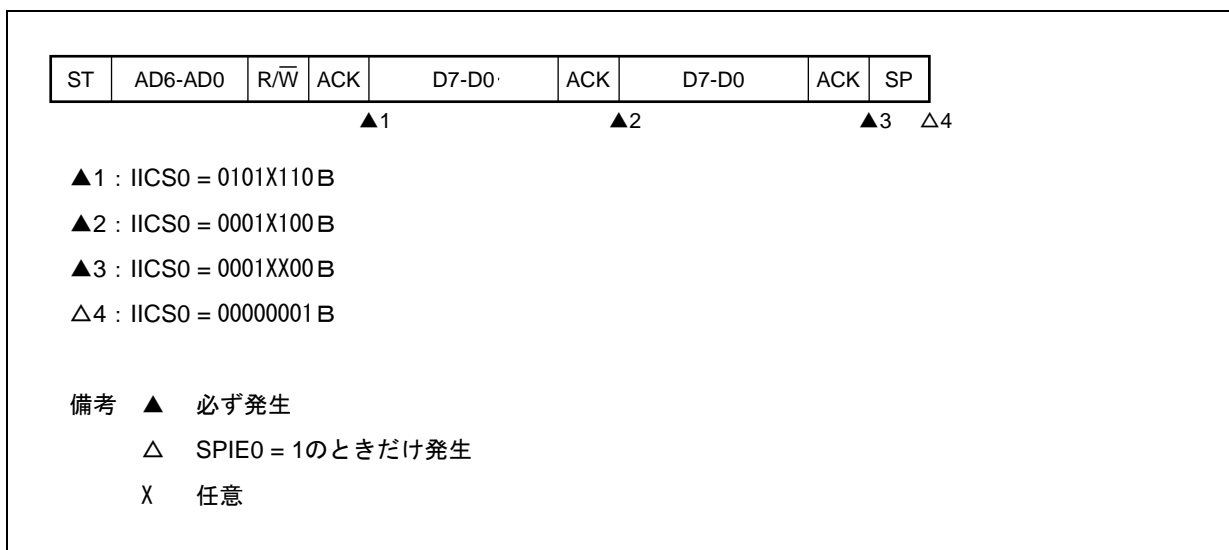
マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は、INTIICA0 割り込み要求信号の発生ごとに MSTS0 ビットをリードし、アービトレーション結果を確認してください。

(a) スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合

(i) WTIM0 = 0のとき

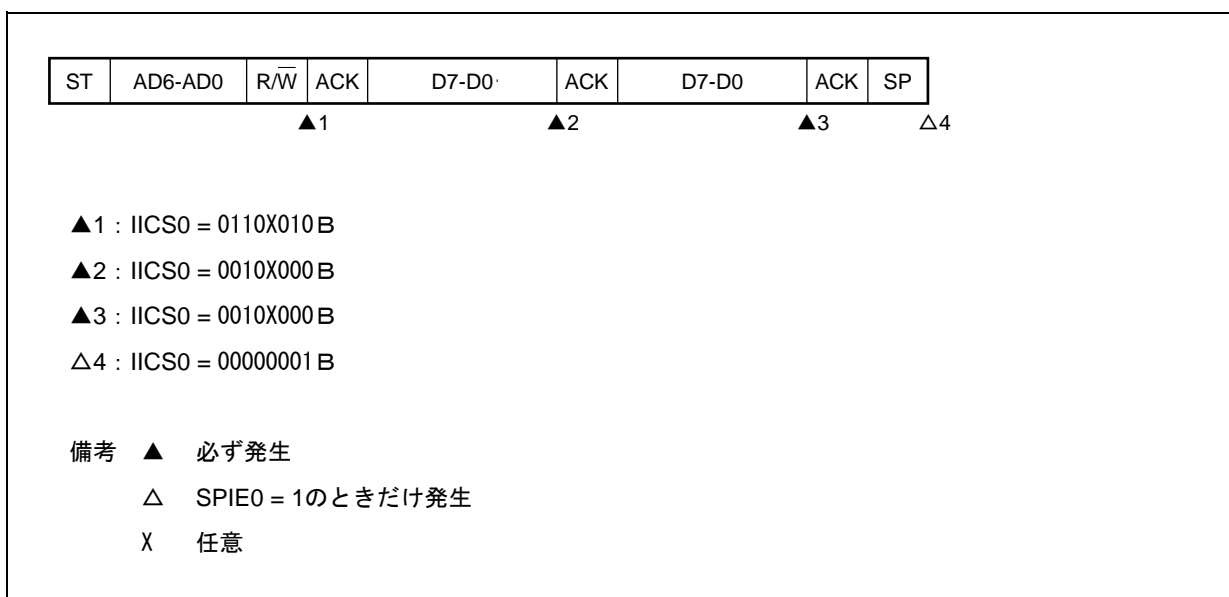


(ii) WTIM0 = 1 のとき

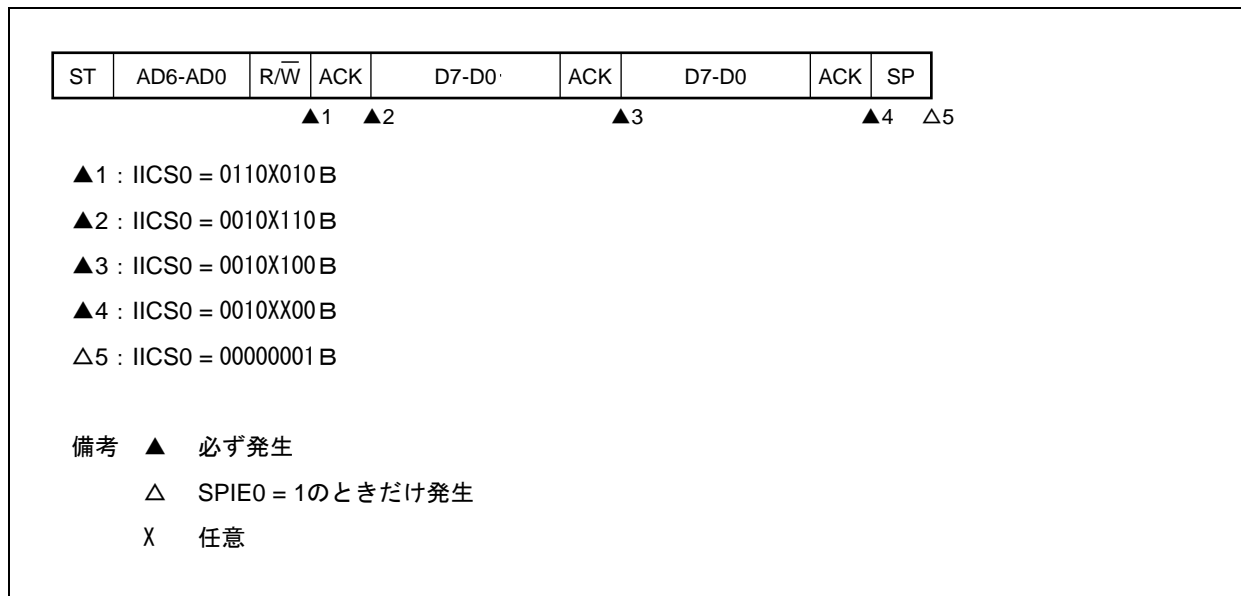


(b) 拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合

(i) WTIM0 = 0 のとき



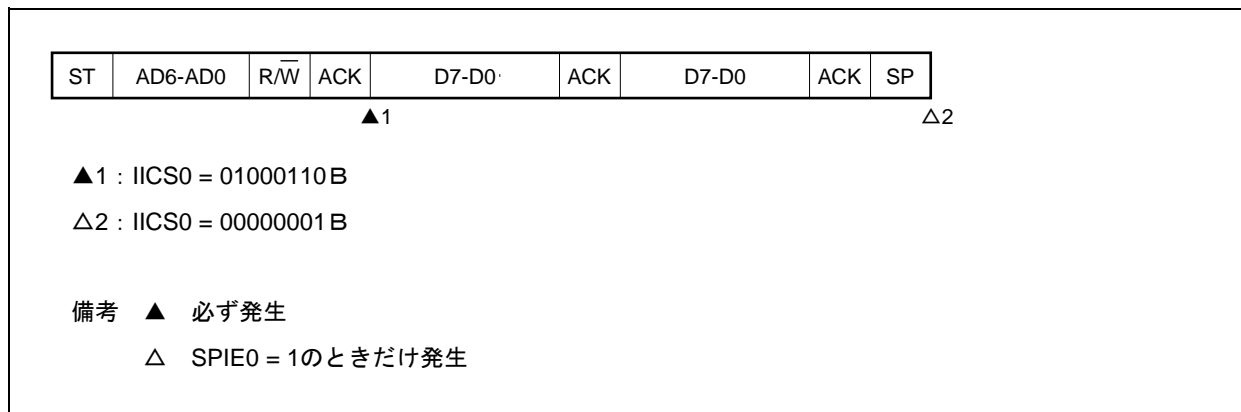
(ii) WTIM0 = 1 のとき



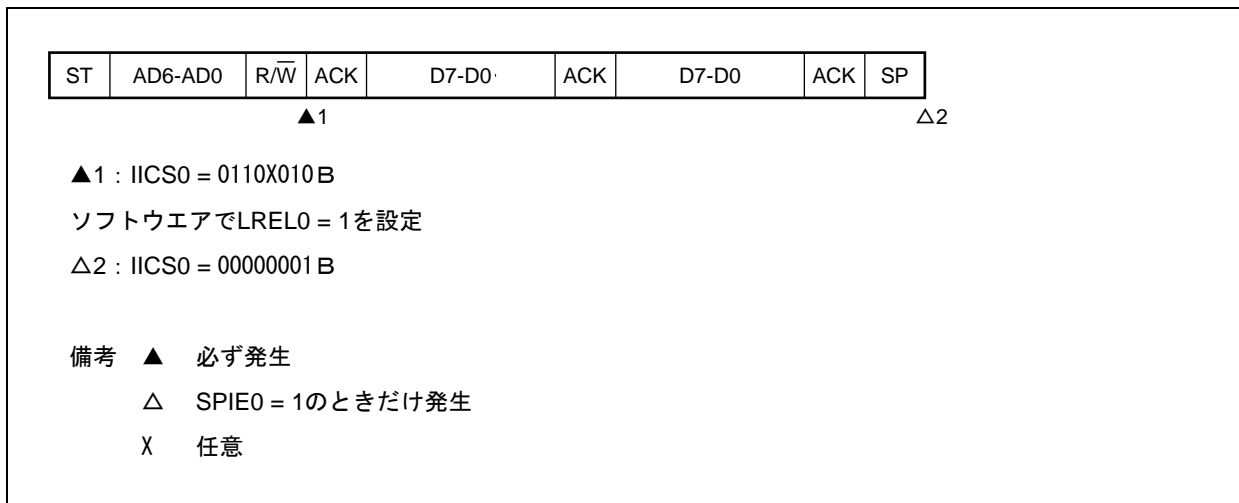
(6) アービトレーション負けの動作 (アービトレーション負けのあと, 不参加)

マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は, INTIICA0 割り込み要求信号の発生ごとに MSTS0 ビットをリードし, アービトレーション結果を確認してください。

(a) スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合 (WTIM0 = 1 のとき)

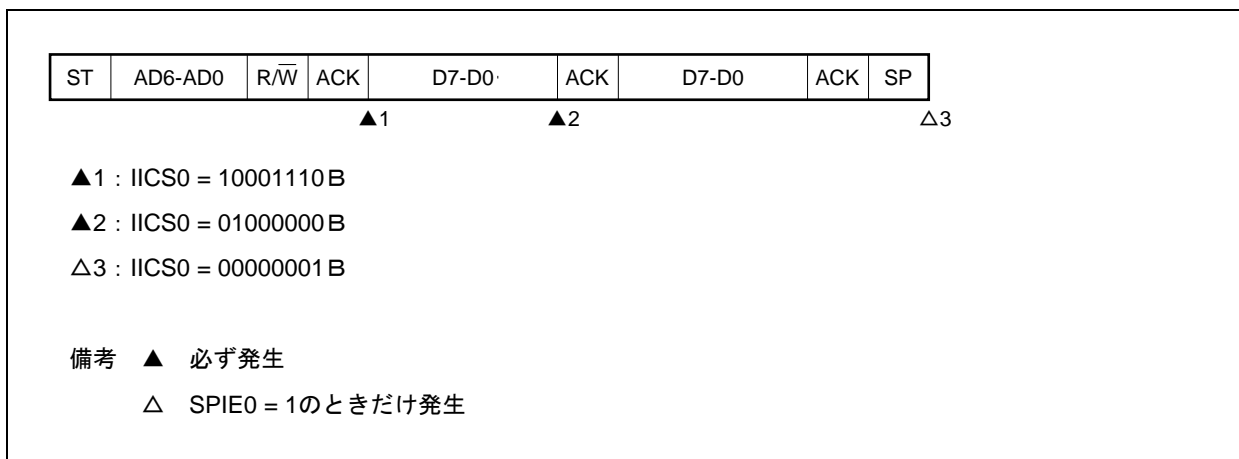


(b) 拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合

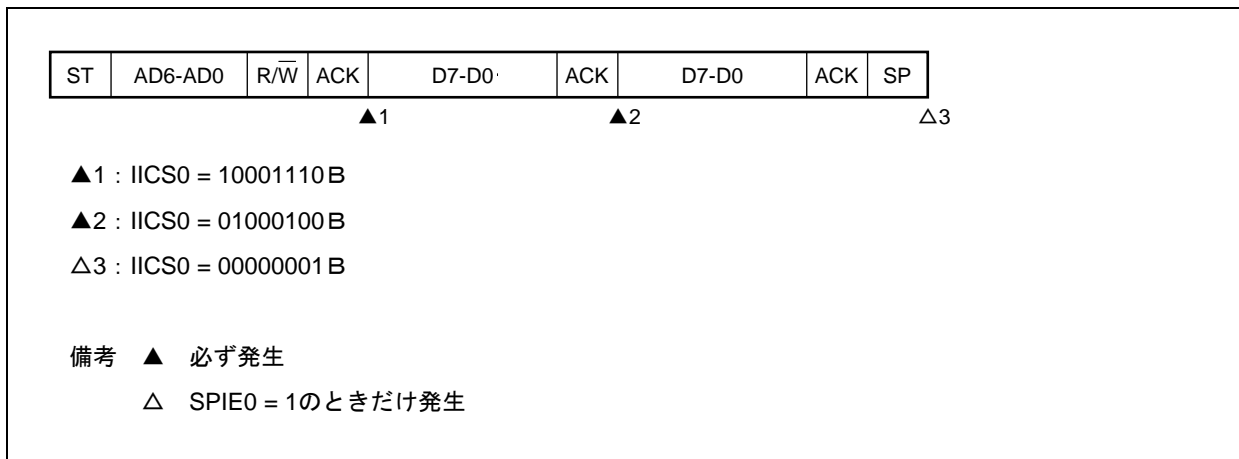


(c) データ転送時にアービトレーションに負けた場合

(i) WTIM0 = 0のとき

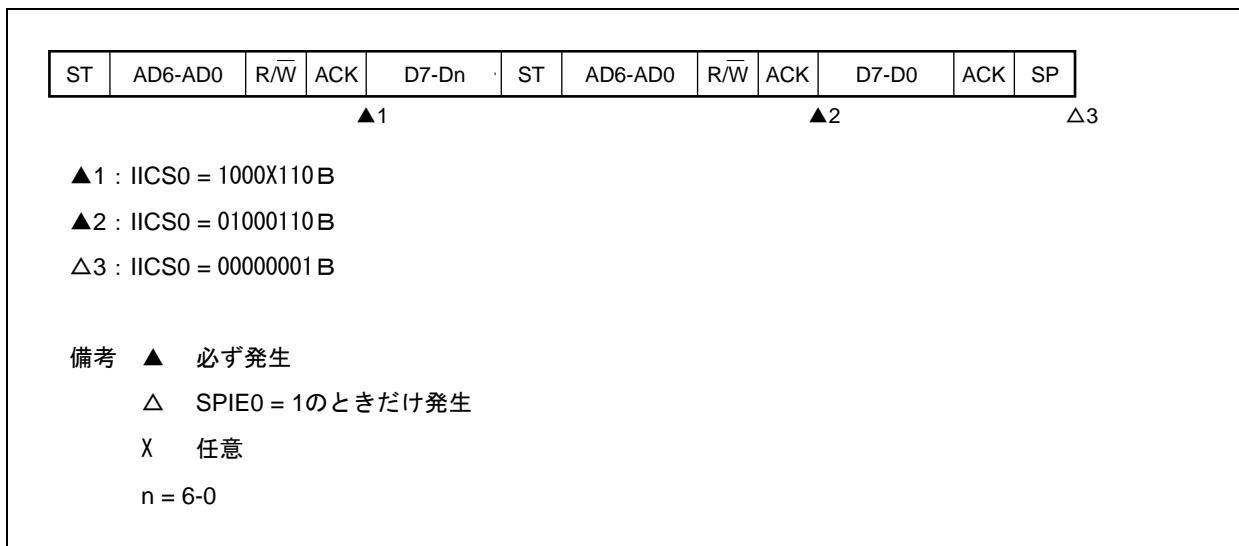


(ii) WTIM0 = 1 のとき

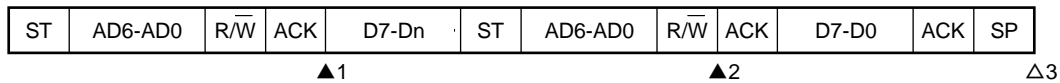


(d) データ転送時にリスタート・コンディションで負けた場合

(i) 拡張コード以外 (例 SVA0 不一致)



(ii) 拡張コード



▲1 : IICS0 = 1000X110 B

▲2 : IICS0 = 01100010 B

ソフトウェアでLREL0 = 1を設定

△3 : IICS0 = 00000001 B

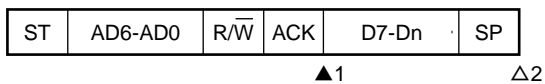
備考 ▲ 必ず発生

△ SPIE0 = 1のときだけ発生

X 任意

n = 6-0

(e) データ転送時にストップ・コンディションで負けた場合



▲1 : IICS0 = 10000110 B

△2 : IICS0 = 01000001 B

備考 ▲ 必ず発生

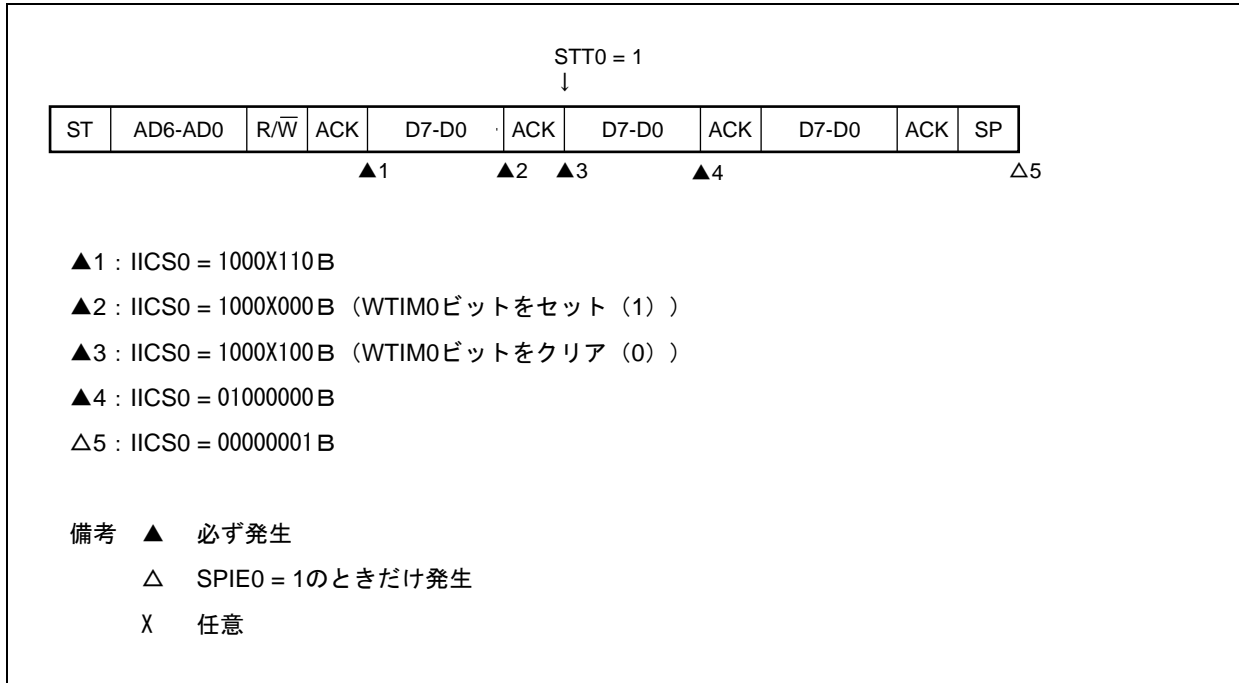
△ SPIE0 = 1のときだけ発生

X 任意

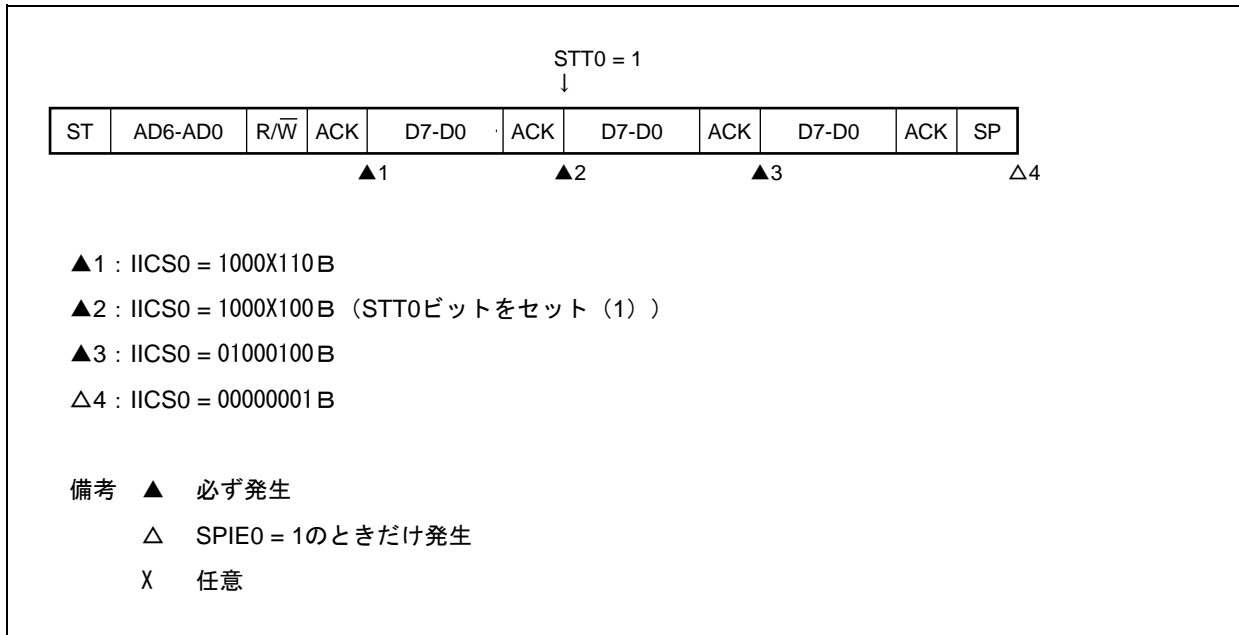
n = 6-0

(f) リスタート・コンディションを発生しようとしたが、データがロウ・レベルでアービトレーションに負けた場合

(i) WTIMO = 0 のとき

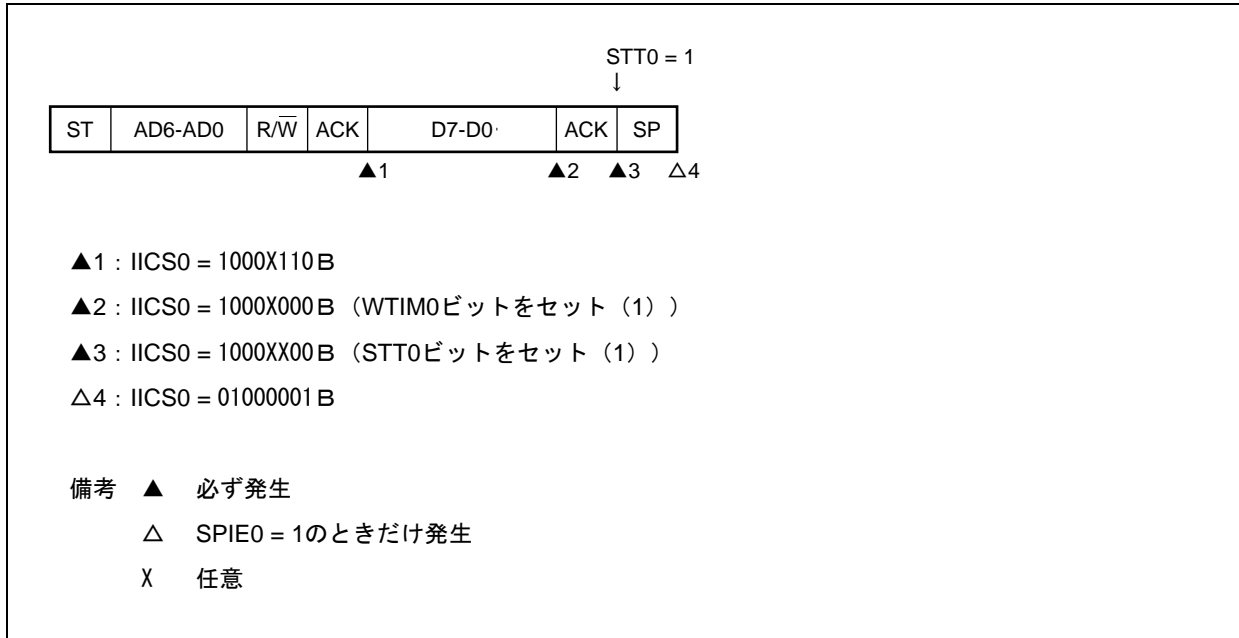


(ii) WTIMO = 1 のとき

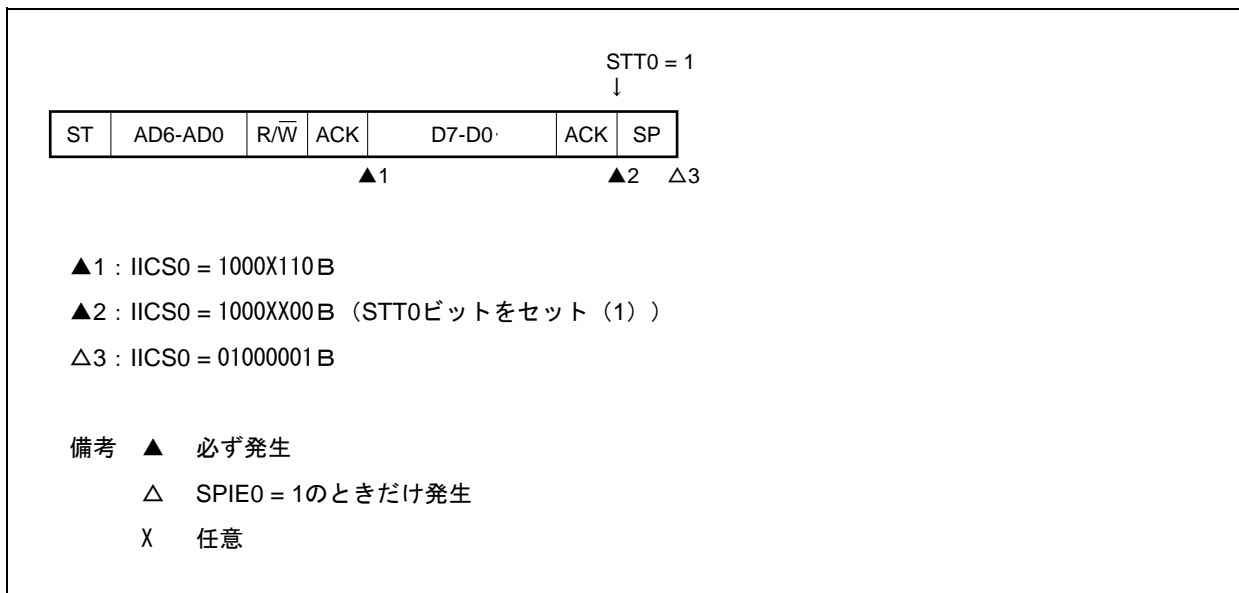


(g) リスタート・コンディションを発生しようとして、ストップ・コンディションでアービトレーションに負けた場合

(i) WTIM0 = 0 のとき

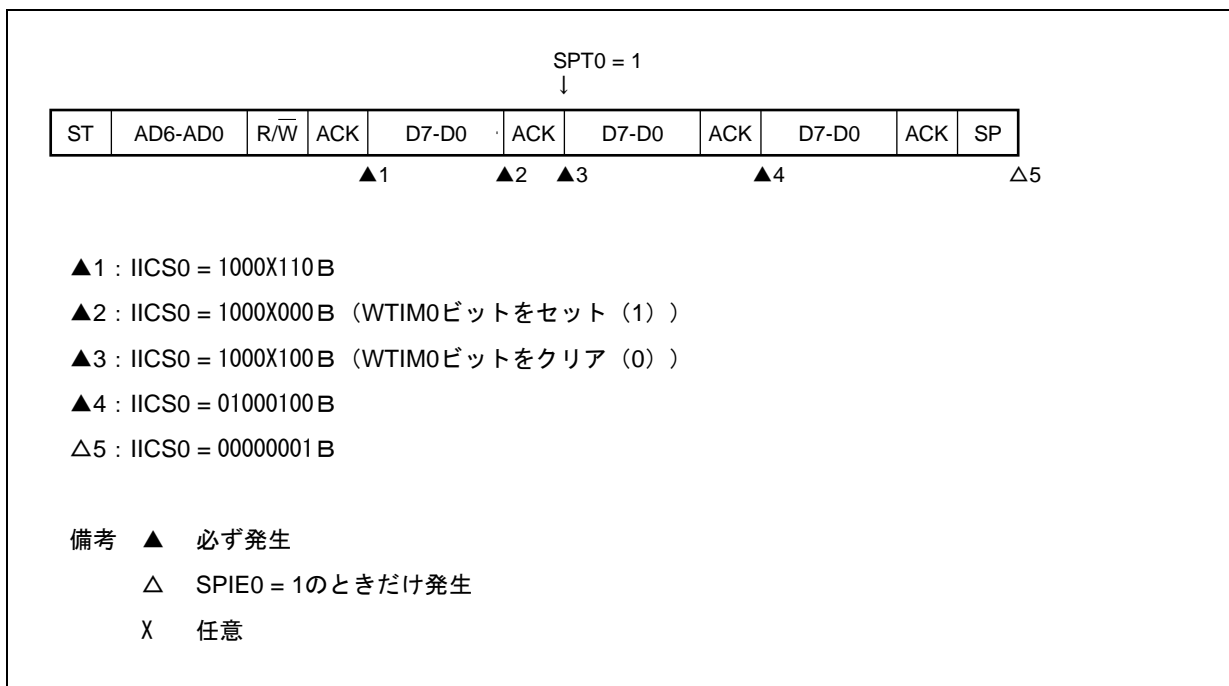


(ii) WTIM0 = 1 のとき

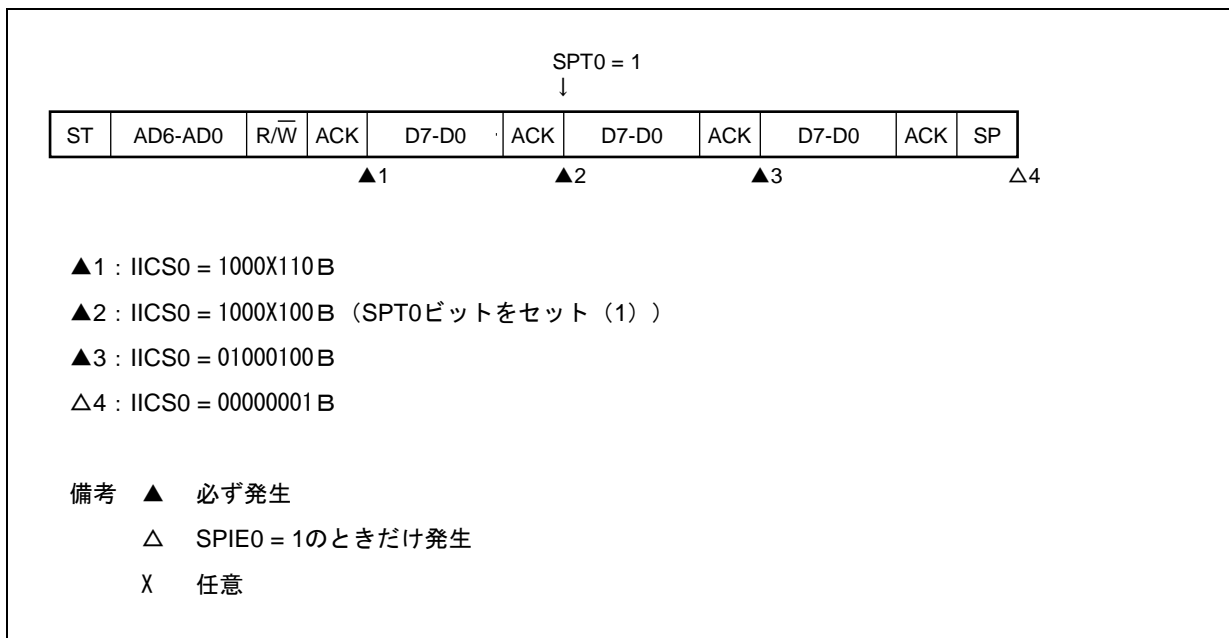


(h) ストップ・コンディションを発生しようとしたが、データがロウ・レベルでアービトレーションに負けた場合

(i) WTIM0 = 0 のとき



(ii) WTIM0 = 1 のとき



13.6 タイミング・チャート

I²Cバス・モードでは、マスタがシリアル・バス上にアドレスを出力することで複数のスレーブ・デバイスの中から通信対象となるスレーブ・デバイスを1つ選択します。

マスタは、スレーブ・アドレスの次にデータの転送方向を示すTRC0ビット (IICAステータス・レジスタ0 (IICS0) のビット3) を送信し、スレーブとのシリアル通信を開始します。

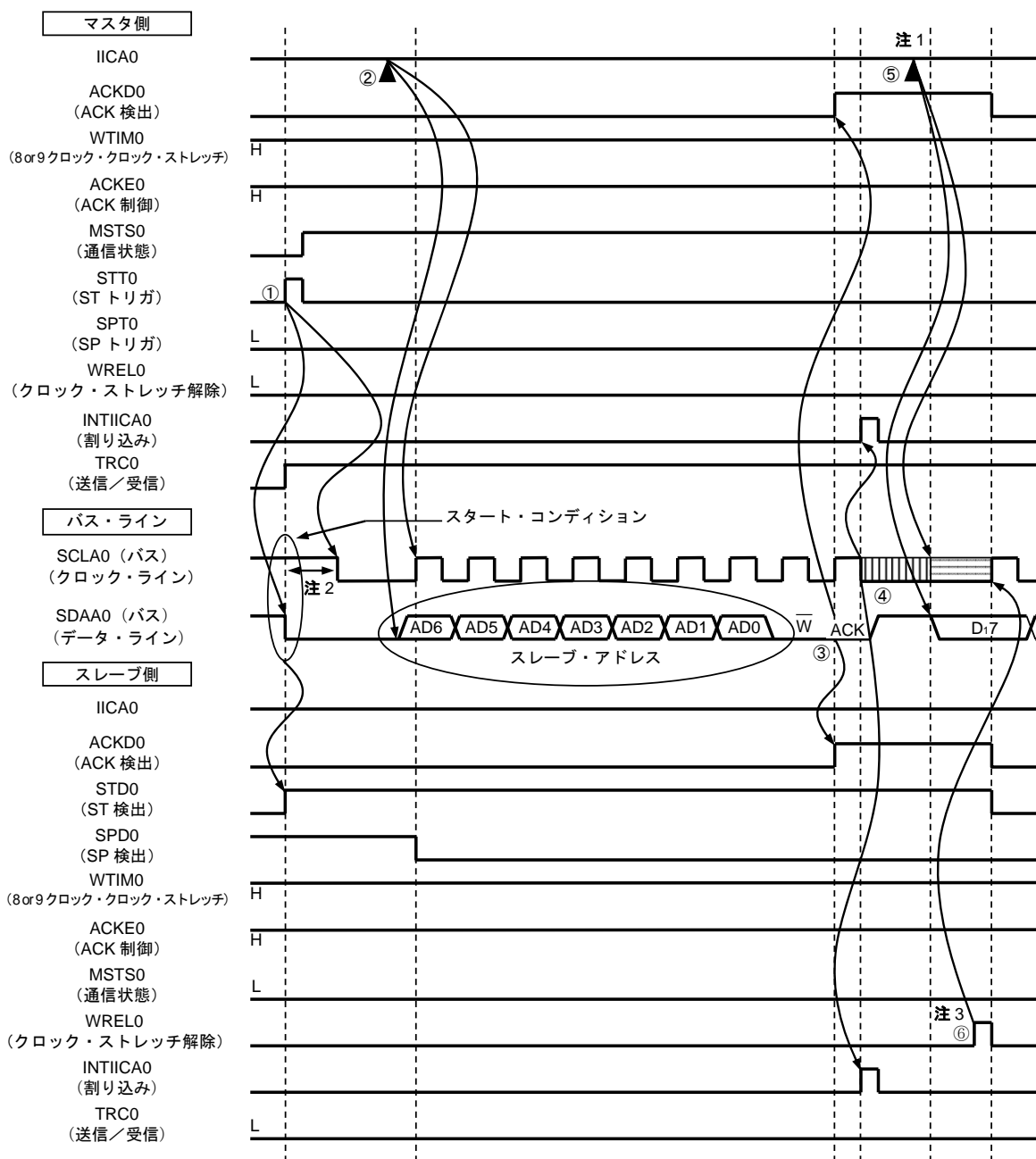
データ通信のタイミング・チャートを図13-32, 図13-33に示します。

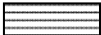

シリアル・クロック (SCLA0) の立ち下がりに同期してIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) のシフト動作が行われ、送信データがSOラッチに転送され、SDAA0端子からMSBファーストで出力されます。

また、SCLA0の立ち上がりでSDAA0端子に入力されたデータがIICA0に取り込まれます。

図13-32 マスタ→スレーブ通信例 (マスタ : 9クロック, スレーブ : 9クロックでクロック・ストレッチ選択) (1/4)

(1) スタート・コンディション～アドレス～データ



 : スレーブによるクロック・ストレッチ
 : マスタ, スレーブによるクロック・ストレッチ

- 注1. マスタ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は、WRELOビットのセットではなく、IICA0へのデータ書き込みで行ってください。
- 注2. SDAA0端子信号が立ち下がってからSCLA0端子信号が立ち下がるまでの時間は、標準モード設定時は4.0 μ s以上、ファースト・モード設定時は0.6 μ s以上です。
- 注3. スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は、IICA0←FFHまたはWRELOビットのセットのどちらかで行ってください。

図13-32 (1) スタート・コンディション～アドレス～データの①～⑥の説明を次に示します。

- ① マスタ側でスタート・コンディション・トリガがセット (STT0 = 1) されると、バス・データ・ライン (SDAA0) が立ち下がり、スタート・コンディション (SCLA0 = 1でSDAA0 = 1→0) が生成されます。その後、スタート・コンディションを検出すると、マスタ側はマスタ通信状態 (MSTS0 = 1) となり、ホールド時間経過後、バス・クロック・ラインが立ち下がり (SCLA0 = 0)、通信準備が完了となります。
- ② マスタ側でIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) にアドレス+W (送信) が書き込まれると、スレーブ・アドレスが送信されます。
- ③ スレーブ側では、受信したアドレスと自局のアドレス (SVA0の値) が一致した場合^注、ハードウェアによりACKがマスタ側へ送信されます。9クロック目の立ち上がり時に、マスタ側でACKが検出 (ACKD0 = 1) されます。
- ④ 9クロック目の立ち下がり、マスタ側の割り込み (INTIICA0: アドレス送信完了割り込み) が発生します。アドレスが一致したスレーブは、クロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) をかけ、割り込み (INTIICA0: アドレス一致割り込み) が発生します^注。
- ⑤ マスタ側がIICA0レジスタに送信データを書き込み、マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。
- ⑥ スレーブ側がクロック・ストレッチを解除 (WRELO = 1) すると、マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。

注 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は、スレーブ側はACKをマスタ側へ返しません (NACK: SDAA0 = 1)。また、スレーブ側のINTIICA0割り込み (アドレス一致割り込み) は発生せず、スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。
ただし、マスタ側はACK, NACKの両方に対して、INTIICA0割り込み (アドレス送信完了割り込み) が発生します。

備考 図13-32の①～⑮は、I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。

図13-32 (1) スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑥

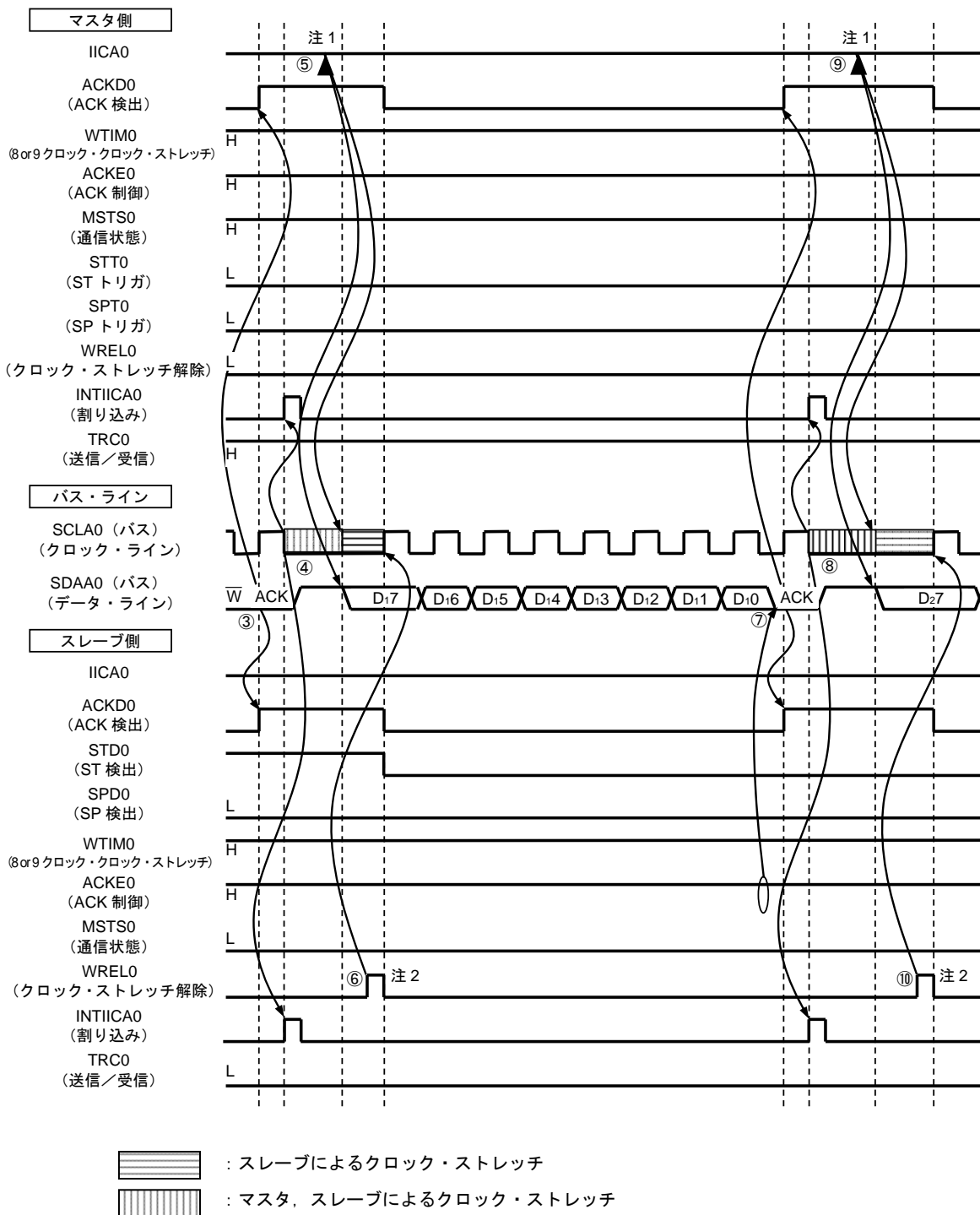
図13-32 (2) アドレス～データ～データでは手順③～⑩

図13-32 (3) データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑦～⑮

について説明しています。

図13-32 マスタ→スレーブ通信例 (マスタ:9クロック, スレーブ:9クロックでクロック・ストレッチ選択) (2/4)

(2) アドレス～データ～データ



- 注1. マスタ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は、WRELOビットのセットではなく、IICA0へのデータ書き込みで行ってください。
- 注2. スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は、IICA0←FFHまたはWRELOビットのセットのどちらかで行ってください。

図13-32 (2) アドレス～データ～データの③～⑩の説明を次に示します。

- ③ スレーブ側では、受信したアドレスと自局のアドレス（SVA0の値）が一致した場合^注、ハードウェアによりACKがマスタ側へ送信されます。9クロック目の立ち上がり時に、マスタ側でACKが検出（ACKD0 = 1）されます。
- ④ 9クロック目の立ち下がりで、マスタ側の割り込み（INTIICA0：アドレス送信完了割り込み）が発生します。アドレスが一致したスレーブはクロック・ストレッチ（SCLA0 = 0）をかけ、割り込み（INTIICA0：アドレス一致割り込み）が発生します^注。
- ⑤ マスタ側がIICAシフト・レジスタ0（IICA0）に送信データを書き込み、マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。
- ⑥ スレーブ側がクロック・ストレッチを解除（WREL0 = 1）すると、マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。
- ⑦ データ転送完了後、スレーブ側はACEK0 = 1なのでハードウェアによりACKがマスタ側へ送信され、9クロック目の立ち上がり時に、マスタ側でACKが検出（ACKD0 = 1）されます。
- ⑧ 9クロック目の立ち下がりで、マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ（SCLA0 = 0）がかかり、マスタ側、スレーブ側で割り込み（INTIICA0：転送完了割り込み）が発生します。
- ⑨ マスタ側がIICA0レジスタに送信データを書き込み、マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。
- ⑩ スレーブ側が受信データを読み出して、クロック・ストレッチを解除（WREL0 = 1）すると、マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。

注 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は、スレーブ側はACKをマスタ側へ返しませんが（NACK：SDAA0 = 1）。また、スレーブ側のINTIICA0割り込み（アドレス一致割り込み）は発生せず、スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。
ただし、マスタ側はACK、NACKの両方に対して、INTIICA0割り込み（アドレス送信完了割り込み）が発生します。

備考 図13-32の①～⑮は、I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。

図13-32 (1) スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑥

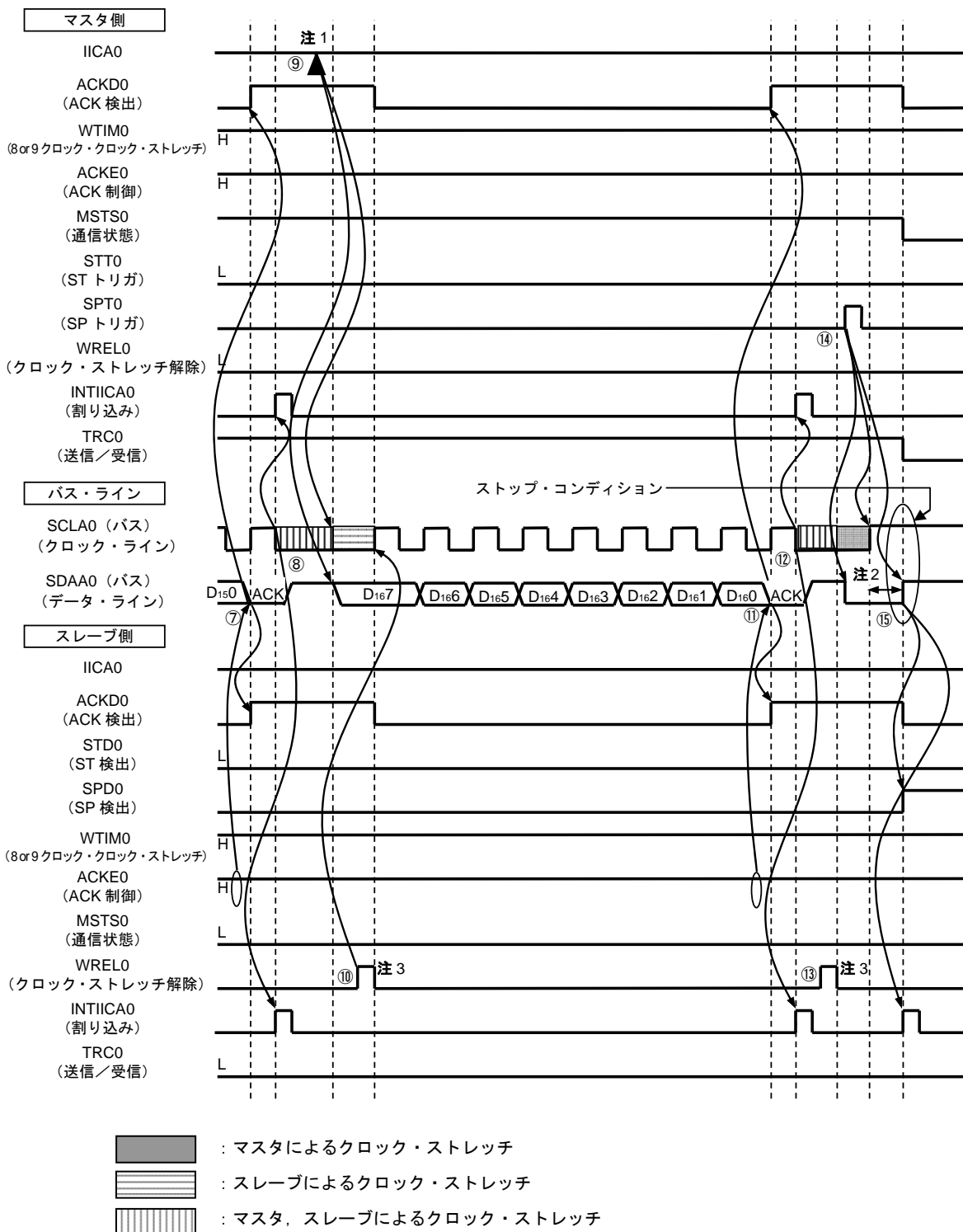
図13-32 (2) アドレス～データ～データでは手順③～⑩

図13-32 (3) データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑦～⑮

について説明しています。

図13-32 マスタ→スレーブ通信例（マスタ：9クロック、スレーブ：9クロックでクロック・ストレッチ選択）（3/4）

(3) データ～データ～ストップ・コンディション



- 注1. マスタ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は、WRELOビットのセットではなく、IICA0へのデータ書き込みで行ってください。
- 2. ストップ・コンディションの発行後、SCLA0端子信号が立ち上がったからストップ・コンディションが生成されるまでの時間は、標準モード設定時は4.0 μ s以上、ファースト・モード設定時は0.6 μ s以上です。
- 3. スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は、IICA0←FFHまたはWRELOビットのセットのどちらかで行ってください。

図13-32 (3) データ～データ～ストップ・コンディションの⑦～⑮の説明を次に示します。

- ⑦ データ転送完了後、スレーブ側は $ACKE0 = 1$ なのでハードウェアによりACKがマスタ側へ送信され、9クロック目の立ち上がり時に、マスタ側でACKが検出 ($ACKD0 = 1$) されます。
- ⑧ 9クロック目の立ち下がり、マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ ($SCLA0 = 0$) がかかり、マスタ側、スレーブ側で割り込み (INTIICA0: 転送完了割り込み) が発生します。
- ⑨ マスタ側がIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) に送信データを書き込み、マスタ側によるクロック・ストレッチを解除します。
- ⑩ スレーブ側が受信データを読み出して、クロック・ストレッチを解除 ($WREL0 = 1$) すると、マスタ側からスレーブ側にデータ転送を開始します。
- ⑪ データ転送完了後、スレーブ側 ($ACKE0 = 1$) のハードウェアによりACKがマスタ側へ送信され、9クロック目の立ち上がり時に、マスタ側でACKが検出 ($ACKD0 = 1$) されます。
- ⑫ 9クロック目の立ち下がり、マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ ($SCLA0 = 0$) がかかり、マスタ側、スレーブ側で割り込み (INTIICA0: 転送完了割り込み) が発生します。
- ⑬ スレーブ側が受信データを読み出し、クロック・ストレッチを解除 ($WREL0 = 1$) します。
- ⑭ マスタ側でストップ・コンディション・トリガをセット ($SPT0 = 1$) すると、バス・データ・ラインがクリア ($SDAA0 = 0$) され、バス・クロック・ラインがセット ($SCLA0 = 1$) され、ストップ・コンディション・セットアップ時間経過後、バス・データ・ラインがセット ($SDAA0 = 1$) されることでストップ・コンディション ($SCLA0 = 1$ で $SDAA0 = 0 \rightarrow 1$) が生成されます。
- ⑮ ストップ・コンディションが生成されると、スレーブ側でストップ・コンディションが検出され、割り込み (INTIICA0: ストップ・コンディション割り込み) が発生します。

備考 図13-32の①～⑮は、I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。

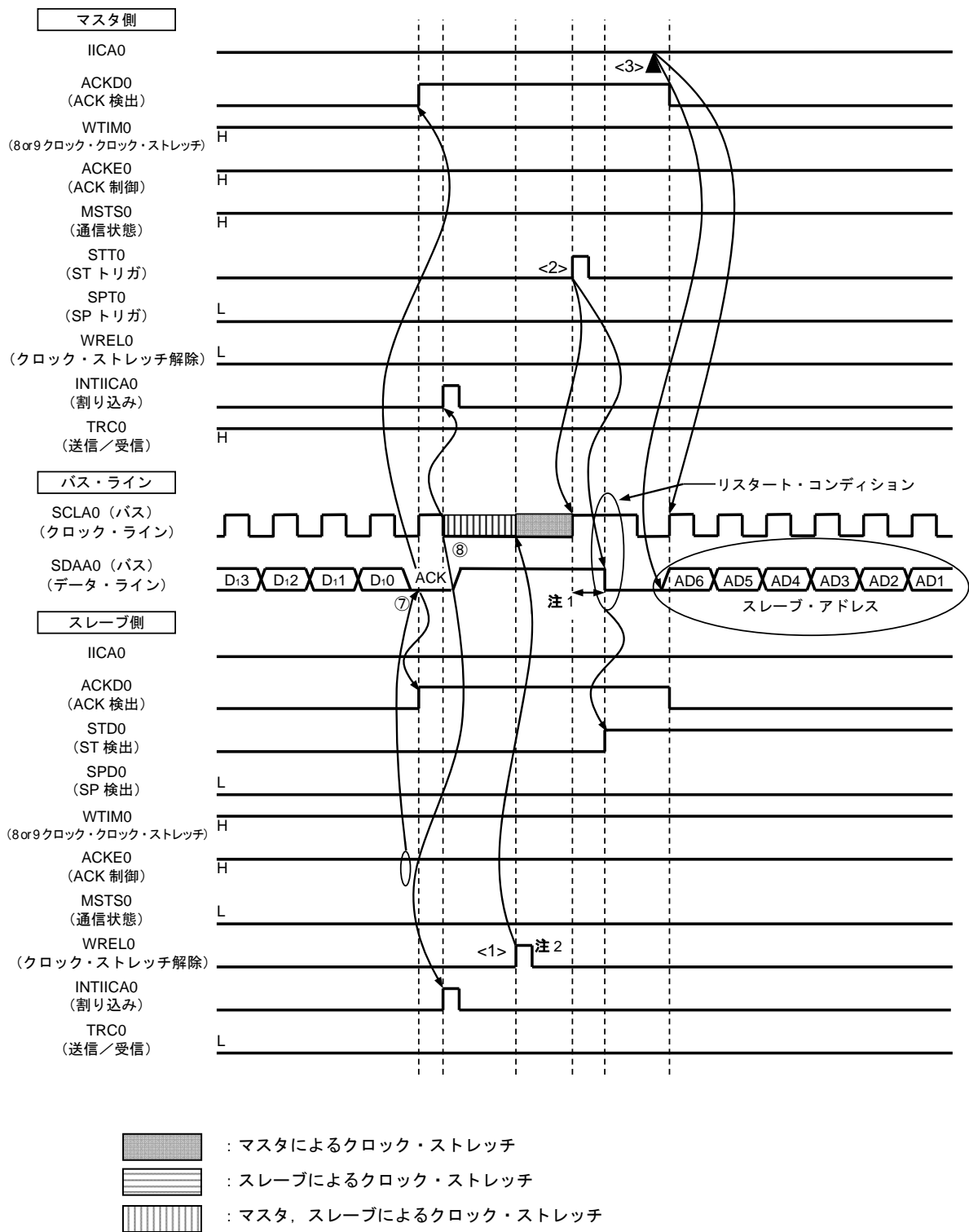
図13-32 (1) スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑥

図13-32 (2) アドレス～データ～データでは手順③～⑩

図13-32 (3) データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑦～⑮
について説明しています。

図13-32 マスタ→スレーブ通信例 (マスタ : 9クロック, スレーブ : 9クロックでクロック・ストレッチ選択) (4/4)

(4) データ～リスタート・コンディション～アドレス



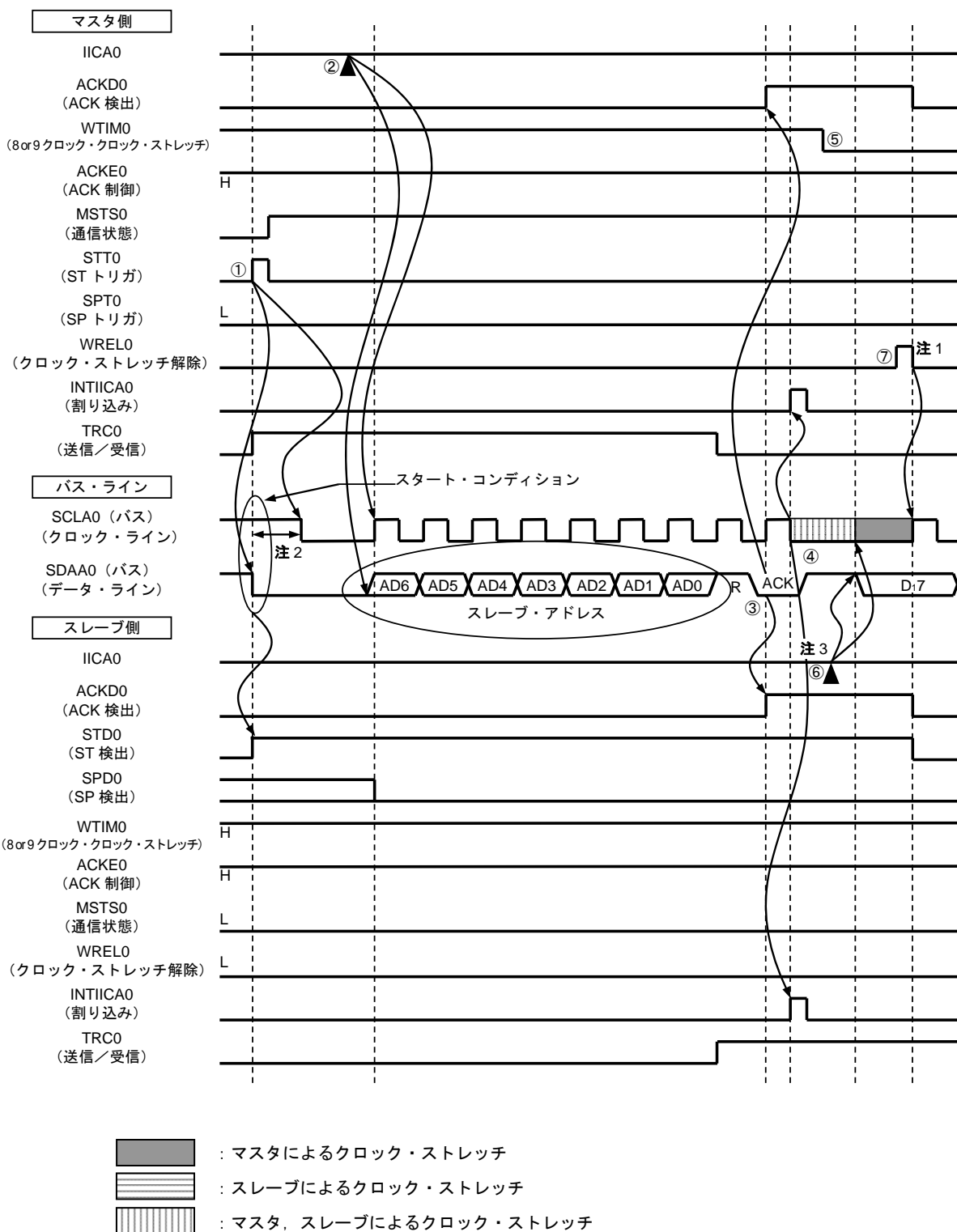
- 注1. リスタート・コンディションの発行後、SCLA0端子信号が立ち上がったからスタート・コンディションが生成される時間は、標準モード設定時は4.7 μs以上、ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。
2. スレーブ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は、IICA0←FFHまたはWREL0ビットのセットのどちらかで行ってください。

図13-32 (4) データ～リスタート・コンディション～アドレスの動作説明を次に示します。手順⑦, ⑧の動作後, <1>～<3>の動作を行います。それにより, 手順③のデータの送信手順に戻ります。

- ⑦ データ転送完了後, スレーブ側は $ACKE0 = 1$ なのでハードウェアによりACKがマスタ側へ送信され, 9クロック目の立ち上がり時に, マスタ側でACKが検出 ($ACKD0 = 1$) されます。
- ⑧ 9クロック目の立ち下がり, マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ ($SCLA0 = 0$) がかかり, マスタ側, スレーブ側で割り込み (INTIICA0: 転送完了割り込み) が発生します。
- <1> スレーブ側が受信データを読み出して, クロック・ストレッチを解除 ($WRELO = 1$) します。
- <2> マスタ側で再度スタート・コンディション・トリガがセット ($STT0 = 1$) されると, バス・クロック・ラインが立ち上がり ($SCLA0 = 1$), リスタート・コンディション・セットアップ時間後バス・データ・ライン ($SDAA0 = 0$) が立ち下がり, スタート・コンディション ($SCLA0 = 1$ で $SDAA0 = 1 \rightarrow 0$) が生成されます。その後, スタート・コンディションを検出すると, ホールド時間経過後, バス・クロック・ラインが立ち下がり ($SCLA0 = 0$), 通信準備が完了となります。
- <3> マスタ側がIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) にアドレス+R/W (送信) を書き込むと, スレーブ・アドレスが送信されます。

図13-33 スレーブ→マスタ通信例 (マスタ : 8クロック, スレーブ : 9クロックでクロック・ストレッチ選択) (1/3)

(1) スタート・コンディション～アドレス～データ



- : マスタによるクロック・ストレッチ
- : スレーブによるクロック・ストレッチ
- : マスタ, スレーブによるクロック・ストレッチ

- 注1. マスタ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は、IICA0←FFHまたはWRELOビットのセットのどちらかで行ってください。
- 注2. SDAA0端子信号が立ち下がってからSCLA0端子信号が立ち下がるまでの時間は、標準モード設定時は4.0 μs以上、ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。
- 注3. スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は、WRELOビットのセットではなく、IICA0へのデータ書き込みで行ってください。

図13-33 (1) スタート・コンディション～アドレス～データの①～⑦の説明を次に示します。

- ① マスタ側でスタート・コンディション・トリガがセット (STT0 = 1) されると、バス・データ・ライン (SDAA0) が立ち下がり、スタート・コンディション (SCLA0 = 1でSDAA0 = 1→0) が生成されます。その後、スタート・コンディションを検出すると、マスタ側はマスタ通信状態 (MSTS0 = 1) となり、ホールド時間経過後、バス・クロック・ラインが立ち下がり (SCLA0 = 0)、通信準備が完了となります。
- ② マスタ側でIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) にアドレス+R (受信) が書き込まれると、スレーブ・アドレスが送信されます。
- ③ スレーブ側で、受信したアドレスと自局のアドレス (SVA0の値) が一致した場合^注、ハードウェアによりACKがマスタ側へ送信され、9クロック目の立ち上がり時に、マスタ側でACKが検出 (ACKD0 = 1) されません。
- ④ 9クロック目の立ち下がり、マスタ側の割り込み (INTIICA0: アドレス送信完了割り込み) が発生します。アドレスが一致したスレーブはクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) をかけ、割り込み (INTIICA0: アドレス一致割り込み) が発生します^注。
- ⑤ マスタ側のクロック・ストレッチ・タイミングを8クロック目に (WTIM0 = 0) に変更します。
- ⑥ スレーブ側がIICA0レジスタに送信データを書き込み、スレーブ側によるクロック・ストレッチを解除します。
- ⑦ マスタ側がクロック・ストレッチを解除 (WREL0 = 1) して、スレーブからのデータ転送を開始します。

注 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は、スレーブ側はACKをマスタ側へ返しません (NACK: SDAA0 = 1)。また、スレーブ側のINTIICA0割り込み (アドレス一致割り込み) は発生せず、スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。
ただし、マスタ側はACK、NACKの両方に対して、INTIICA0割り込み (アドレス送信完了割り込み) が発生します。

備考 図13-33の①～⑱は、I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。

図13-33 (1) スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑦

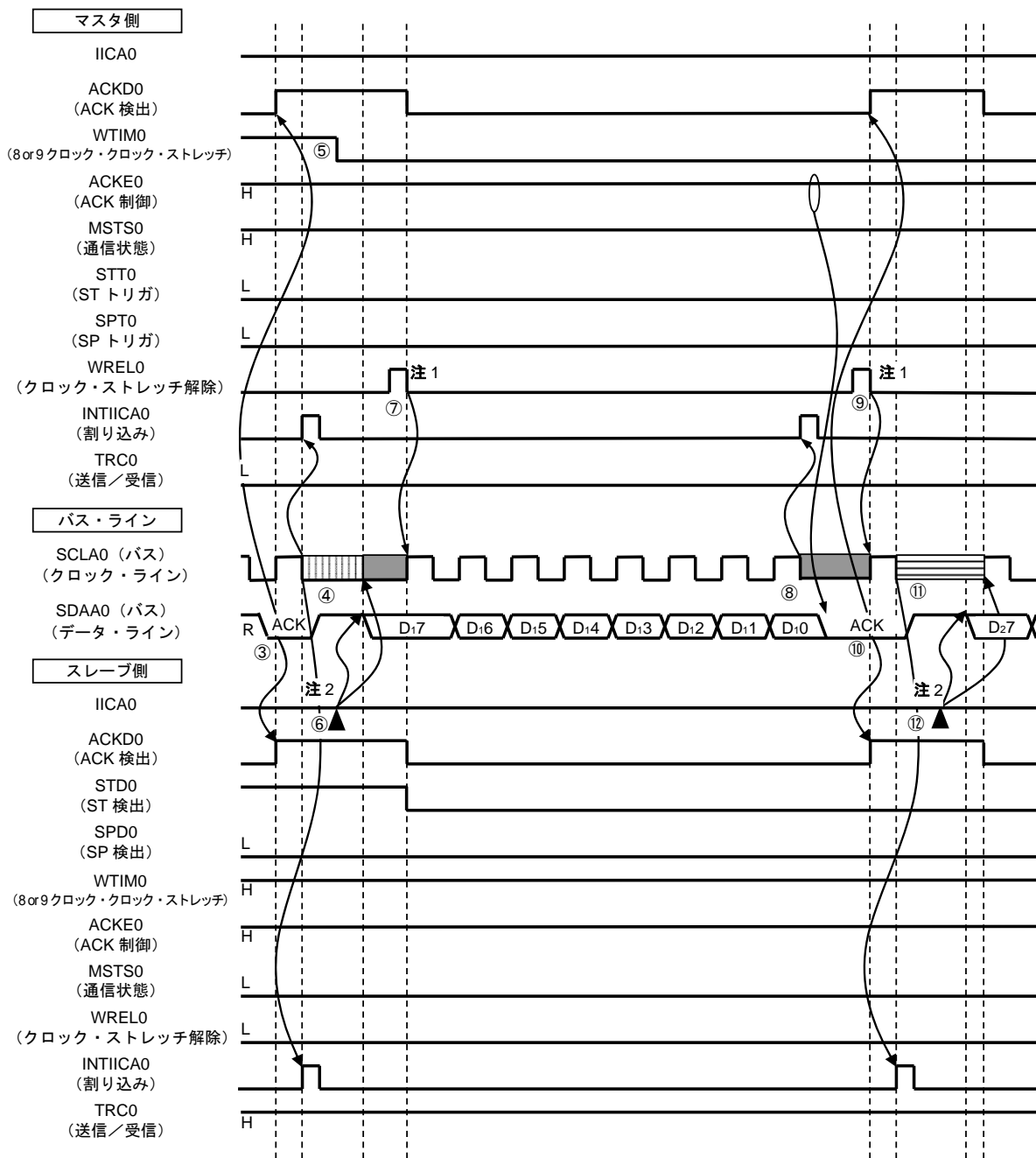
図13-33 (2) アドレス～データ～データでは手順③～⑫

図13-33 (3) データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑧～⑱

について説明しています。

図13-33 スレーブ→マスタ通信例（マスタ：8クロック、スレーブ：9クロックでクロック・ストレッチ選択）（2/3）

(2) アドレス～データ～データ



- : マスタによるクロック・ストレッチ
- : スレーブによるクロック・ストレッチ
- : マスタ、スレーブによるクロック・ストレッチ

- 注1. マスタ側での受信時のクロック・ストレッチ解除は、IICA0←FFHまたはWRELOビットのセットのどちらかで行ってください。
2. スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は、WRELOビットのセットではなく、IICA0へのデータ書き込みで行ってください。

図13-33 (2) アドレス～データ～データの③～⑫の説明を次に示します。

- ③ スレーブ側で、受信したアドレス自局のアドレス (SVA0の値) が一致した場合^注、ハードウェアによりACKがマスタ側へ送信され、9クロック目の立ち上がり時に、マスタ側でACKが検出 (ACKD0 = 1) されます。
- ④ 9クロック目の立ち下がり時、マスタ側の割り込み (INTIICA0: アドレス送信完了割り込み) が発生します。アドレスが一致したスレーブはクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) をかけ、割り込み (INTIICA0: アドレス一致割り込み) が発生します^注。
- ⑤ マスタ側はクロック・ストレッチ・タイミングを8クロック目に (WTIM0 = 0) に変更します。
- ⑥ スレーブ側がIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) に送信データを書き込み、スレーブ側によるクロック・ストレッチを解除します。
- ⑦ マスタ側がクロック・ストレッチを解除 (WREL0 = 1) して、スレーブからのデータ転送を開始します。
- ⑧ 8クロック目の立ち下がり時、マスタ側によるクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) がかかり、マスタ側の割り込み (INTIICA0: 転送完了割り込み) が発生し、マスタ側ACKE0 = 1なのでハードウェアによりACKがスレーブ側へ送信されます。
- ⑨ マスタ側は受信したデータを読み出して、クロック・ストレッチを解除 (WREL0 = 1) します。
- ⑩ 9クロック目の立ち上がり時に、スレーブ側でACKが検出 (ACKD0 = 1) されます。
- ⑪ 9クロック目の立ち下がり時、スレーブ側によるクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) がかかり、スレーブ側は割り込み (INTIICA0: 転送完了割り込み) が発生します。
- ⑫ スレーブ側がIICA0レジスタに送信データを書き込むと、スレーブ側によるクロック・ストレッチが解除され、スレーブ→マスタにデータ転送を開始します。

注 送信したアドレスとスレーブのアドレスが不一致の場合は、スレーブ側はACKをマスタ側へ返しませんが (NACK: SDAA0 = 1)。また、スレーブ側のINTIICA0割り込み (アドレス一致割り込み) は発生せず、スレーブ側のクロック・ストレッチもかかりません。

ただし、マスタ側はACK, NACKの両方に対して、INTIICA0割り込み (アドレス送信完了割り込み) が発生します。

備考 図13-33の①～⑭は、I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。

図13-33 (1) スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑦

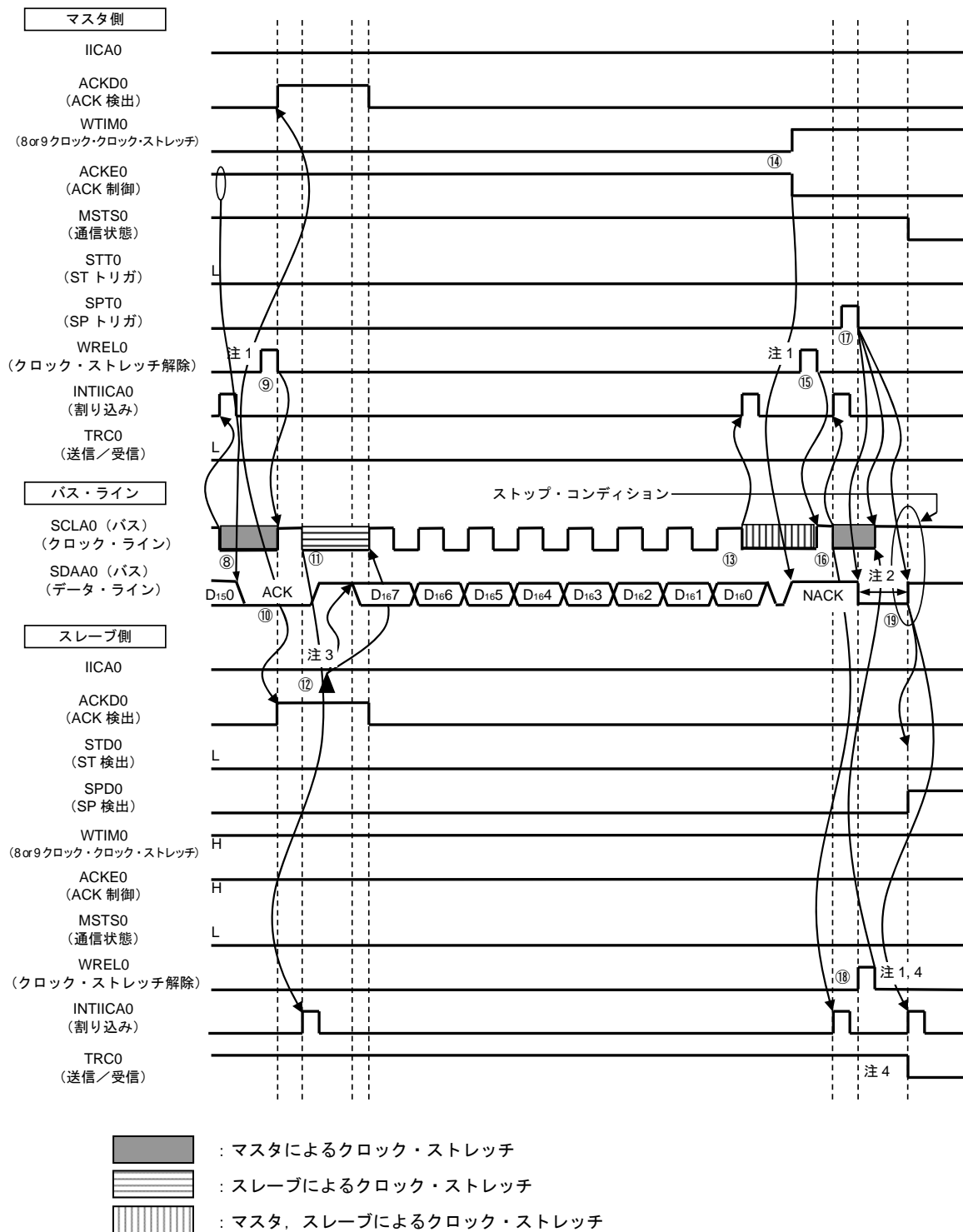
図13-33 (2) アドレス～データ～データでは手順③～⑫

図13-33 (3) データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑧～⑱

について説明しています。

図13-33 スレーブ→マスタ通信例 (マスタ：8→9クロック、スレーブ：9クロックでクロック・ストレッチ選択) (3/3)

(3) データ～データ～ストップ・コンディション



- 注1. クロック・ストレッチ解除は、IICA0←FFHまたはWRELOビットのセットのどちらかで行ってください。
- 注2. ストップ・コンディションの発行後、SCLA0端子信号が立ち上がったからストップ・コンディションが生成されるまでの時間は、標準モード設定時は4.0 μs以上、ファースト・モード設定時は0.6 μs以上です。
- 注3. スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチ解除は、WRELOビットのセットではなく、IICA0へのデータ書き込みで行ってください。
- 注4. スレーブ側での送信時のクロック・ストレッチをWRELOビットのセットで解除すると、TRC0ビットはクリアされます。

図13-33 (3) データ～データ～ストップ・コンディションの⑧～⑱の説明を次に示します。

- ⑧ 8クロック目の立ち下がりで、マスタ側によるクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) がかかり、マスタ側の割り込み (INTIICA0 : 転送完了割り込み) が発生し、マスタ側はACKE0 = 0なので、ハードウェアによりACKがスレーブ側へ送信されます。
- ⑨ マスタ側は受信したデータを読み出して、クロック・ストレッチを解除 (WRELO = 1) します。
- ⑩ 9クロック目の立ち上がり時に、スレーブ側でACKが検出 (ACKD0 = 1) されます。
- ⑪ 9クロック目の立ち下がりで、スレーブ側によるクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) がかかり、スレーブ側は割り込み (INTIICA0 : 転送完了割り込み) が発生します。
- ⑫ スレーブ側がIICAシフト・レジスタ0 (IICA0) に送信データを書き込むと、スレーブ側によるクロック・ストレッチが解除され、スレーブ→マスタにデータ転送を開始します。
- ⑬ 8クロック目の立ち下がりで、マスタ側の割り込み (INTIICA0 : 転送完了割り込み) が発生し、マスタ側によるクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) がかかります。ACK制御 (ACKE0 = 1) されているので、この段階でのバス・データ・ラインはロウ・レベル (SDAA0 = 0) となります。
- ⑭ マスタ側はNACK応答に設定 (ACKE0 = 0) し、クロック・ストレッチ・タイミングを9クロック目クロック・ストレッチ (WTIM0 = 1) に変更します。
- ⑮ マスタ側がクロック・ストレッチを解除 (WRELO = 1) すると、スレーブ側は9クロック目の立ち上がりでNACKを検出 (ACKD0 = 0) します。
- ⑯ 9クロック目の立ち下がりで、マスタ側とスレーブ側によるクロック・ストレッチ (SCLA0 = 0) がかかり、マスタ側、スレーブ側で割り込み (INTIICA0 : 転送完了割り込み) が発生します。
- ⑰ マスタ側でストップ・コンディション発行 (SPT0 = 1) すると、バス・データ・ラインがクリア (SDAA0 = 0) され、マスタ側のクロック・ストレッチが解除されます。その後、マスタ側はバス・クロック・ラインがセット (SCLA0 = 1) されるまで待機します。
- ⑱ スレーブ側はNACKを確認して、送信を止めて通信を完了するためにクロック・ストレッチを解除 (WRELO = 1) します。スレーブによるクロック・ストレッチが解除されると、バス・クロック・ラインがセット (SCLA0 = 1) されます。
- ⑲ マスタ側はバス・クロック・ラインがセット (SCLA0 = 1) されたことを確認すると、ストップ・コンディション・セットアップ時間経過後、バス・データ・ラインをセット (SDAA0 = 1) してストップ・コンディション (SCLA0 = 1でSDAA0 = 0→1) を発行します。ストップ・コンディションが生成されると、スレーブ側でストップ・コンディションが検出され、スレーブ側で割り込み (INTIICA0 : ストップ・コンディション割り込み) が発生します。

備考 図13-33の①～⑱は、I²Cバスによるデータ通信の一連の操作手順です。

図13-33 (1) スタート・コンディション～アドレス～データでは手順①～⑦

図13-33 (2) アドレス～データ～データでは手順③～⑫

図13-33 (3) データ～データ～ストップ・コンディションでは手順⑧～⑱

について説明しています。

第14章 LCDコントローラ/ドライバ

RL78/L12のLCD表示機能端子は製品ごとに搭載する数が異なります。次の表に製品ごとのLCD表示機能端子数を示します。

表14-1 製品ごとのLCD表示機能端子 (1/3)

(a) 32ピン, 44ピン製品の場合

項目		型名		RL78/L12															
				32ピン (R5F10RBx (x=C, A, 8))								44ピン (R5F10RFx (x=C, A, 8))							
LCD出力端子数		セグメント信号出力 : 13 コモン信号出力 : 4								セグメント信号出力 : 22 (18) 注 コモン信号出力 : 8									
セグメント 信号出力端子と I/Oポートの 兼用関係	x	7	6	5	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2	1	0		
	P1x	SEG 6	SEG 5	SEG 4	SEG 32	SEG 31	SEG 30	SEG 29	SEG 28	SEG 6	SEG 5	SEG 4	SEG 32	SEG 31	SEG 30	SEG 29	SEG 28		
	P3x	—	—	—	—	—	—	—	SEG 19	—	—	—	—	—	SEG 17	SEG 18	SEG 19		
	P4x	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	P5x	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	P6x	—	—	—	—	—	—	SEG 20	SEG 21	—	—	—	—	—	—	SEG 20	SEG 21		
	P7x	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	P12x	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	SEG 25		
	P14x	—	—	—	—	—	—	—	SEG 27	—	—	—	—	SEG 34	SEG 33	SEG 26	SEG 27		
COM信号出力端子と I/Oポートの兼用関係		—								—									
COM信号出力端子と 他のLCD表示機能端子の 兼用関係		SEG0								SEG0									
		—								SEG1									
		—								SEG2									
		—								SEG3									

注 () 内は8 com使用時の信号出力本数です。

表14-1 製品ごとのLCD表示機能端子 (2/3)

(b) 48ピン, 52ピン製品の場合

項目		RL78/L12															
		48ピン (R5F10RGx (x=C, A, 8))								52ピン (R5F10RJx (x=C, A, 8))							
LCD出力端子数		セグメント信号出力 : 26 (22) 注 コモン信号出力 : 8								セグメント信号出力 : 30 (26) 注 コモン信号出力 : 8							
セグメント 信号出力端子と I/Oポートの 兼用関係	x	7	6	5	4	3	2	1	0	7	6	5	4	3	2	1	0
	I/Oポート																
	P1x	SEG 6	SEG 5	SEG 4	SEG 32	SEG 31	SEG 30	SEG 29	SEG 28	SEG 6	SEG 5	SEG 4	SEG 32	SEG 31	SEG 30	SEG 29	SEG 28
	P3x	—	—	—	—	—	SEG 17	SEG 18	SEG 19	—	—	—	—	—	SEG 17	SEG 18	SEG 19
	P4x	—	—	—	—	—	—	SEG 24	—	—	—	—	—	—	SEG 23	SEG 24	—
	P5x	—	—	—	—	—	—	—	SEG 7	—	—	—	—	—	—	SEG 8	SEG 7
	P6x	—	—	—	—	—	—	SEG 20	SEG 21	—	—	—	—	—	—	SEG 20	SEG 21
	P7x	—	—	—	—	—	—	—	SEG 16	—	—	—	—	—	—	SEG 15	SEG 16
	P12x	—	—	—	—	—	—	—	SEG 25	—	—	—	—	—	—	—	SEG 25
P14x	—	—	—	SEG 35	SEG 34	SEG 33	SEG 26	SEG 27	—	—	SEG 36	SEG 35	SEG 34	SEG 33	SEG 26	SEG 27	
COM信号出力端子と I/Oポートの兼用関係		—								—							
COM信号出力端子と 他のLCD表示機能端子の 兼用関係		SEG0								SEG0							
		SEG1								SEG1							
		SEG2								SEG2							
		SEG3								SEG3							

注 () 内は8 com使用時の信号出力本数です。

表14-1 製品ごとのLCD表示機能端子 (3/3)

(c) 64ピン製品の場合

項目		RL78/L12							
LCD出力端子数		64ピン (R5F10RLx (x=C, A))							
セグメント信号出力端子と I/Oポートの兼用関係		セグメント信号出力 : 39 (35) 注 コモン信号出力 : 8							
セグメント信号出力端子と I/Oポートの兼用関係	x	7	6	5	4	3	2	1	0
	I/Oポート								
	P1x	SEG6	SEG5	SEG4	SEG32	SEG31	SEG30	SEG29	SEG28
	P3x	—	—	—	—	—	SEG17	SEG18	SEG19
	P4x	—	—	—	—	SEG22	SEG23	SEG24	—
	P5x	—	—	—	SEG11	SEG10	SEG9	SEG8	SEG7
	P6x	—	—	—	—	—	—	SEG20	SEG21
	P7x	—	—	—	SEG12	SEG13	SEG14	SEG15	SEG16
P12x	—	—	—	—	—	—	—	SEG25	
P14x	SEG38	SEG37	SEG36	SEG35	SEG34	SEG33	SEG26	SEG27	
COM信号出力端子と I/Oポートの兼用関係	—								
COM信号出力端子と 他のLCD表示機能端子の兼用関係	SEG0								
	SEG1								
	SEG2								
	SEG3								

注 () 内は8 com使用時の信号出力本数です。

14.1 LCDコントローラ／ドライバの機能

RL78/L12に内蔵しているLCDコントローラ／ドライバの機能を次に示します。

- (1) A波形, B波形の選択が可能
- (2) LCD駆動電圧生成回路は, 内部昇圧／容量分割／外部抵抗分割の切り替えが可能
- (3) 表示データ・レジスタの自動読み出しによるセグメント信号とコモン信号の自動出力が可能
- (4) 昇圧回路動作時に生成する基準電圧を16段階から選択可能 (コントラスト調整)
- (5) LCD点滅が可能注

注 LCDソース・クロック (f_{LCD}) としてf_{IL}を選択することは禁止です。

各表示モードにおける表示可能な最大画素数を表14-2に示します。

表14-2 最大表示画素数 (1/5)

(a) 32ピン製品

LCDドライバ用 駆動波形	LCDドライバ用 駆動電圧生成回路	バイアス法	時分割	最大表示画素数	
A波形	外部抵抗分割	—	スタティック	13 (13セグメント×1コモン)	
			1/2	2	26 (13セグメント×2コモン)
				3	39 (13セグメント×3コモン)
			1/3	3	
	4	52 (13セグメント×4コモン)			
	内部昇圧, 容量分割	1/3	3	39 (13セグメント×3コモン)	
4			52 (13セグメント×4コモン)		
B波形	外部抵抗分割, 内部 昇圧, 容量分割	1/3	4		

表14-2 最大表示画素数 (2/5)

(b) 44ピン製品

LCDドライバ用 駆動波形	LCDドライバ用 駆動電圧生成回路	バイアス法	時分割	最大表示画素数	
A波形	外部抵抗分割	—	スタティック	22 (22セグメント×1コモン)	
			1/2	2	44 (22セグメント×2コモン)
				3	66 (22セグメント×3コモン)
			1/3	3	
				4	88 (22セグメント×4コモン)
	1/4	8	144 (18セグメント×8コモン)		
		内部昇圧	1/3	3	66 (22セグメント×3コモン)
				4	88 (22セグメント×4コモン)
	容量分割	1/3	8	144 (18セグメント×8コモン)	
			3	66 (22セグメント×3コモン)	
B波形	外部抵抗分割, 内部昇圧	1/3	3	66 (22セグメント×3コモン)	
			4	88 (22セグメント×4コモン)	
	容量分割	1/3	4	88 (22セグメント×4コモン)	
			8	176 (22セグメント×8コモン)	

表14-2 最大表示画素数 (3/5)

(c) 48ピン製品

LCDドライバ用 駆動波形	LCDドライバ用 駆動電圧生成回路	バイアス法	時分割	最大表示画素数
A波形	外部抵抗分割	—	スタティック	26 (26セグメント×1コモン)
			2	52 (26セグメント×2コモン)
		3	78 (26セグメント×3コモン)	
		1/3	3	
			4	104 (26セグメント×4コモン)
	1/4	8	176 (22セグメント×8コモン)	
	内部昇圧	1/3	3	78 (26セグメント×3コモン)
			4	104 (26セグメント×4コモン)
		1/4	8	176 (22セグメント×8コモン)
	容量分割	1/3	3	78 (26セグメント×3コモン)
4			104 (26セグメント×4コモン)	
B波形	外部抵抗分割,	1/3	4	
	内部昇圧	1/4	8	176 (22セグメント×8コモン)
	容量分割	1/3	4	104 (26セグメント×4コモン)

表14-2 最大表示画素数 (4/5)

(d) 52ピン製品

LCDドライバ用 駆動波形	LCDドライバ用 駆動電圧生成回路	バイアス法	時分割	最大表示画素数
A波形	外部抵抗分割	—	スタティック	30 (30セグメント×1コモン)
			2	60 (30セグメント×2コモン)
		3	90 (30セグメント×3コモン)	
		1/3	3	
			4	120 (30セグメント×4コモン)
	1/4	8	208 (26セグメント×8コモン)	
	内部昇圧	1/3	3	90 (30セグメント×3コモン)
			4	120 (30セグメント×4コモン)
		1/4	8	208 (26セグメント×8コモン)
	容量分割	1/3	3	90 (30セグメント×3コモン)
4			120 (30セグメント×4コモン)	
B波形	外部抵抗分割,	1/3	4	
	内部昇圧	1/4	8	208 (26セグメント×8コモン)
	容量分割	1/3	4	120 (30セグメント×4コモン)

表14-2 最大表示画素数 (5/5)

(e) 64ピン製品

LCDドライバ用 駆動波形	LCDドライバ用 駆動電圧生成回路	バイアス法	時分割	最大表示画素数
A波形	外部抵抗分割	—	スタティック	39 (39セグメント×1コモン)
			2	78 (39セグメント×2コモン)
		3	117 (39セグメント×3コモン)	
		1/3	3	156 (39セグメント×4コモン)
			4	
	1/4	8	280 (35セグメント×8コモン)	
	内部昇圧	1/3	3	117 (39セグメント×3コモン)
			4	156 (39セグメント×4コモン)
		1/4	8	280 (35セグメント×8コモン)
	容量分割	1/3	3	117 (39セグメント×3コモン)
4			156 (39セグメント×4コモン)	
B波形	外部抵抗分割,	1/3	4	280 (35セグメント×8コモン)
	内部昇圧	1/4	8	
	容量分割	1/3	4	156 (39セグメント×4コモン)

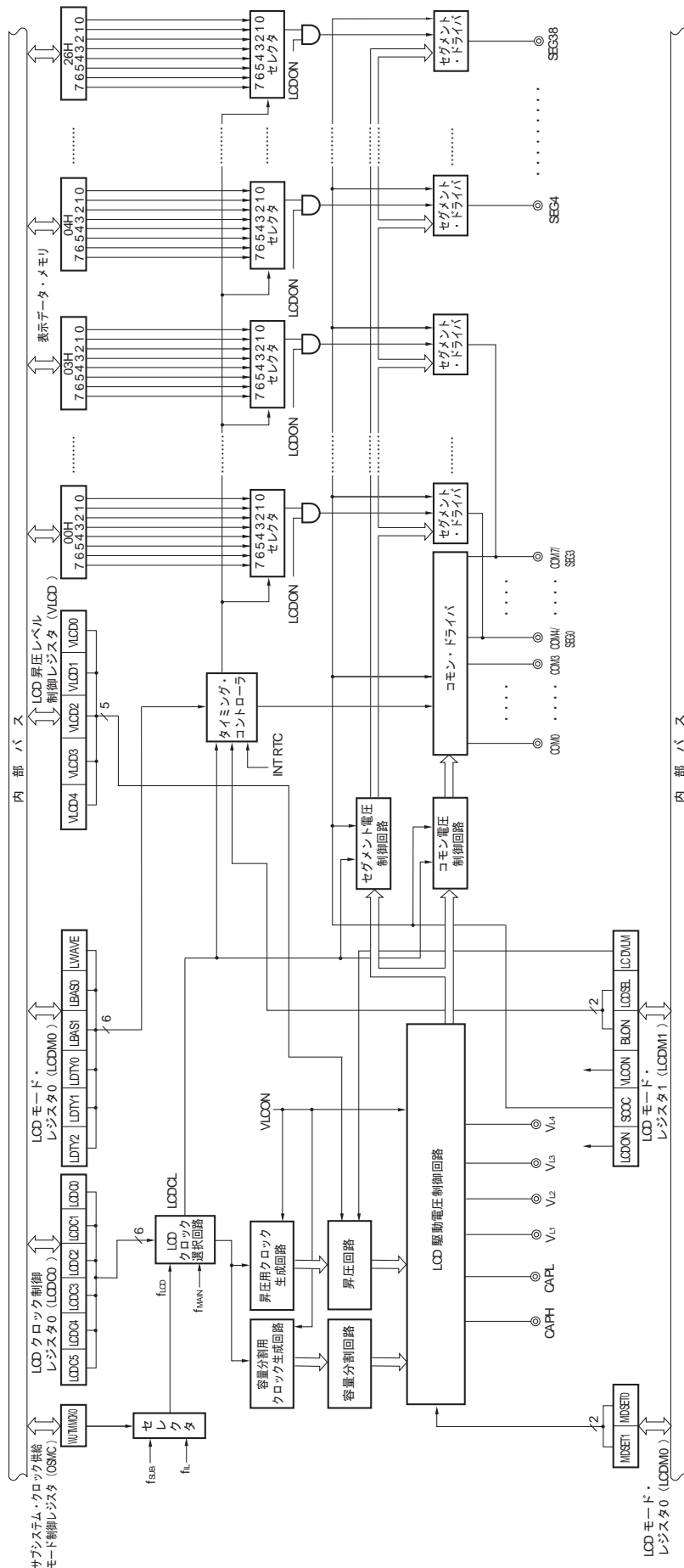
14.2 LCDコントローラ／ドライバの構成

LCDコントローラ／ドライバは、次のハードウェアで構成しています。

表14-3 LCDコントローラ／ドライバの構成

項 目	構 成
制御レジスタ	周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) LCDモード・レジスタ0 (LCDM0) LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) LCDクロック制御レジスタ0 (LCDC0) LCD昇圧レベル制御レジスタ (VLCD) LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD) LCDポート・ファンクション・レジスタ0-4 (PFSEG0-PFSEG4) ポート・モード・レジスタ1, 3-7, 12, 14 (PM1, PM3-PM7, PM12, PM14)

図14-1 LCDコントローラ/ドライバのブロック図



14.3 LCDコントローラ／ドライバを制御するレジスタ

LCDコントローラ／ドライバは、次の10種類のレジスタで制御します。

- ・ 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)
- ・ LCDモード・レジスタ0 (LCDM0)
- ・ LCDモード・レジスタ1 (LCDM1)
- ・ サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)
- ・ LCDクロック制御レジスタ0 (LCDC0)
- ・ LCD昇圧レベル制御レジスタ (VLCD)
- ・ LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)
- ・ LCDポート・ファンクション・レジスタ0-4 (PFSEG0-PFSEG4)
- ・ ポート・モード・レジスタ1, 3-7, 12, 14 (PM1, PM3-PM7, PM12, PM14)

14.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0)

PER0レジスタは、各周辺ハードウェアへのクロック供給許可／禁止を設定するレジスタです。使用しないハードウェアへはクロック供給も停止させることで、低消費電力化とノイズ低減をはかります。

LCDコントローラ／ドライバにてサブシステム・クロック (f_{SUB}) を使用するときは、必ずビット7 (RTCEN) を1に設定してください。

PER0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図14-2 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマット

アドレス : F00F0H リセット時 : 00H R/W

略号	<input type="checkbox"/> 7	6	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 4	3	<input type="checkbox"/> 2	1	<input type="checkbox"/> 0
PER0	RTCEN	0	ADCEN	IICA0EN	0	SAU0EN	0	TAU0EN

RTCEN	リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマ	LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力	
		サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択時	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 非選択時
0	クロック供給停止 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用 するSFRへのライト不可 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマはリセット状態	入力クロック, サブシステム・クロック供給停止 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可	入力クロック, メイン・システム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可
1	クロック供給 ・リアルタイム・クロック (RTC), 12ビット・インターバル・タイマで使用するSFRへのリード／ライト可	入力クロック, サブシステム・クロック供給 ・LCDコントローラ／ドライバ, クロック出力／ブザー出力で使用するSFRへのリード／ライト可	

注意1. サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のRTCLPC = 1に設定することにより、サブシステム・クロック時HALTモードで、リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給を停止することが可能です。その場合、RTCENビットは1に設定し、PER0レジスタのその他のビット0-6は0に設定してください。

2. 次のビット1, 3, 6には必ず“0”を設定してください。

14.3.2 LCDモード・レジスタ0 (LCDM0)

LCDの動作を設定するレジスタです。

LCDM0は、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図14-3 LCDモード・レジスタ0 (LCDM0) のフォーマット (1/2)

アドレス : FFF40H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDM0	MDSET1	MDSET0	LWAVE	LDTY2	LDTY1	LDTY0	LBAS1	LBAS0

MDSET1	MDSET0	LCD駆動電圧生成回路の選択
0	0	外部抵抗分割方式
0	1	内部昇圧方式
1	0	容量分割方式
1	1	設定禁止

LWAVE	LCD表示波形の選択
0	A波形
1	B波形

LDTY2	LDTY1	LDTY0	LCD表示の時分割数選択
0	0	0	スタティック
0	0	1	2時分割
0	1	0	3時分割
0	1	1	4時分割
1	0	1	8時分割
上記以外			設定禁止

図14-3 LCDモード・レジスタ0 (LCDM0) のフォーマット (2/2)

アドレス : FFF40H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDM0	MDSET1	MDSET0	LWAVE	LDTY2	LDTY1	LDTY0	LBAS1	LBAS0

LBAS1	LBAS0	LCD表示のバイアス法選択
0	0	1/2バイアス法
0	1	1/3バイアス法
1	0	1/4バイアス法
1	1	設定禁止

注意 1.LCDM1のSCOC = 1のときに、LCDM0の値を書き換えないでください。

2.スタティックを選択した場合 (LDTY2-LDTY0ビット = 000B) , LBAS1, LBAS0ビットの設定は必ず初期値 (00B) にしてください。初期値以外の値を設定した場合の動作は保証しません。

3.表示波形, 時分割数, バイアス法の設定は表14-4に示す組み合わせのみサポートします。

表14-4で示す組み合わせ以外は設定禁止です。

表14-4 表示波形／時分割数／バイアス法とフレーム周波数の組み合わせ

表示モード			設定値						駆動電圧生成方式		
表示波形	時分割数	バイアス法	LWAVE	LDTY2	LDTY1	LDTY0	LBAS1	LBAS0	外部抵抗分割	内部昇圧	容量分割
A波形	8	1/4	0	1	0	1	1	0	○ (24~128 Hz)	○ (24~64 Hz)	×
A波形	4	1/3	0	0	1	1	0	1	○ (24~128 Hz)	○ (24~128 Hz)	○ (24~128 Hz)
A波形	3	1/3	0	0	1	0	0	1	○ (32~128 Hz)	○ (32~128 Hz)	○ (32~128 Hz)
A波形	3	1/2	0	0	1	0	0	0	○ (32~128 Hz)	×	×
A波形	2	1/2	0	0	0	1	0	0	○ (24~128 Hz)	×	×
A波形	スタティック		0	0	0	0	0	0	○ (24~128 Hz)	×	×
B波形	8	1/4	1	1	0	1	1	0	○ (24~128 Hz)	○ (24~64 Hz)	×
B波形	4	1/3	1	0	1	1	0	1	○ (24~128 Hz)	○ (24~128 Hz)	○ (24~128 Hz)

備考 ○ : 対応

× : 非対応

14.3.3 LCDモード・レジスタ1 (LCDM1)

表示動作の許可／禁止，昇圧回路もしくは容量分割回路の動作許可／停止，表示データ領域，低電圧モードを設定するレジスタです。

LCDM1は，1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。リセット信号の発生により，00Hになります。

図14-4 LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のフォーマット (1/2)

アドレス：FFF41H リセット時：00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDM1	LCDON	SCOC	VLCON	BLON	LCDSEL	0	0	LCDVLM

SCOC	LCDON	LCD表示の許可／禁止	
		通常液晶波形 (A波形／B波形) 出力時	
0	0	セグメント端子／コモン端子にグランド・レベルを出力	
0	1		
1	0	表示オフ (セグメント出力はすべて非選択信号出力)	
1	1	表示オン	

VLCON	昇圧回路もしくは容量分割回路の動作許可／停止
0	昇圧回路もしくは容量分割回路の動作停止
1 ^{注1}	昇圧回路もしくは容量分割回路の動作許可

BLON ^{注2}	LCDSEL	表示データ領域の制御
0	0	Aパターン領域 (LCD表示データ・レジスタの下位4ビット) のデータを表示
0	1	Bパターン領域 (LCD表示データ・レジスタの上位4ビット) のデータを表示
1	0	Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示 (リアルタイム・クロック (RTC) の定周期割り込み (INTRTC) タイミングに対応した点滅表示)
1	1	

注 1. 外部抵抗分割モード時には設定禁止。

2. LCDソース・クロック (f_{LCD}) としてf_{IL}を選択する場合は，必ずBLONビット = 0にしてください。

(注意は次ページにあります。)

図14-4 LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のフォーマット (2/2)

アドレス : FFF41H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDM1	LCDON	SCOC	VLCON	BLON	LCDSEL	0	0	LCDVLM

LCDVLM ^注	昇圧端子の初期値の切り替え制御
0	V _{DD} 電圧 \geq 2.7 Vの場合
1	V _{DD} 電圧 \leq 4.2 Vの場合

注 昇圧回路使用時に、V_{Lx}端子の初期状態を設定して効率的に昇圧を行うための機能です。

昇圧開始時のV_{DD}電圧が2.7 V以上の場合はLCDVLMビット = 0、V_{DD}電圧が4.2 V以下の場合はLCDVLMビット = 1としてください。

ただし、2.7 V \leq V_{DD} \leq 4.2 Vでは、LCDVLM = 0、LCDVLM = 1のいずれでも動作可能です。

- 注意 1. 昇圧回路使用時にLCD表示を行わないときに消費電力を削減したい場合は、SCOC = 0、VLCON = 0を設定し、さらにMDSET1、MDSET0 = 00を設定してください。MDSET1、MDSET0 = 01の場合、内部の基準電圧生成部が動作するため電力を消費します。
2. 外部抵抗分割方式設定時 (LCDM0のMDSET1、MDSET0ビット = 00B) または容量分割方式設定時 (MDSET1、MDSET0ビット = 10B) は、LCDVLMに0を設定してください。
3. SCOC = 1のときVLCON、LCDVLMを書き換えしないでください。
4. 表示モードに8時分割数を選択した場合、BLONとLCDSELに0を設定してください。
5. 内部昇圧方式を使用する場合は、VLCDレジスタで基準電圧を設定してから (基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択 (LCDM0レジスタのMDSET1、MDSET0ビット = 01B) にしてから)、基準電圧セットアップ時間 (5 ms (MIN.)) をウエイトしたあとに、VLCONに1を設定してください。

14.3.4 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)

OSMCレジスタは、不要なクロック機能を停止させることにより、低消費電力化することを目的としたレジスタです。

RTCLPC = 1に設定すると、サブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時に、リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、クロック出力／ブザー出力、LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へのクロック供給を停止するので、消費電力を低減することが可能です。この設定をする前に、周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のビット7 (RTCE) は1にしてください。

また、OSMCレジスタではリアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDコントローラ／ドライバの動作クロックを選択できます。

OSMCレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図14-5 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のフォーマット

アドレス : F00F3H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
OSMC	RTCLPC	0	0	WUTMMCK0	0	0	0	0

RTCLPC	サブシステム・クロックでCPU動作中のHALTモード時の設定
0	周辺機能へのサブシステム・クロック供給許可 (動作許可となる周辺機能については、表19-1参照)
1	リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDコントローラ／ドライバ以外の周辺機能へのサブシステム・クロック供給停止

WUTMMCK0 注	リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDドライバ／コントローラの動作クロックの選択	クロック出力／ブザー出力のPCLBUZn端子の出力クロックの選択
0	サブシステム・クロック (f _{SUB})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択許可
1	低速オンチップ・オシレータ・クロック (f _{IL})	サブシステム・クロック (f _{SUB}) 選択禁止

注 サブシステム・クロック発振中の場合は、必ずサブシステム・クロックを選択 (WUTMMCK0ビット = 0) にしてください。

注意1. WUTMMCK0ビットによるサブシステム・クロックと低速オンチップ・オシレータ・クロックの切り替えは、リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、LCDコントローラ／ドライバの動作開始前に一度のみ可能です。動作開始後の設定は変更禁止です。各機能の動作停止方法は次のとおりです。

リアルタイム・クロックの停止設定 : RTCE = 0

12ビット・インターバル・タイマの停止設定 : RINTE = 0

LCDコントローラ／ドライバの停止設定 : SCOC = 0かつVLCON = 0

- 32ピン製品はサブシステム・クロックがないため、LCDソース・クロック (f_{LCD}) として低速クロックを選択する場合は必ず低速オンチップ・オシレータ・クロック (WUTMMCK0 = 1) を選択してください。

- 備考 RTCE : リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0) のビット7
 RINTE : インターバル・タイマ・コントロール・レジスタ (ITMC) のビット15
 SCOC : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット6
 VLCON : LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のビット5

14. 3. 5 LCDクロック制御レジスタ0 (LCDC0)

LCDソース・クロック, LCDクロックを設定するレジスタです。

LCDクロックと時分割数で, フレーム周波数が決まります。

LCDC0は, 8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により, 00Hになります。

図14-6 LCDクロック制御レジスタ (LCDC0) のフォーマット (1/2)

アドレス : FFF42H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDC0	0	0	LCDC05	LCDC04	LCDC03	LCDC02	LCDC01	LCDC00

(1/2)

LCDC05	LCDC04	LCDC03	LCDC02	LCDC01	LCDC00	LCDクロック (LCDCL)
0	0	0	0	0	1	$f_{SUB}/2^2$ or $f_{IL}/2^2$
0	0	0	0	1	0	$f_{SUB}/2^3$ or $f_{IL}/2^3$
0	0	0	0	1	1	$f_{SUB}/2^4$ or $f_{IL}/2^4$
0	0	0	1	0	0	$f_{SUB}/2^5$ or $f_{IL}/2^5$
0	0	0	1	0	1	$f_{SUB}/2^6$ or $f_{IL}/2^6$
0	0	0	1	1	0	$f_{SUB}/2^7$ or $f_{IL}/2^7$
0	0	0	1	1	1	$f_{SUB}/2^8$ or $f_{IL}/2^8$
0	0	1	0	0	0	$f_{SUB}/2^9$ or $f_{IL}/2^9$
0	0	1	0	0	1	$f_{SUB}/2^{10}$

注意1. ビット6, 7には, 必ず0を設定してください。

2. フレーム周波数は32 Hz~128 Hz (fil選択時は24 Hz~128 Hz) の範囲内で設定してください。さらに, 内部昇圧方式, 容量分割方式に設定した場合, LCDクロック (LCDCL) は, 512 Hz以下 (fil選択時は235 Hz以下) に設定してください。
3. LCDM1レジスタのSCOCビット = 1のときLCDC0を設定しないでください。

(備考は次ページにあります。)

図14-6 LCDクロック制御レジスタ (LCDC0) のフォーマット (2/2)

アドレス : FFF42 H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
LCDC0	0	0	LCDC05	LCDC04	LCDC03	LCDC02	LCDC01	LCDC00

(2/2)

LCDC05	LCDC04	LCDC03	LCDC02	LCDC01	LCDC00	LCDクロック (LCDCL)
0	1	0	0	0	1	$f_{\text{MAIN}}/2^8$
0	1	0	0	1	0	$f_{\text{MAIN}}/2^9$
0	1	0	0	1	1	$f_{\text{MAIN}}/2^{10}$
0	1	0	1	0	0	$f_{\text{MAIN}}/2^{11}$
0	1	0	1	0	1	$f_{\text{MAIN}}/2^{12}$
0	1	0	1	1	0	$f_{\text{MAIN}}/2^{13}$
0	1	0	1	1	1	$f_{\text{MAIN}}/2^{14}$
0	1	1	0	0	0	$f_{\text{MAIN}}/2^{15}$
0	1	1	0	0	1	$f_{\text{MAIN}}/2^{16}$
0	1	1	0	1	0	$f_{\text{MAIN}}/2^{17}$
0	1	1	0	1	1	$f_{\text{MAIN}}/2^{18}$
1	0	1	0	1	1	$f_{\text{MAIN}}/2^{19}$
上記以外						設定禁止

注意 1. LCDM1レジスタのSCOCビット = 1のときLCDC0を設定しないでください。

2. ビット6, 7には, 必ず0を設定してください。

3. 内部昇圧方式, 容量分割方式に設定した場合, LCDクロック (LCDCL) は次のように設定してください。

詳細は, 「表14-4 表示波形/時分割数/バイアス法とフレーム周波数の組み合わせ」をご参照ください。

- ・ f_{SUB} 選択時512 Hz以下
- ・ f_{IL} 選択時は235 Hz以下

備考 f_{MAIN} : メイン・システム・クロック周波数 f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数

14.3.6 LCD昇圧レベル制御レジスタ (VLCD)

昇圧回路動作時に生成する基準電圧を選択（コントラスト調整）するレジスタです。基準電圧は、16段階から選択することができます。

VLCDは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、04Hになります。

図14-7 LCD昇圧レベル制御レジスタ (VLCD) のフォーマット

アドレス : FFF43H リセット時 : 04H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
VLCD	0	0	0	VLCD4	VLCD3	VLCD2	VLCD1	VLCD0

VLCD4	VLCD3	VLCD2	VLCD1	VLCD0	基準電圧選択 (コントラスト調整)	VL4電圧	
						1/3バイアス法時	1/4バイアス法時
0	0	1	0	0	1.00 V (デフォルト)	3.00 V	4.00 V
0	0	1	0	1	1.05 V	3.15 V	4.20 V
0	0	1	1	0	1.10 V	3.30 V	4.40 V
0	0	1	1	1	1.15 V	3.45 V	4.60 V
0	1	0	0	0	1.20 V	3.60 V	4.80 V
0	1	0	0	1	1.25 V	3.75 V	5.00 V
0	1	0	1	0	1.30 V	3.90 V	5.20 V
0	1	0	1	1	1.35 V	4.05 V	設定禁止
0	1	1	0	0	1.40 V	4.20 V	設定禁止
0	1	1	0	1	1.45 V	4.35 V	設定禁止
0	1	1	1	0	1.50 V	4.50 V	設定禁止
0	1	1	1	1	1.55 V	4.65 V	設定禁止
1	0	0	0	0	1.60 V	4.80 V	設定禁止
1	0	0	0	1	1.65 V	4.95 V	設定禁止
1	0	0	1	0	1.70 V	5.10 V	設定禁止
1	0	0	1	1	1.75 V	5.25 V	設定禁止
上記以外					設定禁止		

注意 1. VLCDレジスタの設定は、昇圧回路動作時のみ有効です。

2. ビット5-7には、必ず0を設定してください。

3. VLCDレジスタの値を変更する場合は、必ず昇圧回路の動作を停止 (VLCON = 0) してから行ってください。

4. 内部昇圧方式を使用する場合は、VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択 (LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット = 01B) にしてから）、基準電圧セットアップ時間 (5 ms (MIN.)) をウエイトしたあとに、VLCONに1を設定してください。

5. 外部抵抗分割方式または容量分割方式では、VLCDレジスタは初期値 (04H) で使用してください。

14.3.7 LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)

CAPL/P126, CAPH/P127, VL3/P125端子をLCD機能として動作するように設定を行うまでの期間, 貫通電流の進入を防ぐためにシュミット・トリガ・バッファを入力無効にする必要があります。

ISCLCDレジスタは, 1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により, 00Hになります。

図14-8 LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD)

アドレス : F0308H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ISCLCD	0	0	0	0	0	0	ISCVL3	ISCCAP

ISCVL3	VL3/P125端子のシュミット・トリガ・バッファの制御
0	入力無効
1	入力有効

ISCCAP	CAPL/P126, CAPH/P127端子のシュミット・トリガ・バッファの制御
0	入力無効
1	入力有効

注意1. ISCVL3ビット = 0の場合, 対応するポート制御レジスタは, 次のように設定してください。

PU12レジスタのPU125ビット = 0, P12レジスタのP125ビット = 0

2. ISCCAPビット = 0の場合, 対応するポート制御レジスタは, 次のように設定してください。

PU12レジスタのPU127ビット = 0, P12レジスタのP127ビット = 0

PU12レジスタのPU126ビット = 0, P12レジスタのP126ビット = 0

(a) VL3, CAPL, CAPH端子兼用ポートの動作

VL3/P125, CAPL/P126, CAPH/P127端子の機能は, LCD入力切り替え制御レジスタ (ISCLCD), LCDモード・レジスタ0 (LCDM0), ポート・モード・レジスタ12 (PM12) の設定で決定します。

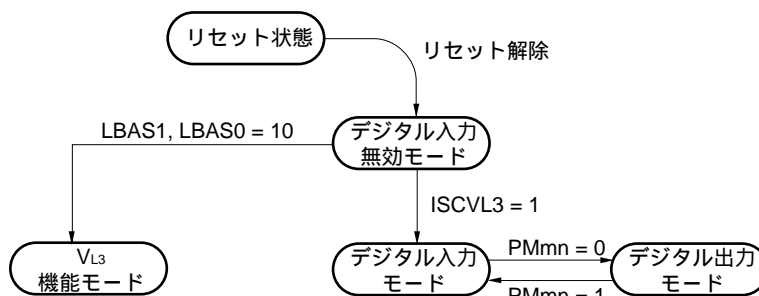
・ VL3/P125

表14-5 VL3/P125端子機能の設定

バイアス法設定 (LCDM0レジスタのLBAS1, LBAS0 ビットで設定)	ISCLCDレジスタの ISCVL3ビット	PM12レジスタの PM125ビット	端子機能	初期状態
1/4バイアス法以外 (LBAS1, LBAS0 = 00または 01)	0	1	デジタル入力無効モード	○
	1	0	デジタル出力モード	—
	1	1	デジタル入力モード	—
1/4バイアス法 (LBAS1, LBAS0 = 10)	0	1	VL3機能モード	—
上記以外			設定禁止	

V_{L3}/P125端子機能の状態遷移を次に示します。

図14-9 V_{L3}/P125端子機能の状態遷移図



注意 V_{L3}機能モードに設定する場合は、セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOCビット = 0の期間）に設定してください。

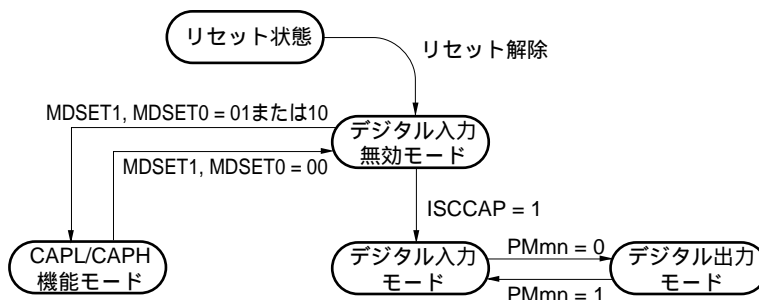
・CAPL/P126, CAPH/P127

表14-6 CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の設定

LCD駆動電圧生成 (LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット)	ISCLCDレジスタの ISCCAPビット	PM12レジスタの PM126, PM127ビット	端子機能	初期状態
外部抵抗分割 (MDSET1, MDSET0 = 00)	0	1	デジタル入力無効モード	○
	1	0	デジタル出力モード	—
	1	1	デジタル入力モード	—
内部昇圧または容量分割 (MDSET1, MDSET0 = 01または10)	0	1	CAPL/CAPH機能モード	—
上記以外			設定禁止	

CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の状態遷移を次に示します。

図14-10 CAPL/P126, CAPH/P127端子機能の状態遷移図



注意 CAPL/CAPH機能モードに設定する場合は、セグメント出力開始前（LCDモード・レジスタ1（LCDM1）のSCOCビット = 0の期間）に設定してください。

14.3.8 LCDポート・ファンクション・レジスタ0-4 (PFSEG0-PFSEG4)

P10-P17, P30-P32, P41-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P140-P147端子をポート(セグメント出力以外) /セグメント出力のどちらかで使用するかを設定するレジスタです。PFSEG0-PFSEG4レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHになります。

備考 セグメント出力端子 (SEGxx) とPFSEGレジスタ (PFSEGxxビット) の対応と、製品によるSEGxx端子の有無を表14-7 各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ (PFSEGビット) に示します。

図14-11 LCDポート・ファンクション・レジスタのフォーマット (64ピン製品)

アドレス : F0300H リセット時 : F0H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG0	PFSEG07	PFSEG06	PFSEG05	PFSEG04	0	0	0	0

アドレス : F0301H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG1	PFSEG15	PFSEG14	PFSEG13	PFSEG12	PFSEG11	PFSEG10	PFSEG09	PFSEG08

アドレス : F0302H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG2	PFSEG23	PFSEG22	PFSEG21	PFSEG20	PFSEG19	PFSEG18	PFSEG17	PFSEG16

アドレス : F0303H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG3	PFSEG31	PFSEG30	PFSEG29	PFSEG28	PFSEG27	PFSEG26	PFSEG25	PFSEG24

アドレス : F0304H リセット時 : 7FH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PFSEG4	0	PFSEG38	PFSEG37	PFSEG36	PFSEG35	PFSEG34	PFSEG33	PFSEG32

PFSEGxx (xx=04-46)	Pmn端子のポート (セグメント出力以外) /セグメント出力の指定 (mn = 10-17, 30-32, 41-43, 50-54, 60, 61, 70-74, 120, 140-147)
0	ポート (セグメント出力以外) として使用
1	セグメント出力として使用

注意 セグメント出力として使用する (PFSEGxx = 1) 場合には必ずPUMレジスタのPUMnビット = 0, POMレジスタのPOMnビット = 0, PIMレジスタのPIMnビット = 0に設定してください。

表14-7 各製品で搭載しているセグメント出力端子と対応するPFSEGレジスタ (PFSEGビット)

PFSEGレジスタの ビット名	対応するSEGxx端子	兼用するポート	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin
PFSEG04	SEG4	P15	○	○	○	○	○
PFSEG05	SEG5	P16	○	○	○	○	○
PFSEG06	SEG6	P17	○	○	○	○	○
PFSEG07	SEG7	P50	○	○	○	—	—
PFSEG08	SEG8	P51	○	○	—	—	—
PFSEG09	SEG9	P52	○	—	—	—	—
PFSEG10	SEG10	P53	○	—	—	—	—
PFSEG11	SEG11	P54	○	—	—	—	—
PFSEG12	SEG12	P74	○	—	—	—	—
PFSEG13	SEG13	P73	○	—	—	—	—
PFSEG14	SEG14	P72	○	—	—	—	—
PFSEG15	SEG15	P71	○	○	—	—	—
PFSEG16	SEG16	P70	○	○	○	—	—
PFSEG17	SEG17	P32	○	○	○	○	—
PFSEG18	SEG18	P31	○	○	○	○	—
PFSEG19	SEG19	P30	○	○	○	○	○
PFSEG20	SEG20	P61	○	○	○	○	○
PFSEG21	SEG21	P60	○	○	○	○	○
PFSEG22	SEG22	P43	○	—	—	—	—
PFSEG23	SEG23	P42	○	○	—	—	—
PFSEG24	SEG24	P41	○	○	○	—	—
PFSEG25	SEG25	P120	○	○	○	○	—
PFSEG26	SEG26	P141	○	○	○	○	—
PFSEG27	SEG27	P140	○	○	○	○	○
PFSEG28	SEG28	P10	○	○	○	○	○
PFSEG29	SEG29	P11	○	○	○	○	○
PFSEG30	SEG30	P12	○	○	○	○	○
PFSEG31	SEG31	P13	○	○	○	○	○
PFSEG32	SEG32	P14	○	○	○	○	○
PFSEG33	SEG33	P142	○	○	○	○	—
PFSEG34	SEG34	P143	○	○	○	○	—
PFSEG35	SEG35	P144	○	○	○	—	—
PFSEG36	SEG36	P145	○	○	—	—	—
PFSEG37	SEG37	P146	○	—	—	—	—
PFSEG38	SEG38	P147	○	—	—	—	—

(a) SEGxx端子兼用ポートの動作

セグメント出力端子 (SEGxx) の機能は、ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCxx) ,
 ポート・モード・レジスタ (PMxx) , LCDポート・ファンクション・レジスタ0-4 (PFSEG0-PFSEG4)
 の設定で決定します。

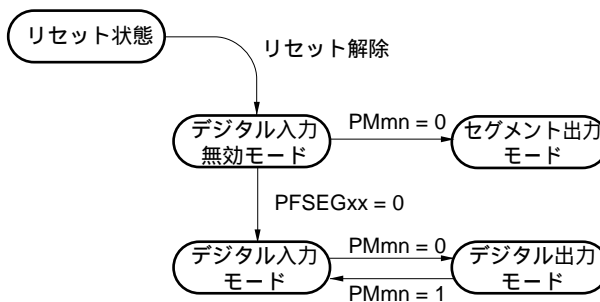
- ・ P10-P12, P15-P17, P30-P32, P42, P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P140, P141
 (アナログ入力端子 (ANLxx) を兼用していないポート)

表14-8 SEGxx/ポート端子機能の設定

PFSEG0-PFSEG4レジスタの PFSEGxxビット	PMxxレジスタの PMxxビット	端子機能	初期状態
1	1	デジタル入力無効モード	○
0	0	デジタル出力モード	—
0	1	デジタル入力モード	—
1	0	セグメント出力モード	—

SEGxx/ポート端子機能の状態遷移を次に示します。

図14-12 SEGxx/ポート端子機能の状態遷移図



注意 セグメント出力モードに設定する場合は、セグメント出力開始前 (LCDモード・レジスタ
 1 (LCDM1) のSCOCビット = 0の期間) に設定してください。

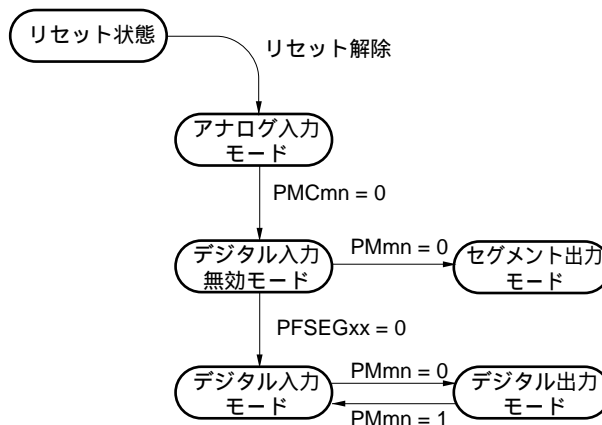
・ P13, P14, P41, P120, P142-P147 (アナログ入力端子 (ANLxx) を兼用するポート)

表14-9 ANLxx/SEGxx/ポート端子機能の設定

PMCxxレジスタの PMCxxビット	PFSEG0-PFSEG4レジスタの PFSEGxxビット	PMxxレジスタの PMxxビット	端子機能	初期状態
1	1	1	アナログ入力モード	○
0	0	0	デジタル出力モード	—
0	0	1	デジタル入力モード	—
0	1	0	セグメント出力モード	—
0	1	1	デジタル入力無効モード	—
上記以外			設定禁止	

ANLxx/SEGxx/ポート端子機能の状態遷移を次に示します。

図14-13 ANLxx/SEGxx/ポート端子機能の状態遷移図



注意 セグメント出力モードに設定する場合は、セグメント出力開始前 (LCDモード・レジスタ 1 (LCDM1) のSCOCビット = 0の期間) に設定してください。

14.3.9 ポート・モード・レジスタ1, 3-7, 12, 14 (PM1, PM3-PM7, PM12, PM14)

ポート1, 3-7, 12, 14の入力／出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

セグメント出力端子を兼用するポート (P10/SCK00/SEG28, P120/ANI17/SEG25) をセグメント出力として使用するとき、各ポートに対応するポート・モード・レジスタ (PMxx) のビットおよびポート・レジスタ (Pxx) のビットに0を設定してください。

例) P10/SCK00/SEG28をセグメント出力として使用する場合

ポート・モード・レジスタ1のPM10ビットを0に設定

ポート・レジスタ1のP10ビットを0に設定

PM1, PM3-PM7, PM12, PM14レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHIになります。

図14-14 ポート・モード・レジスタ1, 3-7, 12, 14 (PM1, PM3-PM7, PM12, PM14) のフォーマット
(64ピン製品の場合)

略号	7	6	5	4	3	2	1	0	アドレス	リセット時	R/W
PM1	PM17	PM16	PM15	PM14	PM13	PM12	PM11	PM10	FFF21H	FFH	R/W
PM3	1	1	1	1	1	PM32	PM31	PM30	FFF23H	FFH	R/W
PM4	1	1	1	1	PM43	PM42	PM41	PM40	FFF24H	FFH	R/W
PM5	1	1	1	PM54	PM53	PM52	PM51	PM50	FFF25H	FFH	R/W
PM6	1	1	1	1	1	1	PM61	PM60	FFF26H	FFH	R/W
PM7	1	1	1	PM74	PM73	PM72	PM71	PM70	FFF27H	FFH	R/W
PM12	PM127	PM126	PM125	1	1	1	1	PM120	FFF2CH	FFH	R/W
PM14	PM147	PM146	PM145	PM144	PM143	PM142	PM141	PM140	FFF2EH	FFH	R/W

PMmn	Pmn端子の入出力モードの選択 (m = 1, 3-7, 12, 14; n = 0-7)
0	出力モード (出力バッファ・オン)
1	入力モード (出力バッファ・オフ)

備考 上記は、64ピン製品のポート・モード・レジスタ1, 3-7, 12, 14のフォーマットです。他の製品のポート・モード・レジスタのフォーマットについては、表4-3 各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxx, PMCxxレジスタとそのビットを参照してください。

14.4 LCD表示データ・レジスタ

LCD表示データ・レジスタは、表14-10のようにマッピングしています。LCD表示データ・レジスタの内容を変更することでLCD表示内容を変更できます。

表14-10 LCD表示データ・レジスタの内容とセグメント出力/コモン出力の関係 (1/2)

(a) 8時分割以外 (スタティック, 2時分割, 3時分割, 4時分割)

レジスタ名	アドレス	bit 7	bit 6	bit 5	bit 4	bit 3	bit 2	bit 1	bit 0	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin
		COM 7	COM 6	COM 5	COM 4	COM 3	COM 2	COM 1	COM 0					
SEG0	F0400H	SEG0 (Bパターン領域)				SEG0 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG1	F0401H	SEG1 (Bパターン領域)				SEG1 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG2	F0402H	SEG2 (Bパターン領域)				SEG2 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG3	F0403H	SEG3 (Bパターン領域)				SEG3 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG4	F0404H	SEG4 (Bパターン領域)				SEG4 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG5	F0405H	SEG5 (Bパターン領域)				SEG5 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG6	F0406H	SEG6 (Bパターン領域)				SEG6 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG7	F0407H	SEG7 (Bパターン領域)				SEG7 (Aパターン領域)				○	○	○	—	—
SEG8	F0408H	SEG8 (Bパターン領域)				SEG8 (Aパターン領域)				○	○	—	—	—
SEG9	F0409H	SEG9 (Bパターン領域)				SEG9 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG10	F040AH	SEG10 (Bパターン領域)				SEG10 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG11	F040BH	SEG11 (Bパターン領域)				SEG11 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG12	F040CH	SEG12 (Bパターン領域)				SEG12 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG13	F040DH	SEG13 (Bパターン領域)				SEG13 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG14	F040EH	SEG14 (Bパターン領域)				SEG14 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG15	F040FH	SEG15 (Bパターン領域)				SEG15 (Aパターン領域)				○	○	—	—	—
SEG16	F0410H	SEG16 (Bパターン領域)				SEG16 (Aパターン領域)				○	○	○	—	—
SEG17	F0411H	SEG17 (Bパターン領域)				SEG17 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG18	F0412H	SEG18 (Bパターン領域)				SEG18 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG19	F0413H	SEG19 (Bパターン領域)				SEG19 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG20	F0414H	SEG20 (Bパターン領域)				SEG20 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG21	F0415H	SEG21 (Bパターン領域)				SEG21 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG22	F0416H	SEG22 (Bパターン領域)				SEG22 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG23	F0417H	SEG23 (Bパターン領域)				SEG23 (Aパターン領域)				○	○	—	—	—
SEG24	F0418H	SEG24 (Bパターン領域)				SEG24 (Aパターン領域)				○	○	○	—	—
SEG25	F0419H	SEG25 (Bパターン領域)				SEG25 (Aパターン領域)				○	○	○	—	—
SEG26	F041AH	SEG26 (Bパターン領域)				SEG26 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG27	F041BH	SEG27 (Bパターン領域)				SEG27 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG28	F041CH	SEG28 (Bパターン領域)				SEG28 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG29	F041DH	SEG29 (Bパターン領域)				SEG29 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG30	F041EH	SEG30 (Bパターン領域)				SEG30 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG31	F041FH	SEG31 (Bパターン領域)				SEG31 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG32	F0420H	SEG32 (Bパターン領域)				SEG32 (Aパターン領域)				○	○	○	○	○
SEG33	F0421H	SEG33 (Bパターン領域)				SEG33 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG34	F0422H	SEG34 (Bパターン領域)				SEG34 (Aパターン領域)				○	○	○	○	—
SEG35	F0423H	SEG35 (Bパターン領域)				SEG35 (Aパターン領域)				○	○	○	—	—
SEG36	F0424H	SEG36 (Bパターン領域)				SEG36 (Aパターン領域)				○	○	—	—	—
SEG37	F0425H	SEG37 (Bパターン領域)				SEG37 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—
SEG38	F0426H	SEG38 (Bパターン領域)				SEG38 (Aパターン領域)				○	—	—	—	—

備考 ○ : サポートする — : サポートしない

表14-10 LCD表示データ・レジスタの内容とセグメント出力/コモン出力の関係 (2/2)

(b) 8時分割

レジスタ名	アドレス	bit 7	bit 6	bit 5	bit 4	bit 3	bit 2	bit 1	bit 0	64-pin	52-pin	48-pin	44-pin	32-pin
		COM 7	COM 6	COM 5	COM 4	COM 3	COM 2	COM 1	COM 0					
SEG0	F0400H	SEG0 ^注								○	○	○	○	○
SEG1	F0401H	SEG1 ^注								○	○	○	○	—
SEG2	F0402H	SEG2 ^注								○	○	○	○	—
SEG3	F0403H	SEG3 ^注								○	○	○	○	—
SEG4	F0404H	SEG4								○	○	○	○	○
SEG5	F0405H	SEG5								○	○	○	○	○
SEG6	F0406H	SEG6								○	○	○	○	○
SEG7	F0407H	SEG7								○	○	○	—	—
SEG8	F0408H	SEG8								○	○	—	—	—
SEG9	F0409H	SEG9								○	—	—	—	—
SEG10	F040AH	SEG10								○	—	—	—	—
SEG11	F040BH	SEG11								○	—	—	—	—
SEG12	F040CH	SEG12								○	—	—	—	—
SEG13	F040DH	SEG13								○	—	—	—	—
SEG14	F040EH	SEG14								○	—	—	—	—
SEG15	F040FH	SEG15								○	○	—	—	—
SEG16	F0410H	SEG16								○	○	○	—	—
SEG17	F0411H	SEG17								○	○	○	○	—
SEG18	F0412H	SEG18								○	○	○	○	—
SEG19	F0413H	SEG19								○	○	○	○	○
SEG20	F0414H	SEG20								○	○	○	○	○
SEG21	F0415H	SEG21								○	○	○	○	○
SEG22	F0416H	SEG22								○	—	—	—	—
SEG23	F0417H	SEG23								○	○	—	—	—
SEG24	F0418H	SEG24								○	○	○	—	—
SEG25	F0419H	SEG25								○	○	○	—	—
SEG26	F041AH	SEG26								○	○	○	○	—
SEG27	F041BH	SEG27								○	○	○	○	○
SEG28	F041CH	SEG28								○	○	○	○	○
SEG29	F041DH	SEG29								○	○	○	○	○
SEG30	F041EH	SEG30								○	○	○	○	○
SEG31	F041FH	SEG31								○	○	○	○	○
SEG32	F0420H	SEG32								○	○	○	○	○
SEG33	F0421H	SEG33								○	○	○	○	—
SEG34	F0422H	SEG34								○	○	○	○	—
SEG35	F0423H	SEG35								○	○	○	—	—
SEG36	F0424H	SEG36								○	○	—	—	—
SEG37	F0425H	SEG37								○	—	—	—	—
SEG38	F0426H	SEG38								○	—	—	—	—

注 COM4-COM7端子とSEG0-SEG3端子は兼用しています。

備考 ○ : サポートする — : サポートしない

スタティック、2時分割、3時分割、または4時分割で使用する場合、LCD表示データ・レジスタの各アドレスの下位4ビットはAパターン領域、上位4ビットはBパターン領域となります。

Aパターン領域のデータとCOM信号の対応は、ビット0⇔COM0、ビット1⇔COM1、ビット2⇔COM2、ビット3⇔COM3となります。

Bパターン領域のデータとCOM信号の対応は、ビット4⇔COM0、ビット5⇔COM1、ビット6⇔COM2、ビット7⇔COM3となります。

BLON = LCDSEL = 0選択時にはAパターン領域のデータを、BLON = 0, LCDSEL=1選択時には、Bパターン領域のデータを、LCDパネルに表示します。

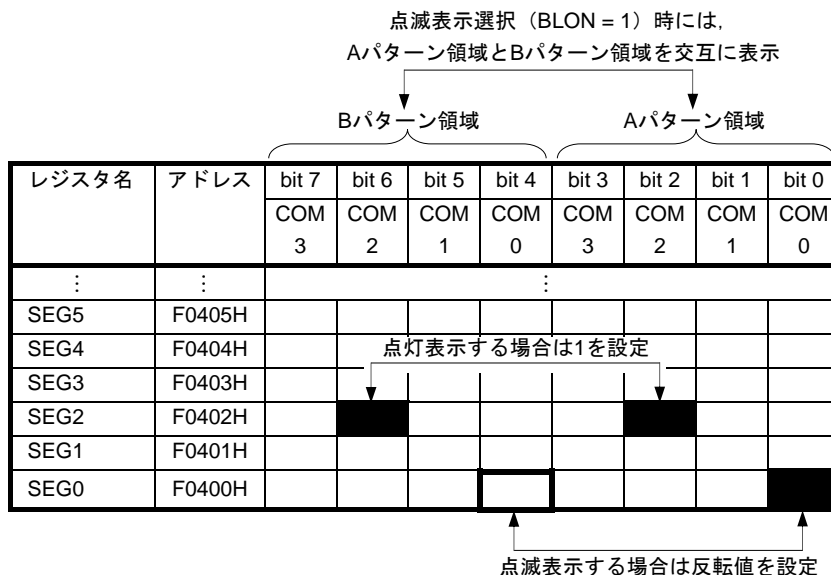
14.5 LCD表示レジスタの選択

RL78/L12では、スタティック、2時分割、3時分割、または4時分割で使用する場合、BLONビットとLCDSELビットの設定により、LCD表示データ・レジスタを次の3種類から選択することができます。

- ・ Aパターン領域 (LCD表示データ・レジスタの下位4ビット) のデータ表示
- ・ Bパターン領域 (LCD表示データ・レジスタの上位4ビット) のデータ表示
- ・ Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示 (リアルタイム・クロック (RTC) の定周期割り込みタイミングに対応した点滅表示)

注意 通常液晶波形の8時分割使用時は、LCD表示データ・レジスタ (Aパターン、Bパターンまたは点滅表示) を選択することはできません。

図14-15 パターン切り替え表示時のLCD表示レジスタの設定例



14.5.1 Aパターン領域, Bパターン領域のデータ表示

BLON = LCDSEL = 0 設定時では, Aパターン領域 (LCD表示データ・レジスタの下位4ビット) のデータがLCD表示レジスタとして出力されます。

BLON = 0, LCDSEL = 1 設定時では, Bパターン領域 (LCD表示データ・レジスタの上位4ビット) のデータがLCD表示レジスタとして出力されます。

表示領域については, 14.4 LCD表示データ・レジスタを参照してください。

14.5.2 点滅表示 (Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示)

BLON = 1 設定時では, リアルタイム・クロック (RTC) の定周期割り込み (INTRTC) タイミングに対応して, Aパターン領域とBパターン領域のデータを交互に表示します。RTCの定周期割り込み (INTRTC, 0.5 s 設定のみ) タイミングの設定については, 第7章 リアルタイム・クロックを参照してください。

LCDを点滅表示する場合, Aパターン領域のビットに対応するBパターン領域のビットに反転値を設定してください (ex. F0400Hのビット0に1を設定し, 点滅表示する場合は, F0400Hのビット4に0を設定)。また, LCDを点滅表示しない場合は, 同値を設定してください (ex. F0402Hのビット2に1を設定し, 点灯表示する場合は, F0402Hのビット6に1を設定)。

表示領域については, 14.4 LCD表示データ・レジスタを参照してください。

次に, 表示切り替えのタイミング動作を示します。

図14-16 Aパターン表示から点滅表示への切り替え動作

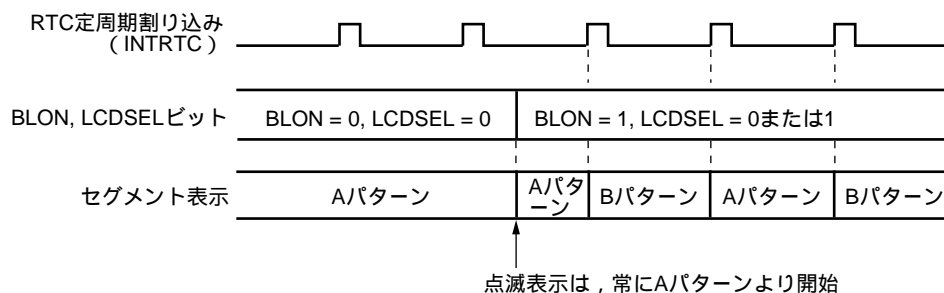
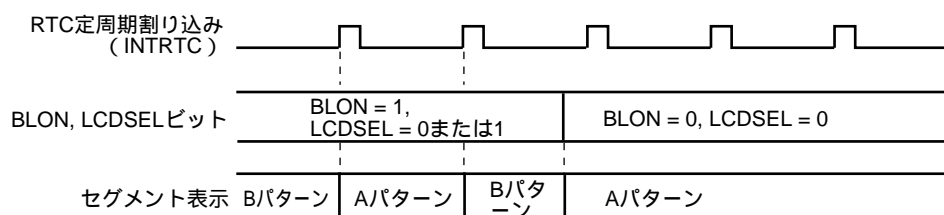


図14-17 点滅表示からAパターン表示への切り替え動作



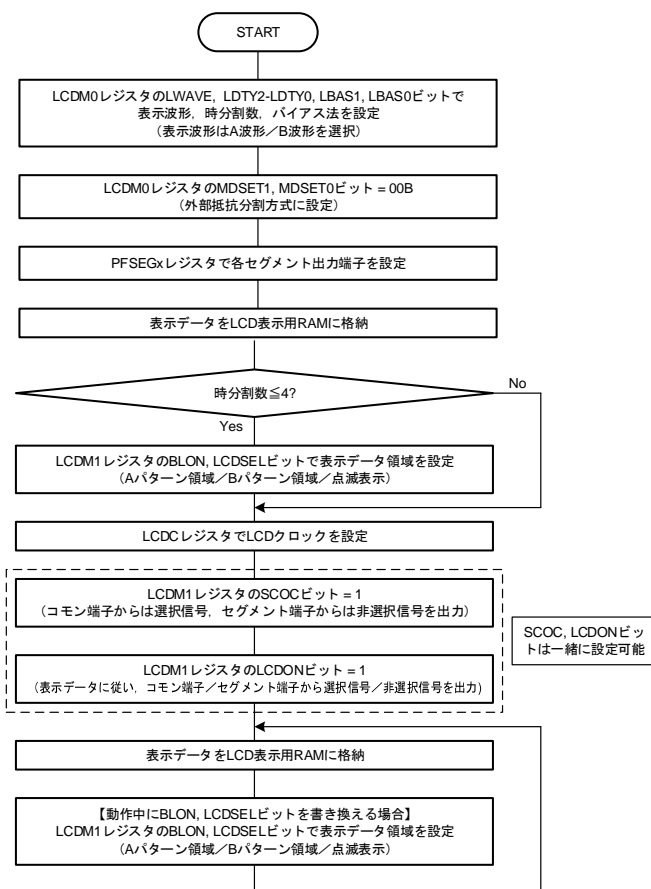
14.6 LCDコントローラ／ドライバの設定

LCDコントローラ／ドライバの設定は、次のように行ってください。

注意 LCDコントローラ／ドライバを動作させる場合は、必ず（1） - （4）の設定手順に従って動作させてください。設定手順を守らない場合の動作は保証しません。

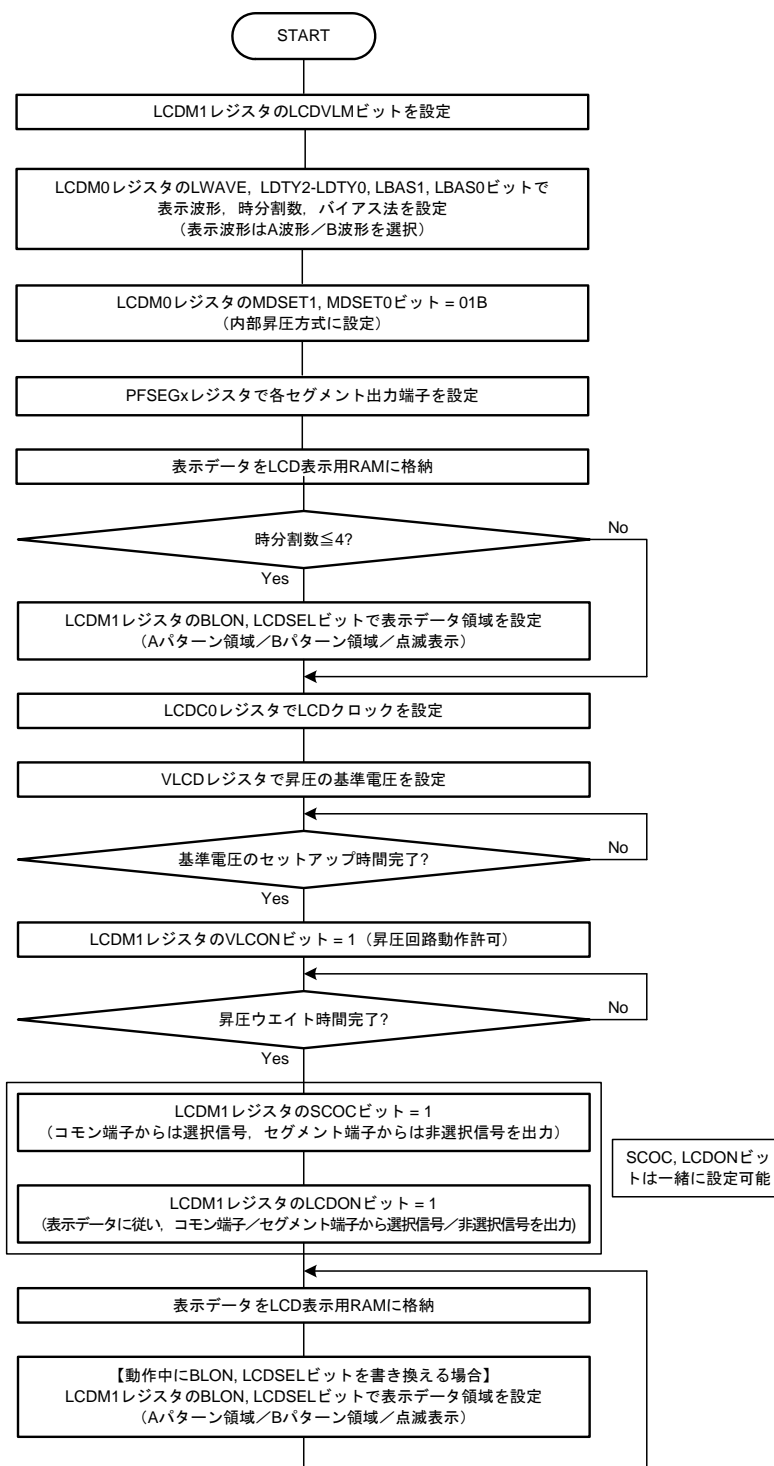
（1）通常液晶波形時の外部抵抗分割方式

図14-18 通常液晶波形時の外部抵抗分割方式の設定手順



(2) 通常液晶波形時の内部昇圧方式

図14-19 通常液晶波形時の内部昇圧方式の設定手順

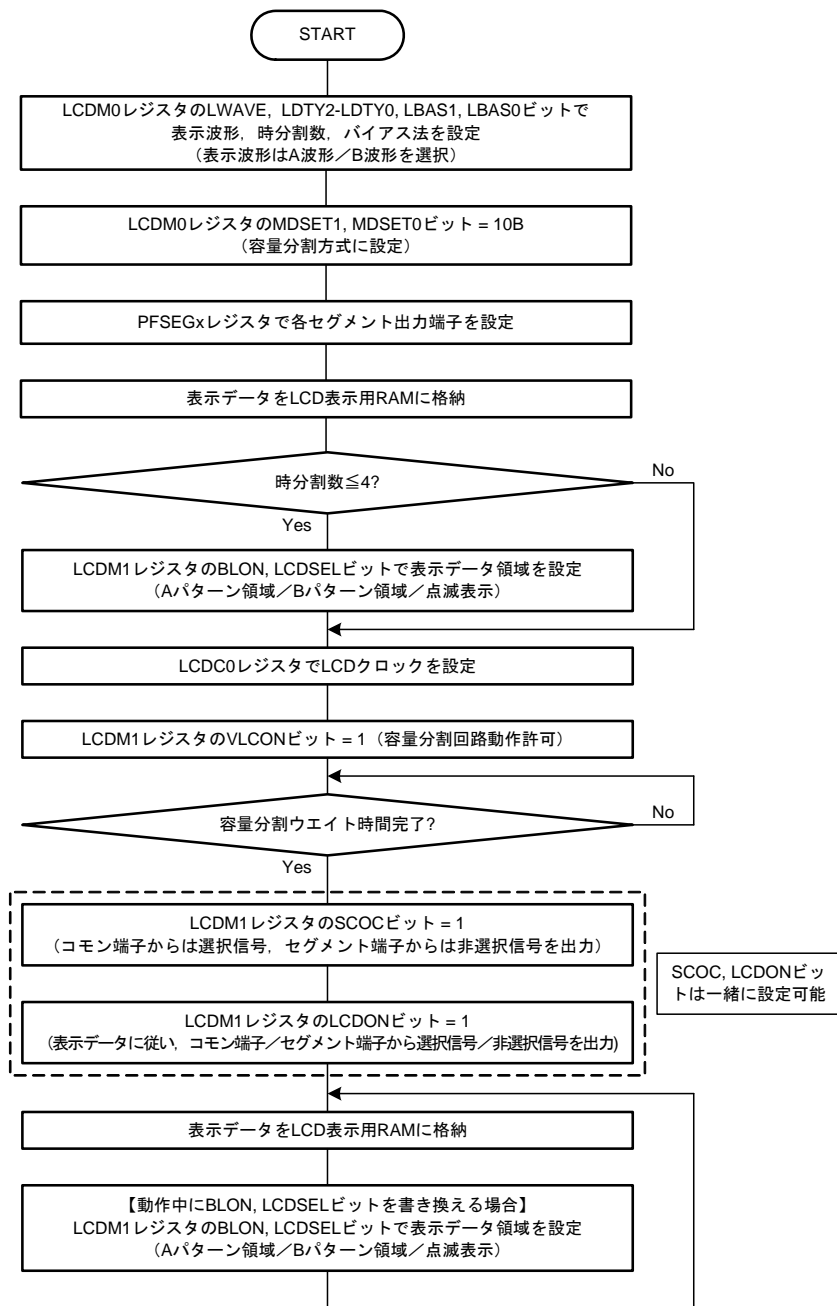


注意1. VLCDレジスタを変更しない場合でもセットアップ時間完了まで待ってください。

2. 基準電圧セットアップ時間, および昇圧ウェイト時間のスペックについては, 第30章または第31章 電気的特性を参照してください。

(3) 通常液晶波形時の容量分割方式

図14-20 通常液晶波形時の容量分割方式の設定手順



注意 昇圧ウェイト時間のスペックについては、第30章または第31章 電気的特性を参照してください。

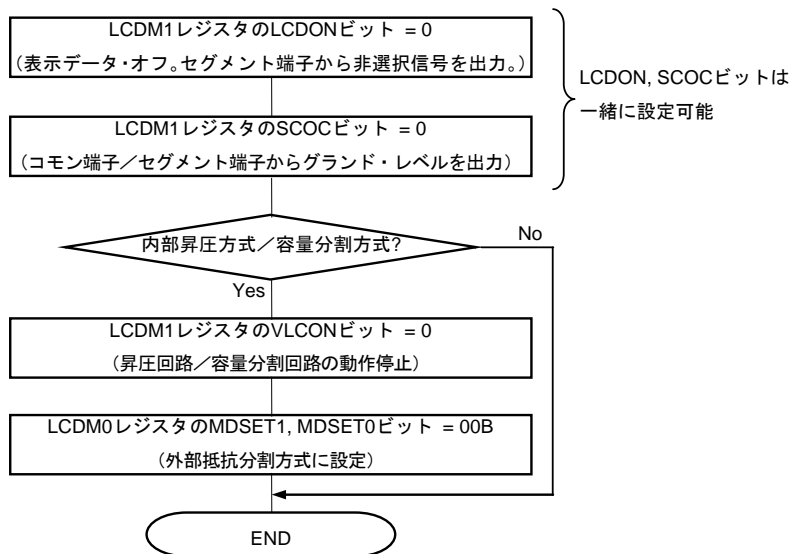
14.7 動作停止手順

LCDパネル表示中に動作を停止させたい場合は、次に示すフロー・チャートの設定で行ってください。

LCDM1レジスタのLCDONビット = 0かつLCDM1レジスタのSCOCビット = 0に設定することで、LCDの動作は停止します。

図14-21 動作停止手順

(a) 通常液晶波形 (A波形, B波形) 時



注意1. 表示オン状態 (LCDM1レジスタのSCOC, LCDONビット = 11B) で、昇圧／容量分割回路を停止すること (LCDM1レジスタのVLCONビット = 0) は禁止です。設定した場合の動作は保証しません。必ず表示オフ (LCDM1レジスタのSCOC, LCDONビット = 00B) にしてから昇圧／容量分割回路を停止 (LCDM1レジスタのVLCONビット = 0) してください。

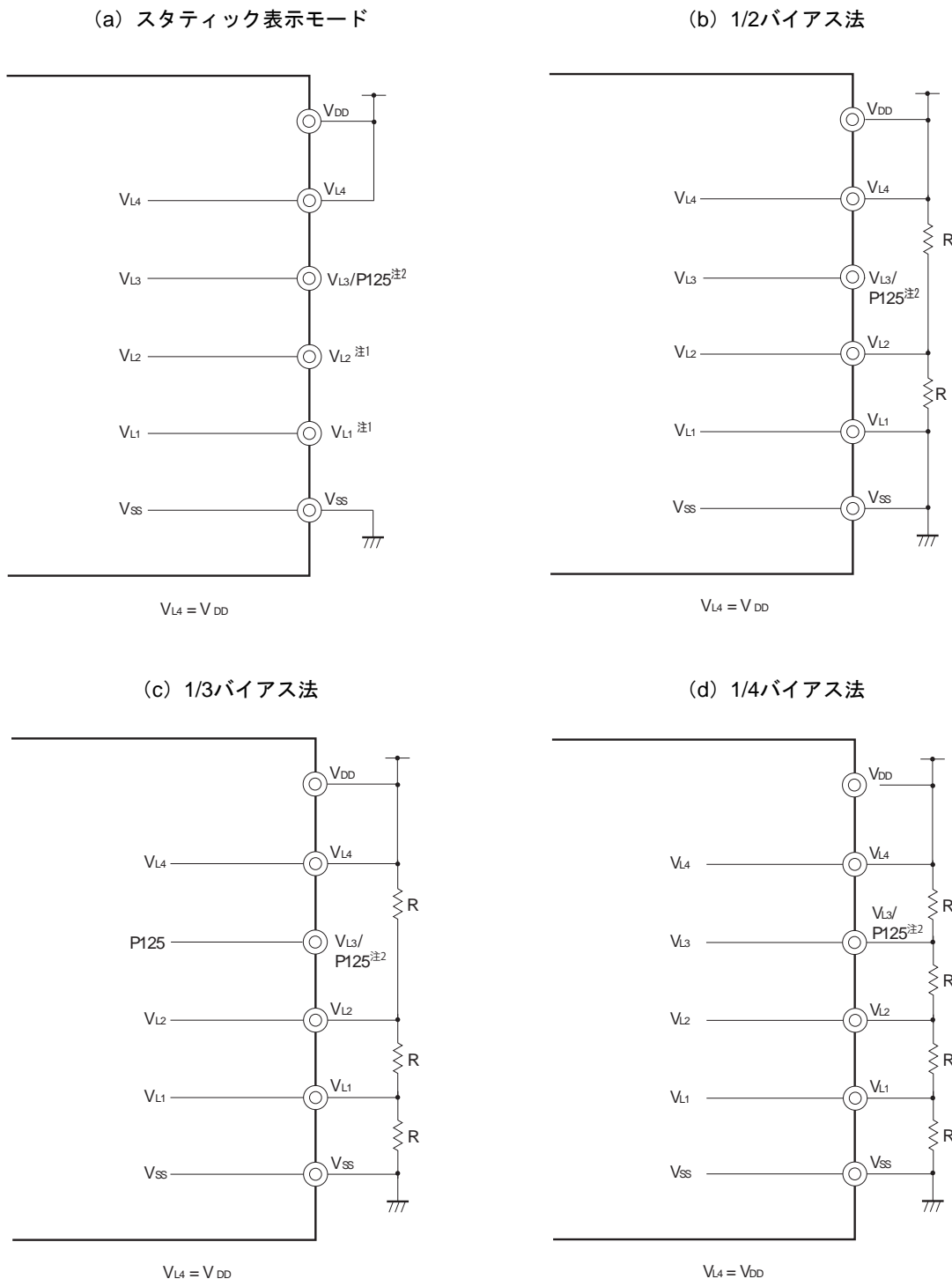
14.8 LCD駆動電圧VL1, VL2, VL3, VL4の供給

LCD 駆動用電源の生成方法として、外部抵抗分割方式、内部昇圧方式、容量分割方式の3種類を選択できます。

14.8.1 外部抵抗分割方式

図14-22に各バイアス法に応じたLCD駆動電圧の接続例を示します。

図14-22 LCD駆動用電源の接続例（外部抵抗分割方式）



注 1. VL1, VL2は、GNDもしくはオープンにしてください。

2. VL3は、ポート (P125) として使用できます。

注意 外部抵抗分解用抵抗Rの参考値は10 kΩ～1 MΩです。また、VL1-VL4端子の電圧を安定させる場合には、必要に応じてVL1-VL4端子-GND間にコンデンサを接続してください。これらの参考値は、0.47 μF程度です。使用するLCDパネル、セグメント端子数、コモン端子数、フレーム周波数、使用環境に依存します。システムに合わせた評価を十分に行った上で、値を調整して決定してください。

14.8.2 内部昇圧方式

RL78/L12は、LCD駆動電源用に内部昇圧回路を内蔵しています。内部昇圧回路と外付けのコンデンサ（0.47 μF±30%）により、LCD駆動電圧を生成します。内部昇圧方式は、1/3バイアス法または1/4バイアス法のみ使用できます。

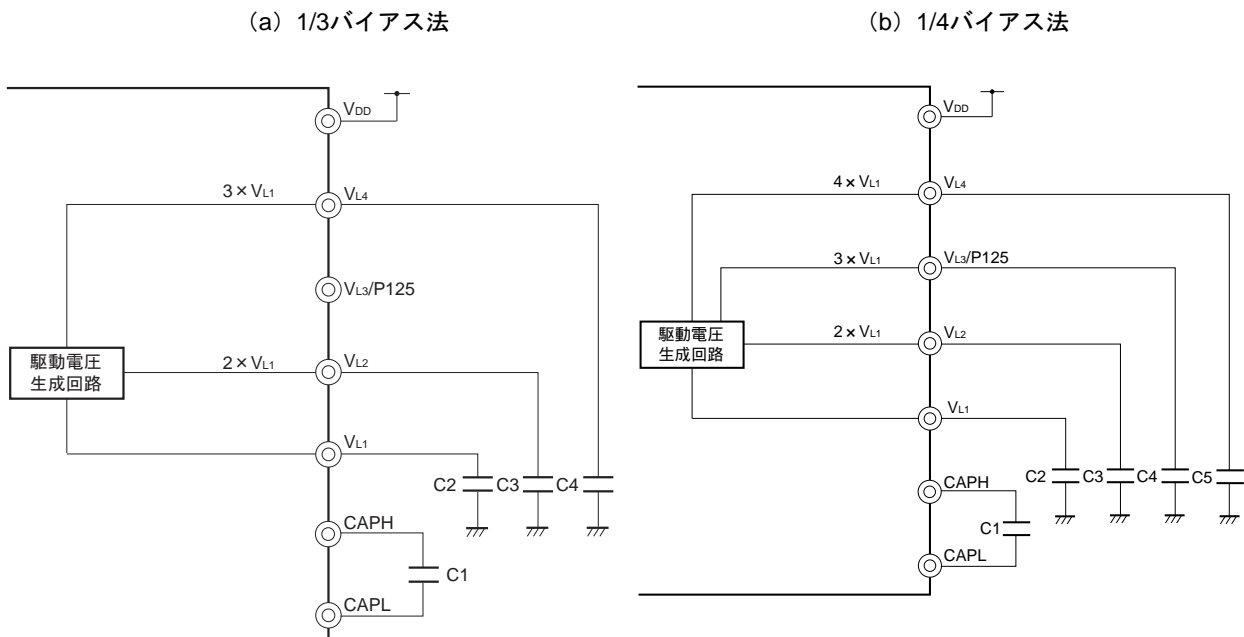
内部昇圧方式のLCD駆動電圧は、本体とは別の電源なので、VDDの変化に関わらず、一定の電圧を供給できます。

また、LCD昇圧制御レジスタ（VLCD）の設定により、コントラストを調整することができます。

表14-11 LCD駆動電圧（内部昇圧方式）

LCD駆動用電源端子	表示モード	1/3バイアス法	1/4バイアス法
VL4		$3 \times V_{L1}$	$4 \times V_{L1}$
VL3		—	$3 \times V_{L1}$
VL2		$2 \times V_{L1}$	$2 \times V_{L1}$
VL1		LCD基準電圧	LCD基準電圧

図14-23 LCD駆動用電源の接続例（内部昇圧方式）



備考 なるべくリークの少ないコンデンサをご使用ください。なお、C1は無極性コンデンサにしてください。

14.8.3 容量分割方式

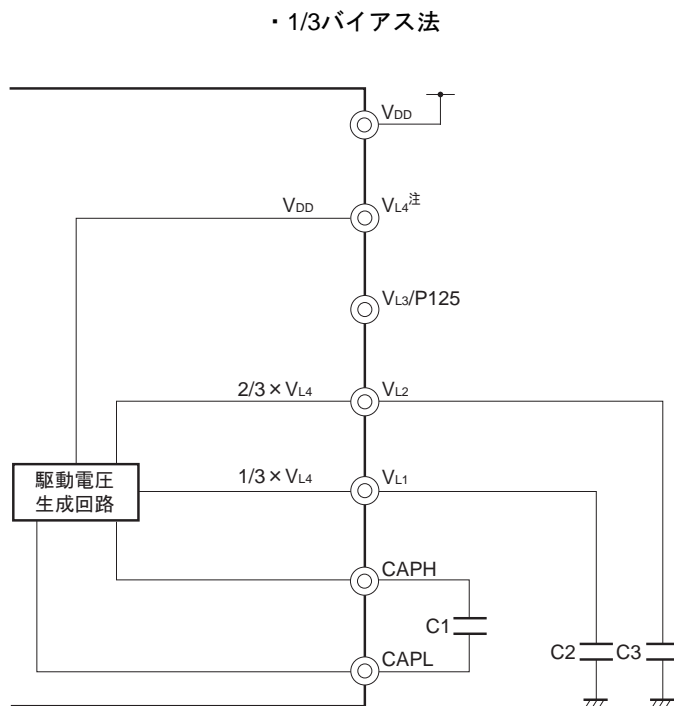
RL78/L12は、LCD駆動電源用に容量分割回路を内蔵しています。容量分割回路と外付けのコンデンサ（ $0.47\ \mu\text{F}\pm 30\%$ ）により、LCD駆動電圧を生成します。容量分割方式は、1/3バイアス法のみ使用できます。

外部抵抗分割方式とは異なり、容量分割方式では常時電流が流れないため、消費電流を低減することができます。

表14-12 LCD駆動電圧（容量分割方式）

LCD駆動電源端子	表示モード	1/3バイアス法
V _{L4}		V _{DD}
V _{L3}		—
V _{L2}		$2/3 \times V_{L4}$
V _{L1}		$1/3 \times V_{L4}$

図14-24 LCD駆動電源の接続例（容量分割方式）



注 内部昇圧方式に切り替えて使用する場合は、図14-23 LCD駆動電源の接続例（内部昇圧方式）のようにコンデンサC4を接続してください。

備考 なるべくリークの少ないコンデンサをご使用ください。なお、C1は無極性コンデンサにしてください。

14.9 コモン信号とセグメント信号

14.9.1 通常液晶波形の場合

LCDパネルの各画素は、それに対応するコモン信号とセグメント信号の電位差が一定電圧（LCD駆動電圧 V_{LCD} ）以上になると点灯します。 V_{LCD} 以下の電位差になると消灯します。

LCDパネルは、コモン信号とセグメント信号にDC電圧が加えられると劣化するため、AC電圧によって駆動されます。

(1) コモン信号

コモン信号は、設定する時分割数に応じて表14-13に示す順序で選択タイミングとなり、それらを一周期として繰り返し動作を行います。スタティック・モードの場合はCOM0-COM3に同一信号が出力されます。

なお、2時分割の場合のCOM2、COM3端子および3時分割の場合のCOM3端子は、オープンにして使用してください。

また、8時分割以外の場合のCOM4-COM7端子は、オープンまたはセグメント端子として使用してください。

表14-13 COM信号

COM信号 時分割数	COM0	COM1	COM2	COM3	COM4	COM5	COM6	COM7
スタティック					注	注	注	注
2時分割			オープン	オープン	注	注	注	注
3時分割				オープン	注	注	注	注
4時分割					注	注	注	注
8時分割								

注 オープン、またはセグメント端子として使用してください。

(2) セグメント信号

セグメント信号は、LCD表示データ・レジスタ（14.4 LCD表示データ・レジスタ参照）に対応しています。

8時分割方式で使用する場合、各表示データ・レジスタのビット0からビット7が、COM0からCOM7に対応します。コモン信号出力の各タイミングに同期して、データ・メモリのデータが読み出され、各ビットの内容が1なら選択電圧に変換され、0なら非選択電圧に変換されてセグメント端子（SEG4-SEG38）に出力されます。

8時分割方式以外で使用する場合、Aパターン領域では、各表示データ・レジスタのビット0からビット3がCOM0からCOM3に、Bパターン領域では、各表示データ・レジスタのビット4からビット7がCOM0からCOM3に対応します。コモン信号出力の各タイミングに同期して、データ・メモリのデータが読み出され、各ビットの内容が1なら選択電圧に変換され、0なら非選択電圧に変換されてセグメント端子（SEG0-SEG38）に出力されます。

以上のことから、LCD表示データ・レジスタには使用するLCDパネルの前面電極（セグメント信号に対応）と背面電極（コモン信号に対応）がどのような組み合わせで表示パターンを形成するのかわ確認のうえ、表示したいパターンに1対1に対応するビット・データを書き込むようにしてください。

備考 搭載するセグメント端子は、製品により異なります。

- ・ 32ピン製品： SEG0, SEG4-SEG6, SEG19-SEG21, SEG27-SEG32
- ・ 44ピン製品： SEG0-SEG6, SEG17-SEG21, SEG25-SEG34
- ・ 48ピン製品： SEG0-SEG7, SEG16-SEG21, SEG24-SEG35
- ・ 52ピン製品： SEG0-SEG8, SEG15-SEG21, SEG23-SEG36
- ・ 64ピン製品： SEG0-SEG38

(3) コモン信号とセグメント信号の出力波形

コモン信号とセグメント信号には表14-14に示す電圧が出力されます。

コモン信号およびセグメント信号がともに選択電圧になったときのみ $\pm V_{LCD}$ の点灯電圧となり、それ以外の組み合わせでは消灯電圧となります。

表14-14 LCD駆動電圧

(a) スタティック表示モード

セグメント信号		選択信号レベル	非選択信号レベル
コモン信号		V_{SS}/V_{L4}	V_{L4}/V_{SS}
V_{L4}/V_{SS}		$-V_{LCD}/+V_{LCD}$	0 V/0 V

(b) 1/2バイアス法

セグメント信号		選択信号レベル	非選択信号レベル
コモン信号		V_{SS}/V_{L4}	V_{L4}/V_{SS}
選択信号レベル	V_{L4}/V_{SS}	$-V_{LCD}/+V_{LCD}$	0 V/0 V
非選択信号レベル	V_{L2}	$-\frac{1}{2}V_{LCD}/+\frac{1}{2}V_{LCD}$	$+\frac{1}{2}V_{LCD}/-\frac{1}{2}V_{LCD}$

(c) 1/3バイアス法 (A波形, B波形)

セグメント信号		選択信号レベル	非選択信号レベル
コモン信号		V_{SS}/V_{L4}	V_{L2}/V_{L1}
選択信号レベル	V_{L4}/V_{SS}	$-V_{LCD}/+V_{LCD}$	$-\frac{1}{3}V_{LCD}/+\frac{1}{3}V_{LCD}$
非選択信号レベル	V_{L1}/V_{L2}	$-\frac{1}{3}V_{LCD}/+\frac{1}{3}V_{LCD}$	$+\frac{1}{3}V_{LCD}/-\frac{1}{3}V_{LCD}$

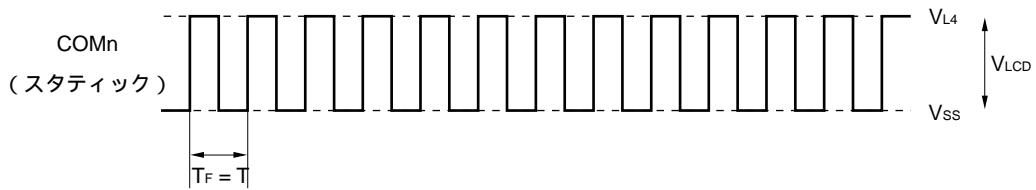
(d) 1/4バイアス法 (A波形, B波形)

セグメント信号		選択信号レベル	非選択信号レベル
コモン信号		V_{SS}/V_{L4}	V_{L2}
選択信号レベル	V_{L4}/V_{SS}	$-V_{LCD}/+V_{LCD}$	$-\frac{1}{2}V_{LCD}/+\frac{1}{2}V_{LCD}$
非選択信号レベル	V_{L1}/V_{L3}	$-\frac{1}{4}V_{LCD}/+\frac{1}{4}V_{LCD}$	$+\frac{1}{4}V_{LCD}/-\frac{1}{4}V_{LCD}$

図14-25にコモン信号波形を、図14-26にコモン信号とセグメント信号の電圧と位相を示します。

図14-25 コモン信号波形 (1/2)

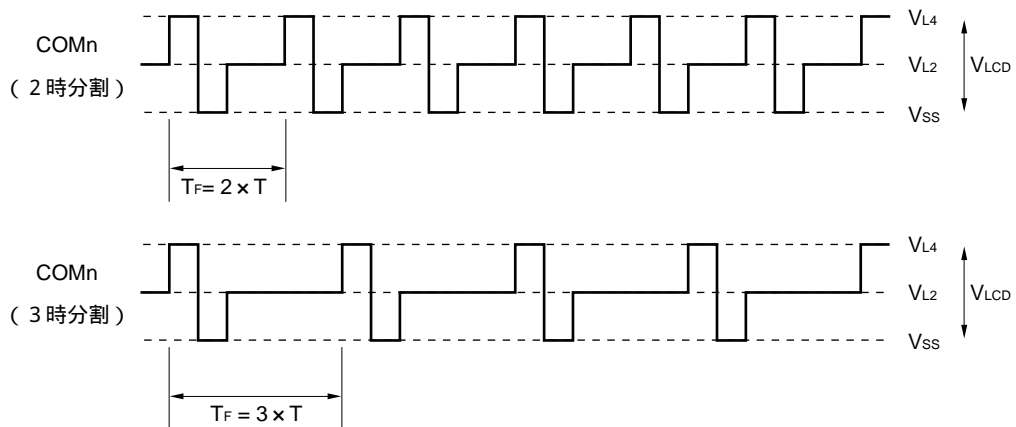
(a) スタティック表示モード



T : LCDクロックの1周期分

T_F : フレーム周波数

(b) 1/2バイアス法

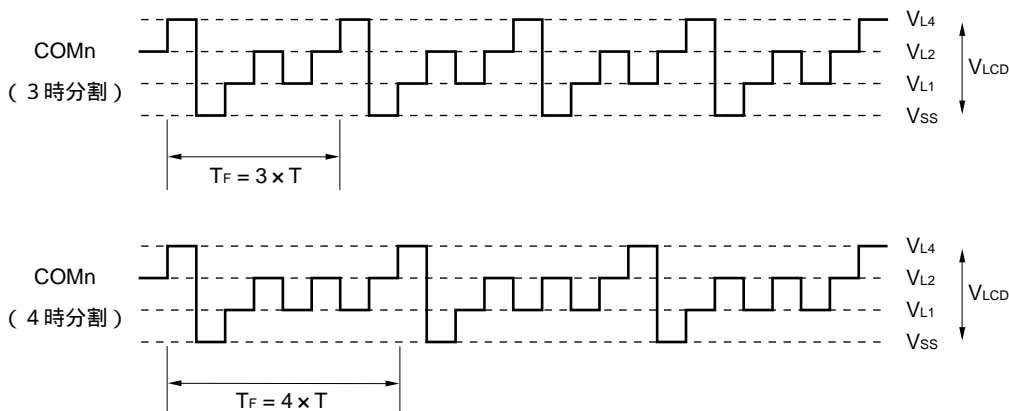


T : LCDクロックの1周期分

T_F : フレーム周波数

図14-25 コモン信号波形 (2/2)

(c) 1/3バイアス法



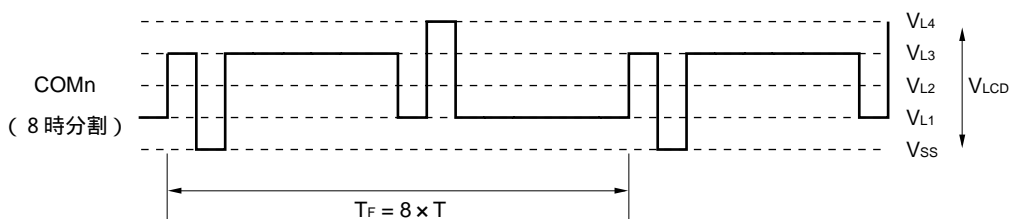
T : LCDクロックの1周期分 TF : フレーム周波数

<LCDフレーム周波数の算出例 (4時分割使用時) >

LCDクロック : $32768/2^8 = 256 \text{ Hz}$ (LCDC0 = 07H設定時)

LCDフレーム周波数 : 64 Hz

(d) 1/4バイアス法



T : LCDクロックの1周期分 TF : フレーム周波数

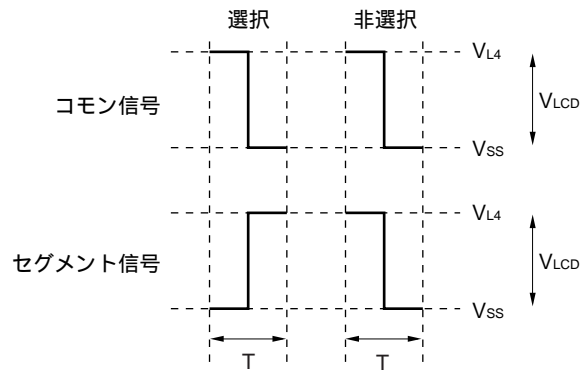
<LCDフレーム周波数の算出例 (8時分割使用時) >

LCDクロック : $32768/2^8 = 256 \text{ Hz}$ (LCDC0 = 07H設定時)

LCDフレーム周波数 : 32 Hz

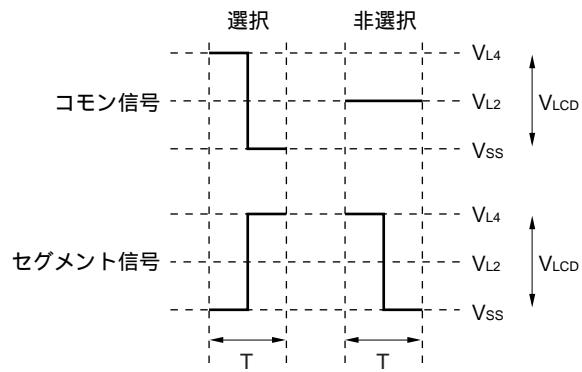
図14-26 コモン信号とセグメント信号の電圧と位相 (1/3)

(a) スタティック表示モード (A波形)



T : LCDクロックの1周期分

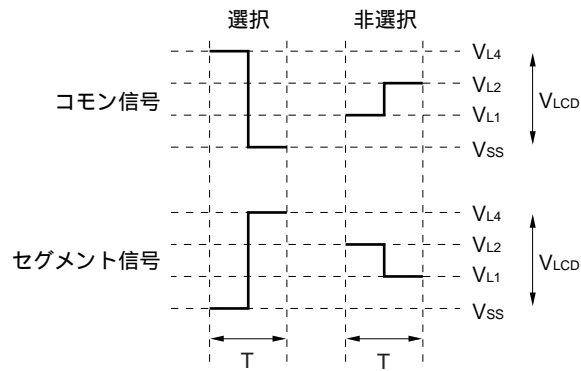
(b) 1/2バイアス法 (A波形)



T : LCDクロックの1周期分

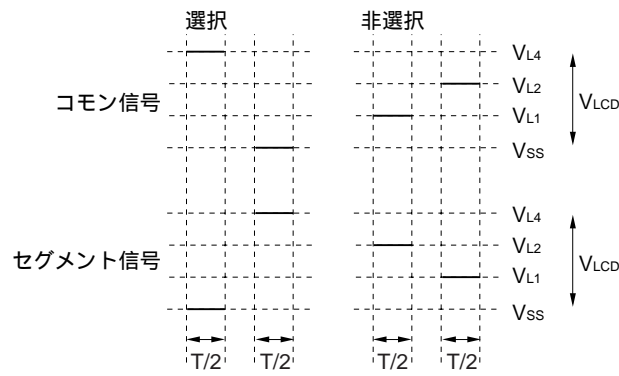
図14-26 コモン信号とセグメント信号の電圧と位相 (2/3)

(c) 1/3バイアス法 (A波形)



T : LCDクロックの1周期分

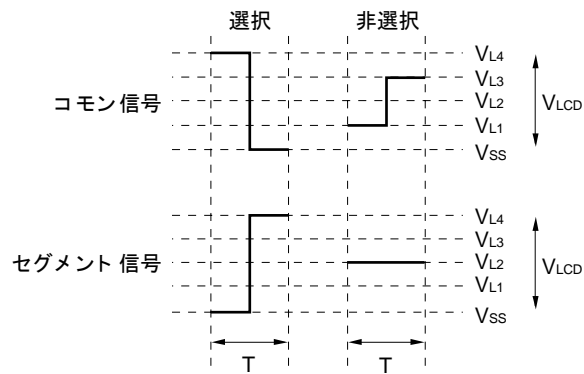
(d) 1/3バイアス法 (B波形)



T : LCDクロックの1周期分

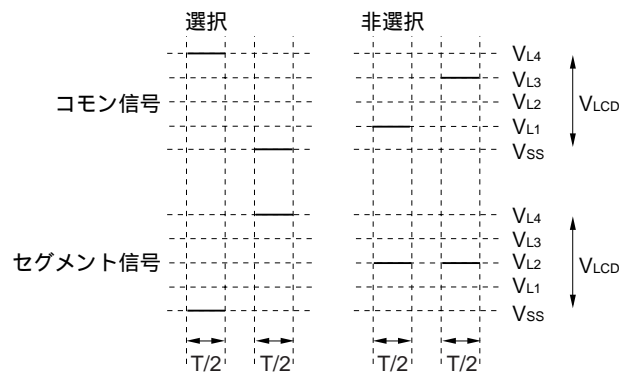
図14-26 コモン信号とセグメント信号の電圧と位相 (3/3)

(e) 1/4バイアス法 (A波形)



T : LCDクロックの1周期分

(f) 1/4バイアス法 (B波形)



T : LCDクロックの1周期分

14.10 表示モード

14.10.1 スタティック表示例

図14-28は、図14-27の表示パターンを持つスタティック方式の3桁のLCDパネルとセグメント信号 (SEG0-SEG23) およびコモン信号 (COM0) との接続を示します。表示例は12.3で、表示データ・レジスタ (F0400H-F0417H) の内容はこれに対応しています。

ここでは2桁目の2. (2.) を例にとって説明します。図14-27の表示パターンに従って、COM0のコモン信号のタイミングで表14-15に示すような選択、非選択電圧をSEG8-SEG15端子に出力する必要があります。

表14-15 選択、非選択電圧 (COM0)

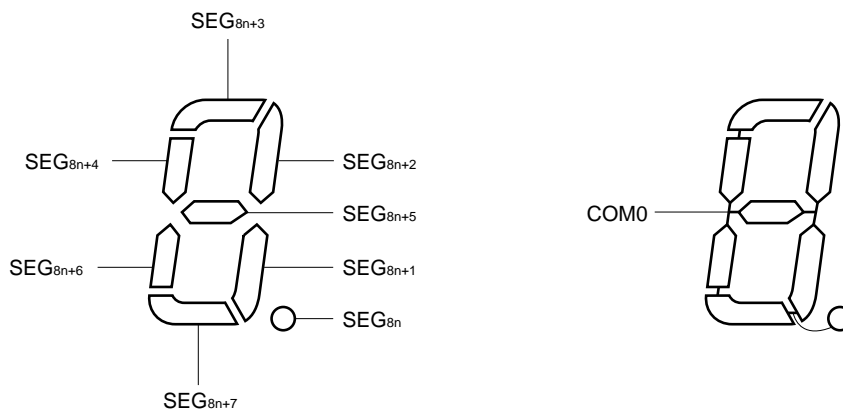
セグメント コモン	SEG8	SEG9	SEG10	SEG11	SEG12	SEG13	SEG14	SEG15
COM0	選	非	選	選	非	選	選	選

これによりSEG8-SEG15に対応する表示データ・レジスタ (F0408H-F040FH) のビット0には、10110111を用意すればよいことが分かります。

SEG11, SEG12とCOM0とのLCD駆動波形を図14-29に示します。COM0との選択タイミングでSEG11が選択電圧になるときに、LCD点灯レベルである $+V_{LCD}/-V_{LCD}$ の交流矩形波が発生することが分かります。

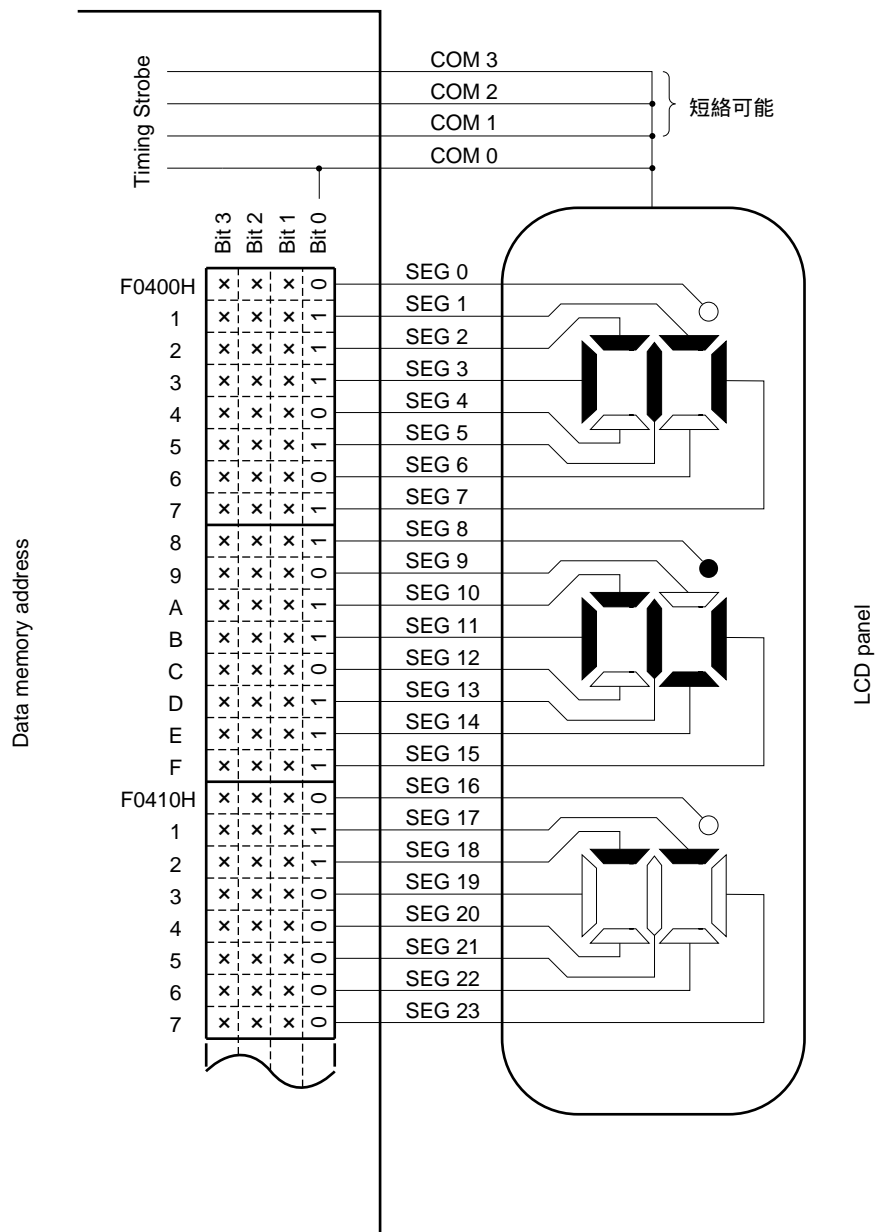
COM1-COM3にはCOM0と同じ波形が出力されますので、COM0-COM3を接続してドライブ能力を上げることができます。

図14-27 スタティックLCDの表示パターンと電極結線



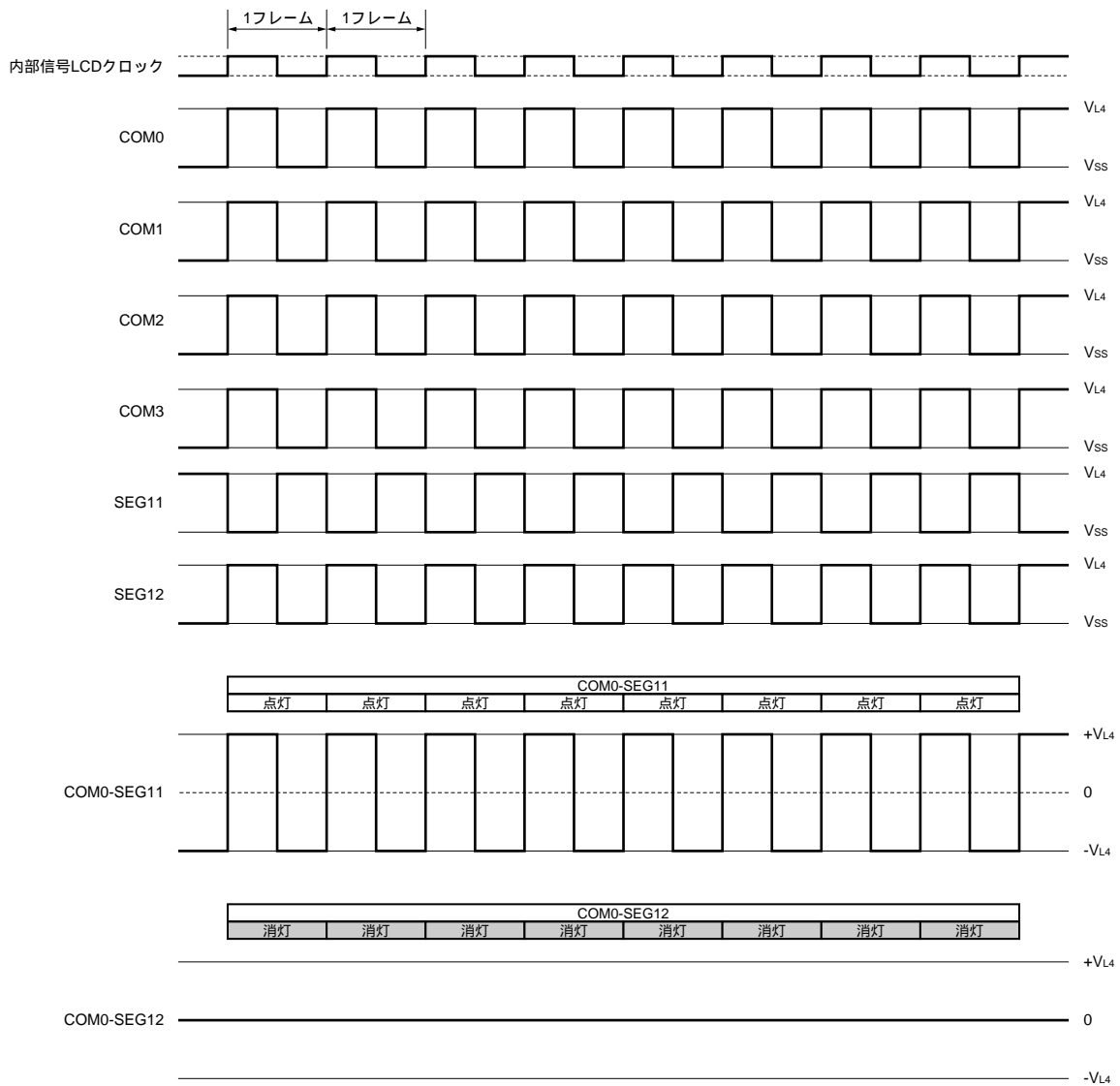
備考	30ピン製品	: n = 0
	44ピン製品	: n = 0, 1
	48, 52ピン製品	: n = 0-2
	64ピン製品	: n = 0-3

図14-28 スタティックLCDパネルの結線例



備考 × : Don't care

図14-29 SEG11, SEG12とCOM0とのスタティックLCD駆動波形例



14. 10. 2 2時分割表示例

図 14-31は、図 14-30の表示パターンを持つ2時分割方式の6桁LCDパネルとセグメント信号 (SEG0-SEG23) およびコモン信号 (COM0, COM1) との接続を示します。表示例は12345.6で、表示データ・レジスタ (F0400H-F0417H) の内容はそれらに対応しています。

ここでは4桁目の3 (3) を例にとって説明します。図14-30の表示パターンに従って、COM0, COM1の各コモン信号のタイミングで表14-16に示すような選択、非選択電圧をSEG12-SEG15端子に出力する必要があります。

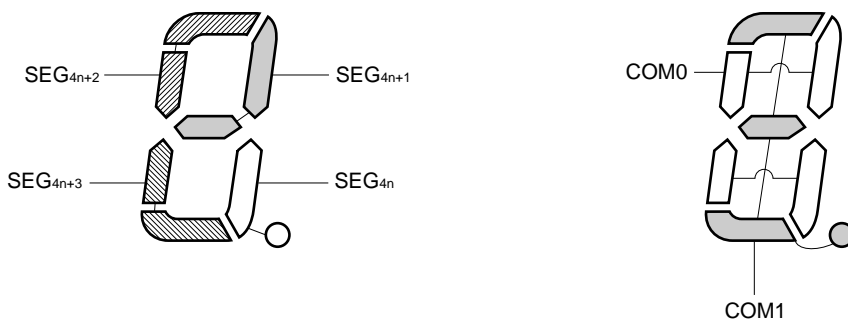
表14-16 選択、非選択電圧 (COM0, COM1)

セグメント コモン	SEG12	SEG13	SEG14	SEG15
COM0	選	選	非	非
COM1	非	選	選	選

これにより、たとえばSEG15に対応する表示データ・レジスタ (F040FH番地) には、 $\times \times 10$ を用意すればよいことが分かります。

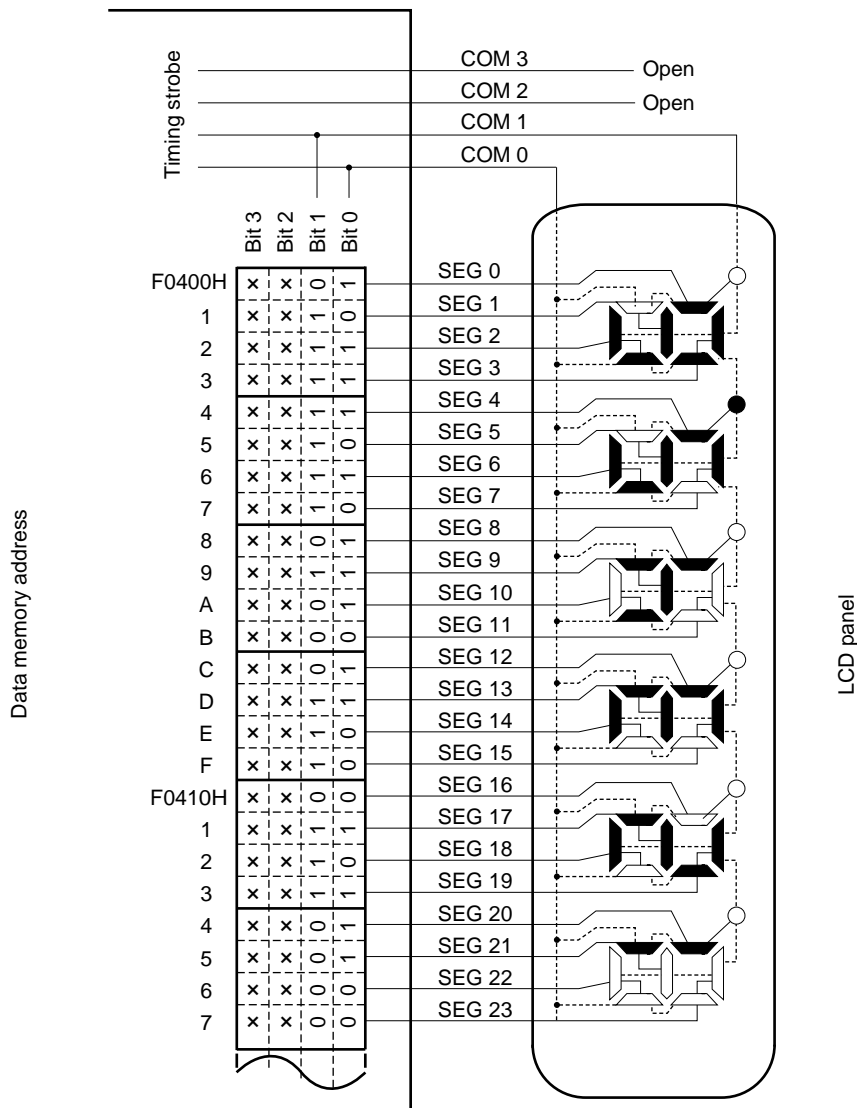
SEG15と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図14-32に示します。COM1の選択タイミングでSEG15が選択電圧のときに、LCD点灯レベルである $+V_{Lcd}/-V_{Lcd}$ の交流矩形波が発生することが分かります。

図14-30 2時分割LCD表示パターンと電極結線



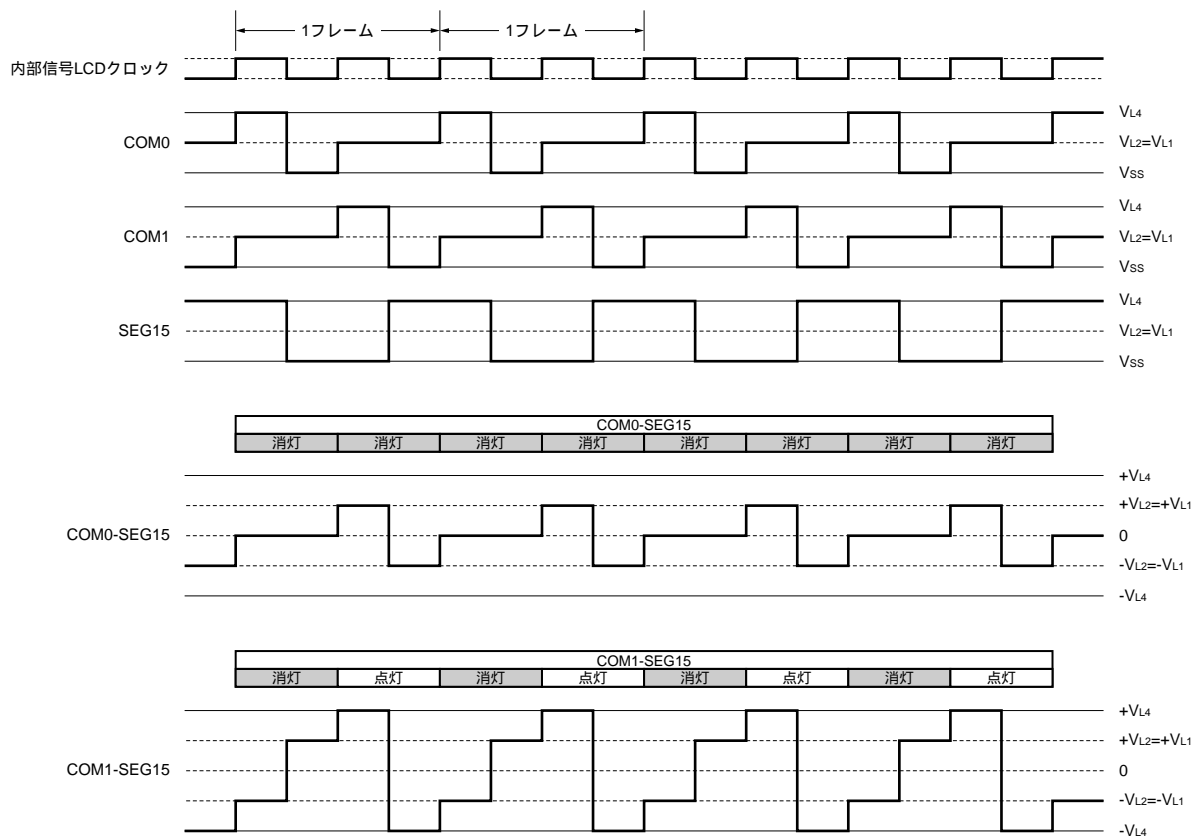
- 備考
- 30ピン製品 : n = 0-2
 - 44ピン製品 : n = 0-4
 - 48ピン製品 : n = 0-5
 - 52ピン製品 : n = 0-6
 - 64ピン製品 : n = 0-8

図14-31 2時分割LCDパネルの結線例



備考 × : Don't care

図14-32 SEG15と各コモン信号間の2時分割LCD駆動波形例（1/2バイアス法）



14. 10. 3 3時分割表示例

図 14-34 は、図 14-33 の表示パターンを持つ 3 時分割方式の 8 桁 LCD パネルとセグメント信号 (SEG0-SEG23) およびコモン信号 (COM0-COM2) との接続を示します。表示例は 123456.78 で、表示データ・レジスタ (F0400H-F0417H) の内容はこれに対応しています。

ここでは 3 桁目の 6. (E) を例にとって説明します。図 14-33 の表示パターンに従って、COM0-COM2 の各コモン信号のタイミングで表 14-17 に示すような選択、非選択電圧を SEG6-SEG8 端子に出力する必要があります。

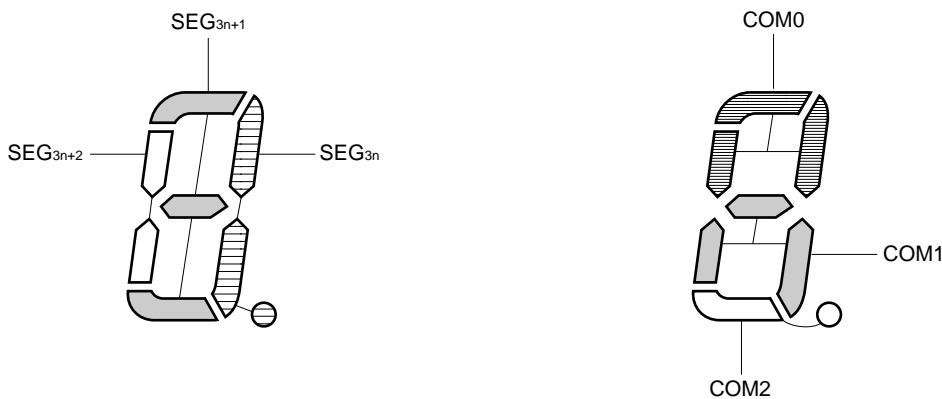
表 14-17 選択、非選択電圧 (COM0-COM2)

セグメント	SEG6	SEG7	SEG8
コモン			
COM0	非	選	選
COM1	選	選	選
COM2	選	選	—

これにより SEG6 に対応する表示データ・レジスタ (F0406H 番地) には、×110 を用意すればよいことが分かります。

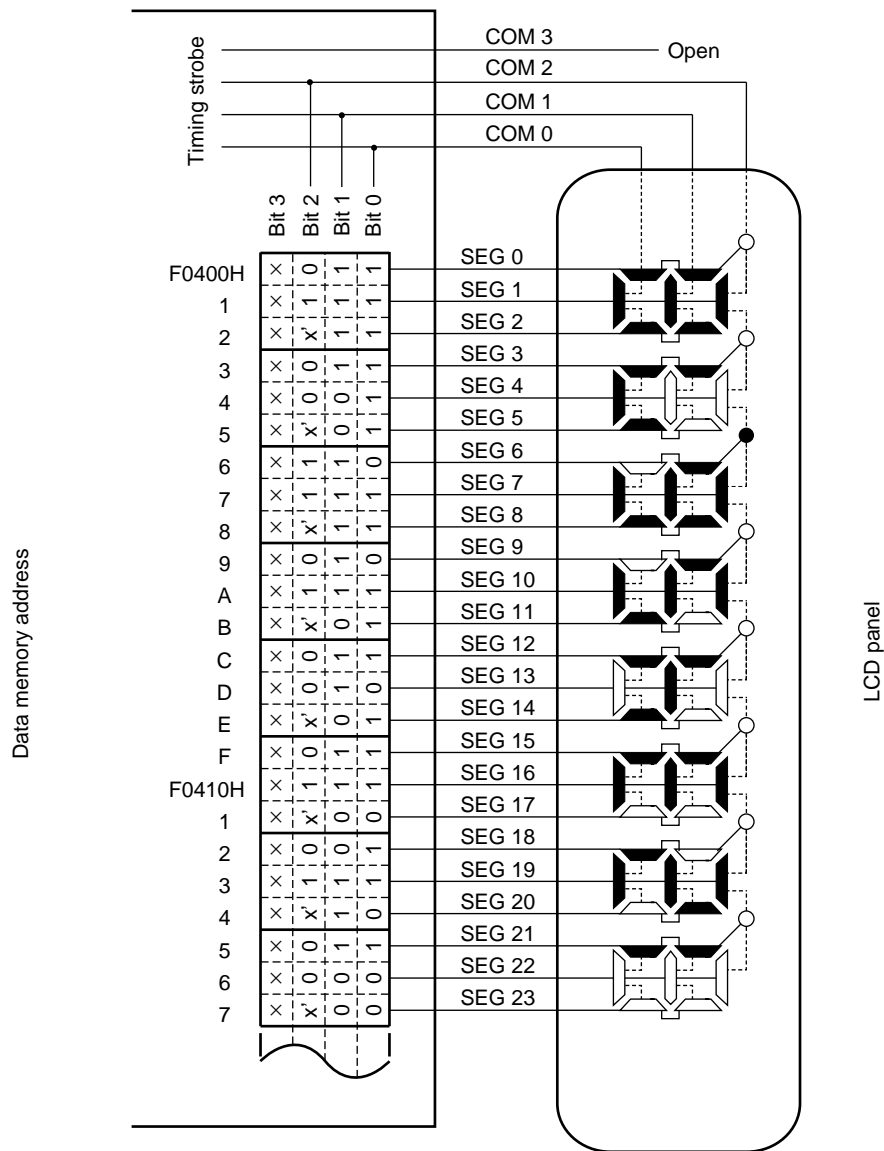
SEG6 と各コモン信号間の LCD 駆動波形例を図 14-35 (1/2 バイアス法)、図 14-36 (1/3 バイアス法) に示します。COM1 の選択タイミングで SEG6 が選択電圧のとき、および COM2 の選択タイミングで SEG6 が選択電圧のときに、LCD 点灯レベルである +V_{LCD}/−V_{LCD} の交流矩形波が発生することが分かります。

図 14-33 3時分割 LCD 表示パターンと電極結線



- 備考 30ピン製品 : n = 0-3
- 44ピン製品 : n = 0-6
- 48ピン製品 : n = 0-7
- 52ピン製品 : n = 0-9
- 64ピン製品 : n = 0-12

図14-34 3時分割LCDパネルの結線例



備考 × : Don't care
 ×' : LCDパネルに対応セグメントがない

図14-35 SEG6と各コモン信号間の3時分割LCD駆動波形例（1/2バイアス法）

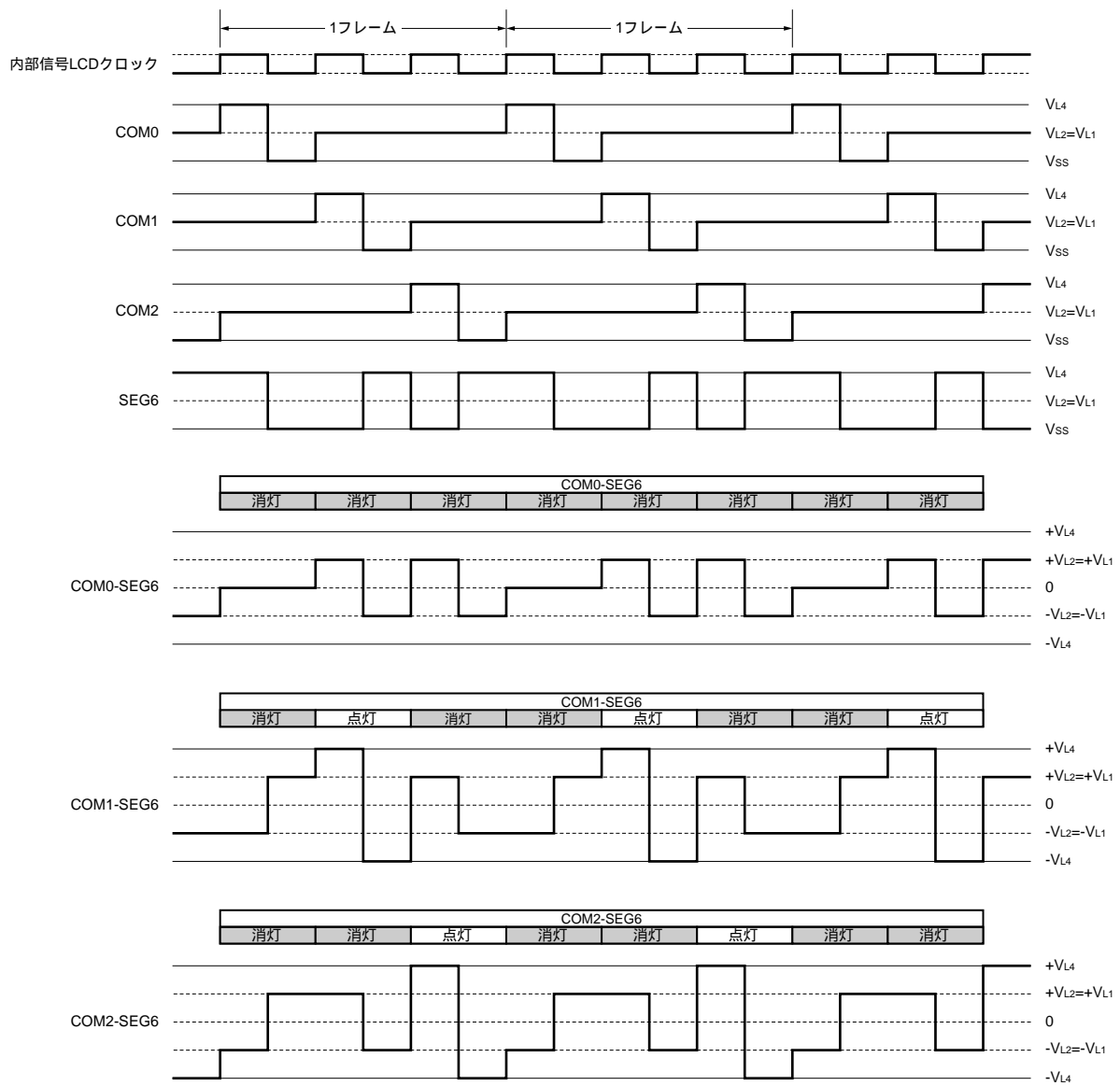
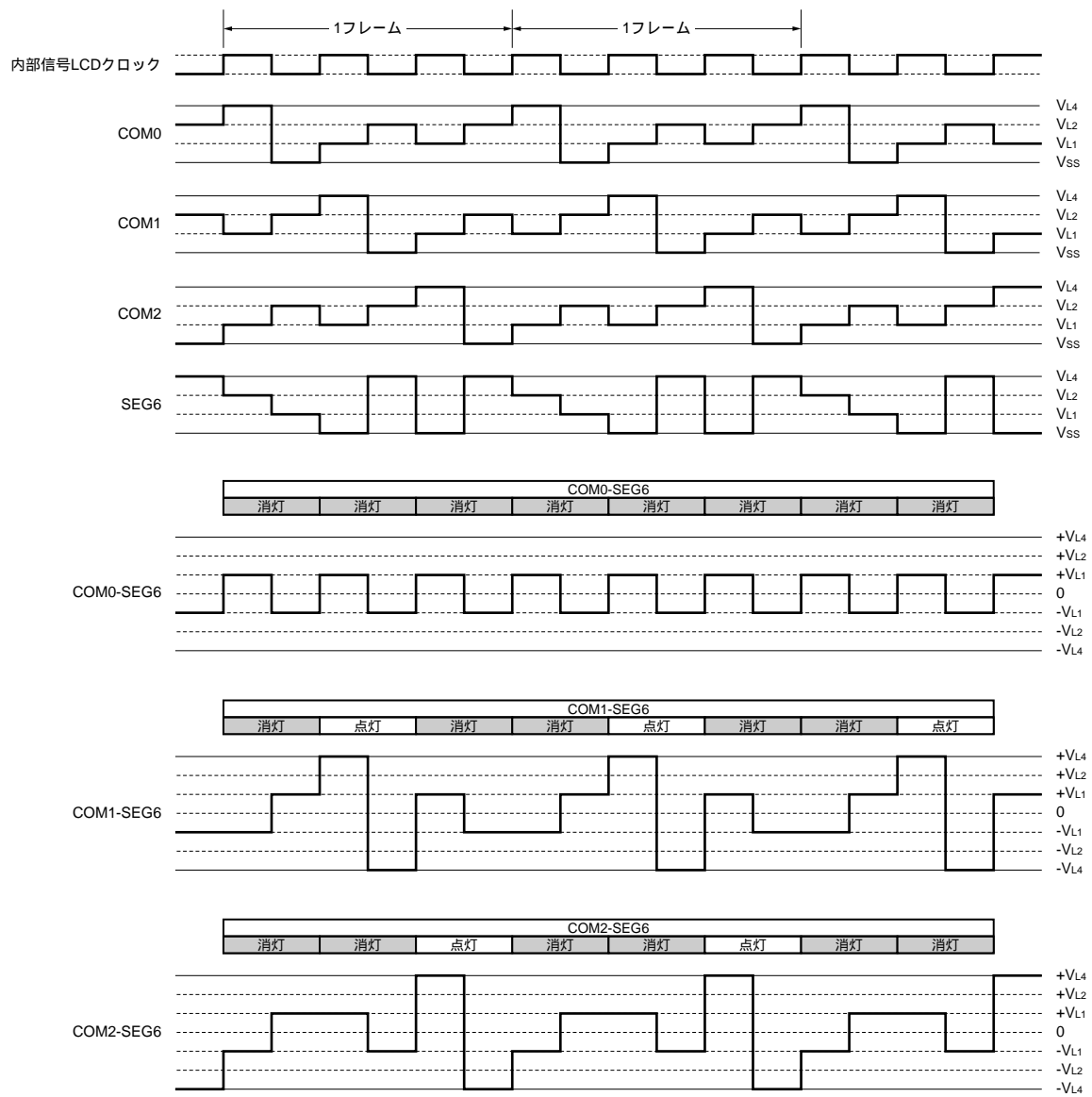


図14-36 SEG6と各コモン信号間の3時分割LCD駆動波形例（1/3バイアス法）



14. 10. 4 4時分割表示例

図 14-38は、図 14-37の表示パターンを持つ4時分割方式の12桁LCDパネルとセグメント信号 (SEG0-SEG23) およびコモン信号 (COM0-COM3) との接続を示します。表示例は123456.789012で、表示データ・レジスタ (F0400H-F0417H番地) の内容はこれに対応しています。

ここでは7桁目の6. (E) を例にとって説明します。図14-37の表示パターンに従って、COM0-COM3の各コモン信号のタイミングで表14-18に示すような選択、非選択電圧をSEG12, SEG13端子に出力する必要があります。

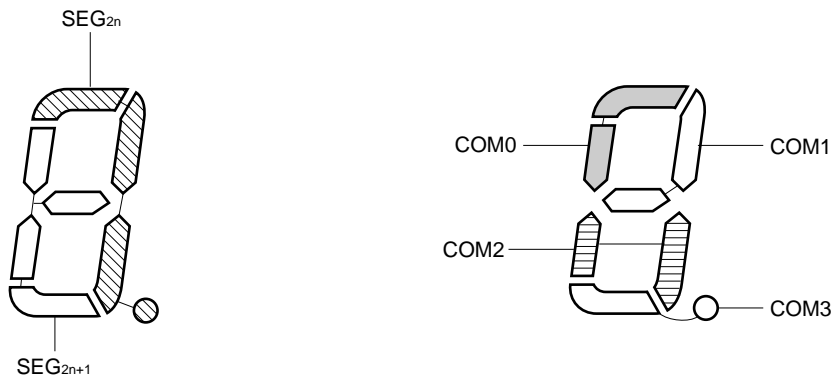
表14-18 選択、非選択電圧 (COM0-COM3)

セグメント コモン	SEG12	SEG13
COM0	選	選
COM1	非	選
COM2	選	選
COM3	選	選

これによりSEG12に対応する表示データ・レジスタ (F040CH番地) には、1101を用意すればよいことが分かります。

SEG12と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図14-39に示します。COM0の選択タイミングでSEG12が選択電圧になるときに、LCD点灯レベルである+V_{Lcd}/-V_{Lcd}の交流矩形波が発生することが分かります。

図14-37 4時分割LCD表示パターンと電極結線



- 備考 30ピン製品 : n = 0-5
- 44ピン製品 : n = 0-10
- 48ピン製品 : n = 0-12
- 52ピン製品 : n = 0-14
- 64ピン製品 : n = 0-18

図14-38 4時分割LCDパネルの結線例

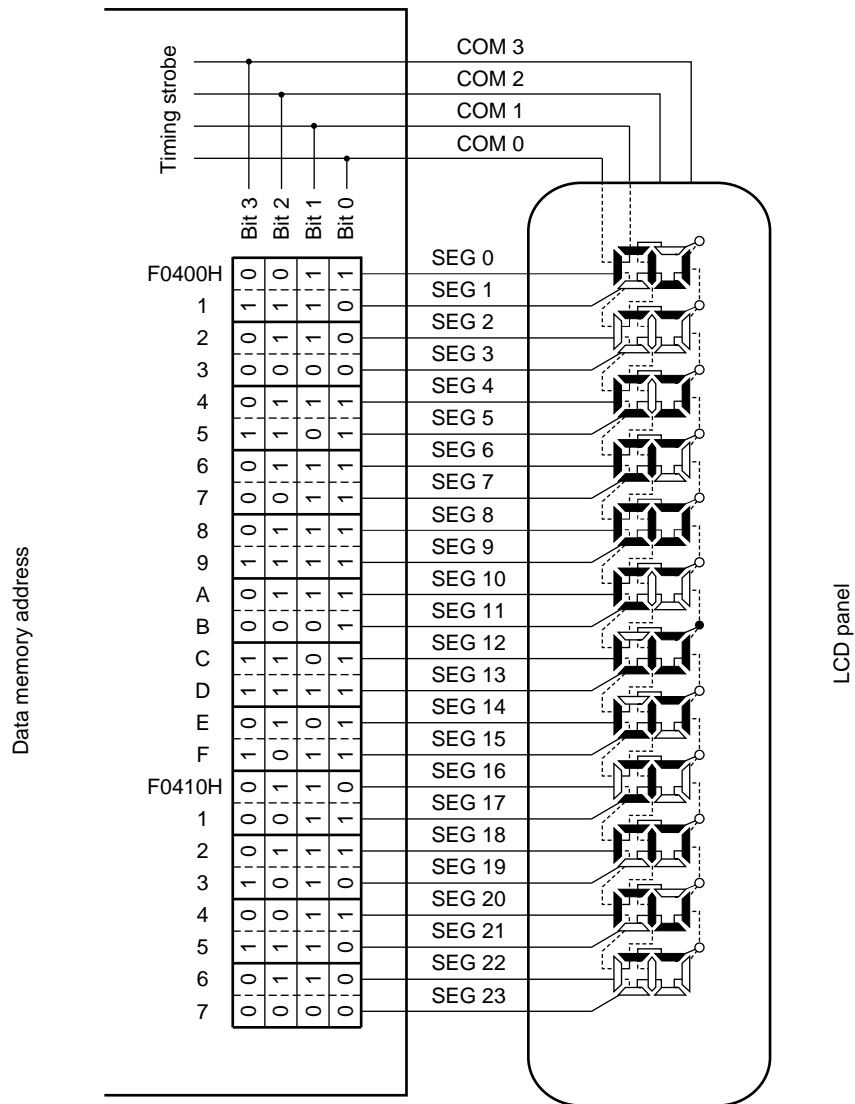


図14-39 SEG12と各コモン信号間の4時分割LCD駆動波形例（1/3バイアス法）（1/2）

(a) A波形の場合

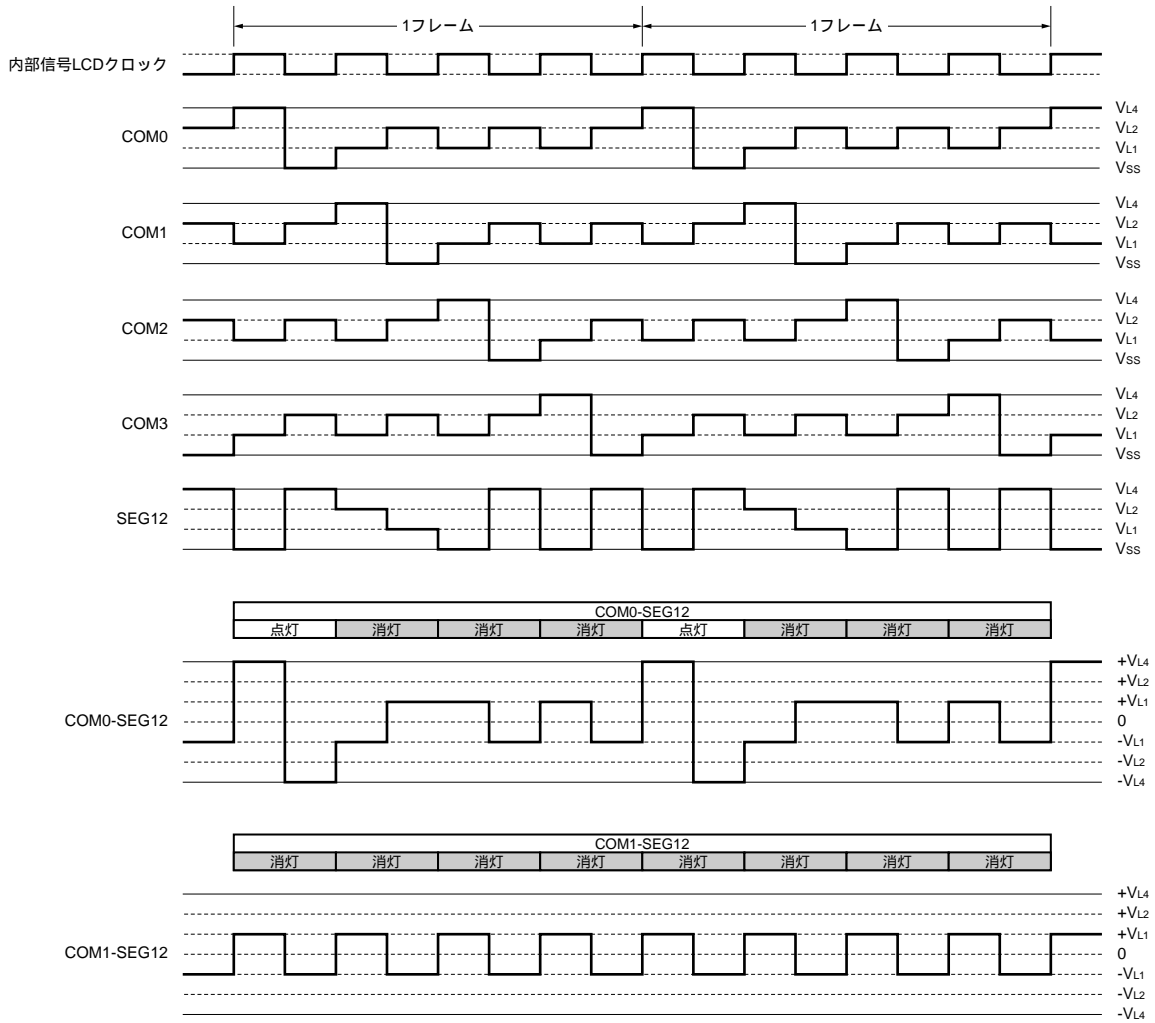
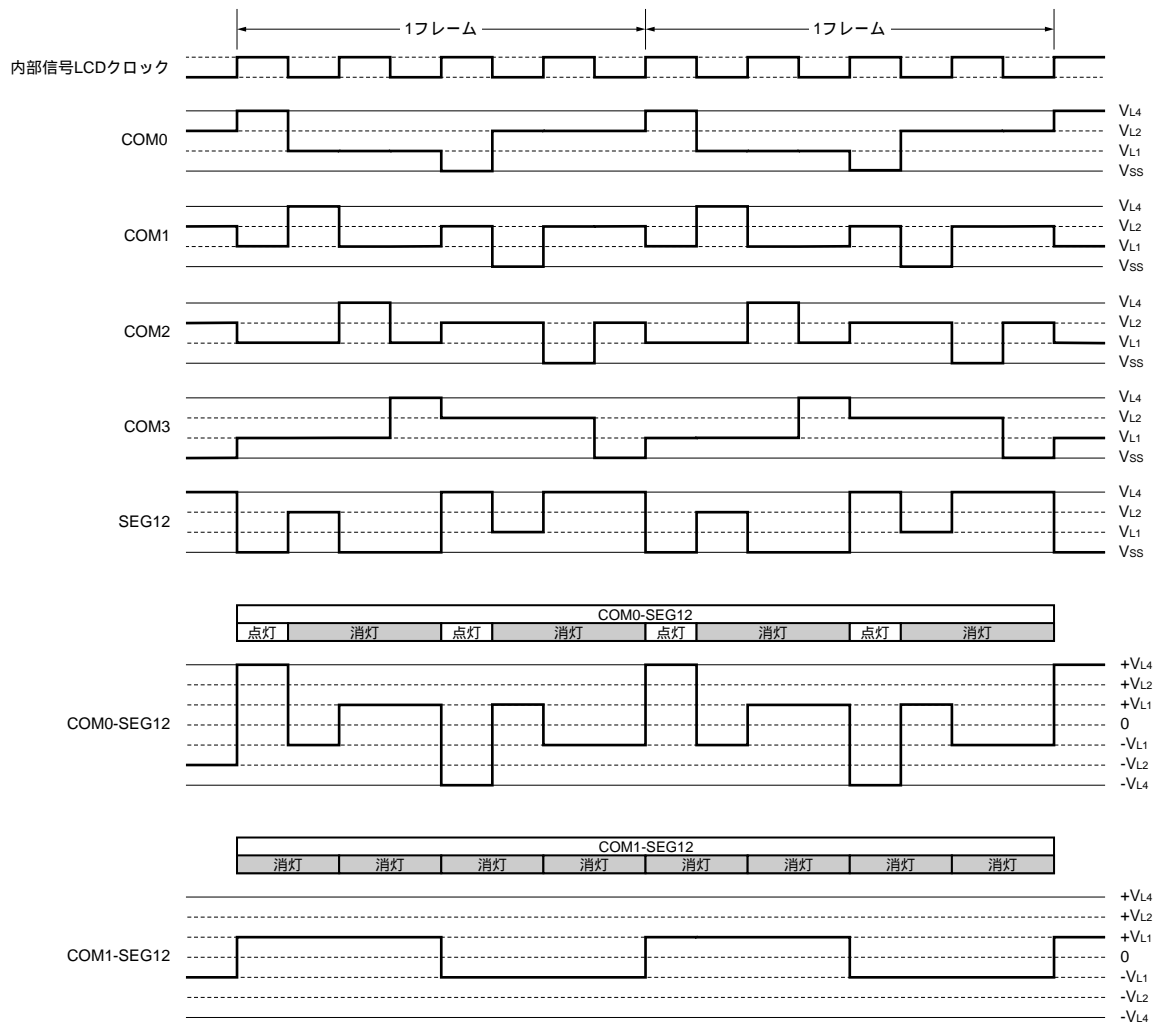


図14-39 SEG12と各コモン信号間の4時分割LCD駆動波形例（1/3バイアス法）（2/2）

(b) B波形の場合



14. 10. 5 8時分割表示例

図14-41は、図14-40の表示パターンを持つ8時分割方式の15×8のドットLCDパネルとセグメント信号 (SEG4-SEG18) およびコモン信号 (COM0-COM7) との接続を示します。表示例は123で、表示データ・レジスタ (F0404H-F0412H番地) の内容はこれに対応しています。

ここでは1桁目の3 (3) を例にとって説明します。図14-40の表示パターンに従って、COM0-COM7の各コモン信号のタイミングで表14-19に示すような選択、非選択電圧をSEG4-SEG8端子に出力する必要があります。

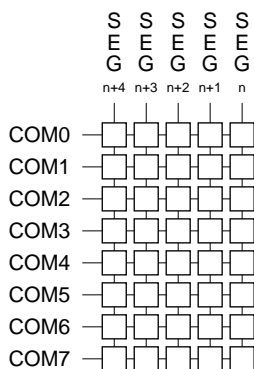
表14-19 選択、非選択電圧 (COM0-COM7)

セグメント コモン	SEG4	SEG5	SEG6	SEG7	SEG8
COM0	選	選	選	選	選
COM1	非	選	非	非	非
COM2	非	非	選	非	非
COM3	非	選	非	非	非
COM4	選	非	非	非	非
COM5	選	非	非	非	選
COM6	非	選	選	選	非
COM7	非	非	非	非	非

これによりSEG4に対応する表示データ・レジスタ (F0404H番地) には、00110001を用意すればよいことが分かります。

SEG4と各コモン信号間のLCD駆動波形例を図14-42に示します。COM0の選択タイミングでSEG4が選択電圧になるときに、LCD点灯レベルの波形が発生することが分かります。

図14-40 8時分割LCD表示パターンと電極結線



- 備考 30ピン製品 : n = 4-8
- 44ピン製品 : n = 4-17
- 48ピン製品 : n = 4-21
- 52ピン製品 : n = 4-25
- 64ピン製品 : n = 4-34

図14-41 8時分割LCDパネルの結線例

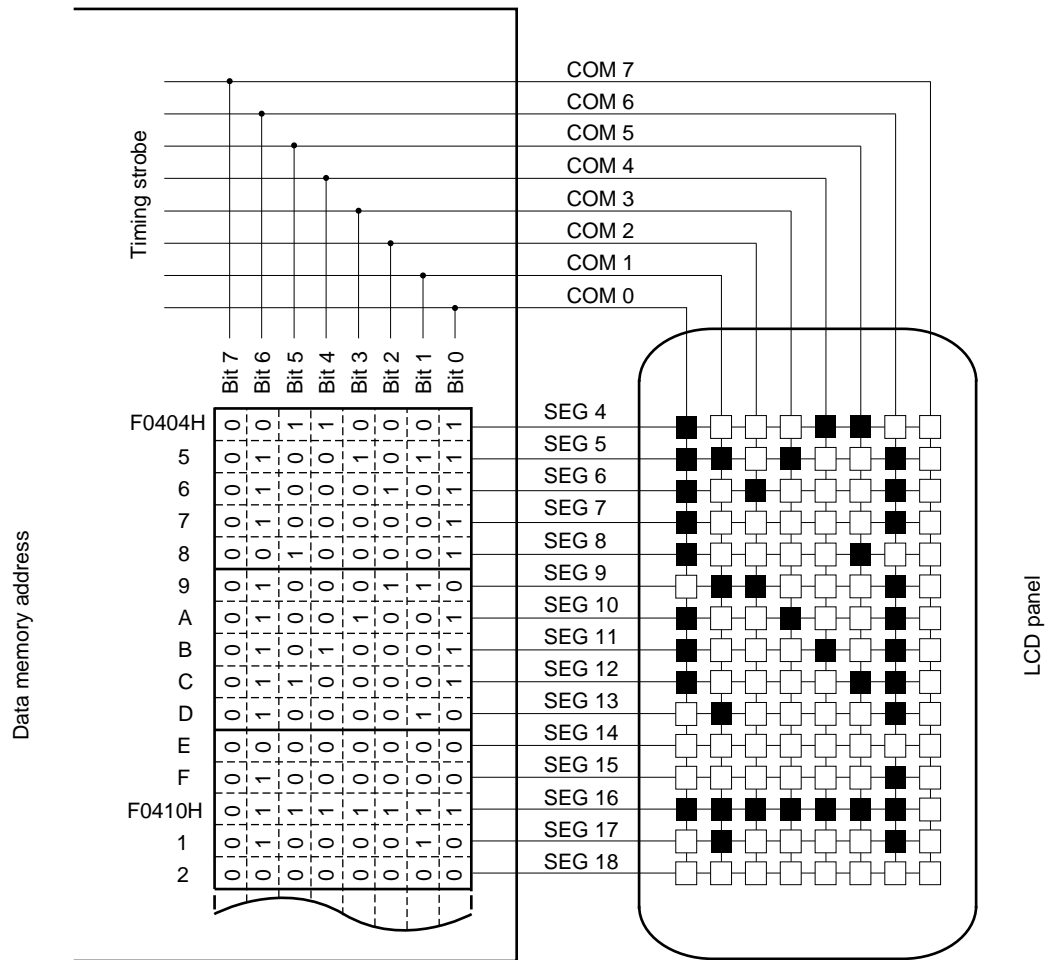


図14-42 SEG4と各コモン信号間の8時分割LCD駆動波形例（1/4バイアス法）（1/2）

(a) A波形の場合

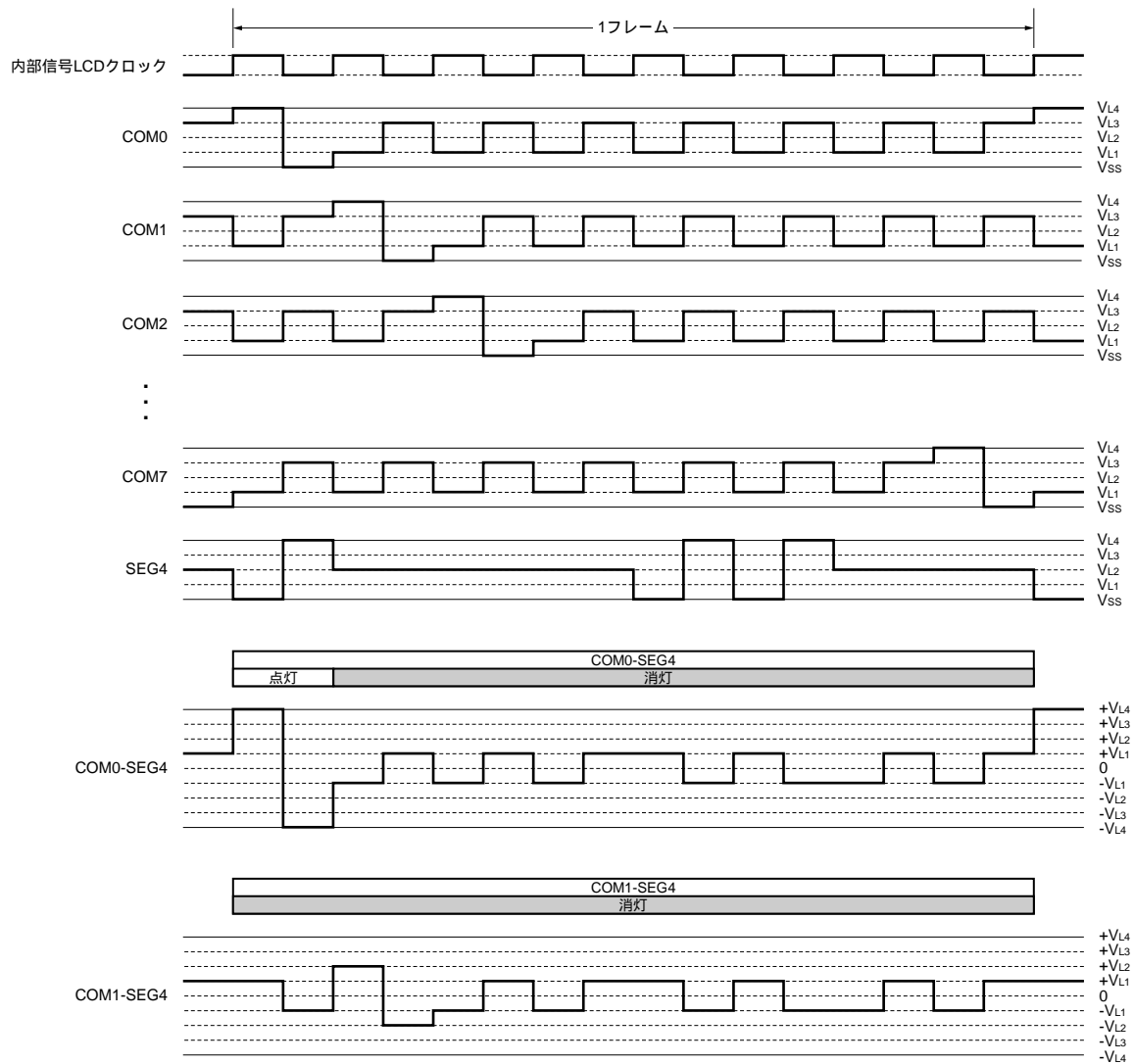
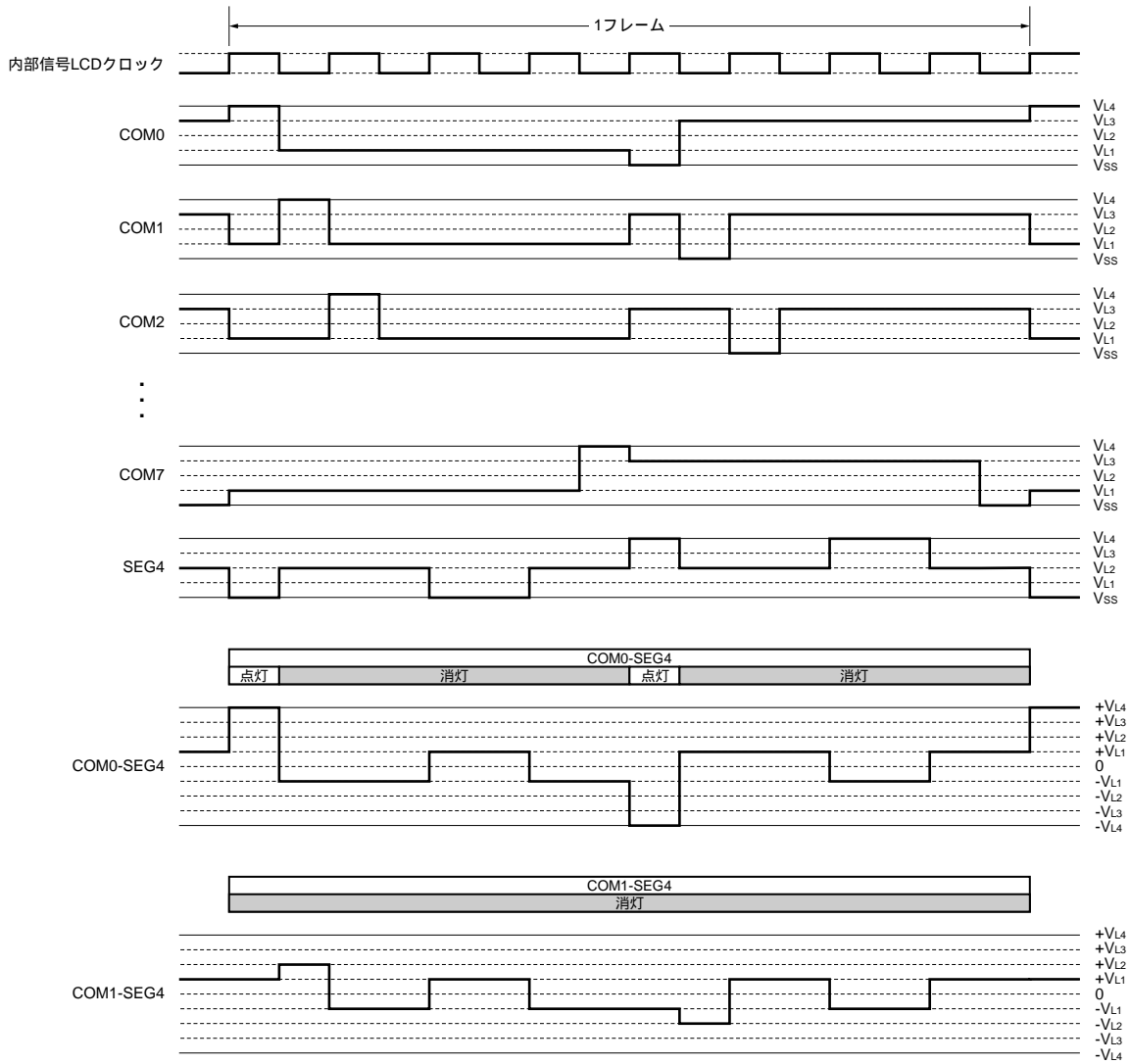


図14-42 SEG4と各コモン信号間の8時分割LCD駆動波形例（1/4バイアス法）（2/2）

(b) B波形の場合



第15章 乗除積和算器

15.1 乗除積和算器の機能

乗除積和算器には、次のような機能があります。

- ・ 16ビット×16ビット = 32ビット (符号なし)
- ・ 16ビット×16ビット = 32ビット (符号付)
- ・ 16ビット×16ビット+32ビット = 32ビット (符号なし)
- ・ 16ビット×16ビット+32ビット = 32ビット (符号付)
- ・ 32ビット÷32ビット = 32ビット 剰余32ビット (符号なし)

15.2 乗除積和算器の構成

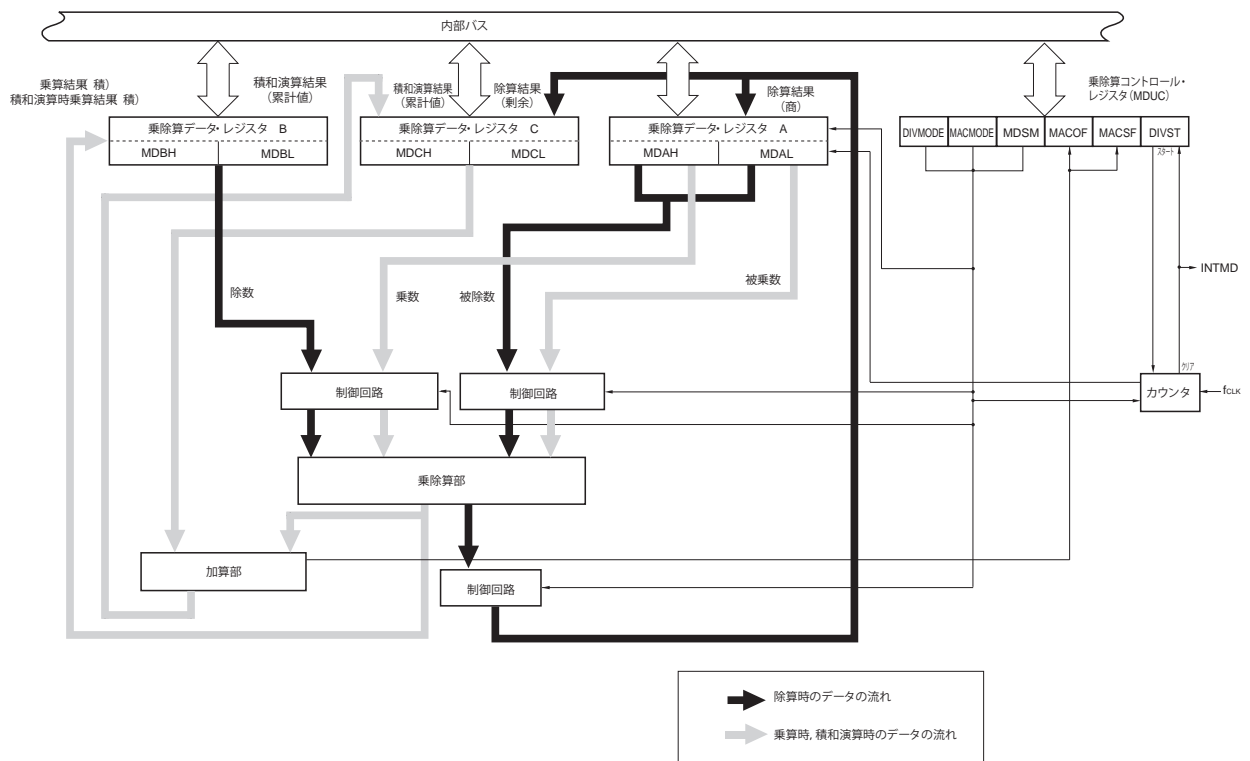
乗除積和算器は、次のハードウェアで構成されています。

表15-1 乗除積和算器の構成

項 目	構 成
レジスタ	乗除算データ・レジスタA (L) (MDAL) 乗除算データ・レジスタA (H) (MDAH) 乗除算データ・レジスタB (L) (MDBL) 乗除算データ・レジスタB (H) (MDBH) 乗除算データ・レジスタC (L) (MDCL) 乗除算データ・レジスタC (H) (MDCH)
制御レジスタ	乗除算コントロール・レジスタ (MDUC)

乗除積和算器のブロック図を図15-1に示します。

図15-1 乗除積和算器のブロック図



備考 f_{clk}: CPV/周辺ハードウェアのクロック周波数

15.2.1 乗除算データ・レジスタA (MDAH, MDAL)

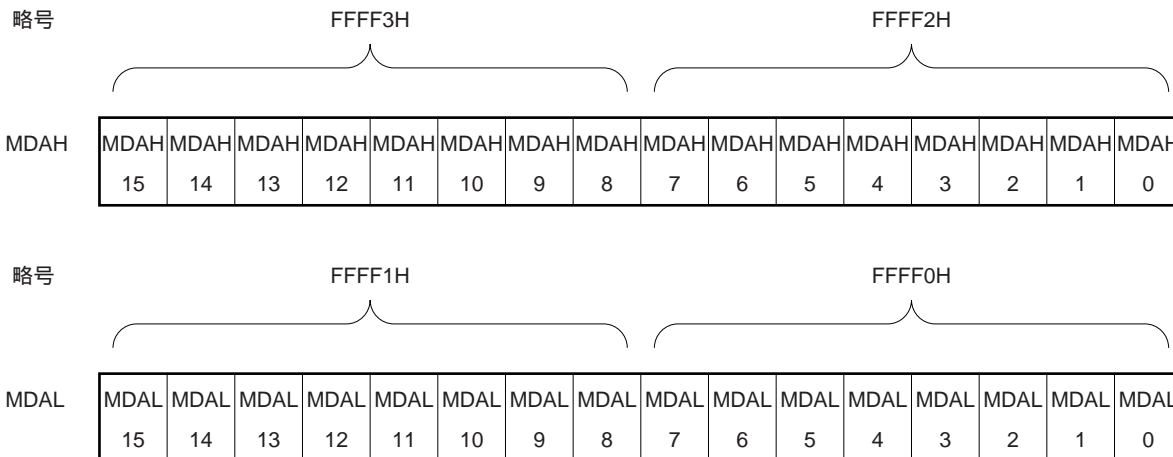
MDAH, MDALレジスタは、乗除算の演算に利用する値を設定し、演算結果を格納するレジスタです。乗算モード時および積和演算モード時は乗数と被乗数データを設定し、除算モード時は被除数データを設定します。また、除算モード時は演算結果（商）がMDAH, MDALレジスタに格納されます。

MDAH, MDALレジスタは、16ビット操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、0000Hになります。

図15-2 乗除算データ・レジスタA (MDAH, MDAL) のフォーマット

アドレス：FFFF0H, FFFF1H, FFFF2H, FFFF3H リセット時：0000H, 0000H R/W



- 注意1. 除算演算処理中（乗除算コントロール・レジスタ (MDUC) が81H, C1Hのとき）に、MDAH, MDALレジスタの値を書き換えしないでください。この場合でも演算は実施しますが、演算結果は不定値となります。
2. 除算演算処理中 (MDUCレジスタが81H, C1Hのとき)にMDAH, MDALレジスタの値を読み出した場合、その値は保証しません。
3. 乗算モード（符号付）、積和演算モード（符号付）の場合、データは2の補数形式になります。

MDAH, MDALレジスタの演算実行時の機能を次に示します。

表15-2 MDAH, MDALレジスタの演算実行時の機能

演算モード	設定	演算結果
乗算モード（符号なし） 積和演算モード（符号なし）	MDAH：乗数（符号なし） MDAL：被乗数（符号なし）	—
乗算モード（符号付） 積和演算モード（符号付）	MDAH：乗数（符号付） MDAL：被乗数（符号付）	—
除算モード（符号なし）	MDAH：被除数（符号なし） （上位16ビット） MDAL：被除数（符号なし） （下位16ビット）	MDAH：除算結果（商）（符号なし） 上位16ビット MDAL：除算結果（商）（符号なし） 下位16ビット

15.2.2 乗除算データ・レジスタB (MDBH, MDBH)

MDBH, MDBLレジスタは、乗除算の演算に利用する値を設定し、演算結果を格納するレジスタです。乗算モードおよび積和演算モード時は演算結果（積）を格納し、除算モード時は除数データを設定します。

MDBH, MDBLレジスタは、16ビット操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、0000Hになります。

図15-3 乗除算データ・レジスタB (MDBH, MDBL) のフォーマット

アドレス : FFFF4H, FFFF5H, FFFF6H, FFFF7H リセット時 : 0000H, 0000H R/W



- 注意1. 除算演算処理中（乗除算コントロール・レジスタ (MDUC) が81H, C1Hのとき）または積和演算処理中に、MDBH, MDBLレジスタの値をソフトウェアで書き換えないでください。演算結果は不定値となります。
2. 除算モード時は、MDBH, MDBLレジスタに0000Hを設定しないでください。設定した場合、演算結果が不定値となります。
3. 乗算モード（符号付）、積和演算モード（符号付）の場合、データは2の補数形式になります。

MDBH, MDBLレジスタの演算実行時の機能を次に示します。

表15-3 MDBH, MDBLレジスタの演算実行時の機能

演算モード	設定	演算結果
乗算モード（符号なし） 積和演算モード（符号なし）	—	MDBH : 乗算結果（積）（符号なし）上位16ビット MDBL : 乗算結果（積）（符号なし）下位16ビット
乗算モード（符号付） 積和演算モード（符号付）	—	MDBH : 乗算結果（積）（符号付）上位16ビット MDBL : 乗算結果（積）（符号付）下位16ビット
除算モード（符号なし）	MDBH : 除数（符号なし） （上位16ビット） MDBL : 除数（符号なし） （下位16ビット）	—

15.2.3 乗除算データ・レジスタC (MDCL, MDCH)

MDCH, MDCLレジスタは、積和演算モード時は累計結果の値を格納し、除算モード時は演算結果の剰余の値が格納されるレジスタです。乗算モードでは使用しません。

MDCH, MDCLレジスタは、16ビット操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、0000Hになります。

図15-4 乗除算データ・レジスタC (MDCH, MDCL) のフォーマット

アドレス : F00E0H, F00E1H, F00E2H, F00E3H リセット時 : 0000H, 0000H R/W



- 注意1. 除算演算処理中（乗除算コントロール・レジスタ (MDUC) が81H, C1Hのとき）に、MDCH, MDCLレジスタの値を読み出した場合、その値は保証されません。
- 積和演算処理中に、MDCH, MDCLレジスタの値をソフトウェアで書き換えないでください。演算結果は不定値となります。
 - 積和演算モード（符号付）の場合、データは2の補数形式になります。

表15-4 MDCH, MDCLレジスタの演算実行時の機能

演算モード	設定	演算結果
乗算モード (符号付/符号なし)	—	—
積和演算モード (符号なし)	MDCH : 累計初期値 (符号なし) (上位16ビット) MDCL : 累計初期値 (符号なし) (下位16ビット)	MDCH : 累計値 (符号なし) (上位16ビット) MDCL : 累計値 (符号なし) (下位16ビット)
積和演算モード (符号付)	MDCH : 累計初期値 (符号付) (上位16ビット) MDCL : 累計初期値 (符号付) (下位16ビット)	MDCH : 累計値 (符号付) (上位16ビット) MDCL : 累計値 (符号付) (下位16ビット)
除算モード (符号なし)	—	MDCH : 剰余 (符号なし) (上位16ビット) MDCL : 剰余 (符号なし) (下位16ビット)

乗算時と除算時のレジスタ構成を次に示します。

・乗算時のレジスタ構成

$$\begin{array}{ccc} \text{〈乗数A〉} & \text{〈乗数B〉} & \text{〈積〉} \\ \text{MDAL (ビット15-0)} \times \text{MDAH (ビット15-0)} = & \text{[MDBH (ビット15-0), MDBL (ビット15-0)]} & \end{array}$$

・積和演算時のレジスタ構成

$$\begin{array}{ccc} \text{〈乗数A〉} & \text{〈乗数B〉} & \text{〈累計値〉} \\ \text{MDAL (ビット15-0)} \times \text{MDAH (ビット15-0)} + \text{MDC (ビット31-0)} = & & \\ \text{〈累計結果〉} & & \\ \text{[MDCH (ビット15-0), MDCL (ビット15-0)]} & & \\ \text{(MDBH (ビット15-0), MDBL (ビット15-0) には乗算結果が格納されます。)} & & \end{array}$$

・除算時のレジスタ構成

$$\begin{array}{ccc} \text{〈被除数〉} & & \text{〈除数〉} \\ \text{[MDAH (ビット15-0), MDAL (ビット15-0)]} \div \text{[MDBH (ビット15-0), MDBL (ビット15-0)]} = & & \\ \text{〈商〉} & & \text{〈剰余〉} \\ \text{[MDAH (ビット15-0), MDAL (ビット15-0)]} \cdots \text{[MDCH (ビット15-0), MDCL (ビット15-0)]} & & \end{array}$$

15.3 乗除積和算器を制御するレジスタ

乗除積和算器は、乗除算コントロール・レジスタ（MDUC）で制御します。

15.3.1 乗除算コントロール・レジスタ0（MDUC）

MDUCレジスタは、乗除積和算器の動作を制御する8ビット・レジスタです。

MDUCレジスタは1ビット・メモリ命令または8ビット・メモリ命令で設定します。

ただし、積和演算結果（累計値）のオーバフロー・フラグ（MACOF）、積和演算結果（累計値）のサイン・フラグ（MACSF）は読み出しのみ可能です。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図15-5 乗除算コントロール・レジスタ（MDUC）のフォーマット

アドレス：F00E8H リセット時：00H R/W^{注1}

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MDUC	DIVMODE	MACMODE	0	0	MDSM	MACOF	MACSF	DIVST

DIVMODE	MACMODE	MDSM	演算モードの選択
0	0	0	乗算モード（符号なし）（デフォルト）
0	0	1	乗算モード（符号付）
0	1	0	積和演算モード（符号なし）
0	1	1	積和演算モード（符号付）
1	0	0	除算モード（符号なし）、除算完了割り込み（INTMD）発生
1	1	0	除算モード（符号なし）、除算完了割り込み（INTMD）発生しない
上記以外			設定禁止

MACOF	積和演算結果（累計値）のオーバフロー・フラグ
0	オーバフローなし
1	オーバフローあり
[セット条件]	
・ 積和演算モード（符号なし）の場合 累計値が00000000h-FFFFFFFFhを超える場合	
・ 積和演算モード（符号付）の場合 正の累計値に正の積を加算した結果が7FFFFFFFFhを越え結果が負となる場合 負の累計値に負の積を加算した結果が80000000hを越え結果が正となる場合	

MACSF	積和演算結果（累計値）のサイン・フラグ
0	累計値が正
1	累計値が負
積和演算モード（符号なし）の場合：常に0	
積和演算モード（符号付）の場合：累計値の符号ビットを表示	

DIVST ^{注2}	除算演算動作の開始／停止
0	除算演算処理完了
1	除算演算開始／除算演算処理中

注1. ビット1, 2はRead onlyです。

2. DIVSTビットは除算モード時にのみセット（1）可能です。除算モード時、DIVSTビットをセット（1）すると除算演算動作を開始します。演算終了後は自動的にDIVSTビットがクリア（0）されます。乗算モード時は、乗除算データ・レジスタA（MDAH, MDAL）に乗数、被乗数を設定することにより自動的に演算が開始されます。

- 注意1. 演算処理中（DIVSTビットが1のとき）に、DIVMODE, MDSMビットを書き換えしないでください。書き換えた場合、演算結果が不定値となります。
2. 除算演算処理中（DIVSTビットが1のとき）にDIVSTビットをソフトウェアでクリア（0）することはできません。

15.4 乗除積和算器の動作

15.4.1 乗算（符号なし）動作

・初期設定

- ① 乗除算コントロール・レジスタ（MDUC）を00Hにする。
- ② 乗除算データ・レジスタA（L）（MDAL）に被乗数をセット
- ③ 乗除算データ・レジスタA（H）（MDAH）に乗数をセット
（②，③のセットの順はどちらが先でも問題ありません。MDAH，MDALレジスタに乗数，被乗数をセットすると自動的に乗算演算を開始します。）

・演算処理中

- ④ 1クロック以上ウエイトします。演算は1クロックで終了します。

・演算終了

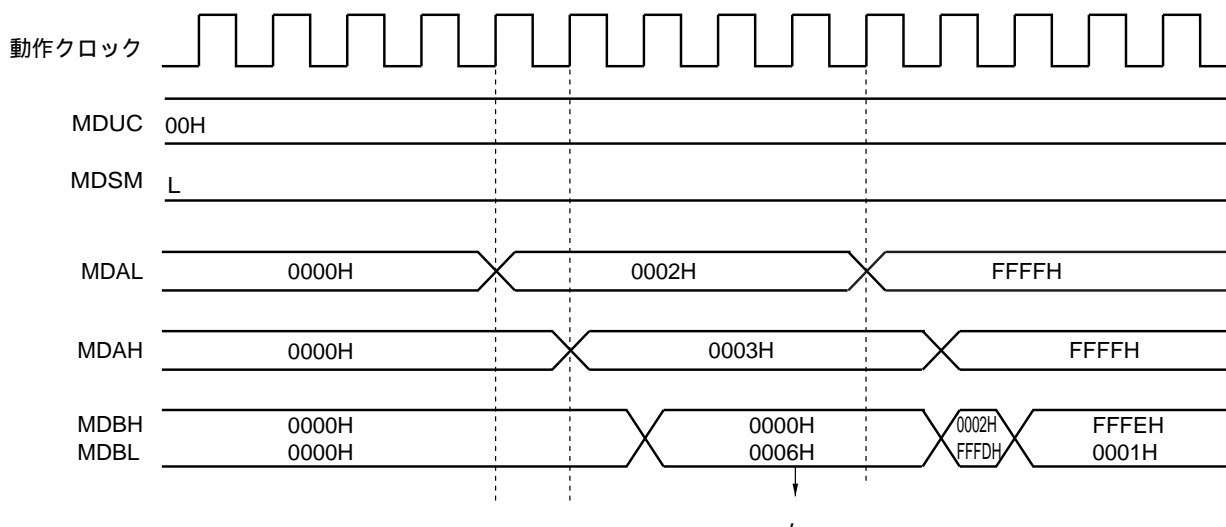
- ⑤ 乗除算データ・レジスタB（L）（MDBL）から積（下位16ビット）を読み出します。
- ⑥ 乗除算データ・レジスタB（H）（MDBH）から積（上位16ビット）を読み出します。
（⑤，⑥の読み出しの順はどちらが先でも問題ありません。）

・次回演算

- ⑦ 次に乗算，除算，積和演算を行う場合は，各動作手順の初期設定から行ってください。

備考 手順の①～⑦は，図15-6の①～⑦に対応しています。

図15-6 乗算（符号なし）動作のタイミング図（ $2 \times 3 = 6$ ）



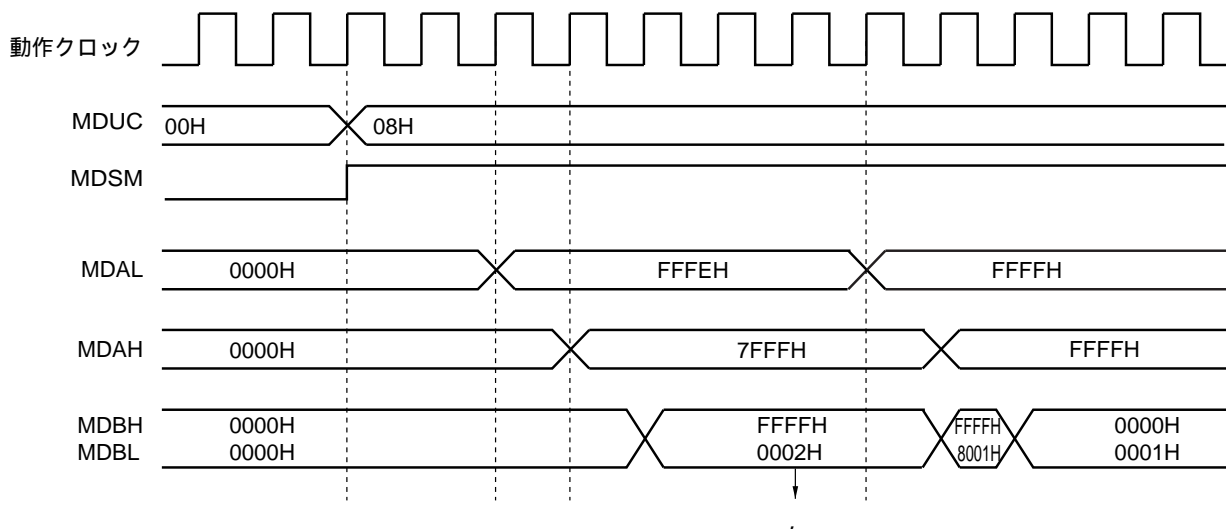
15.4.2 乗算（符号付）動作

- ・ 初期設定
 - ① 乗除算コントロール・レジスタ（MDUC）を08Hにする。
 - ② 乗除算データ・レジスタA（L）（MDAL）に被乗数をセット
 - ③ 乗除算データ・レジスタA（H）（MDAH）に乗数をセット
 （②，③のセットの順はどちらが先でも問題ありません。MDAH，MDALレジスタに乗数，被乗数をセットすると自動的に乗算演算を開始します。）
- ・ 演算処理中
 - ④ 1クロック以上ウエイトします。演算は1クロックで終了します。
- ・ 演算終了
 - ⑤ 乗除算データ・レジスタB（L）（MDBL）から積（下位16ビット）を読み出します。
 - ⑥ 乗除算データ・レジスタB（H）（MDBH）から積（上位16ビット）を読み出します。
 （⑤，⑥の読み出しの順はどちらが先でも問題ありません。）
- ・ 次回演算
 - ⑦ 次に乗算，除算，積和演算を行う場合は，各動作手順の初期設定から行ってください。

注意 乗算モード（符号付）の場合，データは2の補数形式になります。

備考 手順の①～⑦は，図15-7の①～⑦に対応しています。

図15-7 乗算（符号付）動作のタイミング図（ $-2 \times 32767 = -65534$ ）



15.4.3 積和演算（符号なし）動作

・初期設定

- ① 乗除算コントロール・レジスタ（MDUC）を40Hにする。
 - ② 乗除算データ・レジスタC（H）（MDCH）に累計初期値の上位16ビットをセット
 - ③ 乗除算データ・レジスタC（L）（MDCL）に累計初期値の下位16ビットをセット
 - ④ 乗除算データ・レジスタA（L）（MDAL）に被乗数をセット
 - ⑤ 乗除算データ・レジスタA（H）（MDAH）に乗数をセット
- （②，③，④のセットの順はどれが先でも問題ありません。⑤のMDAHレジスタに乗数をセットすると自動的に乗算演算を開始します。）

・演算処理中

- ⑥ 乗算演算が1クロックで終了します。
（乗除算データ・レジスタB（L）（MDBL），乗除算データ・レジスタB（H）（MDBH）に乗算結果が格納されます。）
- ⑦ ⑥からさらに1クロックで、積和演算が終了します（初期設定完了（⑤）からは、2クロック以上ウエイト）。

・演算終了

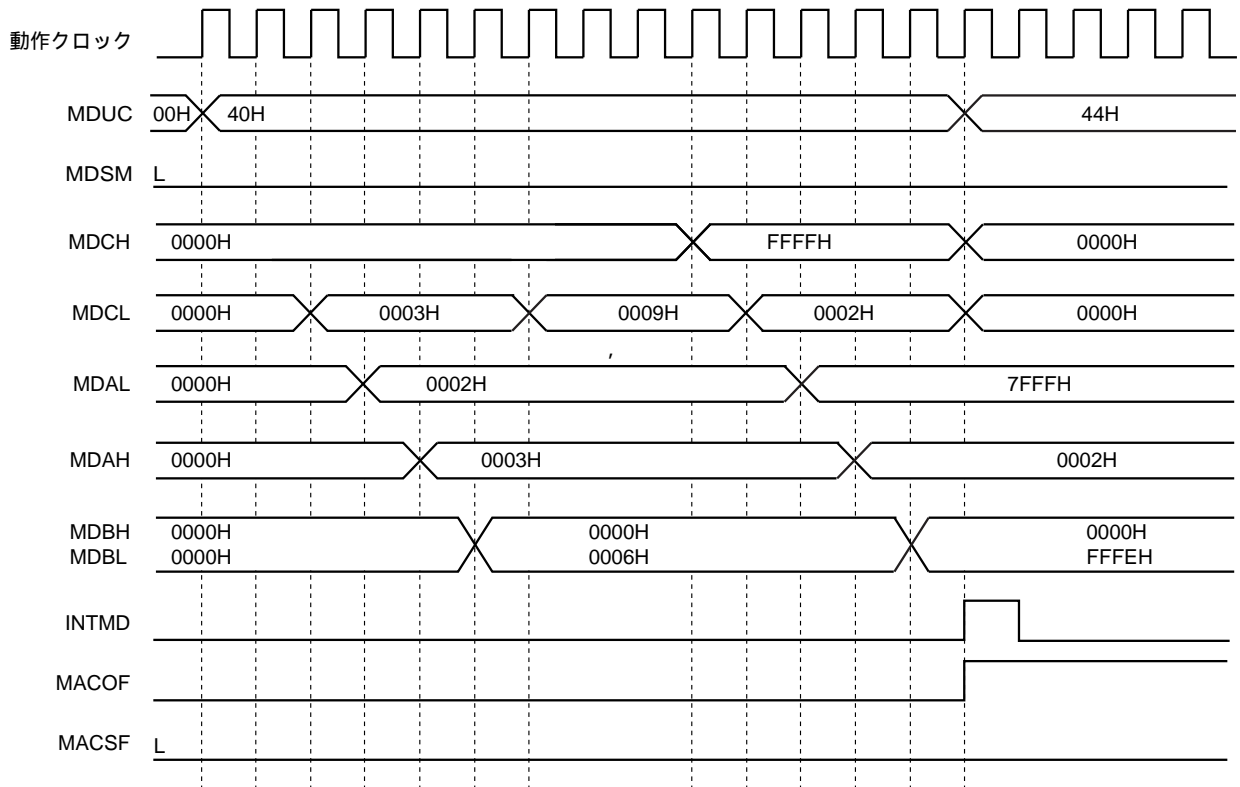
- ⑧ 乗除算データ・レジスタC（L）（MDCL）から累計値（下位16ビット）を読み出します。
- ⑨ 乗除算データ・レジスタC（H）（MDCH）から累計値（上位16ビット）を読み出します。
（⑧，⑨の読み出しの順はどちらが先でも問題ありません。）
- ⑩ 積和演算結果がオーバフローしている場合は、MACOFビットが1にセットされ、INTMD信号が発生します。）

・次回演算

- ⑪ 次に乗算，除算，積和演算を行う場合は，各動作手順の初期設定から行ってください。

備考 手順の①～⑩は，図15-8の①～⑩に対応しています。

図15-8 積和演算（符号なし）動作のタイミング図
 (2×3+3=9 → 32767×2+4294901762=0 (オーバーフロー発生))



15.4.4 積和演算（符号付）動作

・初期設定

- ① 乗除算コントロール・レジスタ（MDUC）を48Hにする。
- ② 乗除算データ・レジスタC（H）（MDCH）に累計初期値の上位16ビットをセット
（③ MDCHレジスタの累計値が負の値の場合は、MACSFビットが1にセットされます。）
- ④ 乗除算データ・レジスタC（L）（MDCL）に累計初期値の下位16ビットをセット
- ⑤ 乗除算データ・レジスタA（L）（MDAL）に被乗数をセット
- ⑥ 乗除算データ・レジスタA（H）（MDAH）に乗数をセット
（②，④，⑤のセットの順はどちらが先でも問題ありません。⑥のMDAHレジスタに乗数をセットすると自動的に乗算演算を開始します。）

・演算処理中

- ⑦ 乗算演算が1クロックで終了します。
（乗除算データ・レジスタB（L）（MDBL），乗除算データ・レジスタB（H）（MDBH）に乗算結果が格納されます。）
- ⑧ ⑦からさらに1クロックで、積和演算が終了します（初期設定完了（⑥）からは、2クロック以上ウエイト）。

・演算終了

- ⑨ MDCL, MDCHレジスタに格納された累計値が正の値の場合は、MACSFビットが0にクリアされます。
- ⑩ MDCLレジスタから累計値（下位16ビット）を読み出します。
- ⑪ MDCHレジスタから累計値（上位16ビット）を読み出します。
（⑩，⑪の読み出しの順はどちらが先でも問題ありません。）
- ⑫ 積和演算結果がオーバフローしている場合は、MACOFビットが1にセットされ、INTMD信号が発生します。）

・次回演算

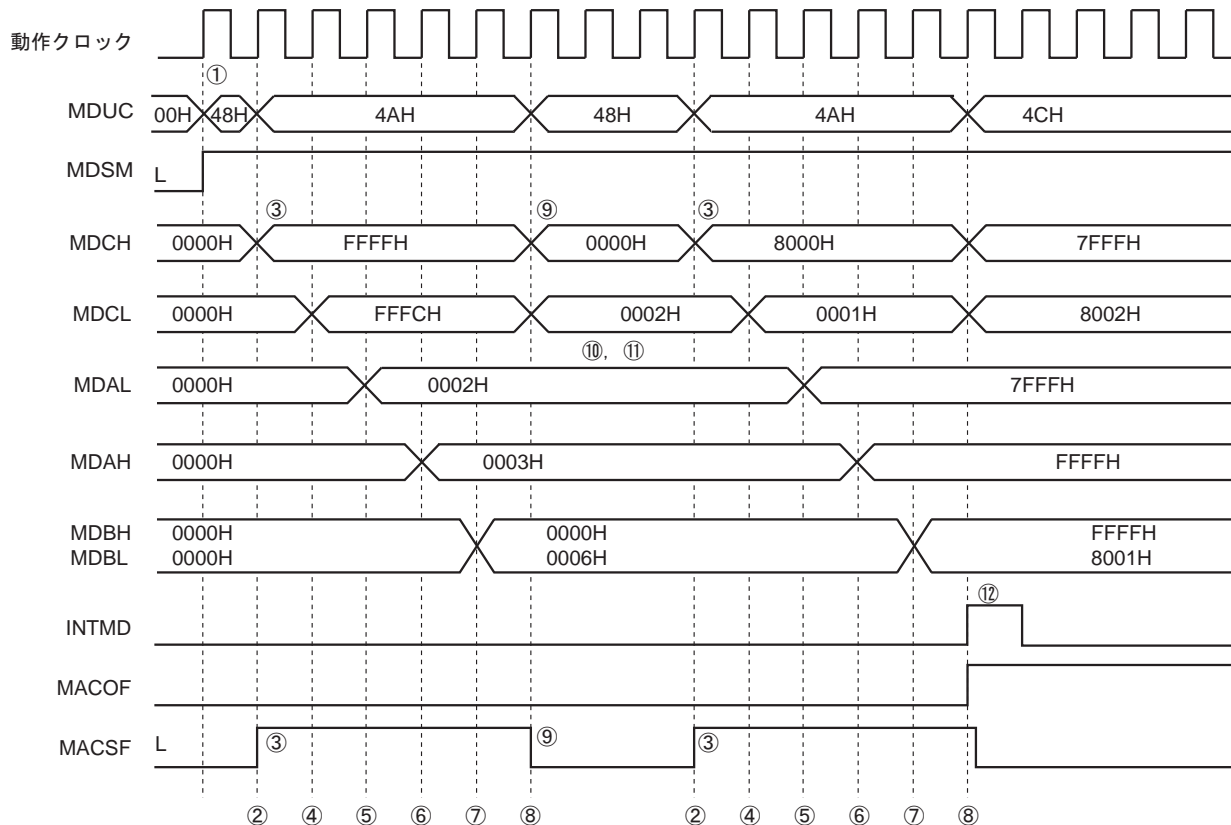
- ⑬ 演算モードを変更する場合は、各動作手順の初期設定から行ってください。
続けて同じ演算モードを使用する場合は、①～⑤の設定は省略できます。

注意 積和演算モード（符号付）の場合、データは2の補数形式になります。

備考 手順の①～⑫は、図15-9の①～⑫に対応しています。

図15-9 積和演算（符号付）動作のタイミング図

$(2 \times 3 + (-4)) = 2 \rightarrow 32767 \times (-1) + (-2147483647) = -2147450882$ (オーバフロー発生)



15.4.5 除算動作

・初期設定

- ① 乗除算コントロール・レジスタ (MDUC) に80Hをセットする。
- ② 乗除算データ・レジスタA (H) (MDAH) に被除数 (上位16ビット) をセット
- ③ 乗除算データ・レジスタA (L) (MDAL) に被除数 (下位16ビット) をセット
- ④ 乗除算データ・レジスタB (H) (MDBH) に除数 (上位16ビット) をセット
- ⑤ 乗除算データ・レジスタB (L) (MDBL) に除数 (下位16ビット) をセット
- ⑥ MDUCレジスタのビット0 (DIVST) に1をセット

(②～⑤の順はどれからセットしても問題ありません。)

・演算処理中

- ⑦ 次のいずれかの処理が完了すれば演算が終了します。
 - ・ 16クロック以上ウエイト (16クロックで演算は終了します。)
 - ・ DIVSTビットがクリアされたことを確認
- (演算処理中のMDBL, MDBH, MDCL, MDCHレジスタのリード値は保証しません。)

・演算終了

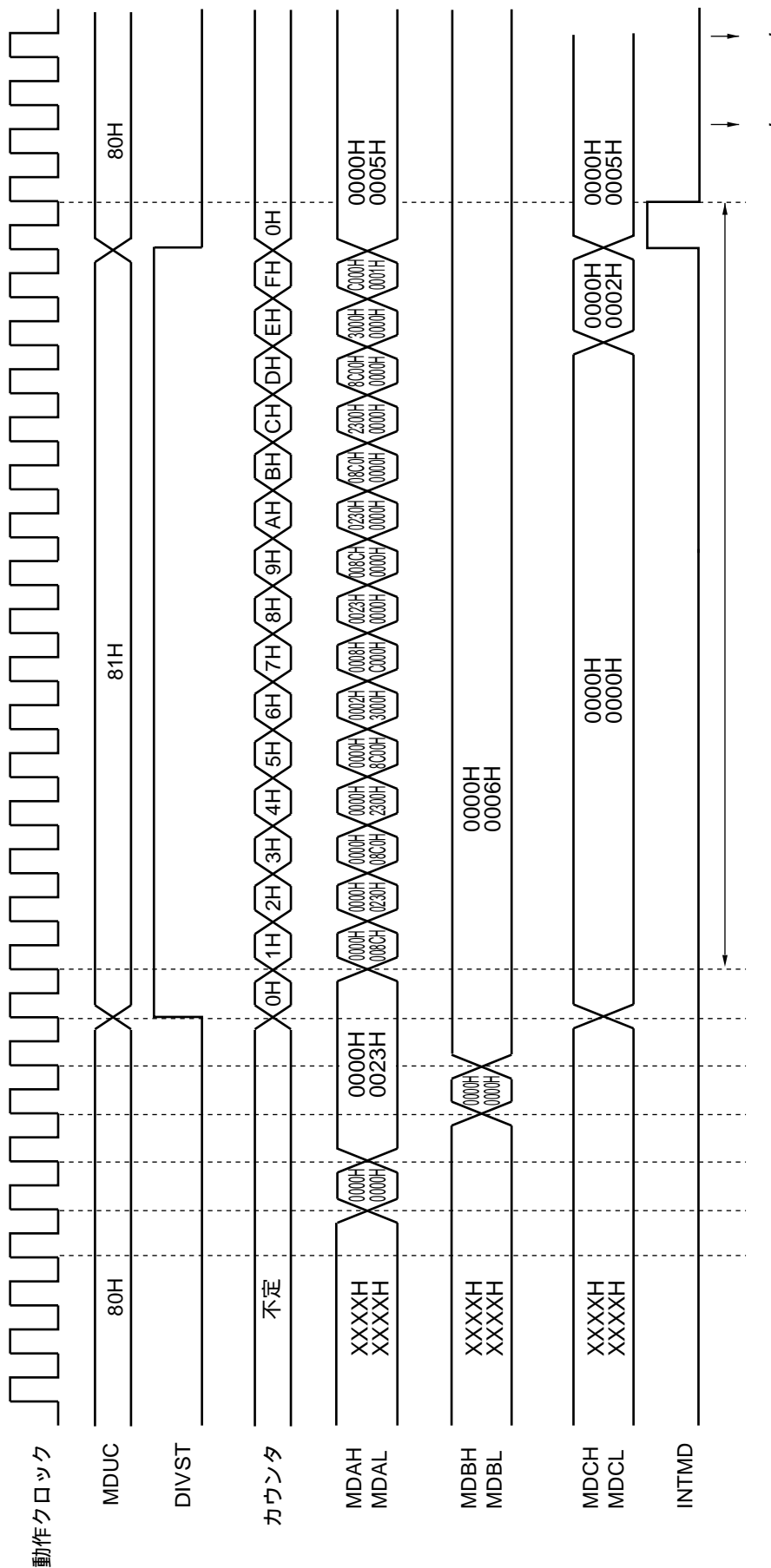
- ⑧ DIVSTビットがクリア (0) され、演算が終了します。このとき、MACMODE = 0での演算なら、割り込み要求信号 (INTMD) が発生します。
 - ⑨ MDALレジスタから商 (下位16ビット) を読み出します。
 - ⑩ MDAHレジスタから商 (上位16ビット) を読み出します。
 - ⑪ 乗除算データ・レジスタC (L) (MDCL) から剰余 (下位16ビット) を読み出します。
 - ⑫ 乗除算データ・レジスタC (H) (MDCH) から剰余 (上位16ビット) を読み出します。
- (⑨～⑫の順はどれから読み出しても問題ありません。)

・次回演算

- ⑬ 演算モードを変更する場合は、各動作手順の初期設定から行ってください。
続けて同じ演算モードを使用する場合は、①～⑤の設定は省略できます。

備考 手順の①～⑫は、図15-10の①～⑫に対応しています。

図15-10 除算動作のタイミング図 (例: $35 \div 6 = 5$ 余5)



第16章 DMAコントローラ

RL78/L12は、DMA（Direct Memory Access）コントローラを内蔵しています。

DMAに対応している周辺ハードウェアのSFRと内蔵RAMの間は、CPUを介さずに自動でデータのやり取りをすることができます。

これにより、SFR⇄内蔵RAM間の転送を、通常のCPU内部の演算やデータ転送をしながら行えるため、大容量データの処理も可能になります。また、通信やタイマ、A/Dを駆使したリアルタイム制御も実現できます。

16.1 DMAコントローラの機能

○DMAチャンネル数：2チャンネル

○転送単位：8ビット／16ビット

○最大転送単位：1024回

○転送タイプ：2サイクル転送（1回の転送を2クロックで処理し、その間はCPU動作が停止します）

○転送モード：シングル転送モード

○転送要求：以下の周辺ハードウェア割り込みから選択

- ・ A/Dコンバータ
- ・ シリアル・インタフェース
（CSI00, CSI01, UART0）
- ・ タイマ（チャンネル0-3）

○転送対象：SFR⇄内蔵RAM

DMAを使った機能例は、次のようなものが考えられます。

- ・ シリアル・インタフェースの連続転送
- ・ A/D変換結果の連続取り込み
- ・ 一定時間ごとにポートの値を取りこむ

16.2 DMAコントローラの構成

DMAコントローラは、次のハードウェアで構成されています。

表16-1 DMAコントローラの構成

項目	構成
アドレス・レジスタ	<ul style="list-style-type: none"> ・DMA SFRアドレス・レジスタ0, 1 (DSA0, DSA1) ・DMA RAMアドレス・レジスタ0, 1 (DRA0, DRA1)
カウント・レジスタ	<ul style="list-style-type: none"> ・DMAバイト・カウント・レジスタ0, 1 (DBC0, DBC1)
制御レジスタ	<ul style="list-style-type: none"> ・DMAモード・コントロール・レジスタ0, 1 (DMC0, DMC1) ・DMA動作コントロール・レジスタ0, 1 (DRC0, DRC1)

16.2.1 DMA SFRアドレス・レジスタn (DSAn)

DMAチャンネルnの転送元／転送先となるSFRアドレスを設定する8ビット・レジスタです。

SFRアドレスFFF00H-FFFFFHの下位8ビットを設定してください。

このレジスタは自動的にインクリメント動作せず、固定値となります。

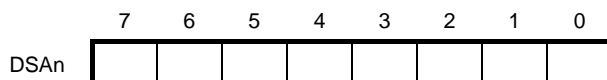
16ビット転送モード時には、最下位ビットは無視され、偶数番地として扱われます。

DSAnレジスタは8ビット単位でリード／ライト可能です。ただし、DMA転送中には書き込みができません。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図16-1 DMA SFRアドレス・レジスタn (DSAn) のフォーマット

アドレス : FFFB0H (DSA0) , FFFB1H (DSA1) リセット時 : 00H R/W



備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

16.2.2 DMA RAMアドレス・レジスタn (DRAn)

DMAチャンネルnの転送先／転送元となるRAMアドレスを設定する16ビット・レジスタです。

汎用レジスタ以外の内蔵RAM領域のアドレスが設定可能です。

RAMアドレスの下位16ビットを設定してください。

このレジスタはDMA転送が始まると、自動的にインクリメントされます。8ビット転送モード時には+1され、16ビット転送モード時には+2されます。DMA転送はこのDRAnレジスタの設定アドレスから開始し、最終アドレスまで転送し終わると、DRAnレジスタは8ビット転送モード時には最終アドレス+1、16ビット転送モード時には最終アドレス+2になって停止します。

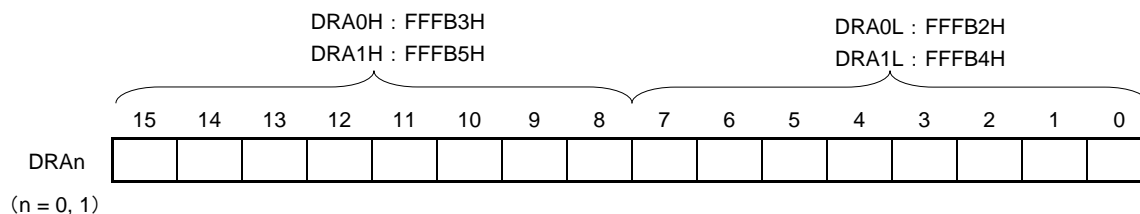
16ビット転送モード時には、最下位ビットは無視され、偶数番地として扱われます。

DRAnレジスタは8/16ビット単位でリード／ライト可能です。ただし、DMA転送中には書き込みができません。

リセット信号の発生により、0000Hになります。

図16-2 DMA RAMアドレス・レジスタn (DRAn) のフォーマット

アドレス : FFFB2H, FFFB3H (DRA0) , FFFB4H, FFFB5H (DRA1) リセット時 : 0000H R/W



備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

16.2.3 DMAバイト・カウント・レジスタn (DBCn)

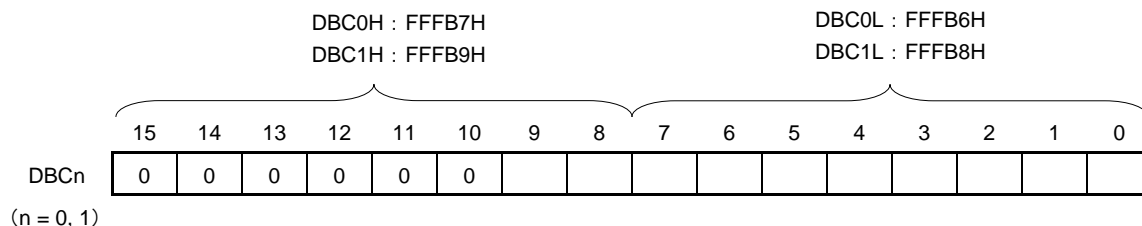
DMAチャンネルnの転送回数を設定する10ビット・レジスタです。必ずDMA転送前にこのDBCnレジスタに連続転送回数を設定してください（最大1024回）。

DMA転送が1回実行されるたびに、自動的にデクリメントされます。DMA転送中にこのDBCnレジスタを読み出すことで、残りの連続転送回数を知ることができます。

DBCnレジスタは8/16ビット単位でリード/ライト可能です。ただし、DMA転送中には書き込みができません。リセット信号の発生により、0000Hになります。

図16-3 DMA バイト・カウント・レジスタn (DBCn) のフォーマット

アドレス : FFFB6H, FFFB7H (DBC0) , FFFB8H, FFFB9H (DBC1) リセット時 : 0000H R/W



DBCn[9:0]	転送回数設定 (DBCnライト時)	残りの転送回数 (DBCnリード時)
000H	1024回	転送完了または1024回のDMA転送待ち
001H	1回	残り1回のDMA転送待ち
002H	2回	残り2回のDMA転送待ち
003H	3回	残り3回のDMA転送待ち
⋮	⋮	⋮
3FEH	1022回	残り1022回のDMA転送待ち
3FFH	1023回	残り1023回のDMA転送待ち

- 注意1. ビット15-10は、必ず0を設定してください。
- 2. 連続転送の結果、汎用レジスタを指定した場合や内蔵RAM空間を越えてしまった場合は、汎用レジスタやSFR空間へ書き込み/読み出しを行って、データを壊してしまいます。必ず内蔵RAM空間内に収まる転送回数を設定してください。

備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

16.3 DMAコントローラを制御するレジスタ

DMAコントローラを制御するレジスタを次に示します。

- ・DMAモード・コントロール・レジスタn (DMCn)
- ・DMA動作コントロール・レジスタn (DRCn)

備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

16.3.1 DMAモード・コントロール・レジスタn (DMCn)

DMCnレジスタは、DMAチャンネルnの転送モード設定レジスタです。転送方向、データ・サイズ、保留設定、起動要因の選択を行います。ビット7 (STGn) はDMA起動のソフトウェア・トリガとなります。

DMCnレジスタのビット6, 5, 3-0は、動作中 (DSTn = 1のとき) の書き換えは禁止です。

DMCnレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図16-4 DMAモード・コントロール・レジスタn (DMCn) のフォーマット (1/2)

アドレス : FFFBAH (DMC0) , FFFBBH (DMC1) リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
DMCn	STGn	DRSn	DSn	DWAITn	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0

STGn ^{注1}	DMA転送開始ソフトウェア・トリガ
0	ソフトウェア・トリガ動作しない
1	DMA動作許可 (DENn = 1) 時に、DMA転送を開始する
DMA動作許可 (DENn = 1) 時に、STGnビットに1を書き込むことでDMA転送を1回します。 このビットの読み出し値は常に0となります。	

DRSn	DMA転送方向の選択
0	SFR → 内蔵RAM
1	内蔵RAM → SFR

DSn	DMA転送での転送データ・サイズの指定
0	8ビット
1	16ビット

DWAITn ^{注2}	DMA転送の保留
0	DMA起動要求によりDMA転送を行う (保留しない)
1	DMA起動要求が来ても保留する
DWAITnビットの値を1→0にすることで、保留されているDMA転送を開始することができます。 また、DWAITnビットの値を0→1に設定してから、実際に転送が保留されるまでは2クロック必要となります。	

注1. ソフトウェア・トリガ (STGn) は、IFCn3-IFCn0ビットの値に関係なく使用できます。

- DMAを2チャンネルともに使用中でDMA転送を保留する場合は、必ず両チャンネルのDMAを保留にしてください (DWAIT0 = DWAIT1 = 1)。

備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

図16-4 DMAモード・コントロール・レジスタn (DMCn) のフォーマット (2/2)

アドレス : FFFBAH (DMC0) , FFFBBH (DMC1) リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
DMCn	STGn	DRSn	DSn	DWAITn	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0

(n = 0, 1の場合)

IFCn 3	IFCn 2	IFCn 1	IFCn 0	DMA起動要因の選択 ^注	
				トリガ信号	トリガ内容
0	0	0	0	—	割り込みによるDMA転送禁止 (ソフトウェア・トリガのみ可)
0	0	0	1	INTAD	A/D変換終了割り込み
0	0	1	0	INTTM00	タイマ・チャンネル0のカウンタ完了またはキャプチャ割り込み
0	0	1	1	INTTM01	タイマ・チャンネル1のカウンタ完了またはキャプチャ割り込み
0	1	0	0	INTTM02	タイマ・チャンネル2のカウンタ完了またはキャプチャ割り込み
0	1	0	1	INTTM03	タイマ・チャンネル3のカウンタ完了またはキャプチャ割り込み
0	1	1	0	INTST0/INTCSI00	UART0送信の転送完了/ CSI00の転送完了, バッファ空き割り込み
0	1	1	1	INTSR0/INTCSI01	UART0受信の転送完了割り込み/ CSI01の転送完了, バッファ空き割り込み
上記以外				設定禁止	

注 ソフトウェア・トリガ (STGn) は、IFCn3-IFCn0ビットの値に関係なく使用できます。

備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

16.3.2 DMA動作コントロール・レジスタn (DRCn)

DRCnレジスタは、DMAチャンネルnの転送許可／禁止を設定するレジスタです。

DRCnレジスタのビット7 (DENn) は、動作中 (DSTn = 1のとき) の書き換えは禁止です。

DRCnレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図16-5 DMA動作コントロール・レジスタn (DRCn) のフォーマット

アドレス : FFFBCH (DRC0) , FFFBDH (DRC1) リセット時 : 00H R/W

略号	<input checked="" type="checkbox"/>	6	5	4	3	2	1	<input type="checkbox"/>
DRCn	DENn	0	0	0	0	0	0	DSTn

DENn	DMA動作許可フラグ
0	DMAチャンネルnの動作禁止 (DMAの動作クロック停止)
1	DMAチャンネルnの動作許可

DMA動作許可 (DENn = 1) にしてから、DSTn = 1にすることでDMAトリガ待ち状態になります。

DSTn	DMA転送モード・フラグ
0	DMAチャンネルnのDMA転送終了
1	DMAチャンネルnのDMA転送未終了 (転送中)

DMA動作許可 (DENn = 1) にしてから、DSTn = 1にすることでDMAトリガ待ち状態になります。
そしてソフトウェア・トリガ (STGn) またはIFCn3-IFCn0ビットで設定した起動要因トリガが入力されると、DMA転送を開始します。
その後、DMA転送が終了すると自動的に0にクリアされます。
DMA転送中に強制終了したい場合は、0を書き込みます。

注意 DSTnフラグはDMA転送が終了すると自動的に0にクリアされます。

DENnフラグはDSTn = 0のときのみ書き込み許可となるため、DMAの割り込み (INTDMA) 発生を待たずに終了する場合は、DSTn = 0に設定してからDENn = 0としてください (詳細は16.5.5 ソフトウェアでの強制終了参照)。

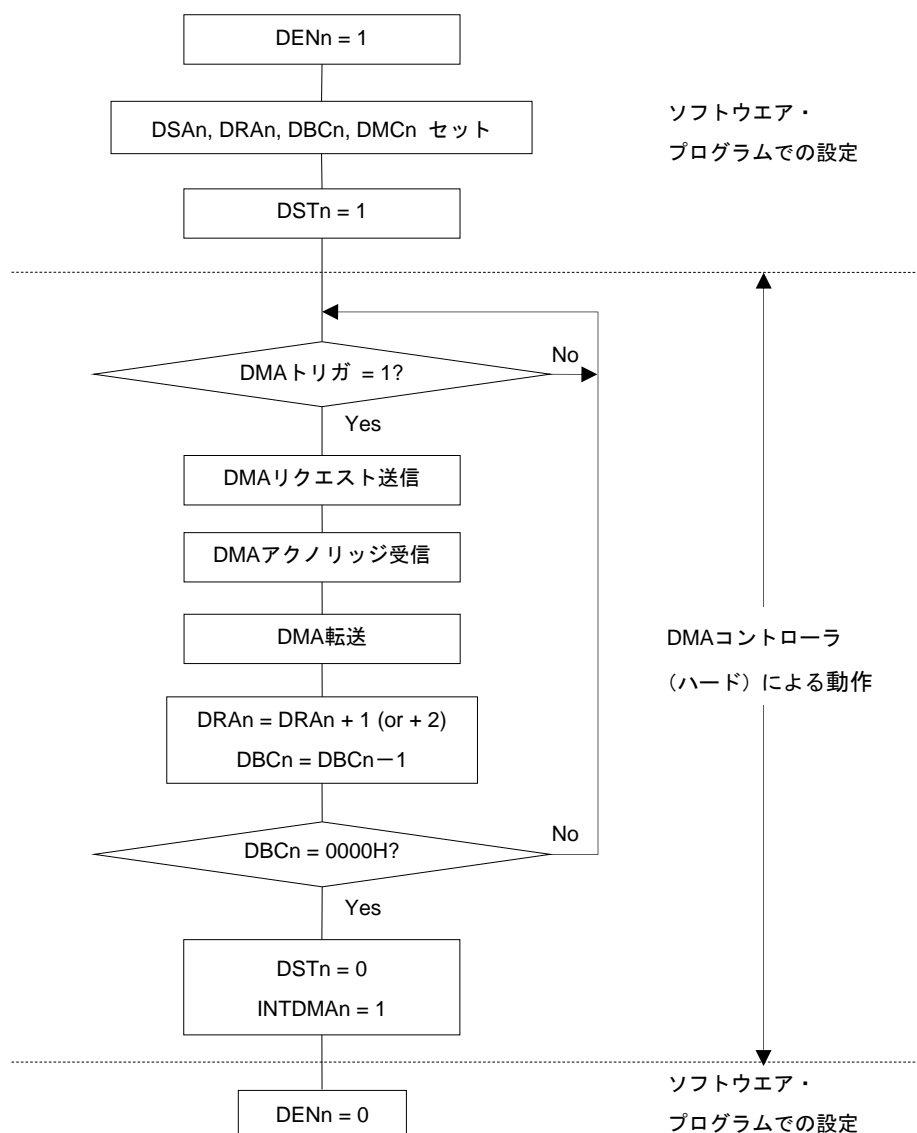
備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

16.4 DMAコントローラの動作

16.4.1 動作手順

- ① DENn = 1により、DMAコントローラの動作許可状態となります。他のレジスタへの書き込みは必ずDENn = 1としたあとに行ってください。8ビット操作命令で書き込む場合は、80Hを書き込みます。
- ② DMA SFRアドレス・レジスタn (DSAn), DMA RAMアドレス・レジスタn (DRAn), DMAバイト・カウント・レジスタn (DBCn), DMAモード・コントロール・レジスタn (DMCn) にDMA転送のSFRアドレス, RAMアドレス, 転送回数, 転送モードを設定します。
- ③ DSTn = 1とすることでDMAトリガ待ち状態になります。8ビット操作命令で書き込む場合は、81Hを書き込みます。
- ④ ソフトウェア・トリガ (STGn) またはIFCn3-IFCn0ビットで設定した起動要因トリガが入力されると、DMA転送を開始します。
- ⑤ DBCnレジスタで設定した転送回数が0になると転送が完了し、割り込み (INTDMA n) の発生により自動的に転送が終了します。
- ⑥ その後DMAコントローラを使用しない場合はDENn = 0として動作停止状態としてください。

図16-6 動作手順



備考 n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

16.4.2 転送モード

DMA転送には、DMAモード・コントロール・レジスタ n (DMC n) のビット6, 5 (DRS n , DS n) の設定により、次の4つの転送モードを選択できます。

DRS n	DS n	DMA転送モード
0	0	1バイト・データのSFR (アドレス固定) からRAM (アドレスは+1のインクリメント) への転送
0	1	2バイト・データのSFR (アドレス固定) からRAM (アドレスは+2のインクリメント) への転送
1	0	1バイト・データのRAM (アドレスは+1のインクリメント) からSFR (アドレス固定) への転送
1	1	2バイト・データのRAM (アドレスは+2のインクリメント) からSFR (アドレス固定) への転送

この転送モードを使用することによって、シリアル・インタフェースを使った最大1024バイトの連続データ転送、A/D変換結果の連続データ転送、タイマを使用した一定時間ごとのポート・データのスキャンなどができます。

16.4.3 DMA転送の終了

DBC n = 00HとなりDMA転送が完了すると、自動的にDST n ビットがクリア (0) されます。そして割り込み要求 (INTDMA n) の発生により転送が終了します。

強制終了するためにDST n ビットをクリア (0) すると、DMAバイト・カウント・レジスタ n (DBC n) とDMA RAMアドレス・レジスタ n (DRAn) は停止したときの値を保持します。

また、強制終了した場合は割り込み要求 (INTDMA n) は発生しません。

備考 n : DMAチャンネル番号 ($n = 0, 1$)

16.5 DMAコントローラの設定例

16.5.1 簡易SPI(CSI)連続送信

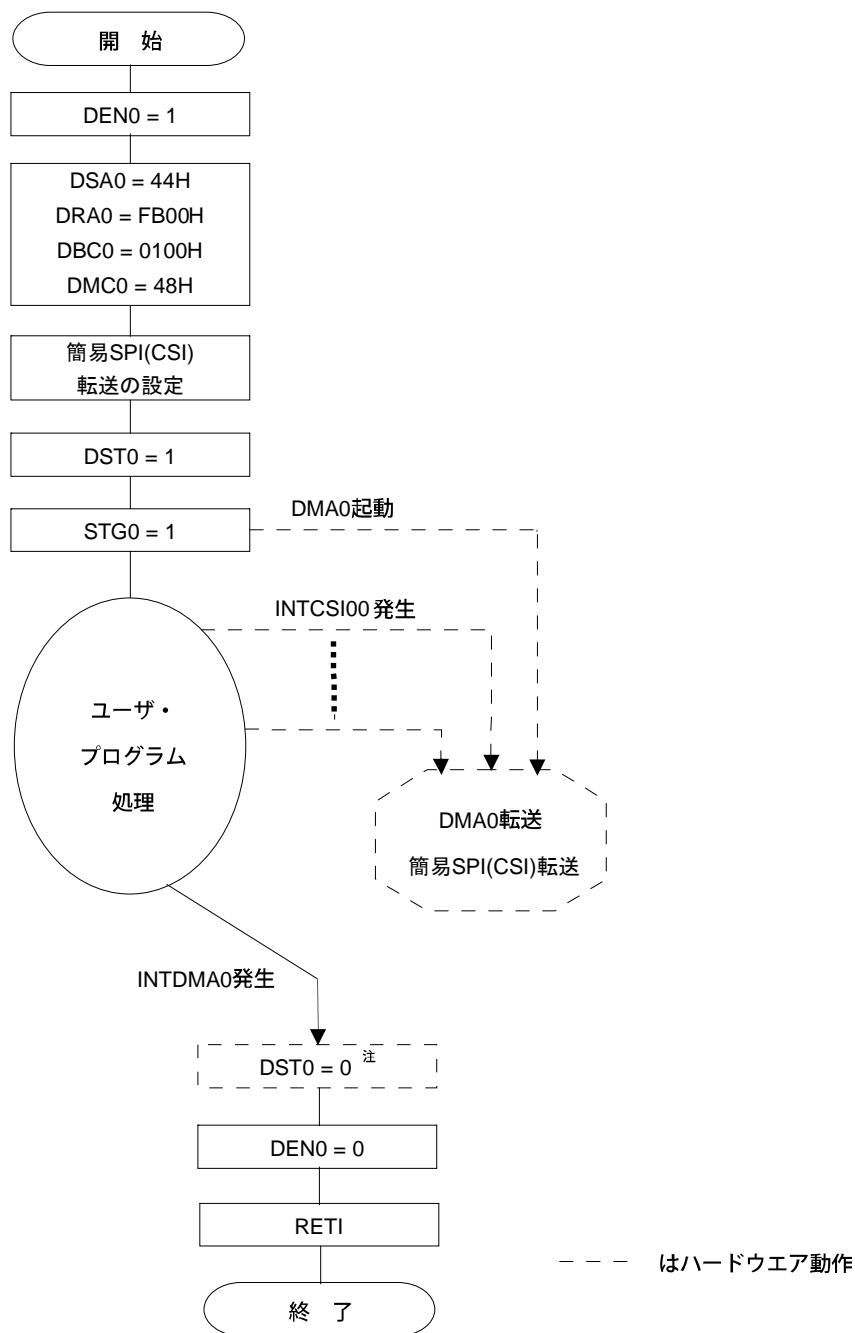
簡易SPI(CSI^注)連続送信の設定例のフロー・チャートを次に示します。

- ・ CSI00の連続送信 (256バイト)
- ・ DMAのチャンネル0をDMA転送に使用
- ・ DMA起動要因 : INTCSI00 (最初の起動要因のみソフトウェア・トリガ (STG0))
- ・ CSI00の割り込みはIFC03-IFC00 = 0110Bに割り当て
- ・ RAMのFFB00H-FFBFFH (256バイト) を簡易SPI(CSI)のデータ・レジスタ (SIO00) のFFF10Hに転送

備考 IFC03-IFC00 : DMAモード・コントロール・レジスタ0 (DMC0) のビット3-0

注 一般的にはSPIと呼ばれる機能ですが、本製品ではCSIとも呼称しているため、本マニュアルでは併記します。

図16-7 簡易SPI(CSI)連続送信の設定例



注 DST0フラグはDMA転送が終了すると自動的に0にクリアされます。

DEN0フラグはDST0 = 0のときのみ書き込み許可となるため、DMA0の割り込み（INTDMA0）発生を待たずに終了する場合は、DST0 = 0に設定してからDEN0 = 0としてください（詳細は16.5.5 ソフトウェアでの強制終了参照）。

連続送信の場合は1回目のトリガは簡易SPI(CSI)の割り込みでは起動されません。この例ではソフトウェア・トリガにて起動しています。

2回目以降の簡易SPI(CSI)送信は自動的に転送されます。

データ・レジスタへの最終の送信データの書き込みが終わった時点で、DMA割り込み（INTDMA0）が発生します。

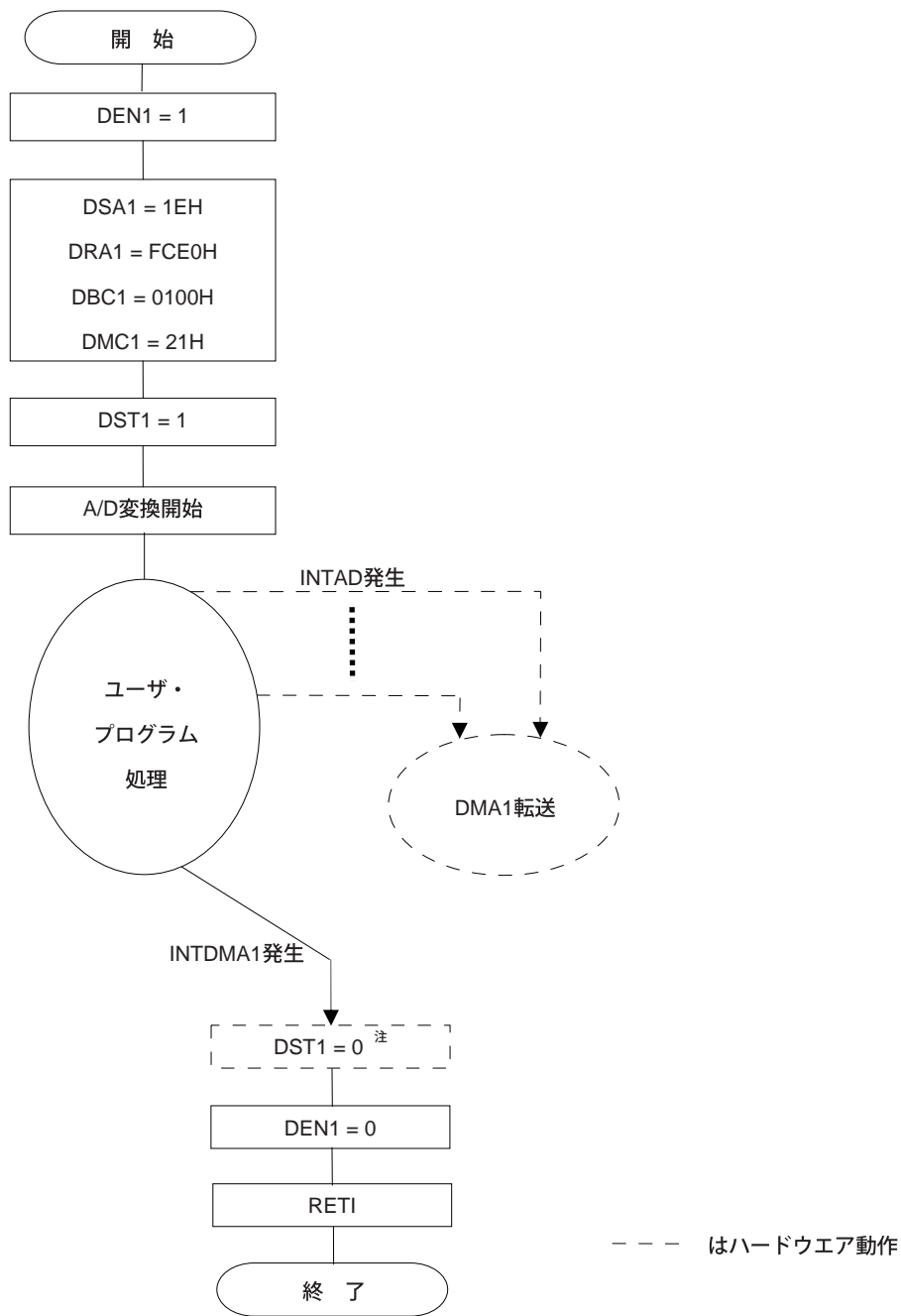
16.5.2 A/D変換結果の連続取り込み

A/D変換結果の連続取り込みの設定例のフロー・チャートを次に示します。

- ・ A/D変換結果の連続取り込み
- ・ DMAのチャンネル1をDMA転送に使用
- ・ DMA起動要因 : INTAD
- ・ A/Dの割り込みはIFC13-IFC10 = 0001Bに割り当て
- ・ 10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR) のFFF1EHとFFF1FH (2バイト) をRAMのFFCE0H-FFEDFHの512バイトに転送

備考 IFC13-IFC10 : DMAモード・コントロール・レジスタ1 (DMC1) のビット3-0

図16-8 A/D変換結果の連続取り込みの設定例



注 DST1フラグはDMA転送が終了すると自動的に0にクリアされます。

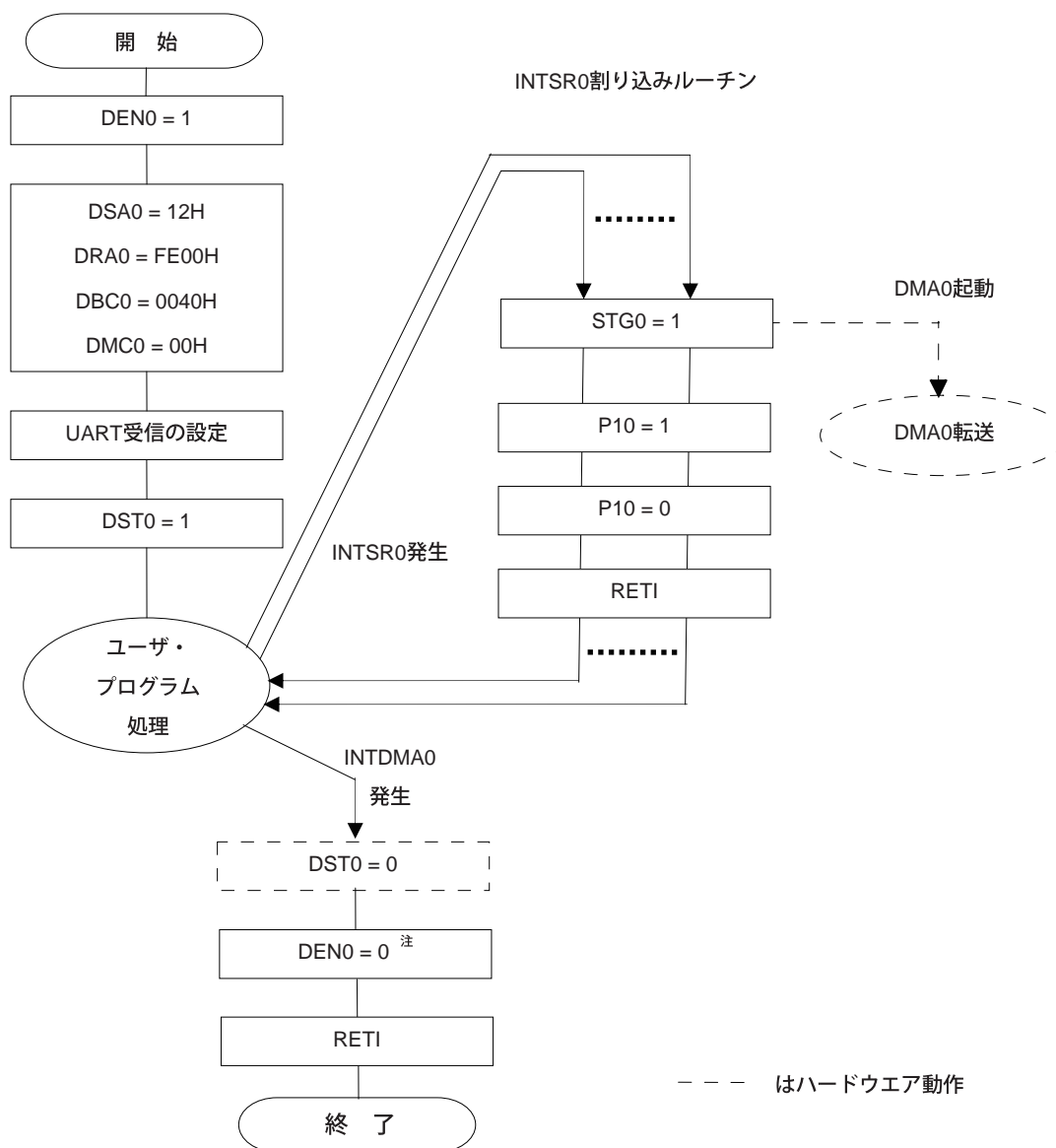
DEN1フラグはDST1 = 0のときのみ書き込み許可となるため、DMA1の割り込み (INTDMA1) 発生を待たずに終了する場合は、DST1 = 0に設定してからDEN1 = 0としてください (詳細は16.5.5 ソフトウェアでの強制終了参照)。

16.5.3 UART連続受信+ACK送信

UART連続受信+ACK送信の設定例のフロー・チャートを次に示します。

- ・ UART0の連続受信を行い、P10に受信完了のACKを出力
- ・ DMAのチャンネル0をDMA転送に使用
- ・ DMA起動要因：ソフトウェア・トリガ（割り込みによるDMA転送禁止）
- ・ UART受信データ・レジスタ0（RXD0）のFFF12HをRAMのFFE00H-FFE3FHの64バイトに転送

図16-9 UART連続受信+ACK送信の設定例



--- はハードウェア動作

注 DST0フラグはDMA転送が終了すると自動的に0にクリアされます。

DEN0フラグはDST0 = 0のときのみ書き込み許可となるため、DMA0の割り込み (INTDMA0) 発生を待たずに終了する場合は、DST0 = 0に設定してからDEN0 = 0としてください (詳細は16.5.5 ソフトウェアでの強制終了参照)。

備考 DMA起動要因にソフトウェア・トリガを使用した例です。

ACKを送信せずに、UART連続受信だけであれば、UART受信完了割り込み (INTSR0) をDMA起動要因に設定して、受信することもできます。

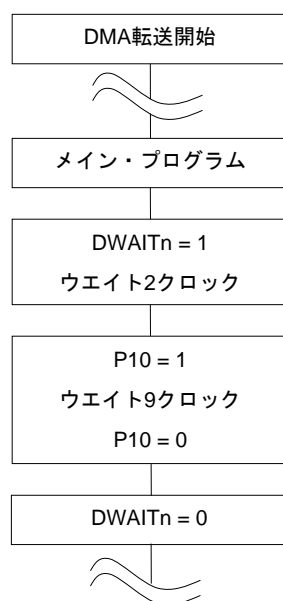
16.5.4 DWAITnビットによるDMA転送保留

DMA転送が開始されると命令実行中に転送が行われるため、そのときに2クロックCPUの動作が停止して遅れます。そのことがセット・システムの動作として問題となる場合は、DWAITn = 1とすることでDMA転送を保留できます。保留中に発生した転送トリガに対するDMA転送は、保留を解除後に実行されます。ただし、保留できる転送トリガは各チャンネル1つなので、保留中に同一チャンネルの転送トリガが2回以上発生しても、保留解除後に実行されるDMA転送は1回です。

一例として、P10端子より動作周波数の10クロック幅のパルスを出力する場合、DMA転送が途中で開始されると12クロック幅となってしまいます。その際はDWAITn = 1とすることでDMA転送を保留できます。

DWAITn = 1に設定後、DMA転送が保留されるまで2クロック必要となります。

図16-10 DWAITnビットによるDMA転送保留の設定例



注意 DMAを2チャンネルともに使用中でDMA転送を保留したい場合は、必ず両チャンネルのDMAを保留にしてください（DWAIT0 = DWAIT1 = 1）。片方のDMAが保留中にもう一方のDMA転送が実行されると、保留されない場合があります。

- 備考1. n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)
 2. 1クロック : $1/f_{CLK}$ (f_{CLK} : CPUクロック)

16.5.5 ソフトウェアでの強制終了

ソフトウェアでDSTn = 0に設定してから、実際にDMA転送が停止し、DSTn = 0となるまでには最大で2クロックが必要となります。そのため、DMAの割り込み (INTDMA) 発生を待たずにソフトウェアで強制的にDMA転送を終了する場合は、次のいずれかの処理をしてください。

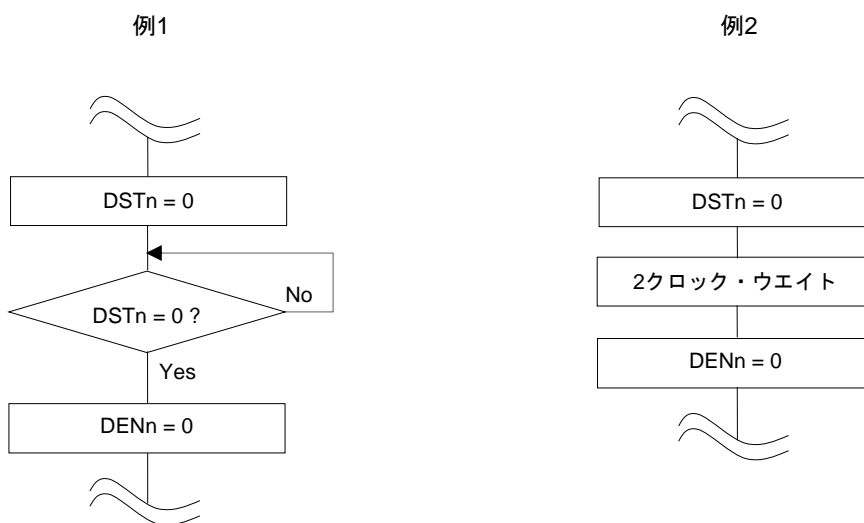
<DMAを1チャンネル使用しているとき>

- ・ソフトウェアでDSTn = 0 (バイト操作命令で書き込む場合はDRCn = 80H) にしてから、実際にDSTn ビットが0になったことをポーリングで確認後、DENn = 0 (バイト操作命令で書き込む場合はDRCn = 00H) とする
- ・ソフトウェアでDSTn = 0 (バイト操作命令で書き込む場合はDRCn = 80H) にしてから、2クロック経過後にDENn = 0 (バイト操作命令で書き込む場合はDRCn = 00H) とする

<DMAを2チャンネル使用しているとき>

- ・DMAを2チャンネルともに使用しているときにソフトウェアで強制終了 (DSTn = 0) する場合は、2チャンネルともにDWAIT0, DWAIT1ビットをセット (1) してDMA転送を保留してから、DSTnビットをクリア (0) する。その後、2チャンネルともにDWAIT0, DWAIT1ビットをクリア (0) し保留を解除してから、DENn ビットをクリア (0) とする

図16-11 DMA転送の強制終了 (1/2)



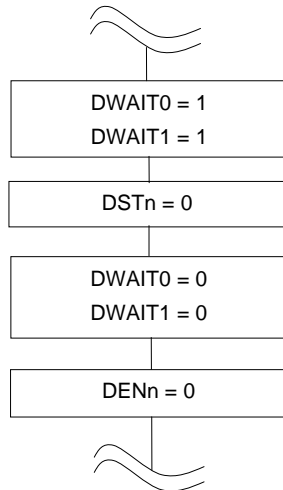
備考1. n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

2. 1クロック : 1/f_{CLK} (f_{CLK} : CPUクロック)

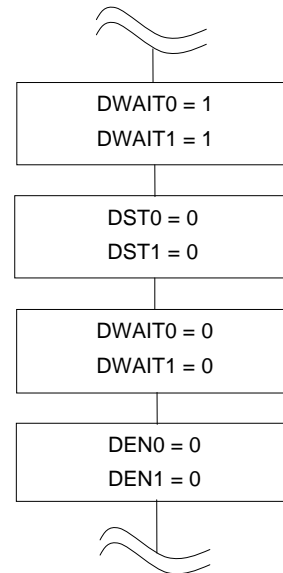
図16-11 DMA転送の強制終了 (2/2)

例3

・2チャンネルをともに使用時にどちらかのチャンネルを強制終了する手順



・2チャンネルをともに使用時に2チャンネルともに強制終了する手順



注意 例3では、DWAITnビットのセット（1）後のウエイト2クロックは必要ありません。また、DSTnビットをクリア（0）してからDENnビットをクリア（0）するまで2クロック以上経過しているため、DSTnビットのクリア（0）後にウエイト2クロックする必要はありません。

- 備考1. n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)
 2. 1クロック : $1/f_{CLK}$ (f_{CLK} : CPUクロック)

16.6 DMAコントローラの注意事項

(1) DMAの優先順位

DMA転送中は、他のDMAチャネルの要求が発生しても保留されます。そしてDMA転送終了後に、保留していたDMA転送が開始されます。ただしDMA要求が同時に発生した場合は、DMAチャネル0>DMAチャネル1の優先順位になります。

また、DMA要求と割り込み要求が同時に発生した場合はDMA転送が優先され、そのあとに割り込み処理が実行されます。

(2) DMA応答時間

DMA転送における応答時間は、次のようになります。

表16-2 DMA転送における応答時間

	最小時間	最大時間
応答時間	3クロック	10クロック ^注

注 内部RAMからの命令実行の場合は、最大時間が16クロックになります。

注意1. 上記の応答時間には、DMA転送の2クロック分は含まれていません。

2. DMA保留命令（16.6（4）参照）実行の場合は、各条件の最大応答時間に、その条件で保留する命令の実行時間を足した時間となります。
3. 最大応答時間+1クロック以内での同一チャネルへの連続する転送トリガは、無視される可能性があるため設定しないでください。

備考 1クロック : $1/f_{CLK}$ (f_{CLK} : CPUクロック)

(3) スタンバイ時の動作

スタンバイ・モード時のDMAコントローラの動作は、次のようになります。

表16-3 スタンバイ・モード時のDMA動作

状態	DMA動作
HALTモード	通常動作。
STOPモード	動作停止。 DMA転送とSTOP命令が競合した場合、DMA転送が壊れることがありますので、STOP命令実行前にDMAを停止してください。

(4) DMA保留命令

DMA要求が発生しても、次の命令直後ではDMA転送は保留されます。

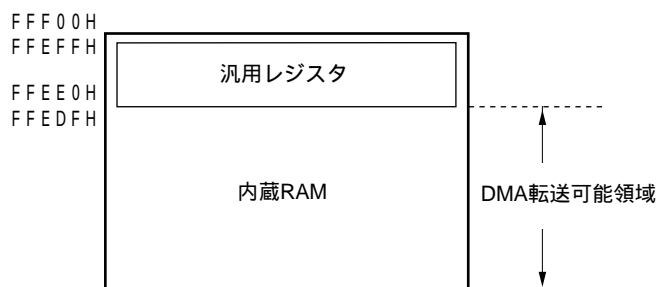
- ・ CALL !addr16
- ・ CALL \$!addr20
- ・ CALL !!addr20
- ・ CALL rp
- ・ CALLT [addr5]
- ・ BRK
- ・ IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L, PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L, PSWの各レジスタに対するビット操作命令
- ・ データ・フラッシュにアクセスする命令

(5) 汎用レジスタ領域内または内蔵RAMの領域外のアドレスを指定した場合の動作

DMA転送中にDMA RAMアドレス・レジスタn (DRAn) で示すアドレスがインクリメントされていき、汎用レジスタ領域内に入ってしまったたり、内蔵RAMの領域を越えてしまった場合、以下に示す動作になります。

- SFRからRAMへの転送モード時
そのアドレスのデータを破壊してしまいます。
- RAMからSFRへの転送モード時
不定のデータがSFRへ転送されます。

いずれの場合も、誤動作やシステム破壊の原因となりますので、アドレスが汎用レジスタ以外の内蔵RAMの領域内に収まるよう、十分ご注意ください。



(6) データ・フラッシュ空間にアクセスする場合の動作

データ・フラッシュ空間にアクセスするとDMA転送が保留されるため、DMA保留命令を追加してください。またDMA転送が起きた1命令後にデータ・フラッシュ空間にアクセスした場合、間の命令に3クロック分のウェイトが入ります

```

命令1
DMA転送
命令2 ← 3クロック分のウェイト発生
MOV A, !DataFlash空間

```

第17章 割り込み機能

プログラム実行中に、別の処理が必要になると、その処理プログラムに切り替える機能です。分岐先の処理を終えると、中断していた元のプログラム実行に戻ります。

割り込み要因数は、製品によって異なります。

		32ピン	44ピン	48ピン	52ピン	64ピン
マスカブル 割り込み	外部	4	6	7	7	9
	内部	23	23	23	23	23

17.1 割り込み機能の種類

割り込み機能には、次の2種類があります。

(1) マスカブル割り込み

マスク制御を受ける割り込みです。優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L）の設定により、割り込み優先順位を4段階のグループに分けることができます。高い優先順位の割り込みは、低い優先順位の割り込みに対して、多重割り込みをすることができます。また、同一優先順位を持つ複数の割り込み要求が同時に発生しているときは、ベクタ割り込み処理の優先順位（プライオリティ）にしたがって処理されます。優先順位（プライオリティ）については表17-1を参照してください。

スタンバイ・リリース信号を発生し、STOPモード、HALTモード、SNOOZEモードを解除します。

マスカブル割り込みには、外部割り込み要求と内部割り込み要求があります。

(2) ソフトウェア割り込み

BRK命令の実行によって発生するベクタ割り込みです。割り込み禁止状態でも受け付けられます。また、割り込み優先順位制御の対象になりません。

17.2 割り込み要因と構成

割り込み要因には、マスカブル割り込み、ソフトウェア割り込みがあります。また、それ以外にリセット要因が最大で合計7要因あります（表17-1参照）。リセット、各割り込み要求発生により分岐するときのプログラム・スタート・アドレスを格納しておくベクタ・コードは、各2バイトとしているため割り込みの飛び先アドレスは00000H-0FFFFHの64 Kアドレスとなります。

表17-1 割り込み要因一覧 (1/3)

割り込みの処理	デフォルト・プライオリティ ^{注1}	割り込み要因		内部/外部	ベクタ・ネーグル・アドレス	基本構成タイプ ^{注2}	64ピン	52ピン	48ピン	44ピン	32ピン
		名称	トリガ								
マスクアブル	0	INTWDTI	ウォッチドッグ・タイマのインターバル ^{注3} (オーバフロー時間の75%+1/2fL)	内部	00004H	(A)	○	○	○	○	○
	1	INTLVI	電圧検出 ^{注4}		00006H		○	○	○	○	○
	2	INTP0	端子入力エッジ検出	外部	00008H	(B)	○	○	○	○	○
	3	INTP1			0000AH		○	○	○	○	
	4	INTP2			0000CH		○	○	○	○	
	5	INTP3			0000EH		○	○	○	○	-
	6	INTP4			00010H		○	○	○	○	-
	7	INTP5			00012H		○	○	○	-	-
	8	INTDMA0			DMA0の転送完了		内部	00014H	(A)	○	○
	9	INTDMA1	DMA1の転送完了	00016H	○	○		○		○	○
	10	INTST0	UART0送信の転送完了, バッファ空き割り込み		00018H		○	○	○	○	○
		INTCSI00	CSI00の転送完了, バッファ空き割り込み				○	○	○	○	○
	11	INTSR0	UART0受信の転送完了		0001AH		○	○	○	○	○
		INTCSI01	CSI01の転送完了, バッファ空き割り込み				○	○	○	○	○
12	INTSRE0	UART0受信の通信エラー発生		0001CH		○	○	○	○	○	
	INTTM01H	タイマ・チャンネル01のカウント完了またはキャプチャ完了 (上位8ビット・タイマ動作時)				○	○	○	○	○	
13	INTTM00	タイマ・チャンネル00のカウント完了またはキャプチャ完了		00020H		○	○	○	○	○	
14	INTTM03H	タイマ・チャンネル03のカウント完了またはキャプチャ完了 (上位8ビット・タイマ動作時)		00024H		○	○	○	○	○	

注 1. デフォルト・プライオリティは、複数のマスクアブル割り込みが発生している場合に、優先する順位です。0が最高順位、31が最低順位です。

2. 基本構成タイプの (A) - (D) は、それぞれ図17-1の (A) - (D) に対応しています。

3. オプション・バイト (000C0H) のビット7 (WDTINT) = 1選択時。

4. 電圧検出レベル・レジスタ (LVIS) のビット7 (LVIMD) = 0選択時。

備考 ○ : サポートする

- : サポートしない

表17-1 割り込み要因一覧 (2/3)

割り込みの処理 デフォルト・ プライオリティ ^{注1}	割り込み要因		内部/ 外部	ベクタ・ネーグル・ アドレス	基本構成タイ プ ^{注2}	64ピン	52ピン	48ピン	44ピン	32ピン	
	名称	トリガ									
マスクアブル	15	INTIICA0	IICA0通信完了	内部	00026H	(A)	○	○	○	○	○
	16	INTTM01	タイマ・チャンネル01のカウント完了または キャプチャ完了		00028H		○	○	○	○	○
	17	INTTM02	タイマ・チャンネル02のカウント完了または キャプチャ完了		0002AH		○	○	○	○	○
	18	INTTM03	タイマ・チャンネル03のカウント完了または キャプチャ完了		0002CH		○	○	○	○	○
	19	INTAD	A/D変換終了		0002EH		○	○	○	○	○
	20	INTRTC	リアルタイム・クロックの定周期信号/アラ ーム一致検出		00030H		○	○	○	○	○
	21	INTIT	インターバル信号検出		00032H		○	○	○	○	○
	22	INTKR	キー・リターン信号検出	外部	00034H	(C)	○	○	○	○	○
	23	INTTM04	タイマ・チャンネル04のカウント完了または キャプチャ完了	内部	0003CH	(A)	○	○	○	○	○
	24	INTTM05	タイマ・チャンネル05のカウント完了または キャプチャ完了		0003EH		○	○	○	○	○
	25	INTTM06	タイマ・チャンネル06のカウント完了または キャプチャ完了		00040H		○	○	○	○	○
	26	INTTM07	タイマ・チャンネル07のカウント完了または キャプチャ完了		00042H		○	○	○	○	○
	27	INTP6	端子入力エッジ検出	外部	00046H	(B)	○	-	-	-	-
	28	INTP7			00048H		○	-	-	-	-
29	INTMD	除算演算終了/オーバフロー発生	内部	0004AH	(A)	○	○	○	○	○	
30	INTFL	シーケンサ終了割り込み ^{注3}		0004CH		○	○	○	○	○	

- 注 1. デフォルト・プライオリティは、複数のマスクアブル割り込みが発生している場合に、優先する順位です。0が最高順位、31が最低順位です。
2. 基本構成タイプの (A) - (D) は、それぞれ図17-1の (A) - (D) に対応しています。
3. フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリ、データ・フラッシュ・ライブラリで使用します。

備考 ○ : サポートする
 - : サポートしない

表17-1 割り込み要因一覧 (3/3)

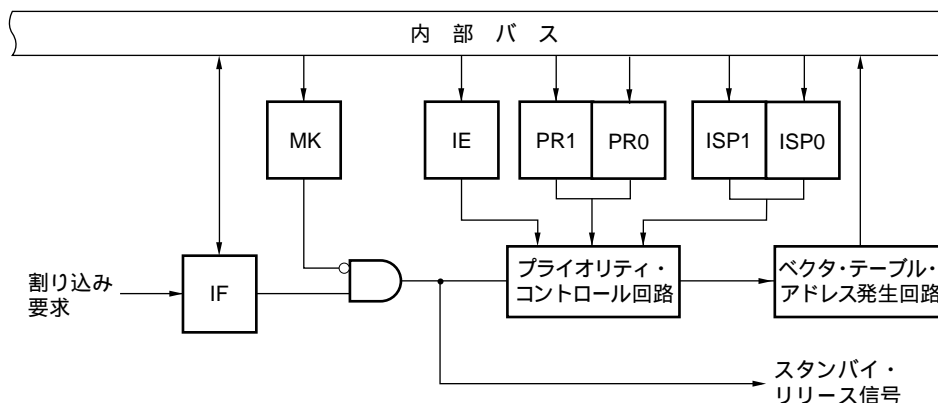
割り込みの処理	デフォルト・プライオリティ ^{注1}	割り込み要因		内部/外部	ベクタ・テーブル・アドレス	基本構成タイプ ^{注2}	64ピン	52ピン	48ピン	44ピン	32ピン
		名称	トリガ								
ソフトウェア	—	BRK	BRK命令の実行	—	0007EH	(D)	○	○	○	○	○
リセット	—	RESET	RESET端子入力	—	00000H	—	○	○	○	○	○
		POR	パワーオン・リセット				○	○	○	○	○
		LVD	電圧検出 ^{注3}				○	○	○	○	○
		WDT	ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー				○	○	○	○	○
		TRAP	不正命令の実行 ^{注4}				○	○	○	○	○
		IAW	不正メモリ・アクセス				○	○	○	○	○
		RPE	RAMパリティ・エラー				○	○	○	○	○

- 注 1. デフォルト・プライオリティは、複数のマスカブル割り込みが発生している場合に、優先する順位です。0が最高順位、31が最低順位です。
2. 基本構成タイプの (A) - (D) は、それぞれ図17-1の (A) - (D) に対応しています。
3. 電圧検出レベル・レジスタ (LVIS) のビット7 (LVIMD) = 1選択時。
4. FFHの命令コードを実行したときに発生します。
不正命令の実行によるリセットは、インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

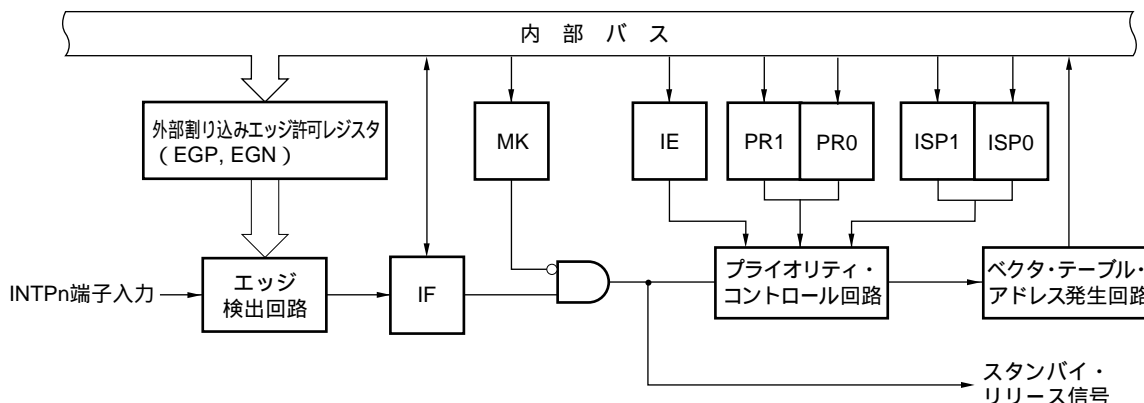
備考 ○ : サポートする

図17-1 割り込み機能の基本構成

(A) 内部マスカブル割り込み



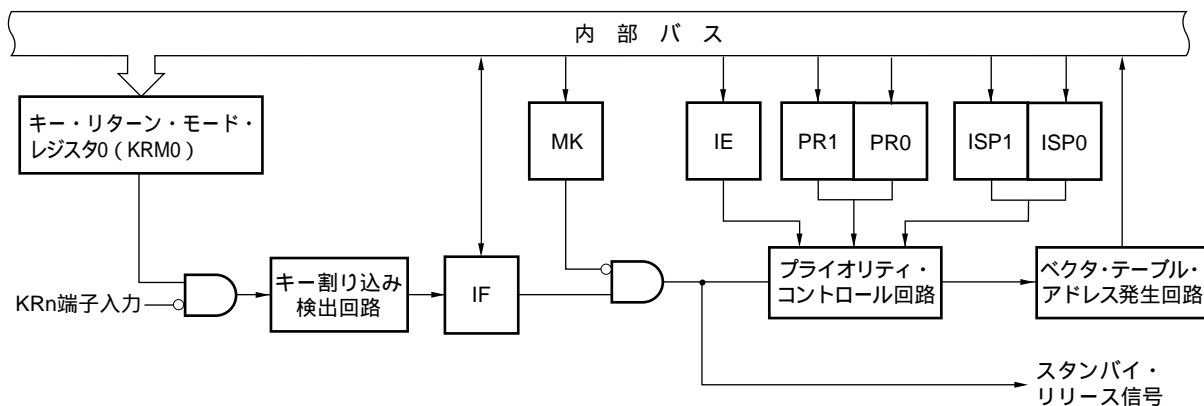
(B) 外部マスカブル割り込み (INTPn)



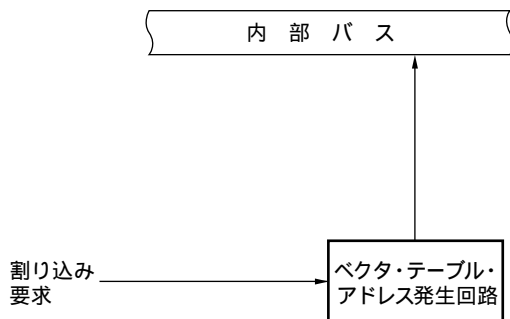
- IF : 割り込み要求フラグ
- IE : 割り込み許可フラグ
- ISP0 : インサースビス・プライオリティ・フラグ0
- ISP1 : インサースビス・プライオリティ・フラグ1
- MK : 割り込みマスク・フラグ
- PR0 : 優先順位指定フラグ0
- PR1 : 優先順位指定フラグ1

- 備考
- 32ピン : n = 0-2
 - 44ピン : n = 0-4
 - 48, 52ピン : n = 0-5
 - 64ピン : n = 0-7

(C) 外部マスカブル割り込み (INTKR)



(D) ソフトウェア割り込み



- IF : 割り込み要求フラグ
- IE : 割り込み許可フラグ
- ISP0 : インサースビス・プライオリティ・フラグ0
- ISP1 : インサースビス・プライオリティ・フラグ1
- MK : 割り込みマスク・フラグ
- PR0 : 優先順位指定フラグ0
- PR1 : 優先順位指定フラグ1

備考 n = 0-3

17.3 割り込み機能を制御するレジスタ

割り込み機能は、次の6種類のレジスタで制御します。

- ・割り込み要求フラグ・レジスタ (IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L)
- ・割り込みマスク・フラグ・レジスタ (MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L)
- ・優先順位指定フラグ・レジスタ (PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L)
- ・外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ (EGP0)
- ・外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ (EGN0)
- ・プログラム・ステータス・ワード (PSW)

各割り込み要求ソースに対応する割り込み要求フラグ、割り込みマスク・フラグ、優先順位指定フラグ名称を表17-2に示します。

表17-2 割り込み要求ソースに対応する各種フラグ (1/3)

割り込み 要因	割り込み要求フラグ		割り込みマスク・フラグ		優先順位指定フラグ		64ビット	52ビット	48ビット	44ビット	32ビット
	レジスタ	レジスタ	レジスタ	レジスタ	レジスタ	レジスタ					
INTWDTI	WDTIIF	IF0L	WDTIMK	MK0L	WDTIPR0, WDTIPR1	PR00L, PR10L	○	○	○	○	○
INTLVI	LVIIIF		LVIMK		LVIPR0, LVIPR1		○	○	○	○	○
INTP0	PIF0		PMK0		PPR00, PPR10		○	○	○	○	○
INTP1	PIF1		PMK1		PPR01, PPR11		○	○	○	○	○
INTP2	PIF2		PMK2		PPR02, PPR12		○	○	○	○	○
INTP3	PIF3		PMK3		PPR03, PPR13		○	○	○	○	-
INTP4	PIF4		PMK4		PPR04, PPR14		○	○	○	○	-
INTP5	PIF5		PMK5		PPR05, PPR15		○	○	○	-	-

備考 ○ : サポートする
 - : サポートしない

表17-2 割り込み要求ソースに対応する各種フラグ (2/3)

割り込み 要因	割り込み要求フラグ		割り込みマスク・フラグ		優先順位指定フラグ			64ビット	52ビット	48ビット	44ビット	32ビット
		レジスタ		レジスタ		レジスタ						
INTDMA0	DMAIF0	IF0H	DMAMK0	MK0H	DMAPR00, DMAPR10		PR00H,	○	○	○	○	○
INTDMA1	DMAIF1		DMAMK1		DMAPR01, DMAPR11		PR10H	○	○	○	○	○
INTST0 ^{注1}	STIF0 ^{注1}		STMK0 ^{注1}		STPR00, STPR10 ^{注1}			○	○	○	○	○
INTCSI00 ^{注1}	CSIF00 ^{注1}		CSIMK00 ^{注1}		CSIPR000, CSIPR100 ^{注1}			○	○	○	○	○
INTSR0 ^{注2}	SRIF0 ^{注2}		SRMK0 ^{注2}		SRPR00, SRPR10 ^{注2}			○	○	○	○	○
INTCSI01 ^{注2}	CSIF01 ^{注2}		CSIMK01 ^{注2}		CSIPR001, CSIPR101 ^{注2}			○	○	○	○	○
INTSRE0 ^{注3}	SREIF0 ^{注3}		SREMK0 ^{注3}		SREPR00, SREPR10 ^{注3}			○	○	○	○	○
INTTM01H ^{注3}	TMIF01H ^{注3}		TMMK01H ^{注3}		TMPR001H, TMPR101H ^{注3}			○	○	○	○	○
INTTM00	TMIF00		TMMK00		TMPR000, TMPR100			○	○	○	○	○
INTTM03H	TMIF03H	IF1L	TMMK03H	MK1L	TMPR003H, TMPR103H		PR01L,	○	○	○	○	○
INTIICA0	IICAIF0		IICAMK0		IICAPR00, IICAPR10		PR11L	○	○	○	○	○
INTTM01	TMIF01		TMMK01		TMPR001, TMPR101			○	○	○	○	○
INTTM02	TMIF02		TMMK02		TMPR002, TMPR102			○	○	○	○	○
INTTM03	TMIF03		TMMK03		TMPR003, TMPR103			○	○	○	○	○
INTAD	ADIF		ADMK		ADPR0, ADPR1			○	○	○	○	○
INTRTC	RTCIF		RTCMK		RT CPR0, RT CPR1			○	○	○	○	○
INTIT	ITIF		ITMK		ITPR0, ITPR1			○	○	○	○	○

- 注1. 割り込み要因INTST0, INTCSI00のうち、いずれかが発生したら、IF0Hレジスタのビット2はセット(1)されます。また、MK0H, PR00H, PR10Hレジスタのビット2は、2つすべての割り込み要因に対応しています。
2. 割り込み要因INTSR0, INTCSI01のうち、いずれかが発生したら、IF0Hレジスタのビット3はセット(1)されます。また、MK0H, PR00H, PR10Hレジスタのビット3は、2つすべての割り込み要因に対応しています。
3. UART0受信のエラー割り込み、TAU0のチャンネル1(上位8ビット・タイマ動作時)の割り込みは、割り込み要求ソースに対する各種フラグを兼用しているため、同時に使用しないでください。UART0受信のエラー割り込みを使用しない(EOC01 = 0)場合は、UART0, TAU0のチャンネル1(上位8ビット・タイマ動作時)を同時に使用できます。割り込み要因INTSRE0, INTTM01Hのうち、どちらかが発生したら、IF0Hレジスタのビット7はセット(1)されます。また、MK0H, PR00H, PR10Hレジスタのビット7は、両方の割り込み要因に対応しています。

備考 ○ : サポートする

表17-2 割り込み要求ソースに対応する各種フラグ (3/3)

割り込み 要因	割り込み要求フラグ		割り込みマスク・フラグ		優先順位指定フラグ			64ビット	52ビット	48ビット	44ビット	32ビット
		レジスタ		レジスタ		レジスタ						
INTKR	KRIF	IF1H	KRMK	MK1H	KRPR0, KRPR1	PR01H,	○	○	○	○	○	
INTTM04	TMIF04		TMMK04		TMPR004, TMPR104	PR11H	○	○	○	○	○	
INTTM05	TMIF05		TMMK05		TMPR005, TMPR105		○	○	○	○	○	
INTTM06	TMIF06		TMMK06		TMPR006, TMPR106		○	○	○	○	○	
INTTM07	TMIF07		TMMK07		TMPR007, TMPR107		○	○	○	○	○	
INTP6	PIF6	IF2L	PMK6	MK2L	PPR06, PPR16	PR02L,	○	—	—	—	—	
INTP7	PIF7		PMK7		PPR07, PPR17	PR12L	○	—	—	—	—	
INTMD	MDIF		MDMK		MDPR0, MDPR1		○	○	○	○	○	
INTFL	FLIF		FLMK		FLPR0, FLPR1		○	○	○	○	○	

備考 ○ : サポートする

— : サポートしない

17.3.1 割り込み要求フラグ・レジスタ (IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L)

割り込み要求フラグは、対応する割り込み要求の発生または命令の実行によりセット (1) され、割り込み要求受け付け時、リセット信号発生時または命令の実行によりクリア (0) されるフラグです。

割り込みが受け付けられた場合、まず割り込み要求フラグが自動的にクリアされてから割り込みルーチンに入ります。

IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2Lレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。また、IF0LレジスタとIF0Hレジスタ、IF1LレジスタとIF1Hレジスタをあわせて16ビット・レジスタIF0, IF1として使用するとき、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

備考 このレジスタへの書き込み命令を行った場合、命令実行クロック数が2クロック長くなります。

図17-2 割り込み要求フラグ・レジスタ (IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L) のフォーマット
(64ピン製品)

アドレス : FFFE0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IF0L	PIF5	PIF4	PIF3	PIF2	PIF1	PIF0	LVIF	WDTIF

アドレス : FFFE1H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IF0H	0	TMIF00	0	SREIF0 TMIF01H	SRIF0 CSIF01	STIF0 CSIF00	DMAIF1	DMAIF0

アドレス : FFFE2H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IF1L	ITIF	RTCIF	ADIF	TMIF03	TMIF02	TMIF01	IICAF0	TMIF03H

アドレス : FFFE3H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IF1H	TMIF07	TMIF06	TMIF05	TMIF04	0	0	0	KRIF

アドレス : FFFD0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IF2L	0	0	0	FLIF	MDIF	PIF7	PIF6	0

XXIFX	割り込み要求フラグ
0	割り込み要求信号が発生していない
1	割り込み要求信号が発生し、割り込み要求状態

(注意は次ページにあります。)

注意1. 製品によって搭載しているレジスタとビットは異なります。

各製品に搭載しているレジスタとビットについては、表17-2を参照してください。また、搭載していないビットには、必ず初期値を設定してください。

2. 割り込み要求フラグ・レジスタのフラグ操作には、1ビット・メモリ操作命令（CLR1）を使用してください。C言語での記述の場合は、コンパイルされたアセンブラが1ビット・メモリ操作命令（CLR1）になっている必要があるため、「IF0L.0 = 0;」や「_asm("clr1 IF0L.0");」のようなビット操作命令を使用してください。

なお、C言語で「IF0L & = 0xfe;」のように8ビット・メモリ操作命令で記述した場合、コンパイルすると3命令のアセンブラになります。

```
mov a, IF0L
and a, #0FEH
mov IF0L, a
```

この場合、「mov a, IF0L」後から「mov IF0L, a」の間のタイミングで、同一の割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L）の他ビットの要求フラグがセット（1）されても、「mov IF0L, a」でクリア（0）されます。したがって、C言語で8ビット・メモリ操作命令を使用する場合は注意が必要です。

17.3.2 割り込みマスク・フラグ・レジスタ (MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L)

割り込みマスク・フラグは、対応するマスカブル割り込み処理の許可/禁止を設定するフラグです。

MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2Lレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。また、MK0LレジスタとMK0Hレジスタ, MK1LレジスタとMK1Hレジスタをあわせて16ビット・レジスタMK0, MK1として使用するときは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、FFHになります。

備考 このレジスタへの書き込み命令を行った場合、命令実行クロック数が2クロック長くなります。

図17-3 割り込みマスク・フラグ・レジスタ (MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L) のフォーマット
(64ピン製品)

アドレス : FFFE4H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MK0L	PMK5	PMK4	PMK3	PMK2	PMK1	PMK0	LVIMK	WDTIMK

アドレス : FFFE5H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MK0H	1	TMMK00	1	SREMK0 TMMK01H	SRMK0 CSIMK01	STMK0 CSIMK00	DMAMK1	DMAMK0

アドレス : FFFE6H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MK1L	ITMK	RTCMK	ADMK	TMMK03	TMMK02	TMMK01	IICAMK0	TMMK03H

アドレス : FFFE7H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MK1H	TMMK07	TMMK06	TMMK05	TMMK04	1	1	1	KRMK

アドレス : FFFD4H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
MK2L	1	1	1	FLMK	MDMK	PMK7	PMK6	1

XXMKX	割り込み処理の制御
0	割り込み処理許可
1	割り込み処理禁止

注意 以上のビット構成は、64ピン製品の場合のビット構成です。製品によって、搭載しているビットは異なります。各製品に搭載しているビットについては、表17-2を参照してください。また、搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

17.3.3 優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L）

優先順位指定フラグは、対応するマスクブル割り込みの優先順位レベルを設定するフラグです。

PR0xyレジスタとPR1xyレジスタを組み合わせて、優先順位レベルを設定します（xy = 0L, 0H, 1L, 1H, 2L）。

PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12Lレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。また、PR00LレジスタとPR00Hレジスタ、PR01LレジスタとPR01Hレジスタ、PR10LレジスタとPR10Hレジスタ、PR11LレジスタとPR11Hレジスタをあわせて16ビット・レジスタPR00, PR01, PR10, PR11として使用するとき、16ビット・メモリ操作命令で設定します。リセット信号の発生により、FFHになります。

備考 このレジスタへの書き込み命令を行った場合、命令実行クロック数が2クロック長くなります。

図17-4 優先順位指定フラグ・レジスタ（PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L）のフォーマット（64ピン製品）（1/2）

アドレス：FFFE8H リセット時：FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR00L	PPR05	PPR04	PPR03	PPR02	PPR01	PPR00	LVIPR0	WDTIPR0

アドレス：FFFECH リセット時：FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR10L	PPR15	PPR14	PPR13	PPR12	PPR11	PPR10	LVIPR1	WDTIPR1

アドレス：FFFE9H リセット時：FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR00H	1	TMPR000	1	SREPR00 TMPR001H	SRPR00 CSIPR001	STPR00 CSIPR000	DMAPR01	DMAPR00

アドレス：FF FEDH リセット時：FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR10H	1	TMPR100	1	SREPR10 TMPR101H	SRPR10 CSIPR101	STPR10 CSIPR100	DMAPR11	DMAPR10

アドレス：FFFEAH リセット時：FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR01L	ITPR0	RTCPR0	ADPR0	TMPR003	TMPR002	TMPR001	IICAPR00	TMPR003H

図17-4 優先順位指定フラグ・レジスタ (PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12L) のフォーマット (64ピン製品) (2/2)

アドレス : FFFEEH リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR11L	ITPR1	RTCPR1	ADPR1	TMPR103	TMPR102	TMPR101	IICAPR10	TMPR103H

アドレス : FFFEBH リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR01H	TMPR007	TMPR006	TMPR005	TMPR004	1	1	1	KRPR0

アドレス : FFFEFH リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR11H	TMPR107	TMPR106	TMPR105	TMPR104	1	1	1	KRPR1

アドレス : FFFD8H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR02L	1	1	1	FLPR0	MDPR0	PPR07	PPR06	1

アドレス : FFFDCH リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PR12L	1	1	1	FLPR1	MDPR1	PPR17	PPR16	1

XXPR1X	XXPR0X	優先順位レベルの選択
0	0	レベル0を指定 (高優先順位)
0	1	レベル1を指定
1	0	レベル2を指定
1	1	レベル3を指定 (低優先順位)

注意 以上のビット構成は、64ピン製品の場合のビット構成です。製品によって、搭載しているビットは異なります。各製品に搭載しているビットについては、表17-2を参照してください。また、搭載していないビットには必ず初期値を設定してください。

17.3.4 外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ (EGP0), 外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ (EGN0)

INTP0-INTP7の有効エッジを設定するレジスタです。

EGP0, EGN0レジスタは、それぞれ1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。リセット信号の発生により、00Hになります。

図17-5 外部割り込み立ち上がりエッジ許可レジスタ (EGP0), 外部割り込み立ち下がりエッジ許可レジスタ (EGN0) のフォーマット (64ピン製品)

アドレス : FFF38H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
EGP0	EGP7	EGP6	EGP5	EGP4	EGP3	EGP2	EGP1	EGP0

アドレス : FFF39H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
EGN0	EGN7	EGN6	EGN5	EGN4	EGN3	EGN2	EGN1	EGN0

EGPn	EGNn	INTPn端子の有効エッジの選択 (n = 0-7)
0	0	エッジ検出禁止
0	1	立ち下がりエッジ
1	0	立ち上がりエッジ
1	1	立ち上がり, 立ち下がりの両エッジ

EGPnビットとEGNnビットに対応するポートを表17-3に示します。

表17-3 EGPnビットとEGNnビットに対応するポート

検出許可ビット		エッジ検出ポート	割り込み要求信号	64ピン	48, 52ピン	44ピン	32ピン
EGP0	EGN0	P137	INTP0	○	○	○	○
EGP1	EGN1	P15	INTP1	○	○	○	○
EGP2	EGN2	P16	INTP2	○	○	○	○
EGP3	EGN3	P31	INTP3	○	○	○	—
EGP4	EGN4	P32	INTP4	○	○	○	—
EGP5	EGN5	P50	INTP5	○	○	—	—
EGP6	EGN6	P52	INTP6	○	—	—	—
EGP7	EGN7	P43	INTP7	○	—	—	—

注意 外部割り込み機能からポート機能に切り替える場合に、エッジ検出を行う可能性があるため、EGPnビットとEGNnビットを0に設定してからポート・モードに切り替えてください。

- 備考1. n = 0-7
2. ○ : サポートする
— : サポートしない

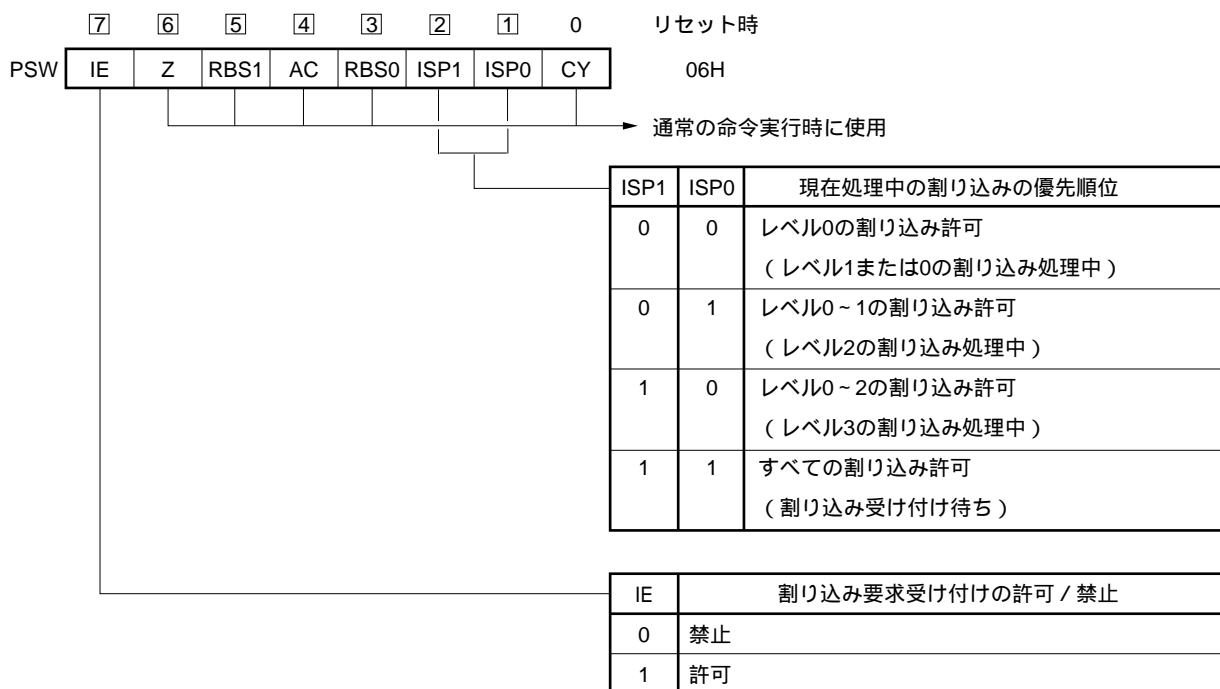
17.3.5 プログラム・ステータス・ワード (PSW)

プログラム・ステータス・ワードは、命令の実行結果や割り込み要求に対する現在の状態を保持するレジスタです。マスク可能割り込みの許可/禁止を設定するIEフラグと多重割り込み処理の制御を行うISP0, ISP1フラグがマッピングされています。

8ビット単位で読み出し/書き込み操作ができるほか、ビット操作命令や専用命令 (EI, DI) により操作ができます。また、ベクタ割り込み要求受け付け時および、BRK命令実行時には、PSWの内容は自動的にスタックに退避され、IEフラグはリセット (0) されます。また、マスク可能割り込み要求受け付け時には、受け付けた割り込みの優先順位指定フラグ・レジスタの内容が00以外は、"-1"された値がISP0, ISP1フラグに転送されます。PUSH PSW命令によってもPSWの内容はスタックに退避されます。RETI, RETB, POP PSW命令により、スタックから復帰します。

リセット信号の発生により、PSWIは06Hとなります。

図17-6 プログラム・ステータス・ワードの構成



17.4 割り込み処理動作

17.4.1 マスカブル割り込み要求の受け付け動作

マスカブル割り込み要求は、割り込み要求フラグがセット (1) され、その割り込み要求のマスク (MK) フラグがクリア (0) されていると受け付けが可能な状態になります。ベクタ割り込み要求は、割り込み許可状態 (IEフラグがセット (1) されているとき) であれば受け付けます。ただし、優先順位の高い割り込みを処理中に低い優先順位に指定されている割り込み要求は受け付けられません。

マスカブル割り込み要求が発生してからベクタ割り込み処理が行われるまでの時間は表17-4のようになります。

割り込み要求の受け付けタイミングについては、図17-8, 17-9を参照してください。

表17-4 マスカブル割り込み要求発生から処理までの時間

	最小時間	最大時間 ^注
処理時間	9クロック	16クロック

注 内部RAM領域からの命令実行時は除きます。

備考 1クロック : $1/f_{CLK}$ (f_{CLK} : CPUクロック)

複数のマスカブル割り込み要求が同時に発生したときは、優先順位指定フラグで高優先順位に指定されているものから受け付けられます。また、優先順位指定フラグで同一優先順位に指定されているときは、デフォルト優先順位の高い割り込みから受け付けられます。

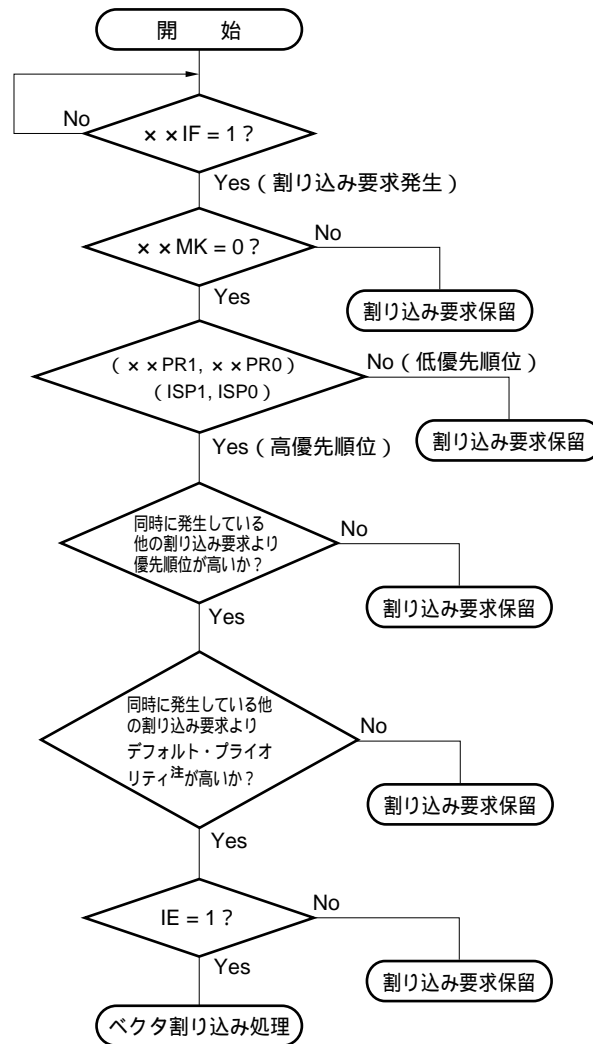
保留された割り込み要求は受け付け可能な状態になると受け付けられます。

割り込み要求受け付けのアルゴリズムを図17-7に示します。

マスカブル割り込み要求が受け付けられると、プログラム・ステータス・ワード (PSW)、プログラム・カウンタ (PC) の順に内容をスタックに退避し、IEフラグをリセット (0) し、受け付けた割り込みの優先順位指定フラグの内容をISP1, ISP0フラグへ転送します。さらに、割り込み要求ごとに決められたベクタ・テーブル中のデータをPCへロードし、分岐します。

RETI命令によって、割り込みから復帰できます。

図17-7 割り込み要求受け付け処理アルゴリズム



- ××IF : 割り込み要求フラグ
- ××MK : 割り込みマスク・フラグ
- ××PR0 : 優先順位指定フラグ0
- ××PR1 : 優先順位指定フラグ1
- IE : マスカブル割り込み要求の受け付けを制御するフラグ (1 = 許可, 0 = 禁止)
- ISP0, ISP1 : 現在処理中の割り込みの優先順位を示すフラグ (図17-6参照)

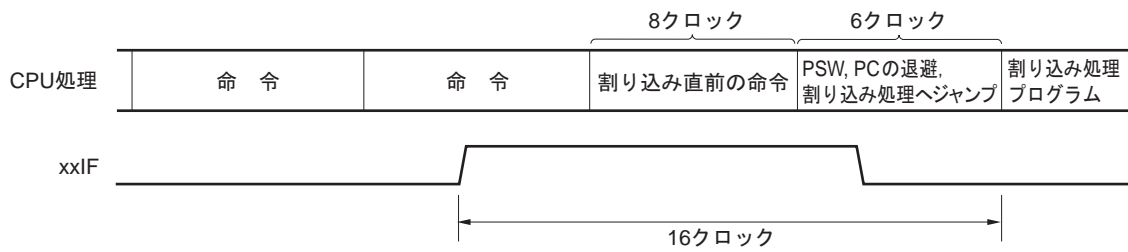
注 デフォルト・プライオリティは、表17-1 割り込み要因一覧を参照してください。

図17-8 割り込み要求の受け付けタイミング（最小時間）



備考 1クロック : $1/f_{CLK}$ (f_{CLK} : CPUクロック)

図17-9 割り込み要求の受け付けタイミング（最大時間）



備考 1クロック : $1/f_{CLK}$ (f_{CLK} : CPUクロック)

17.4.2 ソフトウェア割り込み要求の受け付け動作

ソフトウェア割り込み要求はBRK命令の実行により受け付けられます。ソフトウェア割り込みは禁止することはできません。

ソフトウェア割り込み要求が受け付けられると、プログラム・ステータス・ワード (PSW)、プログラム・カウンタ (PC) の順に内容をスタックに退避し、IEフラグをリセット (0) し、ベクタ・テーブル (0007EH, 0007FH) の内容をPCにロードして分岐します。

RETB命令によって、ソフトウェア割り込みから復帰できます。

注意 ソフトウェア割り込みからの復帰にRETI命令は使用できません。

17.4.3 多重割り込み処理

割り込み処理中に、さらに別の割り込み要求を受け付けることを多重割り込みといいます。

多重割り込みは、割り込み要求受け付け許可状態 (IE = 1) になっていなければ発生しません。割り込み要求を受け付けられた時点で、割り込み要求は受け付け禁止状態 (IE = 0) になります。したがって、多重割り込みを許可するには、割り込み処理中にEI命令によってIEフラグをセット (1) して、割り込み許可状態にする必要があります。

また、割り込み許可状態であっても、多重割り込みが許可されない場合がありますが、これは割り込みの優先順位によって制御されます。割り込みの優先順位には、デフォルト優先順位とプログラマブル優先順位の2つがありますが、多重割り込みの制御はプログラマブル優先順位制御により行われます。

割り込み許可状態で、現在処理中の割り込みより高い優先順位の割り込み要求が発生した場合には、多重割り込みとして受け付けられます。現在処理中の割り込みと同レベルか、より低い優先順位の割り込み要求が発生した場合には、多重割り込みとして受け付けられません。ただしレベル0の割り込み中にIEフラグをセット (1) した場合には、レベル0の他の割り込みも許可されます。

割り込み禁止、または低優先順位のために多重割り込みが許可されなかった割り込み要求は保留されます。そして、現在の割り込み処理終了後、メイン処理の命令を少なくとも1命令実行後に受け付けられます。

表17-5に多重割り込み可能な割り込み要求の関係を、図17-10に多重割り込みの例を示します。

表17-5 割り込み処理中に多重割り込み可能な割り込み要求の関係

多重割り込み要求 処理中の割り込み		マスカブル割り込み要求								ソフトウェア 割り込み要求
		優先順位レベル0 (PR = 00)		優先順位レベル1 (PR = 01)		優先順位レベル2 (PR = 10)		優先順位レベル3 (PR = 11)		
		IE = 1	IE = 0	IE = 1	IE = 0	IE = 1	IE = 0	IE = 1	IE = 0	
マスカブル割り込み	ISP1 = 0 ISP0 = 0	○	×	×	×	×	×	×	×	○
	ISP1 = 0 ISP0 = 1	○	×	○	×	×	×	×	×	○
	ISP1 = 1 ISP0 = 0	○	×	○	×	○	×	×	×	○
	ISP1 = 1 ISP0 = 1	○	×	○	×	○	×	○	×	○
ソフトウェア割り込み		○	×	○	×	○	×	○	×	○

備考1. ○：多重割り込み可能。

2. ×：多重割り込み不可能。

3. ISP0, ISP1, IEはPSWに含まれるフラグです。

ISP1 = 0, ISP0 = 0 : レベル1またはレベル0の割り込み処理中

ISP1 = 0, ISP0 = 1 : レベル2の割り込み処理中

ISP1 = 1, ISP0 = 0 : レベル3の割り込み処理中

ISP1 = 1, ISP0 = 1 : 割り込み受け付け待ち（すべての割り込み許可）

IE = 0 : 割り込み要求受け付け禁止

IE = 1 : 割り込み要求受け付け許可

4. PRIはPR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12Lレジスタに含まれるフラグです。

PR = 00 : × × PR1 × = 0, × × PR0 × = 0でレベル0を指定（高優先順位）

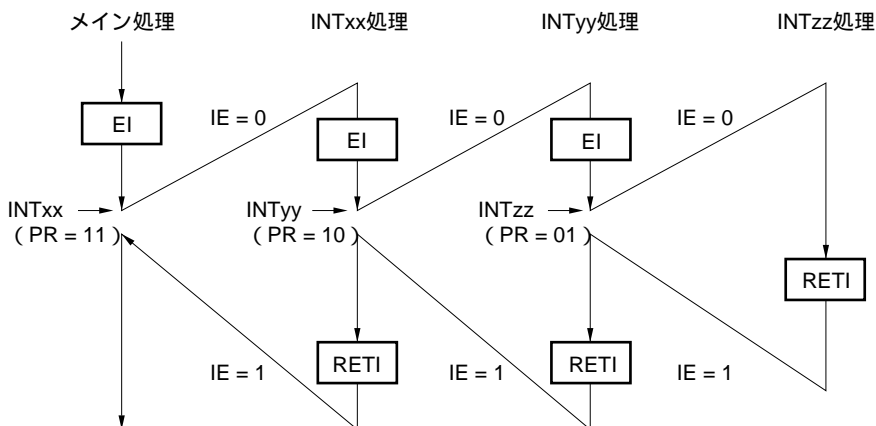
PR = 01 : × × PR1 × = 0, × × PR0 × = 1でレベル1を指定

PR = 10 : × × PR1 × = 1, × × PR0 × = 0でレベル2を指定

PR = 11 : × × PR1 × = 1, × × PR0 × = 1でレベル3を指定（低優先順位）

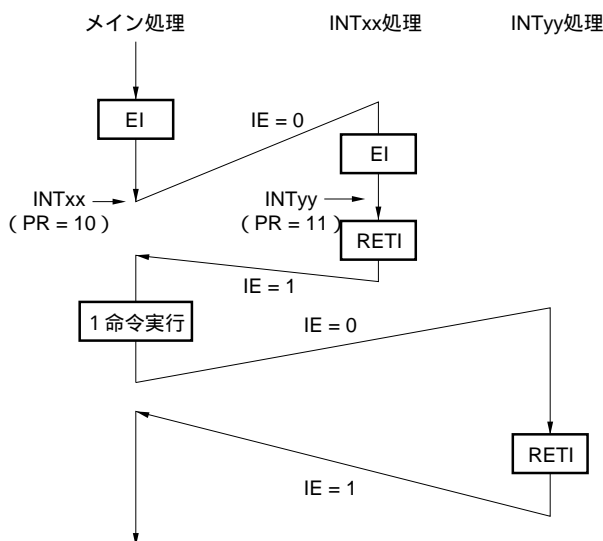
図17-10 多重割り込みの例 (1/2)

例1. 多重割り込みが2回発生する例



割り込みINTxx処理中に、2つの割り込み要求INTyy, INTzzが受け付けられ、多重割り込みが発生する。各割り込み要求受け付けの前には、必ずEI命令を発行し、割り込み要求受け付け許可状態になっている。

例2. 優先順位制御により、多重割り込みが発生しない例

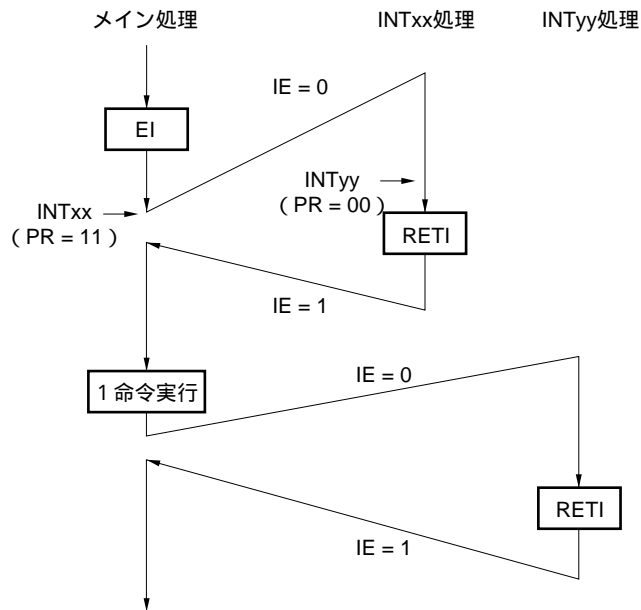


割り込みINTxx処理中に発生した割り込み要求INTyyは、割り込みの優先順位がINTxxより低いため受け付けられず、多重割り込みは発生しない。INTyy要求は保留され、メイン処理1命令実行後に受け付けられる。

- PR = 00 : × × PR1 × = 0, × × PR0 × = 0でレベル0を指定 (高優先順位)
- PR = 01 : × × PR1 × = 0, × × PR0 × = 1でレベル1を指定
- PR = 10 : × × PR1 × = 1, × × PR0 × = 0でレベル2を指定
- PR = 11 : × × PR1 × = 1, × × PR0 × = 1でレベル3を指定 (低優先順位)
- IE = 0 : 割り込み要求受け付け禁止
- IE = 1 : 割り込み要求受け付け許可

図17-10 多重割り込みの例 (2/2)

例3. 割り込みが許可されていないため、多重割り込みが発生しない例



割り込みINTxx処理では割り込みが許可されていない (EI命令が発行されていない) ので、割り込み要求INTyyは受け付けられず、多重割り込みは発生しない。INTyy要求は保留され、メイン処理1命令実行後に受け付けられる。

PR = 00 : $\times \times PR1 \times = 0, \times \times PR0 \times = 0$ でレベル0を指定 (高優先順位)

PR = 01 : $\times \times PR1 \times = 0, \times \times PR0 \times = 1$ でレベル1を指定

PR = 10 : $\times \times PR1 \times = 1, \times \times PR0 \times = 0$ でレベル2を指定

PR = 11 : $\times \times PR1 \times = 1, \times \times PR0 \times = 1$ でレベル3を指定 (低優先順位)

IE = 0 : 割り込み要求受け付け禁止

IE = 1 : 割り込み要求受け付け許可

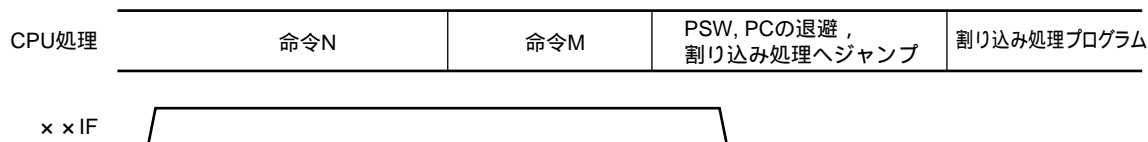
17.4.4 割り込み要求の保留

命令の中には、その命令実行中に割り込み要求が発生しても、その次の命令の実行終了まで割り込み要求の受け付けを保留するものがあります。このような命令（割り込み要求の保留命令）を次に示します。

- ・ MOV PSW, #byte
- ・ MOV PSW, A
- ・ MOV1 PSW. bit, CY
- ・ SET1 PSW. bit
- ・ CLR1 PSW. bit
- ・ RETB
- ・ RETI
- ・ POP PSW
- ・ BTCLR PSW. bit, \$addr20
- ・ EI
- ・ DI
- ・ SKC
- ・ SKNC
- ・ SKZ
- ・ SKNZ
- ・ SKH
- ・ SKNH
- ・ IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L, MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L, PR00L, PR00H, PR01L, PR01H, PR02L, PR10L, PR10H, PR11L, PR11H, PR12Lレジスタの各レジスタに対する操作命令

割り込み要求が保留されるタイミングを図17-11に示します。

図17-11 割り込み要求の保留



- 備考1. 命令N：割り込み要求の保留命令
2. 命令M：割り込み要求の保留命令以外の命令

第18章 キー割り込み機能

18.1 キー割り込みの機能

キー割り込み入力端子 (KR0-KR3) に立ち上がり／立ち下がりエッジを入力することによって、キー割り込み (INTKR) を発生させることができます。

表18-1 キー割り込み検出端子の割り当て

キー割り込み端子	キー・リターン・モード・レジスタ (KRM)
KR0	KRM0
KR1	KRM1
KR2	KRM2
KR3	KRM3

18.2 キー割り込みの構成

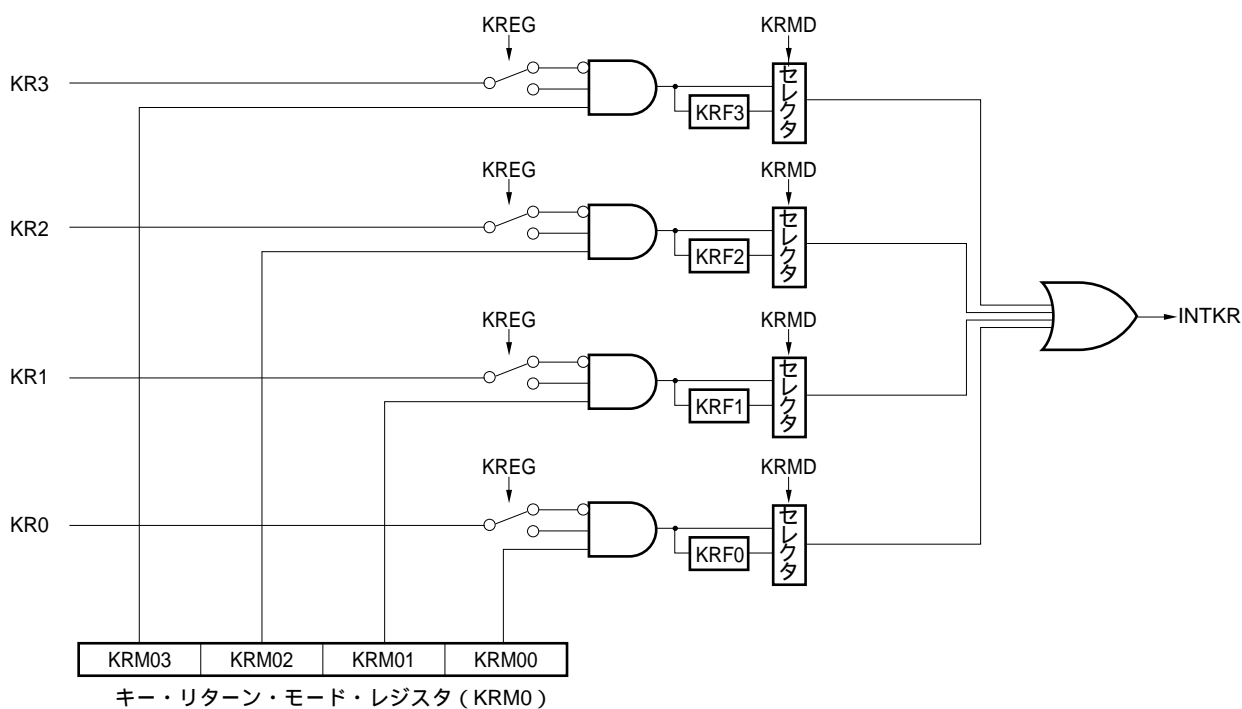
キー割り込みは、次のハードウェアで構成されています。

表18-2 キー割り込みの構成

項目	制御レジスタ
制御レジスタ	キー・リターン・コントロール・レジスタ (KRCTL)
	キー・リターン・モード・レジスタ0 (KRM0)
	ポート・モード・レジスタ1, 3, 7, 14 (PM1, PM3, PM7, PM14) 注

注 製品によって設定するポート・モード・レジスタ (PMxx) が異なります。詳細は、18.3.4 ポート・モード・レジスタ1, 3, 7, 14 (PM1, PM3, PM7, PM14) を参照してください。

図18-1 キー割り込みのブロック図



18.3 キー割り込みを制御するレジスタ

キー割り込み機能は、次の5種類のレジスタで制御します。

- ・キー・リターン・コントロール・レジスタ (KRCTL)
- ・キー・リターン・モード・レジスタ0 (KRM0)
- ・キー・リターン・フラグ・レジスタ (KRF)
- ・ポート・モード・レジスタ1, 3, 7, 14 (PM1, PM3, PM7, PM14) 注

注 製品によって設定するポート・モード・レジスタ (PMxx) が異なります。詳細は、18.3.4 ポート・モード・レジスタ1, 3, 7, 14 (PM1, PM3, PM7, PM14) を参照してください。

18.3.1 キー・リターン・コントロール・レジスタ (KRCTL)

キー割り込みフラグ (KRF0-KRF3) の使用と検出エッジを設定するレジスタです。

KRCTLレジスタは、1ビット・メモリ操作命令および8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図18-2 キー・リターン・コントロール・レジスタ (KRCTL) のフォーマット

アドレス : FFF34H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
KRCTL	KRMD	0	0	0	0	0	0	KREG

KRMD	キー割り込みフラグ (KRF0-KRF3) の使用
0	キー割り込みフラグを使用しない
1	キー割り込みフラグを使用する

KREG	検出エッジの選択 (KR0-KR3)
0	立ち下がりエッジ
1	立ち上がりエッジ

18.3.2 キー・リターン・モード・レジスタ0 (KRM0)

キー割り込みモードを設定するレジスタです。

KRM0レジスタは、1ビット・メモリ操作命令および8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図18-3 キー・リターン・モード・レジスタ0 (KRM0) のフォーマット

アドレス : FFF37H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
KRM0	0	0	0	0	KRM03	KRM02	KRM01	KRM00

KRM0n	キー割り込みモードの制御
0	キー割り込み信号を検出しない
1	キー割り込み信号を検出する

- 注意 1. キー割り込み入力端子のプルアップ抵抗レジスタ1, 3, 7, 14 (PU1, PU3, PU7, PU14) の対象となるビットに1を設定して、内蔵プルアップ抵抗を使用することができます。
2. キー割り込み入力端子にロウ・レベル (KREGに0を設定時) / ハイ・レベル (KREGに1を設定時) が入力されている状態で、KRM0レジスタの対象ビットをセットすると、割り込みが発生します。この割り込みを無視したい場合は、割り込みマスク・フラグで割り込み処理禁止にしてから、KRM0レジスタをセットしてください。その後、キー割り込み入力ハイ・レベル幅、ロウ・レベル幅 (30.4 AC特性参照) を待ってから、割り込み要求フラグをクリアし、割り込み処理許可にしてください。
3. キー割り込みモードで使用していない端子は通常ポートとして使用可能です。

備考 n = 0-3

18.3.3 キー・リターン・フラグ・レジスタ (KRF)

キー割り込みフラグ (KRF0-KRF3) を制御するレジスタです。

KRFレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図18-4 キー・リターン・フラグ・レジスタ (KRF) のフォーマット

アドレス : FFF35H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
KRF	0	0	0	0	KRF3	KRF2	KRF1	KRF0

KRFn	キー割り込みフラグ (n = 0-3)
0	キー割り込み信号を未検出
1	キー割り込み信号を検出

注意 KRMD = 0のとき、KRFn = 1の設定は禁止です。

18.3.4 ポート・モード・レジスタ1, 3, 7, 14 (PM1, PM3, PM7, PM14)

ポート1, 3, 7, 14の入力/出力を1ビット単位で設定するレジスタです。

キー入力端子の有無は製品によって異なります。そのため、キー割り込み機能使用時に各製品で設定するポート・モード・レジスタは次のようになります。

32, 44ピン : PM1, PM14
 48, 52ピン製品 : PM3, PM7
 64ピン製品 : PM7

P10/KR2-P12KR0, P140/KR3, P30/KR3-P32/KR1, P70/KR0-P73/KR3をキー入力として使用するとき、各ポートに対応するポート・モード・レジスタ (PM1, PM3, PM7, PM14) のビットに1を設定してください。

PM1, PM3, PM7, PM14レジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、PM1, PM3, PM7, PM14レジスタはFFHになります。

図18-5 ポート・モード・レジスタ7 (PM7) のフォーマット (64ピン製品の場合)

アドレス : FFF27H リセット時 : FFH R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
PM7	1	1	1	PM74	PM73	PM72	PM71	PM70

PM7n	P7n端子の入出力モードの選択 (n = 0-4)
0	出力モード (出力バッファ・オン)
1	入力モード (出力バッファ・オフ)

備考 上記は、64ピン製品のポート・モード・レジスタ7のフォーマットです。他の製品のポート・モード・レジスタのフォーマットについては、表4-3 各製品で搭載しているPMxx, Pxx, PUxx, PIMxx, POMxx, PMCxxレジスタとそのビットを参照してください。

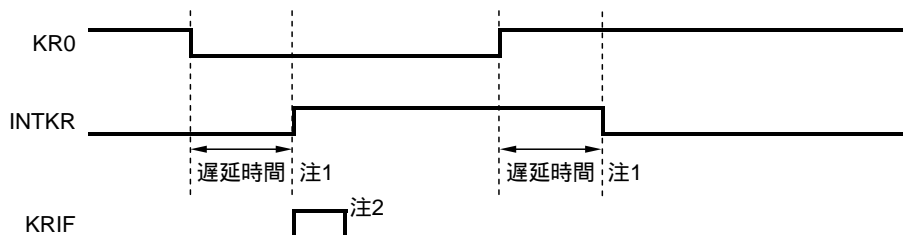
18.4 キー割り込み機能の動作

18.4.1 キー割り込みフラグを使用しない場合 (KRMD = 0)

キー割り込み入力端子 (KR0-KR3) にKREGビットで設定した有効エッジを入力することによって、キー割り込み (INTKR) が発生します。また、キー割り込み (INTKR) 発生後にポート・レジスタをリードし入力レベルを確認することで、有効エッジが入力されたチャンネルを特定できます。

キー割り込み入力端子 (KR0-KR3) の入力レベルに連動してINTKR信号が変化します。

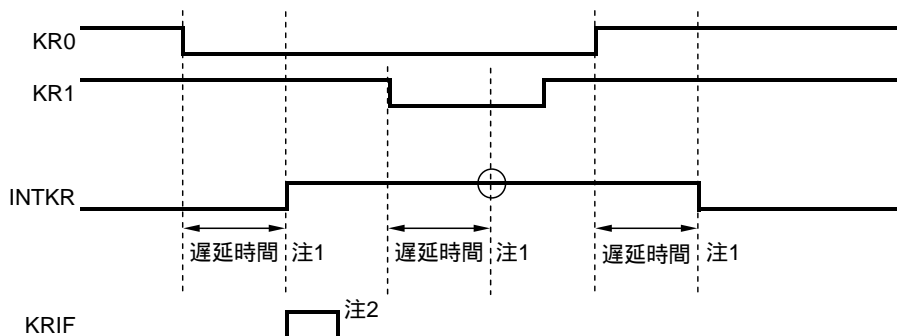
図18-6 1つのチャンネルへのキー割り込み入力時のINTKR信号の動作 (KRMD = 0, KREG = 0設定時)



- 注1. 遅延時間の最大は、キー割り込み入力ハイ・レベル幅、ロウ・レベル幅のMAX.値 (30.4 AC特性参照) となります。
2. ベクタ割り込み要求の受け付けもしくはソフトウェアによりクリア

複数のキー割り込み入力端子に有効エッジが入力された場合の動作を図18-7に示します。1つの端子にロウ・レベル (KREG = 0設定時) が入力されている期間はINTKR信号がセットされているため、この間に他の端子に立ち下がりエッジを入力しても再度キー割り込み (INTKR) は発生しません (図中の①)。

図18-7 複数チャンネルへのキー割り込み入力時のINTKR信号の動作 (KRMD = 0, KREG = 0設定時)



- 注1. 遅延時間の最大は、キー割り込み入力ハイ・レベル幅、ロウ・レベル幅のMAX.値 (30.4 AC特性参照) となります。
2. ベクタ割り込み要求の受け付けもしくはソフトウェアによりクリア

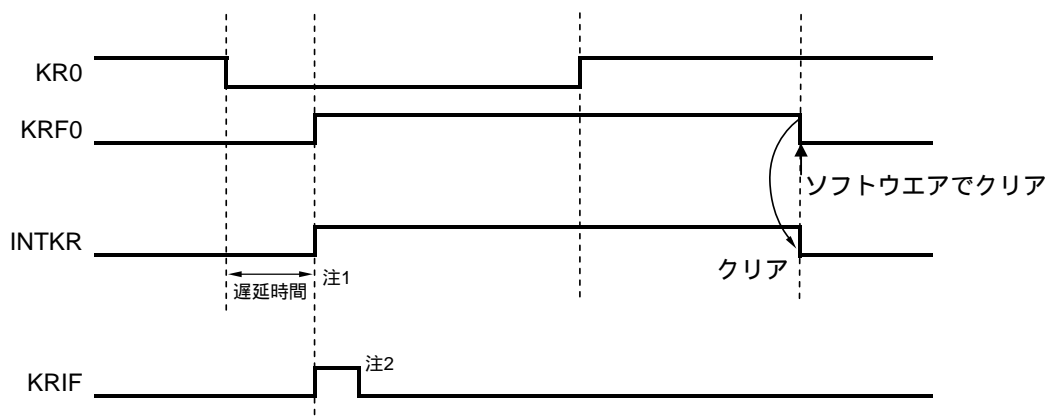
18.4.2 キー割り込みフラグを使用する場合 (KRMD = 1)

キー割り込み入力端子 (KR0-KR3) にKREGビットで設定した有効エッジを入力することによって、キー割り込み (INTKR) が発生します。また、キー割り込み (INTKR) 発生後にキー・リターン・フラグ・レジスタ (KRF) をリードすることで、有効エッジが入力されたチャンネルを特定できます。

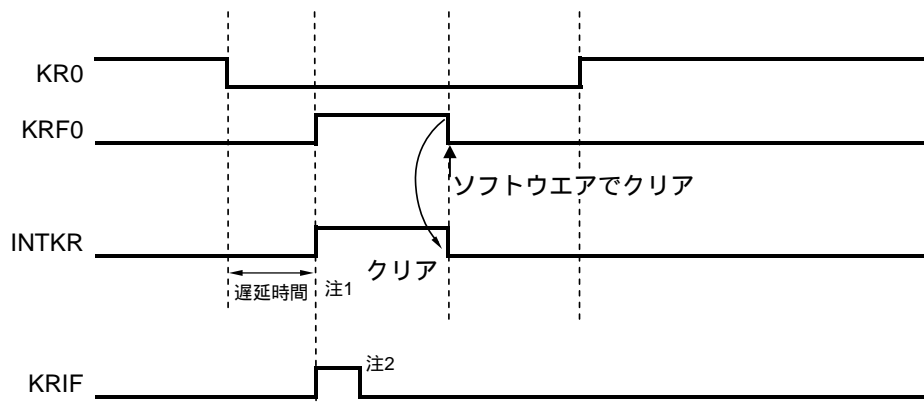
KRMD = 1に設定時は、KRFレジスタの対象ビットをクリアすることにより、INTKR信号がクリアされます。図18-8に示すように、1つのチャンネルでの立ち下がりエッジ (KREG = 0設定時) 1回に対して、KRFnビットのクリアのタイミングが立ち上がりエッジの前後に関わらず、割り込みは1回しか発生しません。

図18-8 キー割り込みフラグを使用時のINTKR信号の基本動作 (KRMD = 1, KREG = 0設定時)

(a) KR0端子への立ち上がりエッジ入力後にKRF0をクリア



(b) KR0端子への立ち上がりエッジ入力前にKRF0をクリア

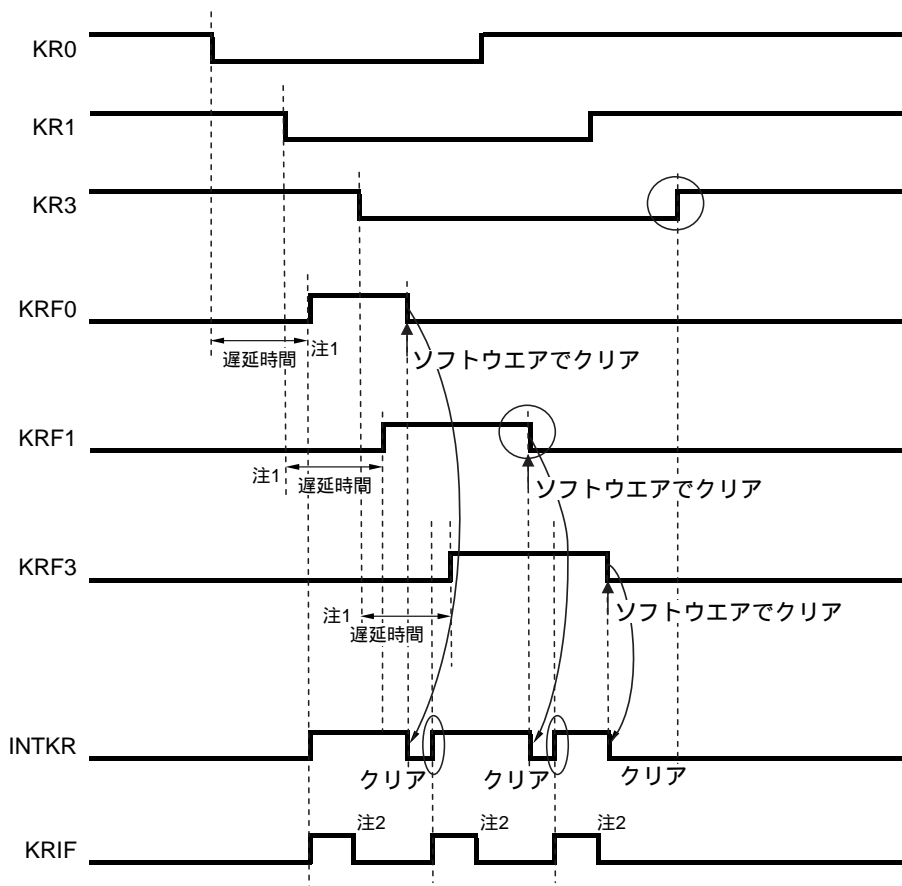


注1. 遅延時間の最大は、キー割り込み入力ハイ・レベル幅、ロウ・レベル幅のMAX.値 (30.4 AC特性参照) となります。

2. ベクタ割り込み要求の受け付けもしくはソフトウェアによりクリア

複数のキー割り込み入力端子に有効エッジが入力された場合の動作を図18-9に示します。KR0端子に立ち下がりエッジを入力後にKR1端子、KR3端子にも立ち下がりエッジを入力しています（KREG = 0設定時）。KRF0ビットをクリアする時にKRF1ビットがセットされているため、KRF0ビットのクリアの1クロック（f_{CLK}）後にキー割り込み（INTKR）が発生します（図中の①）。また、KR3端子に立ち下がりエッジが入力され、KRF1ビットをクリアするとき（図中の②）以降までKR3端子にロウ・レベルが入力されている（図中の③）ため、KRF1ビットのクリアの1クロック（f_{CLK}）後にキー割り込み（INTKR）が発生します（図中の④）。このように、複数チャンネルに入力した有効エッジに対してキー割り込み（INTKR）の発生が可能となります。

図18-9 複数チャンネルへのキー割り込み入力時のINTKR信号の動作（KRMD = 1, KREG = 0設定時）



- 注1. 遅延時間の最大は、キー割り込み入力ハイ・レベル幅、ロウ・レベル幅のMAX.値（30.4 AC特性参照）となります。
2. ベクタ割り込み要求の受け付けもしくはソフトウェアによりクリア

備考 f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

第19章 スタンバイ機能

19.1 スタンバイ機能と構成

19.1.1 スタンバイ機能

スタンバイ機能は、システムの動作電流をより低減するための機能で、次の3種類のモードがあります。

(1) HALTモード

HALT命令の実行により、HALTモードとなります。HALTモードは、CPUの動作クロックを停止させるモードです。HALTモード設定前に高速システム・クロック発振回路、高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロック発振回路が動作している場合、それぞれのクロックは発振を継続します。このモードでは、STOPモードほどの動作電流の低減はできませんが、割り込み要求により、すぐに処理を再開したい場合や、頻繁に間欠動作をさせたい場合に有効です。

(2) STOPモード

STOP命令の実行により、STOPモードとなります。STOPモードは、高速システム・クロック発振回路、高速オンチップ・オシレータを停止させ、システム全体が停止するモードです。CPUの動作電流を、大幅に低減することができます。

さらに、割り込み要求によって解除できるため、間欠動作も可能です。ただし、X1クロックの場合、STOPモード解除時に発振安定時間確保のためのウェイト時間がとられるため、割り込み要求によって、すぐに処理を開始しなければならないときにはHALTモードを選択してください。

(3) SNOOZEモード

CSI00, UART0のデータ受信およびタイマ・トリガ信号（割り込み要求信号（INTRTC/INTIT））によるA/D変換要求により、STOPモードを解除し、CPUを動作させることなくCSI00, UART0のデータ受信、A/D変換を行います。CPU/周辺ハードウェア・クロック（fCLK）に高速オンチップ・オシレータが選択されているときのみ設定可能です。

いずれのモードでも、スタンバイ・モードに設定される直前のレジスタ、フラグ、データ・メモリの内容はすべて保持されます。また、入出力ポートの出力ラッチ、出力バッファの状態も保持されます。

- 注意 1. STOPモードはCPUがメイン・システム・クロックで動作しているときだけ使用します。CPUがサブシステム・クロックで動作しているときは、STOPモードに設定しないでください。HALTモードはCPUがメイン・システム・クロック、サブシステム・クロックのいずれかの動作状態でも使用できます。
2. STOPモードに移行するとき、メイン・システム・クロックで動作する周辺ハードウェアの動作を必ず停止させたのち、STOP命令を実行してください（SNOOZEモード設定ユニットを除く）。
3. CSI00, UART0, A/DコンバータをSNOOZEモードで使用する場合は、シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0（SSC0）、A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADM2）をSTOPモードに移行前に設定してください。詳細は、12.3 シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ、11.3 A/Dコンバータで使用するレジスタを参照してください。

4. A/Dコンバータ部の消費電力を低減させるためには、A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) のビット7 (ADCS) とビット0 (ADCE) を0にクリアし、A/D変換動作を停止させてから、STOP命令を実行してください。
5. 低速オンチップ・オシレータをHALT, STOPモード時に発振継続/停止するかは、オプション・バイトで選択できます。詳細は第25章 オプション・バイトを参照してください。

19.2 スタンバイ機能を制御するレジスタ

スタンバイ機能を制御するレジスタを次に示します。

- ・サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC)
- ・発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC)
- ・発振安定時間選択レジスタ (OSTS)

備考 上記レジスタの詳細は、第5章 クロック発生回路を参照してください。また、SNOOZEモード機能を制御するレジスタは、第11章 A/Dコンバータ、第12章 シリアル・アレイ・ユニットを参照してください。

19.3 スタンバイ機能の動作

19.3.1 HALTモード

(1) HALTモード

HALTモードは、HALT命令の実行により設定されます。設定前のCPUクロックは、高速システム・クロック、高速オンチップ・オシレータ・クロック、サブシステム・クロックのいずれの場合でも設定可能です。

次にHALTモード時の動作状態を示します。

注意 割り込みマスク・フラグが"0" (割り込み処理許可) で且つ割り込み要求フラグが"1" (割り込み要求信号が発生) の場合、HALTモードの解除に割り込み要求信号が用いられるため、その状況下でHALT命令を実行しても、HALTモードに移行しません。

表19-1 HALTモード時の動作状態 (1/2)

HALTモード の設定 項目		メイン・システム・クロックでCPU動作中のHALT命令実行時		
		高速オンチップ・オシレータ・ クロック (f _H) でCPU動作時	X1クロック (f _X) でCPU動作時	外部メイン・システム・クロッ ク (f _{EX}) でCPU動作時
システム・クロック		CPUへのクロック供給は停止		
メイン・システ ム・クロック	f _H	動作継続 (停止不可)	動作禁止	
	f _X	動作禁止	動作継続 (停止不可)	動作不可
	f _{EX}		動作不可	動作継続 (停止不可)
サブシステ ム・クロック	f _{XT}	HALTモード設定前の状態を継続		
	f _{EXS}			
f _{IL}	オプション・バイト (000C0H) のビット0 (WDSTBYON) , ビット4 (WDTON) およびサブシ テム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のWUTMMCK0ビットにて設定 ・ WUTMMCK0 = 1 : 発振 ・ WUTMMCK0 = 0かつWDTON = 0 : 停止 ・ WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき : 発振 ・ WUTMMCK0 = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき : 停止			
CPU		動作停止		
コード・フラッシュ・メモリ				
データ・フラッシュ・メモリ				
RAM		動作停止 (DMA実行時は動作可能)		
ポート (ラッチ)		HALTモード設定前の状態を保持		
タイマ・アレイ・ユニット		動作可能		
リアルタイム・クロック (RTC)				
12ビット・インターバル・タイマ				
ウォッチドッグ・タイマ		第10章 ウォッチドッグ・タイマ参照		
クロック出力/ブザー出力		動作可能		
A/Dコンバータ				
シリアル・アレイ・ユニッ ト (SAU)				
シリアル・インタフェース (IICA)				
LCDコントローラ/ドラ イバ		動作可能 (ただし, LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう (選択クロッ クが動作中なら動作可能, 停止中なら動作停止))		
乗除・積和演算器		動作可能		
DMAコントローラ				
パワーオン・リセット機能				
電圧検出機能				
外部割り込み				
キー割り込み機能				
CRC演算 機能	高速CRC			
	汎用CRC	RAM領域の演算で, DMA実行時は動作可能		
RAMパリティ・エラー検出 機能		DMA実行時は動作可能		
RAMガード機能				
SFRガード機能				
不正メモリ・アクセス検出 機能				

備考 動作停止 : HALTモード移行時に自動的に動作停止 f_X : X1クロック
 動作禁止 : HALTモード移行前に動作を停止させる f_{EX} : 外部メイン・システム・クロック
 f_H : 高速オンチップ・オシレータ・クロック f_{XT} : XT1クロック
 f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック f_{EXS} : 外部サブシステム・クロック

表19-1 HALTモード時の動作状態 (2/2)

HALTモードの設定 項 目		サブシステム・クロックでCPU動作中のHALT命令実行時	
		XT1クロック (f _{XT}) でCPU動作時	外部サブシステム・クロック (f _{EXS}) でCPU動作時
システム・クロック		CPUへのクロック供給は停止	
メイン・システム・クロック	f _{IH}	動作禁止	
	f _X		
	f _{EX}		
サブシステム・クロック	f _{XT}	動作継続 (停止不可)	動作不可
	f _{EXS}	動作不可	動作継続 (停止不可)
f _{IL}	オプション・バイト (000C0H) のビット0 (WDSTBYON), ビット4 (WDTON) およびサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のWUTMMCK0ビットにて設定 ・ WUTMMCK = 1 : 発振 ・ WUTMMCK = 0かつWDTON = 0 : 停止 ・ WUTMMCK = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき : 発振 ・ WUTMMCK = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき : 停止		
CPU		動作停止	
コード・フラッシュ・メモリ			
データ・フラッシュ・メモリ			
RAM		動作停止(DMA実行時は動作可能)	
ポート (ラッチ)		HALTモード設定前の状態を保持	
タイマ・アレイ・ユニット		RTCLPC = 0のときは動作可能 (それ以外は動作禁止)	
リアルタイム・クロック (RTC)		動作可能	
12ビット・インターバル・タイマ			
ウォッチドッグ・タイマ		第10章 ウォッチドッグ・タイマ参照	
クロック出力/ブザー出力		RTCLPC = 0のときは動作可能 (それ以外は動作禁止)	
A/Dコンバータ		動作禁止	
シリアル・アレイ・ユニット (SAU)		RTCLPC = 0のときは動作可能 (それ以外は動作禁止)	
シリアル・インタフェース (IICA)		動作禁止	
LCDコントローラ/ドライバ		動作可能 (ただし, LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう (選択クロックが動作中なら動作可能, 停止中なら動作停止))	
乗除・積和演算器		RTCLPC = 0のときは動作可能 (それ以外は動作禁止)	
DMAコントローラ			
パワーオン・リセット機能		動作可能	
電圧検出機能			
外部割り込み			
キー割り込み機能			
CRC演算機能	高速CRC	動作禁止	
	汎用CRC	RAM領域の演算で, DMA実行時は動作可能	
RAMパリティ・エラー検出機能		DMA実行時は動作可能	
RAMガード機能			
SFRガード機能			
不正メモリ・アクセス検出機能		動作停止	

備考 動作停止 : HALTモード移行時に自動的に動作停止 f_X : X1クロック
 動作禁止 : HALTモード移行前に動作を停止させる f_{EX} : 外部メイン・システム・クロック
 f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック f_{XT} : XT1クロック
 f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック f_{EXS} : 外部サブシステム・クロック

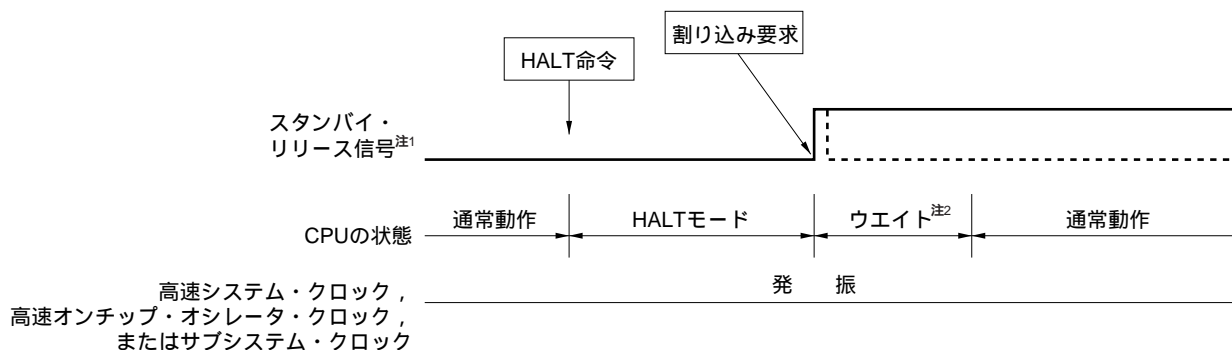
(2) HALTモードの解除

HALTモードは、次の2種類のソースによって解除できます。

(a) マスクされていない割り込み要求による解除

マスクされていない割り込み要求が発生すると、HALTモードは解除されます。そして、割り込み受け付け許可状態であれば、ベクタ割り込み処理が行われます。割り込み受け付け禁止状態であれば、次のアドレスの命令が実行されます。

図19-1 HALTモードの割り込み要求発生による解除



注 1. スタンバイ・リリース信号に関する詳細は、図17-1を参照してください。

2. HALTモード解除のウェイト時間

- ・ベクタ割り込み処理を行う場合
 - メイン・システム・クロック時 : 15~16クロック
 - サブシステム・クロック時 (RTCLPC = 0) : 10~11クロック
 - サブシステム・クロック時 (RTCLPC = 1) : 11~12クロック
- ・ベクタ割り込み処理を行わない場合
 - メイン・システム・クロック時 : 9~10クロック
 - サブシステム・クロック時 (RTCLPC = 0) : 4~5クロック
 - サブシステム・クロック時 (RTCLPC = 1) : 5~6クロック

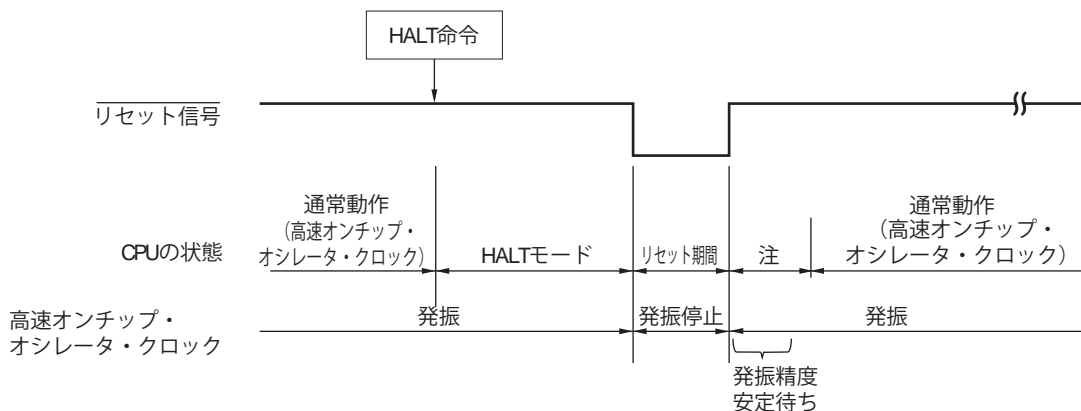
備考 破線は、スタンバイを解除した割り込み要求が受け付けられた場合です。

(b) リセット信号の発生による解除

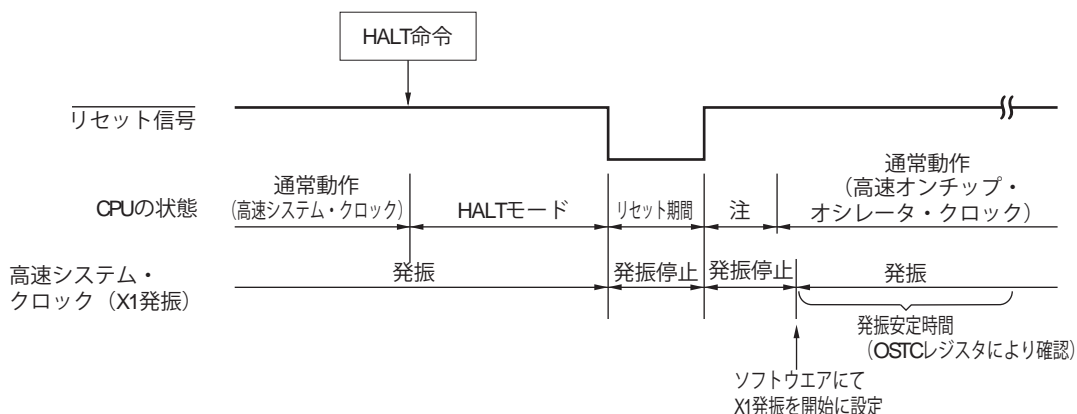
リセット信号の発生により、HALTモードは解除されます。そして、通常のリセット動作と同様にリセット・ベクタ・アドレスに分岐したあと、プログラムが実行されます。

図19-2 HALTモードのリセットによる解除 (1/2)

(1) CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合



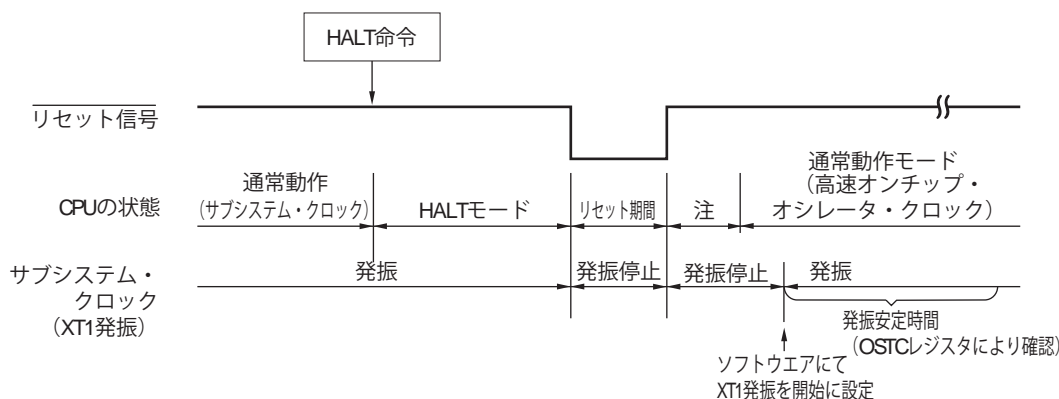
(2) CPUクロックが高速システム・クロックの場合



注 リセット処理時間は、第20章 リセット機能を参照してください。なお、パワーオン・リセット (POR) 回路と電圧検出 (LVD) 回路のリセット処理時間は、第21章 パワーオン・リセット回路を参照してください。

図19-2 HALTモードのリセットによる解除 (2/2)

(3) CPUクロックがサブシステム・クロックの場合



注 リセット処理時間は、第20章 リセット機能を参照してください。なお、パワーオン・リセット (POR) 回路と電圧検出 (LVD) 回路のリセット処理時間は、第21章 パワーオン・リセット回路を参照してください。

19.3.2 STOPモード

(1) STOPモードの設定および動作状態

STOPモードは、STOP命令の実行により設定されます。設定前のCPUクロックが、メイン・システム・クロックの場合のみ設定可能です。

- 注意1. 割り込み要求フラグがセット、割り込みマスク・フラグがリセットされている割り込みソースがある場合には、STOPモードの解除に割り込み要求信号が用いられるため、STOPモードに入ってもただちに解除されます。したがって、その状況でSTOP命令を実行しても、すぐにSTOPモードに入り発振安定時間選択レジスタ (OSTS) による設定時間だけウエイトしたあと動作モードに戻ります。ただし、クロックは停止しないため、この期間の動作電流はHALTモード時の動作電流値と同じになります。
2. CSI00, UART0, A/DコンバータをSNOOZEモードで使用する場合は、シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタ0 (SSC0), A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) をSTOPモードに移行前に設定してください。詳細は、12.3 シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタ, 11.3 A/Dコンバータで使用するレジスタを参照してください。

次にSTOPモード時の動作状態を示します。

表19-2 STOPモード時の動作状態

STOPモード の設定 項目	メイン・システム・クロックでCPU動作中のSTOP命令実行時		
	高速オンチップ・オシレータ・ クロック (f _{IH}) でCPU動作時	X1クロック (f _X) でCPU動作時	外部メイン・システム・クロッ ク (f _{EX}) でCPU動作時
システム・クロック	CPUへのクロック供給は停止		
メイン・システ ム・クロック	f _{IH}	停止	
	f _X		
	f _{EX}		
サブシステ ム・クロック	f _{XT}	STOPモード設定前の状態を継続	
	f _{EXS}		
f _{IL}	オプション・バイト (000C0H) のビット0 (WDSTBYON) , ビット4 (WDTON) およびサブシ ステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のWUTMMCK0ビットにて設定 ・ WUTMMCK = 1 : 発振 ・ WUTMMCK = 0かつWDTON = 0 : 停止 ・ WUTMMCK = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき : 発振 ・ WUTMMCK = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき : 停止		
CPU	動作停止		
コード・フラッシュ・メモリ			
データ・フラッシュ・メモリ	動作停止		
RAM	動作停止(DMA実行時は動作可能)		
ポート (ラッチ)	STOPモード設定前の状態を継続		
タイマ・アレイ・ユニット	動作禁止		
リアルタイム・クロック (RTC)	動作可能		
12ビット・インターバル・タイマ			
ウォッチドッグ・タイマ	第10章 ウォッチドッグ・タイマ参照		
クロック出力/ブザー出力	カウント・クロックにサブシステム・クロック選択時かつRTCLPC = 0のときは動作可能 (それ以 外は, 動作禁止)		
A/Dコンバータ	ウエイク・アップ動作可能 (SNOOZEモードへ移行)		
シリアル・アレイ・ユニッ ト (SAU)	CSI00, UART0のみウエイク・アップ動作可能 (SNOOZEモードへ移行) CSI00, UART0以外は動作禁止		
シリアル・アレイ・ユニッ ト (IICA)	アドレス一致によるウエイク・アップ動作可能		
LCDコントローラ/ドラ イバ	動作可能 (ただし, LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう (選択クロッ クが動作中なら動作可能, 停止中なら動作停止))		
乗除・積和演算器	動作禁止		
DMAコントローラ			
パワーオン・リセット機能	動作可能		
電圧検出機能			
外部割り込み			
キー割り込み機能			
CRC演算 機能	高速CRC	動作停止	
	汎用CRC		
RAMパリティ・エラー検出機能			
RAMガード機能			
SFRガード機能			
不正メモリ・アクセス検出機能			

備考 動作停止 : STOPモード移行時に自動的に動作停止

動作禁止 : STOPモード移行前に動作を停止させる

f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック

f_X : X1クロック f_{EX} : 外部メイン・システム・クロック

f_{XT} : XT1クロック f_{EXS} : 外部サブシステム・クロック

- 注意1. STOPモード中に低速オンチップ・オシレータ・クロックを停止したい場合は、あらかじめオプション・バイトで「HALT/STOPモード時にウォッチドッグ・タイマ動作停止」に設定（000C0Hのビット0（WDSTBYON）= 0）しておく必要があります。
2. 高速システム・クロック（X1発振）でCPU動作していて、STOPモード解除後の発振安定時間を短縮したい場合は、STOP命令実行前に、CPUクロックを一時的に高速オンチップ・オシレータ・クロックに切り替えてください。STOPモード解除後、CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックから高速システム・クロック（X1発振）に切り替える場合は、発振安定時間カウンタ状態レジスタ（OSTC）で発振安定時間を確認してから、行ってください。

(2) STOPモードの解除

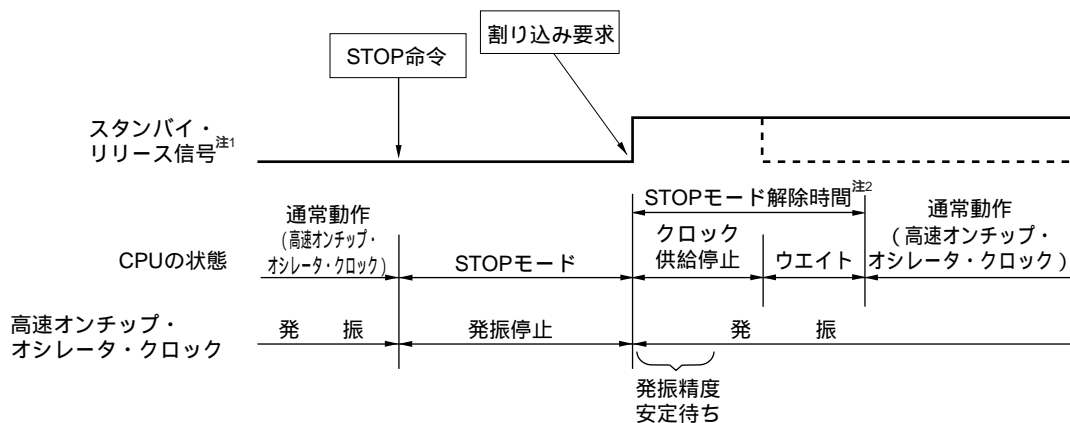
STOPモードは、次の2種類のソースによって解除することができます。

(a) マスクされていない割り込み要求による解除

マスクされていない割り込み要求が発生すると、STOPモードを解除します。発振安定時間経過後、割り込み受け付け許可状態であれば、ベクタ割り込み処理を行います。割り込み受け付け禁止状態であれば、次のアドレスの命令を実行します。

図19-3 STOPモードの割り込み要求発生による解除（1/2）

(1) CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合



注1. スタンバイ・リリース信号に関する詳細は、図17-1を参照してください。

2. STOPモード解除時間

クロック供給停止 : 18 μ s ~ 65 μ s

ウェイト

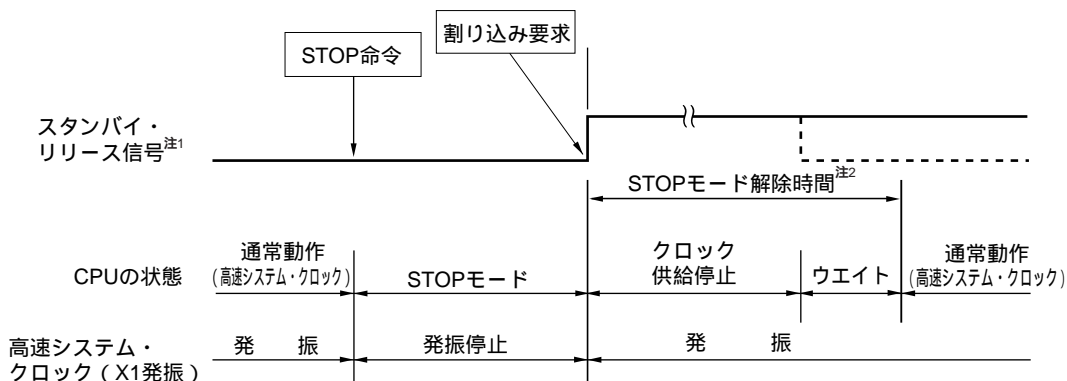
- ・ベクタ割り込み処理を行う場合 : 7クロック
- ・ベクタ割り込み処理を行わない場合 : 1クロック

備考1. クロック供給停止時間は、温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

2. 破線は、スタンバイを解除した割り込み要求が受け付けられた場合です。

図19-3 STOPモードの割り込み要求発生による解除 (2/2)

(2) CPUクロックが高速システム・クロック (X1発振) の場合



注 1. スタンバイ・リリース信号に関する詳細は、図17-1を参照してください。

2. STOPモード解除時間

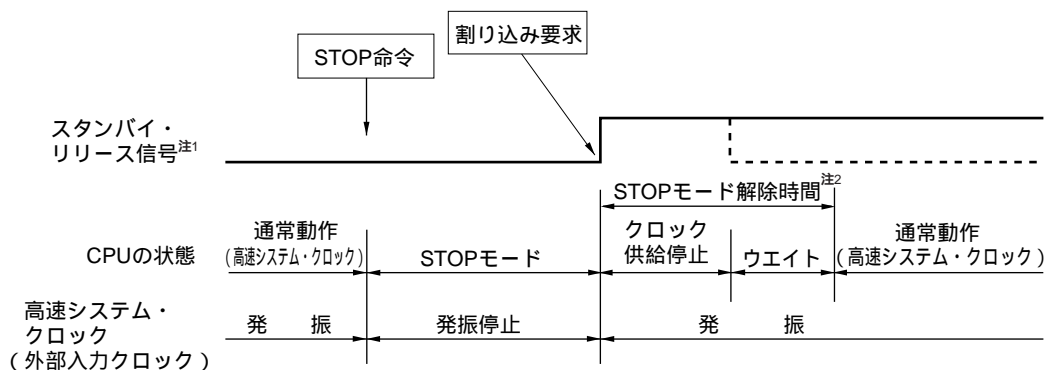
クロック供給停止 : 18 μ s ~ “65 μ sと発振安定時間 (OSTSで設定) の長い方”

ウェイト

・ベクタ割り込み処理を行う場合 : 10~11クロック

・ベクタ割り込み処理を行わない場合 : 4~5クロック

(3) CPUクロックが高速システム・クロック (外部クロック入力) の場合



注 1. スタンバイ・リリース信号に関する詳細は、図17-1を参照してください。

2. STOPモード解除時間

クロック供給停止 : 18 μ s ~ 65 μ s

ウェイト

・ベクタ割り込み処理を行う場合 : 7クロック

・ベクタ割り込み処理を行わない場合 : 1クロック

注意 高速システム・クロック (X1発振) でCPU動作して、STOPモード解除後の発振安定時間を短縮したい場合は、STOP命令実行前に、CPUクロックを一時的に高速オンチップ・オシレータ・クロックに切り替えてください。

備考1. クロック供給停止時間は、温度条件とSTOPモード期間によって変化します。

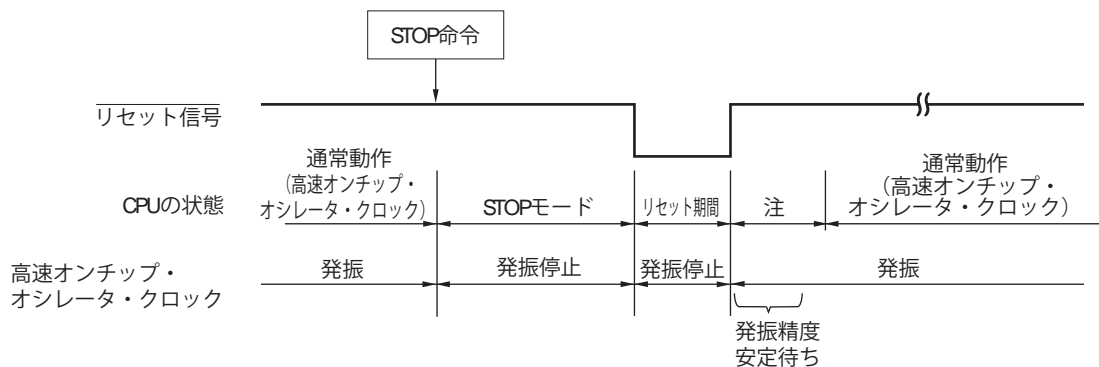
2. 破線は、スタンバイを解除した割り込み要求が受け付けられた場合です。

(b) リセット信号の発生による解除

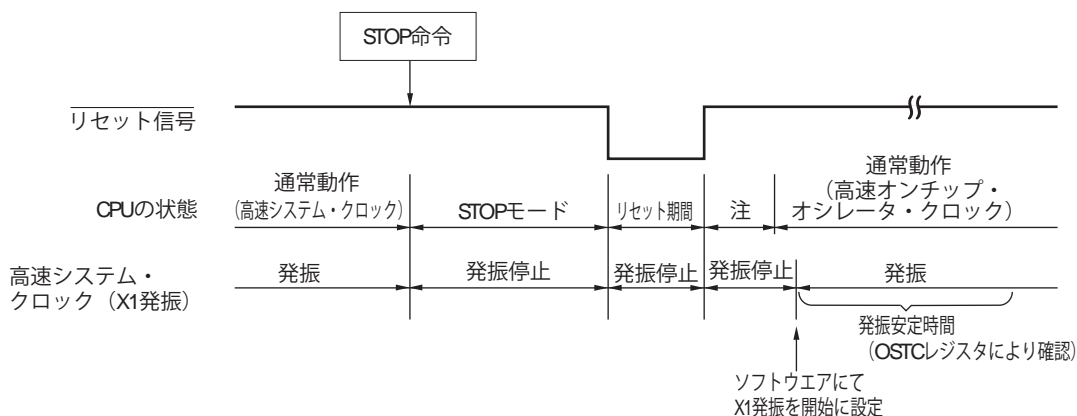
リセット信号の発生により、STOPモードは解除されます。そして、通常のリセット動作と同様にリセット・ベクタ・アドレスに分岐したあと、プログラムが実行されます。

図19-4 STOPモードのリセットによる解除

(1) CPUクロックが高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合



(2) CPUクロックが高速システム・クロックの場合



注 リセット処理時間は、第20章 リセット機能を参照してください。なお、パワーオン・リセット (POR) 回路と電圧検出 (LVD) 回路のリセット処理時間は、第21章 パワーオン・リセット回路を参照してください。

19.3.3 SNOOZEモード

(1) SNOOZEモードの設定および動作状態

CSI00, UART0または, A/Dコンバータのみ設定可能です。また, 設定前のCPUクロックが, 高速オンチップ・オシレータ・クロックの場合のみ設定可能です。

CSI00, UART0をSNOOZEモードで使用する場合は, STOPモードに移行する直前にシリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm) のSWCmビットを1に設定してください。詳細は, 12.3 シリアル・アレイ・ユニットを制御するレジスタを参照してください。

A/DコンバータをSNOOZEモードで使用する場合は, STOPモードに移行する直前にA/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のAWCビットを1に設定してください。詳細は, 11.3 A/Dコンバータで使用するレジスタを参照してください。

SNOOZEモードの移行では, 次の時間だけウエイト状態になります。

STOPモード→ SNOOZEモードの遷移時間 : $18\mu\text{s}\sim 65\mu\text{s}$

備考 STOPモード→ SNOOZEモードの遷移時間は, 温度条件とSTOPモード期間によって変化します

SNOOZEモード→通常動作の遷移時間 :

・ベクタ割り込み処理を行う場合

HS (高速メイン) モード : “ $4.99\sim 9.44\mu\text{s}$ ” +7クロック

LS (低速メイン) モード : “ $1.10\sim 5.08\mu\text{s}$ ” +7クロック

LV (低電圧メイン) モード : “ $16.58\sim 25.40\mu\text{s}$ ” +7クロック

・ベクタ割り込み処理を行わない場合

HS (高速メイン) モード : “ $4.99\sim 9.44\mu\text{s}$ ” +1クロック

LS (低速メイン) モード : “ $1.10\sim 5.08\mu\text{s}$ ” +1クロック

LV (低電圧メイン) モード : “ $16.58\sim 25.40\mu\text{s}$ ” +1クロック

次にSNOOZEモード時の動作状態を示します。

表19-3 SNOOZEモード時の動作状態

STOPモードの設定		STOPモード中にCSI00, UART0のデータ受信信号およびA/Dコンバータのタイマ・トリガ信号入力時 高速オンチップ・オシレータ・クロック (f _{IH}) でCPU動作時	
システム・クロック		CPUへのクロック供給は停止	
メイン・システム・クロック	f _{IH}	動作開始	
	f _X	停止	
	f _{EX}		
サブシステム・クロック	f _{XT}	STOPモード中の状態を継続	
	f _{EXS}		
f _{IL}	オプション・バイト (000C0H) のビット0 (WDSTBYON) , ビット4 (WDTON) およびサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) のWUTMMCK0ビットにて設定 ・ WUTMMCK = 1 : 発振 ・ WUTMMCK = 0かつWDTON = 0 : 停止 ・ WUTMMCK = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 1のとき : 発振 ・ WUTMMCK = 0, WDTON = 1かつWDSTBYON = 0のとき : 停止		
CPU		動作停止	
コード・フラッシュ・メモリ			
データ・フラッシュ・メモリ			
RAM			
ポート (ラッチ)		STOPモード中の状態を継続	
タイマ・アレイ・ユニット		動作禁止	
リアルタイム・クロック (RTC)		動作可能	
12ビット・インターバル・タイマ			
ウォッチドッグ・タイマ		第10章 ウォッチドッグ・タイマ参照	
クロック出力/ブザー出力		カウント・クロックにサブシステム・クロック選択時かつRTCLPC = 0のときは動作可能 (それ以外は, 動作禁止)	
A/Dコンバータ		動作可能	
シリアル・アレイ・ユニット (SAU)		CSI00, UART0のみ動作可能。CSI00, UART0以外は動作禁止。	
シリアル・アレイ・ユニット (IICA)		動作禁止	
LCDコントローラ/ドライバ		動作可能 (ただし, LCDソース・クロックとして選択したクロックの状態にしたがう (選択クロックが動作中なら動作可能, 停止中なら動作停止))	
乗除・積和演算器		動作禁止	
DMAコントローラ			
パワーオン・リセット機能		動作可能	
電圧検出機能			
外部割り込み			
キー割り込み機能			
CRC演算機能	高速CRC	動作停止	
	汎用CRC		
RAMパリティ・エラー検出機能			
RAMガード機能			
SFRガード機能			
不正メモリ・アクセス検出機能			

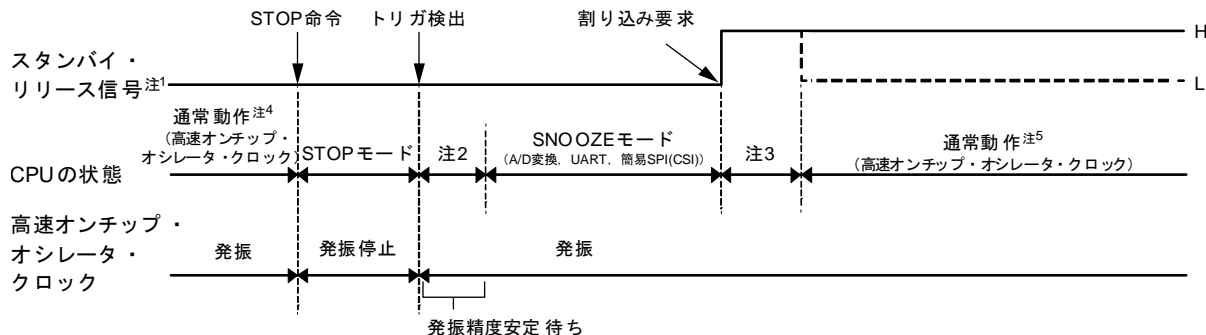
備考 動作停止 : STOPモード移行時に自動的に動作停止

動作禁止 : STOPモード移行前に動作を停止させる

- f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック
- f_X : X1クロック f_{EX} : 外部メイン・システム・クロック
- f_{XT} : XT1クロック f_{EXS} : 外部サブシステム・クロック

(2) SNOOZEモードで割り込み要求信号が発生した場合のタイミング図

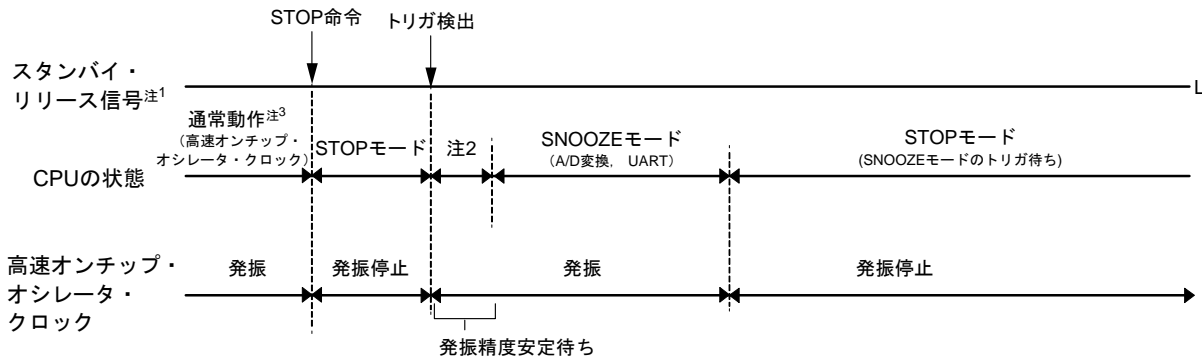
図19-5 SNOOZEモードの割り込み要求が発生する場合



- 注 1. スタンバイ・リリース信号に関する詳細は、図17-1を参照してください。
- 2. STOPモード→SNOOZEモードの遷移時間
- 3. SNOOZEモード→通常動作の遷移時間
- 4. STOPモードへ移行する直前に、SNOOZEモード許可 (AWC=1/SWC=1) に設定してください。
- 5. 通常動作に復帰後すぐに、必ずSNOOZEモード解除 (AWC=0/SWC=0) に設定してください。

(3) SNOOZEモードで割り込み要求信号が発生しなかった場合のタイミング図

図19-6 SNOOZEモードの割り込み要求が発生しない場合



- 注 1. スタンバイ・リリース信号に関する詳細は、図17-1を参照してください。
- 2. STOPモード→SNOOZEモードの遷移時間
- 3. STOPモードへ移行する直前に、SNOOZEモード許可 (AWC=1/SWC=1) に設定してください。

備考 SNOOZEモード機能の詳細は、第11章 A/Dコンバータ、第12章 シリアル・アレイ・ユニットを参照してください。

第20章 リセット機能

リセット信号を発生させる方法には、次の7種類があります。

- (1) RESET端子による外部リセット入力
- (2) ウォッチドッグ・タイマのプログラム暴走検出による内部リセット
- (3) パワーオン・リセット (POR) 回路の電源電圧と検出電圧との比較による内部リセット
- (4) 電圧検出回路 (LVD) の電源電圧と検出電圧の比較による内部リセット
- (5) 不正命令の実行による内部リセット^注
- (6) RAMパリティ・エラーによる内部リセット
- (7) 不正メモリ・アクセスによる内部リセット

外部リセットと内部リセットは同様に、リセット信号の発生により、00000H, 00001H番地に書かれてあるアドレスからプログラムの実行を開始します。

RESET端子にロウ・レベルが入力されるか、ウォッチドッグ・タイマがプログラム暴走を検出するか、POR回路、LVD回路の電圧検出、不正命令の実行^注、RAMパリティ・エラーの発生、または不正メモリ・アクセスにより、リセットがかかり、各ハードウェアは表20-1に示すような状態になります。

注 FFHの命令コードを実行したときに発生します。

不正命令の実行によるリセットは、インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

注意1. 外部リセットを行う場合、RESET端子に10 μ s以上のロウ・レベルを入力してください。

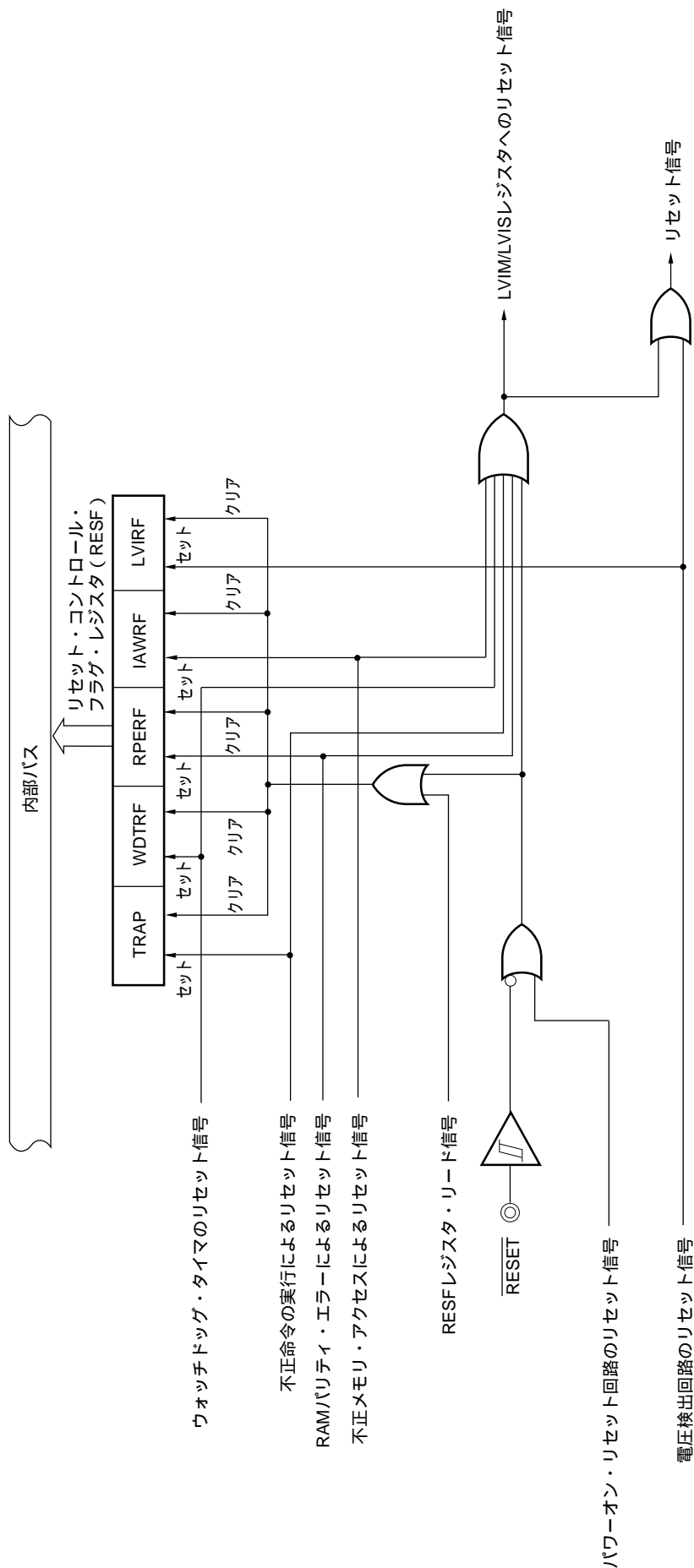
電源立ち上げ時に外部リセットを行う場合は、RESET端子にロウ・レベルを入力してから電源を投入し、30.4または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲内の期間で10 μ s以上ロウ・レベルを継続した後に、ハイ・レベルを入力してください。

2. リセット信号発生中では、X1クロック、XT1クロック、高速オンチップ・オシレータ・クロック、低速オンチップ・オシレータ・クロックの発振は停止します。また、外部メイン・システム・クロック、外部サブシステム・クロックの入力は無効となります。
3. リセットがかかると各SFRと2nd SFRは初期化されるため、ポート端子は次の状態になります。
 - ・ P40 : 外部リセットかPORによるリセット期間中はハイ・インピーダンス。それ以外のリセット期間中およびリセット受け付け後はハイ・レベル (内部プルアップ抵抗接続)
 - ・ P130 : リセット期間中およびリセット受け付け後はロウ・レベル出力
 - ・ P40, P130以外のポート : リセット期間中およびリセット受け付け後はハイ・インピーダンス

備考 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧

V_{LVD} : LVD検出電圧

図20-1 リセット機能のブロック図



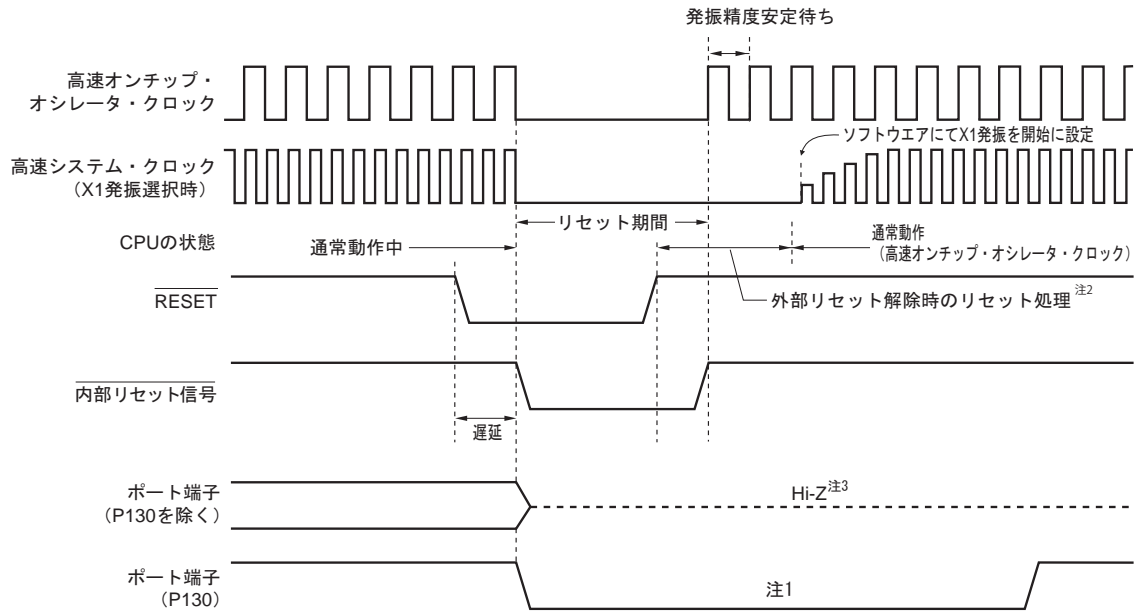
注意 LVD回路の内部リセットの場合、LVD回路はリセットされません。

- 備考 1. LVIM : 電圧検出レジスタ
- 2. LVIS : 電圧検出レベル・レジスタ

20.1 リセット動作のタイミング

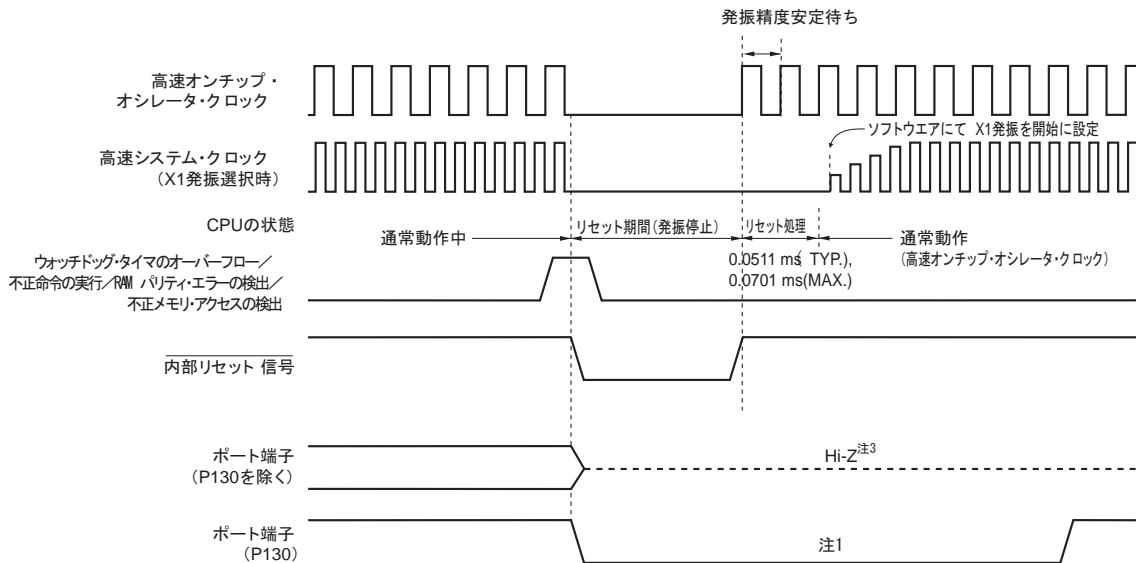
RESET端子にロウ・レベルが入力されて、リセットがかかり、RESET端子にハイ・レベルが入力されると、リセットが解除され、リセット処理後、高速オンチップ・オシレータ・クロックでプログラムの実行を開始します。

図20-2 RESET入力によるリセット・タイミング



ウォッチドッグ・タイマのオーバーフロー／不正命令の実行／RAMパリティ・エラーの検出／不正メモリ・アクセスの検出によるリセットは、自動的にリセットが解除され、リセット処理後、高速オンチップ・オシレータ・クロックでプログラムの実行を開始します。

図20-3 ウォッチドッグ・タイマのオーバーフロー／不正命令の実行／RAMパリティ・エラー／不正メモリ・アクセスのオーバーフローによるリセット・タイミング



(注、備考は次ページにあります。)

注1. リセットがかかるとP130はロウ・レベルを出力するため、リセットがかかる前にP130をハイ・レベル出力にした場合、P130からの出力を外部デバイスへのリセット信号として疑似的に出力するという使い方ができます。外部デバイスへのリセット信号を解除する場合には、P130をソフトウェアでハイ・レベル出力にしてください。

2. 外部リセット解除時のリセット時間：

POR解除後1回目： 0.672 ms (TYP.), 0.832 ms (MAX.) (LVD使用時)

0.399 ms (TYP.), 0.519 ms (MAX.) (LVDオフ時)

POR解除後2回目以降： 0.531 ms (TYP.), 0.675 ms (MAX.) (LVD使用時)

0.259 ms (TYP.), 0.362 ms (MAX.) (LVDオフ時)

電源立ち上がり時は、外部リセット解除時のリセット処理時間の前に電圧安定待ち時間 0.99 ms (TYP.), 2.30 ms (MAX.)がかかります。

3. ポート端子P40は次の状態になります。

- ・外部リセットかPORによるリセット期間中はハイ・インピーダンスになります。
- ・それ以外のリセット期間中およびリセット受け付け後はハイ・レベル（内部プルアップ抵抗接続）になります。

備考 パワーオン・リセット回路と電圧検出回路のリセット・タイミングは、第21章 パワーオン・リセット回路と第22章 電圧検出回路を参照してください。

20.2 リセット期間中の動作状態

表20-1にリセット期間中の動作状態を、表20-2にリセット受け付け後の各ハードウェアの状態を示します。

表20-1 リセット期間中の動作状態

項 目	リセット期間中	
システム・クロック	CPUへのクロック供給は停止	
メイン・システム・クロック	f _{IH}	動作停止
	f _X	動作停止 (X1, X2端子は入力ポート・モード)
	f _{EX}	クロックの入力無効 (端子は入力ポート・モード)
サブシステム・クロック	f _{XT}	動作停止
	f _{EXS}	クロックの入力無効 (端子は入力ポート・モード)
f _{IL}	動作停止	
CPU		
コード・フラッシュ・メモリ	動作停止	
データ・フラッシュ・メモリ	動作停止	
RAM	動作停止	
ポート (ラッチ)	ハイ・インピーダンス ^注	
タイマ・アレイ・ユニット	動作停止	
リアルタイム・クロック (RTC)		
12ビット・インターバル・タイマ		
ウォッチドッグ・タイマ		
クロック出力/ブザー出力		
A/Dコンバータ		
シリアル・アレイ・ユニット (SAU)		
シリアル・インタフェース (IICA)		
LCDコントローラ/ ドライバ	動作停止 (COM専用端子, COM/SEG兼用端子 : GND出力, SEG/汎用ポート兼用端子 : ハイ・インピーダンス出力, V _{L1} -V _{L4} 端子 : ハイ・インピーダンス出力, CAPH/P127端子, CAPL/P126端子 : ハイ・インピーダンス出力)	
乗除・積和演算器	動作停止	
DMAコントローラ		
パワーオン・リセット機能	検出動作可能	
電圧検出機能	動作停止	
外部割り込み	動作停止	
キー割り込み機能		
CRC演算機能	高速CRC	
	汎用CRC	
RAM/パリティ・エラー検出機能		
RAMガード機能		
SFRガード機能		
不正メモリ・アクセス検出機能		

(注, 備考は次ページにあります。)

注 ポート端子P40, P130は次の状態になります。

- ・ P40 : 外部リセットかPORによるリセット期間中はハイ・インピーダンス。それ以外のリセット期間中はハイ・レベル（内部プルアップ抵抗接続）
- ・ P130 : リセット期間中はロウ・レベル出力

備考 f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック f_{XT} : XT1発振クロック
 f_X : X1発振クロック f_{EXS} : 外部サブシステム・クロック周波数
 f_{EX} : 外部メイン・システム・クロック f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック

表20-2 各ハードウェアのリセット受け付け後の状態

ハードウェア		リセット受け付け後の状態 ^注
プログラム・カウンタ (PC)		リセット・ベクタ・テーブル (00000H, 00001H) の内容がセットされる。
スタック・ポインタ (SP)		不定
プログラム・ステータス・ワード (PSW)		06H
RAM	データ・メモリ	不定
	汎用レジスタ	不定

注 リセット信号発生中および発振安定時間ウエイト中の各ハードウェアの状態は、PCの内容のみ不定となります。その他は、リセット後の状態と変わりありません。

備考 特殊機能レジスタ (SFR : Special Function Register) のリセット受け付け後の状態は、3. 2. 4 特殊機能レジスタ (SFR : Special Function Register) , 3. 2. 5 拡張特殊機能レジスタ (2nd SFR : 2nd Special Function Register) を参照してください。

20.3 リセット要因を確認するレジスタ

20.3.1 リセット・コントロール・フラグ・レジスタ (RESF)

RL78マイクロコントローラは内部リセット発生要因が多数存在します。リセット・コントロール・フラグ・レジスタ (RESF) は、どの要因から発生したリセット要求かを格納するレジスタです。

RESFレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で、読み出すことができます。

RESET入力、パワーオン・リセット (POR) 回路によるリセットおよびRESFレジスタのデータを読み出すことにより、TRAP, WDTRF, RPERF, IAWRF, LVIRFフラグはクリアされます。

図20-4 リセット・コントロール・フラグ・レジスタ (RESF) のフォーマット

アドレス : FFFA8H リセット時 : 不定^{注1} R

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
RESF	TRAP	0	0	WDTRF	0	RPERF	IAWRF	LVIRF

TRAP	不正命令の実行による内部リセット要求 ^{注2}
0	内部リセット要求は発生していない、またはRESFレジスタをクリアした
1	内部リセット要求は発生した

WDTRF	ウォッチドッグ・タイマ (WDT) による内部リセット要求
0	内部リセット要求は発生していない、またはRESFレジスタをクリアした
1	内部リセット要求は発生した

RPERF	RAMパリティ・エラーによる内部リセット要求
0	内部リセット要求は発生していない、またはRESFレジスタをクリアした
1	内部リセット要求は発生した

IAWRF	不正メモリ・アクセスによる内部リセット要求
0	内部リセット要求は発生していない、またはRESFレジスタをクリアした
1	内部リセット要求は発生した

LVIRF	電圧検出 (LVD) 回路による内部リセット要求
0	内部リセット要求は発生していない、またはRESFレジスタをクリアした
1	内部リセット要求は発生した

注1. リセット要因により異なります。表20-3を参照してください。

2. FFHの命令コードを実行したときに発生します。

不正命令の実行によるリセットは、インサーキット・エミュレータやオンチップ・デバッグ・エミュレータによるエミュレーションでは発生しません。

注意1. 1ビット・メモリ操作命令でデータを読み出さないでください。

2. RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可 (RPERDIS = 0) で使用する場合、データ・アクセス時は「使用するRAM領域」を、RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域 + 10バイト」の領域を必ず初期化してください。

リセット発生により、RAMパリティ・エラー・リセット発生許可 (RPERDIS = 0) となります。詳細は、23.3.3 RAMパリティ・エラー検出機能を参照してください。

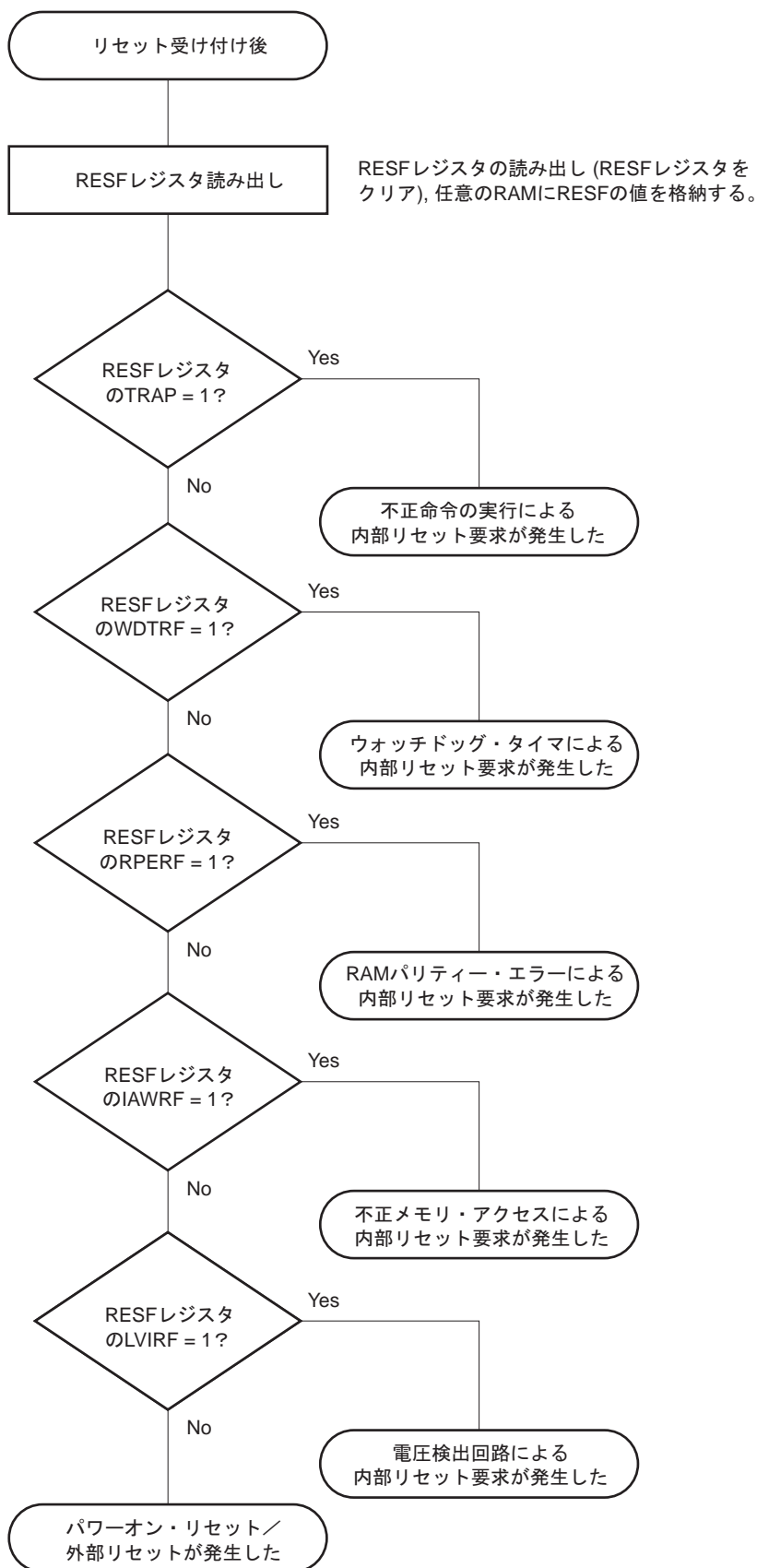
リセット要求時のRESFレジスタの状態を表20-3に示します。

表20-3 リセット要求時のRESFレジスタの状態

リセット要因 フラグ	RESET入力	PORによる リセット	不正命令の 実行による リセット	WDTによる リセット	RAMパリティ エラーによる リセット	不正メモリ・ アクセスによる リセット	LVDによる リセット		
TRAP	クリア (0)	クリア (0)	セット (1)	保持	保持	保持	保持		
WDTRF			保持	セット (1)					
RPERF				保持	セット (1)				
IAWRF					保持			セット (1)	保持
LVIRF									保持

RESFレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で読み出すと、自動的にクリアされます。リセット要因の手順を図20-5に示します。

図20-5 リセット要因の確認手順例



第21章 パワーオン・リセット回路

21.1 パワーオン・リセット回路の機能

パワーオン・リセット（POR）回路は次のような機能を持ちます。

- ・電源投入時に内部リセット信号を発生します。

電源電圧（ V_{DD} ）が検出電圧（ V_{POR} ）を越えた場合に、リセットを解除します。ただし、30.4 または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲まで、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。

・電源電圧（ V_{DD} ）と検出電圧（ V_{PDR} ）を比較し、 $V_{DD} < V_{PDR}$ になったとき内部リセット信号を発生します。ただし、電源立ち下がり時は、30.4または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは、電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

注意 パワーオン・リセット回路による内部リセット信号が発生した場合、リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）がクリア（00H）されます。

備考1. RL78マイクロコントローラには内部リセット信号を発生するハードウェアが複数内蔵されています。ウォッチドッグ・タイマ（WDT）／電圧検出（LVD）回路／不正命令の実行／RAMパリティ・エラー／不正メモリ・アクセスによる内部リセット信号が発生した場合、そのリセット要因を示すためのフラグがRESFレジスタに配置されています。RESFレジスタはWDT／LVD／不正命令の実行／RAMパリティ・エラー／不正メモリ・アクセスのいずれかによる内部リセット信号が発生した場合は、クリア（00H）されずフラグがセット（1）されます。RESFレジスタの詳細については、第20章 リセット機能を参照してください。

2. V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧

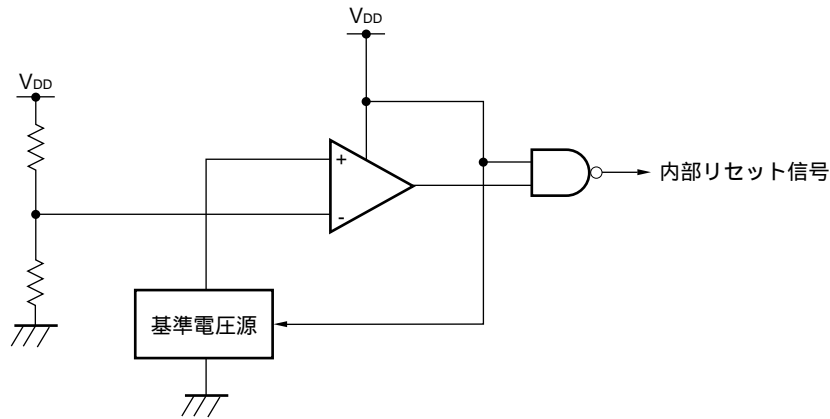
V_{PDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

詳細は、30.6.3または31.6.3 POR回路特性を参照してください。

21.2 パワーオン・リセット回路の構成

パワーオン・リセット回路のブロック図を図21-1に示します。

図21-1 パワーオン・リセット回路のブロック図

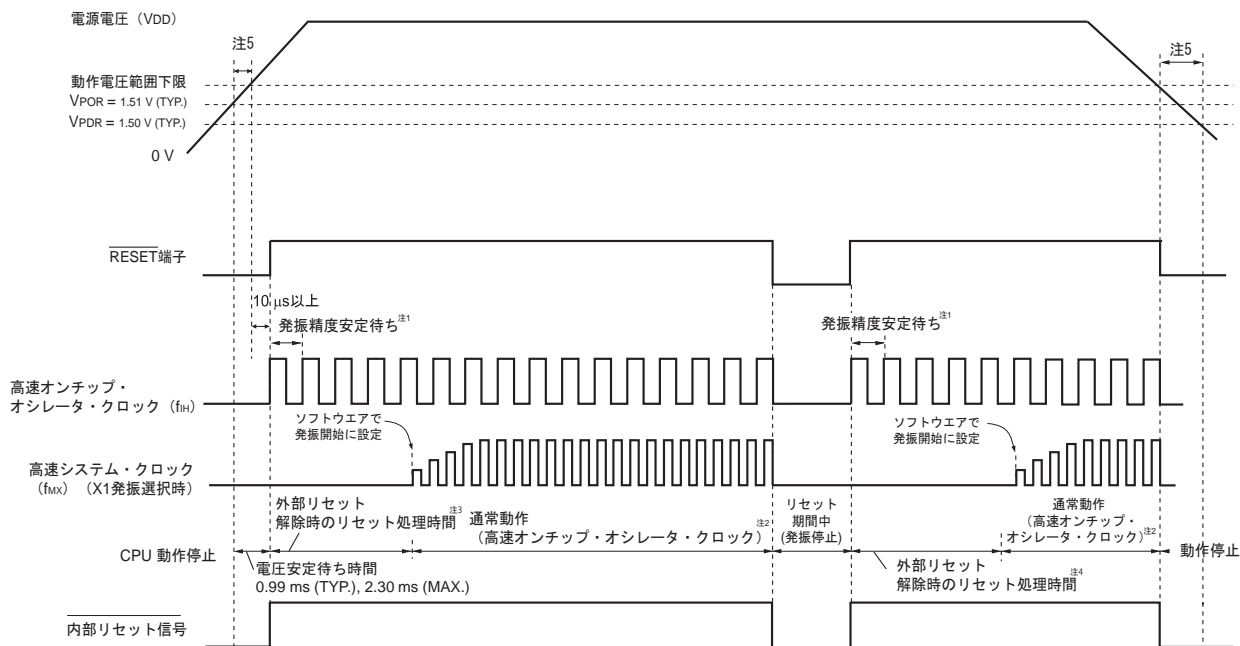


21.3 パワーオン・リセット回路の動作

パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生タイミングを次に示します。

図21-2 パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生のタイミング (1/3)

(1) RESET端子による外部リセット使用時



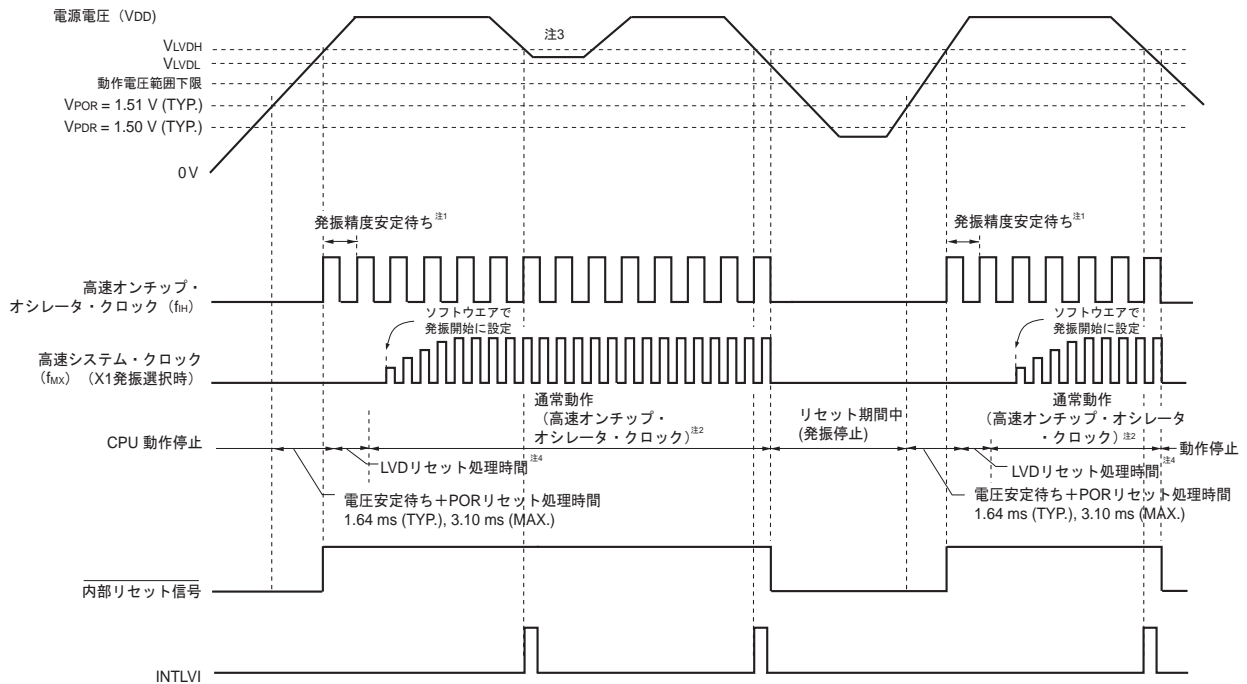
- 注 1. 高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ち時間は、内部のリセット処理時間に含まれます。
- 2. CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックから高速システム・クロックまたはサブシステム・クロックに切り替え可能です。X1クロックを使用する場合は、発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) で、XT1クロックを使用する場合はタイマ機能などを用いて、発振安定時間を確認してから切り替えてください。
- 3. 通常動作が開始されるまでの時間は、V_{POR} (1.51 V (TYP.))に達してからの“電圧安定待ち時間”に加えて、RESET信号をハイ・レベル(1)にしてから次の“外部リセット解除時のリセット処理時間 (POR解除後1回目)”が掛かります。外部リセット解除時のリセット処理時間を次に示します。
 POR解除後1回目： 0.672 ms (TYP.), 0.832 ms (MAX.) (LVD使用時)
 0.399 ms (TYP.), 0.519 ms (MAX.) (LVDオフ時)
- 4. POR解除後2回目以降の外部リセット解除時のリセット処理時間を次に示します。
 POR解除後2回目以降： 0.531 ms (TYP.), 0.675 ms (MAX.) (LVD使用時)
 0.259 ms (TYP.), 0.362 ms (MAX.) (LVDオフ時)
- 5. 電源立ち上がり時は、30.4 または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲まで、外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は、動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは、電源電圧が動作電圧範囲まで復帰したことを確認してください。

備考 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧
 V_{PDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

注意 LVDオフ時は必ずRESET端子による外部リセットを使用してください。詳細は、第22章 電圧検出回路を参照してください。

図21-2 パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生タイミング (2/3)

(2) LVD割り込み&リセット・モード時 (オプション・バイト000C1HのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0)



注1. 高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ち時間は、内部のリセット処理時間に含まれます。

2. CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックから高速システム・クロックまたはサブシステム・クロックに切り替え可能です。X1クロックを使用する場合は、発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) で、XT1クロックを使用する場合はタイマ機能などを用いて、発振安定時間を確認してから、切り替えてください。

3. 1回目の割り込み要求信号 (INTLVI) が発生したあと、電圧検出レベル・レジスタ (LVIS) のLVILV, LVIMDビットは自動的に1に設定されます。そのため、動作電圧が電圧検出電圧 (V_{LVDL}) を下回らずに、1.6 V以上に復帰する可能性がある場合は、INTLVI発生後、必要な退避処理を行い、ソフトウェアで初期設定をしてください。

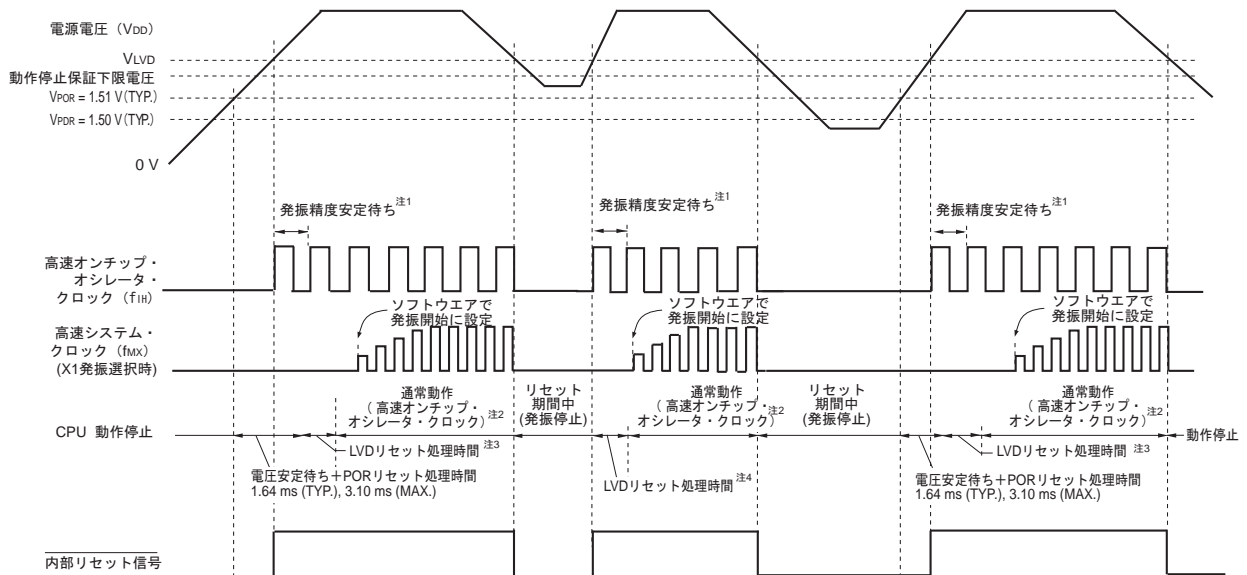
4. 通常動作が開始されるまでの時間は、 V_{POR} (1.51 V (TYP.))に達してからの“電圧安定待ち+PORリセット処理時間”に加えて、LVD検出レベル (V_{LVDH}) に達してから次の“LVDリセット処理時間”が掛かります。

LVDリセット処理時間：0 ms ~ 0.0701 ms (MAX.)

備考 V_{LVDH} , V_{LVDL} : LVD検出電圧
 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧
 V_{PDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

図21-2 パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生タイミング (3/3)

(3) LVDリセット・モード時 (オプション・バイト000C1HのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1)



注1. 高速オンチップ・オシレータ・クロックの発振精度安定待ち時間は、内部のリセット処理時間に含まれません。

2. CPUクロックを高速オンチップ・オシレータ・クロックから高速システム・クロックまたはサブシステム・クロックに切り替え可能です。X1クロックを使用する場合は、発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) で、XT1クロックを使用する場合はタイマ機能などを用いて、発振安定時間を確認してから、切り替えてください。

3. 通常動作が開始されるまでの時間は、V_{POR} (1.51 V (TYP.))に達してからの“電圧安定待ち + PORリセット処理時間”に加えて、LVD検出レベル (V_{LVD}) に達してから次の“LVDリセット処理時間”が掛かります。

LVDリセット処理時間 : 0 ms ~ 0.0701 ms (MAX.)

4. 電源電圧降下時、電圧検出回路 (LVD) による内部リセットのみ発生後に電源電圧が復帰した場合、LVD検出レベル (V_{LVD}) に達してから次の“LVDリセット処理時間”が掛かります。

LVDリセット処理時間 : 0.0511 ms (TYP.), 0.0701ms (MAX.)

備考 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧

V_{pDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

第22章 電圧検出回路

22.1 電圧検出回路の機能

電圧検出回路は、オプション・バイト (000C1H) で動作モードと検出電圧 (V_{LVDH} , V_{LVDL} , V_{LVD}) を設定します。電圧検出 (LVD) 回路は、次のような機能を持ちます。

- ・電源電圧 (V_{DD}) と検出電圧 (V_{LVDH} , V_{LVDL}) を比較し、内部リセットまたは内部割り込み信号を発生します。
- ・電源電圧の検出電圧 (V_{LVDH} , V_{LVDL}) は、オプション・バイトにて検出レベルを14段階より選択できます (第25章 オプション・バイト参照)。
- ・STOPモード時においても動作可能です。
- ・電源立ち上がり時は、30.4または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲まで、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は、動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。動作電圧範囲は、ユーザ・オプション・バイト (000C2H) の設定により変わります。

(a) 割り込み&リセット・モード (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0)

オプション・バイト000C1Hで2つの検出電圧 (V_{LVDH} , V_{LVDL}) を選択します。高電圧検出レベル (V_{LVDH}) はリセット解除用/割り込み発生用として使用します。低電圧検出レベル (V_{LVDL}) はリセット発生用として使用します。

(b) リセット・モード (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1)

オプション・バイト000C1Hで選択する1つの検出電圧 (V_{LVD}) を、リセット発生/解除用として使用します。

(c) 割り込みモード (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1)

オプション・バイト000C1Hで選択する1つの検出電圧 (V_{LVD}) を、リセット解除用/割り込み発生用として使用します。

各モードにおける割り込み信号と内部リセット信号は、次のように発生します。

割り込み&リセット・モード (LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0)	リセット・モード (LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1)	割り込みモード (LVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1)
動作電圧降下時に、 $V_{DD} < V_{LVDH}$ を検出して割り込み要求信号を発生。 $V_{DD} < V_{LVDL}$ を検出して内部リセットを発生。 $V_{DD} \geq V_{LVDH}$ を検出して内部リセットを解除。	$V_{DD} \geq V_{LVD}$ を検出して内部リセットを解除。 $V_{DD} < V_{LVD}$ を検出して内部リセットを発生。	リセット発生直後、LVDの内部リセットは $V_{DD} \geq V_{LVD}$ になるまでリセット状態を継続します。 $V_{DD} \geq V_{LVD}$ を検出してLVDの内部リセットは解除されます。 LVDの内部リセット解除後は、 $V_{DD} < V_{LVD}$ または $V_{DD} \geq V_{LVD}$ を検出して割り込み要求信号 (INTLVI) を発生します。

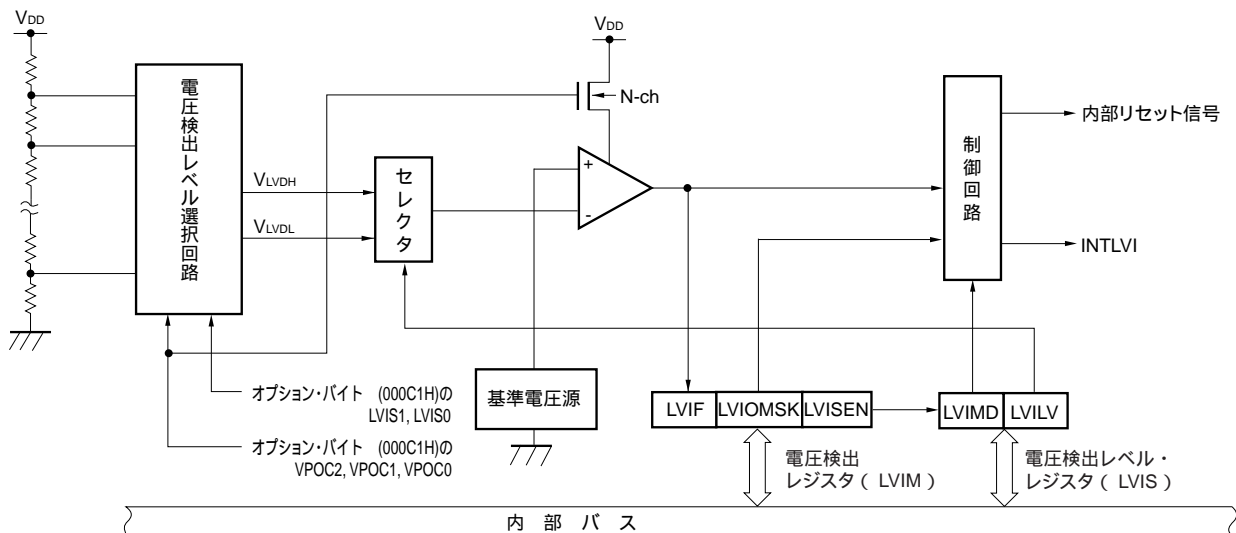
電圧検出回路動作時では、電圧検出フラグ (LVIF : 電圧検出レジスタ (LVIM) のビット0) を読み出すことにより、電源電圧が検出レベル以上か未満かを知ることができます。

リセットが発生するとリセット・コントロール・フラグ・レジスタ (RESF) のビット0 (LVIRF) がセット (1) されます。RESFレジスタについての詳細は、第20章 リセット機能を参照してください。

22.2 電圧検出回路の構成

電圧検出回路のブロック図を図22-1に示します。

図22-1 電圧検出回路のブロック図



22.3 電圧検出回路を制御するレジスタ

電圧検出回路は次のレジスタで制御します。

- ・電圧検出レジスタ (LVIM)
- ・電圧検出レベル・レジスタ (LVIS)

22.3.1 電圧検出レジスタ (LVIM)

電圧検出レベル・レジスタ (LVIS) の書き換え許可/禁止の設定, LVD出力のマスク状態を確認するレジスタです。

LVIMレジスタは, 1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により, 00Hになります。

図22-2 電圧検出レジスタ (LVIM) のフォーマット

アドレス : FFFA9H リセット時 : 00H^{注1} R/W^{注2}

略号	[7]	6	5	4	3	2	[1]	[0]
LVIM	LVISEN ^{注3}	0	0	0	0	0	LVIOMSK	LVIF

LVISEN ^{注3}	電圧検出レベル・レジスタ (LVIS) の書き換え許可/禁止の設定
0	LVISレジスタの書き換え禁止 (LVIOMSK=0 (LVD出力マスク無効) になる)
1	LVISレジスタの書き換え許可 (LVIOMSK=1 (LVD出力マスク有効) になる)

LVIOMSK	LVD出力マスク状態フラグ
0	LVD出力マスク無効
1	LVD出力マスク有効 ^{注4}

LVIF	電圧検出フラグ
0	電源電圧 (V _{DD}) ≥ 検出電圧 (V _{LVD}) , またはLVDオフ時
1	電源電圧 (V _{DD}) < 検出電圧 (V _{LVD})

注1. リセット値は, リセット要因により変化します。

LVDによるリセットのときには, LVIMレジスタの値はリセットされず, そのままの値を保持します。その他のリセットでは, LVISENは“0”にクリアされます。

- ビット0, 1は, Read Onlyです。
- 割り込み&リセット・モード (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0=1,0) 選択時のみ設定できます。その他モードでは初期値から変更しないでください。
- LVIOMSKビットは以下の期間に自動で“1”となり, LVDによるリセットまたは割り込み発生がマスクされます。
 - ・LVISEN = 1の期間
 - ・LVD割り込み発生から, LVD検出電圧が安定するまでの待ち時間
 - ・LVILVビットの値変更から, LVD検出電圧が安定するまでの待ち時間

22.3.2 電圧検出レベル・レジスタ (LVIS)

電圧検出レベルを設定するレジスタです。

LVISレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00H/01H/81H^{注1}になります。

図22-3 電圧検出レベル・レジスタ (LVIS) のフォーマット

アドレス : FFFAAH リセット時 : 00H/01H/81H^{注1} R/W

略号	[7]	6	5	4	3	2	1	[0]
LVIS	LVIMD	0	0	0	0	0	0	LVILV

LVIMD ^{注2}	電圧検出の動作モード
0	割り込みモード
1	リセット・モード

LVILV ^{注2}	LVD検出レベル
0	高電圧検出レベル (VLVDH)
1	低電圧検出レベル (VLVDLまたはVLVD)

注1. リセット値は、リセット要因およびオプション・バイトの設定により変化します。

LVDリセット時は、クリア (00H) されません。

LVD以外のリセット時は、次のようになります。

- ・オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0のとき : 00H
- ・オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1のとき : 81H
- ・オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1のとき : 01H

2. 割り込み&リセット・モード (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0=1,0) 選択時に“0”書き込みのみ可能です。その他の場合は設定しないでください。割り込み&リセット・モードでのリセットまたは割り込み発生により、自動で値が切り替わります。

注意 1. LVISレジスタを書き換える場合は、図22-8、図22-9の手順で行ってください。

2. LVDの動作モードと各モードの検出電圧 (VLVDH, VLVDL, VLVD) は、オプション・バイト000C1Hで選択します。ユーザ・オプション・バイト (000C1H) のフォーマットを図22-4に示します。オプション・バイトの詳細は第25章 オプション・バイトを参照してください。

図22-4 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) によるLVD動作モード・検出電圧設定 (1/2)

アドレス : 000C1H

7	6	5	4	3	2	1	0
VPOC2	VPOC1	VPOC0	1	LVIS1	LVIS0	LVIMDS1	LVIMDS0

・LVDの設定 (割り込み&リセット・モード)

検出電圧			オプション・バイト設定値						
V _{LVDH}		V _{LVDL}	VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定	
立ち上がり	立ち下がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0
1.77 V	1.73 V	1.63 V	0	0	0	1	0	1	0
1.88 V	1.84 V					0	1		
2.92 V	2.86 V					0	0		
1.98 V	1.94 V	1.84 V	0	0	1	1	0		
2.09 V	2.04 V					0	1		
3.13 V	3.06 V					0	0		
2.61 V	2.55 V	2.45 V	0	1	0	1	0		
2.71 V	2.65 V					0	1		
3.75 V	3.67 V					0	0		
2.92 V	2.86 V	2.75 V	0	1	1	1	0		
3.02 V	2.96 V					0	1		
4.06 V	3.98 V					0	0		
—			上記以外は設定禁止						

・LVDの設定 (リセット・モード)

検出電圧		オプション・バイト設定値						
V _{LVD}		VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定	
立ち上がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0
1.67 V	1.63 V	0	0	0	1	1	1	1
1.77 V	1.73 V	0	0	0	1	0		
1.88 V	1.84 V	0	0	1	1	1		
1.98 V	1.94 V	0	0	1	1	0		
2.09 V	2.04 V	0	0	1	0	1		
2.50 V	2.45 V	0	1	0	1	1		
2.61 V	2.55 V	0	1	0	1	0		
2.71 V	2.65 V	0	1	0	0	1		
2.81 V	2.75 V	0	1	1	1	1		
2.92 V	2.86 V	0	1	1	1	0		
3.02 V	2.96 V	0	1	1	0	1		
3.13 V	3.06 V	0	0	1	0	0		
3.75 V	3.67 V	0	1	0	0	0		
4.06 V	3.98 V	0	1	1	0	0		
—		上記以外は設定禁止						

注意 ビット4には、必ず1を書き込んでください。

図22-4 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) によるLVD動作モード・検出電圧設定 (2/2)

アドレス : 000C1H

7	6	5	4	3	2	1	0
VPOC2	VPOC1	VPOC0	1	LVIS1	LVIS0	LVIMDS1	LVIMDS0

・LVDの設定 (割り込みモード)

検出電圧		オプション・バイト設定値							
V _{LVD}		VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定		
立ち上がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0	
1.67 V	1.63 V	0	0	0	1	1	0	1	
1.77 V	1.73 V	0	0	0	1	0			
1.88 V	1.84 V	0	0	1	1	1			
1.98 V	1.94 V	0	0	1	1	0			
2.09 V	2.04 V	0	0	1	0	1			
2.50 V	2.45 V	0	1	0	1	1			
2.61 V	2.55 V	0	1	0	1	0			
2.71 V	2.65 V	0	1	0	0	1			
2.81 V	2.75 V	0	1	1	1	1			
2.92 V	2.86 V	0	1	1	1	0			
3.02 V	2.96 V	0	1	1	0	1			
3.13 V	3.06 V	0	0	1	0	0			
3.75 V	3.67 V	0	1	0	0	0			
4.06 V	3.98 V	0	1	1	0	0			
—		上記以外は設定禁止							

・LVDオフ (RESET端子による外部リセットを使用)

検出電圧		オプション・バイト設定値							
V _{LVD}		VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定		
立ち上がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0	
—	—	1	×	×	×	×	0/1	1	
—		上記以外は設定禁止							

注意1. ビット4には、必ず1を書き込んでください。

2. 電源立ち上がり時は、30.4または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲まで、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は、動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。

動作電圧範囲は、ユーザ・オプション・バイト (000C2H) の設定により変わります。

備考1. × : don't care

2. LVD回路の詳細は、第22章 電圧検出回路を参照してください。

3. 検出電圧はTYP.値です。詳細は、30.6.4または31.6.4 LVD回路特性を参照してください。

22.4 電圧検出回路の動作

22.4.1 リセット・モードとして使用する場合の設定

動作モード（リセット・モード（LVIMDS1, LVIMDS0 = 1,1））と検出電圧（VLVD）の設定は、オプション・バイト000C1Hで設定します。

リセット・モードを設定した場合、次の初期設定の状態で作動を開始します。

- ・電圧検出レジスタ（LVIM）のビット7（LVISEN）は、“0”（電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え禁止）に設定されます。
- ・電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の初期値は、81Hに設定されます。
 - ビット7（LVIMD）は“1”（リセット・モード）
 - ビット0（LVILV）は“1”（電圧検出レベル：VLVD）

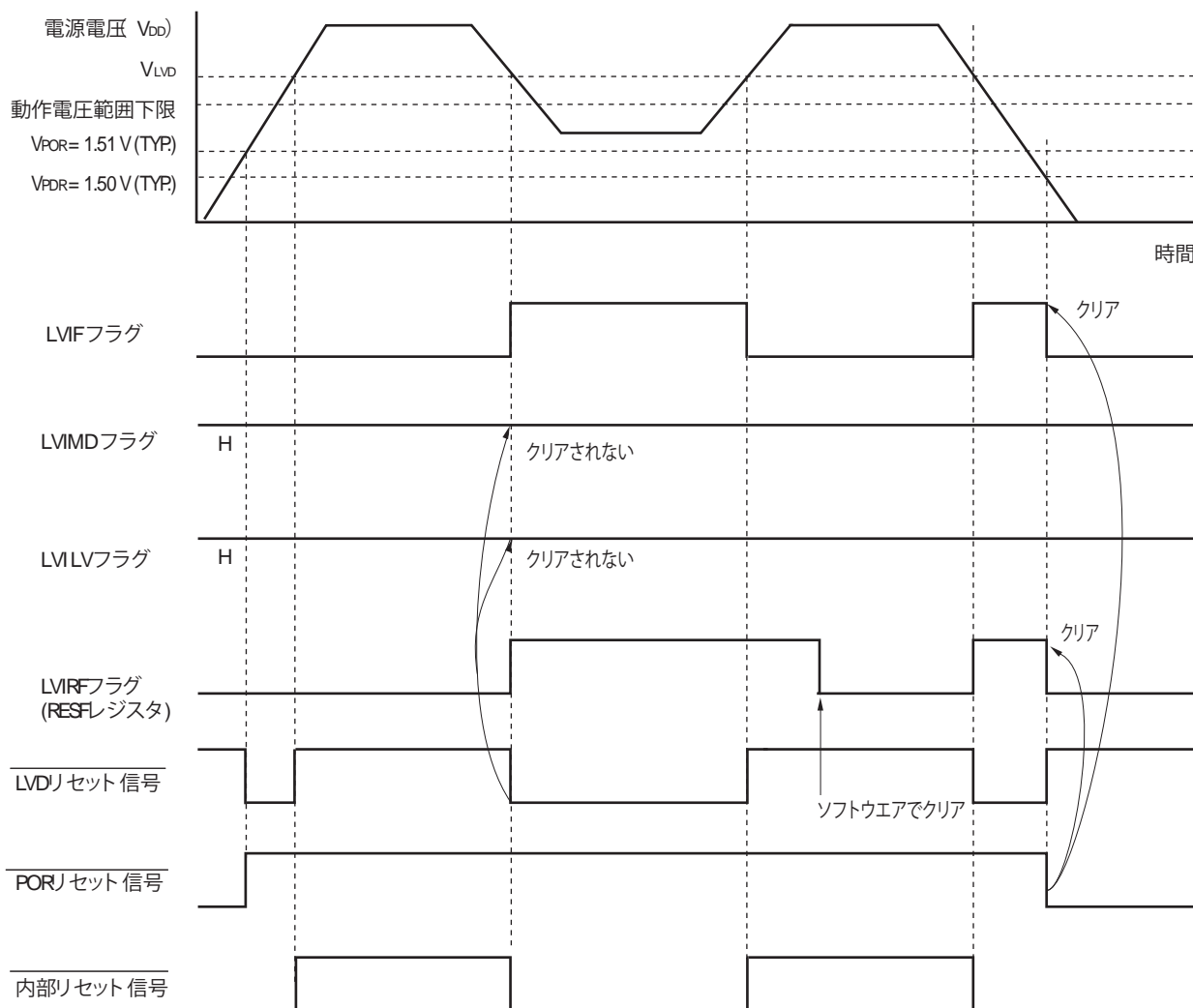
●LVDリセット・モードの動作

リセット・モード（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1）は、電源投入時、電源電圧（V_{DD}）が電圧検出レベル（VLVD）を超えるまではLVDによる内部リセット状態を保ちます。電源電圧（V_{DD}）が電圧検出レベル（VLVD）を超えると内部リセットを解除します。

動作電圧降下時は電源電圧（V_{DD}）が電圧検出レベル（VLVD）を下回るとLVDによる内部リセットが発生します。

図22-5に、LVDリセット・モードの内部リセット信号発生タイミングを示します。

図22-5 内部リセット信号発生タイミング (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 1)



備考 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧
 V_{PDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

22.4.2 割り込みモードとして使用時の設定

動作モード（割り込みモード（LVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1））と検出電圧（VLVD）の設定は、オプション・バイト000C1Hで設定します。

割り込みモードを設定した場合、次の初期設定の状態で作動を開始します。

- ・電圧検出レジスタ（LVIM）のビット7（LVISEN）は、“0”（電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え禁止）に設定されます。
- ・電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の初期値は、01HIに設定されます。
ビット7（LVIMD）は“0”（割り込みモード）
ビット0（LVILV）は“1”（電圧検出レベル：VLVD）

●LVD割り込みモードの動作

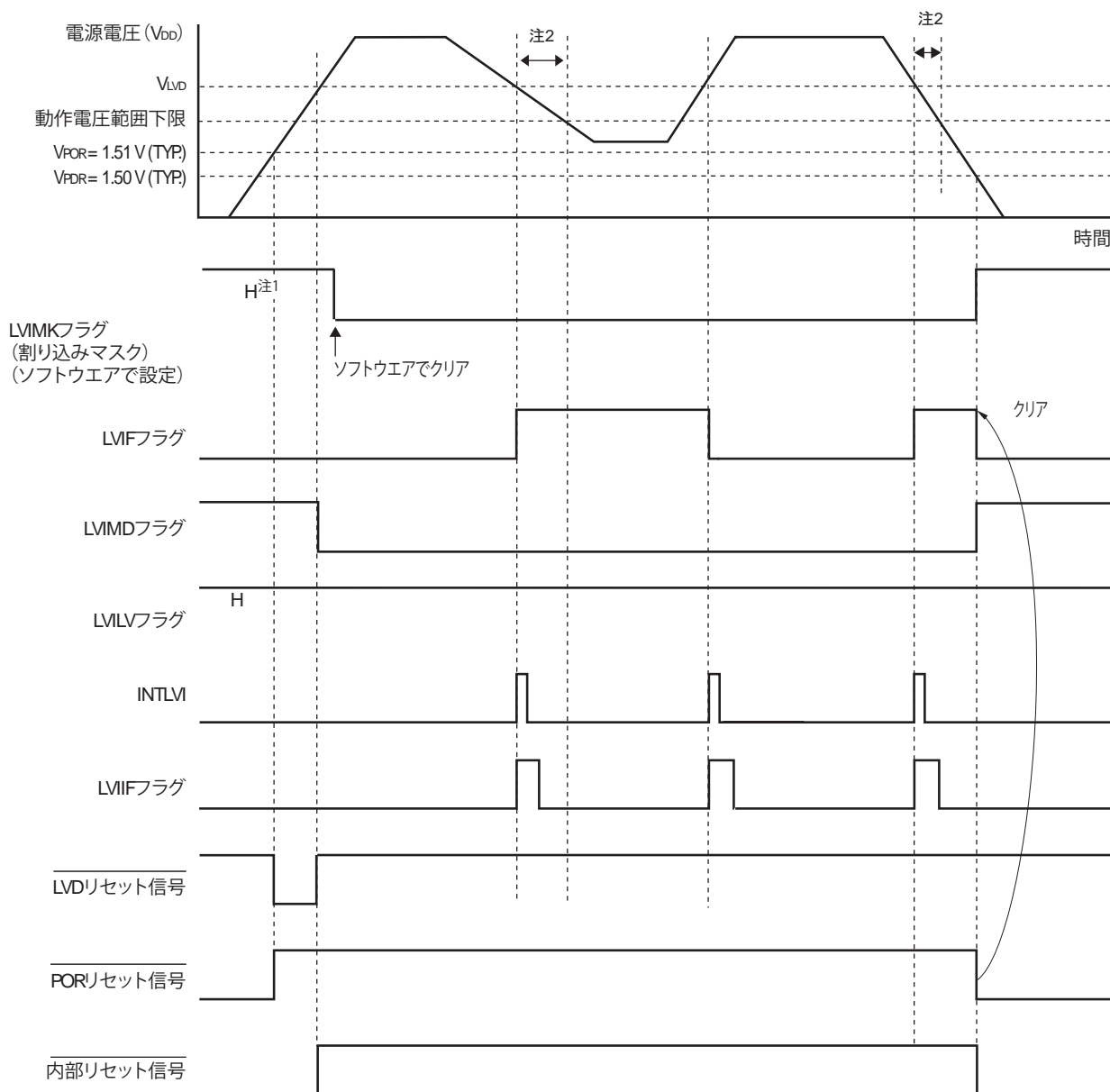
割り込みモード（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1）は、リセット発生直後、電源電圧（V_{DD}）が電圧検出レベル（VLVD）を上回るまではLVDによる内部リセット状態を保ちます。動作電圧（V_{DD}）が電圧検出レベル（VLVD）を上回るとLVDによる内部リセットを解除します。

LVDの内部リセット解除後は、電源電圧（V_{DD}）が電圧検出レベル（VLVD）を超えるとLVDによる割り込み要求信号（INTLVI）が発生します。

動作電圧降下時は、30.4 または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは、電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

図22-6に、LVD割り込みモードの割り込み要求信号発生のタイミングを示します。

図22-6 割り込み信号発生タイミング (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 0, 1)



- 注 1. LVIMKフラグはリセット信号の発生により、“1”になっています。
- 2. 動作電圧降下時は、30.4 または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは、電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

備考 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧
 V_{PDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

22.4.3 割り込み&リセット・モードとして使用する場合の設定

●動作開始時

動作モード（割り込み&リセット・モード（LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0））と検出電圧（VLVDH, VLVDL）の設定は、オプション・バイト000C1Hで設定します。

割り込み&リセット・モードを設定した場合、次の初期設定の状態で作動を開始します。

- ・電圧検出レジスタ（LVIM）のビット7（LVISEN）は、“0”（電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の書き換え禁止）に設定されます。
- ・電圧検出レベル・レジスタ（LVIS）の初期値は、00Hに設定されます。ビット7（LVIMD）は“0”（割り込みモード）、ビット0（LVILV）は“0”（高電圧検出レベル：VLVDH）

●LVD割り込み&リセット・モードの動作

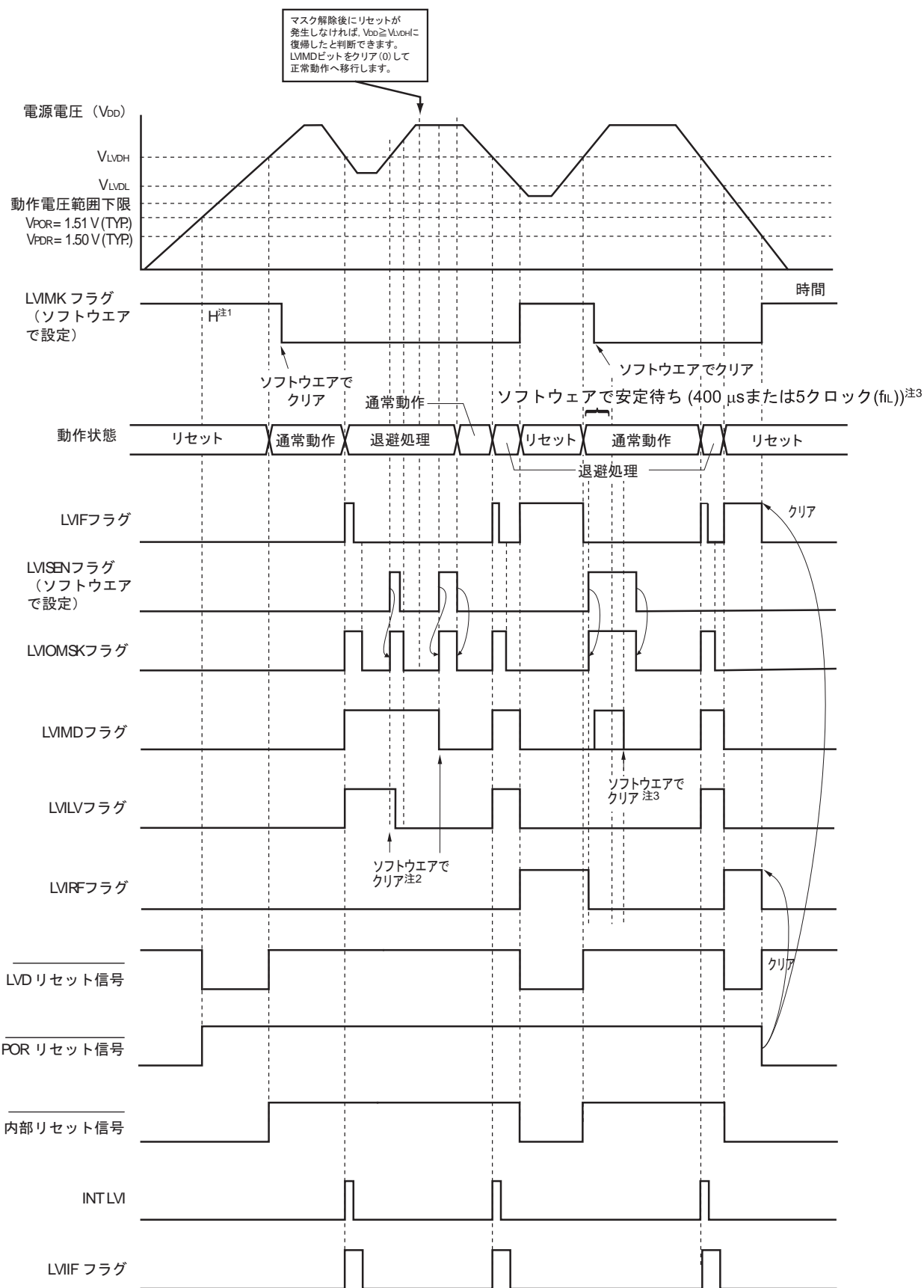
割り込み&リセット・モード（オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0）は、電源投入時、電源電圧（V_{DD}）が高電圧検出レベル（VLVDH）を超えるまではLVDによる内部リセット状態を保ちます。電源電圧（V_{DD}）が高電圧検出レベル（VLVDH）を超えると内部リセットを解除します。

動作電圧降下時は電源電圧（V_{DD}）が高電圧検出レベル（VLVDH）を下回るとLVDによる割り込み要求信号（INTLVI）が発生し、任意の退避処理を行うことができます。その後、電源電圧（V_{DD}）が低電圧検出レベル（VLVDL）を下回るとLVDによる内部リセットが発生します。ただし、INTLVI発生後、電源電圧（V_{DD}）が低電圧検出電圧（VLVDL）を下回らずに高電圧検出電圧（VLVDH）以上に復帰しても割り込み要求信号は発生しません。

LVD割り込み&リセット・モードの使用する場合は、“図22-8 動作電圧確認／リセットの設定手順”と、“図22-9 割り込み&リセット・モードの初期設定”に示すフローチャートの手順に従って設定をしてください。

図22-7に、LVD割り込み&リセット・モードの内部リセット信号と割り込み信号発生タイミングを示します。

図22-7 割り込み&リセット信号発生タイミング (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0) (1/2)

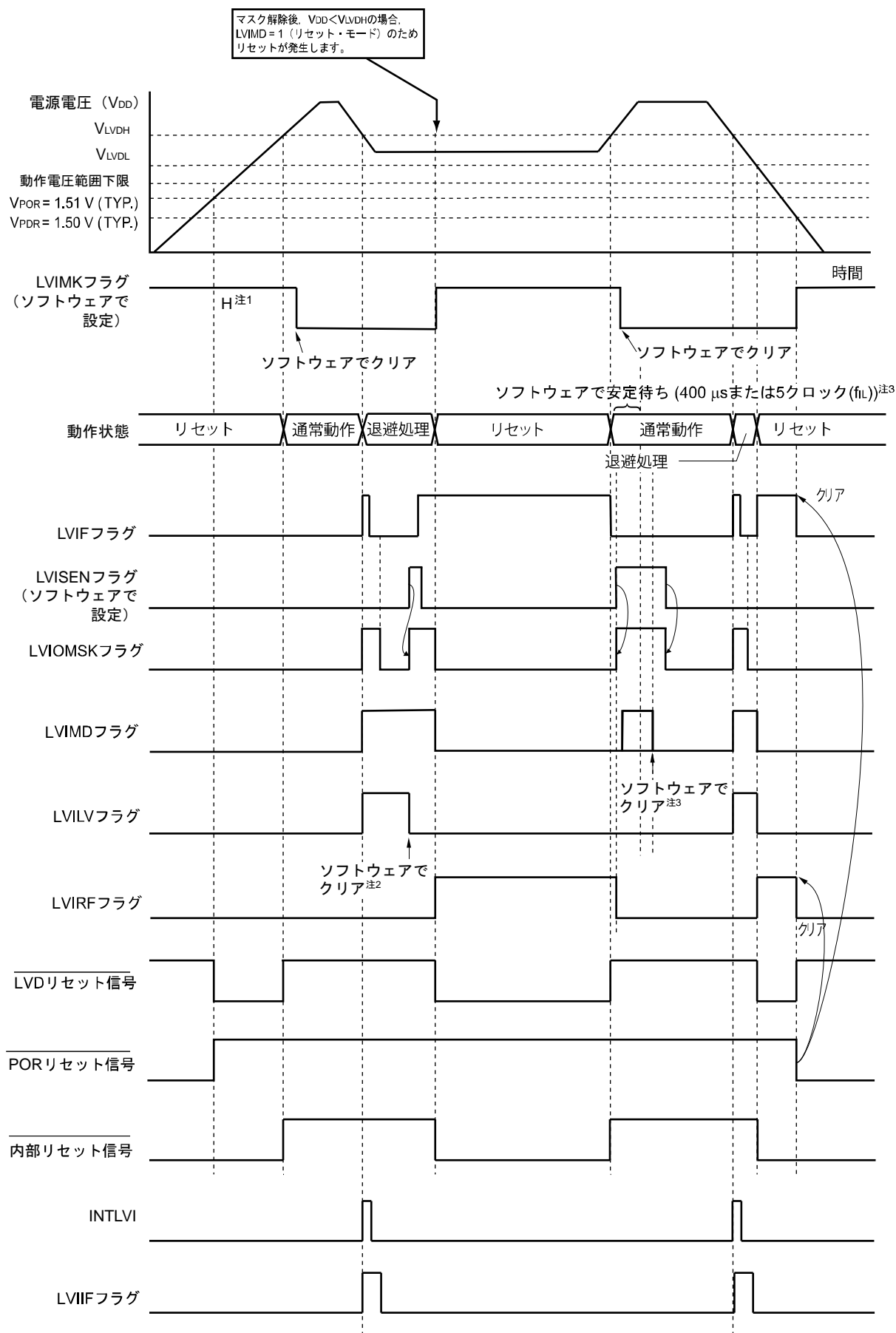


- 注 1. LVIMKフラグはリセット信号の発生により、“1”になっています。
2. 割り込み&リセット・モード使用時、割り込み発生後は、図22-8 動作電圧確認/リセットの設定手順に従って設定をしてください。
3. 割り込み&リセット・モード使用時、リセット解除後は、図22-9 割り込み&リセット・モードの初期設定の設定手順に従って設定をしてください。

備考 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧

V_{PDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

図22-7 割り込み&リセット信号発生タイミング (オプション・バイトLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0) (2/2)

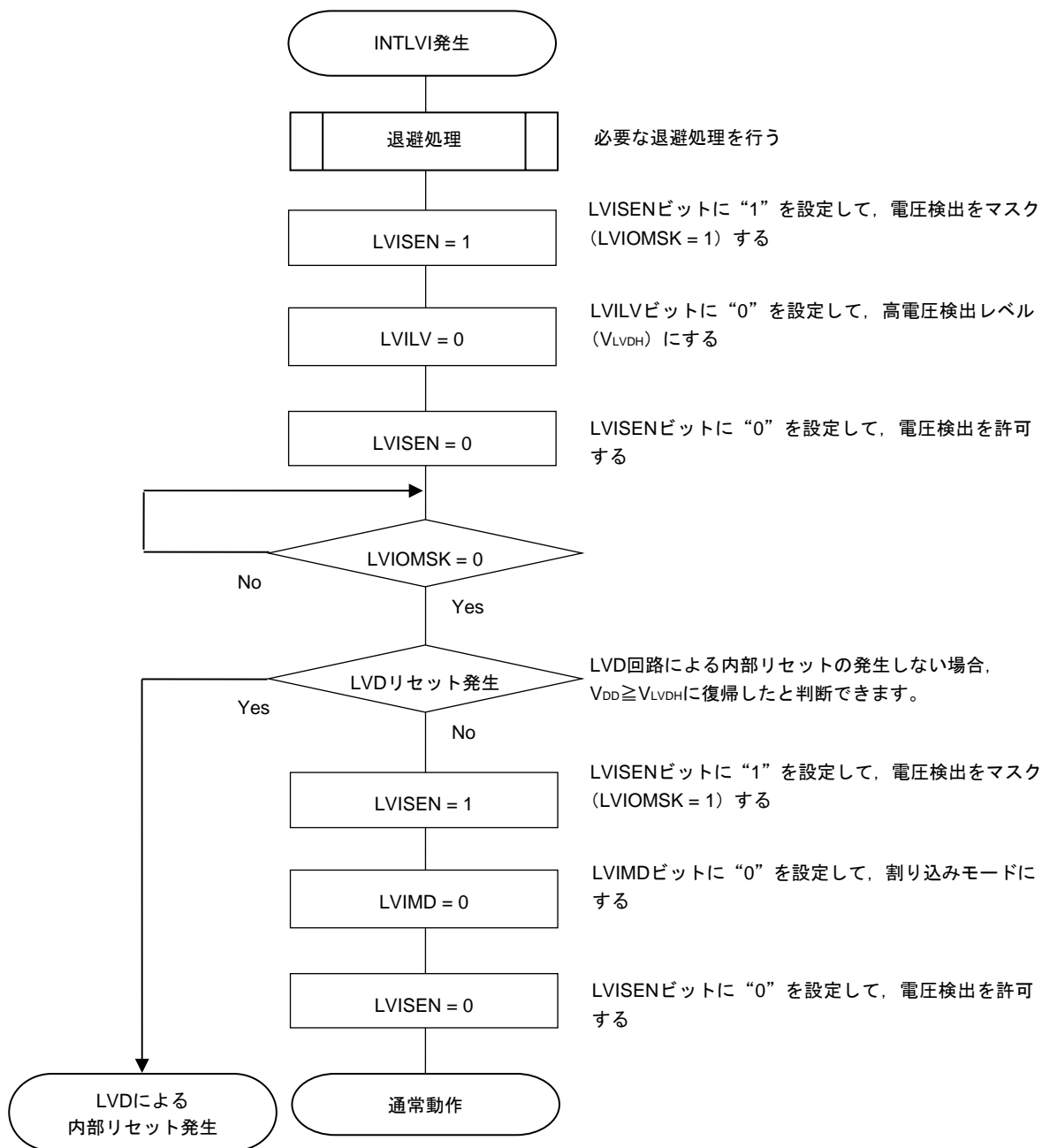


(注, 備考は次ページにあります。)

- 注 1. LVIMKフラグはリセット信号の発生により，“1”になっています。
- 2. 割り込み&リセット・モード使用時，割り込み発生後は，図22-8 動作電圧確認／リセットの設定手順に従って設定をしてください。
- 3. 割り込み&リセット・モード使用時，リセット解除後は，図22-9 割り込み&リセット・モードの初期設定の設定手順に従って設定をしてください。

備考 V_{POR} : POR電源立ち上がり検出電圧
 V_{PDR} : POR電源立ち下がり検出電圧

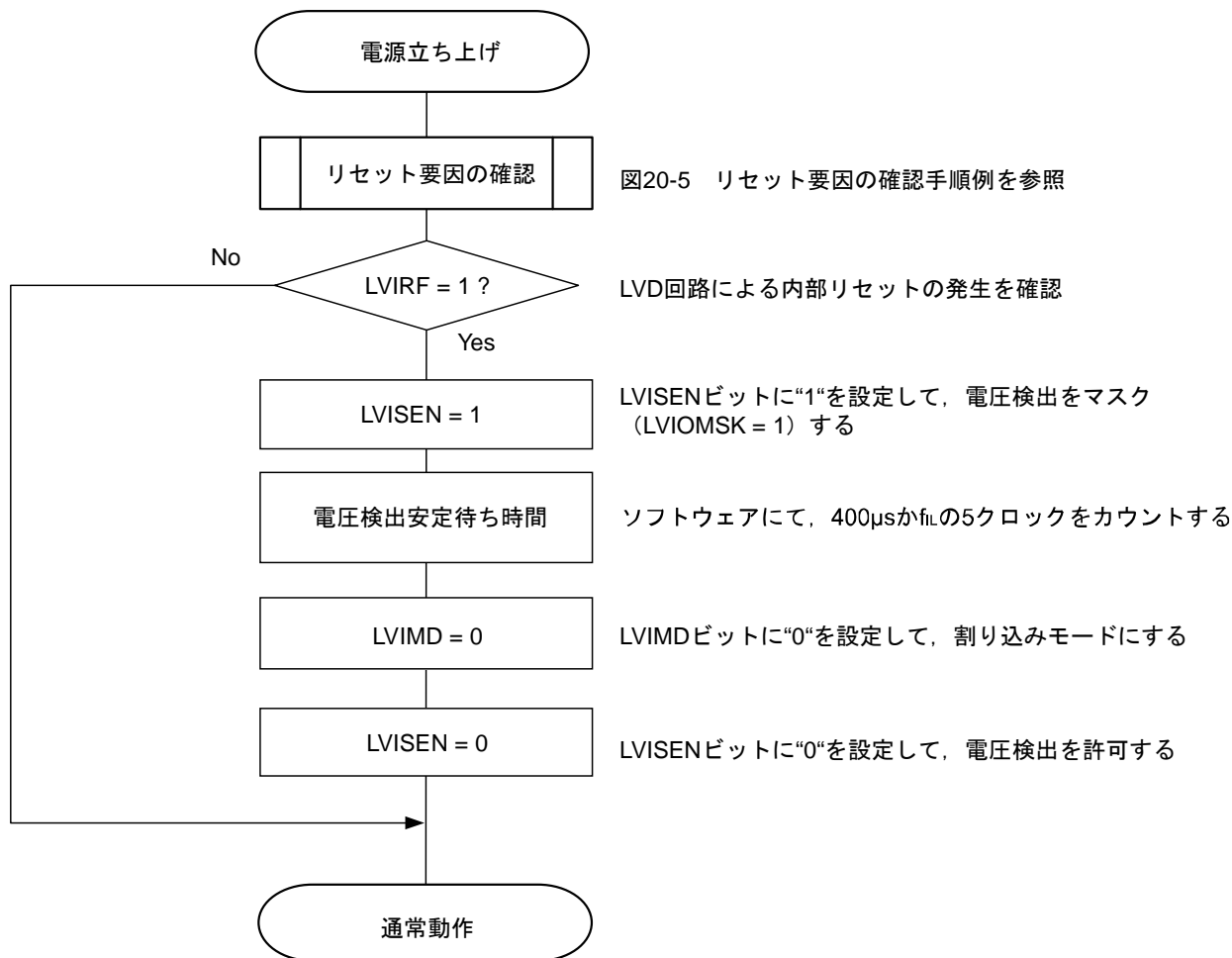
図22-8 動作電圧確認／リセットの設定手順



割り込み&リセット・モード (LVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0) を設定した場合, LVDリセット解除後 (LVIRF = 1) から400 μ sか f_{IL} の5クロック分の電圧検出安定待ち時間が必要です。電圧検出安定待ち後, LVIMDビットをクリア (0) して初期化してください。電圧検出安定待ち時間のカウント中およびLVIMDビットの書き換え時は, LVISEN = 1に設定してLVDによるリセットまたは割り込み発生をマスクしてください。

図22-9に割り込み&リセット・モードの初期設定の手順を示します。

図22-9 割り込み&リセット・モードの初期設定の設定手順



備考 f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

22.5 電圧検出回路の注意事項

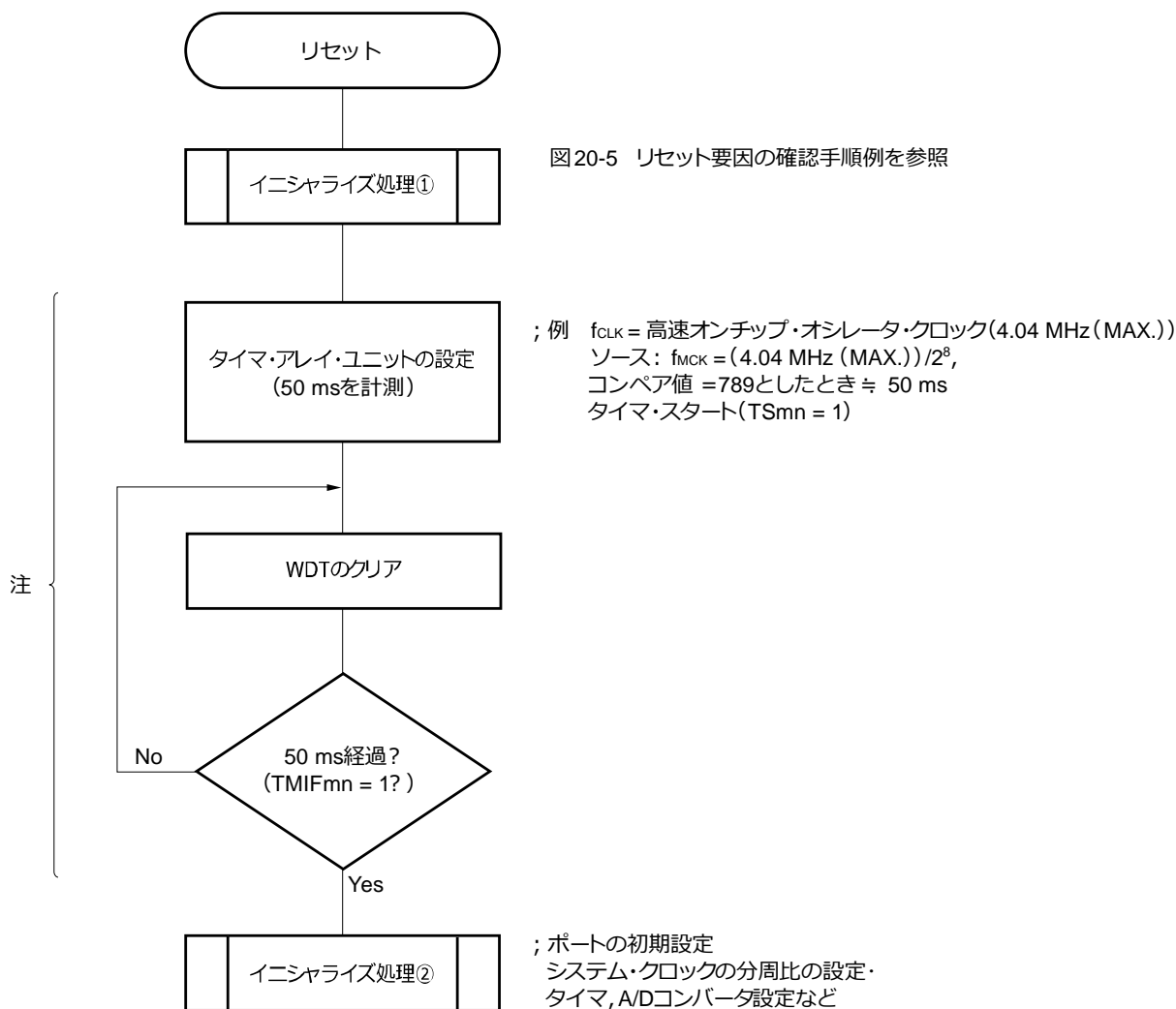
(1) 電源投入時の電圧変動について

電源電圧 (V_{DD}) がLVD検出電圧付近で、ある期間ふらつくような構成のシステムでは、リセット状態／リセット解除状態を繰り返すことがあります。次のように処置をすることによって、リセット解除からマイコン動作開始までの時間を任意に設定できます。

<処置>

リセット解除後、タイマなどを使用するソフトウェア・カウンタにて、システムごとに異なる電源電圧変動期間をウエイトしてから、ポートなどを初期設定してください。

図22-10 LVD検出電圧付近での電源電圧変動が50 ms以下の場合のソフト処理例



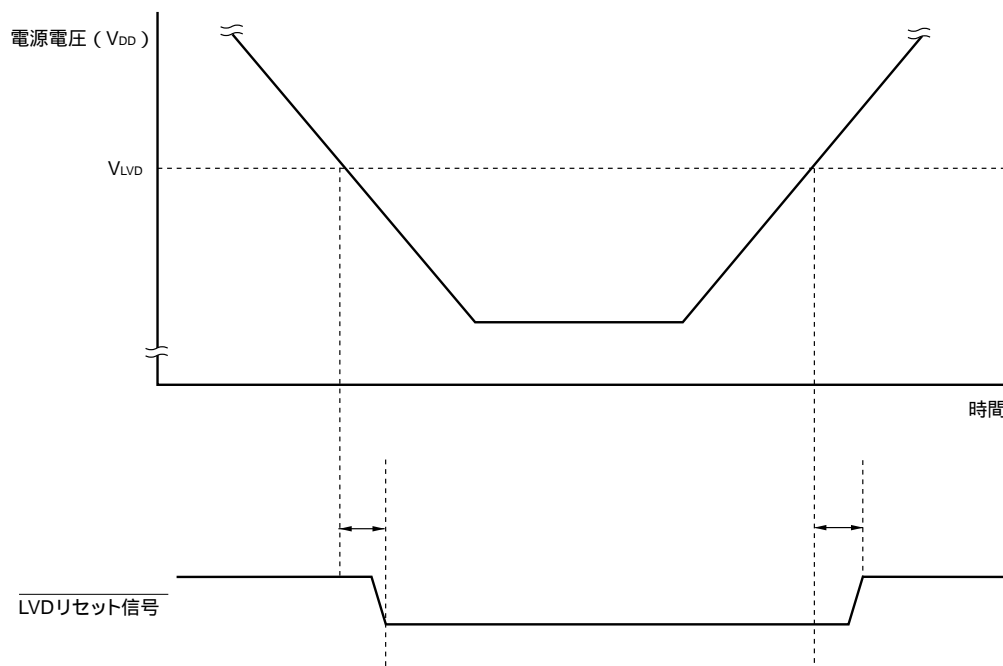
注 この間に再度リセットが発生した場合、イニシャライズ処理②には移行しません。

備考 m = 0 n = 0-7

(2) LVDリセット要因発生からLVDリセットが発生または解除されるまでの遅延について

電源電圧 (V_{DD}) < LVD検出電圧 (V_{LVD}) になってから、LVDリセットが発生するまでには遅延が生じます。同じようにLVD検出電圧 (V_{LVD}) \leq 電源電圧 (V_{DD}) になってから、LVDリセットが解除されるまでにも遅延が生じます（図22-11参照）。

図22-11 LVDリセット要因発生からLVDリセット発生または解除までの遅延



①：検出遅延（300 μ s (MAX.)）

(3) LVDオフに設定した場合の電源立ち上げについて

LVDオフに設定したときは必ずRESET端子による外部リセットを使用してください。

外部リセットを行う場合、RESET端子に10 μ s以上のロウ・レベルを入力してください。電源立ち上げ時に外部リセットを行う場合は、RESET端子にロウ・レベルを入力してから電源を投入し、30.4 または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲内の期間で10 μ s以上ロウ・レベルを継続した後に、ハイ・レベルを入力してください。

(4) LVDオフおよびLVD割り込みモードに設定した場合の動作電圧降下時について

LVDオフおよびLVD割り込みモードに設定したときの動作電圧降下時は、30.4 または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、外部リセットでリセット状態にしてください。再び動作を開始するときは、電源電圧が動作電圧範囲内に復帰したことを確認してください。

第23章 安全機能

23.1 安全機能の概要

- ★ 安全規格IEC60730に対応するため、RL78/L12では以下の安全機能を搭載しています。
この安全機能は、マイコンで自己診断することで、故障を検出して安全に停止することを目的としています。
- (1) フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC，汎用CRC）
CRC演算を行うことにより、フラッシュ・メモリのデータ誤りを検出します。
用途や使用条件に応じて、以下の2つのCRCを使い分けていただくことができます。
- ・「高速CRC」… 初期設定ルーチンの中で、CPUを停止させてコード・フラッシュ・メモリ領域全体を高速にチェックすることができます。
 - ・「汎用CRC」… CPU動作中に、コード・フラッシュ・メモリ領域に限らず、多用途のチェックに使用できます。
- 注意 コード・フラッシュ・メモリが8 KBの製品（R5F10RB8, R5F10RF8, R5F10RG8, R5F10RJ8）は、高速CRC機能を使用することができません。
- (2) RAMパリティ・エラー検出機能
RAMデータを読み出すとき、パリティ・エラーを検出します。
- (3) RAMガード機能
CPUの暴走によるRAMデータの書き換えを防止します。
- (4) SFRガード機能
CPUの暴走によるSFRの書き換えを防止します。
- (5) 不正メモリ・アクセス検出機能
不正メモリ領域（メモリが存在しない、アクセスが制限されている領域）への不正なアクセスを検出します。
- (6) 周波数検出機能
タイマ・アレイ・ユニットを使用して、CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数の自己チェックができます。
- (7) A/Dテスト機能
A/Dコンバータの+側基準電圧，-側基準電圧，アナログ入力チャネル（ANI），温度センサ出力電圧および内部基準電圧をA/D変換することにより、A/Dコンバータの自己チェックができます。
- 備考 安全規格IEC60730に対応する安全機能の使用例は、RL78 MCU シリーズのIEC60730/60335 セルフテスト・ライブラリ アプリケーションノート（R01AN1062, R01AN1296）を参照してください。

23.2 安全機能で使用するレジスタ

安全機能では、各機能で次のレジスタを使用します。

レジスタ名	安全機能の各機能
・フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ (CRC0CTL) ・フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ (PGCRCL)	フラッシュ・メモリCRC演算機能 (高速CRC)
・CRC入力レジスタ (CRCIN) ・CRCデータ・レジスタ (CRCD)	CRC演算機能 (汎用CRC)
・RAMパリティ・エラー制御レジスタ (RPECTL)	RAMパリティ・エラー検出機能
・不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ (IAWCTL)	RAMガード機能
	SFRガード機能
	不正メモリ・アクセス検出機能
・タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0)	周波数検出機能
・A/Dテスト・レジスタ (ADTES)	A/Dテスト機能

各レジスタの内容については、23.3 安全機能の動作の中で説明します。

23.3 安全機能の動作

23.3.1 フラッシュ・メモリCRC演算機能 (高速CRC)

IEC60730ではフラッシュ・メモリ内のデータ確認が義務付けられており、その確認手段としてCRCが推奨されています。この高速CRCでは、初期設定 (イニシャライズ) ルーチンの間に、コード・フラッシュ・メモリ領域全体をチェックすることができます。RAM上のプログラムによるメイン・システム・クロックでのHALTモードでのみ動作可能です。

高速CRCは、CPUを停止させて、フラッシュ・メモリから1クロックで32ビットのデータを読み出して演算します。そのため、チェック終了までの時間が短いことが特徴です (例 フラッシュ・メモリ64 KB: 512 μ s@24 MHz)。

CRC生成多項式はCRC-16-CCITTの「 $X^{16}+X^{12}+X^5+1$ 」に対応しています。

ビット31→ビット0のMSBファーストで演算します。

注意 1. コード・フラッシュ・メモリが8 KBの製品 (R5F10RB8, R5F10RF8, R5F10RG8, R5F10RJ8) は、高速CRC機能を使用することができません。

2. オンチップ・デバッグでは、モニタ・プログラムを配置するため、CRC演算結果が異なります。

備考 汎用CRCはLSBファーストのため、演算結果は異なります。

23.3.1.1 フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ (CRC0CTL)

高速CRC演算器の動作制御と演算範囲の設定を行うレジスタです。

CRC0CTLレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図23-1 フラッシュ・メモリCRC制御レジスタ (CRC0CTL) のフォーマット

アドレス : F02F0H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
CRC0CTL	CRC0EN	0	FEA5	FEA4	FEA3	FEA2	FEA1	FEA0

CRC0EN	高速CRC演算器の動作制御
0	動作停止
1	HALT命令実行により演算開始

FEA5	FEA4	FEA3	FEA2	FEA1	FEA0	高速CRC演算範囲
0	0	0	0	0	0	0000H-3FFBH (16 K-4バイト)
0	0	0	0	0	1	0000H-7FFBH (32 K-4バイト)
上記以外						設定禁止

備考 フラッシュ・メモリの最後の4バイトには、あらかじめ比較用のCRC演算結果期待値を入れてください。そのため、演算範囲は4バイト引いた範囲になっています。

23.3.1.2 フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ (PGCRCL)

高速CRC演算結果を格納するレジスタです。

PGCRCLレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、0000Hになります。

図23-2 フラッシュ・メモリCRC演算結果レジスタ (PGCRCL) のフォーマット

アドレス : F02F2H リセット時 : 0000H R/W

略号	15	14	13	12	11	10	9	8
PGCRCL	PGCRC15	PGCRC14	PGCRC13	PGCRC12	PGCRC11	PGCRC10	PGCRC9	PGCRC8
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PGCRC7	PGCRC6	PGCRC5	PGCRC4	PGCRC3	PGCRC2	PGCRC1	PGCRC0

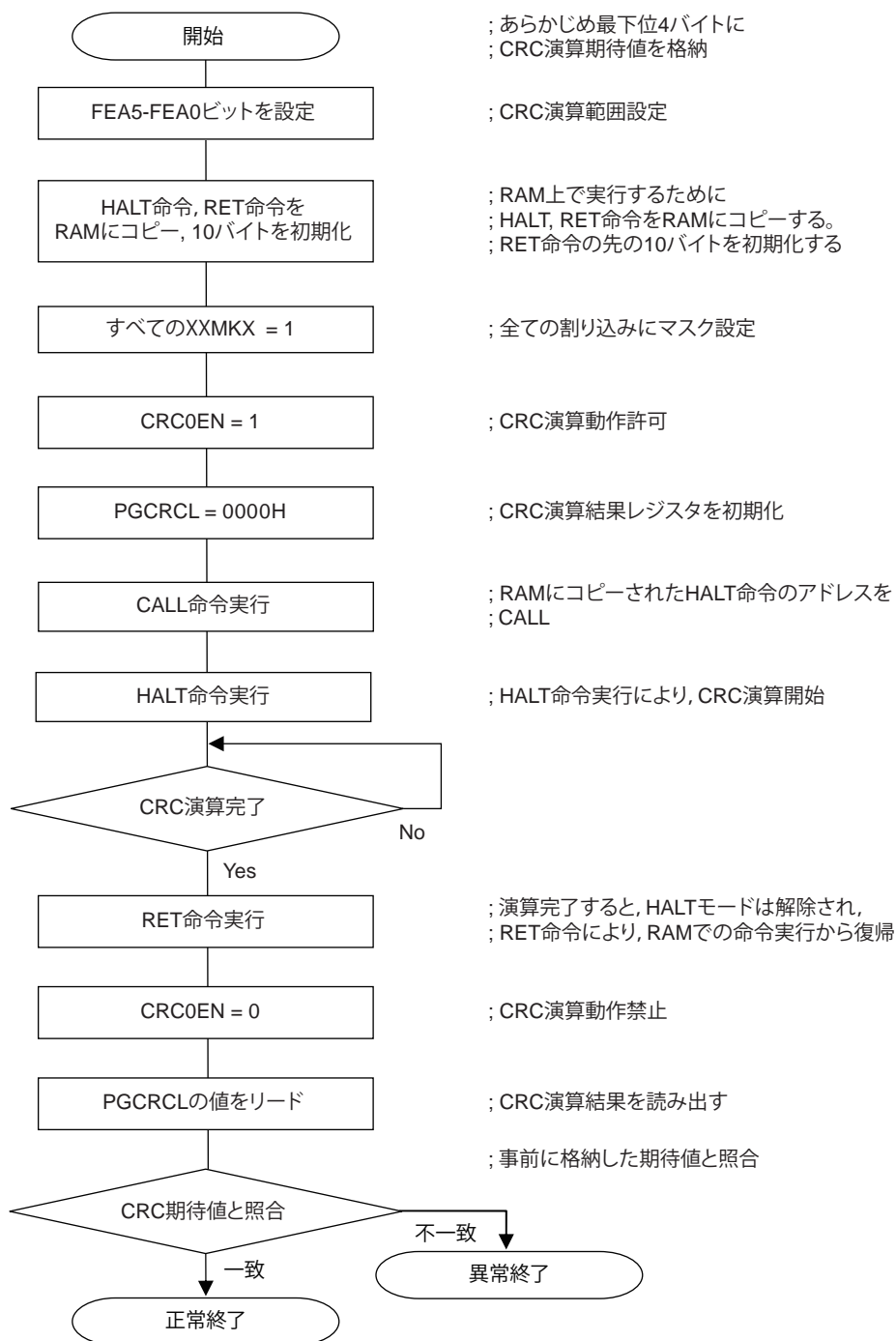
PGCRC15-PGCRC0	高速CRC演算結果
0000H-FFFFH	高速CRC演算結果を格納

注意 PGCRCLレジスタは、CRC0EN (CRC0CTLレジスタのビット7) = 1の場合のみライト可能です。

フラッシュ・メモリCRC演算機能 (高速CRC) のフロー・チャートを図23-3に示します。

<動作フロー>

図23-3 フラッシュ・メモリCRC演算機能（高速CRC）のフロー・チャート



- 注意1. CRC演算の対象は、コード・フラッシュのみです。
2. CRC演算の期待値は、コード・フラッシュ内の演算範囲の後に格納してください。
3. RAM領域にて、HALT命令を実行することで、CRC演算が有効になります。
必ずRAM領域でHALT命令を実行してください。

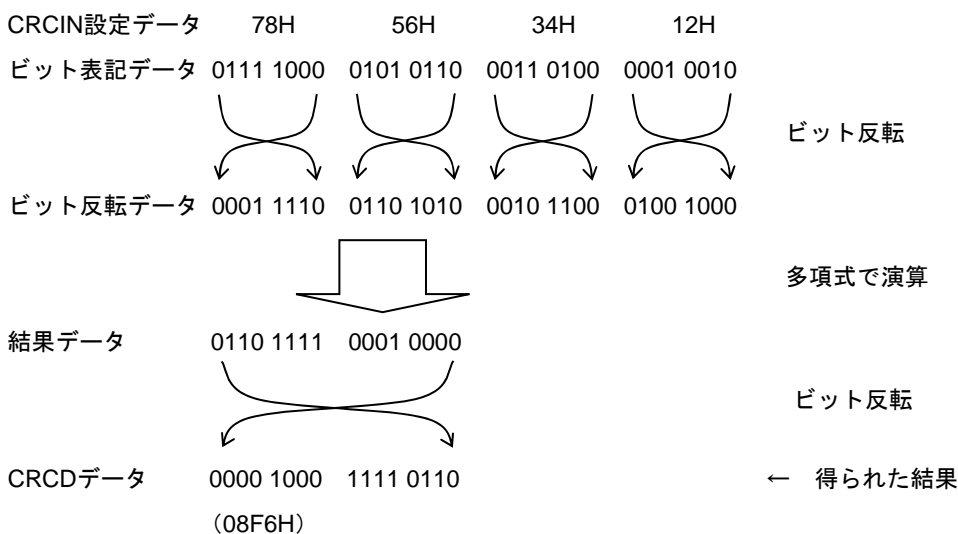
CRC演算の期待値は、総合開発環境 CubeSuite+を使用して算出することができます。詳細は、CubeSuite+ 統合開発環境ユーザーズマニュアルを参照してください。

23.3.2 CRC演算機能（汎用CRC）

★ この汎用CRCでは、CPU動作中に、周辺機能としてCRC演算を実行できます。汎用CRCは、コード・フラッシュ・メモリ領域に限らず、多用途のチェックに使用することができます。確認するデータは、ソフトウェア（ユーザ・プログラム）で指定します。HALTモード時のCRC演算機能は、DMA転送中だけ使用できます。

メイン・システム・クロック動作モードでも、サブシステム・クロック動作モードでも使用可能です。

CRC生成多項式はCRC-16-CCITTの「 $X^{16}+X^{12}+X^5+1$ 」を使用します。入力するデータはLSBファーストでの通信を考慮して、ビットの並びを反転して演算します。たとえば、データ12345678HをLSBから送信する場合には78H、56H、34H、12Hの順でCRCINレジスタに値を書き込むことで、CRCDレジスタから08F6Hの値が得られます。これは、データ12345678Hのビットの並びを反転した以下のビット列に対してCRC演算を行った結果です。



注意 プログラム実行中、デバッガはソフトウェア・ブレーク設定行をブレーク命令へ書き変えるため、CRC演算の対象領域にソフトウェア・ブレークを設定すると、CRC演算結果が異なります。

23.3.2.1 CRC入力レジスタ（CRCIN）

汎用CRCのCRC計算するデータを設定する8ビットのレジスタです。

設定可能範囲は、00H-FFHです。

CRCINレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図23-4 CRC入力レジスタ（CRCIN）のフォーマット

アドレス：FFFACH リセット時：00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
CRCIN								
	ビット7-0		機能					
	00H-FFH		データ入力					

23.3.2.2 CRCデータ・レジスタ (CRCD)

汎用CRCのCRC演算結果を格納するレジスタです。

設定可能範囲は、0000H-FFFFHです。

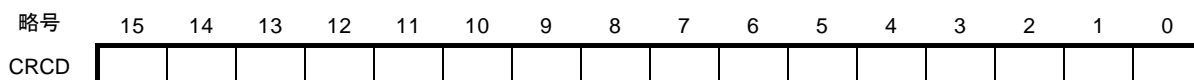
CRCINレジスタ書き込みから、CPU/周辺ハードウェア・クロック (fCLK) の1クロック経過後に、CRC演算結果がCRCDレジスタに格納されます。

CRCDレジスタは、16ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、0000Hになります。

図23-5 CRCデータ・レジスタ (CRCD) のフォーマット

アドレス : F02FAH リセット時 : 0000H R/W

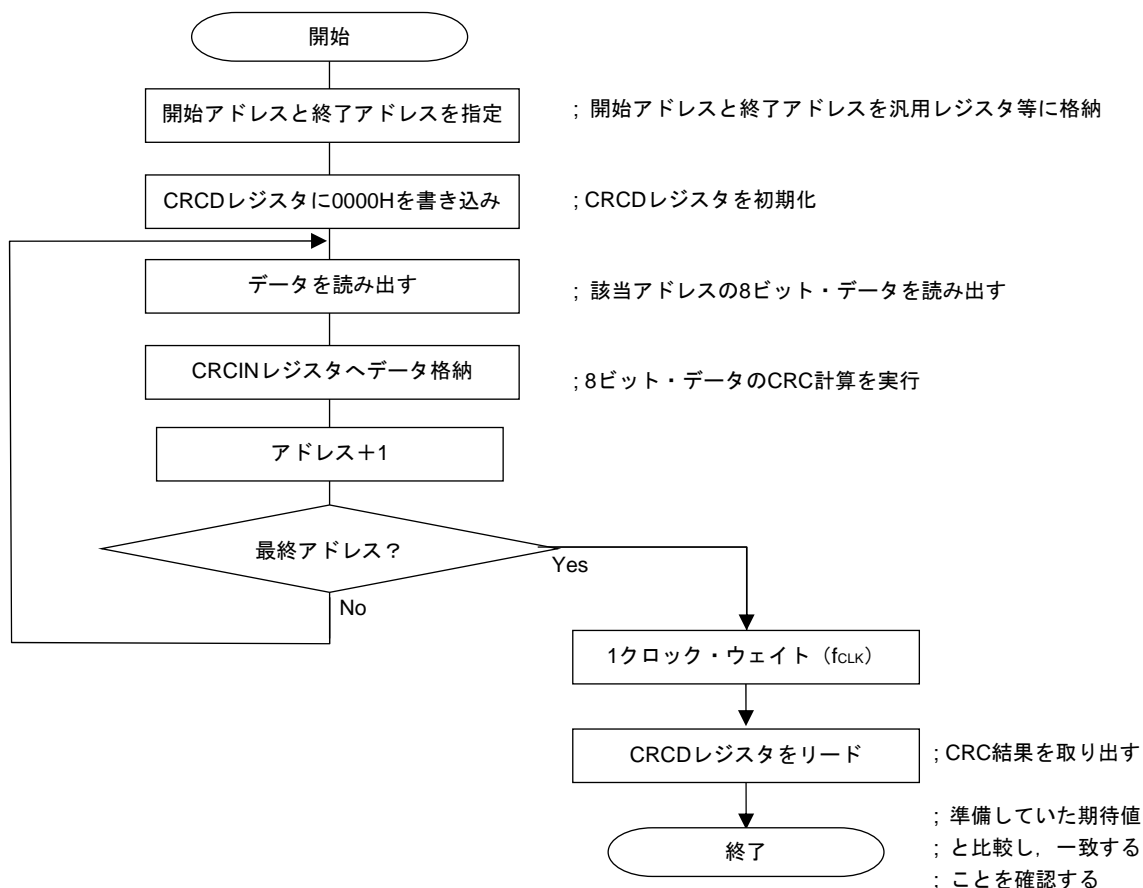


注意1. CRCDレジスタに書き込まれた値を読み出す場合は、CRCINレジスタへの書き込みを行う前にリードしてください。

2. CRCDレジスタへの書き込みと演算結果の格納が競合した場合、書き込みは無視されます。

<動作フロー>

図23-6 CRC演算機能 (汎用CRC) のフロー・チャート



23.3.3 RAMパリティ・エラー検出機能

IEC60730ではRAMデータ確認が義務付けられています。そのため、RL78/L12のRAMには、8ビットにつき1ビットのパリティが付加されています。このRAMパリティ・エラー検出機能では、データ書き込み時にパリティが書き込まれ、データ読み出し時にパリティをチェックします。また、パリティ・エラー発生時にリセットを発生することもできます。

23.3.3.1 RAMパリティ・エラー制御レジスタ (RPECTL)

パリティ・エラーの発生確認ビットと、パリティ・エラーによるリセット発生を制御するレジスタです。RPECTLレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。リセット信号の発生により、00Hになります。

図23-7 RAMパリティ・エラー制御レジスタ (RPECTL) のフォーマット

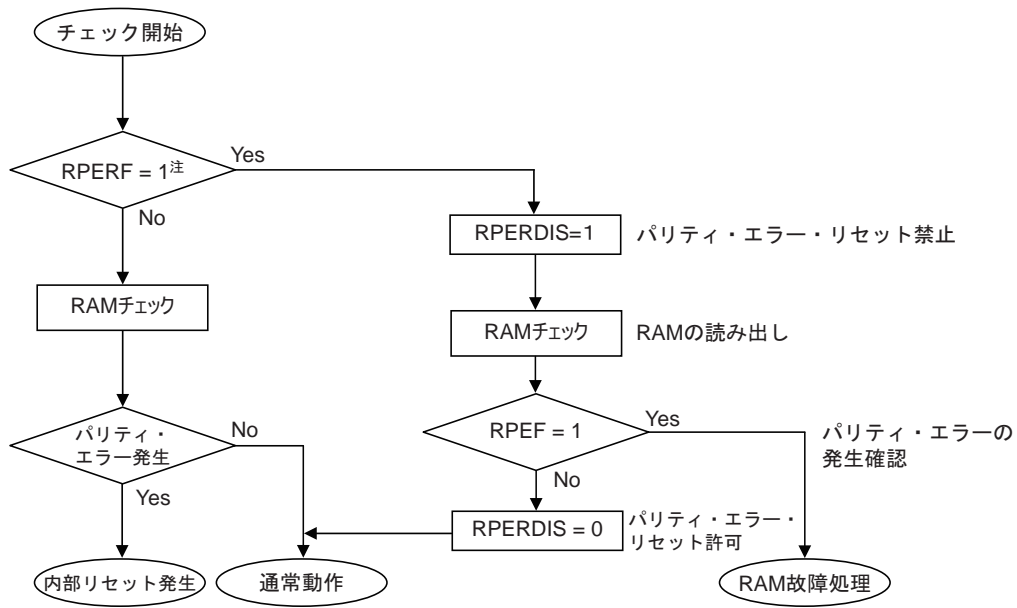
アドレス : F00F5H リセット時 : 00H R/W

略号	[7]	6	5	4	3	2	1	[0]
RPECTL	RPERDIS	0	0	0	0	0	0	RPEF
RPERDIS	パリティ・エラー・リセット・マスク・フラグ							
0	パリティ・エラー・リセット発生を許可							
1	パリティ・エラー・リセット発生を禁止							
RPEF	パリティ・エラー・ステータス・フラグ							
0	パリティ・エラーが発生していない							
1	パリティ・エラーが発生した							

注意 データ書き込み時にパリティが書き込まれ、データ読み出し時にパリティをチェックします。そのため、RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可する (RPERDIS = 0) 場合、データ・アクセス時は「使用するRAM領域」をデータ読み出し前に必ず初期化してください。また、RL78はパイプライン動作のためCPUが先読みを行い、使用しているRAM領域の先にある初期化されていないRAM領域を読み込むことで、RAMパリティ・エラーが発生する場合があります。したがって、RAMパリティ・エラー・リセット発生を許可する (RPERDIS = 0) 場合、RAM領域からの命令実行時は「使用するRAM領域+10バイト」の領域を必ず初期化してください。

- 備考1.** 初期状態では、パリティ・エラー・リセット発生許可 (RPERDIS = 0) になっています。
- パリティ・エラー・リセット発生禁止 (RPERDIS = 1) を設定時に、パリティ・エラーが発生した場合も、RPEFフラグはセット (1) されます。なお、RPEF = 1の状態では、パリティ・エラー・リセット発生許可 (RPERDIS = 0) に設定すると、RPERDISをクリア(0)した時点でパリティ・エラー・リセットが発生します。
 - RPECTLレジスタのRPEFフラグは、パリティ・エラー発生時にセット (1) され、0の書き込み、またはすべてのリセット要因によりクリア (0) されます。RPEF = 1のときに、パリティ・エラーが発生しないRAMを読み出してもRPEF = 1を保持します。
 - 汎用レジスタは、RAMパリティ・エラー検出の範囲に含みません。

図23-8 RAMパリティ・チェックのフローチャート



注 RAMパリティ・エラーによる内部リセットの確認は、第20章 リセット機能を参照してください。

23.3.4 RAMガード機能

★

このRAMガード機能は、指定した空間のデータを保護するための機能です。

RAMガード機能を設定すると、指定した空間へのRAM書き込みは無効になり、読み出しは通常通りに可能となります。

23.3.4.1 不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ (IAWCTL)

不正メモリ・アクセスの検出可否、RAM/SFRガード機能を制御するレジスタです。

RAMガード機能では、GRAM1, GRAM0ビットを使用します。

IAWCTLレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図23-9 不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ (IAWCTL) のフォーマット

アドレス : F0078H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IAWCTL	IWEN	0	GRAM1	GRAM0	0	GPORT	GINT	GCSC

GRAM1	GRAM0	RAMガード空間 ^注
0	0	無効。RAMへのライト可能
0	1	RAM先頭アドレスから128バイト
1	0	RAM先頭アドレスから256バイト
1	1	RAM先頭アドレスから512バイト

注 RAMの先頭アドレスは、製品の搭載RAMサイズにより変わります。

23.3.5 SFRガード機能

★

SFRガード機能は、ポート機能、割り込み機能、クロック制御機能、電圧検出回路、RAMパリティ・エラー検出機能の制御レジスタのデータを保護するための機能です。

SFRガード機能を設定すると、ガードされたSFRへの書き込みは無効になり、読み出しは通常通りに可能となります。

23.3.5.1 不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ (IAWCTL)

不正メモリ・アクセスの検出可否、RAM/SFRガード機能を制御するレジスタです。

SFRガード機能では、GPORT、GINT、GCSCビットを使用します。

IAWCTLレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図23-10 不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ (IAWCTL) のフォーマット

アドレス : F0078H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IAWCTL	IAWEN	0	GRAM1	GRAM0	0	GPORT	GINT	GCSC

GPORT	ポート機能の制御レジスタのガード
0	無効。ポート機能の制御レジスタのリード/ライト可能。
1	有効。ポート機能の制御レジスタのライト無効。リード可能。 [ガードされるSFR] PMxx, PUxx, PIMxx, POMxx, PMCxx, ADPC, PIOR, PFSEGxx, ISCLCD 注1

GINT	割り込み機能のレジスタのガード
0	無効。割り込み機能の制御レジスタのリード/ライト可能。
1	有効。割り込み機能の制御レジスタのライト無効。リード可能。 [ガードされるSFR] IFxx, MKxx, PRxx, EGPx, EGNx

GCSC ^{注2}	クロック制御機能、電圧検出回路、RAMパリティ・エラー検出機能の制御レジスタのガード
0	無効。クロック制御機能、電圧検出回路、RAMパリティ・エラー検出機能の制御レジスタのリード/ライト可能。
1	有効。クロック制御機能、電圧検出回路、RAMパリティ・エラー検出機能の制御レジスタのライト無効。リード可能。 [ガードされるSFR] CMC, CSC, OSTs, CKC, PERx, OSMC, LVIM, LVIS, RPECTL

注1. Pxx (ポート・レジスタ) はガードされません。

2. セルフ・プログラミング/シリアル・プログラミング時は、GCSC = 0に設定してください。

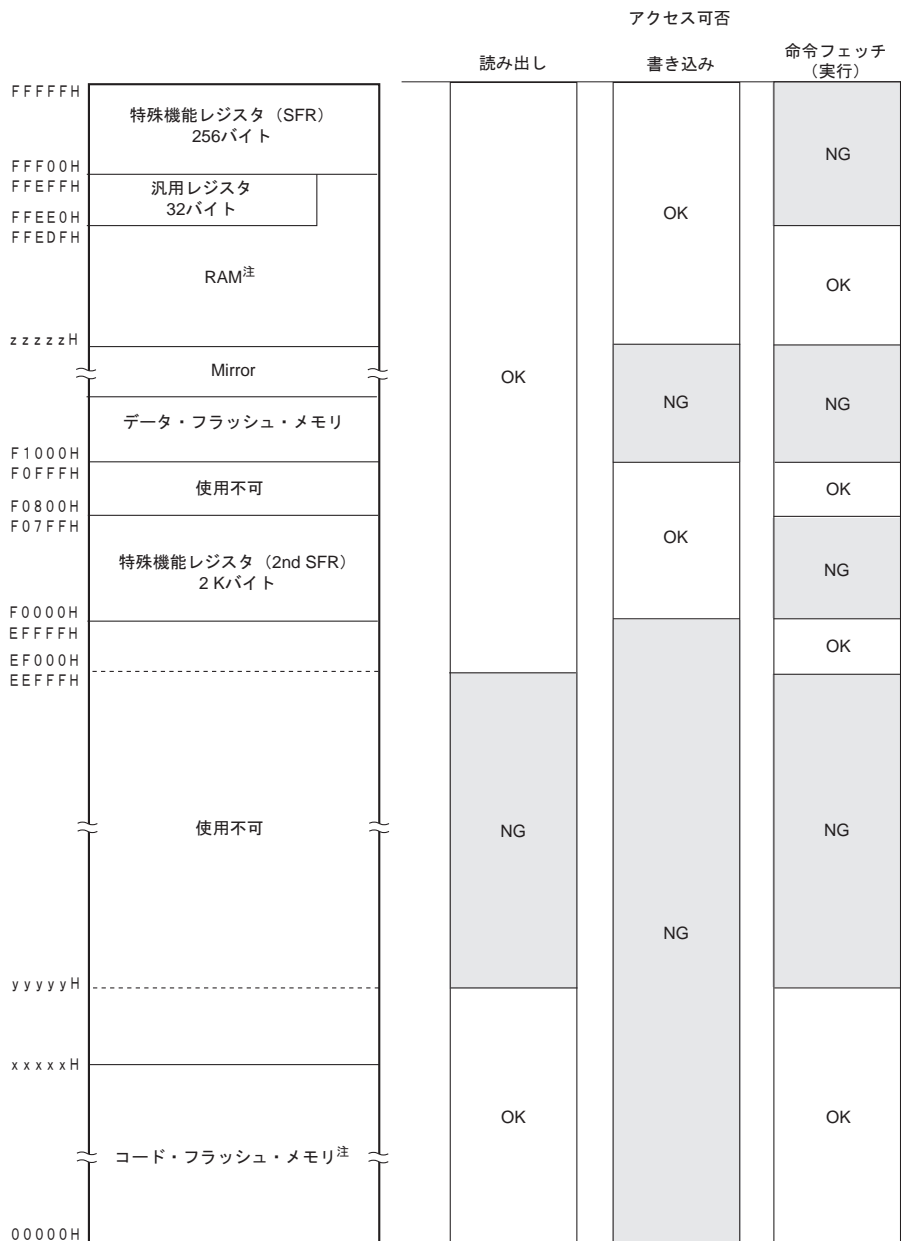
23.3.6 不正メモリ・アクセス検出機能

IEC60730ではCPUと割り込みの動作が正しいことを確認する必要があります。

不正メモリ・アクセス検出機能は、規定された不正アクセス検出空間をアクセスした際に、リセットを発生させる機能です。

不正アクセス検出空間は、図23-11で「NG」と記載した範囲になります。

図23-11 不正アクセス検出空間



注 各製品のコード・フラッシュ・メモリ、RAM、検出最下位アドレスを次に示します。

製品	コード・フラッシュ・メモリ (00000H-xxxxxH)	RAM (zzzzzH-FFEFFH)	読み出し/命令フェッチ (実行) 時の 検出最下位アドレス (yyyyyH)
R5F10Rx8 (x = B, F, G, J)	8192×8ビット (00000H-01FFFH)	1024×8ビット (FFB00H-FFEFFH)	10000H
R5F10RxA (x = B, F, G, J, L)	16384×8ビット (00000H-03FFFH)	1024×8ビット (FFB00H-FFEFFH)	10000H
R5F10RxC (x = B, F, G, J, L)	32768×8ビット (00000H-07FFFH)	1536×8ビット (FF900H-FFEFFH)	10000H

23.3.6.1 不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ (IAWCTL)

不正メモリ・アクセスの検出可否，RAM/SFRガード機能を制御するレジスタです。

不正メモリ・アクセス検出機能では，IAWENビットを使用します。

IAWCTLレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図23-12 不正メモリ・アクセス検出制御レジスタ (IAWCTL) のフォーマット

アドレス：F0078H リセット時：00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
IAWCTL	IAWEN	0	GRAM1	GRAM0	0	GPORT	GINT	GCSC

IAWEN ^注	不正メモリ・アクセスの検出制御
0	不正メモリ・アクセスの検出無効
1	不正メモリ・アクセスの検出有効

注 IAWENビットは1の書き込みのみを有効とし，IAWEN = 1としたあとの0の書き込みは無効です。

備考 オプション・バイトWDTON = 1の設定により，不正メモリ・アクセス機能は，IAWENビットの設定にかかわらず常に有効となります（第25章 オプション・バイト参照）。

23.3.7 周波数検出機能

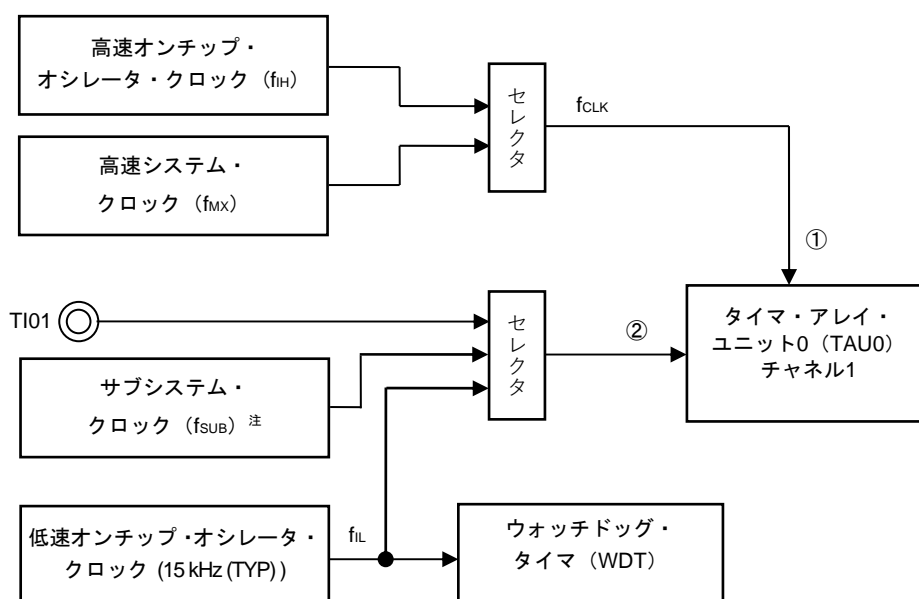
IEC60730では発振周波数が正しいことを確認することが義務付けられています。

周波数検出機能は、CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数 (f_{CLK}) を使用し、タイマ・アレイ・ユニット0 (TAU0) のチャンネル5の入力パルスを測定することで、2つのクロックの比率関係が正しいか判定することができます。ただし、片一方のクロック、もしくは両方のクロックが完全に停止している場合は、クロックの比率関係を判定することができません。

<比較するクロック>

- ①CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数 (f_{CLK}) :
- ・高速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IH})
 - ・高速システム・クロック (f_{MX})
- ②タイマ・アレイ・ユニットのチャンネル1入力 :
- ・チャンネル1のタイマ入力(TI01)
 - ・低速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IL} : 15 kHz (TYP.))
 - ・サブシステム・クロック (f_{SUB}) 注

図23-13 周波数検出機能の構成



<動作概要>

以下の条件でパルス間隔を測定した結果で、クロック周波数が正常かどうかの判定をします。

- ・ CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{CLK}) に高速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IH}) もしくは外付けのX1発振クロック (f_{MX}) を選択
- ・ タイマ・アレイ・ユニット0 (TAU0) のチャンネル1のタイマ入力に低速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IL} : 15 kHz) を選択

入力パルス間隔の測定結果が異常な値になった場合は、「クロック周波数に異常がある」と判定できます。入力パルス間隔測定の方法については、6.8.4 入力パルス間隔測定としての動作を参照してください。

注 サブシステム・クロックを搭載している製品のみ選択可能です。

23.3.7.1 タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0)

チャンネル1のタイマ入力を選択するレジスタです。

タイマ入力に低速オンチップ・オシレータ・クロックを選択することにより、そのパルスを測定することで低速オンチップ・オシレータ・クロックとタイマ動作クロックとの比率関係が正しいか判定することができます。

TIS0レジスタは、8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図23-14 タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0) のフォーマット

アドレス : F0074H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
TIS0	0	0	0	0	0	TIS02	TIS01	TIS00

TIS02	TIS01	TIS00	チャンネル1で使用するタイマ入力の選択
0	0	0	タイマ入力端子 (TI01) の入力信号
1	0	0	低速オンチップ・オシレータ・クロック (f _L)
1	0	1	サブシステム・クロック (f _{SUB})
上記以外			設定禁止

23.3.8 A/Dテスト機能

IEC60730ではA/Dコンバータのテストが義務付けられています。このA/Dテスト機能では、A/Dコンバータの+側基準電圧、-側基準電圧、アナログ入力チャネル（ANi）、温度センサ出力電圧および内部基準電圧のA/D変換を実施することで、A/Dコンバータの正常動作を確認します。確認方法の詳細は、安全機能（A/Dテスト）アプリケーションノート（R01AN0955）を参照してください。

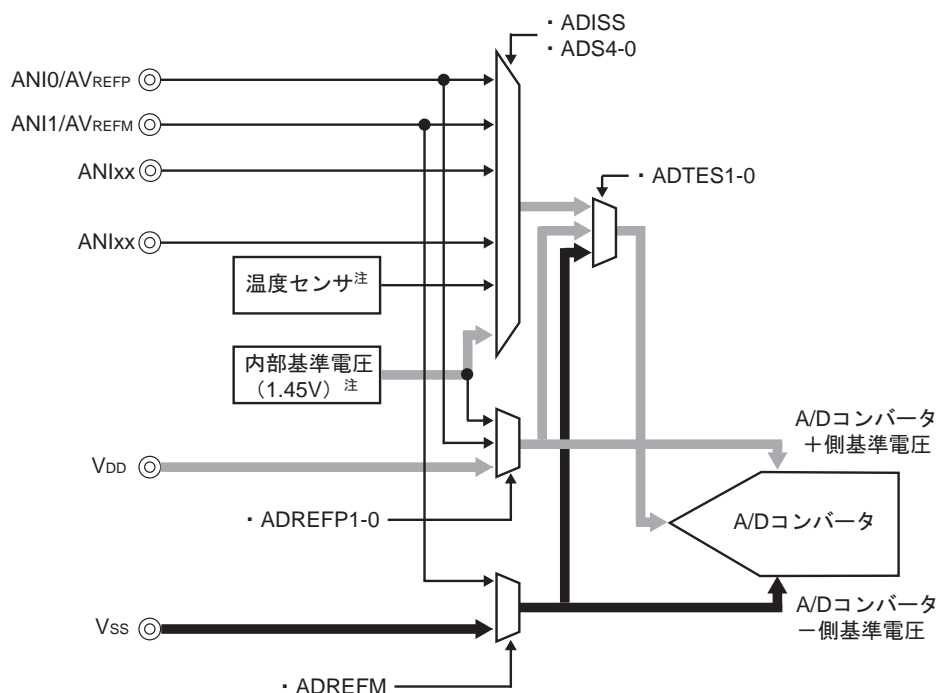
また、アナログ・マルチプレクサは、以下の手順で確認できます。

- ① ADTESレジスタでA/D変換対象にANix端子を選択（ADTES1, ADTES0=0,0）
- ② ANix端子のA/D変換を行う（変換結果1-1）。
- ③ ADTESレジスタでA/D変換対象にA/Dコンバータの-側基準電圧を選択（ADTES1, ADTES0=1,0）
- ④ A/Dコンバータの-側基準電圧のA/D変換を行う（変換結果2-1）
- ⑤ ADTESレジスタでA/D変換対象にANix端子を選択（ADTES1, ADTES0=0,0）
- ⑥ ANix端子のA/D変換を行う（変換結果1-2）
- ⑦ ADTESレジスタでA/D変換対象にA/Dコンバータの+側基準電圧を選択（ADTES1, ADTES0=1,1）
- ⑧ A/Dコンバータの+側基準電圧のA/D変換を行う（変換結果2-2）
- ⑨ ADTESレジスタでA/D変換対象にANix端子を選択（ADTES1, ADTES0=0,0）
- ⑩ ANix端子のA/D変換を行う（変換結果1-3）
- ⑪ 「変換結果1-1」 = 「変換結果1-2」 = 「変換結果1-3」であることを確認する。
- ⑫ 「変換結果2-1」のA/D変換結果がオール0、「変換結果2-2」のA/D変換結果がオール1であることを確認する。

以上の手順で、アナログ・マルチプレクサが選択されていることと、配線が断線していないことが確認できます。

- 備考1. ①～⑩の変換動作中にアナログ入力電圧を可変とする場合は、別の手段でアナログ・マルチプレクサの確認をしてください。
2. 変換結果は誤差を含むので、変換結果を比較するときは、適切な誤差を考慮してください。

図23-15 A/Dテスト機能の構成



注 HS（高速メイン）モードでのみ選択可能です。

23.3.8.1 A/Dテスト・レジスタ (ADTES)

A/D変換対象にA/Dコンバータの+側の基準電圧，-側の基準電圧，アナログ入力チャネル (ANlxx)，温度センサ出力電圧，内部基準電圧 (1.45 V) を選択するレジスタです。

A/Dテスト機能として使用する場合は，以下の設定にします。

- ・ゼロスケールを測定するときは，A/D変換対象に-側の基準電圧を選択。
- ・フルスケールを測定するときは，A/D変換対象に+側の基準電圧を選択。

ADTESレジスタは，8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により，00Hになります。

図23-16 A/Dテスト・レジスタ (ADTES) のフォーマット

アドレス : F0013H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADTES	0	0	0	0	0	0	ADTES1	ADTES0

ADTES1	ADTES0	A/D変換対象
0	0	ANlxx / 温度センサ出力電圧 ^注 / 内部基準電圧 (1.45 V) ^注 (アナログ入力チャネル指定レジスタ (ADS) で設定)
1	0	-側の基準電圧 (ADM2レジスタのADREFMビットで選択)
1	1	+側の基準電圧 (ADM2レジスタのADREFP1, ADREFP0ビットで選択) ^注
上記以外		設定禁止

注 温度センサ出力電圧，内部基準電圧 (1.45 V) は，HS (高速メイン) モードでのみ選択可能です。

23.3.8.2 アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS)

A/D変換するアナログ電圧の入力チャンネルを指定するレジスタです。

A/Dテスト機能でANIXX/温度センサ出力/内部基準電圧 (1.45 V) を測定するときは、A/Dテスト・レジスタ (ADTES) を00Hに設定してください。

ADSレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図23-17 アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) のフォーマット

アドレス : FFF31H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
ADS	ADISS	0	0	ADS4	ADS3	ADS2	ADS1	ADS0

ADISS	ADS4	ADS3	ADS2	ADS1	ADS0	アナログ入力 チャンネル	入力ソース
0	0	0	0	0	0	ANI0	P20/ANI0/AV _{REFP} 端子
0	0	0	0	0	1	ANI1	P21/ANI1/AV _{REFM} 端子
0	1	0	0	0	0	ANI16	P41/ANI16端子
0	1	0	0	0	1	ANI17	P120/ANI17端子
0	1	0	0	1	0	ANI18	P13/ANI18端子
0	1	0	0	1	1	ANI19	P14/ANI19端子
0	1	0	1	0	0	ANI20	P142/ANI20端子
0	1	0	1	0	1	ANI21	P143/ANI21端子
0	1	0	1	1	0	ANI22	P144/ANI22端子
0	1	0	1	1	1	ANI23	P145/ANI23端子
1	0	0	0	0	0	—	温度センサ出力 ^注
1	0	0	0	0	1	—	内部基準電圧出力 (1.45 V) ^注
上記以外						設定禁止	

注 HS (高速メイン) モードのみ使用可能。

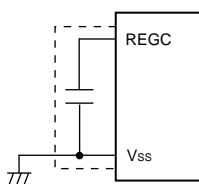
注意1. ビット5, 6には必ず0を設定してください。

- ADPC, PMCレジスタでアナログ入力に設定したポートは、ポート・モード・レジスタ1, 2, 12, 14 (PM1, PM2, PM12, PM14) で入力モードに選択してください。
- A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) でデジタル入出力として設定する端子を、ADSレジスタで設定しないでください。
- ポート・モード・コントロール・レジスタ1, 4, 12, 14 (PMC1, PMC4, PMC12, PMC14) でデジタル入出力として設定する端子を、ADSレジスタで設定しないでください。
- ADISSビットを書き換える場合は、必ず変換停止状態 (ADCS = 0, ADCE = 0) のときに行ってください。
- AV_{REFP}をA/Dコンバータの+側の基準電圧として使用している場合、ANI0をA/D変換チャンネルとして選択しないでください。
- AV_{REFM}をA/Dコンバータの-側の基準電圧として使用している場合、ANI1をA/D変換チャンネルとして選択しないでください。
- ADISS = 1を設定した場合、+側の基準電圧に内部基準電圧 (1.45 V) は使用できません。また、ADISS = 1に設定後、1回目の変換結果は使用できません。詳細設定フローは、11.7.4 温度センサ出力/内部基準電圧出力を選択時の設定 (例 ソフトウェア・トリガ・モード、ワンショット変換モード時) を参照してください。
- STOPモードへ移行、もしくはサブシステム・クロックでCPU動作中にHALTモードへ移行する場合は、ADISS = 1に設定しないでください。ADISS = 1設定時は、30.3.2または31.3.2 電源電流特性に示すA/Dコンバータ基準電圧電流 (I_{ADREF}) の電流値が加算されます。

第24章 レギュレータ

24.1 レギュレータの概要

RL78/L12は、デバイス内部を定電圧動作させるための回路を内蔵しています。このときレギュレータ出力電圧を安定させるために、REGC端子にはレギュレータ安定として、コンデンサ（0.47~1 μ F）を介し、Vssに接続してください。また、内部電圧の安定のために使用するため、特性のよいコンデンサを使用してください。



注意 上図の破線部分の配線を極力短くしてください。

レギュレータ出力電圧は、表24-1のようになります。

表24-1 レギュレータ出力電圧条件

モード	出力電圧	条 件
LV（低電圧メイン）モード	1.8 V	—
LS（低速メイン）モード		
HS（高速メイン）モード	1.8 V	STOPモード時
		サブシステム・クロック（ f_{XT} ）でCPU動作中で、高速システム・クロック（ f_{MX} ）と高速オンチップ・オシレータ・クロック（ f_{IH} ）が共に停止
	サブシステム・クロック（ f_{XT} ）でCPU動作設定時のHALTモード中で、高速システム・クロック（ f_{MX} ）と高速オンチップ・オシレータ・クロック（ f_{IH} ）が共に停止	
	2.1 V	上記以外（オンチップ・デバッグ中を含む） ^注

注 オンチップ・デバッグ中に、サブシステム・クロック動作やSTOPモードに移行する場合は、レギュレータ出力電圧は2.1 Vを継続します（1.8 Vにはなりません）。

第25章 オプション・バイト

25.1 オプション・バイトの機能

RL78/L12のフラッシュ・メモリの000C0H-000C3Hは、オプション・バイト領域です。

オプション・バイトは、ユーザ・オプション・バイト（000C0H-000C2H）とオンチップ・デバッグ・オプション・バイト（000C3H）で構成されています。

電源投入時またはリセットからの起動時に、自動的にオプション・バイトを参照して、指定された機能の設定を行います。製品使用の際には、必ずオプション・バイトにて次に示す機能の設定を行ってください。

なお、機能が配置されていないビットについては、必ず、本マニュアルで指定された値を設定ください。

25.1.1 ユーザ・オプション・バイト（000C0H-000C2H）

(1) 000C0H

- ウォッチドッグ・タイマの動作
 - ・ HALT/STOPモード時の動作停止／可能
- ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定
- ウォッチドッグ・タイマの動作
 - ・ 動作停止／可能
- ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定
- ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込み
 - ・ 使用する／使用しない

(2) 000C1H

- LVLDの動作モード設定
 - ・ 割り込み&リセット・モード
 - ・ リセット・モード
 - ・ 割り込みモード
 - ・ LVDオフ（RESET端子による外部リセットを使用）
- LVLD検出レベル（VLVDH, VLVDL, VLVD）の設定

注意 電源立ち上がり時は、30.4 または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲まで、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は、動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。動作電圧範囲は、ユーザ・オプション・バイト（000C2H）の設定により変わります。

(3) 000C2H

○フラッシュの動作モード設定

使用するメイン・システム・クロック周波数(f_{MAIN}), 電源電圧(V_{DD})に応じて設定

- ・ LV (低電圧メイン) モード
- ・ LS (低速メイン) モード
- ・ HS (高速メイン) モード

○高速オンチップ・オシレータの周波数設定

- ・ 24 MHz/16 MHz/12 MHz/8 MHz/6 MHz/4 MHz/3 MHz/2 MHz/1 MHz(TYP.)から選択

25. 1. 2 オンチップ・デバッグ・オプション・バイト (000C3H)

○オンチップ・デバッグ動作制御

- ・ オンチップ・デバッグ動作禁止/許可

○セキュリティID認証失敗時のフラッシュ・メモリ・データの処理

- ・ オンチップ・デバッグ・セキュリティID認証失敗時にフラッシュ・メモリのデータを消去する/消去しない

25.2 ユーザ・オプション・バイトのフォーマット

図25-1 ユーザ・オプション・バイト (000C0H) のフォーマット

アドレス : 000C0H

7	6	5	4	3	2	1	0
WDTINT	WINDOW1	WINDOW0	WDTON	WDCS2	WDCS1	WDCS0	WDSTBYON
WDTINT	ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの使用／不使用						
0	インターバル割り込みを使用しない						
1	オーパフロー時間の75%+1/2 f_{IL} 到達時にインターバル割り込みを発生する						
WINDOW1	WINDOW0	ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間 ^{注1}					
0	0	設定禁止					
0	1	50 %					
1	0	75 % ^{注2}					
1	1	100 %					
WDTON	ウォッチドッグ・タイマのカウンタの動作制御						
0	カウンタ動作禁止 (リセット解除後, カウント停止)						
1	カウンタ動作許可 (リセット解除後, カウント開始)						
WDCS2	WDCS1	WDCS0	ウォッチドッグ・タイマのオーパフロー時間 ($f_{IL} = 17.25 \text{ kHz (MAX.)}$ の場合)				
0	0	0	$2^6/f_{IL}$ (3.71 ms)				
0	0	1	$2^7/f_{IL}$ (7.42 ms)				
0	1	0	$2^8/f_{IL}$ (14.84 ms)				
0	1	1	$2^9/f_{IL}$ (29.68 ms)				
1	0	0	$2^{11}/f_{IL}$ (118.72 ms)				
1	0	1	$2^{13}/f_{IL}$ (474.90 ms)				
1	1	0	$2^{14}/f_{IL}$ (949.80 ms)				
1	1	1	$2^{16}/f_{IL}$ (3799.19 ms)				
WDSTBYON	ウォッチドッグ・タイマのカウンタ動作制御 (HALT/STOPモード時)						
0	HALT/STOPモード時, カウンタ動作停止 ^{注1}						
1	HALT/STOPモード時, カウンタ動作許可						

注1. WDSTBYON = 0のときは, WINDOW1, WINDOW0ビットの値に関係なく, ウインドウ・オープン期間100%となります。

注2. ウインドウ・オープン期間を75% に設定した時に, ウォッチドッグ・タイマのカウンタ・クリア (WDTE へのACHの書き込み) を行う場合, ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込み要求フラグ (WDTIIF) を確認する等, 下表に示すカウンタのクリア禁止期間以外のタイミングで実施してください。

WDCS2	WDCS1	WDCS0	ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間 ($f_{IL} = 17.25 \text{ kHz (MAX.)}$ の場合)	ウインドウ・オープン期間を75%に設定した 時のカウンタのクリア禁止期間
0	0	0	$2^6/f_{IL}$ (3.71 ms)	1.85 ms~2.51 ms
0	0	1	$2^7/f_{IL}$ (7.42 ms)	3.71 ms~5.02 ms
0	1	0	$2^8/f_{IL}$ (14.84 ms)	7.42 ms~10.04 ms
0	1	1	$2^9/f_{IL}$ (29.68 ms)	14.84 ms~20.08 ms
1	0	0	$2^{11}/f_{IL}$ (118.72 ms)	56.36 ms~80.32 ms
1	0	1	$2^{13}/f_{IL}$ (474.89 ms)	237.44 ms~321.26 ms
1	1	0	$2^{14}/f_{IL}$ (949.79 ms)	474.89 ms~642.51 ms
1	1	1	$2^{16}/f_{IL}$ (3799.18 ms)	1899.59 ms~2570.04 ms

備考 f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

図25-2 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) のフォーマット (1/2)

アドレス : 000C1H

7	6	5	4	3	2	1	0
VPOC2	VPOC1	VPOC0	1	LVIS1	LVIS0	LVIMDS1	LVIMDS0

・LVDの設定 (割り込み&リセット・モード)

検出電圧			オプション・バイト設定値						
V _{LV_{DH}}		V _{LV_{DL}}	VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定	
立ち上がり	立ち下がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0
1.77 V	1.73 V	1.63 V	0	0	0	1	0	1	0
1.88 V	1.84 V					0	1		
2.92 V	2.86 V					0	0		
1.98 V	1.94 V	1.84 V		0	1	1	0		
2.09 V	2.04 V					0	1		
3.13 V	3.06 V					0	0		
2.61 V	2.55 V	2.45 V		1	0	1	0		
2.71 V	2.65 V					0	1		
3.75 V	3.67 V					0	0		
2.92 V	2.86 V	2.75 V		1	1	1	0		
3.02 V	2.96 V					0	1		
4.06 V	3.98 V					0	0		
上記以外			設定禁止						

・LVDの設定 (リセット・モード)

検出電圧		オプション・バイト設定値									
V _{LV_D}		VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定				
立ち上がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0			
1.67 V	1.63 V	0	0	0	1	1	1	1			
1.77 V	1.73 V		0	0	1	0					
1.88 V	1.84 V		0	1	1	1					
1.98 V	1.94 V		0	1	1	0					
2.09 V	2.04 V		0	1	0	1					
2.50 V	2.45 V		1	0	1	1					
2.61 V	2.55 V		1	0	1	0					
2.71 V	2.65 V		1	0	0	1					
2.81 V	2.75 V		1	1	1	1					
2.92 V	2.86 V		1	1	1	0					
3.02 V	2.96 V		1	1	0	1					
3.13 V	3.06 V		0	1	0	0					
3.75 V	3.67 V		1	0	0	0					
4.06 V	3.98 V		1	1	0	0					
上記以外			設定禁止								

備考1. LVD回路の詳細は、第22章 電圧検出回路を参照してください。

2. 検出電圧はTYP.値です。詳細は、30.6.4または31.6.4 LVD回路特性を参照してください。

(注意は、次ページにあります。)

図25-2 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) のフォーマット (2/2)

アドレス : 000C1H

7	6	5	4	3	2	1	0
VPOC2	VPOC1	VPOC0	1	LVIS1	LVIS0	LVIMDS1	LVIMDS0

・LVDの設定 (割り込みモード)

検出電圧		オプション・バイト設定値						
V _{LVD}		VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定	
立ち上がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0
1.67 V	1.63 V	0	0	0	1	1	0	1
1.77 V	1.73 V		0	0	1	0		
1.88 V	1.84 V		0	1	1	1		
1.98 V	1.94 V		0	1	1	0		
2.09 V	2.04 V		0	1	0	1		
2.50 V	2.45 V		1	0	1	1		
2.61 V	2.55 V		1	0	1	0		
2.71 V	2.65 V		1	0	0	1		
2.81 V	2.75 V		1	1	1	1		
2.92 V	2.86 V		1	1	1	0		
3.02 V	2.96 V		1	1	0	1		
3.13 V	3.06 V		0	1	0	0		
3.75 V	3.67 V		1	0	0	0		
4.06 V	3.98 V		1	1	0	0		
上記以外			設定禁止					

・LVDオフ (RESET端子による外部リセットを使用)

検出電圧		オプション・バイト設定値						
V _{LVD}		VPOC2	VPOC1	VPOC0	LVIS1	LVIS0	モード設定	
立ち上がり	立ち下がり						LVIMDS1	LVIMDS0
—	—	1	×	×	×	×	0/1	1
上記以外		設定禁止						

注意1. ビット4には、必ず1を書き込んでください。

2. 電源立ち上がり時は、30.4または31.4 AC特性に示す動作電圧範囲まで、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態を保ってください。電源立ち下がり時は、動作電圧範囲を下回る前に、STOPモードに移行するか、電圧検出回路か外部リセットでリセット状態にしてください。

動作電圧範囲は、ユーザ・オプション・バイト (000C2H) の設定により変わります。

備考1. × : don't care

2. LVD回路の詳細は、第22章 電圧検出回路を参照してください。
3. 検出電圧はTYP.値です。詳細は、30.6.4または31.6.4 LVD回路特性を参照してください。

図25-3 ユーザ・オプション・バイト (000C2H) のフォーマット

アドレス : 000C2H

7	6	5	4	3	2	1	0
CMODE1	CMODE0	1	0	FRQSEL3	FRQSEL2	FRQSEL1	FRQSEL0

CMODE1	CMODE0	フラッシュの動作モード設定		
			動作周波数範囲(f_{MAIN})	動作電圧範囲(V_{DD})
0	0	LV (低電圧メイン) モード	1 MHz~4 MHz	1.6 V~5.5 V
1	0	LS (低速メイン) モード	1 MHz~8 MHz	1.8 V~5.5 V
1	1	HS (高速メイン) モード	1 MHz~16 MHz	2.4 V~5.5 V
			1 MHz~24 MHz	2.7 V~5.5 V
上記以外		設定禁止		

FRQSEL3	FRQSEL2	FRQSEL1	FRQSEL0	高速オンチップ・オシレータの周波数
0	0	0	0	24 MHz
1	0	0	1	16 MHz
0	0	0	1	12 MHz
1	0	1	0	8 MHz
0	0	1	0	6 MHz
1	0	1	1	4 MHz
0	0	1	1	3 MHz
1	1	0	0	2 MHz
1	1	0	1	1 MHz
上記以外				設定禁止

注意1. ビット5, 4には、必ず10Bを書き込んでください。

2. 動作周波数範囲と動作電圧範囲は、フラッシュの各動作モードによって異なります。詳細は、30.4または31.4 AC特性を参照してください。

25.3 オンチップ・デバッグ・オプション・バイトのフォーマット

オンチップ・デバッグ・オプション・バイトのフォーマットを次に示します。

図25-4 オンチップ・デバッグ・オプション・バイト (000C3H) のフォーマット

アドレス : 000C3H

	7	6	5	4	3	2	1	0
OCDENSET	0	0	0	0	0	1	0	OCDERSD

OCDENSET	OCDERSD	オンチップ・デバッグ動作制御
0	0	オンチップ・デバッグ動作禁止
0	1	設定禁止
1	0	オンチップ・デバッグ動作許可。 オンチップ・デバッグ・セキュリティID認証失敗時にフラッシュ・メモリのデータを消去する
1	1	オンチップ・デバッグ動作許可。 オンチップ・デバッグ・セキュリティID認証失敗時にフラッシュ・メモリのデータを消去しない

注意 ビット7, 0 (OCDENSET, OCDERSD) のみ, 値を指定できます。

ビット6-1には, 必ず000010Bを書き込んでください。

備考 ビット3-1は, オンチップ・デバッグ機能使用時に値が書き変わるので, 設定後は不定となります。

ただし, 設定時にはビット3-1にも, 必ず初期値 (0, 1, 0) を設定してください。

25.4 オプション・バイトの設定

ユーザ・オプション・バイトとオンチップ・デバッグ・オプション・バイトは、ソースへの記述による設定の他にアセンブラのリンカ・オプションでも設定することができます。その場合、下記のようにソースに記述があってもリンカ・オプションでの設定内容が優先されます。

オプション・バイト設定のソフトウェア記述例を次に示します。

OPT	CSEG	OPT_BYTE	
	DB	36H	; ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みを使用しない, ; ウォッチドッグ・タイマ動作許可, ; ウォッチドッグ・タイマのウィンドウ・オープン期間50%, ; ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間 $2^9/t_{IL}$, ; HALT/STOPモード時, ウォッチドッグ・タイマの動作停止
	DB	1AH	; VLVDLに1.63 Vを選択 ; VLVDHに立ち上がり1.77 V, 立ち下がり1.73 Vを選択 ; LVDの動作モードに割り込み&リセット・モードを選択
	DB	2DH	; フラッシュの動作モードにLV（低電圧メイン）モード, 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数 1 MHzを選択
	DB	85H	; オンチップ・デバッグ動作許可, セキュリティID認証失敗時に ; フラッシュ・メモリのデータを消去しない。

注意 オプション・バイトをアセンブリ言語により指定する場合、CSEG疑似命令の再配置属性名はOPT_BYTEを使用してください。

第26章 フラッシュ・メモリ

RL78マイクロコントローラは、プログラムの書き込み、消去、再書き込み可能なフラッシュ・メモリを内蔵しています。フラッシュ・メモリには、プログラム実行可能な“コード・フラッシュ”とデータ格納領域の“データ・フラッシュ”があります。



フラッシュ・メモリのプログラミング方法は、次のとおりです。

コード・フラッシュ・メモリは、フラッシュ・メモリ・プログラマまたは外部デバイス（UART通信）によるシリアル・プログラミングもしくは、セルフ・プログラミングで書き換えることができます。

- ・フラッシュ・メモリ・プログラマによるシリアル・プログラミング（26.1 参照）

専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用してオンボードまたはオフボードで書き込みができます。

- ・外部デバイス（UART通信）によるシリアル・プログラミング（26.2 参照）

外部デバイス（マイコンやASIC）とのUART通信を使用してオンボード上で書き込みができます。

- ・セルフ・プログラミング（26.7 参照）

フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを利用して、ユーザ・アプリケーション上でコード・フラッシュ・メモリの自己書き換えができます。

データ・フラッシュ・メモリは、データ・フラッシュ・ライブラリを利用して、ユーザ・プログラム実行中に書き換えることができます（バックグラウンド・オペレーション）。データ・フラッシュへのアクセスや書き込みについては、26.8 データ・フラッシュを参照してください。

26.1 フラッシュ・メモリ・プログラマによる書き込み方法

RL78マイクロコントローラの内蔵フラッシュ・メモリにデータを書き込むために、次の専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用できます。

- ・ PG-FP5, PG-FP6
- ・ E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータ

専用フラッシュ・メモリ・プログラマにより、オンボードまたはオフボードで書き込みができます。

(1) オンボード・プログラミング

ターゲット・システム上にRL78マイクロコントローラを実装後、フラッシュ・メモリの内容を書き換えます。ターゲット・システム上には、専用フラッシュ・メモリ・プログラマを接続するためのコネクタなどを実装しておいてください。

(2) オフボード・プログラミング

ターゲット・システム上にRL78マイクロコントローラを実装する前に専用プログラム・アダプタなどでフラッシュ・メモリに書き込みます。

表26-1 RL78/L12と専用フラッシュ・メモリ・プログラムの配線表

専用フラッシュ・メモリ・ プログラマ接続端子				端子名	ピン番号				
信号名	入出力	端子機能			32ピン	44ピン	48ピン	52ピン	64ピン
PG-FP5, PG-FP6	E1, E2, E2 Lite, E20 オンチップデ バッグ エミュレー タ				LQFP (7×7)	LQFP (10×10)	LFQFP (7×7)	LQFP (10×10)	LQFP (12×12), LFQFP (10×10), HWQFN (8×8)
—	TOOL0	入出力	送受信信号	TOOL0/ P40	1	2	3	4	5
SI/RxD	—	入出力	送受信信号						
SCK	—	出力	—	—	—	—	—	—	—
CLK	—	出力	—	—	—	—	—	—	—
—	RESET_ OUT	出力	リセット信号	RESET	2	3	4	5	6
RESET	—	出力							
FLMD0	—	出力	モード信号	—	—	—	—	—	—
V _{DD} ^{注1}		入出力	V _{DD} 電圧生成/ 電源監視	V _{DD}	8	11	12	13	15
GND	—	—	グラウンド	V _{SS}	7	10	11	12	13
				EV _{SS}	—	—	—	—	14
				REGC 注2	6	9	10	11	12
FLMD1	EMV _{DD}	—	TOOL0端子 駆動電源	V _{DD}	8	11	12	13	—
				EV _{DD}	—	—	—	—	16

注1 PG-FP6の信号名はV_{CC}です。

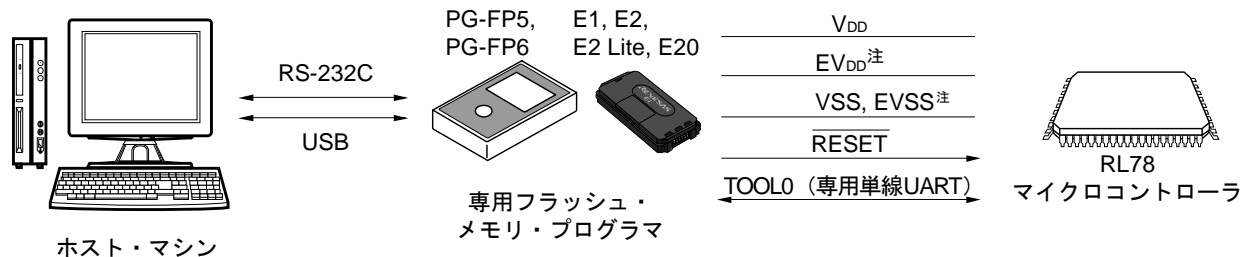
注2 REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μF) を介してグラウンドに接続してください。

備考 この表に記載されていない端子は、フラッシュ・メモリ・プログラムによるプログラミング時にはオープンで構いません。

26.1.1 プログラミング環境

RL78マイクロコントローラのフラッシュ・メモリにプログラムを書き込むために必要な環境を示します。

図26-1 フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境



注 64ピン製品のみ。

専用フラッシュ・メモリ・プログラマには、これを制御するホスト・マシンが必要です。

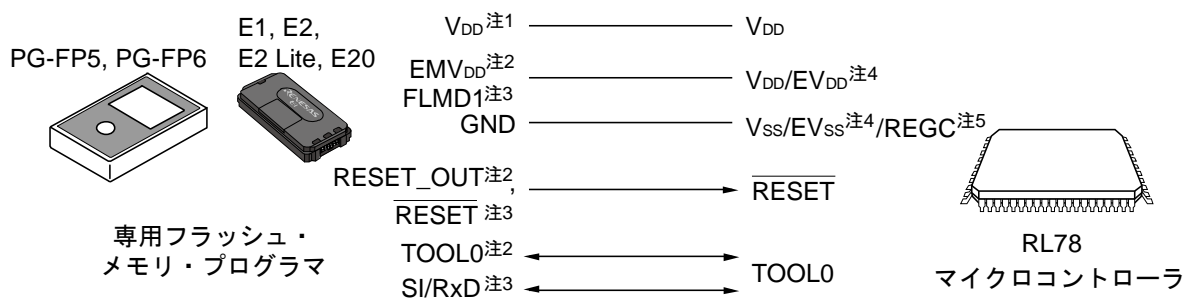
また、専用フラッシュ・メモリ・プログラマとRL78マイクロコントローラとのインターフェースはTOOL0端子を使用して、専用の単線UARTで書き込み／消去の操作を行います。

26.1.2 通信方式

専用フラッシュ・メモリ・プログラマとRL78マイクロコントローラとの通信は、RL78マイクロコントローラのTOOL0端子を使用して、専用の単線UARTによるシリアル通信で行います。

転送レート： 1 M, 500 k, 250 k, 115.2 kbps

図26-2 専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信



注1. PG-FP6の信号名はV_{CC}です。

2. E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータ使用時。

3. PG-FP5, PG-FP6使用時。

4. 64ピン製品のみ。

5. REGC端子はコンデンサ（0.47~1 μF）を介してグラウンドに接続してください。

専用フラッシュ・メモリ・プログラマはRL78マイクロコントローラに対して次の信号を生成します。詳細はPG-FP5, PG-FP6またはE1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータのマニュアルを参照してください。

表26-2 端子接続一覧

専用フラッシュ・メモリ・プログラマ		RL78マイクロコントローラ	
信号名	入出力	端子機能	端子名 ^{注1}
PG-FP5, PG-FP6	E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータ		
V_{DD} ^{注2}	入出力	V_{DD} 電圧生成／電圧監視	V_{DD}
GND	—	グラウンド	V_{SS} , EV_{SS} , REGC ^{注3}
FLMD1	EMV _{DD}	—	V_{DD} , EV_{DD}
RESET	—	出力	リセット信号
—	RESET_OUT	出力	RESET
—	TOOL0	入出力	送受信信号
SI/RxD	—	入出力	送受信信号

注1. 接続先端子は、製品によって異なります。詳細は、表26-1を参照してください。

注2. PG-FP6の信号名は V_{CC} です

注3. REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μ F) を介してグラウンドに接続してください。

26.2 外部デバイス (UART内蔵) による書き込み方法

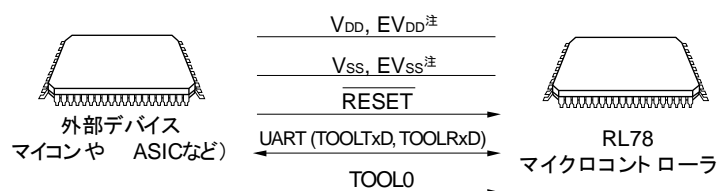
オンボード上でRL78マイクロコントローラとUART接続されている外部デバイス (マイコンやASIC) を使って、内蔵フラッシュ・メモリにデータを書き込むことができます。

ユーザでのフラッシュ・メモリ・プログラマの開発については、RL78マイクロコントローラ (RL78プロトコルA) プログラマ編アプリケーション・ノート (R01AN0815) を参照してください。

26.2.1 プログラミング環境

RL78マイクロコントローラのフラッシュ・メモリにプログラムを書き込むために必要な環境を示します。

図26-3 フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境



注 64ピン製品のみ。

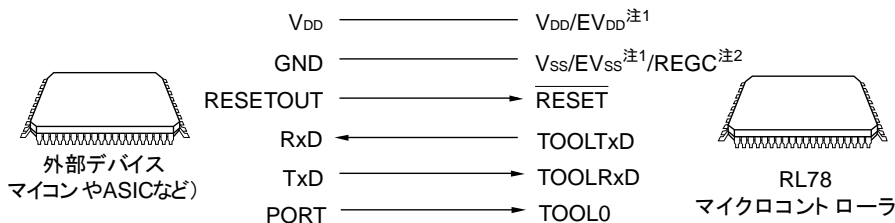
外部デバイスからRL78マイクロコントローラに書き込み／消去する場合はオンボード上で行います。オフボードで書き込むことはできません。

26.2.2 通信方式

外部デバイスとRL78マイクロコントローラとの通信は、RL78マイクロコントローラのTOOLTxD, TOOLRxD端子を使用して、専用のUARTによるシリアル通信で行います。

転送レート： 1 M, 500 k, 250 k, 115.2 kbps

図26-4 外部デバイスとの通信



注1. 64ピン製品のみ。

注2. REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μF) を介してグラウンドに接続してください。

外部デバイスはRL78/L12に対して次の信号を生成します。

表26-3 端子接続一覧

外部デバイス			RL78マイクロコントローラ
信号名	入出力	端子機能	端子名
V _{DD}	入出力	V _{DD} 電圧生成／電圧監視	V _{DD} , EV _{DD}
GND	—	グラウンド	V _{SS} , EV _{SS} , REGC ^注
RESETOUT	出力	リセット信号出力	RESET
RxD	入力	受信信号	TOOLTxD
TxD	出力	送信信号	TOOLRxD
PORT	出力	モード信号	TOOL0

注 REGC端子はコンデンサ (0.47~1 μF) を介してグラウンドに接続してください。

26.3 オンボード上の端子処理

フラッシュ・メモリ・プログラマによるオンボード書き込みを行う場合は、ターゲット・システム上に専用フラッシュ・メモリ・プログラマと接続するためのコネクタを設けます。また、オンボード上に通常動作モードからフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへの切り替え機能を設けてください。

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移すると、フラッシュ・メモリ・プログラミングに使用しない端子は、すべてリセット直後と同じ状態になります。したがって、外部デバイスがリセット直後の状態を認めない場合は端子処理が必要です。

備考 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに関しては、26.6 セルフ・プログラミングを参照してください。

26.3.1 P40/TOOL0端子

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時は、外部で1 k Ω の抵抗でプルアップし、専用フラッシュ・メモリ・プログラマに接続してください。

ポート端子として使用する場合、以下の方法で使用してください。

入力時：外部端子リセット解除時から1 msの期間はロウ・レベルを入力しないでください。また、プルダウンで使用する場合は、500 k Ω 以上の抵抗を使用してください。

出力時：プルダウンで使用する場合は、500 k Ω 以上の抵抗を使用してください。

備考1. t_{HD} ：フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに引き込むときに、外部/内部リセット解除からTOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間。30.11 または31.11 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード引き込み時タイミングを参照してください。

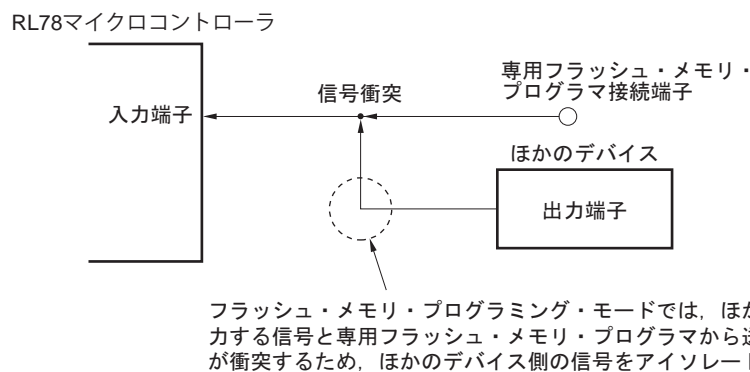
2. RL78マイクロコントローラと専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信には、単線UART (TOOL0端子) を使用するのので、SAUやIICAの端子は使用しません。

26.3.2 RESET端子

オンボード上で、リセット信号生成回路と接続しているRESET端子に、専用フラッシュ・メモリ・プログラマや外部デバイスのリセット信号を接続する場合、信号の衝突が発生します。この信号の衝突を避けるため、リセット信号生成回路との接続をアイソレートしてください。

また、フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード期間中に、ユーザ・システムからリセット信号を入力した場合、正常なプログラミング動作が行われなくなるので、専用フラッシュ・メモリ・プログラマまたは外部デバイスからのリセット信号以外は入力しないでください。

図26-5 信号の衝突 (RESET端子)



26.3.3 ポート端子

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに移行すると、フラッシュ・メモリ・プログラミングに使用しない端子は、すべてリセット直後と同じ状態になります。したがって、各ポートに接続された外部デバイスが、リセット直後のポート状態を認めない場合は、抵抗を介して V_{DD} または EV_{DD} に接続するか、もしくは抵抗を介して V_{SS} または EV_{SS} に接続するなどの端子処理が必要です。

26.3.4 REGC端子

REGC端子は、通常動作時と同様に、コンデンサ ($0.47\sim 1\ \mu\text{F}$) を介し、GNDに接続してください。また、内部電圧の安定のために使用するため、特性のよいコンデンサを使用してください。

26.3.5 X1, X2端子

X1, X2は、通常動作モード時と同じ状態に接続してください。

備考 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時は、高速オンチップ・オシレータ・クロック (f_{IH}) を使用します。

26.3.6 電 源

フラッシュ・メモリ・プログラマの電源出力を使用する場合は、 V_{DD} 端子はフラッシュ・メモリ・プログラマの V_{DD} ^注に、 V_{SS} 端子はフラッシュ・メモリ・プログラマのGNDに、それぞれ接続してください。

オンボード上の電源を使用する場合は、通常動作モード時に準拠した接続にしてください。

ただしフラッシュ・メモリ・プログラマによる書き込みの場合は、オンボード上の電源を使用する場合においても、フラッシュ・メモリ・プログラマで電圧監視をするため、 V_{DD} , V_{SS} 端子はフラッシュ・メモリ・プログラマの V_{DD} ^注, GNDと必ず接続してください。

その他の電源 (EV_{DD} , EV_{SS}) は、 V_{DD} , V_{SS} と同じ電源を供給してください。

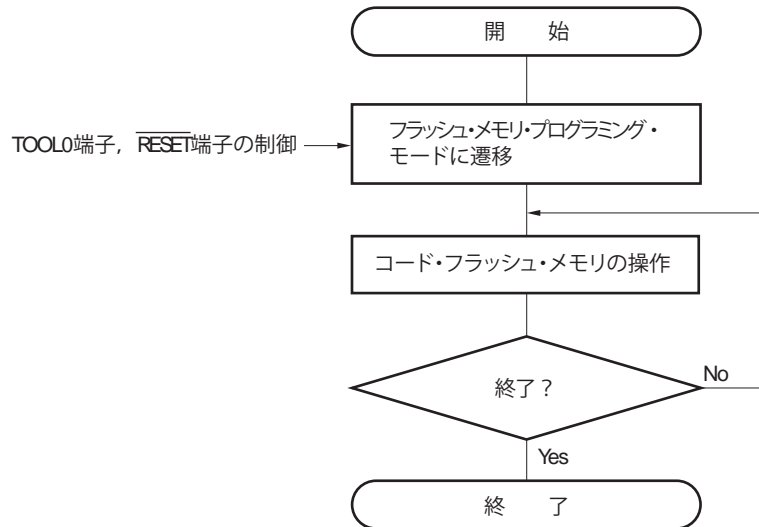
注 PG-FP6の信号名は V_{CC} です。

26.4 シリアル・プログラミング方法

26.4.1 シリアル・プログラミング手順

シリアル・プログラミングでコード・フラッシュ・メモリの書き換えを行う流れを示します。

図26-6 コード・フラッシュ・メモリの操作手順



26.4.2 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード

コード・フラッシュ・メモリの内容をシリアル・プログラミングで書き換えるときは、フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードにしてください。フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへ遷移するには、次のようにしてください。

<専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用してシリアル・プログラミングする場合>

RL78マイクロコントローラを専用フラッシュ・メモリ・プログラマと接続します。専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信により、自動的にフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移します。

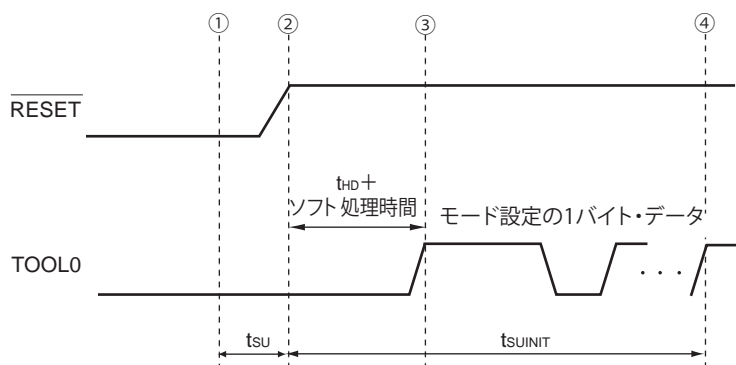
<外部デバイス（UART通信）を使用してシリアル・プログラミングする場合>

TOOL0端子をロウ・レベルに設定後、リセットを解除します（表26-4 参照）。その後、図26-7に示す①～④の手順でフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへ遷移します。詳細は、RL78マイクロコントローラ（RL78プロトコルA）プログラマ編アプリケーション・ノート（R01AN0815）を参照してください。

表26-4 リセット解除時のTOOL0端子の動作モードとの関係

TOOL0	動作モード
EV _{DD}	通常動作モード
0 V	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード

図26-7 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへの引き込み



- ① TOOL0端子にロウ・レベルを入力
- ② 外部リセットを解除（その前にPOR, LVDリセットが解除されていること）
- ③ TOOL0端子のロウ・レベルを解除
- ④ UART受信によるボー・レート設定完了

備考 tsuINIT : この区間では、リセット解除から100 ms 以内に初期設定通信を完了してください。

tsu : TOOL0端子をロウ・レベルにしてから、外部リセットを解除するまでの時間

tHD : 外部／内部リセット解除から、TOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間（フラッシュ・ファーム処理時間を除く）

詳細は、30. 11 または31. 11 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード引き込み時タイミングを参照してください。

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードには、ワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードの2つのモードがあります。モード選択は、書き込み時マイコンに供給されている電源電圧値およびフラッシュ・メモリ・プログラミング・モード引き込み時のユーザ・オプション・バイトの設定情報によって決定されます。

なお、専用フラッシュ・メモリ・プログラマを使用してシリアル・プログラミングする場合は、GUI上で電圧設定を行うことでモードが自動選択されます。

表26-5 プログラミング・モードと書き込み/消去/ベリファイ実行可能電圧

電源電圧 (V_{DD})	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード 引き込み時のオプション・バイトの設定		フラッシュ書き換えモード
	フラッシュ動作モード	動作周波数	
$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	ブランク状態		フルスピード・モード
	HS (高速メイン) モード	1 MHz~32 MHz	フルスピード・モード
	LS (低速メイン) モード	1 MHz~8 MHz	ワイド・ボルテージ・モード
	LV (低電圧メイン) モード	1 MHz~4 MHz	ワイド・ボルテージ・モード
$2.4\text{ V} \leq V_{DD} < 2.7\text{ V}$	ブランク状態		フルスピード・モード
	HS (高速メイン) モード	1 MHz~16 MHz	フルスピード・モード
	LS (低速メイン) モード	1 MHz~8 MHz	ワイド・ボルテージ・モード
	LV (低電圧メイン) モード	1 MHz~4 MHz	ワイド・ボルテージ・モード
$1.8\text{ V} \leq V_{DD} < 2.4\text{ V}$	ブランク状態		ワイド・ボルテージ・モード
	LS (低速メイン) モード	1 MHz~8 MHz	ワイド・ボルテージ・モード
	LV (低電圧メイン) モード	1 MHz~4 MHz	ワイド・ボルテージ・モード

- 備考1. ワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードを併用した場合でも、書き込み/消去/ベリファイを行ううえで制限事項はありません。
2. 通信コマンドの詳細は、26.4.4 通信コマンドを参照してください。

26.4.3 通信方式

RL78マイクロコントローラの通信方式は、次のようになります。

表26-6 通信方式

通信方式	Standard設定 ^{注1}				使用端子
	Port	Speed ^{注2}	Frequency	Multiply Rate	
単線UART (フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時、または外部デバイス使用時)	UART	115200 bps, 250000 bps, 500000 bps, 1 Mbps	—	—	TOOL0
専用UART (外部デバイス使用時)	UART	115200 bps, 250000 bps, 500000 bps, 1 Mbps	—	—	TOOLTxD, TOOLRxD

注1. フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上のStandard設定における設定項目です。

- UART通信にはボー・レート誤差のほかに、信号波形の鈍りなどが影響するため、評価のうえ使用してください。

26.4.4 通信コマンド

RL78マイクロコントローラは、表26-7に示すコマンドを介してシリアル・プログラミングを実行します。

専用フラッシュ・メモリ・プログラマまたは外部デバイスからRL78マイクロコントローラへ送られる信号を「コマンド」と呼び、そのコマンドに対応した各機能の処理を行います。詳細は、RL78マイクロコントローラ (RL78プロトコルA) プログラマ編アプリケーション・ノート (R01AN0815) を参照してください。

表26-7 フラッシュ・メモリ制御用コマンド

分類	コマンド名称	機能
ベリファイ	Verify	フラッシュ・メモリの指定された領域の内容とプログラマから送信されたデータを比較します。
消去	Block Erase	指定された領域のフラッシュ・メモリを消去します。
ブランクチェック	Block Blank Check	指定されたブロックのフラッシュ・メモリの消去状態をチェックします。
書き込み	Programming	フラッシュ・メモリの指定された領域にデータを書き込みます ^注 。
情報取得	Silicon Signature	RL78マイクロコントローラ情報 (品名、フラッシュ・メモリ構成、プログラミング用ファームウェア・バージョンなど) を取得します。
	Checksum	指定された領域のチェックサム・データを取得します。
セキュリティ	Security Set	セキュリティ情報を設定します。
	Security Get	セキュリティ情報を取得します。
	Security Release	書き込み禁止設定を解除します。
その他	Reset	通信の同期検出に使用します。
	Baud Rate Set	UART選択時のボー・レートを設定します。

注 書き込み領域に、すでにデータが書き込まれていないことを確認してください。ブロック消去禁止に設定後は消去できないため、データが消去されていない場合は、データを書き込まないでください。

“Silicon Signature” コマンドを実行することで製品情報（品名、ファームウェア・バージョン）を取得することができます。

表26-8にシグネチャ・データ一覧、表26-9にシグネチャ・データ例を示します。

表26-8 シグネチャ・データ一覧

フィールド名	内容	送信バイト数
デバイス・コード	デバイスに割り振られたシリアル番号	3バイト
デバイス名	デバイス名 (ASCIIコード)	10バイト
コード・フラッシュ・メモリ領域 最終アドレス	コード・フラッシュ・メモリ領域の最終アドレス (アドレス下位から送信されます。 例. 00000H-0FFFFH (64 KB) → FFH, FFH, 00H)	3バイト
データ・フラッシュ・メモリ領域 最終アドレス	データ・フラッシュ・メモリ領域の最終アドレス (アドレス下位から送信されます。 例. F1000H-F1FFFH (4 KB) → FFH, 1FH, 0FH)	3バイト
ファームウェア・バージョン	プログラミング用ファームウェアのバージョン情報 (バージョンの上位から送信されます。 例. Ver. 1. 23 → 01H, 02H, 03H)	3バイト

表26-9 シグネチャ・データ例

フィールド名	内容	送信バイト数	データ (16進数)
デバイス・コード	RL78プロトコルA	3バイト	10 00 06
デバイス名	R5F10RLC	10バイト	52 = "R" 35 = "5" 46 = "F" 31 = "1" 30 = "0" 52 = "R" 4C = "L" 43 = "C" 20 = " 20 = "
コード・フラッシュ・メモリ領域 最終アドレス	コード・フラッシュ・メモリ領域 00000H-0FFFFH (64 KB)	3バイト	FF FF 00
データ・フラッシュ・メモリ領域 最終アドレス	データ・フラッシュ・メモリ領域 F1000H-F1FFFH (4 KB)	3バイト	FF 1F 0F
ファームウェア・バージョン	Ver. 1. 23	3バイト	01 02 03

26.5 専用フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時の各コマンド処理時間 (参考値)

専用フラッシュ・メモリ・プログラマとしてPG-FP5、PG-FP6を使用した場合の各コマンド処理時間（参考値）を次に示します。

表26-10 PG-FP5使用時の各コマンド処理時間（参考値）

PG-FP5のコマンド	コード・フラッシュ		
	8 Kバイト	16 Kバイト	32 Kバイト
消去	1 s	1.5 s	1.5 s
書き込み	1.5 s	1.5 s	2 s
ベリファイ	1.5 s	1.5 s	1.5 s
消去後、書き込み	1.5 s	2 s	2.5 s

備考 コマンド処理時間（参考値）はTYP.値です。次に条件を示します。

Port : TOOL0（単線UART）

Speed : 1,000,000 bps

Mode : フルスピード・モード（フラッシュ動作モード：HS（高速メイン）モード）

表26-11 PG-FP6使用時の各コマンド処理時間（参考値）

PG-FP6のコマンド	コード・フラッシュ		
	8 Kバイト	16 Kバイト	32 Kバイト
消去	0.7 s	0.7 s	0.8 s
書き込み	0.6 s	0.8 s	1.3 s
ベリファイ	0.5 s	0.7 s	1.1 s
消去後、書き込み	1.0 s	1.2 s	1.8 s

備考 コマンド処理時間（参考値）はTYP.値です。次に条件を示します。

Port : TOOL0（単線UART）

Speed : 1,000,000 bps

Mode : フルスピード・モード（フラッシュ動作モード：HS（高速メイン）モード）

26.6 セルフ・プログラミング

RL78マイクロコントローラは、ユーザ・プログラムでコード・フラッシュ・メモリの書き換えを行うためのセルフ・プログラミング機能をサポートしています。この機能はフラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを利用することにより、ユーザ・アプリケーションでコード・フラッシュ・メモリの書き換えが可能となるので、フィールドでのプログラムのアップグレードなどができるようになります。

注意1. CPUがサブシステム・クロック動作時の場合、セルフ・プログラミング機能は使用できません。

2. セルフ・プログラミング中に割り込みを禁止するためには、通常動作モード時と同様に、DI命令によりIEフラグがクリア (0) されている状態でフラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを実行してください。

割り込みを許可する場合は、EI命令によりIEフラグがセット (1) されている状態で、受け付ける割り込みの割り込みマスク・フラグをクリア (0) して、フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを実行してください。

3. セルフ・プログラミング中は、高速オンチップ・オシレータを動作させておく必要があります。高速オンチップ・オシレータを停止させている場合は、高速オンチップ・オシレータ・クロック動作 (HIOSTOP = 0) させ、30 μ s経過後にフラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを実行してください。

備考 セルフ・プログラミング機能の詳細は、RL78マイクロコントローラ フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリ Type01 ユーザーズ・マニュアル (R01US0050) を参照してください。

また、セルフ・プログラミング機能には、フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードによるワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードの2つのモードがあります。

オプション・バイト000C2HのCMODE1, CMODE0で設定したフラッシュの動作モードに合わせて、いずれかのモードを設定してください。

HS (高速メイン) モード設定時はフルスピード・モードに、LS (低速メイン) モードおよびLV (低電圧メイン) モード設定時はワイド・ボルテージ・モードに設定してください。

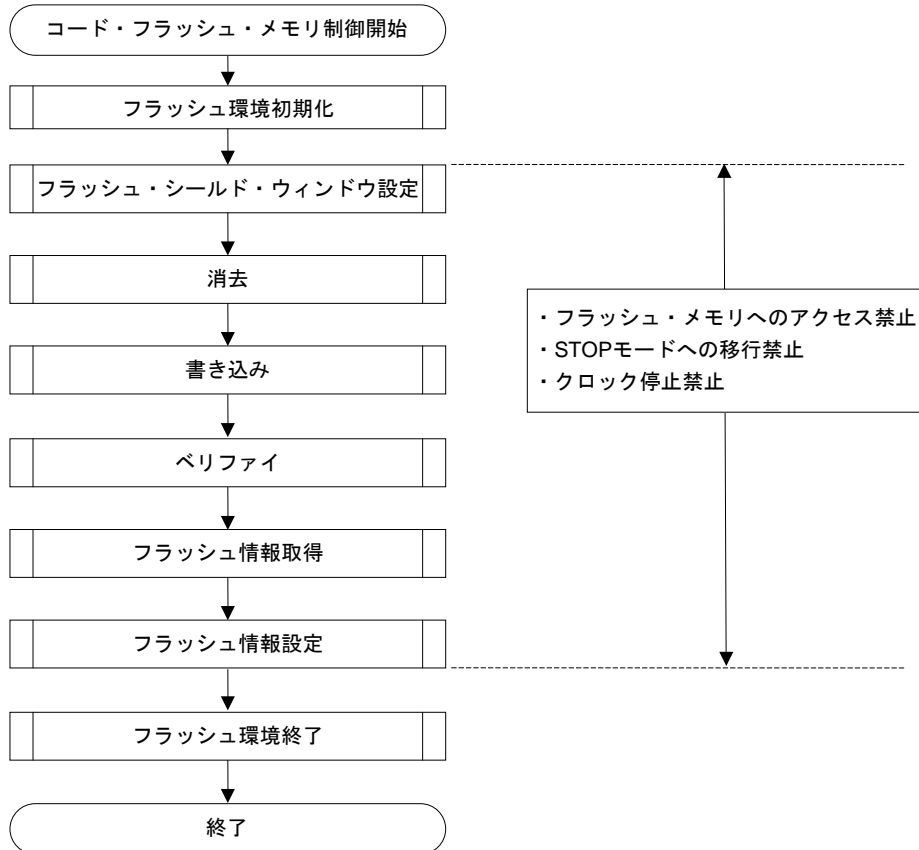
当社提供のフラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリの関数"FSL_Init"実行時に、引数である"fs_l_flash_voltage_u08"が00Hであればフルスピード・モードに、00H以外であればワイド・ボルテージ・モードに設定されます。

備考 ワイド・ボルテージ・モードとフルスピード・モードを併用した場合でも、書き込み/消去/ベリファイを行ううえで制限事項はありません。

26.6.1 セルフ・プログラミング手順

フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリを利用してコード・フラッシュ・メモリの書き換えを行う流れを示します。

図26-8 セルフ・プログラミング（フラッシュ・メモリの書き換え）の流れ



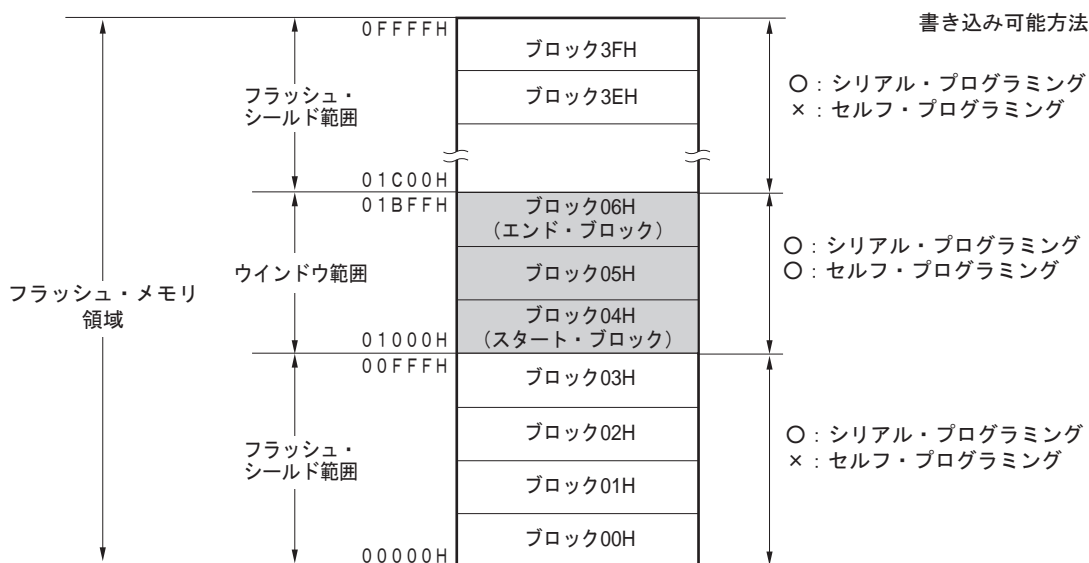
26. 6. 2 フラッシュ・シールド・ウインドウ機能

セルフ・プログラミング時のセキュリティ機能の一つとして、フラッシュ・シールド・ウインドウ機能があります。フラッシュ・シールド・ウインドウ機能は、指定したウインドウ範囲以外の書き込みおよび消去を、セルフ・プログラミング時のみ禁止にするセキュリティ機能です。

ウインドウ範囲は、スタート・ブロックとエンド・ブロックを指定することで設定できます。ウインドウ範囲の指定は、シリアル・プログラミングおよびセルフ・プログラミングの両方で設定／変更できます。

ウインドウ範囲以外の領域は、セルフ・プログラミング時には書き込み／消去禁止となります。ただし、シリアル・プログラミング時にはウインドウとして指定した範囲外にも書き込み／消去可能です。

図26-9 フラッシュ・シールド・ウインドウの設定例
(対象デバイス：R5F100LE, スタート・ブロック：04H, エンド・ブロック：06Hの場合)



- 注意1. フラッシュ・シールド・ウインドウのウインドウ範囲内にブート・クラスタ0の書き換え禁止領域が重なる場合は、ブート・クラスタ0の書き換え禁止が優先されます。
2. フラッシュ・シールド・ウインドウはコード・フラッシュのみ設定可能です（データ・フラッシュは対応していません）。

表26-12 フラッシュ・シールド・ウインドウ機能の設定／変更方法とコマンドの関係

プログラミング条件	ウインドウ範囲の設定／変更方法	実行コマンド	
		ブロック消去	書き込み
セルフ・プログラミング時	フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリで、ウインドウの先頭ブロック、最終ブロックを指定する	ウインドウ範囲内のみブロック消去できる	ウインドウ範囲内のみ書き込みできる
シリアル・プログラミング時	専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで、ウインドウの先頭ブロック、最終ブロックを指定する	ウインドウ範囲外もブロック消去可能	ウインドウ範囲外も書き込み可能

備考 シリアル・プログラミング時の書き込み／消去を禁止したい場合には、26. 7 セキュリティ設定を参照してください。

26.7 セキュリティ設定

RL78マイクロコントローラは、フラッシュ・メモリに書かれたユーザ・プログラムの書き換えを禁止するセキュリティ機能をサポートしており、第三者によるプログラムの改ざん防止などに対応可能となっています。Security Setコマンドを使用することにより、次の操作をすることができます。

- ・ブロック消去禁止

シリアル・プログラミング時に、フラッシュ・メモリ内のブロック消去コマンドの実行を禁止します。ただし、セルフ・プログラミング時でのブロック消去は可能です。

- ・書き込み禁止

シリアル・プログラミング時に、コード・フラッシュ・メモリ内の全ブロックに対しての書き込みコマンドの実行を禁止にします。ただし、セルフ・プログラミング時での書き込みは可能です。書き込み禁止に設定後、Security Releaseコマンドによる解除はリセットで有効になります。

- ・ブート・クラスタ0の書き換え禁止

コード・フラッシュ・メモリ内のブート・クラスタ0 (00000H-00FFFH) に対して、ブロック消去コマンド、書き込みコマンドの実行を禁止します。

出荷時の初期状態では、ブロック消去／書き込み／ブート・クラスタ0の書き換えはすべて許可になっています。セキュリティは、シリアル・プログラミングおよびセルフ・プログラミングで設定できます。各セキュリティ設定に関しては、同時に組み合わせて使用できます。

RL78マイクロコントローラのセキュリティ機能を有効にした場合の、消去、書き込みコマンドの関係を表26-13に示します。

注意 ただし、専用フラッシュ・ライタのセキュリティ機能は、セルフ・プログラミングに対応していません。

備考 セルフ・プログラミング時の書き込み／消去を禁止したい場合には、フラッシュ・シールド・ウインドウ機能を使います（詳細は26.6.2を参照）。

表26-13 セキュリティ機能有効時とコマンドの関係

(1) シリアル・プログラミング時

有効なセキュリティ	実行コマンド	
	ブロック消去	書き込み
ブロック消去禁止	ブロック消去できない	書き込みできる ^注
書き込み禁止	ブロック消去できる	書き込みできない
ブート・クラスタ0の書き換え禁止	ブート・クラスタ0は消去できない	ブート・クラスタ0は書き込みできない

注 書き込み領域に、すでにデータが書き込まれていないことを確認してください。ブロック消去禁止設定後は消去できないため、データが消去されていない場合は、データを書き込まないでください。

(2) セルフ・プログラミング時

有効なセキュリティ	実行コマンド	
	ブロック消去	書き込み
ブロック消去禁止	ブロック消去できる	書き込みできる
書き込み禁止		
ブート・クラスタ0の書き換え禁止	ブート・クラスタ0は消去できない	ブート・クラスタ0は書き込みできない

備考 セルフ・プログラミング時の書き込み／消去を禁止したい場合には、フラッシュ・シールド・ウィンドウ機能を使います（詳細は26.6.2を参照）。

表26-14 各プログラミング・モード時のセキュリティ設定方法

(1) シリアル・プログラミング時

セキュリティ	セキュリティ設定方法	セキュリティ設定を無効にする方法
ブロック消去禁止	専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで設定する	設定後、無効にできない
書き込み禁止		専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで設定する
ブート・クラスタ0の書き換え禁止		設定後、無効にできない

注意 “書き込み禁止”設定の解除は、“ブロック消去禁止”，“ブート・クラスタ0の書き換え禁止”に設定されていない状態で、かつコード・フラッシュ領域，データ・フラッシュ領域がブランクの場合でのみ可能です。

(2) セルフ・プログラミング時

セキュリティ	セキュリティ設定方法	セキュリティ設定を無効にする方法
ブロック消去禁止	フラッシュ・セルフ・プログラミング・ライブラリで設定する	設定後、無効にできない
書き込み禁止		セルフ・プログラミングでは無効にできない（シリアル・プログラミング時に、専用フラッシュ・メモリ・プログラマのGUI上などで設定する）
ブート・クラスタ0の書き換え禁止		設定後、無効にできない

26.8 データ・フラッシュ

26.8.1 データ・フラッシュの概要

データ・フラッシュの概要は次のとおりです。

- ・データ・フラッシュ・ライブラリを利用することにより、ユーザ・プログラムでデータ・フラッシュ・メモリの書き換えが可能。詳細は、RL78ファミリ データ・フラッシュ・ライブラリ ユーザーズ・マニュアルを参照してください。
- ・専用フラッシュ・メモリ・プログラマや外部デバイスによるシリアル・プログラミングでも書き換え可能
- ・データ・フラッシュは、1ブロック = 1 Kバイト単位で消去
- ・データ・フラッシュは、8ビット単位でのみアクセス可能
- ・データ・フラッシュは、CPU命令で直接読み出し可能
- ・データ・フラッシュの書き換え中に、コード・フラッシュからの命令実行は可能（バックグラウンド・オペレーション（BGO）対応）
- ・データ・フラッシュは、データ専用領域のため、データ・フラッシュからの命令実行は禁止
- ・コード・フラッシュの書き換え中（セルフ・プログラミング時）に、データ・フラッシュにアクセスすることは禁止
- ・データ・フラッシュの書き換え中に、DFLCTLレジスタを操作することは禁止
- ・データ・フラッシュの書き換え中に、STOPモード状態に遷移することは禁止

注意1. リセット解除後、データ・フラッシュは停止状態です。データ・フラッシュ使用時はデータ・フラッシュ・コントロール・レジスタ（DFLCTL）を必ず設定してください。

2. データ・フラッシュの書き換え中は、高速オンチップ・オシレータを動作させておく必要があります。高速オンチップ・オシレータを停止させている場合は、高速オンチップ・オシレータ・クロックを動作（HIOSTOP = 0）させ、30 μ s経過後にデータ・フラッシュ・ライブラリを実行してください。

備考 ユーザ・プログラムでのコード・フラッシュ・メモリの書き換えに関しては、26.6 セルフ・プログラミングを参照してください。

26. 8. 2 データ・フラッシュを制御するレジスタ

26. 8. 2. 1 データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ (DFLCTL)

データ・フラッシュへのアクセス許可/禁止を設定するレジスタです。

DFLCTLレジスタは、1ビット・メモリ操作命令または8ビット・メモリ操作命令で設定します。

リセット信号の発生により、00Hになります。

図26-10 データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ (DFLCTL) のフォーマット

アドレス : F0090H リセット時 : 00H R/W

略号	7	6	5	4	3	2	1	0
DFLCTL	0	0	0	0	0	0	0	DFLEN

DFLEN	データ・フラッシュのアクセス制御
0	データ・フラッシュのアクセス禁止
1	データ・フラッシュのアクセス許可

注意 データ・フラッシュの書き換え中に、DFLCTLレジスタを操作することは禁止です。

26. 8. 3 データ・フラッシュへのアクセス手順

リセット解除後、データ・フラッシュは停止状態です。データ・フラッシュへアクセスするには、以下の手順で初期設定を行う必要があります。

- ① データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ (DFLCTL) のビット0 (DFLEN) に“1”を設定する。
- ② ソフトウェア・タイマなどでセットアップ時間をウエイトする。

セットアップ時間はメイン・クロックの各フラッシュの動作モードによって異なります。

<各フラッシュの動作モードでのセットアップ時間>

- ・HS (高速メイン) モード時 : 5 μ s
- ・LS (低速メイン) モード時 : 720 ns
- ・LV (低電圧メイン) モード時 : 10 μ s

- ③ セットアップ時間のウエイト完了後、データ・フラッシュへのアクセスが可能となります。

注意1. セットアップ時間中のデータ・フラッシュへのアクセスは禁止です。

2. セットアップ時間中にSTOPモードに移行することは禁止です。セットアップ時間中にSTOPモードに移行する場合は、DFLEN = 0に設定してから、STOP命令を実行してください。
3. データ・フラッシュの書き換え中は、高速オンチップ・オシレータを動作させておく必要があります。高速オンチップ・オシレータを停止させている場合は、高速オンチップ・オシレータ・クロックを動作 (HIOSTOP = 0) させ、30 μ s経過後にデータ・フラッシュ・ライブラリを実行してください。
4. CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数にサブシステム・クロックを選択した状態 (CLS = 1) でデータ・フラッシュを読み出した場合は、CPU/周辺ハードウェア・クロックをサブシステム・クロックからメイン・システム・クロックに切り替え後、最初にデータ・フラッシュを読み出すときは以下の(1)~(3)の手順で読み出してください。
 - (1) メイン・システム・クロックに切り替わったこと (CLS = 0) 確認します。
 - (2) 次に任意のデータ・フラッシュを読み出します。(読み出し値は不正)
 - (3) 最後に各動作モードに応じて、以下時間経過後に読み出しを行ってください。

HS (高速メイン) モード	: 5 μ s
LS (低速メイン) モード	: 1 μ s
LV (低電圧メイン) モード	: 10 μ s

初期設定後は、CPU命令による読み出し、またはデータ・フラッシュ・ライブラリによる読み出し／書き換えが可能です。

ただし、データ・フラッシュ・アクセス時にDMAコントローラが動作する場合は、次のいずれかの手順に従って実施してください。

(A) DMAの転送保留／強制終了

データ・フラッシュを読み出す前に、使用している全てのチャンネルのDMA転送を保留してください。ただし、DWAITnビットに1を設定後、データ・フラッシュの読み出し前までに3クロック (fCLK) 以上の間隔をあけてください。データ・フラッシュの読み出し後に、DWAITnビットを0に設定し転送保留を解除してください。

または、データ・フラッシュを読み出す前に、16.5.5 ソフトウェアでの強制終了の手順に従ってDMA転送を強制終了してください。DMA転送の再開はデータ・フラッシュ読み出し後に行ってください。

(B) ライブラリを使用してデータ・フラッシュにアクセス

最新のデータ・フラッシュ・ライブラリを使用して、データ・フラッシュにアクセスしてください。

(C) NOPの挿入

データ・フラッシュの読み出し命令の直前にNOP命令を挿入してください。

<例>

```
MOVW          HL,!addr16          ; RAMの読み出し
NOP                               ; データ・フラッシュのリード前にNOP命令を挿入
MOV           A,[DE]              ; データ・フラッシュの読み出し
```

ただし、C言語など的高级言語を使用している場合、1コードに対してコンパイラが2命令を生成する場合があります。この場合、データ・フラッシュの読み出し命令の直前にNOP命令が挿入されないため、(A) または (B) にて、読み出ししてください。

備考1. n : DMAチャンネル番号 (n = 0, 1)

2. fCLK : CPU／周辺ハードウェア・クロック周波数

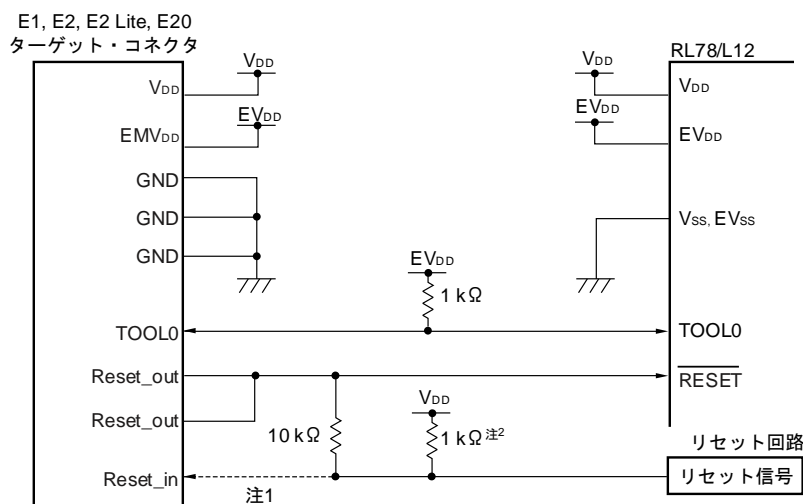
第27章 オンチップ・デバッグ機能

27.1 E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータとの接続

RL78マイクロコントローラは、オンチップ・デバッグ対応のE1オンチップデバッグエミュレータを介して、ホスト・マシンとの通信を行う場合、 V_{DD} 、RESET、TOOL0、 V_{SS} 端子を使用します。シリアル通信としては、TOOL0端子を使用した単線UARTを使用します。

注意 RL78マイクロコントローラには開発／評価用にオンチップ・デバッグ機能が搭載されています。オンチップ・デバッグ機能を使用した場合、フラッシュ・メモリの保証書き換え回数を超えてしまう可能性があります。製品の信頼性が保証できませんので、量産用の製品では本機能を使用しないでください。オンチップ・デバッグ機能を使用した製品については、クレーム受け付け対象外となります。

図27-1 E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータとの接続例



- 注1. フラッシュ・プログラミング時、点線部の接続は必要ありません。
2. ターゲット・システム上のリセット回路にバッファがなく、抵抗やコンデンサのみでリセット信号を生成する場合、このプルアップは必要ありません。

注意 リセット信号の出力がN-chオープン・ドレインのバッファ（出力抵抗が100Ω以下）を想定した回路例です。

27.2 オンチップ・デバッグ・セキュリティID

RL78マイクロコントローラは、第三者からメモリの内容を読み取られないようにするために、フラッシュ・メモリの000C3HIにオンチップ・デバッグ動作制御ビット(第25章 オプション・バイトを参照)を、000C4H-000CDHにオンチップ・デバッグ・セキュリティID設定領域を用意しています。

表27-1 オンチップ・デバッグ・セキュリティID

アドレス	オンチップ・デバッグ・セキュリティIDコード
000C4H-000CDH	10バイトの任意のIDコード (All FFHを除く)

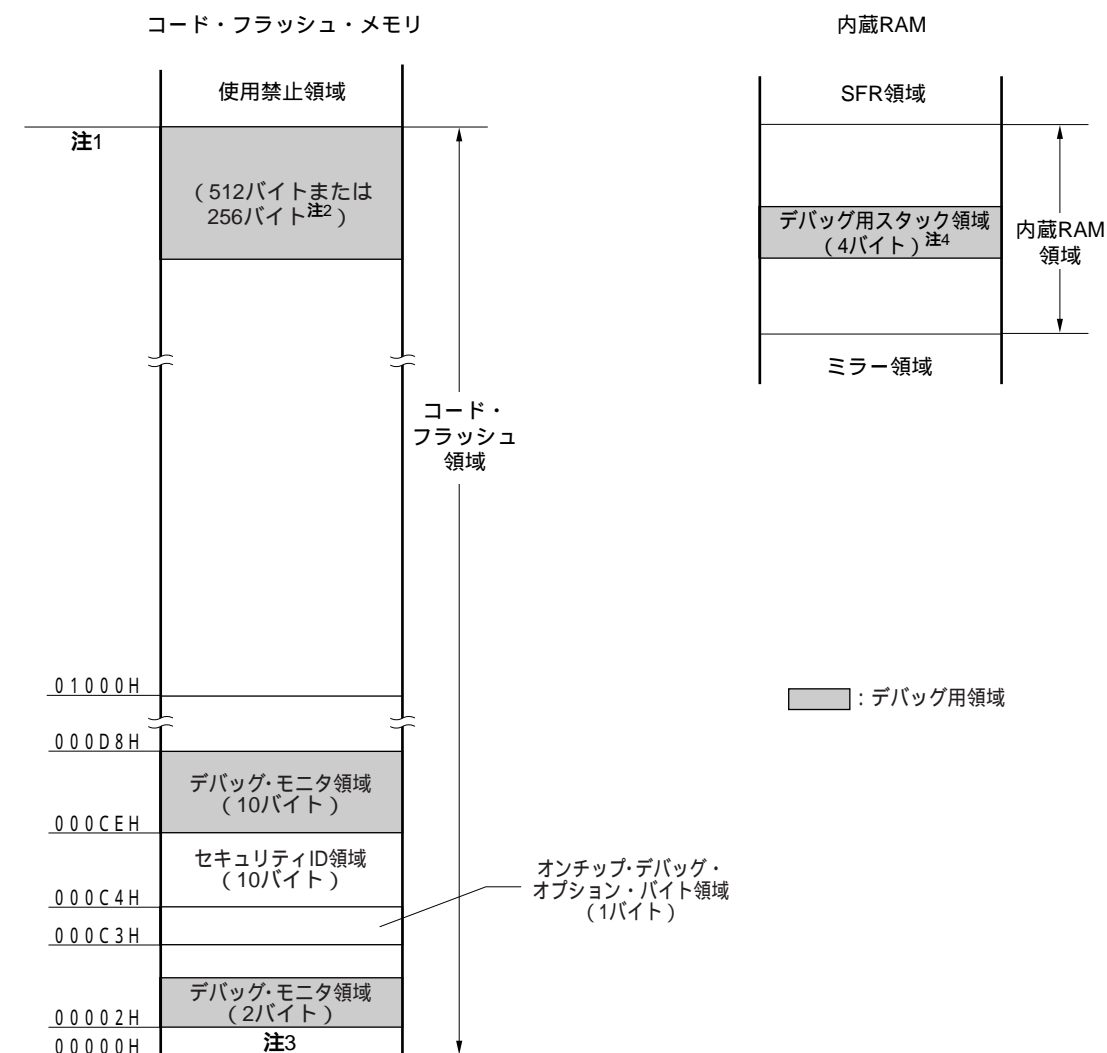
27.3 ユーザ資源の確保

RL78マイクロコントローラとE1オンチップデバッグエミュレータとの通信、または各デバッグ機能を実現するためには、メモリ空間の確保を事前に行う必要があります。また、当社製アセンブラ、コンパイラを使用している場合は、リンカ・オプションで設定することもできます。

(1) メモリ空間の確保

図27-2のグレーで示す領域はデバッグ用のモニタ・プログラムを組み込むために、ユーザ・プログラムやデータを配置できない空間です。オンチップ・デバッグ機能を使用する場合は、この空間を使用しないように領域を確保する必要があります。また、ユーザ・プログラム内でこの空間を書き換えないようにする必要があります。

図27-2 デバッグ用モニタ・プログラムが配置されるメモリ空間



注1. 製品によって、次のようにアドレスが異なります。

製品名 (コード・フラッシュ・メモリ容量)	注1のアドレス
R5F10Rx8 (x = B, F, G, J)	01FFFH
R5F10RxA (x = B, F, G, J, L)	03FFFH
R5F10RxC (x = B, F, G, J, L)	07FFFH

- リアルタイムRAMモニタ (RRM) 機能, Dynamic Memory Modification (DMM) 機能を使用しない場合は256バイトになります。
- デバッグ時, リセット・ベクタはモニタ・プログラムの配置アドレスに書き換えられます。
- この領域はスタック領域の直下に配置されるため, スタックの増減によりデバッグ用スタック領域のアドレスも変動します。つまり使用するスタック領域に対し, 4バイト余分に消費します。セルフプログラミングを行う場合は, 12バイト余分に消費します。

第28章 10進補正 (BCD) 回路

28.1 10進補正回路の機能

BCDコード (2進化10進数) とBCDコード (2進化10進数) の加減算結果を、BCDコード (2進化10進数) で求めることができます。

Aレジスタをオペランドに持つ加減算命令を行ったあと、さらにBCD補正結果レジスタ (BCDADJ) を加減算することで10進補正演算結果が求められます。

28.2 10進補正回路で使用するレジスタ

10進補正回路は、次のレジスタを使用します。

- ・BCD補正結果レジスタ (BCDADJ)

28.2.1 BCD補正結果レジスタ (BCDADJ)

BCDADJレジスタには、Aレジスタをオペランドにもつ加減算命令によって、BCDコードで加減算結果を求めるための補正値が格納されます。

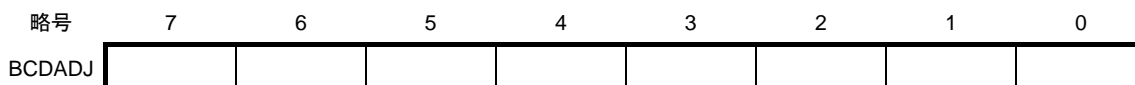
また、BCDADJレジスタの読み出し値は、読み出し時のAレジスタとCYフラグおよびACフラグの値によって変わります。

BCDADJレジスタは、8ビット・メモリ操作命令で読み出します。

リセット信号の発生により、不定になります。

図28-1 BCD補正結果レジスタ (BCDADJ) のフォーマット

アドレス : F00FEH リセット時 : 不定 R



28.3 10進補正回路の動作

10進補正回路の基本動作を次に示します。

- (1) 加算 BCDコード値とBCDコード値の加算結果を、BCDコード値で求める
- ① 加算したいBCDコード値 (被加算値) をAレジスタに格納する。
 - ② Aレジスタと第2オペランドの値 (もう1つの加算したいBCDコード値, 加算値) を、そのまま2進数で加算することにより、2進数での演算結果がAレジスタに格納され、補正値がBCD補正結果レジスタ (BCDADJ) に格納される。
 - ③ Aレジスタ (2進数での加算結果) とBCDADJレジスタの値 (補正値) を2進数で加算することにより10進補正演算を行い、AレジスタとCYフラグに補正結果が格納される。

注意 BCDADJレジスタの読み出し値は、読み出し時のAレジスタとCYフラグおよびACフラグの値によって変わります。そのため、②の命令のあとは、他の命令を行わずに③の命令を実施してください。割り込み許可状態でBCD補正を行う場合は、割り込み関数内でAレジスタの退避、復帰が必要となります。PSW (CYフラグ, ACフラグ) は、RETI命令によって復帰されます。

例を次に示します。

例1 $99 + 89 = 188$

命 令	A レジスタ	CY フラグ	AC フラグ	BCDADJ レジスタ
MOV A, #99H ; ①	99H	—	—	—
ADD A, #89H ; ②	22H	1	1	66H
ADD A, !BCDADJ ; ③	88H	1	0	—

例2 $85 + 15 = 100$

命 令	A レジスタ	CY フラグ	AC フラグ	BCDADJ レジスタ
MOV A, #85H ; ①	85H	—	—	—
ADD A, #15H ; ②	9AH	0	0	66H
ADD A, !BCDADJ ; ③	00H	1	1	—

例3 $80 + 80 = 160$

命 令	A レジスタ	CY フラグ	AC フラグ	BCDADJ レジスタ
MOV A, #80H ; ①	80H	—	—	—
ADD A, #80H ; ②	00H	1	0	60H
ADD A, !BCDADJ ; ③	60H	1	0	—

(2) 減算 BCDコード値からBCDコード値の減算結果を、BCDコード値で求める

- ① 減算されるBCDコード値 (被減算値) をAレジスタに格納する。
- ② Aレジスタから第2オペランドの値 (減算するBCDコード値, 減算値) を, そのまま2進数で減算することにより, 2進数での演算結果がAレジスタに格納され, 補正值がBCD補正結果レジスタ (BCDADJ) に格納される。
- ③ Aレジスタ (2進数での減算結果) からBCDADJレジスタの値 (補正值) を2進数で減算することにより10進補正演算を行い, AレジスタとCYフラグに補正結果が格納される。

注意 BCDADJレジスタの読み出し値は, 読み出し時のAレジスタとCYフラグおよびACフラグの値によって変わります。そのため, ②の命令のあとは, 他の命令を行わずに③の命令を実施してください。割り込み許可状態でBCD補正を行う場合は, 割り込み関数内でAレジスタの退避, 復帰が必要となります。PSW (CYフラグ, ACフラグ) は, RETI命令によって復帰されます。

例を次に示します。

例 91-52 = 39

命 令				A レジスタ	CY フラグ	AC フラグ	BCDADJ レジスタ
MOV	A, #91H	:	①	91H	—	—	—
SUB	A, #52H	:	②	3FH	0	1	06H
SUB	A, !BCDADJ	:	③	39H	0	0	—

第29章 命令セットの概要

RL78マイクロコントローラの命令セットを一覧表にして示します。なお、各命令の詳細な動作および機械語（命令コード）については、RL78ファミリ ユーザーズ・マニュアル ソフトウェア編（R01US0015）を参照してください。

29.1 凡 例

29.1.1 オペランドの表現形式と記述方法

各命令のオペランド欄には、その命令のオペランド表現形式に対する記述方法に従ってオペランドを記述しています（詳細は、アセンブラ仕様によります）。記述方法の中で複数個あるものは、それらの要素の1つを選択します。大文字で書かれた英字および#, !, !!, \$, \$!, [,], ES:の記号はキーワードであり、そのまま記述します。記号の説明は、次のとおりです。

- ・# : イミーディエト・データ指定
- ・! : 16ビット絶対アドレス指定
- ・!! : 20ビット絶対アドレス指定
- ・\$: 8ビット相対アドレス指定
- ・\$! : 16ビット相対アドレス指定
- ・[] : 間接アドレス指定
- ・ES: : 拡張アドレス指定

イミーディエト・データの場合は、適当な数値またはラベルを記述します。ラベルで記述する際も#, !, !!, \$, \$!, [,], ES:記号は必ず記述してください。

また、オペランドのレジスタの記述形式r, rpには、機能名称（X, A, Cなど）、絶対名称（表29-1の中のカッコ内の名称、R0, R1, R2など）のいずれの形式でも記述可能です。

表29-1 オペランドの表現形式と記述方法

表現形式	記述方法
r	X(R0), A(R1), C(R2), B(R3), E(R4), D(R5), L(R6), H(R7)
rp	AX(RP0), BC(RP1), DE(RP2), HL(RP3)
sfr	特殊機能レジスタ略号（SFR略号）FFF00H-FFFFFH
sfrp	特殊機能レジスタ略号（16ビット操作可能なSFR略号。偶数アドレスのみ ^注 ）FFF00H-FFFFFH
saddr	FFE20H-FFF1FH イミーディエト・データまたはラベル
saddrp	FFE20H-FFF1FH イミーディエト・データまたはラベル（偶数アドレスのみ ^注 ）
addr20	00000H-FFFFFH イミーディエト・データまたはラベル
addr16	0000H-FFFFFH イミーディエト・データまたはラベル (16ビット・データ時は偶数アドレスのみ ^注)
addr5	0080H-00BFH イミーディエト・データまたはラベル（偶数アドレスのみ）
word	16ビット・イミーディエト・データまたはラベル
byte	8ビット・イミーディエト・データまたはラベル
bit	3ビット・イミーディエト・データまたはラベル
RBn	RB0-RB3

注 奇数アドレスを指定した場合はビット0が“0”になります。

備考 特殊機能レジスタは、オペランドsfrに略号で記述することができます。特殊機能レジスタの略号は表3-5 SFR一覧を参照してください。

拡張特殊機能レジスタは、オペランド!addr16に略号で記述することができます。拡張特殊機能レジスタの略号は表3-6 拡張SFR（2nd SFR）一覧を参照してください。

29.1.2 オペレーション欄の説明

各命令のオペレーション欄には、その命令実行時の動作を次の記号を用いて表します。

表29-2 オペレーション欄の記号

記号	機能
A	Aレジスタ：8ビット・アキュムレータ
X	Xレジスタ
B	Bレジスタ
C	Cレジスタ
D	Dレジスタ
E	Eレジスタ
H	Hレジスタ
L	Lレジスタ
ES	ESレジスタ
CS	CSレジスタ
AX	AXレジスタ・ペア：16ビット・アキュムレータ
BC	BCレジスタ・ペア
DE	DEレジスタ・ペア
HL	HLレジスタ・ペア
PC	プログラム・カウンタ
SP	スタック・ポインタ
PSW	プログラム・ステータス・ワード
CY	キャリー・フラグ
AC	補助キャリー・フラグ
Z	ゼロ・フラグ
RBS	レジスタ・バンク選択フラグ
IE	割り込み要求許可フラグ
()	() 内のアドレスまたはレジスタの内容で示されるメモリの内容
X _H , X _L	16ビット・レジスタの場合はX _H =上位8ビット, X _L =下位8ビット
X _S , X _H , X _L	20ビット・レジスタの場合はX _S (ビット19-16), X _H (ビット15-8), X _L (ビット7-0)
∧	論理積 (AND)
∨	論理和 (OR)
⊕	排他的論理和 (exclusive OR)
—	反転データ
addr5	16ビット・イミューディエト・データ (0080H-00BFHの偶数アドレスのみ)
addr16	16ビット・イミューディエト・データ
addr20	20ビット・イミューディエト・データ
jdisp8	符号付き8ビット・データ (ディスプレイメント値)
jdisp16	符号付き16ビット・データ (ディスプレイメント値)

29.1.3 フラグ動作欄の説明

各命令のフラグ欄には、その命令実行時のフラグの変化を下記の記号を用いて表す。

表29-3 フラグ欄の記号

記号	フラグ変化
(ブランク)	変化なし
0	0にクリアされる
1	1にセットされる
×	結果にしたがってセット/リセットされる
R	以前に退避した値がリストアされる

29.1.4 PREFIX命令

ES:で示される命令は、PREFIX命令コードを頭に付けることで、アクセスできるデータ領域をF0000H-FFFFFHの64 Kバイト空間から、ESレジスタの値を付加した00000H-FFFFFHの1 Mバイト空間に拡張します。PREFIX命令コードは対象となる命令の先頭に付けることで、PREFIX命令コード直後の1命令だけをESレジスタの値を付加したアドレスとして実行します。

なお、PREFIX命令コードと直後の1命令の間に割り込みやDMA転送を受け付けることはありません。

表29-4 PREFIX命令コードの使用例

命令	命令コード				
	1	2	3	4	5
MOV !addr16, #byte	CFH	!addr16		#byte	—
MOV ES:!addr16, #byte	11H	CFH	!addr16		#byte
MOV A, [HL]	8BH	—	—	—	—
MOV A, ES:[HL]	11H	8BH	—	—	—

注意 ESレジスタの値は、PREFIX命令を実行するまでにMOV ES, Aなどで事前に設定しておいてください。

29.2 オペレーション一覧

表29-5 オペレーション一覧 (1/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット・データ転送	MOV	r, #byte	2	1	—	r ← byte			
		PSW, #byte	3	3	—	PSW ← byte	x	x	x
		CS, #byte	3	1	—	CS ← byte			
		ES, #byte	2	1	—	ES ← byte			
		!addr16, #byte	4	1	—	(addr16) ← byte			
		ES:!addr16, #byte	5	2	—	(ES, addr16) ← byte			
		saddr, #byte	3	1	—	(saddr) ← byte			
		sfr, #byte	3	1	—	sfr ← byte			
		[DE+byte], #byte	3	1	—	(DE+byte) ← byte			
		ES:[DE+byte],#byte	4	2	—	((ES, DE)+byte) ← byte			
		[HL+byte], #byte	3	1	—	(HL+byte) ← byte			
		ES:[HL+byte],#byte	4	2	—	((ES, HL)+byte) ← byte			
		[SP+byte], #byte	3	1	—	(SP+byte) ← byte			
		word[B], #byte	4	1	—	(B+word) ← byte			
		ES:word[B], #byte	5	2	—	((ES, B)+word) ← byte			
		word[C], #byte	4	1	—	(C+word) ← byte			
		ES:word[C], #byte	5	2	—	((ES, C)+word) ← byte			
		word[BC], #byte	4	1	—	(BC+word) ← byte			
		ES:word[BC], #byte	5	2	—	((ES, BC)+word) ← byte			
		A, r <small>注3</small>	1	1	—	A ← r			
		r, A <small>注3</small>	1	1	—	r ← A			
		A, PSW	2	1	—	A ← PSW			
		PSW, A	2	3	—	PSW ← A	x	x	x
		A, CS	2	1	—	A ← CS			
		CS, A	2	1	—	CS ← A			
		A, ES	2	1	—	A ← ES			
		ES, A	2	1	—	ES ← A			
		A, !addr16	3	1	4	A ← (addr16)			
		A, ES:!addr16	4	2	5	A ← (ES, addr16)			
		!addr16, A	3	1	—	(addr16) ← A			
ES:!addr16, A	4	2	—	(ES, addr16) ← A					
A, saddr	2	1	—	A ← (saddr)					
saddr, A	2	1	—	(saddr) ← A					

- 注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。
 2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。
 3. r = Aを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (2/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット・データ転送	MOV	A, sfr	2	1	—	A ← sfr			
		sfr, A	2	1	—	sfr ← A			
		A, [DE]	1	1	4	A ← (DE)			
		[DE], A	1	1	—	(DE) ← A			
		A, ES:[DE]	2	2	5	A ← (ES, DE)			
		ES:[DE], A	2	2	—	(ES, DE) ← A			
		A, [HL]	1	1	4	A ← (HL)			
		[HL], A	1	1	—	(HL) ← A			
		A, ES:[HL]	2	2	5	A ← (ES, HL)			
		ES:[HL], A	2	2	—	(ES, HL) ← A			
		A, [DE+byte]	2	1	4	A ← (DE+byte)			
		[DE+byte], A	2	1	—	(DE+byte) ← A			
		A, ES:[DE+byte]	3	2	5	A ← ((ES, DE)+byte)			
		ES:[DE+byte], A	3	2	—	((ES, DE)+byte) ← A			
		A, [HL+byte]	2	1	4	A ← (HL+byte)			
		[HL+byte], A	2	1	—	(HL+byte) ← A			
		A, ES:[HL+byte]	3	2	5	A ← ((ES, HL)+byte)			
		ES:[HL+byte], A	3	2	—	((ES, HL)+byte) ← A			
		A, [SP+byte]	2	1	—	A ← (SP+byte)			
		[SP+byte], A	2	1	—	(SP+byte) ← A			
		A, word[B]	3	1	4	A ← (B+word)			
		word[B], A	3	1	—	(B+word) ← A			
		A, ES:word[B]	4	2	5	A ← ((ES, B)+word)			
		ES:word[B], A	4	2	—	((ES, B)+word) ← A			
		A, word[C]	3	1	4	A ← (C+word)			
		word[C], A	3	1	—	(C+word) ← A			
		A, ES:word[C]	4	2	5	A ← ((ES, C)+word)			
		ES:word[C], A	4	2	—	((ES, C)+word) ← A			
		A, word[BC]	3	1	4	A ← (BC+word)			
		word[BC], A	3	1	—	(BC+word) ← A			
A, ES:word[BC]	4	2	5	A ← ((ES, BC)+word)					
ES:word[BC], A	4	2	—	((ES, BC)+word) ← A					

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (3/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット・データ転送	MOV	A, [HL+B]	2	1	4	A ← (HL+B)			
		[HL+B], A	2	1	—	(HL+B) ← A			
		A, ES:[HL+B]	3	2	5	A ← ((ES, HL)+B)			
		ES:[HL+B], A	3	2	—	((ES, HL)+B) ← A			
		A, [HL+C]	2	1	4	A ← (HL+C)			
		[HL+C], A	2	1	—	(HL+C) ← A			
		A, ES:[HL+C]	3	2	5	A ← ((ES, HL)+C)			
		ES:[HL+C], A	3	2	—	((ES, HL)+C) ← A			
		X, !addr16	3	1	4	X ← (addr16)			
		X, ES:!addr16	4	2	5	X ← (ES, addr16)			
		X, saddr	2	1	—	X ← (saddr)			
		B, !addr16	3	1	4	B ← (addr16)			
		B, ES:!addr16	4	2	5	B ← (ES, addr16)			
		B, saddr	2	1	—	B ← (saddr)			
		C, !addr16	3	1	4	C ← (addr16)			
		C, ES:!addr16	4	2	5	C ← (ES, addr16)			
	C, saddr	2	1	—	C ← (saddr)				
	ES, saddr	3	1	—	ES ← (saddr)				
	XCH	A, r ^{注3}	1 (r=X) 2 (r=X以外)	1	—	A ↔ r			
		A, !addr16	4	2	—	A ↔ (addr16)			
		A, ES:!addr16	5	3	—	A ↔ (ES, addr16)			
		A, saddr	3	2	—	A ↔ (saddr)			
		A, sfr	3	2	—	A ↔ sfr			
		A, [DE]	2	2	—	A ↔ (DE)			
		A, ES:[DE]	3	3	—	A ↔ (ES, DE)			
		A, [HL]	2	2	—	A ↔ (HL)			
A, ES:[HL]		3	3	—	A ↔ (ES, HL)				
A, [DE+byte]		3	2	—	A ↔ (DE+byte)				
A, ES:[DE+byte]	4	3	—	A ↔ ((ES, DE)+byte)					
A, [HL+byte]	3	2	—	A ↔ (HL+byte)					
A, ES:[HL+byte]	4	3	—	A ↔ ((ES, HL)+byte)					

- 注1. 内部RAM領域, SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき, またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。
2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。
3. r = Aを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合, 最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (4/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット・データ転送	XCH	A, [HL+B]	2	2	—	A ↔ (HL+B)			
		A, ES:[HL+B]	3	3	—	A ↔ ((ES, HL)+B)			
		A, [HL+C]	2	2	—	A ↔ (HL+C)			
		A, ES:[HL+C]	3	3	—	A ↔ ((ES, HL)+C)			
	ONEB	A	1	1	—	A ← 01H			
		X	1	1	—	X ← 01H			
		B	1	1	—	B ← 01H			
		C	1	1	—	C ← 01H			
		!addr16	3	1	—	(addr16) ← 01H			
		ES:!addr16	4	2	—	(ES, addr16) ← 01H			
		saddr	2	1	—	(saddr) ← 01H			
	CLR B	A	1	1	—	A ← 00H			
		X	1	1	—	X ← 00H			
		B	1	1	—	B ← 00H			
		C	1	1	—	C ← 00H			
		!addr16	3	1	—	(addr16) ← 00H			
		ES:!addr16	4	2	—	(ES, addr16) ← 00H			
		saddr	2	1	—	(saddr) ← 00H			
	MOVS	[HL+byte], X	3	1	—	(HL+byte) ← X	×		×
		ES:[HL+byte], X	4	2	—	(ES, HL+byte) ← X	×		×
16ビット・データ転送	MOVW	rp, #word	3	1	—	rp ← word			
		saddrp, #word	4	1	—	(saddrp) ← word			
		sfrp, #word	4	1	—	sfrp ← word			
		AX, rp <small>注3</small>	1	1	—	AX ← rp			
		rp, AX <small>注3</small>	1	1	—	rp ← AX			
		AX, !addr16	3	1	4	AX ← (addr16)			
		!addr16, AX	3	1	—	(addr16) ← AX			
		AX, ES:!addr16	4	2	5	AX ← (ES, addr16)			
		ES:!addr16, AX	4	2	—	(ES, addr16) ← AX			
		AX, saddrp	2	1	—	AX ← (saddrp)			
		saddrp, AX	2	1	—	(saddrp) ← AX			
		AX, sfrp	2	1	—	AX ← sfrp			
		sfrp, AX	2	1	—	sfrp ← AX			

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

3. rp = AXを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (5/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
16 ビット ・ デー タ 転 送	MOVW	AX, [DE]	1	1	4	AX ← (DE)			
		[DE], AX	1	1	—	(DE) ← AX			
		AX, ES:[DE]	2	2	5	AX ← (ES, DE)			
		ES:[DE], AX	2	2	—	(ES, DE) ← AX			
		AX, [HL]	1	1	4	AX ← (HL)			
		[HL], AX	1	1	—	(HL) ← AX			
		AX, ES:[HL]	2	2	5	AX ← (ES, HL)			
		ES:[HL], AX	2	2	—	(ES, HL) ← AX			
		AX, [DE+byte]	2	1	4	AX ← (DE+byte)			
		[DE+byte], AX	2	1	—	(DE+byte) ← AX			
		AX, ES:[DE+byte]	3	2	5	AX ← ((ES, DE)+byte)			
		ES:[DE+byte], AX	3	2	—	((ES, DE)+byte) ← AX			
		AX, [HL+byte]	2	1	4	AX ← (HL+byte)			
		[HL+byte], AX	2	1	—	(HL+byte) ← AX			
		AX, ES:[HL+byte]	3	2	5	AX ← ((ES, HL)+byte)			
		ES:[HL+byte], AX	3	2	—	((ES, HL)+byte) ← AX			
		AX, [SP+byte]	2	1	—	AX ← (SP+byte)			
		[SP+byte], AX	2	1	—	(SP+byte) ← AX			
		AX, word[B]	3	1	4	AX ← (B+word)			
		word[B], AX	3	1	—	(B+word) ← AX			
		AX, ES:word[B]	4	2	5	AX ← ((ES, B)+word)			
		ES:word[B], AX	4	2	—	((ES, B)+word) ← AX			
		AX, word[C]	3	1	4	AX ← (C+word)			
		word[C], AX	3	1	—	(C+word) ← AX			
		AX, ES:word[C]	4	2	5	AX ← ((ES, C)+word)			
		ES:word[C], AX	4	2	—	((ES, C)+word) ← AX			
		AX, word[BC]	3	1	4	AX ← (BC+word)			
		word[BC], AX	3	1	—	(BC+word) ← AX			
AX, ES:word[BC]	4	2	5	AX ← ((ES, BC)+word)					
ES:word[BC], AX	4	2	—	((ES, BC)+word) ← AX					

- 注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。
2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (6/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
16 ビット ・ デー タ 転 送	MOVW	BC, !addr16	3	1	4	BC ← (addr16)			
		BC, ES:!addr16	4	2	5	BC ← (ES, addr16)			
		DE, !addr16	3	1	4	DE ← (addr16)			
		DE, ES:!addr16	4	2	5	DE ← (ES, addr16)			
		HL, !addr16	3	1	4	HL ← (addr16)			
		HL, ES:!addr16	4	2	5	HL ← (ES, addr16)			
		BC, saddrp	2	1	—	BC ← (saddrp)			
		DE, saddrp	2	1	—	DE ← (saddrp)			
		HL, saddrp	2	1	—	HL ← (saddrp)			
	XCHW	AX, rp ^{注3}	1	1	—	AX ↔ rp			
	ONEW	AX	1	1	—	AX ← 0001H			
		BC	1	1	—	BC ← 0001H			
	CLRW	AX	1	1	—	AX ← 0000H			
BC		1	1	—	BC ← 0000H				
8 ビット 演 算	ADD	A, #byte	2	1	—	A, CY ← A+byte	×	×	×
		saddr, #byte	3	2	—	(saddr), CY ← (saddr)+byte	×	×	×
		A, r ^{注4}	2	1	—	A, CY ← A+r	×	×	×
		r, A	2	1	—	r, CY ← r+A	×	×	×
		A, !addr16	3	1	4	A, CY ← A+(addr16)	×	×	×
		A, ES:!addr16	4	2	5	A, CY ← A+(ES, addr16)	×	×	×
		A, saddr	2	1	—	A, CY ← A+(saddr)	×	×	×
		A, [HL]	1	1	4	A, CY ← A+(HL)	×	×	×
		A, ES:[HL]	2	2	5	A, CY ← A+(ES, HL)	×	×	×
		A, [HL+byte]	2	1	4	A, CY ← A+(HL+byte)	×	×	×
		A, ES:[HL+byte]	3	2	5	A, CY ← A+((ES, HL)+byte)	×	×	×
		A, [HL+B]	2	1	4	A, CY ← A+(HL+B)	×	×	×
		A, ES:[HL+B]	3	2	5	A, CY ← A+((ES, HL)+B)	×	×	×
		A, [HL+C]	2	1	4	A, CY ← A+(HL+C)	×	×	×
		A, ES:[HL+C]	3	2	5	A, CY ← A+((ES, HL)+C)	×	×	×

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

- コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。
- rp = AXを除く。
- r = Aを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (7/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット演算	ADDC	A, #byte	2	1	—	$A, CY \leftarrow A + \text{byte} + CY$	×	×	×
		saddr, #byte	3	2	—	$(saddr), CY \leftarrow (saddr) + \text{byte} + CY$	×	×	×
		A, r ^{注3}	2	1	—	$A, CY \leftarrow A + r + CY$	×	×	×
		r, A	2	1	—	$r, CY \leftarrow r + A + CY$	×	×	×
		A, !addr16	3	1	4	$A, CY \leftarrow A + (\text{addr16}) + CY$	×	×	×
		A, ES:!addr16	4	2	5	$A, CY \leftarrow A + (\text{ES}, \text{addr16}) + CY$	×	×	×
		A, saddr	2	1	—	$A, CY \leftarrow A + (saddr) + CY$	×	×	×
		A, [HL]	1	1	4	$A, CY \leftarrow A + (\text{HL}) + CY$	×	×	×
		A, ES:[HL]	2	2	5	$A, CY \leftarrow A + (\text{ES}, \text{HL}) + CY$	×	×	×
		A, [HL+byte]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A + (\text{HL} + \text{byte}) + CY$	×	×	×
		A, ES:[HL+byte]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A + ((\text{ES}, \text{HL}) + \text{byte}) + CY$	×	×	×
		A, [HL+B]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A + (\text{HL} + B) + CY$	×	×	×
		A, ES:[HL+B]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A + ((\text{ES}, \text{HL}) + B) + CY$	×	×	×
		A, [HL+C]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A + (\text{HL} + C) + CY$	×	×	×
	A, ES:[HL+C]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A + ((\text{ES}, \text{HL}) + C) + CY$	×	×	×	
	SUB	A, #byte	2	1	—	$A, CY \leftarrow A - \text{byte}$	×	×	×
		saddr, #byte	3	2	—	$(saddr), CY \leftarrow (saddr) - \text{byte}$	×	×	×
		A, r ^{注3}	2	1	—	$A, CY \leftarrow A - r$	×	×	×
		r, A	2	1	—	$r, CY \leftarrow r - A$	×	×	×
		A, !addr16	3	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{addr16})$	×	×	×
		A, ES:!addr16	4	2	5	$A, CY \leftarrow A - (\text{ES}, \text{addr16})$	×	×	×
		A, saddr	2	1	—	$A, CY \leftarrow A - (saddr)$	×	×	×
		A, [HL]	1	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL})$	×	×	×
		A, ES:[HL]	2	2	5	$A, CY \leftarrow A - (\text{ES}, \text{HL})$	×	×	×
A, [HL+byte]		2	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL} + \text{byte})$	×	×	×	
A, ES:[HL+byte]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A - ((\text{ES}, \text{HL}) + \text{byte})$	×	×	×		
A, [HL+B]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL} + B)$	×	×	×		
A, ES:[HL+B]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A - ((\text{ES}, \text{HL}) + B)$	×	×	×		
A, [HL+C]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL} + C)$	×	×	×		
A, ES:[HL+C]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A - ((\text{ES}, \text{HL}) + C)$	×	×	×		

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

3. r = Aを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (8/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット演算	SUBC	A, #byte	2	1	—	$A, CY \leftarrow A - \text{byte} - CY$	×	×	×
		saddr, #byte	3	2	—	$(saddr), CY \leftarrow (saddr) - \text{byte} - CY$	×	×	×
		A, r ^{注3}	2	1	—	$A, CY \leftarrow A - r - CY$	×	×	×
		r, A	2	1	—	$r, CY \leftarrow r - A - CY$	×	×	×
		A, !addr16	3	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{addr16}) - CY$	×	×	×
		A, ES:!addr16	4	2	5	$A, CY \leftarrow A - (\text{ES}, \text{addr16}) - CY$	×	×	×
		A, saddr	2	1	—	$A, CY \leftarrow A - (saddr) - CY$	×	×	×
		A, [HL]	1	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL}) - CY$	×	×	×
		A, ES:[HL]	2	2	5	$A, CY \leftarrow A - (\text{ES}, \text{HL}) - CY$	×	×	×
		A, [HL+byte]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL} + \text{byte}) - CY$	×	×	×
		A, ES:[HL+byte]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A - ((\text{ES}, \text{HL}) + \text{byte}) - CY$	×	×	×
		A, [HL+B]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL} + B) - CY$	×	×	×
		A, ES:[HL+B]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A - ((\text{ES}, \text{HL}) + B) - CY$	×	×	×
		A, [HL+C]	2	1	4	$A, CY \leftarrow A - (\text{HL} + C) - CY$	×	×	×
	A, ES:[HL+C]	3	2	5	$A, CY \leftarrow A - ((\text{ES}, \text{HL}) + C) - CY$	×	×	×	
	AND	A, #byte	2	1	—	$A \leftarrow A \wedge \text{byte}$	×		
		saddr, #byte	3	2	—	$(saddr) \leftarrow (saddr) \wedge \text{byte}$	×		
		A, r ^{注3}	2	1	—	$A \leftarrow A \wedge r$	×		
		r, A	2	1	—	$r \leftarrow r \wedge A$	×		
		A, !addr16	3	1	4	$A \leftarrow A \wedge (\text{addr16})$	×		
		A, ES:!addr16	4	2	5	$A \leftarrow A \wedge (\text{ES}: \text{addr16})$	×		
		A, saddr	2	1	—	$A \leftarrow A \wedge (saddr)$	×		
		A, [HL]	1	1	4	$A \leftarrow A \wedge (\text{HL})$	×		
		A, ES:[HL]	2	2	5	$A \leftarrow A \wedge (\text{ES}: \text{HL})$	×		
A, [HL+byte]		2	1	4	$A \leftarrow A \wedge (\text{HL} + \text{byte})$	×			
A, ES:[HL+byte]		3	2	5	$A \leftarrow A \wedge ((\text{ES}: \text{HL}) + \text{byte})$	×			
A, [HL+B]		2	1	4	$A \leftarrow A \wedge (\text{HL} + B)$	×			
A, ES:[HL+B]		3	2	5	$A \leftarrow A \wedge ((\text{ES}: \text{HL}) + B)$	×			
A, [HL+C]		2	1	4	$A \leftarrow A \wedge (\text{HL} + C)$	×			
A, ES:[HL+C]	3	2	5	$A \leftarrow A \wedge ((\text{ES}: \text{HL}) + C)$	×				

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

3. r = Aを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (9/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット演算	OR	A, #byte	2	1	—	$A \leftarrow A \vee \text{byte}$		x	
		saddr, #byte	3	2	—	$(\text{saddr}) \leftarrow (\text{saddr}) \vee \text{byte}$		x	
		A, r ^{注3}	2	1	—	$A \leftarrow A \vee r$		x	
		r, A	2	1	—	$r \leftarrow r \vee A$		x	
		A, !addr16	3	1	4	$A \leftarrow A \vee (\text{addr16})$		x	
		A, ES:!addr16	4	2	5	$A \leftarrow A \vee (\text{ES:addr16})$		x	
		A, saddr	2	1	—	$A \leftarrow A \vee (\text{saddr})$		x	
		A, [HL]	1	1	4	$A \leftarrow A \vee (\text{HL})$		x	
		A, ES:[HL]	2	2	5	$A \leftarrow A \vee (\text{ES:HL})$		x	
		A, [HL+byte]	2	1	4	$A \leftarrow A \vee (\text{HL} + \text{byte})$		x	
		A, ES:[HL+byte]	3	2	5	$A \leftarrow A \vee ((\text{ES:HL}) + \text{byte})$		x	
		A, [HL+B]	2	1	4	$A \leftarrow A \vee (\text{HL} + B)$		x	
		A, ES:[HL+B]	3	2	5	$A \leftarrow A \vee ((\text{ES:HL}) + B)$		x	
		A, [HL+C]	2	1	4	$A \leftarrow A \vee (\text{HL} + C)$		x	
	A, ES:[HL+C]	3	2	5	$A \leftarrow A \vee ((\text{ES:HL}) + C)$		x		
	XOR	A, #byte	2	1	—	$A \leftarrow A \nabla \text{byte}$		x	
		saddr, #byte	3	2	—	$(\text{saddr}) \leftarrow (\text{saddr}) \nabla \text{byte}$		x	
		A, r ^{注3}	2	1	—	$A \leftarrow A \nabla r$		x	
		r, A	2	1	—	$r \leftarrow r \nabla A$		x	
		A, !addr16	3	1	4	$A \leftarrow A \nabla (\text{addr16})$		x	
		A, ES:!addr16	4	2	5	$A \leftarrow A \nabla (\text{ES:addr16})$		x	
		A, saddr	2	1	—	$A \leftarrow A \nabla (\text{saddr})$		x	
		A, [HL]	1	1	4	$A \leftarrow A \nabla (\text{HL})$		x	
		A, ES:[HL]	2	2	5	$A \leftarrow A \nabla (\text{ES:HL})$		x	
		A, [HL+byte]	2	1	4	$A \leftarrow A \nabla (\text{HL} + \text{byte})$		x	
		A, ES:[HL+byte]	3	2	5	$A \leftarrow A \nabla ((\text{ES:HL}) + \text{byte})$		x	
A, [HL+B]		2	1	4	$A \leftarrow A \nabla (\text{HL} + B)$		x		
A, ES:[HL+B]	3	2	5	$A \leftarrow A \nabla ((\text{ES:HL}) + B)$		x			
A, [HL+C]	2	1	4	$A \leftarrow A \nabla (\text{HL} + C)$		x			
A, ES:[HL+C]	3	2	5	$A \leftarrow A \nabla ((\text{ES:HL}) + C)$		x			

- 注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。
2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。
3. r = Aを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (10/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
8ビット演算	CMP	A, #byte	2	1	—	A-byte	×	×	×
		!addr16, #byte	4	1	4	(addr16)-byte	×	×	×
		ES:!addr16, #byte	5	2	5	(ES:addr16)-byte	×	×	×
		saddr, #byte	3	1	—	(saddr)-byte	×	×	×
		A, r <small>注3</small>	2	1	—	A-r	×	×	×
		r, A	2	1	—	r-A	×	×	×
		A, !addr16	3	1	4	A-(addr16)	×	×	×
		A, ES:!addr16	4	2	5	A-(ES:addr16)	×	×	×
		A, saddr	2	1	—	A-(saddr)	×	×	×
		A, [HL]	1	1	4	A-(HL)	×	×	×
		A, ES:[HL]	2	2	5	A-(ES:HL)	×	×	×
		A, [HL+byte]	2	1	4	A-(HL+byte)	×	×	×
		A, ES:[HL+byte]	3	2	5	A-((ES:HL)+byte)	×	×	×
		A, [HL+B]	2	1	4	A-(HL+B)	×	×	×
		A, ES:[HL+B]	3	2	5	A-((ES:HL)+B)	×	×	×
		A, [HL+C]	2	1	4	A-(HL+C)	×	×	×
	A, ES:[HL+C]	3	2	5	A-((ES:HL)+C)	×	×	×	
	CMP0	A	1	1	—	A-00H	×	0	0
		X	1	1	—	X-00H	×	0	0
		B	1	1	—	B-00H	×	0	0
		C	1	1	—	C-00H	×	0	0
		!addr16	3	1	4	(addr16)-00H	×	0	0
		ES:!addr16	4	2	5	(ES:addr16)-00H	×	0	0
		saddr	2	1	—	(saddr)-00H	×	0	0
	CMPS	X, [HL+byte]	3	1	4	X-(HL+byte)	×	×	×
		X, ES:[HL+byte]	4	2	5	X-((ES:HL)+byte)	×	×	×

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

3. r = Aを除く。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (11/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
16ビット演算	ADDW	AX, #word	3	1	—	AX, CY ← AX+word	×	×	×
		AX, AX	1	1	—	AX, CY ← AX+AX	×	×	×
		AX, BC	1	1	—	AX, CY ← AX+BC	×	×	×
		AX, DE	1	1	—	AX, CY ← AX+DE	×	×	×
		AX, HL	1	1	—	AX, CY ← AX+HL	×	×	×
		AX, !addr16	3	1	4	AX, CY ← AX+(addr16)	×	×	×
		AX, ES:!addr16	4	2	5	AX, CY ← AX+(ES:addr16)	×	×	×
		AX, saddrp	2	1	—	AX, CY ← AX+(saddrp)	×	×	×
		AX, [HL+byte]	3	1	4	AX, CY ← AX+(HL+byte)	×	×	×
		AX, ES:[HL+byte]	4	2	5	AX, CY ← AX+((ES:HL)+byte)	×	×	×
	SUBW	AX, #word	3	1	—	AX, CY ← AX-word	×	×	×
		AX, BC	1	1	—	AX, CY ← AX-BC	×	×	×
		AX, DE	1	1	—	AX, CY ← AX-DE	×	×	×
		AX, HL	1	1	—	AX, CY ← AX-HL	×	×	×
		AX, !addr16	3	1	4	AX, CY ← AX-(addr16)	×	×	×
		AX, ES:!addr16	4	2	5	AX, CY ← AX-(ES:addr16)	×	×	×
		AX, saddrp	2	1	—	AX, CY ← AX-(saddrp)	×	×	×
		AX, [HL+byte]	3	1	4	AX, CY ← AX-(HL+byte)	×	×	×
		AX, ES:[HL+byte]	4	2	5	AX, CY ← AX-((ES:HL)+byte)	×	×	×
		CMPW	AX, #word	3	1	—	AX-word	×	×
	AX, BC		1	1	—	AX-BC	×	×	×
	AX, DE		1	1	—	AX-DE	×	×	×
	AX, HL		1	1	—	AX-HL	×	×	×
	AX, !addr16		3	1	4	AX-(addr16)	×	×	×
	AX, ES:!addr16		4	2	5	AX-(ES:addr16)	×	×	×
	AX, saddrp		2	1	—	AX-(saddrp)	×	×	×
	AX, [HL+byte]		3	1	4	AX-(HL+byte)	×	×	×
AX, ES:[HL+byte]	4		2	5	AX-((ES:HL)+byte)	×	×	×	
乗算	MULU		X	1	1	—	AX ← A×X		

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (12/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
増減	INC	r	1	1	—	$r \leftarrow r+1$	×	×	
		!addr16	3	2	—	$(addr16) \leftarrow (addr16)+1$	×	×	
		ES:!addr16	4	3	—	$(ES, addr16) \leftarrow (ES, addr16)+1$	×	×	
		saddr	2	2	—	$(saddr) \leftarrow (saddr)+1$	×	×	
		[HL+byte]	3	2	—	$(HL+byte) \leftarrow (HL+byte)+1$	×	×	
		ES: [HL+byte]	4	3	—	$((ES:HL)+byte) \leftarrow ((ES:HL)+byte)+1$	×	×	
	DEC	r	1	1	—	$r \leftarrow r-1$	×	×	
		!addr16	3	2	—	$(addr16) \leftarrow (addr16)-1$	×	×	
		ES:!addr16	4	3	—	$(ES, addr16) \leftarrow (ES, addr16) - 1$	×	×	
		saddr	2	2	—	$(saddr) \leftarrow (saddr)-1$	×	×	
		[HL+byte]	3	2	—	$(HL+byte) \leftarrow (HL+byte) - 1$	×	×	
		ES: [HL+byte]	4	3	—	$((ES:HL)+byte) \leftarrow ((ES:HL)+byte) - 1$	×	×	
	INCW	rp	1	1	—	$rp \leftarrow rp+1$			
		!addr16	3	2	—	$(addr16) \leftarrow (addr16)+1$			
		ES:!addr16	4	3	—	$(ES, addr16) \leftarrow (ES, addr16)+1$			
		saddrp	2	2	—	$(saddrp) \leftarrow (saddrp)+1$			
		[HL+byte]	3	2	—	$(HL+byte) \leftarrow (HL+byte)+1$			
		ES: [HL+byte]	4	3	—	$((ES:HL)+byte) \leftarrow ((ES:HL)+byte)+1$			
	DECW	rp	1	1	—	$rp \leftarrow rp-1$			
		!addr16	3	2	—	$(addr16) \leftarrow (addr16)-1$			
		ES:!addr16	4	3	—	$(ES, addr16) \leftarrow (ES, addr16)-1$			
saddrp		2	2	—	$(saddrp) \leftarrow (saddrp)-1$				
[HL+byte]		3	2	—	$(HL+byte) \leftarrow (HL+byte) - 1$				
ES: [HL+byte]		4	3	—	$((ES:HL)+byte) \leftarrow ((ES:HL)+byte) - 1$				
シフト	SHR	A, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow A_0, A_{m-1} \leftarrow A_m, A_7 \leftarrow 0) \times cnt$			×
	SHRW	AX, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow AX_0, AX_{m-1} \leftarrow AX_m, AX_{15} \leftarrow 0) \times cnt$			×
	SHL	A, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow A_7, A_m \leftarrow A_{m-1}, A_0 \leftarrow 0) \times cnt$			×
		B, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow B_7, B_m \leftarrow B_{m-1}, B_0 \leftarrow 0) \times cnt$			×
		C, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow C_7, C_m \leftarrow C_{m-1}, C_0 \leftarrow 0) \times cnt$			×
	SHLW	AX, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow AX_{15}, AX_m \leftarrow AX_{m-1}, AX_0 \leftarrow 0) \times cnt$			×
		BC, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow BC_{15}, BC_m \leftarrow BC_{m-1}, BC_0 \leftarrow 0) \times cnt$			×
	SAR	A, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow A_0, A_{m-1} \leftarrow A_m, A_7 \leftarrow A_7) \times cnt$			×
SARW	AX, cnt	2	1	—	$(CY \leftarrow AX_0, AX_{m-1} \leftarrow AX_m, AX_{15} \leftarrow AX_{15}) \times cnt$			×	

注1. 内部RAM領域、SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき、またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

備考1. クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合、最大2倍+3クロックになります。

2. cntはビット・シフト数です。

表29-5 オペレーション一覧 (13/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
ローテート	ROR	A, 1	2	1	—	$(CY, A_7 \leftarrow A_0, A_{m-1} \leftarrow A_m) \times 1$			×
	ROL	A, 1	2	1	—	$(CY, A_0 \leftarrow A_7, A_{m+1} \leftarrow A_m) \times 1$			×
	RORC	A, 1	2	1	—	$(CY \leftarrow A_0, A_7 \leftarrow CY, A_{m-1} \leftarrow A_m) \times 1$			×
	ROLC	A, 1	2	1	—	$(CY \leftarrow A_7, A_0 \leftarrow CY, A_{m+1} \leftarrow A_m) \times 1$			×
	ROLWC	AX, 1	2	1	—	$(CY \leftarrow AX_{15}, AX_0 \leftarrow CY, AX_{m+1} \leftarrow AX_m) \times 1$			×
BC, 1		2	1	—	$(CY \leftarrow BC_{15}, BC_0 \leftarrow CY, BC_{m+1} \leftarrow BC_m) \times 1$			×	
ビット操作	MOV1	CY, A.bit	2	1	—	$CY \leftarrow A.bit$			×
		A.bit, CY	2	1	—	$A.bit \leftarrow CY$			
		CY, PSW.bit	3	1	—	$CY \leftarrow PSW.bit$			×
		PSW.bit, CY	3	4	—	$PSW.bit \leftarrow CY$	×	×	
		CY, saddr.bit	3	1	—	$CY \leftarrow (saddr).bit$			×
		saddr.bit, CY	3	2	—	$(saddr).bit \leftarrow CY$			
		CY, sfr.bit	3	1	—	$CY \leftarrow sfr.bit$			×
		sfr.bit, CY	3	2	—	$sfr.bit \leftarrow CY$			
		CY, [HL].bit	2	1	4	$CY \leftarrow (HL).bit$			×
		[HL].bit, CY	2	2	—	$(HL).bit \leftarrow CY$			
	CY, ES:[HL].bit	3	2	5	$CY \leftarrow (ES, HL).bit$			×	
	ES:[HL].bit, CY	3	3	—	$(ES, HL).bit \leftarrow CY$				
	AND1	CY, A.bit	2	1	—	$CY \leftarrow CY \wedge A.bit$			×
		CY, PSW.bit	3	1	—	$CY \leftarrow CY \wedge PSW.bit$			×
		CY, saddr.bit	3	1	—	$CY \leftarrow CY \wedge (saddr).bit$			×
		CY, sfr.bit	3	1	—	$CY \leftarrow CY \wedge sfr.bit$			×
		CY, [HL].bit	2	1	4	$CY \leftarrow CY \wedge (HL).bit$			×
		CY, ES:[HL].bit	3	2	5	$CY \leftarrow CY \wedge (ES, HL).bit$			×
	OR1	CY, A.bit	2	1	—	$CY \leftarrow CY \vee A.bit$			×
CY, PSW.bit		3	1	—	$CY \leftarrow CY \vee PSW.bit$			×	
CY, saddr.bit		3	1	—	$CY \leftarrow CY \vee (saddr).bit$			×	
CY, sfr.bit		3	1	—	$CY \leftarrow CY \vee sfr.bit$			×	
CY, [HL].bit		2	1	4	$CY \leftarrow CY \vee (HL).bit$			×	
CY, ES:[HL].bit		3	2	5	$CY \leftarrow CY \vee (ES, HL).bit$			×	

注1. 内部RAM領域, SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき, またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合, 最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (14/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
ビット操作	XOR1	CY, A.bit	2	1	—	$CY \leftarrow CY \nabla A.bit$			×
		CY, PSW.bit	3	1	—	$CY \leftarrow CY \nabla PSW.bit$			×
		CY, saddr.bit	3	1	—	$CY \leftarrow CY \nabla (saddr).bit$			×
		CY, sfr.bit	3	1	—	$CY \leftarrow CY \nabla sfr.bit$			×
		CY, [HL].bit	2	1	4	$CY \leftarrow CY \nabla (HL).bit$			×
		CY, ES:[HL].bit	3	2	5	$CY \leftarrow CY \nabla (ES, HL).bit$			×
	SET1	A.bit	2	1	—	$A.bit \leftarrow 1$			
		PSW.bit	3	4	—	$PSW.bit \leftarrow 1$	×	×	×
		!addr16.bit	4	2	—	$(addr16).bit \leftarrow 1$			
		ES:!addr16.bit	5	3	—	$(ES, addr16).bit \leftarrow 1$			
		saddr.bit	3	2	—	$(saddr).bit \leftarrow 1$			
		sfr.bit	3	2	—	$sfr.bit \leftarrow 1$			
		[HL].bit	2	2	—	$(HL).bit \leftarrow 1$			
		ES:[HL].bit	3	3	—	$(ES, HL).bit \leftarrow 1$			
	CLR1	A.bit	2	1	—	$A.bit \leftarrow 0$			
		PSW.bit	3	4	—	$PSW.bit \leftarrow 0$	×	×	×
		!addr16.bit	4	2	—	$(addr16).bit \leftarrow 0$			
		ES:!addr16.bit	5	3	—	$(ES, addr16).bit \leftarrow 0$			
		saddr.bit	3	2	—	$(saddr).bit \leftarrow 0$			
		sfr.bit	3	2	—	$sfr.bit \leftarrow 0$			
		[HL].bit	2	2	—	$(HL).bit \leftarrow 0$			
		ES:[HL].bit	3	3	—	$(ES, HL).bit \leftarrow 0$			
	SET1	CY	2	1	—	$CY \leftarrow 1$			1
	CLR1	CY	2	1	—	$CY \leftarrow 0$			0
NOT1	CY	2	1	—	$CY \leftarrow \overline{CY}$			×	

注1. 内部RAM領域, SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき, またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合, 最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (15/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
コール・リターン	CALL	rp	2	3	—	(SP-2) ← (PC+2) _s , (SP-3) ← (PC+2) _H , (SP-4) ← (PC+2) _L , PC ← CS, rp, SP ← SP-4			
		\$!addr20	3	3	—	(SP-2) ← (PC+3) _s , (SP-3) ← (PC+3) _H , (SP-4) ← (PC+3) _L , PC ← PC+3+jdisp16, SP ← SP-4			
		!addr16	3	3	—	(SP-2) ← (PC+3) _s , (SP-3) ← (PC+3) _H , (SP-4) ← (PC+3) _L , PC ← 0000, addr16, SP ← SP-4			
		!!addr20	4	3	—	(SP-2) ← (PC+4) _s , (SP-3) ← (PC+4) _H , (SP-4) ← (PC+4) _L , PC ← addr20, SP ← SP-4			
	CALLT	[addr5]	2	5	—	(SP-2) ← (PC+2) _s , (SP-3) ← (PC+2) _H , (SP-4) ← (PC+2) _L , PC _s ← 0000, PC _H ← (0000, addr5+1), PC _L ← (0000, addr5), SP ← SP-4			
	BRK	—	2	5	—	(SP-1) ← PSW, (SP-2) ← (PC+2) _s , (SP-3) ← (PC+2) _H , (SP-4) ← (PC+2) _L , PC _s ← 0000, PC _H ← (0007FH), PC _L ← (0007EH), SP ← SP-4, IE ← 0			
	RET	—	1	6	—	PC _L ← (SP), PC _H ← (SP+1), PC _s ← (SP+2), SP ← SP+4			
	RETI	—	2	6	—	PC _L ← (SP), PC _H ← (SP+1), PC _s ← (SP+2), PSW ← (SP+3), SP ← SP+4	R	R	R
	RETB	—	2	6	—	PC _L ← (SP), PC _H ← (SP+1), PC _s ← (SP+2), PSW ← (SP+3), SP ← SP+4	R	R	R

注1. 内部RAM領域, SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき, またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。

2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合, 最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (16/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
スタック操作	PUSH	PSW	2	1	—	(SP-1) ← PSW, (SP-2) ← 00H, SP ← SP-2			
		rp	1	1	—	(SP-1) ← rp _H , (SP-2) ← rp _L , SP ← SP-2			
	POP	PSW	2	3	—	PSW ← (SP+1), SP ← SP+2	R	R	R
		rp	1	1	—	rp _L ← (SP), rp _H ← (SP+1), SP ← SP+2			
	MOVW	SP, #word	4	1	—	SP ← word			
		SP, AX	2	1	—	SP ← AX			
		AX, SP	2	1	—	AX ← SP			
		HL, SP	3	1	—	HL ← SP			
		BC, SP	3	1	—	BC ← SP			
		DE, SP	3	1	—	DE ← SP			
ADDW	SP, #byte	2	1	—	SP ← SP+byte				
SUBW	SP, #byte	2	1	—	SP ← SP-byte				
無条件分岐	BR	AX	2	3	—	PC ← CS, AX			
		\$addr20	2	3	—	PC ← PC+2+jdisp8			
		!addr20	3	3	—	PC ← PC+3+jdisp16			
		!addr16	3	3	—	PC ← 0000, addr16			
		!!addr20	4	3	—	PC ← addr20			
条件付き分岐	BC	\$addr20	2	2/4 ^{注3}	—	PC ← PC+2+jdisp8 if CY = 1			
	BNC	\$addr20	2	2/4 ^{注3}	—	PC ← PC+2+jdisp8 if CY = 0			
	BZ	\$addr20	2	2/4 ^{注3}	—	PC ← PC+2+jdisp8 if Z = 1			
	BNZ	\$addr20	2	2/4 ^{注3}	—	PC ← PC+2+jdisp8 if Z = 0			
	BH	\$addr20	3	2/4 ^{注3}	—	PC ← PC+3+jdisp8 if (ZVCY)=0			
	BNH	\$addr20	3	2/4 ^{注3}	—	PC ← PC+3+jdisp8 if (ZVCY)=1			
	BT	saddr.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if (saddr).bit = 1			
		sfr.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if sfr.bit = 1			
		A.bit, \$addr20	3	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+3+jdisp8 if A.bit = 1			
		PSW.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if PSW.bit = 1			
		[HL].bit, \$addr20	3	3/5 ^{注3}	6/7	PC ← PC+3+jdisp8 if (HL).bit = 1			
ES:[HL].bit, \$addr20		4	4/6 ^{注3}	7/8	PC ← PC+4+jdisp8 if (ES, HL).bit = 1				

- 注1. 内部RAM領域, SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき, またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。
2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。
3. クロック数は“条件不成立時/条件成立時”を表しています。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合, 最大2倍+3クロックになります。

表29-5 オペレーション一覧 (17/17)

命令群	ニモニック	オペランド	バイト	クロック		オペレーション	フラグ		
				注1	注2		Z	AC	CY
条件付き分岐	BF	saddr.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if (saddr).bit = 0			
		sfr.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if sfr.bit = 0			
		A.bit, \$addr20	3	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+3+jdisp8 if A.bit = 0			
		PSW.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if PSW.bit = 0			
		[HL].bit, \$addr20	3	3/5 ^{注3}	6/7	PC ← PC+3+jdisp8 if (HL).bit = 0			
		ES:[HL].bit, \$addr20	4	4/6 ^{注3}	7/8	PC ← PC+4+jdisp8 if (ES, HL).bit = 0			
	BTCLR	saddr.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if (saddr).bit = 1 then reset (saddr).bit			
		sfr.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if sfr.bit = 1 then reset sfr.bit			
		A.bit, \$addr20	3	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+3+jdisp8 if A.bit = 1 then reset A.bit			
		PSW.bit, \$addr20	4	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if PSW.bit = 1 then reset PSW.bit	×	×	×
		[HL].bit, \$addr20	3	3/5 ^{注3}	—	PC ← PC+3+jdisp8 if (HL).bit = 1 then reset (HL).bit			
		ES:[HL].bit, \$addr20	4	4/6 ^{注3}	—	PC ← PC+4+jdisp8 if (ES, HL).bit = 1 then reset (ES, HL).bit			
条件付きスキップ	SKC	—	2	1	—	Next instruction skip if CY = 1			
	SKNC	—	2	1	—	Next instruction skip if CY = 0			
	SKZ	—	2	1	—	Next instruction skip if Z = 1			
	SKNZ	—	2	1	—	Next instruction skip if Z = 0			
	SKH	—	2	1	—	Next instruction skip if (ZVCY)=0			
	SKNH	—	2	1	—	Next instruction skip if (ZVCY)=1			
CPU制御	SEL ^{注4}	RBN	2	1	—	RBS[1:0] ← n			
	NOP	—	1	1	—	No Operation			
	EI	—	3	4	—	IE ← 1 (Enable Interrupt)			
	DI	—	3	4	—	IE ← 0 (Disable Interrupt)			
	HALT	—	2	3	—	Set HALT Mode			
	STOP	—	2	3	—	Set STOP Mode			

- 注1. 内部RAM領域, SFR領域および拡張SFR領域をアクセスしたとき, またはデータ・アクセスをしないときのCPUクロック (fCLK) 数。
2. コード・フラッシュ領域および8ビット命令でデータ・フラッシュ領域をアクセスしたときのCPUクロック (fCLK) 数。
3. クロック数は“条件不成立時/条件成立時”を表しています。
4. nはレジスタ・バンク番号です (n = 0-3)。

備考 クロック数は内部ROM (フラッシュ・メモリ) 領域にプログラムがある場合です。内部RAM領域から命令フェッチする場合, 最大2倍+3クロックになります。

第30章 電気的特性 (A, G : $T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$)

この章では、A : 民生用途 ($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$) , G : 産業用途 ($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$ にて使用する場合) の電気的特性を示します。

- 注意1. RL78マイクロコントローラには開発/評価用にオンチップ・デバッグ機能が搭載されています。オンチップ・デバッグ機能を使用した場合、フラッシュ・メモリの保証書き換え回数を越えてしまう可能性があり、製品の信頼性が保証できませんので、量産用の製品には本機能を使用しないでください。オンチップ・デバッグ機能を使用した製品については、クレーム受け付け対象外となります。
2. EV_{DD} , EV_{SS} 端子がない製品は、 EV_{DD} を V_{DD} に、 EV_{SS} を V_{SS} に置き換えてください。
 3. 製品により搭載している端子が異なります。2.1 ポート機能~2.2.1 製品別搭載端子 (ポート以外の端子) を参照してください。

30.1 絶対最大定格

絶対最大定格 (T_A = 25 °C) (1/3)

項目	略号	条件	定格	単位
電源電圧	V _{DD}	V _{DD} = EV _{DD}	-0.5~+6.5	V
	EV _{DD}	V _{DD} = EV _{DD}	-0.5~+6.5	V
	EV _{SS}		-0.5~+0.3	V
REGC端子入力電圧	V _{IREGC}	REGC	-0.3~+2.8 かつ-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注1}	V
入力電圧	V _{I1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	-0.3~EV _{DD} +0.3 かつ-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注2}	V
	V _{I2}	P60, P61 (N-chオープン・ドレイン)	-0.3~EV _{DD} +0.3 かつ-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注2}	V
	V _{I3}	P20, P21, P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS, RESET	-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注2}	V
出力電圧	V _{O1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	-0.3~EV _{DD} +0.3 かつ-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注2}	V
	V _{O2}	P20, P21	-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注2}	V
アナログ入力電圧	V _{AI1}	ANI16-ANI23	-0.3~EV _{DD} +0.3 かつ-0.3~AV _{REF(+)} +0.3 ^{注2, 3}	V
	V _{AI2}	ANI0, ANI1	-0.3~V _{DD} +0.3 かつ-0.3~AV _{REF(+)} +0.3 ^{注2, 3}	V

注1. REGC端子にはコンデンサ (0.47~1 μF) を介してV_{SS}に接続してください。この値は、REGC端子の絶対最大定格を規定するものです。電圧印加して使用しないでください。

- 6.5 V以下であること。
- A/D変換対象の端子は、AV_{REF(+)}+0.3を越えないでください。

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

備考 1. 特に指定がないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

- AV_{REF(+)} : A/Dコンバータの+側基準電圧
- V_{SS}を基準電圧とする。

絶対最大定格 (T_A = 25 °C) (2/3)

項目	略号	条件		定格	単位
LCD電圧	V _{L1}	V _{L1} 電圧 ^{注1}		-0.3~+2.8且つ -0.3~V _{L4} +0.3	V
	V _{L2}	V _{L2} 電圧 ^{注1}		-0.3~V _{L4} +0.3 ^{注2}	V
	V _{L3}	V _{L3} 電圧 ^{注1}		-0.3~V _{L4} +0.3 ^{注2}	V
	V _{L4}	V _{L4} 電圧 ^{注1}		-0.3~+6.5	V
	V _{LCAP}	CAPL, CAPH電圧 ^{注1}		-0.3~V _{L4} +0.3 ^{注2}	V
	V _{LOUT}	COM0-COM7, SEG0-SEG38, 出力電圧	外部抵抗分割方式	-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注2}	V
		容量分割方式	-0.3~V _{DD} +0.3 ^{注2}		
		内部昇圧方式	-0.3~V _{L4} +0.3 ^{注2}		

注 1. この値は、V_{L1}, V_{L2}, V_{L3}, V_{L4}端子への電圧印加する場合の絶対最大定格を規定するものであり、電圧印加して使用することを推奨しているわけではありません。内部昇圧方式、容量分割方式の場合、V_{L1}, V_{L2}, V_{L3}, V_{L4}端子にはコンデンサ (0.47±30%) を介してV_{SS}に接続し、CAPL端子、CAPH端子間にもコンデンサ (0.47±30%) を接続してください。

2. 6.5 V以下であること。

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

備考 V_{SS}を基準電圧とする。

絶対最大定格 ($T_A = 25^\circ\text{C}$) (3/3)

項目	略号	条件		定格	単位
ハイ・レベル出力電流	I _{OH1}	1端子	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	-40	mA
		端子合計	P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147	-70	mA
		-170 mA	P15-P17, P30-P32, P50-P54, P70-P74, P125-P127	-100	mA
	I _{OH2}	1端子	P20, P21	-0.5	mA
		端子合計		-1	mA
	ロウ・レベル出力電流	I _{OL1}	1端子	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	40
端子合計			P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147	70	mA
170 mA			P15-P17, P30-P32, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P125-P127	100	mA
I _{OL2}		1端子	P20, P21	1	mA
		端子合計		2	mA
動作周囲温度		T _A	通常動作時		-40 ~ +85
	フラッシュ・メモリ・プログラミング時				
保存温度	T _{stg}			-65 ~ +150	°C

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

備考 特に指定がないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

30.2 発振回路特性

30.2.1 X1, XT1発振回路特性

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	発振子	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
X1クロック発振 周波数 (f _x) 注	セラミック発振子/ 水晶振動子	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	1.0		20.0	MHz
		2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 2.7 V	1.0		16.0	
		1.8 V ≤ V _{DD} < 2.7 V	1.0		8.0	
		1.6 V ≤ V _{DD} < 1.8 V	1.0		4.0	
XT1クロック発振周波数 (f _{XT}) 注	水晶振動子		32	32.768	35	kHz

注 発振回路の周波数許容範囲のみを示すものです。命令実行時間は、30.4 AC特性を参照してください。

また、実装回路上での評価を発振子メーカーに依頼し、発振特性を確認してご使用ください。

注意 リセット解除後は、高速オンチップ・オシレータ・クロックによりCPUが起動されるため、X1クロックの発振安定時間は発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) でユーザにて確認してください。また使用する発振子で発振安定時間を十分に評価してから、OSTCレジスタ、発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の発振安定時間を決定してください。

備考 X1, XT1発振回路を使用する場合は、5.4 システム・クロック発振回路を参照してください。

30.2.2 オンチップ・オシレータ特性

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
高速オンチップ・オシレータ・ クロック周波数注 ^{1,2}	f _{IH}		1		24	MHz	
高速オンチップ・オシレータ ・クロック周波数精度		-20~+85 °C	1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	-1		+1	%
			1.6 V ≤ V _{DD} < 1.8 V	-5		+5	%
		-40~-20 °C	1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	-1.5		+1.5	%
			1.6 V ≤ V _{DD} < 1.8 V	-5.5		+5.5	%
低速オンチップ・オシレータ ・クロック周波数	f _{IL}			15		kHz	
低速オンチップ・オシレータ ・クロック周波数精度			-15		+15	%	

注 1. 高速オンチップ・オシレータの周波数は、オプション・バイト (000C2H) のビット0-3およびHOCODIVレジスタのビット0-2によって選択します。

2. 発振回路の特性だけを示すものです。命令実行時間は、30.4 AC特性を参照してください。

30.3 DC特性

30.3.1 端子特性

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(1/5)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ハイ・レベル出力電流 ^{注1}	I _{OH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147 1端子			-10.0 ^{注2}	mA	
		P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147 合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			-40.0	mA
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			-8.0	mA
			1.8 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			-4.0	mA
		P15-P17, P30-P32, P50-P54, P70-P74, P125-P127 合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})	1.6 V ≤ EV _{DD} < 1.8 V			-2.0	mA
			4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			-60.0	mA
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			-15.0	mA
		全端子合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})	1.8 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			-8.0	mA
			1.6 V ≤ EV _{DD} < 1.8 V			-4.0	mA
		I _{OH2}	P20, P21 1端子	全端子合計			-100.0
全端子合計	1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V					-0.2	mA

注1. V_{DD}, EV_{DD}端子から出力端子に流れ出しても、デバイスの動作を保証する電流値です。

2. 合計の電流値を越えないでください。

3. デューティ ≤ 70 %の条件での出力電流の値です。

デューティ > 70 %に変更した出力電流の値は、次の計算式で求めることができます（デューティ比をn %に変更する場合）。

$$\cdot \text{端子合計の出力電流} = (I_{OH} \times 0.7) / (n \times 0.01)$$

<計算例> I_{OH} = -40.0 mAの場合, n = 80 %

$$\text{端子合計の出力電流} = (-40.0 \times 0.7) / (80 \times 0.01) \approx -35.0 \text{ mA}$$

ただし、1端子あたりに流せる電流は、デューティによって変わることはありません。また、絶対最大定格以上の電流は流せません。

注意 P10, P12, P15, P17は、N-chオープン・ドレイン・モード時には、ハイ・レベル出力しません。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(2/5)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ロウ・レベル出力電流 ^{注1}	I _{OL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147 1端子			20.0 ^{注2}	mA	
		P60, P61 1端子			15.0 ^{注2}	mA	
		P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147 合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			70.0	mA
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			15.0	mA
			1.8 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			9.0	mA
			1.6 V ≤ EV _{DD} < 1.8 V			4.5	mA
		P15-P17, P30-P32, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P125-P127 合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			80.0	mA
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			35.0	mA
			1.8 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			20.0	mA
			1.6 V ≤ EV _{DD} < 1.8 V			10.0	mA
	全端子合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})				150.0	mA	
I _{OL2}	P20, P21	1端子			0.4	mA	
		全端子合計 1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V			0.8	mA	

注1. V_{DD}, EV_{DD}端子から出力端子に流れ出しても、デバイスの動作を保證する電流値です。

- 合計の電流値を越えないでください。
- デューティ ≤ 70 %の条件での出力電流の値です。

デューティ > 70 %に変更した出力電流の値は、次の計算式で求めることができます（デューティ比をn %に変更する場合）。

$$\cdot \text{端子合計の出力電流} = (I_{OH} \times 0.7) / (n \times 0.01)$$

<計算例> I_{OL} = 70.0 mAの場合, n = 80 %

$$\text{端子合計の出力電流} = (70.0 \times 0.7) / (80 \times 0.01) \approx 61.25 \text{ mA}$$

ただし、1端子あたりに流せる電流は、デューティによって変わることはありません。また、絶対最大定格以上の電流は流せません。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $1.6\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$, $\text{V}_{\text{SS}} = \text{EV}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$)

(3/5)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ハイ・レベル入力電圧	V_{IH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	通常入力バッファ	0.8EV_{DD}		EV_{DD}	V
	V_{IH2}	P10, P11, P15, P16	TTL入力バッファ $4.0\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$	2.2		EV_{DD}	V
			TTL入力バッファ $3.3\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} < 4.0\text{ V}$	2.0		EV_{DD}	V
			TTL入力バッファ $1.6\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} < 3.3\text{ V}$	1.50		EV_{DD}	V
	V_{IH3}	P20, P21		0.7V_{DD}		V_{DD}	V
	V_{IH4}	P60, P61		0.7EV_{DD}		EV_{DD}	V
	V_{IH5}	P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS, $\overline{\text{RESET}}$		0.8V_{DD}		V_{DD}	V
ロウ・レベル入力電圧	V_{IL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	通常入力バッファ	0		0.2EV_{DD}	V
	V_{IL2}	P10, P11, P15, P16	TTL入力バッファ $4.0\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$	0		0.8	V
			TTL入力バッファ $3.3\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} < 4.0\text{ V}$	0		0.5	V
			TTL入力バッファ $1.6\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} < 3.3\text{ V}$	0		0.32	V
	V_{IL3}	P20, P21		0		0.3V_{DD}	V
	V_{IL4}	P60, P61		0		0.3EV_{DD}	V
	V_{IL5}	P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS, $\overline{\text{RESET}}$		0		0.2V_{DD}	V

注意 P10, P12, P15, P17は、N-chオープン・ドレイン・モード時でも V_{IH} の最大値 (MAX.) は EV_{DD} です。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(4/5)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ハイ・レベル出力電圧	V _{OH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -10 mA	EV _{DD} - 1.5			V
			4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -3.0 mA	EV _{DD} - 0.7			V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -2.0 mA	EV _{DD} - 0.6			V
			1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -1.5 mA	EV _{DD} - 0.5			V
			1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -1.0 mA	EV _{DD} - 0.5			V
	V _{OH2}	P20, P21	1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH2} = -100 μA	V _{DD} -0.5			V
ロウ・レベル出力電圧	V _{OL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 20 mA			1.3	V
			4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 8.5 mA			0.7	V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 3.0 mA			0.6	V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 1.5 mA			0.4	V
			1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 0.6 mA			0.4	V
			1.6 V ≤ EV _{DD} < 5.5 V, I _{OL1} = 0.3 mA			0.4	V
			V _{OL2}	P20, P21	1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL2} = 400 μA		
	V _{OL3}	P60, P61	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 15.0 mA			2.0	V
			4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 5.0 mA			0.4	V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 3.0 mA			0.4	V
			1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 2.0 mA			0.4	V
			1.6 V ≤ EV _{DD} < 5.5 V, I _{OL3} = 1.0 mA			0.4	V

注意 P10, P12, P15, P17は、N-chオープン・ドレイン・モード時には、ハイ・レベル出力しません。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $1.6\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$, $\text{V}_{\text{SS}} = \text{EV}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$)

(5/5)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ハイ・レベル入力リーク電流	I _{LIH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	$V_i = \text{EV}_{\text{DD}}$			1	μA	
	I _{LIH2}	P20, P21, P137, $\overline{\text{RESET}}$	$V_i = \text{V}_{\text{DD}}$			1	μA	
	I _{LIH3}	P121-P124 (X1, X2, XT1, XT2, EXCLK, EXCLKS)	$V_i = \text{V}_{\text{DD}}$	入力ポート時, 外部クロック 入力時			1	μA
						10	μA	
ロウ・レベル入力リーク電流	I _{LIL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	$V_i = \text{EV}_{\text{SS}}$			-1	μA	
	I _{LIL2}	P20, P21, P137, $\overline{\text{RESET}}$	$V_i = \text{V}_{\text{SS}}$			-1	μA	
	I _{LIL3}	P121-P124 (X1, X2, XT1, XT2, EXCLK, EXCLKS)	$V_i = \text{V}_{\text{SS}}$	入力ポート時, 外部クロック 入力時			-1	μA
						-10	μA	
内蔵プルアップ抵抗	R _{U1}	$V_i = \text{EV}_{\text{SS}}$	SEGxx兼用ポート					
			$2.4\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$	10	20	100	k Ω	
			$1.6\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} < 2.4\text{ V}$	10	30	100	k Ω	
	R _{U2}		上記以外のポート (P60, P61, P130は除く)	10	20	100	k Ω	

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

30.3.2 電源電流特性

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(1/3)

項目	略号	条件				MIN.	TYP.	MAX.	単位	
電源電流 ^{注1}	IDD1	動作モード	HS (高速メイン)モード ^{注5}	f _{IH} = 24 MHz ^{注3}	基本動作	V _{DD} = 5.0 V		1.5		mA
						V _{DD} = 3.0 V		1.5		
					通常動作	V _{DD} = 5.0 V		3.3	5.0	mA
						V _{DD} = 3.0 V		3.3	5.0	
					通常動作	V _{DD} = 5.0 V		2.5	3.7	mA
						V _{DD} = 3.0 V		2.5	3.7	
			LS (低速メイン)モード ^{注5}	f _{IH} = 8 MHz ^{注3}	通常動作	V _{DD} = 3.0 V		1.2	1.8	mA
						V _{DD} = 2.0 V		1.2	1.8	
			LV (低電圧メイン)モード ^{注5}	f _{IH} = 4 MHz ^{注3}	通常動作	V _{DD} = 3.0 V		1.2	1.7	mA
						V _{DD} = 2.0 V		1.2	1.7	
			HS (高速メイン)モード ^{注5}	f _{MX} = 20 MHz ^{注2} , V _{DD} = 5.0 V	通常動作	方形波入力		2.8	4.4	mA
						発振子接続		3.0	4.6	
		通常動作			方形波入力		2.8	4.4	mA	
					発振子接続		3.0	4.6		
		通常動作			f _{MX} = 10 MHz ^{注2} , V _{DD} = 5.0 V	方形波入力		1.8	2.6	mA
						発振子接続		1.8	2.6	
		通常動作			f _{MX} = 10 MHz ^{注2} , V _{DD} = 3.0 V	方形波入力		1.8	2.6	mA
						発振子接続		1.8	2.6	
		LS (低速メイン)モード ^{注5}	f _{MX} = 8 MHz ^{注2} , V _{DD} = 3.0 V	通常動作	方形波入力		1.1	1.7	mA	
					発振子接続		1.1	1.7		
				通常動作	f _{MX} = 8 MHz ^{注2} , V _{DD} = 2.0 V	方形波入力		1.1	1.7	mA
						発振子接続		1.1	1.7	
		サブシステム・クロック動作	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注4}	通常動作	方形波入力	T _A = -40°C		3.5	4.9	μA
						発振子接続		3.6	5.0	
通常動作	方形波入力			T _A = +25°C		3.6	4.9	μA		
				発振子接続		3.7	5.0			
通常動作	方形波入力			T _A = +50°C		3.7	5.5	μA		
				発振子接続		3.8	5.6			
通常動作	方形波入力	T _A = +70°C		3.8	6.3	μA				
		発振子接続		3.9	6.4					
通常動作	方形波入力	T _A = +85°C		4.1	7.7	μA				
		発振子接続		4.2	7.8					

(注, 備考は次ページにあります。)

注1. V_{DD} , EV_{DD} に流れるトータル電流です。入力端子を V_{DD} , EV_{DD} または V_{SS} , EV_{SS} に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS (高速メイン) モード, LS (低速メイン) モード, LV (低電圧メイン) モード時, 電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし, A/Dコンバータ, LVD回路, I/Oポート, 内蔵プルアップ/プルダウン抵抗, データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。サブシステム・クロック動作時, 電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし, HALTモード時はRTCに流れる電流を含みます。

2. 高速オンチップ・オシレータ, サブシステム・クロックは停止時。
3. 高速システム・クロック, サブシステム・クロックは停止時。
4. 高速オンチップ・オシレータ, 高速システム・クロックは停止時。超低消費発振 (AMPHS1 = 1) 設定時。
5. 動作電圧範囲, CPU動作周波数, 動作モードの関係を次に示します。

HS (高速メイン) モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 24\text{ MHz}$

$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 16\text{ MHz}$

LS (低速メイン) モード : $1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 8\text{ MHz}$

LV (低電圧メイン) モード : $1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 4\text{ MHz}$

- 備考1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数 (X1クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)
2. f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
 3. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数 (XT1クロック発振周波数)
 4. 「サブシステム・クロック動作」以外のTYP.値の温度条件は, $T_A = 25^\circ\text{C}$ です。

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V) (2/3)

項 目	略号	条 件		MIN.	TYP.	MAX.	単位		
電源電流 ^{注1}	I _{DD2} ^{注2}	HALTモード	HS (高速メイン)モード ^{注6}	f _{IH} = 24 MHz ^{注4}	V _{DD} = 5.0 V	0.44	1.28	mA	
					V _{DD} = 3.0 V	0.44	1.28		
				f _{IH} = 16 MHz ^{注4}	V _{DD} = 5.0 V	0.40	1.00	mA	
					V _{DD} = 3.0 V	0.40	1.00		
				LS (低速メイン)モード ^{注6}	f _{IH} = 8 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V	260	530	μA
					V _{DD} = 2.0 V	260	530		
			LV (低電圧メイン)モード ^{注6}	f _{IH} = 4 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V	420	640	μA	
					V _{DD} = 2.0 V	420	640		
			HS (高速メイン)モード ^{注6}	f _{MX} = 20 MHz ^{注3} , V _{DD} = 5.0 V	方形波入力	0.28	1.00	mA	
					発振子接続	0.45	1.17		
				f _{MX} = 20 MHz ^{注3} , V _{DD} = 3.0 V	方形波入力	0.28	1.00	mA	
					発振子接続	0.45	1.17		
				f _{MX} = 10 MHz ^{注3} , V _{DD} = 5.0 V	方形波入力	0.19	0.60	mA	
					発振子接続	0.26	0.67		
			f _{MX} = 10 MHz ^{注3} , V _{DD} = 3.0 V	方形波入力	0.19	0.60	mA		
				発振子接続	0.26	0.67			
			LS (低速メイン)モード ^{注6}	f _{MX} = 8 MHz ^{注3} , V _{DD} = 3.0 V	方形波入力	95	330	μA	
					発振子接続	145	380		
		f _{MX} = 8 MHz ^{注3} , V _{DD} = 2.0 V		方形波入力	95	330	μA		
			発振子接続	145	380	μA			
		サブシステム・ クロック動作	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = -40°C	方形波入力	0.31	0.57	μA		
				発振子接続	0.50	0.76			
			f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +25°C	方形波入力	0.37	0.57	μA		
	発振子接続			0.56	0.76				
	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +50°C		方形波入力	0.46	1.17	μA			
			発振子接続	0.65	1.36				
	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +70°C	方形波入力	0.57	1.97	μA				
	発振子接続	0.76	2.16	μA					
	I _{DD3}	STOPモード ^{注7}	T _A = -40°C		0.17	0.50	μA		
			T _A = +25°C		0.23	0.50			
			T _A = +50°C		0.32	1.10			
			T _A = +70°C		0.43	1.90			
			T _A = +85°C		0.71	3.30			

(注, 備考は次ページにあります。)

- 注1. V_{DD} , EV_{DD} に流れるトータル電流です。入力端子を V_{DD} , EV_{DD} または V_{SS} , EV_{SS} に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS (高速メイン) モード, LS (低速メイン) モード, LV (低電圧メイン) モード時, 電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし, A/Dコンバータ, LVD回路, I/Oポート, 内蔵プルアップ/プルダウン抵抗, データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。サブシステム・クロック動作時, 電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし, HALTモード時はRTCに流れる電流を含みます。STOPモード時, 電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。
2. フラッシュ・メモリでのHALT命令実行時。
 3. 高速オンチップ・オシレータ, サブシステム・クロックは停止時。
 4. 高速システム・クロック, サブシステム・クロックは停止時。
 5. 高速オンチップ・オシレータ, 高速システム・クロックは停止時。
RTCLPC = 1, かつ超低消費発振 (AMPHS1 = 1) 設定時。
 6. 動作電圧範囲, CPU動作周波数, 動作モードの関係を次に示します。
 - HS (高速メイン) モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 24\text{ MHz}$
 $2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 16\text{ MHz}$
 - LS (低速メイン) モード : $1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 8\text{ MHz}$
 - LV (低電圧メイン) モード : $1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 4\text{ MHz}$
 7. STOPモード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値は, HALTモード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値を参照してください。

- 備考1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数 (X1クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)
2. f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
 3. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数 (XT1クロック発振周波数)
 4. 「サブシステム・クロック動作」, 「STOPモード」以外のTYP.値の温度条件は, $T_A = 25^\circ\text{C}$ です。

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(3/3)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
低速オンチップ・オシレータ動作電流	I _{FIL} ^{注1}				0.20		μA
RTC動作電流	I _{RTC} ^{注1, 2, 3}	f _{MAIN} は停止			0.08		μA
12ビット・インターバル・タイマ動作電流	I _{IT} ^{注1, 2, 4}				0.08		μA
ウォッチドッグ・タイマ動作電流	I _{WDT} ^{注1,2,5}	f _{IL} = 15 kHz			0.24		μA
A/Dコンバータ動作電流	I _{ADC} ^{注1,6}	最高速変換時	標準モード [‡] , AV _{REFP} = V _{DD} = 5.0 V		1.3	1.7	mA
			低電圧モード [‡] , AV _{REFP} = V _{DD} = 3.0 V		0.5	0.7	mA
A/Dコンバータ基準電圧電流	I _{ADREF} ^{注1}				75.0		μA
温度センサ動作電流	I _{TMPS} ^{注1}				75.0		μA
LVD動作電流	I _{LVD} ^{注1,7}				0.08		μA
セルフ・プログラミング動作電流	I _{FSP} ^{注1, 9}				2.50	12.20	mA
BGO動作電流	I _{BGO} ^{注1,8}				2.00	12.20	mA
LCD動作電流	I _{LCD1} ^{注11, 12}	外部抵抗分割方式	V _{DD} = EV _{DD} = 5.0 V V _{L4} = 5.0 V		0.04	0.20	μA
			V _{DD} = EV _{DD} = 5.0 V V _{L4} = 5.1 V (VLCD = 12H)		1.12	3.70	μA
	I _{LCD2} ^{注11}	内部昇圧方式	V _{DD} = EV _{DD} = 5.0 V V _{L4} = 3.0 V (VLCD = 04H)		0.63	2.20	μA
			V _{DD} = EV _{DD} = 3.0 V V _{L4} = 3.0 V (VLCD = 04H)				
I _{LCD3} ^{注11}	容量分割方式	V _{DD} = EV _{DD} = 3.0 V V _{L4} = 3.0 V		0.12	0.50	μA	
SNOOZE動作電流	I _{SNOZ} ^{注1}	ADC動作	モード遷移中 ^{注10}		0.50	0.60	mA
			変換動作中, 低電圧モード, AV _{REFP} = V _{DD} = 3.0 V		1.20	1.44	
		簡易SPI(CSI)/URT動作		0.70	0.84		

注 1. V_{DD}に流れる電流です。

- 高速オンチップ・オシレータ, 高速システム・クロックは停止時。
- リアルタイム・クロック (RTC) にのみ流れる電流です (低速オンチップ・オシレータ, XT1発振回路の動作電流は含みません)。動作モードまたはHALTモードでのリアルタイム・クロックの動作時は, I_{DD1}またはI_{DD2}にI_{RTC}を加算した値が, RL78マイクロコントローラの電流値となります。また, 低速オンチップ・オシレータ選択時はI_{FIL}を加算してください。I_{DD2}のサブシステム・クロック動作にはリアルタイム・クロックの動作電流が含まれています。
- 12ビット・インターバル・タイマにのみ流れる電流です (低速オンチップ・オシレータ, XT1発振回路の動作電流は含みません)。動作モードまたはHALTモードでの12ビット・インターバル・タイマの動作時は, I_{DD1}またはI_{DD2}にI_{IT}を加算した値が, RL78マイクロコントローラの電流値となります。また, 低速オンチップ・オシレータ選択時はI_{FIL}を加算してください。

5. ウォッチドッグ・タイマにのみ流れる電流です（低速オンチップ・オシレータの動作電流を含みます）。ウォッチドッグ・タイマの動作時は、 I_{DD1} 、 I_{DD2} または I_{DD3} に I_{WDT} を加算した値が、RL78マイクロコントローラの電流値となります。
6. A/Dコンバータにのみ流れる電流です。動作モードまたはHALTモードでのA/Dコンバータの動作時は I_{DD1} または I_{DD2} に I_{ADC} を加算した値が、RL78マイクロコントローラの電流値となります。
7. LVD回路にのみ流れる電流です。LVD回路の動作時は、 I_{DD1} 、 I_{DD2} または I_{DD3} に I_{LVD} を加算した値がRL78マイクロコントローラの電流値となります。
8. データ・フラッシュ書き換え動作に流れる電流です。
9. セルフ・プログラミング動作に流れる電流です。
10. SNOOZEモードへの移行時間は、19.3.3 SNOOZEモードを参照してください。
11. LCDコントローラ／ドライバにのみ流れる電流です。動作モードまたはHALTモード時にLCDコントローラ／ドライバが動作中の場合、電源電流（ I_{DD1} または I_{DD2} ）にLCD動作電流（ I_{LCD1} または I_{LCD2} または I_{LCD3} ）を加算した値が、RL78マイクロコントローラの電流値となります。LCDパネルに流れる電流は含みません。TYP.値、MAX.値は以下の条件の値となります。
 - ・システム・クロックに f_{SUB} 選択、LCDクロック = 128 Hz時（ $LCDC0 = 07H$ ）
 - ・4時分割、1/3バイアス設定
12. 外部抵抗分割方式使用時の外部分割抵抗に流れる電流は含みません。

- 備考1. f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
2. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数（XT1クロック発振周波数）
 3. f_{CLK} : CPU／周辺ハードウェア・クロック周波数
 4. TYP.値の温度条件は、 $T_A = 25^\circ\text{C}$ です。

30.4 AC特性

30.4.1 基本動作

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

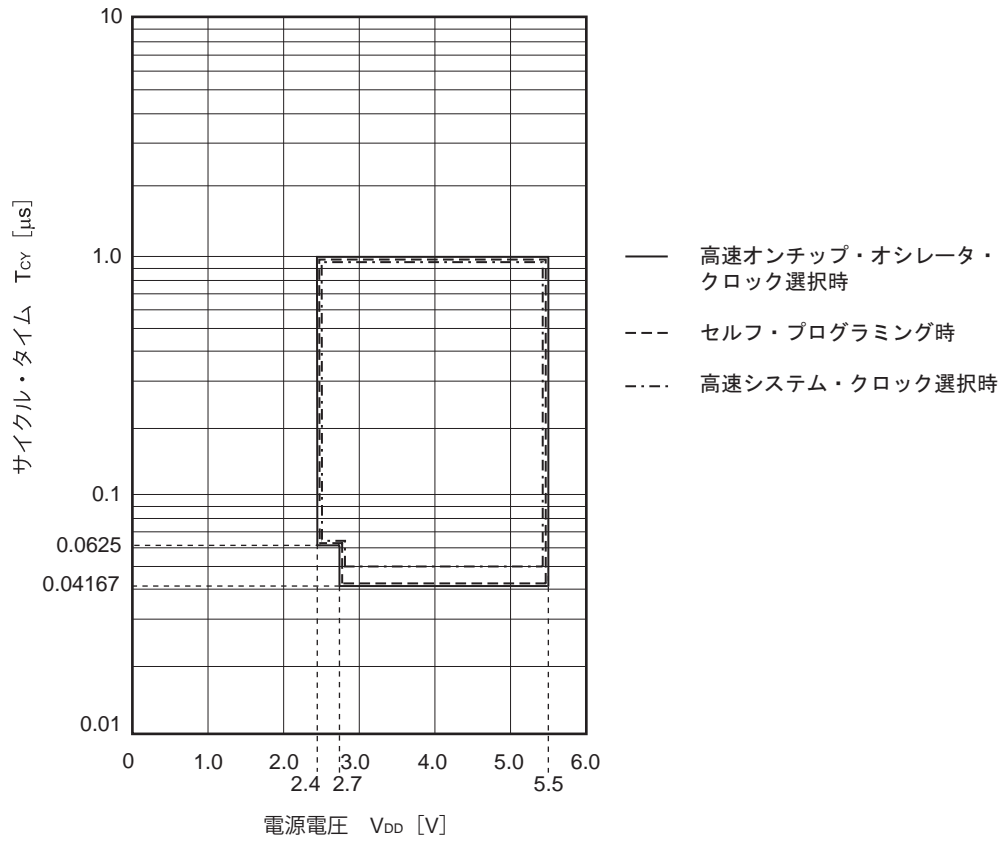
項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位		
命令サイクル (最小命令実行時間)	T _{cy}	メイン・システム・クロック (f _{MAIN}) 動作	HS (高速メイン) モード	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	0.04167		1	μs	
				2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V	0.0625		1	μs	
			LV (低電圧メイン) モード	1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	0.25		1	μs	
			LS (低速メイン) モード	1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	0.125		1	μs	
			サブシステム・クロック (f _{SUB}) 動作	1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	28.5	30.5	31.3	μs	
		セルフ・プログラミング時	HS (高速メイン) モード		2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	0.04167		1	μs
					2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V	0.0625		1	μs
				LV (低電圧メイン) モード	1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	0.25		1	μs
LS (低速メイン) モード	1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V			0.125		1	μs		
外部システム・クロック 周波数	f _{EX}	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V		1.0		20.0	MHz		
		2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V		1.0		16.0	MHz		
		1.8 V ≤ V _{DD} < 2.4 V		1.0		8.0	MHz		
		1.6 V ≤ V _{DD} < 1.8 V		1.0		4.0	MHz		
	f _{EXS}			32		35	kHz		
外部システム・クロック入力 ハイ、ロウ・レベル幅	t _{EXH} , t _{EXL}	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V		24			ns		
		2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V		30			ns		
		1.8 V ≤ V _{DD} < 2.4 V		60			ns		
		1.6 V ≤ V _{DD} < 1.8 V		120			ns		
	t _{EXHS} , t _{EXLS}			13.7			μs		
Ti00-Ti07入力ハイ・レベル幅, ロウ・レベル幅	t _{NIH} , t _{NIL}			1/f _{MCK} + 10			ns		
TO00 -TO07出力周波数	f _{TO}	HS (高速メイン) モード	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			16	MHz		
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			8	MHz		
			2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			4	MHz		
		LS (低速メイン) モード	1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			4	MHz		
		LV (低電圧メイン) モード	1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			2	MHz		
PCLBUZ0, PCLBUZ1出力周波 数	f _{FCL}	HS (高速メイン) モード	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			16	MHz		
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			8	MHz		
			2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			4	MHz		
		LS (低速メイン) モード	1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			4	MHz		
		LV (低電圧メイン) モード	1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			4	MHz		
		1.6 V ≤ EV _{DD} < 1.8 V			2	MHz			
割り込み入力ハイ・レベル幅, ロウ・レベル幅	t _{INTH} , t _{INTL}	INTP0	1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	1			μs		
		INTP1-INTP7	1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	1			μs		
キー割り込み入力 ロウ・レベル幅	t _{KR}	KR0-KR3	1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	250			ns		
			1.6 V ≤ EV _{DD} < 1.8 V	1			μs		
RESETロウ・レベル幅	t _{RSL}			10			μs		

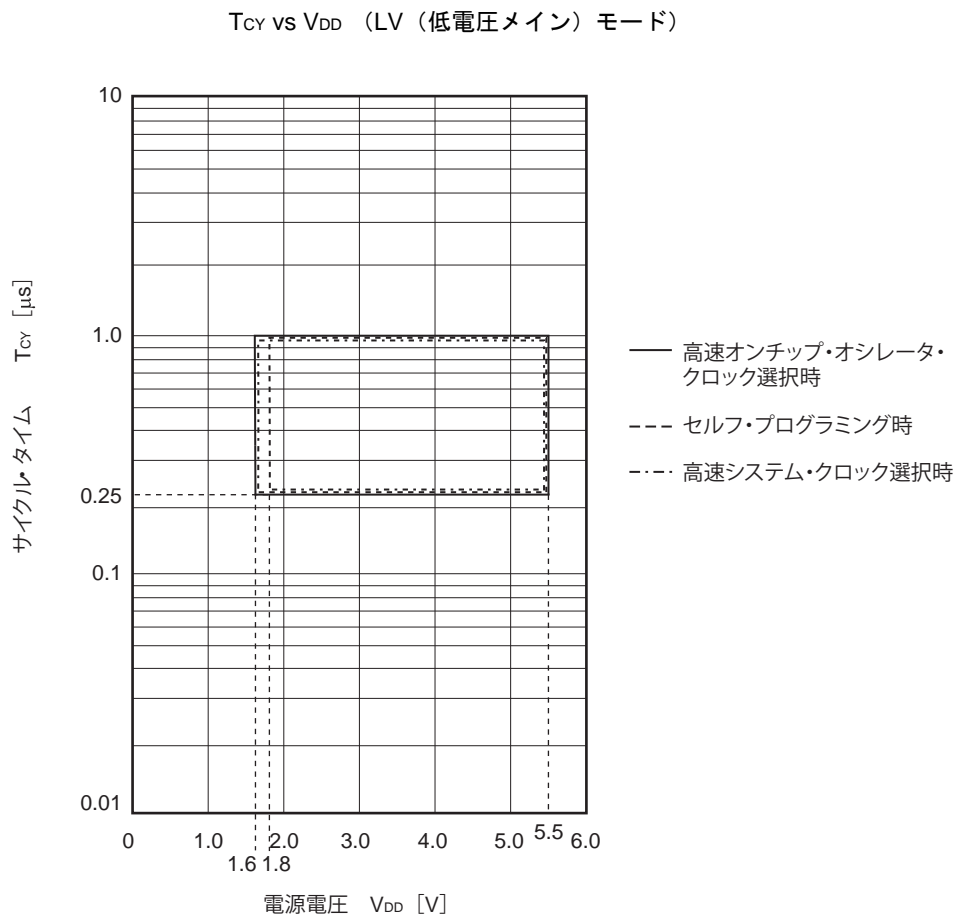
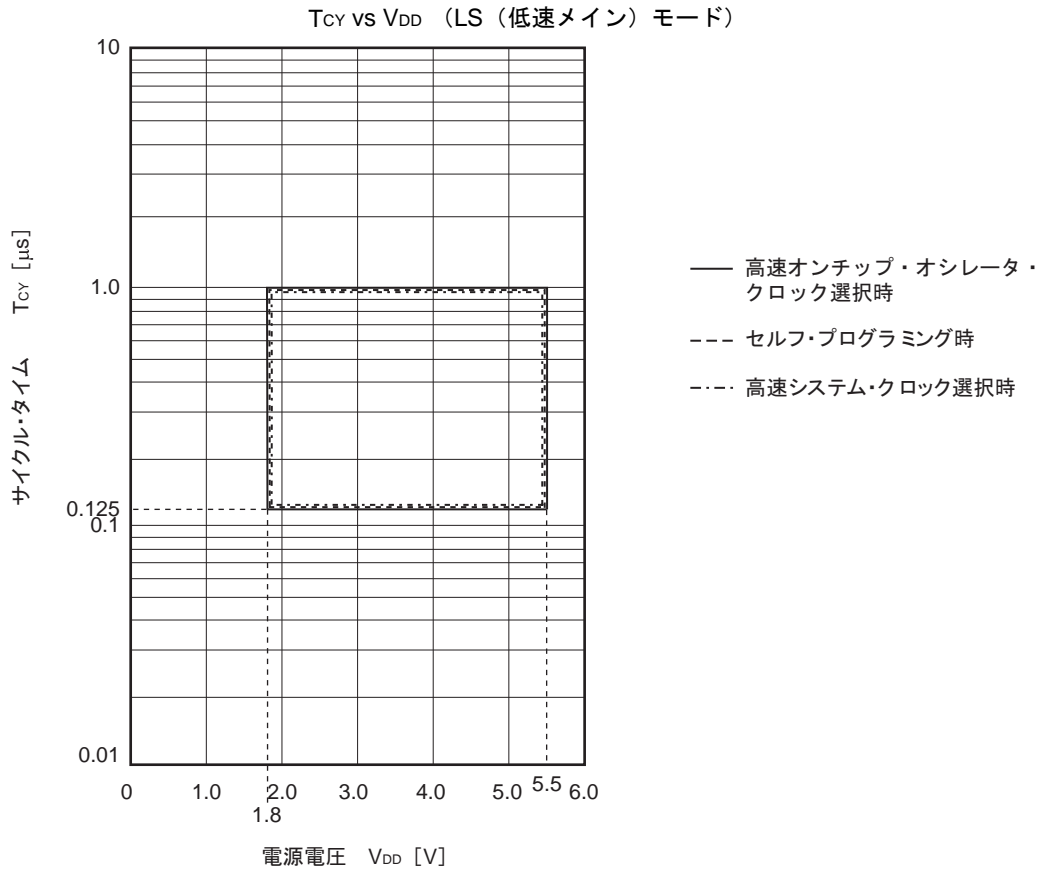
備考 f_{MCK} : タイマ・アレイ・ユニットの動作クロック周波数。

(タイマ・モード・レジスタ0n (TMR0n) のCKS0nビットで設定する動作クロック。n: チャネル番号 (n = 0-7))

メイン・システム・クロック動作時の最小命令実行時間

T_{cy} vs V_{DD} (HS (高速メイン) モード)

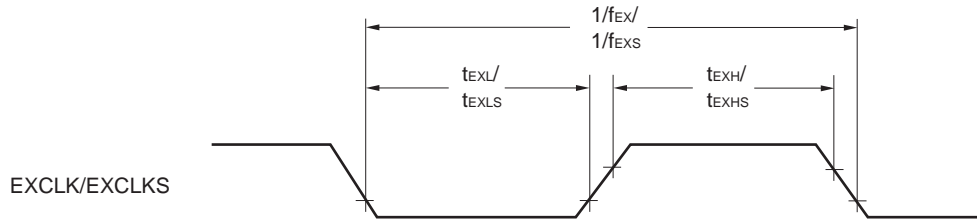




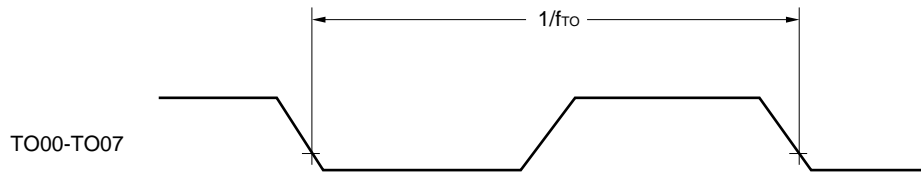
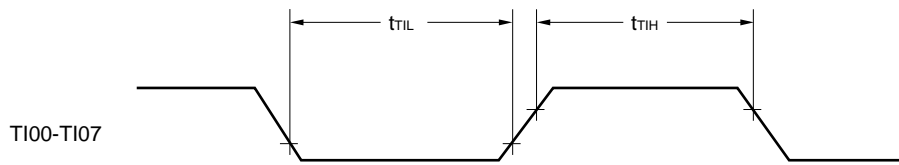
AC タイミング測定点



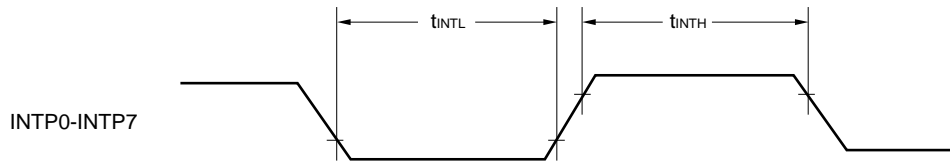
外部システム・クロック・タイミング



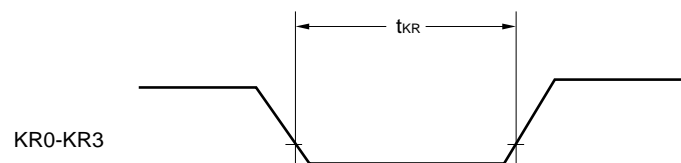
TI/TO タイミング



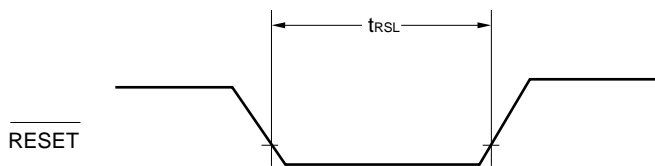
割り込み要求入力タイミング



キー割り込み入力タイミング

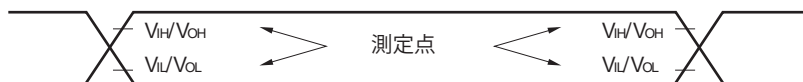


RESET入力タイミング



30.5 周辺機能特性

ACタイミング測定点



30.5.1 シリアル・アレイ・ユニット

(1) 同電位通信時 (UARTモード)

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン)モード		LS (低速メイン)モード		LV (低電圧メイン)モード		単位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
			転送レート 注1	2.4 V ≤ EV _{DD} = V _{DD} ≤ 5.5 V		f _{mck} /6		f _{mck} /6	
	最大転送レート理論値 f _{mck} = f _{clk} ^{注2}		4.0		1.3		0.6	Mbps	
	1.8 V ≤ EV _{DD} = V _{DD} ≤ 5.5 V				f _{mck} /6		f _{mck} /6	bps	
	最大転送レート理論値 f _{mck} = f _{clk} ^{注2}				1.3		0.6	Mbps	
	1.6 V ≤ EV _{DD} = V _{DD} ≤ 5.5 V						f _{mck} /6	bps	
	最大転送レート理論値 f _{mck} = f _{clk} ^{注2}						0.6	Mbps	

注 1. SNOOZEモードでの転送レートは、4800 bpsのみとなります。

2. CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{clk}) の最高動作周波数を次に示します。

HS (高速メイン) モード : 24 MHz (2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

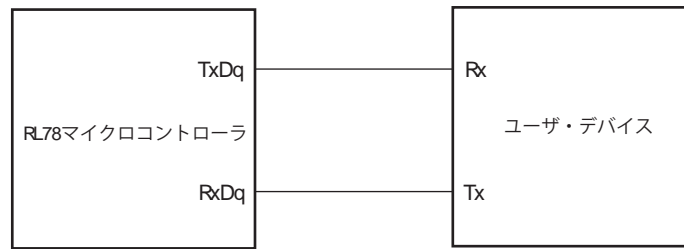
16 MHz (2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

LS (低速メイン) モード : 8 MHz (1.8 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

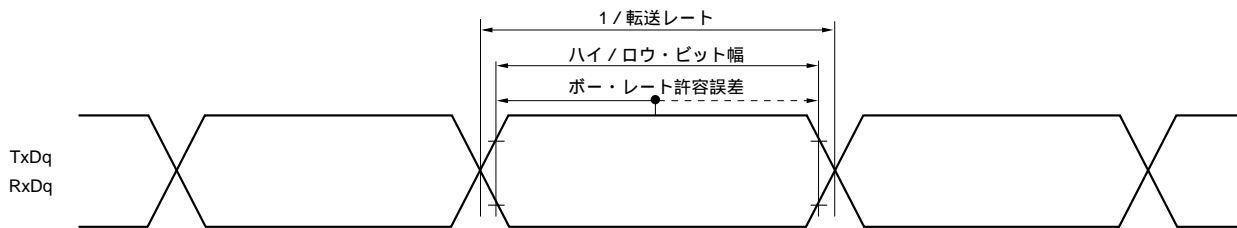
LV (低電圧メイン) モード : 4 MHz (1.6 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で、RxDq端子は通常入力バッファを選択し、TxDq端子は通常出力モードを選択します。

UARTモード接続図 (同電位通信時)



UARTモードのビット幅 (同電位通信時) (参考)



備考1. q : UART番号 (q = 0) , g : PIM, POM番号 (g = 1)

2. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

(シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。m : ユニット番号, n : チャンネル番号 (mn = 00, 01))

(2) 同電位通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力)

(TA = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EVDD = VDD ≤ 5.5 V, VSS = EVSS = 0 V)

項 目	略 号	条 件	HS (高速メイン) モード		LS (低速メイン) モード		LV (低電圧メイン) モード		単 位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
			SCKp サイクル・タイム	t _{KCY1}	2.7 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	167 ^{注1}		500 ^{注1}	
		2.4 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	250 ^{注1}		500 ^{注1}		1000 ^{注1}		ns
		1.8 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V			500 ^{注1}		1000 ^{注1}		ns
		1.6 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V					1000 ^{注1}		ns
SCKp ハイ, ロウ・レベル幅	t _{KH1} , t _{KL1}	4.0 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	t _{KCY1} /2- 12		t _{KCY1} /2- 50		t _{KCY1} /2- 50		ns
		2.7 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	t _{KCY1} /2- -18		t _{KCY1} /2- 50		t _{KCY1} /2- 50		ns
	2.4 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	t _{KCY1} /2- 38		t _{KCY1} /2- 50		t _{KCY1} /2- 50		ns	
	1.8 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V			t _{KCY1} /2- 50		t _{KCY1} /2- 50		ns	
	1.6 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V					t _{KCY1} /2- 100		ns	
Slp セットアップ時間 (対SCKp ↑) ^{注2}	t _{SIK1}	2.7 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	44		110		110		ns
		2.4 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	75		110		110		ns
		1.8 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V			110		110		ns
		1.6 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V					220		ns
Slp ホールド時間 (対SCKp ↑) ^{注2}	t _{KSI1}	2.4 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	19		19		19		ns
		1.8 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V			19		19		
		1.6 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V					19		
SCKp ↓ → SOp 出力遅延時間 ^{注3}	t _{KSO1}	C = 30 pF ^{注4}	2.4 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	25		25		25	ns
			1.8 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V			25		25	
			1.6 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V					25	

注1. かつCSI00は2/f_{MCK}以上, CSI01は4/f_{MCK}以上に設定してください。

- DAPmn = 0, CKPmn = 0 または DAPmn = 1, CKPmn = 1 のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1 または DAPmn = 1, CKPmn = 0 のときは “対SCKp ↓” となります。
- DAPmn = 0, CKPmn = 0 または DAPmn = 1, CKPmn = 1 のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1 または DAPmn = 1, CKPmn = 0 のときは “対SCKp ↑” となります。
- Cは, SCKp, SOp 出力ラインの負荷容量です。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子は通常入力バッファ, SOp端子とSCKp端子は通常出力モードを選択。

備考1. p: CSI番号 (p = 00, 01), m: ユニット番号 (m = 0), n: チャネル番号 (n = 0, 1),
g: PIM, POM番号 (g = 1)

- f_{MCK}: シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波 (シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。
m: ユニット番号, n: チャネル番号 (mn = 00, 01))

(3) 同電位通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (スレーブ・モード, SCKp…外部クロック入力)

(TA = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EVDD = VDD ≤ 5.5 V, VSS = EVSS = 0 V)

項目	略号	条件		HS (高速メイン)モード		LS (低速メイン)モード		LV (低電圧メイン)モード		単位	
				MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.		
SCKpサイクル・タイム ^{注4}	tkcy2	4.0 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V	20 MHz < fMCK	8/fMCK						ns	
			fMCK ≤ 20 MHz	6/fMCK		6/fMCK		6/fMCK		ns	
		2.7 V ≤ EVDD < 4.0 V	16 MHz < fMCK	8/fMCK						ns	
			fMCK ≤ 16 MHz	6/fMCK		6/fMCK		6/fMCK		ns	
		2.4 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V			6/fMCK		6/fMCK		6/fMCK		ns
		かつ 500									
1.8 V ≤ EVDD < 2.4 V					6/fMCK		6/fMCK		ns		
1.6 V ≤ EVDD < 1.8 V							6/fMCK		ns		
SCKpハイ、ロウ・レベル幅	tkH2, tkL2	4.0 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V		tkcy2/2-7		tkcy2/2-7		tkcy2/2-7		ns	
		2.7 V ≤ EVDD < 4.0 V		tkcy2/2-8		tkcy2/2-8		tkcy2/2-8		ns	
		2.4 V ≤ EVDD < 2.7 V		tkcy2/2-18		tkcy2/2-18		tkcy2/2-18		ns	
		1.8 V ≤ EVDD < 2.4 V				tkcy2/2-18		tkcy2/2-18		ns	
		1.6 V ≤ EVDD < 1.8 V						tkcy2/2-66		ns	
Slpセットアップ時間 (対SCKp↑) ^{注1}	tsIK2	2.7 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V		1/fMCK+20		1/fMCK+30		1/fMCK+30		ns	
		2.4 V ≤ EVDD < 2.7 V		1/fMCK+30		1/fMCK+30		1/fMCK+30		ns	
		1.8 V ≤ EVDD < 2.4 V				1/fMCK+30		1/fMCK+30		ns	
		1.6 V ≤ EVDD < 1.8 V						1/fMCK+40		ns	
Slpホールド時間 (対SCKp↑) ^{注1}	tkSI2	2.4 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V		1/fMCK+31		1/fMCK+31		1/fMCK+31		ns	
		1.8 V ≤ EVDD < 2.4 V				1/fMCK+31		1/fMCK+31		ns	
		1.6 V ≤ EVDD < 1.8 V						1/fMCK+250		ns	
SCKp↓→Sop出力遅延時間 ^{注2}	tkSO2	C = 30 pF ^{注3}	4.0 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V		2/fMCK+44		2/fMCK+110		2/fMCK+110	ns	
			2.7 V ≤ EVDD < 4.0 V		2/fMCK+44		2/fMCK+110		2/fMCK+110	ns	
			2.4 V ≤ EVDD < 2.7 V		2/fMCK+75		2/fMCK+110		2/fMCK+110	ns	
			1.8 V ≤ EVDD < 2.4 V				2/fMCK+110		2/fMCK+110	ns	
			1.6 V ≤ EVDD < 1.8 V						2/fMCK+220		ns

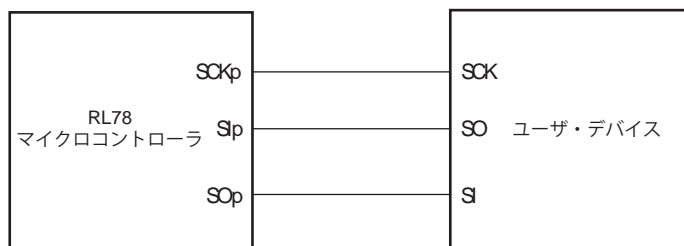
(注, 注意, 備考は次ページにあります。)

- 注1. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↓”となります。
- 2. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↑”となります。
- 3. Ciは, SOp出カラインの負荷容量です。
- 4. SNOOZEモードでの転送レートは, MAX.1 Mbpsです。

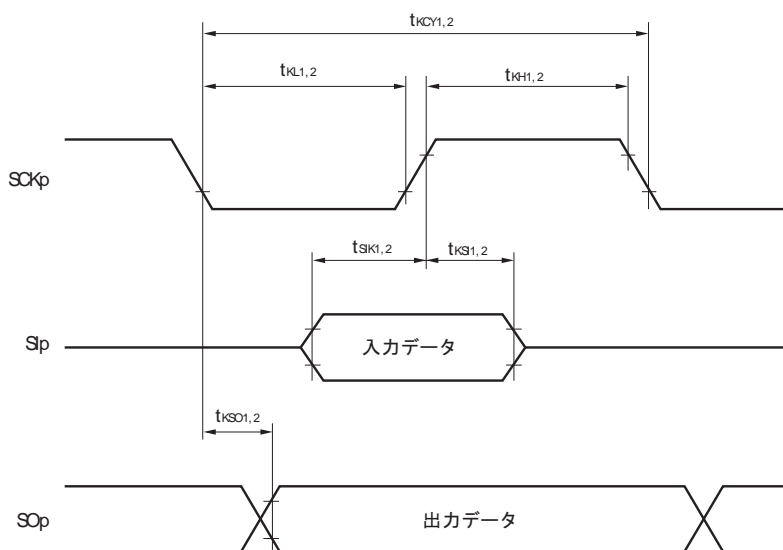
注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Sp端子とSCKp端子は通常入力バッファを選択し, SOp端子は通常出力モードを選択します。

- 備考1. p : CSI番号 (p = 00, 01) , m : ユニット番号 (m = 0) , n : チャネル番号 (n = 0, 1) ,
g : PIM, POM番号 (g = 1)
- 2. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
(シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。m : ユニット番号, n : チャネル番号 (mn = 00, 01))

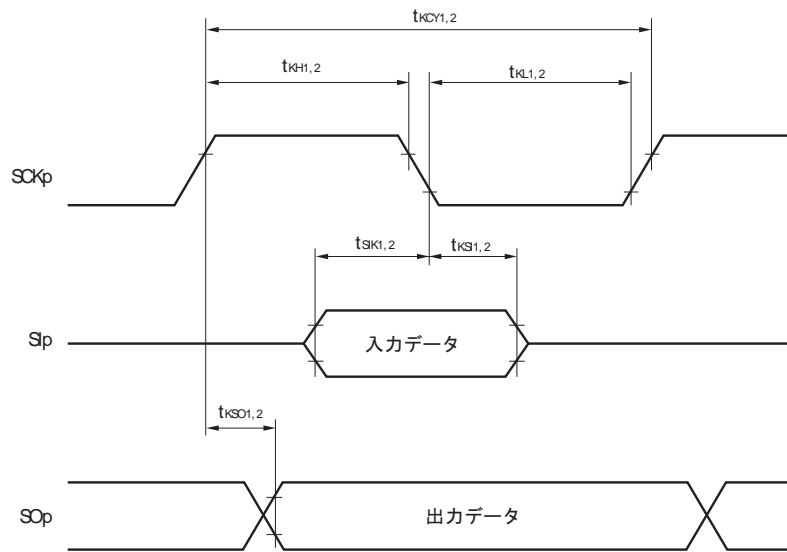
簡易SPI(CSI)モード接続図 (同電位通信時)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング (同電位通信時)
(DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング (同電位通信時)
 (DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき)



備考 1. p : CSI番号 (p = 00, 01)

2. m : ユニット番号, n : チャネル番号 (mn = 00, 01)

(4) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (UARTモード) (1/2)

(T_A = -40~+85 °C, 1.8 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		LS (低速メイン) モード		LV (低電圧メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
			転送レート	受信	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V		f _{MCK} /6 ^{注1}		
		最大転送レート 理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注3}		4.0		1.3		0.6	Mbps
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V		f _{MCK} /6 ^{注1}		f _{MCK} /6 ^{注1}		f _{MCK} /6 ^{注1}	bps
		最大転送レート 理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注3}		4.0		1.3		0.6	Mbps
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V		f _{MCK} /6 ^{注1}		f _{MCK} /6 ^{注1}		f _{MCK} /6 ^{注1}	bps
		最大転送レート 理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注3}		4.0		1.3		0.6	Mbps
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V				f _{MCK} /6 ^{注1, 2}		f _{MCK} /6 ^{注1, 2}	bps
		最大転送レート 理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注3}				1.3		0.6	Mbps

注1. SNOOZEモードでの転送レートは、4800 bpsのみとなります。

2. EV_{DD} ≥ V_bで使用してください。

3. CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{CLK}) の最高動作周波数を次に示します。

HS (高速メイン) モード : 24 MHz (2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

16 MHz (2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

LS (低速メイン) モード : 8 MHz (1.8 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

LV (低電圧メイン) モード : 4 MHz (1.6 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で、Rx/Dq端子はTTL入力バッファを選択し、Tx/Dq端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は、TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1. V_b [V]: 通信ライン電圧

2. q: UART番号 (q = 0), g: PIM, POM番号 (g = 1)

3. f_{MCK}: シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

(シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。m: ユニット番号, n: チャンネル番号 (mn = 00, 01))

(4) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (UARTモード) (2/2)

(T_A = -40~+85 °C, 1.8 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン)		LS (低速メイン)		LV (低電圧メイン)		単位
			モード		モード		モード		
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
転送 レート	送信	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V		注1		注1		注1	bps
		最大転送レート理論値 C _b = 50 pF, R _b = 1.4 kΩ, V _b = 2.7 V		2.8 ^{注2}		2.8 ^{注2}		2.8 ^{注2}	Mbps
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V		注3		注3		注3	bps
		最大転送レート理論値 C _b = 50 pF, R _b = 2.7 kΩ, V _b = 2.3 V		1.2 ^{注4}		1.2 ^{注4}		1.2 ^{注4}	Mbps
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V		注6		注6		注6	bps
		最大転送レート理論値 C _b = 50 pF, R _b = 5.5 kΩ, V _b = 1.6 V		0.43 ^{注7}		0.43 ^{注7}		0.43 ^{注7}	Mbps
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V				注5,6		注5,6	bps
		最大転送レート理論値 C _b = 50 pF, R _b = 5.5 kΩ, V _b = 1.6 V				0.43 ^{注7}		0.43 ^{注7}	Mbps

注1. f_{MCK}/6または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が、有効な最大転送レートとなります。
4.0 V ≤ EV_{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V_b ≤ 4.0 V時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.2}{V_b})\} \times 3} \text{ [bps]}$$

$$\text{ボー・レート許容誤差 (理論値)} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート} \times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.2}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \text{ [%]}$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

2. この値は、一例として、条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注1により算出してください。

3. $f_{MCK}/6$ または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が、有効な最大転送レートとなります。
 $2.7\text{ V} \leq E_{VDD} < 4.0\text{ V}$, $2.3\text{ V} \leq V_b \leq 2.7\text{ V}$ 時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.0}{V_b})\}} \times 3 \quad [\text{bps}]$$

$$\text{ボー・レート許容誤差 (理論値)} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート} \times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.0}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

4. この値は、一例として、条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注3により算出してください。

5. $E_{VDD} \geq V_b$ で使用してください。

6. $f_{MCK}/6$ または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が、有効な最大転送レートとなります。
 $1.8\text{ V} \leq E_{VDD} < 3.3\text{ V}$, $1.6\text{ V} \leq V_b \leq 2.0\text{ V}$ 時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{1.5}{V_b})\}} \times 3 \quad [\text{bps}]$$

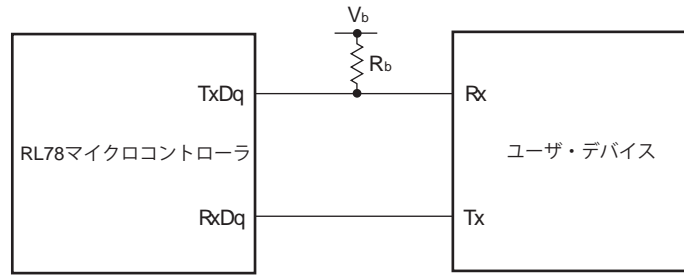
$$\text{ボー・レート許容誤差 (理論値)} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート} \times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{1.5}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

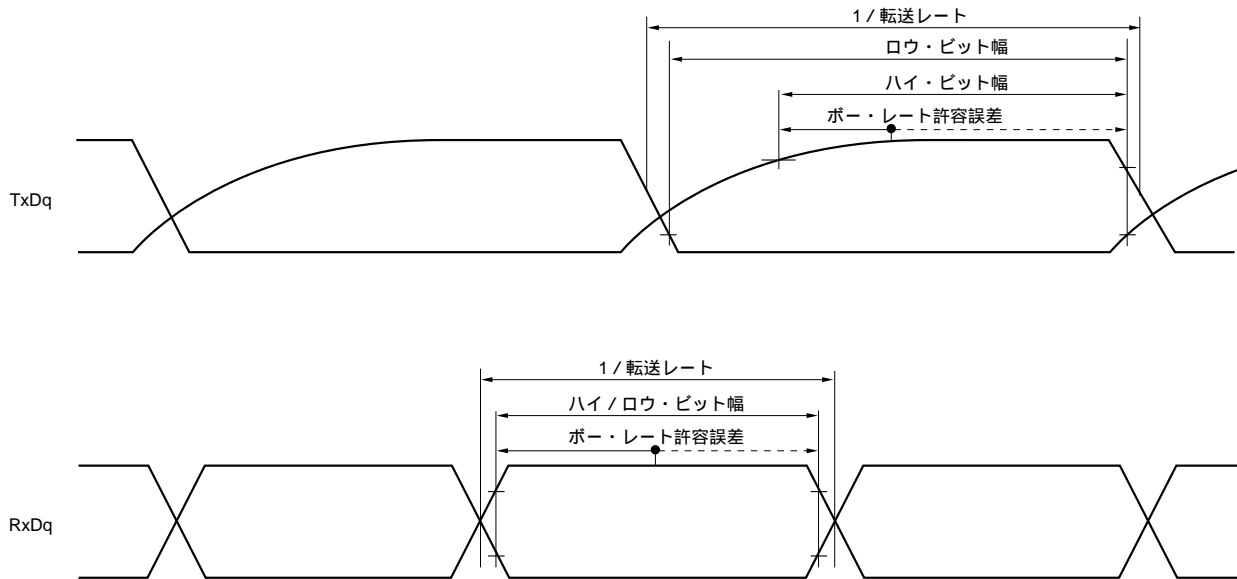
7. この値は、一例として、条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注6により算出してください。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で、RxDq端子はTTL入力バッファを選択し、TxDq端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / E_{VDD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は、TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

UARTモード接続図 (異電位通信時)



UARTモードのビット幅 (異電位通信時) (参考)



- 備考1. $R_b [\Omega]$: 通信ライン (TxDq) プルアップ抵抗値, $C_b [F]$: 通信ライン (TxDq) 負荷容量値, $V_b [V]$: 通信ライン電圧
2. q : UART番号 ($q = 0, 1$), g : PIM, POM番号 ($g = 1$)
3. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
(シリアル・クロック選択レジスタ m (SPSm) とシリアル・モード・レジスタ mn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。 m : ユニット番号, n : チャンネル番号 ($mn = 00, 01$))

(5) 異電位 (2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力, CSI00のみ対応)

(T_A = -40~+85 °C, 2.7 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件		HS (高速メイン) モード		LS (低速メイン) モード		LV (低電圧メイン) モード		単位
				MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
SCKpサイクル・タイム	tkCY1	tkCY1 ≥ 2f _{CLK}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ	200 ^{注1}		1150 ^{注1}		1150 ^{注1}		ns
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ	300 ^{注1}		1150 ^{注1}		1150 ^{注1}		ns
SCKpハイ・レベル幅	tkH1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ	tkCY1/2 -50		tkCY1/2 -50		tkCY1/2 -50		ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ	tkCY1/2 -120		tkCY1/2 -120		tkCY1/2 -120		ns	
SCKpロウ・レベル幅	tkL1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ	tkCY1/2 -7		tkCY1/2 -50		tkCY1/2 -50		ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ	tkCY1/2 -10		tkCY1/2 -50		tkCY1/2 -50		ns	
Slpセットアップ時間 (対SCKp ↑) ^{注2}	tsIK1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ	58		479		479		ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ	121		479		479		ns	
Slpホールド時間 (対SCKp ↑) ^{注2}	tkSI1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ	10		10		10		ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ	10		10		10		ns	
SCKp ↓ → SOp出力遅延 時間 ^{注2}	tkSO1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ		60		60		60	ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ		130		130		130	ns	
Slpセットアップ時間 (対SCKp ↓) ^{注3}	tsIK1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ	23		110		110		ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ	33		110		110		ns	
Slpホールド時間 (対SCKp ↓) ^{注3}	tkSI1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ	10		10		10		ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ	10		10		10		ns	
SCKp ↑ → SOp出力遅延 時間 ^{注3}	tkSO1	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 20 pF, R _b = 1.4 kΩ		10		10		10	ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 20 pF, R _b = 2.7 kΩ		10		10		10	ns	

(注, 注意, 備考は次ページにあります。)

- 注1. かつCSI00は $2/f_{MCK}$ 以上, CSI01は $4/f_{MCK}$ 以上に設定してください。
2. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。
 3. DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, SIp端子はTTL入力バッファを選択し, SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

- 備考1. R_b [Ω]: 通信ライン (SCKp, SOp) プルアップ抵抗値, C_b [F]: 通信ライン (SCKp, SOp) 負荷容量値, V_b [V]: 通信ライン電圧
2. p: CSI番号 (p = 00, 01), m: ユニット番号 (m = 0), n: チャネル番号 (n = 0, 1),
g: PIM, POM番号 (g = 1)
 3. f_{MCK}: シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
(シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。m: ユニット番号, n: チャネル番号 (mn = 00, 01))

(6) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力) (1/3)

(TA = -40~+85 °C, 1.8 V ≤ EVDD = VDD ≤ 5.5 V, VSS = EVSS = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン)モード		LS (低速メイン)モード		LV (低電圧メイン)モード		単位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
SCKpサイクル・タイム	tkCY1	tkCY1 ≥ 4/fCLK 4.0 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ Vb ≤ 4.0 V, Cb = 30 pF, Rb = 1.4 kΩ	300		1150		1150		ns
		2.7 V ≤ EVDD < 4.0 V, 2.3 V ≤ Vb ≤ 2.7 V, Cb = 30 pF, Rb = 2.7 kΩ	500		1150		1150		ns
		2.4 V ≤ EVDD < 3.3 V, 1.6 V ≤ Vb ≤ 2.0 V, Cb = 30 pF, Rb = 5.5 kΩ	1150		1150		1150		ns
		1.8 V ≤ EVDD < 3.3 V, 1.6 V ≤ Vb ≤ 2.0 V ^注 , Cb = 30 pF, Rb = 5.5 kΩ			1150		1150		ns
SCKpハイ・レベル幅	tkH1	4.0 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ Vb ≤ 4.0 V, Cb = 30 pF, Rb = 1.4 kΩ	tkCY1/2-75		tkCY1/2-75		tkCY1/2-75		ns
		2.7 V ≤ EVDD < 4.0 V, 2.3 V ≤ Vb ≤ 2.7 V, Cb = 30 pF, Rb = 2.7 kΩ	tkCY1/2-170		tkCY1/2-170		tkCY1/2-170		ns
		2.4 V ≤ EVDD < 3.3 V, 1.6 V ≤ Vb ≤ 2.0 V, Cb = 30 pF, Rb = 5.5 kΩ	tkCY1/2-458		tkCY1/2-458		tkCY1/2-458		ns
		1.8 V ≤ EVDD < 3.3 V, 1.6 V ≤ Vb ≤ 2.0 V ^注 , Cb = 30 pF, Rb = 5.5 kΩ			tkCY1/2-458		tkCY1/2-458		ns
SCKpロウ・レベル幅	tkL1	4.0 V ≤ EVDD ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ Vb ≤ 4.0 V, Cb = 30 pF, Rb = 1.4 kΩ	tkCY1/2-12		tkCY1/2-50		tkCY1/2-50		ns
		2.7 V ≤ EVDD < 4.0 V, 2.3 V ≤ Vb ≤ 2.7 V, Cb = 30 pF, Rb = 2.7 kΩ	tkCY1/2-18		tkCY1/2-50		tkCY1/2-50		ns
		2.4 V ≤ EVDD < 3.3 V, 1.6 V ≤ Vb ≤ 2.0 V, Cb = 30 pF, Rb = 5.5 kΩ	tkCY1/2-50		tkCY1/2-50		tkCY1/2-50		ns
		1.8 V ≤ EVDD < 3.3 V, 1.6 V ≤ Vb ≤ 2.0 V ^注 , Cb = 30 pF, Rb = 5.5 kΩ			tkCY1/2-50		tkCY1/2-50		ns

注 EVDD ≥ Vbで使用してください。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子はTTL入力バッファを選択し, SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力 (VDD耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EVDD耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおVIH, VILは, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

(6) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力) (2/3)

(T_A = -40~+85 °C, 1.8 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		LS (低速メイン) モード		LV (低電圧メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
Slpセットアップ時間 (対SCKp ↑) 注1	t _{SIK1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	81		479		479		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	177		479		479		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	479		479		479		ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注3} , C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ			479		479		ns
Slpホールド時間 (対SCKp ↑) 注1	t _{KSI1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	19		19		19		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	19		19		19		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	19		19		19		ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注3} , C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ			19		19		ns
SCKp ↓ → SOp出力遅延 時間注1	t _{KSO1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ		100		100		100	ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ		195		195		195	ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ		483		483		483	ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注3} , C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ				483		483	ns
Slpセットアップ時間 (対SCKp ↓) 注2	t _{SIK1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	44		110		110		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	44		110		110		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	110		110		110		ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注3} , C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ			110		110		ns

注 1. DAP_{mn} = 0, CKP_{mn} = 0またはDAP_{mn} = 1, CKP_{mn} = 1のとき。

2. DAP_{mn} = 0, CKP_{mn} = 1またはDAP_{mn} = 1, CKP_{mn} = 0のとき。

3. EV_{DD} ≥ V_bで使用してください。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子はTTL入力バッファを選択し, SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

(6) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力) (3/3)

(T_A = -40~+85 °C, 1.8 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項 目	略 号	条 件	HS (高速メイ ン) モード		LS (低速メイ ン) モード		LV (低電圧メ イン) モード		単 位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
Slpホールド時間 (対SCKp ↓) 注2	t _{KSI1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	19		19		19		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	19		19		19		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	19		19		19		ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注3} , C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ			19		19		ns
SCKp ↑ → SOp出力遅延 時間注2	t _{KSO1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ		25		25		25	ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ		25		25		25	ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ		25		25		25	ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注3} , C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ				25		25	ns

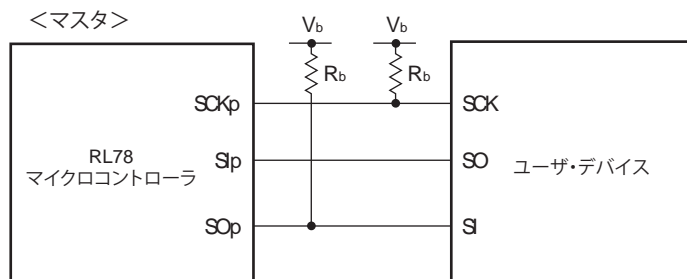
注 1. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。

2. DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき。

3. EV_{DD} ≥ V_bで使用してください。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子はTTL入力バッファを選択し, SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

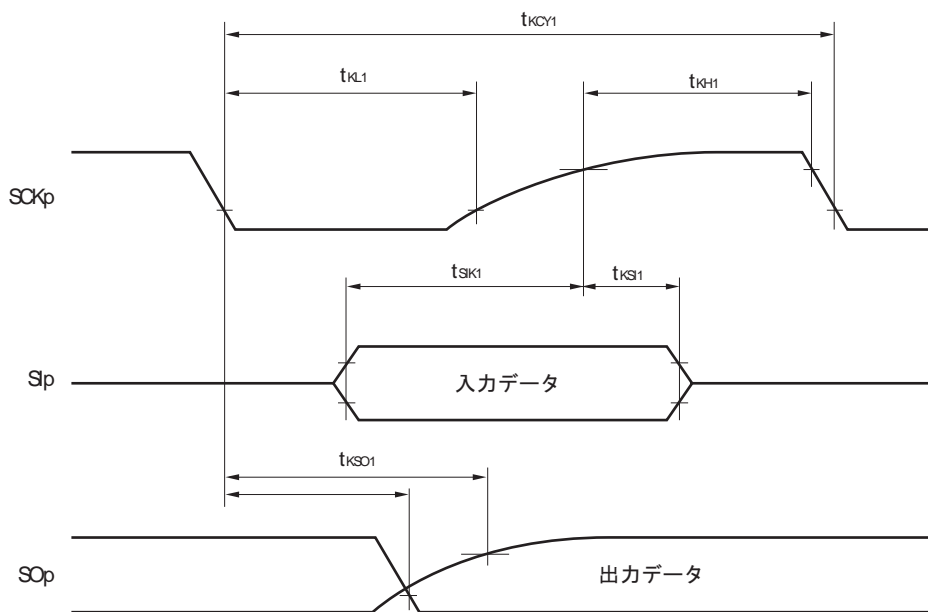
簡易SPI(CSI)モード接続図 (異電位通信時)



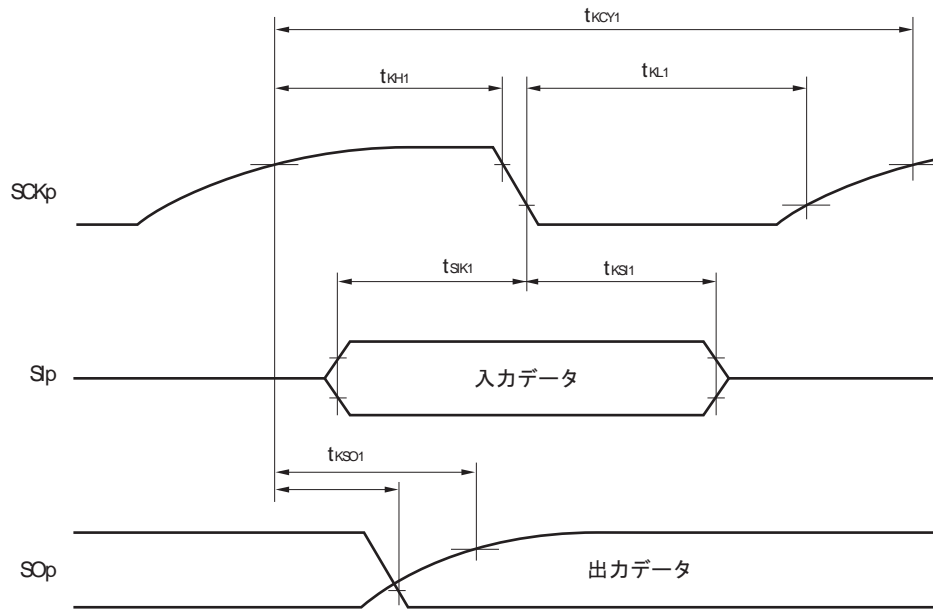
- 備考1. R_b [Ω] : 通信ライン (SCKp, SOp) プルアップ抵抗値, C_b [F] : 通信ライン (SCKp, SOp) 負荷容量値, V_b [V] : 通信ライン電圧
2. p : CSI番号 ($p = 00, 01$) , m : ユニット番号 ($m = 0$) , n : チャネル番号 ($n = 0, 1$) , g : PIM, POM番号 ($g = 1$)
 3. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数 (シリアル・クロック選択レジスタ m (SPSm) とシリアル・モード・レジスタ mn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。 m : ユニット番号, n : チャネル番号 ($mn = 00, 01$))

簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング : マスタ・モード (異電位通信時)

(DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング：マスタ・モード（異電位通信時）
 (DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき)



備考 p : CSI番号 (p = 00, 01) , m : ユニット番号 (m = 0) ,
 n : チャネル番号 (n = 0, 1) , g : PIM, POM番号 (g = 1)

(7) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (スレーブ・モード, SCKp…外部クロック入力)

(T_A = -40~+85 °C, 1.8 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V) (1/2)

項目	略号	条件	HS (高速メイン)モード		LS (低速メイン)モード		LV (低電圧メイン)モード		単位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
SCKpサイクル・タイム ^{注1}	tkCY2	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	20 MHz < f _{MCK} ≤ 24 MHz	12/f _{MCK}					ns
			8 MHz < f _{MCK} ≤ 20 MHz	10/f _{MCK}					ns
			4 MHz < f _{MCK} ≤ 8 MHz	8/f _{MCK}		16/f _{MCK}			ns
			f _{MCK} ≤ 4 MHz	6/f _{MCK}		10/f _{MCK}	10/f _{MCK}		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	20 MHz < f _{MCK} ≤ 24 MHz	16/f _{MCK}					ns
			16 MHz < f _{MCK} ≤ 20 MHz	14/f _{MCK}					ns
			8 MHz < f _{MCK} ≤ 16 MHz	12/f _{MCK}					ns
			4 MHz < f _{MCK} ≤ 8 MHz	8/f _{MCK}		16/f _{MCK}			ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	20 MHz < f _{MCK} ≤ 24 MHz	36/f _{MCK}					ns
			16 MHz < f _{MCK} ≤ 20 MHz	32/f _{MCK}					ns
			8 MHz < f _{MCK} ≤ 16 MHz	26/f _{MCK}					ns
			4 MHz < f _{MCK} ≤ 8 MHz	16/f _{MCK}	16/f _{MCK}				ns
1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注2}	f _{MCK} ≤ 4 MHz	10/f _{MCK}		10/f _{MCK}	10/f _{MCK}		ns		
	4 MHz < f _{MCK} ≤ 8 MHz			16/f _{MCK}			ns		
SCKpハイ、ロウ・レベル幅	tkH2, tkL2	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	tkCY2/2- 12		tkCY2/2- 50		tkCY2/2- 50	ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	tkCY2/2- 18		tkCY2/2- 50		tkCY2/2- 50	ns	
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	tkCY2/2- 50		tkCY2/2- 50		tkCY2/2- 50	ns	
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注2}			tkCY2/2- 50		tkCY2/2- 50	ns	
Sipセットアップ時間 (対SCKp↑) ^{注3}	tsIK2	4.0 V ≤ EV _{DD} < 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	1/f _{MCK} + 20		1/f _{MCK} + 30		1/f _{MCK} + 30	ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	1/f _{MCK} + 20		1/f _{MCK} + 30		1/f _{MCK} + 30	ns	
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	1/f _{MCK} + 30		1/f _{MCK} + 30		1/f _{MCK} + 30	ns	
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V ^{注2}			1/f _{MCK} + 30		1/f _{MCK} + 30	ns	

(注, 注意は次ページに, 備考は次々ページにあります。)

(7) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (スレーブ・モード, SCKp…外部クロック入力)

(T_A = -40~+85 °C, 1.8 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V) (2/2)

項目	略号	条件	HS (高速メイン)モード		LS (低速メイン)モード		LV (低電圧メイン)モード		単位
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
Sipホールド時間 (対SCKp↑) 注3	t _{KS12}	4.0 V ≤ EV _{DD} < 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	1/f _{MCK} +31		1/f _{MCK} +31		1/f _{MCK} +31		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	1/f _{MCK} +31		1/f _{MCK} +31		1/f _{MCK} +31		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	1/f _{MCK} +31		1/f _{MCK} +31		1/f _{MCK} +31		ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V 注2			1/f _{MCK} +31		1/f _{MCK} +31		ns
SCKp↓→Sop出力遅延時間注4	t _{KS02}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ		2/f _{MCK} +120		2/f _{MCK} +573		2/f _{MCK} +573	ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ		2/f _{MCK} +214		2/f _{MCK} +573		2/f _{MCK} +573	ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ		2/f _{MCK} +573		2/f _{MCK} +573		2/f _{MCK} +573	ns
		1.8 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V 注2, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ				2/f _{MCK} +573		2/f _{MCK} +573	ns

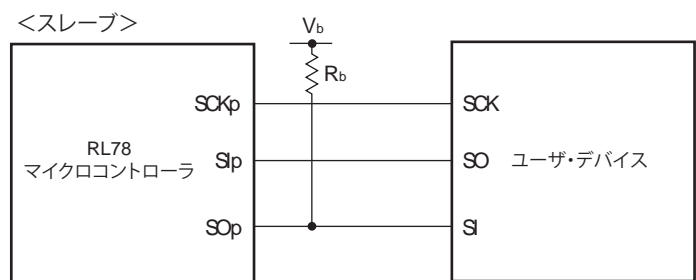
注1. SNOOZEモードでの転送レートは, MAX. 1 Mbps

2. EV_{DD} ≥ V_bで使用してください。
3. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↓”となります。
4. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↑”となります。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Sip端子とSCKp端子はTTL入力バッファを選択し, Sop端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

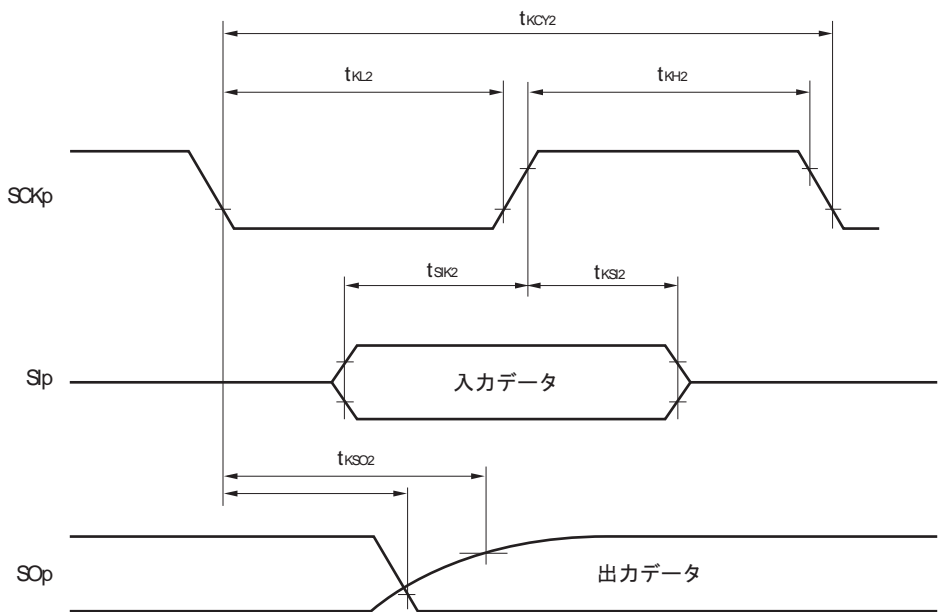
(備考は次ページにあります。)

簡易SPI(CSI)モード接続図 (異電位通信時)

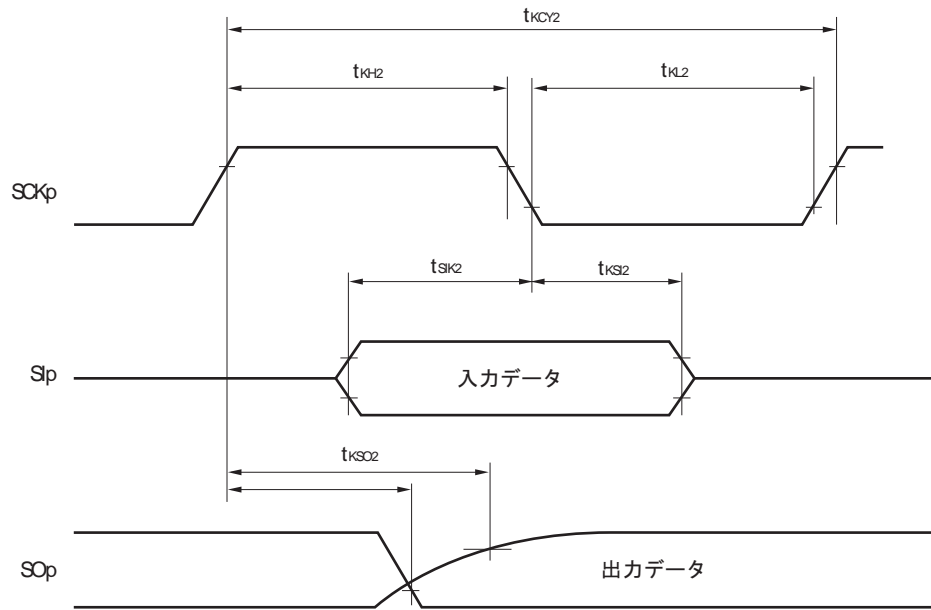


- 備考1. R_b [Ω] : 通信ライン (SO_p) プルアップ抵抗値, C_b [F] : 通信ライン (SO_p) 負荷容量値,
 V_b [V] : 通信ライン電圧
2. p : CSI番号 ($p = 00, 01$) , m : ユニット番号 (0) , n : チャネル番号 ($n = 0, 1$) ,
 g : PIM, POM番号 ($g = 1$)
3. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
 (シリアル・クロック選択レジスタ m (SPS m) とシリアル・モード・レジスタ mn (SMR mn) のCKS mn ビットで設定する動作クロック。 m : ユニット番号, n : チャネル番号 ($mn = 00, 01$))

簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング : スレープ・モード (異電位通信時)
 (DAP $mn = 0$, CKP $mn = 0$ またはDAP $mn = 1$, CKP $mn = 1$ のとき)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング：スレーブ・モード（異電位通信時）
 (DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき)



備考 p : CSI番号 (p = 00, 01) , m : ユニット番号 (m = 0) ,
 n : チャネル番号 (n = 0, 1) , g : PIM, POM番号 (g = 1)

30.5.2 シリアル・インタフェースIICA

(1) I²C 標準モード(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件		HS (高速メイン)		LS (低速メイン)		LV (低電圧メイン)		単位
				モード		モード		モード		
				MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
SCLA0 クロック周波数	f _{SCL}	標準	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	100	0	100	0	100	kHz
			モード :	2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	100	0	100	0	
		f _{CLK} ≥ 1 MHz	1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			0	100	0	100	
			1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V					0	100	
リスタート・ コンディションの セットアップ時間	t _{SU : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.7		4.7		4.7		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.7		4.7		4.7		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				4.7		4.7		
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						4.7		
ホールド時間 ^{注1}	t _{HD : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.0		4.0		4.0		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.0		4.0		4.0		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				4.0		4.0		
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						4.0		
SCLA0 = "L" の ホールド・タイム	t _{LOW}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.7		4.7		4.7		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.7		4.7		4.7		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				4.7		4.7		
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						4.7		
SCLA0 = "H" の ホールド・タイム	t _{HIGH}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.0		4.0		4.0		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.0		4.0		4.0		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				4.0		4.0		
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						4.0		
データ・ セットアップ時間 (受信時)	t _{SU : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		250		250		250		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		250		250		250		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				250		250		
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						250		
データ・ ホールド時間 (送信時) ^{注2}	t _{HD : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		0	3.45	0	3.45	0	3.45	μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		0	3.45	0	3.45	0	3.45	
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				0	3.45	0	3.45	
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						0	3.45	
ストップ・ コンディションの セットアップ時間	t _{SU : STO}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.0		4.0		4.0		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.0		4.0		4.0		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				4.0		4.0		
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						4.0		
パス・フリー時間	t _{BUF}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.7		4.7		4.7		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		4.7		4.7		4.7		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V				4.7		4.7		
		1.6 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V						4.7		

(注, 備考は次ページにあります。)

- 注 1. スタート・コンディション, リスタート・コンディション時は, この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。
2. t_{HD : DAT}の最大値 (MAX.) は, 通常転送時の数値であり, ACK (アクノリッジ) タイミングでは, クロック・ストレッチがかかります。

備考 各モードにおけるC_b (通信ライン容量) のMAX.値と, そのときのR_b (通信ライン・プルアップ抵抗値) の値は次のとおりです。

標準モード : C_b = 400 pF, R_b = 2.7 kΩ

(2) I²C ファースト・モード

(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		LS (低速メイン) モード		LV (低電圧メイン) モード		単位	
			MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.		
SCLA0クロック周波数	f _{SCL}	ファースト・モード : f _{CLK} ≥ 3.5 MHz	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	400	0	400	0	400	kHz
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	400	0	400	0	400		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			0	400	0	400		
リスタート・コンディションのセットアップ時間	t _{SU : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6		μs	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6			
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			0.6		0.6			
ホールド時間 ^{注1}	t _{HD : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6		μs	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6			
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			0.6		0.6			
SCLA0="L"のホールド・タイム	t _{LOW}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		1.3		1.3		μs	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		1.3		1.3			
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			1.3		1.3			
SCLA0="H"のホールド・タイム	t _{HIGH}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6		μs	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6			
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			0.6		0.6			
データ・セットアップ時間 (受信時)	t _{SU : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	100		100		100		ns	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	100		100		100			
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			100		100			
データ・ホールド時間 (送信時) ^{注2}	t _{HD : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	0.9	0	0.9	0	0.9	μs	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	0.9	0	0.9	0	0.9		
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			0	0.9	0	0.9		
ストップ・コンディションのセットアップ時間	t _{SU : STO}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6		μs	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		0.6		0.6			
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			0.6		0.6			
パス・フリー時間	t _{BUF}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		1.3		1.3		μs	
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		1.3		1.3			
		1.8 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			1.3		1.3			

(注, 備考は次ページにあります。)

- 注1. スタート・コンディション, リスタート・コンディション時は, この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。
2. t_{HD} : DATの最大値 (MAX.) は, 通常転送時の数値であり, ACK (アクノリッジ) タイミングでは, クロック・ストレッチがかかります。

備考 各モードにおけるC_b (通信ライン容量) のMAX.値と, そのときのR_b (通信ライン・プルアップ抵抗値) の値は次のとおりです。

ファースト・モード : C_b = 320 pF, R_b = 1.1 kΩ

(3) I²C ファースト・モード・プラス(T_A = -40~+85 °C, 1.6 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件		HS (高速メイン)モード		LS (低速メイン)モード		LV (低電圧メイン)モード		単位
				MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
				SCLA0 クロック周波数	f _{SCL}	ファースト・モード・プラス : f _{CLK} ≥ 10 MHz	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	1000	
リスタート・コンディションのセットアップ時間	t _{SU : STA}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.26		-	-	-	-	μs
ホールド時間 ^{注1}	t _{HD : STA}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.26		-	-	-	-	μs
SCLA0 = "L" のホールド・タイム	t _{LOW}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.5		-	-	-	-	μs
SCLA0 = "H" のホールド・タイム	t _{HIGH}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.26		-	-	-	-	μs
データ・セットアップ時間 (受信時)	t _{SU : DAT}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	50		-	-	-	-	ns
データ・ホールド時間 (送信時) ^{注2}	t _{HD : DAT}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	0.45	-	-	-	-	μs
ストップ・コンディションのセットアップ時間	t _{SU : STO}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.26		-	-	-	-	μs
パス・フリー時間	t _{BUF}		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.5		-	-	-	-	μs

注 1. スタート・コンディション, リスタート・コンディション時は, この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。

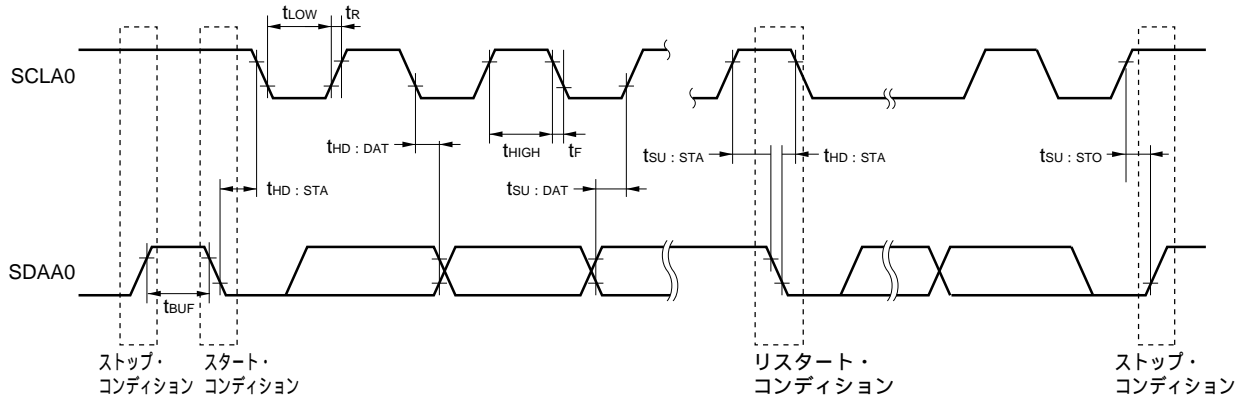
2. t_{HD : DAT}の最大値 (MAX.) は, 通常転送時の数値であり, ACK (アクノリッジ) タイミングでは, クロック・ストレッチがかかります。

注意 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) のビット2 (PIOR2) が1の場合も, 上記の値を適用できます。ただし, 端子特性 (I_{OH1}, I_{OL1}, V_{OH1}, V_{OL1}) はリダイレクト先の値を満たしてください。

備考 各モードにおけるC_b (通信ライン容量) のMAX.値と, そのときのR_b (通信ライン・プルアップ抵抗値) の値は次のとおりです。

ファースト・モード・プラス : C_b = 120 pF, R_b = 1.1 kΩ

I²Cシリアル転送タイミング



30.6 アナログ特性

30.6.1 A/Dコンバータ特性

A/Dコンバータ特性の区分

入力チャネル	基準電圧 基準電圧 (+) = AV _{REFP} 基準電圧 (-) = AV _{REFM}	基準電圧 (+) = V _{DD} 基準電圧 (-) = V _{SS}	基準電圧 (+) = V _{BGR} 基準電圧 (-) = AV _{REFM}
ANI0-ANI1	-	30.6.1 (3) 参照	30.6.1 (4) 参照
ANI16-ANI23	30.6.1 (2) 参照		
内部基準電圧 温度センサ出力電圧	30.6.1 (1) 参照		-

(1) 基準電圧 (+) = AV_{REFP}/ANI0 (ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 1), 基準電圧 (-) = AV_{REFM}/ANI1 (ADREFM = 1) 選択時, 変換対象: 内部基準電圧, 温度センサ出力電圧

(T_A = -40~+85 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, 1.6 V ≤ AV_{REFP} ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V, 基準電圧 (+) = AV_{REFP}, 基準電圧 (-) = AV_{REFM} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
分解能	RES		8		10	bit
総合誤差 ^{注1}	AINL	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V	1.2	±3.5	LSB
			1.6 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V ^{注4}	1.2	±7.0	LSB
変換時間	t _{CONV}	10ビット分解能 変換対象: 内部基準電圧, 温度センサ出力電圧 (HS (高速メイン) モード)	3.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V,	2.375	39	μs
			2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V,	3.5625	39	μs
			2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V,	17	39	μs
ゼロスケール誤差 ^{注1,2}	E _{ZS}	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±0.25	%FSR
			1.6 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V ^{注4}		±0.50	%FSR
フルスケール誤差 ^{注1,2}	E _{FS}	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±0.25	%FSR
			1.6 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V ^{注4}		±0.50	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±2.5	LSB
			1.6 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V ^{注4}		±5.0	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±1.5	LSB
			1.6 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V ^{注4}		±2.0	LSB
アナログ入力電圧	V _{AIN}	内部基準電圧 (2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, HS (高速メイン) モード)	V _{BGR} ^{注5}			V
		温度センサ出力電圧 (2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, HS (高速メイン) モード)	V _{TMPS25} ^{注5}			V

注1. 量子化誤差 (±1/2 LSB) を含みません。

2. フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。

3. AV_{REFP} < V_{DD}の場合, MAX.値は次のようになります。

総合誤差 : AV_{REFP} = V_{DD}のMAX.値に±1.0 LSBを加算してください

ゼロスケール誤差/フルスケール誤差 : AV_{REFP} = V_{DD}のMAX.値に±0.05 %FSRを加算してください

積分直線性誤差/微分直線性誤差 : AV_{REFP} = V_{DD}のMAX.値に±0.5 LSBを加算してください

4. 変換時間をMIN. 57 μs, MAX. 95 μsに設定した場合の値です。

5. 30.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性を参照してください。

(2) 基準電圧 (+) = $AV_{REFP}/ANI0$ ($ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 1$), 基準電圧 (-) = $AV_{REFM}/ANI1$ ($ADREFM = 1$) 選択時, 変換対象 : ANI16-ANI23

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $1.6\text{ V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $1.6\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$, 基準電圧 (+) = AV_{REFP} , 基準電圧 (-) = $AV_{REFM} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位	
分解能	RES			8		10	bit	
総合誤差 ^{注1}	AINL	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$		1.2	± 5.0	LSB	
		$AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$1.6\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注4}		1.2	± 8.5	LSB	
変換時間	t_{CONV}	10ビット分解能	$3.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	2.125		39	μs	
			$AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	3.1875		39	μs
			$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	17		39	μs	
			$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	57		95	μs	
ゼロスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{ZS}	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.35	%FSR	
			$AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$1.6\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注4}			± 0.60	%FSR
フルスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{FS}	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.35	%FSR	
			$AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$1.6\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注4}			± 0.60	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 3.5	LSB	
			$AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$1.6\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注4}			± 6.0	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 2.0	LSB	
			$AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$1.6\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注4}			± 2.5	LSB
アナログ入力電圧	V _{AIN}			0		AV_{REFP} かつ EV_{DD}	V	

注1. 量子化誤差 ($\pm 1/2$ LSB) を含みません。

2. フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。

3. $AV_{REFP} < EV_{DD} = V_{DD}$ の場合, MAX.値は次のようになります。

総合誤差 : $AV_{REFP} = V_{DD}$ のMAX.値に ± 4.0 LSBを加算してください

ゼロスケール誤差/フルスケール誤差 : $AV_{REFP} = V_{DD}$ のMAX.値に ± 0.20 %FSRを加算してください

積分直線性誤差/微分直線性誤差 : $AV_{REFP} = V_{DD}$ のMAX.値に ± 2.0 LSBを加算してください

4. 変換時間をMIN. $57\ \mu\text{s}$, MAX. $95\ \mu\text{s}$ に設定した場合の値です。

(3) 基準電圧 (+) = V_{DD} (ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 0), 基準電圧 (-) = V_{SS} (ADREFM = 0) 選択時,
変換対象 : ANI0, ANI1, ANI16-ANI23, 内部基準電圧, 温度センサ出力電圧

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $1.6\text{ V} \leq V_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$, 基準電圧 (+) = V_{DD} , 基準電圧 (-) = V_{SS})

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
分解能	RES		8		10	bit
総合誤差 ^{注1}	AINL	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	1.2	± 7.0	LSB
			$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注3}	1.2	± 10.5	LSB
変換時間	t _{CONV}	10ビット分解能	$3.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	2.125	39	μs
			$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	3.1875	39	μs
			$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	17	39	μs
			$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	57	95	μs
		10ビット分解能 変換対象 : 内部基準電圧, 温度センサ出力電圧 HS (高速メイン) モード	$3.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$,	2.375	39	μs
			$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$,	3.5625	39	μs
ゼロスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{ZS}	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$		± 0.60	%FSR
			$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注3}		± 0.85	%FSR
フルスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{FS}	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$		± 0.60	%FSR
			$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注3}		± 0.85	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$		± 4.0	LSB
			$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注3}		± 6.5	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	10ビット分解能	$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$		± 2.0	LSB
			$1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$ ^{注3}		± 2.5	LSB
アナログ入力電圧	V _{AIN}	ANI0-ANI1	0		V_{DD}	V
		ANI16-ANI23	0		EV_{DD}	V
		内部基準電圧 ($2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, HS (高速メイン) モード)			V_{BGR} ^{注4}	V
		温度センサ出力電圧 ($2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, HS (高速メイン) モード)			V_{TMPS25} ^{注4}	V

注1. 量子化誤差 ($\pm 1/2$ LSB) を含みません。

- フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。
- 変換時間をMIN. $57\ \mu\text{s}$, MAX. $95\ \mu\text{s}$ に設定した場合の値です。
- 30.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性を参照してください。

(4) 基準電圧 (+) = 内部基準電圧 (ADREFP1 = 1, ADREFP0 = 0), 基準電圧 (-) = $AV_{REFM}/ANI1$ (ADREFM = 1) 選択時, 変換対象 : ANI0, ANI16-ANI23

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$, 基準電圧 (+) = V_{BGR} ^{注3}, 基準電圧 (-) = AV_{REFM} ^{注4} = 0 V, HS (高速メイン) モード)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
分解能	RES			8			bit
変換時間	t _{CONV}	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	17		39	μs
ゼロスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{ZS}	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.60	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 2.0	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 1.0	LSB
アナログ入力電圧	V _{AIN}			0		V_{BGR} ^{注3}	V

注1. 量子化誤差 ($\pm 1/2$ LSB) を含みません。

2. フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。

3. 30.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性を参照してください。

4. 基準電圧 (-) = V_{SS} の場合, MAX.値は次のようになります。

ゼロスケール誤差 : 基準電圧 (-) = AV_{REFM} 時のMAX.値に $\pm 0.35\%$ FSR を加算してください

積分直線性誤差 : 基準電圧 (-) = AV_{REFM} 時のMAX.値に ± 0.5 LSB を加算してください

微分直線性誤差 : 基準電圧 (-) = AV_{REFM} 時のMAX.値に ± 0.2 LSB を加算してください

30.6.2 温度センサ／内部基準電圧特性

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$, $\text{V}_{\text{SS}} = \text{EV}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$, HS (高速メイン) モード)

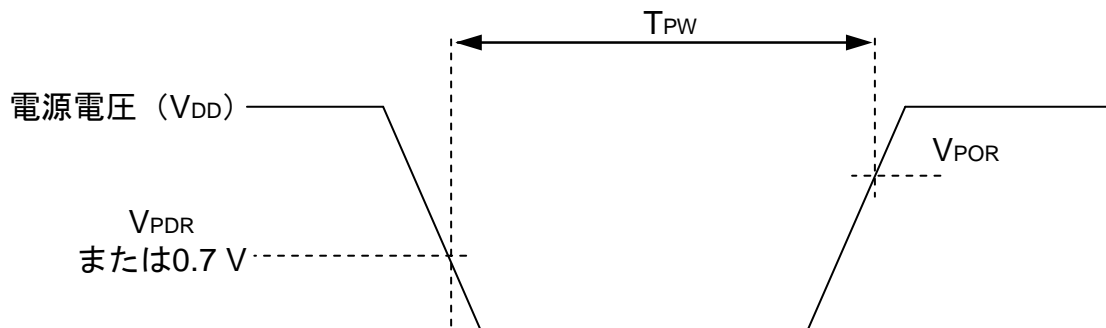
項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
温度センサ出力電圧	V_{TMPS25}	ADSレジスタ = 80H設定, $T_A = +25^\circ\text{C}$		1.05		V
内部基準電圧	V_{BGR}	ADSレジスタ = 81H設定	1.38	1.45	1.5	V
温度係数	F_{VTMPS}	温度センサ電圧の温度依存		-3.6		$\text{mV}/^\circ\text{C}$
動作安定待ち時間	t_{AMP}		5			μs

30.6.3 POR回路特性

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $\text{V}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
検出電圧	V_{POR}	電源立ち上がり時	1.47	1.51	1.55	V
	V_{PDR}	電源立ち下がり時	1.46	1.50	1.54	V
最小パルス幅 ^注	T_{PW}		300			μs

注 V_{DD} が V_{PDR} を下回った場合に、PORによるリセット動作に必要な時間です。またSTOPモード時および、クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) のビット0 (HIOSTOP) とビット7 (MSTOP) の設定によりメイン・システム・クロック (f_{MAIN}) を停止時は、 V_{DD} が0.7 Vを下回ってから、 V_{POR} を上回るまでのPORによるリセット動作に必要な時間です。



30.6.4 LVD回路特性

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $V_{PDR} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
検出電圧	電源電圧レベル	VLVD0	電源立ち上がり時	3.98	4.06	4.14	V
			電源立ち下がり時	3.90	3.98	4.06	V
		VLVD1	電源立ち上がり時	3.68	3.75	3.82	V
			電源立ち下がり時	3.60	3.67	3.74	V
		VLVD2	電源立ち上がり時	3.07	3.13	3.19	V
			電源立ち下がり時	3.00	3.06	3.12	V
		VLVD3	電源立ち上がり時	2.96	3.02	3.08	V
			電源立ち下がり時	2.90	2.96	3.02	V
		VLVD4	電源立ち上がり時	2.86	2.92	2.97	V
			電源立ち下がり時	2.80	2.86	2.91	V
		VLVD5	電源立ち上がり時	2.76	2.81	2.87	V
			電源立ち下がり時	2.70	2.75	2.81	V
		VLVD6	電源立ち上がり時	2.66	2.71	2.76	V
			電源立ち下がり時	2.60	2.65	2.70	V
		VLVD7	電源立ち上がり時	2.56	2.61	2.66	V
			電源立ち下がり時	2.50	2.55	2.60	V
		VLVD8	電源立ち上がり時	2.45	2.50	2.55	V
			電源立ち下がり時	2.40	2.45	2.50	V
		VLVD9	電源立ち上がり時	2.05	2.09	2.13	V
			電源立ち下がり時	2.00	2.04	2.08	V
		VLVD10	電源立ち上がり時	1.94	1.98	2.02	V
			電源立ち下がり時	1.90	1.94	1.98	V
		VLVD11	電源立ち上がり時	1.84	1.88	1.91	V
			電源立ち下がり時	1.80	1.84	1.87	V
VLVD12	電源立ち上がり時	1.74	1.77	1.81	V		
	電源立ち下がり時	1.70	1.73	1.77	V		
VLVD13	電源立ち上がり時	1.64	1.67	1.70	V		
	電源立ち下がり時	1.60	1.63	1.66	V		
最小パルス幅	t _{LW}		300			μs	
検出遅延	t _{LD}				300	μs	

割り込み&リセット・モードのLVD検出電圧

(T_A = -40~+85 °C, V_{PDR} ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
割り込み& リセット・モード	VLVDA0	V _{POC2} , V _{POC1} , V _{POC0} = 0, 0, 0, 立ち下がりリセット電圧	1.60	1.63	1.66	V	
	VLVDA1	LVIS1, LVIS0 = 1, 0	立ち上がりリセット解除電圧	1.74	1.77	1.81	V
			立ち下がり割り込み電圧	1.70	1.73	1.77	V
	VLVDA2	LVIS1, LVIS0 = 0, 1	立ち上がりリセット解除電圧	1.84	1.88	1.91	V
			立ち下がり割り込み電圧	1.80	1.84	1.87	V
	VLVDA3	LVIS1, LVIS0 = 0, 0	立ち上がりリセット解除電圧	2.86	2.92	2.97	V
			立ち下がり割り込み電圧	2.80	2.86	2.91	V
	VLVDB0	V _{POC2} , V _{POC1} , V _{POC0} = 0, 0, 1, 立ち下がりリセット電圧	1.80	1.84	1.87	V	
	VLVDB1	LVIS1, LVIS0 = 1, 0	立ち上がりリセット解除電圧	1.94	1.98	2.02	V
			立ち下がり割り込み電圧	1.90	1.94	1.98	V
	VLVDB2	LVIS1, LVIS0 = 0, 1	立ち上がりリセット解除電圧	2.05	2.09	2.13	V
			立ち下がり割り込み電圧	2.00	2.04	2.08	V
	VLVDB3	LVIS1, LVIS0 = 0, 0	立ち上がりリセット解除電圧	3.07	3.13	3.19	V
			立ち下がり割り込み電圧	3.00	3.06	3.12	V
	VLVDC0	V _{POC2} , V _{POC1} , V _{POC0} = 0, 1, 0, 立ち下がりリセット電圧	2.40	2.45	2.50	V	
	VLVDC1	LVIS1, LVIS0 = 1, 0	立ち上がりリセット解除電圧	2.56	2.61	2.66	V
			立ち下がり割り込み電圧	2.50	2.55	2.60	V
	VLVDC2	LVIS1, LVIS0 = 0, 1	立ち上がりリセット解除電圧	2.66	2.71	2.76	V
			立ち下がり割り込み電圧	2.60	2.65	2.70	V
	VLVDC3	LVIS1, LVIS0 = 0, 0	立ち上がりリセット解除電圧	3.68	3.75	3.82	V
			立ち下がり割り込み電圧	3.60	3.67	3.74	V
	VLVDD0	V _{POC2} , V _{POC1} , V _{POC0} = 0, 1, 1, 立ち下がりリセット電圧	2.70	2.75	2.81	V	
	VLVDD1	LVIS1, LVIS0 = 1, 0	立ち上がりリセット解除電圧	2.86	2.92	2.97	V
			立ち下がり割り込み電圧	2.80	2.86	2.91	V
VLVDD2	LVIS1, LVIS0 = 0, 1	立ち上がりリセット解除電圧	2.96	3.02	3.08	V	
		立ち下がり割り込み電圧	2.90	2.96	3.02	V	
VLVDD3	LVIS1, LVIS0 = 0, 0	立ち上がりリセット解除電圧	3.98	4.06	4.14	V	
		立ち下がり割り込み電圧	3.90	3.98	4.06	V	

30. 6. 5 電源電圧立ち上げ時間

(T_A = -40~+85 °C, V_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電圧立ち上がり傾き	S _{VDD}				54	V/ms

注意 V_{DD}が30. 4 AC特性に示す動作電圧範囲内に達するまで、LVD回路か外部リセットで内部リセット状態を保ってください。

30.7 LCD特性

30.7.1 外部抵抗分割方式

(1) スタティック・モード

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $V_{L4}(\text{MIN.}) \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
LCD駆動電圧	V_{L4}		2.0		V_{DD}	V

(2) 1/2バイアス, 1/4バイアス

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $V_{L4}(\text{MIN.}) \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
LCD駆動電圧	V_{L4}		2.7		V_{DD}	V

(3) 1/3バイアス

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $V_{L4}(\text{MIN.}) \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
LCD駆動電圧	V_{L4}		2.5		V_{DD}	V

30.7.2 内部昇圧方式

(1) 1/3バイアス

(T_A = -40~+85 °C, 1.8V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
LCD出力電圧可変範囲	V _{L1}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	VLCD = 04H	0.90	1.00	1.08	V
			VLCD = 05H	0.95	1.05	1.13	V
			VLCD = 06H	1.00	1.10	1.18	V
			VLCD = 07H	1.05	1.15	1.23	V
			VLCD = 08H	1.10	1.20	1.28	V
			VLCD = 09H	1.15	1.25	1.33	V
			VLCD = 0AH	1.20	1.30	1.38	V
			VLCD = 0BH	1.25	1.35	1.43	V
			VLCD = 0CH	1.30	1.40	1.48	V
			VLCD = 0DH	1.35	1.45	1.53	V
			VLCD = 0EH	1.40	1.50	1.58	V
			VLCD = 0FH	1.45	1.55	1.63	V
			VLCD = 10H	1.50	1.60	1.68	V
			VLCD = 11H	1.55	1.65	1.73	V
VLCD = 12H	1.60	1.70	1.78	V			
VLCD = 13H	1.65	1.75	1.83	V			
ダブル出力電圧	V _{L2}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	2 V _{L1} -0.1	2 V _{L1}	2 V _{L1}	V	
トリプル出力電圧	V _{L4}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	3 V _{L1} -0.15	3 V _{L1}	3 V _{L1}	V	
基準電圧セットアップ時間 ^{注2}	t _{WAIT1}		5			ms	
昇圧ウェイト時間 ^{注3}	t _{WAIT2}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	500			ms	

注1. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1 : CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2 : V_{L1}-GND間に接続するコンデンサです。

C3 : V_{L2}-GND間に接続するコンデンサです。

C4 : V_{L4}-GND間に接続するコンデンサです。

C1 = C2 = C3 = C4 = 0.47 μF ± 30%

2. VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット = 01B）にしてから）、昇圧を開始する（VLCON = 1）までに必要なウェイト時間です。

3. 昇圧を開始してから（VLCON = 1）、表示が可能になる（LCDON = 1）までのウェイト時間です。

(2) 1/4バイアス

(TA = -40 ~ +85 °C, 1.8V ≤ VDD ≤ 5.5 V, VSS = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
LCD出力電圧可変範囲	VL1 ^{注4}	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	VLCD = 04H	0.90	1.00	1.08	V
			VLCD = 05H	0.95	1.05	1.13	V
			VLCD = 06H	1.00	1.10	1.18	V
			VLCD = 07H	1.05	1.15	1.23	V
			VLCD = 08H	1.10	1.20	1.28	V
			VLCD = 09H	1.15	1.25	1.33	V
			VLCD = 0AH	1.20	1.30	1.38	V
			VLCD = 0BH	1.25	1.35	1.43	V
			VLCD = 0CH	1.30	1.40	1.48	V
			VLCD = 0DH	1.35	1.45	1.53	V
			VLCD = 0EH	1.40	1.50	1.58	V
			VLCD = 0FH	1.45	1.55	1.63	V
			VLCD = 10H	1.50	1.60	1.68	V
			VLCD = 11H	1.55	1.65	1.73	V
VLCD = 12H	1.60	1.70	1.78	V			
VLCD = 13H	1.65	1.75	1.83	V			
ダブル出力電圧	VL2	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	2 VL1 -0.08	2 VL1	2 VL1	V	
トリプル出力電圧	VL3	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	3 VL1 -0.12	3 VL1	3 VL1	V	
クアドラプル出力電圧	VL4 ^{注4}	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	4 VL1 -0.16	4 VL1	4 VL1	V	
基準電圧セットアップ時間 ^{注2}	tVWAIT1		5			ms	
昇圧ウェイト時間 ^{注3}	tVWAIT2	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	500			ms	

注1. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1 : CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2 : VL1-GND間に接続するコンデンサです。

C3 : VL2-GND間に接続するコンデンサです。

C4 : VL3-GND間に接続するコンデンサです。

C5 : VL4-GND間に接続するコンデンサです。

C1 = C2 = C3 = C4 = C5 = 0.47 μF ± 30%

- VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0 = 01B）してから）、昇圧を開始する（VLCON = 1）までに必要なウェイト時間です。
- 昇圧を開始してから（VLCON = 1）、表示が可能になる（LCDON = 1）までのウェイト時間です。
- VL4が5.5V以下になるように設定してください。

30.7.3 容量分割方式

1/3バイアス

(T_A = -40~+85 °C, 2.2 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = 0 V)

項 目	略 号	条 件	MIN.	TYP.	MAX.	単 位
V _{L4} 電圧	V _{L4}	C1-C4 = 0.47 μF ^{注2}		V _{DD}		V
V _{L2} 電圧	V _{L2}	C1-C4 = 0.47 μF ^{注2}	2/3 V _{L4} -0.1	2/3 V _{L4}	2/3 V _{L4} +0.1	V
V _{L1} 電圧	V _{L1}	C1-C4 = 0.47 μF ^{注2}	1/3 V _{L4} -0.1	1/3 V _{L4}	1/3 V _{L4} +0.1	V
容量分割ウエイト時間 ^{注1}	t _{WAIT}		100			ms

注1. 降圧を開始してから (VLCON = 1), 表示が可能になる (LCDON = 1) までのウエイト時間です。

2. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1 : CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2 : V_{L1}-GND間に接続するコンデンサです。

C3 : V_{L2}-GND間に接続するコンデンサです。

C4 : V_{L4}-GND間に接続するコンデンサです。

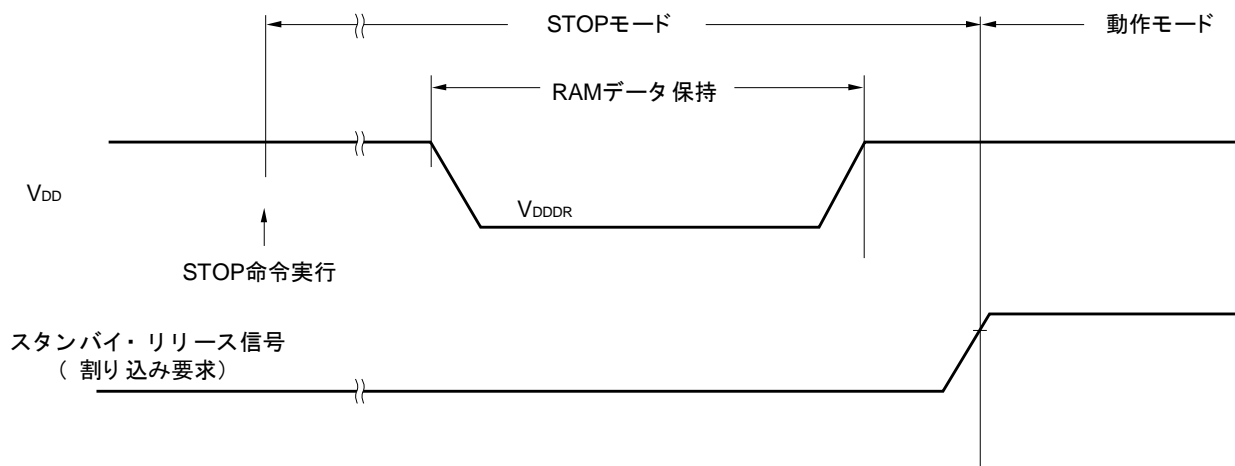
C1 = C2 = C3 = C4 = 0.47 μF ± 30%

30.8 RAMデータ保持特性

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $V_{SS} = 0\text{V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
データ保持電源電圧	V_{DDDR}		1.46 ^注		5.5	V

注 POR検出電圧に依存します。電圧降下時、PORリセットがかかるまではRAMのデータを保持しますが、PORリセットがかかった場合のRAMのデータは保持されません。



30.9 フラッシュ・メモリ・プログラミング特性

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $1.8\text{V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
システム・クロック周波数	f_{CLK}	$1.8\text{V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{V}$	1		24	MHz
コード・フラッシュの書き換え回数 ^{注1, 2, 3}	C_{enwr}	保持年数: 20年 $T_A = 85^\circ\text{C}$	1,000			回
データ・フラッシュの書き換え回数 ^{注1, 2, 3}		保持年数: 1年 $T_A = 25^\circ\text{C}$		1,000,000		
		保持年数: 5年 $T_A = 85^\circ\text{C}$	100,000			
		保持年数: 20年 $T_A = 85^\circ\text{C}$	10,000			

注 1. 消去1回+消去後の書き込み1回で書き換え回数1回となります。

保持年数は、1度書き換えた後、次に書き換えを行うまでの期間です。

2. フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時および当社提供のライブラリを使用時

3. この特性はフラッシュ・メモリの特性を示すものであり、当社の信頼性試験から得られた結果です。

30.10 専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信 (UART)

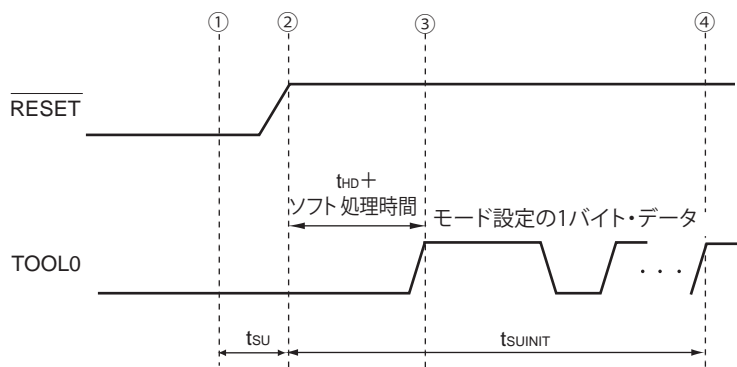
($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $1.8\text{V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
転送レート		フラッシュ・メモリのプログラミング時	115,200		1,000,000	bps

30.11 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード 引き込み時タイミング

($T_A = -40 \sim +85^\circ\text{C}$, $1.8\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$, $\text{V}_{\text{SS}} = \text{EV}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
外部リセット解除から初期設定通信を完了する時間	t_{SUIINIT}	外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除			100	ms
TOOL0端子をロウ・レベルにしてから、外部リセットを解除するまでの時間	t_{SU}	外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除	10			μs
外部リセット解除から、TOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間 (フラッシュ・ファーム処理時間を除く)	t_{HD}	外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除	1			ms



- ① TOOL0端子にロウ・レベルを入力
- ② 外部リセットを解除（その前にPOR, LVDリセットが解除されていること）
- ③ TOOL0端子のロウ・レベルを解除
- ④ UART受信によるボー・レート設定完了

備考 t_{SUIINIT} : この区間では、リセット解除から100 ms以内に初期設定通信を完了してください。

t_{SU} : TOOL0端子をロウ・レベルにしてから、外部リセットを解除するまでの時間

t_{HD} : 外部リセット解除から、TOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間（フラッシュ・ファーム処理時間を除く）

第31章 電気的特性 (G : T_A = -40~+105°C)

この章では、G : 産業用途 (T_A = -40~+105°C) の電気的特性を示します。

- 注意1. RL78マイクロコントローラには開発/評価用にオンチップ・デバッグ機能が搭載されています。オンチップ・デバッグ機能を使用した場合、フラッシュ・メモリの保証書き換え回数を越えてしまう可能性があり、製品の信頼性が保証できませんので、量産用の製品には本機能を使用しないでください。オンチップ・デバッグ機能を使用した製品については、クレーム受け付け対象外となります。
2. EV_{DD}, EV_{SS}端子がない製品は、EV_{DD}をV_{DD}に、EV_{SS}をV_{SS}に置き換えてください。
3. 製品により搭載している端子が異なります。2.1 ポート機能~2.2.1 製品別搭載端子 (ポート以外の端子) を参照してください。
4. T_A = +85°C~+105°Cで使用する場合のディレーティングについては、当社営業および販売店営業へお問い合わせください。なお、ディレーティングとは、「信頼性を改善するために、計画的に負荷を定格値から軽減すること」です。

“G : 産業用途 (T_A = -40~+105°C)”は、“A : 民生用途, G : 産業用途 (T_A = -40~+85°Cにて使用する場合)”と次に示す機能が異なります。

用途区分	A : 民生用途, G : 産業用途 (T _A = -40~+85°Cにて使用する場合)	G : 産業用途
動作周囲温度	T _A = -40~+85°C	T _A = -40~+105°C
動作モード 動作電圧範囲	HS (高速メイン) モード : 2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V @ 1 MHz ~ 32 MHz 2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V @ 1 MHz ~ 16 MHz LS (低速メイン) モード : 1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V @ 1 MHz ~ 8 MHz LV (低電圧メイン) モード : 1.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V @ 1 MHz ~ 4 MHz	HS (高速メイン) モードのみ : 2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V @ 1 MHz ~ 32 MHz 2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V @ 1 MHz ~ 16 MHz
高速オンチップ・オシレータ・クロック精度	1.8 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V : ±1.0 % @ T _A = -20°C ~ +85°C ±1.5 % @ T _A = -40°C ~ -20°C 1.6 V ≤ V _{DD} < 1.8 V : ±5.0 % @ T _A = -20°C ~ +85°C ±5.5 % @ T _A = -40°C ~ -20°C	2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V : ±2.0 % @ T _A = +85°C ~ +105°C ±1.0 % @ T _A = -20°C ~ +85°C ±1.5 % @ T _A = -40°C ~ -20°C
シリアル・アレイ・ユニット	UART CSI00 : f _{CLK} /2 (16Mbps対応), f _{CLK} /4 CSI01 簡易I ² C	UART CSI00 : f _{CLK} /4 CSI01 簡易I ² C
IICA	標準モード ファースト・モード ファースト・モード・プラス	標準モード ファースト・モード
電圧検出回路	・立ち上がり : 1.67 V ~ 4.06 V (14段階) ・立ち下がり : 1.63 V ~ 3.98 V (14段階)	・立ち上がり : 2.61 V ~ 4.06 V (8段階) ・立ち下がり : 2.55 V ~ 3.98 V (8段階)

備考 G : 産業用途 (T_A = -40~+105°C) の電気的特性は、“A : 民生用途, G : 産業用途 (T_A = -40~+85°Cでのみ使用時)”と異なります。詳細は、このページ以降の31.1~31.10を参照してください。

31.1 絶対最大定格

絶対最大定格 (T_A = 25 °C) (1/3)

項目	略号	条件	定格	単位
電源電圧	V _{DD}	V _{DD} = EV _{DD}	-0.5 ~ +6.5	V
	EV _{DD}	V _{DD} = EV _{DD}	-0.5 ~ +6.5	V
	EV _{SS}		-0.5 ~ +0.3	V
REGC端子入力電圧	V _I REGC	REGC	-0.3 ~ +2.8 かつ -0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注1}	V
入力電圧	V _{I1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	-0.3 ~ EV _{DD} + 0.3 かつ -0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注2}	V
	V _{I2}	P60, P61 (N-chオープン・ドレイン)	-0.3 ~ EV _{DD} + 0.3 かつ -0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注2}	V
	V _{I3}	P20, P21, P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS, RESET	-0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注2}	V
出力電圧	V _{O1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	-0.3 ~ EV _{DD} + 0.3 かつ -0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注2}	V
	V _{O2}	P20, P21	-0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注2}	V
アナログ入力電圧	V _{AI1}	ANI16-ANI23	-0.3 ~ EV _{DD} + 0.3 かつ -0.3 ~ AV _{REF(+)} + 0.3 ^{注2, 3}	V
	V _{AI2}	ANI0, ANI1	-0.3 ~ V _{DD} + 0.3 かつ -0.3 ~ AV _{REF(+)} + 0.3 ^{注2, 3}	V

注1. REGC端子にはコンデンサ (0.47 ~ 1 μF) を介してV_{SS}に接続してください。この値は、REGC端子の絶対最大定格を規定するものです。電圧印加して使用しないでください。

- 6.5 V以下であること。
- A/D変換対象の端子は、AV_{REF(+)} + 0.3を越えないでください。

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

備考 1. 特に指定がないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

- AV_{REF(+)} : A/Dコンバータの+側基準電圧
- V_{SS}を基準電圧とする。

絶対最大定格 (T_A = 25 °C) (2/3)

項目	略号	条件		定格	単位
LCD電圧	V _{L1}	V _{L1} 電圧 ^{注1}		-0.3 ~ +2.8且つ -0.3 ~ V _{L4} + 0.3	V
	V _{L2}	V _{L2} 電圧 ^{注1}		-0.3 ~ V _{L4} + 0.3 ^{注2}	V
	V _{L3}	V _{L3} 電圧 ^{注1}		-0.3 ~ V _{L4} + 0.3 ^{注2}	V
	V _{L4}	V _{L4} 電圧 ^{注1}		-0.3 ~ +6.5	V
	V _{LCAP}	CAPL, CAPH電圧 ^{注1}		-0.3 ~ V _{L4} + 0.3 ^{注2}	V
	V _{LOUT}	COM0-COM7, SEG0-SEG38, 出力電圧	外部抵抗分割方式	-0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注2}	V
	容量分割方式		-0.3 ~ V _{DD} + 0.3 ^{注2}		
	内部昇圧方式		-0.3 ~ V _{L4} + 0.3 ^{注2}		

注 1. この値は、V_{L1}, V_{L2}, V_{L3}, V_{L4}端子への電圧印加する場合の絶対最大定格を規定するものであり、電圧印加して使用することを推奨しているわけではありません。内部昇圧方式、容量分割方式の場合、V_{L1}, V_{L2}, V_{L3}, V_{L4}端子にはコンデンサ (0.47 ± 30 %) を介してV_{SS}に接続し、CAPL端子、CAPH端子間にもコンデンサ (0.47 ± 30 %) を接続してください。

2. 6.5 V以下であること。

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

備考 V_{SS}を基準電圧とする。

絶対最大定格 (T_A = 25 °C) (3/3)

項目	略号	条件		定格	単位
ハイ・レベル出力電流	I _{OH1}	1端子	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	-40	mA
		端子合計 -170 mA	P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147	-70	mA
			P15-P17, P30-P32, P50-P54, P70-P74, P125-P127	-100	mA
	I _{OH2}	1端子	P20, P21	-0.5	mA
		端子合計		-1	mA
ロウ・レベル出力電流	I _{OL1}	1端子	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	40	mA
		端子合計 170 mA	P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147	70	mA
			P15-P17, P30-P32, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P125-P127	100	mA
	I _{OL2}	1端子	P20, P21	1	mA
		端子合計		2	mA
動作周囲温度	T _A	通常動作時		-40 ~ +105	°C
		フラッシュ・メモリ・プログラミング時			
保存温度	T _{stg}			-65 ~ +150	°C

注意 各項目のうち1項目でも、また一瞬でも絶対最大定格を越えると、製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは、製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。必ずこの定格値を越えない状態で、製品をご使用ください。

備考 特に指定がないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

31.2 発振回路特性

31.2.1 X1, XT1発振回路特性

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq V_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$)

項 目	発振子	条 件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
X1クロック発振 周波数 (fx) 注	セラミック発振子	$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	1.0		20.0	MHz
	水晶振動子	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 2.7\text{ V}$	1.0		16.0	
XT1クロック発振周波数 (fxT) 注	水晶振動子		32	32.768	35	kHz

注 発振回路の周波数許容範囲のみを示すものです。命令実行時間は、31.4 AC特性を参照してください。

また、実装回路上での評価を発振子メーカーに依頼し、発振特性を確認してご使用ください。

注意 リセット解除後は、高速オンチップ・オシレータ・クロックによりCPUが起動されるため、X1クロックの発振安定時間は発振安定時間カウンタ状態レジスタ (OSTC) でユーザにて確認してください。また使用する発振子で発振安定時間を十分に評価してから、OSTCレジスタ、発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の発振安定時間を決定してください。

備考 X1, XT1発振回路を使用する場合は、5.4 システム・クロック発振回路を参照してください。

31.2.2 オンチップ・オシレータ特性

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq V_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
高速オンチップ・オシレータ・ クロック周波数 ^{注1,2}	f _{ih}			1		24	MHz
高速オンチップ・オシレータ ・クロック周波数精度		-20~+85 °C	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	-1		+1	%
		-40~-20 °C	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	-1.5		+1.5	%
		+85~+105 °C	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	-2.0		+2.0	%
低速オンチップ・オシレータ ・クロック周波数	f _{il}				15		kHz
低速オンチップ・オシレータ ・クロック周波数精度				-15		+15	%

注 1. 高速オンチップ・オシレータの周波数は、オプション・バイト (000C2H) のビット0-3およびHOCODIVレジスタのビット0-2によって選択します。

2. 発振回路の特性だけを示すものです。命令実行時間は、31.4 AC特性を参照してください。

31.3 DC特性

31.3.1 端子特性

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(1/5)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ハイ・レベル出力電流 ^{注1}	I _{OH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147 1端子			-3.0 ^{注2}	mA	
		P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147 合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			-30.0	mA
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			-8.0	mA
			2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			-4.0	mA
		P15-P17, P30-P32, P50-P54, P70-P74, P125-P127 合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			-30.0	mA
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			-15.0	mA
	2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V				-8.0	mA	
	全端子合計 (デューティ = 70 %時 ^{注3})					-60.0	mA
I _{OH2}	P20, P21	1端子			-0.1	mA	
		全端子合計	2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V			-0.2	mA

注1. V_{DD}, EV_{DD}端子から出力端子に流れ出しても、デバイスの動作を保證する電流値です。

2. 合計の電流値を越えないでください。

3. デューティ ≤ 70 %の条件での出力電流の値です。

デューティ > 70 %に変更した出力電流の値は、次の計算式で求めることができます (デューティ比をn %に変更する場合)。

$$\cdot \text{端子合計の出力電流} = (I_{OH} \times 0.7) / (n \times 0.01)$$

<計算例> I_{OH} = -30.0 mAの場合, n = 80 %

$$\text{端子合計の出力電流} = (-30.0 \times 0.7) / (80 \times 0.01) \doteq -26.25 \text{ mA}$$

ただし、1端子あたりに流せる電流は、デューティによって変わることはありません。また、絶対最大定格以上の電流は流せません。

注意 P10, P12, P15, P17は、N-chオープン・ドレイン・モード時には、ハイ・レベル出力しません。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V) (2/5)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ロウ・レベル出力電流 ^{注1}	I _{OL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147 1端子				8.5 ^{注2}	mA	
		P60, P61 1端子				15.0 ^{注2}	mA	
		P10-P14, P40-P43, P120, P130, P140-P147 合計 (デューティ = 70%時 ^{注3})	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			40.0	mA	
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			15.0	mA	
			2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			9.0	mA	
		P15-P17, P30-P32, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P125-P127 合計 (デューティ = 70%時 ^{注3})	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			40.0	mA	
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			35.0	mA	
	2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V				20.0	mA		
	全端子合計 (デューティ = 70%時 ^{注3})						80.0	mA
	I _{OL2}	P20, P21	1端子				0.4	mA
全端子合計			2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V			0.8	mA	

注1. V_{DD}, EV_{DD}端子から出力端子に流れ出しても、デバイスの動作を保証する電流値です。

- 合計の電流値を越えないでください。
- デューティ ≤ 70%の条件での出力電流の値です。

デューティ > 70%に変更した出力電流の値は、次の計算式で求めることができます（デューティ比をn%に変更する場合）。

$$\cdot \text{端子合計の出力電流} = (I_{OL} \times 0.7) / (n \times 0.01)$$

<計算例> I_{OL} = 40.0 mAの場合, n = 80%

$$\text{端子合計の出力電流} = (40.0 \times 0.7) / (80 \times 0.01) \approx 35.0 \text{ mA}$$

ただし、1端子あたりに流せる電流は、デューティによって変わることはありません。また、絶対最大定格以上の電流は流せません。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(3/5)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
ハイ・レベル入力電圧	V _{IH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	通常入力バッファ	0.8EV _{DD}		EV _{DD}	V
	V _{IH2}	P10, P11, P15, P16	TTL入力バッファ 4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	2.2		EV _{DD}	V
			TTL入力バッファ 3.3 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V	2.0		EV _{DD}	V
			TTL入力バッファ 2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V	1.50		EV _{DD}	V
	V _{IH3}	P20, P21		0.7V _{DD}		V _{DD}	V
	V _{IH4}	P60, P61		0.7EV _{DD}		EV _{DD}	V
	V _{IH5}	P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS, RESET		0.8V _{DD}		V _{DD}	V
ロウ・レベル入力電圧	V _{IL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	通常入力バッファ	0		0.2EV _{DD}	V
	V _{IL2}	P10, P11, P15, P16	TTL入力バッファ 4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0		0.8	V
			TTL入力バッファ 3.3 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V	0		0.5	V
			TTL入力バッファ 2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V	0		0.32	V
	V _{IL3}	P20, P21		0		0.3V _{DD}	V
	V _{IL4}	P60, P61		0		0.3EV _{DD}	V
	V _{IL5}	P121-P124, P137, EXCLK, EXCLKS, RESET		0		0.2V _{DD}	V

注意 P10, P12, P15, P17は、N-chオープン・ドレイン・モード時でもV_{IH}の最大値 (MAX.) はEV_{DD}です。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(4/5)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
ハイ・レベル出力電圧	V _{OH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -3.0 mA	EV _{DD} - 0.7		V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -2.0 mA	EV _{DD} - 0.6		V
			2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH1} = -1.5 mA	EV _{DD} - 0.5		V
	V _{OH2}	P20, P21	2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OH2} = -100 μA	V _{DD} -0.5		V
ロウ・レベル出力電圧	V _{OL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P70-P74, P120, P125-P127, P130, P140-P147	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 8.5 mA		0.7	V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 3.0 mA		0.6	V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 1.5 mA		0.4	V
			2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL1} = 0.6 mA		0.4	V
	V _{OL2}	P20, P21	2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL2} = 400 μA		0.4	V
	V _{OL3}	P60, P61	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 15.0 mA		2.0	V
			4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 5.0 mA		0.4	V
			2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 3.0 mA		0.4	V
			2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, I _{OL3} = 2.0 mA		0.4	V

注意 P10, P12, P15, P17は、N-chオープン・ドレイン・モード時には、ハイ・レベル出力しません。

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(5/5)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
ハイ・レベル入力リーク電流	I _{LIH1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	V _I = EV _{DD}			1	μA
	I _{LIH2}	P20, P21, P137, $\overline{\text{RESET}}$	V _I = V _{DD}			1	μA
	I _{LIH3}	P121-P124 (X1, X2, XT1, XT2, EXCLK, EXCLKS)	V _I = V _{DD}	入力ポート時, 外部クロック 入力時 発振子接続時			1 10
ロウ・レベル入力リーク電流	I _{LIL1}	P10-P17, P30-P32, P40-P43, P50-P54, P60, P61, P70-P74, P120, P125-P127, P140-P147	V _I = EV _{SS}			-1	μA
	I _{LIL2}	P20, P21, P137, $\overline{\text{RESET}}$	V _I = V _{SS}			-1	μA
	I _{LIL3}	P121-P124 (X1, X2, XT1, XT2, EXCLK, EXCLKS)	V _I = V _{SS}	入力ポート時, 外部クロック 入力時 発振子接続時			-1 -10
内蔵プリアップ抵抗	R _{U1}	V _I = EV _{SS}	SEGxx兼用ポート				
			2.4 V ≤ EV _{DD} = V _{DD} ≤ 5.5 V	10	20	100	kΩ
	R _{U2}		上記以外のポート (P60, P61, P130は除く)	10	20	100	kΩ

備考 特に指定のないかぎり、兼用端子の特性はポート端子の特性と同じです。

31.3.2 電源電流特性

(TA = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EVDD = VDD ≤ 5.5 V, VSS = EVSS = 0 V)

(1/3)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位			
電源電流 ^{注1}	IDD1	動作モード HS (高速メイン) モード ^{注5}	f _{IH} = 24 MHz ^{注3}	基本動作	V _{DD} = 5.0 V	1.5		mA		
					V _{DD} = 3.0 V	1.5				
				通常動作	V _{DD} = 5.0 V	3.3	5.3	mA		
					V _{DD} = 3.0 V	3.3	5.3			
			f _{IH} = 16 MHz ^{注3}	通常動作	V _{DD} = 5.0 V	2.5	3.9	mA		
					V _{DD} = 3.0 V	2.5	3.9			
			HS (高速メイン) モード ^{注5}	f _{MX} = 20 MHz ^{注2} , V _{DD} = 5.0 V	通常動作	方形波入力		2.8	4.7	mA
						発振子接続		3.0	4.8	
				f _{MX} = 20 MHz ^{注2} , V _{DD} = 3.0 V	通常動作	方形波入力		2.8	4.7	mA
						発振子接続		3.0	4.8	
		f _{MX} = 10 MHz ^{注2} , V _{DD} = 5.0 V		通常動作	方形波入力		1.8	2.8	mA	
					発振子接続		1.8	2.8		
		f _{MX} = 10 MHz ^{注2} , V _{DD} = 3.0 V		通常動作	方形波入力		1.8	2.8	mA	
					発振子接続		1.8	2.8		
		サブシステム・ クロック動作	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注4} , TA = -40°C	通常動作	方形波入力		3.5	4.9	μA	
					発振子接続		3.6	5.0		
			f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注4} , TA = +25°C	通常動作	方形波入力		3.6	4.9	μA	
					発振子接続		3.7	5.0		
			f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注4} , TA = +50°C	通常動作	方形波入力		3.7	5.5	μA	
					発振子接続		3.8	5.6		
f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注4} , TA = +70°C	通常動作		方形波入力		3.8	6.3	μA			
			発振子接続		3.9	6.4				
f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注4} , TA = +85°C	通常動作	方形波入力		4.1	7.7	μA				
		発振子接続		4.2	7.8					
f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注4} , TA = +105°C	通常動作	方形波入力		6.4	19.7	μA				
		発振子接続		6.5	19.8					

(注, 備考は次ページにあります。)

注1. V_{DD} , EV_{DD} に流れるトータル電流です。入力端子を V_{DD} , EV_{DD} または V_{SS} , EV_{SS} に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS (高速メイン) モード時、電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし、A/Dコンバータ、LVD回路、I/Oポート、内蔵プルアップ/プルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。サブシステム・クロック動作時、電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし、HALTモード時はRTCに流れる電流を含みます。

2. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
3. 高速システム・クロック、サブシステム・クロックは停止時。
4. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。超低消費発振 (AMPHS1 = 1) 設定時。
5. 動作電圧範囲、CPU動作周波数、動作モードの関係を次に示します。

HS (高速メイン) モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 24\text{ MHz}$

$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 16\text{ MHz}$

備考1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数 (X1クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)

2. f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

3. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数 (XT1クロック発振周波数)

4. 「サブシステム・クロック動作」以外のTYP.値の温度条件は、 $T_A = 25^{\circ}\text{C}$ です。

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

(2/3)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位	
電源電流 ^{注1}	I _{DD2} ^{注2}	HALTモード	HS (高速メイン)モード ^{注6}	f _{IH} = 24 MHz ^{注4}	V _{DD} = 5.0 V	0.44	2.3	mA
					V _{DD} = 3.0 V	0.44	2.3	
				f _{IH} = 16 MHz ^{注4}	V _{DD} = 5.0 V	0.40	1.7	mA
					V _{DD} = 3.0 V	0.40	1.7	
			HS (高速メイン)モード ^{注6}	f _{MX} = 20 MHz ^{注3} , V _{DD} = 5.0 V	方形波入力	0.28	1.9	mA
					発振子接続	0.45	2.0	
				f _{MX} = 20 MHz ^{注3} , V _{DD} = 3.0 V	方形波入力	0.28	1.9	mA
					発振子接続	0.45	2.0	
		f _{MX} = 10 MHz ^{注3} , V _{DD} = 5.0 V		方形波入力	0.19	1.02	mA	
				発振子接続	0.26	1.10		
		サブシステム・ クロック動作	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = -40°C	方形波入力	0.31	0.57	μA	
				発振子接続	0.50	0.76		
			f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +25°C	方形波入力	0.37	0.57	μA	
				発振子接続	0.56	0.76		
	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +50°C		方形波入力	0.46	1.17	μA		
			発振子接続	0.65	1.36			
	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +70°C		方形波入力	0.57	1.97	μA		
		発振子接続	0.76	2.16				
	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +85°C	方形波入力	0.85	3.37	μA			
		発振子接続	1.04	3.56				
	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5} , T _A = +105°C	方形波入力	3.04	15.37	μA			
	発振子接続	3.23	15.56					
I _{DD3}	STOPモード ^{注7}	T _A = -40°C		0.17	0.50	μA		
		T _A = +25°C		0.23	0.50			
		T _A = +50°C		0.32	1.10			
		T _A = +70°C		0.43	1.90			
		T _A = +85°C		0.71	3.30			
		T _A = +105°C		2.90	15.30			

(注, 備考は次ページにあります。)

- 注1. V_{DD} , EV_{DD} に流れるトータル電流です。入力端子を V_{DD} , EV_{DD} または V_{SS} , EV_{SS} に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS (高速メイン) モード時, 電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし, A/Dコンバータ, LVD回路, I/Oポート, 内蔵プルアップ/プルダウン抵抗, データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。サブシステム・クロック動作時, 電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし, HALTモード時はRTCに流れる電流を含みます。STOPモード時, 電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。
- フラッシュ・メモリでのHALT命令実行時。
 - 高速オンチップ・オシレータ, サブシステム・クロックは停止時。
 - 高速システム・クロック, サブシステム・クロックは停止時。
 - 高速オンチップ・オシレータ, 高速システム・クロックは停止時。
RTCLPC = 1, かつ超低消費発振 (AMPHS1 = 1) 設定時。
 - 動作電圧範囲, CPU動作周波数, 動作モードの関係を次に示します。
HS (高速メイン) モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 24\text{ MHz}$
 $2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V} @ 1\text{ MHz} \sim 16\text{ MHz}$
 - STOPモード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値は, HALTモード時にサブシステム・クロックを動作させる場合の電流値を参照してください。

- 備考1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数 (X1クロック発振周波数または外部メイン・システム・クロック周波数)
- f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
 - f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数 (XT1クロック発振周波数)
 - 「サブシステム・クロック動作」, 「STOPモード」以外のTYP.値の温度条件は, $T_A = 25^\circ\text{C}$ です。

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$, $\text{V}_{\text{SS}} = \text{EV}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$)

(3/3)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
低速オンチップ・オシレータ動作電流	I_{FIL} 注1				0.20		μA
RTC動作電流	I_{RTC} 注1, 2, 3	f_{MAIN} は停止			0.08		μA
12ビット・インターバル・タイマ動作電流	I_{IT} 注1, 2, 4				0.08		μA
ウォッチドッグ・タイマ動作電流	I_{WDT} 注1,2,5	$f_{\text{IL}} = 15\text{ kHz}$			0.24		μA
A/Dコンバータ動作電流	I_{ADC} 注1,6	最高速変換時	標準モード, $\text{AV}_{\text{REFP}} = \text{V}_{\text{DD}} = 5.0\text{ V}$		1.3	1.7	mA
			低電圧モード, $\text{AV}_{\text{REFP}} = \text{V}_{\text{DD}} = 3.0\text{ V}$		0.5	0.7	mA
A/Dコンバータ基準電圧電流	I_{ADREF} 注1				75.0		μA
温度センサ動作電流	I_{TMP} 注1				75.0		μA
LVD動作電流	I_{LVD} 注1,7				0.08		μA
セルフ・プログラミング動作電流	I_{FSP} 注1, 9				2.50	12.20	mA
BGO動作電流	I_{BGO} 注1,8				2.50	12.20	mA
LCD動作電流	I_{LCD1} 注11, 12	外部抵抗分割方式	$\text{V}_{\text{DD}} = \text{EV}_{\text{DD}} = 5.0\text{ V}$ $\text{V}_{\text{L4}} = 5.0\text{ V}$		0.04	0.20	μA
			$\text{V}_{\text{DD}} = \text{EV}_{\text{DD}} = 5.0\text{ V}$ $\text{V}_{\text{L4}} = 5.1\text{ V}$ (VLCD = 12H)		1.12	3.70	μA
	I_{LCD2} 注11	内部昇圧方式	$\text{V}_{\text{DD}} = \text{EV}_{\text{DD}} = 5.0\text{ V}$ $\text{V}_{\text{L4}} = 3.0\text{ V}$ (VLCD = 04H)		0.63	2.20	μA
			$\text{V}_{\text{DD}} = \text{EV}_{\text{DD}} = 3.0\text{ V}$ $\text{V}_{\text{L4}} = 3.0\text{ V}$		0.12	0.50	μA
I_{LCD3} 注11	容量分割方式	$\text{V}_{\text{DD}} = \text{EV}_{\text{DD}} = 3.0\text{ V}$ $\text{V}_{\text{L4}} = 3.0\text{ V}$		0.12	0.50	μA	
SNOOZE動作電流	I_{SNOZ} 注1	ADC動作	モード遷移中 注10		0.50	1.10	mA
			変換動作中, 低電圧モード, $\text{AV}_{\text{REFP}} = \text{V}_{\text{DD}} = 3.0\text{ V}$		1.20	2.04	
		簡易SPI(CSI)/UART動作		0.70	1.54		

注 1. V_{DD} に流れる電流です。

- 高速オンチップ・オシレータ, 高速システム・クロックは停止時。
- リアルタイム・クロック (RTC) にのみ流れる電流です (低速オンチップ・オシレータ, XT1発振回路の動作電流は含みません)。動作モードまたはHALTモードでのリアルタイム・クロックの動作時は, I_{DD1} または I_{DD2} に I_{RTC} を加算した値が, RL78マイクロコントローラの電流値となります。また, 低速オンチップ・オシレータ選択時は I_{FIL} を加算してください。 I_{DD2} のサブシステム・クロック動作にはリアルタイム・クロックの動作電流が含まれています。
- 12ビット・インターバル・タイマにのみ流れる電流です (低速オンチップ・オシレータ, XT1発振回路の動作電流は含みません)。動作モードまたはHALTモードでの12ビット・インターバル・タイマの動作時は, I_{DD1} または I_{DD2} に I_{IT} を加算した値が, RL78マイクロコントローラの電流値となります。また, 低速オンチップ・オシレータ選択時は I_{FIL} を加算してください。

5. ウォッチドッグ・タイマにのみ流れる電流です (低速オンチップ・オシレータの動作電流を含みます)。ウォッチドッグ・タイマの動作時は, I_{DD1} , I_{DD2} または I_{DD3} に I_{WDT} を加算した値が, RL78 マイクロコントローラの電流値となります。
6. A/Dコンバータにのみ流れる電流です。動作モードまたはHALTモードでのA/Dコンバータの動作時は I_{DD1} または I_{DD2} に I_{ADC} を加算した値が, RL78 マイクロコントローラの電流値となります。
7. LVD回路にのみ流れる電流です。LVD回路の動作時は, I_{DD1} , I_{DD2} または I_{DD3} に I_{LVD} を加算した値がRL78 マイクロコントローラの電流値となります。
8. データ・フラッシュ書き換え動作に流れる電流です。
9. セルフ・プログラミング動作に流れる電流です。
10. SNOOZEモードへの移行時間は, 19.3.3 SNOOZEモードを参照してください。
11. LCDコントローラ/ドライバにのみ流れる電流です。動作モードまたはHALTモード時にLCDコントローラ/ドライバが動作中の場合, 電源電流 (I_{DD1} または I_{DD2}) にLCD動作電流 (I_{LCD1} または I_{LCD2} または I_{LCD3}) を加算した値が, RL78 マイクロコントローラの電流値となります。LCDパネルに流れる電流は含みません。TYP.値, MAX.値は以下の条件の値になります。
 - ・システム・クロックに f_{SUB} 選択, LCDクロック = 128 Hz時 (LCDC0 = 07H)
 - ・4時分割, 1/3バイアス設定
12. 外部抵抗分割方式使用時の外部分割抵抗に流れる電流は含みません。

備考1. f_{IL} : 低速オンチップ・オシレータ・クロック周波数

2. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数 (XT1クロック発振周波数)

3. f_{CLK} : CPU/周辺ハードウェア・クロック周波数

4. TYP.値の温度条件は, $T_A = 25^\circ\text{C}$ です。

31.4 AC特性

31.4.1 基本動作

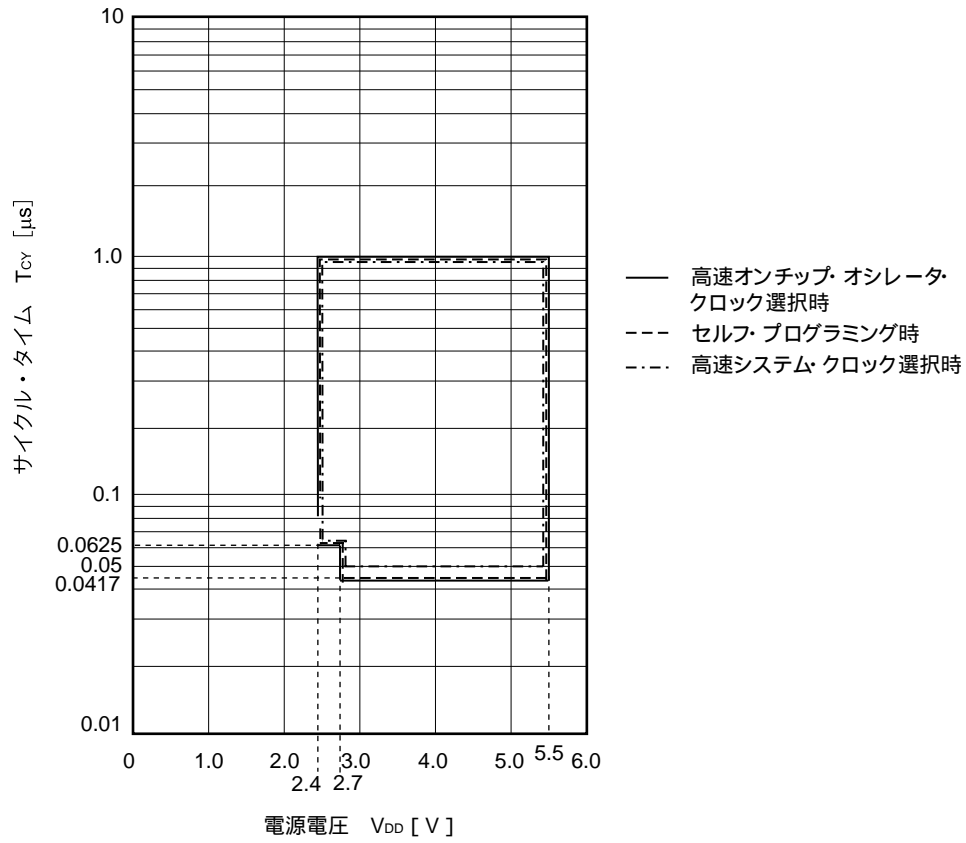
(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位	
命令サイクル (最小命令実行時間)	T _{CY}	メイン・システム・クロック (f _{MAIN}) 動作	HS (高速メイン) モード	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	0.04167		1	μs
				2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V	0.0625		1	μs
		サブシステム・クロック (f _{SUB}) 動作		2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	28.5	30.5	31.3	μs
		セルフ・プログラミング時	HS (高速メイン) モード	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	0.04167		1	μs
	2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V		0.0625		1	μs		
外部システム・クロック 周波数	f _{EX}	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V		1.0		20.0	MHz	
		2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V		1.0		16.0	MHz	
	f _{EXS}			32		35	kHz	
外部システム・クロック入力 ハイ、ロウ・レベル幅	t _{EXH} , t _{EXL}	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V		24			ns	
		2.4 V ≤ V _{DD} < 2.7 V		30			ns	
	t _{EXHS} , t _{EXLS}			13.7			μs	
Ti00-Ti07入力ハイ・レベル幅, ロウ・レベル幅	t _{NIH} , t _{NIL}			1/f _{MCK} + 10			ns	
TO00 -TO07出力周波数	f _{TO}	HS (高速メイン) モード	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			16	MHz	
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			8	MHz	
			2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			4	MHz	
PCLBUZ0, PCLBUZ1出力周波数	f _{FCL}	HS (高速メイン) モード	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V			16	MHz	
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V			8	MHz	
			2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V			4	MHz	
割り込み入力ハイ・レベル幅, ロウ・レベル幅	t _{INTH} , t _{INTL}	INTP0	2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	1			μs	
		INTP1-INTP7	2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V	1			μs	
キー割り込み入力 ロウ・レベル幅	t _{KR}	KR0-KR3	2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	250			ns	
RESETロウ・レベル幅	t _{RSL}			10			μs	

備考 f_{MCK} : タイマ・アレイ・ユニットの動作クロック周波数。

(タイマ・モード・レジスタ0n (TMR0n) のCKS0nビットで設定する動作クロック。n: チャネル番号 (n = 0-7))

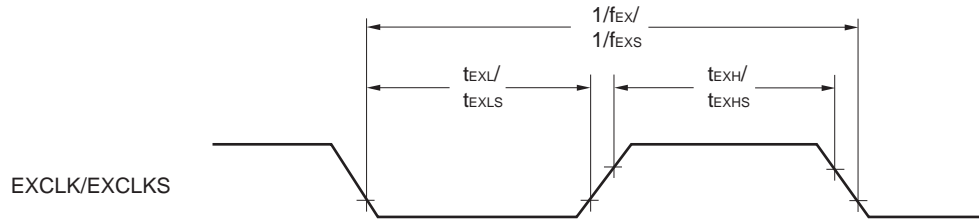
メイン・システム・クロック動作時の最小命令実行時間

T_{cy} vs V_{DD} (HS (高速メイン) モード)

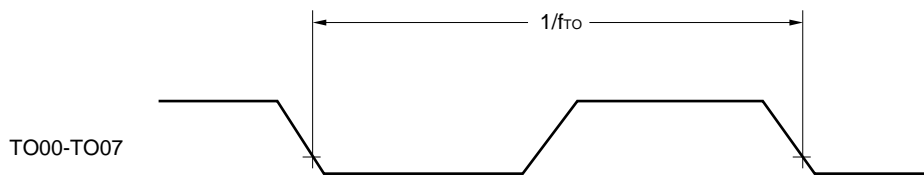
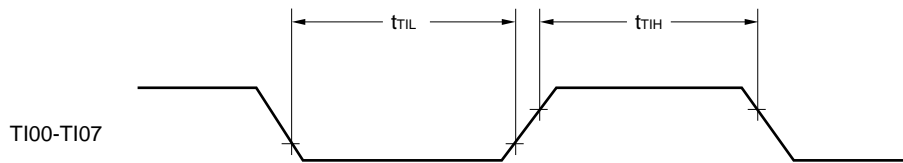
AC タイミング測定点



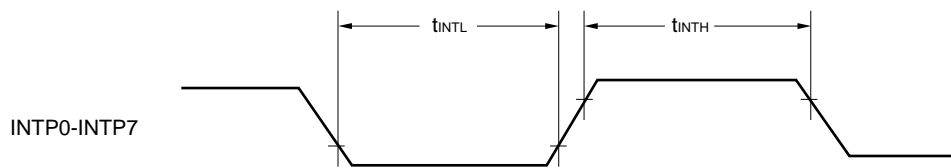
外部システム・クロック・タイミング



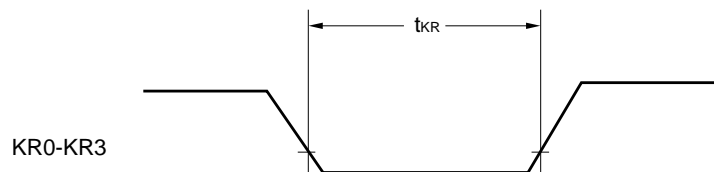
TI/TO タイミング



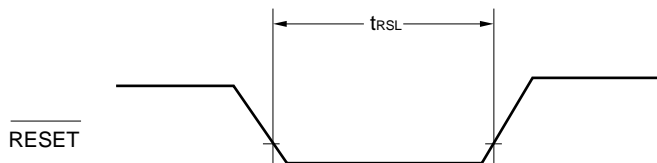
割り込み要求入力タイミング



キー割り込み入力タイミング

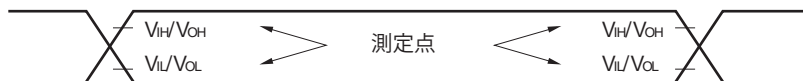


RESET入力タイミング



31.5 周辺機能特性

ACタイミング測定点



31.5.1 シリアル・アレイ・ユニット

(1) 同電位通信時 (UARTモード)

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン)モード		単位
			MIN.	MAX.	
転送レート ^{注1}				f _{MCK} /12	bps
		最大転送レート理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注2}		2.0	Mbps

注 1. SNOOZEモードでの転送レートは、4800 bpsのみとなります。

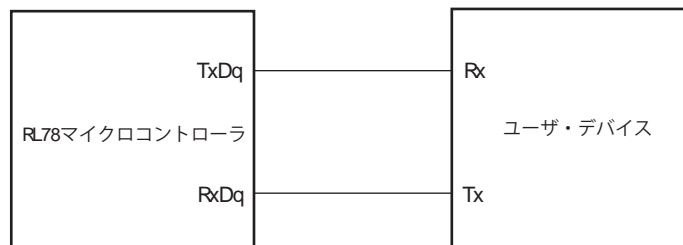
2. CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{CLK}) の最高動作周波数を次に示します。

HS (高速メイン) モード : 24 MHz (2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

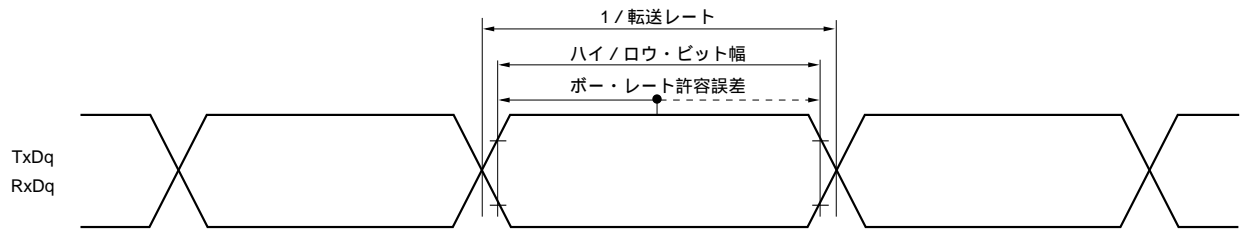
16 MHz (2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で、RxDq端子は通常入力バッファを選択し、TxDq端子は通常出力モードを選択します。

UARTモード接続図 (同電位通信時)



UARTモードのビット幅 (同電位通信時) (参考)



備考1. q : UART番号 ($q = 0$) , g : PIM, POM番号 ($g = 1$)

2. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

(シリアル・クロック選択レジスタ m (SPSm) とシリアル・モード・レジスタ mn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。 m : ユニット番号, n : チャンネル番号 ($mn = 00, 01$))

(2) 同電位通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力)

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	
SCKpサイクル・タイム	t _{KCY1}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	334 ^{注1}		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	500 ^{注1}		ns
SCKpハイ, ロウ・レベル幅	t _{KH1} , t _{KL1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	t _{KCY1} /2-24		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	t _{KCY1} /2-36		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	t _{KCY1} /2-76		ns
Slpセットアップ時間 (対SCKp ↑) ^{注2}	t _{SIK1}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	66		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	113		ns
Slpホールド時間 (対SCKp ↑) ^{注2}	t _{KSI1}	2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	38		ns
SCKp ↓ → SOp出力遅延時間 ^{注3}	t _{KSO1}	C = 30 pF ^{注4} 2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		50	ns

注1. かつ4/f_{MCK}以上に設定してください。

- DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp ↓”となります。
- DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp ↑”となります。
- Cは, SCKp, SOp出力ラインの負荷容量です。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子は通常入力バッファ, SOp端子とSCKp端子は通常出力モードを選択。

備考1. p : CSI番号 (p = 00, 01), m : ユニット番号 (m = 0), n : チャネル番号 (n = 0, 1),
g : PIM, POM番号 (g = 1)

- f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波 (シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。
m : ユニット番号, n : チャネル番号 (mn = 00, 01))

(3) 同電位通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (スレーブ・モード, SCKp…外部クロック入力)

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項 目	略 号	条 件		HS (高速メイン) モード		単 位
				MIN.	MAX.	
SCKpサイクル・タイム ^{注4}	t _{KCY2}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	20 MHz < f _{MCK}	16/f _{MCK}		ns
			f _{MCK} ≤ 20 MHz	12/f _{MCK}		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V	16 MHz < f _{MCK}	16/f _{MCK}		ns
			f _{MCK} ≤ 16 MHz	12/f _{MCK}		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		12/f _{MCK} かつ 1000		ns
SCKpハイ, ロウ・レベル幅	t _{KH2}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		t _{KCY2} /2-14		ns
	t _{KL2}	2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V		t _{KCY2} /2-16		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V		t _{KCY2} /2-36		ns
Slpセットアップ時間 (対SCKp↑) ^{注1}	t _{SIK2}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		1/f _{MCK} +40		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V		1/f _{MCK} +60		ns
Slpホールド時間 (対SCKp↑) ^{注1}	t _{KSI2}	2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		1/f _{MCK} +62		ns
SCKp↓→Sop出力遅延時間 ^{注2}	t _{KSO2}	C = 30 pF ^{注3}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V		2/f _{MCK} +66	ns
			2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V		2/f _{MCK} +66	ns
			2.4 V ≤ EV _{DD} < 2.7 V		2/f _{MCK} +113	ns

注1. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↓”となります。

2. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↑”となります。

3. Cは, SOp出カラインの負荷容量です。

4. SNOOZEモードでの転送レートは, MAX.1 Mbpsです。

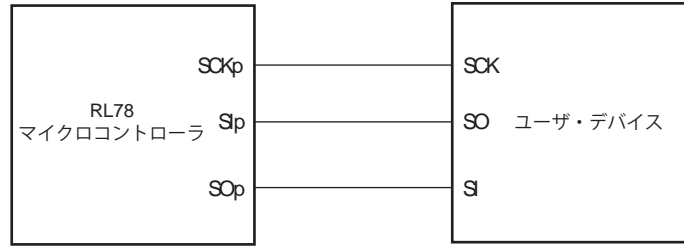
注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子とSCKp端子は通常入力バッファを選択し, SOp端子は通常出力モードを選択します。

備考1. p : CSI番号 (p = 00, 01), m : ユニット番号 (m = 0), n : チャネル番号 (n = 0, 1),
g : PIM, POM番号 (g = 1)

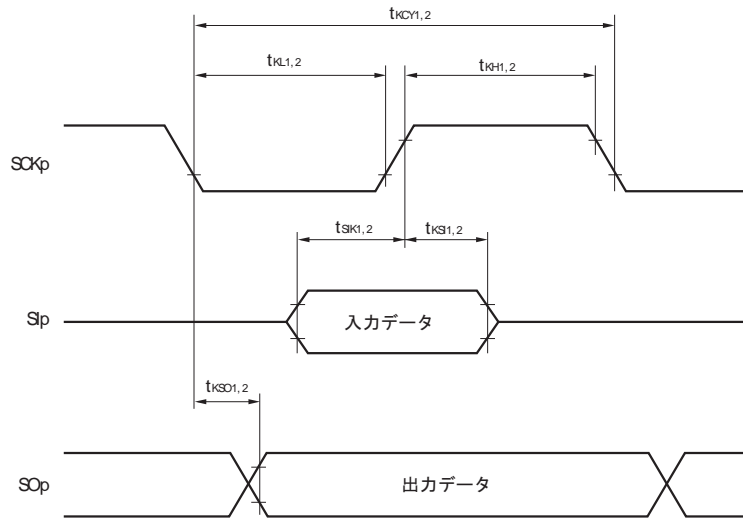
2. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

(シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。m : ユニット番号, n : チャネル番号 (mn = 00, 01))

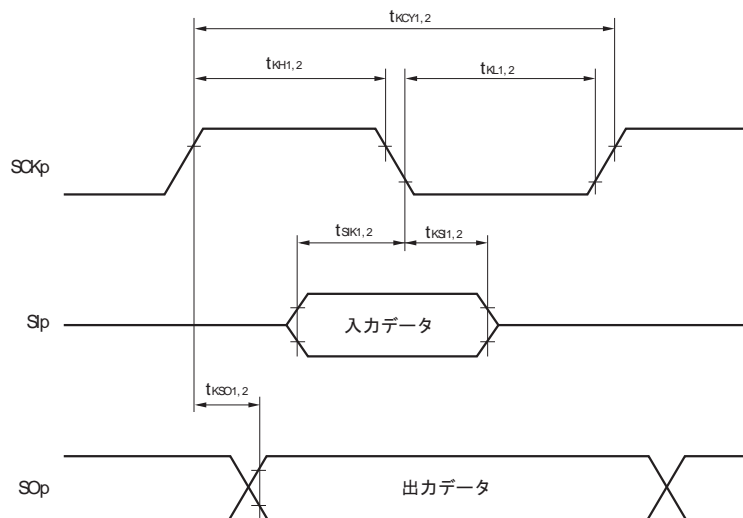
簡易SPI(CSI)モード接続図 (同電位通信時)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング (同電位通信時)
(DAPmn = 0, CKPmn = 0 または DAPmn = 1, CKPmn = 1 のとき)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング (同電位通信時)
(DAPmn = 0, CKPmn = 1 または DAPmn = 1, CKPmn = 0 のとき)



備考 1. p : CSI番号 (p = 00, 01)

2. m : ユニット番号, n : チャネル番号 (mn = 00, 01)

(4) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (UARTモード) (1/2)

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位	
			MIN.	MAX.		
転送レート		受信	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V		f _{MCK} /12 ^{注1}	bps
			最大転送レート理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注2}		2.0	Mbps
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V		f _{MCK} /12 ^{注1}	bps	
			最大転送レート理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注2}		2.0	Mbps
2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V		f _{MCK} /12 ^{注1}	bps			
	最大転送レート理論値 f _{MCK} = f _{CLK} ^{注2}		2.0	Mbps		

注1. SNOOZEモードでの転送レートは、4800 bpsのみとなります。

2. CPU/周辺ハードウェア・クロック (f_{CLK}) の最高動作周波数を次に示します。HS (高速メイン) モード : 24 MHz (2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)16 MHz (2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V)

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で、RxDq端子はTTL入力バッファを選択し、TxDq端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は、TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

備考1. V_b [V]: 通信ライン電圧

2. q: UART番号 (q = 0), g: PIM, POM番号 (g = 1)

3. f_{MCK}: シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

(シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。m: ユニット番号, n: チャンネル番号 (mn = 00, 01))

(4) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (UARTモード) (2/2)

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	
転送レート	送信	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V		注1	bps
		最大転送レート理論値 C _b = 50 pF, R _b = 1.4 kΩ, V _b = 2.7 V		2.0 ^{注2}	Mbps
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V		注3	bps
		最大転送レート理論値 C _b = 50 pF, R _b = 2.7 kΩ, V _b = 2.3 V		1.2 ^{注4}	Mbps
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V		注5	bps
		最大転送レート理論値 C _b = 50 pF, R _b = 5.5 kΩ, V _b = 1.6 V		0.43 ^{注6}	Mbps

注1. f_{MCK}/6または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が、有効な最大転送レートとなります。
4.0 V ≤ EV_{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V_b ≤ 4.0 V時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.2}{V_b})\}} \times 3 \quad [\text{bps}]$$

$$\text{ボー・レート許容誤差 (理論値)} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート} \times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.2}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

2. この値は、一例として、条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注1により算出してください。

3. f_{MCK}/6または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が、有効な最大転送レートとなります。
2.7 V ≤ EV_{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V_b ≤ 2.7 V時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.0}{V_b})\}} \times 3 \quad [\text{bps}]$$

$$\text{ボー・レート許容誤差 (理論値)} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート} \times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{2.0}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

4. この値は、一例として、条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注3により算出してください。

5. f_{MCK}/6または次の計算式で求められる最大転送レートのどちらか小さい方が、有効な最大転送レートとなります。
1.8 V ≤ EV_{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V_b ≤ 2.0 V時の転送レート計算式

$$\text{最大転送レート} = \frac{1}{\{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{1.5}{V_b})\}} \times 3 \quad [\text{bps}]$$

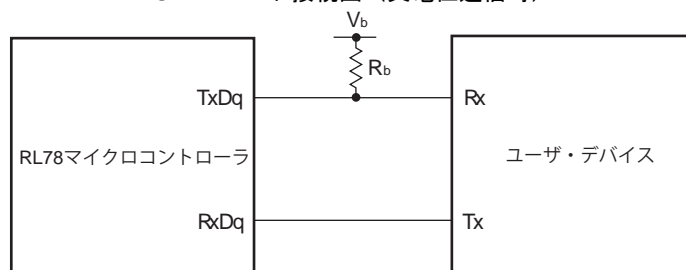
$$\text{ボー・レート許容誤差 (理論値)} = \frac{\frac{1}{\text{転送レート} \times 2} - \{-C_b \times R_b \times \ln(1 - \frac{1.5}{V_b})\}}{(\frac{1}{\text{転送レート}}) \times \text{転送ビット数}} \times 100 \quad [\%]$$

※この値は送信側と受信側の相対差の理論値となります。

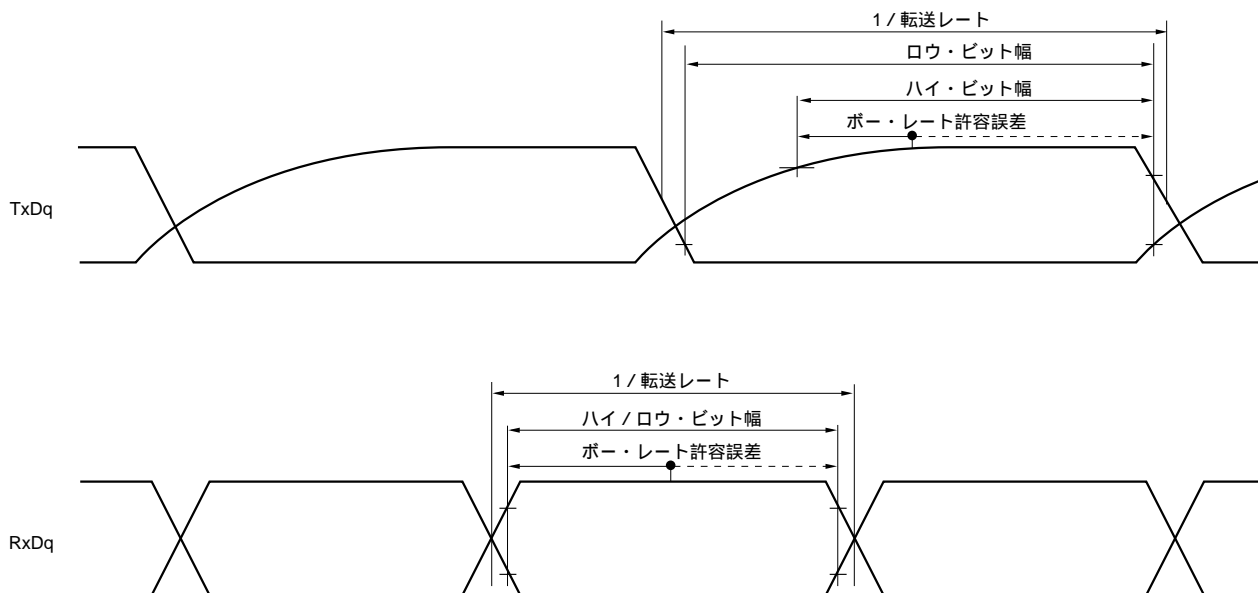
6. この値は、一例として、条件欄に書かれた条件の場合に算出される値を示したものです。お客様の条件での最大転送レートは注5により算出してください。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で、RxDq端子はTTL入力バッファを選択し、TxDq端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は、TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

UARTモード接続図 (異電位通信時)



UARTモードのビット幅 (異電位通信時) (参考)



- 備考1. R_b [Ω] : 通信ライン (TxDq) プルアップ抵抗値, C_b [F] : 通信ライン (TxDq) 負荷容量値, V_b [V] : 通信ライン電圧
 2. q : UART番号 (q = 0, 1), g : PIM, POM番号 (g = 1)
 3. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数
 (シリアル・クロック選択レジスタm (SPSm) とシリアル・モード・レジスタmn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。m : ユニット番号, n : チャネル番号 (mn = 00, 01))

(5) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力) (1/2)

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	
SCKpサイクル・タイム	t _{KCY1}	t _{KCY1} ≥ 4f _{CLK} 4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	600		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	600		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	2300		ns
SCKpハイ・レベル幅	t _{KH1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	t _{KCY1} /2 - 150		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	t _{KCY1} /2 - 340		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	t _{KCY1} /2 - 916		ns
SCKpロウ・レベル幅	t _{KL1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	t _{KCY1} /2 - 24		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	t _{KCY1} /2 - 36		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	t _{KCY1} /2 - 100		ns

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, SIp端子はTTL入力バッファを選択し, SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

(5) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (マスタ・モード, SCKp…内部クロック出力) (2/2)

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	
Slpセットアップ時間 (対SCKp↑) 注1	t _{SIK1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	162		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	354		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	958		ns
Slpホールド時間 (対SCKp↑) 注1	t _{KS11}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	38		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	38		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	38		ns
SCKp ↓ → SOp出力遅延時間注1	t _{KSO1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ		200	ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ		390	ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ		966	ns
Slpセットアップ時間 (対SCKp↓) 注2	t _{SIK1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	88		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	88		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	220		ns
Slpホールド時間 (対SCKp↓) 注2	t _{KS11}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ	38		ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ	38		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ	38		ns
SCKp ↑ → SOp出力遅延時間注2	t _{KSO1}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ		50	ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ		50	ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ		50	ns

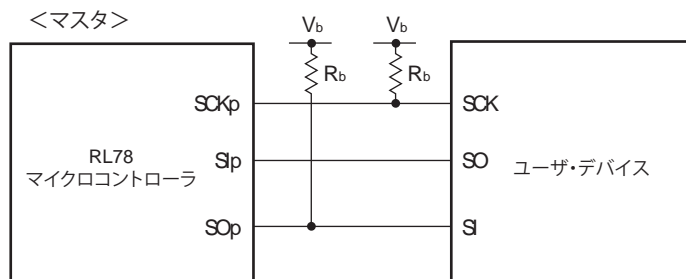
注 1. DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。

2. DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子はTTL入力バッファを選択し, SOp端子とSCKp端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

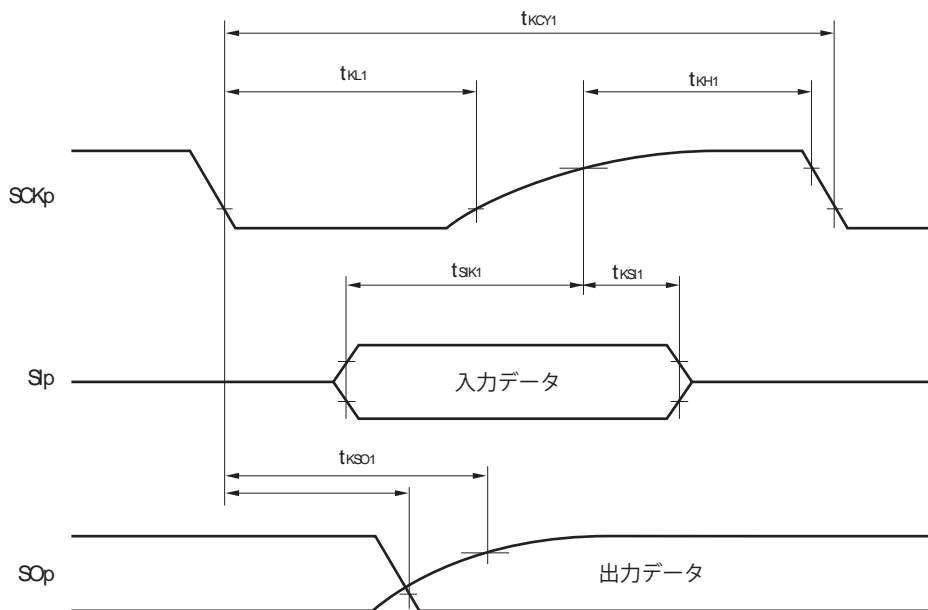
(備考は次ページにあります。)

簡易SPI(CSI)モード接続図 (異電位通信時)

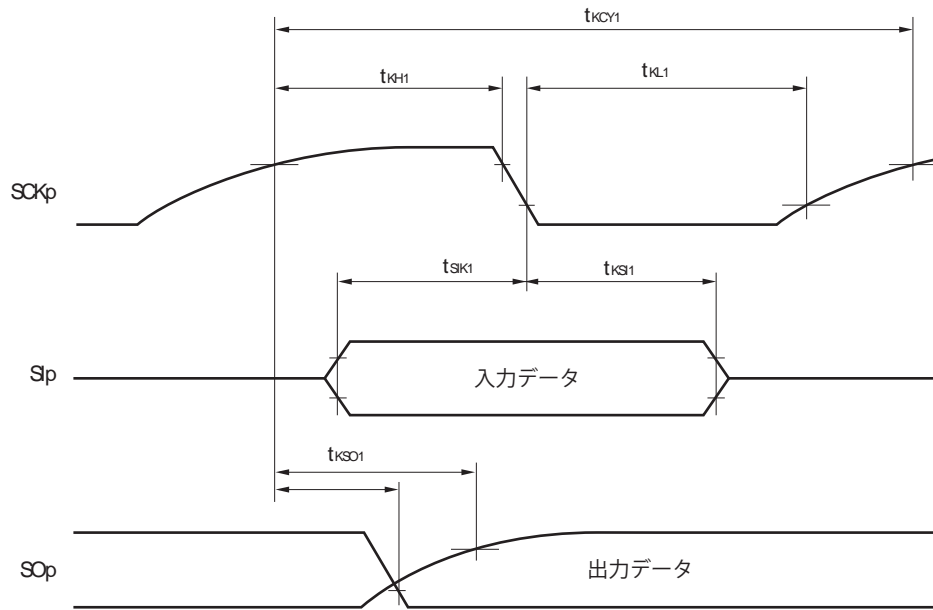


- 備考1. R_b [Ω] : 通信ライン (SCKp, SOp) プルアップ抵抗値, C_b [F] : 通信ライン (SCKp, SOp) 負荷容量値, V_b [V] : 通信ライン電圧
2. p : CSI番号 ($p = 00, 01$), m : ユニット番号 ($m = 0$), n : チャネル番号 ($n = 0, 1$), g : PIM, POM番号 ($g = 1$)
3. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数 (シリアル・クロック選択レジスタ m (SPSm) とシリアル・モード・レジスタ mn (SMRmn) のCKSmnビットで設定する動作クロック。 m : ユニット番号, n : チャネル番号 ($mn = 00, 01$))

簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング : マスタ・モード (異電位通信時)
 (DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング：マスタ・モード（異電位通信時）
 (DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のとき)



備考 p : CSI番号 (p = 00, 01) , m : ユニット番号 (m = 0) ,
 n : チャネル番号 (n = 0, 1) , g : PIM, POM番号 (g = 1)

(6) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (簡易SPI(CSI)モード) (スレーブ・モード, SCKp…外部ク
ロック入力)

(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	
SCKpサイクル・タイム ^{注1}	t _{KCY2}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	20 MHz < f _{MCK} ≤ 24 MHz	24/f _{MCK}	ns
			8 MHz < f _{MCK} ≤ 20 MHz	20/f _{MCK}	ns
			4 MHz < f _{MCK} ≤ 8 MHz	16/f _{MCK}	ns
			f _{MCK} ≤ 4 MHz	12/f _{MCK}	ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	20 MHz < f _{MCK} ≤ 24 MHz	32/f _{MCK}	ns
			16 MHz < f _{MCK} ≤ 20 MHz	28/f _{MCK}	ns
			8 MHz < f _{MCK} ≤ 16 MHz	24/f _{MCK}	ns
			4 MHz < f _{MCK} ≤ 8 MHz	16/f _{MCK}	ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	20 MHz < f _{MCK} ≤ 24 MHz	72/f _{MCK}	ns
			16 MHz < f _{MCK} ≤ 20 MHz	64/f _{MCK}	ns
			8 MHz < f _{MCK} ≤ 16 MHz	52/f _{MCK}	ns
			4 MHz < f _{MCK} ≤ 8 MHz	32/f _{MCK}	ns
	f _{MCK} ≤ 4 MHz	20/f _{MCK}	ns		
SCKpハイ, ロウ・レベル幅	t _{KH2} ,	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	t _{KCY2} /2-24	ns	
	t _{KL2}	2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	t _{KCY2} /2-36	ns	
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	t _{KCY2} /2-100	ns	
Slpセットアップ時間 (対SCKp↑) ^{注2}	t _{SIK2}	4.0 V ≤ EV _{DD} < 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	1/f _{MCK} +40	ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	1/f _{MCK} +40	ns	
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	1/f _{MCK} +60	ns	
Slpホールド時間 (対SCKp↑) ^{注2}	t _{SI2}	4.0 V ≤ EV _{DD} < 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V	1/f _{MCK} +62	ns	
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V	1/f _{MCK} +62	ns	
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V	1/f _{MCK} +62	ns	
SCKp↓→Sop出力遅延時間 ^{注3}	t _{KSO2}	4.0 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V, 2.7 V ≤ V _b ≤ 4.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 1.4 kΩ		2/f _{MCK} +240	ns
		2.7 V ≤ EV _{DD} < 4.0 V, 2.3 V ≤ V _b ≤ 2.7 V, C _b = 30 pF, R _b = 2.7 kΩ		2/f _{MCK} +428	ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} < 3.3 V, 1.6 V ≤ V _b ≤ 2.0 V, C _b = 30 pF, R _b = 5.5 kΩ		2/f _{MCK} +1146	ns

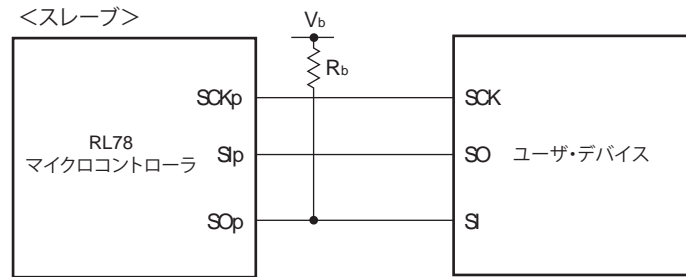
注1. SNOOZEモードでの転送レートは, MAX. 1 Mbps

- DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↓”となります。
- DAPmn = 0, CKPmn = 0またはDAPmn = 1, CKPmn = 1のとき。DAPmn = 0, CKPmn = 1またはDAPmn = 1, CKPmn = 0のときは“対SCKp↑”となります。

注意 ポート入力モード・レジスタg (PIMg) とポート出力モード・レジスタg (POMg) で, Slp端子とSCKp端子はTTL入力バッファを選択し, Sop端子はN-chオープン・ドレイン出力 (V_{DD}耐圧 (32ピン~52ピン製品) / EV_{DD}耐圧 (64ピン製品)) モードを選択します。なおV_{IH}, V_{IL}は, TTL入力バッファ選択時のDC特性を参照してください。

(備考は次ページにあります。)

簡易SPI(CSI)モード接続図 (異電位通信時)



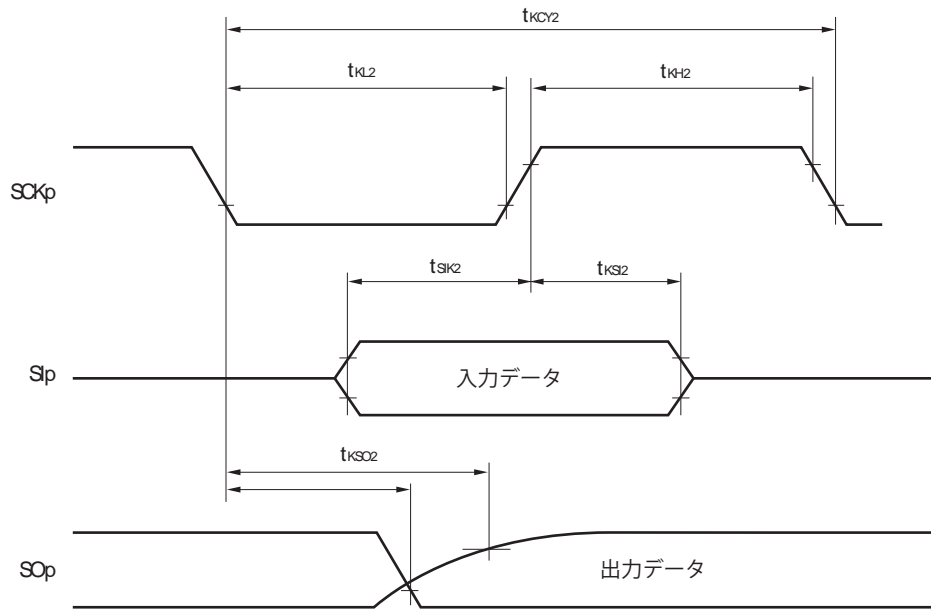
備考1. R_b [Ω] : 通信ライン (SO_p) プルアップ抵抗値, C_b [F] : 通信ライン (SO_p) 負荷容量値,
V_b [V] : 通信ライン電圧

2. p : CSI番号 (p = 00, 01) , m : ユニット番号 (0) , n : チャネル番号 (n = 0, 1) ,
g : PIM, POM番号 (g = 1)

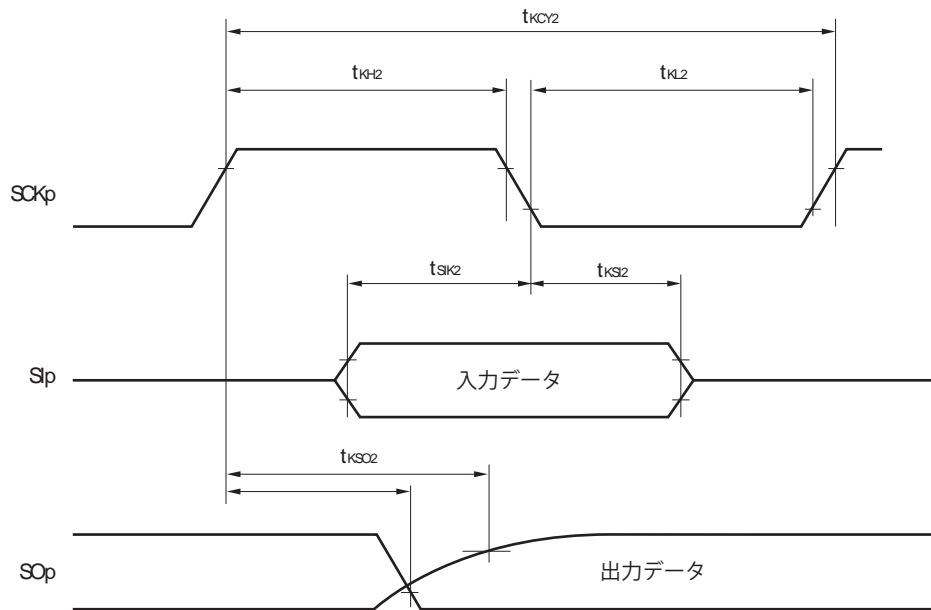
3. f_{MCK} : シリアル・アレイ・ユニットの動作クロック周波数

シリアル・クロック選択レジスタm (SPS_m) とシリアル・モード・レジスタmn (SMR_{mn}) のCKS_{mn} ビットで設定する動作クロック。m : ユニット番号, n : チャネル番号 (mn = 00, 01))

簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング：スレーブ・モード（異電位通信時）
 (DAPmn = 0, CKPmn = 0 または DAPmn = 1, CKPmn = 1 のとき)



簡易SPI(CSI)モード・シリアル転送タイミング：スレーブ・モード（異電位通信時）
 (DAPmn = 0, CKPmn = 1 または DAPmn = 1, CKPmn = 0 のとき)



備考 p : CSI番号 (p = 00, 01) , m : ユニット番号 (m = 0) ,
 n : チャネル番号 (n = 0, 1) , g : PIM, POM番号 (g = 1)

31.5.2 シリアル・インタフェースIICA

(1) I²C 標準モード(T_A = -40~+105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位	
			MIN.	MAX.		
SCLA0クロック周波数	f _{SCL}	標準モード : f _{CLK} ≥ 1 MHz	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	100	kHz
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	100		
リスタート・コンディションの セットアップ時間	t _{SU : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.7			μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.7			
ホールド時間 ^{注1}	t _{HD : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.0			μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.0			
SCLA0 = "L" のホールド・タイム	t _{LOW}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.7			μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.7			
SCLA0 = "H" のホールド・タイム	t _{HIGH}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.0			μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.0			
データ・セットアップ時間 (受信時)	t _{SU : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	250			ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	250			
データ・ホールド時間 (送信時) ^{注2}	t _{HD : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	3.45		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	3.45		
ストップ・コンディションの セットアップ時間	t _{SU : STO}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.0			μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.0			
パス・フリー時間	t _{BUF}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.7			μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	4.7			

注 1. スタート・コンディション, リスタート・コンディション時は, この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。

2. t_{HD : DAT}の最大値 (MAX.) は, 通常転送時の数値であり, ACK (アクノリッジ) タイミングでは, クロック・ストレッチがかかります。

備考 各モードにおけるC_b (通信ライン容量) のMAX.値と, そのときのR_b (通信ライン・プルアップ抵抗値) の値は次のとおりです。

標準モード : C_b = 400 pF, R_b = 2.7 kΩ

(2) I²C ファースト・モード(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	HS (高速メイン) モード		単位
			MIN.	MAX.	
SCLA0クロック周波数	f _{SCL}	ファースト・モード : 2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	400	kHz
		f _{CLK} ≥ 3.5 MHz 2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	400	
リスタート・コンディションの セットアップ時間	t _{SU : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		
ホールド時間 ^{注1}	t _{HD : STA}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		
SCLA0 = "L" のホールド・タイム	t _{LOW}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		
SCLA0 = "H" のホールド・タイム	t _{HIGH}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		
データ・セットアップ時間 (受信時)	t _{SU : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	100		ns
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	100		
データ・ホールド時間 (送信時) ^{注2}	t _{HD : DAT}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	0.9	μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0	0.9	
ストップ・コンディションの セットアップ時間	t _{SU : STO}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	0.6		
パス・フリー時間	t _{BUF}	2.7 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		μs
		2.4 V ≤ EV _{DD} ≤ 5.5 V	1.3		

注1. スタート・コンディション, リスタート・コンディション時は, この期間のあと最初のクロック・パルスが生成されます。

2. t_{HD : DAT}の最大値 (MAX.) は, 通常転送時の数値であり, ACK (アクノリッジ) タイミングでは, クロック・ストレッチがかかります。

備考 各モードにおけるC_b (通信ライン容量) のMAX.値と, そのときのR_b (通信ライン・プルアップ抵抗値) の値は次のとおりです。

ファースト・モード : C_b = 320 pF, R_b = 1.1 kΩ

31.6 アナログ特性

31.6.1 A/Dコンバータ特性

A/Dコンバータ特性の区分

入力チャネル	基準電圧 基準電圧 (+) = AV _{REFP} 基準電圧 (-) = AV _{REFM}	基準電圧 (+) = V _{DD} 基準電圧 (-) = V _{SS}	基準電圧 (+) = V _{BGR} 基準電圧 (-) = AV _{REFM}
ANI0-ANI1	-	31.6.1 (3) 参照	31.6.1 (4) 参照
ANI16-ANI23	31.6.1 (2) 参照		
内部基準電圧 温度センサ出力電圧	31.6.1 (1) 参照		-

(1) 基準電圧 (+) = AV_{REFP}/ANI0 (ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 1), 基準電圧 (-) = AV_{REFM}/ANI1 (ADREFM = 1) 選択時, 変換対象: 内部基準電圧, 温度センサ出力電圧

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, 2.4 V ≤ AV_{REFP} ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V, 基準電圧 (+) = AV_{REFP}, 基準電圧 (-) = AV_{REFM} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
分解能	RES		8		10	bit
総合誤差 ^{注1}	AINL	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	2.4 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V	1.2	±3.5	LSB
変換時間	t _{CONV}	10ビット分解能 変換対象: 内部基準電圧,	3.6 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V,	2.375	39	μs
		温度センサ出力電圧	2.7 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V,	3.5625	39	μs
		(HS (高速メイン) モード)	2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V,	17	39	μs
ゼロスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{ZS}	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±0.25	%FSR
フルスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{FS}	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±0.25	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±2.5	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	10ビット分解能 AV _{REFP} = V _{DD} ^{注3}	1.8 V ≤ AV _{REFP} ≤ 5.5 V		±1.5	LSB
アナログ入力電圧	V _{AIN}	内部基準電圧 (2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, HS (高速メイン) モード)			V _{BGR} ^{注4}	V
		温度センサ出力電圧 (2.4 V ≤ V _{DD} ≤ 5.5 V, HS (高速メイン) モード)			V _{TMP25} ^{注4}	V

注1. 量子化誤差 (±1/2 LSB) を含みません。

2. フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。

3. AV_{REFP} < V_{DD}の場合, MAX.値は次のようになります。

総合誤差 : AV_{REFP} = V_{DD}のMAX.値に±1.0 LSBを加算してください

ゼロスケール誤差/フルスケール誤差 : AV_{REFP} = V_{DD}のMAX.値に±0.05 %FSRを加算してください

積分直線性誤差/微分直線性誤差 : AV_{REFP} = V_{DD}のMAX.値に±0.5 LSBを加算してください

4. 31.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性を参照してください。

(2) 基準電圧 (+) = $AV_{REFP}/ANI0$ ($ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 1$), 基準電圧 (-) = $AV_{REFM}/ANI1$ ($ADREFM = 1$) 選択時, 変換対象 : ANI16-ANI23

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $2.4\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$, 基準電圧 (+) = AV_{REFP} , 基準電圧 (-) = $AV_{REFM} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
分解能	RES			8		10	bit
総合誤差 ^{注1}	AINL	10ビット分解能 $AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$2.4\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$		1.2	± 5.0	LSB
変換時間	t_{CONV}	10ビット分解能 $AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$3.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	2.125		39	μs
			$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	3.1875		39	μs
			$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	17		39	μs
ゼロスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{ZS}	10ビット分解能 $AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$2.4\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.35	%FSR
フルスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{FS}	10ビット分解能 $AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$2.4\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.35	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	10ビット分解能 $AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$2.4\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 3.5	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	10ビット分解能 $AV_{REFP} = EV_{DD} = V_{DD}$ ^{注3}	$2.4\text{ V} \leq AV_{REFP} \leq 5.5\text{ V}$			± 2.0	LSB
アナログ入力電圧	V _{AIN}	ANI16-ANI23		0		AV_{REFP} かつ EV_{DD}	V

注1. 量子化誤差 ($\pm 1/2$ LSB) を含みません。

2. フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。

3. $AV_{REFP} < EV_{DD} = V_{DD}$ の場合, MAX.値は次のようになります。

総合誤差 : $AV_{REFP} = V_{DD}$ のMAX.値に ± 4.0 LSBを加算してください

ゼロスケール誤差/フルスケール誤差 : $AV_{REFP} = V_{DD}$ のMAX.値に ± 0.20 %FSRを加算してください

積分直線性誤差/微分直線性誤差 : $AV_{REFP} = V_{DD}$ のMAX.値に ± 2.0 LSBを加算してください

- (3) 基準電圧 (+) = V_{DD} (ADREFP1 = 0, ADREFP0 = 0), 基準電圧 (-) = V_{SS} (ADREFM = 0) 選択時,
変換対象 : ANI0, ANI1, ANI16-ANI23, 内部基準電圧, 温度センサ出力電圧

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$, 基準電圧 (+) = V_{DD} , 基準電圧 (-) = V_{SS})

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
分解能	RES			8		10	bit
総合誤差 ^{注1}	AINL	10ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$		1.2	± 7.0	LSB
変換時間	t_{CONV}	10ビット分解能	$3.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	2.125		39	μs
			$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	3.1875		39	μs
			$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	17		39	μs
		10ビット分解能 変換対象 : 内部基準電圧, 温度センサ出力電圧 HS (高速メイン) モード	$3.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	2.375		39	μs
			$2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	3.5625		39	μs
			$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	17		39	μs
ゼロスケール誤差 ^{注1, 2}	EZS	10ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.60	%FSR
フルスケール誤差 ^{注1, 2}	EFS	10ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.60	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	10ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 4.0	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	10ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 2.0	LSB
アナログ入力電圧	V_{AIN}	ANI0-ANI1		0		V_{DD}	V
		ANI16-ANI23		0		EV_{DD}	V
		内部基準電圧 ($2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, HS (高速メイン) モード)		V_{BGR} ^{注3}			V
		温度センサ出力電圧 ($2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, HS (高速メイン) モード)		V_{TMPS25} ^{注3}			V

注1. 量子化誤差 ($\pm 1/2$ LSB) を含みません。

2. フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。

3. 31.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性を参照してください。

- (4) 基準電圧 (+) = 内部基準電圧 (ADREFP1 = 1, ADREFP0 = 0), 基準電圧 (-) = $AV_{REFM}/ANI1$ (ADREFM = 1) 選択時, 変換対象 : ANI0, ANI16-ANI23

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$, 基準電圧 (+) = V_{BGR} ^{注3}, 基準電圧 (-) = AV_{REFM} ^{注4} = 0 V, HS (高速メイン) モード)

項目	略号	条件		MIN.	TYP.	MAX.	単位
分解能	RES			8			bit
変換時間	t _{CONV}	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	17		39	μs
ゼロスケール誤差 ^{注1, 2}	E _{ZS}	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 0.60	%FSR
積分直線性誤差 ^{注1}	ILE	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 2.0	LSB
微分直線性誤差 ^{注1}	DLE	8ビット分解能	$2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$			± 1.0	LSB
アナログ入力電圧	V _{AIN}			0		V_{BGR} ^{注3}	V

注1. 量子化誤差 ($\pm 1/2$ LSB) を含みません。

- フルスケール値に対する比率 (%FSR) で表します。
- 31.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性を参照してください。
- 基準電圧 (-) = V_{SS} の場合, MAX.値は次のようになります。

ゼロスケール誤差 : 基準電圧 (-) = AV_{REFM} 時のMAX.値に $\pm 0.35\%$ FSR を加算してください
積分直線性誤差 : 基準電圧 (-) = AV_{REFM} 時のMAX.値に ± 0.5 LSB を加算してください
微分直線性誤差 : 基準電圧 (-) = AV_{REFM} 時のMAX.値に ± 0.2 LSB を加算してください

31.6.2 温度センサ／内部基準電圧特性

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$, $\text{V}_{\text{SS}} = \text{EV}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$, HS (高速メイン) モード)

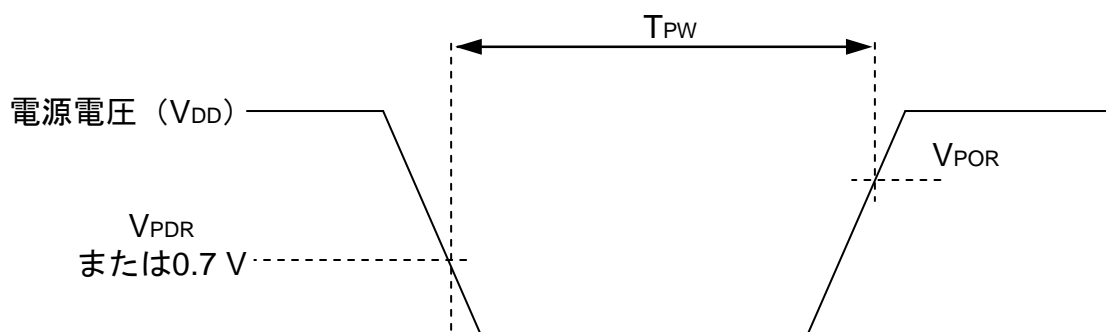
項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
温度センサ出力電圧	$V_{\text{TMP}S25}$	ADSレジスタ = 80H設定, $T_A = +25^\circ\text{C}$		1.05		V
内部基準電圧	V_{BGR}	ADSレジスタ = 81H設定	1.38	1.45	1.5	V
温度係数	$F_{\text{VTMP}S}$	温度センサ電圧の温度依存		-3.6		$\text{mV}/^\circ\text{C}$
動作安定待ち時間	t_{AMP}		5			μs

31.6.3 POR回路特性

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $\text{V}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
検出電圧	V_{POR}	電源立ち上がり時	1.45	1.51	1.57	V
	V_{PDR}	電源立ち下がり時	1.44	1.50	1.56	V
最小パルス幅 ^注	T_{PW}		300			μs

注 V_{DD} が V_{PDR} を下回った場合に、PORによるリセット動作に必要な時間です。またSTOPモード時および、クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) のビット0 (HIOSTOP) とビット7 (MSTOP) の設定によりメイン・システム・クロック (f_{MAIN}) を停止時は、 V_{DD} が0.7 Vを下回ってから、 V_{POR} を上回るまでのPORによるリセット動作に必要な時間です。



31.6.4 LVD回路特性

(T_A = -40~+105 °C, V_{PDR} ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
検出電圧	電源電圧レベル	V _{LVD0}	電源立ち上がり時	3.90	4.06	4.22	V
			電源立ち下がり時	3.83	3.98	4.13	V
	V _{LVD1}	電源立ち上がり時	3.60	3.75	3.90	V	
		電源立ち下がり時	3.53	3.67	3.81	V	
	V _{LVD2}	電源立ち上がり時	3.01	3.13	3.25	V	
		電源立ち下がり時	2.94	3.06	3.18	V	
	V _{LVD3}	電源立ち上がり時	2.90	3.02	3.14	V	
		電源立ち下がり時	2.85	2.96	3.07	V	
	V _{LVD4}	電源立ち上がり時	2.81	2.92	3.03	V	
		電源立ち下がり時	2.75	2.86	2.97	V	
	V _{LVD5}	電源立ち上がり時	2.70	2.81	2.92	V	
		電源立ち下がり時	2.64	2.75	2.86	V	
	V _{LVD6}	電源立ち上がり時	2.61	2.71	2.81	V	
		電源立ち下がり時	2.55	2.65	2.75	V	
V _{LVD7}	電源立ち上がり時	2.51	2.61	2.71	V		
	電源立ち下がり時	2.45	2.55	2.65	V		
最小パルス幅	t _{LW}		300			μs	
検出遅延	t _{LD}				300	μs	

割り込み&リセット・モードのLVD検出電圧

(T_A = -40~+105 °C, V_{PDR} ≤ EV_{DD} = V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = EV_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
割り込み& リセット・モード	V _{LVDD0}	V _{POC2} , V _{POC1} , V _{POC0} = 0, 1, 1, 立ち下がりリセット電圧	2.64	2.75	2.86	V	
	V _{LVDD1}	LVIS1, LVIS0 = 1, 0	立ち上がりリセット解除電圧	2.81	2.92	3.03	V
			立ち下がり割り込み電圧	2.75	2.86	2.97	V
	V _{LVDD2}	LVIS1, LVIS0 = 0, 1	立ち上がりリセット解除電圧	2.90	3.02	3.14	V
			立ち下がり割り込み電圧	2.85	2.96	3.07	V
	V _{LVDD3}	LVIS1, LVIS0 = 0, 0	立ち上がりリセット解除電圧	3.90	4.06	4.22	V
立ち下がり割り込み電圧			3.83	3.98	4.13	V	

31.6.5 電源電圧立ち上げ時間

(T_A = -40~+105 °C, V_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電圧立ち上がり傾き	S _{VDD}				54	V/ms

注意 V_{DD}が31.4 AC特性に示す動作電圧範囲内に達するまで、LVD回路が外部リセットで内部リセット状態を保ってください。

31.7 LCD特性

31.7.1 外部抵抗分割方式

(1) スタティック・モード

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $V_{L4}(\text{MIN.}) \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
LCD駆動電圧	V_{L4}		2.0		V_{DD}	V

注 2.4V以上であること。

(2) 1/2バイアス, 1/4バイアス

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $V_{L4}(\text{MIN.}) \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
LCD駆動電圧	V_{L4}		2.7		V_{DD}	V

(3) 1/3バイアス

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $V_{L4}(\text{MIN.}) \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
LCD駆動電圧	V_{L4}		2.5		V_{DD}	V

31.7.2 内部昇圧方式

(1) 1/3バイアス

(T_A = -40~+105 °C, 2.4V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
LCD出力電圧可変範囲	V _{L1}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	VLCD = 04H	0.90	1.00	1.08	V
			VLCD = 05H	0.95	1.05	1.13	V
			VLCD = 06H	1.00	1.10	1.18	V
			VLCD = 07H	1.05	1.15	1.23	V
			VLCD = 08H	1.10	1.20	1.28	V
			VLCD = 09H	1.15	1.25	1.33	V
			VLCD = 0AH	1.20	1.30	1.38	V
			VLCD = 0BH	1.25	1.35	1.43	V
			VLCD = 0CH	1.30	1.40	1.48	V
			VLCD = 0DH	1.35	1.45	1.53	V
			VLCD = 0EH	1.40	1.50	1.58	V
			VLCD = 0FH	1.45	1.55	1.63	V
			VLCD = 10H	1.50	1.60	1.68	V
			VLCD = 11H	1.55	1.65	1.73	V
VLCD = 12H	1.60	1.70	1.78	V			
VLCD = 13H	1.65	1.75	1.83	V			
ダブル出力電圧	V _{L2}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	2 V _{L1} -0.1	2 V _{L1}	2 V _{L1}	V	
トリプル出力電圧	V _{L4}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	3 V _{L1} -0.15	3 V _{L1}	3 V _{L1}	V	
基準電圧セットアップ時間 ^{注2}	t _{WAIT1}		5			ms	
昇圧ウェイト時間 ^{注3}	t _{WAIT2}	C1-C4 ^{注1} = 0.47 μF	500			ms	

注1. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1 : CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2 : V_{L1}-GND間に接続するコンデンサです。

C3 : V_{L2}-GND間に接続するコンデンサです。

C4 : V_{L4}-GND間に接続するコンデンサです。

C1 = C2 = C3 = C4 = 0.47 μF ± 30%

2. VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0ビット = 01B）にしてから）、昇圧を開始する（VLCON = 1）までに必要なウェイト時間です。

3. 昇圧を開始してから（VLCON = 1）、表示が可能になる（LCDON = 1）までのウェイト時間です。

(2) 1/4バイアス

(TA = -40 ~ +105 °C, 2.4V ≤ VDD ≤ 5.5 V, VSS = 0 V)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位	
LCD出力電圧可変範囲	VL1 ^{注4}	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	VLCD = 04H	0.90	1.00	1.08	V
			VLCD = 05H	0.95	1.05	1.13	V
			VLCD = 06H	1.00	1.10	1.18	V
			VLCD = 07H	1.05	1.15	1.23	V
			VLCD = 08H	1.10	1.20	1.28	V
			VLCD = 09H	1.15	1.25	1.33	V
			VLCD = 0AH	1.20	1.30	1.38	V
			VLCD = 0BH	1.25	1.35	1.43	V
			VLCD = 0CH	1.30	1.40	1.48	V
			VLCD = 0DH	1.35	1.45	1.53	V
			VLCD = 0EH	1.40	1.50	1.58	V
			VLCD = 0FH	1.45	1.55	1.63	V
			VLCD = 10H	1.50	1.60	1.68	V
			VLCD = 11H	1.55	1.65	1.73	V
VLCD = 12H	1.60	1.70	1.78	V			
VLCD = 13H	1.65	1.75	1.83	V			
ダブル出力電圧	VL2	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	2 VL1 -0.08	2 VL1	2 VL1	V	
トリプル出力電圧	VL3	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	3 VL1 -0.12	3 VL1	3 VL1	V	
クアドラプル出力電圧	VL4 ^{注4}	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	4 VL1 -0.16	4 VL1	4 VL1	V	
基準電圧セットアップ時間 ^{注2}	tVWAIT1		5			ms	
昇圧ウェイト時間 ^{注3}	tVWAIT2	C1-C5 ^{注1} = 0.47 μF	500			ms	

注1. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1 : CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2 : VL1-GND間に接続するコンデンサです。

C3 : VL2-GND間に接続するコンデンサです。

C4 : VL3-GND間に接続するコンデンサです。

C5 : VL4-GND間に接続するコンデンサです。

$$C1 = C2 = C3 = C4 = C5 = 0.47 \mu\text{F} \pm 30\%$$

- VLCDレジスタで基準電圧を設定してから（基準電圧をデフォルト値で使用する場合は内部昇圧方式に選択（LCDM0レジスタのMDSET1, MDSET0 = 01B）してから）、昇圧を開始する（VLCON = 1）までに必要なウェイト時間です。
- 昇圧を開始してから（VLCON = 1）、表示が可能になる（LCDON = 1）までのウェイト時間です。
- VL4が5.5V以下になるように設定してください。

31.7.3 容量分割方式

1/3バイアス

(T_A = -40 ~ +105 °C, 2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 5.5 V, V_{SS} = 0 V)

項 目	略 号	条 件	MIN.	TYP.	MAX.	単 位
V _{L4} 電圧	V _{L4}	C1-C4 = 0.47 μF ^{注2}		V _{DD}		V
V _{L2} 電圧	V _{L2}	C1-C4 = 0.47 μF ^{注2}	2/3 V _{L4} -0.1	2/3 V _{L4}	2/3 V _{L4} +0.1	V
V _{L1} 電圧	V _{L1}	C1-C4 = 0.47 μF ^{注2}	1/3 V _{L4} -0.1	1/3 V _{L4}	1/3 V _{L4} +0.1	V
容量分割ウェイト時間 ^{注1}	t _{WAIT}		100			ms

注1. 降圧を開始してから (VLCON = 1), 表示が可能になる (LCDON = 1) までのウェイト時間です。

2. LCDを駆動用電圧端子間に接続するコンデンサです。

C1 : CAPH-CAPL間に接続するコンデンサです。

C2 : V_{L1}-GND間に接続するコンデンサです。

C3 : V_{L2}-GND間に接続するコンデンサです。

C4 : V_{L4}-GND間に接続するコンデンサです。

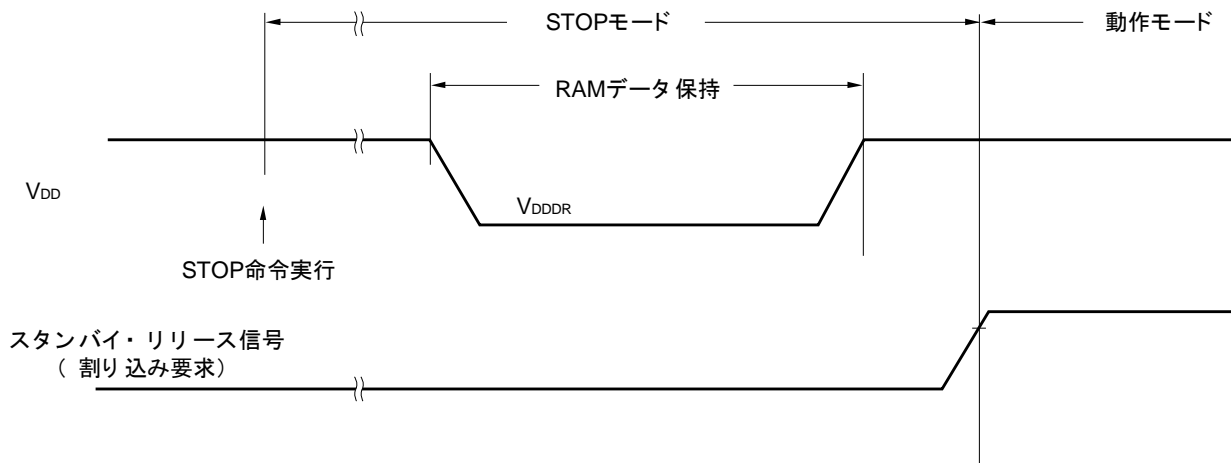
C1 = C2 = C3 = C4 = 0.47 μF ± 30%

31.8 RAMデータ保持特性

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $V_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
データ保持電源電圧	V_{DDDR}		1.44 ^注		5.5	V

注 POR検出電圧に依存します。電圧降下時、PORリセットがかかるまではRAMのデータを保持しますが、PORリセットがかかった場合のRAMのデータは保持されません。



31.9 フラッシュ・メモリ・プログラミング特性

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
システム・クロック周波数	f_{CLK}	$1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$	1		24	MHz
コード・フラッシュの書き換え回数 ^{注1, 2, 3}	C_{enwr}	保持年数 : 20年 $T_A = 85^\circ\text{C}$ ^{注4}	1,000			回
データ・フラッシュの書き換え回数 ^{注1, 2, 3}		保持年数 : 1年 $T_A = 25^\circ\text{C}$ ^{注4}		1,000,000		
		保持年数 : 5年 $T_A = 85^\circ\text{C}$ ^{注4}	100,000			
		保持年数 : 20年 $T_A = 85^\circ\text{C}$ ^{注4}	10,000			

- 注 1. 消去1回+消去後の書き込み1回で書き換え回数1回となります。
保持年数は、1度書き換えた後、次に書き換えを行うまでの期間です。
2. フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時および当社提供のライブラリを使用時
3. この特性はフラッシュ・メモリの特性を示すものであり、当社の信頼性試験から得られた結果です。
4. 保持の平均温度です。

31.10 専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信 (UART)

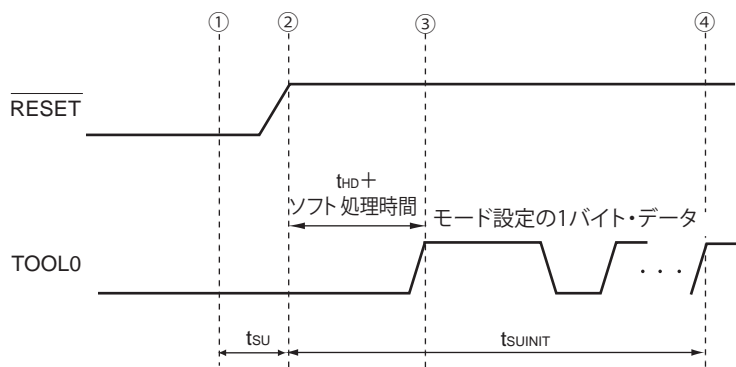
($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq EV_{DD} = V_{DD} \leq 5.5\text{ V}$, $V_{SS} = EV_{SS} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
転送レート		フラッシュ・メモリのプログラミング時	115,200		1,000,000	bps

31.11 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード 引き込み時タイミング

($T_A = -40 \sim +105^\circ\text{C}$, $2.4\text{ V} \leq \text{EV}_{\text{DD}} = \text{V}_{\text{DD}} \leq 5.5\text{ V}$, $\text{V}_{\text{SS}} = \text{EV}_{\text{SS}} = 0\text{ V}$)

項目	略号	条件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
外部リセット解除から初期設定通信を完了する時間	tsuINIT	外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除			100	ms
TOOL0端子をロウ・レベルにしてから、外部リセットを解除するまでの時間	tsu	外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除	10			μs
外部リセット解除から、TOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間 (フラッシュ・ファーム処理時間を除く)	tHD	外部リセット解除前にPOR, LVDリセットは解除	1			ms



- ① TOOL0端子にロウ・レベルを入力
- ② 外部リセットを解除 (その前にPOR, LVDリセットが解除されていること)
- ③ TOOL0端子のロウ・レベルを解除
- ④ UART受信によるボー・レート設定完了

備考 tsuINIT : この区間では、リセット解除から100 ms以内に初期設定通信を完了してください。

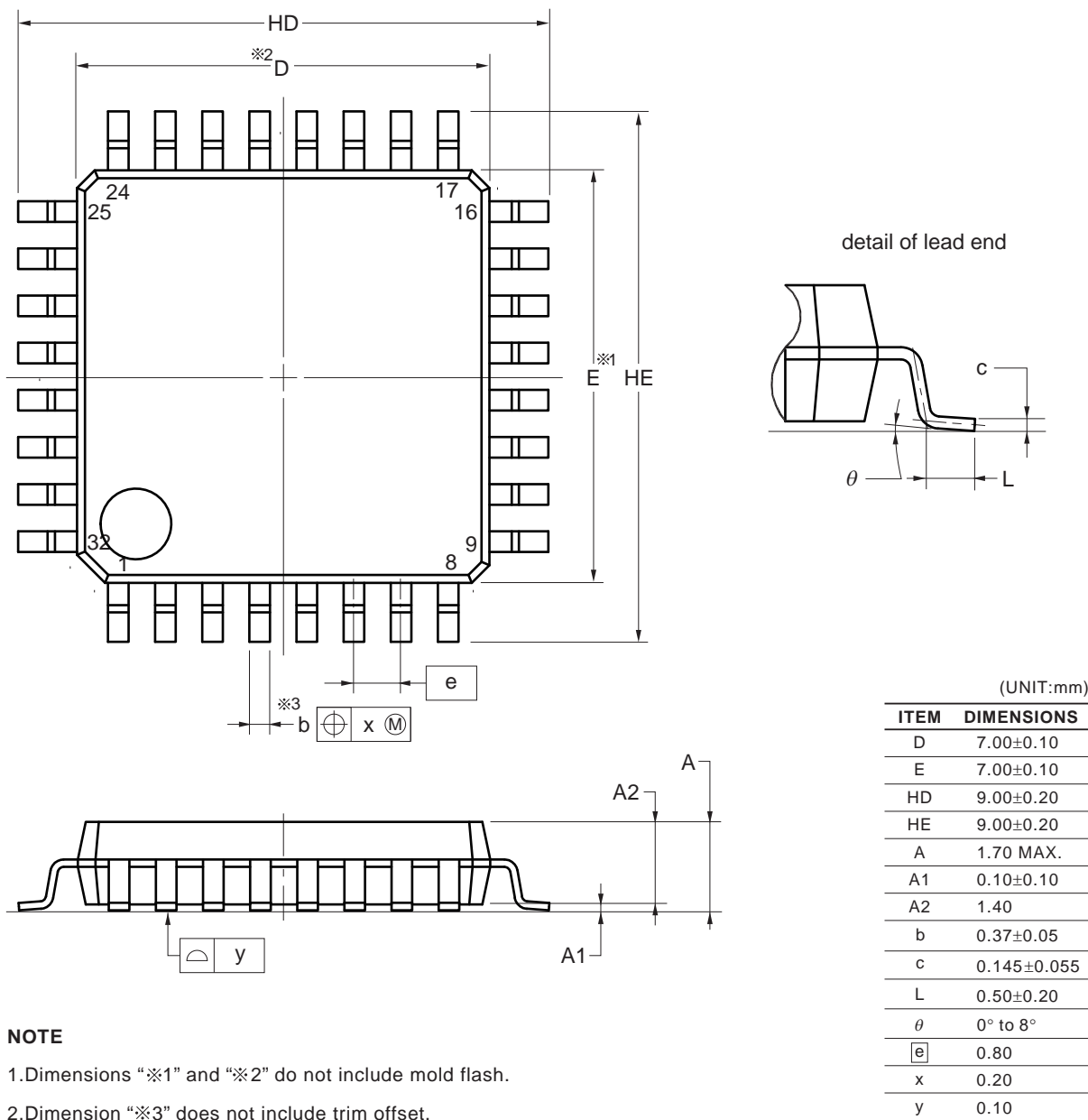
tsu : TOOL0端子をロウ・レベルにしてから、外部リセットを解除するまでの時間

tHD : 外部リセット解除から、TOOL0端子をロウ・レベルに保持する時間 (フラッシュ・ファーム処理時間を除く)

第32章 外形図

32.1 32ピン製品

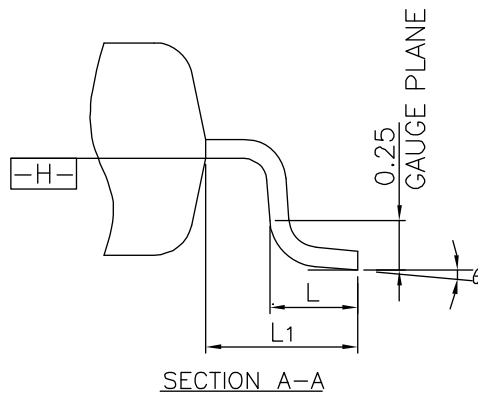
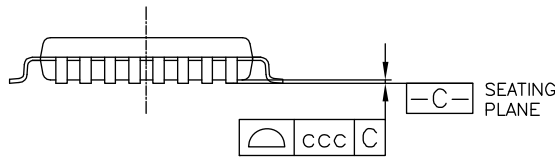
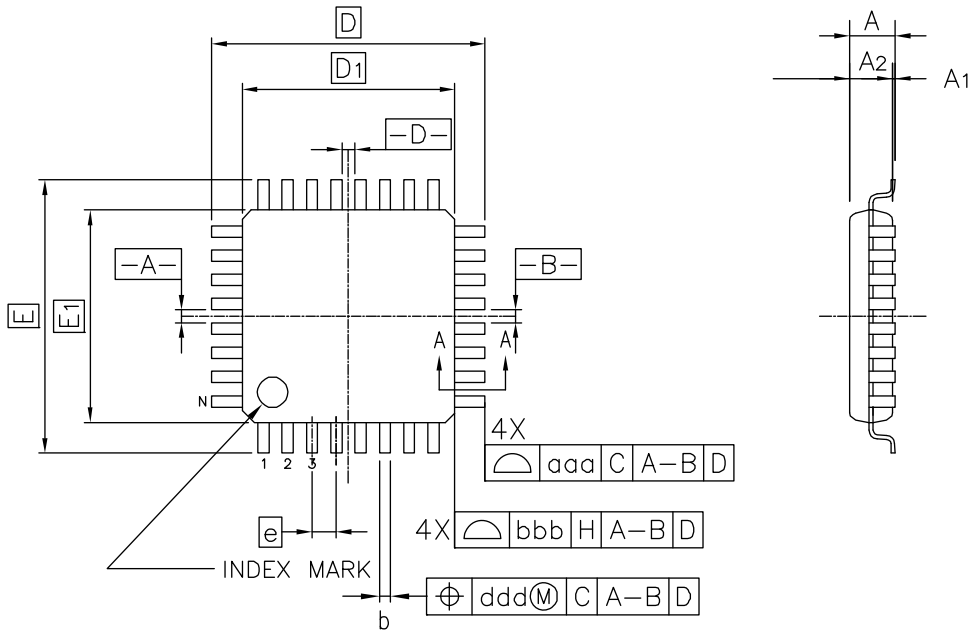
JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LQFP32-7x7-0.80	PLQP0032GB-A	P32GA-80-GBT-1	0.2



NOTE

1. Dimensions "※1" and "※2" do not include mold flash.
2. Dimension "※3" does not include trim offset.

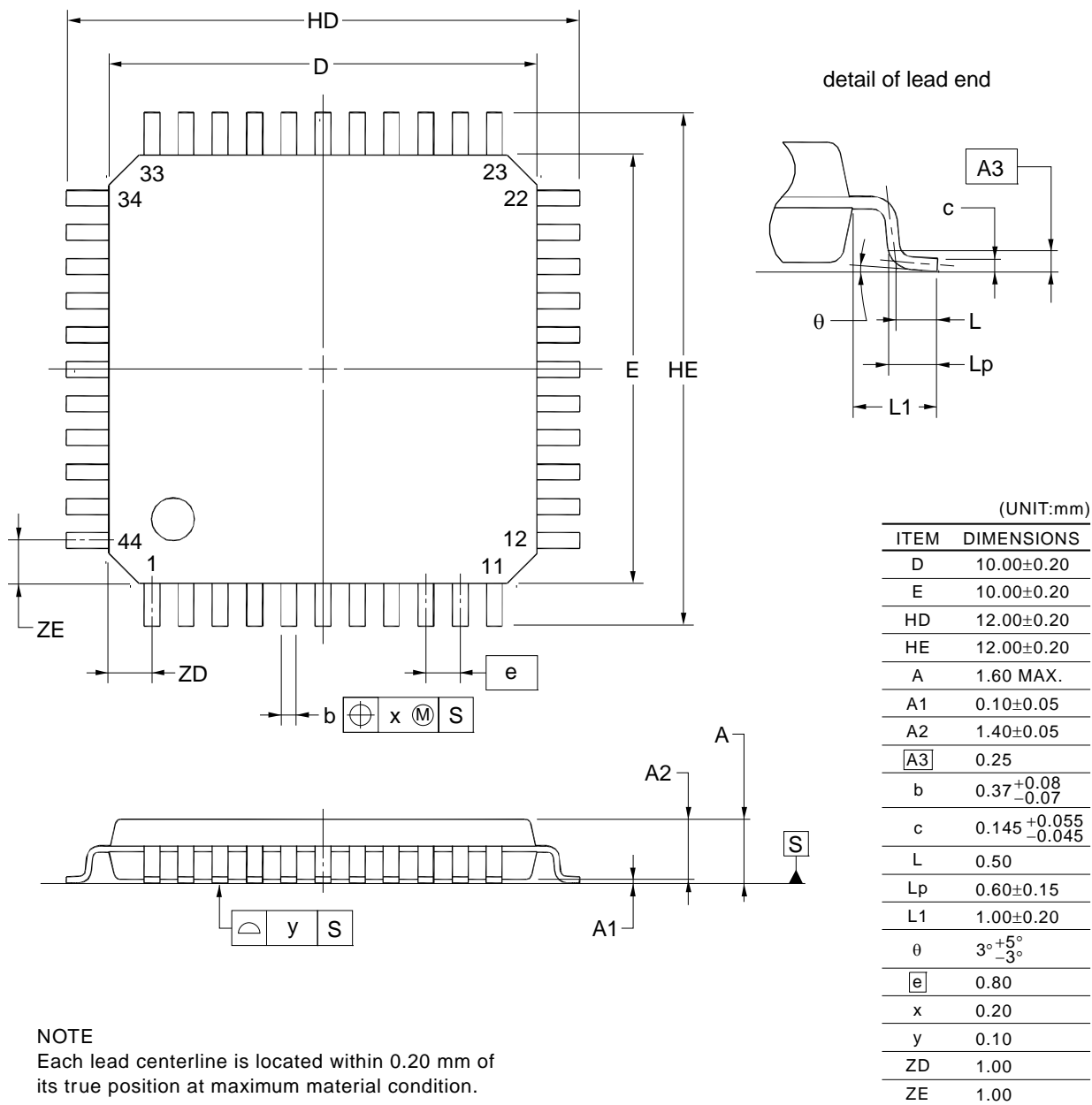
JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-LQFP32-7x7-0.80	PLQP0032GE-A	0.18



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
A	-	-	1.60
A ₁	0.05	-	0.15
A ₂	1.35	1.40	1.45
D	-	9.00	-
D ₁	-	7.00	-
E	-	9.00	-
E ₁	-	7.00	-
N	-	32	-
e	-	0.80	-
b	0.30	0.37	0.45
c	0.09	-	0.20
θ	0°	3.5°	7°
L	0.45	0.60	0.75
L ₁	-	1.00	-
aaa	-	-	0.20
bbb	-	-	0.20
ccc	-	-	0.10
ddd	-	-	0.20

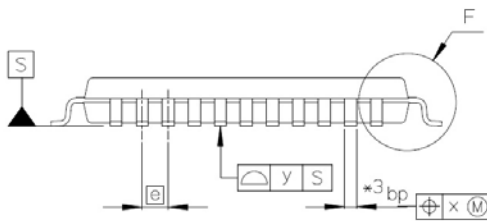
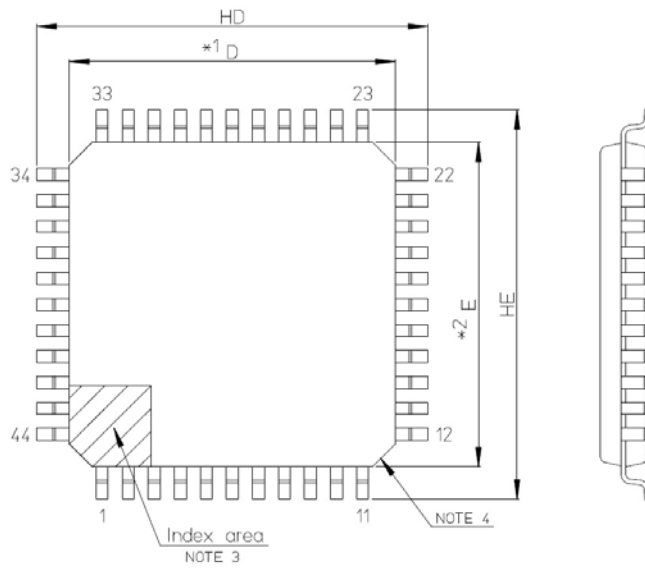
32.2 44ピン製品

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LQFP44-10x10-0.80	PLQP0044GC-A	P44GB-80-UES-2	0.36

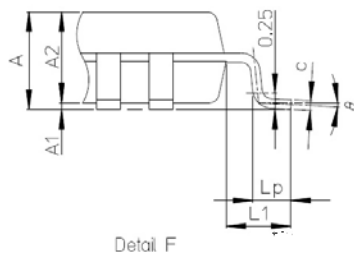


NOTE
Each lead centerline is located within 0.20 mm of its true position at maximum material condition.

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS[Typ.]
P-LQFP44-10x10-0.80	PLQP0044GC-D	—	0.36g

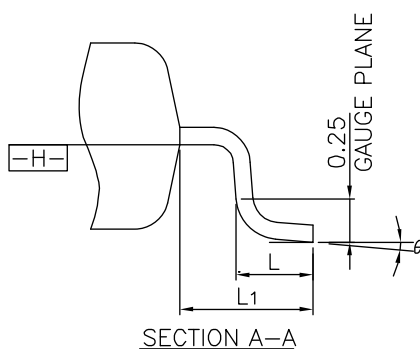
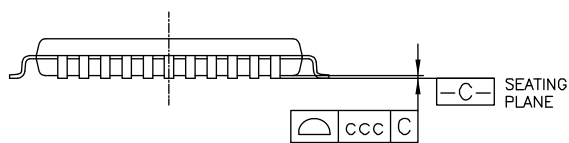
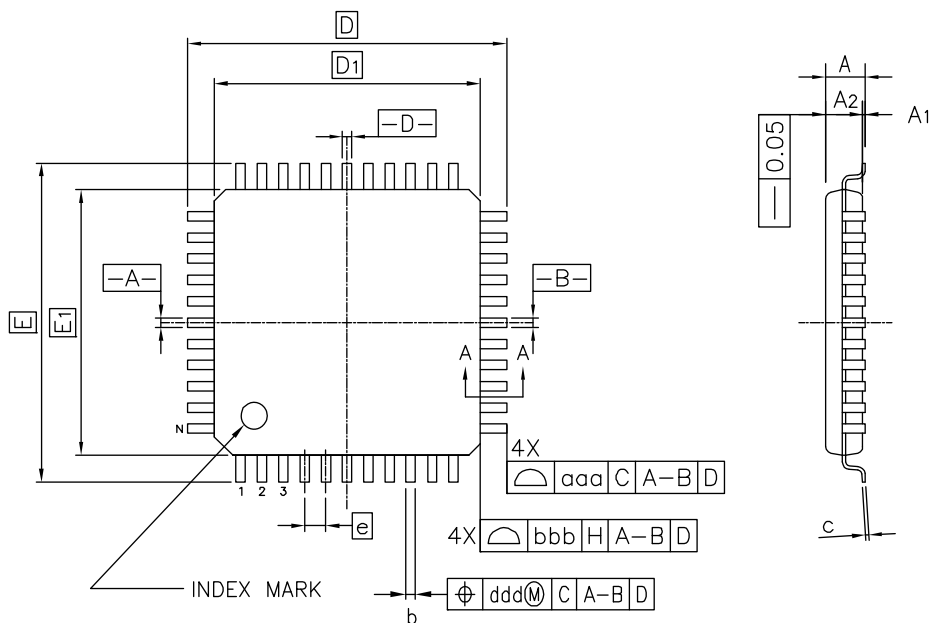


- NOTE)
1. DIMENSIONS *1' AND *2' DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
 2. DIMENSION *3' DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.
 3. PIN 1 VISUAL INDEX FEATURE MAY VARY, BUT MUST BE LOCATED WITHIN THE HATCHED AREA.
 4. CHAMFERS AT CORNERS ARE OPTIONAL; SIZE MAY VARY.



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
D	9.8	10.0	10.2
E	9.8	10.0	10.2
A2	—	1.4	—
HD	11.8	12.0	12.2
HE	11.8	12.0	12.2
A	—	—	1.6
A1	0.05	—	0.15
bp	0.22	0.37	0.45
c	0.09	—	0.20
θ	0°	3.5°	8°
\square	—	0.80	—
x	—	—	0.20
y	—	—	0.10
Lp	0.45	0.6	0.75
L1	—	1.0	—

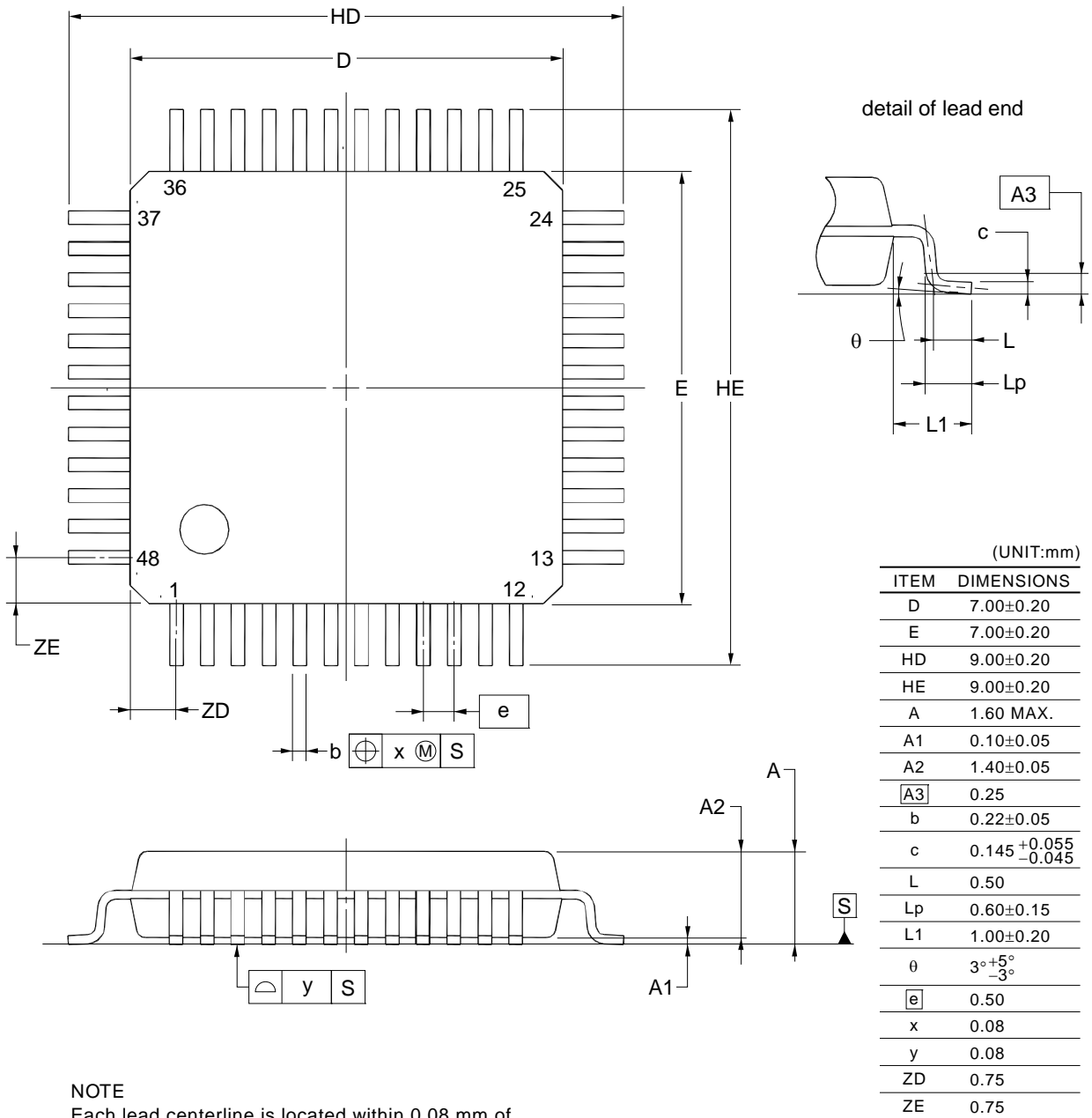
JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-LQFP044-10x10-0.80	PLQP0044GE-A	0.34



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
A	-	-	1.60
A ₁	0.05	-	0.15
A ₂	1.35	1.40	1.45
D	-	12.00	-
D ₁	-	10.00	-
E	-	12.00	-
E ₁	-	10.00	-
N	-	44	-
e	-	0.80	-
b	0.30	0.37	0.45
c	0.09	-	0.20
θ	0°	3.5°	7°
L	0.45	0.60	0.75
L ₁	-	1.00	-
aaa	-	-	0.20
bbb	-	-	0.20
ccc	-	-	0.10
ddd	-	-	0.20

32.3 48ピン製品

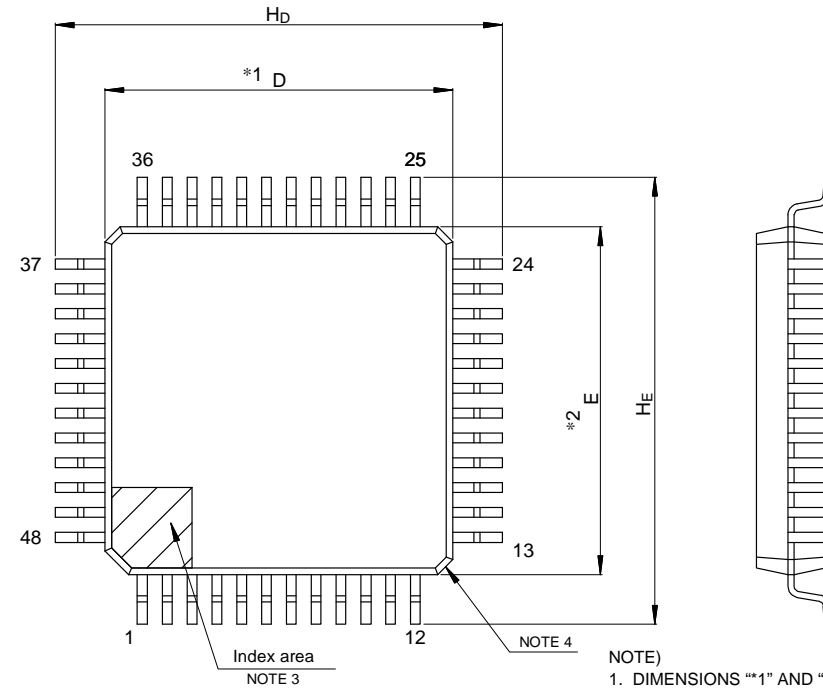
JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LFQFP48-7x7-0.50	PLQP0048KF-A	P48GA-50-8EU-1	0.16



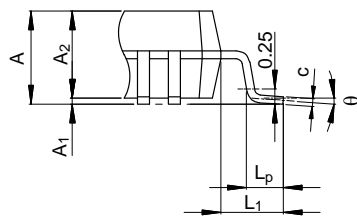
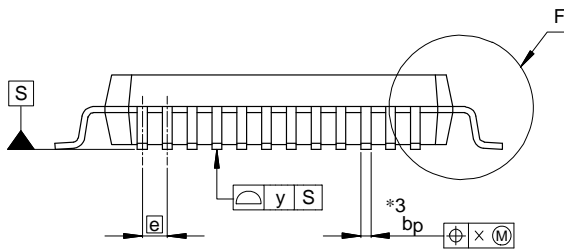
NOTE
Each lead centerline is located within 0.08 mm of its true position at maximum material condition.

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (Typ) [g]
P-LFQFP48-7x7-0.50	PLQP0048KB-B	—	0.2

Unit: mm



- NOTE)
1. DIMENSIONS “*1” AND “*2” DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
 2. DIMENSION “*3” DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.
 3. PIN 1 VISUAL INDEX FEATURE MAY VARY, BUT MUST BE LOCATED WITHIN THE HATCHED AREA.
 4. CHAMFERS AT CORNERS ARE OPTIONAL, SIZE MAY VARY.

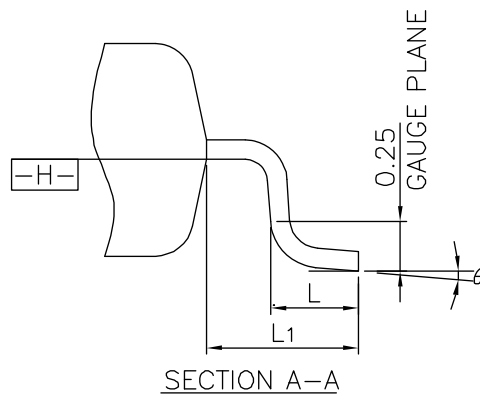
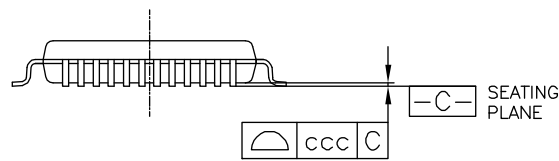
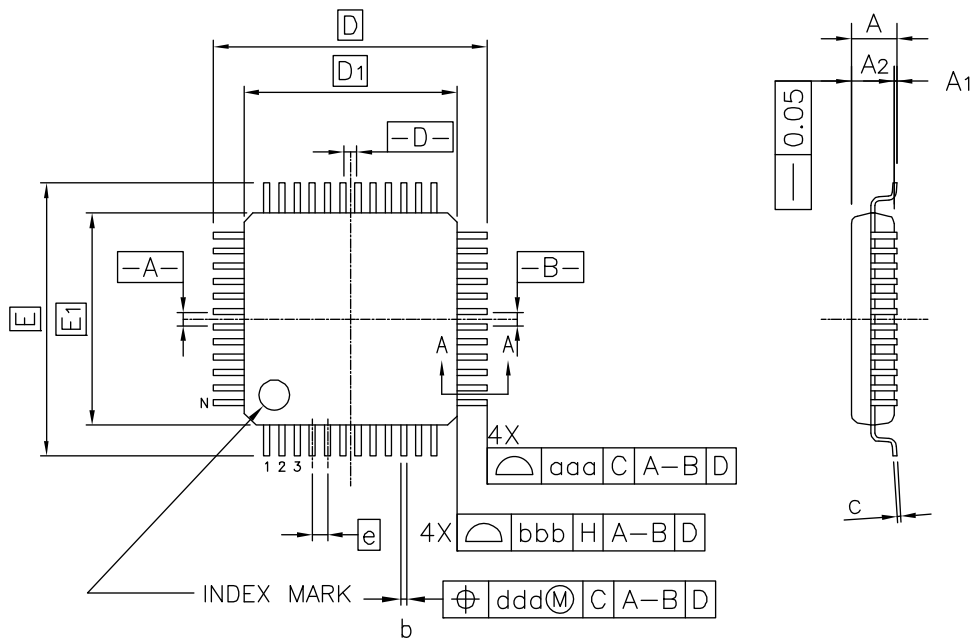


Detail F

Reference Symbol	Dimensions in millimeters		
	Min	Nom	Max
D	6.9	7.0	7.1
E	6.9	7.0	7.1
A ₂	—	1.4	—
H _D	8.8	9.0	9.2
H _E	8.8	9.0	9.2
A	—	—	1.7
A ₁	0.05	—	0.15
b _p	0.17	0.20	0.27
c	0.09	—	0.20
θ	0°	3.5°	8°
e	—	0.5	—
x	—	—	0.08
y	—	—	0.08
L _p	0.45	0.6	0.75
L ₁	—	1.0	—

© 2015 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

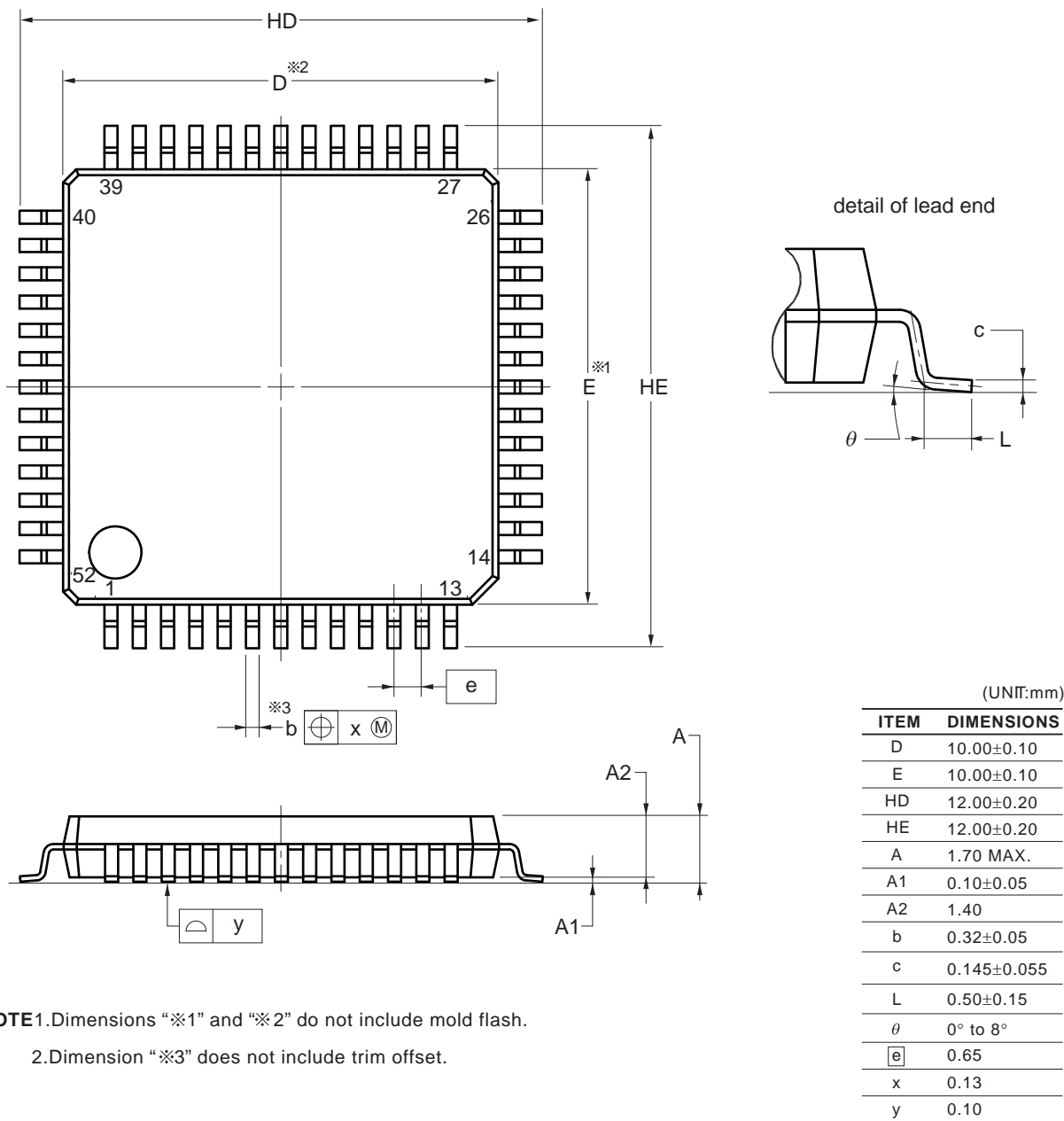
JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-LFQFP48-7x7-0.50	PLQP0048KL-A	0.18



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
A	-	-	1.60
A ₁	0.05	-	0.15
A ₂	1.35	1.40	1.45
D	-	9.00	-
D ₁	-	7.00	-
E	-	9.00	-
E ₁	-	7.00	-
N	-	48	-
e	-	0.50	-
b	0.17	0.22	0.27
c	0.09	-	0.20
θ	0°	3.5°	7°
L	0.45	0.60	0.75
L ₁	-	1.00	-
aaa	-	-	0.20
bbb	-	-	0.20
ccc	-	-	0.08
ddd	-	-	0.08

32.4 52ピン製品

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LQFP52-10x10-0.65	PLQP0052JA-A	P52GB-65-GBS-1	0.3

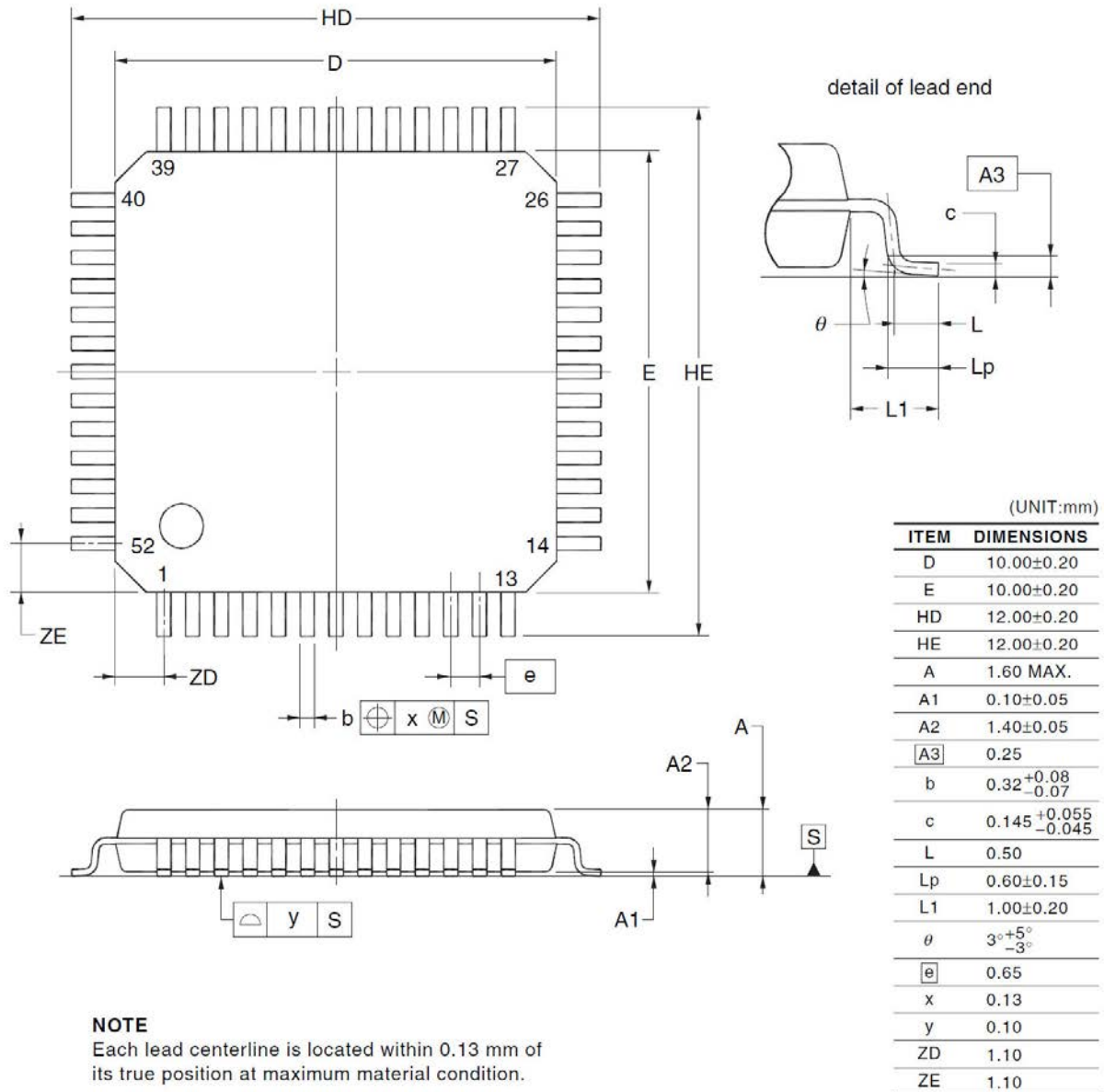


NOTE1. Dimensions “※1” and “※2” do not include mold flash.

2. Dimension “※3” does not include trim offset.

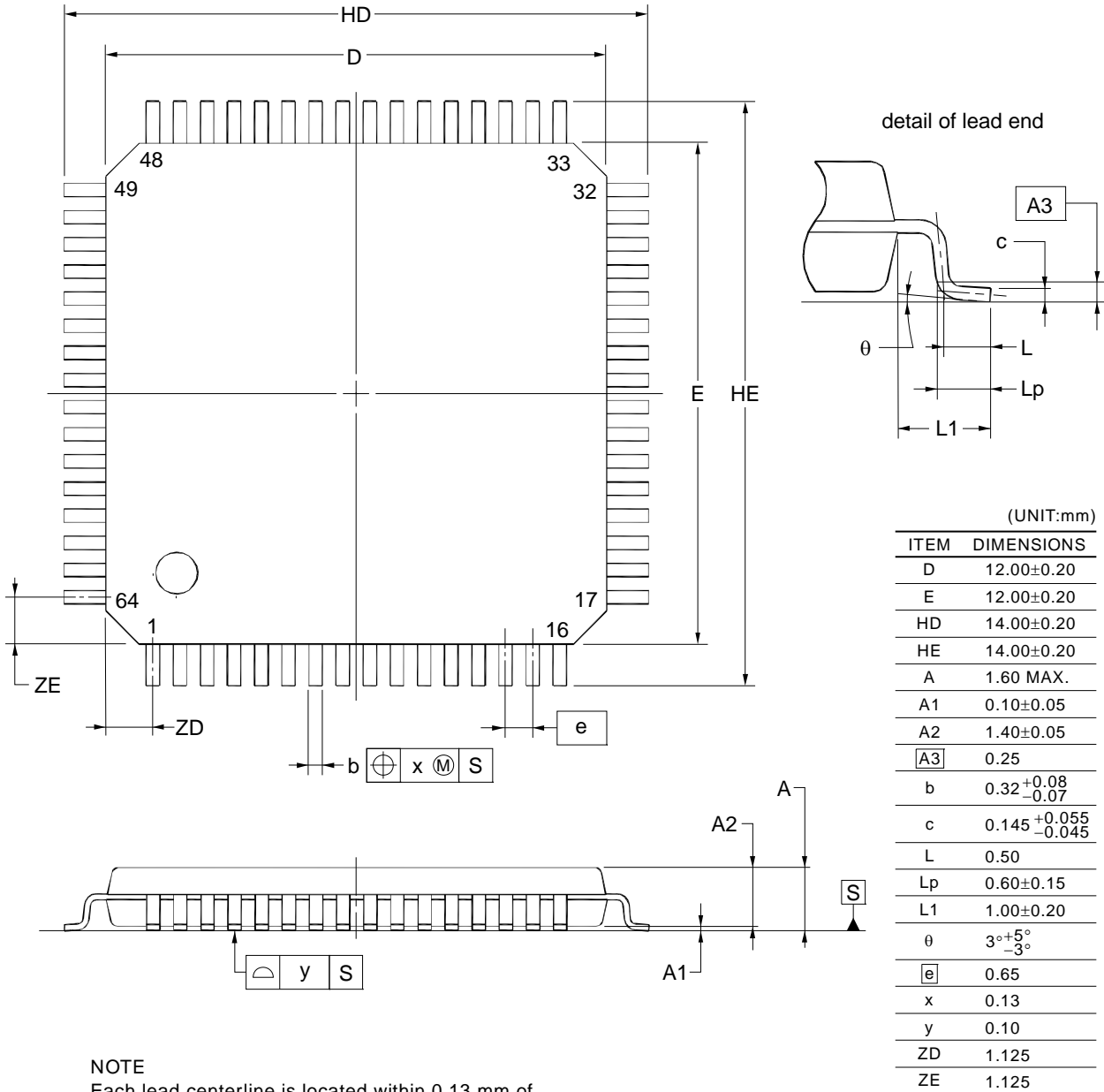
© 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LQFP52-10x10-0.65	PLQP0052JD-B	P52GB-65-UET-2	0.36



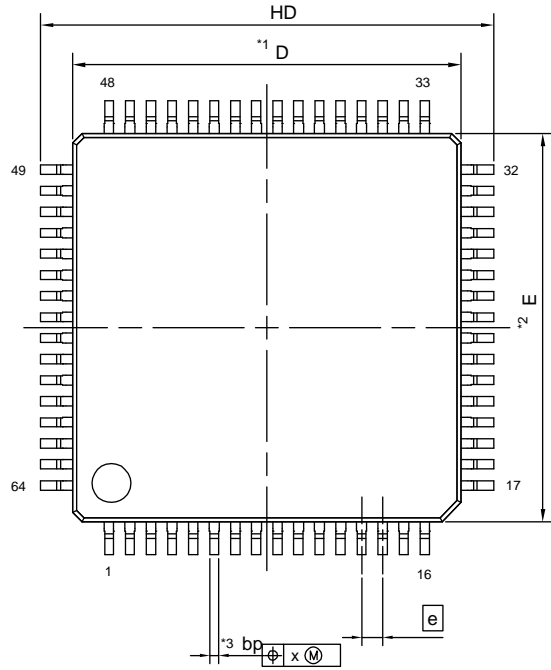
32.5 64ピン製品

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LQFP64-12x12-0.65	PLQP0064JA-A	P64GK-65-UET-2	0.51

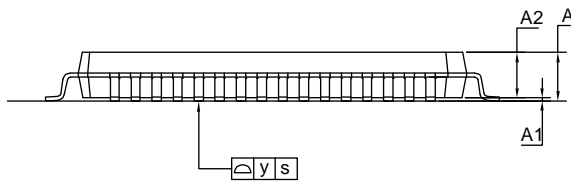
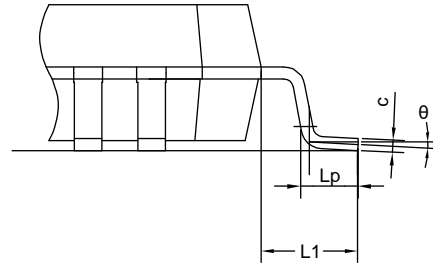


NOTE
Each lead centerline is located within 0.13 mm of its true position at maximum material condition.

JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-LQFP64-12x12-0.65	PLQP0064JB-A	0.50



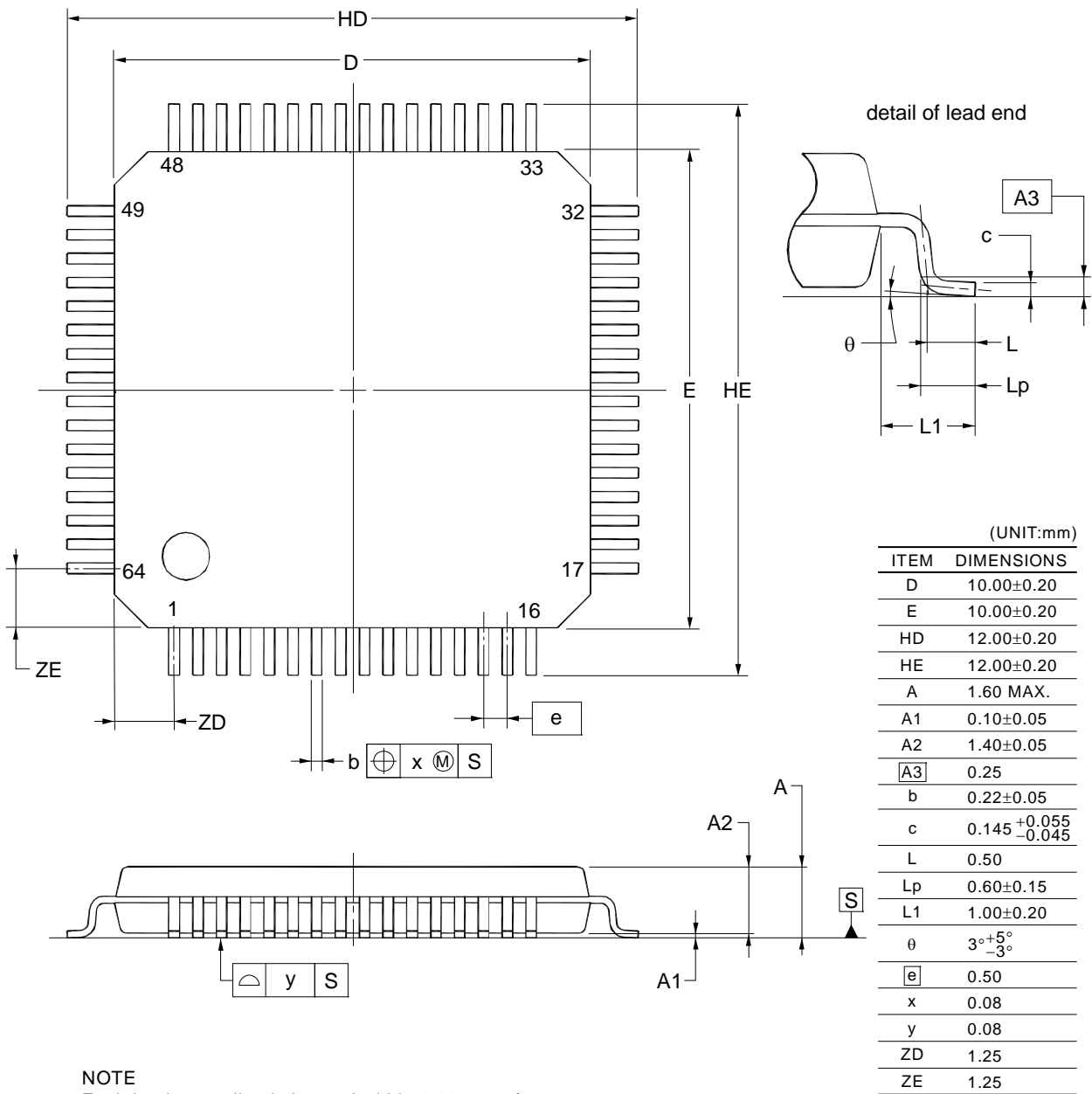
detail of lead end



NOTE
 1.DIMENSIONS "*1" AND "*2"DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
 2.DIMENSION "*3" DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.

Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
E	11.90	12.00	12.10
D	11.90	12.00	12.10
A ₂	—	1.40	—
H _D	13.80	14.00	14.20
H _E	13.80	14.00	14.20
A	—	—	1.70
A ₁	0.05	—	0.15
L _p	0.45	0.60	0.75
L ₁	—	1.00	—
b _p	0.27	0.32	0.37
c	0.09	—	0.20
e	—	0.65	—
θ	0.00	3.50	8.00
x	—	—	0.08
y	—	—	0.08

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (TYP.) [g]
P-LFQFP64-10x10-0.50	PLQP0064KF-A	P64GB-50-UEU-2	0.35

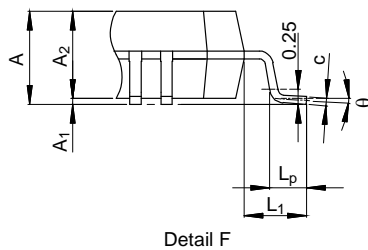
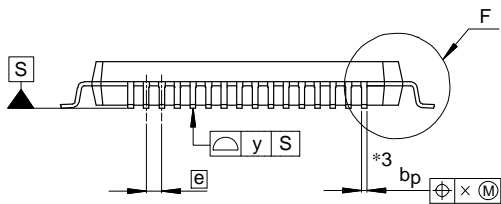
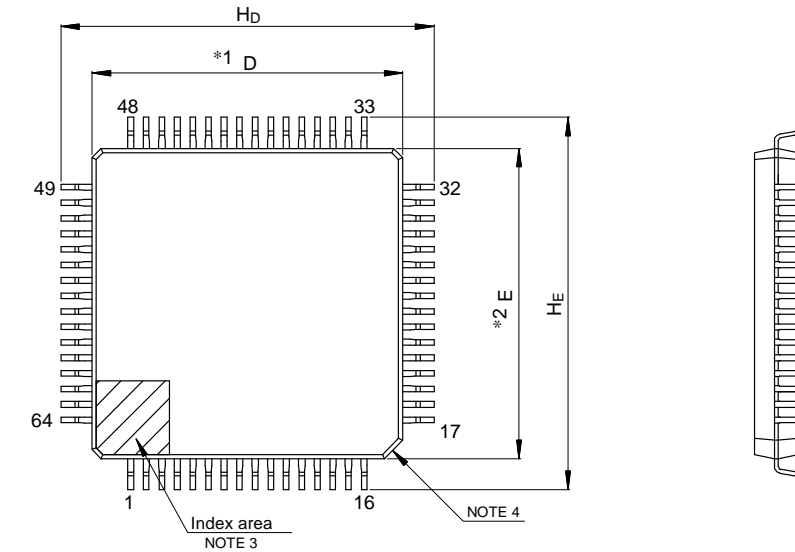


NOTE
Each lead centerline is located within 0.08 mm of its true position at maximum material condition.

©2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (Typ) [g]
P-LFQFP64-10x10-0.50	PLQP0064KB-C	—	0.3

Unit: mm

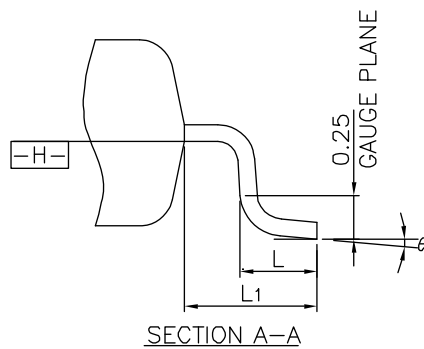
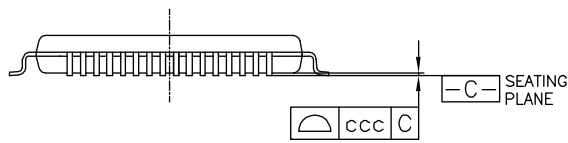
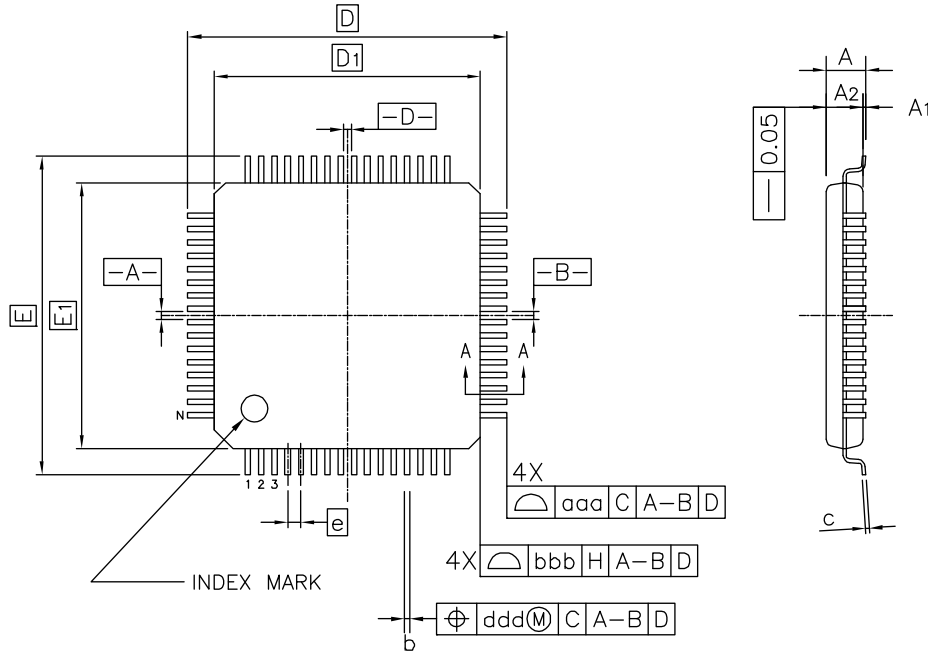


- NOTE)
1. DIMENSIONS **1" AND **2" DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
 2. DIMENSION **3" DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.
 3. PIN 1 VISUAL INDEX FEATURE MAY VARY, BUT MUST BE LOCATED WITHIN THE HATCHED AREA.
 4. CHAMFERS AT CORNERS ARE OPTIONAL, SIZE MAY VARY.

Reference Symbol	Dimensions in millimeters		
	Min	Nom	Max
D	9.9	10.0	10.1
E	9.9	10.0	10.1
A ₂	—	1.4	—
H _D	11.8	12.0	12.2
H _E	11.8	12.0	12.2
A	—	—	1.7
A ₁	0.05	—	0.15
b _p	0.15	0.20	0.27
c	0.09	—	0.20
θ	0°	3.5°	8°
e	—	0.5	—
x	—	—	0.08
y	—	—	0.08
L _p	0.45	0.6	0.75
L ₁	—	1.0	—

© 2015 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

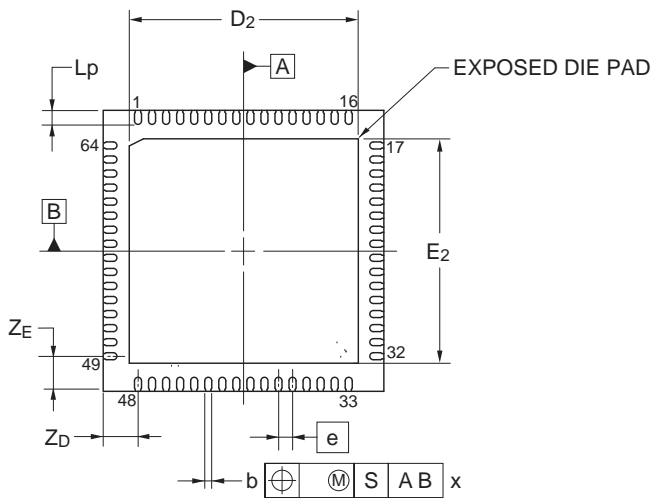
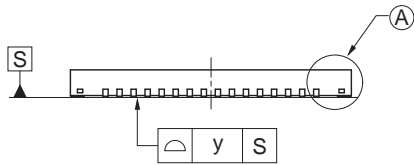
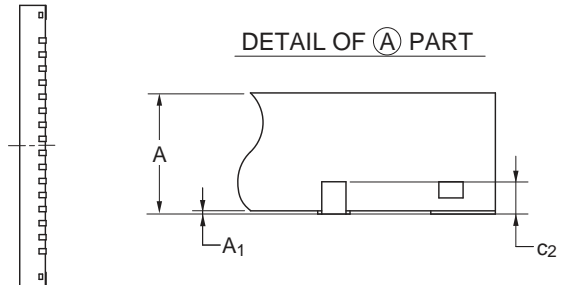
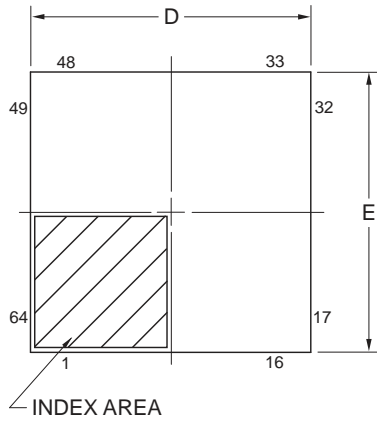
JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-LFQFP064-10x10-0.50	PLQP0064KL-A	0.36



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
A	-	-	1.60
A ₁	0.05	-	0.15
A ₂	1.35	1.40	1.45
D	-	12.00	-
D ₁	-	10.00	-
E	-	12.00	-
E ₁	-	10.00	-
N	-	64	-
e	-	0.50	-
b	0.17	0.22	0.27
c	0.09	-	0.20
θ	0°	3.5°	7°
L	0.45	0.60	0.75
L ₁	-	1.00	-
aaa	-	-	0.20
bbb	-	-	0.20
ccc	-	-	0.08
ddd	-	-	0.08

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS (Typ) [g]
P-HWQFN64-8x8-0.40	PWQN0064LA-A	P64K8-40-9B5-4	0.16

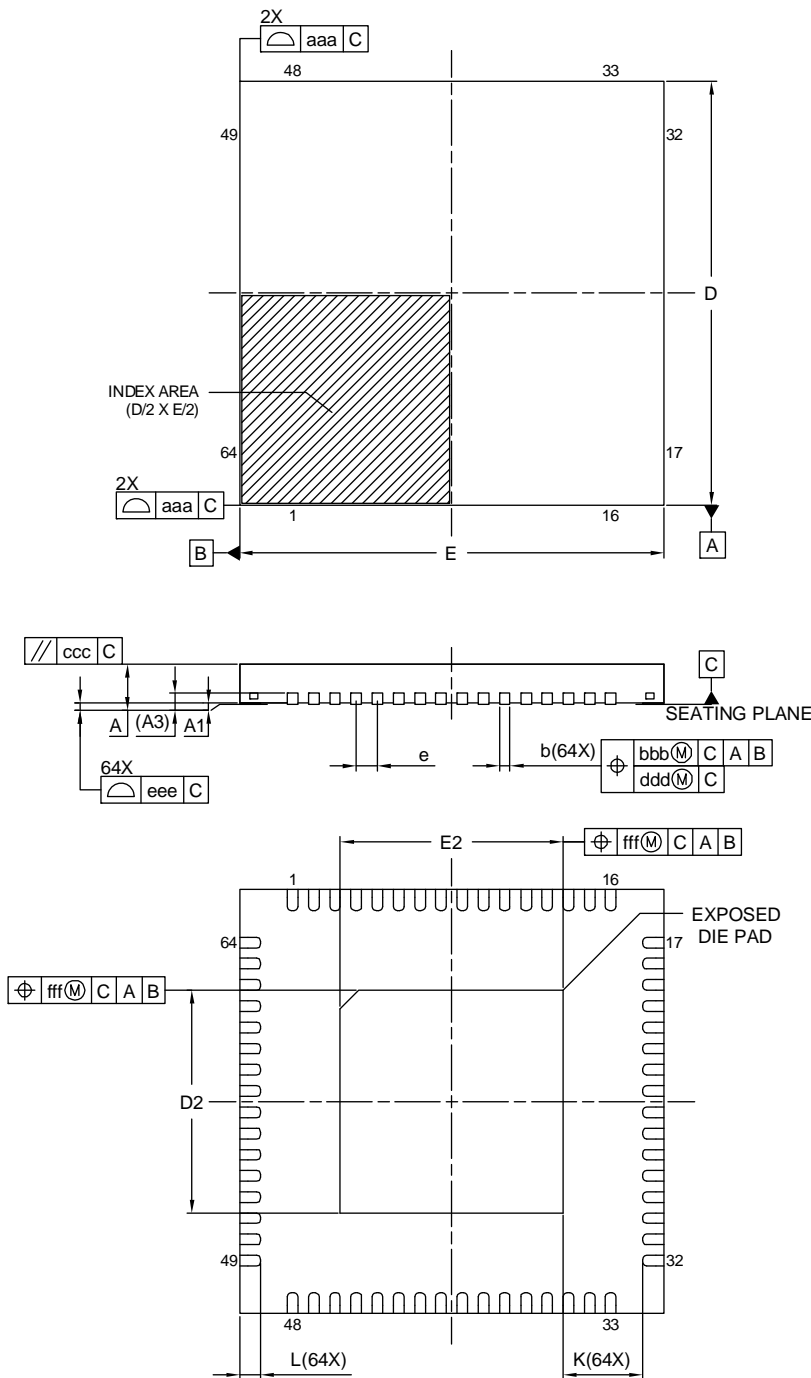
Unit: mm



Reference Symbol	Dimensions in millimeters		
	Min	Nom	Max
D	7.95	8.00	8.05
E	7.95	8.00	8.05
A	—	—	0.80
A1	0.00	—	—
b	0.17	0.20	0.23
e	—	0.40	—
Lp	0.30	0.40	0.50
x	—	—	0.05
y	—	—	0.05
ZD	—	1.00	—
ZE	—	1.00	—
c2	0.15	0.20	0.25
D2	—	6.50	—
E2	—	6.50	—

© 2015 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

JEITA Package code	RENESAS code	MASS(TYP.)[g]
P-HWQFN064-8x8-0.40	PWQN0064LB-A	0.18



Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
A	—	—	0.80
A ₁	0.00	0.02	0.05
A ₃	0.203 REF.		
b	0.15	0.20	0.25
D	8.00 BSC		
E	8.00 BSC		
e	0.40 BSC		
L	0.35	0.40	0.45
K	0.20	—	—
D ₂	4.15	4.20	4.25
E ₂	4.15	4.20	4.25
aaa	0.10		
bbb	0.07		
ccc	0.10		
ddd	0.05		
eee	0.08		
fff	0.10		

付録A 改版履歴

A.1 本版で改訂された主な箇所

箇所	内容	分類
第1章 概説		
p.3	図1-1 RL78/L12の型名とメモリ・サイズ、パッケージ を変更	(d)
p.4	表1-1 発注型名一覧 を変更	(d)
第23章 安全機能		
p.784	23.1 安全機能の概要 説明を変更	(c)
p.788	23.3.2 CRC演算機能（汎用CRC） 説明を変更	(c)
p.792	23.3.4 RAMガード機能 説明を変更	(c)
p.793	23.3.5 SFRガード機能 説明を変更	(c)

備考 表中の「分類」により，改訂内容を次のように区分しています。

- (a) : 誤記訂正, (b) : 仕様（スペック含む）の追加／変更, (c) : 説明, 注意事項の追加／変更,
 (d) : パッケージ, オーダ名称, 管理区分の追加／変更, (e) : 関連資料の追加／変更

A.2 前版までの改版履歴

これまでの改版履歴を次に示します。なお、適用箇所は各版での章を示します。

(1/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev. 2.21	3線シリアルI/O、3線シリアルを簡易SPIに変更	全体
	CSIを簡易SPIに変更	
	IICAのウェイトをクロック・ストレッチに変更	
	SCKのオーバーラインを削除	
	1.1 特 徴 注を注2に変更、注1を追加	第1章 概 説
	表1-1 発注型名一覧を変更	
	1.3.1 32ピン製品の端子図を変更	
	表1-2 32ピン製品の兼用機能を追加	
	1.3.2 44ピン製品の端子図を変更	
	表1-3 44ピン製品の兼用機能を追加	
	1.3.3 48ピン製品の端子図を修正	
	表1-4 48ピン製品の兼用機能を追加	
	1.3.4 52ピン製品の端子図を修正	
	表1-5 52ピン製品の兼用機能を追加	
	1.3.5 64ピン製品の端子図を修正	
	表1-6 64ピン製品の兼用機能を追加	
	4.4.5 入出力バッファによる異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 対応 (1) 注を追加	第4章 ポート機能
	4.5.2 出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定 備考を追加	
	4.6.1 ポート・レジスタn (Pn) に対する1ビット・メモリ操作命令に関する注意事項説明を変更	
	図5-9 高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV) のフォーマット 注意3を変更	第5章 クロック発生回路
	図6-11 タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) のフォーマット (1/2) 注意2、備考2を変更	第6章 タイマ・アレイ・ユニット
	図6-31 動作タイミング (ワンカウント・モード) を変更	
	図6-33 出力回路構成図の説明③、④を変更	
	図6-37 タイマ動作中にTOLmレジスタを変更した場合の動作を変更	
	図6-58 入力パルス間隔測定としての動作の基本タイミング例 (MDmn0 = 0) を変更	
	図7-5 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマット (2/2) を変更	
	7.4.3 リアルタイム・クロックのカウンタ読み出し/書き込みを変更	
図7-22 リアルタイム・クロックの読み出し手順 (アラーム割り込み機能使用時) を追加		
図7-24 リアルタイム・クロックの書き込み手順 (アラーム割り込み機能使用時) を追加		
第12章 シリアル・アレイ・ユニット 注を追加	第12章 シリアル・アレイ・ユニット	
図12-9 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のフォーマット (1/2) 注意を注意1に変更、注意2を追加		
図12-9 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のフォーマット (2/2) 注意を追加		

(2/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev. 2.21	図12-28 マスタ送信（シングル送信モード時）のフロー・チャートを変更	第12章 シリアル・アレイ・ユニット
	図12-82 UART（UART0）のUART受信時のレジスタ設定内容例（1/2）を変更	
	図13-1 シリアル・インタフェースIICAのブロック図 を変更	第13章 シリアル・インタフェースIICA
	図13-5 周辺イネーブル・レジスタ0（PER0）のフォーマット 注意1を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき（リスタート後、SVA0一致） を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき（リスタート後、SVA0一致） を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき（リスタート後、アドレス不一致（拡張コード）） を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき（リスタート後、アドレス不一致（拡張コード）） を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき（リスタート後、アドレス不一致（拡張コード以外）） を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき（リスタート後、アドレス不一致（拡張コード以外）） を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき（リスタート後、SVA0一致） を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき（リスタート後、SVA0一致） を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき（リスタート後、拡張コード受信） を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき（リスタート後、拡張コード受信） を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき（リスタート後、アドレス不一致（拡張コード以外）） を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき（リスタート後、アドレス不一致（拡張コード以外）） を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(b) 拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合 を変更	
	(i) 拡張コード以外（例 SVA0不一致） を変更	
	(ii) 拡張コード を変更	
	(e) データ転送時にストップ・コンディションに負けた場合 を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	
	(i) WTIMO = 0のとき を変更	
	(ii) WTIMO = 1のとき を変更	

(3/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev. 2.21	16. 5. 1 簡易SPI(CSI)連続送信 注を追加	第16章 DMAコントローラ
	表17-1 割り込み要因一覧 (3/3) を修正	第17章 割り込み機能
	30. 3. 2 電源電流特性 注1、注4を変更	第30章 電気的特性 (A, G : T _A = -40~+85°C)
	30. 3. 2 電源電流特性 注1、注5を変更、注6を削除	
	31. 3. 2 電源電流特性 注1、注4を変更	第31章 電気的特性 (G : T _A = -40~+105°C)
	31. 3. 2 電源電流特性 注1、注5を変更、注6を削除	
	PLQP0032GE-Aパッケージ図を追加	第32章 外形図
	PLQP0044GC-Aパッケージ図を変更	
	PLQP0044GE-Aパッケージ図を追加	
	PLQP0048KF-Aパッケージ図を変更	
	PLQP0048KL-Aパッケージ図を追加	
	PLQP0052JD-Bパッケージ図を追加	
	PLQP0064JA-Aパッケージ図を変更	
	PLQP0064JB-Aパッケージ図を追加	
	PLQP0064KF-Aパッケージ図を変更	
	PLQP0064KL-Aパッケージ図を追加	

(4/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev. 2.20	図2-8 端子タイプ 7-5-7 の端子ブロック図 注意を追加	第2章 端子機能
	図2-11 端子タイプ 8-5-2 の端子ブロック図 を修正	
	図2-13 端子タイプ 8-5-7 の端子ブロック図 注意を追加	
	3.3.4 レジスタ・ダイレクト・アドレッシング タイトル, 説明を修正	第3章 CPUアーキテクチャ
	図3-36 CALL, CALLTの例 を修正	第4章 ポート機能
	表4-6 端子機能使用時のレジスタ, 出力ラッチの設定例 を修正	
	図5-13 発振子の接続の悪い例 備考を修正	
	5.4.4 低速オンチップ・オシレータ 説明を修正	第5章 クロック発生回路
	(1) X1発振, (2) XT1発振(水晶振動子) 表を削除	
	図6-49 外部イベント・カウンタとしての動作のブロック図 を修正	
	図6-57 入力パルス間隔測定としての動作のブロック図 を修正	第6章 タイマ・アレイ・ユニット
	図6-61 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定としての動作のブロック図 を修正	
	図6-65 デレイ・カウンタとしての動作のブロック図 を修正	
	図6-69 ワンショット・パルス出力機能としての動作のブロック図 を修正	第7章 リアルタイム・クロック
	図7-4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ0 (RTCC0) のフォーマット 注意を修正	
	表10-3 ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー時間の設定 表を修正, 注を追加	
	表10-4 ウォッチドッグ・タイマのウインドウ・オープン期間の設定 表, 注意を修正	第10章 ウォッチドッグ・タイマ
	図11-4 A/D電圧コンパレータ使用時のタイミング・チャート 図を修正	第11章 A/Dコンバータ
	図12-9 シリアル・ステータス・レジスタmn (SSRmn) のフォーマット 注意を修正	第12章 シリアル・アレイ・ユニット
	図12-30 マスタ送信(連続送信モード時)のフロー・チャート 図を修正	
	図12-82 UART (UART0) のUART受信時のレジスタ設定内容例 注を修正	
	図14-18 通常液晶波形時の外部抵抗分割方式の設定手順 図を修正	第14章 LCD コントローラ / ドライバ
	図14-26 コモン信号とセグメント信号の電圧と位相 図を修正	第17章 割り込み機能
	図17-8 割り込み要求の受け付けタイミング(最小時間)を変更	
(2) SNOOZEモードで割り込み要求信号が発生した場合のタイミング図 説明, 図を追加		
(3) SNOOZEモードで割り込み要求信号が発生しなかった場合のタイミング図 説明, 図を追加	第19章 スタンバイ機能	
表20-1 リセット期間中の動作状態 表を修正	第20章 リセット機能	
図25-1 ユーザ・オプション・バイト (000C0H) のフォーマット 図を修正, 注を追加, 注意を削除	第25章 オプション・バイト	

(5/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev. 2.20	26. 1 フラッシュ・メモリ・プログラマによる書き込み方法 説明を修正, 備考を削除	第26章 フラッシュ・メモリ
	表26-1 RL78/L12と専用フラッシュ・メモリ・プログラマの配線表 表を修正, 注を追加	
	図26-1 フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境 図を修正	
	図26-2 専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信 図を修正, 注を追加, 修正	
	26.1.2 通信方式 説明を修正	
	表26-2 端子接続一覧 表を修正, 注を追加	
	図26-3 フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境 図を修正, 注を追加	
	図26-4 外部デバイスとの通信 図を修正, 注を追加	
	26.3.6 電源 説明を修正, 注を追加	
	26. 5 専用フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時の各コマンド処理時間(参考値) タイトルを修正, 説明を修正,	
	26.6 セルフ・プログラミング 備考を削除	
	26.8.3 データ・フラッシュへのアクセス手順 注意を追加	
	27. 1 E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータとの接続 タイトルを修正	
図27-1 E1, E2, E2 Lite, E20オンチップデバッグエミュレータとの接続例 タイトルを修正, 図を変更		
表29-5 オペレーション一覧 表を修正	第29章 命令セットの概要	

(6/24)

版 数	内 容	適用箇所	
Rev.2.11	図1-1 RL78/L12の型名とメモリサイズ・パッケージを修正	第1章 概 説	
	表1-1 発注型名一覧 タイトルを追加 表を修正		
	1.3.3 48ピン製品 タイトルを修正		
	1.3.5 64ピン製品 タイトルを修正		
	表26-1 RL78/L12と専用フラッシュ・メモリ・プログラムの配線表を修正	第26章 フラッシュ・メモリ	
	第32章 外形図 を修正	第32章 外形図	
Rev.2.10	1.3.1 32ピン製品の端子図を修正	第1章 概 説	
	1.3.2 44ピン製品の端子図を修正		
	1.3.3 48ピン製品の端子図を修正		
	1.3.4 52ピン製品の端子図を修正		
	1.3.5 64ピン製品の端子図を修正		
	1.6 機能概要のメイン・システム・クロックの説明を修正		
	2.1.1 32ピン製品の表の項目を修正	第2章 端子機能	
	2.1.2 44ピン製品の表の項目を修正		
	2.1.3 48ピン製品の表の項目を修正		
	2.1.4 52ピン製品の表の項目を修正		
	2.1.5 64ピン製品の表の項目を修正		
	図2-3 端子タイプ 2-1-2 の端子ブロック図を修正		
	図2-8 端子タイプ 7-5-7 の端子ブロック図に注意を追加		
	図2-10 端子タイプ 8-5-1 の端子ブロック図を修正、注意を追加		
	図2-11 端子タイプ 8-5-2 の端子ブロック図に注意を追加		
	図2-12 端子タイプ 8-5-3 の端子ブロック図に注意を追加		
	図2-13 端子タイプ 8-5-7 の端子ブロック図に注意1,2を追加		
	図2-14 端子タイプ 12-1-4 の端子ブロック図に注意を追加		
	5.1 クロック発生回路の機能 (1) メイン・システム・クロック① X1発振回路の説明を修正		第5章 クロック発生回路
	5.1 クロック発生回路の機能 (1) メイン・システム・クロック② 高速オンチップ・オシレータに説明を追加		
	5.1 クロック発生回路の機能 (2) サブシステム・クロック・XT1発振回路の説明を修正		
	図5-4 クロック動作ステータス制御レジスタ (CSC) のフォーマットの注意6に説明を追加		
	5.4.4 低速オンチップ・オシレータの説明を修正		
	図5-14 電源電圧投入時のクロック発生回路の動作の説明を修正		
	5.6.2 X1発振回路の設定例に注意を追加		
	5.6.3 XT1発振回路の設定例の説明を修正		
	表5-4 CPUクロックの移行についてを修正		
	5.6.7 クロック発振停止前の条件に説明を追加		

(7/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.10	5. 7 発振子と発振回路定数の説明を修正	第5章 クロック発生回路
	5. 7 発振子と発振回路定数 (2) XT1発振 (水晶振動子) の表の発振回路定数 (参考) の項目を修正	
	図6-12 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のフォーマットを修正	第6章 タイマ・アレイ・ユニット
	図6-17 タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0) のフォーマットの注意を修正	
	図6-20 ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1) のフォーマットを修正	
	6. 4. 2 8ビット・タイマ動作機能の基本ルール (チャネル1, 3のみ) の説明を修正	
	図6-40 TO0nビットの一括操作によるTO0nの端子状態の注意を削除	
	6. 8. 1 インターバル・タイマ/方形波出力としての動作 (1) インターバル・タイマの説明を修正	
	6. 8. 2 外部イベント・カウンタとしての動作の説明を修正	
	図6-64 入力信号のハイ/ロウ・レベル幅測定機能時の操作手順を修正	
	6. 9. 1 ワンショット・パルス出力機能としての動作の注意を修正	
	図7-5 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマットに注1, 2を追加	
	図8-5 12ビット・インターバル・タイマ動作のタイミング (ITCMP11-ITCMP00 = OFFH, カウント・クロック : $f_{SUB} = 32.768 \text{ kHz}$) のタイトルの誤記を修正	第8章 12ビット・インターバル・タイマ
	9. 5 クロック出力/ブザー出力制御回路の注意事項の説明を修正	第9章 クロック出力/ブザー出力制御回路
	図11-17 ソフトウェア・トリガ・モード (連続変換モード) 動作タイミング例を修正	第11章 A/Dコンバータ
	図11-18 ソフトウェア・トリガ・モード (ワンショット変換モード) 動作タイミング例を修正	
	図11-22 ハードウェア・トリガ・ウェイト・モード (ワンショット変換モード) 動作タイミング例を修正	
	図11-32 SNOOZEモード設定のフロー・チャートを修正	
	11. 10 A/Dコンバータの注意事項 (2) ANI0, ANI1, ANI16-ANI23端子入力範囲についての説明を修正	
	12. 2. 2 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) の下位9ビットの注を修正	
	図12-7 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) のフォーマットの注意2を修正	
	図12-16 送信データのレベル反転例を修正	
	12. 5. 7 SNOOZEモード機能の説明を修正	
	図12-69 SNOOZEモード動作 (1回起動) 時のタイミング・チャート (タイプ1 : DAPmn = 0, CKPmn = 0) および注を修正	
	図12-70 SNOOZEモード動作 (1回起動) 時のフロー・チャートを修正	
	図12-71 SNOOZEモード動作 (連続起動) 時のタイミング・チャート (タイプ1 : DAPmn = 0, CKPmn = 0) および注を修正	
	図12-72 SNOOZEモード動作 (連続起動) 時のフロー・チャートを修正	
	12. 6. 2 UART受信の説明を修正	
	図12-85 UART受信の再開設定手順を修正	
	12. 6. 3 SNOOZEモード機能の説明を修正, 注意5を追加	
図12-88 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECM = 0/1) 時のタイミング・チャートを修正		
図12-89 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECM = 0) 時のタイミング・チャートを修正		

(8/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.10	図12-90 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECM = 0/1もしくはEOCm1 = 1, SSECM = 0) 時のフロー・チャートを修正	第12章 シリアル・アレイ・ユニット
	図12-91 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECM = 1) 時のタイミング・チャートを修正	
	図12-92 SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECM = 1) 時のフロー・チャートを修正	
	図12-99 LIN受信のフロー・チャートを修正	
	図13-1 シリアル・インタフェースIICAのブロック図を修正	第13章 シリアル・インタフェースIICA
	図13-9 IICAコントロール・レジスタ01 (IICCTL01) のフォーマットを修正	
	13. 3. 6 IICAロウ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWL0) の説明を追加	
	13. 4. 2 IICWL0, IICWH0レジスタによる転送クロック設定方法および備考2を修正, 注意1を追加	
	図13-22 WUP0 = 1を設定する場合のフローを修正	
	図13-23 アドレス一致によりWUP0 = 0に設定する場合のフロー(拡張コード受信含む)を修正	
	13. 5. 13 ウェイク・アップ機能の説明を修正	
	図13-24 INTIICA0以外でSTOPモードが解除後にマスタとして動作させる場合を修正	
	13. 5. 14 通信予約 (1) 通信予約機能許可の場合 (IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) のビット0 (IICRSV0) = 0) の説明および備考を修正	
	図13-27 通信予約の手順の注1、備考を修正	
	13. 5. 14 通信予約 (2) 通信予約機能禁止の場合 (IICAフラグ・レジスタ0 (IICF0) のビット0 (IICRSV0) = 1) の説明を修正	
	13. 5. 15 その他の注意事項 (3) すでに他者との間でI ² C通信が行われている場合④の説明を修正	
	図13-28 シングルマスタ・システムでのマスタ動作を修正	
	図13-29 マルチマスタ・システムでのマスタ動作および注、備考を修正	
	図13-30 スレーブ動作手順 (1) を修正	
	図17-2 割り込み要求フラグ・レジスタ (IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L) のフォーマット (64ピン製品) を修正	第17章 割り込み機能
	図17-3 割り込みマスク・フラグ・レジスタ (MK0L, MK0H, MK1L, MK1H, MK2L) のフォーマット (64ピン製品) を修正	
	表17-5 割り込み処理中に多重割り込み可能な割り込み要求の関係を修正	
	表19-1 HALTモード時の動作状態を修正	第19章 スタンバイ機能
	表19-2 STOPモード時の動作状態を修正	
	20. 1 リセット動作のタイミングの説明を追加、注意を削除	第20章 リセット機能
	図20-4 リセット・コントロール・フラグ・レジスタ (RESF) のフォーマットを修正	
図20-5 リセット要因の確認手順例のタイトル修正		
22. 1 電圧検出回路の機能の説明を修正	第22章 電圧検出回路	
図22-4 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) によるLVD動作モード・検出電圧設定を修正		
22. 4. 2 割り込みモードとして使用時の設定の説明を追加		
図22-7 割り込み&リセット信号発生時のタイミング(オプション・バイトのLVIMDS1, LVIMDS0 = 1, 0) を修正および注3を追加		

(9/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.10	22.5 電圧検出回路の注意事項を修正	第22章 電圧検出回路
	25.1.1 ユーザ・オプション・バイト (000C0H-000C2H) (3) 000C2Hの説明を追加	第25章 オプション・バイト
	図25-3 ユーザ・オプション・バイト (000C2H) のフォーマットを修正	
	第26章 フラッシュ・メモリの説明を修正	第26章 フラッシュ・メモリ
	表26-1 RL78/L12と専用フラッシュ・メモリ・プログラムの配線表を修正	
	図26-2 専用フラッシュ・メモリ・プログラマとの通信を修正	
	表26-2 端子接続一覧を修正	
	26.6 セルフ・プログラミングの備考1を修正	
	26.8.1 データ・フラッシュの概要の説明および注意2を修正	第27章 オンチップ・デバッグ機能
	表27-1 オンチップ・デバッグ・セキュリティIDを修正	
	表29-2 オペレーション欄の記号に“addr5”を追加	第29章 命令セットの概要
	30.8 RAMデータ保持特性のタイトルおよび図、注を修正	第30章 電気的特性 (A, G : T _A = -40~+85°C)
	30.9 フラッシュ・メモリ・プログラミング特性の表を修正	
	31.8 RAMデータ保持特性のタイトルおよび図、注を修正	第31章 電気的特性 (G : T _A = -40~+105°C)
31.9 フラッシュ・メモリ・プログラミング特性の表を修正、注4を追加		
Rev.2.00	動作スピード・モード制御レジスタをサブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) に改称	全般
	1.1 特徴を変更	第1章 概説
	図1-1を変更	
	発注型名一覧, 注, 注意を変更	
	1.3.1~1.3.5 COMEXP端子を削除	
	1.4 端子名称の記述を変更	
	1.5.1~1.5.5 COMEXP端子を削除	
	1.6 機能概要の表, 注を変更	第2章 端子機能
	2.1.1~2.1.5の表を変更	
	2.2.2 機能説明を追加	
	2.3 未使用端子の処理の表を変更	
	2.4 端子ブロック図の図2-1~図2-14を追加	第3章 CPUアーキテクチャ
	3.1.3 内部データ・メモリ空間の注意2, 3を変更	
	3.1.6 データ・メモリ・アドレッシング 図3-5~図3-7を図3-5に集約	
	表3-5の記述を変更	
	表3-6の記述, 注3の記述を変更	
	4.2.1~4.2.10 ポート1~ポート14の説明を追加	第4章 ポート機能
	図4-1の注意を追加	
	図4-2の注意を追加	
	図4-3の注意2を追加	
	図4-4の注意2を追加	
	4.3.5の注意を追加	
	図4-5の注意を追加	
	図4-6の注意1の説明を変更	
	図4-6の注意3を追加	
	図4-7の注意3を追加	
	図4-8の説明を変更	
4.4.4 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 外部デバイスとの接続方法の説明を変更		

(10/24)

版 数	内 容	適用箇所	
Rev.2.00	4. 4. 5 入出力バッファによる異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 対応を追加	第4章 ポート機能	
	4. 5. 1 兼用機能使用時の基本的な考え方を追加		
	4. 5. 2 出力機能を使用しない兼用機能のレジスタ設定を追加		
	4. 5. 3 使用するポート機能および兼用機能のレジスタ設定例を追加		
Rev.2.00	4. 6. 2 端子設定に関する注意事項の説明を変更	第5章 クロック発生回路	
	5. 1 クロック発生回路の機能の説明を変更		
	図5-1の記述を変更		
	5. 3. 5 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の説明を変更		
	図5-6の注意2, 3の説明を変更		
	図5-8の説明を変更		
	図5-10の備考1, 2を変更		
	5. 4. 3 高速オンチップ・オシレータの説明を変更		
	5. 4. 4 低速オンチップ・オシレータの説明を変更		
	5. 6. 1 高速オンチップ・オシレータの設定例の説明を変更		
	5. 6. 3 XT1発振回路の設定例の説明を変更		
	図5-15の説明を変更		
	表5-3 (2/5) の注意を変更		
	表5-3 (3/5) の説明を変更		
	表5-3 (3/5) の備考2を追加		
	表5-3 (4/5) の説明を変更		
	表5-3 (5/5) の説明を変更		
	5. 7 発振子と発振回路定数を追加		
	タイマ・アレイ・ユニットの説明を変更		第6章 タイマ・アレイ・ユニット
	6. 1. 2 複数チャネル連動動作機能 (1) ワンショット・パルス出力の説明を変更		
図6-1の説明を変更			
図6-2, 図6-3の説明を変更			
図6-4, 図6-5の説明を変更			
図6-6の説明を変更			
6. 3. 1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) の注意1を変更			
図6-19の説明を変更			
6. 3. 15 ノイズ・フィルタ許可レジスタ1 (NFEN1) の説明を変更			
(2) イベント・カウンタ・モードの動作の備考を変更			
図6-30の説明, 備考を変更			
6. 7 タイマ入力 (TImn) の制御の説明を変更			
図6-49の説明を変更			
6. 8. 4 入力パルス間隔測定としての動作の説明を変更			
図6-57の説明を変更			
図6-60の説明を変更			
図6-61の説明を変更			
図6-64の説明を変更			
図6-65の説明を変更			
図6-68の説明を変更			
図6-69の説明を変更			
図6-73の説明を変更			

(11/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.00	7.1 リアルタイム・クロックの機能の説明を変更	第7章 リアルタイム・クロック
	図7-1の説明を変更	
	7.3 リアルタイム・クロックを制御するレジスタの説明を変更	
	図7-2の注意1, 2を変更	
	7.3.2 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC) の説明を変更	
	図7-4の注, 注意2を変更	
	図7-6の注意2を変更	
	7.3.16 ポート・モード・レジスタ3 (PM3) の説明を変更	
	7.3.17 ポート・レジスタ3 (P3) の説明を変更	
	7.4.1 リアルタイム・クロックの動作開始の注1を変更	
	図7-24の注意2を変更	
	補正例①, 図7-25を追加	
	表8-1の説明を変更	
図8-1の説明を変更		
8.3.1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) の注意1, 2を変更		
8.3.2 サブシステム・クロック供給モード制御レジスタ (OSMC), 図8-3の説明を変更		
8.4.2 HALT/STOPモードから復帰後にカウンタ動作開始し, 再度HALT/STOPモードへの移行の説明を変更		
9.1 クロック出力/ブザー出力制御回路の機能の注意を変更	第9章 クロック出力/ブザー出力制御回路	
図9-3の注意2, 3を変更		
図9-3の説明を変更		
9.4.1 出力端子の動作の説明を変更	第10章 ウォッチドッグ・タイマ	
10.1 ウォッチドッグ・タイマの機能の説明を変更		
表10-1の説明を変更		
図10-1の説明を変更		
10.4.1 ウォッチドッグ・タイマの動作制御の注意2を変更	第11章 A/Dコンバータ	
11.1 A/Dコンバータの機能の説明を変更		
図11-1の説明を変更		
11.2 A/Dコンバータの構成の説明を変更		
図11-4の注意4を変更		
表11-3 (1/4) の注3, 注意1を変更		
表11-3 (2/4) の注8, 注意1を変更		
表11-3 (3/4) の注4, 注意1を変更		
表11-3 (4/4) の注9, 注意1を変更		
図11-5を変更		
図11-6の注意2, 3を変更		
図11-7のADREFP1・ADREFP0・ADRCK・AWCビットの説明を変更		
図11-11の注意8を変更		
図11-13の注意2, 3を変更		
11.3.10 A/Dテスト・レジスタ (ADTES) の説明を変更		

(12/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.00	図11-14のADTES1・ADTES0ビットの説明を変更	第11章 A/Dコンバータ
	11.3.11 アナログ入力端子のポート機能を制御するレジスタの説明を変更	
	図11-15の図, 説明を変更	
	図11-20のタイミング・チャートを変更	
	図11-22のタイミング・チャートを変更	
	図11-23のフロー・チャートを変更	
	図11-24のフロー・チャートを変更	
	図11-25のフロー・チャートを変更	
	図11-26のフロー・チャートを変更	
	図11-27のフロー・チャート, 注意を変更	
	11.8 SNOOZEモード機能の説明を変更	
	図11-34, 図11-35を変更	
	11.10 (5) アナログ入力 (ANIn) 端子の説明を変更	
	11.10 (6) アナログ入力 (ANIn) 端子の入カインピーダンスについての説明を変更	
	12.1.1 3線シリアルI/O (CSI00, CSI01) の説明を変更	
図12-1を変更		
図12-3の注意1を変更		
12.3.5 シリアル・データ・レジスタmn (SDRmn) の上位7ビットの説明を変更		
図12-16を変更		
12.3.14 シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm) の注意を変更		
図12-17の説明を変更		
図12-18を追加		
12.3.17 シリアル入出力端子のポート機能を制御するレジスタの説明を追加		
12.5 3線シリアルI/O (CSI00, CSI01) 通信の動作の説明を変更		
図12-26のフロー・チャートを変更		
図12-28のフロー・チャートを変更		
図12-30のフロー・チャートを変更		
図12-33のフロー・チャートを変更		
図12-34のフロー・チャートを変更		
図12-36のフロー・チャートを変更		
図12-38のフロー・チャートを変更		
図12-44のフロー・チャートを変更		
図12-46のフロー・チャートを変更		
12.5.4 スレーブ送信の注1を変更		
図12-50のフロー・チャートを変更		
図12-52のフロー・チャートを変更		
図12-54のフロー・チャートを変更		
12.5.5 スレーブ受信の説明, 注1を変更		
図12-60のフロー・チャートを変更		
12.5.6 スレーブ送受信の注1を変更		
図12-64の注意2を変更		

(13/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.00	図12-66のフロー・チャートを変更	第12章 シリアル・アレイ・ユニット
	図12-68のフロー・チャートを変更	
	12.5.7 SNOOZEモード機能の説明, 注意2を変更	
	図12-71の注意2を変更	
	図12-76の説明を変更	
	図12-79のフロー・チャートを変更	
	図12-81のフロー・チャートを変更	
	図12-87のフロー・チャートを変更	
	12.6.3 SNOOZEモード機能の説明を変更	
	表12-3を追加	
	(1) SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 0, SSECM = 0/1) の説明を変更	
	(2) SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECM = 0 : エラー割り込み (INTSREQ) 発生許可) の説明を変更	
	図12-90のフロー・チャートを変更	
	(3) SNOOZEモード動作 (EOCm1 = 1, SSECM = 1 : エラー割り込み (INTSREQ) 発生停止) の説明を変更	
	図12-92のフロー・チャートを変更	
	図13-5の注意1を変更	第13章 シリアル・インタフェースIICA
	図13-6 (3/4) の注2を追加	
	図13-6 (4/4) の注を追加	
	図13-9 (2/2) の説明を変更	
	13.3.7 IICAハイ・レベル幅設定レジスタ0 (IICWHO) の備考を変更	
	図13-28のフロー・チャートを変更	
	図13-29 (1/3) のフロー・チャートを変更	
	図13-29 (3/3) のフロー・チャートを変更	
	図13-30のフロー・チャートを変更	
	表14-1 (1/3) ~ (3/3) を変更	
	14.1 LCDコントローラ／ドライバの機能の説明を変更	
	表14-2 (1/5) ~ (5/5) を変更	
	表14-3の説明を変更	
	図14-1の説明を変更	
図14-2の注意1を変更		
図14-3の説明を変更		
表14-4を変更		
図14-4 (1/2) の説明を変更		
図14-4 (2/2) の注意1を変更		
図14-5を変更		
図14-6の注意1, 3を変更		
図14-19のフロー・チャート, 注意2を変更		
図14-20のフロー・チャート, 注意を変更		

(14/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.00	図15-1を変更	第15章 乗除積和算器
	15.3.1 乗除算コントロール・レジスタ0 (MDUC) の説明を変更	
	図14-5の説明, 注1を変更	
	15.4.4 積和演算 (符号付) 動作の説明を変更	
	図15-9のタイミング図を変更	
	15.4.5 除算動作の説明を変更	
	16.1 DMAコントローラの機能の説明を変更	第16章 DMAコントローラ
	図16-9のフロー・チャートを変更	
	表17-2 (2/3) の注3を変更	第17章 割り込み機能
	図17-2の注意1を変更	
	17.3.5 プログラム・ステータス・ワード (PSW) の説明を変更	
	図17-9を変更	
	表17-5の説明, 備考3を変更	
	表18-1の説明を変更	第18章 キー割り込み機能
	表18-2の説明を変更	
	19.3.1 HALTモードの注意を変更	第19章 スタンバイ機能
	図19-1の注2を変更	
	図19-2 (1), (2) を変更	
	図19-3 (1), 注2, 備考1を変更	
	図19-3 (2), 注2を変更	
	図19-3 (3) の注2, 注意, 備考を変更	
	図19-4 (1), (2) を変更	
	19.3.3 SNOOZEモードの説明を変更	
	冒頭の説明, 注意3, 備考を変更	第20章 リセット機能
	図20-2, 図20-3のタイミング図を変更	
	図20-3の注3を変更	
	表20-1の説明を変更, 注を追加	
	表20-2, 備考を変更	
	表20-3の説明を変更	
	図20-5のフロー・チャートを変更	
	21.1 パワーオン・リセット回路の機能の説明, 注意, 備考1, 2を変更	第21章 パワーオン・リセット回路
	21.3 パワーオン・リセット回路の動作の説明を変更	
	図21-2 (1/3) の説明を変更	
図21-2 (2/3) の説明を変更		
図21-2 (3/3) の説明を変更		

(15/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.00	22. 1 電源検出回路の機能の説明を変更	第22章 電圧検出回路
	図22-2の説明を変更	
	図22-3の注2を変更	
	表22-1 (1/2) の説明を変更	
	表22-1 (2/2) の説明を変更	
	22. 4. 1 リセット・モードとして使用する場合の設定の説明を変更	
	図22-4の説明を変更	
	22. 4. 2 割り込みモードとして使用時の設定の説明を変更	
	図22-5の説明を変更	
	22. 4. 3 割り込み&リセット・モードとして使用する場合の設定の説明を変更	
	図22-6 (1/2) の説明を変更	
	図22-6 (2/2) の説明を変更	
23. 1 安全機能の概要 (6), (7) の説明, 備考を変更	第23章 安全機能	
		図23-3の説明を変更
		図23-7の注意, 備考を変更
		図23-8を追加
		図23-11の説明, 注を変更
		23. 3. 7 周波数検出機能の説明を変更
		23. 3. 8 A/Dテスト機能の説明を変更
		22. 3. 8. 1 A/Dテスト・レジスタ (ADTES) の説明を変更
23. 3. 8. 2 アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) の説明を変更		
25. 1. 1 ユーザ・オプション・バイト (000C0H-000C2H) (2), (3) の説明を変更	第25章 オプション・バイト	
		図25-2 (1/2) の説明を変更
		図25-2 (2/2) の説明, 注意2, 備考3を変更
		図25-3の注意2を変更
冒頭の説明を変更	第26章 フラッシュ・メモリ	
		表26-1の注を変更
		図26-2の注3を変更
		表26-2の説明, 注, 注意を変更
		図26-4の注を変更
		表26-3の説明, 注を変更
		26. 3. 1 P40/TOOL0端子の備考1を変更
		26. 4 シリアル・プログラミング方法の説明を追加
		26. 5 PG-FP5使用時の各コマンド処理時間 (参考値) の説明を追加
		26. 6 セルフ・プログラミングの説明を追加
		26. 7 セキュリティ設定の説明を変更
		26. 8. 1 データ・フラッシュの概要の説明を追加
		26. 8. 2 データ・フラッシュを制御するレジスタの説明を追加
		26. 8. 3 データ・フラッシュへのアクセス手順の説明を追加

(16/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.00	絶対最大定格 (TA=25°C) (1/3) の表の記述を変更	第30章 電気的特性 (A, G : TA = -40~+85°C)
	絶対最大定格 (TA=25°C) (2/3) の表の記述, 注2を変更	
	30.2.1 X1, XT1発振回路特性の表, 注, 注意, 備考を変更	
	30.2.2 オンチップ・オシレータ特性の表を変更	
	30.3.1 端子特性 (1/5) の表, 注2, 3を変更	
	30.3.1 端子特性 (2/5) の注1, 3を変更	
	30.3.2 電源電流特性 (1/3) の注1, 4を変更	
	30.3.2 電源電流特性 (2/3) の表, 注1, 5, 6を変更	
	30.3.2 電源電流特性 (3/3) の表, 注1, 3, 4, 5~10を変更	
	30.4.1 基本動作の表を変更	
	メイン・システム・クロック動作時の最小命令実行時間を追加	
	ACタイミング測定点, 外部システム・クロック・タイミングの図を変更	
	ACタイミング測定点の図を変更	
	(1) 同電位通信時 (UARTモード) の説明, 注1, 2を変更	
	(2) 同電位通信時 (CSIモード) の説明, 備考2を変更	
	(3) 同電位通信時 (CSIモード) の説明を変更	
	(4) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (UARTモード) (1/2) の説明, 注1, 3, 備考3を変更	
	(4) 異電位 (1.8 V系, 2.5 V系, 3 V系) 通信時 (UARTモード) (2/2) の説明, 備考3を変更	
	(5) 異電位 (2.5V系, 3V系) 通信時 (CSIモード) の表, 注1, 注意, 備考3を変更	
	(6) 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 通信時 (CSIモード) (1/3) の表, 注を変更	
	(6) 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 通信時 (CSIモード) (2/3) の表, 注1~3を変更	
	(6) 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 通信時 (CSIモード) (3/3) の表, 注3, 備考3を変更	
	(7) 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 通信時 (CSIモード) (1/2) の表を変更	
	(7) 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 通信時 (CSIモード) (2/2) の表を変更	
	(1) I ² C標準モードを追加	
	(2) I ² Cファースト・モードを追加	
	(3) I ² Cファースト・モード・プラスを追加	
	30.6.1 A/Dコンバータ特性に表を追加	
	30.6.1 (1) の説明, 注3~5を変更	
	30.6.1 (2) の説明, 注3, 4を変更	
	30.6.1 (3) の説明, 注3, 4を変更	
	30.6.1 (4) の説明, 注3, 4を変更	
	30.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性の表を変更	
	30.6.3 POR回路特性の表, 注を変更	
	割り込み&リセット・モードのLVD検出電圧の表を変更	
	30.6.5 電源電圧立ち上がり傾き特性に変更	
	30.10 専用フラッシュ・メモリ・プログラマ通信 (UART) 説明を変更	
	30.11 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード引き込みタイミングの図を変更	

(17/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.2.00	産業用途向け (G : TA=-40~+105°C) 製品を追加	第31章 電気的特性 (G : TA = -40~+105°C)
	産業用途向け (G : TA=-40~+105°C) 製品名を追加	第32章 外形図
Rev.1.00	インターバル・タイマ (ユニット) を12ビット・インターバル・タイマに改称	全般
	周辺I/Oリダイレクト機能の端子名を追加	
	VLVI, VLVIH, VLVL をVLVD, VLVDH, VLVDLに改称 (LVD検出電圧)	
	RAMパリティ・エラーの割り込み要因RAMTOPをRPEに改称	
	1.2 オーダ情報を1.2 型名一覧に変更	第1章 概説
	図1-1 RL78/L12の型名とメモリ・サイズ, パッケージを追加	
	1.4 端子名称のINTP0-INTP7の説明を変更	
	1.5 ブロック図を変更	
	1.6 機能概要の説明を追加, 変更	
	2.1 ポート機能を変更	第2章 端子機能
	2.3 端子の入出力回路と未使用端子の処理に備考を追加	
	図2-1 端子の入出力回路一覧を変更	
	3.1 メモリ空間の説明を変更	第3章 CPUアーキテクチャ
	図3-1~図3-3を変更	
	表3-1 フラッシュ・メモリのアドレス値とブロック番号の対応に備考を追加	
	3.1.1 (4) オンチップ・デバッグ・セキュリティID設定領域の説明を修正	
	3.1.2 ミラー領域の説明を修正	
	図3-4 プロセッサ・モード・コントロール・レジスタ (PMC) の注意2を削除	
	3.1.3 内部データ・メモリ空間の説明を変更, 注意1, 2を変更	
	3.1.6 データ・メモリ・アドレッシングの説明を変更	
	図3-5~図3-7の注, 注意を変更	
	3.2.1 制御レジスタ, 3.2.2 汎用レジスタ, 3.2.3 ES, CSレジスタを変更	
	3.2.4 特殊機能レジスタ (SFR : Special Function Register) の説明を変更	
	表3-5 SFR一覧 (3/4) の注5を変更	
	3.2.5 拡張特殊機能レジスタ (2nd SFR : 2nd Special Function Register) の説明を変更	
	表3-6 拡張SFR (2nd SFR) 一覧 (1/6) , レジスタHIOTRMのリセット時を変更, 注1, 2を変更	
	図3-14~図3-16, 図3-18~図3-41を変更	
	3.4.1 インプライド・アドレッシングの【オペランド形式】を変更	
	3.4.3 ダイレクト・アドレッシングの【オペランド形式】を変更	
	3.4.7 ベースト・アドレッシングの【機能】を変更	
3.4.9 スタック・アドレッシングの【機能】を変更, 【オペランド形式】を【記述形式】に変更, 【記述形式】を変更		

版 数	内 容	適用箇所
Rev.1.00	4.1 ポートの機能の説明を変更	第4章 ポート機能
	4.3 ポート機能を制御するレジスタに注意を追加	
	図4-2 ポート・レジスタのフォーマット (64ピン製品) を変更	
	4.3.3 プルアップ抵抗オプション・レジスタ (PUxx) の説明を変更, 注意を追加	
	4.3.5 ポート出力モード・レジスタ (POM1) に説明を追加	
	図4-6 ポート・モード・コントロール・レジスタのフォーマットに注意1, 2を追加	
	4.3.8 周辺I/Oリダイレクション・レジスタ (PIOR) の説明を変更	
	4.4.1 (2) 入力モードの場合, 4.4.3 (2) 入力モードの場合に説明を追加	
	4.4.4 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 外部デバイスとの接続方法に説明を変更	
	4.5 兼用機能使用時のポート関連レジスタの設定に注意を追加	
4.6.2 端子設定に関する注意事項を追加	第5章 クロック発生回路	
5.1 (1) ② 高速オンチップ・オシレータの説明を追加		
図5-1 クロック発生回路のブロック図を変更		
図5-2 クロック動作モード制御レジスタ (CMC) のフォーマットの注意1, 7を変更, 注意4-6を追加		
5.3.8 高速オンチップ・オシレータ周波数選択レジスタ (HOCODIV) の注意1-4を削除, 新たに注意1-3を追加		
図5-12 XT1発振回路の外付け回路例の注意を変更		
図5-14 電源電圧投入時のクロック発生回路の注3を変更		
5.6.1 高速オンチップ・オシレータの設定例 【オプション・バイト設定】の説明を変更		
5.6.2 X1発振回路の設定例の説明を変更		
図5-15 CPUクロック状態移行図の説明を追加		第6章 タイマ・アレイ・ユニット
表5-3 CPUクロックの移行とSFRレジスタの設定例の説明を追加		
表5-4 CPUクロックの移行についての説明を追加, 削除		
5.6.6 CPUクロックの切り替えとシステム・クロックの切り替えに要する時間の備考2を変更		
6.1.1 (7) デイレイ・カウンタの説明を変更		
6.1.2 (4) リモコン出力機能の注意を変更		
図6-2 タイマ・アレイ・ユニット0のチャンネル0, 2, 4, 6内部ブロック図を変更		
図6-3~図6-6を追加		
表6-3 各動作モード時のタイマ・カウンタ・レジスタmn (TCRmn) 読み出し値を変更		
6.2.2 タイマ・データ・レジスタmn (TDRmn) の説明を変更		
図6-10 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) のフォーマットの注意1を変更	第6章 タイマ・アレイ・ユニット	
図6-11 タイマ・クロック選択レジスタm (TPSm) のフォーマット (1/2) の注, 備考2を変更, 注意を追加		
図6-12 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のフォーマットに注を追加		
図6-12 タイマ・モード・レジスタmn (TMRmn) のフォーマット (4/4), カウント・スタートと割り込みの設定を変更, 注1を追加		
図6-16 タイマ・チャンネル停止レジスタm (TTm) のフォーマットの説明を変更		
図6-17 タイマ入力選択レジスタ0 (TIS0) のフォーマットに注意を追加		

版 数	内 容	適用箇所
Rev.1.00	図6-19 タイマ出力許可レジスタ0 (TOE0) のフォーマットの説明を変更	第6章 タイマ・アレイ・ユニット
	表6-6 カウント動作許可状態からタイマ・カウンタ・レジスタ0n (TCR0n) のカウント・スタートまでの動作の説明を変更	
	6. 5. 3 カウンタの動作の表題, 備考を追加	
	図6-30 動作タイミング (キャプチャ・モード: 入力パルス間隔測定) に説明, 注を追加, 備考を変更	
	6. 6. 2 TOmn端子の出力設定の説明を変更	
	図6-35~図6-37を変更	
	図6-47, 図6-51, 図6-55, 図6-59, 図6-63, 図6-67 ブロック図を変更	
	6. 8. 3 多重PWM出力機能としての動作の備考を変更	
	図6-83 リモコン出力機能設定手順を変更	第7章 リアルタイム・クロック
	7. 4. 2 動作開始後のHALT/STOPモードへの移行の説明を変更	
	図7-23の図タイトルを変更	第8章 12ビット・インターバル・タイマ
	図8-5 12ビット・インターバル・タイマ動作のタイミング (ITCMP11-ITCMP00 = OFFH, カウント・クロック: $f_{SUB} = 32.768 \text{ kHz}$) を変更	
	9. 3. 3 ポート・モード・レジスタ5, 14 (PM5, PM14) を変更	第9章 クロック出力/ブザー出力制御回路
	9. 5 クロック出力/ブザー出力制御回路の注意事項を追加	
	10. 1 ウォッチドッグ・タイマの機能, 10. 4. 4 ウォッチドッグ・タイマのインターバル割り込みの設定の説明を変更	第10章 ウォッチドッグ・タイマ
	図11-1 A/Dコンバータのブロック図を変更	
	11. 2 (9) AVREFP端子の誤記を修正	第11章 A/Dコンバータ
	11. 3. 1 周辺イネーブル・レジスタ0 (PER0) の注意1を変更	
	11. 3. 2 A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADM0) の注意1, 3を変更, 注意2を追加	
	表11-1 ADCSビットとADCEビットの設定を変更	
	図11-4 A/D電圧コンパレータ使用時のタイミング・チャートの注2を変更, 注意4を追加	
	表11-3 A/D変換時間の選択を変更	
	11. 3. 3 A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 (ADM1) の注意1, 2を変更, 注意3を追加	
	図11-7 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のフォーマット (1/2) の説明, 注意1-3を変更, 注を追加	
	図11-7 A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADM2) のフォーマット (2/2) の注意を変更, 注, 備考を追加	
	11. 3. 5 10ビットA/D変換結果レジスタ (ADCR), 11. 3. 6 8ビットA/D変換結果レジスタ (ADCRH) に注を追加	
	11. 3. 7 アナログ入力チャンネル指定レジスタ (ADS) の注意5を変更, 注意9, 10を追加	
	11. 3. 10 A/Dテスト・レジスタ (ADTES) に注意を追加	
	11. 3. 11 A/Dポート・コンフィギュレーション・レジスタ (ADPC) に注意3を追加	
	11. 3. 12 ポート・モード・コントロール・レジスタ1, 4, 12, 14 (PMC1, PMC4, PMC12, PMC14) に注意を追加	

(20/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.1.00	11. 3. 13 ポート・モード・レジスタ1, 2, 4, 12, 14 (PM1, PM2, PM4, PM12, PM14)の注意を追加 11. 4 A/Dコンバータの変換動作に注1を追加 図11-26~図11-28, 図11-30を変更 11. 7. 4 温度センサ使用時の設定(~を11. 7. 4 温度センサ出力/内部基準電圧出力を選択時の設定(~に変更 図11-29 温度センサ使用時の設定を図11-29 温度センサ出力/内部基準電圧出力を選択時の設定に変更 11. 8 SNOOZEモード機能の説明を変更 11. 10 (2) ANI0, ANI1, ANI16-ANI23端子入力範囲についてに注意を追加 表11-6 等価回路の各抵抗と容量値(参考値)を変更	第11章 A/Dコンバータ
Rev.1.00	12. 1. 1 3線シリアルI/O (CSI00, CSI01) を変更, 注1を追加 図12-6 シリアル通信動作設定レジスタmn (SCRmn) のフォーマットの説明を変更 図12-10 シリアル・チャンネル開始レジスタm (SSm) のフォーマットの注を変更 図12-11 シリアル・チャンネル停止レジスタm (STm) のフォーマットに注を変更 図12-14 シリアル出力レジスタm (SOm) のフォーマットを変更 図12-16 シリアル・スタンバイ・コントロール・レジスタm (SSCm) のフォーマットの説明を変更 12. 3. 18 ポート出力モード・レジスタ1 (POM1) の説明を変更 12. 3. 19 ポート・モード・レジスタ1 (PM1) の説明を追加 12. 5 3線シリアルI/O (CSI00, CSI01) 通信の動作の注1を追加 12. 5. 1 マスタ送信の説明を変更 図12-25-27, 33-35, 41-43, 49-51, 57-59, 63-65, 76-78, 84-86 (操作手順) を変更 図12-28, 30, 38, 44, 46, 52, 54, 60, 66, 68 (タイミング・チャート) を変更 12. 5. 2 マスタ受信の説明を変更 12. 5. 3 マスタ送受信の説明を変更 12. 5. 4 スレーブ送信, 12. 5. 5 スレーブ受信, 12. 5. 6 スレーブ送受信の注を変更 12. 5. 7 SNOOZEモード機能に説明を追加 図12-70, 図12-72の注意を変更 12. 6. 1 UART送信, 12. 6. 2 UART受信の説明を変更 図12-80, 82 (フロー・チャート) を変更 図12-83 (レジスタ設定内容例) の説明を変更 12. 6. 3 SNOOZEモード機能の説明を変更 図12-89 SNOOZEモード動作(通常動作)時のタイミング・チャートの注, 注意を変更 図12-90 SNOOZEモード動作(異常動作①)時のタイミング・チャートの注意を変更 図12-91 SNOOZEモード動作(通常動作/異常動作①)時のフロー・チャートを変更 図12-92 SNOOZEモード動作(異常動作②)時のタイミング・チャートの注1, 注意1を変更 図12-93 SNOOZEモード動作(異常動作②)時のフロー・チャートを変更	第12章 シリアル・アレイ・ユニット

(21/24)

版 数	内 容	適用箇所	
Rev.1.00	12. 7. 1 LIN送信, 12. 7. 2 LIN受信の説明, 注を変更	第12章 シリアル・アレイ・ユニット	
	図12-97 LINのマスタ送信操作を変更		
	図12-98 LIN送信のフロー・チャートを追加		
	図12-99 LINの受信操作の説明を変更		
Rev.1.00	図12-100 LIN受信のフロー・チャートを追加	第13章 シリアル・インタフェースIICA	
	図13-9 IICAコントロール・レジスタn1 (IICCTLn1) のフォーマット (2/2) の説明を変更		
	13. 5. 13 ウェイク・アップ機能の説明を変更		
	13. 5. 17 (2) (d) Start~Address~Data~Start~Address~Data~Stopを変更		
	13. 5. 17 (3) (d) Start~Code~Data~Start~Address~Data~Stopを変更		
	図13-9 IICAコントロール・レジスタn1 (IICCTLn1) のフォーマット (2/2) の説明を変更		
	13. 5. 13 ウェイク・アップ機能の説明を変更		
	13. 5. 17 (2) (d) Start~Address~Data~Start~Address~Data~Stopを変更		
	13. 5. 17 (3) (d) Start~Code~Data~Start~Address~Data~Stopを変更		
	Rev.1.00		図14-1 LCDコントローラ/ドライバのブロック図を変更
表14-4 表示波形/時分割数/バイアス法の設定の組み合わせを変更			
図14-4 LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のフォーマット (1/2) に注1, 3を追加			
図14-4 LCDモード・レジスタ1 (LCDM1) のフォーマット (2/2) の注意1を変更			
図14-5 動作スピード・モード制御レジスタ (OSMC) のフォーマットの注意1, 3を変更			
図14-6 LCDクロック制御レジスタ (LCDC0) のフォーマット (1/2) の注意2, 4を変更			
図14-6 LCDクロック制御レジスタ (LCDC0) のフォーマット (2/2) の注意2, 3を変更			
表14-5 COM4/COMEXP/SEG0, COM5/SEG1, COM6/SEG2, COM7/SEG3端子の出力設定を変更			
図14-23 動作停止手順の注意1を変更			
図14-24 LCD駆動用電源の接続例 (外部抵抗分割方式) の注意を変更			
図14-25 LCD駆動用電源の接続例 (内部昇圧方式) を変更			
図14-26 LCD駆動用電源の接続例 (容量分割方式) を変更			
図14-31 SEG11, SEG12とCOM0とのスタティックLCD駆動波形例を修正			
図14-45 メモリ性液晶波形のLCD駆動波形例 (3時分割, 1/3バイアス法) に備考を追加			
図15-1 乗除積和算器のブロック図を変更		第15章 乗除積和算器	
表15-2 MDAH, MDALレジスタの演算実行時の機能を変更			
15. 2. 2 乗除算データ・レジスタB (MDBL, MDBH) の注意1を変更			
表15-3 MDBH, MDBLレジスタの演算実行時の機能を変更			
15. 2. 3 乗除算データ・レジスタC (MDCL, MDCH) の注意2を変更			
表15-4 MDCH, MDCLレジスタの演算実行時の機能を変更			
図15-5 乗除算コントロール・レジスタ (MDUC) のフォーマットの説明, 演算モードの選択を変更			
15. 4. 1 乗算 (符号なし) 動作, 図15-6 乗算 (符号なし) 動作のタイミング図図 (2×3=6) の値を変更			

(22/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.1.00	15. 4. 2 乗算（符号付）動作, 図15-7 乗算（符号付）動作のタイミング図（ $-2 \times 32767 = -65534$ ）の値を変更	第15章 乗除積和算器
	15. 4. 3 積和演算（符号なし）動作の説明を変更	
	図15-8 積和演算（符号なし）動作のタイミング図の値を変更	
	15. 4. 4 積和演算（符号付）動作の説明を追加	
	図15-9 積和演算（符号付）動作のタイミング図の値を変更	
	15. 4. 5 除算動作の説明を変更	
	図15-10 除算動作のタイミング図（例： $35 \div 6 = 5$ 余5）の値を変更	第17章 割り込み機能
	冒頭に説明を追加	
	図17-2 割り込み要求フラグ・レジスタ（IF0L, IF0H, IF1L, IF1H, IF2L）のフォーマット（64ピン製品）の注意2を削除	
	図17-8 割り込み要求の受け付けタイミング（最小時間）, 図17-9 割り込み要求の受け付けタイミング（最大時間）を変更	
	表17-5 割り込み処理中に多重割り込み可能な割り込み要求の関係を変更	
	17. 4. 4 割り込み要求の保留の注意を削除	
	全般的に変更	第18章 キー割り込み機能
	19. 1. 1 スタンバイ機能の注意1を変更	第19章 スタンバイ機能
	表19-1 HALTモード時の動作状態を変更	
	図19-3 HALTモードの割り込み要求発生による解除に注1を追加	
	図19-4 HALTモードのリセットによる解除を変更	
	19. 3. 2 (1) STOPモードの設定および動作状態の注意1を変更	
	表19-2 STOPモード時の動作状態を変更	
	図19-5 STOPモードの割り込み要求発生による解除を変更	
	図19-6 STOPモードのリセットによる解除を変更	
	19. 3. 3 (1) SNOOZEモードの設定および動作状態の説明を変更	
	表19-3 SNOOZEモード時の動作状態の説明を変更	
	第20章 リセット機能の注意3を変更	第20章 リセット機能
	図20-2を変更	
	図20-3を変更, 注2を追加	
	図20-4を削除	
	表20-1 リセット期間中の動作状態 ポート（ラッチ）の説明を変更	
	表20-2の高速オンチップ・オシレータ・トリミング・レジスタ（HIOTRM）の説明, 注2を変更	
	表20-2 各ハードウェアのリセット受け付け後の状態（4/4）の注2を変更	第21章 パワーオン・リセット回路
	図20-5 リセット・コントロール・フラグ・レジスタ（RESF）のフォーマットの注意2を変更	
	21. 1 パワーオン・リセット回路の機能の説明を変更	
	21. 3 パワーオン・リセット回路の動作の説明を変更	
図21-2 パワーオン・リセット回路と電圧検出回路の内部リセット信号発生のタイミング（1/3）～（3/3）の図, 注を変更		

(23/24)

版数	内容	適用箇所
Rev.1.00	図22-1 電圧検出回路のブロック図を変更	第22章 電圧検出回路
	図22-2 電圧検出レジスタ (LVIM) のフォーマットの注1, 3を変更	
	表22-1 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) によるLVD動作モード・検出電圧設定を変更	
	22.4.1 リセット・モードとして使用時の設定を変更	
	22.4.2 割り込みモードとして使用時の設定を変更	
	22.4.3 割り込み&リセット・モードとして使用時の設定の説明を変更	
	図22-6 (1/2) を変更	
	図22-6 (2/2) を変更	第23章 安全機能
	23.1 安全機能の概要の備考を変更	
	23.3.1 フラッシュ・メモリCRC演算機能 (高速CRC) の説明, 注意2を追加	
	図23-3 フラッシュ・メモリCRC演算機能 (高速CRC) のフロー・チャートを変更	
	23.3.2 CRC演算機能 (汎用CRC) の説明, 注意を追加	
	図23-6 CRC演算機能 (汎用CRC) のフロー・チャートを変更	
	図23-7 RAMパリティ・エラー制御レジスタ (RPECTL) のフォーマットの注意を変更	
	図23-10 不正アクセス検出空間を変更	
	23.3.8 A/Dテスト機能の説明を追加	
	図を追加 (前版2.2 端子機能の説明から移動)	
	25.1 オプション・バイトの機能の説明, 注意を変更	第25章 オプション・バイト
	図25-1 ユーザ・オプション・バイト (000C0H) のフォーマットの説明を変更	
	図25-2 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) のフォーマットを変更	
	25.1 オプション・バイトの機能の説明, 注意を変更	
図25-1 ユーザ・オプション・バイト (000C0H) のフォーマットの説明を変更		
図25-2 ユーザ・オプション・バイト (000C1H) のフォーマットを変更		
26.1.1 プログラミング環境の説明を削除	第26章 フラッシュ・メモリ	
26.2 外部デバイス (UART内蔵) による書き込み方法に説明を追加		
26.3 オンボード上の端子処理に備考を追加		
26.4.1 データ・フラッシュの概要の説明, 注意, 備考を追加		
図26-8 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへの引き込みを変更		
表26-4 リセット解除時のTOOL0端子の動作モードとの関係の誤記を修正		
表26-5 プログラミング・モードと書き込み/消去/ベリファイ実行可能電圧を変更		
表26-10 シグネチャ・データ例の説明を変更		
26.6 セキュリティ設定に説明, 注意を追加		
表26-11 セキュリティ機能有効時とコマンドの関係, 表26-12 各プログラミング・モード時のセキュリティ設定方法を変更		
26.7 セルフ書き込みによるフラッシュ・メモリ・プログラミングの注意2-4を変更		
表26-13 プログラミング・モードと書き込み/消去/ベリファイ実行可能電圧を変更		
表26-14 フラッシュ・シールド・ウインドウ機能の設定/変更方法とコマンドの関係		
表29-5 オペレーション一覧 (10/17) の誤記を修正		第29章 命令セットの概要

(24/24)

版 数	内 容	適用箇所
Rev.1.00	第30章 電気的特性に注意2, 3を追加 (製品別搭載端子を削除)	第30章 電気的特性
	30.1 絶対最大定格に説明, 注3, 備考2を追加	
	30.1 絶対最大定格を変更, 注を追加	
	30.2 発振回路特性を変更	
	30.3.1 端子特性を変更	
	30.3.2 電源電流特性の注1~4を変更	
	30.3.2 電源電流特性に注1, 3~6, 8を変更	
	30.4 AC特性に説明を追加	
	30.5.1 シリアル・アレイ・ユニットを変更	
	30.5.2 シリアル・インタフェースIIICAを変更	
	30.6.2 温度センサ/内部基準電圧特性を変更	
	30.6.5 電源電圧立ち上げ時間に注, 注意を追加	
	30.8 データ・メモリSTOPモード低電源電圧データ保持特性を変更	
	30.9 フラッシュ・メモリ・プログラミング特性の条件を変更	
30.10 フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードの引き込み時のタイミング・スベックを変更		
Rev.0.03	レジスタ名称の書式を変更	全般
	1.3.5 64ピン製品の注意2を変更	第1章 概 説
	1.6 機能概要のI/Oポートを変更	
	2.1.5 64ピン製品の機能欄を変更	第2章 端子機能
	2.2 端子機能の説明を変更	
	2.2.6 (1) ポート・モードを変更	
	表2-3 各端子の未使用端子処理 (64ピン製品) を変更	
	図2-1 端子の入出力回路一覧を変更	第3章 CPUアーキテクチャ
	表3-5 SFR一覧を変更	
	4.3 (5) ポート出力モード・レジスタ (POM1) を変更	
	4.4.4 異電位 (1.8V系, 2.5V系, 3V系) 外部デバイスとの接続方法を変更	第4章 ポート機能
	図6-79 リモコン出力機能設定手順に注意6, 7を追加	第6章 タイマ・アレイ・ユニット
	図12-14 シリアル出力レジスタm (SOm) のフォーマットを変更	第12章 シリアル・アレイ・ユニット
	図12-20 ポート出力モード・レジスタ1 (POM1) のフォーマットを変更	
	14.1 LCDコントローラ/ドライバの機能を変更	第14章 LCDコントローラ/ドライバ
	図14-6 LCDクロック制御レジスタ (LCDC0) のフォーマットを変更	
	図14-8 LCD昇圧レベル制御レジスタ (VLCD) のフォーマットを変更	
	図14-41 SEG12と各コモン信号間の4時分割LCD駆動波形例 (1/3バイアス法) を変更	
	図14-44 SEG4と各コモン信号間の8時分割LCD駆動波形例 (1/4バイアス法) を変更	第18章 キー割り込み機能
	全般を変更	
21.3 パワーオン・リセット回路の動作を変更	第21章 パワーオン・リセット回路	
全般を変更	第30章 電気的特性 (ターゲット)	
外形図を更新	第31章 外形図	

RL78/L12